

日本外史

下

日本外史 下　目次

卷十二
足利氏後記
毛利氏……一

卷十三
德川氏前記
織田氏上……九四

卷十四
德川兵前記
織田氏下……一六五

卷十五
德川氏前記
豐臣氏上……二五二

卷十六
德川氏前記
豐臣氏中……三五七

卷十七
德川氏前記
豐臣氏下……四六〇

卷十八
德川氏正記
德川氏一……五五五

卷十九
德川氏正記
德川氏二……六三二

卷二十
德川氏正記
德川氏三……六八八

卷二十一
德川氏正記
德川氏四……七九七

卷二十二　徳川氏正記
徳川氏五……九二五

―目次終―

毛利氏。出レ於ニ大江廣元。廣元十一世祖。曰ニ本主。姓土師氏。爲ニ備中介。本主生ニ音人。音人歷ニ仕仁明清和之間。至ニ從三位左大辨。賜ニ姓大枝氏。後更ニ大江。與ニ菅原

日本外史　卷十二

足利氏後記

毛利氏

毛利氏は大江廣元より出づ。廣元十一世の祖を、本主と曰ふ。姓は土師氏、備中介と爲る。本主、音人を生む。音人、仁明・清和の間に歷仕して(一)、從三位、左大辨に至る。姓を大枝氏と賜ふ。後に大江と更む。菅原氏と、並に學政(二)を掌る。音人、千古を生む。千古の後七世を、匡房と曰ふ。文武(四)才略有り。源義家に敎ふるに陣法を以てす。匡房の曾孫(三)を廣元と爲す。廣元、源頼朝を關東に佐けて、之をして天下に霸たらしむ。其薦(五)を以て安藝介と爲り、因幡守に遷り、正四位下、大膳大夫に至り、陸奧守を兼ぬ。源氏、北條氏の際、幕府の元老と爲

氏一並掌二學政一。吾人生二千古一。千古之後七世。曰二匡房一。有二文武才略一。敎二源義家一以二陣法一。匡房曾孫爲二廣元一。廣元佐三源頼朝于二關東一。使三之覇二天下一。以二其薦一爲二安藝介一。遷二因幡守一。至二正四位下大膳大夫一。兼二陸奥守一。源氏北條氏之際。爲二幕府元老一。數定二大難一。有二五子一。長子親廣。承久之役屬二官軍一。不レ知レ所レ終。第三子曰二季光一。爲二左近衛將監一。食二相摸毛利莊一。因氏焉。娶二三浦氏一。死二於其難一。

季光子經光。出二鎌倉一。居二越後南莊一。經光子時親。復起爲二六波羅評定衆一。足利尊氏滅二六波羅一。加二賜時親一以二

り、數〻大難を定む。(六) 五子有り。長子親廣は、承久の役に官軍に屬して、終る所を知らず。第三子を季光と曰ふ。左近衛將監と爲り、相摸の毛利莊を食む。因りて氏とす。三浦氏に娶りて、其難に死す。(一)

季光の子經光、鎌倉を出でて、越後の南莊に居る。經光の子時親、復た起ちて六波羅の評定衆と爲る。足利尊氏、六波羅を滅して、時親に加賜するに、(二) 安藝の吉田、及び河内の利田を以てす。時親、貞親を生み、貞親、親茂を生む。親茂、三子師親・匡時・直衡有り。皆新田義顯に隸す。義顯足利氏の將高師泰の滅す所と爲る。貞親以下猶ほ官軍に屬す。獨り師親去りて師泰に屬す。師泰の石見

(一) 二代の天子に仕ふ　(二) 學事に關する事務　(三) 千古・維持・重光・匡衡・擧周・成衡・匡房　(四) 文學武藝に長じ、才智謀略あり　(五) 推薦　(六) 大なる災難を治定す

安藝吉田。及河内利田。時親生貞親。貞親生親茂。親茂有三子師親。匡時。直衡。皆隷新田義顯。義顯爲足利氏將高師泰所滅。貞親以下猶屬官軍。獨師親去屬師泰。師泰之攻石見。敵阻劫川。師親與高橋某。先衆亂流。拔三城。以功盡食吉田邑。及師泰敗。屬山名時氏。迎親茂及二弟。共居焉。足利氏令武田氏吉川氏攻降之。師親生廣房。廣房生光房。光房子熙房。嘉吉之役。攻蟹坂。有功。熙房子豐元。應仁之役。與小早川氏守相國寺。有功。

を攻むるや、敵、劫川(二)を阻む。師親、高橋某と、衆に先んじて流を亂(三)りて、三城を拔く。功を以て盡く(一)吉田の邑を食む。師泰敗るゝに及びて、山名時氏に屬し、親茂及び二弟を迎へて、共に居る。足利氏、武田氏・吉川氏をして、之を攻め降さしむ。師親、廣房を生み、廣房、光房を生む。光房の子熙房(四)、嘉吉の役に、蟹坂を攻めて、功有り。熙房の子豐元、應仁の役に、小早川氏と、相國寺を守りて功有り。

(一) 増し與ふ　(二) 石見國は在る江の川　(三) 横切る　(四) 一本に熙元とあり

豐元生弘元。

豐元、弘元を生む。弘元の子を興元と曰ふ。次を松壽と曰ふ。松壽、幼より器

弘元之子。曰㆓興元㆒。次曰㆓松壽㆒。松壽幼有㆓器量㆒。其保嘗抱㆑之。濟㆑水而躓溺。保惶懼謝㆑罪。松壽曰。行㆑道而躓。常也。庸何傷。比㆓髫齔㆒。詣㆓嚴島神祠㆒。旣歸問㆓從者㆒曰。汝輩何祈。曰。祈㆔郎君主㆓安藝㆒也。松壽曰。汝盍㆑祈㆔吾主㆓天下㆒。夫願㆑主㆓天下㆒者。能主㆓一方㆒。願㆑主㆓一方㆒者。能主㆓一國㆒。今

量有り。(一)其保嘗て之を抱きて、水を濟りて躓き溺る。保、惶懼(二)して罪を謝す。松壽曰く、道を行きて躓くは、常なり。庸何んぞ傷まんと。(三)髫齔に比びて、嚴神島祠に詣づ。旣に歸りて從者に問ひて曰く、汝が輩、何をか祈れると。曰く、郎君の安藝に主たらんことを祈ると。松壽曰く、汝盍ぞ吾が天下に主たらんことを祈らざる。夫れ天下に主たらんと願ふ者は、能く一方に主たり。一方に主たらんと願ふ者は、能く一國に主たり。今一國に主たらんと願ふ。其の成る所(四)知る可きのみと。聞く者、之を奇とす。興元、旣に嫡嗣たり。松壽出でて丹比氏に養はる。永正八年、(五)首服(六)を加へて、元就と名づけ、少輔次郎と稱し、猿掛城(七)に居る。邑七十五貫を食み、士卒三百を養ふ。會〻明の使者、京師に來聘して、路に吉田を經。善く相する者朱良範從ふ。元就往きて良範を見る。良範曰く、公は漢(八)祖、唐宗の相を兼ぬ。必ず威を四方に宣べんと。元就、心に自負す。元就、人と爲り隆準(九)肉角、(一〇)音吐甚だ洪いなり。麾下に在りて、士卒に號令するに、聲諸隊に

顧レ主二一國一矣。其所レ成可レ知已。聞者奇レ之。興元既爲二嫡嗣一。松壽出養レ於二丹比氏一。永正八年。加二首服一。名二元就一。稱二少輔次郎一。居二猿掛城一。食二邑七十五貫一。養二士卒三百一。會明使者來二聘京師一。路經二吉田一。善相者朱良範從焉。元就往見二良範一。良範曰。公兼二漢祖唐宗之相一。必宣二威於四方一。元就心自負焉。元就爲レ人隆準肉角。音吐甚洪。在二麾下一。號二令士卒一。聲聞レ於二諸隊一。

聞ゆ。

(一)守役　(二)おそれいる　(三)七八歲の小兒　(四)成功の程度の小なるは明らかなり　(五)後柏原天皇の年號　(六)元服　(七)備中國に在り　(八)漢の高祖劉邦、唐の太宗李世民。共に建國の英主　(九)鼻の高きこと　(一〇)額の骨の高きこと

十四年。安藝守護武田元繁。據二佐東銀山一。矯二將軍命一。攻二略國內一。十月。攻二有田城一。城屬二吉川經基一。經基與二興元一善。是時皆在二京師一。元繁

十四年、安藝の守護武田元繁、佐東銀山(一一)に據りて、將軍の命を矯めて、國內を攻略す。十月、有田城(一二)を攻む。城は吉川經基に屬す。經基、興元と善し。是の時、皆京師に在り。元繁、中堰(一三)に柵して、熊谷元直をして守らしむ。別に千騎を遣して、猿掛城下を焚かしむ。元就、一二百人を以て出で戰ふ。利あらず。吉田の兵、急を聞きて來り援ふ。元就、乃ち兵五百を分ちて、元繁の援路に備へ、而して千人を以て疾く元直を攻めて、破りて之を斬る。元繁、兵を遣して來り援

柵于中堰。使熊谷元直守焉。別遣千騎焚猿掛城下。元就以二百人出戰。不利。吉田兵聞急來援。元就乃分兵五百。備元繁援路。而以千人疾攻元直。破而斬之。元繁遣兵來援。不及。乃留一將當有田。自將四千騎來戰。元就令吉田將志道廣好潛兵出敵背。夾擊破之。元繁挺前濟水。我兵射洞其胸。其兵皆潰走。乃報捷京師。大內義興爲足利氏管領。爲請褒賞元就。元就遂幷領武田氏邑八千餘貫。經基妻以其孫女。元繁子光和。猶據銀山不下。十七年。興元卒。子幸松嗣。外祖父高橋久光與元就並輔之。

はしむ。及ばず。乃ち一將を留めて有田に當らせ、自ら四千騎に將として來り戰ふ。元就、吉田の將志道廣好をして、兵を潛めて敵の背に出でしめて、夾み撃ちて之を破る。元繁挺んで前みて水を濟る。我が兵射て其胸を洞く。其兵皆潰走す。乃ち捷を京師に報ず。大內義興、足利氏の管領たり。爲に請ひて元就を褒賞す。元就、遂に武田氏の邑八千餘貫を幷せ領す。經基妻はすに其孫女を以てす。元繁の子光和、猶ほ銀山に據りて下らず。十七年、興元卒す。子幸松嗣ぐ。外祖父高橋久光、元就と並びて之を輔く。

㊀安藝國佐伯郡東部の銀山　㊁安藝國に在り　㊂同上

大永三年。久光父子。與二備後三吉某一戰而死。元就赴援。撫二其遺臣一。并二其邑萬餘貫一。六月。出雲國主尼子經久。攻三大内氏將藏田信房于二鏡山一。元就奉二幸松一爲二先鋒一。陰誘二信房叔父某一。某斬二信房一出降。被レ誅。經久。本六角氏。其祖父持久。爲二伯父高詮一幹二國事一。至レ於二經久一。滅二

大永(一)三年、久光父子、備後の三次某と戰ひて死す。元就赴き援ひて、其遺臣を撫して、其邑萬餘貫を并す。六月、出雲の國主尼子經久、大内氏の將藏田信房を鏡山(二)に攻む。元就、幸松を奉じて先鋒となり、陰かに信房の叔父某を誘ふ。某、信房を斬りて出で降る。誅せらる。經久は、本六角氏なり。其祖父持久、伯父高詮の爲に國事を幹(三)す。經久に至りて、鹽冶某を滅して、富田城(四)を取り、轉じて山陰の諸國を略し、南に兵を出して、大内氏を侵す。大内氏は、世〻周防の山口に居り、太宰大貳と爲り、關西に雄長(五)たり。是の時、大内義興京師に在り、變を聞きて馳せ歸る。是より連年攻戰す。石見・安藝の豪族、其間に介立(六)して、嚮背(七)常無し。獨り毛利・吉川・武田氏、常に經久に附く。

(一) 後柏原天皇の年號 (二) 周防國に在り (三) 支配す (四) 出雲國に在り (五) 强きこと第一たり (六) 中に挾る (七) 常に反服す

鹽冶某。取富田城。轉略山陰諸國。南出兵。侵大內氏。大內氏世居周防山口。爲太宰大貳。雄長關西。是時。大內義興在京師。聞變馳歸。自是連年攻戰。石見安藝豪族。介立其間。嚮背無常。獨毛利吉川武田氏。常附經久。

七月。幸松病卒。無嗣。家臣聚議。選於羣叔。以元就爲嗣。八月。元就入吉田。元就弟就勝。與坂某渡邊某。謀殺元就。元就覺之。襲殺就勝。及坂渡邊。坂者。桂廣澄兄。志道廣好弟也。乃使人諭廣澄廣好曰。不吾以坂故疑汝也。廣好拜謝。廣澄弗信。自殺。其子元澄。聚族據城。元就單騎往諭。降之。

七月、幸松病みて卒す。嗣無し。家臣聚り議して、羣叔(一)に選び、元就を以て嗣と爲す。八月、元就吉田に入る。元就の弟就勝、坂某、渡邊某と、元就を殺さんと謀る。元就之を覺りて、襲ひて就勝及び坂・渡邊を殺す。坂は、桂廣澄の兄にして、志道廣好の弟なり。乃ち人をして、廣澄・廣好を諭さしめて曰く、吾れ坂の故を以て汝を疑はざるなりと。廣好は拜謝す。廣澄は信ぜずして自殺す。其子元澄、族を聚めて城に據る。元就、單騎(二)往きて諭し之を降す。

(一) 多くの叔父 (二) たゞ一騎

四年。五月。大内義興。使下其子義隆。與二其將陶持長一將二二萬人。攻中安藝諸城屬二尼子氏一者上。七月。尼子經久遣レ兵援レ之。敗績。八月。元就以二部兵四千一夜斫二大内氏營一。破レ之。持長解去。七年。元就入二京師一。任二右馬頭一。爲二幕府相伴衆一。

四年五月、大内義興、其子義隆をして、其將陶持長と、二萬人に將として、安藝の諸城の尼子氏に屬するものを攻めしむ。七月、尼子經久、兵を遣して之を援はしむ。敗績す。八月、元就、(一)部兵四千を以て、夜、大内氏の營を斫りて、之を破る。持長解きて去る。七年、元就、京師に入る。右馬頭に任ぜられ、幕府の(二)相伴衆と爲る。

(一) 部下の兵士　(二) 大名中より器量ある者を選び將軍他出の時に伴ふ者

享祿二年。熊谷信直以レ事怨二武田光和一。以二高松城一來二歸元就一。光和怒。攻レ之。不レ利。

(一)享祿二年、熊谷信直、事を以て武田光和を怨み、(二)高松城を以て元就に來り歸す。光和怒りて、之を攻む。利あらず。憂憤して死す。香川光景も亦(三)八木城を以て元就に屬して、將に銀山を攻めんとす。銀山の餘衆、終に若狹に奔る。天文四年、元就、光景・信直等二千騎を率ゐて、東備後を略し、高野城を攻む。城

憂憤死。香川光景亦以二八木城一屬二元就一。將レ攻二銀山一。銀山餘衆。終奔二若狹一。天文四年。元就率二光景信直等二千騎一。東略二備後一。攻二高野城一。城將乞三援於二播磨赤松晴政一。未レ至。元就急攻拔レ之。并二其兵一。又徇二下數城一。

將、援を播磨の赤松晴政に乞ふ。未だ至らず。元就、急に攻めて之を拔き、其兵を并せて、又數城を徇へ下す。

㊀後奈良天皇の年號　㊁備中國に在り　㊂安藝國に在り

先レ是尼子經久。逐二子興久一。殺レ之。立二孫晴久一。晴久遇二元就一亡狀。大內義興病卒三於二享祿元年一。遺二言義隆一曰。元就與二晴久一有レ郤。宜下以二是時一奪爲中我援上。愼

是より先、尼子經久、子興久を逐ひて、之を殺し、孫晴久を立つ。晴久、元就を遇すること亡狀なり(一)。大內義興、病みて享祿元年に卒す。義隆に遺言して曰く、元就、晴久と郤有り。宜しく是の時を以て奪ひて我が援となすべし。愼みて(二)其驩心を失ふ勿れ。吾れ嘗て彼に德す(三)。彼れ豈に之を記せざらんやと。陶持長、遺命を奉じて、百方(四)、好を通ず。元就終に之に應じて、國內の諸城の晴久に屬する者を攻め下す。晴久、大に怒り、親ら來りて之を討たんと欲す。經久曰く、元就、材武にして善く兵を用ふ。未だ(五)力を以て取る可からざるなり。先づ備後・

勿失其驕心。吾嘗德彼。彼豈不記之。陶持長奉遺命。百方通好。元就終應之。攻下國內諸城屬晴久者。晴久大怒。欲親來討之。經久曰。元就材武。善用兵。未可以力取也。不若先定備後石見。以形勝制之。經久弟義勝亦諫止之。晴久皆弗聽。吉田城東北有冑山。元就患敵陣山上以瞰城也。會出雲閒來入。元就覺之。乃議曰。敵陣冑山。吾與宍戶隆家。夾擊之。陣三猪口。則非我利也。隆家元就女婿。守五龍城者也。間者走。報晴久。

石見を定めて、形勝を以て之を制するに若かずと。經久の弟義勝も亦、諫めて之を止む。晴久皆聽かず。吉田城の東北に冑山有り。元就、敵の山上に陣し以て城を瞰ふを患ふ。會ゝ出雲の閒來り入る。元就、之を覺りて、乃ち議して曰く、敵、冑山に陣せば、吾れ宍戶隆家と之を夾み擊たん。三猪口(六)に陣せば、則ち我が利に非ざらんと。隆家は、元就の女婿(七)にして、五龍(八)城を守る者なり。間者走りて、晴久に報ず。

(一) 無法　(二) 元就の機嫌を取りそこなうてはならぬ　(三) 恩を施す　(四) 手を盡して　(五) 力づくでは取られず　(六) 備後國に在り　(七) 娘のむこ　(八) 備後に在り

九月。晴久將騎卒五萬。來陣于三猪口。

九月、晴久騎卒五萬に將として、來りて三猪口に陣す。武田氏の餘黨を助けて、銀山を復す。四近の將師、晴久の兵威を怖れて、敢て我を援はず。獨り宍

助二武田氏餘黨一復二銀山一。四近將帥怖二晴久兵威一。不二敢援一レ我。獨宍戸竹原小早川諸族。遣二兵數百一入レ城。城兵凡三千人。北軍焚掠。城兵輒出擊。走レ之。晴久叔父國久。部屬精勁。稱二新宮黨一。怒二北軍數衄一。以二萬騎一來挑レ戰。元就設二二伏一而出戰。敵視二我寡單一。縱レ兵而進。路狹。不レ

戸・竹原・小早川の諸族、兵數百を遣して城に入らしむ。城兵凡そ三千人なり。北軍焚掠(一)す。城兵輒ち出で撃ちて、之を走らす。晴久の叔父國久、部屬精勁なり。(二)新宮黨と稱す。北軍の數々衄るゝを怒りて、萬騎を以て來りて戰を挑む。元就、二伏を設けて出でて戰ふ。敵、我の寡單なるを視て、兵を縱ちて進む。路狹くして、齊しく進むを得ず。伏兵夾擊して、之を破る。晴久乃ち三柵を(三)宮崎に作り以て城に逼る。大内義隆、陶隆房等を遣して、兵に將として來り援はしむ。(四)天神山に陣す。十年正月、元就、隆房に請ひて晴久に備へ、而して自ら長子隆元と宮崎を攻む。元就進みて二柵を破る。隆房、尼子義勝と、三猪坂に戰ふ。義勝死す。晴久、夜遁る。城兵尾擊して、斬獲多し、銀山の兵も、之を聞きて亦遁る。

(一) 火を放ちて民財を掠む　(二) すぐれて強し　(三) 備後國に在り　(四) 同上

得二齊進一。伏兵夾擊。破レ之。晴久乃作二三柵于宮崎一。以逼レ城。大內義隆遣二陶隆房等一。將レ兵來援。陣二天神山一。十年。正月。元就請二隆房一。備二晴久一。而自與二長子隆元一攻二宮崎一。元就進破二二柵一。隆房與二尼子義勝一。戰二于三猪坂一。義勝死。晴久夜遁。城兵尾擊。多二斬獲一。銀山兵聞レ之亦遁。

十二年。正月。義隆大舉攻二富田一。元就以二兵二千一從。與二周防將秋山某一夾レ川陣。四月。河水大漲。城兵急攻二秋山一。元就曰。吾祖騎二渡劫川一。況此一衣帶水乎。亂レ流援擊。走レ之。七月。義隆敗走。元就整レ隊。徐退南還。是役也。吉川興經。與二北軍將十餘人一叛二晴久一。導二周防兵一。已而復附レ之。義隆以レ故敗。

十二年正月、義隆、大擧して富田を攻む。元就、兵二千を以て從ひ、周防の將秋山某と、川を夾みて陣す。四月、河水大に漲る。城兵急に秋山を攻む。元就曰く、吾が祖、劫川を騎渡す。況や此一衣帶水(一)をやと。流を亂りて援ひ擊ちて、之を走らす。七月、義隆敗走す。元就、隊を整へて、徐に退きて南に還る。是の役や、吉川興經、北軍(二)の將十餘人と、晴久に叛きて、周防の兵を導く。已にして復た之に附く。義隆故を以て敗る。

(一) 一條の小河 (二) 尼子氏の軍

吉川氏。出レ於二駿河人吉川友兼一。友兼誅二梶原景時一。子孫以レ功食二安藝大朝一。後十二世。爲二興經一。興經嬖二大鹽某一。其下皆怨。殺二大鹽一。廢二興經一。議曰。毛利右馬與二先公一婚。其子皆先公外孫。可二養以爲一レ嗣。乃請二元就次子元春一。入二新莊城一。奉以爲レ主。元春弟隆景亦出爲二小早川氏後一。

吉川氏は、駿河の人、吉川友兼より出づ。友兼、梶原景時を誅す。子孫、功を以て安藝の大朝を食む。後十二世を、興經と爲す。興經、大鹽某を嬖(一)す。其下皆怨みて、大鹽を殺し、興經を廢す。議して曰く、毛利右馬(二)、先公と婚す。其子は皆先公の外孫なり。養ひて以て嗣と爲す可しと。乃ち元就の次子元春を請ひて、新莊城(三)に入れて、奉じて以て主と爲す。元春の弟隆景も、亦出でて小早川氏の後と爲る。

(一) 寵愛す　(二) 元就　(三) 安藝國に住り

小早川氏之先。出レ於二伊豆人土居實平一。

小早川氏の先は、伊豆の人土居實平に出づ。實平、源氏に仕へて、安藝の豊田を食む。後十六世を、正平と曰ふ。正平の子繁平、幼にして明(一)を失ふ。其族黨議

實平仕二源氏一。食二安藝豐田一。後十六世。曰二正平一。正平子繁平。幼失レ明。其族黨議。請養二隆景一。妻以二正平女一。居二沼田城一。於レ是吉川小早川並爲二毛利氏羽翼一。人呼曰二兩川一。元春稱二治部少輔一。豪爽善用レ兵。隆景稱二左衛門佐一。美二姿儀一。沈斷有二謀慮一。皆類二元就一。元就以四元春未三有二伉

して、請ひて隆景を養ひ、妻はすに正平の女を以てす。是に於て、吉川・小早川、並に毛利氏の羽翼(一二)となる。人呼びて兩川(一三)と曰ふ。元春は治部少輔と稱す。(一四)豪爽にして善く兵を用ふ。隆景は左衛門佐と稱す。(一五)姿儀に美しく、(一六)沈斷にして謀慮有り。皆元就に類す。元就、元春の未だ伉儷(一七)有らざるを以て、兒玉就忠をして、密かに其意の嚮ふ所を問はしむ。元春曰く、吾れ熊谷信直の女を得んと欲すと。就忠曰く、郎君、其美を謬り聞く無きを得んや。彼女醜惡(一八)、匹無し。君必ず之を悔いんと。元春哂ひて曰く、然り。吾れ素より其醜を知る。抑ゝ古の名將、女色を以て其勇を失ふもの多し。人取らずして吾れ之を取る所以なり。人取らずして我れ之を取る。信直必ず感喜して、吾が爲に死力を出さん。此間の將卒、孰か信直の右に出づる者ぞ。吾れ之と鋒を聯ねて(一九)、以て家君の先と爲らば、向ふ所摧き破らざるは無きのみと。就忠、慚服して、元就に告げて之を娶らしむ。信直果して大に喜ぶ。毛利氏の兵鋒益ゝ銳し。(二〇)

儷。使三兒兒玉就忠密問二其意所レ嚮。元春曰。吾欲レ得二熊谷信直女一。就忠曰。郎君得レ無レ謬レ聞二其美一乎。彼女醜惡無レ匹。君必悔レ之。元春哂曰。然。吾素知二其醜一也。抑古名將多下以二女色一失中其勇上。所二以人不レ取而吾取一レ之。人不レ取而吾取レ之。信直必感喜。爲レ吾出二死力一。此間將卒。孰出二信直右一者。吾與レ之聯レ鋒。以爲二家君之先一。所レ向無レ不二摧破一耳。就忠慚服。告二元就一娶レ之。信直果大喜。毛利氏兵鋒益銳。

(一)盲目となる (二)安藝國に在り (三)左右の助けとなる (四)すぐれて強く心のさつぱりとしてゐること (五)風采 (六)落附きて決斷に富む (七)配偶 (八)ぶきりやう此上なし (九)兵鋒を並べて (一〇)恥ぢ入り

十七年。元就攜二隆元元春隆景一。赴二山口一。義隆養二内藤興盛女一。妻レ於二隆元一。使下陶隆房與二元春一約爲中兄弟上。義隆性文弱。山口多二廷臣避レ亂

十七年、元就、隆元・元春・隆景を攜へて、山口に赴く。義隆、内藤興盛の女を養ひて、隆元に妻はす。陶隆房をして、元春と約して兄弟たらしむ。義隆、性文弱なり。山口に廷臣の亂を避くる者多し。而して明人、常に互市す。義隆、(一)詠歌に耽り、(二)梵譯を學び、復た武事を問はず。陶持長、嘗て之を憂ふ。持長の子義清、幼にして聰敏なり。常に義隆を誹りて曰く、是れ(三)墮落沙門、流竄公卿のみと。持長、其の不臣の志有るを視て、之を藥殺し、更に妹婿問田某の子を養ふ。是

者。而明人常互市焉。義隆耽二詠歌一。學二梵譯一。不三復問二武事一。陶持長督要レ之。持長子義清。幼聰敏。常誹二義隆一曰。是墮落沙門。流竄公卿耳。持長覸三其有二不臣之志一。藥二殺之一。更養二妹婿問田某子一。是爲二隆房一。隆房悍厲頗得二士心一。持長已死。隆房與二義隆嬖臣相良武任一有レ郤。結二杉重政。青景隆時。內藤興盛一。謀レ殺二武任一。武任怖而遁逃。冷泉隆豐勸二義隆速誅二隆房一。不レ聽。隆房佯乞二骸骨一。歸二其邑若山一。日謀二反逆一。家臣深野康澄。宮川房

を隆房と爲す。隆房、悍厲(四)にして、頗る士心を得。持長已に死す。隆房、義隆の嬖臣相良武任と郤有り。杉重政・青景隆時・內藤興盛と結びて、武任を殺さんと謀る。武任怖れて遁逃す。冷泉隆豐、義隆に速かに隆房を誅せんことを勸む。聽かず。隆房佯りて骸骨(五)を乞ひて、其邑若山に歸り、日々に反逆を謀る。家臣深野康澄・宮川房勝、持長の遺囑(六)を引きて大に諫む。聽かず。二臣交々刺して死す。二十年八月、隆房、遂に反して、山口を攻む。義隆、法泉寺に走る。其兵皆潰ゆ。前關白藤原尹房、爲に和を講ず。隆房肯ぜず。義隆航して筑紫に赴く。風に阻せられて、還りて大寧寺(七)に入る。賊兵來り圍む。九月、義隆自殺す。隆豐等之に死す。義隆の子義尊、及び尹房以下の公卿十餘人、皆殺す所と爲る。

㊀ 文學を好みて心弱し ㊁ 梵語の漢譯したるもの卽ち佛教の教典を指す ㊂ 僧侶 ㊃ 思強くして心はげし ㊄ 官を辭して隱居せんことを請ふ ㊅ 死後の賴み ㊆ 長門國に在り

勝。引二持長遺囑一大諫。弗レ聽。二臣交刺死。二十年。八月。隆房遂反攻二山口一。義隆走二法泉寺一。其兵皆潰。前關白藤原尹房爲レ講レ和。隆房不レ肯。義隆航赴二筑紫一。阻レ風。還入二大寧寺一。賊兵來圍。九月。義隆自殺。隆豐等死レ之。義隆子義尊。及尹房以下公卿十餘人。皆爲レ所レ殺。

隆房更二名晴賢一。削レ髮號二全薑一。迎二豐後國主大友義鎭弟義長一爲レ主。曰。重政隆時妬二武任一。勸レ吾行二大事一。乃發レ兵誅二二人一。初晴賢之圖レ難。使下人來說二元就一黨上レ己。啗以二佐東郡一。元就卻レ之。義隆臨レ終遺レ書。囑二元

隆房、名を晴賢と更め、髮を削りて全薑と號す。豐後の國主大友義鎭の弟義長を迎へて主と爲す。曰く、重政・隆時、武任を妬みて、吾に勸めて大事（一）を行はしむと。乃ち兵を發して二人を誅す。初め晴賢の難を圖るや、人をして來りて元就に說きて己に黨せしめんとす。啗はすに佐東郡を以てす。元就、之を卻く。義隆、終に臨みて書を遺りて、元就に囑して曰く、吾れ不幸にして賊臣の弑する所と爲り、（二）恨を呑みて地に入る。卿に非ずんば誰か能く我が仇を復せんと。元就、書を覽て、涕を流して曰く、吾れ大貳の恩眷（三）を受く。囑する所無しと雖も、猶ほ爲に仇を復せんと欲す。況や（四）是れ有るをやと。諸將曰く、彼凶焔、方に熾なり。未だ與に衡（五）を爭ふ可からず。宜しく內に威力を養ひ、外に柔弱を示し、釁を

就曰。吾不幸爲賊臣所弑。吞恨入地。非卿誰能復我仇。元就覽書。流涕曰。吾受大武恩眷。雖無所囑。猶欲爲復仇。況有是乎。諸將曰。彼凶焰方熾。未可與爭衡。宜內蓄威力。外示柔弱。觀釁而動。元就從之。

觀て動く可しと。元就之に從ふ。

（一）義隆を弑せしこと　（二）恨みを含みて死す　（三）恩をかけて深く思ふ　（四）この遺囑あるに於ては猶更なり　（五）力の輕重を爭ふ可からず

二十一年。秋。元就攻拔槌山志和諸城。是歲。備後江田隆貫叛。歸尼子氏。元就攻之。至泉橋。尼子國久將數萬騎來救隆貫。元春以部兵二千擊

二十一年秋、元就攻めて槌山（一）・志和の諸城を拔く。是の歲、備後の江田隆貫叛きて、尼子氏に歸す。元就之を攻めて、泉（二）橋に至る。尼子國久、數萬騎に將として來りて隆貫を救ふ。元春部兵二千を以て、擊ちて之を走らす。會〻霖（三）雨にて川漲る。國久・隆貫、退きて山内に入る。元就も亦歸る。備中の人三村家親來り屬す。二十二年、家親を以て鄕導と爲して、穗田爲資を攻めて、之を降す。

（一）共に周防國に在り　（二）備後國に在り　（三）長雨

走レ之。會霖雨川漲。國久隆貫退入二山內一。元就亦歸。備中人三村家親屬。二十二年。以二家親一爲二鄕導一。攻二穗田爲資一。降レ之。

初我將井上元兼。以二豪宗一不レ奉二法令一。竊言曰。主公欲レ誅二陶氏一。陶氏嘗救レ我。恩可レ背乎。元就以レ計族二誅之一。於レ是會二諸族屬一。議下討二晴賢一之計上。隆景進曰。宜下請二之天子一。仗二大義一討上レ之。則人心所レ嚮。無レ不レ克矣。元就曰。善。乃上書曰。太宰大

初め我が將井上元兼、豪宗(一)を以て法令を奉ぜず。竊かに言ひて曰く、主公、陶氏を誅せんと欲す。陶氏は嘗て我を救ふ。恩背く可けんやと。元就、計を以て之を族誅(二)す。是に於て、諸〻の族屬を會して、晴賢を討つの計を議す。隆景進みて曰く、宜しく之を天子に請ひて、大義に仗りて之を討つべし。則ち人心の嚮ふ所、克たざること無けんと。元就曰く、善しと。乃ち上書して曰く、太宰大貳義隆、父祖の遺業を承けて、心を王室に存す。而して賊臣晴賢といふ者の弑する所と爲る。臣元就、微力(三)を奮ひて、討伐を圖り、未だ其功を成すを得ず。伏して冀はくは、晴賢を討つ一行の詔を得て、徒屬を糾合(四)して以て西陲(五)を靖んぜんと。初め朝廷、晴賢、難を作すと聞きて、將軍・管領に命じて、西伐せしむ。敢て詔を奉ずるもの莫し。元就の書至るに及びて、卽ち之を制可(六)す。元

貳義隆。承二父祖遺業一存三心於二王室一。而爲二賊臣晴賢者所レ弑。臣元就。奮二微力一。圖二討代一。未レ得レ成二其功一。伏冀得下討二晴賢一一行詔上。糾二合徒屬一。以靖二西陲一。初朝廷聞二晴賢作レ難。命二將軍管領一。西伐。莫二敢奉下詔。及二元就書至一。即制二可之一。元就得レ詔感喜。移二書遠近一。津和城主吉見正頼。世與二陶氏一讎。首應レ之。晴賢怒。攻二津和一。元就遣レ兵援レ之。

就、詔を得て感喜し、書を遠近に移す。津和城主吉見正頼、世々陶氏と讎たり。首(七)として之に應ず。晴賢怒りて、津和を攻む。元就兵を遣して之を援ふ。

(一) よき門閥　(二) 一族を悉く誅す　(三) 僅かの力　(四) あはす　(五) 西方のはての諸國　(六) 詔して可とせらる　(七) 第一番に

二十三年。五月。元就與二諸子一。將レ兵西出。取二銀山草津櫻尾諸城一。過二陶氏兵于二折敷畑一。擊破レ之。陶氏骨鯁將

二十三年五月、元就、諸子と兵に將として西に出でて、銀山(一)・草津・櫻尾の諸城を取る。陶氏の兵に折敷畑(二)に遇ふ。擊ちて之を破る。陶氏骨鯁(三)の將に江良興房有り。琥珀城を守る。元就、反間を縱ちて、興房款を送ると言はしむ。晴賢、興房を族誅(四)し、遂に周防・長門・豐前・筑後・石見に檄して、兵を發して東下す。元就之を聞きて、諸子と密かに謀りて曰く、彼の兵三萬に下らず。必ず首として櫻

有ニ江良興房一。守ニ琥珀城一。元就縱ニ反間一。言ニ興房送レ款。晴賢族ニ誅興房一。遂檄ニ周防長門豐前筑後石見一。發レ兵東下。元就聞レ之。與ニ諸子一密謀曰。彼兵不レ下ニ三萬一。必首攻ニ櫻尾草津一。我悉レ衆援レ之。不レ過ニ五千人一。勢力懸絕。與戰ニ平地一。不レ可レ克。也。爲ニ今計一者。宜下城ニ嚴島一。誘而鏖上レ之。弘治元年。五月。城ニ于嚴島之有浦一。諸宿將皆諫ニ其不可一。元就弗レ聽。諸將皆相言曰。此公常不レ拒レ諫。今何乃爾。六月。城成。命ニ己斐新里二氏一以ニ兵數百一

尾・草津を攻めん。我れ衆を悉して之を援ふも、五千人に過ぎず。勢力懸絕す。與に平地に戰はば、克つ可からず。今の計を爲すは、宜しく嚴島(四)に城きて、誘ひて之を鏖むべしと。弘治元年五月、島の有浦に城く。諸宿將、皆其不可を諫む。元就聽かず。諸將、皆相言ひて曰く、此公、常に諫を拒がず。今何ぞ乃ち爾ると。六月、城成る。己斐・新里二氏に命じて、兵數百を以て之を守らしむ。草津・櫻尾・仁保(六)の諸城をして、互(七)に策應を爲さしむ。既にして聲(八)言す、吾れ老將の言を聽かざるを悔ゆ。嚴島の地形、守り難く援ひ難し。卽し敵の有と爲らば、諸城從ひて陷らん。吾が計、此より失するは莫しと。

(一) 三城共に安藝國に在り　(二) 同上　(三) 剛直　(四) 安藝國に在り　(五) かけはなる　(六) 安藝國に在り　(七) 互ひにはかりて援け合ふ　(八) 言ひふらす

守レ之。使三草津櫻尾仁保諸城互爲二策應一。旣而擧言。吾悔レ不レ聽二老將言一。嚴島地形。難レ守難レ援。卽爲二敵有一。諸城從陷。吾計莫レ失レ於レ此。

九月。晴賢留三其子長房于二若山一。而自統二騎卒二萬戰艦千餘艘一。至二岩國一。議二戰所一レ嚮。大和興武曰。先拔二櫻尾一。則諸城不レ攻而陷。弘中隆包曰。請分レ兵。一攻二櫻尾一。一備二其援路一。彼不二敢出一。出則與レ之相持。而遣二輕兵一擣二吉田一。彼進退失レ

九月、晴賢其子長房を若山に留めて、自ら騎卒二萬、戰艦千餘艘を統べて、岩國(一)に至りて、戰の嚮ふ所を議す。大和興武曰く、先づ櫻尾を拔かば、則ち諸城攻めずして陷らんと。弘中隆包曰く、請ふ、兵を分ちて、一は櫻尾を攻め、一は其援路に備へば、彼れ敢て出でじ。出でば則ち之と相持し、而して輕兵(二)を遣して吉川を擣かば、彼れ進退據を失ひ、刃に血らずして取る可しと。晴賢曰く、吾れ先づ嚴島を取らんと欲す。城脆く將孱し。而して援ふに便ならず。聞く、元就甚だ之を悔ゆと。吾れ取りて以て根據と爲し、兵を分ちて諸城を攻めん。是れ萬全の策なりと。隆包曰く、彼れ眞に之を悔いば、必ず宣言せじ。宣言するは、以て我を餌(三)するに非ざるを得んやと。晴賢、猶豫して未だ決せず。

(一) 周防國に在り　(二) 身輕の兵　(三) 餌として釣り出さんとするやも知れず

據。不血刃而可取。晴賢曰。吾欲先取嚴島。城脆將孱。而不便於援。聞元就甚悔之。吾取以爲根據。分兵攻諸城。是萬全策也。隆包曰。彼眞悔之。必不宜言。宜言者。得非以餌我乎。晴賢猶豫未決。

故櫻尾城主降在賊軍中。與己斐新里相識。元就令二人貽書。指陳順逆。暴晴賢罪惡。極其醜詆。晴賢覽之大怒。元就又令桂元澄詐送款。約俟元就渡得赴援。翻城爲內應。晴賢乃決意攻嚴島。十月。建牙塔岡。

故の櫻尾の城主、降りて賊軍の中に在り。己斐・新里と相識る。元就、二人をして書を貽らしめて、順逆を指陳(一)して、晴賢の罪惡を暴し、其(二)醜詆を極む。晴賢、之を覽て大に怒る。元就、又桂元澄をして、詐りて款を送らしめ、元就、海を渡りて赴き援ふを俟ちて、城を翻して內應を爲さんと約す。晴賢乃ち意を決して嚴島を攻む。十月、牙を塔岡に建て、民舍を燒きて陣を布く。舟艦、櫛比(三)し、喊聲海に震ふ。城兵、壁に嬰りて堅く守る。賊に鳥銃七口有り。(四)櫓楯支へず。(五)土豚を積みて之を扞ぐ。晴賢書を元就に遺りて曰く、公、先大貳の爲に、誅を加へられんと欲す。敢て逃れ避けず。聊か水陸軍三萬を以て、嚴島に陣す。公能く來らんかと。元就、將士を聚めて之を示す。將士皆懼るゝ色あり。元就笑ひて

燒二民舍一布レ陣。舟艦櫛比。賊聲震レ海。城兵嬰レ壁堅守。賊有二鳥銃七口一。櫓柄不レ支。積二土豚一扞レ之。晴賢遣二書元就一曰。公爲二先大貳一欲レ見レ加レ誅。不二敢逃避一。聊以二水陸軍三萬一陣レ于二厳島一。公能來乎。元就聚二將士一示レ之。將士皆有二懼色一。元就笑曰。使二賊所レ言信一。則吾大克矣。衆問レ故。曰。其地迫狹。彼側レ肩蹻レ足。不レ便二進退一。兵愈衆而鋒愈鈍。我以二死士數千一衝レ之。克可レ必也。乃使二宍戶隆家留二守吉田一。而自率二精兵三千餘人一。南行至二草津一。與二晴賢一隔レ海而陣。國內諸豪意二其必敗一。多稱レ病不レ從。

曰く、賊の言ふ所をして信ならしめば、則ち吾れ大に克たんと。衆、故を問ふ。曰く、其地迫狹、(六)彼れ肩を側て足を蹻み、進退に便ならず。兵愈〻衆くして、鋒愈〻鈍る。我れ死士數千を以て之を衝かば、克必す可きなりと。乃ち宍戶隆家をして吉田を留守せしめて、自ら精兵三千餘人を率ゐて、南行して草津に至り、晴賢と海を隔てて陣す。國內の諸豪、其必敗を意ひて、多く病と稱して從はず。

(一) 一々拾ひ立てゝのぶ (二) 口ぎたなくそしる (三) 櫛の齒の如くならぶ (四) 城櫓の柄 (五) 土俵 (六) 肩を横にし足をふみ合ひかけひきに不便なり

初伊豫有二能

初め伊豫に能島・來島の二族あり。水戰に閑ふ。晴賢・元就、並に之を招く。二

島來島二族。閑二水戰一。晴賢元就並招レ之。二族以二三百艘一。來屬二元就一。元就勞レ之。往問二城中消息一。賊四鑿二地道一。樓櫓殆覆。以二大索一維二持之一。元就移二陣火立山一。晦日。盡返三老弱輜重于二草津一。累累不レ絕。賊望見以爲我收レ兵也。於レ是元就令二諸將士一。人以二二條布一約レ袖佩二一日糧一。

族、三百艘を以て、來りて元就に屬す。元就、之を勞ひて、往きて城中の消息(一)を問はしむ。賊、四もに地道(二)を鑿ちて、樓櫓殆ど覆らんとす。大索を以て之を維持す。元就移りて火(三)立山に陣す。晦口、盡く老弱輜重を草津に返す。(四)累累として絕えず。賊望み見て以爲らく、我れ兵を收むるならんと。是に於て、元就、諸將士に令して、人ごとに二條の布を以て袖を約し、一日の糧を佩びしめ、暗號を約して、暮るゝ比、船に上る。大風雨に會ひて、士卒震ひ怖れ、風定るを俟たんと請ふ。元就曰く、天我を助くるなりと。皆篝火を滅せしめて、一燈(五)を牙船に揭ぐ。諸軍、之を認めて、浪を破りて渡る。既に濟り、舟を北岸に返して、以て必死を示す。遂に博尾崎(六)に上りて、直に塔岡の背に出づ。隆景、別に伊豫の船兵を率ゐて、其面に出づ。賊、風雨を恃みて、警邏(七)する者無し。賊艦を穿ちて入る。賊或は誰何(八)す。沛宗勝、大聲に答へて曰く、筑前の兵、徵に應じて來ると。船を辟きて達せしむ。稍ゝ岸に上る。兩隊皆陣す。天將に明けんとす。元

約二晴號一。比レ暮上レ船。會二大風雨一。士卒震怖。請レ俟二風定一。元就曰。天助レ我也。令三皆滅二篝火一。揭二一燈于牙船一。諸軍認レ之。破レ浪而渡。既濟。返二舟北岸一。以示二必死一。遂上二博尾崎一。直出二塔岡背一。隆景別率二伊豫船兵一。出二其面一。賊恃二風雨一。無二警邏者一。穿二賊艦一而入。賊或誰何。浦宗勝大聲答曰。筑前兵應レ徵來矣。辟レ船而達。稍稍上レ岸。兩隊皆陣。天將レ明矣。元就命吹レ螺鼓譟乘レ高下擊。

就、命じて螺を吹き鼓譟して、高きに乘じて下り擊たしむ。

(一) 樣子　(二) とんねる　(三) 安藝國に在り　(四) ぞろ〳〵と引切りなし　(五) 大將の乘船　(六) 安藝國に在り　(七) 非常を警しめ見廻る　(八) 何者かと咎む

賊諸軍大驚。爭萃二其牙營一。營塡咽。自相擊刺。元就大呼曰。進。諸將士破レ柵而入。賊兵終大潰。晴賢咄嗟過二走者一。不レ能レ過也。賊爭レ舟而

賊の諸軍、大に驚きて、爭ひて其牙營(一)に萃る。營、塡咽(二)して、自ら相擊刺す。元就、大に呼びて曰く、進めと。諸將士、柵を破りて入る。賊兵終に大に潰ゆ。晴賢、咄嗟(三)走る者を過む。過むる能はず。賊、舟を爭ひて遁れ、溺死するもの數千人。晴賢、肥大にして、行步に便ならず。從者、扶掖(四)して海岸に至り、船を求む。復た一隻を覩ず。遂に自殺す。隆包、殘兵百餘を以て、嵒洞中(五)に棲む。元就、其才を惜しみて、人をして說きて之を降さしむ。肯はずして死す。已にして晴

通。溺死數千人。晴賢肥大。不便行步。從者扶掖至海岸。求船。不復覩一隻。遂自殺。隆包以殘兵百餘。棲岾洞中。元就惜其才。使人說降之。不肯而死。已而獲晴賢首。元就嚴建旗鼓。奮鞭指其首曰。弑逆之報。乃嬰天誅。今何如也。諸軍揚凱。元就留嚴島十一日。引兵返小瀉。葬晴賢首于洞雲寺。

賢の首を獲。元就、嚴かに旗鼓を建て、鞭を奮ひて其首を指して曰く、弑逆の報、乃ち天誅に嬰る。今何如と。諸軍、凱を揚ぐ。元就、嚴島に留ること十一日、兵を引きて小瀉に返りて、晴賢の首を洞雲寺に葬る。(六)

㊀本陣　㊁みちふさがる　㊂舌打ちして叱る　㊃扶けもつ　㊄巖の洞穴の中　㊅安藝國に在り

元就既誅晴賢。威震關西。周防人相驚曰。毛利軍至矣。陶長房教義長乞援於大友氏。大友氏弗敢應。十

元就、既に晴賢を誅して、威、關西に震ふ。周防の人相驚きて曰く、毛利の軍至ると。陶長房、義長をして援を大友氏に乞はしむ。大友氏、敢て應ぜず。十二月、元就進みて岩國に陣し、隆景を遣して玖珂郡を徇へ、上關に至る。杉重輔、內應をなして、長房を攻め殺す。將士相疑ひて、皆款を元就に送る。元就、尼子晴久、備後・石見を窺ふと聞きて、未だ肯て深く入らず。乃ち備後の豪族山

二月。元就進ニ陣岩國ニ。遣ニ隆景ニ徇ニ玖珂郡ニ。至ニ上關ニ。杉重輔爲ニ內應ニ。攻ニ殺長房ニ。將士相疑。皆送ニ款元就ニ。元就聞ニ尼子晴久窺ニ備後石見ニ。未ニ肯深入ニ也。乃招ニ降備後豪族山內隆通ニ。又命ニ元春ニ守ニ石見ニ。而自引レ軍向ニ山口ニ。陶氏故黨以ニ萬人ニ拒ニ煤間城ニ。隆元攻レ之。城帶ニ泥淖ニ。我兵不レ利。

內隆通を招降す。又元春に命じて石見を守らしめて、自ら軍を引きて山口に向ふ。陶氏の故黨、萬人を以て(一)煤間城に拒ぐ。隆元之を攻む。城、(二)泥淖を帶びて、我が兵利あらず。

(一) 玖珂上關煤間城皆周防國に在り　(二) ぬかるみ

三年。二月。元就將ニ萬騎ニ發ニ岩國ニ。令ニ士卒人持ニ簀與ニ席。以傅ニ城下ニ。投ニ簀於泥淖ニ布ニ席其上ニ。踐以登レ城。鏖ニ殺其兵ニ。山口騷擾。盡レ甲拒ニ右田岳ニ。

三年二月、元就、萬騎に將として岩國を發す。士卒をして、人ごとに簀と席とを持たしめて、以て城下に傅ひて、簀を淖に投じ、席を其上に布きて、踐みて以て城に登り、其兵を(一)鏖殺す。山口、騷擾し、(二)甲を盡して(三)右田岳に拒ぐ。元就、隆元と兵二萬を合せて、攻めて之を降す。一將をして之を守らしめて進む。吉見正賴來り會す。義長怖れて、(四)勝山に走る。是に於て、元就、諸軍を整へて山口に入る。內藤隆春等迎へ降る。元就、六千騎を遣して、(五)長府、下關を扼して、以て

元就與二隆元一。合二兵二萬一。攻降レ之。使二一將守一レ之而進。吉見正頼來會焉。義長怖。走二勝山一。於レ是元就整二諸軍一入二山口一。內藤隆春等迎降。元就遣二六千騎一扼二長府下關一。以絶二大友氏援路一。而令三福原貞俊攻二勝山一。殺二義長及晴賢季子鶴壽一。周防長門士民。雲二集山口一。豐前筑後諸城。又多二迎降者一。元就盡除二弊政一。免二租賦一。分レ邑賞二諸將一。置二戍于下關門司三尾鵠峯四處一。四月凱二旋安藝一。

大友氏の援路を絶ち、而して福原貞俊をして勝山を攻しめて、義長及び晴賢の季子鶴壽を殺す。周防・長門の士民、山口に雲集す。(六) 豐前・筑後の諸城、又迎へ降る者多し。元就盡く弊政を除きて、租賦を免し、邑を分ちて諸將を賞し、戍を下關・門司・三尾・鵠峯の四處に置きて、(七) 四月、安藝に凱旋す。

(一) 皆殺にす　(二) 全軍にて　(三) 周防國に在り　(四) 同上　(五) 長府・下關共に長門國に在り　(六) 雲の如く集まる　(七) 共に周防國に在り

是時。晴久入二備後一。數攻二隆通一。不レ能レ下。轉向二石見一。不二敢

是の時、晴久、備後に入りて、數〻隆通を攻めて下す能はず。轉じて石見に向ひ、敢て入らずして去る。十一月、陶氏の餘黨起りて、鵠峯を攻む。元就、萬人に將として往きて之を平げ、轉じて周防の故將益田藤包を三角城に攻む。(一) 元春・隆

入而去。十一月。陶氏餘黨起。攻鶴峯。元就將萬人往平之。轉攻周防故將益田藤包于三角城。元春隆景說曰。藤包勇智不下正賴。而與之有郤。宜使兩存之。相鈐制。乃招降藤包。

景、說きて曰く、藤包は勇智正賴に下らず。而して之と郤有り。宜しく之を(二)兩存して、(三)相鈐制せしむべしと。乃ち藤包を招降す。

(一) 石見國に在り (二) 兩立せしめて (三) おさへ合はすべし

元就於是取盡大内氏地。遂圖尼子氏。而患尼子國久強悍。謀除之。尼子經久娶吉川經基女。而元就亦爲其孫女婿。是以託姻戚。

元就、是に於て、盡く大内氏の地を取り、遂に尼子氏を圖る。而して尼子國久の強悍を患へて、之を除かんと謀る。尼子經久、吉川經基の女を娶る。而して元就も亦、其孫女の婿たり。是を以て、(一)姻戚に託して、數〻使幣を國久に通ず。國久頗る之を疑ふ。義勝の死するや、其子經貞、猶ほ幼し。國久其邑を(二)攝す。長ずるに及びて返し與へず。經貞之を(三)啣む。是に於て元就(四)死囚をして書を懷にして出雲に入らしめて、之を道上に殺す。(五)行人聚り觀る。其書を取れば、乃

數通三使幣二於國久。國久頗疑レ之。義勝之死。其子經貞猶幼。國久攝二其邑一。及レ長不二返與一。經貞啣レ之。於レ是元就令三死囚懷レ書入二出雲一。殺二之道上一。行人聚觀。取二其書一。乃元就與二國久一約二內應一者也。晴久獲レ書大驚。召二經貞一。問曰。聞三新宮黨陰通二安藝一。汝豈知レ之乎。經貞媒二孽之一曰。臣數見二其密使往來一。晴久乃伏レ甲。要二殺國久父子一。殲二其黨一。北兵自レ是弱矣。永祿元年。二月。元就使三元春陣二出羽一。與二尼子氏將小笠原長雄本莊常光一戰。未レ決。神邊城主杉原盛重來援破レ之。五月。元就攻降二長雄一。晴久來

ち元就と國久と、內應を約するものなり。晴久、書を獲て大に驚き、經貞を召して問ひて曰く、新宮黨陰かに安藝に通ずと聞く。汝豈に之を知るかと。經貞、之を(六)媒孽して曰く、臣、數〻其密使の往來するを見ると。晴久乃ち甲を伏せて、國久父子を要殺し、其黨を殲にす。北兵是より弱し。(七)永祿元年二月、元就、元春をして(八)出羽に陣せしめて、尼子氏の將小笠原長雄・本莊常光と戰はしむ。未だ決せず。(九)神邊城主杉原盛重來り援ひて、之を破る。五月、元就攻めて長雄を降す。晴久來り救ふ。及ばず。三年二月、攻めて松山を取る。八月、誘ひて常光を降して、石見を定む。

(一) 妻の親戚 (二) 兼ね治む (三) 國久が我が邑を押領するを遺恨に思ふ (四) 死刑に行ふべき囚人 (五) 道路を通行するの人 (六) 罪を誣構して (七) 正親天皇の年號 (八) 石見國に在り (九) 備後國に在り

救。不レ及。二年二月。攻取ニ松山一。八月。誘降ニ常光一。定ニ石見一。

是歲。正月。天子行ニ即位禮一。元就獻レ金助レ資焉。詔。以ニ元就一敍ニ從四位下一。任ニ大膳大夫一。賜ニ菊桐章一。尋遷ニ陸奥守一。而隆元代レ之。十月。入ニ出雲一。軍ニ于赤穴一。迎降者十餘族。常光爲ニ先鋒一。縱ニ火岩坂一。常光負レ功汰虐。元就與ニ元春隆景一謀曰。彼服可レ用。而叛

）

是の歲正月、天子卽位の禮を行ふ。元就金を獻じて資を助く。(一)詔して、元就を以て從四位下に敍し、大膳大夫に任じ、菊桐の章(二)を賜ふ。尋ぎて陸奥守に遷さる。而して隆元之に代る。十月、出雲に入りて、赤穴に軍す。迎へ降る者十餘族。常光先鋒たり。火を岩坂に縱つ。常光、功を負みて汰虐なり。(三)元就、元春・隆景と謀りて曰く、彼れ服せば用ふ可し。而して叛かば制す可からず。已に尼子に叛く。(四)何ぞ我に有らん。速に除くに若かずと。十一月襲ひて之を殺す。降將、是に因りて多く叛く。五年十月、元就、白潟より入りて、洗合山に城く。富田を去ること七里なり。建てて本營となし、連珠砦を築きて、以て漸く富田に逼る。京師の公卿、(五)文儒を迎へて、書を軍中に講ぜしめ以て、持久の意を示す。(六)因幡の山名氏、伯耆の南條氏、嘗て尼子氏の逐ふ所と爲る。元就之を復し、其義故を收めしめ、(七)以て尼子氏を助け攻めしむ。山名祐豐も亦伯耆を以て來り屬す。

不レ可レ制。巳叛レ於二尼子一。何有レ於レ我。不レ若二速除一。十一月。襲殺レ之。降將因レ是多叛。五年。十月。元就由二白瀉一入。城二于洗合山一。去二富田一七里。建爲二本營一。築二連珠砦一。以漸逼二富田一。迎二京師公卿文儒一。講二書於軍中一。以示二持久之意一。因幡山名氏。伯耆南條氏。嘗爲二尼子氏所一レ逐。元就復レ之。使レ收二其義故一。以助レ攻二尼子氏一。山名祐豐亦以二伯耆一來屬。

（一）一本に金字の下に物字あり　（二）紋章　（三）戰功を鼻にかけて自ら誇る　（四）何ぞ我に叛かずにをられようか　（五）學者　（六）一本に持を據とせり。持久戰をやるといふ意を示す　（七）嘗て恩義を受けたる緣故の者

十二月。晴久病卒。其子義久嗣。大友義鎭與二義久一通好。數攻二門司一。乃遣二隆元隆景一。以二萬餘人一赴援。取二神田城一。留二天野隆重一守レ之。隆元留二屯岩國一。六

十二月、晴久病みて卒す。其子義久嗣ぐ。大友義鎭、義久と好を通じて、數々門司を攻む。乃ち隆元・隆景を遣して、萬餘人を以て赴き援ひて、神田城を取り、天野隆重を留めて之を守らしむ。隆元留りて岩國に屯す。六年二月、義鎭二萬人を以て神田を攻む。下す能はず。會々天使二人京師より至る。我と義鎭とをして、和して兵を弭めしむ。隆元乃ち其子輝元の爲に、義鎭の女を娶らんと約す。又義久と和せしむ。元就和す可からざる者十條を疏して、之を辭す。

（一）天子の使者　（二）和睦す可からざる理由十個條を書き上げて

年。二月。義鎮以二萬人攻神田。不能下。會天使二人至自京師。令我與義鎮和。弭兵。隆元乃爲其子輝元。約娶義鎮女。又令與義久和。元就疏不可和者十條。辭之。

七月。隆元撤守歸覲過吉田。將士勸入城休息。隆元曰。家君衰老。櫛風沐雨。吾何忍休乎。八月。至舟木。和智隆實要而饗之。病作。卒。年四十一。隆元性仁孝。元就嘗罹疾。祈以身代之。其左岩國。大友氏陰招周防長門將士。將

七月、隆元守を撤して歸覲(一)し、吉田を過ぐ。將士城に入りて休息せんことを勸む。隆元曰く、家君(二)衰老して、風(三)に櫛り雨に沐す。吾れ何ぞ休するに忍びんやと。八月、舟木(四)に至る。和智(五)隆實要して之を饗す。病作りて、卒す。年四十一なり。隆元性仁孝なり。元就嘗て病に罹る。身(六)を以て之に代らんと祈る。其の岩國に在るや、大友氏、陰かに周防・長州の將士を招く。將士皆叛くに忍びず。元就、訃(七)を得て、軍氣の沮まんことを慮り、令を出して曰く、亡兒(八)を弔はんと欲する者は力戰せよと。自ら將として白鹿(九)城を攻む。城將松田兵部、能く拒ぐ。乃ち銀山の礦卒をして地道を鑿たしむ。城兵も亦鑿ちて之を迎へて、穴中に鬪ふ。城兵遂に穴を塞ぎて卻く。乃ち其汲路(一〇)を截つ。松田米(一一)を斗に盛りて、馬足に灌注す。我が軍士之を視て、以爲へらく、水乏しからずと。九月、義久白鹿の急なるを聞

士皆不レ忍レ叛焉。元就得レ計。慮ニ軍氣沮一。出レ令曰。欲レ弔ニ亡兄一者力戰。自將攻ニ白鹿城一。城將松田兵部能拒。乃使ニ銀山礦卒鑿ニ地道一。城兵亦鑿而迎レ之。鬪ニ于穴中一。城兵遂塞レ穴而卻。乃截ニ其汲路一。松田盛ニ米于レ斗。灌ニ注馬足一。我軍士視レ之。以爲水不レ乏也。九月。義久聞ニ白鹿急一。遣ニ弟倫久一。將ニ萬騎一援レ之。欲下動ニ我兵一決戰上。平旦。來挑レ戰。元就不レ應。日晡。倫久將レ去。元就乃鼓而進。敵敗走。

きて、弟倫久を遣して、萬騎に將として之を救ひ、我が兵を動して決戰せんと欲して、平旦、來りて戰を挑む。元就應ぜず。日、晡る。倫久將に去らんとす。元就乃ち鼓して進む。敵、敗走す。

(一) 歸國して父に見ゆ (二) 父君 (三) 軍陣に在りて苦勞す (四) 周防國に在り (五) 或は元賓に作る (六) 身代になりて死せんことを神に祈る (七) 死亡の通知 (八) 我子隆元を弔はんと欲する者 (九) 出雲國に在り (一〇) 水を汲取る道 (一一) 米を斗桝に入れて水の如く見せかけそゝぎかく

先レ是元就遣ニ香川光景一。助ニ三村家親一。略ニ備中一。滅ニ吉田氏一。七年三月。

是より先、元就、香川光景を遣して、三村家親を助けて、備中を略し、吉田氏を滅す。七年三月、伯耆に入りて、南條・行松氏の兵を并せて、富田の糧道を絶つ。行松死するに會ひて、杉原盛重命を受けて、(一二)其家事を攝す。初め重盛、杉

入二伯耆一。幷二南條行松氏兵一。絶二富田糧道一。會二行松死一。杉原盛重受レ命。攝二其家事一。初盛重爲二杉原忠興家臣一。忠興據二神邊一。拒二我兵一。降終及二其死一元就命二盛重一爲二之嗣一。盛重嘗制二陣法一。以レ弓翼レ槍。與二富田兵一戰二湖上一。再克レ之。又收二盜賊一爲レ兵。有二佐田某一焉。妙レ於二間諜一。故盛重善知二敵情一。數有レ功。後徙二八橋城一。

原忠興の家臣たり。忠興、神邊に據りて、我が兵を拒ぐ。終に降る。其死するに及びて、元就、盛重に命じて之が嗣と爲らしむ。盛重嘗て陣法を制し、弓を以て槍を翼く。富田の兵と湖上に戰ひて、再び之に克つ。又盜賊を收めて兵と爲す。佐田某有り。間諜に妙なり。故に盛重善く敵の情を知りて、數〻功有り。後八橋(二)城に徙る。

(一) 行松氏の家事をかね治む　(二) 伯耆國に在り

八年。二月。隆元。子輝元。與二元春子元長一共來二洗合一。四月。熊谷信直

八年二月、隆元の子輝元、元春の子元長と、共に洗合に來る。四月、熊谷信直、元長を擁して、進み撃ちて龜井安綱を走らす。八月、盛重江美(一)を拔く。九月、家親、大江を拔く。元就乃ち石原・龍山等の十二(二)寨を起して、以て富田を環らして、其

擁二元長一。進擊走二龜井安綱一。八月。盛重拔二江美一。九月。家親拔二大江一。元就乃起二石原龍山等十二寨一。以環二富田一。謀レ竭二其糧一也。置二關四外一。榜曰。必殲レ之。毋レ使二一人遁一。已而度二糧盡一。則撤レ關更レ榜曰。降者釋レ之。城兵逃降相踵。當二是時一。義久寵臣大塚某。與二義久嬖姬一相結。以讒下諸將通中款於上我。九年。正月。卯山久信被レ誅。諸將皆懼。出降。獨河副森脇三百人不レ降。元就有レ疾。招二降義久一。七月。義久遂致レ城降。寘二之安藝長田一。元就圍二富田一。前後七年而降レ之。擇二其守將一。衆推二天野隆重一。乃命二隆重一守。振旅而還。

糧を竭さんと謀る。關を四外に置きて、榜して曰く、必ず之を殲せ。一人をも遁れしむる毋れと。已にして糧盡くるを度り、則ち關を撤し榜を更めて曰く、降る者は之を釋せと。城兵逃れ降るもの相踵ぐ。是の時に當りて、義久の寵臣大塚某、義久の嬖姬と相結びて、以て諸將、款を我に通ずと讒す。九年正月、卯山久信誅せらる。諸將皆懼れて、出でて降る。獨り河副・森脇等三百人降らず。元就疾有り。義久を招降す。七月、義久遂に城を致して降る。(三)之を安藝の長田に寘く。元就、富田を圍むこと、前後七年にして之を降す。其守將を擇ぶ。衆、天野隆重を推す。乃ち隆重に命じて守らしむ。(四)振旅して還る。

(一) 江美・大江・石原・龍山共に出雲國に在り　(二) 一本に二十となり　(三) 開け渡して　(四) 兵ををさめて還る

元就既幷二大內尼子二氏地一。定二山陰山陽十三州一。命二元春一掌二山陰一。隆景掌二山陽一。遂令丁二將畧丙地於乙南海西海甲。當二是時一。南海有二長曾我部宇都宮河野氏一。西海有二大友島津龍造寺氏一。十一年。宇津宮豐綱攻二河野通直一。通直來乞レ援。二月。元春隆景將二兵數萬一。入二伊豫一。拔二二城一。圍三豐綱于二大津一。長曾我部元親將二萬人一來援二豐綱一。軍二于柳原一。乃令二宍戶隆家當一レ之。而諸軍攻降二豐綱一。元親引去。元春隆景以二六旬一定二伊豫一。還。誅三和智

元就、既に大內・尼子二氏の地を幷せて、山陰・山陽十三州を定め、元春に命じて山陰を掌り、隆景に山陽を掌らしむ。遂に二將をして、地を南海・西海に略せしむ。是の時に當りて、南海に長曾我部・宇都宮・河野氏有り。西海に大友・島津・龍造寺氏有り。十一年、宇都宮豐綱、河野通直を攻む。通直來りて援を乞ふ。二月、元春・隆景、兵數萬に將として、伊豫に入り、二城を拔き、豐綱を大津(一)に圍む。長曾我部元親、萬人に將として來りて豐綱を援ひ、柳原(二)に軍す。乃ち宍戶隆家をして之に當らしめて、而し諸軍攻めて豐綱を降す。元親引き去る。元春・隆景、六旬を以て伊豫を定めて還る。和智隆實を嚴島に誅す。隆元の死、蹤跡(三)有るを以てなり。

(一) 伊豫國に在り (二) 同上 (三) 毒殺と認むべき證跡

隆實于二嚴島一。以三隆元之死有二蹤跡一也。

當二是時一。筑紫豪傑高橋・宗像・秋月諸族。皆屬二元就一。大友義鎭數攻レ之。十一月。元春・隆景與二元長一。將二五萬人一赴援。拔二三岳一。十二年。四月。遂圍二立華城一。義鎭方攻三龍造寺隆信于二佐賀一。聞レ之。與二隆信一和。五月。使下其二將將二兵七萬一援中立華上。我軍作二塹

是の時に當りて、筑紫の豪傑高橋・宗像・秋月の諸族、皆元就に屬す。大友義鎭數々之を攻む。十一月、元春・隆景、元長と、五萬人に將として赴き援ひて、三岳(一)を拔く。十二年四月、遂に立華城(二)を圍む。義鎭、方に龍造寺隆信を佐賀に攻む。之を聞きて、隆信と和す。五月、其二將をして、兵七萬に將として立華を援はしむ。我が軍、塹壘を作りて、再び戰ひて之を敗る。元就、輝元を携へて、長門に往きて、遙に聲援(三)を爲す。尼子氏の遺臣山中幸盛・立原之綱(四)等、京師に在りて之を聞き、故の尼子誠久の子の僧と爲れる者を索めて、主と爲して、名を勝久と更む。但馬の海賊を糾して、隱岐に入る。六月、出雲に入りて、新山・末次を取り、富田を攻む。天野隆重、兵三百有り。佯り降りて、其兵一千を城下に誘ひ、撃ちて之を破る。七月、敵、伏を設けて隆重を誘ふ。隆重、諜知(五)して、伏中(六)に雨射して、又之を破る。元就、浮田氏、勝久に應ずと聞きて、香川光景を遣

壘。再戰破レ之。元就攜ニ輝元一往ニ長門一。遙爲ニ聲援一。尼子氏遣ニ臣山中幸盛立原之綱等。在ニ京師一聞レ之。索ニ故尼子誠久子爲レ僧者一。爲レ主。更ニ名勝久一。糾ニ但馬海賊一。入ニ隱岐一。六月。入ニ出雲一。取ニ新山末次一。攻ニ富田一。天野隆重有ニ兵三百一。佯降。誘ニ其兵二千于ニ城下一。擊破レ之。七月。敵設レ伏而誘ニ隆重一。隆重諜知。雨ニ射伏中一。又破レ之。元就聞ニ浮田氏。應ニ勝久一。遣ニ香川光景一定ニ美作一。令ニ元春隆景疾攻下ニ立華一。送ニ致城兵于ニ西軍一。西軍猶與レ我相持。九月。故大內義興庶兄輝弘。寓ニ大友氏一。借ニ兵五千一。海路入ニ周防一。攻ニ鴻峯一。元就命班ニ外師一。十月。置レ戍班レ師。以ニ吉見正賴一爲レ殿而退。至ニ若松渡一。取ニ土人質一。使レ具レ船以濟。乃令ニ戍兵致レ城而還。遣レ兵援ニ鴻峯一。逐ニ輝弘一殺レ之。

して美作を定めしむ。元春・隆景をして、疾く攻めて立華を下さしめ、城兵を西軍に送致す。西軍、猶ほ我と相持す。九月、故の大内義興の庶兄輝弘、大友氏に寓す。兵五千を借りて、海路より周防に入りて、鴻峯を攻む。元就、命じて外師を班さしむ。十月、戍を置きて師を班す。吉見正頼を以て殿と爲して退く。(七)若松渡に至りて、土人の質を取りて、船を具へしめて以て濟り、乃ち戍兵をして城を致さしめて還る。兵を遣して鴻峯を援ひ、輝弘を逐ひて之を殺す。

(一) 筑前國に在り (二) 筑後國に在り (三) 遠方に在り援助をなす (四) 一に久綱に作る (五) 間諜を放ちて知り (六) 雨の降る如くに繁く矢を射る (七) 筑前國に在り

元龜元年。正月。元春隆景將二兵一萬五千一。輔二輝元一攻二勝久一。恐二其城守一也。宣下言兵寡。將中納二糧富田一而還上。山中幸盛聞レ之。悉二甲五千一。出レ于二布辨山一。我兵擊大破レ之。元春攻二末次一。夜列二炬其面一。而自レ背襲レ之。勝久幸盛走二新山一。諸城連陷。

元龜(一)元年正月、元春・隆景兵一萬五千に將として、輝元を輔けて、勝久を攻む。其城守せんことを恐る。兵寡く、將に糧を富田に納れて還らんとすと宣言す。山中幸盛之を聞きて、甲五千を悉して、布辨(二)山に出づ。我が兵擊ちて大に之を破る。元春、末次を攻む。夜、炬を其面に列ねて、背より之を襲ふ。勝久・幸盛新山に走る。諸城連に陷る。

(一) 正親町天皇の年號 (二) 出雲國に在り

八月。元就患レ癨。輝元隆景歸省レ之。二年。六月。病篤。輝元請二遺言一。元就曰。汝視二二

八月、元就、癨を患ふ。輝元・隆景歸りて之を省す。二年六月、病篤し。輝元、遺言を請ふ。元就曰く、汝二(一)叔を視ること猶ほ我のごとくして、其言に違ふこと勿くば、則ち以て我が業を守るべきなり。吾れ復た何をか言はんと。遂に卒す。元就、歌詠を善くし、遺集(二)若干卷あり。嘗て酒酣なるとき、慨然として言ひ

叔一倆レ我。勿レ違二其言一。則可三以守二我業一矣。吾復何言。遂卒。元就善二歌詠一。有二遺集若干卷一。嘗酒酣。慨然言曰。凡英雄以レ身繫二天下治亂一者。求三友於二千載之上一。卽同レ世而生。志合則天下治。志不レ合則天下亂。嘗問二左右一曰。吾於二前世人主一。可レ比レ於レ誰。有二一儒士一。對曰。可レ比二周文武一。元就笑曰。吾乃今知レ不レ若二文武一也。文武之臣。豈有二面諛如レ汝者一哉。元就得二一州一則擇二守將一。輒誡レ之曰。吾聞。侮二其人一者。不レ有二其士一。汝服二膺此言一。故新附士民少二倍畔一者。

て曰く、凡そ英雄は、身を以て天下の治亂に繫くる者、(四)友を千載の上に求む。卽ち世を同じくして生れ、志合へば則ち天下治り、志合はざれば則ち天下亂ると。嘗て左右に問ひて曰く、吾れ前世の人主に於ける、誰にか比すべきと。一儒士あり。對へて曰く、(五)周の文武に比す可しと。元就笑ひて曰く、吾れ乃ち今にして文武に若かざるを知る。文武の臣、豈に(六)面諛すること汝が如き者有らんやと。元就、一州を得れば則ち守將を擇び、輒ち之を誡めて曰く、吾れ聞く、(七)其人を侮る者は、其士を有せずと。汝此言を服膺(八)せよと。故に新附の士民(九)、倍畔する者少し。

(一) 咽喉塞がり食物の通らぬ病　(二) 吉川元春・小早川隆景　(三) 歌集の死後に遺れるもの　(四) 友を千年の上世に求む　(五) 周の文王・武王　(六) 面と向つてへつらふ　(七) 人民　(八) 大切に守れ　(九) そむく

元春得レ訃哭泣。謂二將士一曰。葬奠之任。隆景在焉。吾當三勦レ敵以慰二靈魂一。是時。幸盛在二末石一。元春乃稱レ攻二大山僧徒一。而急還攻二末石一。幸盛出降。僞レ疾。自二廁中一逃。八月。元春攻二新山一。走二勝久一。勝久匿二京師一。幸盛爲二盜但馬因幡間一。遂與二勝久一偕歸二於織田信長一。

元春、訃を得て哭泣（一）して、將士に謂ひて曰く、葬奠（二）の任は、隆景在り。吾れ當に敵を勦して以て靈魂を慰むべし（三）と。是の時、幸盛末石（四）に在り。元春、乃ち大山の僧徒を攻むと稱して、急に還りて末石を攻む。幸盛出でて降る。疾と僞りて、廁（五）中より逃る。八月、元春、新山を攻めて、勝久を走らす。勝久京師に匿る。幸盛盜を但馬・因幡の間に爲して、遂に勝久に偕に織田信長に歸す。

（一）聲を立てゝ泣く　（二）葬式をなし供養を營むことの任務　（三）敵を攻滅して元就の靈魂を慰めんと　（四）出雲國に在り　（五）かはやの中

初信長起二尾張一。略二取近畿一。武田信玄。上杉謙信。割二據其東一。皆遣三使

初め信長尾張に起りて、近畿を略取す。武田信玄、上杉謙信、其東に割據（一）し、皆使を元就に通じて、夾みて信長を攻めんと欲す。謙信特に將軍義輝に勸めて、元就を召致す。元就疾に罹りて答へず。三年二月、元春・隆景使を遣はして之に

於二元就一。欲三夾攻二信長一。諭信特勸二將軍義輝一。召二致元就一。元就罹レ疾不レ答。三年。二月。元春隆景遣レ使答レ之。天正元年。信長攻二將軍義昭。輝元與二二叔一議。遣二安國寺僧惠瓊一。爲和二解之一。義昭免走二紀伊一。二年。正月。尼子勝久借二織田氏兵一。入二因幡一。陷二鳥取城一。城本屬二山名豐國一。爲二武田氏所レ奪。豐國欲レ復レ之。因黨二勝久一。其部將大坪一之諫レ之。不レ聽。一之乃來奔。八月。元春隆景大擧入二伯耆一。降二豐國一。逐二勝久一。義昭之奔二紀伊一。遂西依二浮田直家一。直家弗レ禮。乃來二備後一。自託二於輝元一。輝元謀二於二叔一。遂與二織田氏一絶。計レ納二義昭於京師一。

答ふ。天正元年、信長、將軍義昭を攻む。輝元、二叔と議して、安國寺の僧惠瓊を遣して、爲に之を和解す。義昭免れて、紀伊に走る。二年正月、尼子勝久、織田氏の兵を借りて、因幡に入りて、鳥取城を陷る。城は本、山名豐國に屬し、武田氏の奪ふ所と爲る。豐國之に復せんと欲す。因りて勝久に黨す。其部將大坪一之之を諫む。聽かず。一之乃ち來り奔る。八月、元春・隆景大擧して伯耆に入りて、豐國を降し、勝久を逐ふ。義昭の紀伊に奔るや、遂に西、浮田直家に依る。直家禮せず。乃ち備後に來りて、自ら輝元に託す。輝元、二叔に謀りて、遂に織田氏と絶ち、義昭を京師に納れんと計る。

㈠ 一方に據りて勢を振ふ　㈡ 禮を以て待遇せず

先ㇾ是。三村家親爲ニ盜所ㇾ殺。蓋直家所ㇾ使也。直家爲ニ浦上氏將一。終簒ニ其備前美作一。浦上宗景與ニ家親子元親一。皆請ニ我兵一討ニ直家一。直家懼。亦因ニ僧惠瓊一。請ㇾ滅ニ二氏一。約下以ニ備中一賂上ㇾ我。元親族親成告三元親通ニ織田氏一。宍戸隆家勸ニ隆景一討ㇾ之。三年。夏。圍三元親于松山一。滅ㇾ之。元親宗家穗田氏。前爲ニ直家所ㇾ滅。於ㇾ是使三元就第五子元淸爲ニ穗田氏後一。居ニ中山一。以鎭ニ備中一。

是より先、三村家親、盜の殺す所と爲る。蓋し直家の使しむる所なり。直家は浦上氏の將たり。終に其備前・美作を簒ふ。浦上宗景、家親の子元親と、皆我が兵を請ひて直家を討つ。直家懼れて、亦僧惠瓊に因りて、(一)二氏を滅さんと請ひ、備中を以て我に(二)賂はんと約す。元親の族親成、元親は織田氏に通ずと告ぐ。宍戸隆家、隆景に勸めて之を討つ。三年夏、元親を松山に圍みて、之を滅す。元親の宗家穗田氏、前に直家の滅す所と爲る。是に於て、元就の第五子元淸をして穗田氏の後爲らしむ。中山城に居りて、以て備中を鎭す。

(一) 浦上、三村 (二) 贈らんと約束す

信長方攻ニ一向僧徒于大坂一。大坂來乞ㇾ

信長、方に(一)一向の僧徒を大坂に攻む。大坂來りて援を乞ふ。元春・隆景、兵を遣して之を援ひ、又(二)糧船六百を餽り、兵艦三百を以て之を護送せしむ。七月、木津

援。元春隆景遣レ兵援レ之。又餽二糧船六百一。以二兵艦三百一護二送之一。七月。至二木津川一。能島來島氏。與二織田氏水軍一戰。破レ之。奪二其二大艦一。納レ糧而還。先レ是。讃岐香川氏。淡路菅氏。皆來屬レ我。五年。香川氏與二國人一戰。來乞レ援。七月。遣二穗田元淸。浦宗勝一。赴レ之。破二土佐援師一。宗勝還。掠二播磨海濱一。與二國人黑田孝高一戰而還。

川に至る。能島・來島氏、織田氏の水軍と戰ひて、之を破り、其二大艦を奪ひて、糧(三)を納れて還る。是より先、讃岐の香川氏、淡路の菅氏、皆來りて我に屬す。五年、香川氏、國人と戰ひて來りて援を乞ふ。七月、穗田元淸・浦宗勝を遣して、之に赴かしめて、土佐の援師を破る。宗勝還りて、播磨の海濱を掠め、國人黑田孝高と戰ひて還る。

(一) 一向宗　(二) 兵糧船　(三) 兵粮を取收めて

孝高導二織田氏將羽柴秀吉一。攻二別所氏于三木一。尼子勝久爲二先鋒一。出二山陽道一。取二

孝高、織田氏の將羽柴秀吉を導きて、別所氏を三木(一)に攻む。尼子勝久先鋒と爲りて、山陽道に出でて、上月城(二)を取る。城は浮田直家に屬す。直家、援を隆景に乞ひて、之を復せんと欲す。是の時に當りて、丹波・但馬の豪傑、使をして元春に請ひて、來りて京師を襲はしむ。元春、兒玉春種を遣して、先づ往きて之を

上月城。城圍浮田直家。直家乞援於隆景。欲復之。當是時。丹波但馬豪傑。使使請元春來襲京師。元春遣兒玉春種。先往詗之。會隆景書至。欲與俱赴上月。元春答曰。卿合直家兵。可得四萬。不必須我。我收管內。亦可得三萬。留其五千備大友氏。以其餘援丹波但

詗はしむ。隆景の書至るに會ひて、與倶に上月に赴かんと欲す。元春答へて曰く、卿、直家の兵を合せば、四萬を得べし。必ずしも我を須たじ。我れ管內を收むるも、亦三萬を得べし。其五千を留めて大友氏に備へ、其餘を以て、丹波、但馬の兵を援ひて、愛宕山に上り以て京師を瞰せば、信長、吾と相持して、上月を援ふ能はじ。上月陷らば、則ち荒木村重・別所長治(三)必ず我を助けて以て秀吉を逐はん。是に於て卿、輝元を輔けて、直に大坂に入り、我と夾みて京師を攻めて、以て將軍を納れんと。隆景曰く、是れ危道(四)なり。村重の意も未だ必(五)すべからず。而して兄弟相離れて、之を夾みて東せんか、恐らくは變其間に起らん。先づ力を戮せて上月を陷れ、然る後に道を分けて東上するも、未だ晩からずと爲すと。因りて輝元をして元春を召さしむ。元春之に從ふ。六年二月、元春・隆景兵を合せて、上月を圍む。直家、疾と稱して、其兵一萬五千を出して師に會せしむ。四月、秀吉、村重と兵四萬を合せて來り援ひて、(六)高倉山に陣す。我が軍、塹柵を作りて自ら守

馬兵一。上二愛宕山一。以瞰二京師一。信長與レ吾相持。不レ能レ援二上月一。上月陷。則荒木村重。別所長治必助レ我以逐二秀吉一。於レ是卿輔二輝元一。直入二大坂一。與レ我夾攻二京師一。以納二將軍一。隆景曰。是危道也。村重意未レ可レ必。而兄弟相離。夾レ之而東。恐變起二其間一。先戮レ力陷二上月一。然後分レ道東上。爲レ未レ晩也。因敎二輝元召二元春一。元春從レ之。六年。二月元春隆景合レ兵。圍二上月一。直家稱レ疾。出二其兵一萬五千一會レ師。四月。秀吉與二村重一合二兵四萬一來援。陣二高倉山一。我軍作二塹柵一自守。杉原氏間夜入二秀吉陣一。獲二首級一者數。東軍懼。

る。杉原氏の間、夜、秀吉の陣に入りて、首級を獲ること數々なり。東軍懼る。

(一) 播磨國に在り (二) 同上 (三) 見下す (四) 危險の謂なり (五) 必ず我方に屬するとも限らず (六) 播磨國に在り

五月。信長欲二自來援一。先遣二長子信忠及諸將一。援二秀吉一。兵凡十萬。元長請二元春一曰。信長自來。則兵衆令一。不レ

五月、信長自ら來り援はんと欲す。先づ長子信忠及び諸將を遣して、秀吉を援はしむ。兵凡そ(一)十萬なり。元長、元春に請ひて曰く、信長自ら來らば、則ち兵衆く令一なり、敵す可からず。今、秀吉・村重等、功を爭ひて和せず。天雨ふり月黑し。宜しく夜之を襲ふべきなりと。元春、之をして隆景に謀らしむ。隆景曰く、信長、(二)全兵を擧ぐとも、二十萬に過ぎじ。東、武田・上杉に備へ、西、大坂・雜賀

可レ敵。今秀吉村重等爭レ功不レ和。天雨月黑。宜三夜襲二之也。元春使三之謀二隆景一。隆景曰。擧二信長全兵一。不レ過二二十萬一。東備二武田上杉一。西備二大坂雜賀一。減二六七萬一焉。而見在レ此者十萬。卽自來二三萬而已。我以二七萬一當レ之。何必恐也。且我自二北路一襲。地形不レ便。自二南路一襲。浮田氏心難レ測。皆非二萬全之策一。不レ若二固レ壁毋レ戰。彼兵衆而糧不レ繼。將二自去一矣。乃止。

に備へて、六七萬を減ず。而して見(三)に此に在る者十萬なり。卽ち自ら來るは二三萬のみ。我れ七萬を以て之に當るに、何ぞ必ずしも恐れん。且つ我れ北路より襲ふは、地形便ならず。南路より襲ふは、浮田氏の心測り難し(四)。皆萬全の策(五)に非ず。壁を固くして戰ふ毋きに若かず。彼れ兵衆くして糧繼がず。將に自ら去らんとすと、乃ち止む。

(一) 一本に十萬人とあり (二) 全體の兵士 (三) 現在 (四) 測り知られず (五) 全く安全なるはかりごと

六月。美作出雲兵。與二東兵一鬪二于熊川一。秀吉自二中軍一遣二二萬騎一出援。

六月、美作・出雲の兵、東兵と熊川(一)に鬪ふ。秀吉、中軍より二萬騎を遣して、出でて援はしむ。元長、弟元氏・廣家と、萬人を以て流を亂りて逆へ戰ふ。東軍皆騎兵、馳突(二)して來る。元長、士卒に令して曰く、跪けと。東軍入る能はず。

元長與二弟元氏廣家一。以二萬人一亂レ流逆戰。東軍皆騎兵。驟突而來。元長令二士卒一曰。跪。東兵不レ能レ入。逡巡而退。元長令曰。起。如レ此者再三。追レ北二十餘町。荒木氏不三敢援二東兵一。浮田氏不三敢援二西兵一。西兵深入。難レ於レ退。天野隆重引二手兵一。上二高岡一而陣。西兵乃引還。秀吉知二我不一レ可二力爭一。請二信長一棄レ城而去。城陷。勝久自殺。山中幸盛復降。殺二之甲部川上一。

(三)逡巡して退く。元長令して曰く、起てと。此の如くする者再三なり。北ぐるを追ふこと二十餘町。荒木氏敢て東兵を援はず。浮田氏敢て西兵を援はず。西兵深く入りて、退くに難む。天野隆重、手兵を引きて、高岡に上りて陣す。西兵乃ち引き還る。秀吉、我の力爭(四)す可からざるを知りて、信長に請ひて城を棄てて去る。城陷る。勝久、自殺す。山中幸盛復た降る。之を甲部川(五)の上に殺す。

(一) 播磨國に在り (二) 馬を走らして突進す (三) ぐづぐづとためらひて (四) 力づくにて強ひて (五) 備中國に在り、今河邊川と書す

直家已潛通二信長一。於レ是稱二疾愈一來見。元

直家已に潛かに信長に通ず。是に於て、疾癒ゆと稱して來り見ゆ。元長、元春に白(一)して曰く、直家異圖あり。見請ふ、席に即きて之を誅せんと。杉原盛重、又

長白二元春一曰。直家有二異圖一。見請卽レ席誅レ之。杉原盛重又請レ之。隆景曰。彼無レ證。而我啓レ釁。縱得レ誅レ之。其國人皆立レ嗣以抗レ我。無レ爲也。乃止。已而直家因二惠瓊一請三二師乘レ勢徇二播磨一。將軍義昭亦促レ之。元春降景乃進。陣二黑澤山一。直家享三二帥于二八幡山一。欲二伏レ甲擒レ之。直家弟

之を請ふ。隆景曰く、彼れ證無くして、我れ釁を啓く。縱ひ之を誅するを得るも、其國人皆、(二)嗣を立てて以て我に抗せん。(三)爲す無れと。乃ち止む。已にして直家、惠瓊に因りて、二師に勢に乘じて播磨を徇へんと請ふ。將軍義昭も亦之を促す。元春・隆景、乃ち進みて、(四)黑澤山に陣す。直家、二帥を八幡山に(五)享し、甲を伏せて之を擒にせんと欲す。直家の弟忠家、潛かに來りて之を告ぐ。元春・隆景乃ち人をして直家に言はしめて曰く、聞く、公、我が兄弟の首を以て織田氏に獻ぜんと欲すと。我が兄弟、並に少主を輔く。未だ尊意に順ふ能はず。必ず之を獲んと欲せば、請ふ、(六)旗鼓を以てせよ。敢て辭せざる所なりと。且日、路を分ちて西に歸る。直家敢て追はず。

(一) 一本に白の上に圖字あり (二) 後嗣を立てゝ我に反抗せん (三) つまらぬ事なれば止めよ (四) 播磨國に在り (五) もてなし (六) 戰爭を以てせよ

忠家潛來告レ之。元春隆景乃使三人冒二直家一。曰。聞公欲下以二我兄弟首一獻中織田氏上。我兄弟並輔二少主一。未レ能レ順二尊意一。必欲レ獲レ之。請以二旗鼓一。所レ不二敢辭一也。且曰。分レ路西歸。直家不二敢追一。

十月。荒木村重レ叛二信長一。據二兵庫華隈諸城一。與二別所長治一。皆乞二援於一レ我。我方患二浮田氏一。又聞三南條元續通二東軍一。未レ暇レ赴レ援。獨餽レ糧助レ之。築二丹生淡河二城一。西達二三木一。東達二華隈一。

十月、荒木村重、信長に叛きて、兵庫(一)・華隈の諸城に據り、別所長春と、皆援を我に乞ふ。我れ方に浮田氏を患へ、又南條元續、東軍に通ずと聞きて、未だ赴き援ふに暇あらず。獨糧を餽りて之を助く。丹生(二)・淡河(三)の二城を築きて、西は三木に達し、東は華隈に達す。

㊀ 二城共に攝津國に在り　㊁ 同上　㊂ 播磨國に在り

七年。二月。秀吉遣二弟秀長一。夜襲取二丹生一。淡河定範穿レ塹。布二渠荅一以待。秀長至。梗

七年二月、秀吉、弟秀長を遣して、夜襲ひて丹生を取る。淡河定範、塹を穿ち、渠荅(一)を布きて以て待つ。秀長至る。梗りて進むを得ず。定範、牝馬數十匹を募り得て、驅りて敵軍に入る。軍馬、牝を爭ひて相踶む。什佑(二)大に亂る。定範、兵を縱ちて之に乘じ、撃ちて秀長を走らず。其從子說きて曰く、秀吉必ず忿りて來ら

不レ得レ進。定範募二得牝馬數十匹一。驅入二敵軍一。軍馬爭レ牝相蹄。什伍大亂。定範縱レ兵乘レ之。擊走二秀長一。其從子說曰。秀吉必怒而來。窮而走。不レ若二勝而退一。乃收入二三木一。秀吉來。不レ見レ敵而去。

ん。窮して走るは、勝ちて退くに若かずと。乃ち收めて三木に入る。秀吉來りて、敵を見ずして去る。

(一)敵兵を妨ぐる爲めの鐵の菱　(二)くみぐみ

是歲。二帥輔二輝元一東伐。取二美作五城一。直家不二敢出一。四月。南條元續叛通二東軍一。其族山田直重諫レ之。元續弗レ聽。欲レ殺レ之。直重來奔。八月。

是の歲、二帥、輝元を輔け東伐して、美作の五城を取る。直家敢て出でず。四月、南條元續叛きて、東軍に通ず。其族山田直重、之を諫む。元續聽かず。之を殺さんと欲す。直重來り奔る。八月、直家(一)升形・祝山の二城を攻め、下す能はず。元春、兵に將として赴き援ふ。其去るを聞きて、轉じて元續を(二)種石城に攻む。杉原盛重、先鋒と爲りて、敵將南條信正と、長瀬川を夾みて陣す。兵を分ちて(三)三と爲し、川を渡りて大に戰ひ、信正を斬る。元春乃ち種石を環して之に

直家攻二升形觀山二城一。不レ能レ下。元春將レ兵赴援。聞二其去一。轉攻二元續種石城一。杉原重盛爲二先鋒一。與二敵將南條信正一夾二長瀬川一陣。分レ兵爲レ三。渡レ川大戰。斬二信正一。元春乃環二種石一砦レ之。元續出戰。輒敗。

砦す。元續出で戰ひて、輒ち敗る。

(一) 二城共に美作國に在り (二) 伯耆國に在り (三) 一本に二とあり

十一月。元春隆景復輔二輝元一東伐。拔二備中忍山一。十二月。我餽二讓三木一者。襲二殺敵壘將谷衛好一。長治出レ兵應レ之。大敗。淡河定範死レ之。八年。春。三木陷。長治自殺。直家以二秀吉令一。

十一月、元春、隆景、復た輝元を輔けて東伐して、備中の忍山を拔く。十二月、我が餉を三木に餽る者、(二)敵壘の將谷衛好を襲殺す。長治兵を出して之に應じ、大に敗る。淡河定範之に死す。八年春、三木陷り、長治自殺す。直家、秀吉の令を以て、八濱に城く。二弟忠家・基家を以て守らしむ。二月、隆景、元淸を遣して之を攻めしめて、基家を殺す。四月、秀吉、但馬、因幡を侵して、(三)鹿野城を陷れて、山名氏の質を取る。元春赴き援く。及ばず。七月、荒木村重來り奔る。是の月、秀吉、山名豐國を鳥取城に圍みて、質を城外に縛り、鎗を以て之に擬して、以て之を誘ひ降す。城兵曰く、我れ數〻毛利氏に叛きて、誅せられず。今復

城于八濱。以二弟忠家基家守焉。二月。隆景遣元清攻之。殺基家。四月秀吉侵但馬因幡。陷鹿野城。取山名氏質。元春赴援。不及。七月。荒木村重來奔。是月。秀吉圍山名豐國鳥取城。縛質城外。以槍擬之。以誘降之。城兵曰。我數叛毛利氏。而不被誅。今可復叛乎。秀吉怒。殺質。次至豐國女。豐國遂降。秀吉削其邑而去。城兵皆叛豐國。豐國奔播磨。城兵請我一將。遣吉川經家守之。又城于丸山。

た叛くべけんやと。秀吉怒りて、質を殺して、次ぎて豐國の女に至る。豐國遂に降る。秀吉、其邑を削りて去る。城兵皆豐國に叛く。豐國、播磨に奔る。城兵、我が一將(一)を請ふ。吉川經家を遣して之を守らしむ。又丸山(二)に城く。

(一)敵壘の守將　(二)因播國に在り　(三)同上

九年七月。秀吉以數萬騎。圍鳥取丸山。絕其糧道。吉岡賀休在吉岡城。夜襲敵

九年七月、秀吉、數萬騎を以て、鳥取・丸山を圍みて、其糧道を絕つ。吉岡賀休、吉岡城(一)に在り。夜、敵營を襲ふ。又敵兵を迎へ擊ちて。之を走らす。秀吉の馬標(三)を奪ひて、之を輝元に獻ず。秀吉使を遣して、丸山城を招き降さんとす。城將、其使者を斬りて、屍を城外に投ず。秀吉、大に怒りて、之を攻むること

營一。又迎二擊敵兵一。走レ之。奪二秀吉馬標一。獻二之輝元一。秀吉遣レ使。招二降丸山城一。城將斬二其使者一。投二屍城外一。秀吉大怒。攻レ之益急。輝元欲レ援レ之。而國兵四二戍疆上一。在者甚寡。隆景至二富田一。召募數日。未レ進。元春曰。鳥取吾管內也。吾不レ可二以待一。九月。以二六千人一馳至二伯耆一。則城已陷矣。秀吉欲下誅二國人一免中經家上。經家弗レ聽。與二丸山鳥取將領一皆自殺。以免二其兵一。元春得レ報。切レ齒曰。吾猶往爲二經家一一戰。將レ發。又有レ報曰。秀吉入二伯耆一矣。乃留陣二于馬山一。

益々急なり。輝元、之を援けんと欲す。而して國兵、四もに疆上(一)を戍りて、在る者甚だ寡し。隆景、富田に至りて、召募する數日にして、未だ進まず。元春曰く、鳥取は吾が管內なり。吾れ以て待つ可からずと。九月、六千人を以て馳せて伯耆に至れば、則ち城已に陷る。秀吉、國人を誅して經家を免さんと欲す。經家聽かず。丸山・鳥取の將領と皆自殺して、以て其兵を免れしむ。元春、報を得て、齒を切(四)して曰く、吾れ猶ほ往きて經家の爲に一戰せんと。將に發せんとす。又報あり。曰く、秀吉伯耆に入ると。乃ち留りて馬山(五)に陣す。

(一) 因播國に在り　(二) 馬じるし　(三) 國境　(四) 齒嚙みして　(五) 伯耆國に在り

十月。秀吉至。

十月、秀吉至る。八萬騎と稱す。種石城の後に陣して、馬山を下視す。馬

稱二八萬騎一。陣二種石城後一。下二視馬山一。馬山左右湖山。後迫二大川一。纔通二一橋一。人人無レ不二震怖一。元春命絕レ橋。毀二舟楫一。自絕二走路一。三澤爲虎益田藤包私議曰。敵衆新勝。不レ若下避二其鋭一而再擧上。請入說レ之。乃與偕謁二元春一。元春方釋レ甲而坐曰。天大雪。諸君且留飲。因圍レ爐命レ酒。醉

山の左右は湖山にして、後は大川に迫り、纔に一橋を通ず。人人震怖せざるは無し。元春、命じて橋を絕ち、舟楫を毀ちて、自ら走路を絕つ。三澤爲虎・益田藤包、私かに議して曰く、敵は衆にして新に勝つ。其鋭を避けて再擧するに若かず。請ふ、入りて之を說かんと。乃ち與に偕に元春に謁す。元春、方に甲を釋きて坐して曰く、天、大に雪ふる。諸ふ君且く留り飲めと。因りて爐を圍み酒を命ず。醉ひて酣睡(二)す。二人敢て說かず。元長・廣家、父の命を以て、諸陣を巡視す。塹を穿ち柵を植てて曰く、敵、明日必ず來らんと。曉くる比、敵數千騎、糧を種石に納る。元春、銃(三)手を遣して、其一將を斃す。敵繼ぎて出づる者萬餘なり。元長・廣家、二千人を以て之に馳す。秀吉急に其兵を收む。南條元續請ひて曰く、盍ぞ一戰して之を擒にせざると。秀吉哂ひて答へず。明日、兵を引きて去る。元長、之を尾撃せんと請ふ。元春許さず。

㊀ ふるひおそる　㊁ いびきをかきて眠る　㊂ 鐵砲方

而鼾睡。二人不㆓敢說㆒。元長廣家以㆓父命㆒巡㆓視諸陣㆒。穿㆑塹植㆑柵曰。敵明日必來。比㆑曉。敵數千騎。納㆓糧於種石㆒。元春遣㆓銃手㆒。斃㆓其一將㆒。敵繼出者萬餘。元長廣家以㆓二千人㆒馳㆑之。秀吉急收㆓其兵㆒。南條元續請曰。盍㆓一戰擒㆒㆑之。秀吉哂弗㆑答。明日引㆑兵而去。元長請㆑尾㆓擊之㆒。元春弗㆑許。

十年正月。元春欲㆑復㆓因幡㆒。二月。將㆑兵攻㆓大崎㆒。時杉原盛重既死。其子元盛先登。元春遂復㆓二城㆒。攻㆓鳥取㆒。四月。秀吉將㆓兵八萬㆒。入㆓備中㆒。攻㆓高松城㆒。引㆓甲部川㆒灌㆑之。守將清水高治募㆓城內染戶㆒。收㆓板數百

十年正月、元春、因幡を復せんと欲す。二月、兵に將として大崎を攻む。時に杉原盛重既に死す。其子元盛先登す。元春、遂に二城を復して、鳥取を攻む。四月、秀吉、兵八萬に將として、備中に入り、高松城を攻め、甲部川を引きて、之に灌ぐ。守將清水高治、城內の染戶(一)に募りて、板數百枚を收め、舟を造りて出でて戰ふ。隆景急を聞きて、援を元春に乞ふ。元春、即ち發せんと欲す。山陰の將士皆曰く、上月の役には、左公我が師を牽きて自ら援ひ、馬山の役には、富田に留りて來らず。今、鳥取幾(二)ど復す。何ぞ此を棄てて彼に赴くを爲さんと。元春曰く、隆景、馬山に來らざるは、必ず以有るなり。吾れ坐ながらにして其危きを視れば、獨り宗家(三)を如何せん。諸君、往くを欲せずんば、吾れ寧ろ獨身、之に赴き

枚。造レ舟出戰。隆景聞レ急。乞二援於元春一。元春即欲レ發。山陰將士皆曰。上月之役。佐公率二我師一自援。馬山之役。留二富田一不レ來。今鳥取幾復。何棄レ此赴レ彼爲。元春曰。隆景不レ來二馬山一。必有レ以也。吾坐視二其危一。獨如二宗家一何。諸君不レ欲レ往。吾寧獨身赴レ之。與二隆景一共レ死。將士皆謝。願レ從。乃留二杉原元盛一當二鳥取城一。而南會二隆景一。合二兵四萬一。軍二于庯山一。輝元陣二其西三里一。相持未レ戰。

て、隆景と死を共にせんと。將士皆謝して、從はんことを願ふ。乃ち杉原元盛を留めて鳥取城に當らしめ、而して南隆景に會して、兵四萬を合せて、(四)庯山に軍す。輝元、其西三里に陣す。相持して未だ戰はず。

(一)染物屋　(二)小早川隆景　(三)本家　(四)備中國に在り

五月。日幡城叛。隆景遣レ兵攻レ之。走二東將木村隼人一。秀吉不二敢出援一。加茂城亦叛。納二東兵一。元長廣家以二萬人一赴レ之。秀吉復

五月、(一)日幡城叛く。隆景、兵を遣して之を攻めて、東將木村隼人を走らす。秀吉敢て出でて援はず。(二)加茂城も亦叛きて、東兵を納る。元長・廣家、萬人を以て之に赴く。秀吉復た兵を收む。我が兵數〻利を獲て、而して高松、旦夕將に沒せんとす。元春、信長將に自ら來らんとすと聞くや、一戰せんと欲す。隆景曰く、阿兄何ぞ自ら輕んずる。乃ち一隊將の爲に倣ふかと。元春曰く、家君、一夜を以

收レ兵。我兵數獲レ利。而高松且夕將レ沒。元春聞三信長將二自來一也。欲二一戰一。隆景曰。阿兄何自輕。乃倣二一隊將之爲一乎。元春曰。家君以二一夜一克二陶氏一。以二七年一滅二尼子氏一。蓋小敵宜二緩困一レ之。而大敵宜二急挫一レ之也。我以二北兵一。夜襲二其北一。而卿應二其南一。必克レ之。浮田氏觀望。不レ戰走耳。

て陶氏に克ち、七年を以て尼子氏を滅す。蓋し小敵は宜しく緩かに之を困しむべく、而して大敵は宜しく急に之を挫くべきなり。我れ北兵を以て、夜、其北を襲ひ、而して卿其南に應ぜば、必ず之に克たん。浮田氏は觀望(三)して、戰はずして走らんのみと。隆景曰く、然りと。會〻軍中、三澤爲虎款を秀吉に通ずと流言(四)す。六月三日、二帥、元長と密かに庇山の絶頂に會して、議して曰く、諸將の意、皆測る可からず。今の計を爲すは、宜しく牙營に柵して、敵を迎へて決戰すべしと。既にして罷む。元長徑ちに爲虎に詣りて、其膝に迫りて坐す(五)。曰く、聞く、卿は秀吉と款を通ずと。信なるか。信ならば則ち吾が頭を斫り、以て秀吉に送れと。爲虎、惶駭(六)して曰く、是れ讒口に出づるのみと。乃ち誓書を獻ず。(七)衆情稍〻定る。終に再明秀吉を襲はんと期す。

(一) 備中國に在り (二) 同上 (三) 望み見て (四) 言ひ觸らす (五) 爲虎の膝に近寄りて坐す (六) おそれおどろく (七) 衆人の心おちつく

隆景曰。然。會軍中流三言三澤爲虎通二款秀吉一。六月三日。二帥與二元長一會二廟山絕頂一。議曰。諸將意皆不レ可レ測。爲二今之計一。宜下柵二于牙營一。迎レ敵決戰上。既罷。元長徑詣二爲虎一。迫二其膝一坐。曰。聞卿與二秀吉一通レ款。信乎。信則斫二吾頭一以送二秀吉一。爲虎惶駭曰。是出二讒口一耳。乃獻二誓書一。衆情稍定。終期三再明襲二秀吉一。

僧惠瓊素歸二心於秀吉一。爲講二和議一。秀吉曰。苟使二高治自殺一。則我可二以藉レ手而去一。惠瓊以告二二帥一。二帥弗レ肯。明日。惠瓊自入レ城諭二高治一。高治曰。我一死可三以和二兩國一。何敢不レ死。乃與二兄月清軍監末近一。乘

僧惠瓊素より心を秀吉に歸す。爲に和議を講ず。秀吉曰く、苟も高治をして自殺せしめば、則ち我れ以て手を藉きて去るべしと。惠瓊以て二帥に告ぐ。二帥肯はず。明日、惠瓊自ら城に入りて高治を諭す。高治曰く、我が一死以て兩國を和す可くんば、何ぞ敢て死せざらんやと。乃ち兄月清・軍監末近と、舟に乘りて城を出で、舟中に自裁して、以て城兵を出す。惠瓊還り報ず。二帥、之が爲に哀を發す。遂に盟約を爲して、地を割きて和を講じ、南は甲部川を界とし、北は馬山を界とし、輝元の季父元綱を送りて質と爲す。秀吉、森高政を送りて之に答ふ。即日、東軍解きて去る。元長、山頂に在りて、之を視て曰く、彼れ故なくして和を講ずるは、必ず內變あらんと。既にして告ぐるものあり、曰く、信長、明智

舟出城。自裁舟中。以出城兵。惠瓊還報。二帥爲之發哀。遂爲盟約。割地講和。南界中部川。北界馬山。遣輝元季父元綱爲質。秀吉遣森高政答之。

光秀の弑する所と爲ると。元長曰く、果して然り。吾れ盟に與らず。請ふ、之を追擊せば、秀吉、(三)生擒す可きなりと。浮田直家も亦援を爲さんと請ふ。二帥曰く、喪に乘じて盟に背くは、不義これより大なるは莫しと。終に許さず。後、秀吉、我が將士の款書數通を遺る。三澤氏の臣雲波の書有り。爲虎乃ち之を誅す。輝元既に秀吉と和す。猶ほ八州を領して、(四)歲入百二十萬石あり。

(一) 高治の自殺を以てそれを好き機會にして　(二) 內部に變事あらん　(三) 生捕にすべきなり　(四) 一歲の收入

即日。東軍解去。元長在山頂。視之曰。彼無故講和。必有內變。既而有告曰。信長爲明智光秀所弑。元長曰。果然。吾不與盟。請追擊之。秀吉可生擒也。浮田直家亦請爲援。二帥曰。乘喪背盟。不義莫大焉。終弗許。後秀吉遣我將士款書數通。有三澤氏臣雲波書。爲虎乃誅之。輝元既與秀吉和。猶領八州。歲入百二十萬石。

七月。隱岐經清弑其叔父清家。初清家

七月、隱岐の經清、其叔父清家を弑す。初め清家、兄に代りて隱岐を領す。兄の子經清を養ひ、己が子甚五を出して、吉田に質とす。經清、款を信長に通ぜん

代レ兄領二隱岐一。養二兄子經清一。出二己子甚五一。質二于吉田一。經清欲レ通二款信長一。清家弗レ聽。及二信長死一。經清誘二殺之一以滅レ口。因啓。清家通レ敵。臣誅レ之。元春不レ信。甚五訴レ冤。請二自復一レ仇。許レ之。隱岐士民爲二內應一。終誅二殺經清一。八月。山田重直誘二殺南條氏精兵數百一。九月。伯耆人相驚曰。秀吉戰二死上國一。重直且二來襲一矣。元續怖。走入二京師一。其子小鴨元清亦走。秀吉笑曰。元春設二蜚語一。不レ戰而走レ之耳。元春之智。元續之怯。皆無雙者也。因請二元春一復レ之。

と欲す。清家聽かず。信長死するに及びて、經清、之を誘殺して、以て(一)口を滅す。因りて(二)啓す、清家、敵に通ず、臣、之を誅すと。元春、信ぜず。甚五、寃を訴へて自ら仇を復せんと請ふ。之を許す。隱岐の士民、內應を爲して、終に經清を誅殺す。八月、山田重直、南條氏の精兵數百を誘殺す。九月、伯耆の人相驚きて曰く、秀吉、(三)上國に戰死し、重直、且に來り襲はんとすと。元續怖れて、走りて京師に入る。其子小鴨元清も亦走る。秀吉、笑ひて曰く、元春、(四)蜚語を設けて、戰はずして之を走らするのみ。元春の智、元續の怯、皆無雙なる者なりと。因りて元春に請ひて之を復す。

(一) 清家を弑して己が惡事の洩るゝを防ぐ　(二) 申上ぐ　(三) 畿內　(四) 根もなきうはさ

秀吉誅二明智光秀一。遂代二織田氏一。居二大坂一。元春羞レ屈二下之一也。居常怏怏不レ樂。讓二家元長一而老。十一年九月。隆景遣二弟秀包及廣家一赴二大坂一。尋二去歲之盟一。秀吉悅二秀包有二姿容一。留レ之。

秀吉、明智光秀を誅して、遂に織田氏に代る。大坂に居る。元春、之に屈下する(一)を羞ぢ、居常(二)、怏怏として樂しまず。家を元長に讓りて老す。十一年九月、隆景、弟秀包及び廣家を遣して、大坂に赴きて、去歲の盟を尋がしむ。秀吉、秀包の姿容(三)有るを喜びて、之を留む。

(一) 秀吉に屈服して其配下に立つを恥辱とす (二) 平生不快に思ふ (三) 容貌のすぐれたるを愛でて

先レ是。杉原景盛殺二兄元盛一。誣以レ叛。事覺。七月。隆景遣二三弟元秋元政元康一。攻殺二景盛一。以二其弟次郎一承二杉原氏後一。

是より先、杉原景盛、兄の元盛を殺して、誣ふるに(一)叛を以てす。事覺る。七月、隆景、三弟元秋・元政・元康を遣して、攻めて景盛を殺し、其弟次郎を以て杉原氏の後を承けしむ。

(一) 叛を圖れりといつはる

十三年四月。秀吉伐二南海一。命三隆景元長入二伊豫一。元長稱レ疾歸。廣家代レ之。七月。定二伊豫一。秀吉徙二河野通信于二三原一。命三隆景代領二其國一。賜二僧惠瓊來島某各萬石一。十月。隆景元長如二大坂一。秀吉令二諸將郊迎一曰。向使二兩川變レ約。則吾豈得レ至レ此。因饗レ之。

十三年四月、秀吉、南海を伐ちて、隆景・元長をして、伊豫に入らしむ。元長疾と稱して歸り、廣家、之に代る。七月、伊豫を定む。秀吉、河野通信を三原に徙し、隆景をして代りて其國を領せしむ。僧惠瓊・來島某に各々萬石を賜ふ。十月、隆景・元長、大坂に如く。秀吉、諸將をして郊迎（一）せしめて曰く、向に兩川（二）をして約を變ぜしめば、則ち吾れ豈に此に至るを得んやと。因りて之を饗す。

（一）途中に出迎ふ　（二）吉川・小早川

時秀吉將レ伐二島津氏一。囑二元長一。請二元春一爲二先鋒一。約レ封二之筑前一。元春羞レ爲二秀吉所一レ驅

時に吉秀、將に島津氏を伐たんとす。元長に囑して、元春に請ひて先鋒と爲し、之を筑前に封ぜんと約す。元春、秀吉に驅使せらるゝを羞ぢて、肯はず。是の歲、秀吉、奏請して、輝元を以て從四位下に敍し、侍從に任ず。黑田孝高を遣して元春を促す。元春起たず。輝元曰く、公、我が爲に一たび出でよと。元春已むを得

使。弗レ背。是歳。秀吉奏請。以二輝元一叙二從四位下一。任二侍從一。遣二黑田孝高一促二元春一。元春不レ起。輝元曰。公爲レ我一出。元春不レ得レ已。乃與二隆景一俱發。攻拔二小倉城一。將レ移二陣松山一。疽發レ背不レ得レ行。隆景與二孝高一攻拔二閏津一。下二障子岳一。進攻二賀春岳一。元春痊將レ發。黑田氏饗レ之。供レ鮭。瘡復劇。乃遺二囑二子一以二後事一。言不レ及レ私。終卒。年五十七。元長使三廣家奉レ喪歸二安藝一。而自從二隆景一。降二賀春守將高橋種元一。

ず、乃ち隆景と倶に發して、攻めて小倉城を拔く。將に陣を松山(二)に移さんとす。疽(三)、背に發して行くを得ず。隆景、孝高と攻めて、閏津(四)を拔き。障子岳(五)を下し、進みて、賀春岳(六)を攻む。元春、痊えて將に發せんとす。黑川氏之を饗して、鮭を供す。瘡復た劇し。乃ち二子に遺囑(七)するに後事を以てし、言(八)、私に及ばず。終に卒す。年五十七なり。元長、廣家をして喪を奉じて安藝に歸らしめて、而して自ら隆景に從ひて、賀春の守將高橋種元を降す。

(一) 追隨して使役せらるゝを恥辱に思ひて　(二) 豐前國に在り　(三) 癰の一種、惡性の腫物　(四) 豐前國に在り　(五) 同上　(六) 同上　(七) 遺言して賴むに死後の事を以てし　(八) 遺言は皆公事のみ

十五年三月。豐臣秀長至。

十五年三月、豐臣秀長至り、我が兵を合せて日向に入り、耳川に抵りて、進み

合二我兵一入二日向一。抵二耳川一。進圍二高城一。島津家久夜襲二其營一。秀長畏二其兵標悍一。不二敢出一。元長欲二逆戰一。弗レ許。秀吉至。龍造寺氏以下皆降。五月。島津氏請レ和。秀吉徙二隆景于筑前一。治二名島一。賜二秀包筑後三郡一。治二來目一。元長道病。六月。遂卒。元長倔強類レ父。爲二秀吉所一畏惡一。常有二退

て高城を圍む。島津家久、夜、其營を襲ふ。秀長、其兵の標悍を畏れて、敢て出でず。元長逆へ戰はんと欲す。許さず。秀吉至る。龍造寺氏以下皆降る。五月、島津氏、和を請ふ。秀吉、隆景を筑前に徙して、名島に治せしめ、秀包に筑後の三郡を賜ひて、來目に治せしむ。元長、道に病み、六月、遂に卒す。元長、倔強(一)なることを父に類して、秀吉の畏惡(二)する所と爲る。常に退去の志ありて、歌詠に見す。遺命して廣家を立つ。黒田孝高、素より廣家の色美(三)を悅びて、之と親善なり。爲に秀吉に言ひて之を立つ。隱岐を襲ぎ食む。廣家、初名は繼信(四)といふ。是に於て、今の名に改む。是の歲冬、肥後・豐前に盜起る。隆景・廣家、命を受けて、討ちて之を平ぐ。筑前の士民、隆景の賢聲(五)を稔聞して、人人相慶す。隆景務めて其禁網(六)を濶くして、漸く治教を修む。下野の足利學校に倣ひて、黌舍(七)を建てて、先聖を釋奠(八)す。時に亂離(九)、日久し。人始めて絃誦(一〇)の聲を聞く。

(一) 强情にして意を曲げざること　(二) 畏れ嫌はる　(三) 美男　(四) 或ひは經言に作る　(五) 善き評判をかねてより

去之志。見二於二歌詠一。遺命立二廣家一。黑田孝高素悅二廣家色美一。與レ之親善。爲言二秀吉一立レ之。襲二食隱岐一。廣家初名繼信。於レ是改二今名一。是歲冬。肥後豐前盜起。隆景廣家受レ命。討而平レ之。筑前士民。稔二聞隆景賢聲一。人人相慶。隆景務潤二其禁網一。漸修二治敎一。倣二下野足利學校一。建二黌舍一釋二奠先聖一。時亂離日久。人始聞二絃誦之聲一。

(六) 聞き居る (七) 法律を緩やかにして (八) 孔子 (九) 孔子の祭 (一〇) 國亂れ人民散りぐになる (一一) 琴を彈じ、詩を歌ふ、即ち音樂讀書にて、皆學校にて學ぶ所なり

十六年。輝元任二參議一。隆景廣家秀包皆爲二四位侍從一。九月。秀吉養二浮田秀家女一。妻二廣家一。初廣家父兄皆死二於西海之役一。秀吉曰。吾許レ之以二筑前一。會二

十六年、輝元、參議に任じ、隆景・廣家・秀包皆四位の侍從と爲る。九月、秀吉浮田秀家の女を養ひて、廣家に妻はす。初め廣家の父兄、皆西海の役に死す。秀吉曰く、吾れ之に許すに筑前を以てして、其死に會ひて果さざりき。當に西海の一州を以て其孤を恤むべしと。石田三成・大谷吉隆、秀吉に說きて曰く、輝元の領する所、已に中國に跨りて、隆景・秀包、各〻一國を領す。備前の浮田氏、素より之と惡し。以爲らく相禁ぜしむべし。而して亦吉川に婚して、吉川、今又封を受けんとす。天下事無くんば則ち已む、苟も事有らば、則ち關以西は皆

其死不ㇾ果。當下以二西海一州一帰中其孤上。石田三成。大谷吉隆。説二秀吉一曰。輝元所ㇾ領已跨二中國一。而隆景秀包各領二一國一。備前浮田氏素與ㇾ之惡。以爲ㇾ可ㇾ使二相禁一也。而亦婚二於吉川一。吉川今又受ㇾ封矣。天下無ㇾ事則已。苟有ㇾ事。則關以西皆歸二毛利氏一。爲二今之計一。莫ㇾ若下就二輝元封内一割中予一二州上。是名賜ㇾ封。而實分二其勢一也。秀吉然ㇾ之。乃令下輝元以二出雲伯耆數郡一加中賜廣家上。治二富田一。

毛利氏に歸せん。(二)今の計を爲すに、輝元の封内に就きて、一二州を割き予ふるに若くは莫し。是れ名は封を賜ひて、實は其勢を分つなりと。秀吉、之を然りとす。乃ち輝元をして出雲・伯耆の數郡を以て、廣家に加賜せしめて、富田に治せしむ。

(一) 變事無ければそれまでの話　(二) 差當りての計としては

十八年。秀吉東伐二北條氏一。使下輝元守二京師一。隆景守二清洲一。廣家守中岡崎上。北條氏不ㇾ降。召二隆景一謀ㇾ之。對曰。先人

十八年、秀吉、東、北條氏を伐つ。輝元をして京師を守り、隆景をして(一)清州を守り、廣家をして(二)岡崎を守らしむ。北條氏降らず。隆景を召して之を謀る。對へて曰く、先人富田を圍むや、攻戰を休めて持久を示し、多く(三)反間を縱ちて、其君臣をして相疑はしめ、其(四)妻孥を索めて之を招き降すと。秀吉曰く、吾れ之を師とせんと。遂に其計を以て北條氏を平ぐ。是より先、輝元、吉川の隘狹を患へ

關ニ富田一。休ニ攻戰一。示ニ持久一。多縱ニ反間一。使ニ其君臣相疑一。索ニ其妻孥一而招ニ降之一。秀吉曰。吾師レ之也。遂以ニ其計一平ニ北條氏一。先レ是。輝元患ニ吉田隘狹一。城ニ于己斐一。十九年成。徙焉。更ニ名廣島一。

て、己斐に城く。十九年、成る。徙る。名を廣島と更む。

(一)尾張國に在り　(二)三河國に在り　(三)敵に間諜を送つて　(四)妻子　(五)手本とせん

文祿元年。秀吉發レ兵伐ニ朝鮮一。毛利吉川小早川氏爲ニ後隊一。諸將在ニ朝鮮一。連署稟レ事。隆景花押點畫甚繁。福島正則傍觀謂レ之曰。押字宜レ疎。不レ宜レ密。不レ然。則臨レ死作ニ遺狀一。不レ能ニ

(一)文祿元年、秀吉、兵を發して朝鮮を伐つ。毛利・吉川・小早川氏、後隊と爲り、諸將朝鮮に在り、連署して事を稟す。(二)隆景、(三)花押の點畫甚だ繁し。福島正則傍觀して之を謂ひて曰く、押字は宜しく疏なるべし。宜しく密なるべからず。然らずんば、則ち死に臨みて(四)遺狀を作るに、速かに成る能はじと。隆景笑ひて曰く、(五)大丈夫當に尸を原野に横たふべし。何ぞ遺狀を以ふるを爲さんと。正則、愧づる色あり。此時に當り、浮田秀家・石田三成等の諸將、(六)國都に在り。小西行長、先鋒と爲りて、進みて平壤に據る。平壤以南、國都に至るまで、城砦相屬す。二年正月、明將李如松、大兵を率ゐて、來りて朝鮮を援ひて、平壤を陷る。行長、敗

速成也。隆景笑曰。大丈夫當横戸原野。何以遺狀爲。正則有愧色。當此時。浮田秀家石田三成等諸將。在國都。小西行長爲先鋒。進據平壤。平壤以南至國都。城砦相屬。二年正月。明將李如松率大兵來援朝鮮。陷平壤。行長敗走。大友義統亦棄城走。秀包與黑田長政。將兵迎行長。殿而退。如松乘勝南下。秀家等令諸城砦皆解。還萃於國都。隆景守開城。獨不肯還。曰。諸君皆去。吾當獨留。吾受命外征。固不期生。吾老矣。願與明人一戰。使明人知日本有小早川隆景者也。即敗死。喪一老翁。何損於國哉。秀家等促之再三。隆景不得已而還。

走す。大友義統も亦城を棄てて走る。秀包、黑田長政と、兵に將として行長を迎へて、殿して退く。如松勝に乘じて南下す。秀家等、諸城砦をして皆解きて、還りて國都に萃らしむ。隆景開城を守りて、獨り肯て還らず。曰く、諸君皆去れ。吾れ當に獨り留るべし。吾れ命を受けて外征(七)す。固より生を期せず。吾れ老いたり。願はくは明人と一戰して、明人をして日本に小早川隆景といふ者あるを知らしめん。卽し敗死すとも、一老翁を喪ふ、(八)何ぞ國に損せんやと。秀家等之を促すこと再三なり。隆景、已むを得ずして還る。

㊀ 後陽成天皇の年號　㊁ 申上ぐ　㊂ かき判の字畫甚だ多し　㊃ 遺言狀　㊄ 男子たる者は原野に死す可きものなり　㊅ 朝鮮の京城　㊆ 外國を征伐す　㊇ 何ぞ國家の損害にならん

與二秀包元康。及立花宗茂三將一合二兵二萬一。未レ至二國都一三十里而陣。數日。候騎報曰。如松兵既至二碧蹄驛一。蓋十餘萬騎矣。隆景曰。足三以試二我武一矣。乃分レ兵爲二六隊一。迎戰。前軍二隊不レ利卻。隆景揮レ槍大呼而進。士卒皆奮莫レ不二一當一レ百。三將自二左右一夾二擊之一。明軍遂大敗。如

秀包・元康及び立花宗茂の三將と、兵二萬を合せて未だ國都に至らざる三十里にして陣す。數日にして、候騎[一]報じて曰く、如松の兵既に碧蹄驛に至る。蓋し十餘萬騎なりと。隆景曰く、以て我が武を試みるに足ると。乃ち兵を分ちて六隊と爲して、迎へ戰ふ。前軍の二隊、利あらずして卻く。隆景槍を揮ひて大に呼びて進む。士卒皆奮ひて、一、百に當らざるは莫し。三將、左右より之を夾み撃つ。明軍遂に大敗す。如松馬より墮つ。隆景の將井上某、之を鎈す。中らず。其將李有聲と鬪ひて之を斬る。如松、僅かに身を以て兇る。北ぐるを逐ひて臨津に至り、斬首すること萬餘級なり。而して我が兵の死する者僅かに百餘人なり。如松開城に入りて、其失亡する所を視て、痛哭[二]曉に徹す。遂に軍を退くること三次[三]す。明軍大に沮む。明の和を我に乞ふは、此戰に本づくなり。四月、和成り、國都の諸將、撤して還らんと欲す。虜兵の追躡せんことを恐れて羣議[四]決せず。隆景柱に倦りて睡る。石田三成、喚び起して計を問ふ。隆景曰く、火を縱ちて城を焚

松隨レ馬。隆景將井上某縱レ之。不レ中。與二其將李有聲一鬪而斬レ之。如松僅以レ身免。遂レ北至二臨津一。斬首萬餘級。而我兵死者僅百餘人。如松入二開城一。視三其所二失亡一。痛哭徹レ曉。遂退レ軍三次。明軍大沮。明之乞二和於我一。本二於此戰一也。四月。和成。國都諸將欲二徹還一。恐二虜兵追躡一。羣議不レ決。隆景倚レ柱而睡。石田三成喚起問レ計。隆景曰。縱レ火焚レ城。更殿而退。何虞之有。從レ之。全レ軍而還。

き、更々殿して退くに、何の虞か之あらんと。之に從ひて、軍を全くして還る。

(一) 斥候の騎兵　(二) 夜通しいたみ泣く　(三) 三日の道程　(四) 追ひかく

六月。輝元義子秀元濟レ海。與二諸將一俱攻二晉州一。拔レ之。秀元元淸子也。其幼元春隆景目レ之。相語曰。何酷肖二先君一也。時秀吉欲下以二其外甥

六月、輝元の義子秀元、海を濟りて、諸將と俱に晉州を攻めて、之を拔く。秀元は、元淸の子なり。其幼なるとき、元春・隆景之を目(一)して、相語りて曰く、何ぞ酷だ先君に肖ると。時に秀吉、其外甥(二)秀秋を以て、毛利氏の後と爲さんと欲す。或ひと、以て隆景に告ぐ。隆景、素より秀吉の己を畏忌(三)するを知り、且つ其封を受くるを屑しとせず。之を返致せんと欲す。是の言を聞くに及びて、竊かに度りて曰く、他人をして我が宗家(四)を汨さしむ可からず。且つ秀秋は妄庸の人なり。

秀秋爲毛利・氏後。或以告隆景。隆景素知秀吉畏忌己。且不屑受其封。欲返致之。及聞是言。竊度曰。不可使他人汨我宗家。且秀秋妄庸人。養之。是養禍也。吾寧任其弊。已而秀吉從容問之曰。參議齡強而無嗣。何如。隆景卒對曰。既養穗田氏子矣。秀吉憮然曰。吾未之知也。隆景使人馳告輝元。使立秀元。遂請秀秋爲己子。秀吉喜許之。乃

之を養ふは、是れ禍を養ふなり。吾れ寧ろ其弊に任ぜんと。已にして秀吉、従容として之に問ひて曰く、參議(五)齡(六)強にして嗣なし。何如と。隆景、卒かに對へて曰く、既に穗田氏の子を養へりと。秀吉(七)憮然として曰く、吾れ未だ之を知らざるなりと。隆景人をして、馳せて輝元に告げしめて、秀元を立てしむ。遂に秀秋を請ひて己が子と爲す。秀吉喜びて之を許す。乃ち之に筑前を讓り與へて、自ら三原に老す。秀吉始めて韓を伐つの年なり。肥前より航して大坂に歸る。大浦を過ぐ。舟人逆を謀りて、故に舟を礁に觸れて、殆ど溺る。秀元、(八)走舸を以て之を救ふ。秀吉、舟人を梟し、秀元を挈へて京師に入り、奏して四位の侍從と爲す。其德に報ぜしなり。遂に外征の命あり。年甫めて十五なり。

(一)見て　(二)妻の方のをひ　(三)畏れ忌む　(四)本家　(五)毛利輝元　(六)年齡四十歲にして、あとつぎなし　(七)怪み驚き　(八)はや舟

讓㆓與之筑前㆒。而自老㆓于三原㆒。秀吉始伐㆑韓之年。自㆓肥前㆒航歸㆓大坂㆒。過㆓大浦㆒。舟人謀㆑逆。故觸㆓舟于㆑礁。殆溺。秀元以㆓走舸㆒救㆑之。秀吉梟㆓舟人㆒。挈㆓秀元㆒入㆓京師㆒。奏爲㆓四位侍從㆒。報㆓其德㆒也。遂有㆓外征之命㆒。年甫十五。

慶長二年。輝元隆景並爲㆓從三位中納言㆒。與㆓秀家㆒皆修㆓淀河堤㆒。秀元襲㆓輝元官爵㆒。爲㆓秀吉女婿㆒。是年。復伐㆓朝鮮㆒。以㆓秀秋秀元㆒統㆓諸將㆒。六月。隆景病卒。年六十二。隆景爲㆓秀吉所㆑重。參㆓其大計㆒。而持㆑己愼密。讒間不㆑入。

慶長(一)二年、輝元・隆景、並に從三位中納言と爲る。秀家と皆淀河の堤を修む。秀元、輝元の官爵を襲ぎ、秀吉の女婿(二)と爲る。是の年、復た朝鮮を伐つ。秀秋・秀元を以て、諸將を統べしむ。六月、隆景病みて卒す。年六十二なり。隆景、秀吉の重んずる所と爲り、其大計に參す(三)。而して己を持する(四)愼密にして、讒間入らず。秀吉、嘗て毛利氏を九州に徙し封ぜんと欲す。隆景、辭して曰く、八州已に多し。況や一を增すをや、恐らくは勝ふる能はざらん。且つ先人百戰して取る所、之を棄つるに忍びずと。秀吉乃ち止む。退老するに及びて、諷吟(五)を以て自(六)適して、以て沒するに至る。

(一) 後陽成天皇の年號　(二) むこ　(三) 大事の相談に預る　(四) 身の持方が愼深くて他より讒言するすきまなし
(五) 詩を作り歌をよむ　(六) 自ら樂む

秀吉嘗欲ㇾ徙ㇾ封毛利氏于九州ー。隆景辭曰。八州已多。況增ㇾ一乎。恐不ㇾ能ㇾ勝也。且先人所ニ百戰而取ー。不ㇾ忍ㇾ棄ㇾ之。秀吉乃止。及ㇾ退老ー。以ニ詩吟ー自適。以至ニ於沒ー。

十二月。明兵圍ニ我將加藤清正于蔚山ー。三年正月。秀秋秀元赴援。廣家謂ニ其騎ー曰。明兵衆而不ㇾ整。汝往視ニ其後軍ー。今將ㇾ走也。既而果走。廣家以ニ千餘騎ー先追ㇾ之。明騎將吳惟忠茅國器返戰。廣家縱横奮擊。二將皆奔逃。清正望ニ

十二月、明兵、我が將加藤清正を蔚山に圍む。三年正月、秀秋・秀元赴き援く。廣家、其騎に謂ひて曰く、明兵衆くして整はず。汝、往きて其後軍を視よ。今將に走らんとするなりと。既にして果して走る。廣家、千餘騎を以て先づ之を追ふ。明の騎將吳惟忠・茅國器返り戰ふ。廣家、縱横奮擊し、二將皆奔逃す。清正、之を望見して曰く、彼蒲穗を以て旆幟(二)となす者は誰ぞと。左右對へて曰く、吉川なりと。清正曰く、勇なるかな。其幟の較著(三)ならざるを恨む。常に吾が號を贈るべしと。乃ち手づから其旆幟の馬藺を取りて之を贈る。秀吉、大に之を賞せんと欲す。僧惠瓊、素より吉川氏に惡し。廣家、驍名(四)益々著る。秀吉、乃ち石田三成と倶に其議を廢沮(五)す。

(一) 一本に往とあり、氣を附けて見よ　(二) さしもの　(三) あきらか　(四) 驍勇の評判　(五) 邪魔して止む

見之一曰。彼以二蒲穗一爲二背幟一者誰。左右對曰。吉川也。淸正曰。勇哉。恨三其幟之不二較著一也。當レ贈二吾號一。乃手取二其背幟馬藺一贈レ之。廣家驍名益著。秀吉欲二大賞一レ之。會惠瓊素惡レ於二吉川氏一。乃與二石田三成一俱廢二沮其議一。

八月。秀吉薨。子秀頼嗣。毛利氏。德川前田上杉浮田氏。並稱二五大老一。共輔二翼之一。三成等離二間諸老一。五年二月。輝元饗三德川公于二其第一。修レ好交盟。四月。德川公伐二上杉氏一。輝元遣二廣家惠瓊一。將レ兵助レ之。三成使三惠瓊言二輝元一曰。德川

八月、秀吉薨ず。子秀頼嗣ぐ。毛利氏・德川・前田・上杉・浮田氏、並に五大老と稱して、共に之を補翼す。(一)三成等、諸老を離間す。(二)五年二月、輝元、德川公を其第に饗して、好を修めて、交〻盟ふ。四月、德川公、上杉氏を伐つ。輝元、廣家・惠瓊を遣して、兵に將として之を助けしむ。三成、惠瓊をして輝元に言はしめて曰く、德川氏、將に嗣君(三)に利あらざらんとす。輝元、乃ち兵四萬に將として、大坂を守る。增田長盛、之に副たり。三成自ら兵を引きて、進みて美濃に入る。秀元、輝元を諫めて曰く、秀頼は幼駭(四)なり。何ぞ臧否(五)を辨ぜん。大人(六)愼みて其言に惑ふ勿れ。且つ君、德川氏と盟ひて未だ幾ならずして之に背く、可ならんやと。聽かず。秀元曰く、然らば則ち大人、秀頼を擁して以て東伐せよ。兒請ふ、先鋒と爲らん。則ち諸將の德川に從ふ者、皆

氏將レ不レ利ニ嗣君一。嗣君憂焉。將下倚ニ公之力一以討レ之。輝元乃將ニ兵四萬一。守ニ大坂一。增田長盛副レ之。三成自引レ兵。進入ニ美濃一。秀元諫ニ輝元一曰。秀賴幼騃。何辨ニ臧否一。大人愼勿レ惑ニ其言一。且君與ニ德川一盟。未レ幾背レ之。可乎。不レ聽。秀元曰。然則大人擁ニ秀賴一以東伐。兒請爲ニ先鋒一焉。則諸將從ニ德川一者。皆來屬レ我。我勝必矣。坐守ニ此地一。非レ計也。又不レ聽。命與ニ廣家一陣ニ瀨田一。徇ニ伊勢一。攻拔ニ津城一。聞ニ東西之軍會ニ美濃一。則北屯ニ南宮山一。惠瓊與ニ長曾我部盛親長束正家一陣ニ山下一。兵凡三萬。

來りて我に屬せん。我れ勝たんこと必せり。坐して此地を守るは、(七)計に非ざるなりと。又聽かず。命ぜられて、廣家と瀨田に陣し、伊勢を徇へ、攻めて津城を拔く。東西の軍、美濃に會すと聞き、則ち北して(八)南宮山に屯す。惠瓊は長曾我部盛親・長束正家と山下に陣す。兵凡そ三萬なり。

(一) たすく (二) 交情を妨げて中をわるくす (三) 秀賴公の爲にならず (四) 幼くして物事を知らず (五) 善惡 (六) 父上には三成の言ふことにのせられてはならず (七) 良策に非ず (八) 美濃國に在り

秀秋會ニ西軍一。首送ニ款於德川氏一。約爲ニ內應一。廣家亦與ニ福原越後一定レ

秀秋、西軍に會す。首として款を德川氏に送りて、約して內應を爲す。廣家も亦、福原越後と議を定めて、秀元に勸めて款(一)を送らしめんとす。秀元曰く、吾が家、託を幼弱の人に受く。之を棄てて強國に歸するは、義に非ざるなり。且つ

議。勸秀元送款。秀元曰。吾家受託於幼弱人。棄之歸强國。非義也。且無家君之命。安可自肆乎。廣家曰。豐臣氏恩澤諸侯。且叛歸東軍。況於我家乎。宜速決去就。是利納言也。秀元未決。廣家密因黒田長政納款。遂福原某粟屋某爲質。長政使之率衆來屬。擊西軍

家君の命なし。安んぞ自ら肆にすべけんやと。廣家曰く、豐臣氏恩澤の諸侯すら、且つ叛きて東軍に歸す、況や我が家に於てをや。宜しく速かに去就を決すべし。是れ納言(六)を利するなりと。秀元未だ決せず。廣家密かに黒田長政に因りて款を納れ、福原某・粟屋某を送りて質と爲す。長政之をして、衆を率ゐて來り屬し、西軍(五)を擊ちて以て信と爲さしむ。秀元曰く、我が山下の軍、我に從ひて降る者に非ず。吾も、亦之を擊つに忍びず。唯當に甲(一〇)を按じて動かざるべしと。輝元、大坂に在り、京極高次、大津を以て東軍に應ずと聞きて、元康・秀包を遣して、立花宗茂等と之を攻めしむ。人をして入りて說かしめて曰く、諸將嗣君の爲に義を舉ぐ。公は嗣君の姻戚なり、何ぞ獨り從はざると。高次肯はずして曰く、今日の事、毛利と德川と、雌雄(七)を爭ふのみ。嗣君(八)何ぞ關らんと。是に於て、攻擊益〻急なり。高次遂に城(九)を致して去る。諸將將に遂に美濃に會せんとす。

(一) 內應せしめんとす　(二) 一本に諸字なし　(三) 進退を決定せよ　(四) 毛利輝元　(五) 西軍を擊ちて東軍に屬す

以爲レ信。秀元曰。我山下軍。非下從レ我降者上。吾亦不レ忍レ擊レ之。唯當下按レ甲不レ動。輝元在二大坂一。聞下京極高次以二大津一應中東軍上。遣二元康秀包一。與二立花宗茂等一攻レ之。使二人入說一曰。諸將爲二嗣君一擧レ義。公嗣君姻戚。何獨不レ從。高次不レ肯曰。今日之事。毛利與二德川一爭二雌雄一耳。嗣君何關焉。於レ是攻擊益急。高次遂致レ城而去。諸將將三遂會二美濃一。

る證據となさしむ　(六)軍を引き止めて　(七)勝敗　(八)何ぞ知らん　(八)開城して去る

當二是時一。西軍俟二輝元一。東軍俟二德川公一。相持未レ戰。九月。德川公至。而輝元未レ至。三成等。遂聚三議于二大垣一。推二浮田秀家一爲レ將。以二秀元一爲二先鋒一。正家惠瓊往參二其議一。還報。廣家怒曰。

是の時に當りて、西軍は輝元を俟ち、東軍は德川公を俟つ。相持して未だ戰はず。九月、德川公至る。而して輝元未だ至らず。三成等、遂に大垣に聚議して、浮田秀家を推して將と爲し、秀元を以て先鋒と爲す。正家・惠瓊往きて其議に參す。還り報ず。廣家怒りて曰く、宰相、納言に代りて師を統ぶ。秀家の爲に前驅たる能はずと。已にして三成、自ら來りて、請ひて曰く、毛利・浮田、分れて前後に將たり。豈に輕重あらんやと。廣家、終に聽かず。三成曰く、然らば則ち公は止此に軍して、我が烽を擧ぐるを見ば、則ち直に東軍の後を襲へと。明日、兩軍皆關原に陣す。德川公猶ほ我が意を疑ひて、兵を分ちて南宮に當りて、而して

宰相代ニ納言ー統ﾚ師。不ﾚ能下爲ニ秀家ー前驅上。已而三成自來。請曰。毛利浮田。分將ニ前後ー。豈有ニ輕重ー乎。

進みて桃配野(二)に陣す。惠瓊來りて秀元を見て之を勗めしむ。秀元曰く、軍事は廣家に委すと。惠瓊曰く、公は太閤の義子なり、斯須くも秀頼を忘るべからず。何ぞ此推諉(三)の言を得んやと。秀元曰く、吾れ必ず約の如くせんと。惠瓊去る。

(一) のろし (二) 美濃國に在り (三) 事を人に押し附けて自分の責任を免れんとする言

廣家終不ﾚ聽。三成曰。然則公止ﾚ軍於ﾚ此。見ニ我擧ﾚ烽。則直襲ニ東軍後ー。明日。兩軍皆陣ニ關原ー。德川公猶疑ニ我意ー。分ﾚ兵當ニ南宮ー。而進陣ニ桃配野ー。惠瓊來見ニ秀元ー。勗ﾚ之。秀元曰。軍事委ニ廣家ー矣。惠瓊曰。公大閤義子。不ﾚ可ﾚ斯須忘ニ秀頼ー。何得ニ此推諉之言ー乎。秀元曰。吾必如ﾚ約。惠瓊去。

秀元使ニ人謂ニ廣家ー曰。東軍諸將。其質皆在ニ大坂ー。棄而不ﾚ顧。吾亦欲下棄ニ福原輩ー以應中西軍上。如何。廣家不ﾚ肯。已

秀元、人をして廣家に謂はしめて曰く、東軍の諸將、其質皆大坂に在り。棄てて顧みず。吾れも亦、福原の輩を棄てて以て西軍に應ぜんと欲す、如何と。廣家肯はず。已にして、兩軍大に戰ふ。石川氏の陣、烽起る。正家、秀元を促す。秀元之に應ぜんと欲す。廣家、宍戸元繼と先鋒たり。其兵皆胄を免ぎて坐す。秀元進むことを得ず。乃ち傳發(一)に託して、故に戰期を失す。世人、傳笑(二)す。遂に已(三)

而兩軍大戰。石田氏陣烽起。正家促二秀元一。秀元欲レ應レ之。廣家與二宍戸元繼一爲二先鋒一。其兵皆免レ冑而坐。秀元不レ得レ進。乃託二傳餐一。故失二戰期一。世人傳笑。遂謂二不レ得レ已之計一。曰二宰相傳餐一。是時。秀秋在二松尾山一。觀二望兩端一。德川氏促レ之。乃自レ後襲二西軍一。其家老松野主馬怒曰。主公何爲二此不義之擧一。小早川氏所レ未二嘗有一也。終不二肯戰一。西軍大敗。我山下軍不レ戰而潰。

むを得ざるの計（はかりごと）を謂（い）ひて、宰相（さいしやう）の傳餐（でんさん）と曰ふ。是の時、秀秋松尾山（まつをやま）に在りて兩端（りやうたん）を觀望（くわんばう）す。德川氏之を促（うなが）す。乃ち後（うしろ）より西軍を襲（おそ）ふ。其家老（そのかろう）松野主馬（まつのしゆめ）、怒りて曰く、主公、何ぞ此不義（このふぎ）の擧（きよ）を爲す。小早川氏に未だ嘗（かつ）て有らざる所なりと。終に肯（あへ）て戰はず。西軍大敗す。我が山下の軍戰（ぐんたしか）はずして潰（つひ）ゆ。

㊀兵糧をつかふことにかこつけて　㊁言ひ傳へて笑ふ　㊂仕方なしの計略

廣家因二長政一謝二德川氏一曰。秀元宜二速謁一。顧輝元在二大坂一。不二敢先一也。乃下レ山西歸。

廣家、長政に因（よ）りて德川氏に謝（しや）して曰く、秀元、宜（よろ）しく速かに謁（えつ）すべし。顧（おも）ふに輝元（てるもと）大坂に在らん。敢（あへ）て先（さき）だたざるなりと。乃ち山を下りて西に歸（かへ）る。福島正則と、秀元を止（とゞ）めて質（ち）と爲さんと欲す。馳（は）せて其前路（ぜんろ）に出でて、帳（ちやう）(一)を設けて、要（えう）して之を饗（きやう）す。秀元膂力（りよりよく）(二)あり。佯（いつは）り醉（ゑ）ひて、正則（まさのり）の手を捩（ねぢ）りて曰く、近

長政與二福島正則一。欲下止二秀元一爲上質。馳出二其前路一。設帳。要而饗レ之。秀元有二膂力一。佯醉。拗二正則手一曰。近日見三公於二大坂一矣。奮レ袂而去。二人不二敢止一。立花宗茂至二草津一。得二關原敗聞一。返至二大坂一。欲下助二輝元一城守上。輝元不レ聽。秀包亦返至。宗茂欲三與俱歸二東軍一。秀包曰。吾從二納言一者

日、公を大坂に見んと。袂を奮ひて去る。二人敢て止めず。立花宗茂草津に至りて關原の敗聞を得、返りて大坂に至り、輝元を助けて城守せんと欲す。輝元聽かず。秀包も亦返り至る。宗茂、與俱に東軍に歸せんと欲す。秀包曰く、吾は納言に從ふ者なりと。乃ち大坂に入る。疾を以て安藝に歸り、尋ぎて卒す。輝元城を避けて、(三)木津川の別第に居り、髮を剃りて宗瑞と稱して、降を徳川公に請ふ。徳川公、其親信井伊直政と密議して曰く、毛利氏は(四)右族、遽かに(五)讓削を加ふ可からず。而して廣島は其治所なり。此を奪はざれば、以て典刑を正すなしと。議未だ決せず。輝元の使者來るに會ふ。曰く、生死唯命のまゝなり。若し大仁を垂れて周防・長門を領するを得ば、(六)望外の幸なりと。徳川公大に喜びて之を許し、盡く其餘の六州を收む。

(一) 盛に用意を爲し待受けて秀元を饗應す　(二) 腕力あり　(三) 一本に川字無し　(四) 名家　(五) 責めて封を削る　(六) 願うてもなき幸福なり

也。乃入二大坂一。以レ疾歸二安藝一。尋卒。輝元避レ城。居二于木津川別第一。削レ髮稱二宗瑞一。請二降德川公一。德川公與二其親信井伊直政一。密議曰。毛利氏右族。不レ可三遽加二譲削一。而廣島其治所也。不レ奪レ此。莫三以正二典刑一焉。議未レ決。會二輝元使者來一。曰。生死唯命。若垂二大仁一。得レ領二周防長門一。望外之幸也。德川公大喜。許レ之。盡收二其餘六州一。

惠瓊匿二伊吹山一。出依二秀元一。聞三其通二東軍一。去匿二鞍馬一。聞二吉川氏來索一。又出匿二本願寺子院一。近江僧樂鎭。素與レ之惡。以告二東將奧平信昌一。信昌遣レ兵捕レ之。從者輿截。走二東寺一。追兵已迫。從者度レ不レ可レ脫。隔レ輿刺レ之。返闘皆死。惠瓊未レ殊。遂就レ縛。十月。朔。與二石田小西長東等一。

惠瓊伊吹山に匿る。出でて秀元に依る。其の東軍に通ずるを聞きて、去りて鞍馬に匿る。吉川氏來り索むと聞きて、又出でて本願寺の子院(一)に匿る。近江の僧樂鎭素より之と惡し。以て東將奧平信昌に告ぐ。信昌兵を遣して之を捕へんとす。從者輿截(二)して東寺に走る。追兵已に迫る。從者脫すべからざるを度りて、輿を隔てて之を刺し、返り闘ひて皆死す。惠瓊未だ殊せず(三)。遂に縛に就く。十月朔、石田・小西・長東等と皆京師に梟首す。輝元、長門に徙りて萩城に治す。三十萬石を食みて、公役に與らず。其子秀就を送りて質と爲す。

㊀ 末寺　㊁ 輿に截せて　㊂ 死にきれず

皆梟首京師、輝元從長門。治于萩城。食三十萬石。不與公役。遣其子秀就爲質、

輝元既養秀元。而生秀就及就隆。德川氏欲分長門于秀元。秀元辭之。退居長府。以攝國政。會其室卒。德川公養松平康元女繼之。十三年。又以其孫女妻秀就。秀就時爲四位侍從。十九年。冬。德川公攻大坂。留二婿于江戸。秀元因水野忠元請曰。既辱姻婭。猶何見疑。願爲先鋒效力。許之。兵解歸國。元和元年。夏。

輝元既に秀元を養ふ。而して秀就及び就隆を生む。德川氏長門を秀元に分たんと欲す。秀元、之を辭して、退きて長府に居りて、國政を攝す。會々其室(一)、卒す。德川公、松平康元の女を養ひて之に繼ぐ。十三年、又其孫女を以て秀就に妻はす。秀就時に四位の侍從たり。十九年冬、德川公大坂を攻め、二婿(二)を江戸に留む。秀元、水野忠元に因りて、請ひて曰く、既に姻婭(三)を辱くす。猶ほ何ぞ疑はるゝ。願はくは先鋒と爲りて力を效さんと。之を許す。兵解けて國に歸る。元和元年夏、兵再び起る。秀元は西道の諸將に先だちて大坂に至り、斬首すること三百級なり。賞あり。秀就は海道を取り、風に阻まれて後れて至る。罰なし。

(一) 夫人　(二) 秀元、秀就　(三) 緣つゞき

兵再起。秀元先二四道諸將一至二大坂一。斬首三百級。有レ賞。秀就取二海道一。阻レ風後至。無レ罰。

寛永元年。秀元在二江戸一。輝元使二使告一レ之曰。我以二二國新封一。養二十州舊臣一。上下共困。不レ得レ給二公役一。念受レ封無レ益。欲レ返二致二國一。汝善計レ之。使下我家不上レ至二滅亡一。秀元大驚。因二土井利勝一。白二之台德公一。公令三秀元計二レ之。秀元檢二二國田一。得二七十八萬石一。輝元聞レ之大喜。二年。輝元卒。次年。秀就爲二左近衞少將一。

寛永(一)元年、秀元江戸に在り。輝元使をして之に告げしめて曰く、我れ二國の新封(二)を以て、十州の舊臣を養ふ。上下共に困しみて、公役に給するを得ず。念ふに封を受くるも益なし。二國を返致せんと欲す。汝善く之を計りて、我が家をして滅亡に至らざらしめよと。秀元、大に驚きて、土井利勝に因りて、之を台德公(三)に白す。公、秀元をして之を計らしむ。秀元、二國の田を檢して、七十八萬石を得。輝元之を聞きて大に喜ぶ。二年、輝元、卒す。次年秀就左近衞少將と爲る。

(一) 後水尾の年號　(二) 新しき領地　(三) 德川秀忠

八年。秀元還三

八年秀元政を秀就に還す。大猷公(一)曰く、秀元は成童(二)にして外征の元帥たり。

政於二秀就一。大猷公曰。秀元成童爲二外征元帥一。門望皆隆。眞我老友也。數延與語。子孫仍居二長府一。食二五萬石一。就隆居二周防德山一。亦食二五萬石一。秀元次子元知居二長門清末一。食二一萬石一。豐臣氏質森高政。以下森與二毛利一國音相近上。遂冒二毛利氏一。居二豐後佐伯一。食二六萬石一。關原之

(三)門望皆隆し。眞に我が老友なりと。數〻延きて與に語る。子孫仍ほ長府に居りて、五萬石を食む。就隆は周防の德山に居りて、亦五萬石を食む。秀元の次子元知は、長門の清末に居りて、一萬石を食む。豐臣氏の質森高政、森と毛利と國音(四)相近きを以て、遂に毛利氏を冒す。豐後の佐伯に居りて、六萬石を食む。關原の役に、大坂に在り。四萬石を削らる。此五家、宗家と皆存して今に至る。宗家は、世〻侍從に任じ、少將に遷る。而して從四位下大膳大夫は、其常銜(五)たり。廣元・元就の故事を襲ぐなり。吉川氏は宗家を存するの功を以て、世〻岩國六萬石を食む。秀秋内應の功を以て、備前・美作を食む。松野主馬其祿を食むを恥ぢ、去りて京師に居る、何もなく、秀秋卒す。嗣なし。(六)國除かる。小早川氏(七)遂に祀られず。

(一) 德川家光　(二) 十五歳をいふ　(三) 門地人望　(四) 國訓似よりたるが故に　(五) 常に名乘る官名　(六) 領地を取上げらる　(七) 家斷絶す

役在大阪。削四萬石。此五家。與宗家皆存至今。宗家世任侍從。遷少將。而從四位下大膳大夫爲其常銜。與廣元元就故事也。吉川氏以下存宗家之功。世食岩國六萬石。秀秋以內應之功。食備前美作。松野主馬羞食其祿。去匿京師。無何。秀秋卒。無嗣。國除。小早川氏遂不祀。

元春臨終遺書。戒輝元曰。往日。吾兄弟並爲先鋒。推子爲元帥。今天下已有主矣。子愼勿自視加往日。隆景之將沒也。亦戒之曰。天下將亂。子第退守。勿進取。使我家有雄資如先君者則可。否而爭

元春、終に臨みて遺書して、輝元を戒めて曰く、往日(一)、吾が兄弟、並に先鋒と爲り、子を推して元帥と爲す。今、天下已に主あり。子、愼みて自ら視ること、往日の如くする勿かれと。隆景の將に沒せんとするや、亦之を戒めて曰く、天下將に亂れんとす。子、第退守して、進取する勿かれ。我が家をして、雄資(二)先君の如きもの有らしめば則ち可なり。否らずして權を天下に爭ふは、是れ自ら禍を速くなりと。輝元、二叔の言を忘る。毛利氏故を以て削り(三)黜けらると云ふ。

(一) 前の日 (二) 賢くして智略に富むこと父上の如くなれば進取するもよし (三) 領地を削り減ぜられ官をおとさる

權於二天下一。是自速レ禍也。輝元忘二二叔言一。毛利氏以レ故削黜云。

外史氏曰。余安藝人也。俯二仰其都邑城池一。輒懷二毛利氏盛時一。毎レ觀二嚴島一。亦未三嘗不三想二見元就之鏖レ賊也。夫室町之時。天下紛紛。日事二兵爭一。如三羣兒鬪二暗中一。喧呶毆擊。一仆一起。誰知二其曲直一。孟子所レ謂無二義戰一者。是已。唯元就之於二陶賊一。與下北

外史曰く、余は安藝の人なり。其都邑城池を俯仰すれば、輒ち毛利氏の盛時を懷ふ。嚴島を觀る毎に、亦未だ嘗て元就の賊を鏖にせしを想見せずんばあらざるなり。(一)夫れ室町の時、天下紛紛として、日に兵爭を事として、羣兒の暗中に鬪ふが如し。(二)喧呶毆擊、一仆一起、誰か其曲直を知らん。孟子の所謂義戰なしとは、是のみ。唯元就の陶賊(四)に於けるは、北條早雲の堀越に於ける、羽柴秀吉の明智に於けると、其事皆稱(五)道すべし。故に其功効皆此の如きを致す。然れども戰國の俗は、唯利を見て、義を聞かず。陶賊の事の如き、四隣の牧伯、熟視して、敢て齟齬する莫し。甚しきは相率ゐて之に歸し、以て倚頼を爲すに至る。獨り元就、微力を以て誅討を圖り、而して又之を天子に請ふ。(六)名正しく、言從ふ。(七)義旗の指す所、堅きとして破れざるはなし。(八)炬を暗室に揭ぐるが如く、衆目駭き

係早雲之於二堀越一。羽柴秀吉之於中明智上。其事皆可二稱道一。故其功効皆致レ如レ此。而元就最其難者也。夫亂臣賊子。人得レ討レ之。然戰國之俗。唯見レ利而不レ聞レ義。如二陶賊之事一。四隣牧伯熟視。莫二敢齟齬一。甚至三相率歸レ之以爲二倚頼一。獨元就以二微力一圖二誅討一。而又請二之天子一。名正言從。義旗所レ指。無二堅不一レ破。如レ揭二炬暗室一。衆目駭觀。足下以伸二大義於天下一。使中天下響應歸上レ之。而何十三州之足レ圖也哉。

觀る。以て大義を天下に伸べ、天下をして響應して之に歸せしむるに足る。而るを何ぞ十三州の圖るに足らんや。(九)

(一) 胸中におもひ見ずにはゐられず (二) かまびすしく上ばはりうちあふ (三) 孟子に「春秋は義戰なし彼れ此より善きは則ち之あり」とあり (四) 陶晴賢 (五) はめていふ (六) 名義正しくして言も亦正し (七) 正義の旗 (八) 大義名分の明らかなるに喩ふ (九) 僅かに十三州を圖るごとき固より問題にはならずと也

大凡英雄成レ事。皆以爲二其智略所一レ致。而其事之合レ義。有下能服二人心一者上。而不二自知一

大凡そ英雄の事を成す、皆以て其智略の致す所と爲す。而して其事の義に合ひて、能く人心を服するものあり。而して(二)自ら知らざるなり。後の追論する者、亦徒に其成敗を視て、盡く其智慮に成ると謂ひ、而して天下の事、智慮の及ばざる所に出づる有るを知らず。況や夫の危疑の際に當りて、機會の來る、

也。後之追論者。亦徒視二其成敗一。謂四盡三於二其智慮一。而不レ知四天下之事有三出二智慮所上レ不レ及。況當二夫危疑之際一。機會之來。間不レ容レ髪。苟以二區區計算一。要二之萬全一。吾見二其終レ身而不一レ及レ事耳。故彼治世之論。不レ可三以揣二亂世英雄一也。吾論二元就一。不レ言二其智略一。而言二其果斷一。不レ言二其果斷一。而言下其事之合上レ義。至レ於レ請二之天子一。又義之大者矣。且觀下其效二貢賦一。助中舉朝儀上。則存二心王室一。非二一日一也。

(二)間、髪を容れず、苟も(三)區區の計算を以て、之か萬全を要するは、吾其の身を終(四)へて事に及ばざるを見るのみ。故に彼の治世の論は、以て亂世の英(五)雄を揣る可からざるなり。吾元就を論ずるに、其智略を言はずして、其果斷を言ひ、其果斷を言はずして、其事の義に合ふを言ふ。之を天子に請ふに至りては、又義の大なる者なり。且つ(六)其の貢賦を效して、(七)朝儀を助擧するを觀れば、則ち心を王室に存する、一日に非ざるなり。

(一)大義名分を唱道したるによる事を氣付かす　(二)眞に一寸の所なり　(三)小さき謀計　(四)一生掛りても遂に事業をなし遂げ志望を達すること能はず　(五)英雄の眞相をはかり知る可からず　(六)元就の言行の正義なることをいふ　(七)貢用を奉りて朝廷の儀式を助け擧行せる所を觀察すれば

昔者。孫堅以二

昔者、(一)孫堅英雄の姿を以て、志、漢室に嚮ひ、奮ひて強賊を討ち、身を出して

英雄之姿。志紹漢室。奮討強賊。出身不顧。又有策權之子。遂能據有江東。以魏武之勢。而不能取焉。毛利氏之以關西抗織田氏。庶幾類之矣。元春之善戰也類策。而隆景之善謀也類權。皆絕人之才。而戮力協心。臣事輝元。使之不失舊業。是其義最爲不可及焉。輝元雖無孫皓之虐。而不量力度德。而爭衡於中原。宜乎其側弱也。然其封土屹然。猶雄西陲者。豈非由元就父子之高義哉。

顧みず、又策・權といふ子あり。遂に能く江東を據有し、(三)魏武の勢を以てして、取る能はず。毛利氏の關西を以て織田氏に抗するは、之に類するに庶幾し。元春の善く戰ふは策に類し、而して隆景の善く謀るは權に類す。皆(四)絕人の才にして、力を勠せ、心を協せて、輝元に臣事し、之をして舊業を失はざらしむ。是れ其義最も及ぶべからずと爲す。輝元、(五)孫皓の虐なしと雖も、而も力を量り、德を度らずして、衡を中原に爭ふ。宜なるかな、其側弱せらるゝや。然れども其封土、(六)屹然として、猶ほ西陲に雄たる者は、豈に元就父子の高義に由るに非ざらんや。

(一) 支那の吳の孫堅　(二) 孫策・孫權といふ二人の子　(三) 支那の魏の武帝、操曹　(四) 人並はづる　(五) 孫權の子 虐は虐政　(六) きつとして西方にありて壯に大なるを得るは

外史氏曰。封建之成三勢於二我邦一也。其來遠矣。在昔王家。郡二縣七道一。治以二守介一。田以二口分一。四二徵租調一。而朝之職位。皆有レ田。有二食封一。有二功田一。其食封。多者不レ過二三千戶一。功田四等。

卷十三

德川氏前記

織田氏 上

外史氏曰く、(一)封建の勢を我邦に成すや、其の來ること遠し。在昔王家、七道を郡縣にして、治むるに(二)守介を以てす。田は(三)口分を以てし、租調を四徵す。而して朝の職位、皆田有り、(四)食封有り、(五)功田有り、其食封は、多き者も三千戶に過ぎず。功田は四等にして、之を世襲する者は、大功に止る。此時に當りては、未だ封建の勢有らざるなり。(六)相門、權を世〻にせしより、所在、封戶、日に多く、不輸の地、不課の民、天下に半す。後三條帝、其弊を矯めんと欲して、而して(七)遂ぐる能はず。是より以後、各國の(八)莊園、其十の八に居り、守介の治むる所は、僅に一のみ。甚しきは則ち國司、終に任に赴かず。而して權に其地方の豪族、武

世襲之者。止於大功。當此時。未有封建之勢也。自相門世襲。所在封戸日多。不輸之地。不課之民。半於天下。後三條帝欲矯其弊。而不能遂。自是以後。各國莊園。居其十八。守介所治。匯一焉。甚則國司終不赴任。而權延其地方豪族武人以自代。謂之日代。而至源氏起。國司置守護。莊園置地頭。分領糧粟。以備盜賊。則嚮所謂日代之類者。碁時六十州。而封建之勢始矣。

人を延きて、以て自ら代らしめて、之を日代と謂ふ。而して源氏起るに至りて、國司に守護を置き、莊園に地頭を置きて、糧粟を分領して、以て盜賊に備ふ。則ち嚮に謂ふ所の日代の類は、六十州に碁峙す(九)。而して封建の勢始る。

(一)諸侯を建つること　(二)地方官かみすけ　(三)田を丁年以上の者に分つて作らしむる法　(四)高き位官の人に賜ふ領戸　(五)功勞ある人に賜ふ田　(六)藤原氏　(七)朝廷に租税を納めぬ土地　(八)權門貴族私有の地、十の八は十の九に作るべしと　(九)將棋の駒の如く所々に勢を張る

北條氏因其遺制。守護之任。猶得考課易置。如古之國司。然往往因襲。傳之子

北條氏、其遺制(一)に因りて、守護の任、猶ほ考課(二)易置すること、古の國司の如くするを得たり。然れども往往因襲(三)して、之を子孫に傳へ、漸く封建の勢を成す。而して建武中興の時に至りて、朝廷、特恩を以て武臣の心を收めんと欲して、新田足利の諸族を以て、諸國の守護に充つ。概ね一姓を以て二三州に連ぬ。名(四)は守

孫。漸成二封建之勢一。而至二建武中興之時一。朝廷欲下以二特恩一收中武臣之心上。以二新田足利諸族一。充二諸國守護一。概以二一姓一連二二三州一。雖三名爲二守護一。其實封二建之一也。及二足利氏叛一。奪二其成績一。而與二之其子弟功臣一。仍稱二守護一。而世二襲之一。土地兵馬。儼然諸侯。而封建之勢成矣。

護たりと雖も、其實は之を封建にするなり。足利氏叛くに及びて、其成績(五)を奪ひて、之を其子弟功臣に與へ、仍りて守護と稱して、之を世襲せしむ。土地、兵馬、儼然たる諸侯なり。而して封建の勢成る。

(一) 遺れる制度　(二) 能否をしらべて賞罰を加ふ　(三) 子孫代々ひきつぐ　(四) 名義は守護といへども實際は封建に同じ　(五) 建武中興を指す

足利氏初務以二大封一啗二將士一。得下以撓中朝廷之權上。既得二天下一。而勢不レ可レ削。及二其政既衰一。其權臣構二難京師一。而所レ謂諸侯。羣起爲二之黨援一。

足利氏、初め務めて、大封を以て將士に啗はせて、以て朝廷の權を撓むるを得たり。既に天下を得て、勢(一)削るべからず。其政、既に衰ふるに及びて、其權臣、難を京師に構へて、(二)所謂諸侯は、羣起して之が黨援を爲し、又互に相呑滅して、益々强大を成す。而して最後に、織田氏、其陪臣を以て、(三)崛起して、之を并す。部下は皆一時の英豪、攻撃して四に出で、城を取り地を略する者は、因りて之を賞す。其志、盡く天下の故國(四)を勦きて、其功臣を以て之に代

又互相呑滅。益成強大。而最後織田氏。以其陪臣崛起而并之。部下皆一時英豪。攻撃四出。取城略地者。因而賞之。其志在於盡鋤天下故國。而以其功臣代之。未成而踣。而豊臣氏以其將校踵起。見織田氏所志甚難而不成也。是以舊國之降附者。存而撫之。大者或蟠踞八九州。而不加殺削。是以得速致於混一。而沒而未幾。海内分崩。由此觀之。封建之勢始於源氏。而成於足利氏。足利氏未享其利。而不勝其弊。織田豊臣承其弊。而不知裁之之術。蓋皆有待於我德川氏也。

ふるに在り。未だ成らずして踣る。(五)而して豊臣氏、其將校を以て踵ぎて起り、織田氏の志す所、甚だ難くして成らざるを見る。是を以て、舊國の降附する者は、存して之を撫す。大なる者、或は八九州に蟠踞して、(六)殺削を加へず。是を以て速に混一を致すを得たり。而も沒して未だ幾ならずして、海内分崩す。之に由りて之を觀れば、封建の勢は、源氏に始りて、而して足利氏に成る。足利氏未だ其利を享けずして、其弊に勝へず。(七)織田・豊臣、其弊を承けて、之を裁するの術を知らず。(八)蓋し皆我が德川氏に待つ有るなり。(九)

(一) 自然の成行上 (二) 黨を立て、援け合ひ (三) ぬきんで起る (四) 古き國を除きて (五) 信長の明智に弑せられて中途事業の敗れしといふ (六) わだかまり居る (七) 封建の利益にあづからず却つて其の弊に困む (八) 封建の弊を除きて整理する方法を知らず (九) 徳川の起るを待ちたるものなり

夫有二外諸侯一。有二内功臣一。内功臣之封。不レ能レ抗二外諸侯一。然後足下以親二戴衛三護其内一。而折二衝禦中侮其外上。否則功臣亦與二諸侯一等耳。無二戴レ我之心一。而有レ爭レ我之意。是織田氏所三以被二禍一也。雖三能存二外諸侯一。而不レ知三斷レ長補レ短。使二勢力略敵一。又不レ知下大封二宗族一。據二其扼塞一。犬牙相制。

夫れ外諸侯有り、内功臣有り。内功臣の封、外諸侯に抗すること能はず。然して後、以て其内を親戴衛護して、其外を折衝禦侮(二)するに足る。否らずんば、則ち功臣も亦、諸侯と等しからんのみ。(一)我を戴くの心無くして我と、爭ふの意有り、是れ織田氏の禍を被る所以なり。能く外諸侯を存すといへども、而も長を斷ち短を補ひて、勢力をして、略ゝ敵せしむるを知らず。又大に宗族を封じて、其(三)扼塞に據り、(四)犬牙相制して、以て其邪心を鎭壓するを知らず。是れ豐臣氏の嗣を(三)絕つ所以なり。織田氏は唯之を取るに難んず。故に之を分つに重んず。豐臣氏は唯之を取るに易んず。故に之を分つに輕んず。之を輕んずると之を重んずると、其情異なりと雖も、其の天下英雄の心を收むる能はざるは一のみ。故に曰く、二氏は封建の弊を承けて、而して之を裁するの術を知らずと。我が德川氏に至りては、(五)二氏の失に鑑みて、其衷(六)を秉り、之を矯むるに漸を以てし、其內外、輕重の際を權りて、以て萬世に維持す。封建の勢、是に於て、一定して復撼すべからず。

以鎮中厭其邪心上。是豐臣氏所二以絕一ㇾ嗣也。織田氏。唯難ㇾ於ㇾ取ㇾ之。故重ㇾ於ㇾ分ㇾ之。豐臣氏。唯易ㇾ於ㇾ取ㇾ之。故輕ㇾ於ㇾ分ㇾ之。輕ㇾ之與ㇾ重ㇾ之。其情雖ㇾ異。其不ㇾ能ㇾ收二天下英雄之心一一耳。故曰。二氏承二封建之弊一。而不ㇾ知二救ㇾ之之術一也。至二我德川氏一。鑑二二氏之失一。而乘二其衷一。矯ㇾ之以ㇾ漸。權二其內外輕重之際一。以維二持於萬世一。封建之勢。於ㇾ是一定不ㇾ可二復撼一焉。

㊀ 外諸侯の衝き來るほこさきをくじき其あなどりをふせぐ ㊁ 恭獻する意志なく却つて爭ふ意あり ㊂ おさへふせぐべき至要の地 ㊃ 親藩と功臣の藩とを犬の牙の如く入りまじらしめて置き相互に押へつけて ㊄ 織田豐臣の失敗の跡について考へ見て ㊅ 程よき所

唐柳宗元論二封建一曰。勢也。余曰。封建。勢也。制ㇾ勢。人也。彼生二郡縣之世一。而揣二利弊於千載之上一。使三其日二我邦之今日一。以爲二何如一哉。蓋德川氏之致二太平一。雖ㇾ由二參遠

唐の柳宗元(一)、封建を論じて曰く、勢なりと。余曰く、封建は勢なり。勢を制するは人なりと。彼郡縣の世に生れて、而して利弊(二)を千載の上に揣る。其をして我が邦の今日を目せしめば、以て何如と爲すか。蓋し德川氏の太平を致すは、參遠(三)勳舊の力に由ると雖も、而も新附將帥の功與れり。今の外藩列國、邦を足利氏以前に成す者は、島津、佐竹、伊達、上杉、毛利、鍋島の如き、是のみ。其餘は、皆二氏に由りて家を興す者、慶長庚子以後、封土を定賜し、之と更始すと雖も、而も猶ほ彼の漢の侯王(四)の陳項に於ける、唐の將相の周隋に於けるがごと

勳舊之力。而新附將帥之功與焉。今之外藩列國。成二邦於足利氏以前一者。如二島津佐竹伊達上杉毛利鍋島一。是已。其餘皆由二氏一興レ家者。雖二慶長庚子以後定二賜封土一。與レ之更始。而猶下彼漢侯王之於二陳項一。唐將相之於中周隋上。不レ源二其前代一。其建置本末不レ可二得而詳一也。余故先敍二氏一。而論二其勢之所二從來一如レ此。

し。其前代を源ねざれば、その建置本末、得て詳にすべからざるなり。余故に先づ二氏を敍して、其勢の從りて來る所を論ずること此の如し。

(一) 字は子厚有名なる文章家なり　(二) 利益と弊害を　(三) 參河遠江以來の戰功の舊臣　(四) 陳勝項羽

織田氏。出レ於二平重盛一。重盛次子。曰二資盛一。元曆中。平氏。與二源氏一戰レ于二西海一。大敗。舉族死亡。資盛有二孤兒一。其母懷レ之。匿レ于二近江津田鄕一。鄕長悅二其母色一。

織田氏は、平重盛より出づ。重盛の次子を資盛と曰ふ。(一)元曆中、平氏、源氏と西海に戰ひて、大に敗れ、擧族(二)死亡す。資盛孤兒有り。其母之を懷にして、近江の津田鄕に匿る。鄕長、其母の色を悅びて、之を納る。兒、從ひて、其家に育はる。越前織田莊(三)の祝人數々(四)京師に入りて、毎に鄕長に過りて宿るに會ふ。嘗て之に謂ひて曰く、吾れ老いて子無し。願はくは公の一子を得て之を養はんと。鄕長乃ち與ふるに平氏の孤兒を以てす。兒、終に織田氏を冒して、親眞と名のり、權大夫と稱す。子孫、世々祝人たり。足利氏天下を定むるに及びて、越前

納レ之。見從育ニ其家一。令下越前織田荘祝人數入ニ京師一。每過ニ郷長一宿上焉。嘗謂レ之曰。吾老無レ子。願得ニ公一子一養レ之。郷長乃與以ニ平氏孤兒一。兒終冒ニ織田氏一。名ニ親眞一。稱ニ權大夫一。子孫世爲ニ祝人一。及三足利氏定ニ天下一。越前尾張爲ニ斯波氏管國一。斯波義重嘗出遊。見ニ織田祝人之子一。美レ之載歸。以爲ニ近臣一。義重有ニ大吏六人一。其一人。有レ罪放流。乃以ニ織田氏一代レ之。於レ是。織田氏終爲ニ斯波氏重臣一。從レ於ニ尾張一。自ニ親眞一而後十五世。曰ニ敏定一。

尾張は斯波氏の管國と爲る。斯波義重嘗て出遊して、織田祝人の子を見て、之を美として載せ歸りて、以て近臣と爲す。義重、大吏六人有り。其一人罪ありて放流(五)せらる。乃ち織田氏を以て之に代ふ。是に於て、織田氏終に斯波氏の重臣(六)と爲る。尾張に從る。親眞よりして後十五世を、敏定と曰ふ。

(一)後鳥羽天皇の年號　(二)一族悉く　(三)村長　(四)美貌　(五)放逐せれて流罪に處せらる　(六)おもやく

敏定之時。斯波義敏。與ニ族義廉一爭レ立。敏定居レ間講和。請ニ義敏一養ニ義廉子義良一。而

敏定の時、斯波義敏、族義廉と立つを爭ふ。敏定間に居りて講和し、義敏に請ひて、義廉の子、義良を養はしめ、而して自ら之を輔けて、清洲城に居る。尾張凡そ八郡、分ちて上下と爲す。各〻四郡あり。敏定、下四郡を領し、(一)族信安をして岩倉城に居りて、上四郡を領せしむ。敏定、敏信を生み、敏信、常祐を生む。

自輔レ之。居二清洲城一。尾張凡八郡。分爲二上下一。各四郡。敏定領二下四郡一。使下族信安居二岩倉城一。領中上四郡上。敏定生二敏信一。敏信生二常祐一。相繼居二清洲一。敏定庶子信定稱二彈正忠一。信定子曰二信秀一。稱二備後守一。信秀以二支庶一降居二勝幡城一。與二族二人一並爲二宗家吏一。分治二四郡一。信秀嗜レ武喜レ士。士多歸レ之。

相繼ぎて清洲に居る。敏定の庶子(二)信定、彈正忠と稱す。信定の子を信秀と曰ふ。備後守と稱す。信秀、支庶(三)なるを以て、降りて勝幡城(四)に居り、族二人と竝に宗家の吏と爲りて、分ちて四郡を治む。信秀、武を嗜み士を喜ぶ。士多く之に歸す。

(一) 一族の者　(二) 妾腹の子　(三) 妾の子にて別家せるもの　(四) 尾張國に在り

時齋藤氏在二美濃一。今川氏在二駿河一。與二織田氏一日相攻擊。信秀徙居二古渡城一。天文十一年。八月。今川義元將レ

時に齋藤氏は美濃に在り。今川氏は駿河に在り。織田氏と日に相攻擊す。信秀徙りて古渡城(一)に居る。天文十一年八月、今川義元、兵に將として來り攻めて、小豆坂(二)に軍す。信秀逆へ戰ふ。衆寡較せず(三)。日暮將に退かんとす。敵兵尾擊する(四)こと甚だ急なり。信秀の弟信光、死士六人と返り戰ひて、之を卻く。十六年九月、信秀、常祐に從ひて、齋藤秀龍を稻葉山(五)に攻め、火を城下に縱ちて、將に還

兵來攻。軍レ于二小豆坂一。信秀逆戰。衆寡不レ較。日暮將レ退。敵兵尾擊甚急。信秀弟信光。與二死士六人一返戰。卻レ之。十六年。九月。信秀從二常祐一。攻三齋藤秀龍齋于二稻葉山一。縱二火城下一。將レ還。秀龍出戰。我兵大敗。常祐以下八人皆死レ之。十一月。秀龍遂攻二大垣城一。信秀卽赴援。擊二走秀龍一。

らんとす。秀龍出で戰ふ。我が兵、大に敗れて、常祐以下八人、皆之に死す。十一月、秀龍遂に大垣城を攻む。信秀卽ち赴き援ひて、擊ちて秀龍を走らす。

㈠ 尾張國に在り ㈡ 參河國に在り ㈢ ひどく追ふ ㈣ 追擊 ㈤ 美濃國に在り

秀龍者。山城西岡人。善二歌謠一。東游二美濃一。仕二土岐賴藝將長井某一。遂殺二長井一。直仕二賴藝一。終爲二其重臣一。稱二山城守一。削髮更二名道三一。遂逐二賴藝一。十七年。賴

秀龍は、山城の西岡の人、歌謠を善くす。東、美濃に游びて、土岐賴藝の將長井某に仕へ、遂に長井を殺して、直に賴藝に仕ふ。終に其重臣と爲りて、山城守と稱し、削髮して名を道三と更む。遂に賴藝を逐ふ。十七年賴藝來奔す。信秀善く之を遇す。因りて、美濃の將士を招く。將士應ずる者多し。八月、信秀往きて秀龍を討ちて、火を多藝(三)口に縱つ。秀龍和を請ふ。信秀比年兵興り、上下疲(四)弊するを以て、遂に之を許す。秀龍乃ち賴藝を復し、女を以て、信秀の子信長に妻はす。是の歲、信秀、(五)末盛城に徙る。二十年三月、信秀、疫を患へて卒す。

藝來奔。信秀善遇ㇾ之。因招ニ美濃將士一。將士多ニ應者一。八月。信秀往討ニ秀龍一。縱ニ火多藝口一。秀龍請ㇾ和。信秀以ニ比年兵興。上下疲弊一。遂許ㇾ之。秀龍乃復ニ賴藝一。以ㇾ女妻ニ信秀子信長一。是歲。信秀徙ニ末盛城一。二十年。三月。信秀患ㇾ疫卒。

㊀うたふことが上手なり　㊁待遇　㊂美濃國に在り　㊃疲れ衰ふ　㊄尾張國に在り

信秀有ニ十二男四女一。庶長子信廣。其次爲ニ信長一。信長幼字吉法師。信秀自居ニ古渡一。別城ニ那古野一。置ニ吉法師一焉。命ニ林通勝・平手政秀等傅一ㇾ之。甫十三。加ニ首服于古渡一。命ニ名信長一。字三郎。明年。信長始將ㇾ兵。入ニ參河一。攻ニ今川氏屬城吉良大濱一。縱ㇾ火而還。

信秀、十二男四女有り。庶長子信廣、其次を信長と爲す、信長幼字は吉法師なり。信秀自ら古渡に居り、別に那古野に城きて、吉法師を置く。林通勝・平手政秀等をして、之に傅㊀たらしむ。甫めて十三、首服㊁を古渡に加へ、名を信長と命ず。字は三郎といふ。明年、信長始めて兵に將として、參河に入りて、今川氏の屬城吉良・大濱を攻めて、火を縱ちて還る。

㊀もりやく　㊁元服をなす

信長幼跌蕩。喜ニ武事一。被服奇偉。喜帶ニ大刀一。其出行ニ街市一。或憑ニ人肩一。餡ニ餅菓一。傍若レ無レ人。常調レ馬。習ニ弓銃一。學レ泅。聚ニ近士一。令下以ニ竹槍一鬪上曰。槍利レ於レ長。乃造ニ二丈槍一。及ニ嗣立一。稱ニ上總介一。次弟信行。稱ニ勘十郎一。嘗爲ニ信秀一設ニ法會一。信長與ニ信行一偕往。拜ニ位前一。觀者甚衆。信長先進。攫レ香投ニ鑪內一。一拜而出。信行整レ容拈レ香。拜伏久レ之。觀者竊譽ニ信行一。有ニ西海僧一。在ニ衆中一。相ニ信長一曰。此子乃英雄也。

信長、幼より跌蕩(一)、武事を喜ぶ。被服奇偉にして(二)、喜びて大刀を帶ぶ。其出でて街市を行くや、或は人の肩に憑りて、餅菓を餡ふ。傍に人無きが若し。常に馬を調し、弓銃を習ひ、泅を學ぶ。近士を聚めて、竹槍を以て鬪はしむ。曰く、槍は長きに利ありと。乃ち二丈の槍を造る。嗣として立つに及びて、上總介と稱す。次弟信行、勘十郎と稱す。嘗て信秀の爲に法會を設く。信長、信行と偕に往きて、位前(三)に拜す。觀者甚だ衆し。信長、先づ進みて香を攫みて鑪內(四)に投じ一拜して出づ。信行容を整へて香を拈み、拜伏すること之を久しくす。觀者、竊かに信行を譽む。西海の僧有り。衆中に在りて、信長を相して(五)曰く、此子乃ち英雄なりと。

(一) 心廣くして放逸なること　(二) 風變りの衣服を著る　(三) 位牌の前　(四) 香爐の內　(五) 人相を見る

然信長放縱日甚。平手政秀驟諫レ之。政秀之子有二名馬一。信長請レ之。辭弗二肯獻一。信長怒。遂惡二政秀不レ聽二其言一。政秀憂懣曰。吾受二保傅之託一。而不レ能二匡救一焉。何以視三息於二人間一哉。二十二年。正月。政秀遂自殺。信長驚惋。自咎。屛居不レ出。爲建二佛院一。名曰二政秀寺一。忌日必詣。輒自矢曰。吾徒悔無レ益。當下改レ過厲レ行。立二大功於天下一。以償中前失上耳。於レ是益講二武事一。警二備鄰國一。

然れども信長放縱日に甚だし。平戸政秀、驟ゝ之を諫む。政秀の子、名馬を有す。信長之を請ふ。辭して肯て獻ぜず。信長怒りて、遂に政秀を惡みて、其言を聽かず。政秀憂懣(一)して曰く、吾れ保傅の託を受く。而して匡救(二)すること能はず。何を以て人間に視息せんやと。二十二年正月、政秀遂に自殺す。信長、驚惋(三)して、自ら咎め、屛居して出でず。爲に佛院(四)を建てて、名づけて政秀寺と曰ふ。忌日に必ず詣でて、輒ち自ら矢ひて曰く、吾れ徒に悔ゆるも益なし。當に過を改め行を厲み、大功を天下に立てて、以て前失(五)を償ふべきのみと。是に於て、益ゝ武事を講じ、鄰國に警備す。

㊀憂へいかる　㊁匡し救ふ　㊂驚きなげく　㊃寺　㊄前の過失をとりかへす

齊藤秀龍。以二

齊藤秀龍其婦翁(一)たるを以て、一たび見んと欲す。四月、富田の正德寺に會す。

其婦翁一欲二一見一。四月。會レ于二富田正徳寺一。秀龍豫使三將士盛服列坐一、欲下延二信長一過二其前一。以試中其動止上也。至レ期秀龍微行。潛二道傍民舍一。以覘二信長過一。信長爲二茶筅髻一。著二濶袖一。穿二虎皮袴一。佩二繩縦刀一。及大瓢一。健士八百人弓銃朱幹槍。各五百。從二其前後一。秀龍以爲二信長麤野一。命二其行人一。以二草具一。供レ之。

秀龍豫め將士をして、盛服(二)して列坐せしめ、信長を延きて其前を過ぎしめ、以て其動止(三)を試みんと欲す。期に至り、秀龍微行(四)して、道傍の民舍に潛みて、以て信長の過ぐるを覘ふ。信長、茶筅髻(五)を爲し、闊袖を著、虎皮の袴を穿き、繩縦刀(六)及び大瓢を佩ぶ。健士八百人、弓銃、朱幹槍(七)のもの、各〻五百、其前後に從ふ。秀龍以て信長を麤野(八)と爲して、其行人(九)に命じて、草具(一〇)を以て之に供せんとす。

(一)夫人の父　(二)衣服を著飾りて並び座せしめ　(三)信長のふるまひをためさんとす　(四)微服して行き　(五)茶筅の如き髪を結び闊袖の衣服を著　(六)柄を繩にて卷きなる刀　(七)朱柄の槍を持てる兵　(八)禮に閑はざる疎忽者として　(九)接待役　(一〇)粗餐なり

信長至レ寺。入二屏風中一。結レ髪更レ衣而出。儀容閑雅。雖二從

信長寺に至り、屏風中に入りて、髪を結び衣を更へて出づ。儀容閑雅(一)、從者と雖も、皆驚く。秀龍、其二宰春日・堀田をして出でて迎へしむ。信長、與(二)に言はず。

者皆驚。秀龍使其二宰春日堀田出迎。信長不與言。過羣士前。上堂倚柱而坐。頃焉。秀龍出。信長如不見者。堀田進曰。是山城守也。信長乃顧秀龍曰。適在道傍民舍中所見者。何酷類公也。乃接見之。於是秀龍復命具酒饌如儀。既畢。自送信長者數里。既別。目送久之曰。吁乎。美濃一國。吾終不得不爲之贄幣也。信長時年二十。

先是。常祐死于戰。其遺臣織田三位。坂井大膳。河尻

羣士の前を過ぎて、堂に上り柱に倚りて坐す。頃ありて、秀龍出づ。信長、見ざる者の如し。堀田進みて曰く、是れ山城守(三)なりと。信長乃ち秀龍を顧みて曰く、適〻道傍の民舍中に在りて見る所の者、何ぞ酷だ公に類すると。乃ち之を接見す。是に於て、秀龍復た命じて、酒饌(四)を具ふること儀の如くす。既に畢りて、自ら信長を送ること數里なり。既に別れて、目送(五)すること之を久しくして曰く、吁乎、美濃一國、吾れ終に之を贄幣(六)と爲さざるを得ずと。信長時に年二十なり。

(一) 身づくろひしとやか　(二) 二宰と言葉を交さず　(三) 秀龍　(四) 酒や膳部　(五) 見送る　(六) 賀引出物

是より先、常祐戰に死す。其遺臣織田三位・坂井大膳・河尻左馬等、常祐の子彦五郎を擁して、信秀・信長と兵を構ふ。斯波義統は、義良の孫なり。清洲城中に

左馬等。擁二常祐子彦五郎一。與二信秀信長一構レ兵。斯波義統者。義良孫也。居二清洲城中一。竊右二信長一。彦五郎等覺レ之。不二自安一。二十三年。七月。坂井河尻等襲二義統一。弑レ之。毛利秀孝以二義統孤兒一脫走。來二那古野一。信長奉三之于二天王坊一。謂二將士一曰。清洲。我宗家也。而弑二我累世之主一。

居て、竊かに信長を右く。彦五郎等、之を覺りて、自ら安んぜず。二十三年七月坂井・河尻等、義統を襲ひて、之を弑す。毛利秀孝、義統の孤兒を以て(一)脫走して、那古野に來る。信長、之を天王坊に奉じ、將士に謂ひて曰く、清洲は我が宗家(二)なり。而して我が累世(三)の主を弑す。誅せざるべからずと。乃ち柴田勝家等の七將を遣して、清洲を攻め、三位・左馬と城外に戰ひて、之を斬る。大膳人をして、援を守山(四)城主織田信光に乞はしむ。信光、陰かに之を信長に謀る。信長佯りて之を許さしむ。弘治元年四月、大膳、信光を城內に延きて、自ら兒大炊と來り見る。信光、兵を率ゐて往き、大炊を見るに及びて、立ちどころに刀を拔きて之を斬る。大膳出奔す。信長馳せ至りて、彦五郎を圍み、其弑逆を數めて、之を誅し、終に清洲を取りて、徙り居る。信光をして那古野に居らしめ、河東郡を食ましむ。已にして信光の家、內變(五)あり。其下の害する所と爲る。信長林通勝を以て、那古野の留守と爲す。

不レ可レ不レ誅。乃遣二柴田勝家等七將一。攻二清洲一。與二三位左馬一戰レ于二城外一。斬レ之。大膳使レ人乞三援於二守山城主織田信光一。信光陰謀二之信長一。信長使二伴許一レ之。弘治元年。四月。大膳延三信光於二城內一。自與二兄大炊一來見。信光率レ兵而往。及レ見二大炊一。立拔レ刀斬レ之。大膳出奔。信長馳至。鬭二彥五郎一。數二其弑逆一。誅レ之。終取二清洲一。徙居焉。令三信光居二那古野一。食二河東郡一。已而信光家內變。爲二其下所一レ害。信長以二林通勝一爲二那古野留守一。

一 のがれ走る　二 本家　三 代々　四 尾張國に在り　五 一家内の變亂

通勝患二信長慓悍一。與二弟光春柴田勝家一。謀三弑レ之而立二信行一。信長覺レ之。二年。五月。信長獨與二四弟信時一。卒往二那古野一。詷レ之。光春耳二語通勝一曰。是天幸

通勝、信長の慓悍を患へて、弟光春・柴田勝家と、之を弑して信行を立てんと謀る。信長之を覺る。二年五月、信長獨り四弟信時と、卒に那古野に往きて之を詷ふ。光春、通勝に耳語して曰く、是れ天幸なり。宜しく速かに大事を行ふべしと。通勝忍びず。信長還りて、名塚に砦し、佐久間大學をして之を守らしむ。八月、勝家・光春、各〻千騎に將として、急に名塚を攻む。名塚、急を清洲に告ぐ。信長、卽ち見兵七百を率ゐて赴き援ひ、織田造酒丞等をして、勝家に當らしめて、而して自ら光春と戰ふ、我が兵利あらず。隊將森可成、信長に謂ひて曰く、

也。宜三速行二大事一。通勝不レ忍。信長還。砦レ于二名塚一。令二佐久間大學守レ之。八月。勝家光春各將二千騎一急攻二名塚一。名塚告三急於二清洲一。信長卽率二見兵七百一。赴援。使三織田造酒丞等當二勝家一。而自與二光春一戰。我兵不レ利。隊將森可成謂二信長一曰。今日之戰。我軍克矣。信長問二何以知レ之。曰。光春有二驕色一。信長欲レ馳。可成曰。少俟レ之。已而光春愈乘レ勝縱二其麾下兵一。可曰成。可二以馳一矣。信長乃馳撃二破之一。手揮レ槍縱二殺光春一。遂轉赴二勝家軍一。大呼曰。我已獲二光春一矣。勿レ使二勝家逸一。勝家大怖。終走。歸二末盛城一。

今日の戰、我が軍克つと。信長何を以て之を知ると問ふ。曰く、光春、驕色有りと。信長馳せんと欲す。可成曰く、少しく之を俟てと。已にして光春、愈々(四)勝に乘じて、其麾下の兵を縱つ。可成曰く、以て馳すべしと。信長乃ち馳せて之を撃破し、手づから槍を揮ひて光春を縱(五)殺し、遂に轉じて勝家の軍に赴きて、大に呼びて曰く、我れ已に光春を獲たり。勝家をして逸(六)せしむる勿れと。勝家、大に怖れて、終に走りて、末盛城に歸る。

(一) 氣早にてあらし (二) さゝやく (三) 尾張國に在り (四) 高ぶる顏色あり (五) 突刺し殺す (六) 逃がす

信長母六角氏。愛二信行一。與レ之倶居二末盛一。

信長の母六角氏、信行を愛して、之と倶に末盛に居る。是に於て、六角氏、信行をして誓書を作らしめ、勝家・通勝、皆僧服(一)を被りて、來りて其罪を謝す。信長

於レ是六角氏令三信行作二誓書一。勝家通勝皆被二脅服一。來謝二其罪一。信長謂二通勝一曰。是吾之罪已。吾前背レ德忤レ諫。使二平手自殺一。汝自レ今代二平手一匡レ我。乃遣守二那古野一如レ故。信行仍不レ悛。城二龍泉寺一。欲下與二岩倉兵一合。略中取東郡上。令三其將都築藏人招二聚兵士一。勝家數諫。信行疏二斥之一。永祿元年。正月。信行饗二諸將士一。不レ及二勝家一。勝家怒。夜來二清洲一。告二信行反一。信長

通勝に謂ひて曰く、是れ吾の罪のみ。吾れ前に德に背き諫に忤ひて、平手をして自殺せしめたり。汝、今より平手に代りて我を匡せと。乃ち遣りて那古野を守らしむること故の如し。信行、仍ほ悛めず、(三)龍泉寺に城きて、岩倉の兵と合し、東郡を略取せんと欲して、其將都築藏人をして、兵士を招き聚めしむ。勝家數ゝ諫む。信行、之を(四)疏斥す。(五)永祿元年正月、信行、諸將士を饗して、勝家に及ばず。勝家怒りて、夜、清洲に來りて、信行反すと告ぐ。信長、乃ち疾と稱して、村井貞勝をして六角氏に告げしめて、家を信行に讓らんと欲す。六角氏悅びて、信行に告ぐ。信行卽ち至りて、將に信長の臥内に入らんとす。信長豫め力士三人を伏せて、之を斬らんとす。成らず。信行走り出づ。池田信輝要して郞下に擊ちて、之を斃す。

(一) ころも　(二) 行を正し正道に導け　(三) 尾張國に在り　(四) 疏んじしりぞく　(五) 正親天皇の年號

乃稱レ疾。使三村井貞勝告二六角氏一。欲レ讓三家於二信行一。六角氏悦。告二信行一。信行即至。將レ入二信長臥內一。信長豫伏二力士三人一斬レ之。不レ成。信行走出。池田信輝要二擊于廊下一。斃レ之。

二年。四月。齋藤秀龍欲下廢二長子義龍一立中少子某上。義龍誘殺二少子一。與二秀龍一鬭。遂弑レ之。信長將レ兵援二秀龍一。不レ及。還。義龍躡レ之。信長自殿而退。會下岩倉城主遙援二義龍一。以二兵三千一軍中丹原野上。時我見兵僅八十三騎。乃驅二清洲市人一。伐レ竹

二年四月、齋藤秀龍、長子義龍を廢して、少子某を立てんと欲す。義龍誘ひて少子を殺し、秀龍と鬭ひて、遂に之を弑す。信長兵に將として秀龍を援ふ。及ばずして還る。義龍、之を躡す(一)。信長自ら殿して退く。岩倉城主、遙かに義龍を援ひ、兵三千を以て丹原野(二)に軍するに會ふ。時に我が見兵、僅かに八十三騎なり。乃ち清洲(三)の市人を驅りて、竹を伐りて槍と爲し、軍後に列せしむ。敵以て大兵來ると爲して、乃ち退去す。七月、信長、犬山(四)城主織田信清と兵三千を合せて、岩倉を攻む。岩食の兵出でて、浮野(五)に戰ふ。信長弓銃手をして横擊せしめて之を走らせ、追ひて城下に至りて還る。信長は南行し、信清は北行す。城兵、信清の兵寡きを視るや、出でて之に尾す。信長還り援ひて、夾み擊ちて大に之を破り、遂に城を圍む。三月にして之を拔く。是に於て、信長盡く尾張を取る。獨智

爲レ槍。列レ于二軍後一。敵以爲二大兵來一也。乃退去。七月。信長與二犬山城主織田信清一合二兵三千一。攻二岩倉一。岩倉兵出。戰レ于二浮野一。信長命二弓銃手橫擊一走レ之。追至二城下一而還。信清北行。城兵覘二信清兵寡一也。出尾レ之。信長還援。夾擊大破レ之。遂圍レ城。三月。拔レ之。於レ是信長盡取二尾張一。獨智多一郡屬二今川氏一。

多一郡今川氏に屬せり。

(一)跡を追ふ　(二)尾張國に在り　(三)町人　(四)尾張國に在り　(五)同上

先レ是。鳴海城將山口某畔。附二今川氏一。又取二大高沓懸二城一。更城レ于二村木一。信長攻二下村木一。又攻二笠寺城一。城將戸部某。驍勇不レ可レ下。信長收レ兵而歸。以二戸部善一レ書。令二侍史學一レ之。期

是より先、鳴海の城將山口某畔きて、今川氏に附く、又、(一)大高・沓懸二城を取り、更に村木を城く。(二)信長、村木を攻め下し、又、笠寺城を攻む。城將戸部某、驍勇にして下すべからず。信長、兵を收めて歸る。戸部、書を善くするを以て、(三)侍史をして之を學ばしむ。期年にして得たり。乃ち戸部の織田氏に通ずるの書を(四)(五)贋作して、森可成をして、僞りて賈人と(六)爲り、齎して駿河に赴きて、之を義元に上らしむ。義元怒りて、戸部を召して之を殺し、又、山口父子を殺す。義元、既に駿河・遠江・參河を定め、將に大擧して尾張を攻めんとす。信長、諸城壘を修め、佐久間大學をして(七)鷲津を守り、飯尾定宗をして丸根を守らしめて、大高・笠(八)

年而得。乃置下作戸部通二織田氏一書上。令下森可成僞爲二賈人一齎赴二駿河一。上中之義元上。義元怒。召二戸部一殺レ之。又殺二山口父子一。義元既定二駿河遠江參河一。將三大學攻二尾張一。信長修二諸城壘一。令下佐久間大學守二鷲津一。飯尾定宗守中丸根上。與二大高笠寺兵一數戰。不レ決。

寺の兵と數々戰ひて、決せず。

㈠ 二城共に尾張國に在り ㈡ 同上 ㈢ 強くして勇氣あり ㈣ 一年 ㈤ にせて作る ㈥ 商人 ㈦ 尾張國に在り ㈧ 同上

三年。五月。義元自將二三國兵四萬五千一來攻。十八日。大學定宗馳二使清洲一告曰。義元昨日至二沓懸一。今夜將下運二糧大高一而且攻中兩城上也。信長召二將士一。言曰。我欲二赴

三年五月、義元、自ら三國の兵四萬五千に將として來り攻む。十八日、大學・定宗使を清洲に馳せて、告げて曰く、義元、昨日沓懸に至り、今夜、將に糧を大高に運びて、且、兩城を攻めんとすと。信長、將士を召して言ひて曰く、我れ赴き救はんと欲す、如何と。林通勝等說きて曰く、敵衆、五萬に垂んとす。而して我が兵、三千に過ぎず。宜しく其來鋭を避け、本城に據りて之を待つべしと。信長曰く、不可なり。吾れ天下の英雄を視るに、其池利を恃みて、以て事機を失ひ、自ら滅亡を取る者、少しと爲さず。先君言へる有り。鄰國の來り犯すに、苟も延疑す

救。如何。林通勝等說曰。敵衆垂二五萬一。而我兵不レ過二三千一。宜下避二其來鋭一據二本城一待上レ之。信長曰。不可。吾視二天下英雄一。恃二其地利一。以失二事機一。自取二滅亡一者。不レ爲レ少矣。先君有レ言。鄰國之來犯。苟有二遲疑一。我將士且變レ志。當二亟出迎戰一。吾不三敢背二先君之教一。明日將三一戰決二勝敗一也。與レ吾同レ志者努力。諸將莫二敢諫一者。

る有らば、我が將士且つ志を變ぜん。當に亟かに出でて迎へ戰ふべしと。吾れ敢て先君の教に背かず。明日將に一戰して、勝敗を決せんとす。吾と志を同じくする者は努力(四)せよと。諸將敢て諫むる者莫し。

㊀ 敵の多勢　㊁ 來たることはするどし　㊂ 事の機會　㊃ つとめはげめ

信長因命レ酒與飲。酒酣天明。信長自起舞。謠二古謠一曰。人世五十年。乃如二夢與一レ幻。有レ生斯有レ死。壯士將何恨。

信長因りて酒を命じて與に飲む。酒酣にして天明く。信長自ら起ちて舞ひ、古謠を謠ひて曰く、(一)人生五十年。乃ち夢と幻との如し。生あれば斯に死あり。壯士將た何をか恨みんと。舞畢り、卽ち甲を被り馬に上り、單騎鞭を擧げて出づ。騎能く屬する者十餘人なり。熱田祠に及ぶ比、千人を得たり。自ら戰勝を祈り、陰かに(二)祠官をして甲を(三)龕中に鳴らさしむ。信長軍士を顧みて曰く、

舞畢。卽被レ甲上レ馬。單騎擧レ鞭而出。騎能屬者十餘人。比レ及二熱田祠一。得二千人一。自新二戰勝一。陰使四祠官鳴三甲于二龕中一。信長顧二軍士一曰。神助レ我也。乃取二山路一。行收二諸城兵一。兵凡三千騎。東望見二兩城火起一。將士逡巡。信長益鞭二其馬一而進。林通勝。柴田勝家。池田信輝。毛利秀高。扣レ馬諫曰。彼大衆新勝。以二寡兵一犯レ之。立覆沒矣。信長厲レ聲曰。汝輩且聞二吾言一。吾

神我を助くるなりと。乃ち山路を取りて、行々諸城の兵を收む。兵凡そ三千騎なり。東望して兩城に火起るを見る。將士逡巡す。信長、益々其馬に鞭ちて進む。林通勝・柴田勝家・池田信輝・毛利秀高、馬を扣へて諫めて曰く、彼は大衆新に勝つ。寡兵を以て之を犯さば、立ちどころに覆沒せんと。信長聲を厲して曰く、汝が輩且く吾が言を聞け。吾れ妄意(四)に進みて敵を犯すに非ざるなり。敵、糧を大高に納れて、終夜息はず。今亦兩城を拔く。其兵罷れ極る。而して義元、我を侮りて、復た備を設けず。吾れ是の時に乘じて、其不意に出でば、一戰にして擒にすべきなりと。

(一) 常山紀談によれば猿樂に羅生門い曲舞はせられし時云々とあれども此の文句なし。幸若舞の敦盛に「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢の如く幻の如くなり、一度生をうけ、滅せぬものゝ有るべきか」とあり、是れか。此意は人生は恰も夢幻の如くにして生ある者は必ず死す、壯士何ぞ死すとも遺恨に思はんやとなり (二) 神官 (三) 社殿の中 (四) 妄りなる心

非ニ妄意進犯レ敵也。敵納ニ糧大高一。終夜不レ息。今亦拔ニ兩城一。其兵罷極。而義元侮レ我。不ニ復設一レ備。吾乘ニ是時一。出ニ其不意一。可ニ一戰而擒一也。

梁田出羽進贊ニ其計一曰。敵拔ニ兩城一未レ更ニ其陣一。中軍必在レ後。我直襲レ之。義元可レ獲矣。信長乃伏ニ旗鼓一。循レ山而馳。至ニ於桶峽一。瞰ニ視義元營一。信長欲ニ下レ馬接戰一。森可成曰。衆寡不レ敵。宜ニ騎而突一レ之。信長曰。善。乃馬上揮レ槍。先レ衆馳下。會大

梁田出羽進みて其計を贊して曰く、敵、兩城を拔きて、未だ其陣を更へず。中軍必ず後に在らん。我れ直に之を襲はば、義元獲べしと。信長乃ち旗鼓を伏せ、山に循ひて馳せ、桶峽に至りて、義元の營を瞰視す。信長、馬を下りて接戰せんと欲す。森可成曰く、衆寡敵せず。宜しく騎して之を突くべしと。信長曰く、善しと。乃ち馬上に槍を揮ひて、衆に先だちて馳せ下る。會〻大雷霧雨にして昏黒なり。我が兵、鼓譟して、營を斫りて入る。敵衆、大に驚きて擾亂し、出づる所を知らず。服部小平太進みて幕中に入りて、義元に薄る。義元、刀を拔きて其膝を撃つ。毛利秀高、義元を鏦して、其首を斬りて出づ。駿河の軍大に潰ゆ。信長追撃して、其精騎二千餘級を斬る。乃ち熱田に賽して還る。士女、路を夾みて迎へ觀る。信長、義元の首を馬前に揭げて、淸洲に凱旋す。大高・沓懸の諸城、皆

雷霧雨昏黑。我兵鼓譟。斫レ營而入。敵衆大驚擾亂。不レ知レ所レ出。服部小平太進入二幕中一。薄二義元一。義元拔レ刀擊二其膝一。毛利秀高鏦二義元一。斬二其首一而出。駿河軍遂大潰。信長追擊。斬二其精騎二千餘級一。乃賽二熱田一而還。士女夾レ路迎覲。信長揭二元首于馬前一。凱二旋清洲一。大高沓懸諸將皆解走。信長以レ此名聞二天下一。

解きて走る。信長此を以て、名、天下に聞ゆ。

(一)見下す　(二)まつくら　(三)騒ぎみだる　(四)つき刺して　(五)御禮まゐり

當二此時一。足利氏大衰。三好氏。松永氏。專二京畿之政一。而七道將士各據二其國一。迭相爭奪。信長慨然有下戡二定天下一之志上。初尾張人道家某。與二京師人立入宗繼者一相識。宗繼爲二左

此時に當りて、足利氏、大に衰へ、三好氏・松永氏、京畿の政を專にす。而して七道の將士、各々其國に據りて、迭に相爭奪す。信長、慨然として、天下を(一)戡定するの志有り。初め尾張の人道家某、京師の人立入宗繼と云ふ者と相識る。宗繼は左京亮たり。父祖より京郊に居りて、(二)田業多し。供御乏絕して、每に給を取る。嘗て中納言藤原惟房に說きて曰く、方今天下、大に亂れて、宮闕(四)頹廢し、供御の邑、(三)盡く武人の占むる所と爲る。臣を以て之を視るに、其勢、天下の豪傑を得るに非ざれば、以て天下の亂を定むるに足らず。聞く、尾張に織田信長といふ者有り。年甫めて二十にして、東國の咽喉に制據して、能く少を以て衆を

京亮。自ニ父祖一居ニ京郊一。多ニ田業一。供御乏絶。毎取レ給焉。嘗說ニ中納言藤原惟房一曰。方今天下大亂。宮闕頽敝。供御之邑。盡爲ニ武人所一レ占。以レ臣視レ之。其勢非レ得ニ天下豪傑一。不レ足ニ以定ニ天下之亂一。聞尾張有ニ織田信長者一。年甫二十。割ニ據東國之咽喉一。能以レ少摧レ衆。是其人必有ニ絶世之才一。君盍下奏請ニ綸旨一囑ニ信長一以中撥亂反正之事上。惟房畏ニ憚內外一。不ニ敢決一。宗繼再入。說レ之曰。事如漏泄。臣獨任ニ其責一。帝探ニ鬮鏡室一。決レ計。

擢くと。是れ其人必ず(五)絶世の才有らん。君盍ぞ奏して綸旨を請ひて、信長に囑するに、(六)撥亂反正の事を以てせざると。惟房、內外を畏憚して、敢て決せず。宗繼再び入りて、之に說きて曰く、事、如し(七)漏泄せば、臣獨り其責に任ぜんと。帝、鬮を(八)鏡室に探りて計を決す。

(一)討ち定む　(二)一本に右とあり　(三)田地や屋敷御料まゐり　(四)衰へやぶる　(五)世に珍らしき才　(六)亂を治めて正しき御代にかへす　(七)もれる　(八)八咫鏡を安置せる處、卽ち內侍所

五年。十月。惟房宣言。天子感ニ異夢一。將レ奉ニ幣于熱田祠一。乃使下宗繼及

五年十月、惟房、宣言す。天子、(一)異夢に感じて、將に幣を熱田祠に奉らんとすと。乃ち宗繼及び磯貝久次をして、(二)密旨を齎して、尾張に赴かしむ。因りて信長に錫ふに(三)御用合香を以てし、道家氏に館す。信長獵より歸りて、道家を過る。

磯貝久次齎二密旨一。赴二尾張一。因錫二信長一以二御用合香一。館二道家氏一。信長獵歸。過二道家一。道家告以レ故。信長乃沐浴更レ衣。出見二宗繼一。宗繼宣二達勅旨一。信長謂二宗繼一曰。吾聞。天子天下之君。宜二自レ我共一レ職焉。而今反辱二使命一。加以二寵貺一。吾何以堪レ之。當下藉二天威一以夷二凶徒一。不日入朝竭レ力圖上レ報。因自調レ食。以享二二使一。召二森可成。柴田勝家。丹羽長秀。木下秀吉。瀧川一益。菅谷長賴。堀秀政一。諗以二勅旨一。於レ是日夜議二西上之策一。

道家告ぐるに故を以てす。信長乃ち沐浴して衣を更め、出でて宗繼を見る。宗繼、勅旨を宣達す。信長、宗繼に謂ひて曰く、吾れ聞く、天子は天下の君と。宜しく我より職に共すべし。而るに今、反つて使命を辱くし、加ふるに寵貺(四)を以てす。吾れ何を以てか之に堪へん。當に天威を藉りて、以て凶徒を夷げ、不日入朝して、力を竭し報を圖るべしと。因りて自ら食を調へて、以て二使を享し、森可成・柴田勝家・丹羽長秀・木下秀吉・瀧川一益・菅谷長賴・堀秀政を召して、諗ぐるに勅旨を以てす。是に於て、日夜西上の策を議す。

㊀ 不思議なる夢　㊁ 內密の勅旨　㊂ 調合したる薫香　㊃ 御賜與の品

刈谷城主水野信元說曰。

刈谷城主水野信元說きて曰く、參河の德川氏は、舊今川に屬す。公宜しく之

參河德川氏。舊屬今川。公宜結納之。委之東事。而西面以圖天下。信長從之。甲斐國主武田信玄國富兵强。信長厚贈遺之。約爲婚姻。以順適其意。而西圖齋藤氏。

に結納(二)し、之に東事を委ねて、西面して以て天下を圖るべしと。信長、之に從ふ。甲斐の國主武田信玄國富み兵强し。信長厚く之に贈遺して、約して婚姻を爲し、以て其意に順適(三)して、西、齋藤氏を圖る。

(一) 參河國に在り (二) 腹を合せたより合ふ (三) したがひ合ふやうにす

齋藤秀龍之未死也。有二驍將。信長計除之。乃乘夜外出者數。夫人齋藤氏疑其有所私。頗有妬色。信長曰。吾非有他心。乃欲成祕計耳。夫人問其計。曰。不可

齋藤秀龍の未だ死せざるや、二驍將有り。信長之を除かんと計る。乃ち夜に乘じて外出すること數〻す。夫人齋藤氏、其の私する所有るを疑ひて、頗る妬色有り。信長曰く、吾れ他心有るにあらず。乃ち祕計を成さんと欲するのみと。夫人、其計を問ふ。曰く、女と言ふべからずと。固く問ふ。信長乃ち之を誑して曰く、美濃の二將、陰かに款を我に通じて、舅氏を圖る。曰く、事成らば則ち(五)燧を擧げんと。吾れ毎夜出でて之を望むに、未だ擧らざるなりと。夫人憂恐して、密かに書を爲りて、之を秀龍に告ぐ。秀龍驚きて、即ち其二將を誅す。齋藤

與レ女言一也。固問信長。乃詐レ之曰。美濃二將陰通二款於レ我。圖二弱氏一。曰。事成則擧レ燧。吾每夜出望レ之。未レ擧也。夫人憂恐。密爲レ書告二之秀龍一。秀龍驚。即誅二其二將一。齋藤氏兵力遂自レ是削弱矣。義龍既弑二秀龍一。傳二子龍興一。龍興暗弱。其將士多歸三心於二信長一。

氏の兵力遂に是より削弱す。義龍、既に秀龍を弑して、子龍興に傳ふ。龍興暗(六)弱なり。其將士多く心を信長に歸す。

(一)二人の強き大將　(二)ねためる顏色　(三)祕密の謀計　(四)齋藤秀龍　(五)のろし　(六)暗愚にして柔弱なり

四年。五月。信長將二兵千五百一。出二西美濃一。洲股城將長井某。日根野某。以二六千騎一迎レ之。觀二我兵寡一。徑レ淖而來。信長分レ兵爲二三隊一。以二一隊一自衞。一隊蹙二其前一。一隊橫二

四年五月、信長、兵千五百に將として、西美濃に出づ。洲股の城將長井某、日根野某、六千騎を以て之を迎へ、我が兵の寡きを觀て、(一)淖を徑りて來る。信長、兵を分ちて三隊と爲し、一隊を以て自ら衞り、一隊は其前に蹙り、一隊は之を横撃して、二將を斬る。是に於て、(二)九條・洲股に城きて、織田勘解由をして九條を守り、木下秀吉をして洲股を守らしむ。五年五月、齋藤龍興井口(三)城に在り。其將士に謂ひて曰く、洲股河漲る。信長未だ來る能はず。吾れ此時を以て九條を攻めんと欲すと。乃ち其將稻葉・牧村等を率ゐて、九條を攻む。九條、(四)急を信長に

擊レ之。斬二二將一。於レ是城二于九條洲股一。令下織田勘解由守二九條一。木下秀吉守中洲股上。五年。五月。齋藤龍興在二井口城一。謂二其將士一曰。洲股河漲。信長未レ能レ來。吾欲下以二此時一攻中九條上。乃率二其將稻葉牧村等一。攻二九條一。九條告二急信長一。

告ぐ。

(一) ぬかるみ　(二) 美濃國に在り　(三) 同上　(四) 危急

信長即赴援。至二河側一。不レ可レ渡。信長曰。吾寧溺死。豈可二坐視不一レ救乎。乃鞭レ馬亂レ流而渡。全兵從レ之。時既夜。九條城將爲二先鋒一。擊二走牧村一。與二稻葉一鬭死。池田信輝。佐佐成政。識二

信長即ち赴き援ひて、河側に至る。渡るべからず。信長曰く、吾れ寧ろ溺死するも、豈に坐視して救はざる可けんやと。乃ち馬に鞭ち流を亂して渡る。全兵之に從ふ。時既に夜なり。九條の城將先鋒と爲りて、擊ちて牧村を走らせ、稻葉と鬭ひて死す。池田信輝・佐佐成政、稻葉の聲を識る。交こも暗中に刺して、之を斃し、其首を讓りて取らず。柴田勝家之を取りて、獻じて曰く、信輝・成政、首を讓りて取らず。臣謹みて獻ずと。信長三士を褒賞す。凱して歸り、終に徙りて小牧(二)城に居り以て美濃に逼る。丹羽長秀を遣して、二城を攻め下す。龍興の將稻葉(一)通朝・氏家經國・伊賀範俊、龍興の失政を諫む。聽かず。七年八月、三將、款を信

稻葉擧。交刺于暗中。斃之。讓其首不取。柴田勝家取之。獻曰。信輝成政讓首不取。臣謹獻焉。信長褒賞三士。凱而歸。終徙居小牧城。以迫美濃。遣丹羽長秀攻下二城。龍興將稻葉通朝。氏家經國。伊賀範俊。諫龍興失政。弗聽。七年。八月。三將送款於信長。信長許之。乃擧言攻參河。以聚兵。兵既聚。乃率而西行。上瑞龍山。以瞰井口。縱火疾攻。城兵惶駭而降。乃逐龍興。三將來謁曰。君來何速也。信長既定尾張美濃。徙居于井口。更名岐阜。會有獻佳鷹二者。信長卻之曰。吾方有事四方。未暇遊獵。吾定天下。然後受爲未晩也。

長に送る。信長之を許す。乃ち參河を攻むと聲言して、以て兵を聚む。兵既に聚る。乃ち率ゐて西行し、瑞龍山に上りて、以て井口を瞰ひ、火を縱ちて疾く攻む。城兵惶駭(三)して降る。乃ち龍興を逐ふ。三將來り謁して曰く、君來る何ぞ速かなると。信長既に尾張・美濃を定め、徙りて井口に居り、更めて岐阜と名づく。會〻佳鷹二つを獻ずる者有り。信長之を卻けて曰く、吾れ方に四方に事有り。未だ遊獵(四)に暇あらず。吾れ天下を定めて、然る後に受くるも、未だ晩からずと爲すと。

(一) 尾張國に在り　(二) 政治の執り方の惡しきを諫む　(三) 恐れ驚く　(四) 遊獵するひま無し

十年。十月。天子復使立入宗繼齎詔來。詔信長曰。朕顧四方。莫如卿武。曩降密勅。囑以征討。卿存心王室。不憚跋渉。聞已平美濃。奮庸宣威。朕深嘉之。宜益廼果毅。以副朕望。因錫戰袍一領。信長召村井貞勝讀詔。領旨。感激。受其袍曰。臣督師詣闕之日。當服以拜賜耳。

十年十月、天子、復た立入宗繼をして、詔を齎らし來らしめて、信長に詔して曰く、朕、四方を顧みるに、卿が武に如くは莫し。曩に密勅を降して、囑するに征討を以てす。卿、心を王室に存し、跋渉(一)を憚らず。聞く、已に美濃を平げ、庸(二)を奮ひ威を宣ぶと。朕、深く之を嘉す。宜しく益〻果毅を廼んでて、朕が望に副ふべしと。因りて戰袍(三)一領を錫ふ。信長、村井貞勝を召し、詔を讀ましめて、旨を領して、感激し、其袍を受けて曰く、臣、師を督して闕(四)に詣づるの日は、當に服して賜を拜すべきのみと。

(一) あちらこちらとかけまはる　(二) いさを　(三) 錦直垂　(四) 朝廷に參内する日

先是。三好氏弑將軍足利義輝。義輝弟

是より先、三好氏、將軍足利義輝を弑す。義輝の弟義昭、走りて六角義賢に依りて、其力を借りて難を靖んぜんと欲す。三好康長・三好政康・岩成左通、三好の

義昭走依二六角義賢一。欲下借二其力一靖上レ難。三好康長。三好政康。岩成左通。稱二三好三黨一。專二京師政一。陰令三義賢圖二義昭一。義昭懼。走依二武田義統一。義統辭。又依二朝倉義景一。義景諾而不レ果。又喪二其愛子一。志氣頓沮。義昭流二寓於外三歲。聞二信長威名一。欲二往託一焉。使下卜人太華筮上レ之。遇二

三黨と稱して、京師の政を專にし、陰かに義賢をして義昭を圖らしむ。義昭懼れて、走りて武田義統に依る。義統、辭す。又、朝倉義景に依る。義景諾して果さず。又、其愛子を喪ひて、(一)志氣、頓に沮む。義昭、外に(二)流寓すること三歲なり。信長の威名を聞きて、往きて託せんと欲す。卜人太華をして之を筮せしむ。臨の節に之くに遇ふ。曰く、知にして臨む。大君の宜しき、吉。是れ之を柔、剛に任ずと謂ふ。剛に任ぜば、則ち勞せずして治らんと。義昭、(三)意を決す。十一年七月、遂に使をして來りて信長に諭さしむ。信長、方に西上を計る。卽ち之を諾して、將吏を遣して之を迎へ、立正寺に館す。義昭、信長を見て、託するに興復を以てす。信長答へて曰く、是れ信長の(四)度内に在るのみ。(五)幕下此に臨む。當に館を築きて以て之を奉ずべし。然れども信長、幕下の爲に京師を定むる、兩月を出でじ。館を以て爲す莫きなりと。

(一) 元氣が急になくなる (二) 他鄉に身を寄する (三) 決心す (四) 意見の中 (五) 將軍義昭

臨之節。曰。知臨。大君之宜。吉。是之謂柔任於剛。任於剛。則不勞而治也。義昭決意。十一年七月。遂使使來諭信長。信長方計西上。即諾之。遣將吏迎之。館于正立寺。義昭見信長。託以興復。信長答曰。是在信長度內耳。幕下臨此。當築館以奉之。然信長爲幕下定京師。不出兩月矣。莫以館爲也。

八月。五日。大會將士于岐阜。謂之曰。吾將有事於京畿。汝衆。各修兵備。以竢我令。乃盡散遣之。自率數十騎。至澤山。使使六角義賢。說以順逆。義賢及子義弼。業已與三好三黨。三黨聞信長助義昭。

八月五日、大に將士を岐阜に會して、之に謂ひて曰く、吾れ將に京畿に事有らんとす。汝衆、各〻兵備を修めて、以て我が令を竢てと。乃ち盡く之を散遣し、自ら數十騎を率ゐて、澤山(一)に至りて、使を六角義賢に使して、說(二)くに順逆を以てす。義賢、及び子義弼、業已に三好の三黨に與す。三黨、信長の義昭を助くと聞き、則ち益〻義賢・義弼に啗はすに利を以てす。曰く、力を竭して以て信長を拒ぐ、曠日彌久せよ。我れ大軍を以て後援を爲さんと。信長、澤山に在ること十日、使者、三反す(三)。義賢、竟に聽かず。信長、乃ち美濃に歸る。近江の地圖を索めて、諸將と之を計畫す。令を管内に下して曰く、九月五日を以て、岐阜に會せよと。會する者凡そ三萬人なり。七日、信長、諸軍に將として西す。義賢・義弼、觀音寺城

則益昭二義賢義弼一。以レ利。曰。竭レ力以拒二信長一。曠日彌久。我以二大軍一爲二後援一也。信長在二澤山一十日。使者三反。義賢竟弗レ聽。信長乃歸二美濃一。秉二近江地圖一。與二諸將一計二畫之一。下二令管內一曰。以二九月。五日一。會二于岐阜一。會者凡三萬人。七日。信長將二諸軍一而西。義賢義弼。居二觀音寺城一。修二箕作和田山等十八城一。以三和田山當二美濃之衝一。最固二其壘壁一。守以二精兵一。欲下待二我軍攻一レ之而首尾相救上。

に居り、箕作・和田山等の十八城を修め、和田山は美濃の衝に當るを以て、最も其壘壁を固くして、守るに精兵を以てす。我が軍の之を攻むるを待つて首尾相救はんと欲す。

(一) 近江國に在り　(二) 將軍義昭に從ふことの正道にして三黨に與することの逆道なる所以なるを說き明かす

(三) 三回往復す

信長諜二知其計一。乃使三美濃三將備二和田山一。而宣三言向二觀音寺一。因引レ兵襲二箕作一。城兵出戰。木下秀吉丹羽長

信長、其計を諜知して(一)、乃ち美濃の三將をして、和田山に備へしめて、觀音寺に向ふと宣言して(二)、因りて兵を引きて箕作を襲ふ。城兵出で戰ふ。木下秀吉・丹羽長秀等、先鋒と爲りて、故に緩く之を攻め漸く城下に至れば、則ち奮擊突入して、卒に之を拔く。和田山城、風を望みて解きて去る。義賢・義弼、夜、城を棄てて遁る。信長、三日(三)にして十八城を下し、自ら觀音寺に入りて、政を國中に爲

秀等爲二先鋒一。故緩攻レ之。淅至二城下一。則奮擊突入。卒拔レ之。和田山城望レ風解去。義賢義弼夜棄レ城遁。信長三日下二十八城一。自入二觀音寺一。爲二政國中一。招二聚逃亡一。使三人迎二義昭一。相三見于二守山一。明日。濟レ湖陣二于園城寺一。湖山之間。無レ非レ兵者一。三好三黨驚懼。棄二京師一去。於レ是信長整二諸軍一入二京師一。天子使三藤原惟房迎勞二之粟田口一。信長稽首。謂二惟房一曰。臣屢辱二過寵一。不レ勝二悚懼一。幸爲レ臣謝。立入宗繼又從二惟房一至。信長指二所レ服戰袍一。謂レ之曰。是嚮所レ賜也。於レ是使三義昭居二淸水寺一。而自陣二東福寺一。自レ出二美濃一至レ此。蓋十有

し、逃亡を招聚して、人をして義昭を迎へしめ、守山に相見る。明日、湖を濟りて、園城寺に陣す。(四)湖山の間、兵にあらざる者無し。三好の三黨、驚懼して、京師を棄てて去る。是に於て、信長、諸軍を整へて京師に入る。天子、藤原惟房をして、迎へて之を粟田口に勞はしむ。信長稽首(五)して、惟房に謂ひて曰く、臣、屢〻過寵(六)を辱くして、悚懼(七)に勝へず。幸に臣の爲に謝せよと。立入宗繼、又惟房に從ひて至る。信長、服する所の戰袍を指して、之に謂ひて曰く、是れ嚮に賜ひし所なりと。是に於て、義昭をして淸水寺に居らしめて、自ら東福寺に陣す。美濃を出でしより、此に至りて、蓋し十有二日なり。

(一)間諜を放ちてさぐり知り　(二)言觸らし　(三)一本に二日とあり　(四)湖と山の間悉兵なり　(五)首を下げておじぎをする　(六)身分に過ぎたる寵愛　(七)恐れかしこむ

二日矣。

京師士民。固聞二信長威武一。慮二其暴掠一。相驚曰。信長至矣。皆荷擔而走。及二信長至一。號令嚴明。秋毫不レ犯。使三菅谷長賴巡二行街市一。織田氏養卒。有下與二賈人一爭レ價者上。輒執縛二之樹一。以視二行道者一。於レ是士民相告而歸。物情大安。

京師の士民、固より信長の威武を聞く。其暴掠(一)を慮りて、相驚きて曰く、信長至ると。皆荷擔(二)して走る。信長至るに及びて、號令嚴明秋毫も犯さず(三)。菅谷長賴をして街市を巡行せしむ。織田氏の養卒(四)、賈人と價を爭ふ者有り。輒ち執へて之を樹に縛して、以て行道の者に視す。是に於て、士民相告げて歸る。物情(五)、大に安し。

(一) 亂暴して掠取る (二) 家財をになひかたづけて (三) 少しも人民に害を加へず (四) 兵卒 (五) 世間の樣子が大に落着く

信長聞三三黨據二山城攝津河内諸城一。卽

信長、三黨、山城・攝津・河内の諸城に據ると聞きて、卽日、柴田勝家・森可成等を遣して、萬人に將として、桂川を渉り、岩成左通(一)を青龍寺に攻めしめ、明日、

日。遣柴田勝家森可成等。將萬人。渉桂川。攻岩成左通于青龍寺。明日。自以五萬騎繼之。左通望見大懼。以城降。乃以左通爲先導。攻三好政康于芥川。篠原長房于越水。二城皆潰。乃奉義昭於越水。而自入芥川。十月。自攻池田勝政于池田。勝政善拒。我兵縱火奮戰。奪闕而入。勝政終降。獻質子五人。乃宥之。加賜二千貫邑。高槻茨木諸城。聞之皆降。三好康長等棄河內。走歸阿波。信長告成事於義昭。於是使信長自擇邑。信長辭。不敢取。請分之幕府功臣。

自ら五萬騎を以て之に繼ぐ。左通、望見して大に懼れて、城を以て降る。乃ち左通を以て先導と爲して、三好政康を芥川に、篠原長房を越水に攻む。㈡二城皆潰ゆ。乃ち義昭を越水に奉じて、自ら芥川に入る。十月、自ら池田勝政を池田に攻む。勝政善く拒ぐ。我が兵、火を縱ちて奮戰し、闕を奪ひて入る。勝政終に降る。質子五人を獻ず。乃ち之を宥して、二千貫の邑を加賜す。高槻・茨木の㈠諸城、之を聞きて皆降る。三好康長等、河內を棄てて走り、阿波に歸る。信長、成㈢事を義昭に告ぐ。是に於て、信長をして自ら邑を擇ばしむ。信長、辭して敢て㈣取らず。請ひて之を幕府の功臣に分つ。

㈠ 山城國に在り　㈡ 二城共に攝津國に在り　㈢ 平定　㈣ 一本敢の字無し

先レ是。伊丹親興。畠山高政。三好義繼。松永久秀。數與二三黨一戰。先送三欵于二美濃一。以レ故分三河内于二高政義繼一。分三攝津于二親興勝政。及和田惟政一。令三久秀居二志賀城一。以定二大和一。攻二筒井順慶一。順慶降。信長自留三吏于二界浦大津一。乃歸二京師一。陣二清水寺一。當二是時一。京畿將士執二謁信長一。軍門如レ市。朝廷論二信長功一。敍二從四位下一。任二左兵衞督一。信長辭曰。臣以二天之道一。得レ克二強賊一。敢攘以爲レ功。以辱二顯爵一。乃敍二從五位下一。任二彈正忠一。

是より先、伊丹親興・畠山高政・三好義繼・松永久秀、數〻三黨と戰ひて、先づ款を美濃に送る。故を以て、河内を高政・義繼に分ち、攝津を親興・勝政及び和田惟政に分ち、久秀をして(一)志賀城に居らしめ、以て大和を定め、筒井順慶を攻めしむ。順慶降る。信長自ら吏を界浦・大津に置き、乃ち京師に歸りて、清水寺に陣す。是の時に當りて、京畿の將士、謁を信長に執りて、(二)軍門市の如し。朝廷、信長の功を論じて、從四位下に敍し、左兵衞督に任ず。信長、辭して曰く、臣、(三)天の道を以て、强賊に克つを得たり。敢て攘みて以て功と爲して、以て顯爵を辱しめんやと。乃ち從五位下に敍し、彈正忠に任ず。

(一) 大和國に在り (二) 陣營の門前は多數の人にて市の如し (三) 天理自然の道

義昭私以ニ信長一爲ニ管領一。賜ニ號副將軍一。皆辭不レ受。義昭賀ニ成事一。欲レ張ニ散樂十三曲于其第一。信長諫曰。方今凶賊纔服。四方未レ平。此非ニ優游之秋一也。且諸軍士多ニ思レ歸者一。宜ニ如レ式而止一也。乃省爲ニ五曲一。即日。釋レ兵。撤ニ畿內關案一。以便ニ行旅一。遠近悅服。義昭病ニ信長有レ功無ニ賞也。爲レ書褒レ之。呼ニ信長一曰レ父。信長乃歸ニ岐阜一。

義昭、私に信長を以て管領と爲し、號を副將軍と賜ふ。皆辭して受けず。義昭、成事を賀して、散樂(一)十三曲を其第に張らんと欲す。信長諫めて曰く、方今、凶賊纔かに服するも、四方未だ平がず。此れ優遊(二)の秋に非ざるなり。且つ諸軍士、歸るを思ふ者多し。宜しく式(三)の如くにして止むべしと。乃ち省きて五曲と爲す。即日、兵を釋き、畿內の關案(四)を撤して、以て行旅を便にす。遠近、悅服す。義昭、信長の功有りて賞無きを病ふ。書を爲りて之を褒め、信長を呼びて父と曰ふ。信長乃ち岐阜に歸る。

(一) 猿樂　(二) のどかに遊ぶ時にあらず　(三) かたばかりしておく　(四) 關所とりでを廢し旅行に便利ならしむ

十二年。正月。三黨與ニ齋龍興等一。圍ニ義

十二年正月、三黨、齋藤龍興等と、義昭を本國寺に圍む。信長、警を聞きて、單騎赴き援ふ。至れば則ち已に平ぐ。諸國の兵後れ至る者五萬なり。信長、初め

昭于二本國寺一。信長聞レ警。單騎。赴援。至則巳平。諸國兵後至者五萬。信長初令二畿内豪戸一。納三金于二足利氏一。獨界浦不レ奉レ命。又資二三黨一。信長宣三言屠二界浦一。浦人號哭乞レ哀。乃使レ上二贖金二萬貫一。就二二條武衛陣故址一。拓二修幕府一。四月。成。使二義昭居一レ焉。以備二寇賊一。

畿内の豪戸(一)に令して、金を足利氏に納れしむ。獨り界浦、命を奉ぜず。又三黨を資く。信長、界浦を屠らん(二)と宣言す。浦人號哭して哀を乞ふ。乃ち贖金(三)二萬貫を上らしめて、二條武衛陣(四)の故址に就きて、幕府を拓修す。四月成る。義昭をして居らしめて、以て寇賊に備ふ。

(一) 富家　(二) 攻めんと言觸らす　(三) 代償金　(四) 幕府

於レ是信長召二村井貞勝島田秀滿僧日乘等一。諭レ之曰。應仁以來。天下大亂。王室衰微。宮闕墜廢。凡居二王土一

是に於て、信長、村井貞勝・島田秀滿・僧日乘等を召して、之を諭して曰く、應仁以來、天下、大に亂れて、王室衰微(一)し、宮闕墜廢す。凡そ王土に居て、王臣たる者、誰か嗟悼(二)せざらん。信長、夙に修擧(三)の志有るも、兵亂倥偬(四)にして延きて此に至る。今や畿内粗定る。當に禁内を修めて以て帝座を安んずべし。然りと雖も、戰後の興役(五)は、急に逼るべからず。恐らくは民情を擾さん。宜しく漸を以て之を

爲二王臣一者。誰不二嗟悼一。信長夙有二修擧之志一。兵亂倥偬。延而至レ此。今畿内粗定。當下修二禁内一以安中帝座上。雖レ然。亂後興役。不レ可二急逼一。恐擾二民情一。宜二以レ漸成一レ之。乃留二木下秀吉一守二京師一。而歸。遂略二近畿諸國一。

成すべしと。乃ち木下秀吉を留めて京師を守らせて歸る。遂に近畿の諸國を略す。

㈠壞れさびれること　㈡嗟きいたむ　㈢宮闕を修め築く　㈣いそがはし　㈤役一本に復とあり、普請を起す

七月。遣レ兵。以二伊丹親興池田勝政一。爲二先鋒一。略二但馬一。攻二山名氏一。八月。自將二兵五萬一。略二伊勢一。攻三北畠具教于二大河内一。旬餘。具教將柘植某

七月、兵を遣して、伊丹親興・池田勝政を以て先鋒と爲して、但馬を略し、山名氏を攻む。八月、自ら兵五萬に將として、伊勢を略し、北畠具教を大河内に攻む。旬餘にして、具教の將柘植某、款を信長に送りて、具教を殺して、以て我が兵を啓く。信長、柘植を縛して、之を數めて曰く、汝、人臣と爲りて、其君を弑して、以て敵に降る。容すべからずと、乃ち斬りて以て徇ふ。次子信雄を以て、北畠氏の㈠後と爲して、大河内に居らしめ、十萬石を食ましむ。三子信孝を、神戸氏の後と爲

送款信長。殺具教。以啓我兵。信長縛柘植。數之曰。汝爲人臣。弑其君。以降敵。不可容也。乃斬以徇。以次子信雄。爲北畠氏後。居大河内。食二十萬石。三子信孝。爲神戸氏後。居神戸城。弟信包。居上野城。各食五萬石。信雄幼字茶筅。信孝幼字三七。皆庶出也。十一月。信長徑入京師。戒皇宮工事。是歳。置赤黑母衣各十騎。以將士子弟材武者充之。

して、神戸城に居らしめ、弟信包を、上野城に居らしめて、各々五萬石を食ましむ。信雄、幼字は茶筅、信孝、幼字は三七、皆庶出なり。十一月、信長、徑に京師に入りて、皇宮の工事を戒む(三)。是の歳、赤黑母衣各々十騎を置き、將士の子弟の材武の者を以て之に充つ。

(一) 後嗣として　(二) 妾腹の子　(三) 普請の準備をなさしむ

元龜元年。二月。入京師。四月。張散樂于將軍新第。大會徳川氏以下諸將領。義

元龜元年二月、京師に入る。四月、散樂を將軍の新第(一)に張り、大に徳川氏以下の諸將領を會す。義昭爲に奏して、信長の官爵を進めんと請ふ。信長固辭す。朝倉義景命を拒むを以て、自ら往きて之を討ち、敦賀に至りて、手筒(二)城を攻む。一晝夜にして拔きて之を屠る。進みて金崎を攻めて、守將朝倉景恆を降して、以て先

昭爲奏。請進信長官爵。信長固辭。以朝倉義景拒命。自往討之。至敦賀。攻手筒城。一晝夜拔而屠之。進攻金崎。降守將朝倉景恆。以爲先導。欲遂定國内。會淺井長政招六角氏餘黨與義景約夾擊信長。長政爲小谷城主。信長妹婿也。信長得報。不信。警聞益至。信

導と爲し、遂に國内を定めんと欲す。會〻淺井長政、六角氏の餘黨を招きて、義景と約して、夾みて信長を擊たんとす。長政は小谷城主たり。信長の妹婿なり。信長、報を得て信ぜず。警聞益〻至る。信長乃ち若狹より京師に入らんと欲す。義景の追躡(三)を恐る。木下秀吉、自ら留り備へんと請ふ。信長、壯なりとして之を許す。諸將をして人ごとに三四十騎を出して、以て秀吉を助けしめ、而して兵を引きて西す。徳川公殿たり。(四)朽木谷に至る。朽木元綱、甲を被り兵を率ゐて迎ふ。信長、其の異心有るを疑ふ。松永久秀曰く。臣、請ふ往きて之を質さん。即し(五)他故有らば、之を刃して死せんと。乃ち馳せ往きて元綱を諭す。元綱、甲を脫ぎ兵を撤して、以て信長を饗し、送りて京師に至る。秀吉も亦至る。信長乃ち義昭の爲に、京畿將士の質を徵し、近江の地を割き、森可成をして志賀・宇佐山を守り、柴田勝家をして長光寺を守り、佐久間信盛をして長原を守り、木下秀吉をして長濱を守らしめて、美濃に歸る。敵兵、鯰江、市原に要すと聞きて、乃ち蒲生賢秀

長乃欲下自二若狹一入中京師上。恐二義景追躡一。木下秀吉自請二留備一。信長壯而許レ之。令下諸將入・出二三四十騎一。以助中秀吉上。而引レ兵西。德川公爲レ殿。至二朽木谷一。朽木元綱被レ甲率レ兵而迎。信長疑三其有二異心一。松永久秀曰。臣請往賀レ之。即有二他故一。刃レ之而死。乃馳往諭二元綱一。元綱脫レ甲撤レ兵。以饗二信長一。送至二京師一。秀吉亦至。信長乃爲二義昭一徵二京畿將士之賀一。割二近江地一。令下森可成守二志賀宇佐山一。柴田勝家守二長光寺一。佐久長信盛守二長原一。木下秀吉守中長濱上。而歸二美濃一。聞下敵兵要三于二鯰江市原一。乃以二蒲生賢秀等一。爲二鄕導一。由二千種路一歸。六角義賢使三善レ銃者杉谷善住伏二山木中一。狙二信長過一。連發二二丸一。中二其衣袖一。從兵愕。欲レ索レ之。信長不レ許。金森長近密與二信長一易レ衣。乘二其輿一而歸。終達二岐阜一。

等を以て、鄕導と爲して、千種路より歸る。六角義賢、善く銃する者杉谷善住をして、山木の中に伏せしめて、信長の過ぐるを狙ひて、連ねて二丸を發し、其衣の袖に中つ。從兵愕きて、之を索めんと欲す。信長許さず。金森長近、密かに信長と衣を易へ、其輿に乘りて歸り、終に岐阜に達す。

㊀新しき第宅　㊁越前國に在り　㊂追かける　㊃近江國に在り　㊄謀叛の志有らば

六月。六角義賢糾二合土寇一。出二野洲川一。勝

六月、六角義賢、土寇(一)を糾合して、野洲川に出づ。勝家・信盛、邀へ撃ちて之を破る。各〻三萬貫を加賜(二)せらる。淺井長政・朝倉義景、比長刈安に壘して、近江

家信盛邀撃破之。加賜各三萬貫。淺井長政。朝倉義景。壘于比長刈安。令近江驍將堀某樋口某守釜川城。信長欲誘降之。美濃人竹中重治。爲信長說二將曰。子守城者。欲何爲。曰。欲立功。曰。立功以爲何人乎。曰。爲淺井朝倉氏。曰。織田君爲天子將軍起義兵。而二氏不助。爲欲乘其危圖之。是天下所切齒。而子爲之立功。爲士者固如此

の驍將堀某・樋口某をして、釜川城を守らしむ。信長、之を誘降せんと欲す。美濃の人竹中重治、信長の爲に二將を說きて曰く、子の城を守るは、何をか爲さんと欲すと。曰く、功を立てんと欲すと。曰く、功を立てて以て何人の爲にするかと。曰く、淺井・朝倉氏の爲にすと。曰く、織田君、天子・將軍の爲に義兵を起す。而るに二氏助けずして、其危きに乘じて之を圖らんと欲す。是れ天下の切齒する所なり。而して子は之が爲に功を立てんとす。(四)士たる者は固より此の如きかと。二將乃ち重治に因りて降り、各々質子を獻ず。信長以て先導と爲し、自ら將として之に繼ぐ。諸壘皆解きて走る。乃ち長政を小谷城に攻む。城甚だ險なり。森可成・坂井政尚等、城兵と雲雀山に戰ひて、之を破る。

(一) 地方の叛民　(二) たゞしあはす　(三) はぎしりして遺憾とする所　(四) 士たるものはかくあるべきものか心得違なるべし

乎。二將乃因二重治一降。各獻二質子一。信長以爲二先導一。自將繼レ之。諸壘皆解走。乃攻三長政于二小谷城一。城甚險。森可成。坂井政尙等。與二城兵一戰レ于二雲雀山一。破レ之。

信長引二諸軍一。上二虎姫山一。議二攻レ城策一。佐久間信盛進曰。拔レ之不レ難。恐損二我兵一。主君以レ身任二天下一。何必レ乎レ此。信長乃焚二城四面一而還。令二佐佐成政梁田出羽中條將監爲一レ殿。柴田勝家曰。此輩兵不レ盈レ千。盍レ命二臣若信盛一。信長曰。否。大

信長、諸軍を引きて、虎姫山に上りて、城を攻むるの策を議す。佐久間信盛進みて曰く、之を拔くこと難からず。恐らくは我が兵を損ぜん。主君、身を以て天下に任ず。何ぞ此に必せんと。信長、乃ち城の四面を焚きて還る。佐佐成政・梁田出羽・中條將監(一)をして殿たらしむ。柴田勝家曰く、此輩、兵千に盈たず。盍ぞ臣若しくは信盛に命ぜざると。信長曰く、否、大兵險地に敗れば、復た收むべか(二)らず。故に此三人に命ず。且つ吾れ自ら留りて之を號令せん。卿等先づ去れと。乃ち自ら近臣二百騎を引きて、返りて三人を助く。三人、之を辭し、迭に殿して退く。城兵、尾撃す。三人且つ戰ひ且つ卻き、遂に軍を全くして歸る。遂に横山城を攻む。城將、急を長政に告ぐ。長政、援を義景に乞ふ。義景、族景健をして先往かしめ、兵二萬餘騎を合せて、(三)大寄山に軍す。我が兵之を望みて、

兵敗レ於二險地一。不レ可二復收一。故命二此三人一。且吾自留號二令之一。卿等先去。乃自引二近臣二百騎一。返助二三人一。三人辭レ之。迭殿而退。城兵尾擊。三人且戰且卻。遂全レ軍而歸。遂攻二橫山城一。城將告三急于二長政一。長政乞三援於二義景一。義景使二族景健先往一。合二兵二萬餘騎一。軍二于大寄山一。我兵望レ之。攻レ城益急。長政景健議曰。吾待二朝倉公一而戰。恐城、不レ守也。宜二急救一レ之。今信長陣二龍鼻一。距レ此五十町。直馳赴レ之。人馬皆疲。吾且日移二陣于三田一。乘レ曉襲二其中軍一。彼必驚擾。莫レ不レ敗矣。淺井半助進曰。臣嘗遊二美濃一。爲二稻葉氏客一。視二信長將略一。非二驚擾者一。公計恐レ不レ中耳。遠藤某奮曰。彼何足レ畏。公第進戰。吾雖二敵

城を攻むること益ゝ急なり。長政・景健、議して曰く、吾れ朝倉公を待ちて戰はば、恐らくは城、守られざらん。宜しく急に之を救ふべし。今、信長、龍鼻に陣す。此を距ること五十町なり。直に馳せて之に赴かば、人馬皆疲れん。吾れ且日移りて三田に陣し、曉に乘じて其中軍を襲はば、彼れ必ず驚擾して、敗れざる莫けんと。淺井半助進みて曰く、臣嘗て美濃に遊びて、稻葉氏の客と爲り、信長の將略を視しに、驚擾する者にあらざるなり。公の計、中らざる恐るゝのみと。遠藤某奮ひて曰く、彼れ何ぞ畏るゝに足らん。公第進み戰へ。吾れ敵兵に雜りて、信長と決せんのみと。議乃ち決す。

㊀ 何ぞ此處のみに限らん　㊁ 再び取返しつかず　㊂ 近江國に在り　㊃ 驚き亂る

兵一。與二信長一決耳。議乃決。

信長夜望二大寄山一。顧呼二宿直諸將一曰。柴田木下佐久間在乎。皆答曰。在。信長乃召而前レ之。指示曰。北軍炬火徹レ宵。是將三乘レ曉襲二レ我也。乃下レ令。勒レ軍爲二十三隊一。坂井政尙池田信輝等爲二先鋒一以當二長政一。德川公獨將二其兵一。當二朝倉氏一。稻葉通朝

長長、夜、大寄山を望みて、顧みて宿直の諸將を呼びて曰く、柴田・木下・佐久間在るかと。皆答へて曰く、在りと。信長乃ち召して之を前ましめて、指示して曰く、北軍、(一)炬火、宵を徹す。是れ將に曉に乘じて我を襲はんとするなりと。乃ち令を下し、軍を勒して十三隊と爲す。坂井政尙・池田信輝等、先鋒と爲りて、以て長政に當り、德川公獨り其兵に將として、朝倉氏に當り、稻葉通朝之を助く。乃ち丹羽長秀を留めて城兵を備へて、兵を引きて西に向ふ。(二)天明、北軍に姉川に遇ふ。北軍、大に驚く。政尙・信輝進み戰ふ。利あらず。信長、氏家・經國・伊賀經俊をして、其横を擊たしむ。通朝、顧みて之を助けて、大に長政を破る。而して景健も亦大に敗走す。其驍將遠藤・眞柄等十餘人を獲たり。斬首三千餘級なり。横山以下の諸城、皆解きて走る。秀吉、勝に乘じて小谷を取らんと欲す。信長許さず。母衣騎をして、令を傳へて軍を收めしむ。親ら戰功の將士を論賞す。

助レ之。乃留二丹羽長秀一備二城兵一。而引レ兵西向。天明。遇三北軍于二姉川一。北軍大驚。政尙信輝進戰。不レ利。信長使三氏家經國伊賀經俊擊二其橫一。通朝顧而助レ之。大破二長政一。而景健亦大敗走。獲二其驍將遠藤眞柄等十餘人一。斬首三千餘級。橫山以下諸城皆解走。秀吉欲レ乘レ勝取二小谷一。信長不レ許。使二母衣騎傳一レ令收レ軍。親論二賞戰功將士一。遂攻三磯野員正于二澤山一。置レ戍而西。獻二捷京師一。遂歸二岐阜一。

遂に磯野員正を澤山に攻めて、戍を置きて西し、捷を京師に獻じて、遂に岐阜に歸る。

(一) たいまつ　(二) 夜明

八月。三好三黨與二齋藤龍興一。糾二兵一萬一。據二野田福島一。信長自將討レ之。九月。陣二天滿林一。義昭陣二中島一。堙レ濠薄レ

八月、三好の三黨、齋藤龍興と、兵一萬を糾して、野田・福島に據る。信長、自ら將として之を討つ。九月、天滿林(一)に陣す。義昭、中島に陣す。濠を堙めて陣に薄る。而して一向僧の賊、大坂を以て賊に應ず。信長曰く、彼長袖者何をか能く爲さんと。佐佐成政を遣して赴き拒ぎ、而して自ら之を繼ぐ。成政等矢石を冒して進む。將領多く死す。我が兵潰走し、賊軍、之に乘ず。前田利家槍を揮

陣。而一向僧賊以大坂應賊。信長曰。彼長袖者。何能爲。遣佐佐成政赴拒。而自繼之。成政等冒矢石進。將領多死。我兵潰走。賊軍乘之。前田利家揮槍大呼。手殪數十人。賊辟易而去。利家幼爲信長近士。忤旨被逐。私從軍。先登獲首級者數。信長乃復之。擢爲尾張荒子城主。至是力戰。以全信長軍。信長軍方困於三城間。淺井長政朝倉義景時之也。合兵三萬。軍比叡衢。將焚坂本。宇佐山城將森可成出拒。死之。信長弟信治及尾藤某。道家某。皆死。北軍遂攻宇佐山。留後武藤等能拒。北軍乃過大津。縱火醍醐山科。

ひて大に呼び、手づから數十人を殪す。賊辟易して去る。利家、幼より信長の近士と爲り、旨に忤ひて逐はる。私かに軍に從ひて、先登して首級を獲ると數〻なり。信長乃ち之を復し、擢んでて尾張の荒子城主と爲す。是に至りて、力戰して、以て信長の軍を全くせり。信長の軍、方に三城の間に困しむ。淺井長政・朝倉義景之を時とするや、(四)兵三萬を合せて、比叡衢に軍して、將に坂本を焚かんとす。宇佐山の城將森可成、出でて拒ぎて、之に死す。信長の弟信治及び尾藤某、道家某皆死す。北軍遂に宇佐山を攻む。留後武藤等能く拒ぐ。北軍乃ち大津を過ぎ、火を醍醐・山科に縱つ。

(一) 攝津國に在り　(二) 僧侶　(三) 矢と砦の石と　(四) 信長の苦戰を能き機會なりと見るや

信長聞ㇾ警曰。吾藉得ㇾ拔二三城一。使三奴輩蹂二躙京師一。則我之恥也。乃令三攝津河內諸將備二三城一。而還救ㇾ之。三城兵大起。尾ㇾ之。奪三舟於二江口渡一。諸軍患ㇾ之。信長自視ㇾ于ㇾ岸曰。水淺。可ㇾ渡也。乃亂ㇾ流皆濟。整ㇾ軍徐退。敵不二敢逼一。遂達二京師一。旦日。向二北軍一。北軍驚上二叡山一陣。信長陣二志賀宇佐山一。分ㇾ兵攻二叡山一。毎夜襲擊。而使三人說二其僧徒一曰。汝等能捨ㇾ彼而助ㇾ我。

信長、警(一)を聞きて曰く、吾れ藉に三城を拔くを得るも、奴輩をして京師を蹂躙せしめば、則ち我の恥なりと。乃ち攝津•河內の諸將をして、三城に備へしめて、還りて之を救ふ。三城の兵、大に起りて、之に尾し、舟を江口の渡に奪ふ。諸軍、之を患ふ。信長自ら岸より視て曰く、水淺し、渡るべしと。乃ち流を亂して皆濟り、軍を整へて徐に退く。敵敢て逼らず。遂に京師に達す。旦日北軍に向ふ。北軍驚きて、叡山に上りて陣す。信長、志賀•宇佐山に陣す。兵を分ちて叡山を攻め、毎夜襲擊す。而して人をして其僧徒に說かしめて曰く、汝等能く彼を捨てて我を助けば、則ち他日、汝の寺封(二)、故の如くならしめん。否らずば則ち中立して倚らず、助くる所有る莫れ。二者聽かずんば、他日必ず火を縱ちて山を赭(三)にし、僧徒を(四)鏖殺して、一人を釋さじと。僧徒聽かず。

㊀ 警報、一本驚に作る　㊁ 寺領　㊂ 赤はげ　㊃ 皆殺にす

則他日使汝寺封如故。否則中立不倚。莫有所助。二者不聽。他日必縱火。燔山。鏖殺僧徒。不釋一人。僧徒弗聽。

十月。信長遣菅谷長頼佐佐成政。言於北軍曰。吾與公等相持曠日。若士卒勞倦何。請一戰以決勝敗。長政等不答。六角義賢糾近江士兵。將夾攻信長。木下秀吉自横山。丹羽長秀自澤山來援。行破士兵。至於志賀。信長登樓望之。驚以爲義賢至。至則秀吉長秀也。二人以首級謁曰。北人深入至此。自送死耳。請殲擊之。莫使一騎還。信長大喜。長政等請和。不許。六角義賢來降。

十月、信長、菅谷長頼佐佐成政を遣して、北軍に言はしめて曰く、吾れ公等と相持して日を曠しくす。士卒の勞倦するを若何せん。請ふ、一戰して以て勝敗を決せんと。長政等答へず。六角義賢、近江の士兵を糾して、將に夾みて信長を攻めんとす。木下秀吉は横山より、丹羽長秀は澤山より、來り援ひて、行く士兵を破りて、志賀に至る。信長樓に登りて之を望みて、驚きて以て義賢至ると爲す。至れば則ち秀吉・長秀なり。二人首級を以て謁して曰く、北人深く入りて此に至る。自ら死を送るのみ。請ふ、之を殲擊して、一騎をして還らしむる莫けんと。信長大に喜ぶ。長政等和を請ふ。許さず。六角義賢來り降る。

(一) 對陣して日を空しく過す　(二) 其地の兵　(三) かりだして擊つ

十一月。堅田人猪飼甚介等屬二信長一。請レ得二一將一。坂井政尙自請而往。北軍來爭。政尙力戰死レ之。會大雪。北軍慮二歸路梗一。數請レ和。弗レ許。乃請二之義昭一。義昭自來二信長營一。言レ之。信長乃聽レ之。各解レ兵歸レ國。

十一月、堅田の人猪飼甚介等、信長に屬して、一將を得んと請ふ。坂井政尙、自ら請ひて往く。北軍來り爭ふ。政尙力戰して之に死す。會大に雪ふる。北軍、歸路の梗るを慮りて、數〻和を請ふ。許さず、乃ち之を義昭に請ふ。義昭自ら信長の營に來りて之を言ふ。信長乃ち之を聽し、各〻兵を解きて國に歸る。

(一) 近江國に在り　(二) 陣を引拂ひて國に歸る

二年。二月。磯野秀昌以二澤山一降二長秀一。五月。淺井長政以二二萬騎一攻二箕浦一。秀吉赴援。擊卻レ之。先レ是。一向賊起レ於二長島一。攻三信長弟信興于二

二年二月、磯野秀昌、澤山を以て長秀に降る。五月、淺井長政、二萬騎を以て箕浦を攻む。秀吉赴き援ひて、擊ちて之を卻く。是より先、一向の賊、(二)長島に起りて、信長の弟信興を(三)小木江に攻めて之を殺す。五月、信長、長島に入り、火を縱ちて退く。賊風雨に乘じ、險に迫りて要擊す。氏家・經國、之に死す。八月、柴田勝家を以て先鋒と爲し、近江に入り、小谷・山本の間に出でて、火を縱ちて退く。兩城の兵八千出でて之を躡す。勝家返り戰ふこと三次なり。敵復た出でず。

小木江。殺之。五月。信長入長島。縱火而退。賊乘風雨。迫險要擊。氏家經國死之。八月。以柴田勝家爲先鋒。入近江。出小谷山本之間。縱火而退。兩城兵八千出躡之。勝家返戰三次。敵不復出。信長再發。攻拔新村。下小川常樂寺。

信長再び發して、攻めて新村を拔き、小川・常樂寺を下す。

㊀伊勢國に在り　㊁同上　㊂三回

九月。陣勢多。命諸將。縱火焚叡山。諸將皆失色。佐久間信盛等諫曰。自桓武帝創建此寺。幾千年于此。爲王城之鎭。莫敢或犯者。今而滅之。其如之何。信長曰。吾除國賊耳。

九月、勢多に陣し、諸將に命じて、火を縱ちて叡山を焚かしむ。諸將皆色を失ふ。佐久間信盛等諫めて曰く、桓武帝、此寺を創建せしより、此に幾千年、王城の鎭たり。敢て或は犯す者なし。今にして之を滅す、其れ之を如何と。信長曰く、吾れ國賊を除かんのみ。汝が輩、何ぞ我を沮まんや。吾れ四海を定めて、王道の衰へたるを興さんと欲す。(一)筋骨を勞し、(二)軀命を輕んじ、未だ嘗て一日も安居せず。去歲、攝津を略し、兩城將に陷らんとす。長政・義景兵を舉げて我が後を窺ふ。吾れ兩城を舍てて還りしは、之を山上に棲ましめて、將に之を殲さんとせしなり。人を遣して僧徒を諭し、禍福を陳說せしめしに、彼れ竟に服せず。務

汝輩何沮レ我邪。吾欲下定二四海一興中王道之衰上。勞二筋骨一。輕二軀命一。未二嘗一日安居一。去歲略二播津一。兩城將レ陷。長政義景擧レ兵窺二我後一。吾舍二兩城一而還。棲二之山上一。將レ殲レ之也。遣レ人諭二僧徒一。陳二說禍福一。而彼竟不レ服。務右二凶徒一。以梗二王師一。此非二國賊一乎。今而不レ行二芟除一。乃貽三患於二天下一也。且聞彼犯二其律一。茹レ葷蓄レ妾。束二閣誦呪一。安在三其鎭二王城一也。圍而燔レ之。勿レ使レ有レ遺

めて凶徒(三)を右けて、以て王師を梗ぐ。此れ國賊に非ずや。今にして芟除(四)を行はずんば、乃ち患を天下に貽さん。且つ聞く、彼れ其律(五)を犯して、葷を茹ひ妾を蓄へ、誦呪(六)を束閣す。安んぞ其れ王城を鎭むるに在らんや。圍みて之を燔きて、遺類(七)有らしむる勿れと。諸將乃ち服す。明日叡山を圍みて、中堂及び二十一社を燔き、僧徒婦女老少と無く皆之を斬る。志賀郡を以て、明智光秀に賜ひ、坂下に城きて之に居らしめて、岐阜に歸る。丹羽長秀をして高宮某を澤山に誅せしむ。其の大坂に通ずるを以てなり。是の歲、皇宮成る。信長、金を京畿の豪戶(八)に貸し、毎月、息(九)を縣官(一〇)に納れしめて、以て供御に充つ。且つ廷臣の家計を計畫し、廢を興し絕を繼ぐ。

(一) 止むることを得んや　(二) 筋骨をつからし身命をもをしまず　(三) 惡者　(四) かりのぞく　(五) 戒律　(六) 經文の讀誦をば打捨つ　(七) 殘りのやから　(八) 富豪　(九) 利息　(一〇) 朝廷

類。諸將乃服。明日。圍叡山。燔中堂及二十一社。僧徒婦女。無老少皆斬之。以志賀郡賜明智光秀。城坂下使居之。歸岐阜。令丹羽長秀誅高宮某于澤山。以其通大坂也。是歲。皇宮成。信長貸金于京畿豪戶。令每月納息縣官。以充供御。且爲計畫廷臣家計。興廢繼絕。

三年。三月。縱火小谷山本城下。從軍志賀。攻木戶田中二城。置戍焉。遂入京師。陣妙覺寺。義昭使信長置第于武者小路。固辭。不許。乃令村井貞勝董役。不日而成。細川昭元岩成左通來降。大坂僧徒亦贈物納款焉。三好義繼松永久秀。私與畠山氏鬭。築城交野。信長素疾二人。欲因事誅之。於是遣兵攻交野。城兵夜遁。久秀竟降。

三年三月、火を小谷・山本の城下に縱ち、徙りて志賀に軍し、木戶・田中の二城を攻めて、戍を置く。遂に京師に入りて、妙覺寺に陣す。義昭、信長をして、第を武者小路に置かしむ。固く辭す。許さず。乃ち村井貞勝をして役を董さしむ(一)。日ならずして成る。細川昭元・岩成左通來り降る。大坂の僧徒も亦物を贈りて款を納る。三好義繼・松永久秀、私かに畠山氏と鬭ひて、城を交野(二)に築く。信長素より二人を疾む。事に因りて之を誅せんと欲す。是に於て、兵を遣して交野を攻む。城兵、夜遁る。久秀竟に降る。

(一) 普請を監督せしむ　(二) 河內國に在り

七月。信長長子信忠。幼字奇妙。始被レ鎧。從二信長一。攻三淺井長政于二小谷一。令三木下秀吉別攻二山本一。聞二朝倉義景來援一。壘二於虎姬山一。待レ之。義景以二二萬騎一至。信長曰。及二其未一レ陣襲レ之。莫レ使レ安レ營也。將士乘レ夜更襲レ之。北人患レ之。多二來降者一。會義昭使來諭レ弭レ兵。乃令下秀吉守二虎姬

七月、信長の長子信忠、幼字は奇妙といふ。始めて鎧を被り、信長に從ひて、淺井長政を小谷に攻む。木下秀吉をして別に山本を攻めしむ。朝倉義景來り援ふと聞きて、虎姬山に壘して之を待つ。義景二萬騎を以て至る。信長曰く、其の未(一)だ陣せざるに及びて之を襲ひ、營に安んぜしむる莫れと。將士、夜に乘じて更々之を襲ふ。北人之を患へて來り降る者多し。會々義昭の使來り諭して兵を弭めしむ。乃ち秀吉をして虎姬山を守らせ、宮部某をして宮部の壘を守らしめ、山を鑿ち道を開きて、以て往來(二)に便にす。是の時に當りて、長政・義景、越後の國主長尾謙信と好を通じて、以て信長に抗(三)す。而して武田信玄も亦甲斐・信濃の兵を以て西に出づ。信長、佐久間信盛・平手汎秀を遣して、德川氏を援ひ、信玄を東海に拒がしむ。利あらず。汎秀死す。義昭時に信長と惡し。是の時に乘じて之を圖らんと欲す。

(一) 未だ陣を敷かざる前に　(二) 行き來に便利にす　(三) はりあふ

山。宮部某守宮部鑿山聞道。以便往來。當是時。長政義景與越後國主長尾謙信通好。以抗信長。而武田信玄亦以甲斐信濃兵西出。信長遣佐久間信盛平手汎秀援德川氏。拒信玄於東海。不利。汎秀死。義昭時與信長惡。欲乘是時圖之。

先是。信長病義昭多失行。上書諫曰。幕下之入京師也。信長首請朝參勿敢或怠。幕下諾之。後乃違焉。夫光源公怠於王事。天譴立至。信長竊爲幕下懼之。忠臣亡賞。而佞夫得官。以虐下民。下民何罪。非人納金。即便宥之。僞

是より先、信長、義昭の失行(一)多きを病へ、上書して諫めて曰く、幕下(二)の京師に入るや、信長首として、朝參して敢て或は怠る勿れと請ふ。幕下之を諾して、後乃ち違ふ。夫れ光源公(三)、王事に怠り、天譴(四)立ちどころに至る。信長竊かに幕下の爲に之を懼る。忠臣賞亡く、而して佞夫官を得、以て下民を虐す。下民何の罪かある。罪人、金を納るれば、即便ち之を宥す。僞りて叡山の賦税と稱して、以て民財を掠め、或は陽に征課(五)を責めて、陰かに之を錮き、以て私恩(六)を賣る。此れ皆幕下の爲すべき所に非ず。朝議、元龜の號を改めんと欲す。而して幕下特に費用を愛しみて、從ふことを果さず。遠近惡御所の目有り。信長竊かに幕下の爲に之を羞づ。

(一) 不行跡　(二) 義昭をさす　(三) 義輝　(四) 天罰　(五) 租稅　(六) 私恩をかく

稱二叡山賦税一。以掠二民財一。或陽責二征課一。而陰蠲レ之。以買二私恩一。此皆非二幕下所一レ宜レ爲。朝議欲レ改二元龜之號一。而幕下特愛二費用一不レ果レ從。遠近有二惡御所之目一。信長竊爲二幕下一羞レ之。

信長築二二條城一。以備二寇賊一。而欲三舍徙二他所一。糶二城內粟一。以畜二金銀一。諸國將士。多貴レ金賤レ粟。遺二其武備一。以爲二遜隱之計一。皆倣二幕下之爲一也。信長所レ納紀綱之僕。無レ罪奪レ俸。來乞レ哀者數。請而不レ得レ復。信長無三面目以對二此輩一。且聞下二敎

信長、二條城を築きて、以て寇賊に備ふ。而して舍てて他所に徙らんと欲し、城內の粟を糶して、以て金銀を畜ふ。諸國の將士、多く金を貴び粟を賤しみ、其武備を遺れて、遜隱(二)の計を爲す。皆幕下の爲に倣ふなり。信長納るゝ所の紀綱(一)の僕、罪無くして俸を奪はれ、來りて哀を乞ふ者數々なり。請ひて復するを得ず。信長、(三)面目の以て此輩に對する無し。且つ聞く、敎を諸國に下して、馬及び金を徵すと。曩に白す、凡白(四)の需索は、宜しく信長に囑すべし。信長將に立ちどころに之を辨ぜんとすと。今陰かに此敎有り。信長惑ふ。信長、志、幕下と心を協せ力を戮せ、亂略を撥して、以て王政を興さんと欲す。豈に他有らんや。願はくは幕下、讒言を信ずるなく、以て終吉(五)を保ち、佞を斥け忠を進め、先業を恢弘せよ。儒人の如きに至りては、最も宜しく之を親近して、以て古今の興衰を鑑みる

諸國ニ徵二馬及金一。絲白。凡百需索宜レ囑二信長一。信長將二立辨上之。今陰有二此敎一。信長惑焉。信長志欲下與二幕下一協レ心戮レ力撥二亂略一以興中王政上。豈有レ他哉。願幕下勿レ信二讒言一。以保二終吉一。斥レ佞進レ忠。恢二弘先業一也。至レ如二儒人一最宜下親二近之一。以鑑中古今興衰上。信長生二長兵亂之間一。背レ於二文學一。自度處レ事多違二故典一。所三以常懷二愧恥一也。妄疏二所見一。唯幕下留レ意焉。義昭弗レ納。遂相嫌隙。

べし。信長兵亂の間に生長して、文學に背く、自ら度るに、事を處する多くは故(七)典に違はん。常に愧恥を懷く所以なり。妄りに所見を疏す。(八)唯幕下、意を留めよと。義昭納れず。遂に相嫌隙す。(九)

㊀のがれる ㊁政治をとる臣 ㊂此輩に合す顏なし ㊃凡ての費用 ㊄最後のよきこと ㊅大に亂しむ ㊆古例 ㊇申上ぐ ㊈不和となる

天正元年。義昭潛發レ使諭二信玄及謙信一。約三夾攻二信長一。又諭二安藝國主毛利輝元一。

天正元年、義昭、潛かに使を發して、信玄及び謙信に諭し、夾みて信長を攻めんと約す。又安藝の國主毛利輝元に諭して、以て後據と爲す。(一)信長、村井貞勝をして、和を義昭に請はしむ。義昭聽かず。二月、義昭自ら石山・堅田に城きて、山岡・磯貝・渡部等を以て、之を守らせ、兵食を徵發す。(二)信長之を聞きて曰く、吾れ

以爲二後援一。信長使三村井貞勝請二和義昭一。義昭不レ聽。二月。義昭自城レ于二石山堅田一。以二山岡磯貝渡部等一守レ之。徵二發兵食一。信長聞レ之曰。吾終不レ得レ不レ用レ兵。遣二柴田勝家。丹羽長秀。明智光秀。蜂屋賴高一。渡二勢多一。招二石山兵一。降レ之。勝家乃留備二京師一。而長秀等攻二堅田一。拔レ之。三月。

終に兵を用ひざるを得ずと。柴田勝家・丹羽長秀・明智光秀・蜂屋賴高を遣して、勢多を渡り、石山の兵を招きて、之を降す。勝家乃ち留りて京師に備ふ。而して長秀等堅田を攻めて、之を拔く。三月、信長自ら將として大津に至る。細川藤孝、荒木村重、迎へ降る。乃ち進みて京師に入り、(三)兵を觀して和を請ふ。義昭聽かず。乃ち二條城を圍む。義昭窮蹙(四)し、人をして出でて言はしめて曰く、今より後、盡く卿の言ふ所を聽かんと。信長拜謝して、(五)成を行ひて還る。守山に至り、諸將を遣して、六角義弼を鯰江に攻めしむ。丹羽長秀を召して、耳語して曰く、室町氏必ず再擧せん。再擧せば必ず勢多・矢橋を阻まん。汝、澤山の木を伐りて、兵艦十餘艘を造れと。乃ち岐阜に歸る。尾張の人梶川某といふ者あり。博奕を喜みて、(六)衆の擯くる所と爲る。信長其勇を愛して、與ふるに善馬を以てす。曰く、(七)緩急あらば此を以て功を樹てよと。梶川、感喜して退く。

㈠後援 ㈡取り立つ ㈢兵威を盛にして ㈣せまりくるしむ ㈤和議をなして ㈥諸人に爪彈せらる ㈦急なる場合あらば

信長自將至二大津一。細川藤孝荒木村重迎降。乃進入二京師一。觀レ兵請レ和。義昭弗レ聽。乃圍二二條城一。義昭窮蹙。使二人出言一曰。自レ今後盡聽二卿所一レ言。信長拜謝。行レ成而還。至二守山一。遣二諸將一。攻三六角義弼于二鯰江一。召二丹羽長秀一。耳語曰。室町氏必再擧。再擧必阻二勢多矢橋一。汝伐二澤山木一。造二兵艦十餘艘一。乃歸二岐阜一。尾張人有二梶川某者一。喜二博奕一。爲二衆所一レ擯。信長愛二其勇一。與以二善馬一曰。緩急以レ此樹レ功。梶川感喜而退。

七月。義昭再擧レ兵。留三伊勢某。三淵某。與二廷臣二名一。守二二條一而自據二槇島一。阻二宇治川一爲レ固。報至二岐阜一。信長即起。直馳至二澤山一。乘二其兵艦一。夜濟二朝妻渡一。且日。達二坂下一。直入二京師一。縱レ

七月、義昭再び兵を擧げ、伊勢某・三淵某と、廷臣二名とを留めて、二條を守らせ、而して自ら槇島に據り、宇治川を阻みて固と爲す。報、岐阜に至る。信長即ち起ちて、直に馳せて澤山に至り、其兵艦に乘りて、夜、朝妻渡を濟り、且日、坂下に達して、直に京師に入り、火を縱ちて呼譟す。烟焰、天に漲る。義昭の兵、勢多・矢橋に拒ぐ者、返顧して潰ゆ。京師の人、大に驚きて曰く、織田公豈に飛來せるかと。信長疾く二條を攻めて、之を陷れ、三淵を斬る。城兵皆降る。以て先鋒と爲して、槇島に向ひ、自ら柳山に陣し、稻葉通朝・伊賀範俊等を遣して、二萬人に將として、平等院に渡り、佐久間信盛・下木秀吉等、五萬人に將と

火呼譟。烟焰漲天。義昭兵拒勢多矢橋者。返顧而潰。京師人大驚曰。織田公豈飛來邪。信長疾攻二條。陷之。斬三淵。城兵皆降。以爲先鋒。向槇島。自陣柳山。遣稻葉通朝伊賀範俊等。將二萬人。渡平等院。佐久間信盛。木下秀吉等。將五萬人。渡五箇莊。於是梶川某騎信長所賜馬。曉出河岸。大呼自名。亂流而渡。通朝麾兵從之。與信盛秀吉。合擊奪柵。縱火而入。信長在柳山。左右望烟起。相謂曰。我軍方渡矣。誰先登者。信長曰。必梶川也。槇島既破。義昭請降。信長令三

して、五箇荘に渡る。是に於て、梶川某、信長の賜ふ所の馬に騎して、曉に河岸に出で、大に呼びて自ら名のり、流を亂して渡る。通朝兵を麾きて之に從ひ、信盛・秀吉と、合擊して柵を奪ひ、火を縱ちて入る。

〔一〕山城國に在り　〔二〕近江國に在り

信長柳山に在り。（一）左右烟起るを望みて、相謂ひて曰く、我が軍方に渡れり。誰か先登する者ぞと。信長曰く、必ず梶川ならんと。槇島既に破る。義昭降を請ふ。信長、信盛・秀吉をして、之を處置せしむ。二人乃ち義昭を奉じて、若江に徙し、細川昭元をして槇島を守らしむ。通朝來り白して曰く、臣、梶川の先んずる所と爲り、意甚だ憾む。然れども（二）其單進、死を致さんことを恐る。故に之に繼

信盛秀吉處㆓置之㆒。二人乃奉㆓義昭㆒從㆑于㆓若江㆒。令㆔細川昭元守㆓槇島㆒。通朝來白曰。臣爲㆓梶川所㆑先。意甚憾焉。然恐㆓其單進致㆑死也。故繼㆑之。信長并㆓賞二人㆒。於㆑是織田氏遂代㆓足利氏㆒。出㆓令京師㆒。蠲㆓戸租㆒。免㆓徭役㆒。賑㆓窮民㆒。旌㆓節孝㆒。以㆓村井貞勝㆒爲㆓所司代㆒。收㆑兵而還。

げりと。信長二人を并せ賞す。是に於て、織田氏遂に足利氏に代りて、令を京師に出し、戸租を蠲き、(三)徭役を免じ、窮民を賑し、(四)節孝を旌す。村井貞勝を以て所司代と爲し、兵を收めて還る。

(一)近侍の人々　(二)梶川一騎にて討死せんことを氣遣ふ　(三)夫役　(四)節婦孝子を旌表す

遂以㆓兵艦㆒。攻拔㆓木戸田中二城㆒。賜㆓之明智光秀㆒。令㆔秀吉藤孝攻㆓淀城㆒。斬㆓岩成左通㆒。令㆕荒木村重攻㆔和田惟政于㆓芥川城㆒。村重素以㆓雄

遂に兵艦を以て、攻めて木戸・田中の二城を拔きて、之を明智光秀に賜ふ。秀吉・藤孝をして、淀城を攻めしめて、岩成左通を斬らしむ。荒木村重をして、和田惟政を芥川城に攻めしむ。村重素より雄豪を以て聞ゆ。部兵皆驍なり。義昭の變に、首として信長に應じ、迎へて大津に謁す。(一)面貌甚だ偉なり。會〻饅頭を獻ずる者有り。信長佩刀を拔きて、饅頭を鋒に貫きて、以て村重に啗はしむ。村重進みて、口を開きて之を受く。信長笑ひて曰く、好男子、攝津十三郡は、汝が之を剪(二)

豪聞。部兵皆驍。義昭之變。首應信長。迎謁于大津。面貌甚偉。會有獻饅頭者。信長拔佩刀。貫饅頭于鋒。以啗村重。村重進。開口受之。信長笑曰。好男子。攝津十三郡。任汝剪取之。於是命攻惟政。榜賞格曰。獲主將者予萬金。獲編裨者千金。護士卒者百金。村重將中川清秀熟視之。以墨勾其首條。觀者無測其意。既而惟政曉出城。雜士卒。修守備。清秀伏濠側。跳出斬其首。信長乃賞清秀以萬金。以池田勝政觀望不至。逐之高野。以和田池田氏邑盡賜村重。

取するに任すと。是に於て、命じて惟政を攻めしむ。(三)賞格を榜して曰く、主將を獲る者は萬金を予へん。(四)編裨を獲る者は千金、士卒を獲る者は百金なりと。村重の將中川清秀、之を熟視し、(五)墨を以て其首條を勾す。觀る者、其意を測る無し。(六)既にして惟政曉に城を出でて、士卒に雜りて、守備を修む。清秀濠側(七)に伏し、跳り出でて其首を斬る。信長乃ち清秀を賞するに萬金を以てす。池田勝政觀望(八)して至らざるを以て、之を高野に逐ふ、和田・池田氏の邑を以て、盡く村重に賜ふ。

㈠ 顏かたち甚だすぐる ㈡ きり取る ㈢ 褒美の等級 ㈣ 次將 ㈤ 墨にてかぎをかく ㈥ 中川清秀の心中を知らず ㈦ ほりのかたはら ㈧ 樣子を見る

八月。歸二岐阜一。居三日。淺井氏將阿閉某來降。信長復發。下二月瀨城一。軍レ于二山田一。淺井氏兵守二燒尾一。朝倉氏兵守二大嶽一。與二山田一相持。信長遣二勝家信盛一。陣レ于二高月一。絕二越前援路一。朝倉義景聞レ之。以二二萬騎一來。軍レ于二田邊一。信長又遣二稻葉通朝一。助二勝家一。燒尾守將因二阿閉一納レ款。以導二我兵一。我兵遂圍二大嶽一。夜冒二原雨一疾攻。守將乃降。信長令下信忠守二虎姬山一。不

八月、岐阜に歸り、居ること三日にして、淺井氏の將阿閉某來り降る。信長復た發して、月瀨城を下し、山田に軍す。淺井氏の兵、燒尾を守り、朝倉氏の兵大嶽を守り、山田と相持す。信長、勝家・信盛を遣して、高月に陣し、越前の援路(一)を絕たしむ。朝倉義景之を聞きて、二萬騎を以て來り、田邊に軍す。信長又稻葉通朝を遣して、勝家を助けしむ。燒尾の守將、阿閉に因りて款を納れて、我が兵を導く。我が兵、遂に大嶽を圍み、夜、風雨を冒して疾く攻む。守將乃ち降る。信長、信忠をして虎姬山を守り、不破光治をして大嶽を守らしめて、進みて丁野(二)を下す。使を高月に遣し、諸將を戒めて曰く、今夜、北軍必ず走らん。宜しく尾撃して之を鏖にすべしと。諸將皆信ずる莫し。且く應へて曰く、謹みて諾すと。夜半、義景果して營を焚きて遁る。

㊀ 援兵の來る道　㊁ 近江國に在り

破光治守中大嶽上而進下丁野一。遣二使高月一。戒二諸將一曰。今夜北軍必走。宜二尾擊鏖一レ之。諸將皆莫レ信。且應曰。謹諾。夜半。義景果焚レ營而遁。

信長大呼。起曰。敵走矣。與二左右五十騎一馳出。有二先馳者一。信長誰二何之一。答曰。利家。成政。其他十餘人。皆迭對。信長戯曰。吾欲二先登一。爲二諸君所一レ先。乃聯レ轡疾馳。及三敵于二刀根山一。斬二其褊裨二十三人。雜兵二千一。金松某執二甲首一以謁。跣而蹀レ血。信長勞レ之。手取二芒鞋一兩一賜レ之曰。吾每レ臨レ戰。懸二之刀欄一。以備二闕亡一。今而有レ用矣。信長兩日下二十四城一。留二敦賀一三日。徵二降將質子一。進軍二龍門寺一。

信長大呼して、起ちて曰く、敵走ると。左右五十騎と馳せ出づ。先に馳する者有り。信長之を誰何(一)す。答へて曰く、利家・成政なりと。其他十餘人、皆迭に對ふ。信長戯れて曰く、吾れ先登せんと欲して、諸君の先んずる所と爲ると。乃ち轡を聯ねて疾く馳す。敵に刀根山に及び、其褊裨二十三人、雜兵二千を斬る。金松某、甲首(二)を執りて以て謁す。跣にして血を蹀む。信長之を勞して、手づから芒鞋(三)一兩を取りて、之に賜ひて曰く、吾れ戰に臨む毎に、之を刀欄(四)に懸けて、以て闕亡に備ふ。今にして用有り(五)と。信長、兩日に十四城を下し、敦賀に留ること三日にして、降將の質子を徵し、進みて龍門寺に軍す。

(一) 誰ぞと問ふ　(二) かぶと首即ち大將株の首　(三) わらぢ　(四) 刀のつか　(五) 今になりて役立つ

義景奔二一乗谷一。匿二大野一。勝家通朝等。分レ兵捜索。平泉僧徒懼。請二郷導一。通朝貨二土人一。得二義景所一レ在。誘二降其族景鏡一。景鏡迫二義景一使二自殺一。信長誅二黨類一。撫二降附一。爲二政國中一。使下人齎二義景首一梟中之京師上。以二降將前波長俊一。爲二越前假守一。明智光秀等。監レ之。引レ兵還二虎姫山一。淺井長政。與二父久政一。保二守兩城一。信長遣二秀吉一。登二粒羅岡一。絶二兩城之間一。使二久政長政自

義景、一乘谷を棄てて、大野に匿る。勝家・通朝等、兵を分ちて捜索す。平泉の僧徒懼れて、郷導(一)せんと請ふ。通朝、土人に貨(二)して、義景の在る所を得、其族景鏡を誘ひ降す。景鏡、義景に迫りて自殺せしむ。信長、黨類(三)を誅し、降附を撫して、政を國中に爲し、人をして義景の首を齎して、之を京師に梟せしむ。降將前波長俊を以て、越前の假守と爲し、明智光秀等、之を監す。兵を引きて虎姫山に還る。淺井長政、父久政と、兩城を保守す。信長、秀吉を遣して、粒羅(四)岡に登り、兩城の間を絶ち、久政・長政をして自殺せしめ、其地を以て秀吉に賜ふ。九月、勝家を遣して、鯰江を攻めて、六角義弼を降し、杉谷善住を獲て、之を地に生埋し、竹鋸を以て其首を鋸る。十一月入朝す。佐久間信盛を遣して、攻めて三好義繼を殺す。是に於て、淺井・朝倉・六角・三好氏皆滅ぶ。

(一) 道案内 (二) 金を與ふ (三) 仲間 (四) 近江國に在り

殺。以㆓其地㆒賜㆓秀吉㆒。九月。遣㆓勝家㆒攻㆓鯰江㆒。降㆓六角義弼㆒。獲㆓杉谷善住㆒。生㆓埋之地㆒。以㆓竹鋸㆒鋸㆓其首㆒。十一月。入朝。遣㆓佐久間信盛㆒。攻殺㆓三好義繼㆒。於㆑是淺井朝倉六角三好氏皆滅。

天正二年。正月。元日。近畿將士盡賀二正于岐阜一。信長賜二之酒一。酒三行。謂レ衆曰。我有二佳肴一。請侑レ飮焉。令下左右取二一函一來上。置二之坐上一。衆囑レ目焉。信長觴二柴田勝家一。而手開二其蓋一。則

卷十四

德川氏前記

織田氏下

天正二年正月元日、近畿の將士、盡く正(一)を岐阜に賀す。信長之に酒を賜ふ。酒三行(二)にして、衆に謂ひて曰く、我れ佳肴有り。請ふ飮を侑めんと。左右をして一函を取り來らしめて、之を坐上に置く。衆、目(三)を屬す。信長、柴田勝家に觴して、手づから其蓋を開けば、則ち義景・長政の首なり。塗るに金粉を以てす。諸將皆笑ひて曰く、此好下物(四)有り、何ぞ滿酌を辭せんと。信長曰く、吾れ京畿を經略して、二患の礙ふる所と爲ると數年なり。卿等、吾が爲に勞を積み苦を累ねて、以て誅夷(五)を致すを得たりと。因りて各〻刀劍を賜ひ、驩を極めて罷む。佐佐成政留りて白して曰く、臣、無似(六)、諸將の後に從ひ、叨に洪恩を被りて報

義景長政首也。塗以二金粉一。諸將皆笑曰。有二此好下物一。何辭二滿酌一也。信長曰。吾經二略京畿一。爲二二患所一レ礙。數年矣。卿等爲レ吾積レ勞累レ苦。以得レ致レ誅二夔一。因各賜二刀劍一。極レ驩而罷。佐佐成政留而自曰。臣無レ似。從二諸將之後一。叨被二洪恩一。不レ知レ所レ報。唯願君不二自足一焉。遂定二四方一也。信長大悅。握二成政手一。入二室內一。與談二政治一。侍史武井夕菴自レ傍贊レ之曰。不レ圖成政能爲二此言一。君莫レ忽焉。信長厚賜二二人一。

ゆる所を知らず。唯願はくは、君自ら足れりとせず、遂に四方を定めよと。信長大に悅び、成政の手を握りて室内に入り、與に政治を談ず。(七)侍史武井夕菴傍より之を贊して曰く、圖らざりき、成政能く此言を爲さんとは。君忽にすること莫れと。信長、厚く二人に賜ふ。

(一)新年 (二)三廻 (三)目をつく (四)よき酒の肴 (五)朝倉義景・淺井長政 (六)不肖 (七)天下を平定せよ

二月。甲斐兵侵二東美濃一。圍二明地城一。信長與二信忠一出拒レ之。城內有二叛者一。城陷。乃修二

二月、甲斐の兵、東美濃を侵し、明地城を圍む。信長、信忠と、出でて之を拒ぐ。城内叛く者有りて、城陷る。乃ち高野・遠利二城を修め、河尻鎭吉、池田信輝をして之を守らしむ。時に武田信玄既に死し、長尾謙信猶ほ存す。信長、武田氏と絶ち、好を長尾氏に通じて、厚く之に贈る。三月、信長、入朝して、相國

高野遠利二城。令河尻鎮守之。時武田信玄既死。長尾謙信猶存。信長與武田氏絶。通三好於長尾氏。厚賄之。三月。信長入朝。寓于相國寺。詔敍從三位。任參議。以足利義政故事。奏乞東大寺所藏名香。自至多門城。遣使令截香一寸八分。而三分之。自取其一。分賜其二於諸將。四月。還京師。大阪賊出要之。擊破而過。五月。還岐阜。

寺に寓す。詔して、從三位に敍し、參議に任ず。足利義政の故事㈠を以て、奏して東大寺藏する所の名香㈡をこひ、自ら多門城に至り、使を遣して香一寸八分を截らしめて、之を三分し、自ら其一を取り、其二を諸將に分賜す。四月、京師に還る。大坂の賊出でて之を要す。擊破して過ぐ。五月、岐阜に還る。

㈠ 古例　㈡ 名高き蘭奢待の香

六月。武田勝頼出兵遠江。圍高天神城。德川氏使使請援信長。信長信忠將兵至荒

六月、武田勝頼兵を遠江に出して、高天神城を圍む。德川氏使をして援を請はしむ、信長・信忠兵に將として荒井に至る。城陷るに會ひ、還りて吉田に至る。德川公、來り謝して曰く、公の餘威㈠を藉りて、以て國を保ちて此に至ることを得たりと。信長之を勞ひて曰く、卿、我が爲に東面を守りて、以て武田氏を拒

非。會二城陷一。還至二吉田一。徳川公來謝曰。藉二公餘威一。得二以保レ國至レ此。信長勞レ之曰。卿爲レ我守二東面一。以拒二武田氏一。使三吾毋二東顧之患一。吾得三以速定二京畿一。卿之功也。乃令三左右四人擔二二革嚢一。盛以二黄金一。以賜レ之曰。薄以酬二將士之勞一。乃還。

ぎ、吾をして東顧(二)の患なからしむ。吾れ以て速かに京畿を定むることを得たるは、卿の功なりと。乃ち左右四人をして二革嚢(三)を擔はしめ、盛るに黄金を以てして、以て之に賜ひて曰く、薄か以て將士の勞に酬ゆと。乃ち還る。

(一) 御蔭によつて　(二) 東方の心配なからしむ　(三) かは袋

七月。征二長島一。信長之滅二淺井朝倉氏一。遂攻二長島一。屠二二城一。置レ戍而還。遇レ雨。賊據レ險夾射。林新三郎殿戰死レ之。信長怒曰。以二草賊故一。多亡二

七月、長島を征す。信長の淺井・朝倉氏を滅すや、遂に長島を攻めて、二城を屠り、戍を置きて還る。雨に遇ふ。賊、險に據りて夾み射る。林新三郎、殿戰し(一)て之に死す。信長怒りて曰く、草賊(二)の故を以て、多く吾が良(三)を亡ふ。吾れ必ず其巣窟(四)を覆し、其醜類を殲して、以て死者を弔はんと。已にして長島、武田氏に應ず。信長之を覺りて、益々怒る。是に於て、信忠と、兵數萬に將として、三道より赴き討つ。信雄、瀧川一益・九鬼嘉隆と、舟師を以て之に會し、行く賊兵を破

吾良。吾必罹ニ其集窟。殲ニ其醜類。以弔ニ死者。已而長島應ニ武田氏。信長覺レ之。益怒。於レ是與ニ信忠。將ニ兵數萬。三道赴討。信雄與ニ瀧川一益九鬼嘉隆。以ニ舟師。會レ之。行破ニ賊兵ニ而進。賊入保ニ五城。八月。大島居城賊夜乘ニ風雨ニ遁。柴田勝家等追撃。殲ニ男女二千人。截ニ其耳鼻。盛ニ之一船。送ニ致長島。篠橋城降。九月。長島賊出レ城乘レ船而去。我弓銃手豫伏ニ堤側。撃鏖レ之。餘衆可ニ八百。突入ニ我中軍。信長叔父信次。庶兄信廣。弟秀成。從弟信成迎戰死レ之。賊奔ニ大坂。遂燔ニ殺三城男女二萬人。臭聞ニ數里。乃以ニ長島ニ賜ニ瀧川一益。食ニ北伊勢五郡。

りて進む。賊入りて五城を保つ。八月、大島居城の賊、夜、風雨に乘じて遁る。柴田勝家等、追撃して、男女二千人を殲し、其耳鼻を截りて、之を一船に盛り、長島に送致す(五)。篠橋城降る。九月、長島の賊、城を出でて船に乘りて去る。我が弓銃手、豫め堤側に伏して、撃ちて之を鏖にす。餘衆八百ばかりあり、突きて我が中軍に入る。信長の叔父信次、庶兄信廣、弟秀成、從弟信成、迎へ戰ひて之に死す。賊、大坂に奔る。遂に三城の男女二萬人を燔き殺す。臭數里に聞ゆ。乃ち長島を以て瀧川一益に賜ひ、北伊勢五郡を食ましむ。

㈠守備兵　㈡こぬすびと　㈢よき大將　㈣草賊の住家を討ち破り賊を悉く殺し　㈤送りとゞく

三年。正月。命ニ

三年正月、吏四人に命じて、近畿諸國を巡り、橋道を修め、關征を蠲く(一)。三月、

史四人。巡二近畿諸國。修二橋道。蠲二關征。三月。信長入朝。檢二廷臣采田。其賣レ於レ人者。爲償還レ之。四月。信長聞下大坂納二長島逋逃。又糾二合三好氏遺黨。以遙應中武田氏上也。乃引レ兵南伐。下二新湟高尾二城一而還。

信長、入朝して、廷臣の采田(二)を檢し、其の人に賣る者は、爲に償ひて之を還す。

四月、信長、大坂が、長島の逋逃(三)を納れ、又三好氏の遺黨を糾合して、以て遙に武田氏に應ずと聞く。乃ち兵を引きて南伐し、新湟・高尾の二城(四)を下して還る。

(一) 關所の税　(二) 領する地　(三) 落武者　(四) 伊勢國に在り

五月。武田勝頼大擧出二參河一圍二長篠城一。德川氏復使二使請レ援。信長信忠以二騎卒五萬一赴レ之。戒二其軍一曰。人持二杙與レ綆一。乃詣二熱田祠一。祈二戰

五月、武田勝頼、大擧して參河に出で、長篠城を圍む。德川氏復た使をして援を請はしむ。信長・信忠、騎卒五萬を以て之に赴く。其軍を戒めて曰く、人ごとに杙と綆とを持てと。乃ち熱田祠に詣でて、戰勝を祈り、岡崎に至る。城將奧平信昌の使者に値ふ。曰く、城兵、日夜大旆(一)の來るを望むと。信長、慰め勞り遣歸して、反間を縱ちて曰く、信長方に京畿・北國を患へ、來り援ふ能はずと。勝頼大に喜び、兵を分ちて城に備へ、壘を鳶巢山に築き、一將を留めて之

勝。至二岡崎一。値二城將奧平信昌使者一。曰。城兵日夜望二大旆來一也。信長慰勞遣歸。而縱二反間一曰。信長方患二京畿北國一。不レ能二來援一。勝頼大喜。分レ兵備レ城。築二壘于鳶巣山一。留二一將一守レ之。而自進二十餘町。濟二瀧澤川一而陣。

を守らしめて、自ら進むこと二十餘町、瀧澤川(二)を濟りて陣す。

(一) 大將信長をいふ敬稱　(二) 參河國に在り

信長至二設樂鄕一。令二將士議一レ戰。德川氏部將酒井忠次進曰。臣請今夜間道遶二出敵背一。襲二鳶巣壘一。縱二火敵營一。以褫二其氣一。而大軍乘レ之。莫レ不レ勝矣。信長佯罵曰。咄。田舍兒何知。諸

信長、設樂鄕(一)に至りて、將士をして戰を議せしむ。德川氏の部將酒井忠次進みて曰く、臣請ふ、今夜間道より敵背に遶りて出で、鳶巣の壘を襲ひ、火を敵營に縱ちて、以て其氣を褫ひ、而して大軍之に乘ぜば、勝たざる莫からんと。信長佯りて罵りて曰く、咄、田舍兒、何をか知らんと。諸將皆退く。信長、人をして陰かに忠次を招かしめて曰く、汝が計用ふべし。吾れ其漏泄(二)を恐る。故に佯りて之を叱するのみ。汝宜しく速かに發すべし。顧ふに鄕導(三)なきを如何と。忠次曰く、臣卽ち鄕導を爲さん。請ふ、監吏(四)を賜へと。信長乃ち金森長近等四人を遣して之に從はしむ。是の時に當りて、信長は極樂寺に陣し、信忠は新御堂に陣

將皆退。信長使三人陰招忠次。曰。汝計可用。吾恐其漏泄。故佯叱之耳。汝宜速發。願如。毋鄉導何。忠次曰。臣即爲鄉導。請賜監吏。信長乃遣金森長近等四人從之。當是時。信長陣極樂寺。信忠陣新御堂。勒兵爲二十五隊。德川公爲右先鋒。居前。佐久間信盛。木下秀吉。瀧川一益。爲左先鋒。少卻。信長下令。爲柵于軍前。用杙與絙。立成。乃抽諸擊銃手。得三千。以佐佐成政前田利家等司之。曰。勝賴恃勇無謀。而其兵喜騎戰。吾沮之以柵。而銃斃之。彼即馳至。勿遽發。及其已逼。每千迭發。

し、兵を勒して十五隊と爲す。德川公、右先鋒と爲りて、前に居り、佐久間信盛・木下秀吉・瀧川一益、左先鋒と爲りて、少しく卻く。信長、令を下して、柵を軍前に爲らしむ。杙と絙とを用ひて、立ちどころに成る。乃ち諸隊の銃手を抽きて、三千を得たり。佐佐成政・前田利家等を以て之を司らしむ。曰く、勝賴、勇(五)を恃みて謀無し。而して其兵、騎戰を喜む。吾れ之を沮むに柵を以てして、銃もて之を斃さん。彼れ即し馳せ至るも、遽かに銃を發する勿れ。其已に逼るに及びて、千毎に迭に發せよと。

(一)參河國に在り (二)まはりみちして (三)もれる (四)軍目附 (五)勇氣を自負して

二十一日。昧

二十一日、(一)昧爽鳶巢に火起る。敵軍顧みて擾動(二)す。信長自ら(三)司銃五人を率ゐて、

爽。烏集火起。敵軍顧而擾動。信長自率二司銃五人一。出レ柵十町。發二巨銃于敵中一。挑レ戰而退。敵四將更進。逼二我右先鋒一。轉犯二左先鋒一。銃丸亂發。敵兵沮靡。敵三將敢死繼進。直犯二左先鋒一。破二柵一層一。我銃乃齊發。右先鋒以レ槍橫撃レ之。成政馳白二信長一。曰。敵中軍旗幟搖動。信

柵を出づること十町、巨銃を敵中に發ち、戰を挑みて退く。敵の四將更〻進みて、我が右先鋒に逼り、轉じて左先鋒を犯す。銃丸亂發し、敵兵沮靡す。(四)敵の三將敢死して繼ぎ進み、直に左先鋒を犯して、柵一層を破る。我が銃乃ち齊しく發す。右先鋒槍を以て橫に之を擊つ。成政馳せて信長に白して曰く、敵の中軍の旗幟搖動すと。信長、先鋒をして兵を縱ちて之に乘ぜしむ。敵軍敗走す。乃ち諸軍に令して、鼓譟して齊しく進ましむ。敵軍大に潰ゆ。走るを逐ひ北ぐるを追ひて、斬首一萬三千級、餘兵を川に擠して、其宗族、(五)將領二十餘人を獲たり。勝賴、僅に身を以て免る。參河の諸城、武田氏に屬する者、皆解きて走る。信長、軍を收めて、敢て窮追せず。徳川公來りて軍門に謝して曰く、今日の役、謝する所を知らずと。信長曰く、卿が兵最も力戰して以て此捷を得たるのみと。徳川公、因りて勢に乘じて遂に甲斐に入らんと請ふ。前田利家・木下秀吉、亦以て(六)言を爲す。信長可かずして曰く、我が兵疲れたり。吾れ且く力を養ひて再舉

長令先鋒縱兵乘之。敵軍敗走。乃令諸軍。鼓譟齊進。敵軍大潰。逐走追北。斬首一萬三千級。擠餘兵於川。獲其宗族將領二十餘人。勝賴僅以身免。參河諸城。屬武田氏者。皆解走。信長收軍。不致窮追。德川公來謝軍門曰。今日之役。不知所謝。信長曰。卿兵最力戰。以得此捷耳。德川公因請乘勢遂入甲斐。前田利家。木下秀吉亦以爲言。信長不可曰。我兵疲矣。吾且養力再擧。乃振旅而還。賽熱田。修其祠宇。歸美濃。

せんと。乃ち振旅して還り、熱田に賽し(七)、其祠宇を修めて、美濃に歸る。

(一)夜のひきあけ　(二)騷ぎ動く　(三)銃隊の將　(四)閉口して顔色とる　(五)大將株のもの　(六)德川公と同樣の意見をのぶ　(七)御禮參

於是令信忠攻岩村城。越前假守前波長俊失政。朝倉景健等。與一向賊作亂。據龍門虎杖木理火燧水津河野諸城。以遙應大坂。

是に於て、信忠をして岩村城を攻めしむ。越前の假守前波長俊、政を失ふ。朝倉景健等、一向賊と亂を作し、(一)龍門・虎杖・木理・火燧・水津・河野の諸城に據りて、以て遙に大坂に應ず。八月、信長・信忠乃ち公族、諸將の兵八萬を統べ、北伐して敦賀に至る。會〻大に雨ふる。信長潛に木下秀吉を召して曰く、敵必ず備を設けじ。汝、潛かに舟師を以て河野浦を取り、其不意を擊ちて、遂に龍門を破らば、則ち木理の諸城、攻めずして自ら破れんと。乃ち明智光秀等を以て之を助

月。信長信忠乃統二公族諸將兵一。凡八萬。北伐至二敦賀一。會大雨。信長潛召二木下秀吉一曰。敵必不レ設レ備。汝潛以二舟師一取二河野浦一。擊二其不意一。遂破二龍門一。則木理諸城不レ攻自破矣。乃以二明智光秀等一助レ之。夜發二敦賀一。已而河野龍門火起。木理諸城顧二視之一。皆棄レ守潰走。諸將邀擊大敗レ之。柴田勝家等。拔二鳥羽城一入二加賀一。金森長近等自二德山口一入。屠二三城一。而丹波若狹將士。以二兵艦數千艘一來會。縱二火沿海一。信長乃進。踰二木理嶺一。至二龍門一。景健斬二賊帥下間和泉等一。乞レ降。弗レ許。誅レ之。景健從士三人。伏レ刃殉レ之。信長恤二三人妻孥一。分レ兵索二賊黨一。斬獲五萬人。進略二加賀一。加賀越前十餘日而定。

けしめ、夜、敦賀を發す。已にして河野・龍門火起る。木理の諸城、顧みて之を視て、皆守を棄てて潰走す。諸將、邀へ擊ちて大に之を敗る。柴田勝家等鳥羽城を拔きて、加賀に入る。金森長近等、德山口より入りて、三城(一)を屠る。而して丹波・若狹の將士、兵艦數千艘を以て來り會し、火を沿海(二)に縱つ。信長乃ち進みて木理嶺を踰えて、龍門に至る。景健、賊帥下間和泉等を斬りて、降を乞ふ。許さず。之を誅す。景健の從士三人、刃に伏して之に殉ず。信長、三人の妻孥(三)を恤す。兵を分ちて賊黨を索め、斬獲すること五萬人なり。進みて加賀を略す。加賀・越前十餘日にして定る。

(一) 四城共に越前國にあり　(二) 海ぞひの地　(三) つまこ

九月。信長還至二北莊一。大論二戰功一。令下梁田出羽守三檜屋大聖寺二城一。以鎮中加賀上。分二越前三郡一賜二前田利家佐佐成政。及金森原不破武藤等一。以二其餘八郡一。盡賜二柴田勝家一。城二北莊足羽一。使レ居焉。身自經二畫之一。因敕二勝家一曰。越前。北陸之要扼。而當二長尾氏之衝一。吾選レ於二諸將一

九月、信長、還りて北莊に至り、大に戰功を論じ、梁田出羽をして、檜屋・大聖寺の二城を守りて、以て加賀を鎮せしむ。越前三郡を分ちて、前田利家・佐佐成政及び金森・原・不破・武藤等に賜ひ、其餘八郡を以て、盡く柴田勝家に賜ひ、北莊・足羽に城きて、居らしむ。身自ら之を經畫せしむ。因りて勝家を敕めて曰く、越前は、北陸の要扼にして、長尾氏の衝に當る。吾れ諸將より選びて以て汝に命ず。汝其れ之を勉めよ。夫れ國を守るの道は、當に徒に勇武を恃むべからず。當に恩威竝び施して、以て民心を服すべしと。乃ち條制を申べて曰く、賦斂を厚くすること毋かれ。關市を征すること毋れ。士民を侮ること毋れ。訟獄を偏にすること毋れ。武備を遺るゝこと毋れ。游田を喜むこと毋れ。皇人の邑にして、亂賊の掠むる所と爲る者は、當に印券に據りて還付すべし。國内の閒地、我が倉廩に歸する者は、以て功勞の士を待て。當に徒に費すべからず。凡そ我が令する所にして、不便なる者有らば、輒ち來りて之を爭へ。我れ將に改めんとすと。因

以命レ汝。汝其勉レ之。夫守レ國之道。不レ當三徒恃二勇武一。當三恩威並施一。以服二民心一。乃申二條制一曰。毋レ厚二賦斂一。毋レ征二關市一。毋レ侮二士民一。毋レ偏二訟獄一。毋レ遺二武備一。毋レ喜二游田一。鳧人之邑。爲二亂賊所一レ掠者。當下據二印劵一還付上。國内間地。歸二我倉廩一者。以待二功勞之士一。不レ當二徒費一。凡我所レ令。有二不便者一。輒來爭レ之。我將レ改焉。因命二不破佐佐前田等一。與二勝家一相檢察。以爲二國政一。然後班二師岐阜一。

りて、不破・佐佐・前田等に命じて、勝家と相檢察して（一一）、以て國政を爲さしむ。然して後、師を岐阜に班す（一二）。

（一）城を築きて　（二）肝要なる抑へ場所　（三）規則の箇條　（四）租税を多く取り立つることなかれ　（五）關所税商業税を取立つる勿れ　（六）裁判を不公平にする勿れ　（七）狩などをして遊ぶこと　（八）公家　（九）所有者なき地　（一〇）穀物倉　（一一）互に吟味して　（一二）軍隊

十月。入朝。廷臣二名來迎二于澤山一。詔聽二昇殿一。超拜二右大臣一。信長固辭。即任二權大納言一。兼二右近衛大將一。信長

十月、入朝す。廷臣二名、來りて澤山に迎ふ。詔して、昇殿を聽し、超えて右大臣に拜せらる。信長固辭す。即ち權大納言に任じ、右近衛大將を兼ねしむ。信長弓部百人を從へて、入りて拜謝す。因りて宴を御前に賜ふ。東西の諸國、交〻（一）使をして之れを賀せしむ。大坂の僧徒降を乞ひ、珍玩（二）を獻ず。之を許す。會〻美濃の使者至り、武田勝頼來りて岩村を援ふと告ぐ。信長馳せ還りて之に赴く。是

從二弓部百人一入拜謝。因賜三宴於二御前一。東西諸國。交使二使賀レ之。大坂僧徒乞レ降。獻二珍玩一。許レ之。會美濃使者至。告三武田勝賴來援二岩村一。信長馳還赴レ之。先レ是。岩村城將出戰。信忠擊卻レ之。城將遂出降。而信長至。磔二城將一以徇。以二河尻鎮吉一爲二岩村城主一。勝賴聞レ之引去。朝廷嘉二信忠功一。擬以二高爵一。信長固辭。乃除二秋田城介一。信長因奏請曰。臣將校爲レ臣效レ力。使二臣奏レ功。今臣父子獨辱二顯爵一。而不レ及二此輩一。臣意竊愧レ之。

より先、岩村の城將出で戰ふ。信忠擊ちて之を卻く。城將遂に出で降る。而して信長至り、城將を磔(三)して以て徇へ、河尻鎮吉を以て岩村の城主と爲す。勝賴之を聞きて引き去る。朝廷、信忠の功を嘉し、擬するに高爵を以てせんとす。信長固辭す。乃ち秋田城介に除せらる。信長因りて奏請して曰く、臣の將校、臣の爲に力を效し、臣をして功を奏せしむ。今や臣が父子、獨り顯爵を辱くして、此輩に及はず、臣、意竊かに之を愧づと。

(一) 天子の御前にて酒宴を開きて饗す　(二) 珍らしき品々　(三) はりつけ

於レ是。以二木下秀吉一除二筑前守一。明智光秀

是に於て、木下秀吉を以て筑前守に除し、明智光秀を日向守に除し、塙直正を備中守に除し、河尻鎮吉を肥前守に除す。是れより先、西海の(一)豪姓多く絕えて

除二日向守一。塙直正除二備中守一。河尻鎮吉除二肥前守一。先レ是。西海豪姓多絶而無レ嗣。信長欲レ使二諸功臣繼一レ之。乃命各冒二其姓一。明智光秀冒二惟任氏一。塙直正冒二原田氏一。梁田出羽冒二別喜氏一。丹羽長秀冒二惟住氏一。秀吉羨二丹羽柴田氏威名一。請稱二羽柴氏一。信長謂二信忠及諸將一曰。我他日得レ混二一海內一。則使下汝輩實稱中其名上也。當二是時一。織田氏之國。橫二塞天下衢路一。以二東國鷹馬一贈二遺西國一。以二西國虎豹皮一贈二遺東國一。得二贈遺一者。各以爲信長已略二有其地一也。

嗣無し。信長、諸功臣をして之を繼がしめんと欲す。乃ち命じて各〻其姓を冒さしむ。明智光秀は惟任氏を冒し、塙直正は原田氏を冒し、梁田出羽は別喜氏（二）を冒し、丹羽長秀は惟住氏を冒す。秀吉は丹羽・柴田氏の威名を羨み、請ひて羽柴氏と稱す。信長、信忠及び諸將に謂ひて曰く、我れ、他日海內を混一（三）するを得ば、則ち汝が輩をして、實に其名を稱せしめんと。是の時に當りて、織田氏の國、天下の衢路（四）に橫塞す。東國の鷹馬を以て、西國に贈遺し、西國の虎豹の皮を以て、東國に贈遺す。贈遺を得る者、各〻以爲へらく、信長已に其地を略有（五）すと。

（一）豪族　（二）諸豪の姓を繼ぎて名のらしむ　（三）天下を握ることを得ば　（四）通行の道　（五）平定して所有すと

四年。正月。信長欲下徙治二于

四年正月、信長徙りて近江の安土山に治して以て長尾氏に備へんと欲す。惟住長

近江安土山一。以備中長尾氏上。惟住長秀董レ役。課二畿內及尾張美濃若狹越前十一州之卒一。起二天主閣一。閣凡七層。高七丈。布三邸第于二山下一。令下信忠居二岐阜一。以備中武田氏上。是歲。信忠敘從四位下一。尋進レ上。四月。信長入朝。詔。使下修二二條城趾一以爲中館上焉。數年而成。不三敢自館一。請獻二之皇太子一居焉。

秀、役を董す(一)。畿内及び尾張・美濃・若狹・越前十一州の卒に課して、天主閣(二)を起す。閣凡て七層、高さ七丈、邸第を山下に布く。信忠をして岐阜に居りて、以て武田氏に備へしむ。是の歲、信忠、從四位下に敘せられ、尋ぎて上に進めらる。四月、信長入朝す。詔(三)して、二條城趾を修めて以て館と爲さしむ。數年にして成る。敢て自ら館せず。請ひて之を皇太子に獻じて居らしむ。

(一) 普請を監督す　(二) 城上の高き閣、その名義につてきは諸説あり　(三) 城あと

時大坂復叛。與二武田長尾毛利氏一相結。信長遣二細川藤孝。荒木村重。惟任光秀。

時に大坂復た叛し、武田・長尾・毛利氏と相結ぶ。信長、細川藤孝・荒木村重・惟任光秀・原田直正・筒井順慶を遣し、兵三萬に將として赴き討たしむ。佐久間信盛等をして天王寺の壘を守らしむ。賊、木津・難波に壘し、舟船往來す。信長、諸將を戒めて曰く、必ず木津を取れと。直正、降將三好康長、及び根來等の兵を率

原田直正。筒井順慶。將兵三萬赴討。令佐久間信盛等守天王寺壘。賊壘于木津難波。以船往來。信長戒諸將曰。必取木津。直正率降將三好康長。及根來寺兵攻之。難波賊以銃手要之田中。先鋒敗走。直正戰死之。五月。賊遂以萬餘人圍天王寺。信盛與光秀順慶等固守拒之。梶川彌三郎從在城内。數出力戰。時溝壁未成。乃刺殺牛馬。張其皮代壁。以扞矢石。

ゐて、之を攻む。難波の賊、銃手(一)を以て之を田中に要す。先鋒敗れ走る。直正戰ひて之に死す。五月、賊遂に萬餘人を以て天王寺を圍む。信盛、光秀・順慶等と、固守(二)して之を拒ぐ。梶川彌三郎從ひて城内に在り。數〻出でて力戰す。時に溝壁未だ成らず。乃ち牛馬を刺し殺して、其皮を張りて壁に代へて、以て矢石を扞ぐ(三)。

(一) 鐵砲方　(二) 固く守る　(三) 弓鐵砲を扞ぐ

信長聞急。方浴。浴衣上馬。與百餘騎赴援。至若江。兵聚者三千。分爲三隊。命先鋒於村重。村重辭。信長曰。

信長急を聞く。方に浴す。浴衣にて馬に上り、百餘騎と赴き援ふ。若江に至り、兵聚る者三千なり。分ちて三隊と爲し、先鋒を村重に命ず。村重辭す。信長曰く、「然らば則ち乃公(一)、之を爲さんのみ」と。乃ち自ら輕卒に雜り、指麾して進む。敵の矢丸、雨の如し。信長足を傷く。怒りて益〻(二)進む。城兵其旗を望み見て大に喜び、門を開きて出で戰ふ。夾み撃ちて賊兵を敗る。賊兵猶ほ陣を布きて退か

然則乃公爲レ之耳。乃自雜二輕卒一。指麾而進。敵矢丸如レ雨。信長傷レ足。怒而益進。城兵望二見其旗一。大喜。開レ門出戰。夾擊破二賊兵一。賤兵猶布レ陣不レ退。信長欲二再戰一。諸將諫曰。衆寡不レ可レ敵。俟二我兵盡來一然後戰。信長叱曰。機可レ失乎。合レ兵爲二二隊一。復擊大破レ之。追レ北至二大坂城門一。斬首二千餘級。乃整レ軍以備二敵返襲一。築二壘十所一。以環二大坂一。凱二旋若江一。六月。歸二安土一。休レ兵二十日。就レ役。七月ヲ主閣成。十一月。入朝。詔。進二正三位一。拜二內大臣一。固辭。不レ許。十二月。獵二尾張參河一。

ず。信長、再び戰はんと欲す。諸將諫めて曰く、衆寡敵すべからず。我が兵盡く來るを俟ち、然して後戰はんと。信長、叱して曰く、(三)機失ふべけんやと。兵を合せて二隊と爲し、復た擊ちて大に之を破り、北ぐるを追ひて大坂の城門に至る。斬首二千餘級なり。乃ち軍を整へて以て敵の返襲に備へ、壘を十所に築きて、以て大坂を環し、若江に凱旋す。六月、安土に歸り、兵を休むること二十日にして、役に就かしむ。七月、天主閣成る。十一月、入朝す。詔して、正三位に進め、內大臣に拜せらる。固辭す。許さず。十二月、尾張・參河に獵す。

(一) 吾 (二) 身分卑しき兵 (三) 好機會をはづしてなるものか

五年。正月。入

五年正月、入朝す。二月、紀伊の賊雜賀孫一亂を作して、大坂に應ず。信長、

朝。二月。紀伊賊雜賀孫一作レ亂。應二大坂一。信長招二降賊將雜賀三緘根來杉房一。以爲二鄕導一。率二諸軍一南伐。自二二道一入。拔二貝塚及中野一。三月。孫一降。請下攻二大坂一自效上。許之。置二戍于二左野一而還。四月。能登越中賊起。長尾氏不レ能レ制。信長聞レ之。招二降能登人長重連等一。乘レ機略レ地。七月。長尾謙信來攻二重連一。重連弟連龍來告レ急。乃遣二羽柴秀吉等一。助二柴田勝家一赴救。秀吉不レ告而還。信長譴不レ許レ見。

賊將雜賀三緘・根來杉房を招降して、以て鄕導と爲し、諸軍を率ゐて南伐し、二道より入りて、(一)貝塚及び(二)中野を拔く。三月、孫一降り、大坂を攻めて自ら效さんと請ふ。之を許し、戍を左野に置きて還る。四月、能登・越中の賊起る。長尾氏制すること能はず。信長之を聞きて、能登の人長重連等を招き降して、機に乘じて地を略す。七月、長尾謙信來りて重連を攻む。重連の弟連龍、來りて急を告ぐ。乃ち羽柴秀吉等を遣し、柴田勝家を助けて赴き救はしむ。秀吉、(三)告げずして還る。信長、譴めて見るを許さず。

(一)和泉國に在り　(二)同上　(三)無斷にて還る

八月。松永久秀叛。應二大坂一。初久秀之降

八月、松永久秀叛きて大坂に應ず。初め久秀の降るや、信長許さずして曰く、彼れ智勇餘有り。而して姦佞比なし。(一)飢うれば則ち伏し、飽けば則ち起つ。彼

也。信長不許曰。彼智勇有餘。而奸佞無比。飢則伏。飽則起。彼已亂足利氏。亦欲亂我家乎。佐久間信盛曰。彼事暗主。乃能如此爾。得主公駕馭之。何能爲也。宜且撫納之。以示天下廣可也。從之。德川公嘗謁信長。見一老人侍側。問其爲誰。信長笑曰。此松永彈正者

れ已に足利氏を亂す。亦我が家を亂さんと欲するかと。佐久間信盛曰く、彼れ暗主に事ふ。(二)乃ち能く此の如きのみ。主公之を駕馭(三)するを得ば、何をか能く爲さん。宜しく且く之を撫納して、以て天下に廣き(四)を示して可なるべしと。之に從ふ。德川公、嘗て信長に謁す。一老人の側に侍するを見て、其の誰たるかを問ふ。信長笑ひて曰く、此れ松永彈正といふ者なり、此夫、人の能くし難き所を爲すもの三つあり。公方を弑するは一なり。三好氏に叛くは二なり。大佛殿を燔くは三なりと。久秀、俯伏流汗、(五)意自ら安んぜず。久秀、茶鐺(六)有り。平蛛と名づく。信長之を得んと欲す。久秀靳しみて獻ぜず。是に於て、諸將と俱に大坂を攻め、遂に叛き去りて、志貴城に據る。信長、侍吏楠友閑を遣して、往きて其意(七)を問はしむ。久秀答へず。

(一) 其の弱き中は從ひ強くなれば叛く　(二) 暗愚の主君に仕ふ、そこで賢者の行爲をなしたるのみ　(三) つかひこなす　(四) 度量の廣きこと　(五) うつむきて汗を流して恥ぢ入り不安心に堪へられず　(六) 茶湯に用ふる釜　(七) 其の叛きたる心中を問ひ正さしむ

也。此夫。爲人所難能者三。弑公方一也。叛三好氏二也。燔大佛殿三也。久秀俯伏流汗。意不自安。久秀有茶鐺名平蜘蛛。信長欲得之。久秀靳不獻。於是與諸將倶戍大坂。遂叛去。據志貴城。信長遣侍史楠友閑往問其意。久秀弗答。

九月。乃令信忠將數萬騎討之。細川藤孝惟任光秀。筒井順慶等。別攻其屬城片岡。藤孝二子。忠興興正猶幼。先登獲首級。諸軍從之。遂拔之。與信忠合。圍志貴。久秀潛遣使。與雜賀大坂約期夾攻。使者誤入佐久間信盛營。

九月、乃ち信忠をして、數萬騎に將として之を討たしむ。細川藤孝・惟任光秀・筒井順慶等、別に其屬城片岡を攻む。藤孝の二子忠興・興正猶ほ幼し。先登(一)して首級を獲たり。諸軍之に從ひて、遂に之を拔く。信忠と合して、志貴を圍む。久秀潛かに使を遣して、雜賀・大坂と、期を約して夾み攻めんとす。使者誤りて佐久間信盛の營に入る。信盛捕へて之を獻ず。信忠喜びて曰く、是れ天授なり(二)と。乃ち死士二百をして、雜賀の援兵と僞らしめて、夜、城門に至らしむ。門開きて入る。二城に及ぶ比、信忠、衆を鼓して齊しく登る。二百人呼譟して之に應ず。信忠遂に入りて、久秀を天守閣に蹙む(三)。久秀火を縱ちて、愛する所の茶鐺を抱きて、自ら燒殺す。其子久通以下、皆捕へ誅せらる。

(一) さきがけして　(二) 天の賜物　(三) 追詰む

信盛捕獻レ之。信忠喜曰。是天授也。乃令三死士二百僞二雜賀援兵一。夜至二城門一。門開而入。比レ及二二城一。信忠鼓レ衆齊登。二百人呼譟應レ之。信忠遂入。蹙三久秀于二天主閣一。久秀縱レ火抱二所レ愛茶鐺一。自燒殺。其子。久通以下皆後二捕誅一。

信忠入朝。廷臣傳レ詔。敍二從三位一。任二左近衞中將一。聽二昇殿一。信忠稽首曰。天恩隆渥。無二物可一レ比。雖レ然。臣不二敢輒受一。請告二之信長一。然後奉受。强レ之。不レ肯。使者還報。天子動レ容嘉賞。聽二其所一レ言。信長答書曰。久秀老猾。汝一擧斃レ之。汝功多

信忠入朝す。廷臣、詔を傳へて、從三位を敍し、左近衞中將に任じ、昇殿を聽さる。信忠稽首して曰く、天恩隆渥(一)、物の比すべきなし。然りと雖も、臣敢て輒く受けじ。請ふ、之を信長に告げて、然る後に奉受(二)せんと。之を强ふ。肯ぜず。使者還り報ず。天子、容(三)を動して嘉賞し、其の言ふ所を聽す。信長答書して曰く、久秀は老猾(四)なり。汝、一擧にして之を斃す。汝の功多し。宜しく詔を奉ずべしと。信忠、乃ち入朝して拜謝す。安土に覲(五)して岐阜に歸る。是の役や、筒井順慶、最も功有り。信長、之に大和を賜ふ。十一月、信長、入朝す。從二位に進め、右大臣に轉ぜらる。

(一) 陛下の思召のあつきことは此上なし　(二) 御受をせん　(三) いたく感心遊ばされて御容を動し、よみし給ひ
(四) 年老い物慣れて惡賢し　(五) 御機嫌伺をして

矣。宜ㇾ奉ㇾ詔也。信忠乃入朝拜謝。親ニ安土一而歸ニ岐阜一。是役也。筒井順慶最有ㇾ功。信長賜ニ之大和一。十一月。信長入朝。進ニ從二位一。轉ニ右大臣一。

信長略ニ定畿內一。獨大坂未ㇾ服。毛利氏前納ニ足利義昭一。終與ㇾ我絕。又援ニ大坂一。爲餽ニ糧食一。備前浮田氏屬ニ毛利氏一。東窺ニ播磨一。播磨人赤松義祐。別所長治。小寺政職。黑田宗圓。皆求ニ援於ㇾ我。宗圓子孝高爲ニ使者一。因ニ羽柴秀吉一以通ニ信

信長、畿內を略定せしが、獨り大坂未だ服せず。毛利氏、前に足利義昭を納れて、終に我と絕つ。又大坂を援ひて、爲に糧食を餽る。備前の浮田氏、毛利氏に屬して、東、播磨を窺ふ。播磨の人赤松義祐(一)・別所長治・小寺政職・黑田宗圓、皆援を我に求む。宗圓の子孝高、使者と爲りて、羽柴秀吉に因りて以て信長に通ず。信長、秀吉の北陸に敗らるゝを譴めたり。是に於て、西征大將を命じて、山陽・山陰を略して、以て其罪を償はしむ。秀吉、感奮(二)して、播磨に戰ひて功有り。十二月、信長、參河に獵す。菅谷長賴をして安土に留守せしむ。名刀、寶器を以て之に授け戒めて曰く、秀吉來らば則ち之を與へよと。既に歸りて秀吉至る。六年正月、信忠及び秀吉等十二人を茗室(三)に饗し、親ら之に餽る。終に率ゐて以て天主閣に登りて曰く、此城を就す所以は、卿等の力なりと。又秀吉を遣して西征せしむ。四月、

長。信長讙秀吉之敗爲北陸也。於是命西征大將。使略山陽山陰以償其罪。秀吉感奮。戰播磨有功。十二月。信長獵參河。命菅谷長頼留守安土。以名刀寶器授之。戒曰。秀吉來則與之。既歸而秀吉至。六年。正月。饗信忠及秀吉等十二人于茶室。親饋之。終牽以登天主閣。曰。所以就此城者。卿等力也。又遣秀吉西征。四月。辭兩職。

兩職を辭す。

㈠兵粮　㈡慇懃奮發して　㈢茶室

時長尾謙信已死。信長乃令北陸降將齋藤氏神保氏。與飛驒國主姉小路氏。幷力以定越中。遣惟任光秀略丹波。細川藤孝略丹後。五月。毛利輝元發大兵。

時に長尾謙信已に死す。信長乃ち北陸の降將齋藤氏・神保氏をして、飛驒の國主姉小路氏と、力を幷せて以て越中を定めしむ。惟任光秀を遣して丹波を略し、細川藤孝に丹後を略せしむ。五月、毛利輝元大兵を發して、熊川に至る。秀吉急を告ぐ。信長自ら赴き援けんと欲す。諸將之を止めて曰く、臣等先づ往き、其地形の險易を詳かにして、然る後に駕を迎へんと。乃ち荒木村重をして赴き援はしむ。又信忠・信雄・信孝・信包を遣して、諸將を率ゐて之に繼がしむ。六月、京師大水あり、信長入朝す。秀吉來り謁して、具に軍狀を白す。信長之に命じて曰く、敵、兵多

至熊川。秀吉告急。信長欲自赴援。諸將止之曰。臣等先往。詳其地形險易。然後迎駕。乃令荒木村重赴援。又遣信忠信雄信孝信包。率諸將繼之。六月。京師大水。信長入朝。秀吉來謁。具自軍狀。信長命之曰。敵兵多食足。我軍與之曠日持久。徒疲力耳。不若引兵按定播磨待時進取。秀吉乃去。傳令於諸將。信忠還兵。攻下神吉志方諸城。令秀吉守之。以攻三木城。三木與大坂海路相通。信長乃命九鬼嘉隆。以大艦數十艘。自伊勢廻紀伊。擊破雜賀賊船。奪三十餘艘。以傳界浦。九月。信長入朝。南巡大坂。獵于阿部野。十月。召嘉隆習水戰。觀之。自是三木大坂援路遂絕。

くして食足る。我が軍、之と日を曠しくして久しきを持せば、特に力を疲らせんのみ。兵を引きて播磨を按定し(三)、時を待ちて進み取るに若かずと。秀吉乃ち去りて、令を諸將に傳ふ。信忠兵を還して、攻めて(四)神吉・志方の諸城を下し、秀吉をして之を守らしめ、以て三木城(五)を攻む。三木、大坂と海路相通ず。信長乃ち九鬼嘉隆に命じて、大艦數十艘を以て、伊勢より紀伊に廻り、撃ちて雜賀の賊船を破り、三十餘艘を奪ひ、以て界浦に傳らしむ。九月、信長入朝す。南大坂に巡り、阿部野に獵す。十月、嘉隆を召して、水戰を習はせて之を觀る。是より、三木・大坂の援路遂に絕ゆ。

(一) 難易　(二) 軍のありさま　(三) おきて定む　(四) 二城共に播磨國にあり　(五) 同上

荒木氏士人有下糶レ於二大坂一者上。監吏以告曰。村重與二大坂一有レ私。信長不レ信。曰。村重微者也。吾擢以爲二攝津守護一。何苦而反。毋二乃訛傳一邪。明智光秀嫉下村重以二新進一聲績出中己右上也。力媒二蘖之一。信長使三人詰二村重一。村重驚愕。欲三面陳二謝之一。家臣皆諫。不レ聽而往。光秀馳レ書。止二之

荒木氏の士人、大坂に糶する者有り。監吏以て告げて曰く、村重、大坂と私有りと。信長信ぜず。曰く、村重は微者なり(二)。吾れ擢んでて以て攝津の守護と爲す。何を苦しみて反せん。乃ち訛傳(三)なる毋からんやと。明智光秀、村重の新進(四)を以て(五)聲績己の右に出づるを嫉むや、力めて之を媒蘖(六)す。信長、人をして村重を詰らしむ。村重驚愕して、面のあたり之を陳謝せんと欲す。家臣皆諫む。聽かずして往く。光秀、書を馳せて、之を途に止めて曰く、主公の(七)怒犯すべからず。足下何ぞ(八)自ら虎口に投ずるを爲すと。村重乃ち還り、伊丹城に據りて叛し、毛利氏に應じ三木城と夾みて秀吉を攻めんと欲す。十一月、信長自ら將として村重を討つ。信忠以下皆從ふ。郡山に至る。高槻の城主高山友祥・茨木の城主中川清秀、皆村重に屬す。信長、友祥の天主教を崇ぶと聞くや、教主伴天連(九)といふ者を召して友祥に諭さしむ。友祥乃ち降る。

(一)米を賣出す (二)身分賤しき者なり (三)まちがひの言觸し (四)新參者 (五)名譽と功績 (六)罪を構へて罪を釀成す (七)信長の怒甚だしくして近寄る可からず (八)自ら危險の場所に行かんとするか (九)耶蘇敎師の名

於レ途。曰。主公怒弗レ可レ犯。足下何自投二虎口一爲。村重乃還。據二伊丹城一叛。應二毛利氏一。欲下與二三木城一夾攻中秀吉上。十一月。信長自將討二村重一。信忠以下皆從。至二郡山一。高槻城主高山友祥。茨木城主中川清秀皆屬二村重一。信長聞下友祥崇中天主教上也。召二教主伴天連者一使レ諭二友祥一。友祥乃降。

信長自脫レ衣衣レ之。賜二芥川郡一。清秀聞レ之。亦降。進至二昆陽一。居二兵庫一。秀吉來說二村重改一レ圖。村重弗レ聽。十二月。圍二伊丹一不レ克。信長恐二其損一レ兵。築二長圍一。令二池田信輝瀧川一益蒲生氏鄉等守一レ之而還。七年。二月。

信長自ら衣を脫して之に衣せ、芥川郡を賜ふ。清秀之を聞きて、亦降る。進みて昆陽に至り、兵庫を居る。秀吉來りて、村重に圖を改めんことを說く。村重聽かず。十二月、伊丹を圍む。克たず。信長、其の兵を損せんを恐れ、長圍を築きて、池田信輝・瀧川一益・蒲生氏鄉等をして之を守らしめて還る。七年二月、入朝す。三月、信忠と俱に伊丹に如き、諸將を慰勞して、箕尾に遊ぶ。八月、大に三木・伊丹・天王寺屯戍の將士に賚ふ。九月、信長、復た伊丹に如く。村重、族人を留めて城を守らせて夜逃る。華隈・尼崎に如き、援を毛利氏に求む。毛利氏辭するに海路梗塞するを以てす。十月、一益、密に城兵中西某を招きて、之を諭して曰く、而が主は怯恇なり。若が輩を棄てて去る。若、怯主の爲に死を致す

入朝。三月。與二信忠一俱如二伊丹一。慰二勞諸將一。遊二箕尾一。八月。大賚二于三木伊丹天王寺屯戍將士一。九月。信長復如二伊丹一。村重留二族人一守レ城而夜逃。如二華隈尼崎一。求三援於二毛利氏一。毛利氏辭以二海路梗塞一。十月。一益密招二城兵中西某一。諭レ之曰。而主怯懦。棄二若輩一去。若爲二怯主一致レ死。曷若下降二織田公一以樹中功名上哉。中西乃與二卒長六人一。謀レ啓二我兵一。我兵乃入。留守者請。釋二其孥一。則往說二村重一。使レ致二尼崎華隈二城一也。乃質二其孥一而遣レ之。二城拒弗レ納。乃散走。信長命磔二其孥于二尼崎西北一。以示二二城兵一。十二月。徇二荒木氏族三十餘人于二京師一。誅レ之。以二攝津一賜二池田信輝一。令下與二其二子之助輝政一俱攻中華隈上。終拔レ之。

は、曷ぞ織田公に降りて、以て功名を樹つるに若かんやと。中西乃ち卒長五人と、我が兵を啓(六)かんと謀る。我が兵乃ち入る。留守の者請ふらく、其孥を釋せ。則ち往きて村重に說き、尼崎・華隈の二城を致さしめんと。乃ち其孥を質として之を遣す。二城拒ぎて納れず、乃ち散じ走る。信長、命じて其孥を尼崎の西北に磔して、以て二城の兵に示す。十二月、荒木氏の族三十餘人を京師に徇へて、之を誅す。攝津を以て池田信輝に賜ひ、其二子、之助・輝政と倶に華隈を攻めしめて、終に之を拔く。

(一) 攝津國に在り (二) 同上 (三) とゞまる守る (四) 臆病者 (六) 先導、手引

是歳。令下羽柴秀吉分レ兵。助二惟任光秀一攻中丹波上。招二降國主秦秀治一。秀治不二肯降一。光秀送レ母爲レ質。秀治乃降。光秀誘執レ之。押二送安土一磔二殺之一。丹波人聞レ之。磔二光秀母一。信長以二丹波一賜二光秀一。居二龜山城一。

是の歳、羽柴秀吉をして兵を分ちて、惟任光秀を助けて丹波を攻めしめ、國主秦秀治を招き降す。秀治肯て降らず。光秀母を送りて質(一)と爲す。秀治乃ち降る。光秀誘ひて之を執へ、安土に押送(二)して、之を磔殺(三)す。丹波の人、之を聞きて、光秀の母を磔す。信長、丹波を以て光秀に賜ひて、龜山城に居らしむ。

(一) 人質　(二) 護送して　(三) はりつけにして殺す

八年。正月。三木城將別所長治致レ城自殺。信長以二三木一加二賜於中川清秀一。以レ女妻二其子一。令三秀吉攻二但馬一。降二其國主山名宗仙一。浮田氏

八年正月、三木の城將別所長治、城を致して自殺す。信長三木を以て中川清秀に加賜し、女を以て其子に妻はす。秀吉をして但馬を攻めしめて、其國主山名宗仙を降さしむ。浮田氏既に降りて毛利氏と兒島に相拒ぐ。大坂、連に強援(一)を失ひて、勢力、日に衰ふ。天子、廷臣三輩を遣して、就き諭して之を降らしむ。信長も亦、楠友閑をして往かしむ。是に是て、僧光佐、徒屬を聚めて之を議す。其老下間刑部等、皆其降を贊して曰く、我れ宜しく降るべき者四有り。我

既降。與二毛利氏一相二拒兒島一。大坂連失二强援一。勢力日衰。天子遣二廷臣三輩一、就諭降レ之。信長亦使二楠友閑往一焉。於レ是僧光佐聚二徒屬一議レ之。其老下長刑部等皆贊二其降一曰。我有二宜レ降者四。我與二織田氏一交レ兵十一歲矣。諸國門徒並起應レ我而皆被二誅殺一。不レ知二其幾千萬一也。可レ不レ憫乎。一宜レ降也。本城諸將久在闈中一。粉骨虀身。藉不レ能レ賞レ之。猶息二其肩一。二宜レ降也。織田氏用レ武所レ當者破。所レ擊者服。若別所荒木秦氏一。莫レ不下絕二其根一殲中其類上。我雖下因二地利一憑二人和一。以至中於今日上。而竟亦如レ此矣。是非三自絕二滅我敎一乎。

れ織田氏と兵を交ふること十一歲なり。諸國の門徒(二)並び起りて我に應じて、皆誅殺せらる。其幾千萬なるを知らず、憫まざるべけんや。一宜しく降るべきなり。本城の諸將久しく闈中に在りて、粉骨虀身(三)せり、藉之れを賞すること能はざるも、猶ほ其肩を息はしめん(四)。二宜しく降るべきなり。織田氏の武を用ふるや、當る所の者破れ、擊つ所の者服す。別所・荒木・秦氏の若き、其根を絕ち(五)其類を殲さざる莫し。我れ地の利に因り人の和に憑りて、以て今日に至ると雖も、而も竟に亦此の如けん。是れ自ら我が敎を絕滅するに非ずや。三宜しく降るべきなり。天子の詔は奉ぜざるべからず。四宜しく降るべきなり。

(一) 强き味方 (二) 門宗の信者 (三) 骨々粉にして切りきざまる (四) 休息を取らしめん (五) 二氏の一族臣隷悉く誅滅せらる

三宜降也。天子之詔。不レ可レ不レ奉。四宜レ降矣。

且夫天下英雄豪傑抗ニ衡織田氏一者。孰若ニ我耐一レ久乎。我武多矣。誰得レ嗤レ我。光佐從レ之。請レ盟。信長使ニ青山虎蒞一レ焉。賜ニ光佐以下金一。有レ差。四月。光佐散ニ遣其衆一。自遯ニ于紀伊鷺森一。留ニ子光壽一。以ニ七月一致レ城。信長使ニ矢部善七受一レ之。門徒陰說ニ光壽一曰。

且つ夫れ天下の英雄豪傑、織田氏に抗衡(一)する者、孰か我の久しきに耐ふるに若かんや。我が武多し。誰か我を嗤ふを得んと。光佐之に從ひて、盟を請ふ。信長、青山虎をして莅ましめて、光佐以下に金を賜ふ。差有り。四月、光佐其衆を散遣して、自ら紀伊の鷺森に遯れ、子光壽を留めて、七月を以て城を致す。信長、矢部善七をして之を受けしむ。門徒陰かに光壽に說きて曰く、信長、人と爲り詐にして忍(二)なり。我れ一旦據を失はば、恐らくは、其計に陷らんと。光壽乃ち再び守備を修む。光佐懼れて、人をして之を止めしむ。肯ぜず。信長、之を聞きて、怒りて曰く、我れ終に之を剪滅(三)せざるを得ずと。兵を遣して勝曼・尼崎の二壘を陷る、光壽、惶恐して、罪を謝す。信長曰く、我れ徐(四)に之を圖らんのみと。乃ち之を宥(五)す。七月、光壽大坂を致して去る。

(一) 刃向ひたる者　(二) 殘忍　(三) 滅しつくす　(四) しづかに之を滅さんのみ　(五) 一本に宥とあり

信長爲人詐而忍。我一旦失據。恐陷其計矣。光壽乃再修守備。光佐懼。使人止之。弗肯。信長聞之。怒曰。我終不得不剪滅之。遣兵陷勝曼尼崎二壘。光壽惶恐謝罪。信長曰。我徐圖之耳。乃宥之。七月。光壽致大坂而去。

八月。信長入朝。自宇治舟行。至大坂。巡視城郭。以書數佐久間信盛。及其子正勝曰。汝父戍天王寺五年。翫寇殖利。不事進取。夫羽柴秀吉以二歲定三國。惟任光秀定丹波。池田信輝二兒。以幼齡拔華隈。柴田勝家聞此數

八月、信長、入朝す。宇治より舟行して、大坂に至り、城郭を巡視す。書を以て佐久間信盛及び其子正勝を數めて曰く、汝父子、天王寺を戍ること五年なり。寇を翫び利を殖して、進取を事とせず。夫れ羽柴秀吉は二歳を以て三國を定め、惟任光秀は丹波を定め、池田信輝の二兒は幼齡を以て華隈を拔く。柴田勝家は此數人の功を樹つるを聞きて、自ら如かざるを愧づるや、力戰して以て加賀を定む。獨り汝父子尺寸の功無し。士卒を養はずして、金錢を蓄へ、賞罰を論ぜずして茗飲を品す。是れ胡爲ぞや。前に朝倉の敗るゝや、汝懈りて肯て追はず。吾れ麾下を以て獨り進む、汝乃ち曰く、爾く懈ると雖も、信盛の若き者、焉ぞ復た得べけんと。審に言ふ所の如くんば、則ち五歳の戍、何ぞ一戰せざる。吾れ弓箭を執りしより、未だ嘗て敗れず。前に汝をして、家康を援ひて以て信玄を拒がし

人樹功。自愧不如也。力戰以定加賀。獨汝父子無尺寸功。不養士卒。而蓄金錢。不論賞罰。而品茗飮。是胡爲也。前朝倉之敗也。汝懈不肯追。吾以麾下獨進。汝乃曰。雖懈矣。若信盛者。焉可復得。稱如所言。則五歲之戍。何不一戰。自吾執弓箭。未嘗敗也。前使汝援

む。家康指教(四)する所有るも、汝肯て從はず。乃ち平手(五)を敵に餧して、吾が羞辱を貽す。何の顏ありて返りて吾を見るか。吾れ四方未だ平がざるを以て、含忍(六)今に至る。汝終に悛めずして、日に罪戾を累ぬ。吾れ復た汝を用ふる能はず。汝猶ほ過を悔い咎を引き、功を立て自ら贖はんと欲するか。不らずば則ち宜しく髮を削りて去るべし。吾れ汝を法(七)に置くに忍びざるなりと。人をして書を齎し、往きて之を視さしむ。曰く、吾が言ふ所非ならば、則ち直に之を爭へと。信盛・正勝答ふる能はずして、髮を削りて高野に遁る。部將皆散じ、獨り山口重政之に從ふ。初め水野信元信盛の讒殺する所と爲る。是に至りて白すを得たり。信長乃ち信元の弟忠重を召して、其邑(八)を復す。信長、大坂より京師に至りて、乃ち林通勝・伊賀範俊を流す。通勝は嘗て逆を謀り、範俊は嘗て叛を謀りしを以てなり。後二歲、信盛、高野に死す。信長之を憐み、正勝を召して之に祿し、信忠に仕へしむ。

家康一以拒中信玄上。家康有レ所二指教一。汝不レ肯レ從。乃餧二平手於一レ敵。貽二吾羞辱一。何顏返見レ吾乎。吾以二四方未一レ平。含忍至二于今一。汝終不レ悛。且累二罪戾一。吾不三復能二用一レ汝。汝猶悔レ過引レ咎。欲レ立レ功自贖一乎。不則宜二剃レ髮而去一。吾不レ忍レ置二汝於一レ法也。使二人齎一レ書往視レ之。曰。吾所レ言非。則直爭レ之。信盛正勝弗レ能レ答。剃レ髮遁二于高野一。部將皆散。獨山口重政從レ之。初水野信元爲三信盛所二讒殺一。至レ是得レ白。信長乃召二信元弟忠重一。復二其邑一。信長自二大坂一至二京師一。乃流二林通勝伊賀範俊一。以二通勝嘗謀一レ逆。範俊嘗謀レ叛也。後二歲。信盛死二于高野一。信長憐レ之。召二正勝一祿レ之。使レ仕二信忠一。

㊀ 利益のみはかりて ㊁ 少しの手柄もなし ㊂ 茶の味を品評す ㊃ 指し示して教ふる ㊄ 敵の餌食とす ㊅ 我慢する ㊆ 刑法に處するに忍びざるなり ㊇ 故の領地を與ふ

九年。二月。信長率二諸子一入朝。二月。柴田勝家以二謙信既死。北陸稍定一。乃來謁。獻二金銀及土物一。信長褒二其成功一。親饗レ之。初織田氏有レ傳

九年二月、信長、諸子を率ゐて入朝す。二月、柴田勝家、謙信既に死して、北陸稍〻定るを以て、乃ち來り謁し、金銀及び(一)土物を獻ず。信長、其成功を褒めて親ら之を饗す。初め織田氏に傳家の(二)茶鑵有り。姥口と名づく。勝家嘗て之を請ふ。信長曰く、先君、終に臨みて、之を我に授けて曰く、(三)愛護して失ふこと勿れ。必ず大勳勞有る者を得て之を予へよと。汝之を勉めよと。是に至りて、勝家請ひて曰く、臣、君の(四)威靈を藉りて、越前・加賀を定む。勳勞と稱するに足らず。

家茶鐺。名二姥口一。勝家背請レ之。信長曰。先君臨レ終。授二之我一曰。愛護勿レ失。必得下有二大勳勞一者上予レ之。汝勉レ之。至レ是勝家請曰。臣藉二君威靈一。定二越前加賀一。不レ足レ稱二勳勞一。雖レ然。四方漸平。臣等莫三復可二以樹一レ功也。願以二是時一。得二前所レ請者一。信長欣然。出而賜レ之。

然りと雖も、四方漸く平ぐ。臣等復た以て功を樹つべき莫し。願はくは是の時を以て、前に請ふ所の者を得んと。信長欣然として、出して之を賜ふ。

㊀土地の產物　㊁茶釜　㊂大切に藏して手放すことなかれ　㊃御威光　㊄喜んで

是月。信長大閱二馬京師一。爲三埒于二皇宮東一。請二天子蒞視一焉。四方將士皆會。會下長尾景勝窺レ虛侵二越中一。至レ于二小出一。而加賀賊起應レ之。是時越中守將佐佐成政與二降

是の月、信長大に馬を京師に閲す。埒を皇宮の東に爲り、天子の蒞視を請ふ。四方の將士皆會す。長尾景勝虛を窺ひて越中を侵し、小出に至りて、加賀の賊起りて之に應ずるに會ふ。是の時、越中の守將佐佐成政、降將神保某と、來りて安土に在り。信長、警報を得、成政等をして馳せ還りて之を拒がしむ。柴田勝家の義兒佐久間盛政、加賀の尾山に在り。賊を擊ちて之を殲し、景勝を走らす。成政至れば則ち事已に平ぐ。乃ち進みて悉く越中を定む。信長越中を以て成政に賜ふ。

㊀矢來　㊁其場に臨みて見る　㊂非常の報知　㊃養子

將神保茉。來在二安土一。信長得二警報一。令三成政等馳還拒二之。柴田勝家義兒佐久間盛政在二加賀尾山一。擊レ賊殲レ之。走二景勝一。成政至則事已平。乃進。悉定二越中一。信長以二越中一賜二成政一。

先レ是。前田利家定二能登一。以二能登加賀一增二賜之一。於レ是細川藤孝定二丹後一。誘二殺其國主一色義定一。以二丹後一賜レ之。

是より先、前田利家能登を定む。能登・加賀を以て之に增賜す。是に於て、細川藤孝丹後を定め、其國主一色義定を誘殺す。丹後を以て之に賜ふ。

㈠ ましわたふ　㈡ いざなひ殺す

八月。使下信雄與二筒井順慶一定中伊賀上。分三賜伊賀于二信雄信包一。乃令下秀吉大擧以伐中毛利氏上。十月。拔二鳥取城一。定二因幡一。

八月、信雄をして筒井順慶と與に伊賀を定めしむ。伊賀を信雄・信包に分賜す。乃ち秀吉をして、大擧して以て毛利氏を伐たしむ。十月、鳥取城を拔き、因幡を定む。

㈠ 分ち與ふ　㈡ 大軍を率ゐて

織田氏既代ニ足利氏一。定ニ近畿二十餘國一。法令嚴峻。雖下竊ニ一錢一者上處レ斬。奸盜屏息。路不レ拾レ遺。行旅委レ槖而睡。當ニ是時一。大坂以下強賊已屬ニ攘除一。而西有ニ毛利氏一。東有ニ長尾武田二氏一。與レ我接レ境。未ニ服從一也。徳川氏數攻ニ武田氏一。克レ之。北條氏以ニ關東八州一求ニ内屬一。東北豪傑

織田氏、既に足利氏に代りて、近畿二十餘國を定む。法令嚴峻(一)、一錢を竊む者と雖も、斬に處す。奸盜屏息(二)して、路に遺ちたるを拾はず。行旅槖(三)を委して睡る。是の時に當りて、大坂以下の強賊、已に攘除(四)に屬す。而して西に毛利氏有り、東に長尾・武田の二氏有りて、我と境を接して、未だ服從せず。徳川氏、數々武田氏を攻めて之に克つ。北條氏關東八州を以て内屬(五)を求む。東北の豪傑、皆使をして方物を獻ぜしむ。武田勝頼大に懼る。是の歳十一月、勝頼、勝長を送致す。勝長は信長の季子にして、甲斐に質たりし者なり。信濃の人木曾義昌、美濃の人苗木某に因りて、信忠に言ひて曰く、臣、勝頼の誅求(六)に勝へず。願はくは前導を爲して、以て甲斐を伐たんと。信忠、之を信長に告ぐ。信長曰く、吾れ甲斐を伐たんと欲するも、未だ釁(七)の乘ずべき有らず。今此報を得たり。我が事成る。然りと雖も、吾れ聞く、木曾の地は險隘にして、人心測るべからずと。宜しく其質子を徵して、然る後に其地を踐むべしと。信忠乃ち義昌の任子(八)を徵す。十二月、粟二萬

皆使三使献二方物一。武田勝頼大懼。是歳。十一月。勝頼送二致勝長一。勝長。信長季子。質レ於二甲斐一者也。信濃人木曾義昌。因二美濃人苗木某一。言レ於二信忠一曰。臣不レ勝二勝頼誅求一。願爲二前導一。以伐二甲斐一。信忠告二之信長一。信長曰。吾欲レ伐二甲斐一。未レ有レ釁可レ乘。今得二此報一。我事成矣。雖レ然。吾聞。木曾地險隘。人心不レ可レ測。宜下徴二其質子一。然後蹈中其地上。信忠乃徴二義昌任子一。十二月。輸二粟二萬石于吉良一。誡二徳川氏一曰。明春將レ有レ事レ於二甲斐一。

石を吉良に輸り、徳川氏を誡めて曰く、明春將に甲斐に事有らんとすと。

㊀ きびしくやかまし ㊁ 恐れてかくる ㊂ 旅人荷物袋を投げ出して眠る ㊃ すつかり除き去る ㊄ みうちとなりて附き從ふ ㊅ 一本に課とあり。租税を強ひて取立つ ㊆ よきすきまなし ㊇ 人質

十年。二月。信忠既收二義昌任子一。將二五萬騎一。入二木曾一。信長自將二歩騎七萬一。繼レ之。徳川氏以二三萬餘騎一自二駿河一。北條氏以二三萬騎一自二相摸一。

十年二月、信忠、既に義昌の任子を收め、五萬騎に將として、木曾に入る。信長自ら歩騎七萬に將として之に繼ぐ。徳川氏は三萬餘騎を以て駿河より、北條氏は三萬騎を以て相摸より、金森長近は三千騎を以て飛驒より、並に進みて之に應ず。信忠、瀧川一益・川尻鎭吉を以て先鋒と爲し、伊奈に入る。伊奈の人降りて、鎭吉の兵を導きて之を納る。我が兵進みて、松尾・飯田・小山の三城を陷る。木曾義昌、撃ちて甲斐の前軍を鳥居嶺に破り、捷を信忠に獻す。信忠兵五千を遣し

金森長近以二三千騎一自二飛騨一並進應レ之。信忠以二瀧川一益川尻鎮吉一爲二先鋒一。入二伊奈一。伊奈人降。導二鎮吉兵一納レ之。我兵進陷二松尾飯田小山三城一。木曾義昌撃破三甲斐前軍于二鳥居嶺一。獻三捷於二信忠一。信忠遣二兵五千一助レ之。自進陣二桔梗原一。復進陣二飯田一。陷二島大城一。

て之を助け、自ら進みて桔梗原に陣す。復た進みて飯田に陣し、(四)大島城を陷る。

(一) 歩兵と騎兵と　(二) 信濃國に在り　(三) 同上　(四) 同上

甲斐信濃士民。素苦二勝頼弊政一。爭レ先來降。信忠留レ兵守二大島一。而進陣二飯島一。勝頼在二諏訪一。走歸二甲斐一。信忠乃圍二高遠城一。城當二衝要一。守將

甲斐・信濃の士民、素より勝頼の弊政(一)に苦しむ。先を爭ひて來り降る。信忠、兵を留めて大島を守らせて、進みて飯島に陣す。勝頼、諏訪に在り。走りて甲斐に歸る。信忠乃ち高遠城を圍む。城は衝要に當り、守將仁科信盛・小山田昌辰等力戰す。下すべからず。三月信忠、諸將をして其前を攻めしめて、自ら其後を攻め、城を凌ぎて登り、信盛・昌辰以下の將領十七人を獲て、首を斬ること千餘級なり。信盛の首を齎して、信長に(二)呂久川に獻ぜしむ。之を路左に梟す。信忠進みて

仁科信盛小山田昌辰等力戰。不レ可レ下。三月。信忠使三諸將攻二其前一。而自攻二其後一。凌レ城而登。獲二信盛昌辰以下將領十七人一。斬レ首二千餘級。齎二信盛首一。獻三信長于二呂久川一。梟二之路左一。信忠進陷二高島深志二城一。遂入二甲斐一。勝頼以下已逃二匿山谷一。信忠陣二古府一。誅二其留者一。遣二弟勝長。及森成可子長可一。徇二上野一。下レ之。聞三勝頼在二天目山一。遣二瀧川一益一圍レ之。

高島・深志の二城を陷れ、遂に甲斐に入る。勝頼以下已に山谷に逃匿(三)す。信忠、古府に陣し、其留る者を誅し、弟勝長及び森可成の子長可を遣して、上野を徇へしめて、之を下す。勝頼(四)天目山に在りと聞き、瀧川一益を遣して之を圍ましめ、勝頼及び其子信勝を獲て、首を齎して信長に波合に獻ぜしむ。信長大に喜びて曰く、師を出して三十日にして、乃ち四國を定めて、其(五)巨魁を獲たり。此兒、眞に(六)大奇なりと。信秀傳ふる所の佩刀を以て之に賜ひ、人をして勝頼の首を京師に梟せしめて曰く、(七)乃父の一生、京に入るを以て志と爲す。吾れ豎子をして其志を繼がしむるなりと。是に於て、信長進みて諏訪に陣す。兵、諏訪に聚る者、凡十餘萬なり。令を甲斐・信濃・駿河・上野に下し、降附を撫納して、武田氏の奸臣數十人を收め、其罪を數めて之を誅す。

(一) 暴政　(二) 美濃國に在り　(三) 逃げかくる　(四) 甲斐國に在り　(五) 大將　(六) 大にすぐれて强し　(七) 汝の父

獲二勝賴一。及其子信勝一。竄レ首獻三信長于二波合一。信長大喜曰。出レ師三十日。乃定二四國一。獲二其巨魁一。此兒。眞大奇也。以二信秀所レ傳佩刀一賜レ之。使四人梟三勝賴首于二京師一。曰。乃父一生以レ入レ京爲レ志。吾使三豎子繼二其志一也。於レ是。信長進陣二諏訪一。兵聚二諏訪一者。凡十餘萬。下三令於二甲斐信濃駿河上野一。撫二納降附一。收二武田氏奸臣數十人一。數二其罪一誅レ之。

北條氏獻二黄金粱米一。以賀二戰捷一。德川公既定二駿河一。來謁二于諏訪一。信忠亦來會焉。信長與レ之謀。大論レ功行レ賞。賜下駿河于二德川公一。甲斐于二川尻鎭吉一。上野于二瀧川一益一。信濃四郡于二森長可一。岩村地五萬石

北條氏、黄金粱米(一)を獻じて、以て戰捷を賀す。德川公既に駿河を定め、來りて諏訪に謁す。信忠も亦來り會す。信長、之と謀りて、大に功を論じ賞を行ひ、駿河を德川公に、甲斐を川尻鎭吉に、上野を瀧川一益に、信濃の四郡を森長可に、岩村の地五萬石を長可の弟蘭丸に賜ふ。諸の降將穴山信良・眞田昌幸等は、舊邑(二)に因りて之を增損す。四月、信長、二府(三)を巡視して、武田氏の弊政を革め、諸將をして罷め歸らしむ。而して自ら駿河に入りて、富士岳を觀る。德川氏、道(四)を除きて供帳す。信長、之に吉良の粟二百石を賜ひて曰く、今や用無し。以て乃の將士を賞せよと。乃ち西に歸る。瀧川一益を遣し命じて曰く、吾れ汝を以て關東管領と爲す。凡そ關八州より以て陸奧・出羽に至るまで、皆汝之を處分せよ。獨り

于長可弟蘭丸。諸降將穴山信良。眞田昌幸等。因舊邑而增損之。四月。信長巡視二府。革武田氏弊政。使諸將罷歸。而自入駿河。觀富士岳。德川氏除道供帳。信長賜之吉良粟二萬石。曰。今無用矣。以賞乃將士。乃西歸。遣命瀧川一益曰。吾以汝爲關東管領。凡關八州以至陸奥出羽。皆汝處分之。所不能獨決者。謀之家康。賜之名馬。曰。宜騎焉以入封也。因令柴田勝家等與一益相爲應援。於圖長尾氏。遂經尾張。歸安土。以南海未定。命信孝與織田信澄。丹羽長秀。蜂屋頼隆等。南征。曰。事平分賜四國。五月。信孝等軍于大坂。信澄。信行子也。

決すること能はざる所の者は、之を家康に謀れと。之に名馬を賜ひて曰く、宜しく騎して以て封に入るべしと。因りて柴田勝家等をして、一益と應援を相爲して、長尾氏を圖らしむ。遂に尾張を經て安土に歸る。南海未だ定らざるを以て、信孝に命じ、織田信澄・丹羽長秀・蜂屋頼隆等と、南征せしむ。曰く、事平がば四國を分賜せんと。五月、信孝等大坂に軍す。信澄は信行の子なり。

㈠ 米穀　㈡ 舊領地について增し若しくは減ず　㈢ 古府と新府と　㈣ 通行の道路を掃除して清潔にして御馳走の用意をしてもてなす

十五日。德川

十五日、德川公、穴山信良と入りて謝す。信長、之を待すること甚だ渥し。惟

公與穴山信良一入謝。信長待レ之甚渥。令ニ惟任光秀饗レ之。旦日。得ニ羽柴秀吉書一。曰。秀吉圍ニ高松城一。吉川元春。小早川隆景。擁ニ毛利輝元一。將ニ數萬騎一來救。請得ニ援軍一。信長曰。彼擧ニ其巣穴一而來。是自速ニ覆滅一也。吾自往掃ニ殄之一。梟ニ元春隆景首。乘レ勢遂定ニ九州一耳。乃遣ニ堀秀政一。

任光秀をして之を饗せしむ。旦日、羽柴秀吉の書を得たり。曰く、秀吉、高松城を圍む。吉川元春・小早川隆景、毛利輝元を擁(一)して、數萬騎に將として來り救ふ。請ふ、援軍を得んと。信長曰く、彼れ其巣穴(二)を擧げて來る。是れ自ら覆滅を速くなり。吾れ自ら往きて之を掃殄(三)し、元春・隆景の首を梟し、勢に乘じて遂に九州を定めんのみと。乃ち堀秀政を遣し、馳せて秀吉を誡めしめて曰く、汝之と相持して、歸り入らしむる勿れと。是に於て、大に兵を徵し、池田信輝・細川忠興・高山友祥・中川清秀に命じて、先鋒と爲して先發せしむ。光秀も亦與る。初め光秀、土岐氏の疏屬(四)を以て諸國に流寓す。遇ふ(五)所無し。終に信長に干む(六)。信長擢んでて坂下城主と爲し、終に丹波を賜ふ。信長、將士を待つに、禮節(七)を設けず。嘲(八)誚嫚罵、以て常と爲す。而して光秀、人と爲り文深く、喜びて自ら修飾し、材藝を以て自ら高しとす。是より先、稻葉通朝(九)の家臣齋藤・那須罪有り。去りて光秀に仕ふ。通朝之を信長に訴ふ。信長、光秀をして那須を還致し、齋藤に死を賜

馳誡ニ秀吉一曰。汝與ㇾ之相持。勿ㇾ使ニ歸入一。於ㇾ是大徴ㇾ兵。命ニ池田信輝。細川忠興。高山友祥。中川清秀一。爲ニ先鋒一先發。光秀亦與焉。初光秀以ニ土岐氏疏屬一流ニ寓諸國一。無ㇾ所ㇾ遇。終于ニ信長一。信長擢爲ニ坂下城主一。終賜ニ丹波一。信長待ニ將士一。不ㇾ設ニ禮節一。嘲謔嫚罵以爲ㇾ常。而光秀爲ㇾ人文深。喜自修飾。以ニ材藝一自高。先ㇾ是。稻葉通朝家臣齋藤那須有ㇾ罪。去仕ニ光秀一。通朝訴ニ之信長一。信長令下光秀還ニ致那須一。賜中齋藤死上。光秀不ㇾ奉ㇾ命。信長怒。召ニ光秀一罵ニ詈之一。

はしむ。光秀、命を奉ぜず。信長怒り、光秀を召して之を罵詈す。

㊀押戴きて ㊁根城を虚にし全軍を率ゐて來る ㊂悉く殺し盡し ㊃遠き親類 ㊄何れにても用ひられず ㊅仕官を求む ㊆禮儀など心にとめず ㊇あざけり戯れ妄りに悪口を言ふが例なり ㊈人がらがかざりけ多く好みて自ら上べをかざり、技藝有りとしてほこる

嘗飲ニ將士酒一。光秀逃ㇾ酒。信長親追。捉而伏ㇾ之。騎ニ其項一拔ㇾ刀擬曰。不ㇾ飲ㇾ酒則飲ㇾ此。光秀素不ㇾ勝ㇾ飲。強嚼ニ一觥一。

嘗て將士に酒を飲ましむ。光秀酒を逃る。信長親ら追ひ、捉へて之を伏せ、其項に騎し、刀を拔きて擬して曰く、酒を飲まずんば則ち此を飲めと。光秀、素より飲に勝へず。强ひて(一)一觥を嚼す。信長乃ち光秀を挾みて、手もて其頭を擊ちて曰く、(二)好禿顱、以て鼓に代ふべしと。光秀慚憤して、自ら揣るに信長己を殺さんと欲す。故に(三)言動に形ると。信長、森蘭丸を寵す。嘗て珍翫を陳ねて、

信長乃披二光秀一。手撃二其頭一曰。好禿顱。可二以代レ鼓。光秀慚憤。自揣信長欲レ殺レ己。故形二於言動一。信長寵二森蘭丸一。嘗陣二珍翫一。謂レ之曰。汝所レ欲レ得。吾輒予レ之。蘭丸曰。臣所レ欲レ得。不レ在レ於レ此。近江志賀郡。先臣可成舊領也。願得二還賜一。幸甚。非レ所二敢望一也。信長曰。暫俟レ之。三歳後當レ充二

之に謂ひて曰く、汝の得んと欲する所は、吾れ輒ち之を予へんと。蘭丸曰く、臣の得んと欲する所は、此に在らず。近江の志賀郡は、先臣可成の舊領なり。願はくは還賜を得ば、幸甚だし、敢て望む所にはあらざるなりと。信長曰く、暫く之を俟て。三歳の後、當に汝の願を充すべしと。光秀、屛後に在りて、之を聞き、自ら疑ひて曰く、志賀は今、我に屬す。我の誅せらるゝ、其れ三歳の後に在るかと。既にして信長、光秀に命じて、蘭丸を以て女婿と爲し、之に志賀を予へんしめんと欲す。光秀、復た命を奉ぜず。是に至りて、命を受けて徳川氏を饗す。盛に帳具を治め、周旋甚だ勤む。俄かにして出征の命あり。他人來りて之に代る。光秀大に恚りて曰く、我をして徒に勞せしむと。悉く其具を湖中に投じて去る。是に於て、遂に反心有り。而して信長之を覺らず。乃ち津田信益及び蒲生賢秀等をして安土を守らしめて、自ら近臣百餘人を以て京師に入り、本能寺に館す。信忠、弟勝長等と、妙覺寺に館す。

汝願。光秀在ニ屛後一聞レ之。自疑曰。志賀今屬レ我。我之被レ誅。其在ニ三歲後一乎。既而信長命ニ光秀一。以ニ關丸一爲ニ女婿一。欲レ令ニ予ニ之志賀一之。光秀復不レ奉レ命。至レ是受レ命饗ニ德川氏一。盛治ニ帳具一。周旋甚勤。俄而有ニ出征之命一。他人來代レ之。光秀大恚曰。使ニ我徒勞一。悉投ニ其具於ニ湖中一而去。於レ是遂有ニ反心一。而信長不ニ之覺一也。乃命ニ津田益信。及蒲生賢秀等守ニ安土一。而自以ニ近臣百餘人一入ニ京師一。館ニ于本能寺一。信忠與ニ弟勝長等一館レ于ニ妙覺寺一。

(一) 一杯を飲む　(二) 好きはげあたま　(三) 言語動作にあらはる　(四) 又しても信長の命令を聽かず　(五) 饗應の道具を備ふ

光秀之發ニ安土一也。治ニ行于ニ坂下一。遂入ニ丹波一。詣ニ愛宕山祠一。拈レ鬮再三。夜宿ニ祠下一。寢而不レ寐。數有ニ嘆聲一。從者問ニ何故嘆一。光秀叱曰。非ニ汝輩

光秀の安土を發するや、坂下に治行し、(一)遂に丹波に入り、愛宕山祠に詣で、鬮を拈る再三なり。夜、祠下に宿す。寢ねて寐らず。數〻嘆聲有り。從者何故に嘆ずると問ふ。光秀叱して曰く、汝が輩の知る所に非ざるなりと。其明、西坊に會し、連歌を爲す。或ひと、粽を供す。光秀苞(二)を脫せずして食す。卒然(三)傍人に問ひて曰く、本能寺の湟の深さ幾尺ぞと。衆之を異しむ。既に罷めて、龜山に歸る。六月朔、光秀、(四)從子光春及び其將齋藤利三等五人を召し、之に謂ひて曰

所レ知也。其明。會レ于西坊一。爲二連歌一。或供レ粽焉。光秀不レ脫レ苞而食。卒然問二傍人一曰。本能寺湟深幾尺。衆異レ之。既罷。歸二龜山一。六月。朔。光秀召二從子光春。及其將齋藤利三等五人一。謂レ之曰。汝等能爲レ我死乎。則有二一事可一レ與議一。議苟不レ合。則速斫二吾頭一。五人相目不レ能レ答。光春曰。

く、汝等能く我が爲に死するか。則ち一事の與に議すべき有り。議(五)苟も合はずば、則ち速かに吾が頭を斫れと。五人相目して答ふる能はず。光春曰く、臣等業已に質を委せり。詎んぞ必ずしも問はんや。抑〻議する所の者は何事ぞと。光秀曰く、吾れ殆ど右府(六)の殺す所と爲ること數〻なりと。因りて具に語るに故を以てす。曰く、今、事已に迫れり。吾れ將に先づ之に發せんとすと。五人諫めて之を止めんと欲す。光秀の意色(七)既に決して諫むべからざるを視、乃ち其謀に贊成す。光秀五人をして誓を納れ質を效さしむ。是に於て、丹波の兵を悉して卽ち發す。宣言すらく、命を奉じて西に秀吉を援ふと。夜、大江山を度り、老坂に至る。右折すれば則ち備中に走るの道なり。光秀乃ち馬首を左にして馳す。士卒驚き異しむ。既に桂川を渉る。光秀乃ち鞭を擧げて東を指し、颺言(八)して曰く、吾が敵は本能寺に存りと。

(一) 行をさむ旅仕度をとゝのふ　(二) 皮のまゝ食す思に耽りて氣付かざる也　(三) ふと　(四) 堀　(五) 若しも意見一致せずば　(六) 信長　(七) 顔色に決心あらはれて　(八) 高聲にいふ

臣等業已委レ質矣。詎必問也。抑所レ議者何事。光秀曰。吾殆爲二右府所一レ殺者數矣。因具語以レ故。曰。今事已迫矣。吾將三先發二之。五人欲レ諫二止之一。視二光秀意色既決不一レ可レ諫。乃贊二成其謀一。光秀使二五人納レ誓。效一レ質。於レ是悉二丹波兵一即發。宣言奉レ命西援二秀吉一。夜度二大江山一。至二老坂一。右折則走二備中一道也。光秀乃左二馬首一而馳。士卒驚異。既渉二桂川一。光秀乃擧レ鞭東指。颺言曰。吾敵在二本能寺一矣。

衆始知二其反一也。味爽。圍二本能寺一。呼譟而入。弓銃交發。信長在二臥内一。驚起曰。反者誰。令三蘭丸出視二其旗幟一。反報曰。惟任光秀也。信長曰。豎子敢爾。乃手レ弓而出。蘭丸以下宿直

衆始めて其反を知る。味爽本能寺を圍み、呼譟して入る。弓銃交〻發す。信長臥内に在り。驚き起ちて曰く、反する者は誰ぞと。蘭丸をして出でて其旗幟を視しむ。反り報じて曰く、惟任光秀なりと。信長曰く、豎子敢て爾るかと。乃ち弓を手にして出づ。蘭丸以下の宿直の者、皆肉薄して拒ぎ戰ふ。信長親ら射て數人を斃す。弦絶ゆ。槍を執りて鬭ひ、右肱を傷く。乃ち走せ入り、姫妾を揮して逃れ去らしめ、火を縱ちて自殺す。年四十九なり。蘭丸及び二弟坊丸・力丸及び金森長則、高橋寅松・矢代勝介・伴正林等百餘人、皆力戰して之に死す。光秀、信長の首を索むるに得ず。意甚だ懼る。齋藤利三、其衣の焦爛する者を得て、之を

者。皆肉薄拒戰。信長親射斃二數人一。弦絕。執レ槍而鬭。傷二右肱一。乃走入。揮二姬妾一使二逃去一。縱レ火自殺。年四十九。蘭丸。及二弟坊丸。力丸及金森長則。高橋寅松。矢代勝介。伴正林等百餘人。皆力戰死レ之。光秀索二信長首一。不レ得。意甚懼。齋藤利三得二其衣焦爛者一。示レ之。光秀猶不レ安。大索レ之。信忠聞レ變大愕。馳赴レ之。途望二見本能寺烟起一。村井貞勝來跪二路左一。報曰。右府已遇レ弑矣。君宜三急保二二條第一。信忠從レ之。使四貞勝徙三皇太子于二禁內一。而入保レ之。衆或議曰。及二賊未レ來。馳二歸安土一。建二我旗鼓一。則數萬騎立至矣。討レ賊復レ仇。一舉可レ辨。信忠曰。彼既謀二此大事一。豈有下不レ置レ兵塞レ路者上乎。與三其辱二於路一。寧自二裁于此一。衆以爲レ然。

示す。光秀猶ほ安んせず。大に之を索む。信忠變を聞きて大に愕き、馳せて之に赴く。途に本能寺に烟起るを望見す。村井貞勝來りて路左に跪き、報じて曰く、右府已に弑に遇へり。君宜しく急に二條の第を保つべしと。信忠之に從ひ、貞勝をして皇太子を禁內に徙さしめて、入りて之を保つ。衆或は議して曰く、賊未だ來らざるに及びて、馳せて安土に歸り、我が旗鼓を建てば、則ち數萬騎立ちどころに至らん。賊を討じ仇を復せんこと、一擧(四)にして辨ずべしと。信忠曰く、彼れ既に此大事を謀る。豈に兵を置きて路を塞がざる者あらんや。其の尸を路に暴さんよりは、寧ろ此に自裁(五)せんと。衆以て然りと爲す。

(一) ふしどの中 (二) 敵にま近くせまる (三) こがれたゞれる (四) 一戰にして埒明く (五) 自殺

日中。賊合二二萬餘騎一來圍。吾兵僅二三百人。連レ鋒奮擊。相二逐于庭一。猪子兵介。小澤六郎。在二于逆旅一。聞レ警赴レ之。主人止レ之。弗レ聽而入。梶原松千代。亦欲二入援一。其家僕又右衛門止レ之而代入。信忠褒レ之。賜二長刀一。斃二數十人一而死。賊患二我兵力戰一。乃遣二弓銃手一。登二近衛第屋上一。

日中、賊二萬餘騎を合せて來り圍む。吾が兵僅かに二三百人なり。鋒を連ねて奮擊し、庭に相逐ふ。猪子兵介・小澤六郎逆旅に在り。警を聞きて之に赴かんとす。主人、之を止む。聽かずして入る。梶原松千代も亦入りて援けんと欲す。其家僕又右衛門、之を止めて代りて入る。信忠、之を褒し、長刀を賜ふ。數十人を斃して死す。賊、我が兵の力戰を患へ、乃ち弓銃(一)手を遣し、近衛第の屋上に登り、瞰して亂發す。我が兵死傷略盡く。信忠乃ち腹を割きて死す。毛利秀高・福富貞次・菅谷正賴・齋藤新五皆之に死す。其餘の從兵、一人の逃るゝ者なし。初め安藤範俊の家臣松野平助、材名あり。範俊敗る。信長之を祿(二)す。是に於て、八幡祠に宿す。難(三)に及ばず。齋藤利三、素より之と善し。書を以て之を招く。平助佯り應じ、隙を窺ひて光秀を刺さんと欲す。光秀其意を覺りて、敢て親近せず、平助乃ち自殺す。秀光、大に織田氏の臣僚の京師に在る者を索めて、之を殺す。獨り前田玄以、信忠の遺命を帶びて、逃れて岐阜に至り、信忠の子三法師を抱き、

敵而亂發。我兵死傷略盡。信忠乃割レ腹而死。毛利秀高。福富貞次。菅谷正賴。齋藤新五。皆死レ之。其餘從兵無二一人逃者一。初安藤範俊家臣松野平助。有二材名一。範俊敗。信長祿レ之。於レ是宿二于八幡祠一。不レ及レ於レ難。齋藤利三素與レ之善。以レ書招レ之。平助佯應。欲下窺レ隙刺中光秀上。光秀覺二其意一。不二敢親近一。平助乃自殺。光秀大索下織田氏臣僚在二京師一者上殺レ之。獨前田玄以帶二信忠遺命一。逃至二岐阜一。抱二信忠子三法師一。走二入清洲一。

走りて清洲に入る。

(一)射手と鐵砲方と　(二)扶持を與へて抱ふ　(三)信長の虐に遇ふ危難に間に合はず

信長起二尾張一。常以レ平二定四方一爲レ志。不レ喜二虛美一。廷臣或勸レ爲二征夷大將軍一。信長曰。何遽襲二室町故號一爲。然將士有レ功。輒急賞レ之。奬二川公

信長尾張に起り、常に四方を平定するを以て志と爲す。(一)虛美を喜ばず。廷臣或は征夷大將軍たらんことを勸む。信長曰く、吾れ何ぞ遽に室町の(二)故號を襲ぐを爲さんと。然れども將士功あれば、輒ち急に之を賞し、(三)公廉を奬用し、政に偏私なし。獄內の(四)贖金は、悉く以て橋道を修むるの資と爲す。尤も(五)浮圖氏を憎む。嘗て一僧あり、自ら神通を得と稱し、愚民(六)景附す。信長召見して詰問し、人をして其兩手を捉らしめて、親ら刀を擧げて其頭を斫る。曰く、猶ほ神通を

廉。政無偏私。獄内贖金。悉以爲修橋道之資。尤僧浮圖氏。嘗有一僧。自稱得神通。愚民景附。信長召見詰問。使人捉其兩手。而親擧刀斫其頭。曰。猶得神通乎。柴田勝家獻一向賊首級。信長有喜色。楠友閑在側。諫曰。誰非天下之民乎。因極論仁暴是非。信長嘉納之。然時承室町氏媮惰之後。以刑殺立威。所得之地。必誅其主。以予家臣。性亦猜忍。追咎諸將舊惡。若光秀者。皆不自安。所以不終其志也。

得るかと。柴田勝家、一向賊の首級を獻ず。信長、喜色あり。楠友閑側に在りて、諫めて曰く、誰か天下の民に非ざらんやと。因りて仁暴の是非を極論す。信長之を嘉納(七)す。然れども、時は室町氏媮惰(八)の後を承け、刑殺を以て威を立つ。得る所の地、必ず其主を誅し、以て家臣に予ふ。性亦猜忍にして、諸將の舊惡を追咎す。光秀の若き者、皆自ら安んぜず。其志を終へざる所以なり。

(一) うはべを飾ることを嫌ふ　(二) 古きとなへ　(三) 公平にして廉潔なる者を引上げ用ひ　(四) 科料　(五) 僧徒を憎む　(六) 歸依す、(七) よみしいる　(八) 遊樂に耽りたる後

光秀既定京師。欲取安土。即日。馳至瀨田。遺書於城

光秀既に京師を定め、安土を取らんと欲す。即日、馳せて瀨田に至り、書を城主山岡景隆に遺る。景隆使者を斬り、橋を燒きて逃る。光秀卒を發して橋を修む。

主山岡景隆。景隆斬二使者一。燒レ橋而逃。光秀發レ卒修レ橋。初安土城中聞レ變。未レ得二確報一。物情恟然。日暮。有二數騎一。馳歸レ自二京師一。士民要レ路問レ之。騎曰。兩公薨矣。城中大擾。蒲生賢秀欲二鎭レ衆拒守一。衆一夜四五驚。諸將士多二逃亡者一。賢秀乃令三其子氏鄕具二輿馬數百一。迎二夫人以

初め安土の城中變を聞きて、未だ確報(一)を得ず。物情恟然たり。日暮れ、數騎あり、馳せて京師より歸る。士民、路に要して之を問ふ。騎曰く、兩公薨ずと。城中、大に擾る。蒲生賢秀、衆を鎭(二)めて拒守せんと欲す。衆、一夜に四五たび驚く。諸將士逃亡する者多し。賢秀乃ち其子氏鄕をして、輿馬數百を具へしめて、夫人以下を迎へ、其邑日野に逃れしむ、姫人或は賢秀に天主の貨寶を取りて之を火き、以て賊に予ふる毋れと勸む。賢秀曰く、先君の心を盡して經營する所なり、燒くに忍びざるなり。光秀其れ或は之を燒き、即しくは取りて以て(四)自殖するも、豈に能く久しからんや。今吾れ其貨を取らば、人之を何と謂はんと。木村某をして之を守らしめて去り。日野を保守す。光秀至り、其將士と貨寶を分ち取る。天(五)使來りて之を勞ふに會す。光秀意益〻驕る。使を遣して其女婿細川忠興を招く。忠興其使者を逐ふ。其友人筒井順慶を招く。順慶至らず。光秀乃ち懼れて、京師に入り、務めて惠政を行ひて、人心を收む。

下一。逃レ於二其邑日野一。姬人或勸下賢秀取二天主貨寶一而火レ之。毋中以予爲上賊也。賢秀曰。先君所二盡レ心經營一。不レ忍レ燒也。光秀其或燒レ之。即取焉以自殖。豈能久乎。今吾取二其貨一。人謂二之何一。使二木村某守一レ之而去。保二守日野一。光秀至。與其將士一分二取貨寶一。會二天使來勞一レ之。光秀意益驕。遣レ使招二其女婿細川忠興一。忠興逐二其使者一。招二其友人筒井順慶一。順慶不レ至。光秀乃懼。入二京師一。務行二惠政一。以收二人心一。

㊀ たしかなる報知 ㊁ 途中に待受けて ㊂ こし馬五六百を支度せしめて ㊃ 自分の所得とするも ㊄ 天子の使者

復適二安土一。欲レ攻二賢秀一。賢秀遣二使伊賀一。求三援於二信雄一。信雄危疑不レ發。賢秀乃送レ質爲レ信。信雄乃出。次二椎山一。光秀不二敢動一。會伊賀盜起。信雄以レ故不レ能レ進。信孝初在二

復た安土に適き、賢秀を攻めんと欲す。賢秀使を伊賀に遣して、援を信雄に求む。信雄危疑して發せず。賢秀乃ち質を送りて信と爲す。信雄乃ち出で、椎山に次す。光秀敢て動かず。會ゝ伊賀に盜起る。信雄故を以て進む能はず。信孝、初め大坂に在り。信長の密旨を奉じ、艦を紀伊に脩むと宣言し、因りて急に鷺森を襲ひ、幾ど光佐を殺さんとして、變報至る。信孝、信澄・長秀と議し、圍を解きて退き、大坂に至る。信澄も亦光秀の婿なり。叛きて、光秀に應じ、其子城に據る。信孝・長秀、之に迫りて、自殺せしめ、遂に光秀を誅せんと欲す。而も

大坂。奉二信長密旨一。宜四言脩三艦於二紀伊一。因急襲二鷲森一。殺二光佐一。而變報至。信孝與二信澄長秀一議。解レ圍而退。至二大坂一。信澄亦光秀婿也。叛應二光信一。據二其子城一。信孝長秀迫レ之。使二自殺一。欲三遂誅二光秀一。而兵潰不レ可レ收。會丁羽柴秀吉以二數萬騎一至丙自乙備中甲。信孝大喜。乃會二議于二尼崎一。諸將爭レ先不レ決。乃因二信長在時之法一。次以二城邑前後一。高山友祥爲二先鋒一。中川

兵潰えて收むべからず。羽柴秀吉、數萬騎を以て備中より至るに會ふ。信孝大に喜び、乃ち尼崎に會議す。諸將先を爭ひて決せず。乃ち信長在時の法に因り、(三)次は城邑の前後を以てす。高山友祥先鋒と爲り、中川清秀之に次ぐ。池川信輝丹波長秀又之に次ぐ。信孝自ら四千人に將として其後に在り。秀吉後拒と爲る。(四)光秀を山崎に討ちて、大に之を破る。光秀、誅に伏す。明智光春安土を守る。敗を聞き、城を燒きて、坂下に走り、其妻子を殺して自殺す。齋藤利三等、皆捕誅(五)せらる。清秀、俗字は瀨兵衛、山崎の役に、戰最も力む。信孝馬より下り、其手を握りて曰く、吾子、力戰す。吾れ德を忘れずと。(六)秀吉、輿中より呼びて曰く、瀨兵勞せりと。清秀曰く、筑前守、(七)氣貌已に天下を呑めりと。

(一)內々の命令 (二)屬城 (三)席序 (四)後の拒ぎ後ぞなへ (五)捕へて殺す (六)厚意を忘却せず (七)意氣容貌早くも天下を呑めり

清秀次レ之。池田信輝丹羽長之又次レ之。信孝自將二四千人一在二其後一。秀吉爲二後拒一。討二光秀于山崎一。大破レ之。光秀伏レ誅。明智光春守二安土一。聞レ敗。燒レ城。走二坂下一。殺二其妻子一。自殺。齋藤利三等皆被二捕誅一。清秀俗字瀨兵衞。山崎之役。戰最力。信孝下レ馬。握二其手一曰。吾子力戰。吾不レ忘レ德。秀吉自二輿中一呼曰。瀨兵勞矣。清秀曰。筑前守氣貌已呑二天下一矣。

信輝秀吉等。收二信長尸于本能寺一。葬レ之。遂之二清洲一。謁二三法師一。柴田勝家。佐佐成政。與二長尾景勝一相二持越中一。拔二魚津一。聞レ變。收レ兵。入討二光秀一。至二柳瀨一。得二捷聞一。直之二清洲一。瀧川一益在二廐橋城一。是月七日。得二變

信輝・秀吉等、信長の尸を本能寺に收めて、之を葬り、遂に清洲に之きて、三法師に謁す。柴田勝家・佐佐成政、長尾景勝と、越中に相持し、魚津を拔く。變を聞きて、兵を收め、入りて光秀を討つ。柳瀨に至り、捷聞を得て、直に清洲に之く。瀧川一益、廐橋城に在り。是の月七日、變聞を得。部下の將士說きて曰く、變故の際、人心測られず。且く之を祕し、更に諸客將の質を取り、然る後、事に託して西上せんと。一益曰く、是れ豈に終に祕すべけんや。我より之を發するに若かずと。乃ち急に令を傳へ、諸客將を召して、變事を告げて曰く、事已に此に至る。我れ此地に在ると否とは、諸君の計る所に在り。吾れ且つ諸君の質を還さんと。客將皆相謂ひて曰く、管領誠を推して我が輩を遇す。我が輩誓ひ

開。部下將士說曰。變故之際。人心不測。且祕之。更取諸客將質。然後託事西上。一益曰。是豈可終祕乎。不若自我發之。乃急傳令。召諸客將。告變事曰。事已至此。吾在此地與否。在諸君所計。吾且還諸君質。客將皆相謂曰。管領推誠遇我輩。我輩誓不相負。乃請重納質。一益謝而遣歸之。明日。變報四至。

て相負かずと。乃ち重ねて質を納れんと請ふ。一益、謝して之を遣歸せしむ。明日、變報四もより至る。

(一) 兵をまとめて (二) 信長の害に遇へりとの評判を聞きて (三) かゝる事變のをり人の心は當にならず (四) 誠心誠意我々等を待遇す

北條氏直欲乘變擊一益。一益乃率部下八千人。軍于鉋川。諸客將以萬騎來援擊走敵一將。氏直以全

北條氏直變に乘じて一益を擊たんと欲す。一益乃ち部下八千人を率ゐて、鉋川(一)に軍す。諸客將、萬騎を以て來り援ひ、擊ちて敵の一將を走らす。氏直、全軍を以て繼ぎ至る。一益請ふ代り進まんと。一益、客將に言はしめて曰く、諸君惠然(二)一戰す。以て休ふべし。乃ち進み戰ふ。利あらず。其將篠岡某等二百人止り死す。一益厩橋に歸り、盡く質子を返し、信濃を徑りて西す。使を遣して沿道(三)の

軍繼至。一益使言於客將曰。諸君惠然一戰。可以休矣。一益請代進。乃進戰。不利。其將篠岡某等二百人止死。一益歸廐橋。盡返質子。徑信濃而西。遣使告沿道城主。眞田昌幸。木曾義昌。皆送質。出兵護送。達於尾張。河尻鎭吉在甲斐。甲斐亂。會徳川氏使者至。鎭吉疑其有異。殺之。鎭吉亦爲國人所殺。

城主に告ぐ。眞田昌幸・木曾義昌、皆質を送り、兵を出して護送し、尾張に達せしむ。河尻鎭吉甲斐に在り。甲斐亂る。徳川氏の使者至るに會ふ。鎭吉其(四)異あるを疑ひて、之を殺す。鎭吉も亦國人の殺す所と爲る。

(一) 上野・武藏の界を流る。今、神流川と書す　(二) 厚意を以て一戰をなされたり　(三) 通行する處の道路にそひたる城主　(四) 二心あるを

森長可在信濃。挾諸質子。馳入美濃。盡斬之。前田利家定能登。丹羽長信定若狹。皆收兵。與秀吉會議于

森長可信濃に在り。諸質子を挾み、馳せて美濃に入り、盡く之を斬る。前田利家能登を定め、丹羽長秀若狹を定む。皆兵を收めて、秀吉と清洲に會議し、三法師は信長の嫡長孫たるを以て、立てて嗣と爲す。名を秀信と更む。安土に居らしめて、奉ずるに近江三十萬石を以てし、其餘は之を分領して以て、秀信の長ずるを俟つ。信雄は尾張を領し、信孝は美濃を領し、勝家は長濱を領す。長秀若より

清洲。以三法師爲信長嫡長孫。立爲嗣。更名信秀。居安土。奉以近江三十萬石。其餘分領之。以俟秀信長。信雄領尾張。信孝領美濃。勝家領長濱。長秀素有若狹。幷領志賀高島。信輝幷領兵庫尼崎。而秀吉領播磨丹波但馬因幡。秀吉與勝家長秀信輝。更置吏於京師。已而專決於秀吉。

若狹を有し、志賀・高島を幷領す。信輝は兵庫、尼崎を幷領す。而して秀吉は播磨・丹波・但馬・因幡を領す。秀吉、勝家・長秀・信輝と、更々吏を京師に置く。已にして專ら秀吉に決す。(三)

(一) 本妻の長子すぢの孫 (二) 分ちて領す (三) 何事も秀吉一人にて決す

秀吉國最富。兵最強。矜貴自持。而秀信幼孩。信雄暗弱。皆不能制馭之。信孝有英氣。曰。我家遭變故。而

秀吉、國最も富み兵最も強し。(一)矜貴自持す。而して秀信は幼孩、信雄は(二)暗弱、皆之を(三)制馭する能はず。信孝、(四)英氣あり。曰く、我が家、變故に遭遇す。而して我が家の(五)奴輩、長を舍てて幼を立て、以て爭ひて遺地を攫る。且つ吾れ信雄と同年に生る。特に月日少しく後るるを以て、故に兄弟の名あるのみ。吾れ讐を復するの功あり。秀吉乃ち攘みて之を沒す。其(六)簒竊の勢已に成れり。速かに之

我家奴輩。舍レ長立レ幼。以爭二攫遺地一。且吾與二信雄一同年生。特以二月日少後一。故有二兄弟之名一耳。吾有二復レ讎之功一。秀吉乃攘而沒レ之。其篡竊之勢已成矣。不二速誅レ之。後不二復可一レ制。乃密與二勝家一益一謀レ討二秀吉一。又使二人說二長秀一。長秀不レ肯。秀吉聞レ之。乃結二信雄一。急發レ兵。攻二信孝於岐阜一。岐阜兵寡。長秀勸二信孝一。出二其母及乳母一爲レ質。和レ之。

を誅せずんば、後復た制す可からずと。乃ち密かに勝家・一益と、秀吉を討つを謀る。又人をして長秀に說かしむ。長秀肯ぜず。秀吉之を聞きて、乃ち信雄に結び、急に兵を發して、信孝を岐阜に攻む。岐阜の兵寡し。長秀、信孝に勸めて、其母及び乳母を出して質と爲し、之と和せしむ。

㊀身分の高きをほこる ㊁智に暗く身體弱し ㊂とりしまりをさむ ㊃すぐれたる氣 ㊄人の功勞をぬすみとりて自分のものとす ㊅主君の位を奪ひぬすみて取つて代らんとする形勢は十分に出來上がれり

十一年。正月。信雄攻二信孝黨北畠具親于篠山一。陷レ之。遂與二秀吉一俱

十一年正月、信雄、信孝の黨北畠具親を篠山に攻めて、之を陷る。遂に秀吉と倶に一益を長島に攻む。二月、勝家、軍を柳瀬に出す。秀吉自ら赴きて之に當る。四月、信孝復た兵を起して、勝家・一益に應ず。秀吉、信孝の母を安土城下に

攻三一益于二長島一。二月。勝家出三軍于二柳瀨一。秀吉自赴當レ之。四月。信孝復起レ兵。應レ於二勝家一益一。秀吉殺三信孝母于二安土城下一。乳母有二子幸田某一。在二岐阜一。母遺二之書一曰。臣致二身於一レ君。大義也。親先レ子而死。常道也。汝事二三七君一。行二其大義一。以二常道一自釋。勿下以二我故一懷中貳心上也。秀吉招二幸田一。不レ至。乃磔二殺乳母一。秀吉遂圍二岐阜一。信孝戰敗。幸田兄弟力戰死レ之。

殺す。乳母に子幸田某あり、岐阜に在り。母、之に書を遺りて曰く、臣、身を君に致すは、大義なり。親、子に先だちて死するは、常(二)道なり。汝、三七君に事へて、其大義を行ひ、常道を以て自ら釋き、(三)我が故を以て貳心を懷く勿れと。秀吉、幸田を招く。至らず。乃ち乳母を磔殺す。秀吉遂に岐阜を圍む。信孝、戰敗れ、幸田兄弟力戰して之に死す。

(一) 伊勢國に在り　(二) 常の道なり　(三) 母の命の危き故を以て二心を持つなかれ

當二是時一。長秀以下諸將皆屬二秀吉一。爲レ之拒二勝家一。勝家令下佐久間盛

是の時に當りて、長秀以下の諸將、皆秀吉に屬し、之が爲に勝家を拒ぐ。勝家、佐久間盛政をして中川清秀を襲殺し、兵を收めて速かに歸らしむ。盛政、勝に狃れて歸らず。秀吉、堀尾吉晴及び降將稻葉通朝・氏家行廣等をして、信孝に備へし

政襲二殺中川清秀一。收ㇾ兵速歸上。盛政狃ㇾ勝不ㇾ歸。秀吉令三堀尾吉晴。及降將稻葉通朝。氏家行廣等備二信孝一。而馳擊二盛政一擒ㇾ之。勝家曰。盛政不ㇾ用二我言一。果取二此敗一。吾自往決戰。乃檢二其兵一。兵已逃亡。在者僅三千。諸將皆勸ㇾ退。勝家曰。吾嘗以ㇾ少擊ㇾ衆。獲ㇾ勝者數。諸君何扼ㇾ我也。家臣毛受勝介曰。往時君所ㇾ將。皆濃尾驍卒。今領二北兵一。非二素拊循一。所二以逃亡一。摧敗之餘。何堪二折衝一。臣請假二君旗幟一。僞稱ㇾ君死。君逃入二北莊一。徐自爲ㇾ計。勝家從ㇾ之。

めて馳せて盛政を擊ちて、之を擒にす。勝家曰く、盛政、我が言を用ひず。果して此敗を取れり。吾れ自ら往きて決戰せんと。乃ち其兵を檢す(一)。兵已に逃亡して、在る者僅に三千なり。諸將皆退かんことを勸む。勝家曰く、吾れ嘗て少を以て衆を擊ち、勝を獲し者數〻なり。諸君何ぞ我を扼むるやと。家臣毛受勝介曰く、往時(二)、君の將ゐし所は、皆濃尾(三)の驍卒なり。今は北兵を領す。素より拊循(四)するに非ず、逃亡する所以なり。摧敗(五)の餘、何ぞ折衝(六)に堪へん。臣請ふ、君の旗幟(七)を假り、僞りて君と稱して死せん。君逃れて北莊に入り、徐に自ら計を爲せと。勝家之に從ふ。

(一) しらぶ　(二) むかし　(三) 美濃尾張　(四) 目をかけて心服せしむ　(五) くじけ破る　(六) 敵とかけひきしてそのほこ先をくじく　(七) 旗指物

秀吉縱レ兵追擊。過二其背幟一。大驚。急整レ隊圍レ之。勝介大呼曰。柴田勝家死二于此一。與二其兄一皆力戰死。勝家得レ閒走。過二府中一。入見二前田利家一曰。子爲レ我出レ力。不レ知レ所レ謝。吾命窮至レ此。復何言也。吾飢矣。請供レ飯馬。利家供レ之。勝家食畢。借二善馬一而出。利家欲レ從レ之。勝家揮レ之曰。子

秀吉兵を縱ちて追擊す。其背幟に遇ひて、大に驚き、急に隊を整へて之を圍む。勝介、大に呼びて曰く、柴田勝家此に死すと。其兄と、皆力戰して死す。勝家、間を得て走り、府中(二)を過ぎ、入りて前田利家を見て曰く、子、我が爲に力を出す、(一)謝する所を知らず。吾れ命窮(三)りて此に至る。復た何をか言はん。吾れ飢ゑたり、請ふ、飯を供せよと。利家、之を供す。勝家食し畢り、善馬を借りて出づ。利家、之に從はんと欲す。勝家、之を揮して曰く、子、秀吉と善し。我を以て爲す毋れと。終に北莊に歸り、其將領の敵と姻ある者を諭して、皆之を遣る。留るを願ふ者九人なり。秀吉至り、城を圍むこと數重なり。勝家、夜、將士を天主閣に宴し、慷慨して曰く、我れ先君の恩に報いんと欲して、終に猴面藤吉の困しむる所と爲る。豈に天に非ずやと。其妻は、信長の妹なり。勝家、之をして逃れ去らしむ。妻泣きて曰く、妾、去秋、岐阜を出でしより、業已に身を良人(四)に委ぬ。今日の事、(五)固より心に期す。何ぞ必ずしも逃れんやと。是に於て、夫妻訣飲(六)

與二秀吉一善。毋レ以レ我爲一也。終歸二北莊一。諭二其將領與レ敵有レ姻者一。皆遣レ之。願レ留者九人。

して暁に徹し終に刃に伏して騈死(一)す。侍臣文荷といふ者、火を閣に縦ちて、之に殉ず。

㊀越前國に在り　㊁謝辭の述べやうなし　㊂天命盡き果てゝ此の場合となる　㊃なつと　㊄固より覺悟す　㊅訣別の酒宴を張りて夜の明方に及ぶ　㊆枕をならべて死す

秀吉至。圍レ城數重。勝家夜宴三將士于二天主閣一。慷慨曰。吾欲レ報二先君之恩一。終爲二猴面藤吉所一レ困。豈非レ天哉。其妻。信長之妹也。勝家使二之逃去一。妻泣曰。妾自三去秋出二岐阜一。業已委三身於二良人一矣。今日之事。固期レ於レ心。何必逃也。於レ是夫婦訣飲徹レ曉。終伏レ刃騈死。侍臣文荷者。縱二火于閣一。殉レ之。

當二是時一。信雄圍二岐阜一。城兵潰。信孝出二奔內海一。信雄使二人迫一レ之自殺。五月。秀吉斬三佐久間盛政柴田勝政于二

是の時に當りて、信雄、岐阜を圍む。城兵潰え、信孝、内海に出奔す。信雄、人をして之に迫りて自殺せしむ。五月、秀吉、佐久間盛政・柴田勝政を京師に斬る。盛政、素より虓武(一)なり。戰ふ毎に鐵棓(二)を用ひ、躬自ら陣を陥る。人呼びて鬼盛政と曰ふ。(三)刑に臨みて言ひて曰く、我れ修理の言を聴かざるを悔ゆ。苟も修理の言を聴かば、則ち秀吉をして、我が如くならしめしならんなと。修理とは、

京師。盛政素號武。毎戰用鐵棓。躬自陷陣。人呼曰鬼盛政。臨刑言曰。我悔不聽修理言。苟聽修理言。則使秀吉如我也。修理。勝家也。六月。一益降秀吉。秀吉放之近江。使信雄取其地。以長秀助己。使之取柴田氏地。池田。堀。森氏。皆有分地。

勝家なり。六月、一益、秀吉に降る。秀吉、之を近江に放ち、信雄をして其地を取らしむ。長秀、己を助くるを以て、之をして柴田氏の地を取らしむ。池田・堀・森氏にも、皆分地あり。

(一) 心猛く強きをいふ (二) 鐵棒 (三) 斬罪に處せらるゝ際

既而秀吉欲激信雄除之。設飛語曰。羽柴將不利北畠氏。十二年。正月。諸將賀正於安土。皆過見信雄。獨秀吉至大津而不入。信雄

既にして秀吉、信雄を激(一)して之を除かんと欲す。飛語(二)を設けて曰く、羽柴將に北畠氏に不利ならんとすと。十二年正月、諸將、正を安土に賀す。皆過ぎて信雄を見る。獨り秀吉、大津に至りて入らず。信雄怒る。諸將、之を和解し、三井寺に盟ふ。信雄の將岡田重善・津川義冬・淺井多宮・瀧川雄利、皆驍勇(三)なり。秀吉、盟に先だちて四人を招き、誘ふに厚利を以てす。三人、之を聽す。獨り雄利僞り聽し、盟に臨みて信雄に告ぐ。信雄驚き、馳せて長島に歸り、遂に秀吉を討たん

怒。諸將和ニ解之一。盟ニ于三井寺一。信雄將岡田重善。津川義冬。淺井多宮。瀧川雄利。皆驍勇。秀吉先盟招ニ四人一。誘以ニ厚利一。三人聽之。獨雄利佯聽臨盟。告ニ信雄一。信雄驚馳歸ニ長島一。遂議レ討ニ秀吉一。三人以爲ニ不可一。信雄曰。吾誅ニ猴奴一易易耳。汝輩何得レ沮レ我。三人稱レ疾不レ出。三月。信雄伏レ甲。召ニ三人一誅レ之。分攻ニ其邑一。拔ニ松島一。予ニ之雄利一。求ニ援於ニ德川公一。德川公之來ニ安土一也。信長令ニ之游ニ界府一。聞ニ信長遭一レ害。走歸ニ其國一。

と議す。三人以て不可と爲す。信雄曰く、吾れ猴奴(四)を誅する、易易たるのみ。汝が輩、何ぞ我を沮むを得んと。三人疾と稱して出でず。三月、信雄、甲を伏せ(五)、三人を召して之を誅す。分ちて其邑を收め、松島を拔きて、之を雄利に予へ、援を德川公に求む。德川公の安土に來るや、信長、之をして界府に游ばしむ。信長の害に遭ふを聞き、走りて其國に歸る。

(一) 立腹させて　(二) 根なきうはさ　(三) 強くして勇氣あり　(四) 秀吉をいふ　(五) 兵士をかくしおき

於レ是發レ兵助ニ信雄一。信雄又招ニ池田信輝一。及其二婿森長可。堀秀政一。

是に於て、兵を發して信雄を助く。信雄、又池田信輝、及び其の二婿森長可、堀秀政を招く。秀吉も亦、信輝を誘ふ。信輝の子輝政、長島に質たり。信雄、之を還して曰く、先考(二二)、卿(二三)を待する最も厚し。卿必ず我に負かじ。我れ其質を持す

秀吉亦誘二信輝一。信輝子輝政質レ于二長島一。信雄還レ之曰。先考待レ卿最厚。卿必不レ負レ我。我持二其質一。是疑レ卿也。信輝已收二其質一。乃應二秀吉一誅二瀧川一益一。亦應二秀吉一。聚レ兵據二木造一。以復二舊封一。織田信包。蒲生氏鄉。關萬徹。皆應二一益一。攻二嶺城一。城將佐久間正勝。與二部將山口重政等一。

るは、是れ卿を疑ふなとり。信輝已に其質を收む。乃ち秀吉に應じ、瀧川一益を誅す。亦秀吉に應じ、兵を聚めて木造(三)に據りて、以て舊封を復す。織田信包、蒲生氏鄉、關萬徹、皆一益に應じ、嶺(四)城を攻む。城將佐久間正勝、部將山口重政等と、固く守りて之を拒ぐ。敵、援兵至ると聞き圍みを解きて去る。正勝乃ち長島に還り、又蟹江(五)を守る。信雄、清洲に在り。德川公と兵二萬を合せて、小牧に軍す。秀吉、十二萬人を以て犬山に軍す。四月、秀吉、信輝、長可をして參河を襲はしむ。信雄、德川公と邀へ撃ちて、二將を獲たり。秀吉も亦、筒井定次、九鬼嘉隆をして、松島を攻めしむ。月餘、雄利德川氏の將服部正成と、固く守りて之を拒ぐ。定次の和を講ずるを以て、城を致して卻く。秀吉、嶺・神戸・利井・竹鼻(六)の數城を拔き、退きて大垣に軍す。

(一) 死したる父 (二) 待遇すること (三) 伊勢國に在り (四) 同上 (五) 蟹江・清洲・小牧共に尾張國に在り (六) 利井竹鼻大垣共に美濃國に在り

固守拒レ之。敵聞二援兵至一。解レ圍去。正勝乃還二長島一。又守二蟹江一。信雄在二清洲一。與二徳川公一合二兵二萬一。軍二于小牧一。秀吉以二十二萬人一。軍二犬山一。四月。秀吉令三信輝長可襲二參河一。信雄與二徳川公一邀擊。獲二二將一。秀吉亦令三筒井定次九鬼嘉隆攻二松島一。月餘。雄利與二徳川氏將服部正成一。固守拒レ之。以二定次講一レ和。致レ城而卻。秀吉拔二嶺神戸利井竹鼻數城一。退二軍于大垣一。

六月。信雄使三正勝城二萱生一。一益乃誘二降蟹江留守前田種利。種利二子長種。定利。守二前田下市二壘一。山口重政守二大野壘一。二子皆降。遂招二重政一曰。汝母在二蟹江一。不レ聽則殺レ之。重政答曰。吾知レ受レ命守レ城。

六月、信雄、正勝をして萱生に城かしむ。一益乃ち蟹江の留守前田種利を誘降(一)す。種利の二子長種・定利、前田(二)・下市の二壘を守る。山口重政、大野(三)の壘を守る。二子皆降る。遂に重政を招きて曰く、汝の母は蟹江に在り。聽かずば則ち之を殺さんと。重政答へて曰く、吾れ命を受けて城を守るを知る。其他を知らず。豈に公等の人面獸行(四)に倣はんやと。一益、嘉隆と、迫るに兵艦を以てす。重政、炬を投じ、燒きて之を走らす。敵、轉じて下市に赴く。又擊ちて之を走らす。信雄、徳川公と來り援ひ、前田・下市を拔き、長種を走らせ、定利を斬り大に重政を賞し、遂に蟹江を圍む。七月、一益、種利を斬りて以て降る。信雄其死を宥す。乃ち走りて木造に歸る。城將富田知信疑ひて納れず。一益乃ち京師に走る。後、北陸

不知其他。豈倣公等人面獸行乎。一益與嘉隆迫以兵艦。重政投拒。燒而走之。敵轉赴下市。又擊走之。信雄與德川公來援。拔前田下市。越長種。斬定利。大賞重政。遂圍蟹江。七月。一益斬種利以降。信雄宥其死。乃走歸木造。城將富田知信疑而弗納。一益乃走京師。後死於北陸。

に死す。

㈠誘ひ降す　㈡二城共に尾張國に在り　㈢同上　㈣人の面して獸の行をする者の眞似すること能はず

八月。秀吉又入尾張。令萬徹氏鄉攻伊勢諸城。佐佐成政起兵于外山。以遙應信雄。攻前田利家。不克。十一月。秀吉以八萬人入伊勢。信雄出而對陣。秀吉使

八月、秀吉又尾張に入り、萬徹・氏郷をして、伊勢の諸城を攻めしむ。佐佐成政、兵を外山に起して、以て遙に信雄に應じ、前田利家を攻む。克たず。十一月、秀吉、八萬人を以て伊勢に入る。信雄出でて對陣す。秀吉、人をして和を請はしむ。信雄之を許し、桑名城下に盟ふ。秀吉陽に信雄を尊びて、臣禮を執ること故の如し。信雄大に喜ぶ。成政未だ之を知らず。德川公に就きて謀を協せて、以て秀吉を圖らんと欲す。乃ち疾と稱して屏居し、潛に壯士百餘人と、雪を冒して信濃に入り、侍臣を外山に留め、饋食稟啓常の如くせしむ。之を誡めて曰く、我が往

人請レ和。信雄許レ之。盟二于桑名城下一。秀吉陽餘二信雄一。執二臣禮一如レ故。信雄大喜。成政未二之知一也。欲下就二徳川公一協レ謀。以圖中秀吉上。乃稱レ疾屏居。潛與二壯士百餘人一冒レ雪入二信濃一。留二作臣於外山一。餽二食稟啓如レ常。誡レ之曰。度二我往還一。不レ過二二十日一。利家必不レ能レ覺。即覺治レ兵。則我已歸至矣。

還を度るに、二十日に過ぎず。利家必ず覺る能はず。即し覺りて兵を治めば、則ち我れ已に歸り至らんと。

(一) 相對して陣す　(二) 引籠り居る　(三) 食事をおくり、ものを申ぐること平生の如くせしむ、是れ成政の居るが如くに裝はしめしなり

於レ是乘レ橇兼行。所レ經皆山谷。絕無二人烟一。得二一樵家一。入レ之。樵父大愕。以爲二鬼物一。從者曰。吾輩自二越中一赴二深志一者。汝爲二鄉導一。吾重賞レ汝。樵

是に於て、橇に乘りて兼行す。經る所皆山谷にして、絕えて人烟なし。一の樵家を得て、之に入る。樵父大に愕きて、以て鬼物と爲す。從者曰く、吾が輩は越中より深志に赴く者なり、汝、鄉導を爲せ。吾れ重く汝を賞せんと。樵父乃ち柴を燒きて之を燎り、導きて下諏訪に至り、健步をして徳川氏に告げしむ。徳川氏乃ち人馬を遣して之を迎ふ。十二月、遠江に至り、說きて曰く、願はくは、公、五國の兵を擧げよ。吾れ亦越中を擧げん。兩雄、力を勠せ、鼓行して西せば、必ず

父乃燒レ柴燎レ之。導至ニ下諏訪ニ。使ニ徒步告ニ徳川氏ニ。徳川氏乃遣ニ人馬ニ迎レ之。十二月。至ニ遠江ニ。說曰。願公擧ニ五國兵ニ。吾亦擧ニ越中ニ。兩雄戮レ力。鼓行而西。必禽ニ秀吉ニ。徳川氏以ニ其言ニ爲レ倨。且知ニ北地不ニ便ニ出援ニ。乃辭レ之。成政遂適ニ尾張ニ。勸ニ信雄再擧ニ兵。信雄不レ肯。成政失レ意而歸。信雄敍ニ從三位ニ。任ニ參議ニ。十三年。進ニ正三位ニ。遷ニ大納言ニ。

秀吉を禽にせんと。徳川氏、其言を以て倨れりと爲し、且つ北地は出援に便ならざるを知り、乃ち之を辭す。成政遂に尾張に適き、信雄に再び兵を擧げんことを勸む。信雄肯ぜず。成政、意を失ひて歸る。(六) 信雄、從三位に敍せられ、參議に任ぜらる。十三年、正三位に進み、大納言に遷る。

(一) 鑿夜行く　(二) 人家なし　(三) 化者となす　(四) 足の達者の者　(五) 進軍して　(六) 失望して歸る

初丹羽長秀以ニ秀吉ニ爲レ有ニ忠功ニ也。枉レ意助レ之。於レ是視ニ其勢出ニ織田氏上ニ。則大悔

初め丹波長秀、秀吉を以て忠功ありと爲し、意を枉げて之を助く。是に於て、其勢、織田氏の上に出づるを視、則ち大に悔恨し、疾に託して自殺す。其子長重猶ほ弱なり。(一) 舊臣相共に謀り、兵を擧げて長秀の志を繼がんと欲す。謀頗る漏る。八月秀吉北に成政を攻む。成政逆へ戰ひ、克たずして降る。秀吉乃ち越

恨。託レ疾自殺。其子長重猶弱。舊臣相共謀。欲三擧レ兵繼二長秀志一。謀頗漏。八月。秀吉北攻二成政一。成政逆戰不レ克。降。秀吉乃予三越中于二前田利家一。予三越前于二堀秀政一。返二長重一以二若狹一。十五年。秀吉以三長重犯二軍法一。奪二若狹一。擯爲二松任城主一。給二五萬石一。家臣成田某憤懣。謂二其同僚一曰。吾欲レ擧レ事。誰與レ我者。衆莫二敢答一。成田罵曰。皆非レ人也。秀吉聞レ之。使三人殺二成田一。是歲。秀吉予二成政一以二肥後一。肥後盜起。秀吉怒。明年。閏五月。成政自赴二大坂一謝レ之。秀吉使三人迎二之尼崎一賜レ死。

中を前田利家に予へ、越前を堀秀政に予へ、長重に返すに若狹を以てす。十五年秀吉、長重、軍法を犯すを以て、若狹を奪ひ、擯けて(三)松任城主と爲し、五萬石を給す。家臣成田某、(四)憤懣して、其同僚に謂ひて曰く、吾れ事を擧げんと欲す。誰か吾に與する者ぞと。衆敢て答ふるなし。成田罵りて曰く、皆人に非ざるなりと。秀吉、之を聞きて、人をして成田を殺さしむ。是の歲、秀吉、成政に予ふるに肥後を以てす。肥後盜起る。秀吉怒る。明年閏五月、成政自ら大坂に赴きて、之を謝す。秀吉、人をして之を尼崎に迎へしめて、死を賜ふ。

(一) 悔ひ恨む　(二) 年齡若し　(三) 加賀國に在り　(四) 憤りうらむ

信雄陞二從二

信雄、從二位、内大臣に陞る。秀吉、其の(一)咽喉の地に據るを以て、之を徙さん

位内大臣一。秀吉以三其據二咽喉地一。欲レ從レ之。未レ果。十八年。秀吉伐二北條氏一。信雄以二兵一萬五千一助レ之。攻二韮山一。及二事平一。秀吉封三德川氏于二關東八州一。欲下以二其舊國五州一致丙於乙信雄甲。信雄辭曰。尾張伊勢。吾故地也。得二仍居一焉。足矣。敢望二大封一。秀吉怒三其不レ屑レ受二己封一也。乃奪二二州一。予二之己甥秀次一。逐三信雄于二出羽秋田一。明年。徙二之伊豫一。山口重政等。皆事二德川氏一。

と欲す。未だ果さず。十八年、秀吉、北條氏を伐つ。信雄、兵一萬五千を以て之を助け、韮山を攻む。事平ぐに及びて、秀吉、德川氏を關東八州に封じ、其舊國五州を以て信雄に致さんと欲す。信雄、辭して曰く、尾張・伊勢は、吾が故地なり(一)。仍ほ居るを得ば、足れり。敢て大封に膺らんやと。秀吉、其の己の封を受くるを屑しとせざるを(二)怒る。乃ち二州を奪ひて、之を己の甥秀次に予へ、信雄を出羽の秋田(三)に逐ふ。明年、之を伊豫に徙す。山口重政等、皆德川氏に事ふ。

(一) 肝要の地　(二) 舊領地　(三) 一本に背とあり

文祿元年。秀吉召二信雄一。至二大坂一。予二其子秀雄一。以二大野

文祿元年、秀吉、信雄を召して(一)、大坂に至らしめ、其子秀雄に予ふるに、大野五萬石を以てす。信雄退きて伏見に居り、髪を削りて常眞と稱す。常眞の弟

五萬石。秀雄退居二伏見一。削レ髮稱二常眞一。常眞之弟次丸。自二信長在時一。爲二秀吉所一レ養。更二名秀勝一。封二之丹波一。爲二左近衞少將一。四年。秀勝卒。無レ嗣。國除。是歲。蒲生氏鄕卒。氏鄕幼英敏。信長識二拔之一。予二十餘萬石一。以レ女妻レ之。秀吉又任以二方面一。累加レ封至二百萬石一。鎭二會津一。已而悔レ之。石田三成因譖二其有二異心一。毒レ之。疾作。不レ起。孤子秀行嗣。秀吉聞二其寡婦織田氏美一。欲レ取レ之。織田氏不レ肯。秀吉脅レ之。家臣交勸二其往一。織田氏削レ髮。以レ死自矢。秀吉怒。慶長三年。託レ事。削二其八十二萬石一。徙二之宇都宮一。

次丸、信長の在時より、秀吉の養ふ所と爲る。名を秀勝と更め、之を丹波に封ず。左近衞少將と爲る。四年、秀勝卒す。嗣なし。國除かる。是の歲、蒲生氏鄕卒す。氏鄕、幼より(二)英敏なり、信長、之を(三)識拔し、十餘萬石を予ふ。女を以て之に妻はす。秀吉又任ずるに(四)方面を以てす。累に封を加へ、百萬石に至り、會津に鎭せしむ。已にして之を悔ゆ。石田三成因りて其の異心あるを(五)讒し、之を毒す。疾作り、起たず。孤子秀行嗣ぐ。秀吉、其寡婦織田氏の(六)美なるを聞きて、之を取らんと欲す。織田氏肯ぜず。秀吉、之を脅す。家臣交〻其往くを勸む。織田氏、髮を削り、死を自て自ら矢ふ。秀吉怒り、慶長三年、事に託して其八十二萬石を削り、是を宇都宮に徙す。

(一) 一本に令あり　(二) すぐれてすばやし　(三) 知りて拔擢し　(四) 一方　(五) 氏鄕を信長に讒言す　(六) 美人

當二是時一。秀信年已長。爲二中納言一。秀吉徙二之岐阜一。食邑如レ故。秀吉薨。子秀賴嗣。德川公攝二天下政一。上杉景勝與二石田三成一謀レ除レ公。五年。六月。德川公率二諸將一攻二上杉氏一。秀信佚遊奢侈。國用窮竭。以レ故不レ能レ從レ軍。七月。石田三成擧二兵關西一。追二躡德川公一。使三人脅秀信一曰。岐

是時に當りて、秀信、年已に長じて、中納言と爲る。秀吉、之を岐阜に徙す。食(一)邑故の如し。秀吉、薨じ、子秀頼嗣ぐ。德川公、天下の政を攝す。上杉景勝、石田三成と、公を除かんと謀る。五年六月、德川公、諸將を率ゐて上杉氏を攻む。秀信、佚(二)遊奢侈、國用窮竭す。故を以て軍に從ふ能はず。七月、石田三成兵を關西に擧げて、德川公を追躡し、人をして秀信を脅さしめて曰く、岐阜は東下の衝(三)に當る。從はずんば則ち齏(四)粉せんと。秀信疑懼して、三成に附かんと欲す。老臣木造具康諫めて曰く、公右府の嫡孫を以て、顧りて豐臣氏の家(五)奴に役せらるるかと。秀信、猶豫して決せず。具康等之を前田玄以に謀らんと請ふ。玄以は、是時京師の所司代たり。秀信乃ち之を遣す。玄以曰く、速(六)かに東嚮せよと。具康馳せ還り、未だ至らず。近習爭ひて其の西軍に應ずるを勸む。三成、又黄金百枚を送り、啗はすに大封を以てす。秀信、終に三成と澤山に盟ふ。具康至りて嘆恨し、因りて又三成を誘殺せんことを請ふ。聽さず。終に西軍の爲に岐阜を守る。

皐當ニ東下之衝一。不レ從則虀粉矣。秀信疑懼。欲レ附ニ三成一。老臣木造具康諫曰。公以ニ右府嫡孫一。顧役レ於ニ豐臣氏家奴一乎。秀信猶豫不レ決。具康等請レ謀ニ之於前田玄以一。玄以是時爲ニ京師所司代一。秀信乃遣レ之。玄以曰。速東嚮。具康馳還。未レ至。近習爭勸ニ其應ニ西軍一。三成又遣ニ黄金百枚一。啗以ニ大封一。秀信終與ニ三成一盟ニ于澤山一。具康至嘆恨。因又請レ誘ニ殺三成一。弗レ聽。終爲ニ西軍一守ニ岐阜一。尾張美濃諸城。因レ是多屬ニ西軍一。

既而東軍還至ニ清洲一。秀信出レ兵拒ニ木曾川一。具康曰。我兵寡。請堅レ壁待ニ後援一。弗レ聽。東軍濟レ川來戰。追レ北傅レ城。秀信分レ兵守ニ外城一。具康曰。

尾張・美濃の諸城、是に因りて多く西軍に屬す。

(一) 領地從前と同じ　(二) 我儘にて遊びを好む　(三) 國の費用をつかひつくす　(四) 粉微塵にせん　(五) 家來　(六) 徳川氏に歸せよ

既にして東軍還りて清洲に至る。秀信、兵を出して木曾川(一)に拒ぐ。具康曰く、我が兵寡し。請ふ、壁を堅くして後援を待たんと。聽さず。東軍、川を濟りて來り戰ひ、北ぐるを追ひて城に傅く。秀信兵を分ちて、外城を守る。具康曰く、寡兵分つべからず、請ふ、專ら内城を守らんと。又聽さず。城遂に陷る。具康、力戰して(二)創を被る。秀信降り、高野に逃る。數歳にして卒す。東將福島正則、人をして具康を勞問(三)せしむ。既にして、前田氏之を聘せんと欲す。延くに厚祿

寡兵不レ可レ分。請專守二內城一。又弗レ聽。城遂陷。具康力戰被レ創。秀信降。逃二于高野一。數歳卒。東將福島正則使三人勞二問具康一。既而前田氏欲レ聘レ之。延以二厚祿一。辭曰。福島公已知レ臣矣。遂就二正則一。爲二其國光一。

を以てす。辭して曰く、福島公已に臣を知れり(四)と。遂に正則に就き、其國老と爲る。

(一) 尾張美濃の境を流る　(二) つとめ戰ひて　(三) 慰問せしむ　(四) 吾が人物を知つて居る

信雄在二伏見一。德川公之東征。信雄以レ疾不レ從。三成誂二信雄一。信雄辭以レ無レ兵。乃約給二金千枚一以募レ兵。曰事成復封二尾張一。信雄乃應レ之。請レ金。乃予二銀千

信雄、伏見に在り。德川公の東征するや、信雄、疾を以て從はず。三成、信雄に誂(一)す。信雄、辭するに兵無きを以てす。乃ち約して金千枚を給し以て兵を募らしむ。曰く、事成らば復た尾張に封ぜんと。信雄乃ち之に應じ、金を請ふ。乃ち銀千枚を予ふ。信雄曰く、(二)尾張知るべしと。秀雄を召して之を謀る。秀雄力諫して止む。信雄卒す。嗣なし。德川氏、其封を收めて、信雄を問は(三)ず。信雄徙りて京師に居り、遂に大坂に徙る。秀頼の母と中表(四)の親あるを以てなり。初め信長の妹、淺

枚。信雄曰。尾張可ㇾ知矣。召二秀雄一謀ㇾ之。秀雄力諫而止。信雄卒。無ㇾ嗣。德川氏收二其封一。而不ㇾ問二信雄一。信雄徙居二京師一。遂徙二大坂一。以下與二秀賴母一有中中表之親上也。初信長妹適二淺井長政一。生二三女一。再適二柴田勝家一。勝家臨ㇾ死。使三人匿二三女于一乘谷一。秀吉收而育ㇾ之。皆有二容色一。秀吉自取二其長女一。次女嫁二京極高次一。三女嫁二少將秀勝一。秀勝卒。更爲二德川氏婦一。長女專二秀吉寵一。生二秀賴一。母子共居二大坂一。乃迎二信雄一。居二天滿第一。

井長政に適き。三女を生む。再び柴田勝家に適く。勝家死に臨み、人をして三女を一乘谷に匿さしむ。秀吉收めて之を育つ。皆容色(五)あり。秀吉自ら其長女を取る。次女は京極高次に嫁ぎ、三女は少將秀勝に嫁ぐ。秀勝、卒す。更に德川氏の婦と爲る。長女、秀吉の寵を專にす。秀賴を生む。母子共に大坂に居る。乃ち信雄を迎へ、天滿の第に居らしむ。

(一) 誘ふ　(二) 金を請うて銀を與ふ、是によつて見ても尾張を與ふるといふは詐なることを知る　(三) 其罪をとはず　(四) いとこ同志　(五) 美人なり

十九年。秀賴傅片桐且元使二關東一而歸。

十九年、秀賴の傅片桐且元、關東に使して歸る。或ひと、之を淺井氏に譖す。(一)淺井氏乃ち信雄を延き、人をして之に說かしめて曰く、且元、關東と謀(二)を通じ

或讒レ之於二淺井氏一。淺井氏乃延二信雄一。使二人說一レ之曰。且元與二關東一通レ謀。圖二我母子一。吾將下待二其歸一伐レ甲誅上レ之。遂擧レ兵也。內兄爲レ我將。信雄驚曰。是大事也。且彼叛狀未レ見。請熟二思之一。淺井氏聞レ之弗レ懌。曰。再請不レ從。當下先除二此翁一以防中漏泄上。一侍女與二信雄一有レ故。捧レ茗而出。附二其耳一告レ之。淺井氏使二再請一。信雄佯諾曰。事已至レ此。吾豈固辭。吾之少也。亦將二

て、我が母子を圖る。吾れ將に其歸るを待ち、甲を伏せて之を誅し、遂に兵を擧げんとす。內兄、我が爲に將たれと。信雄驚きて曰く、是れ大事なり。且つ彼の叛狀未だ見れず。請ふ、之を熟思(三)せよと。淺井氏、之を聞きて以て懌ばずして、曰く、再び請ひて從はずんば、當に先づ此翁を除きて以て漏泄(四)を防ぐべしと。一侍女、信雄と故(五)あり。茗を捧げて出で、其耳に附きて之を告ぐ。淺井氏、再び請はしむ。信雄佯り諾して曰く、事已に此に至る。吾れ豈に固辭せんや。吾の少きも、亦一萬に將たり。指揮の方は、固より慣熟(六)する所なり。今老いたりと雖も、猶ほ能く方面に當るを得んと。淺井氏大に喜び、歸りて報を俟たしむ。信雄、第に歸り、其下に謂ひて曰く、吾れ豈に再び德川の德に背くべけんやと。乃ち京師に走り、人をして馳せて且元を要して之を誓めしむ。且元、故を以て免るゝを得たり。

(一) 一本に譖とあり　(二) 共謀して　(三) よく考へよ　(四) もるゝこと　(五) なじみ　(六) よくなれる

一萬。指揮之方。固所慣熟。今雖老矣。猶能得當方面。淺井氏大喜。使歸俟報。信雄歸第。謂其下曰。吾豈可再背徳川之徳哉。乃走京師。使人馳要且元警之。且元以故得免。

信長弟長益。屬秀吉。食大和二萬石。爲從四位下待從。削髮稱有樂。以淺井氏外叔在大坂。與大野治長等。竝輔秀頼。以拒東軍。城中倚頼焉。及和議起。先納質於東。勸淺井氏成和。和成。長益乃赴駿府。請曰。僕在閫中。欲拔歸東軍。而和適成。以得有今日。僕無復所願。獨願於京師界府之間。得一隙地。以爲終老之計。徳川公優旨慰藉。

信長の弟長益、秀吉に屬し、大和二萬石を食む。從四位下、侍從と爲る。髮を削りて有樂と稱す。淺井氏の外(一)叔を以て大坂に在り。大野治長等と、竝に秀頼を輔けて、以て東軍を拒ぐ。城中倚頼す。和議起るに及びて、先づ質を東に納れ淺井氏に勸めて和を成す。和成る。長益乃ち駿府に赴き、請ひて曰く、僕、閫中に在り、拔けて東軍に歸せんと欲す。和適ゝ成り、以て今日(二)有るを得たり。僕復た願ふ所なし。獨願くは京師・界府の間に於て、(三)一隙地を得て、以て終(四)老の計を爲さんと。徳川公優旨(五)慰藉す。

(一) 母方の叔父　(二) 今和睦するを得たり　(三) 一の閑靜なる場所　(四) 老年を終らんとするばかり　(五) 手厚き思召を以てなぐさむ

元和元年。兵再起。長益與二少子尚長一出二奔京師一。遂赴二關東一。遇三德川公于二尾張一。悉告二城中虛實一。其長子長正稱二雲生寺一。猶在二大坂一。請レ爲二元帥一。衆不レ許レ之。長正曰。我信長從子而秀頼從父也。乃爲二元帥一。何爲二不可一。今如レ此。復何望哉。亦出二奔京師一。及二事平一。德川氏分二長益地一。賜下芝村于二長正一。柳本于中尚長上。無二幾何一長益卒。賜二信雄一以二大和宇多郡五萬石一。卒レ于二寛永七年一。第五子信友嗣。

元和元年、兵再び起る。長益、少子尚長と、京師に出奔し、遂に關東に赴き、德川公に尾張に遇ひて、悉く城中の虛實(一)を告ぐ。其長子長正、雲生寺と稱す。猶ほ大坂に在り。元帥(二)たらんと請ふ。衆、之を許さず。長正曰く、我れ信長の從子にして、秀頼の從父(三)なり。乃ち元帥と爲るも、何ぞ不可と爲さん。今は此の如し。復た何をか望まんやと。亦京師に出奔す。事平ぐに及び、德川氏、長益の地を分ちて、芝村を長正に、柳本を尚長に賜ふ。幾何もなく、長益卒す。信雄に賜ふに大和の宇多郡五萬石を以てす。寛永七年に卒す。第五子信友嗣ぐ。

(一) 眞相を告ぐ　(二) 總大將　(三) をぢ

等四子信良。

第四子信良、兄秀雄國除かるゝに及びて、召されて關東に至り、上野の小幡を

及二兄秀雄國除一。召至二關東一。賜二上野小幡一。食二二萬石一。信友之後有レ故削二二萬石一。徙二于丹波柏原一。信良之後有レ故削二一萬石一。徙二于出羽高畠一。此四家並立以至レ於レ今。位不レ過二從四位下一。然豐臣氏既亡。而織田氏之祀。永與二德川氏一倶存。識者以爲丁其流澤遠出二重盛之忠孝一。近由中信長之功德上也。

賜りて、二萬石を食む。信友の後、故(一)有りて二萬石を削られ、丹波の柏原に徙さる。信良の後、故有りて一萬石を削られ、出羽の高畠に徙さる。此四家並び立ちて以て今に至る。位は從四位下に過ぎず。然れども豐臣氏既に亡びて、織田氏の祀、永く德川氏と倶に存す。識者(二)以て其流澤(三)、遠くは重盛の忠孝に出で、近くは信長の功德に由ると爲す。

(一) 事故ありて　(二) 一本に識者以下二十二字を世以爲重盛信長勤王之澤也とあり　(三) 子孫に及ぶ恩澤

外史氏曰。往時平安故老。有レ及レ視二元龜間事一。言二其時宮闕隳廢。羣

外史氏曰く、往時、(一)平安の故老、元龜間の事を視るに及ぶあり。言ふ、其時、宮闕(二)隳廢し、羣兒(三)頽垣の中に入り、土を摶ち戲を爲す。織田公來るに及びて、(五)始めて觀る可き有りと云ふと。夫れ應仁(四)以還、海內分裂し、輦轂(六)の下、每に

兒入頽垣中。搏土爲戲。及織田公來。始有可觀云。夫應仁以還。海内分裂。輦轂之下。每爲兵馬馳逐之場。非右府。誰能闢除草萊。以再造王室哉。及朝廷酬其功。擬以征夷之拜。則辭不受。蓋將家與王室。倶極衰頽。名重實輕。不猶所謂大將軍告身僅直一醉者耶。右府志在混同海宇。不欲遽冒虛名爾。視之彼假關東管領以誇隣國者。其器量固有間焉。

兵馬馳逐の場となる。右府に非ざれば、誰か能く草萊(七)を闢除し、以て王室を再造せんや。朝廷、其功を酬ゆるに及び、擬するに征夷の拜を以てす。則ち辭して受けず。蓋し將家と王室と、倶に衰頽を極め、名重く、實輕し、猶ほ所謂大將軍の告身(八)、僅に一醉に直る者のごとからざらんや。右府の志海宇を混同するに在り、遽に虛名を冒すを欲せず。之を彼の關東管領を假りて、以て隣國に誇る者に視るに、其器量固より間あり。

(一) 京都の老人　(二) やぶれすたる　(三) くづれたる垣　(四) 土をこねて遊戲をなす　(五) 始めて體裁をなす　(六) 天子の御膝下　(七) くさむらのしげりてゐる荒れたる土地　(八) 受官の符

抑朝廷名器。

抑々朝廷の名器、(二)天下の豪傑を輕重するに足らざること、此の如きに至る。

不レ足三輕二重天下豪傑一。至レ於レ如レ此。挾焉以令二天下一。天下未二必聳動一也。而右府爲レ之扶植經紀。懃懃不レ置。是其高義雖レ謂下凌二齊桓一而駕中晉文上可也。當二是之時一。羣雄之割二據方隅一者。環視傍觀。而莫二能出レ於レ此。其日夜所三務以代二眠食一者。曰。戰而已矣。而其所レ謂戰。徒較三勝負於二銖兩之間一。拏攫搏嚙。以爭二尋常一。如二武田上杉北條毛利一。概無レ不レ然。

挾み(二)て以て天下に令するも、天下未だ必ずしも聳(三)動せざるなり。而して右府、之が爲に扶植經紀して懃懃(四)として置かず。是れ其の高義、齊桓を凌ぎて、晉文を駕すと謂ふと雖も可なり。是の時に當りて、羣雄の方隅(五)に割據する者、環(六)視傍觀して、能く此に出づる莫し。其日夜務めて以て眠食に代ふる所は、曰く、戰のみ。而して其の所謂戰は、徒に勝負を銖(七)兩の間に較し、拏(八)攫搏嚙、以て尋常を爭ふ。武田、上杉、北條、毛利の如き、概ね然らざる無し。

(一) 官爵　(二) 名器を挾みて天下に號令するも　(三) おそれ動く　(四) 齊の桓公、晉の文公を凌駕するといひても よし　(五) 東西南北四隅　(六) 四方よりとりまきて見る　(七) すこし　(八) つかみあひうちあひかみあひて

獨右府以二超世之材一。籠蓋而取レ之。其視二

獨り右府、超(一)世の材を以て、籠(二)蓋して之を取る。其の武田、上杉を視る、猶ほ我が藩(三)籬のごとく、其をして相持して決せず、日に其財賦を費し、月に其甲兵を

武田上杉。猶ニ我藩蔽ー。使下其相持不レ決。日費ニ其財賦ー。月敝中其甲兵上。適足三以隔ニ閡我東面ー。而我得三以專レ力經ニ略畿甸ー。畿甸已定。西面以臨ニ毛利氏ー。如ニ拉レ枯摧ニ朽耳。於レ是我疆土益大。兵力益强。以ニ强大之我ー。加ニ費敝之敵ー。上杉武田固不レ能レ支レ我。而北條氏孤立矣。則東國皆可レ圖也。是其成算。夙定レ於ニ胸中ー。奚必較ニ區區勝敗ー哉。猶ニ夫奕碁ー也。天下羣雄。方守レ角依レ傍。而右府獨以ニ全局ー制ニ其勝ー。可レ不レ謂ニ之超世之才ー歟。

敝れしめて、適ゝ以て我が東面を隔閡(四)するに足る。而して我は以て力を專にして畿甸を經略(五)するを得たり。畿甸已に定る。西面して以て毛利氏に臨む。枯を拉ぎ、朽を摧くが如きのみ。是に於て、我が疆土(六)益ゝ大、兵力益ゝ强、强大の我を以て費敝の敵に加ふ。上杉、武田、固より我を支ふる能はず。而して北條氏、孤立す。則ち東國皆圖る(七)可きなり。是れ其の成算(八)、夙に胸中に定る。奚ぞ必ずしも區區の勝敗を較せんや、猶は夫の奕碁のごときなり。天下の羣雄、方に角を守り、傍に依る。而して右府、獨り全局(九)を以て其勝を制す。之を超世の才と謂はざるべけんや。

(一) 世にたちこえたる才 (二) 引きくるめて (三) まもりの藩のごとく (四) へだてかぎる (五) 攻取る (六) 領地 (七) 攻取ることを得 (八) 豫定の計はやくも胸中に決定す (九) 其盤全面の意

然定ニ數百年分裂之世一。如レ治ニ盤根錯節一。必以ニ鋤蹷斬斷一見レ功。其間必有下大矯ニ拂人心一者上。而取レ之甚難者。持レ之必太急。待ニ將帥一。御ニ臣民一。不レ能レ無ニ猜忍刻厲之病一。所ニ以中道遭レ禍。亦勢之必至。不レ足ニ深咎一也。昔周世宗以ニ英明之資一。而抱ニ混一之志一。不レ牽ニ衆言一。厲レ精進取。雖ニ半途而沒一。而能開ニ趙宋之業一。右府之迹。蓋似レ之矣。

然れども數百年分裂の世を定むるは、盤根錯節(一)を治むるが如く、必ず鋤蹷斬斷(二)を以て功を見る。其間必ず大に人心を矯拂(三)する者あり。而して之を取るに甚だ難ければ、之を持つに必ず太だ急なり。將帥を待ち、臣民を御するに、猜忍刻厲(四)の病無きこと能はず。中道にして禍に遭ひし所以なり。亦勢の必至にして、深く咎むるに足らざるなり。昔、周の世宗、英明の資を以て、混一(五)の志を抱き、衆言に牽かれず、精を厲まして進取し、半途にして沒すと雖も、而も能く趙宋の業を開けり。(六)右府の迹、蓋し之に似たり。

(一) わだかまれる根くねりたる木のふし (二) すきかへす (三) 人民の心にさからひもとる事あり (四) ねたみつよく無慈悲にはげしくきびしき缺點 (五) 統一 (六) 信長のなした事業の跡

而豐臣氏以ニ

而して豐臣氏、右府の將校を以て、其成緒(一)を繼ぎ、能く其志を就す。而して

右府將校。繼ニ其成緒。能就ニ其志。而至レ於下尊レ王之義。經ニ營四方ニ之略上。無下一不レ師ニ右府ニ者上。即德川氏之興。亦不レ能レ不レ因レ此。以致三王室將家並見ニ今日之盛。佐ニ成大業。藩ニ屛四方ニ者。概係ニ右府所レ置焉。則謂ニ之右府之業。亦何不可。譬ニ之築レ室。治ニ其蕪穢。鏟ニ其高卑。而又爲レ之鳩ニ其材木。使下後人加ニ之繩墨斧斤。成而居上レ之。嗚呼其勞寧可レ沒也。

王を尊ぶの義、四方を經營するの略に至りては、一として右府を師とせざるは無し。即ち德川氏の興るも、亦此に因らざる能はず。以て王室將家(二)並に今日の盛を見るを致す。大業を佐け成し、四方に藩屛(三)たる者、概ね右府の置く所に係る。則ち之を右府の業と謂ふも、亦何ぞ不可ならん。之を室を築くに譬ふ。其蕪穢(四)を治め、其高卑(五)を鏟り、而して又之が爲に其材木を鳩め、後人をして之に繩墨斧斤を加へ、成りて之に居らしむ。嗚呼、其勞寧ぞ沒すべけんや。

(一) 成業　(二) 朝廷及び將軍家　(三) まもり　(四) 荒地　(五) 地の高低をならし

豐臣氏。出レ於二尾張一。尾張愛智郡有二中邑一。邑多二銀杏樹一。因或呼二銀杏村一。享祿天文之際。村民有二彌助者一焉。彌助無レ子。與二其妻一祈二之於上レ天。妻夢三日輪入二其懷一。已而有レ身。天文五年。

卷十五

徳川氏前記

豐臣氏上

豐臣氏は、尾張より出づ。尾張の愛智郡に中邑有り。邑に銀杏樹多し。因りて或は銀杏村と呼ぶ。(一)享祿・天文の際、村民に彌助といふ者有り。彌助、子無し。其妻と(二)之を天に祈る。妻、日輪其懷に入ると夢みる。已にして(三)身む有り。天文五年正月朔、一男兒を生む。因りて名づけて日吉と曰ふ。日吉生れて(四)英異なり。八歳にして父を失ふ。其母、日吉を挈げて、轉じて邑人に(五)寄食す。邑人、之を患ふ。(六)同閭に筑阿彌といふ者有り。國主織田信秀の僕と爲りて、疾を以て(七)歸耕す。邑人爲に議して、納れて繼父と爲す。一男、一女を生む。乃ち日吉を邑(八)傍の光明寺に託して、僧と爲らしめんと欲す。日吉、機敏にして(九)誦梵を曉らず。人の

正月。朔。生二一男兒一。因名曰二日吉一。日吉生而英異。八歲失レ父。其母挈二日吉一。轉寄二食邑人一。邑人患レ之。同閭有二筑阿彌者一。爲二國主織田信秀之僕一。以レ疾歸耕。邑人爲議。納爲二繼父一。生二一男一女一。乃託二日吉于二邑傍光明寺一。欲レ使レ爲レ僧。日吉機敏而不レ曉二誦梵一。每レ聞二人談二武事一。輒傾二聽之一。慨然歎曰。僧乞丐徒耳。大丈夫生二於亂世一。安學二乞丐一爲。於レ是游嬉任レ意。與レ人諍。輒毆二擊之一。欲レ使二僧厭二苦己一。僧遂議レ逐二歸其家一。日吉恐二繼父怒レ己也。大

武事(一〇)を談ずるを聞く每に、輒ち之を傾聽(一一)して、慨然(一二)として歎じて曰く、僧は乞丐(一三)の徒のみ。大丈夫、亂世に生れて、安んぞ乞丐を學ぶことを爲さんと。是に於て、游嬉(一四)、意に任せ、人と諍へば、輒ち之を毆擊(一五)し、僧をして己を厭苦(一六)せしめんと欲す。僧遂に其家に逐ひ歸さんと議す。日吉、繼父の己を怒るを恐れ、大言して曰く、果して我を逐はば、我れ且に寺を焚き、悉く羣僧を擊殺せんと。僧頗る懼れ、乃ち事(一七)に託して辭謝し、衣物を予へ、禮して之を歸す。日吉、時に甫めて十歲なり。

(一) 共に後奈良天皇の年號　(二) 子の生まるゝ樣にと天に祈る　(三) 懷姙す　(四) すぐれて常にかはれり　(五) 厄介になる　(六) 同村　(七) 家に歸りて農業に從事す　(八) 村はづれ　(九) 經文を覺えぬ　(一〇) 武藝のこと　(一一) 注意してきく　(一二) なげきいきどほる　(一三) 乞食仲間に過ぎず　(一四) 心のまゝ遊びたはむれ　(一五) なぐりつける　(一六) いとひきらふ　(一七) 他の事にかこつけてことわる

言曰。衆逐ㇾ我。我且焚ㇾ寺。悉撃二殺羣僧一。僧頗懼。乃託ㇾ事辭謝。予二衣物一。禮而歸ㇾ之。日吉時甫十歲。父素貧。不ㇾ能二共存一。復遣爲二人奴一。所ㇾ至皆數月而去。轉二從於尾張美濃間一。比二二十歲一。遂如二遠江一。爲二土豪松下之綱家奴一。之綱愛二其才幹一。每ㇾ事使ㇾ之。命二名與助一。之綱一日從容問曰。汝尾張人也。知二織田氏所ㇾ用鎧何樣一邪。與助對曰。天下之鎧皆

父素より貧にして、共存すること能はず。(一)復た遣して人奴と爲す。(二)至る所皆數月にして去り、尾張・美濃の間に轉徙す。(三)二十歲の比、遂に遠江に如きて、土豪松下之綱の家奴と爲る。之綱其才幹を愛して、事每に之を使ふ。名を與助と命ず。之綱、一日、從容として(四)問ひて曰く、汝は尾張の人なり。織田氏用ふる所の鎧の何樣なるを知るかと。與助對へて曰く、天下の鎧は皆桶皮にして、(五)尾張獨り胴圓(六)を用ふ、籐を右助に施して、屈伸意の如しと。之綱曰く、吾れ胴圓一領を得んと欲す。汝、吾が爲に往きて買ひ來れと。卽ち黃金六兩を附して之を遣る。與助行く、(七)自ら計りて曰く、吾れ此金を擁みて、以て仕進に資せん。(八)苟も意を得ば、他日、之を償はんこと易きのみ。小節拘るに足らざるなりと。(九)乃ち尾張に入り、其叔父に就きて謀る。(一〇)叔父、之を可とし、因りて織田氏に仕ふるを勸む。

(一)家に置きて共に生活すること能はず　(二)下男　(三)移り住む　(四)ゆつたり　(五)具足の一種、桶皮胴　(六)

栖皮。尾張獨用二胴闔一。施二朦右肋一。屈伸如レ意。之綱曰。吾欲レ得二胴闔一領一。汝爲レ吾往買來。即附二黃金六兩一遣レ之。與助行自計曰。吾攜二此金一。以資二仕進一。苟得レ意。他日償レ之易耳。小節不レ足レ拘也。乃入二尾張一。就二其叔父一謀焉。叔父可レ之。因勸レ仕二織田氏一。

鎧の一種、胴の左につがひ無くして屈伸し、右の脇まで合せらるゝもの （七）自分から考慮して （八）仕官の費用とせん （九）少しばかりの義理は構はぬ （一〇）叔父の許にゆきて相談す

當二是時一。信秀既沒。信長嗣立。攻二略四疆一。與助亦以爲。非二信長一無下足三與成二功名一者上。於レ是用二其金一。辨二刀劍衣服一。自造二姓名一。曰二木下藤吉一。伺二信長出一。跪二謁道側一曰。臣父

是の時に當りて、信秀既に沒し、信長、嗣ぎて立ち、（一）四疆を攻略す。與助亦以爲らく、信長に非ざれば、與に功名を成すに足る者無しと。是に於て、其金を用ひて、刀劍衣服を辨じ、自ら姓名を造りて、木下藤吉と曰ふ。信長の出づるを伺ひ、（二）道側に（三）跪謁して曰く、臣の父筑阿彌は嘗て君の先公の奴と爲る。臣、幼より他方に（四）流寓して、自ら君門に達する能はず。願はくは、君、復た臣を收めて奴と爲せよと。信長（五）熟視し、笑ひて曰く、汝の面、猴に類す。其心必ず（六）捷ならんと。乃ち收めて奴と爲す。常に（七）鞋を挈み以て從ふ。其筑阿彌の子なるを以て、呼

筑阿彌。嘗爲君先公奴。臣幼流寓他方。不能自達君門。願君復收臣爲奴。信長熟視。笑曰。汝面類猴。其心必捷矣。乃收爲奴。常挈鞋以從。以其筑阿彌子也。呼曰小筑。藤吉奉仕甚勤。依託近臣。給其使令。信長嘗侵晨獨出。從者未屬而藤吉輒從之。如斯者數。信長寖親近之。

びて小筑と曰ふ。藤吉奉仕甚だ勤め、近臣に依託して、其使令に給す。信長嘗て晨(八)を侵して獨り出づ。從者未だ屬せずして、藤吉輒ち之に從ふ。斯の如きこと數〻にして、信長寖く之を親近(九)す。

(一) 四方の國疆の地 (二) 道ばた (三) 跪きて見ゆ (四) 各地をわたりあるく (五) みつめて (六) 敏捷 (七) 草履取となつて伴をなす (八) 早朝 (九) 親み近づく

其明年。信長所居清洲城。壁壞可百步。命吏發卒補之。彌月不成。藤吉從過城下。仰視而嘆曰。嘻。危矣。因

其明年、信長居る所の清洲城、壁壞るゝこと百歩可なり。吏に命じ卒を發して之を補はしむ。月を彌りて成らず。藤吉從ひて城下を過ぎ、仰視して嘆じて曰く、嘻、危しと。因りて獨語(一〇)すること之を久しくす。信長、微かに之を聞き、藤吉を呼び、面詰りて曰く、小筑、汝何を言はんと欲すと。藤吉、左右を畏憚(一一)して敢て答へず。信長佯り怒りて、其手を拉きて之を近づく。藤吉乃ち曰く、方今

獨語久之。信長微聞之。呼藤吉。而詰曰。小筑。汝欲何言。藤吉長憚左右。不敢答。信長佯怒。拉其手近之。藤吉乃曰。方今君國。東有今川武田。西有齋藤淺井六角。日窺我隙。然而弛備如此。有司爲君謀不忠。信長默然。既而歸舍。召藤吉曰。使汝司工事。則汝能速竣

君の國、東に今川・武田有り。西に齋藤・淺井・六角有り。日ゝに我が隙を窺ふ。然して備を弛ぶる此の如し。有司(三)君の爲に謀りて不忠なりと。信長默然(四)たり。既にして舍に歸り、藤吉を召して曰く、汝をして工事を司らしめば、則ち汝能く速に之を竣へんかと。藤吉曰く、能くせんと。信長曰く、吾れ今日汝に命じて工事を司らしむと。藤吉、拜謝し、徑に吏に詣り、告げて曰く、主公、僕に命じて工事を司らしむ。願はくは徒屬を諭して、僕が令を聽かしめよと。吏、意に之を憎み、曰く、子、好く之を爲せ。吾れ復た管せざるなりと。藤吉乃ち盡く役徒(五)を會し、君命を以て之に酒食を賜ひ、乃ち分ちて十隊と爲し、一隊を以て十歩に充て、身自ら之を奬勵(六)督促す。兩日にして成る。信長適ゝ獵し歸り、見て大に驚きて曰く、猴奴乃ち能く此の如しと。因りて俸を加へ、升せて吏と爲す。是の歲、永祿(七)二年なり。

(一) ひとりごと (二) あたりをおそればゞかる (三) 役人 (四) だまつてをる (五) 工事に從事する人足 (六) は

之乎。藤吉曰。能。信長曰。吾今日命レ汝司ニ工事一矣。藤吉拜謝。徑詣レ吏。告曰。主公命レ僕司ニ工事一。願諭ニ徒屬一。使レ聽ニ僕命一。吏意憎レ之曰。子好レ爲レ之。吾不ニ復管一也。藤吉乃盡會ニ役徒一。以ニ君命一賜ニ之酒食一。乃分爲ニ十隊一。以ニ一隊一充ニ十步一。身自奬ニ勵督三促之一。兩日而成。信長適獵歸。見而大驚曰。猴奴乃能如レ此。因加レ俸升爲レ吏。是歲。永祿二年也。

三年。藤吉又上言曰。清洲城乏レ水。徙ニ小牧一便。信長已欲レ之。而憚ニ勞費一未レ果。且惡ニ人知レ乏レ水也。乃叱曰。猴奴何知。敢進ニ妄言一。罪當レ死。凡藤吉言レ事。輒見ニ叱斥一。衆目ニ笑之一曰。彼面

げましうながす　(七) 正親町天皇の年號

三年、藤吉、又上言して曰く、清洲城は水に乏し。小牧に徙るを便とすと。信長已に之を欲す。而して勞費(一)を憚りて未だ果さず。且つ人の水に乏しきを知るを惡む。乃ち叱して曰く、猴奴、何をか知らん。敢て妄言(二)を進む。罪、死に當すと。凡そ藤吉、事を言へば、輒ち叱斥(三)せらる。衆、之を目笑(四)して曰く、彼の面(五)皮、何ぞ厚きと。藤吉以て意を爲さず。獨り深く信長に結ばんと欲す。信長の士前田利家・淺野長勝、藤吉と善し。淺野、中邑の人杉原某の一女を養ふ。利家、其長女を悅び、之を娶らんと欲す。女肯はず。之を強ひて已まず。淺野之を患ふ。藤吉、權(六)に利家に謂ひて曰く、子、諸(七)を舍け。吾れ已に之に通ぜりと。利家

皮何厚也。藤吉不以爲意。獨欲深結於信長。信長之士。前田利家。淺野長勝。與藤吉善。淺野養中邑人杉原某二女。利家悅其長女。欲娶之。女不肯。强之不已。淺野患之。藤吉權謂利家曰。子舍諸。吾已通之矣。利家笑曰。吾未之知也。苟然。子盍速婚媾。吾爲子媒焉。藤吉亦不甚辭。遂因柴田勝家請信長。見允。藤吉家貧。成婚之夕。夫妻布藁于簣而坐。以瓦缸敗盞相酬。妻知其非常人也。事之甚謹。後淺野養近江人安井長政者爲子。妻以其少女。於是淺野加藤福島小出諸人。皆以外戚屬藤吉。

笑ひて曰く、吾れ未だ之を知らず。苟も然らば、子盍ぞ速かに婚媾(八)せざる。吾れ子の爲に媒(九)せんと。藤吉も亦甚だ辭せず。遂に柴田勝家に因りて信長に請ふ。允さる。藤吉家貧し。婚を成すの夕、夫妻、藁を簣に布きて坐し、瓦缸敗盞を以て相酬ゆ。(一〇)妻、其の常人に非ざるを知るや、之に事ふるに甚だ謹む。後淺野、近江の人安井長政といふ者を養ひて子と爲し、妻すに其少女を以てす。是に於て淺野・加藤・福島・小出の諸人、皆外戚(一一)を以て藤吉に屬す。

(一) 人力と費用と (二) 無謀の意見を述ぶ (三) 叱りしりぞけらる (四) 目と目とを見合せて笑ふ (五) なんとあつかましきことだらう (六) 一時のはからひ (七) 此の緣談は止めよ (八) 結婚 (九) 媒酌人 (一〇) 粗末なる德利缺けたる杯を以て結婚の式を濟ます (一一) 妻のつゞきあひ

六年。夏。信長閲二兵河洲一。戲以二藤吉一爲レ將。藤吉部二勒指二麾之一。如下老二兵法一者上。其九月。信長出舍二洲股一。近臣福富某。失二其刀笄一。意二藤吉一。藤吉急赴二津島市一。密懸レ金購レ之。有二一卒一。來粥二刀笄一。藤吉驗レ之。乃盜二刀笄一者也。卽執二縛之一。候二信長還一。攜レ卒要謁。俯伏垂泣。信長問レ故。藤吉具對曰。臣唯貧。爲二故人所一レ意。信長憫レ之。爲償二其懸金一。遂賜以二百貫邑一。

六年夏、信長、兵を河洲に閲し、戲に藤吉を以て將と爲す。藤吉之を部勒指麾(一)して、兵法に老する者の如し。其九月、信長、出でて洲股に舍す。近臣福富某、其刀笄(二)を失ひ、藤吉を意ふ。藤吉、急に津島の市に赴き、密かに金を懸けて之を購ふ。一卒有り、來りて刀笄を粥ぐ。藤吉之を驗するに、乃ち刀笄を盜む者なり。卽ち之を執縛(三)し、信長の還るを候ひて、卒を攜へて要謁(四)し、俯伏垂泣(五)す。信長、故を問ふ。藤吉具に對へて曰く、臣唯貧し。故に人の意ふ所と爲る(六)と。信長之を憫みて、爲に其懸金(七)を償ふ。遂に賜ふに百貫の邑を以てす。

(一)部隊を整へ指揮して　(二)刀のかうがい　(三)とらへてしばる　(四)待受けてまみゆ　(五)身をひれふして涙を流す　(六)人の疑ひをうく　(七)懸賞金

信長方行儉

信長方に儉を行ひ國を富ます。薪炭の費多きを患へ、藤吉に命じて之を司ら

富ㇾ國。患ニ薪炭費多一。命ニ藤吉一司ㇾ之。費省ニ十七。因試ニ之數事。皆効。然未ㇾ使ㇾ將ㇾ兵也。藤吉私制ニ一旗一。集ニ少年一自從。信長覩ㇾ之。怒ニ其妄。命斫ニ其旗。藤吉意色自如。

しむ。費、十の七を省く。因りて之を數事に試みるに、皆効(一)あり。然れども未だ兵に將たらしめざるなり。藤吉、私かに一旗を制し、少年を集めて自ら從ふ。信長之を覩て、其妄(二)を怒り、命じて其旗を斫る。藤吉、意色自如(三)たり。

(一) 効顯あり　(二) 無禮の行ひ　(三) 顏色少しも常に變らず

信長已克ニ今川氏。定ニ尾張一。西攻ニ齋藤氏於美濃一。踰ニ洲股河一用ㇾ兵。數不ㇾ得ㇾ志。因會ニ諸將一謀下築ニ壘于河西一。以ニ一將一守上ㇾ之。諸將人人自危。莫ニ敢當者一。信長密謀ニ之藤吉一。

信長、已に今川氏に克ちて、尾張を定め、西齋藤氏を美濃に攻む。洲股河を踰えて兵を用ひ、數〻志を得ず。因りて諸將を會し、壘を河西に築き、一將を以て之を守らしめんと謀る。諸將人人自ら危み、敢て當る者莫し。信長密かに之を藤吉に謀る。藤吉對へて曰く、孤壘(一)、敵地に斗入(二)す、我が兵必ず往くを欲せざらん。卽し往くも、其地形の險易(三)を諳んぜず、一敗せば復た往く者莫からん。其土人に因りて之を用ふるに若かず。臣嘗て美濃に寓し、其豪俠大盗(四)と相識る。宜しく誘ひて我が用を爲さしむべしと。因りて指を屈して其姓名を擧ぐるに、蜂須

藤吉對曰。孤壘斗入ニ敵地一。我兵必不レ欲レ往。卽往。不レ諳ニ其地形險易一。一敗莫ニ復往者一。不レ若ト因ニ其士人一用ヰ之。臣嘗寓ニ美濃一。與ニ其豪俠大盜一相識。宜三誘爲ニ我用一。因屈レ指擧ニ其姓名一。得ニ蜂須賀小六。稻田大炊。梶原隼人。青山新七以下六十餘人一。其黨屬千二百人。信長曰。吾亦聞レ有ニ此輩一矣。誰將レ此者。曰。臣願當レ之。信長許レ之。

賀小六・稻田大炊・梶原隼人・青山新七以下六十餘人を得たり。其黨屬千二百人あり。信長曰く、吾も亦此輩ありと聞く。誰か此を將ゐる者ぞと。曰く、臣願はくは之に當らんと。信長之を許す。

(一) 進みて守備となる者なし (二) 援兵なき壘にして敵地につき入る (三) をことだて

九年。九月。發レ卒築レ壘。敵將守ニ近邑一者。以ニ八千人一出而沮レ之。我兵且戰且築。數日而成。於レ是授ニ藤吉一以ニ甲士

九年九月、卒を發して壘を築く。敵將の近邑を守る者、八千人を以て出でて之を沮む。我が兵且つ戰ひ且つ築く。數日にして成る。是に於て藤吉に授くるに甲士五百を以てし、戒めて之を遣る。藤吉乃ち識る所の者を招來す。壘兵凡そ三千可なり。敵誘出して之を陷れんと欲し、輕卒を以て戰を(三)挑む。藤吉肯て出でず。卽夜、其衆を聚め、議して曰く、敵必ず疲れたらん。且つ我を以て怯と爲

五百。戒而遣レ之。藤吉乃招ニ聚所レ識者。壘兵凡可ニ三千。敵欲ニ誘出而陷レ之。以ニ輕卒一挑レ戰。藤吉不ニ肯出。卽夜。聚ニ其衆。議曰。敵必疲矣。且以レ我爲レ怯。不ニ復設レ備。可ニ襲而破一也。乃令下小六等。以ニ數十人一襲中敵城上。戒曰。莫レ使三敵尾ニ入我壘。大炊曰。公勿レ憂。開レ門可三容ニ二三人一以待レ之。臣請殿レ焉。藤吉曰。前言以ニ主公意一耳。不レ行ニ危道。莫三以爲ニ大功。自固而棄レ士。吾所レ不レ爲也。公等勉レ之。衆踊躍而出。頃レ之。邑中火起。大囂。藤吉又遣レ兵援レ之。衆大獲而至。乃效三首虜於ニ信長。信長賜ニ藤吉一旗。就ニ壘傍一賜ニ三千貫。命レ名曰ニ秀吉。

し、復た備を設けざらん。襲ひて破るべきなりと。乃ち小六等をして、數十人を以て敵城を襲はしむ。戒めて曰く、敵をして我が壘に尾入(二)せしむること莫かれと。大炊曰く、公憂ふる勿れ。門を開き二三人を容るべくして以て之を待て。臣請ふ、焉に殿せんと。藤吉曰く、前言(三)は主公の意を以てするのみ。危道を行かずんば、以て大功を爲す莫けん。自ら固くして士を棄つるは、吾れ爲さざる所なり。公等之を勉めよと。衆、踊躍(四)して出づ。之を頃くして、邑中火起り、大に囂し。藤吉、又兵を遣して之を援く。衆大に獲て至る。乃ち首虜(五)を信長に效す。信長、藤吉に一旗を賜ひ、壘傍に就きて三千貫を賜ふ。名を命じて秀吉と曰ふ。

(一) 招きあつむ　(二) 跡をつけて攻め入る　(三) 以前の言は信長の意志によつて言へるのみ　(四) をどりあがる
(五) 敵首と捕虜と

美濃豪傑大澤某。據宇留間城。爲信長所患。秀吉以計降之。攜謁信長。信長大喜。其夜。密召秀吉曰。大澤叛服不可必。不若速殺之。對曰。叛則誅之耳。今而殺之。無復來者。不聽。秀吉歸舍。不佩刀。而召大澤曰。吾於子之身。有所不安。子第速亡。吾爲子留爲質。大澤乃亡去。諸豪傑聞之。多願屬秀吉。竹中重治者。好奇計。從齋藤氏。不見遇。亦來屬焉。

美濃の豪傑大澤某、宇留間城に據る。信長の患ふる所たり。秀吉、計を以て之を降し、攜へて信長に謁す。信長、大に喜び、其夜、密かに秀吉を召して曰く、大澤は叛服(一)必す可からず。速かに之を殺すに若かずと。對へて曰く、叛かば則ち之を誅せんのみ。今にして之を殺さば、復た來る者なからんと。聽かず。秀吉、舍に歸り、刀を佩びずして、大澤を召して曰く、吾れ子の身に於て、安んぜざる所(二)有り。子、第速かに亡げよ。吾れ子の爲に留りて質と爲らんと。大澤乃ち亡げ去る。諸豪傑、之を聞きて、多く秀吉に屬せんと願ふ。竹中重治といふ者、奇計(三)を好む。齋藤氏に從ひて遇せられず。亦來り屬す。

(一) 叛くか服從するかあてにならぬ　(二) 君の身上を引受け兼ぬる狀態なり　(三) 並々ならぬ謀計

十一年。從二信長一。擊二六角義賢一。爲二先鋒一。與二諸將一攻二箕作城一。拔レ之。信長擁二立將軍足利義昭于二京師一。三好氏兵屢犯レ之。十二年。義昭謂二信長一曰。爲レ吾置二一將智勇兼備者一。以鎭二京師一。信長曰。諾。將二擇以進一。衆意擬二柴田勝家丹羽長秀佐久間信盛三人一。至二命發一。則木下藤吉也。衆大驚。秀吉既拜レ命。卽日。詣二足利氏一面二謁義昭一。裁二決京師事一。無レ不二立辨一。三好氏不二敢犯一。衆妬レ之。譖二其自用太過一。信長斥不レ納。尋修二大內一。以二秀吉及村井貞勝一。監レ工焉。八月。從擊二伊勢一。攻二淺香城一。先登。

十一年、信長に從ひて、六角義賢を擊ち、先鋒と爲り、諸將と箕作城を攻めて、之を拔く。信長、將軍足利義昭を京師に擁立す（一）。三好氏の兵、屢〻之を犯す。十二年、義昭、信長に謂ひて曰く、吾が爲に一將の智勇兼備（二）の者を置きて、以て京師を鎭せよと。信長曰く、諾と。將に擇びて以て進めんとす。衆、意に柴田勝家・丹羽長秀・佐久間信盛の三人を擬す。命發（三）するに至れば、則ち木下藤吉なり。衆、大に驚く。秀吉、既に命を拜し、卽日足利氏に詣りて義昭に面謁す。京師の事を裁決するに、立ちどころに（四）辨ぜざる無し。三好氏敢て犯さず。衆、之を妬み、其自用太だ過ぐるを譖す。信長斥けて納れず。尋ぎて大内を修む。秀吉及び村井貞勝を以て、工を監せしむ。八月、從ひて伊勢を擊ち、淺香城を攻めて、先登す。

（一）推戴して將軍となす　（二）智勇を兼ねたる大將　（三）命令が下る　（四）直樣悉く處置す

元龜元年。四月。從擊二朝倉義景于二越前一。爲二先鋒一。拔二手筒城一。會二淺井長政發レ兵斷レ後、信長欲レ班レ軍。恐二義景尾擊一。曰。誰留拒二義景一者。衆不二敢答一。秀吉進曰。願命レ臣。乃以二三千人一留。當二義景一。義景不二肯出一。遂引レ兵而西。參河國主德川公。以二客將一殿二信長軍一。秀吉與レ之合レ兵。行擊二

元龜元年四月、從ひて朝倉義景を越前に擊ち、先鋒と爲りて、手筒城を拔く。淺井長政、兵を發して後を斷つに會ふ。信長、軍を班さんと欲すれども、義景の尾擊せんことを恐る。曰く、誰か留りて義景を拒ぐ者ぞと。衆敢て答へず。秀吉進みて曰く、願はくは臣に命ぜよと。乃ち三千人を以て、留りて義景に當る。義景肯て出でず。遂に兵を引きて西す。參河の國主德川公、客將を以て信長の軍に殿たり。秀吉、之と兵を合せて、行々土寇を擊ちて京師に達す。功を以て愛知川の三萬石を食む。木村・生駒・前野の諸人、之に屬す。六月、從ひて淺井・朝倉二氏を姉川に擊ち、因りて橫山を守る。九月、淺井長政・朝倉義景、兵を合せて、信長を大津に圍む。秀吉赴き援け、圍解けて歸る。二年五月、淺井長政兵を發して、鎌羽城を攻む。城は橫山を距ること頗る遠し。秀吉輕兵を以て馳せて山背を過り、旗を城後に立つ。敵驚きて潰走す。八月、從ひて淺井氏の山本城を攻む。三年七月、又之を攻む。朝倉義景來り救ふ。逆擊して之を破る。

土寇。逐ㇾ于京師。以ㇾ功食二愛智川三萬石一。木村生駒前野諸人屬ㇾ之。六月。從擊三淺井朝倉二氏于二姉川一。因守二横山一。九月。淺井長政朝倉義景合ㇾ兵圍三信長于二大津一。秀吉赴援。圍解而歸。二年。五月。淺井長政發ㇾ兵。攻二鎌羽城一。城距二横山一頗遠。秀吉以二輕兵一馳遶二山背一。立三旗於二城後一。敵驚潰走。八月。從攻二淺井氏山本城一。三年。七月。又攻ㇾ之。朝倉義景來救。逆擊破ㇾ之。

㈠後方を斷ち切る　㈡しんがりしたり　㈢近江間に在り　㈣くづれ走る

天正元年。以二信長命一。廢二將軍義昭一。徙二之若江一。淀城爲二義昭一守不ㇾ下。往說降ㇾ之。八月。朝倉氏滅。秀吉攻拔二小谷一。獲二淺井長政父子一。秀吉拒二二氏一有ㇾ年。使下信長無二北顧之憂一。得中以

天正元年、信長の命を以て、將軍義昭を廢し、之を若江に徙す。淀城、義昭の爲に守つて、下らず。往きて說きて之を降す。八月朝倉氏滅ぶ。秀吉攻めて小谷を拔きて、淺井長政父子を獲たり。秀吉、二氏を拒ぐこと年有り。信長をして北顧㈠の憂なく、以て畿内を經營するを得しむ。功を以て淺井氏の故地十八萬石を食む㈡。明年、長濱に城きて居る。三年五月、信長、德川氏を援けて、武田勝頼と長篠に戰ふ。秀吉、左先鋒と爲りて、功あり。八月、朝倉の餘黨、大に越前に起る。信長之を攻めて、敦賀に至る。秀吉、命を受けて、舟師を以て遶りて敵の後に出で、岸に上りて舟を毀ち、河野を襲ひて之を取り、遂に龍門㈢を拔く。諸城皆潰ゆ。

經乙營畿內甲。以レ功食二淺井氏故地十八萬石一。明年。城二于長濱一。居焉。三年。五月。信長援二德川氏一。與二武田勝賴一戰二于長篠一。秀吉爲二左先鋒一。有レ功。八月。朝倉餘黨大起二越前一。信長攻レ之。至二敦賀一。秀吉受レ命。以二舟師一遠出二敵後一。上レ岸毀レ舟。襲二河野一取レ之。遂拔二龍門一。諸城皆潰。是歲。除二筑前守一。更二氏羽柴一。

是の歳、筑前守に除せられ、氏を羽柴と更む。

(一) 北方の心配なく (二) もとの領地 (三) 越前國に在り

秀吉以レ桐爲レ號。以二金瓢一爲二馬表一。每二一捷一加二一瓢一。曰。吾必積至レ千矣。因稱二千瓢一。織田氏之出レ軍也。桐號瓢表。敵望而避レ之。前後加レ封。總二十二萬石。秀吉私與二其謀臣一議曰。主

秀吉、桐を以て號と爲し、金瓢を以て馬表と爲す。(一)一捷毎に一瓢を加ふ。曰く、吾れ必ず積みて千に至らしめんと。因りて千瓢と稱す。織田氏の軍を出すや、桐號瓢表は、敵望みて之を避く。前後、封を加へられて、總て二十二萬石となれり。秀吉、私かに其謀臣と議して曰く、主公は、(二)外優裕にして内猜吝なり。吾れ大封を受けば、必ず(三)終を保つこと能はじと。因りて從容として信長に白して曰く、臣敢て請ふ、二郎を養ひて子と爲し、之に讓るに臣の祿を以てせんと。信長喜び、因りて問ひて曰く、汝の祿は如何と。曰く、君、臣に西征を命ぜば、西國の二三州は、(四)日を指して取るべし。取らば輒ち君に獻じ、臣は其餘を請は

公外優裕而內猜吝。吾受ニ大封ー。必不レ能レ保レ終。因從容自ニ信長ー曰。臣敢請養ニ二郎ー爲レ子。讓レ之以ニ臣祿ー。信長喜。因問曰。汝祿如何。曰。君命ニ臣西征ー者。西國二三州。可ニ指レ日而取ー。取輒獻レ君。臣請ニ其餘ー耳。信長乃以ニ其少子秀勝ー。爲ニ秀吉義子ー。

んのみと。信長乃ち其少子秀勝を以て、秀吉の義子と爲す。

㈠馬印　㈡うはべはゆつたりして居つて心の內はそねみやぶさかなり　㈢生涯安泰なること能はず　㈣何日と日限を定めて攻取ることを得

當ニ是時ー。毛利輝元割ニ據山陽山陰十餘州ー。浮田直家以ニ備前美作ー附レ之。播磨人赤松義祐。別所長治。小寺政職等。恐レ被ニ其兵ー。送ニ款於ニ織田氏ー。政職使者黑田孝

是の時に當りて、毛利輝元、山陽・山陰十餘州に割據し、浮田直家、備前・美作を以て之に附く。播磨の人赤松義祐・別所長治・小寺政職(一)等、其兵を被るを恐れて、款を織田氏に送る。政職の使者黑田孝高器(二)略有り。秀吉に因りて毛利氏の撃つべき狀を說きて曰く、臣請ふ、之が鄕導(三)を爲さんと。秀吉、具に之を信長に語る。信長、終に意を決して西征す。五年、秀吉を以て征西大將と爲し、播磨を取り以て自ら封とせしむ。十月、秀吉入りて辭す。信長、授くるに記幟(四)を以てし、曰く、功成らば、則ち中國(五)を擧げて汝に予へん。汝遂に進みて九州を取れ。

高有二器略一。因二秀吉一說二毛利氏可レ擊狀一。曰。臣請爲二之鄉導一。秀吉具語二之信長一。信長終決レ意西征。五年。以二秀吉一爲二征西大將一。使下取二播磨一以自封上。十月。秀吉入辭二信長一。授以二記幟一。曰。功成。則擧二中國一予レ汝。汝遂進取二九州一。若二其援師一。當二依レ請遣一レ之。秀吉拜而對曰。君不レ以二臣鄙陋一。

其援師の若きは、當に請に依りて之を遣すべしと。秀吉、拜して對へて曰く、君臣が(六)鄙陋を以てせず、勳舊の諸將を舍きて、大任を臣に命ず。臣敢て力を竭さざらんや。臣、記幟の貺を辱くす。是れ君、臣をして專制(七)を得しむるなり。叛くを討ち服するを撫で、機に臨み變を制して、以て中國を定めんこと、臣の度内(八)に在るのみ。君の近臣森・矢部・福富の諸人、功を積み勞を累ぬれども、未だ報ずる所あらず。中國已に定らば、願はくは以て此輩を封ぜよ。臣は則ち直に進み、勢に乘じて遂に九州を下さん。九州下らば、則ち願はくは其一歲の入(九)を賜へ。糧仗を蓄へ、舟艦を造り、海を濟りて朝鮮に入らん。君、臣の功を賞せんと欲せば、願はくは朝鮮を以て請ふことを爲さん。臣乃ち朝鮮の兵を用ひて、以て明に入らん。庶幾はくは君の威靈(一〇)に倚りて、明國を席卷(一一)し、三國を合せて一と爲さん。是れ臣の宿志(一二)なりと。信長笑ひて曰く、秀吉又復た大言するかと。遂に便宜事に從ふを許す。

令ニ勤沓諸將一。而命ニ大任於一レ臣。臣敢不レ竭レ力。臣辱ニ記職之睨一。是君使三臣得ニ專制一也。討レ叛撫レ服。臨レ機制レ變。以定ニ中國一。在ニ臣度内一耳。君之近臣森矢部福富諸人。積レ功累レ勞。未レ有レ所レ報。中國已定。願以封ニ此輩一。臣則直進。乘レ勢遂下ニ九州一。九州下。則願賜ニ其一歳之入一。蓄ニ糧仗一。造ニ舟艦一。濟レ海入ニ朝鮮一。君欲レ賞ニ臣功一。願以ニ朝鮮一爲レ請。臣乃用ニ朝鮮之兵一。以入レ於レ明。庶幾倚ニ君威靈一。席ニ卷明國一。合ニ三國一爲レ一。是臣之宿志也。信長笑曰。秀吉又復大言乎。遂許ニ便宜從一レ事。

㊀ 一方に立てこもる ㊁ 器量才略あり ㊂ 道案内をせん ㊃ 旗じるし ㊄ 殘らず汝に與へん ㊅ いやしきこと ㊆ 隨意に事をとりさばくことを許さる ㊇ 計謀の中 ㊈ 一歳の收入全部を賜へ ㊉ 威光 一一 席を卷くが如く一氣に盡く取り 一二 もとよりて心なり

於レ是秀吉將ニ兵數千一。入ニ播磨一。至ニ于御著一。政職中悔。走歸ニ毛利氏一。黑田孝高與ニ其父宗圓一居ニ姬路一。迎說ニ秀吉一曰。臣所レ居形勝之地也。君

是に於て、秀吉、兵數千を將ゐて、播磨に入り、御著に至る。政職、中ごろ悔いて、走りて毛利氏に歸す。黑田孝高、其父宗圓と姬路に居る。迎へて秀吉に說きて曰く、臣の居る所は形勝(一)の地なり。君宜しく據りて根本と爲し、西面して以て毛利氏を圖るべしと。秀吉、之に從ふ。孝高に予ふるに宍粟郡を以てす。十一月、秀吉、兵に將として、佐用を攻めて、之を拔き、進みて上月を取る。浮田直家、岡山に在り、兵を發して來り援く。孝高逆へ戰ふ。秀吉赴き援け、隊將堀尾吉晴

宜下據爲二根本一西面以圖中毛利氏上。秀吉從レ之。予二孝高一以二宍粟郡一。十一月。秀吉將レ兵。攻二佐用一。拔レ之。進取二上月一。浮田直家在二岡山一。發レ兵來援。孝高逆戰。秀吉赴援。令二隊將堀尾吉晴進擊一。我兵少卻。秀吉自レ後呼曰。今日始與二中國兒一戰。勿レ貽二濃尾之羞一。我兵奮前。擊走二直家兵一。遂拔二上月一而還。已而直家襲而復レ之。六年。正月。秀吉大城二姬路一。故出雲國王尼子勝久以レ兵來屬。取二上月一。以レ乏レ糧退還。城復爲二直家有一。二月。秀吉赴攻。盡焚二殺其兵一。以レ城予二勝久一。

をして進撃(二)せしむ。我が兵少しく卻く。秀吉、後より呼びて曰く、今日始めて中(三)國兒と戰ふ。濃美の羞を貽す勿れと。我が兵、奮前し、撃ちて直家の兵を走らせ、遂に上月を拔きて還る。已にして直家、襲ひて之を復す。六年正月、秀吉、大に姬路に城く。故の出雲の國主尼子勝久、兵を以て來屬(四)し、上月を取る。糧に乏しきを以て退き還る。城、復た直家の有と爲る。二月、秀吉赴き攻めて、盡く其兵を焚殺(五)し、城を以て勝久に予ふ。

(一) 形勢の勝れたる地なり　(二) 進み撃つ　(三) 中國の男兒　(四) 來り從ふ　(五) 燒きころす

三月。別所長治叛。附二毛利氏一。聚二族黨八

三月、別所長治叛きて、毛利氏に附き、族黨(一)八千を聚めて、三木城に據る。城甚だ險にして、野口・志方・神吉・櫛橋等の諸寨(二)、皆之に應ず。秀吉、(三)地圖を按じ、

于。據二三木城一。城甚險。而野口志方神吉櫛橋等諸寨皆應レ之。秀吉按二地圖一。議曰。彼欲下俟三我攻二三木一而襲中其後上也。吾當下反二其計一以制上レ勝矣。乃攻二野口一。下レ之。四月。毛利氏族將吉川元春。小早川隆景。與二直家一合二兵七萬一。攻二上月一。秀吉留レ兵備二三木一。而自赴援レ之。陣二于高倉山一。信長使二攝津守荒木村重等來助一。五月。更遣二其三子信忠信雄信孝一來援。相持不レ戰。秀吉以爲敵兵衆食足。未レ可レ勝。即勝。非二吾功一也。乃請二信長一班レ軍。陣二于書寫山一。攻拔二神吉志方一。

議して曰く、彼れ我の三木を攻むるを俟ちて、其後を襲はんと欲するなり。吾れ當に其計に反して以て勝を制すべしと。乃ち野口を攻めて之を下す。四月、毛利氏の族將吉川元春・小早川隆景、直家と兵七萬を合せて、上月を攻む。秀吉、兵を留め三木に備へて、自ら赴きて之を援ひ、高倉山に陣す。信長、攝津守荒木村重等を遣して來り援けしむ。五月、更に其三子信忠・信雄・信孝を遣して來り援けしむ。相持して戰はず。秀吉以爲へらく、敵は兵衆く食足る。(三)未だ勝つ可からず。即ち勝つも、吾が功に非ざるなりと。乃ち信長に請ひて軍を班し、書寫山に陣し、攻めて神吉・志方を拔く。

(一) 一族及び徒黨の者　(二) 地圖をしらべ　(三) 兵粮十分なり

八月。秀吉將二二萬人一。攻二三木一。直家知二秀吉終不レ可レ抗。欲レ送レ款焉。會界港藥商子小西彌九郎者。養二於岡山賈人一。其生父老二於京師一。秀吉微時。數館二其家一。與二彌九郎一親善。直家因用充二使者一。赴二三木一。秀吉爲請二信長一。許レ之。伯耆國主南條元續亦以レ國降。而荒木村重爲二明

八月、秀吉、二萬人を將ゐて、三木を攻む。直家、秀吉の終に抗すべからざるを知り、款(一)を送らんと欲す。會〻界港の藥商の子小西彌九郎(二)といふ者、岡山の賈人(三)に養はる。其生父は京師に老す。秀吉の微(四)なりし時、數〻其家に館し、彌九郎と親善なり。直家、因りて用ひて使者に充て、三木に赴かしむ。秀吉、爲に信長に請ひて、之を許す。伯耆の國主南條元續も亦國を以て降る。而して荒木村重は、明智光秀の讒する所と爲りて、罪を得、叛きて毛利氏に應ず。十一月、信長自ら將として村重を討つ。秀吉往きて信長に見えて曰く、臣は村重の叛く者に非ざるを識る。是れ必ず故(五)あらん。臣請ふ、說きて之を降さんと。乃ち輕裝して伊丹に赴き、村重に面諭(七)す。村重、謝して曰く、織田公、豈に終に我に釋然(八)たらんやと。秀吉泣きて、別れて出づ。伊丹の人、之を殺さんと請ふ。村重曰く、彼れ背て輕身此に來る。之を殺すは不義なりと。秀吉、更に黑田孝高を遣して之を說かしむ。村重、之を囚ふ。孝高屈せず。秀吉乃ち三木に歸り、戰を休め、長

智光秀所ㇾ譏。得ㇾ罪。叛。應ニ毛利氏一。十一月。信長自將討ニ村重一。秀吉往見ニ信長一曰。臣識ニ村重非ニ叛者一也。是必有ㇾ故。臣請說降ㇾ之。乃輕裝赴ニ伊丹一。面ニ諭村重一。村重謝曰。織田公豈終釋ニ然於ㇾ我哉。秀吉泣。別而出。伊丹人請ㇾ殺ㇾ之。村重曰。彼背輕身來ㇾ此。殺ㇾ之。不義。秀吉更遣ニ黑田孝高一說ㇾ之。村重囚ㇾ之。孝高不ㇾ屈。秀吉乃歸ニ三木一。休ㇾ戰。築ニ長圍一困ㇾ之。長治與ニ村重一通。自ニ間道一潛出。城ニ于淡河丹生一。互爲ニ應援一。

圍を築きて之を困しむ。長治、村重と通じ、間道より潛かに出で、淡河(九)・丹生(一〇)に城きて、互に應援を爲す。

(一) はりあふこと能はざるを知り (二) 和親せんと欲す (三) 商人 (四) 微賤 (五) 理由あらん (六) 身輕の出立 (七) 面會して諭す (八) 心からの親睦を得んや (九) 播磨國に在り (一〇) 攝津の國に在り

七年。正月。長治出襲ニ秀吉一。秀吉與ニ異父弟秀長一。逆擊大破ㇾ之。斬ニ其銳兵八百一。二月。秀吉以ニ風雨夜一襲ニ取丹

七年正月、長治出でて秀吉を襲ふ。秀吉、異父弟(一)秀長と、逆擊して大に之を破り、其銳兵(二)八百を斬る。二月、秀吉、風雨の夜を以て、襲ひて丹生を取り、秀長をして五百騎を以て淡河を攻めしむ。利あらず。守將も亦收めて三木に入る。乃ち加藤光泰に命じ、寨を築きて以て其糧道を絕たしむ。九月、村重、伊丹を棄てて走りて、華隈(三)を保つ。孝高乃ち歸るを得たり。是より先、竹中重治死す。孝高獨り

生一。使下秀長以二五百騎一攻中淡河上。不レ利。守將亦收入二三木一。乃命二加藤光泰一。築レ寨以絕二其糧道一。九月。村重棄二伊丹一走。保二華隈一。孝高乃得レ歸。先レ是。竹中重治死。孝高獨爲二謀主一。村重與二長治一。皆告二急於二毛利氏一。毛利氏不レ能レ援。獨送二糧食一。襲破二平田寨一。長治引レ兵出取二其糧一。秀吉以二麾下一邀三擊于二大村一。近士脇坂安治。斬二敵驍將魚住源吾一。秀吉因大破レ之。獲二別所氏族十人一。徙レ壘逼レ城。八年。春。遂陷レ之。使二長治自殺一。以免二城兵一。於レ是盡定二播磨一。乃令下浮田直家以二備前美作兵一西圖中毛利氏上城レ于二兒島一。小早川隆景數攻レ之。乃遣二淺野長政一。率二舟師一赴援。擊走レ之。

謀主たり。村重、長治と、皆急を毛利氏に告ぐ。毛利氏援ふ能はず。獨り糧食を送る。襲ひて平田の寨を破る。長治、兵を引きて出でて其糧を取る。秀吉、麾下を以て、大村に邀へ擊つ。近士脇坂安治、敵の(四)驍將魚住源吾を斬る。秀吉因りて大に之を破り、別所氏の族十人を獲、壘を徙して城に逼る。八年春、遂に之を陷れ、長治をして自殺せしめて、以て城兵を免れしむ。是に於て、盡く播磨を定む。乃ち浮田直家をして、備前・美作の兵を以て、西毛利氏を圖らしめ、兒島に城かしむ。小早川隆景、數〻之を攻む。乃ち淺野長政を遣し、(五)舟師を率ゐて赴き援けしめ、擊ちて之を走らす。

(一) 腹がはりの弟　(二) 強き兵　(三) 攝津國に在り　(四) つよき大將　(五) 海軍

時山名氏據二但馬因幡一。屬二毛利氏一。於レ是秀吉自將。擊三山名祐豐于二但馬一。攻二竹田城一。四月。擊三山名豐國于二因幡一。因幡質子在二鹿野城一。秀吉攻而取レ之。七月再入二但馬一。拔二諸城一。山名祐豐以二出石城一降。遂定二但馬一。再入二因幡一。至二鳥取城一。縛三所レ取質子於城外一。諭降レ之。豐國乃出

時に山名氏、但馬・因幡に據りて、毛利氏に屬す。是に於て、秀吉自ら將として、山名祐豐を但馬に擊ち、竹田城を攻む。四月、山名豐國を因幡に擊つ。因幡の質子(一)、鹿野城に在り。秀吉攻めて之を取る。七月、再び但馬に入りて、諸城を拔く、山名祐豐、出石城(二)を以て降る。遂に但馬を定め、再び因幡に入りて、鳥取城に至り、取る所の質子を城外に縛し、諭して之を降す。豐國乃ち出でて降る。而して城兵未だ下らず。乃ち兵を引きて還る。九年春、海賈(三)をして金數千兩を齎して、因幡に赴きて粟を索め、價を倍して之を糴せしむ(四)。因幡の人、大に喜び、爭ひて糶す(五)。七月、秀吉乃ち兵五萬を以て鳥取を攻め、秀長をして丸山を攻めしむ。二城、食乏し。我が兵牙(六)加藤清正等、日夜、攻擊す。清正は、杉原氏の戚屬なり(七)。襁褓(八)にして父母を喪ひ、秀吉の妻、取りて之を育す。是の役、甫めて十八なり。城兵と戰ひ、多く首級を獲たり。十月、吉川元春、兵を發して來り救ふ。未だ至らずして城陷る。秀吉進みて伯耆に入り、南條元續を助け、鵠(九)

降。而城兵未レ下。乃引レ兵還。九年。春。令下海賈齎二金數千兩一。赴二因幡一索レ粟。倍レ償糴ち之。因幡人大喜。爭糶。七月。秀吉乃以二兵五萬一攻二鳥取一。使三秀長攻二丸山一。二城食乏。我牙兵加藤清正等。日夜攻擊。清正杉原氏戚屬也。襁褓喪二父母一。秀吉妻取育レ之。是役。甫十八。與二城兵一戰。多獲二首級一。十月。吉川元春發レ兵來救。未レ至而城陷。秀吉進入二伯耆一。助二南條元續一。軍二于鵠山一。與二元春一相持。天已寒。定二因幡一。使二降將宮部繼潤守一レ之而還。

山に軍して、元春と相持す。天已に寒し。因幡を定めて、降將宮部繼潤をして之を守らしめて還る。

(一)人質の子　(二)但馬國にあり　(三)海上の商人　(四)穀を買入る　(五)穀物を賣出す　(六)大將の親兵　(七)妻の緣つゞき　(八)嬰兒のをり　(九)伯耆國に在り

秀吉以二五歲一定二五國一。十二月。赴二安土一。即夜。謁二信長一。信長呼而前レ之。撫二其面一曰。汝面目非二復昔日藤吉一。明日

秀吉、五歲を以て五國を定む。十二月、安土に赴きて、卽夜、信長に謁す(一)。信長呼びて之を前め、其面を撫して曰く、汝の面目、復た昔日の藤吉に非ず。明日、我れ且に客禮を以て汝を饗せんとすと。旦日(二)、秀吉、寶刀一、鞍馬百(三)、土物五千を獻ず。布旅(四)して地を蔽ふ。信長、城樓より之を視て、欣然として左右に謂ひて曰く、此れ大膽藤吉(五)の獻ずる所の者かと。饗して之を遺る。十年正月、直家病

我且下以二客禮一饗上汝矣。且日。秀吉獻二寶刀一。鞍馬百。土物五千。布二旅敝地一。信長自二城樓一視レ之。欣然謂二左右一曰。此大膽藤吉所レ獻者乎。饗而遣レ之。十年。正月。直家病卒。秀吉爲請レ立二其子秀家一。

みて卒す。秀吉、爲に請ひて其子秀家を立つ。

(一) めみえす　(二) あくる日　(三) 土地の產物　(四) 並べたゝ地面一杯になる　(五) きもぶと

宮部繼潤使三人來告二吉川元春欲レ攻二鳥取一。秀吉曰。彼攻二之於レ北。吾將レ救二之於レ南也。乃引レ兵入二淡路一。二十日。定レ之。四月。將二六萬人一入二備中一。攻二宮地一下レ之。遂攻二冠山一。加藤清正先

宮部繼潤、人をして來りて、吉川元春、鳥取(一)を攻めんと欲すと告げしむ。秀吉曰く、彼れ之を北より攻む。吾れ將に之を南より救はんとすと。乃ち兵を引きて淡路に入り、二十日にして之を定む。四月、六萬人を將ゐて、備中に入り、宮地を攻めて、之を下し、遂に冠山を攻む。加藤清正先登す。浮田氏の兵、之に繼ぐ。冠山の兵、盡く高松城に走る。秀吉隨ひて城を圍む。城傍、平田にして池沼多し。而して甲部河其西に在り。秀吉山に登り熟視(二)して曰く、是れ灌ぐべきなりと。五月、自ら營を蛙鼻岡に移して、巨防(四)を城南に築き、河水を引き(三)て之に灌ぐ、淺野某をして、舟を以て大礮を載せ、城樓を擊碎(五)せしむ。是に於て、吉川元

登浮田氏兵繼レ之。冠山兵盡走二高松城一。秀吉隨圍レ城。城傍平田多二池沼一。而甲部河在二其西一。秀吉登レ山熟視曰。是可レ灌也。五月。自移三營于二蛙鼻岡一。築三亘防於二城南一。引二河水一灌レ之。使下淺野某以レ舟載二大畷一擊中碎城樓上。於レ是吉川元春乃舍二因幡一而來救。與二小早川隆景一合レ兵。陣レ于二廂山一。輝元在二其後一。秀吉分二二萬人一當レ之。益築レ防使レ峻。城兵結レ櫟而坐。元春隆景數挑レ戰。秀吉固レ壘不レ出。

春乃ち因幡を舍てて來り救ひ、小早川隆景と兵を合せて、廂山に陣す。輝元、其後に在り。秀吉、二萬人を分ちて之に當り、益々防を築きて峻からしむ。城兵、櫟(六)を結びて坐す。元春、隆景、數々戰を挑む。秀吉、壘を固くして出でず。

(一)因幡國に在り　(二)よくみすまして　(三)河水を注ぎて攻むべし　(四)大なる堤防　(五)うちくだく　(六)濠中などに設くる櫓

因謀曰。吾連二取數國一。今又擧二毛利氏一。則功大而身危。不レ若下請二主公於上レ此。而爲中之

因りて謀りて曰く、吾れ數國を連取(一)す。今又毛利氏を擧げば、則ち功大にして身危からん。主公を此に請ひて、之が先鋒と爲るに若かずと。乃ち使を馳せて信長に白して曰く、城陷るは旦夕(二)に在り。而して毛利、大擧して來り援く。請ふ、大旆(三)を出せ。軍を分ちて二と爲し、一は以て城に當り、一は以て援師を擊たば、

先鋒。乃馳レ使白二信長一曰。城陥在二旦夕一。而毛利大擧來援。請出二大旆一。分レ軍爲レ二。一以當レ城。一以撃二援師一。不レ出二一歳一。而中國可レ擧。信長大喜。使三堀秀政先往一。乃命二明智光秀。筒井順慶。池田信輝。中川清秀。高山友祥等一。率二兵三萬五千一。援二秀吉一。而自以二百餘人一入二京師一。館二于本能寺一。將二親繼一レ之也。

一歳を出でずして、中國擧ぐ可しと。信長、大に喜び、堀秀政をして先づ往かしむ。乃ち明智光秀・筒井順慶・池田信輝・中川清秀・高山友祥等に命じて、兵三萬五千を率ゐて、秀吉を援けしむ。而して自ら百餘人を以て京師に入り、本能寺に館す。將に親ら之に繼がんとするなり。(四)

(一)つゞけざまに攻取る　(二)朝か夕かの間近となる　(三)御親征を請ふ　(四)後詰をせんとするなり

初光秀以レ事怨望。至レ是亦不レ欲レ往。信長迫而遣レ之。使下歸二丹波一治レ兵而西上。當二是時一。高松城不レ漸水數尺。東西

初め光秀、事を以て怨望す。是に至りて、亦往くを欲せず。信長迫りて之を遣り、丹波に歸り(一)兵を治めて西せしむ。是の時に當りて、高松城の水に漸されざること數尺にして、東西の軍相去ること百歩可りなり。毛利氏、東軍大擧して且に至らんとするを聞き、遂に使をして和を議せしむ。秀吉未だ之を許さざるなり。六月、人あり京師の使者と稱し、馳せて軍門に入る。秀吉之を覺るに、知る所の

之軍相去可ニ百歩。毛利氏聞ニ東軍大擧且ヒ至。遂使ニ使議ヒ和。秀吉未ニ之許一也。六月。有レ人稱ニ京師使者。馳入ニ軍門。秀吉覽レ之。所レ知宗仁者變報也。曰。光秀反。以ニ丹波兵一攻ニ右府于ニ本能寺。弑レ之。右府者。信長也。秀吉大驚。而未ニ宣言一。明日。率ニ數十騎一。巡ニ視堤防。是日城陷。城將自殺。而毛利氏猶張レ軍不レ去。明日。遣ニ使者一來治前議。秀吉卻レ之曰。當下俟ニ明日一議上レ之。明日。使者復至。秀吉自度事終泄。不レ若ニ自レ我發ヒ之。乃具告ニ使者一以ニ變故一。使ニ返報一曰。事已至レ此。公等猶與レ我和乎。若欲レ擊レ我。則莫ニ今日若一也。公等徐計レ

宗仁といふ者の變(一)を報ずるなり。曰く、光秀反し、丹波の兵を以て、右府を本能寺に攻めて、之を弑すと。右府とは、信長なり。秀吉大に驚く。而れども未だ宣言せず。明日、數十騎を率ゐて、堤防を巡視す。是の日、城は陷り、城將自殺す。而して毛利氏、猶ほ軍を張りて去らず。明日使者を遣し、來りて前議(四)を治めしむ。秀吉、之を卻けて曰く、當に明日を俟ちに之を議すべしと。明日、使者復た至る。秀吉、自ら度る、事終に泄れん。我より之を發するに若かずと。乃ち具に使者に告ぐるに變故(五)を以てし、返り報ぜしめて曰く、事已に此に至る。公等、猶ほ我と和するか。若し我を擊たんと欲せば、則ち今日に若くは莫し。公等、徐に之を計れと。使者返り報ず。

(一) ある事件の爲に恨む (二) 信長の死を報す (三) いひふらす (四) 前の和議をなさしむ (五) 信長の死去

之。使者返報。

輝元大喜。謀レ於二諸將一。諸將皆曰。我與二信長一和。非下與二秀吉一和上。今信長死。彼軍情沮廢。危疑萌起。我乘二是時一掩二擊之一。必獲二秀吉一。是天幸二我家一也。不レ可レ失矣。隆景曰。吾所レ見異レ於レ此。信長之死。非三天幸二我家一。乃幸レ於二秀吉一也。何則應仁以來。七道分離。

輝元大に喜び、諸將に謀る。諸將皆曰く、我信長と和す。秀吉と和するに非ず。今、信長死す。彼の(一)軍情沮廢し、(二)危疑萌起せん。我れ是の時に乘じて之を掩擊せば、必ず秀吉を獲ん。是れ(三)天の我が家に幸するなり。失ふ可からずと。隆景曰く、(四)吾の見る所は此に異なり。信長の死は、天の我が家に幸するに非ず。乃ち秀吉に幸するなり。何となれば則ち應仁以來、七道分離し、爭亂相踵ぎ、今日に至りて極れり。天將に一豪傑を生じて以て(五)天下を掃蕩せんとす。吾れ秀吉の擧動を視るに、是に非ざるを得んや。信長既に死す。其子弟將佐、孰か秀吉の右に出づる者ぞ。夫れ和議、外に發して、變故内に起る。常人をして之に處せしめば、必ず深く其事を祕して、速かに前議を成さん。今、(六)正告して隱さず。吾の(七)從違に任ず。其量豈に測るべけんや。吾れ人をして其陣を候視せしむるに、平日に異ならず。今、之と戰はば、我は曲、彼は直、我を讎とすること必ず深く、(八)敢死

爭亂相踵。至二今日一而極矣。天將下生二一豪傑一以掃中蕩天下上。吾視二秀吉擧動一。得レ非レ是乎。信長既死。其子弟將佐。孰出二秀吉右一者。夫和議發レ於レ外。而變故起レ於レ內。使二常人處一レ之。必深祕二其事一。速成二前議一。今正告不レ隱。任二吾從違一。其量豈可レ測哉。吾使三人候二視其陣一。不レ異二平日一。今與レ之戰。我曲彼直。雖レ我必深。敢死來戰。能保二必獲一レ之乎。苟不レ獲レ之。使二其脫歸一。異日雲蒸龍變。我無二遺類一矣。以レ吾計レ之。莫レ如レ從二前約一。彼遭二際禍難一。多二我不一レ違レ約。必厚遇レ我。功名富貴。將二與レ我共一。是我與レ彼同二慶幸一也。輝元然レ之。乃送レ質成レ和。且弔レ之。於レ是秀吉欲三還討二光秀一。因乞二毛利氏一。假二弓銃各五百。旗三十。騎士一隊一。輝元如二其言一。

して來り戰はば、能く必ず之を獲ることを保せんや。苟も之を獲ずして、其をして脫歸せしめ、異日、雲蒸龍變(九)せば、我れ遺類なからん。吾を以て之を計るに、前約に從ふに若くは莫し。彼れ禍難に遭際(一〇)し、我の約に違はざるを多とせば、必ず厚く我を遇せん。功名富貴、將に我と共にせんとす。是れ我と彼と慶幸を同じくするなりと。輝元、之を然りとし、乃ち質を送りて和を成し、且つ之を弔ふ。是に於て、秀吉、還りて光秀を討ぜんと欲す。因りて毛利氏に乞ひて、弓銃各五百、旗三十、騎士一隊を假る。輝元、其言の如くす(一一)。

(一) 軍勢の心はよみすたる (二) 疑ひ危ぶむ心きざさん (三) 天の我家に幸福を與ふるなり (四) 吾が方は不勝の意見と異なり (五) 天下を一掃除せんとす (六) 通常人をしてこの場合にあらしめば (七) 從ふと從はざると勝手に任かす (八) 死を決して (九) 秀吉位置を高めて雄飛するあらば (一〇) 出遇ふ (一一) 秀吉の請ふまゝにす

秀吉會ニ諸將士ー。垂泣謂レ之曰。吾受ニ右府之恩ー。無ニ物可レ比。汝曹所レ知也。今日致レ死復レ仇。非レ吾而誰。天下之事。在ニ此一擧ー。汝曹共爲レ我勉レ之。乃引レ兵上レ途。兼レ程疾行。至レ於ニ尼崎ー。當ニ是時ー。光秀既弑ニ信長及信忠ー。遂進陷ニ安土ー。收ニ其寶貨ー而西。屯レ于ニ京師ー。施ニ行政令ー。復引レ兵適ニ安

秀吉、諸將士を會し、垂泣して之に謂ひて曰く、吾れ右府の恩を受くる、物の比すべきなきは、汝が輩の知る所なり。今日死を致して(一)仇を復するは、吾に非ずして誰ぞ。天下の事、此一擧に在り。汝が輩、其れ我の爲に之を勉めよと。乃ち兵を引きて途に上り、程を兼ねて(二)疾く行き、尼崎に至る。是の時に當りて、光秀既に信長及び信忠を弑し、遂に進みて安土を陷れ、其寶貨を收めて西し、京師に屯して、政令を施行し、復た兵を引きて安土に適く。織田氏の公族將帥(三)、皆觀望して相仗り(四)、敢て先づ發する莫し。秀吉既に尼崎に至り、哀を發して(五)髮を斷ち(六)形を毀り、人をして周く諸將に告げしめて曰く、明智光秀(七)浩恩を蔑棄し、敢て大(八)逆を行ふ。天地の容れざる所、人神の共に憤る所なり。秀吉、義、光秀と共に天を戴かず。悉く領國の兵を發し、自ら將として此に至る。願はくは諸公と俱に一戰し、必ず豎子を梟して、以て(九)先君の靈を弔せんと。

(一) 信長の恩　(二) 行程を倍して　(三) 織田氏の一族及び大將　(四) 互に人だのみをして　(五) 主君の喪を公表して　(六) 頭髮を切りて姿をやつす　(七) 大恩を輕んじて　(八) 主君を殺す　(九) 信長の靈魂を慰めん

士。織田氏公族將帥。皆觀望相仗。莫二敢先發一。秀吉既至二尼崎一。發レ哀斷レ髮毀レ形。使三人周告二諸將一曰。明智光秀蔑二棄浩恩一。敢行二大逆一。天地所レ不レ容。人神所二共憤一也。秀吉義不下與二光秀一共戴上天。悉發二領國之兵一。自將至レ此。願與二諸公一倶一戰。必梟二豎子一。以弔二先君之靈一。

於レ是諸將帥盡會二尼崎一。初光秀之發レ難也。與二其衆一謀曰。方今柴田勝家當二上杉氏一。瀧川一益當二北條氏一。羽柴秀吉當二毛利氏一。而丹羽長秀佐二信孝一。將レ赴二四國一。我出二空虛之地一。得三以成二大事一。天下不レ足レ圖也。至レ是聞三秀吉在二攝津一。大

是に於て、諸將帥、盡く尼崎に會す。初め光秀の難を發するや、其衆と謀りて曰く、方今柴田勝家は上杉氏に當り、瀧川一益は北條氏に當り、羽柴秀吉は毛利氏に當る。而して丹羽長秀は信孝を佐け、將に四國に赴かんとす。我れ空虛の地に出でば、以て大事を成すを得て、天下(二)は圖るに足らざるなりと。是に至りて、秀吉、攝津に在りと聞きて、大に驚き、其從子光春をして安土を守らしめ、自ら洞嶺(三)に至り、十二日、遂に淀城に入る。秀吉、使を遣して光秀に告げて曰く、明日、山崎に會戰せんと。光秀、之を諾し、乃ち將士を聚む。其將齋藤利三、洞嶺に在り。諫めて曰く、秀吉の大衆新に來り、其鋒甚だ鋭なり。戰はば必ず利なからん。且く之を避け、退きて坂下に入りて、後圖(四)を爲すに如かずと。光秀怒りて曰く、天下、右府を視ること、鬼神の如くなるに、而も吾れ一擊

驚。使三其從子光春守二安土一。而自至二洞嶺一。十二日。遂入二淀城。秀吉遣レ使告二光秀一曰。明日會三戰于二山崎一。光秀諾レ之。乃聚二將士一。其將齋藤利三在二洞嶺一。諌曰。秀吉大衆新來。其鋒甚銳。戰必無レ利。不レ如下且避レ之。退入二坂下一。以爲中後圖上。光秀怒曰。天下視二右府一。如二鬼神一。而吾一擧獲レ之。天下誰能敵レ我。汝速來戰。何畏二藤吉一也。利三不レ得レ已來會。遂以二見兵一萬六千一。分爲二六隊一。夜半。冒レ雨渡二桂川一。至二山崎一。筒井順慶擧二大和兵萬人一軍二洞嶺一。爲二其後援一。黎明。秀吉統二諸將一而至。高山友祥爲二先鋒一。中川清秀。池田信輝。丹羽長秀。織田信孝。以レ次相屬。兵各數千。秀吉自將二騎卒二萬一。居二其後一。已而兩軍皆陣。

して之を獲たり。天下、誰か能く我に敵せん。汝速かに來り戰へ。何ぞ藤吉を畏れんやと。利三、已むを得ずして來り會す。遂に見兵一萬六千を以て、分ちて六隊と爲し、夜半、雨を冒して桂川を渡りて、山崎に至る。筒井順慶、大和の兵萬人を擧げて、洞嶺に軍し、其後援を爲す。(五)黎明、秀吉、諸將を統べて至る。高山友祥、先鋒たり。中川清秀・池田信輝・丹羽長秀・織田信孝、次を以て相屬す。兵各〻數千。秀吉自ら騎卒二萬を將ゐて、其後に居る。已にして兩軍皆陣す。

(一) 他の守備なき土地　(二) 天下をとるは何でもなし　(三) 山城國に在り　(四) 後々のはかりごと　(五) 夜明

秀吉北瞻二天王山一。指謂二左右一曰。今日之戰。使二敵先獲一此。非二吾利一也。言未レ畢。賊旗幟登焉。乃命二堀尾吉晴一往奪レ之。吉晴應レ聲而起。單騎馳赴レ之。則賊兵先上者已千餘人矣。吉晴顧二其兵一能屬者十五六騎。弓銃手二十人。進躡二其後一。賊弓銃在レ前。不レ可レ用。吉晴全兵。與二堀

秀吉、北天王山(一)を瞻て、指して左右に謂ひて曰く、今日の戰、敵をして先づ此を獲しめば、吾が利に非ざるなりと。言未だ畢らざるに、賊の旗幟登る。乃ち堀尾吉晴に命じて往きて之を奪はしむ。吉晴、聲に應じて起ち、單騎(二)馳せて之に赴けば、則ち賊兵先づ上る者已に千餘人なり。吉晴、其兵を顧みるに、能く屬する者十五六騎、弓銃手(三)二十人なり。進みて其後(四)を躡む。賊の弓銃、前に在り。用ふべからず。吉晴の全兵、堀秀政と、皆至り、大に呼びて奮擊す。賊兵遂に山を棄てて走る。吉晴等代りて陣す。友祥、先鋒と爲り、山崎の南門を鎖して、他隊の先進を聽さず。天王山の軍聲起るを聞きて、乃ち門を開きて進み、賊の左陣と大に戰ふ。殺傷相當る。清秀、坂を踰えて進む。賊の左陣進む能はず。信輝も亦、川を濟りて、其右陣を衝き、合擊して大に之を破り、其三將を斬る。洞嶺の軍、勝敗を觀望し、戰はずして走る。秀吉、北ぐるを追ひて、直に光秀に逼る。

(一) 山城國に在り　(二) たゞ一騎　(三) 弓鐵砲方　(四) 其の後より續き至る

秀政一皆至。大呼奮撃。賊兵遂棄レ山走。吉晴等代陣焉。友祥爲二先鋒一。關二山崎南門一。不レ聽二他隊先進一。聞二天王山軍聲起一。乃開門而進。與二賊左陣一大戰。殺傷相當。淸秀踰レ坂而進。賊左陣不レ能レ進。信輝亦濟レ川。衝二其右陣一。合撃大破レ之。斬二其三將一。洞嶺軍觀二望勝敗一。不レ戰而走。秀吉追レ北。直逼二光秀一。

光秀怒。欲二親戰一。比田某叩二其馬一曰。敵鋒不レ可レ犯。請且入二勝龍城一。光秀惶惑曰。勝龍安在。比田騎而前導。我兵充二塞前後一。比田等戰且走。纔得レ達レ城。上レ閣而望。則我兵已圍レ城數重。城兵稍稍散亡。所レ餘

光秀怒りて親ら戰はんと欲す。比田某、其馬を叩へて曰く、敵鋒犯す可からず。請ふ、且く(一)勝龍城に入れと。光秀、(二)惶惑して曰く、勝龍は安かに在ると。比田、騎して前導す。我が兵、前後に(三)充塞す。比田等戰ひ且つ走り、纔かに城に達するを得たり。閣に上りて望めば、則ち我が兵已に城を圍むこと數重なり。城兵稍稍散亡し、餘す所纔かに百人。卽夜、光秀、十餘騎と圍を潰して北に出で馳せて坂下に向ひ、(四)小栗棲に至る。土兵四もに起り、林中より槍を以て其肋を刺す。馬より墜ちて死せり。秀吉既に光秀の軍を破り、信長の屍を(五)灰燼中に收めて之を(六)殯し、進みて園城寺に陣す。光秀の子光慶、龜山に在りと聞き、兵を遣して之を攻めて光慶を斬る。又從子光春安土に在りと聞き、堀秀政をして萬人を

匿百人。卽夜光秀與二十餘騎一潰レ圍北出。馳向二坂下一。至二于小栗棲一。土兵四起。自二林中一。以レ槍刺二其肋一。墜レ馬死。秀吉既破二光秀軍一。收三信長屍于二灰燼中一。殯レ之。進陣二于園城寺一。聞三光秀子光慶在二龜山一。遣レ兵攻レ之。斬二光慶一。又聞三從子光春在二安土一。令下堀秀政將二萬人一伐上レ之。會三光春于二大津一。擊破レ之。光春騎渡二湖水一。入二坂下一。手刃二光秀妻孥一。火レ城自殺。齋藤利三亦被レ捕伏レ誅。而光秀首至。秀吉乃奏二捷朝廷一。徇二光秀首京師一。梟二于本能寺一。去二信長薨日一十有三日矣。遂留。幕二于山崎寶寺一。誅二支黨一。納二降附一。當二是時一。秀吉威震二畿內一。四方兵士。來二聚山崎一者。凡六七萬人。天子嘉二其功一。詔敍二從四位下一。任二右近衞中將一。秀吉辭。不二敢拜一。

將ゐて之を伐たしむ。光春に大津に會し、擊ちて之を破る。光春、騎して湖水を渡り、坂下に入る。手づから光秀の妻孥(七)を刃し、城を火きて自殺す。齋藤利三も亦捕へられて誅に伏す。而して光秀の首至る。秀吉乃ち捷を朝廷に奏し、光秀の首を京師に徇へて、本能寺に梟す。信長の薨ぜし日を去ること十有三日なり。遂に留りて山崎の寶寺に幕し、支黨を誅し、降附を納る。是の時に當りて、秀吉の威、畿內に震ふ。四方の兵士、山崎に來り聚る者凡そ六七萬人なり。天子、其の功を嘉し、詔して、從四位下に敍し、右近衞中將に任ず。秀吉、辭して敢て拜せず。

(一) 山城國に在り　(二) おそれまどふ　(三) みちふさがる　(四) 山城國に在り　(五) 燒跡の灰の中　(六) かりに棺に入れて　(七) 妻子を刺殺し

秀吉以二信長繼嗣未レ定一。與二諸將領一會二于清洲一。議レ事。八月。瀧川一益。柴田勝家。皆引レ兵會焉。議。信雄冒二北畠氏一。信孝冒二神戸氏一。皆信長庶子。不レ宜レ立。乃以二信忠遺命一。立二其長子秀信一。爲レ嗣。居二安土一焉。而信雄攝レ之。柴田丹羽池田氏。與二羽柴氏一。更置二吏于京師一。信雄以下。各

秀吉、信長の繼嗣未だ定らざるを以て、諸將領と清洲に會して、事を議す。八月、瀧川一益・柴田勝家、皆兵を引きて會す。議す、信雄は北畠氏を冒し、信孝は神戸氏を冒す。皆信長の庶子なり(一)。宜しく立つべからずと。乃ち信忠の遺命を以て、其長子秀信を立てて嗣と爲し、安土に居らしむ。而して信雄、之を攝す。柴田・丹羽・池田氏、羽柴氏と更ゝ吏を京師に置く。信雄以下、各ゝ遺地を分ちて之を領す。秀吉、自ら播磨・但馬・因幡・丹波の諸州を略定す。是に至りて、皆其有と爲る。則ち復た分地を受けず。諸將、乃ち浮田秀家及び丹後の國主細川藤孝をして之に附庸せしむ(二)。長濱は秀吉の舊領爲り。勝家、其南出の便地なるを以て之を奪はんとす。勝家の威望諸將に最たり。號して鬼柴田と曰ふ。是の日、踞して酒を飲み、謾言(三)を以て秀吉を挑む。長秀、秀吉の耳に附し、語りて曰く、子、國家を定めんと欲せば、卽ち勝家を斬れと。秀吉哂ひて答へず。

(一) 妾腹の子 (二) 大諸侯に附屬せしむ (三) 無禮なる言を以て秀吉をからかふ

分ニ遣地ー領レ之。秀吉自略ニ定播磨但馬因幡丹波諸州ー。至レ是皆爲ニ其有ー。則不三復受ニ分地ー。諸將乃使三浮田秀家。及丹後國主細川藤孝附ニ庸之ー。長濱爲ニ秀吉舊領ー。勝家以ニ其南出便地ー奪レ之。勝家威望。最ニ於諸將ー。號曰ニ鬼柴田ー。是日。踞而飲レ酒。以ニ譏言ー挑ニ秀吉ー。長秀附ニ秀吉耳ー。語曰。子欲レ定ニ國家ー。即斬ニ勝家ー。秀吉哂而不レ答。

諸將視ニ耳目ー非レ是。促罷ニ其宴ー。信雄歸ニ近江ー。信孝歸ニ美濃ー。勝家歸ニ越前ー。一益歸ニ伊勢ー。長秀歸ニ若狹ー。秀吉與ニ池田信輝ー歸ニ攝津ー。勝家聞三秀吉在ニ長濱ー。不ニ敢北ー。秀吉乃遣ニ義子秀勝ー爲レ質。勝家拉而北行。尋而還レ之。

諸將、耳目(一)の是に非ざるを視て、促して其宴を罷む。信雄は近江に歸り、信孝は美濃に歸り、勝家は越前に歸り、一益は伊勢に歸り、長秀は若狹に歸り、秀吉は池田信輝と攝津に歸る。勝家、秀吉の長濱に在るを聞き、敢て北せず。秀吉、乃ち義子秀勝を遣して質と爲す。勝家拉(二)して北に行き、尋ぎて之を還す。

(一) 聞いたり見たりするに堪へざるを以て　(二) 無理に引立つ

初秀吉自ニ長濱ー徙ニ姬路ー。未レ移ニ其家ー。本能

初め秀吉、長濱より姬路に徙り、未だ其家(一)を移さず。本能寺の變に、阿閉長之・京極高次、長濱を取りて光秀に應ぜんと欲す。家皆亡げて、伊吹山に匿る。長之

寺之變。阿閉長之。京極高次。欲下取二長濱一應中光秀上。家皆亡。匿二於伊吹山一。長之取二其貲財一。從二光秀一戰二山崎一。敗走而死。於レ是秀吉族二長之一。降二高次一。而歸二山崎一。

其貲財(一)を取りて、光秀に從ひ山崎に戰ひて、敗走して死す。是に於て、秀吉、長之を族(二)し、高次を降して、山崎に歸る。

(一)家族　(二)財產　(三)族誅す

十月。詔。敍二從五位下一。任二左近衞少將一。秀吉拜レ命。因請レ追二贈信長爵位一。告二公族諸將一。葬二于大德寺一。無二來會者一。秀吉自爲二喪主一。使下弟秀長率二卒萬人一監中護之上。既而三

十月、詔して、從五位下に敍し、左近衞少將に任ず。秀吉、命を拜し、因りて信長に爵位を追贈せんことを請ひ、公族諸將に告げて、大德寺に葬る、來り會する者無し。秀吉自ら喪主と爲り、弟秀長をして卒萬人を率ゐて、之を監護(一)せしむ。既にして三氏(三)、皆其吏(二)を罷め、一に秀吉に決す。秀吉、又、信雄と心を協せて、以て秀信を佐く。勝家、之を嫉忌(四)す。信孝も亦信雄と權を爭ひて相惡し。是に於て、信孝、遂に勝家・一益及び佐佐成政・氏家行廣・稻葉通朝等と、倶に秀吉、及び信雄を圖り、期を約して並び起らんとす。信雄之を秀吉に謀る。秀吉曰く、越

氏皆罷二其吏一。一決二於秀吉一。秀吉又與二信雄一協レ心。以佐二秀信一。勝家嫉二忌之一。信孝亦與二信雄一爭レ權相惡。於レ是信孝遂與二勝家一益。及佐佐成政。氏家行廣。稻葉通朝等一。俱圖二秀吉及信雄一。約レ期並起。信雄謀二之秀吉一。秀吉曰。越前多レ雪。彼今未レ能レ出レ兵。請及二此時一。伐二美濃一。乃與二池田丹羽筒井細川諸將一。合二五萬人一攻二岐阜一。行廣通朝皆降。信孝佯請レ和。丹羽長秀贊レ之。和成。秀吉乃其取二質子一歸二山崎一。勝家欲二出援一レ之。阻レ雪不レ能レ出。視二冰雪一輒憤怒。乃遣レ人說二長秀一。連レ兵西向。長秀弗レ肯。一益以レ書敎二勝家一曰。不レ若下

前は雪多し。彼れ今未だ兵を出す能はず。請ふ、此時に及びて美濃を伐たんと。乃ち池田・丹羽・筒井・細川の諸將と、五萬人を合せて岐阜を攻む。行廣・通朝皆降る。信孝、佯りて和を請ひ、丹羽長秀、之を贊く。和成る。秀吉、乃ち其質子を取りて、山崎に歸る。勝家、出でて之を援けんと欲すれども、雪に阻てられて出づる能はず。冰雪を視て、輒ち憤怒す。乃ち人を遣して長秀に說き、兵を連ねて西向せんとす。長秀、肯ぜず。一益、書を以て勝家に敎へて曰く、佯り和し、來歲、雪の解くるに及びて、其不意に出で、之を夾み攻むるに若かずと。勝家、之を然りとす。前田利家等の五輩をして、山崎に來らしめ、憾を解き心を協せて、共に幼主を輔けんと請はしむ。秀吉、之を許す。使者還り報ず。

㊀ 施主　㊁ 見張りして守らしむ　㊂ 柴田・丹羽・池田　㊃ にくみいむ

佯和及二來歳雪解一。出二其不意一。夾中攻之上。勝家然レ之。使三前田利家等五輩來二山崎一。請三釋レ憾協レ心共輔二幼主一。秀吉許レ之。使者還報。

勝家兵備稍懈。秀吉既遣二使者一。謂二左右一。曰。彼欲二怠レ我而來襲一焉爾。吾且レ破二其膽一。十一月。引レ兵至二長濱一。勝家義子勝豊守焉。勝豊素與二勝家一有レ隙。秀吉招二降之一。復取二長濱一。益築二城堡一。備二其糧仗一。以拒二越前衝路一。十二月。還。獻二遣秀信及諸將一。遇下勝家所レ親在二京畿一者上。故仇二視之一。

勝家、兵備稍ゝ懈る。秀吉、既に使者を遣して左右に謂ひて曰く、彼れ我を怠らしめて來り襲はんと欲するのみ。吾れ且に其膽を破らんとす(一)と。十一月、兵を引きて長濱に至る。勝家の義子勝豊守る(二)。勝豊、素より勝家と隙あり。秀吉、之を招降して、復た長濱を取り、益ゝ城堡を築き、其糧仗を備へて、以て越前の衝(四)路を拒ぐ。十二月、還り、秀信及び諸將に獻遺す。勝家、親しむ所の京畿に在る者に遇へば、故(三)に之を仇視す。

(一) 膽を取摧がん (二) 守るの下一本に初勝家愛二姪佐久間盛政之强武事任一惡斥二疎勝豊一の二十一字有り (三) 一本に以故とあり (四) 敵の衝來る道

十一年正月朔。歸二姬路一。撫二循士民一。頒レ賞賜レ酬。七日。入二朝京師一。遂至二安土一。議レ及二雪未レ解取二一益一。及二雪已解一圖二勝家一。乃徵二內外將士一。會二于草津一。部二兵七萬一爲二三隊一。三道入二伊勢一。一益在二長島一。分拒二諸城一。秀吉留レ兵備レ之。而進至二桑名一。縱二火城下一。退而爲レ營。誡二其衆一曰。瀧川亦老二

十一年正月朔、姬路に歸り、士民を撫(一)循し、賞を頒ち酬(二)を賜ふ。七日、京師に入朝し、遂に安土に至りて、議す。雪未だ解けざるに及びて一益を取り、雪已に解くるに及びて勝家を圖らんと。乃ち內外の將士を徵して、草津に會せしめ、兵七萬を部して三隊と爲し、三道より伊勢に入らしむ。一益、長島に在り。分ちて諸城を拒ぐ。秀吉、兵を留めて之に備へて、進みて桑名に至り、火を城下に縱ち、退きて營を爲る。其衆を誡めて曰く、瀧川も亦兵に老(三)する者なり。今夜必ず來らんと。一益其下に謂ひて曰く、我れ已に兵を分ち、在る者甚だ寡し。寡を以て衆を擊つは、夜襲に如かずと。卽夜、兵を潛めて秀吉の陣に赴きしが、其の備あるを視て、乃ち去る。閏月、秀吉、攻めて龜山を下し、之を信雄に納む。蒲生氏郷、關萬徹をして嶺城を攻めしむ。嶺城、未だ下らず、勝家之を聞きて、兵を發して南に出づ。二月、佐久間盛政をして步騎二萬を將ゐて、出でて柳瀨に陣せしむ。前田利長先鋒たり。火を關原に縱ちて、退きて(四)木本に陣す。秀吉、乃ち氏郷以下の七

於兵一者。今夜必來。一益謂二其下一曰。我已分レ兵。在者甚寡。以レ寡擊レ衆。不レ如二夜襲一。卽夜潛レ兵赴二秀吉陣一。視二其有レ備。乃去。閏月。

將を留めて、以て一益に當て、而して自ら諸軍を引きて、柳瀨に赴き、自ら老兵十餘騎と山に上り、北軍を望みて曰く、是れ速戰を以て勝つ可からざるなりと。乃ち兵を勒して十三隊と爲し、湖山の形勢に據りて、連珠砦(五)を築きて、而して自ら長濱に屯す。

(一)受撫し　(二)酒食　(三)物馴れたる者　(四)近江国に在り　(五)各砦相連續して珠數の如くなるをいふ

秀吉攻下二龜山一。納二之信雄一。令三蒲生氏鄕關萬徹攻二嶺城一。嶺城未レ下。勝家聞レ之。發レ兵南出。二月。令下佐久間盛政將二步騎二萬一。出陣中柳瀨上。前田利長爲二先鋒一。縱二火關原一。而退陣レ于二木本一。秀吉乃留二氏鄕以下七將一。以當二一益一。而自引二諸軍一。赴二柳瀨一。自與二老兵十餘騎一上レ山。望二北軍一曰。是不レ可下以二速戰一勝上也。乃勒レ兵爲二十三隊一。據二湖山形勢一。築二連珠砦一。而自屯二長濱一。

三月。勝家悉引レ兵至二柳瀨一。我兵堅レ壁不レ出。丹羽長秀來而助レ之。四

三月、勝家悉く兵を引きて柳瀨に至る。我が兵、壁を堅くして出でず。丹羽長秀、來りて之を助く。四月、信孝、復た兵を擧げて、勝家・一益に應ず。其十七日、秀吉、其軍を以て南、信孝を攻めて、大垣に至る。盛政、進みて諸壘を擊たんと欲す。

月。信孝復擧ㇾ兵。應ニ於勝家一益ー。其十七日。秀吉以ニ其軍ー南攻ニ信孝ー。至ニ大垣ー。盛政欲ニ進擊ニ諸壘ー。勝家不ㇾ許。是時。柴田勝豐養ㇾ疾在ニ京師ー。其部下山路將監者叛降ニ北軍ー。在ニ盛政營ー。衆中謂ニ盛政ー曰。聞神戸君擧ㇾ兵應ㇾ我。而秀吉往擊ㇾ之。子豈得ㇾ不ニ赴援ー哉。盛政曰。固也。道路阻絕。敵充ニ塞其間ー。我將如ㇾ之何。將監進附ニ其耳ー。語曰。敵諸壘皆固。獨中川淸秀之壘。在ニ賤岳之麓ー。去ㇾ我尤遠。而其備不ㇾ固。吾潛ㇾ兵趨ㇾ之。出ニ其不意ー。必獲ㇾ志矣。秀吉在ニ大垣ー。不ㇾ能ニ速來ー。子急擊勿ㇾ失。

勝家許さず。是の時、柴田勝豐、疾(一)を養ひて京師に在り。其部下山路將監といふ者叛きて北軍に降り、盛政の營に在り。衆中、盛政に謂ひて曰く、聞く、神戸君、兵を擧げて我に應じ、而して秀吉往きて之を擊つ。子、豈に赴き援けざるを得んやと。盛政曰く、固よりなり。道路阻絕(二)して、敵、其間に充塞す。我れ將に之を如何せんと。將監、進みて其耳に附し、語りて曰く、敵の諸壘皆固し。獨り中川淸秀の壘は、(三)賤岳の麓に在り、我を去る尤も遠し。而して其備固からず。吾(四)れ兵を潛めて之に趨き、其不意に出でば、必ず志を獲ん。秀吉、大垣に在り。速に來ること能はじ。子、急に擊ちて失ふ(五)勿れと。

(一) 病氣療養のため　(二) へだたり絕えて通ぜずして　(三) 近江國に在り　(四) 一本に君とあり　(五) 機を取逃がすことなかれ

盛政大悅。十九日。往告二勝家一。勝家曰。可也。吾與二利家一留當二諸壘一。汝則往擊。擊而勝速還。愼勿レ留也。盛政乃與二從弟勝政一。將二萬人一。乘レ夜至二余吾湖東一。循レ湖而馳。比レ曉。至二岳麓一。中川氏卒。方飮二馬于湖一。盛政先鋒執斬レ之。其一人逃返。告レ急。淸秀與二高山友祥一。以二數千人一出戰。

盛政大に悅び、十九日、往きて勝家に告ぐ。勝家曰く、可なり。吾れ利家と留りて諸壘に當らん。汝則ち往きて擊ち、擊ちて勝たば、速に還れ。愼みて留る勿れと。盛政、乃ち從弟勝政と萬人を將ゐて、夜に乘じて余吾湖(一)東に至り、湖に循ひて馳せ、曉くる比、岳麓に至る。中川氏の卒、方に馬に湖に飮ふ。盛政の先鋒執へて之を斬る。其一人逃れ返り、急を告ぐ。淸秀、高山友祥と、數千人を以て出でて戰ふ。盛政、其部(二)將に謂ひて曰く、長篠の戰に、鳶巢を火きて捷つ。是れ倣ふ可きなりと。人を遣して其壘下の營を燒く。我が軍顧みて敗る。友祥走り秀長に依る。秀長等惶(三)急して、敢て援けず。淸秀、苦戰して終に死す。盛政既に勝ち、因りて留りて還らず。勝家、之を召還す。盛政答ふるに、日傾き兵疲る、當に明(四)を俟ちて還るべきを以てす。勝家曰く、直路一里に過ぎず。何ぞ亟に還らざると。盛政笑ひて曰く、(五)老怯(六)の過慮、何ぞ意と爲すに足らんと。使者五反して、日已に暮る。

盛政謂二其部將一曰。長篠之戰。火二鳶巢一而捷。是可レ倣也。遣レ人燒二其壘下營一。我軍顧而敗。友祥走依二秀長一。秀長等惶急。不二敢援一。清秀苦戰終死。盛政既勝。因留不レ還。勝家召二還之一。盛政答以三日傾兵疲。當二俟レ明還一。勝家曰。直路不レ過二一里一。何不二亟還一。盛政笑曰。老怯過慮。何足レ爲レ意。使者五反。而日已暮矣。

㊀近江國に在り　㊁組大將　㊂おそれあわつ　㊃夜明　㊄年老いて心弱きこと　㊅心配のしすぎ

當二是時一。秀吉欲レ攻二岐阜一。會二大雨一。呂久河漲。未レ濟。午時報至。秀吉方食。問二使者一曰。盛政退未。曰。未。秀吉乃投レ箸而起。拔レ刀踴躍曰。吾得二大勝一矣。卽命二驟卒五十人一先往。募二沿道

是の時に當りて、秀吉、岐阜を攻めんと欲して、大雨に會ふ。呂久河漲りて、未だ濟らず。(一)午時に報至る。秀吉、方に食す。使者に問ひて曰く、盛政退くや、未だしやと。曰く、未だしと。秀吉乃ち箸を投じて起ち、刀を拔きて(二)踴躍して曰く、吾れ大勝を得たりと。卽ち(三)驟卒五十人に命じて先づ往き、沿道の民を募りて曰く、吾れ將に賤岳に赴かんとす。炬火もて我を道き、(四)酒食もて我に餉せよと。遂に堀尾吉晴をして、留りて岐阜に當らしめ、而して自ら輕兵一萬五千を提げ、鞭を擧げて疾く馳す。藤川に及びて昏黑なり。山谷皆炬なり。(五)餉者爭ひ至り、兵皆立ちながら食ふ。秀吉、行く〳〵且つ呼びて曰く、(六)其里閭を記せよ。吾れ將に凱旋のとき

民ニ曰。吾將レ赴ニ賤岳一。炬火道レ我。酒食餉レ我。遂令三堀尾吉晴留當二岐阜一。而自提ニ輕兵一萬五千一。擧レ鞭疾馳。及ニ藤川一而昏黑。山谷皆炬。餉者爭至。兵皆立食。秀吉行且呼曰。記ニ其里閭一。吾將ニ凱旋賞レ之。

之を賞せんとすと。

一 十二時　二 をどりあがりて喜ぶ　三 よく走る兵卒　四 酒食を供して吾にふるまへ　五 食物をはこぶ者　六 村里

北軍相驚曰。濃路諸山。多ニ炬火一。秀吉來矣。盛政大駭。將ニ乘レ暗拔レ軍而北一。適月已出。我軍覘レ之。進躡ニ其後一。盛政留ニ銃隊一殿レ之。引レ兵上ニ岳北一陣。勝政在レ麓。欲ニ與レ之合一。

北軍相驚きて曰く、濃路の諸山、炬火多し。秀吉來ると。盛政大に駭きて、將に暗に乘じて軍を拔きて北せんとす。適〻月已に出づ。我が軍之を覘て、進みて其後を躡む。盛政銃隊を留めて之を殿せしめ、兵を引きて、岳北に上りて陣す。勝政麓に在り。之と合せんと欲して、金瓢の馬表已に岳南に在り。銃丸亂發す。勝政の兵、立ちどころに死する者二百餘人にして、其陣稍〻亂る。秀吉、左右を顧みて、兵を縱ちて之に乘ず。加藤清正・福島正則・加藤嘉明・平野長泰・脇坂安治・糟屋武則・片桐且元、先を爭ひて奮擊し、斬獲する所多し。諸軍從ひ進みて、

而金瓢馬表已在二岳南一。銃丸亂發。勝政兵立死者二百餘人。其陣稍亂。秀吉顧二左右一。縱レ兵乘レ之。加藤清正。福島正則。加藤嘉明。平野長泰。脇坂安治。糟谷武則。片桐且元。爭レ先奮擊。多レ所二斬獲一。諸軍從進。遂大破レ之。擒二勝政一。進蹙二盛政一。又大破レ之。斬首五千級。遂進赴二勝家一。勝家在二核山一。聞二賤岳軍大囂一。危レ之。已而敗卒交至。勝家曰。盛政果敗二我事一矣。遂北走。過見二前田利家于府中一。請二其馬一。馳入二北莊一。秀吉追レ走。至二府中一。單騎打二城門一。連二呼利家俗字一曰。又左又左。利家乃出迎レ之。以二其兵一從。

遂に大に之を破り、勝政を擒にし、進みて盛政に蹙り、又大に之を破る。斬首五千級なり。遂に進みて勝家に赴く。勝家核山(四)に在り。賤岳の軍、大に囂しきを聞きて、之を危む。已にして敗卒交〻至る。勝家曰く、盛政果して我が事を敗ると。遂に北に走る。過りて前田利家を府中に見る。其馬を請ひて、馳せて北莊(五)に入る。秀吉走るを追ひ、府中に至りて、單騎城門を打ち、利家の俗字を連呼(六)して曰く、又左又左と。利家乃ち出でて之を迎ふ。其兵を以て從ふ。

(一)美濃路　(二)後をつける　(三)兵を遣して　(四)近江國に在り　(五)越前國に在り　(六)つゞけざまに呼ぶ

諸城望レ風解走。且日。秀吉至二北莊一。自上二

諸城、風(一)を望みて解走す。旦日、秀吉、北莊に至り、自ら其後山に上り、堀秀政をして、火を縱ち、烟に乘じて城に迫らしむ。或ひと、盛政、及び勝家の義

其後山。令二堀秀政縱レ火乘レ烟迫レ城。或縛二盛政及勝家義子權六。獻二麾下。秀吉視二之城中。勝家遂自燒殺。秀吉見二城中火起。則引レ兵北徇二加賀能登。盡下レ之。信孝出走自殺。一益降。於レ是秀吉還軍二坂下。六月。敘二從四位下。任二參議。七月。大賞二戰功。予下北莊于二丹羽長秀。大垣于二池田信輝。澤山于二堀秀政。金山于中森長可上。賜二近臣七人秩各五千石。世呼曰二賤岳七槍。

子權六を縛して、麾下に獻ず。秀吉、之を城中に視す。勝家遂に自ら燒殺す。秀吉、城中に火起るを見て、則ち兵を引きて北、加賀・能登を徇へ、盡く之を下す。信孝出走して自殺し、一益降る。是に於て、秀吉、還りて坂下に軍す。六月、從四位下に敍し、參議に任ず。七月、大に戰功を賞す。北莊を丹羽長秀に、大垣を池田信輝に、澤山を堀秀政に、金山を森長可に予へ、近臣七人に秩各五千石(二)を賜ふ。世呼びて賤岳の七槍と曰ふ。

(一) 樓子の燒なるをのぞみ見て　(二) 扶持米

於レ是。近畿粗定。山陽山陰將士來。尋二去歲之盟。上杉

是に於て、近畿粗ゝ定り、山陽・山陰の將士來りて、去歲の盟を尋ぐ。上杉氏・德川氏、皆使をして戰捷を賀せしむ。秀吉、天下に覇たるの志あり。謂ふに、京

氏德川氏。皆使三使賀二戰捷一。秀吉有下霸二天下一之志上。謂。京師狹迫。不レ便二漕運一。且無下列二邸第一之地上。大阪北帶二大河一。西控二海水一。地勢宏壯。可三以管二轄七道一。十一月。遂起二十餘州卒一。城二大坂一成而徙焉。

師は狹迫(一)にして、漕運(二)に便ならず。且つ邸第を列するの地なし。大坂は北に大河を帶び、西に海水を控へ、地勢宏莊(三)にして、以て七道を管轄(四)すべしと。十一月、遂に十餘州の卒を起して、大坂に城き、成りて徙る。

(一) 地勢の狹くせまりて廣からざること (二) 物を持運ぶに不便なり (三) 廣く盛にして (四) すべをさむ

信雄視二秀吉威權日隆一。心不レ能レ平。其下有二三驍將一。秀吉厚遇レ之。信雄疑二其有一レ私。十二年三月。殺二三將一與二秀吉一絶。乞二援於德川氏一。池田

信雄、秀吉の威權日〻に隆なるを視て、心平かなる能はず。其下に三驍將あり。秀吉厚く之を遇す。信雄其の私有るを疑ふ。十二年三月、三將を殺し、秀吉と絶ち、援を德川氏に乞ふ。池田信輝・森長可・堀秀政、皆秀吉の爲に信雄を拒ぐ。信雄の將瀧川雄利、初め質を秀吉に送る。秀吉、之を脇坂安治に屬す。是に於て雄利、詐りて之を奪還し、其邑上野に據る。安治怒り、從者二十人を以て伊賀に入り、夜、土兵を募りて、上野城を襲ひて、之を拔き。雄利を走らす。秀吉、

信輝。森長可。堀秀政。皆爲二秀吉一拒二信雄一。信雄將瀧川雄利。初從二置於秀吉一。秀吉屬二之脇坂安治一。於レ是。雄利詐奪二還之一。據二其邑上野一。安治怒。以二從者二十人一入二伊賀一。夜募二土兵一。襲二上野城一。拔レ之走二雄利一。秀吉令三安治留定二伊賀一。信輝長可亦拔二犬山一守レ之。秀吉遣二尾藤知定一。監二二人軍一曰。彼必負レ勇浪戰。汝往制レ之。遂欲二親將而東一。會南海盜起。乃令下中村一氏等當二南面一。浮田秀家當二西面一。丹羽長秀前田利家當中北面上。而自將東下。至二犬山一。

安治をして留りて伊賀を定めしむ。信輝・長可も亦犬山を抜きて、之を守る。秀吉、尾藤知定を遣し、二人の軍を監せしめて曰く、彼れ必ず勇を負みて浪に戰はん。汝往きて之を制せよと。遂に親ら將として東せんと欲す。會〻南海に盜起る。乃ち中村一氏等を南面に當て、浮田秀家を西面に當て、丹羽長秀、前田利家を北面に當らしむ。而して自ら將として東下し、犬山に至る。

㈠ 心中不平なり　㈡ 奪ひかへし　㈢ 勇氣あるを自慢にして

徳川氏北畠氏。合レ兵陣二小牧一。對レ壘未レ戰

徳川氏・北畠氏、兵を合せて小牧に陣す。壘を對して未だ戰はず。秀吉、書を遺りて戰はんと請ふ。徳川氏肯はず。四月、信輝、自ら間道より參河を擣かんと請ふ。

秀吉遣ㇾ書請ㇾ戰。徳川氏不ㇾ肯。四月。信輝自請三間道擣二參河一。秀吉不ㇾ答。明日復請。乃許ㇾ之。信輝率二二婿秀政長可一以往。曰。親戚赴ㇾ軍。無二他證左一。秀吉乃令三三好秀次助二之。秀次秀吉妹子也。臨ㇾ發。誡二信輝一曰。宜下塞二于篠木柏井一。募二土兵一縱中火東參河上。勿二侮ㇾ敵輕進恃ㇾ勝不上ㇾ備。

秀吉、答へず。明日復た請ふ。乃ち之を許す。信輝、二婿秀政・長可を率ゐて以て往く。曰く、親戚軍に赴くに、他の證左(一)無しと。秀吉、乃ち三好秀次をして之を助けしむ。秀次は、秀吉の妹の子なり。發するに臨みて、信輝を誡めて曰く、宜しく篠木・柏井に塞し、土兵を募り、火を東參河に縱つべし。敵を侮りて輕進(二)し、勝を恃みて備へざる勿れと。既に之を遣り、自ら從りて樂田(三)に陣す。信輝・長可進みて岩崎(四)を拔く。或ひと走りて徳川公に告ぐ。公、信雄と其懈るを伺ひて、襲ひて長湫(五)に撃ちて、之を殺す。其將佐の曰く、秀吉、軍機に敏し。今必ず來らんと。乃ち兵を收めて退く。秀吉、敗聞を得て、袂を奮ひ起ちて曰く、敵、次を亂して來る。吾れ迎へて疾く撃たば、以て之を盡にすべしと。急に精兵二萬を抽んで、自ら將として長湫に赴く。敵退きて小幡(六)に入ると聞き、隨ひて之を攻めんと欲す。稻葉通朝諫むるに日暮れ、兵疲るゝを以てす。乃ち止む。

(一) 證據 (二) かるはづみして進み (三) 尾張國に在り (四) 同上 (五) 同上 (六) 同上

既遣レ之。自從陣二樂田一。信輝長可進拔二岩崎一。或走告二德川公一。公與二信雄一伺二其懈一。襲擊二子長湫一。殺レ之。其將佐曰、秀吉敏二軍機一。今必來矣。乃收レ兵退。秀吉得二敗聞一。奮レ袂起曰。敵亂レ次而來。吾迎而疾擊。可二以鏖一レ之。急抽二精兵二萬一。自將赴二長湫一。聞三敵退入二小幡一。欲二隨攻一レ之。稻葉通朝諫以二日暮兵疲一。乃止。

下レ令曰、旦日攻擒二二帥一。參河將士爭請レ襲二秀吉陣一。德川公不レ肯曰。秀吉勇略不世出。其可二狃而輕一レ之乎。夜退還二小牧一。秀吉亦還二樂田一。五月。留二諸將一守二樂田一。引レ兵攻拔二利井。嶺。神戶。松島。竹鼻諸城一。六月。

令を下して曰く、旦日、攻めて二師(一)を擒にせよと。參河の將士、爭ひて秀吉の陣を襲はんと請ふ。德川公、肯ぜずして曰く、秀吉の勇略(二)は不出世(三)なり。其れ狃(四)れて之を輕んず可けんやと。夜退きて小牧に還る。秀吉も亦樂田に還る。五月、諸將を留めて樂田を守らしめ、兵を引きて攻めて(五)利井・嶺・神戶・松島・竹鼻の諸城を拔く。六月、竹鼻を以て一柳直末に予へ、森長可の弟忠政をして、兄の邑を襲がしむ。蒲生氏郷を松島に封じ、十二萬石を食ましめ、傍近の諸城を統攝(六)せしむ。秀吉自ら大垣に陣し、伊勢・尾張の間に往來して、諸城砦を修む。脇坂安治を遣して志摩を徇へしめ、大和の國主筒井定次を伊賀に移し、大和を以て弟秀長に賜ひ、志摩を以て九鬼嘉隆に賜ふ。

以二竹鼻一予二一柳直末一。令三森長可弟忠政襲二兄邑一。封三蒲生氏郷于二松島一。食二十二萬石一。統二轄傍近諸城一。秀吉自陣二大垣一。往二來伊勢尾張間一。修二諸城砦一。遣二脇坂安治一徇二志摩一。移三大和國主筒井定次于二伊賀一。以二大和一賜二弟秀長一。以二志摩一賜二九鬼嘉隆一。

㊀信雄・家康何れも伊勢國に在り　㊁勇氣ありて謀略に富むこと　㊂世に稀有なるものなり　㊃勝に馴れてあなどるべからず　㊄すべをさむ

十月。陣二羽津一。信雄陣二桑名一。其君臣内相猜疑。軍中數驚。秀吉乃謂二富田知信津田信季一曰。我爲二先君一復レ仇。務鎭二定國家一。而諸郎聽二細說一。遽欲レ誅レ我。我不レ得レ已。起與レ之較。神戸

十月、羽津に陣し、信雄、桑名に陣す。其君臣内に相猜疑し、軍中、數〻驚く、秀吉乃ち富田知信・津田信季に謂ひて曰く、我れ先君の爲に仇を復し、務めて國家を鎭定す。而して諸郎、㊂細說を聽きて、遽に我を誅せんと欲す。我れ已むを得ずして、起ちて之と較す。㊃神戸君既に良死せず。我れ今に至りて悼む。我が爲に㊄北畠君に謝せよ。盍ぞ㊅細故を捐てて、與に富貴を共にせざると。二人往きて之を信雄に告ぐ。信雄之を許し、矢田河原に相見る。和成り、德川公、使をして之を賀せしむ。公尋ぎて其子秀康を送りて質と爲す。

㊀伊勢國に在り　㊁信長の諸子　㊂小人の言　㊃信孝　㊄信雄　㊅些細の事柄

君既不二良死一。我至レ今悼焉。爲レ我謝二北畠君一。盡下捐二細故一與共中富貴上。二人往告二之信雄一。信雄許レ之。相二見于矢田河原一。和成。徳川公使三使賀二之。公尋送二其子秀康一爲レ質。

秀吉之東也。南海盜數攻二岸和田一。土佐國主長曾我部元親。略二定四國一。發レ兵援レ之。窺二大坂一。中村一氏守二岸和田一。擊二卻之一。佐佐成政又以二越中一應二北畠氏一。將二兵萬餘一。攻二末盛城一。城屬二前田利家一。城將奥村永福與二其妻一。奬二厲士卒一固守。利家赴救。大破二成政一。成政求二援於徳川公一。公辭レ之。十一月。秀吉進二從三位一。任二大納言一。十三年二月。進二正二位一。陞二內大臣一。

秀吉の東するや、南海の盜、數〻(一)岸和田を攻む。土佐の國主長曾我部元親、四國を略定し、兵を發して之を援けて、大坂を窺ふ。中村一氏、岸和田を守り、擊ちて之を卻く。佐佐成政、又越中を以て北畠氏に應じ、兵萬餘を將ゐて、末盛城を攻む。城は前田利家に屬す。城將奥村永福、其妻と、士卒を奬厲(二)して固く守る。利家赴き救ひ、大に成政を破る。成政、援を徳川氏に求む。公之を辭す。十一月、秀吉、從三位に進み、大納言に任ぜらる。十三年二月、正二位に進み、內大臣に陞る。

(一) 和泉國に在り (二) すゝめはげます

於レ是議レ用二兵於南海北陸一。欲三先定二南海一。南海賊根來雜賀最强。聞二羽柴氏且レ來。築二三寨于千石濠一。悉レ銳守レ之。三月。秀吉將二兵十萬一南伐。令三秀次備二三寨一。而直指二根來寺一。寨兵以二弓銃一要レ之。秀次縱レ騎傍擊。遂合レ兵圍レ寨。我軍發二火箭一。中二賊硝櫃一。賊悉焚死。諸寨皆解走。秀吉則以二生兵六萬一。急襲二根來一焚レ之。遂攻下二雜賀一。引二紀伊川一。灌二大田壘一。磔二其魁首五十人一。進下二熊野高野一。撤二諸關寨一。以二紀伊和泉一加二賜秀長一。以レ近江一賜二秀次一。四月。歸二大坂一。

是に於て、兵を南海・北陸に用ひんと議し、先づ南海を定めんと欲す。南海の賊は根來・雜賀最も强し。羽柴氏の且に來らんとするを聞きて、三寨を千石壕に築き、銳(一)を盡して之を守る。三月、秀吉、兵十萬を將ゐて南伐し、秀次をして三寨に備へしめて、直に根來寺を指す。寨兵弓銃を以て之を要(二)す。秀次、騎を縱ちて傍より擊ち、遂に兵を合せて寨を圍む。我が軍、火箭を發し、賊の硝櫃(三)に中つ。賊悉く焚死し、諸寨皆解走す。秀吉則ち生兵(四)六萬を以て、急に根來を襲ひて之を焚き、遂に攻めて雜賀を下し、紀伊川を引きて、大田の壘に灌ぎ、其魁首五十人を磔す。進みて熊野・高野を下し、諸關寨を撤す。紀伊・和泉を以て秀長に加賜し、近江を以て秀次に賜ふ。四月、大坂に歸る。

(一) 精兵を悉く出して　(二) 待受く　(三) 火藥を納れ置くはこ　(四) あらての兵

秀吉遂以レ書諭二長曾我部元親一。當下獻二伊豫讚岐一來中朝天子上。否則有レ罰。元親弗レ聽。五月。秀吉令下秀長秀次以二舟師六萬一往討上レ之。自二阿波一入。又令丙浮田秀家自二讚岐一。小早川隆景自下伊豫上。並攻乙元親甲。元親將レ兵拒二羽津一。秀次攻二和氣一。秀長攻二一宮一。皆降レ之。合攻二木津一。又降レ之。諸

秀吉、遂に書を以て長曾我部元親に諭す。當に伊豫・讚岐を獻じて天子に來朝すべし、否らずんば則ち罰あらんと。元親、聽かず。五月、秀吉、秀長・秀次をして舟師(一)六萬を以て往きて之を討たしめて、阿波より入る。又浮田秀家をして讚岐より小早川隆景をして伊豫よりして、並に元親を攻めしむ。元親、兵を將ゐて羽津に距ぐ。秀次は和氣(二)を攻め、秀長は一宮を攻め、皆之を降し、合して木津を攻め、又之を降す。諸城解走す。仙石秀久、前に封を淡路に受く。七月、其兵を以て屋島を抜く。秀家・隆景も亦數城を陷る。諸軍、期を刻して羽津に萃る。元親乃ち降を乞ひ質を送りて、遂に入朝す。秀吉讓めて曰く、來ること何ぞ晩きと。乃ち其三國を奪ふ。阿波を蜂須賀家政に、讚岐を仙石秀久、十河一存に、伊豫を小早川隆景・來島康親に賜ひ、伊豫の正木を以て加藤嘉明に賜ひ、淡路の洲本を以て脇坂安治に賜ふ。南海盡く定る。

(一) 海軍　(二) 和氣・一宮・木津共に伊豫國に在り

城解走。仙石秀久前受ニ封淡路一。七月。以ニ其兵一拔ニ屋島一。秀家隆景亦陷ニ數城一。諸軍刻レ期萃ニ于羽津一。元親乃乞レ降送レ質。遂入朝。秀吉讓曰。來何晚也。乃奪ニ其三國一。賜下阿波于ニ蜂須賀家政一。讃岐于ニ仙石秀久一。十河一存。伊豫于ニ小早川隆景一。來島康親上。以ニ伊豫正木一。賜ニ加藤嘉明一。以ニ淡路洲本一。賜ニ脇坂安治一。南海盡定。

初秀吉起ニ微賤一。無ニ姓氏一。始稱ニ平氏一。中稱ニ藤原氏一。於レ是欲レ爲ニ征夷大將軍一。右大臣藤原晴季素與ニ秀吉一善。爲レ之謀曰。故事。大將軍非ニ源氏一不可。公稱ニ藤原氏一宜レ爲ニ關白一。秀吉曰。關白何物。晴季曰。位亞ニ天子一。統ニ御百官一。

初め秀吉、微賤(一)より起り、姓氏無し。始に平氏を稱し、中ごろ藤原氏を稱す。是に於て、征夷大將軍爲らんと欲す。右大臣藤原晴季素より秀吉と善し。之が爲に謀りて曰く、故事(二)に大將軍は源氏に非ざれば不可なり。公は藤原氏を稱す。宜しく關白と爲るべしと。秀吉曰く、關白は何物ぞと。晴季曰く、位、天子に亞ぎ、百官を統御(三)すと。秀吉大に喜ぶ。時に藤原昭實、關白爲り。晴季諷して其官を辭せしめて、秀吉を以て之に代らしむ。朝廷其意に違ふを憚り、遂に詔して之を許す。秀吉、騶從(四)を具へて入朝し、恩を謝し、奏請して子弟將士に授くるに官爵を以てす。秀吉、他姓を冒すを羞ぢ、新姓を賜らんことを請ひ、豐臣と曰ふ。

(一) 卑き身分 (二) 故例 (三) すべひきゐる (四) 御供

秀吉大喜。時藤原昭實爲二關白一。晴季諷レ辭二其官一。以二秀吉一代レ之。朝廷重レ違二其意一。遂詔許レ之。秀吉具二趨從一。入朝謝レ恩。奏請授二子弟將士以二官爵一。秀吉羞レ冒二他姓一。請レ賜二新姓一。曰二豐臣一。

置二吏五人一。奉二行政令一。淺野長政。石田三成。增田長盛。掌二訟獄一。長束正家。掌二錢穀一。前田玄以掌二僧祝一。長政任二彈正少弼一。後封二甲斐一。玄以稱二德善院一。任二法印一。嘗爲二織田氏吏一。後封二篠山一。正家任二大藏少輔一。嘗爲二丹羽氏吏一。後封二水口一。三

吏五人を置きて、政令を奉行せしむ。淺野長政・石田三成・增田長盛訟獄を(一)掌り、長束正家錢穀を掌り、前田玄以、僧祝(二)を掌る。長政は彈正少弼に任ぜられ、後に甲斐に封ぜらる。玄以は德善院と稱し、法印に任ぜらる。嘗て織田氏の吏爲り。後に篠山に封ぜらる。正家は大藏少輔に任ぜらる。嘗て丹羽氏の吏爲り、後に水口(三)に封ぜらる。三成は治部少輔に任ぜられ、後に澤山に封ぜらる。長盛は右衛門尉(四)に任ぜられ、後に郡山に封ぜらる。秀吉、五人を戒めて曰く、大事は會議して之を決せよ。小事(五)は必ずしも然らざれ、留滯(六)有らしむること勿れ。賄賂を納るゝこと勿れ。恩仇(七)を挾むこと勿れ。訟獄の事は、貧富貴賤と無く、一切事に從へと。是の時に當りて、豐臣氏の歲入二百萬石にして、府庫之に稱ふ。曰く、吾れ獨り自ら封殖(八)す可からずと。遂に令を下して、金五千枚、銀三萬枚

成任二治部少輔一。後封二澤山一。長盛任二右衞門尉一。後封二郡山一。秀吉戒二五人一曰。大事會議決レ之。小事不二必然一。勿レ使レ有二留滯一。勿レ納二贈賄一。勿レ挾二恩仇一。訟獄之事。無二貧富貴賤一。一切從レ事。當二是時一。豐臣氏歲入二百萬石。府庫稱レ之。曰。吾不レ可二獨自封殖一。遂下レ令。分三金五千枚銀三萬枚於二諸將士一。償二其軍費一。設三場于二京師第門一。一日悉散レ之。

を諸將士に分ちて、其軍費を償ふ。場を京師の第門に設け、一日に悉く之を散ず。

㊀ 裁判、一本に訟獄の上に諸字あり ㊁ 寺社 ㊂ 丹波國に在り ㊃ 近江國に在り ㊄ 小事件は必ずしも會議して決するに及ばず ㊅ とゞこほる ㊆ 恩あるもの仇あるものを心中に思うて處分してはならず ㊇ 貨を殖す

八月。自將二騎卒十萬一北伐。北畠信雄以二尾張伊勢兵一。前田利家以二加賀能登兵一。皆會焉。佐佐成政據二富山一。

八月、自ら騎卒十萬を將ゐて北伐す。北畠信雄は尾張・伊勢の兵を以て、前田利家は加賀・能登の兵を以て、皆會す。佐佐成政富山に據り、三十餘壘を栗殼嶺に築く。秀吉、疑兵を張りて之に當り、而して海に航して直に富山を襲ふ。成政惶駭し、髮を削り出でて降る。乃ち越中を利家の子利長に加賜す。丹羽氏、罪あるを以て、越前を奪ひ、其半を割きて堀秀政に予へ、村上・溝口の二氏をして之に屬せし

築三十餘壘于栗殼嶺。秀吉張疑兵當之。而航海直襲富山。成政惶駭。削髪出降。乃加賜越中于利家子利長。以丹羽氏有罪。奪越前。割其半予堀秀政。令村上溝口二氏隔之。以鎭北陸。而越後國主上杉景勝未來。秀吉既勝成政。則與石田三成等十餘騎。踰險直入越後。謂其疆上吏曰。吾秀吉也。汝主已通使於我。我故來見。欲面議事。吏馳使。告景勝。景勝大驚。遂來盟。秀吉屏左右與語。既畢西還。使金森長近略飛驒。攻其國司姉小路頼綱。滅之。因封長近焉。

めて、以て北陸を鎭せしむ。而して越後の國主上杉景勝未だ來らず。秀吉既に成政に勝ちて、則ち石田三成等十餘騎と、險を踰えて直に越後に入り、其疆上の吏に謂ひて曰く、吾は秀吉なり。汝が主、已に使を我に通ず。我れ故に來り見て、事を面議せんと欲すと。吏、使を馳せて、景勝に告ぐ。景勝大に驚き、遂に來りて盟ふ。秀吉(三)左右を屏けて與に語る。既に畢りて西に還る。金森長近をして飛驒を略せしめ、其國司姉小路頼綱を攻めて、之を滅し、因りて長近を封ず。

(一) 大勢らしく見せかくる擬兵　(二) 國境の役人　(三) 人拂をして

先是信濃豪

是より先、信濃の豪族眞田昌幸來りて款を送り、子、幸村を納れて質と爲す。

族眞田昌幸來送レ款。納二子幸村一爲レ質。昌幸自二父幸隆一屬二武田氏一。及二武田氏亡一。屬二德川氏一。領二上田一。攻二北條氏一。取二沼田一。德川氏與二北條氏一婚。令三昌幸還二致沼田一。答曰。公之所レ賜上田。掌大之地耳。至二沼田一。我以二吾兵力一取レ之。焉得レ予二他人一哉。德川公怒。率二步騎七千一來攻。閏月。

昌幸、父幸隆より武田氏に屬す。武田氏の亡ぶるに及びて、德川氏に屬し、上田を領す。北條氏を攻めて、沼田を取る。德川氏、北條氏と婚し、昌幸をして沼田を(一)還致せしむ。答へて曰く、公の賜ふ所の上田は、(二)掌大の地のみ。沼田に至りては、我れ吾が兵力を以て之を取る。焉んぞ他人に予ふるを得んやと。德川公怒り、步騎七千を率ゐて來り攻む。閏月、上杉景勝、秀吉の旨を以て兵を發し、昌幸を援ふ。昌幸、之を內城に延きて、自ら外城に居り、柵を城内に植て、兵を城外に伏せて、(三)羸卒を出して敵を誘ふ。敵進みて城に入る。柵內より銃發し、敵陣亂る。二城夾み撃ちて之を破る。敵走り出づ。伏起り、又之を破る。昌幸の子信幸も亦北條氏の兵を沼田に迎へ撃ちて、之を破る。九月、景勝自ら將として來り援ふ。敵軍退き去る。小笠原貞慶も亦昌幸に因りて款を送り、景勝と並に豐臣氏に(四)連衡して、以て關東を圖る。德川氏・北條氏懼れて從を約す。十一月、德川氏の將、石川數正來り奔り、其國大に擾る。秀吉、乃ち信雄に謂ひて曰く、吾れ

上杉景勝以ニ秀吉旨一發ㇾ兵。援ニ昌幸。昌幸延ニ之內城。而自居ニ外城。植ニ柵城內。伏ニ兵城外。而出ニ羸卒一誘ㇾ敵。敵進入ㇾ城。柵內銃發。敵陣亂。二城夾擊破ㇾ之。敵走出。伏起。又破ㇾ之。昌幸子信幸亦迎ニ擊北條氏兵于ニ沼田一。破ㇾ之。九月。景勝自將來援。敵軍退去。小笠原貞慶亦因ニ昌幸一。送ㇾ款。與ニ景勝一並連ニ衡於豐臣氏。以圖ニ關東。德川氏北條氏。懼而約ㇾ從。十一月。德川氏將石川數正來奔。其國大擾。秀吉乃謂ニ信雄一曰。吾既定ニ中州。東西未ㇾ服。近日將ニ西伐。宜下先與ニ德川一和以拒中北條上也。子爲ㇾ我圖ㇾ之。信雄乃遣ニ二使。諭ニ德川公。公恐ニ其有ㇾ變。不ニ敢來一。

既に中州を定む。東西は未だ服せず。近日將に西伐せんとす。宜しく先づ德川と和して、以て北條を拒ぐべきなり。子、我が爲に之を圖れと。信雄乃ち二使を遣し、德川公を諭す。公、其の變あらんを恐れて、敢て來らず。

(一)送り返さしむ (二)掌ほどの小なる土地 (三)弱き兵士 (四)連合一致して

是歲。毛利氏遣ニ小早川隆景吉川元長一來ニ大坂。元長元春子也。秀吉善待ㇾ之。曰。

是の歲、毛利氏、小早川隆景、吉川元長を遣して大坂に來らしむ。元長は、元春の子なり。秀吉、善く之を待す(一)。曰く、天主閣新に成る。當に(二)卿等をして一觀せしむべしと。乃ち自ら一侍女を從へ、隆景・元長及び其從者數十人を導きて、閣に上り、遠近の山海を指示し、因りて元長に謂ひて曰く、吾れ(三)乃叔に予ふる

天主閣新成。當レ使ニ卿等一觀一。乃自從ニ侍女一。導ニ隆景元長。及其從者數十人一。上レ閣。指ニ示遠近山海一。因謂ニ元長一曰。吾予ニ乃叔一以ニ伊豫一。乃翁未レ有レ所レ予。吾欲レ與ニ乃翁一治レ兵。常恨レ不ニ相見以談ニ往日戰略一。明年。吾將レ伐ニ九州一。煩ニ乃翁一爲ニ先鋒一。事平。予ニ之筑前一也。

に伊豫を以てす。乃翁(四)には未だ予ふる所有らず。吾れ數〻乃翁と兵を治す。常に相見て以て往日(五)の戰略を談ぜざるを恨む。明年、吾れ將に九州を伐たんとす。乃翁を煩して先鋒と爲さん。事平がば、之に筑前を予へんと。

(一) もてなす (二) 汝等 (三) 小早川隆景を指す (四) 吉川元春を指す (五) 前日

十四年二月。内野第成。命ニ名聚樂一。秀吉將下請ニ天子幸一焉。率ニ諸侯一朝上之也。是歲。又建ニ方廣寺一。以レ木造ニ大佛一。高十六丈。興ニ卒數萬人一。四方

十四年二月、内野の第成る。名を聚樂と命ず。秀吉、將に天子の幸を請ひ、諸侯を率ゐて之に朝せんとす。是の歲、又方廣寺を建て、木を以て大佛を造る。高さ十六丈なり。卒數萬人を興し、四方の工人盡く集る。四月、其妹を以て德川公(二)に妻はす。五月、上杉景勝入覲(一)す。是より先、豐後の國主大友義鎭も亦入覲せり。初め島津義久、薩摩より起り、九國を荐食す。義鎭、肥前の國主龍造寺政家と歲〻其兵を被る。竝に援を秀吉に乞ふ。窟城主高橋鎭種・立花城主戸次宗茂皆

工人盡集。四月。以二其妹一妻二德川公一。五月。上杉景勝入觀。先レ是。豐後國主大友義鎭亦入觀。初島津義久自二薩摩一起。荐二食九國一。義鎭與二肥前國主龍造寺政家一歲被二其兵一。並乞レ援於二秀吉一。筑城主高橋鎭種。立花城主戸次宗茂。皆來送レ款焉。於レ是秀吉將二西伐一。下二敎列國一。並固守以俟。

來りて款を送る。是に於て、秀吉將に西伐せんとす。(三)敎を列國に下し、並に固く守りて以て俟たしむ。

(一) 一本に氏とあり (二) 徊擾嫌伺に來る (三) 命令

七月。義久遣二弟義弘家久一。略二二筑一。降二秋月氏筑紫氏一。乃攻二鎭種一。鎭種自殺。宗茂固守。來レ使告レ急。秀吉乃遣二黑田孝高一。趣二毛利輝元吉

七月、義久、弟義弘・家久を遣し、(二)二筑を略し、秋月氏・筑紫氏を降し、乃ち鎭種を攻む。鎭種、自殺す。宗茂固く守り、使を來らせて急を告ぐ。秀吉乃ち黑田孝高を遣し、毛利輝元・吉川元春・小早川隆景を趣す。九月、又加藤嘉明・脇坂安治を遣し、長曾我部元親・十河存保を趣し、皆兵を發して西向せしめ、遂に書を義久に遺りて曰く、關白問ふ、何を以て朝貢せざる、何を以て坐ながら官爵を取る、何を以て縱に兵を出して隣國を攻略すると。仙石秀久をして、書を齎

川元春小早川隆景。九月。文遣二加藤嘉明脇坂安治一。趣二長曾我部元親十河存保一。皆發レ兵西向。遂遣二書義久一曰。關白問。何以不二朝貢一。何以坐取二官爵一。何以縱出レ兵攻二略隣國一。使二仙石秀久齎レ書往一。因誡二義久一曰。彼若不レ服。且勿二與戰一。退以俟レ我。秀久至。義久投二書於レ地曰。我族國レ于レ此十四世矣。促二朝貢一者。獨有二近衛氏一。猴冠者。敢欲レ屈二致我一乎。秀久憤恚。以二大友氏兵一。進撃二家久一。元親存保從レ之。元親子信親。與二存保一。皆敗死。元

し往かしむ。因りて義久を誡めて曰く、彼れ若し服せずんば、且く與に戰ふ勿れ。退きて以て我を俟てと。秀久至る。義久書を地に投じて曰く、我が族此に國する十四世なり。朝貢を促すもの、獨り近衛氏あるのみ。猿冠者、敢て我を屈致せんと欲するかと。秀久憤恚して、大友氏の兵を以て、進みて家久を撃つ。元親・存保之に從ふ。元親の子信親、存保と、皆敗死す。元親は伊豫に走り、秀久は豐後に走る。嘉明・安治力戰して退く。義久遂に大擧して豐後に入り、十六城を下す。大友義鎭既に死す。其子義統出で戰ひて、大に敗る。事聞す。秀吉怒り、秀久の邑を奪ひて、之を尾藤知定に予へ、終に西伐を議し、益々徳川公の入朝を促す。

㊀筑前筑後 ㊁秀吉を賤めていふ ㊂いかりうらむ

親走二伊豫一。秀久走二豐後一。嘉明安治力戰而退。義久遂大擧入二豐後一。下二十六城一。大友義鎭既死。其子義統出戰。大敗。事聞。秀吉怒。奪二秀久邑一。予二之尾藤知定一。終議二西伐一。益促二德川公入朝一。

十月。公從二萬餘人一而發。秀吉母曰二大廳一。往問三女于二岡崎一。以安二其國人一。德川公到二京師一。秀吉從二數人一。就二其館一。握レ手款語。遂呼レ酒。召二其諸將一。談二小牧之戰一。盡レ歡而出。十一月。德川公入三謁于二聚樂第一。畢レ禮而去。

十月、公、萬餘人を從へて發す。秀吉の母を大廳と曰ふ。往きて女を岡崎に問ひて、以て其國人を安んず。德川公京師に至る。秀吉數人を從へ、其館に就き、(一)手を握りて款語し、遂に酒を呼び、其諸將を召して、小牧の戰を談じ、(二)歡を盡して出づ。十一月、德川公聚樂の第に入謁し、禮を畢へて去る。

(一) 握手して親しく語る　(二) 心中より愉快を盡す

先レ是。皇太子殂。是月。天皇禪三位于二皇太孫一。皇太孫卽レ位。是爲二後陽成天皇一。

是より先、皇太子、(三)殂す。是の月、天皇、位を皇太孫に禪る。皇太孫、位に卽く。是を後陽成天皇と爲す。十二月、天皇詔して、秀吉を以て太政大臣と爲す。關白の職、故の如し。是に於て、秀吉、奏請して曰く、臣、島津義久を徵し

成天皇。十二月。天皇詔。以二秀吉一爲二太政大臣。關白職如レ故。於レ是秀吉奏請曰。臣徵二島津義久一入朝。義久不レ奉レ命。臣請自將伐レ之。乃令二越中尾張以西三十七國一發レ兵。以二明年二月一會二大坂一。命二石田三成大谷吉隆名束正家一。掌二糧餉一。小西隆佐建部壽德。掌二漕運一。先赴二小倉一。具二三十萬人糧。二萬匹馬芻。使レ可レ支二一歲一。十五年。二月。兵會二大坂一者。十五萬人。秀吉下レ令。禁二鹵掠一。止二鬪諍一。又置二吏于沿道驛舍一。使三軍行莫二塞滯一。乃遣二秀長一。將二前軍一先發。

て入朝せしめんとするに、義久、命を奉ぜず。臣請ふ、自ら將として之を伐たんと。乃ち越中・尾張以西三十七國に令して兵を發し、明年二月を以て、大坂に會せしむ。石田三成・大谷吉隆・長束正家に命じて、糧餉(二)を掌らしめ、小西隆佐・建部壽德に漕運を掌らしめ、先づ小倉に赴き、三十萬人の糧、二萬匹の馬芻(三)を具へ、一歲を支ふべからしむ。十五年二月、兵、大坂に會するもの、十五萬人なり。秀吉、令を下し、鹵掠(四)を禁じ、鬪諍を止め、又吏を沿道の驛舍(五)に置き、軍行をして塞滯(六)莫らしむ。乃ち秀長を遣し、前軍に將として先づ發せしむ。

(一) 罷去す (二) 兵粮 (三) まぐさ (四) 掠め取ること (五) 宿驛 (六) 滯りはかどらぬこと

三月。朔。秀吉

三月朔、秀吉自ら諸軍に將として、京師を發し、水陸倶に下る。義久旣に大友

自將二諸軍一。發二京師一。水陸倶下。義久既逐二大友義統一。居二豐後府内一。發レ兵四出。聞三豐臣氏前軍至二豐前一。乃使三家久守二耳川一。引レ兵而退。秀長至二耳川一。諸將先濟。家久夜襲二南條宮部氏營一。南條敗。宮部擊卻レ之。明日。秀長乃濟。敵遂退保二高城一。既而又退。二十五日。秀吉至二赤間關一。留二増田長盛一。守二關戸城一。丸毛某城戸某。守二門司城一。徵二國人質子一。濟レ海入二豐

義統を逐ひ、豐後の府内に居り、兵を發して四出す。豐臣氏の前軍、豐前に至ると聞き、乃ち家久をして耳川を守らしめ、兵を引きて退く。秀長、耳川に至る。諸將先づ濟る。家久、夜、南條・宮部氏の營を襲ふ。南條は敗れ、宮部は擊ちて之を卻く。明日、秀長乃ち濟る。敵遂に退きて高城を保つ。既にして又退く。二十五日、秀吉、赤間關(一)に至る。増田長盛を留めて、關戸城を守り、丸毛某・城戸某に、門司城を守らせ、國人の質子を徵し、海を濟りて豐前に入り、二十八日馬岳(二)に陣し、兵を分ちて並び進む。時に秋月種實、島津氏の兵を招き、岩石城(三)に據る。城は豐前・筑前の間に跨り、險固を以て聞ゆ。秀吉、義子、秀勝を遣して之を攻め、蒲生氏郷・前田利家をして之を輔けしめ、自ら麾下を以て杉原山に登る。

(一) 長門國に在り　(二) 豐前國に在り　(三) 同上

前。廿八日。陣レ于二馬岳一。分レ兵並進。時秋月種實招二島津氏兵一。據二岩石城一。城跨二豐前筑前之間一。以二險固一聞。秀吉遣二義子秀勝一攻レ之。令二蒲生氏郷前田利家輔一レ之。自以二麾下一登二杉原山一。

四月。氏郷攻二其南一。利家攻二其北一。城兵能拒。氏郷先入二其郛一。秀吉自二山上一望二見其徽號一。自脱二其袍一。使二人齎馳賜一レ之曰。被レ此以登二內城一。氏郷感激。身先二士卒一。會風大起。縱レ火焚レ城。城卽陷。秀吉乃進至二小熊一。種實遁走。使二子種長以レ城

四月、氏郷は其南を攻め、利家は其北を攻む。城兵能く拒ぐ。氏郷先づ其郛(一)に入る。秀吉、山上より其徽號を望見して、自ら其袍(二)を脫ぎ、人をして齎し馳せて之を賜はしめて曰く、此を被て以て內城に登れと。氏郷、感激し、身、士卒に先だつ。會〻風大に起る。火を縱ちて城を焚く。城卽ち陷る。秀吉乃ち進みて小熊に至る。種實遁走して子種長をして城を以て降らしむ。秀吉悉く其地を收め、進みて高良山に陣す。龍造寺政家、肥前の兵を以て來り會す。肥後の諸城皆解走す。薩摩の驍將新納忠元・伊集院忠棟、合子城を守る。走りて八代を保ち、島津征久と兵を合せて堅守す。秀吉、兵艦を以て之を攻む。忠元等夜逃る。秀吉其城に入り、諸將に謂ひて曰く、吾れ僻遠(三)の國を征誅す。苟も鏖盡(四)を期せば、勢不可なる所あらん。且つ吾が狹(五)を見さん。宜しく優容に從ひ、速に大功を成すべしと。乃

降ㇾ。秀吉悉收ニ其地ㇾ。進軍ニ高良山ㇾ。龍造寺政家以ニ肥前兵ㇾ來會焉。肥後諸城皆解走。薩摩驍將新納忠元。伊集院忠棟。守ニ谷子城ㇾ。走保ニ八代ㇾ。與ニ島津征久ㇾ合ㇾ兵堅守。秀吉以ニ兵艦ㇾ攻ㇾ之。忠元等夜逃。秀吉入ニ其城ㇾ。謂ニ諸將ㇾ曰。吾征ニ誅僻遠之國ㇾ。苟期ㇾ於ニ塵盡ㇾ。勢有ㇾ所ㇾ不可ㇾ。且見ニ吾狹ㇾ也。宜下從ニ優容ㇾ。速成中大功上。乃榜ㇾ于ニ衢路ㇾ曰。名門故家脅ニ從於ヒ敵者。及豪俠大盜聚ㇾ徒結ㇾ黨者。一切皆宥。聽ニ其自新ㇾ。令初下。軍門如ㇾ市。秀吉進入ニ薩摩ㇾ。降ニ島津忠良ㇾ。

ち衢路に榜して曰く、名門故家、敵に脅從する者、及び豪俠大盜徒を聚め黨を結ぶ者、一切皆宥し、其自新を聽すと。令初めて下る。軍門、市の如し。秀吉進みて薩摩に入り、島津忠良を降す。

㈠城の外郭　㈡陣羽織　㈢遠く一隅にある國　㈣皆殺にす　㈤度量の狹小なるをしめすこととならん　㈥名家門閥のよき家　㈦をとこだて　㈧改心するものは罪を問はず

五月。進至ニ千代河ㇾ。河接ニ海港ㇾ。前所ㇾ發漕船盡湊焉。乃命ニ水軍將加藤嘉明脇坂

五月進みて、千代河に至る。河は海港に接す。前に發する所の漕船盡く湊る。乃ち水軍の將加藤嘉明・脇坂安治・九鬼嘉隆に命じて、浮梁を造らしめて軍を濟し、牙を太平寺に建て、軍營を環布し、池澤を堙め、丘阜を夷ぐ。方一里餘。中に門巷を開き、縱横四達す。遠近風を望みて潰ゆ。乃ち水軍の三將を遣し、桂忠昉

安治九鬼嘉隆。造二浮梁一濟レ軍。建二牙于大平寺一。環二布軍營一。塡二池濠一。夷二丘阜一。方二里餘。中開二門巷一。縱橫四達。遠近望レ風而潰。乃遣二水軍三將一攻三桂忠昉于二平佐一。脇坂安治先登。忠昉降。於レ是秀長以二日向故主伊東祐丘一爲二先鋒一。以二五萬人一自二日向一入。前田利長與二淺野彈正一。

を平佐に攻めしむ。脇坂安治先登す。忠昉降る。是に於て、秀長、日向の故主伊東祐丘を以て先鋒と爲して、五萬人を以て日向より入り、前田利長、淺野彈正と龍造寺政家を以て先鋒と爲して、五萬人を以て大隅より入る。家久、佐土原を以て降る。義弘退きて求麻に陣す。諸軍合して南下し、鹿兒島に臨む。島津氏の將佐、交々義久に勸めて降を乞はしむ。乃ち伊集院忠棟を遣し、秀長に因りて罪を謝す。秀吉曰く、吾れ初め不庭の臣を誅し、遺類なからしめんと欲す。吾れ聞く、島津氏は、源右大將の遠裔なりと。四百歲の名族、一日にして之を滅すは、吾れ亦忍びざるなり。其れ之を宥せと。義久大に喜び、髮を削り僧衣を被り、近臣五六人を從へ、太平寺に詣りて降る。秀吉延見し、温言を以て之を慰藉し、命じて義弘を以て嗣と爲さしむ。琉球國使を馳せて貢獻を修む。

㊀ 船ばし ㊁ 大將の旗 ㊂ をかなどを平ちかにす ㊃ もとの主人祐丘、丘或ひは兵或ひは隆とあり ㊄ 大將達 ㊅ 朝勤せざる臣 ㊆ 源頼朝 ㊇ 遠き末の子孫 ㊇ 法衣を着し ㊈ 親切なる言葉

以二龍造寺政家一爲二先鋒一。以二五萬人一自二大隅一入。家久以二佐土原一降。義弘退陣二求廳一。諸軍合而南下。臨レ於二鹿兒島一。島津氏將佐交勸二義久一乞レ降。乃遣二伊集院忠棟一因二秀長一謝レ罪。秀吉曰。昔初欲下誅二不庭之臣一。使上レ無二遺類一。吾聞島津氏。源右大將之遠裔也。四百歳名族。一日滅レ之。吾亦不レ忍也。其宥レ之。義久大喜。削レ髪被二僧衣一。從二近臣五六人一。詣二太平寺一降。秀吉延見。以二溫言一慰二藉之一。命以二義弘一爲レ嗣。琉球國馳レ使修二貢獻一。

七月。凱旋。至二太宰府一。盡收二九州質子一。大論二功罪一。令下島津氏因二故土一。領中薩摩大隅日向上。削二其侵地一。賜下肥後于二佐佐成政一。筑前于二小早川隆景一。豐前于二黒田孝高森勝信一。筑後于中

七月、凱旋して太宰府に至り、盡く九州の質子を收め、大に功罪を論ず。島津氏をして、故土（一）に因りて、薩摩・大隅・日向を領せしめ、其侵地（二）を削り、肥後を佐成政に、筑前を小早川隆景に、豐前を黒田孝高・森勝信に、筑後を毛利秀包・立花宗茂に賜ふ。而して大友義統・高橋統增・伊東祐兵・龍造寺政家皆舊領に復す。差〻增損あり。政家の族鍋島直茂をして國事を攝せしむ。政家、夭（三）するに及び、乃ち直茂を立つ。耳川の事、尾藤知定、秀長をして卽ち救はざらしめたり。因りて其讃岐を奪ひ、後に以て生駒親正に賜ふ。丹羽長重軍法を犯せり。因りて其若狹を奪ひ、之を淺野氏に賜ふ。阿蘇大宮司の邑を削り、彦山の僧徒を律（四）す。大村

毛利秀包立花宗茂上。而大友義統。高橋統增。伊東祐丘。龍造寺政家皆復二舊領一。差有二增損一。使三政家族鍋島直茂攝二國事一。及二政家夭一。乃立二直茂一。耳川之事。尾藤知定數三秀長不二即救一。因奪二其讃岐一。後以賜二生駒親正一。丹羽長重犯二軍法一。因奪二其若狹一。賜二之淺野氏一。削二阿蘇大宮司邑一。律二彥山僧徒一。大村氏私舍二西蠻妖賊一。奪二其長崎邑一。磔三賊二十餘人于二邑中一。使三鍋島氏監二外國互市一焉。禁二天主教一。遂大修二西海政令一。七月。復三命于二京師一。天皇遣三使郊二勞之一。八月。德川公自來賀二戰捷一。

氏、私に西蠻の妖賊を舍せり。其長崎の邑を奪ひ、賊二十餘人を邑中に磔し、鍋島氏をして外國の互市を監せしむ。天主教を禁じ、遂に大に西海の政令を修め、七月、京師に復命す。天皇使を遣して之を郊勞せしむ。八月、德川公、自ら來りて戰捷を賀す。

(一) もとの領土　(二) 攻取りたる領土　(三) 若死する　(四) 規則によつてとりしまる　(五) 西蠻の妖しき者即ち切支丹宗の族　(六) 通商　(七) まちはづれにてねぎらふ

是歲。西海諸侯皆就レ國。秀吉誡二成政一。善待二土豪一。勿レ擾二國民一。成政違レ

是の歲、西海の諸侯、皆國に就く。秀吉、成政を誡む。善く土豪を待し、國民を擾す勿れと。成政教に違ひ、土民皆叛く。年を踰えて粗〻定る。秀吉之を讓めて死を賜ひ、肥後を以て加藤清正、小西行長に分ち賜ふ。清正、主計頭と爲り、

教。土民皆叛。踰レ年粗定。秀吉讓レ之賜レ死。以二肥後一分一賜二加藤清正小西行長一。清正爲二主計頭一。行長爲二攝津守一。行長即彌九郎也。秀吉。謂二二人一曰。他日將レ有二以用一レ汝也。

行長攝津守と爲る。行長は即ち彌九郎なり。秀吉、二人に謂ひて曰く、他日(三)、將に以て汝を用ふる有らんとすと。

(一) 土地の豪族　(二) 一本に士とあり　(三) 後日

十六年。正月。秀吉遂奏請二臨幸一。時承二大亂之後一。典籍殘亡。乃令下前田玄以與二公卿一雜議上。用二足利義滿義教故事一。四月。十四日。天皇幸二聚樂第一。關白秀吉率二文武

十六年正月、秀吉遂に奏して臨幸(一)を請ふ。時に大亂の後を承けて、典籍殘亡(二)す。乃ち前田玄以をして、公卿と雜議せしむ。足利義滿・義教の故事を用ふ。四月十四日、天皇、聚樂の第に幸す。關白秀吉、文武百官を率ゐて扈從(三)す。扈從は、蓋し新典なり(四)。遠近縱觀す。父老或は流涕する者あり。曰く、吾が儕、行幸の儀あるを聞くこと久し。今親しく之を觀るを得たりと。即日享禮(五)を行ひ、伶人(六)をして、五常・太平の諸樂を奏せしむ。明日、秀吉早に盛服して出で、御座の右に侍し、盡く天下の牧伯(七)を召して、前に列せしむ。

百官扈ㇾ從。扈從者。盡新典也。遠近縱觀。父老或有流涕者曰。吾儕聞ㇾ有二行幸之儀一久矣。今得二親視一ㇾ之。卽日。行二享禮一。使三伶人奏二五常太平諸樂一。明日。秀吉早盛服出。侍二于御座之右一。盡召二天下牧伯一。使ㇾ列二於前一。

(一)みゆき　(二)書物などそこなはれなくなる　(三)ともす　(四)新らしき儀式　(五)饗應の禮　(六)樂人　(七)大小の諸侯

內大臣信雄。大納言家康。大納言秀長。中納言秀次。左近衞中將秀家。右近衞少將利家。侍從元親。侍從義統以下。以ㇾ次而進。盟曰。奉二戴皇恩一。竭二力王事一。莫二敢或一ㇾ怠。皇家之

內大臣信雄・大納言家康・大納言秀長・中納言秀次・左近衞中將秀家・右近衞少將利家・侍從元親・侍從義統以下、(一)次を以て進み、盟ひて曰く、皇恩を奉戴し、力を王事に竭し、敢て怠る或る莫し。皇家の邑、敢て侵す或る莫し。侵す者は相共に之を(二)誚責して子孫を戒囑し、敢て渝る或る莫し。關白の令する所、事大小と無く、敢て奉ぜざる或る(三)莫し。斯盟に違ふ所の者は、六十六州の神祇、大に之を譴(四)殛し、其家國を覆し、能く其祿を享くる莫らしめんと。明日、天皇、歌を賜ひ、關白以下、皆之に賡(五)ぐ。車駕駐ること五日にして、宮に還る。秀吉、京師の戸税を以て供御(六)に奉じ、其戸租を以て、上皇の湯沐(七)の邑と爲す。近

邑。莫二敢或一レ侵。侵者相共誚二責之一。戒二囑子孫一。莫二敢或一レ渝。關白所レ令。事無二大小一。莫二敢或一レ不レ奉。所レ違二斯盟一者。六十六州神祇。大罰二殛之一。覆二其家國一。莫三能享二其祿一。明日。宴二諸牧伯一。天皇賜レ歌。關白以下皆賡レ之。車駕駐五日。還レ宮。秀吉以二京師戸税一。奉二供御一。以二其戸租一爲二上皇湯沐邑一。以二近江高島郡一。充二廷臣采田一。凡金帛珍貴之獻。前後無レ算。九月。諭二毛利氏一。割二其出雲伯耆一。予二族吉川廣家一。廣家。元春子。元長弟也。十月。大張二茗燕于北野一。

江高島郡を以て廷臣の采田に充つ。凡て金帛珍貴の獻、前後算なし(八)。九月、毛利氏に諭し、其出雲・伯耆を割きて、族吉川廣家に予へしむ。廣家は、元春の子にして、元長の弟なり。十月、大に茗燕(九)を北野に張る。

(一) 順席を追うて　(二) なじりせむ　(三) 戒めをしふ　(四) ばちをあつ　(五) つけ歌をなす　(六) 御料の御膳　(七) 日常費に給するための料地　(八) 計へきれず　(九) 茶の會

十七年。五月。復分二金銀各三十六萬五千兩于二文武百官一。是時。秀吉威令幾遍二

十七年五月、復た金銀各〻三十六萬五千兩を、文武百官に分つ。是の時、秀吉の威令、幾ど天下に遍し、東北の豪傑、佐竹・里見・結城・那須・岩城・葦名・松前の諸侯、爭ひて使幣(一)を修む。秀吉、其私鬪を禁じ、之をして朝覲(二)せしむ。而して獨り北條氏政、關東八州に據り、伊達政宗、陸奥・出羽に據り、背て降らず。天子、

天下。東北豪傑。佐竹。里見。結城。那須。岩城。葦名。松前諸族。爭修二使幣一。秀吉禁二其私鬪一。使二之朝覲一。而獨北條氏政據二關東八州一。伊達政宗據二陸奥出羽一。不二肯降一。天子幸二聚樂一之次月。秀吉遣二富田知信津田信季一。赴二相摸一。諭二氏政一曰。吾子席二五世之勢一。擅有二八州一。而不レ修二朝貢一。不義。今天子新立。天下莫レ不二嚮歸一。吾子宜二速入覲一。氏政與二子氏直一議。不二敢堅對一。八月。氏政使二使來請一曰。眞田昌幸取二我沼田一。請令二昌幸還一レ之。然後入朝。諸將皆忿曰。氏政亡狀。請發レ兵討レ之。秀吉曰。未也。

聚樂に幸するの次月、秀吉、富田知信・津田信季を遣し、相摸に赴き、氏政を諭さしめて曰く、吾子、五世の勢に席り、擅に八州を有ちて、朝貢を修めず。不義なり。今、天子新に立つ。天下、(三)嚮歸せざるは莫し。吾子宜しく速かに入覲すべしと。氏政、子氏直と議して、敢て(四)堅對せず。八月、氏政使をして來り請はしめて曰く、眞田昌幸、我が沼田を取る。請ふ、昌幸をして之を還さしめよ。然る後に入朝せんと。諸將皆忿りて曰く、氏政(五)亡狀なり。請ふ、兵を發して之を討たんと。秀吉曰く、未だしと。

(一)使者を遣はし進物を贈る　(二)入朝　(三)服從せざるはなし　(四)はつきりとこたへず　(五)無禮

是年。七月。復使下知信信季就二昌幸一諭中之。昌幸奉レ命。致三沼田于二北條氏一。於レ是二使遂往二小田原一。趣二其入朝一曰。不レ朝則有レ罰。氏政與二其親族將領一議曰。我與レ彼相距遼遠。彼何輒來。且彼特能服二畿內西國一耳。古稱關八州可レ敵二天下一。且箱根天險也。彼果來乎。我以二八州勁

是の年七月、復た知信・信季をして、昌幸に就きて之を諭さしむ。昌幸、命を奉じ、沼田を北條氏に致す。是に於て、二使遂に小田原に往き、其入朝を趣して曰く、朝せずんば則ち罰あらんと。氏政、其親族將領と議して曰く、我と彼と相距ること遼遠(一)なり。彼れ何ぞ輒ち來らん。且つ彼れ特に能く畿內西國を服するのみ。古稱す、關八州は天下に敵すべしと。且つ箱根は天險(二)なり。彼れ果して來らんか、我れ八州の勁兵(三)を以て、諸を箱根に要せば、彼れ何ぞ能く爲さん。在昔平氏、大軍を發して來りて源氏を攻め、富士川に至り、鵝鴨の起るを聞きて、遂に恇怯(四)して潰ゆ。關白も亦此の如きのみと。乃ち使者に禮せず。使者、微に其言を聞き、歸りて秀吉に報ず。秀吉怒りて曰く、氏政、吾を以て平惟盛に比するか。吾れ將に之に我が技倆(五)を示さんとすと。德川公、數〻氏政に入朝を勸む。肯ぜず。

(一) 遠くはるかなり　(二) 自然の險阻の地なり　(三) 強兵　(四) をぢおそる　(五) 腕前

兵。要二諸箱根一。彼何能爲。在昔平氏。發二大軍一來攻二源氏一。至二富士川一。聞二鵝鴨起一。遂恇悸而潰。爾白亦如レ此爾。乃不レ禮二使者一。使者微二其言一。歸報二秀吉一。秀吉怒曰。氏政以レ吾比二平維盛一邪。吾將レ示二之我技倆一也。德川公數勸二氏政入朝一。不レ肯。

是歲。伊達政宗滅二葦名氏一。并二會津四郡一。滅二二階堂氏一。并二仙道七郡一。佐竹岩城諸族討レ之。皆敗。秀吉使三使責二讓政宗一。命二其入朝一。政宗亦不レ肯。十月。眞田昌幸來告曰。沼田有二那胡桃城一。爲二臣墳墓之地一。北條氏將守二沼田一者。欲二遂取一

是の歲、伊達政宗、葦名氏を滅して、會津四郡を并せ、二階堂氏を滅して、仙道七郡を并す。佐竹・岩城の諸族、之を討ちて、皆敗る。秀吉、使をして政宗を責讓(一)せしめ、其入朝を命ず。政宗も亦肯ぜず。十月、眞田昌幸來り告げて曰く、沼田に那胡桃城有り。臣が墳墓(二)の地たり。北條氏の將沼田を守る者、遂に之を取らんと欲す。臣曰く、殿下(三)、命じて沼田を致さしむ。未だ那胡桃を致すを聞かずと。彼れ聽かず。遂に之を攻め取る。敢て告ぐと。秀吉大に怒り、遂に奏して氏政を討たんと請ふ。氏政の使者石卷康昌京師に在り。懼れて之を陳謝(四)す。秀吉聽かず。康昌を相摸に押送し、書を氏政に遺り、之と絕ちて曰く、秀吉微賤より起り、先右府(五)の拔擢する所と爲り、攻城野戰功を弓馬の間に立つ。既にして變故に遇ひ、兵を提げて東上し、逆臣を誅夷(六)して、以て古府の恩恪(七)に答へ、遂に太政

命致二沼田一。未レ聞レ致二那胡桃一也。不レ聽。遂攻二取之一。敢告。秀吉大怒。遂奏請レ討二氏政一。氏政使者石卷康昌在二京師一。懼。陳二謝之一。秀吉不レ聽。押二送康昌相摸一。遺二書氏政一。絕レ之曰。秀吉起二微賤一。爲三先右府所二拔擢一。攻城野戰立二功弓馬之間一。既而遇二變故一提レ兵東上。誅二夷逆臣一。以答二右府恩眷一。遂忝二太政之任一。佐二天子一以定二亂逆一。叛者伐。服者撫。七道豪傑無レ不レ從二我所一レ麾。汝氏政。負レ險恃レ力。敢不レ修二朝貢一。狡詐貪婪。輕二

の任を忝くし、天子を佐けて亂逆を定む。叛する者は伐ち、服する者は撫す。七道の豪傑我が麾する所に從はざるは無し。汝氏政、險を負み、力を恃み、敢て朝貢を修めず。(八)狡詐貪婪、天子の命を輕蔑す。夫れ天地の際、一たび詔勅に違ふ者ありて、而して誅討に漏るゝは、秀吉之を恥づ。乃の城池を修め、乃の甲兵を厲げ。明年、吾れ將に王節を操り、諸軍を率ゐて、以て汝氏政の罪を正さんとすと。書、相摸に至る。氏政以て意を爲さず。曰く、彼れ(九)虛聲を以て我を脅さんと欲す。彼れ誠に來らんに、大擧せば則ち食少からん。小擧せば則ち力少からん。是れ與し易きのみと。(一〇)

(一) せめとふ (二) 先祖のはかのある處なり (三) 秀吉 (四) わびをいふ (五) 信長 (六) 討ち殺す (七) 恩を施し目をかく (八) 惡さかしく誠實なくみだりにむさぼる (九) 大袈裟に見せかけおどすこと (一〇) 相手にしやすきのみ

蔑二天子之命一。夫天地之際。一有下違二詔勅一者上。而漏二於誅討一。秀吉恥レ之。修二乃城池一。厲二乃甲兵一。明年。吾將操二王節一。率二諸軍一。以正中汝氏政之罪上。書至二相摸一。氏政不下以爲上レ意。曰。彼欲下以二虚聲一劫上レ我。彼誠來。大擧則少レ食。小擧則少レ力。是易レ與耳。

秀吉遂令二駿河越後以西四十五國一發レ兵。以二明年三月一。會二京師一。其遠二京師一者。使下道直赴二關東一。命二長束正家一。運二粟二十萬石一至二駿河一。又出二金一萬枚一。糴二於海道諸國一。時海路久絶。民皆憚二風濤之險一。曰。海龍王爲レ祟。秀吉笑曰。吾受二王命一。討二不庭一。何物龍王。敢得レ沮レ我也。作レ檄授レ之。投レ

秀吉遂に駿河・越後以西の四十五國に令し、兵を發して、明年三月を以て、京師に會し、其の京師に遠きものは、便道(一)より直に關東に赴かしむ。長束正家に命じて、粟二十萬石を運びて駿河に至らしむ。又金一萬枚を出し、海道諸國に糴す。時に海路久しく絶え、民皆風濤(二)の險を憚る。曰く、海龍王、祟を爲すと。秀吉笑ひて曰く、吾れ王命を受け、不庭を討つ、何物の龍王ぞ、敢て我を沮むを得んやと。檄(三)を作りて之を授け、海に投じて進ましむ。水軍の三將と長曾我部元親とをして、糧舶(四)を護して以て東せしむ。

(一) 都合よき道路 (二) 風浪 (三) 檄文 (四) 兵粮を積みたる船

海而進。使下水軍三將與二長曾我部元親一䜟二糧船一以東上。

十二月。徳川公來請二約束一。氏直因レ公謝レ罪。請二入朝一。秀吉弗レ許。於レ是會二徳川公以下將帥一。開二關東地圖一。指畫部署。眞田昌幸素與二徳川公一惡。時在二下坐一。不レ得レ窺レ圖。秀吉呼前レ之曰。吾以二家康一爲二海道先鋒一。以レ汝爲二山道先鋒一。昌幸感喜。退而謂レ人曰。得二殿下一言一。多レ於レ得二百萬封一矣。

十二月、徳川公、來りて約束を請ふ。氏直、公に因りて罪を謝し、入朝を請ふ。秀吉許さず。是に於て、徳川公以下の將帥を會し、關東の地圖を開き、指畫(一)部署す。眞田昌幸素より徳川公と惡し。時に下坐に在り。圖を窺ふを得ず(二)。秀吉、呼びて之を前めて曰く、吾れ家康を以て海道の先鋒と爲し、汝を以て山道の先鋒と爲すと。昌幸感喜し、退きて人に謂ひて曰く、殿下の一言を得たるは、百萬の封を得るに多ると。

(一) 示しはかりて手分す (二) 地圖をうかゞひ見ることを得ず

十八年。正月。

十八年正月、徳川公、其嗣子(三)を送りて質と爲す。秀吉、之に姓を羽柴氏と賜ひ

徳川公遣ニ其嗣子一爲レ質。秀吉賜ニ之姓羽柴氏一。名ニ秀忠一。遣ニ歸之一曰。卿以下其與ニ氏直一有上レ姻焉乎。吾何疑レ卿哉。徳川公乃空ニ海道諸城一。除レ道供帳以待。二月。秀吉召ニ毛利輝元一守ニ京師一。弟秀長守ニ大坂一。令下徳川北畠前田上杉諸將以ニ其兵一先發上。三月。朔。自戎服入朝。受ニ節刀于レ陛。拜辭。起出レ闕上レ馬。率ニ騎卒十七萬一而東。部伍整肅。鎧仗鮮明。使ニ士民縱ニ觀之一。

秀忠と名づけ、之を遣歸(二)して曰く、卿は其の氏直と姻ある(三)を以てか。吾れ何ぞ卿を疑はんやと。徳川公乃ち海道の諸城を空しくし、道を除(四)して供帳(五)して以て待つ。二月、秀吉、毛利輝元を召して京師を守らせ、弟秀長に大坂を守らす。徳川、北畠、前田、上杉の諸將をして、其兵を以て先づ發せしむ。三月朔、自ら戎服(六)して入朝し、節刀を陛(七)に受け、拜辭し、起ちて闕を出でて馬に上り、騎卒十七萬を率ゐて東す。部伍整肅(八)、鎧仗鮮明(九)なり。士民をして之を縱觀せしむ。

(一) 世嗣の子 (二) やりかへす (三) 姻戚の關係あるを以て (四) 掃除 (五) 接待の設けをして (六) 軍服をつけて (七) きざはし (八) 各部の隊伍を整へる (九) 鎧兵器など美し

氏政盡召ニ八州城主一。集ニ于小田原一。遣ニ親

氏政、盡く八州の城主を召して、小田原に集め、親信の將帥を遣して、箱根の諸城を拒ぎ、兵數萬を以て其後を守らしむ。二十七日、秀吉、沼津に至り、明

信將師。拒二箱根諸城一。以二兵數萬一守二其後一。二十七日。秀吉至二沼津一。明日。自上レ山。候二視敵城寨一。卽夜。下レ令。令下秀次以二五萬一攻二山中一。信雄以二三萬一攻二韮山一。而德川公以二二萬五千一直踰中箱根上。明日。諸將蓐食並發。秀次以二中村一氏一爲二先鋒一。令三徙レ陣近二城。城上銃丸雨注。一柳直

日、自ら山に上りて、敵の城寨を候視し(一)、卽夜、令を下して、秀次をして五萬を以て山中を攻め、信雄をして三萬を以て韮山を攻め、而して德川公に二萬五千を以て直に箱根を踰えしむ。明日、諸將、蓐食(二)して並に發す。秀次、中村一氏を以て先鋒と爲し、陣を徙して城に近づかしむ。城上より銃丸雨注す(三)。一柳直末之に死す。一氏、衆を麾し、攻めて其郭(四)を破り、敵將間宮好高を斬り、進みて内城に薄る。其騎士渡部了、堞(五)を攀ぢて上る。秀次乃ち軍を麾きて齊しく登らしめ、城將北條氏勝を走らす。信雄も亦韮山の郭を破る。德川公、三城を陷れ、酒匂に至る。戍兵皆潰ゆ。四月、秀吉諸軍を率ゐて小田原に抵り、牙を石垣山に建て、夜、萬卒に令して城を築かしめ、紙を壁に糊す(六)。之を望むに堊(七)の如し。城兵驚きて神と爲す(八)。

(一) うかゞひみる (二) 早朝に食事し (三) 雨の如くはげしく打出す (四) 一本に郛とあり、城の外部 (五) 城上の牆 (六) 紙を壁に張る (七) 白色の壁 (八) 人間にあらずして神なりと評す

未レ死レ之。一氏厲レ衆。攻二破其郭一。斬二敵將間宮好高一。進薄二内城一。其騎士渡部了攀レ堞而上。秀次乃麾レ軍齊登。走二城將北條氏勝一。信雄亦破二韮山郭一。德川公陷二三城一。至二酒勾一。戍兵皆潰。四月。秀吉率二諸軍一抵二小田原一。建二牙于石垣山一。夜令二萬卒一築レ城焉。糊二紙于壁一。望レ之如レ堊。城兵驚以爲レ神。

秀吉攜二德川公一登二城樓一。下視曰。關東八州。在二我目中一。不レ日取以予レ卿耳。德川公拜曰。幸甚。秀吉附二其耳一語曰。卿亦居二小田原一乎。曰。然。秀吉曰。不可。我嘗觀二地圖一。自レ此迤東可二二十里一。有レ地曰二江戸一。襟二帶

秀吉、德川公を攜へて城樓に登り、下視して曰く、關東八州、我が目中にあり、日ならずして取りて以て卿に予へんのみと。德川公、拜して曰く、幸甚だしと。秀吉其耳に附き、語りて曰く、卿も亦小田原に居るかと。曰く、然りと。秀吉曰く、不可なり。我れ嘗て地圖を觀るに、此より迤に東二十里可に、地有り江戸と曰ふ。山海を襟帶し、地濶く土肥ゆ。卿、宜しく此に居るべしと。德川公曰く、謹みて敎(一)を奉ぜんと。是に於て、諸軍に令して城を圍ましむること數重なり。水軍の將士、又沿海(二)の諸城を破りて來り會す。上杉景勝・前田利家、北陸の兵三萬を將ゐ、眞田(三)昌幸を以て先鋒と爲して、上野に入る。大導寺政繁、松枝を以て降り、導きて武藏に入り、七城を下し、鉢形(四)を攻む。秀吉、淺野彈正少

山海。地潤土肥。卿宜居此。德川公曰。謹奉教。於是令諸軍圍城數重。水軍將士。又破沿海諸城而來會焉。上杉景勝。前田利家。將北陸兵三萬。以眞田昌幸爲先鋒。入上野。大導寺政繁以松枝降。導入武藏。下七城。攻鉢形。秀吉遣淺野彈正少弼木村常陸介助之。二將別徇武藏。攻岩築。淺野氏嗣子幸長。稱左京大夫。甫十五。先登。遂拔之。

弼・木村常陸介を遣して之を助けしむ。二將、別に武藏を徇へ、岩築を攻む。淺野氏の嗣子幸長、左京大夫と稱す。甫めて、十五先登して、遂に之を拔く。

(一) 山を襟にし海を帶にす　(二) 仰せの通りにせん　(三) 海邊　(四) 城の名

二將遂徇上野。至二總安房。一月下六十餘城。而小田原固守不下。有流言曰。德川織田通款城中。衆情疑懼。秀吉卽從近臣數人。

二將、遂に上野を徇へ、二總・安房に至り、一月に六十餘城を下す。而して小田原固く守りて下らず。流言(一)有り、曰く、徳川・織田、款を城中に通ずと。衆情疑懼(二)す。秀吉卽ち近臣數人を從へ、信雄と倶に徳川氏の營に飲み、明日、徳川公と倶に織田氏の營に飲む。衆疑卽ち釋く。遂に諸軍に令して戰を休め、長圍を築き、更番(四)に游息(三)し、海道の妓樂(五)を徵し、酒を置きて高會(六)す。秀吉、徳川公以下と、歌詞を造りて之に被ふ。讙呼晝夜を連ねて、以て據久(七)の意を示す。城兵大に困し

與ニ信雄一倶飲レ于ニ德川氏營一。明日。與ニ德川公一倶飲ニ于織田氏營一。衆疑即釋。遂令ニ諸軍一休レ戰。築ニ長圍一。更番游息。徴ニ海道妓樂一。置レ酒高會。秀吉與ニ德川公以下一。造ニ歌詞一被レ之。讙呼連ニ晝夜一。以示ニ持久之意一。城兵大困。德川公初度ニ大衆久屯。穀價必騰一。私命ニ其吏一。多蓄ニ糧餉一。已而長束正家掌ニ漕轉一。米粟狼戻。乃服ニ秀吉善用レ人也。

む。德川公、初め大衆久しく屯し、穀價必ず騰るを度り、私に其吏に命じて、多く糧餉を蓄へしむ。已にして長束正家、(八)漕轉を掌り、(九)米粟狼戻す。乃ち秀吉の善く人を用ふるに服す。

㊀いひふらし ㊁諸人の心 ㊂諸人の疑ひ直ちにとける ㊃かはりばんに遊びやすむ ㊄藝者 ㊅盛なる酒宴 ㊆持久戰をなす意を見す ㊇もちはこび ㊈食料有り餘りて十分なり

當ニ是時一。豐臣氏軍。環レ城而陣者。幾三十萬。山陵林麓。莫レ非レ兵者一。關以東望レ風降

是の時に當りて、豐臣氏の軍、城を環りて陣する者、幾ど三十萬なり。山陵林麓兵に非ざる者莫し。關以東、(一)風を望みて降附す。相馬・秋田・南部・津輕の諸族、或は謁を軍門に執り、或は使をして幣を納れしめ、(二)項背相望む。伊達政宗、人をして形勢を覗はしむ。還り報ず。則ち大に懼れ、乃ち昔て使幣を修め、德川

附。相馬。秋田南部。津輕諸族。或執二謁軍門一。或使二使納レ幣。項背相望。伊達政宗使三人覘二形勢一。還報。則大懼。乃背修二使幣一。就二德川氏一乞レ降。德川公戒二使者一曰。不レ可レ不二亟來謁一。六月。政宗與二百餘騎一入二下野一。路塞不レ得レ通。遂由二越後信濃一。間行至二箱根一。請レ謁二秀吉一。秀吉問二謁者一曰。

氏に就きて降を乞ふ。德川公使者を戒めて曰く、亟かに來り謁せざる可からずと。六月、政宗、百餘騎と下野に入る。路塞りて通ずるを得ず。還りて越後・信濃より、（三）間行して箱根に至り、秀吉に謁せんと請ふ。秀吉、（四）謁者に問ひて曰く、政宗の（五）狀貌は如何と。曰く、齡二十歲可、眇にして被髮す。奇偉甚だしと。秀吉輒く見るを許さず。人をして之を詰責せしめて曰く、吾れ王命を受けて、天下を經略す。（六）遐方絕域の人と雖も、來歸せざるは莫し。汝、東北に屈強して、兵數萬を擁し、未だ嘗て（七）一介の使を發せず。葦名義廣、心を王室に歸す。而して汝、擅に之を攻む。是れ何の故ぞ。政宗、答へて曰く、義廣、臣の叛將を納れ、佐竹・岩城を結びて、以て臣を滅さんと圖る。臣、二本松氏を討ちて以て父を仇を復せんと欲す。又義廣の拒ぐ所と爲る。故に臣、日夜攻擊し、終に之に克つを得たり。臣、敵中に在りて、四方の事を知らず。殿下の東伐に及び、然る後に天下の歸する所あるを知る。是を以て來り謁すと。

政宗狀貌如何。曰。齡可二十歲一。眇而被髮。奇偉甚。秀吉不レ許二輒見一。使三人詰二責之一曰。吾受二王命一。經二略天下一。雖二遐方絕域之人一。莫レ不二來歸一。汝屈二强東北一。擁二兵數萬一。未三嘗發二一介之使一。慕二名義一。虞歸二心王室一。而汝擅攻レ之。是何故。政宗答曰。義廣納二臣之叛將一。結二佐竹岩城一以圖レ滅レ臣。臣欲レ討二二本松氏一以復中父仇上。父爲二義廣所レ拒。故臣日夜攻擊。終得レ克レ之。臣在二敵中一。不レ知二四方事一。及二殿下東伐一。然後知二天下有レ所レ歸也。是以來謁。

(一) 威風の盛なるを望みて (二) 來る者連續す (三) ひそかに行く (四) 取次の者 (五) すがたかたち (六) 遠き果ての國 (七) 一人

秀吉又使レ言レ之曰。汝之所レ陣。果無レ僭也。則盡獻二所レ侵會津仙道之地一耳。不則亟歸二汝國一。徐修二守備一。吾討二滅北條氏一。然後見三汝於二戎馬

秀吉、又之に言はしめて曰く、汝の陣する所、果して僭なくば、則ち盡く侵す所の會津・仙道の地を獻ぜんのみ。不らずんば則ち亟かに汝の國に歸り、徐に守備を修めよ。吾れ北條氏を討滅して、然る後に汝を戎馬の間に見んと。政宗曰く、臣の生死は唯殿下の令のまゝなり。況や邑土をやと。其使地を致す。乃ち入見す。秀吉、便服して坐し、之を慰勞し、問ひて曰く、卿、陸奧に在りて幾たびか戰ふと。曰く、三十餘戰すと。秀吉曰く、是れ村巷の小鬪のみ。意ふに未だ

之間一也。政宗曰。臣生死唯殿下之令。況邑土乎。致二其侵地一。乃入見。秀吉便服而坐。慰二勞之一。問曰。卿在二陸奥一幾戰。曰。三十餘戰。秀吉曰。是村巷小鬪耳。意未レ知下部二勒大兵一之法上也。因起。引二政宗一而出。下二臨廣壑一。秀吉在レ前。指示曰。彼畿內軍也。彼坂以西軍也。彼海道軍也。政宗唯唯。莫二敢仰視一。既罷。遣歸。諸將交勸レ留レ之不レ遣。曰。遣レ之。是猶レ縱二虎於レ野已。秀吉哂曰。吾不レ用二寸兵一。而取二五十四郡一。非二汝輩所レ知也。政宗退謂レ人曰。關白天威也。遂去之レ國。

大兵を部勒(五)するの法を知らざらんと。因りて起ちて、政宗を引きて出で、廣壑(六)を下臨す。秀吉、前に在りて、指示して曰く、彼は畿內の軍なり。彼は坂以西の軍なり、彼は海道の軍なりと。政宗、唯唯(七)、敢て仰ぎ視る莫し。既にして罷めて、遣歸す。諸將、交〻之を留めて遣らざるを勸む。曰く、之を遣るは、是れ猶ほ虎を野に縱つがごときのみと。秀吉哂ひて曰く、吾れ寸兵(八)を用ひずして、五十四郡を取る。汝が輩の知る所に非ざるなりと。政宗退きて人に謂ひて曰く、關白は天(九)威なりと。遂に去りて國に行く。

(一) 戰場 (二) 他領分を侵し得たる土地 (三) 平常の服 (四) 村里 (五) 分ちとゝのふる (六) 廣きたに (七) はいはいといふ (八) 少しの兵 (九) 天より與へられたる威光

石田三成。大谷吉隆。長束正家等。於レ是攻二降館林一。遂攻二忍城一。城將成田長康在二小田原一。其兵留守不レ下。秀吉令二彈正少弼父子助攻一。終降レ之。景勝利家亦降二鉢形以下諸城一。并二降附五萬人一來謁。秀吉不二甚賞一。二人頗嗛レ之。秀吉謂二近臣一曰。二人非レ無レ功。然降輒受レ之。不レ足レ稱二勤勞一。或降或居。恩威並行。然後可レ賞耳。二人聞レ之復發。居二八王子城一。還效二首級一。秀吉乃賞レ之。

石田三成・大谷吉隆・長束正家等、是に於て、館林を攻め降し、遂に忍城を攻む。城將成田長康、小田原に在り。其兵、留守して下らず。秀吉、彈正少弼父子をして助け攻めしめて、終に之を降す。景勝・利家も亦、鉢形以下の諸城を降して、降附五萬人を并せて來り謁す。秀吉、甚だ賞せず。二人頗る之に嗛らず(一)。秀吉、近臣に謂ひて曰く、二人、功無きに非ず。然れども降れば輒ち之を受く。勤勞(二)と稱するに足らず。或は降し或は居り、恩威並び行ひ、然る後に賞すべきのみと。二人、之を聞きて復た發し、八王子城を屠り、還りて首級を效す。秀吉乃ち之を賞す。

(一) 不滿に思ふ　(二) つとめはねをる

於レ是八州諸

是に於て、八州の諸城、大半皆破れて、其將士、小田原城内に在り。我が兵、

城大半皆破。而其將士在二小田原城内一。我兵虜二其父母妻子一視レ之。將士逃降相踵。我侍史山中某。與二成田長康一善。秀吉命陰以レ書招レ之。長康乃送レ款。秀吉使下德川公以二其降書一遣中氏直上曰。子之將帥。皆有二貳心一。事已危迫。子盍二早自爲一レ計。氏直與二氏政一議。召二長康一。不レ至。乃環二柵長康營一。置レ兵監護。自レ是城内人人相疑。秀吉遣二黑田孝高羽柴勝雅一入レ城。見二氏政父子一。説以二禍福一。氏政不レ肯。

其父母妻子を虜にして之を視す。將士の逃降相踵ぐ。(一)我が侍史山中某、成田長康と善し。秀吉、命じて陰かに書を以て之を招かしむ。長康乃ち款を送る。秀吉、德川公をして、其降書を以て氏直に遺らしめて曰く、子の將帥、皆貳心(二)有り。事已に危迫す。子、盍ぞ早く自ら計を爲さざると。氏直、氏政と議し、長康を召す。至らず。乃ち柵を長康の營に環し、兵を置きて監護(三)す。是より城内の人人相疑ふ。秀吉、黑田孝高・羽柴勝雅を遣して城に入り、氏政父子を見て、説くに禍福を以てせしむ、氏政肯ぜず。

(一) 逃げて降參する者引續く　(二) ふたごころ　(三) 見張らしむ

七月。氏直遂出。就二德川氏

七月、氏直、遂に出でて、德川氏の營に就きて降を乞ふ。德川氏、嫌(一)を避けて敢

營一乞レ降。德川氏避レ嫌不二敢通一。使三之因二勝雅一。勝雅以告。秀吉許レ之。使二氏政致レ城而出一。因謂二諸將一曰。吾此行。欲レ誅二不庭之臣一。今而釋レ之。是失二信天下一也。吾欲下誅二氏政一而釋中其餘上。諸將曰。善。乃遣二使者四輩一。就二氏政舍一賜レ死。秀吉覽二其首一。罵曰。汝輕二蔑王命一。敢笑二侮我一。今如何也。使三石田三成齎二之京師一。梟レ于二一條戾橋一。氏規聞二小田原既下一。亦以二韮山一降。乃

て通せず。之をして勝雅に因らしむ。勝雅、以て告ぐ。秀吉、之を許し、氏政をして城を致して出でしむ。因りて諸將に謂ひて曰く、吾が此行、不庭(二)の臣を誅せんと欲す。今にして之を釋すは、是れ信を天下に失ふなり。吾れ氏政を誅して其餘を釋さんと欲すと。諸將曰く、善しと。乃ち使者四輩を遣し、氏政の舍に就きて死を賜ふ。秀吉、其首を覽て、罵りて曰く、汝、王命を輕蔑(三)し、敢て我を笑侮す。今如何と。石田三成をして之を京師に齎さしめ、一條の戾橋に梟す。氏規、小田原既に下ると聞き、亦韮山を以て降る。乃ち氏直・氏規等の三十人を高野に縱ちて、俸(四)百口を給し、尋ぎて萬石を給す。乃ち北條氏の故地八國を擧げて、以て德川氏に賜ひ、別に十萬石を以て、其湯沐(五)の邑と爲す。德川氏の故地五國を擧げて、以て信雄に賜ふ。信雄肯て受けず。

(一) 嫌疑の掛るをさけ　(二) 朝廷に從はざる臣　(三) かろしめて　(四) 百人扶持　(五) 日常費用の領地

縱三氏直氏規等三十人于二高野一。給二俸百口一。尋給二萬石一。乃擧二北條氏故地八國一。以賜二德川氏一。別以二十萬石一。爲二其湯沐邑一。擧二德川氏故地五國一。以賜二信雄一。信雄不二肯受一。

秀吉怒曰。卿才不レ可レ爲二民上一。吾特以二先右府之子一也。欲二厚封レ之。卿乃薄レ之乎。乃放二之秋田一。賜下駿河于二中村一氏一。甲斐于二加藤光泰一。尾張及北伊勢五郡于二秀次一。參河于二池田輝政田中吉政一。遠江于二堀尾吉晴山内一豐有馬豐氏一。信濃于中森忠政石川數正仙石秀久上。論二關東諸豪功罪一。黜二陟之一。執二大導寺政繁一。詰レ之曰。汝以二北條氏舊將一。而首降レ於我。我之功臣。乃北條氏之叛臣。叛

秀吉怒りて曰く、卿の才は民の上と爲る可からず。吾れ特に先右府(一)の子なるを以て、厚く之を封ぜん(二)と欲す。卿乃ち之を薄し(三)とするかと。乃ち之を秋田に放ち、駿河を中村一氏に、甲斐を加藤光泰に、尾張及び北伊勢の五郡を秀次に、參河を池田輝政・田中吉政に、遠江を堀尾吉晴・山内一豐・有馬豐氏に、信濃を森忠政・石川數正・仙石秀久に賜ふ。關東諸豪の功罪を論じ、之を黜陟(四)す。大導寺政繁を執へ、之を詰めて曰く、汝、北條氏の舊將を以て、首として我に降る。我の功臣は、乃ち北條氏の叛臣なり。叛臣は天下の罪人なり。吾れ私に釋す能はずと。乃ち之を櫻田に誅す。

(一) 信長　(二) 封土を賜ふと　(三) 領地を少しとするかと　(四) しりぞくるとのぼすと

臣。天下罪人。吾不能私釋焉。乃誅之于櫻田。

遂引兵東下。至宇都宮。伊達政宗南部信直等皆迎謁焉。八月。至白河。命淺野彈正少弼大谷吉隆石田三成。撿陸奥出羽地。問諸謀臣曰。吾欲擇一將鎭撫東北。卿等皆陳所見。衆所對各異。秀吉曰。皆非也。非蒲生氏鄕無可者。賜氏鄕以會津仙道十一郡。以葛西大崎賜木村秀俊。政宗因故士賜米澤長井。謂氏鄕曰。爲我守東門。因指授方略。戒德川前田上杉氏爲之應援。

遂に兵を引きて東下し、宇都宮に至る。伊達政宗・南部信直等、皆迎謁す。(一)八月、白河に至り、淺野彈正少弼・大谷吉隆・石田三成に命じ、陸奥・出羽の地を撿せしめ、諸謀臣に問ひて曰く、吾れ一將を擇びて東北を鎭撫(二)せしめんと欲す。卿等、皆見る所を陳べよと。衆對ふる所各〻異なり。秀吉曰く、皆非なり。蒲生氏鄕に非ずんば可なるもの無しと。氏鄕に賜ふに會津・仙道の十一郡を以てす。葛西・大崎を以て木村秀俊に賜ふ。政宗には故土に因りて米澤・長井を賜ふ。氏鄕に謂ひて曰く、我が爲に東門を守れと。因りて(三)方略を指授し、德川・前田・上杉氏を戒めて之が應援を爲さしむ。

(一) 出迎へてまみゆ　(二) しづめをさむ　(三) てだて

終整二諸軍一。凱旋至二岡崎一。吉川廣家受レ命守焉。則迎饗レ之。明日。以二鞍馬三百餘匹一送二秀吉一。秀吉擇二黑馬一騎焉。屏二其徒御一。獨吉川氏卒栗棲武格者爲二之閽一。行入二尾張一。秀吉指二路傍聚落一。謂二武格一曰。此名二中邑一。吾所二生長一也。吾欲二一往觀一。汝能從レ我乎。武格曰。謹諾。於レ是。秀吉

終に諸軍を整へ、凱旋して岡崎に至る。吉川廣家、命を受けて守る。則ち迎へて之を饗す。明日、鞍馬(一)三百餘匹を以て秀吉に送る。秀吉、黑馬を擇びて騎し、其徒御(二)を屏け、獨り吉川氏の卒栗棲武格といふもの之を閽(三)と爲し、行きて尾張に入る。秀吉、路傍の聚落(四)を指し、武格に謂ひて曰く、此を中邑と名づく。吾が生長せし所なり。吾れ一たび往きて觀んと欲す。汝能く我に從ふかと。武格曰く、謹諾(五)すと。是に於て、秀吉、騎して中邑に入り、武格を閭首(六)に留めて入り、街巷を周馳(七)し、出でて、遂に邑中の父老を召し、笑ひて曰く、我は藤吉なりと。父老皆惶恐俯伏す。秀吉曰く、吾が少時に比すれば、邑閭(八)甚だ整ひ、戸口も亦滋息(九)するに似たりと。因りて之に酒及び物を賜ひ、與に舊故を語りて去る。九月、京師に復命す。

(一) 鞍置たる馬　(二) 徒歩の從者及び御者　(三) 馬丁　(四) 村里　(五) かしこまりました　(六) 村の入口　(七) かけめぐり　(八) 村里　(九) 增し殖ゆ

騎入中邑。留武格于閭首而入。周馳街巷。出。遂召邑中父老。笑曰。我藤吉也。父老皆惶恐俯伏。秀吉曰。比吾少時。邑閭甚整。戸口亦似滋息也。因賜之酒及物。與語舊故而去。九月。復命於京師。於是東國盡定。而伊達政宗心懷觖望。陰誘土兵作亂。少弼豫度陸奥必亂。造十餘砦。留兵守之而西。大谷吉隆猶留。撿田甚急。十月。土兵四起。葛西大崎亦苦秀俊之政。叛。攻其城。秀俊走。保佐沼。告急於氏郷。氏郷即發。會

是に於て、東國盡く定る。而して伊達政宗、心に觖望を懷き、陰かに土兵を誘ひて亂を作す。少弼、豫め陸奥必ず亂るゝを度り、十餘砦を造り、兵を留めて之を守らしめて西す。大谷吉隆猶ほ留り、田を撿すること甚だ急なり。十月、土兵四に起る。葛西・大崎も亦秀俊の政に苦しみ、叛きて、其城を攻む。秀俊走りて、佐沼を保ち、急を氏郷に告ぐ。氏郷即ち發す。雪ふるに會ひ、橫行して井繩に至り、政宗の異心あるを察し、人を遣して促して師に會せしむ。政宗、已むを得ず、出でて吉岡に次す。氏郷、身ら其陣に往き、事を面議す。政宗、大に驚く。氏郷、賊の二壘を破り、勝に乘じて進む。政宗、疾と稱して從はず。氏郷、行く陣を布きて以て之に備へ、進みて名生の壘を破る。政宗、追躡し、其陣の堅きを視て、敢て撃たず。氏郷乃ち秀俊を迎へ、之を名生に置く。政宗數〻他なきを謝

雪。橋行至ニ井綱。察ニ政宗有ニ異心。遣レ人促使レ會レ師。政宗不レ得レ已。出次ニ吉岡。氏郷身往ニ其陣。面ニ議事。政宗大驚。氏郷破ニ賊二壘一。乘レ勝而進。政宗稱レ疾不レ從。氏郷行布レ陣以備レ之。進破ニ名生壘一。政宗追躡。視ニ其陣堅。不ニ敢擊一。氏郷乃迎ニ秀俊。置ニ之名生。政宗數謝レ無レ他。氏郷使ニ立レ功自效一。乃攻下ニ宮崎城。賊黨悉潰。少弼時至ニ駿河。聞レ亂卽還。十二月。氏郷欲レ歸。而慮ニ政宗有レ變。少弼乃令ニ政宗納レ質。

す。氏郷、功を立てて自ら效さしむ。乃ち攻めて宮崎城を下す。賊黨悉く潰ゆ。少弼、時に駿河に至り、亂を聞きて卽ち還る。十二月、氏郷歸らんと欲して、政宗の變あるを慮る。少弼乃ち政宗をして質を納れしむ。

㈠ 不滿足　㈡ 淺野彈正少弼　㈢ そりにのりて行く　㈣ 面會して相談す　㈤ 後をつけて行く

十九年。正月。氏郷取ニ其質一還ニ會津一。秀吉得ニ警報一。遣ニ秀次一赴討。使下石田三成促ニ德川公一會上レ師。聞ニ氏郷已定一レ亂。

十九年正月、氏郷、其質を取りて會津に還る。秀吉警報(一)を得て、秀次を遣して赴き討たしめ、石田三成をして德川公を促して師に會せしむ。氏郷已に亂を定むと聞きて、則ち皆途より還る。閏月、氏郷、京都に來りて狀を上る。秀吉、木村氏の封を奪ひ、之を氏郷に予ふ。氏郷、又政宗の賊に通ずる手書(二)を獻ず。秀吉怒り、使を馳せて政宗を召す。政宗卽ち發し、二月、至る。曰く、吾れ自ら

則皆途還。閏月。氏鄕來ニ京師一上レ狀。秀吉奪ニ木村氏封一。予ニ之氏鄕一。氏鄕又獻ニ政宗通レ賊手書一。秀吉怒。馳レ使召ニ政宗一。政宗即發。二月。至。曰。吾自分ニ誅戮一也。作ニ貼金磔柱一。使ニ人揭前行一。及ニ詰問一。陳謝甚辯。乃示ニ其手書一。政宗佯愕曰。其書甚肖。特華押有ニ徵者一。驗レ異之果然。秀吉即釋レ之。先レ是。南部氏族九戶政實叛。氏鄕與ニ少弼攻而下レ之。

誅戮を分とするなりと。(三)貼金の磔柱を作り、人をして揭げて前行せしむ。詰問に及び、陳謝甚だ辯ず。乃ち其手書を示す。政宗佯り愕きて曰く、其書甚だ肖たり。特華押(四)徵しく異なる者ありと。之を驗するに、果して然り。秀吉即ち之を釋す。是より先、南部氏の族九戶政實叛く。氏鄕、少弼と攻めて之を下す。

(一)警戒の報知　(二)自筆の書面　(三)金を貼り附けたるはりつけ柱　(四)書判

是歲。五月。復叛。據ニ福岡城一。葛西莊內應レ之。秀吉命ニ秀次一赴討。曰。必勦レ之。使レ莫ニ復

是の歲五月、復た叛きて福岡城に據る。葛西・莊內之に應ず。秀吉、秀次に命じて赴き討たしむ。曰く、必ず之を(二)勦し、復た萌すこと莫らしめよと。德川公に命じて之を助けしむ。曰く、卿に命じて東北三道の軍務を掌らしむ。其れ便宜に事に從へと。乃ち奏して、政宗を以て四位侍從と爲し、氏鄕と倶に先鋒と爲らし

萌一。於ニ徳川公一助レ之。曰。命レ卿掌ニ東北三道軍務一。其便宜從レ事。乃奏。以ニ政宗一爲ニ四位侍從一。與ニ氏郷一倶爲ニ先鋒一。令三少弼及堀尾吉晴監ニ其軍一。因密諭ニ氏郷一曰。吾知ニ政宗反計一矣。顧彼膽略可レ愛。故釋不レ問。以安ニ反側一。事平。則奪ニ其地一予ニ之汝一耳。

め、少弼及び堀尾吉晴をして其軍を監せしむ。因りて密かに氏郷に諭して曰く、吾れ政宗の反計(二)を知る。顧ふに、彼の膽略(三)は愛す可し。故に釋して問はず。以て反側(四)を安んず。事平がば、則ち其地を奪ひて之を汝に予へんのみと。

(一)殺しつくす (二)謀叛の計略 (三)膽太きはかりごと (四)謀叛人を安心さす

八月。秀次入ニ陸奥一。陣ニ三迫一。氏郷政宗攻下ニ五城一。上杉氏奉レ命會レ師。撃平ニ莊內一。諸將遂圍ニ福岡一。誘ニ降政實以下魁首三十人一。效ニ之三迫一。

八月、秀次陸奥に入る、三迫に陣す。氏郷・政宗攻めて五城を下す。上杉氏命を奉じて師に會し、撃ちて莊内を平ぐ。諸將遂に福岡を圍み、政實以下の魁首(一)三十人を誘降し、之を三迫に效す。秀次、斬りて以て徇へ、其餘黨を焚殺(二)し、秀吉の命を以て、政宗を葛西・大崎に徙し、其地を以て氏郷に加賜し、幷せて百萬石を食ましむ。遂に國内を巡視し、士民を按據(三)し、東邊の諸侯に課し、城を大崎に築きて、以て政宗を置き、然る後に歸る。是の歲四月、大納言秀長卒す。秀次の弟秀俊

秀次斬以徇。焚二殺其餘黨一。以二秀吉命一。徙三政宗于二葛西大崎一。以二其地一加二賜氏郷一。并食二百萬石一。遂巡二視國内一。按二撫士民一。課二東邊諸侯一。築二城大崎一。以置二政宗一。然後歸。是歲。四月。大納言秀長卒。以二秀次弟秀俊一。爲レ嗣。襲二其封一。十一月。秀吉大獵レ于二參河一。

を以て嗣と爲し、其封を襲がしむ。十一月、秀吉大に參河に獵す。

(一)かしらぶん　(二)焚き殺す　(三)安心せしめ

初秀吉定二關西一。召二松下之綱一賜三邑于二丹後一。及レ定二關東一。更賜二遠江伊勢之一萬石一。曰。償二攘金一也。

初め秀吉、關西を定め、松下之綱を召し、(一)邑を丹後に賜ふ。關東を定むるに及びて、更に遠江・伊勢の一萬石を賜ふ。曰く、(二)攘金を償ふなりと。

(一)領地を丹波國に於て與ふ　(二)盜みたる金

巻十六

德川氏前記

豐臣氏中

秀吉之在ニ關東一也。遊レ於ニ鎌倉一。觀ニ源頼朝塑像一。進撫ニ其背一曰。若我友也。徒手取ニ天下一。唯有ニ吾與レ若而已。然若承ニ藉名族一。不レ如ニ吾起ニ人奴一也。吾欲ニ遂略レ地至ニ明。若以爲ニ何如一。

秀吉の關東に在るや、鎌倉に遊びて、源頼朝の塑像(一)を觀、進みて其背を撫でて曰く、若(二)は我が友なり。徒手にて天下を取りしは(三)、唯吾と若とあるのみ。然れども若は名族を承藉す(四)。吾が人奴(五)より起るに如かざるなり。吾れ遂に地を略して明に至らんと欲す。若以て何如と爲すと。

(一) 土の像 (二) 一本に君とあり (三) から手にて天下を取りしは (四) 名高き家柄をうけつぐ (五) 人のやつこ

初秀吉爲ニ織

初め秀吉、織田氏の爲に山陽を徇へ、韓及び明を攻めんと請ふ。後常に其志を成

田氏一徇二山陽一。請レ攻二韓及明一。後常思レ成二其志一。明主嘗與二足利氏一修レ好。而韓兩二屬其間一。常奉二朝貢於一レ我。及二足利氏衰一。我西南海盜數侵二明境一。明韓皆與レ我絶。而海賈互市不レ絶。我對馬島。距レ韓甚邇。島主宗氏。世置二吏于一韓釜山浦一。至二豐臣氏時一。明民或有二來投者一。秀吉聞二明

さんと思ふ。明主、嘗て足利氏は好(一)を修めて、韓、其間に兩屬し、常に朝貢を我に奉ず。足利氏の衰ふるに及びて、我が西南の海盜、數々明境を侵す、明・韓、皆吾と絶つ。而して海賈(二)は互市して絶えず。我が對馬島は、韓を距る甚だ邇し、島主宗氏、世々吏を韓(三)の釜山浦に置く。豐臣氏の時に至りて、明の民或は來り投ずるものあり。秀吉、明主朱翊鈞の政を失ひ、武備具らざるを聞き、益々之(四)を窺はんと思ふ。其の畿内を定むるや、橘康廣、嘗て韓の事を諳んずるを以て、擢んでて使者と爲し、朝貢を韓に徵す。要領を得ずして還る。秀吉、其(五)の韓と私有るを疑ひて、之を族誅す。西海を定むるに及び、宗義智、款を送る。秀吉、命じて使事(六)を掌らしむ。將に關東を伐たんとして、遂に義智と僧玄蘇とを遣して韓に往かしむ。會々琉球入貢す。秀吉、其國に囑して、明に通ぜんことを求む。曰く、明、我が言を聽かずんば、我れ當に兵を發して之を伐つべしと。琉球主尚寧、之を明に告ぐ。明聽かず。

主朱翊鈞失レ政。武備不レ具。益思レ窺レ之。其定ニ議內一。以ニ橘康廣嘗請ニ韓事一。擢爲ニ使者一。徵ニ朝貢于一レ韓。不レ得ニ要領一而還。秀吉疑ニ其與レ韓有一レ私。族ニ誅之一。及レ定ニ西海一。宗義智送レ款焉。秀吉命掌ニ使事一。將レ伐ニ關東一。遂遣ニ義智與ニ僧玄蘇一往レ韓。會琉球入貢。秀吉囑ニ其國一。求レ通ニ於明一。曰。明不レ聽ニ我言一。我當ニ發レ兵伐一レ之。琉球王向寧告ニ之明一。明不レ聽。

義智至レ韓。韓王李昖乃使ニ其大臣黃允吉金誠一。隨而入貢。秀吉既至レ自レ伐ニ關東一。見ニ韓使者一。乃命レ吏作レ書以答レ之。曰。日本豐臣秀吉。謹答ニ朝鮮國王足下一。吾邦

(一)和親して交際す (二)貿易商は引續き商をなす (三)好きをりを以て討たんとす (四)事情を熟知する故 (五)橘康廣と韓國と內々の約束あるを疑ひ (六)使者の事務

義智、韓に至る。韓王李昖、乃ち其大臣黃允吉・金誠一をして、隨ひて入貢せしむ。秀吉既に關東を伐てるより至りて、韓の使者を見、乃ち吏に命じ書を作りて以て之に答ふ。曰く、日本豐臣秀吉、謹みて朝鮮國王の足下に答ふ。吾が邦の諸道、久しく分離に屬し、(一)綱紀を廢亂し、帝命を阻格す。秀吉、之が爲に憤激し、(二)堅を被り銳を執り、西討東伐、數年の間を以てす。而して六十餘國を定む。秀吉は(三)鄙人なり。然れども其の胎に在るに當りて、母、日の懷に入るを夢む。占者曰く、日光の臨む所、(四)透徹せざる莫し。(五)壯歲必ず武を八表に耀さんと。是の故に、戰

諸道久屬ニ分離一。廢ニ亂綱紀一。阻ニ格帝命一。秀吉爲レ之憤激。被レ堅執レ銳。西討東伐。以ニ數年之間一而定ニ六十餘國一。秀吉鄙人也。然當ニ其在レ胎。母夢ニ日入レ懷。占者曰。日光所レ臨莫レ不ニ透徹一。壯歲必耀ニ武八表一。是故戰必勝。攻必取。今海內既治。民富財足。帝京之盛。前古無レ比。夫人之居レ世。自レ古不レ滿ニ百歲一。安能鬱鬱久在レ此乎。吾欲丁假ニ道貴國一。超ニ越山海一。直入ニ于明一。使三其四百州盡化ニ我俗一。以施丙王政於乙億萬斯年甲。是秀吉宿志也。凡海外諸蕃後至者。皆在レ所レ不レ釋。貴國先修ニ使幣一。帝甚嘉レ之。秀吉入レ明之日。其率ニ士卒一會ニ軍營一。以爲ニ我前導一。

へば必ず勝ち、攻むれば必ず取る。今、海内既に治り、民富み財足る。帝京の盛なる、前古(六)に比なし。夫れ人の世に居る、古より百歳に滿たず。安んぞ能く鬱鬱として久しく此に在らんや。吾れ道を貴國に假り、山海を超越(七)し、直に明に入り、其四百州をして、盡く我が俗に化せしめて、以て王政を億萬斯年に施さんと欲す。是れ秀吉の宿志(八)なり。凡そ海外諸蕃の後れ至るものは、皆釋さゞる所に在り。貴國、先づ使幣を修む。帝甚だ之を嘉す。秀吉、明に入るの日、其れ士卒を率ゐて軍營に會し、以て我が爲に前導(九)せよと。

(一) 政法すたれ亂れ天子の命令を用ひず　(二) 甲冑を被り兵刀を執りて征伐し　(三) 身分微賤なる者なり　(四) 透きとほる　(五) 壯年に及んで武威を世界に輝かさんと　(六) 古より例なし　(七) 越え行く　(八) もとよりの志望　(九) 先立ちて道案内せよ

因遣二平調信玄蘇一與偕。韓王得レ書疑懼。誠一以爲二虛喝一。王使下之私饗二二人一。探中其情實上。調信曰。我主欲レ通レ明。明不二答禮一。故欲レ伐レ之耳。貴國盍三居レ間利二解之一。誠一依違。玄蘇厲レ聲言曰。今日之議。不レ得三首鼠兩端一。不レ欲レ講和。乃欲レ戰耳。因辭訣還。韓始懼。稍修二邊備一。明亦聞レ之。申二嚴海防一。天正十九年。夏。秀吉復遣二義智一責レ啗。在二釜山一旬餘。不レ得レ報。怒而還。秀吉志益決。

因りて平調信・玄蘇を遣して與に偕にせしむ。韓王、書を得て疑懼(一)す。誠一以て虛喝(二)と爲す。王、之をして私かに二人を饗し、其情實を探らしむ。調信曰く、我が主、明に通ぜんと欲す。明、答禮せず。故に之を伐たんと欲するのみ。貴國盍ぞ(三)間に居て之を和解せざると。誠一、依違(四)す。玄蘇、聲を厲して言つて曰く、今日の議、首鼠兩端(五)するを得ず。和を講ずるを欲せざるは、乃ち戰はんと欲するのみと。因りて辭訣して還る。韓始めて懼れ、稍々邊備(六)を修む。明も亦之を聞きて、海防(七)を申嚴す。天正十九年夏、秀吉復た義智を遣して啗を責む。釜山に在ること旬餘なり。報を得ず。怒りて還る。秀吉の志、益々決す。

(一) 疑ひ懼る (二) おどかし (三) 何故に中間に在りて兩者を平和ならしめざる (四) ためらひてきつぱりせず (五) 疑ひ惑ひて二心を懷く (六) 國外づれの守備を議す (七) 海岸の防備をいましめ重ねて嚴重にす

秀吉初無レ子。先レ是。姫人淺非氏生二男鶴松一。秀吉絶二愛之一。是歲。鶴松夭。乃悲哀累月。心忽忽不レ樂。因屢出遊以自遣。一日。登二清水寺閣一。西望。謂二從者一曰。大丈夫當レ用二武萬里之外一。何自悒鬱爲。

乃還。大會二諸將帥一。謂レ之曰。吾藉二諸君之力一。平二定海內一。亦可二以休一矣。特諸醜夷。有下阻二王化一者上。吾深羞レ之。吾欲下

秀吉初め子なし。是より先、姫人淺井氏、男鶴松を生む。秀吉、之を絶愛す。(一)是の歲、鶴松、夭す。乃ち悲哀累月、(二)心忽忽として(三)樂しまず。因りて(四)屢々出遊して以て自ら遣る。一日、清水寺の閣に登り、西望して從者に謂ひて曰く、大丈夫、當に武を萬里の外に用ふべし。何ぞ自ら悒鬱(五)を爲さんと。

(一)甚だしく愛す (二)悲みなげくこと幾月にもなりぬ (三)うつ〳〵として (四)一本に因字なし (五)憂へて氣をふさぐ

乃ち還り、大に諸將帥を會し、之に謂ひて曰く、吾れ諸君の力を藉り、海內を平定す。亦以て休ふべし。特に諸醜夷(一)、王化を阻む者あり。吾れ深く之を羞づ。吾れ邦治(二)を以て內府に委ねて、自ら將として朝鮮に入り、其兵を以て先鋒と爲して、以て明に入らんと欲す。彼れ我が命を拒まば、則ち擊ちて之を滅し、遂に遼東より直に北京を襲ひて、其國を奄有(三)し、多く土壤(四)を割きて、以て諸君に予へ、諸功臣

以二邦治一委二内府一。而自将入二朝鮮一。以二其兵一爲二先鋒一。以入於レ明。彼拒二我命一。則撃滅レ之。遂自遼東直襲二北京一。奄二有其國一。多割二土壤一。以予二諸君一。使下諸功臣皆厭中其望上。不二亦快一乎。我籌レ之已熟。事非二甚難一。諸君其能爲レ我出レ力耶。諸将帥瞪眙相視。莫二敢對者一。浮田秀家進曰。殿下擧二此無前之事一。誰不二努力一者。衆莫二敢異議一。内府。謂二秀次一也。秀次時爲二内大臣一。敍二

をして皆其望に厭かしめんも、亦快ならずや。我れ之を籌ること已に熟す。(五)事甚だ難きに非ず。諸君其れ能く我が爲に力を出すやと。諸將帥瞪眙して相視て、敢て對ふる者莫し。浮田秀家進みて曰く、殿下此無前の事を擧ぐ。誰か努力(六)せざる者ぞと。衆敢て異議する莫し。内府とは秀次を謂ふなり。秀次、時に内大臣と爲り、正二位に敍せらる。是に於て、秀吉、奏請して、諸將を遣して國に之き、各〻兵食を具へしめ、九鬼嘉隆に命じて、大艦數十艘を造らしむ。大廳、秀吉の海外に赴かんとするを聞き、憂恐して寢食(七)を廢するに至る。乃ち議すらく、秀家をして代り往かしめて、自ら出でて肥前に陣し、以て策應を爲さんと。乃ち大に那古邪に築き、(八)建てて行營と爲す。(九)

(一) 諸外國の賊共天皇の敎にさからふ者 (二) 日本國内の政治 (三) 總べてを所有し (四) 土地 (五) 深くより十分に計る (六) 力を盡してつとめる (七) 眠らず食はず (八) 一本に城とあり (九) かりの陣營

正二位。於レ是秀吉奏請。遣二諸將一之レ國。各具二兵食一。命二九鬼嘉隆一。造二大艦數千艘一。大廳聞三秀吉赴二海外一。憂恐至レ廢二寢食一。乃議使二秀家代往一。而自出陣二肥前一。以爲二策應一。乃大築レ于二那古邪一。建爲二行營一。

十二月。分三朝鮮地圖于二諸將一。部二署其所レ嚮。分二西南四道兵一爲二八軍一。以嚮二韓之八道一。主計頭加藤清正。將二第一軍一。攝津守小西行長。將二第二軍一。鍋島直茂。相良頼定。屬二清正一。宗義智。松浦鎭信。有馬義純。屬二行長一。兩軍迭爲二先鋒一。大

十二月、朝鮮の地圖を諸將に分ち、其の嚮ふ所を部署し、西南四道の兵を分ちて八軍と爲して、以て韓の八道に嚮はしむ。主計頭加藤清正、第一軍に將たり。攝津守小西行長、第二軍に將たり。鍋島直茂・相良頼定は、清正に屬し、宗義智・松浦鎭信・有馬義純は行長に屬し、兩軍迭〻先鋒たらしむ。大友義統・黑田長政、第三軍に將たり。島津義弘・毛利高政・伊東祐兵第四軍に將たり。福島正則・長曾我部元親第五軍に將たり。蜂須賀家政・生駒親正第六軍に將たり。小早川隆景・毛利秀包・立花宗茂第七軍に將たり。毛利輝元第八軍に將たり。別に水軍を置き、九鬼嘉隆・脇坂安治・加藤嘉明・來島康親を以て之に將とし、秀俊の將藤堂高虎、大和の軍を率ゐて屬す。水陸九軍、總べて十五萬人なり。織田秀信・中川秀政・石田三成・增田長盛・大谷吉隆・糟谷武則・片桐且元、淺野左京大夫と、游軍六萬に將と

友義統。黑田長政。將二第三軍一。島津義弘。毛利高政。伊東祐兵。將二第四軍一。福島正則。長曾我部元親。將二第五軍一。蜂須賀家政。生駒親正。將二第六軍一。小早川隆景。毛利秀包。立花宗茂將二第七軍一。毛利輝元。將二第八軍一。別置二水軍一。以二九鬼嘉隆。脇坂安治。加藤嘉明。來島康親將一レ之。秀俊將藤堂高虎。率二大和軍一屬焉。水陸九軍。總十五萬人。織田秀信。中川秀政。石田三成。增田長盛。大谷吉隆。糟谷武則。片桐且元。與二淺野左京大夫一。將二遊軍六萬一。以備二應援一。而秀吉自以二秀俊。及德川公。前田利家。蒲生氏鄉。上杉景勝。結城秀康。最上義光。佐竹義宣。伊達政宗。南部信直等。畿內東北三道將士十萬一自衞。以二明年三月一盡會二行營一。秀吉乃上書乞二骸骨一。讓二關白職于秀次一。自稱二太閤一。於レ是宗義智戒二釜山吏卒一。稍稍引還。韓人來窺二其府一。闃然無レ人。乃驚怪。修二守備一益急。

して、以て應援に備ふ。而して秀吉自ら秀俊及び德川公・前田利家・蒲生氏鄉・上杉景勝・結城秀康・最上義光・佐竹義宣・伊達政宗・南部信直等、畿內、東北三道の將士十萬を以て自ら衞る。明年三月を以て盡く行營に會せしむ。秀吉乃ち上書して骸骨(三)を乞ひ、關白職を秀次に讓り、自ら太閤と稱す。是に於て、宗義智、釜山の吏卒を戒めて、稍稍引き還らしむ。韓人來りて其府を窺ふに、闃然(四)として人無し。乃ち驚き怪しみ、守備を修むること益〻急なり。

(一) 手分けし (二) 何づれの部隊とも所屬を定めず適宜に救援に赴くために備へたる兵隊 (三) 仕官を止めて隱居すること (四) ひつそり

文祿元年。正月。秀吉召二加藤清正一。賜二之記幟一曰。吾伐二毛利氏一時。先右府所レ賜也。召二小西行長一。賜二之名馬一曰。以驅二突髯虜一。清正素鄙二行長一。不二相善一。於レ是謂レ之曰。予用二賜幟一爲レ號。子號何用。行長對曰。我起二藥商一。當レ用二藥嚢一耳。自レ是益相隙也。

文祿元年正月、秀吉、加藤清正を召し、之に記幟(一)を賜ひて曰く、吾れ毛利氏を伐つの時、先右府(二)の賜ひし所なりと。小西行長を召し、之に名馬を賜ひて曰く、以て髯虜(三)を驅突せよと。清正、素より行長を鄙しみ、相善からず。是に於て、之に謂ひて曰く、予は賜幟(四)を用ひて號と爲さん。子が號は何をか用ふると。行長對へて曰く、我は藥商より起る。當に藥嚢を用ふべきのみと。是より益々相隙す。

(一)しるしあるのぼり　(二)織田信長　(三)支那人を罵りていふ　(四)新たに賜りたる旗

二月二十八日。秀吉發二京師一。或曰。盍乙以下善二漢文一者上從。秀吉笑曰。吾此行。將レ使三彼

二月二十八日、秀吉京師を發す。或ひと曰く、盍ぞ(一)漢文を善くするものを以て從へざると。秀吉笑ひて曰く、吾が此行、將に彼をして我が文を用ひしめんのみと。四月、安藝に至り、巖島祠に謁し、百錢を投じて、祝りて曰く、吾にして明に勝たば、面(二)する者多きに居れと。乃ち投ず。皆面す。衆、大に喜ぶ。蓋し

用二我文一耳。四月。至二安藝一。詣二嚴島祠一。投二百錢一。祝曰。吾而勝レ明。面者居レ多。乃投。皆面矣。衆大喜。蓋豫糊二合兩錢一也。遂至二那古邪一。諸軍會者。凡五十萬人。糧食稱レ之。

豫め兩錢を(三)糊合したるなり。遂に那古邪に至る。諸軍の會する者、凡そ五十萬人。糧食之に稱ふ。

(一)漢文に長じたる人 (二)錢の表を向くもの歟、裏を向くものより多くあれ (三)二枚の錢の裏と裏を糊づけにすること

於レ是先遣二水陸九軍一。發二大礮一。鬨而揚レ帆。蔽レ海而渡。至二于風本一。阻レ風十日。風稍定。行長與二義智一素諳二海路一。潛拔二其軍一。不レ告レ衆先發。至二豐崎一。平明。諸將乃覺レ之。清正

是に於て、先づ水陸九軍を遣り、大礮を發し、鬨して帆を揚げ、海を蔽ひて渡り、風本に至る。風に阻てらるゝこと十日にして、風稍ゝ定る。行長と義智と、素より(一)海路を諳んず。潛に其軍を拔き、衆に告げずして先發し、(二)豐崎に至る。(三)平明、諸將乃ち之を覺る。清正怒りて發す。風益ゝ甚だしく、進むことを得ず。行長、舵師を促して豐崎を發し、濤を冒して進み、十三日、釜山に達す。釜山の守將(四)鄭撥出獵し、警を聞きて馳せ還る。行長隨ひて其城を攻め、立ちどころに之を拔き、鄭撥を生擒し、遂に兵を分ちて慶尙道を徇へ、西生・多大の二浦を陷れ、

怒而發。風益甚。不レ得レ進。行長促ニ舵師一發ニ豐崎一。冒レ濤而進。十三日。達ニ于釜山一。釜山守將鄭撥出獵。聞レ警馳還。行長隨攻ニ其城一。立拔レ之。生ニ擒鄭撥一。遂分レ兵徇ニ慶尙道一。陷ニ西生多大二浦一。斬ニ多大守將尹興信一。問ニ其捕虜一以ニ要害城寨一。曰。東北有ニ東萊一。距レ此三十里。行長謂ニ其衆一曰。諸君戰疲。當レ休。然使ニ東萊爲一レ備。吾力不レ能レ下。而諸將隨至。則奪ニ功於一レ人矣。宜ニ急擊取一レ之。衆奮從レ之。乃進攻ニ東萊一。半日拔レ之。斬首千餘級。守將宋象賢不レ屈。死。行長收葬レ之。進陷ニ梁山一。至ニ鵲院一。韓兵據レ險拒レ之。我兵攀レ山。廻出ニ其背一。韓

多大の守將尹興信を斬る。其捕虜に問ふに、要害の城寨を以てす。曰く、東北に東萊あり。此を距ること三十里なりと。行長、其衆に謂ひて曰く、諸君戰ひ疲る。當に休ふべし。然れども東萊をして備を爲さしめば、吾が力下す能はじ。而して諸將隨ひて至らば、則ち功を人に奪はれん。宜しく急に擊ちて之を取るべしと。衆奮ひて之に從ふ。乃ち進みて東萊を攻め、半日にして之を拔く。斬首千餘級なり。守將宋象賢、屈せずして死す。行長收めて(五)之を葬り、進みて梁山を陷れ、鵲院に至る。韓兵險に據りて之を拒ぐ。我が兵山を攀ぢ、廻りて其背に出づ。韓兵顧みて潰ゆ。韓の巡察使金睟、東萊の急を聞き、晉州より來り援ふ。及ばず。乃ち諸郡縣に諭して我が兵を避けしむ。

(一) 船道をよく知る (二) 對島に在り (三) 夜明 (四) 船の舵とり (五) 死體を片附けて

兵顧而潰。韓巡察使金睟聞二東萊急一。自二晉州一來援。不レ及。乃諭二諸郡縣一避二我兵一。

清正後二行長一三日。至二釜山一。聞二行長已前進一。切齒曰。悔爲二竪子所一レ先。吾豈蹤二其迹一乎。乃轉取二別路一。縱二火慶州一。走二其守將一。斬首千五百級。轉鬪而進。所レ向皆靡。秀家聞二行長深入一。謂二其將佐一曰。彼自二我家一起レ身。吾爭レ功而不レ援。使二彼死一レ於レ敵。不三獨負二太閤寄任之意一也。乃踰レ次發レ舟。八軍相繼上レ陸。韓諸道競報三警於二國都一。韓王命二李鎰申砬一爲二大將一。使下金誠一拒二慶尙右道一。金玏拒中慶尙左道上。

清正、行長に後るゝこと三日にして、釜山に至る。行長已に前進すと聞き、切(一)齒して曰く、悔ゆらくは竪子の先んずる所と爲りしを。吾豈に其迹を蹤まんやと。乃ち轉じて別路を取り、火を慶州に縱ち、其守將を走らせ、斬首千五百級なり。轉(二)鬪して進む。向ふ所皆靡ぐ。秀家、行長の深く入るを聞き、其將佐に謂ひて曰く、彼は我が家より身を起す。吾功を爭ひて援けず、彼をして敵に死せしめば、獨り太閤寄(三)任の意に負くのみならざるなりと。乃ち次を踰えて舟を發す。八軍相繼ぎて陸に上る。韓の諸道、競ひて警を國都に報ず。韓王、李鎰、申砬に命じて大將と爲し、金誠一をして慶尙右道を拒がしめ、金玏に慶尙左道を拒がしむ。

(一) 齒ぎしりをして悔しがる　(二) あちらこちらとうつりて戰ふ　(三) 秀吉より依頼せられたる意趣立たざるばかりではない

行長方圍ニ金海一。黒田長政援至。刈レ禾塡レ塹以陷レ之。引レ兵出ニ左右道之間一。絶ニ其應援一。進陷ニ尙州一。鎰已至ニ州城北一。覩ニ城中火起一。遣レ騎來候。行長望ニ視之一曰。我且レ奪ニ其膽一。潛使下銃卒伏ニ橋下一。銃レ之墮中馬。鎰軍動。行長以ニ大衆一出。張ニ二奇兵一劫レ之。鎰駭走。歸ニ申砬於忠州一。砬收ニ忠淸

行長方に金海を圍む。黒田長政の援至る。禾を刈り塹(一)を塡めて以て之を陷れ、兵を引きて左右道の間に出で、其應援を絶ち、進みて尙州を陷る。鎰、已に州城の北に至り、城中に火の起るを覩て、騎を遣し來り候ふ。行長、之を望み視て曰く、我れ且に其膽を奪はんとすと。潛かに銃卒(二)をして橋下に伏し、之を銃して馬より墮さしむ。鎰の軍動く。行長大衆を以て出で、二奇兵を張りて之を劫す。鎰駭き走り、申砬に忠州に歸す。砬、忠淸道の兵八千を收め、鳥嶺を守らんと欲す。尙州陷ると聞きて、敢て進まず。行長進みて鳥嶺に至り、其險阨(三)なるを覩、輕卒をして先づ行きて、周く山谷を踐ましむ。敵無し。笑ひて曰く、朝鮮の兵、我を此に要せず(四)。吾れ其の能く爲す莫きを知るなりと。乃ち嶺を踰えて丹月驛に至り、兵を分ちて二と爲し、申砬を彈琴臺下に擊ちて、之を斬り、遂に忠州を取りて、淸正と會す。

(一) はり　(二) 鐵砲方の兵　(三) 險阻にして扼守すべき地勢　(四) 此處にて待ち伏せず

道兵八千。欲レ守二島嶺一。斷二尙州路一。不二敢進一。行長進至二島嶺一。視二其險阨一。使三輕卒先行。周覽二山谷一。無レ敵。笑曰。朝鮮兵不レ要二我于レ此。吾知三其莫二能爲一也。乃踰レ嶺至二丹月驛一。分レ兵爲レ二。擊三申砬于二彈琴臺下一。斬レ之。遂取二忠州一。而與二淸正一會。

諸將皆至。乃相三見于二城外一。議三進取二其京畿一。淸正曰。攝津守多レ功矣。至レ攻二國都一。先鋒當レ見レ屬レ僕也。行長曰。吾與レ子並受二約束一。子何更レ之。對曰。子之不レ告而發。亦出二約束一乎。二人忿欲レ鬪。諸將解レ之曰。大敵在レ前。何私

諸將皆至る。乃ち城外に相見る。進みて其京畿を取るを議す。淸正曰く、攝津守功多し。國都を收むるに至りては、先鋒は當に僕に屬せらるべきなりと。行長曰く、吾と子(一)と並て約束を受く。子、何ぞ擅に之を更ふると。對へて曰く、子の告げずして發せしも、亦約束に出でしかと。二人忿り、鬪はんと欲す。諸將、之を解きて曰く、大敵前にあり、何ぞ私(二)鬪するを爲すと。鍋島直茂曰く、太閤、二公をして迭〻先鋒と爲らしむ。今盍ぞ道を分ちて往かざる。聞く、道二あり。南よりするは遠く、東よりするは近し。近きは漢江の險ありと。唯(三)二公の擇ぶ所と。淸正曰く、吾れ寧ろ險にして近きものを取らんと。議乃ち定る。行長、間に人をして先づ馳せて漢江に之き、其南岸の舟を奪はしむ。淸正遂に發す。韓使李應

闘爲。鍋島直茂曰。太閤令三二公迭爲二先鋒一。今盡二分レ道往一。聞道有レ二。自レ南者遠。自レ東者近。近者有二漢江之險一。唯二公所レ擇。淸正曰。吾寧取二險而近者一矣。議乃定。行長間使下人先馳之二漢江一。奪中其南岸舟上。淸正遂發。過二韓使李應舜于ヒ途。捕レ之。

舜に途に遇ひ、之を捕ふ。

㊀國の都 ㊁私の戰ひ ㊂兩君のよしとする所を擇ばれよ

初行長獲二蔚山守將李彦誠一。送二書韓王一招二降之一。使三彦誠齎去一。彦誠不二敢白一。及レ取二尙州一。乃獲二應舜一。予二之太閤券書一。使三還責二彦誠之報一。且召二李德馨一。德馨。嘗接二我使人一者也。韓王

初め行長蔚山の守將李彦誠を獲て、書を韓王に送りて之を招降せんとて、(一)彦誠をして齎し去らしむ。彦誠敢て白さず。尙州を取るに及び、乃ち應舜を獲て、之に太閤の券書を予へ、還りて彦誠の報を責めしむ。且つ李德馨を召す。德馨は、(二)嘗て我が使人に接せし者なり。韓王乃ち德馨を遣して降を乞ふ。途に忠州陷ると聞き、(三)應舜をして先づ往きて之を詗はしむ。乃ち淸正の捕ふる所と爲る。遂に之を誅す。德馨走り去る。韓已に李鎰の敗を聞き、大に怖る。而して猶ほ望を申砬に屬す。晦日、騎有り、馳せて都門に入る。民迎へて問ふ。對へて曰く、申總兵、死せり。關白の軍將に來らんとすと。都城、大に擾る。王、(四)世子と、夜、駕

乃遣二德馨一乞レ降。途聞二忠州陷一。使二應舜先往詷一レ之。乃爲二清正所一レ捕。遂誅レ之也。德馨走去。韓已聞二李鎰敗一大怖。而猶屬二望申砬一。晦日有レ騎馳入二都門一。民迎問。對曰。申總兵死矣。關白軍將レ來矣。都城大擾。王與二世子一夜駕。奔二平壤一。告二急於レ明。遣二王子一徵二兵諸道一。留二都元帥金命元副元帥申恪一。以二舟師一扼二漢江一。命元聞二清正至一。措二疑兵一遁。清正抵レ江。無二舟可一レ渡。立望二北岸一久レ之。笑曰。敵舟有レ兎。是無レ兵也。令三善泅者往取二其舟一。以渡。五月。四日。至二都城南大門一。有レ兵守レ門。視二其旗幟一。皆小西氏號也。蓋行渡二驪川一。走二敵將元豪一。先一日自二東大門一入。王已遁矣。清正益怒。

して平壌に奔り、急を明に告ぐ。王子を遣して兵を諸道に徵す。都元帥金命元副元帥申恪を留め、舟師を以て漢江を扼す。命元、清正至ると聞き、(五)疑兵を措きて遁る。清正、江に抵る。舟の渡るべき無し。立ちて北岸を望むこと之を久しくして、笑ひて曰く、敵舟に兎有り。是れ兵無きなりと。善く泅ぐ者をして、往きて其舟を取らしめて、以て渡る。五月四日、都城の南大門に至る。兵有りて門を守る。其旗幟を視るに、皆小西氏の號なり。蓋し行長驪川を渡り、敵將元豪を走らせ、先だつ一日、東大門より入る。王已に遁れたり。清正益〻怒る。

(一) 招き降す　(二) 朱印のすわりたる書　(三) 使者　(四) 皇太子　(五) 敵をまどはす爲に置く兵

居十餘日。諸將皆至。秀家自居二國都一。使三諸將各圖二進取一。金命元退守二臨津一。呼二申恪一。恪不レ從。獨屯二楊州一。命元怒三恪違二節度一。請二王誅一レ之。會咸鏡南道兵使李惲來援レ恪。與二浮田氏兵一戰。大破レ之。而命元遂斬レ恪。王聞レ捷遽赦レ之。不レ及。乃遣二申硈及韓應寅一。助二命元一守二津北一。我兩

居ること十餘日にして、諸將皆至る。秀家自ら國都に居り、諸將をして各々進取を圖らしむ。金命元退きて臨津を守り、申恪を呼ぶ。恪從はず、獨り楊州に屯す。命元、恪の節度に違ふを怒り、王に之を誅せんと請ふ。會々咸鏡南道の兵使李惲、來りて恪を援ひ、浮田氏の兵と戰ひて、大に之を破る。而して命元、遂に恪を斬る。王、捷を聞きて、遽かに之を赦す。及ばず。乃ち申硈、及び韓應寅を遣し、命元を助けて津北を守らしむ。我が兩先鋒、長政と兵を合せて、津南に軍し、相持すること十餘日なり。精兵を伏せて佯り卻く。硈、之を追はんと欲す。其裨將劉克良之を止む。聽かずして渡る。應寅も亦濟る。伏に遇ひて驚き去る。三將還り撃ちて、大に之を破り、硈及び克良を擒にす。其兵の死傷し、若しくは溺るゝ者萬餘人なり。命元・應寅走りて平壤に歸る。我が軍乃ち濟り、安城驛に至り、乃ち鬮を探りて軍の向ふ所を定む。行長は平安道を得、清正は咸鏡道を得て、長政は黃海道を得たり。皆兵を引きて北に入る。而して韓の

先鋒與二長政一合レ兵。軍二津南一。相持十餘日。伏二精兵一而佯卻。砧欲レ追レ之。其裨將劉克良止レ之。不レ聽而渡。應寅亦濟。過レ伏驚走。三將還擊。大破レ之。擒二砧及克良一。其兵死傷若溺者萬餘人。命元應寅走歸二平壤一。我軍乃濟。至二安城驛一。乃探レ鬮定二軍所一レ向。行長得二平安道一。清正得二咸鏡道一。而長政得二黃海道一。皆引レ兵北入。而韓將李洸尹國馨金睟。以二全羅忠淸慶尙三道兵五萬騎一。入援二王城一。至二龍仁一。見三我兵壘二山上一。挑レ戰。我兵不レ出。已而瞰二其懈一出擊。大破レ之。

將李洸・尹國馨・金睟、全羅・忠淸・慶尙三道の兵五萬騎を以て、入りて王城を援ひ、龍仁に至り、我が兵の山上に壘するを見て、戰を挑む。我が兵出でず。已にして其懈るを瞰ひ、出擊して、大に之を破る。

(一)すぐりたる兵　(二)副將　(三)伏兵　(四)戰爭をしかく

當二此時一。自二國都一至二釜山一數十城。烽火相應。皆爲二我兵所一レ守。以與二行營一通二聲息一。秀吉乃遣二石田三成增田長

此時に當りて、國都より釜山に至るまでの數十城、烽火相應じ、皆我が兵の守る所と爲りて、以て行營と聲息を通ず。秀吉乃ち石田三成・增田長盛・大谷吉隆を遣し、游軍六萬を引きて赴き援けしむ。伊達正宗も亦請ひて往く。三奉行、韓に入り、令を宣べ功を褒す。

(一)のろし　(二)たよりをかよはす　(三)仰せをつたへ手柄を賞す

盛大谷吉隆。引二游軍六萬一赴援。伊達政宗亦請而往。三奉行入レ韓。宣レ令褒レ功。

行長既徇二平安一。至二大同江一。遺三書於二平壤一。復召二李德馨一。使丙平調信玄蘇相二見江中一。招乙降之甲。議不レ諧。二人曰。若主第導レ我伐レ明。不則併夷二滅之一。乃還。六月。韓王留二左相尹斗壽元帥金命元一守二平壤一。而自走二寧邊一。欲レ入二咸鏡一。聞二清正在一焉。乃走二義州一。

行長既に平安を徇へ、大同江に至りて、書を平壤に遣り、復た李德馨を召し、平調信・玄蘇をして、江中に相見て、之を招き降さしむ。議(一)諧はず。二人曰く、若の主、第我を導きて明を伐て。不らずんば則ち併せて之を夷滅(二)せんと、乃ち還る。六月、韓王、左相尹斗壽、元帥金命元を留め、平壤を守らしめて、自ら寧邊に走り、咸鏡に入らんと欲す。清正在りと聞き、乃ち義州に走る。右相柳成龍をして、兵を發して命元に益さしめ、固く守りて以て明の援兵を俟たしむ。命元、行長等と、江を夾みて相持す。我が兵稍〻怠るを伺ひ、夜、精兵を遣して濟りて之を襲ふ。行長、衆を叱して起ち、義智をして其後を絶たしめ、撃ちて韓兵を破る。韓兵、淺きを亂して走る。行長曰く、是れ亂すべきなりと。舉軍(三)、之に從ふ。斗壽・命元、守を棄てて走る。行長城に入り、韓の積粟十餘萬石を得たり。

(一) 相談まとまらず　(二) ほろぼす　(三) 全軍

令下右相柳成龍發レ兵益レ於二命元一。固守以俟中明援兵上。命元與二行長等一。夾レ江相持。伺二我兵稍怠一。夜遣二精兵一濟襲レ之。行長叱レ衆起。令三義智絕二其後一。擊破二韓兵一。韓兵亂レ淺而走。行長曰。是可レ亂也。舉軍從レ之。斗壽命元棄レ守走。行長入レ城。得二韓積粟十餘萬石一。

使三使還趣二國都諸將一。欲二與俱西一。曰。太閤志主レ伐レ明。今已取二平壤一。平壤以西莫二復支者一。自二鴨綠江一至二明北京一。不レ過二百餘里一。吾之全軍卷レ甲趨レ之。使二彼不一レ及レ備。可二以得一レ志矣。秀家與二三奉行一答曰。全羅江原二道未レ定。我未レ可二深入一。我水軍將丁循二全羅一而北會丙于乙黃海甲。然後水陸並進。是萬全之策也。乃分二諸將一守二國都平壤間諸城一。大友義統守二鳳山一。黑田長政守二白川一。小早川隆景守二開城一。

使をして還りて國都の諸將を趣さしめ、與俱に西せんと欲す。曰く、太閤の志、明を伐つを主とす。今已に平壤を取る。平壤以西、復た支る者莫し。鴨綠江より明の北京に至る、百餘里に過ぎず。吾の全軍、甲を卷きて之に趨き、(一)彼をして備ふるに及ばざらしめば、以て志を得べしと。秀家、三奉行と答へて曰く、全羅・江原の二道未だ定らず。我れ未だ深く入るべからず。我が水軍將に全羅に循ひて北黃海に會せんとす。然る後に(二)水陸並び進むは、是れ萬全の策なりと。乃ち諸將を分ちて、國都・平壤間の諸城を守らしむ。大友義統は鳳山を守り、黑田長政は白川を守り、小早川隆景は開城を守り、以て應援に備ふ。

㊀ 彼に準備の暇を得ざらしめば ㊁ 海と陸と同時に進む

以備二應援一。

行長日望二水軍至一。水軍諸將既發二釜山一。與二慶尚右水使元鈞一戰。破レ之。遂出二全羅一。藤堂高虎聞三韓候船在二唐島一。以二飛船一赴レ之。奪二其百餘艘一。上レ島焚二虜營一。全羅水軍節度使李舜臣。以二艨艟鬪艦數千艘一在二巨濟洋一。諸將集三飲于二毛利勝信營一。議二進

行長、日々に水軍の至るを望む。水軍の諸將既に釜山を發し、慶尚右水使元鈞と戰ひて、之を破り、遂に全羅に出づ。藤堂高虎、韓の候船(一)、唐島に在りと聞き、飛船(二)を以て之に赴きて、其百餘艘を奪ひ、島に上りて虜營(三)を焚く。全羅水軍節度使李舜臣、艨艟(四)鬪艦數千艘を以て巨濟洋に在り。諸將、毛利勝信の營に集飲し、進戰を議す。脇坂安治曰く、先づ大船・巨砲を以て戰を挑み、然る後に其船を奪はんと。加藤嘉明曰く、是れ劫して之を去らしむるなり。挑みて之を奪ふに非ず。挑みて之を奪ふは、宜しく小船を以て弱きを示し、敵の近づくに及びて決戰すべし。不らずんば則ち太閤、水軍の將士は戰を欲せずと謂はんと。安治曰く、此事至重なり。一たび敗れば則ち陸軍も亦振ふ能はじ。子、胡ぞ猖狂(五)乃ち爾ると。嘉明怒る。高虎間に居て和解す。

(一) もの見の船 (二) 速力はやき船 (三) 敵の陣營 (四) 狹長にして突擊に便なる兵船 (五) 向ふ見ず

戰。脇坂安治曰。先以二大船巨砲一挑レ戰。然後奪二其船一。加藤嘉明曰。是劫而去レ之。非二挑而奪一レ之。挑而奪レ之者。宜下以二小船一示レ弱。及二敵近一決戰上。不則太閤謂二水軍將士不一レ欲レ戰也。安治曰。此事至重。一敗則陸軍亦不レ能レ振。子胡猖狂乃爾。嘉明怒。高虎居レ間和解。

勝信曰。諸公受二命於千里海外一。忠告不レ隱。務利二公事一。太閤多二良臣一如レ此。何憂レ於戰。因侑レ酒。酒數行。九鬼嘉隆曰。今夜三鼓解レ纜。旦日進戰。船之大小隨レ宜耳。嘉明潛起如レ廁。招二其軍吏一。先レ期而進。比レ曉。以二走舸三艘一直衝二敵列艦一。

勝信曰く、諸公、命を千里の海外に受け、忠告して隱さず、務めて公事(一)に利あらしむ。大閤、良臣多きこと此の如し。何ぞ戰に憂へんと。因りて酒を侑む。酒數行、九鬼嘉隆曰く、今夜三鼓(二)纜を解き、旦日、進戰し、船の大小宜しきに隨はんのみと。嘉明潛に起ちて廁に如き、其軍吏を招き、期に先だちて進み、曉くる比、走舸三艘を以て、直に敵の列艦を衝き、其二十艘を奪はしむ。諸將繼ぎ進む。舜臣卻く。我が軍、之を追ひて、洋中に入る。舜臣乃ち左右翼を縱ち、巨熕を以て我が船を擊碎(三)す。來島康親、之に死す。安治苦戰し、其衆を亡ひて退く。舜臣因りて閑山に屯して、以て我が水軍を拒ぐ。我が水軍、是を以て陸軍に合する能はず。陸軍も亦、未だ遂に進む能はざるなり。

(一) おほやけの事　(二) 子の刻。今の十二時頃　(三) 攻めてうちくだく

奪ニ其二十艘一。諸將繼進。舜臣卻。我軍追ㇾ之。入ニ洋中一。舜臣乃縱ニ左右翼一。以ニ巨熕一擊ニ碎我船一。來島虔親死ㇾ之。安治苦戰。亡ニ其衆一而退。舜臣因屯ニ閑山一。以拒ニ我水軍一。我水軍是以不ㇾ能ㇾ合ニ陸軍一。陸軍亦未ニ遂能ㇾ進也。

明主翊鈞聞ニ秀吉兵入ㇾ韓則恐。會ニ其國西北邊有ㇾ亂。大將李如松率ニ諸軍一屯ニ寧夏一。國都兵寡。明主召ニ其大臣一。問ニ韓當ㇾ援否一。大臣曰。和窺ㇾ明久矣。而明之屛在ㇾ韓。韓先被ニ和兵一。而明不ㇾ援。韓且ニ折而入ㇾ和。和韓爲ㇾ一。分ニ利於ㇾ明。合ㇾ兵

明主翊鈞、秀吉の兵、韓に入ると聞きて則ち恐る。其國の西北邊に亂有るに會ふ。大將李如松、諸軍を率ゐて寧夏に屯す、國都兵寡し。明主、其大臣を召して、韓の當に援くべきか否かを問ふ。大臣曰く、和の明を窺ふこと久し。而して明の屛は韓に在り。韓先づ和兵を被りて、明、援けずんば、韓且に折れて和に入らんとす。和・韓、一と爲り、利を明に分ち、兵を合せ力を戮せて、以て遼東に出でなば、則ち勢、瓴水を屋に建すが如し。顧ふに韓民、和兵を畏れて、心は服せず。我れ一將を遣し、韓王を助けて以て之を招聚し、其力に因りて以て東北を捍禦せん。是れ名は明を以て韓を援け、而して其實は韓を以て明を援くるなり。明何ぞ和を患へんやと。明主、之に從ひ、其將祖承訓・史儒等を遣し、將に韓を援けんとして、書を琉球・暹羅に下し、和を侵すの勢を爲して、以て秀吉を震し、其をして海を航

戮レ力。以出二遼東一。則勢如レ建二瓴水于屋一矣。顧韓氏畏二和兵一。而心不レ服焉。我遣二一將一。助二韓王一以招二聚之一。因二其力一以捍二禦東北一。是名以レ明援レ韓。而其實以レ韓援レ明也。明何患レ於レ和哉。明主從レ之。遣二其將祖承訓史儒算一。將レ援レ韓。而下二書琉球邏羅一。爲二使レ和之勢一。以懈二秀吉一。使三其勿二航レ海西北嚮一。而大聽有レ疾。謂二秀吉已航レ海也。憂疑疾篤。秀吉聞レ之。馳歸觀レ之。至則已薨。

して西北に嚮ふ勿らしむ。而して大聽、疾有り。秀吉已に海を航すと謂ひて、憂疑し疾篤し。秀吉、之を聞き、馳せ歸りて之を觀る。至れば則ち已に薨ぜり。

(一)明の守り防ぎは朝鮮に在り (二)日本兵 (三)勇ひ強くして恰も瓶の水を屋上に流すが如し (四)ふせぐ (五)牽制し

當二此時一。承訓儒算既入レ韓。二將皆遼東勇將。數與レ胡戰有レ功。甚輕二和人一。和人前掠二明疆一者皆海盜。甲仗敝

此時に當りて、承訓・儒算既に韓に入り。二將は皆遼東の勇將にして、數〻胡(一)と戰ひて、功有り。甚だ和人を輕んず。和人の前に明疆(二)を掠むる者は皆海盜、甲仗(三)敝惡、明人之を狎見(四)して以爲らく豐臣氏の兵も、亦是の如きのみと。是に於て、嘉山に至り、韓人に問ひて曰く、平壤の和兵乃ち走る無らんかと。曰く、否と。承訓、酒を擧げて祝して曰く、天、我をして大功を成さしめよと。進みて順安

惡。明人狃二見之一。以爲豐臣氏兵亦如レ是也。於レ是至二嘉山一問二韓人一曰。平壤和兵無二乃走一乎。曰。否。承訓擧レ酒祝曰。天使三我成二大功一也。進舍二順安一。營未レ定。行長偵知。夜遣二輕卒一劫二其營一。營亂。乃笑曰。此虜亦易レ與耳。明日。自往。與二明軍一戰レ于二安定一。旗幟偉麗。人馬皆被二鬼頭獅面一。

に舍す。營未だ定らず。行長、偵知し(五)、夜、輕卒を遣し、其營を劫す。營亂る。乃ち笑ひて曰く、此虜も亦與し易きのみと。明日、自ら往き、明の軍と安定に戰ふ。旗幟(六)偉麗、人馬皆鬼頭獅面を被る(七)。明の馬駭く。行長、兵を麾きて之を蹂む。儒算馬を下りて鬪ひ、丸に中りて斃る。時に霖雨し、我が兵、明人に淖(八)に迫り、撃ちて之を鏖にす。承訓、身を挺んでて走る。行長因りて書を韓王に投じて曰く、王盍ぞ我を導きて明を伐たざる。明の我が兵に當ること、猶ほ(九)羊羣に一虎を放つがごときは、王の知る所なり。今、遼東既に明の隻騎(一〇)なし。而して我が舟師十餘萬、又西海より來る。未だ知らず大駕將に復た何くに逃れんとするかをと。是の時に當りて、韓の猛將精兵多く咸鏡道に在りて、清正の阻(一一)する所と爲り、來りて韓王を援ふ能はず。

(一) えびす (二) 明の國境 (三) 甲冑兵器やぶれて惡し (四) 常に見なる (五) 探り知り (六) はた及はたじるし (七) 冑や馬鎧をいふ (八) ぬかるみ (九) 弱き羊の群に猛き虎を放つが如きことは (一〇) たゞの一騎もなし (一一) くひとめられ

明馬駭。行長麾㆑兵蹂㆑之。儒眞下㆑馬鬭。中㆑丸斃。時霖雨。我兵迫㆓明人於㆒㆑淖。撃鏖㆑之。承訓挺㆑身而走。行長因投㆓書韓王㆒曰。王盡㆓導㆑我伐㆒㆑明。明當㆓我兵㆒。猶㆔羊羣放㆓一虎㆒。王所㆑知也。今遼東既無㆓明隻騎㆒。而我舟師十餘萬。又來㆑自㆓西海㆒。未㆑知大駕將㆓復何逃㆒也。當㆓是時㆒。韓猛將精兵多在㆓咸鏡道㆒。而爲㆓清正所㆒㆑阻。不㆑能㆔來援㆓韓王㆒。

清正之入㆓咸鏡道㆒也。虜㆓安城民三人㆒使㆓先導㆒。二人辭。清正立斬㆑之。其一人懼。從㆑之。至㆓永興㆒。聞㆔二王子遁㆓咸鏡北道㆒。則大喜。留㆓直茂賴定㆒守㆓永興㆒。而自以㆓其輕兵㆒日行數百里。至㆓鐵嶺㆒。踰而北。北道兵使

清正の咸鏡道に入るや、安城の民三人を虜にして、先導せしむ。二人辭す。清正、立ちどころに之を斬る。其一人懼れて、之に從ふ。永興に至り、二王子、咸鏡北道に遁ると聞き、則ち大に喜び、直茂・賴定を留めて永興を守らしめ、而して自ら其輕兵を以て、日に行くこと數百里なり。鐵嶺に至り、踰えて北す。北道兵使韓克誠、六鎭の彍騎を以て、清正を海汀倉に逆ふ。北兵善く射、平地に憑りて馳突す(一)。我が軍、歩兵(二)多し。利あらずして卻く。日暮るゝに會ひ、收めて倉內に入る。韓兵、沓止して之を圍む。矢の下ること雨の如し。清正、倉粟を排して城と爲し、銃を發して之を拒ぎ、手に應じて千餘人を斃す。韓兵退き、鐵嶺に上りて陣し、旦(三)を待ちて戰はんと欲す。清正、夜、兵數千を分ち、敵を環りて伏

韓克誠。以三六鎭彊騎一逆三清正于二海汀倉一。北兵善射。憑二平地一馳突。我軍多二步兵一。不レ利。卻。會二日暮一。收入二倉内一。韓兵沓至圍レ之。矢下如レ雨。清正排二倉粟一爲レ城。發レ銃拒レ之。應レ手斃二千餘人一。韓兵退。上二鐵嶺一而陣。欲二待レ旦戰一。清正夜分二兵數千一。環レ敵而伏。旦大霧。克誠將レ下レ嶺。而我兵四面齊起。大破レ之。追レ北至二鏡城一。又大破レ之。遂擒二克誠一。縱レ火焚レ城。

す。旦、大に霧ふる。克誠將に嶺を下らんとす。而して我が兵、四面齊しく起り、大に之を破り、北ぐるを追ひて鏡城に至り、又大に之を破り、遂に克誠を擒にし、火を縱ちて城を焚く。

(一)強弓を引く騎兵 (二)馳けまはりて突撃す (三)明朝に至つて戰はんと欲す

聞三二王子在二會寧府一。驅而赴レ之。府。韓極北也。行五十日至焉。府使鞠景仁懼。拘二二王子一。使二人來乞レ降。且曰。

二王子、會寧府に在りと聞き。驅りて之に赴く。府は、韓の極北なり。行くこと五十日にして至る。府使鞠景仁懼れ、二王子を拘し、人をして來りて降を乞はしむ。且つ曰く、府内、食盡き、王子食はざること三日なり。願はくは之に食(二)を賜へと。清正、之を許し、自ら城に入らんと欲す。將校皆諫めて曰く、吾れ府内を窺ふに、(一)虜人塡咽す。我れ寡兵を以て入る。恐らくは變有らんと。清正曰

府内食盡。王子不レ食三日。願賜二之食一。清正許レ之。欲二自入一レ城。將校皆諫曰。吾窺二府内一。虜人塡咽。我以二寡兵一入。恐レ有レ變也。清正曰。虜何能爲。吾已失レ王。不レ可三又失二王子一。卽有レ變。吾與二王子一決レ死。莫レ憾也。乃與二十餘騎一入レ城。令下饋者數十人。人執二一器一隨而入上。韓人危疑。張レ弓環二清正一。清正叱レ之。辯二其無一レ他。韓人不レ能レ解。清正自開レ襟當レ箭。取二印於一レ懷。印レ紙示レ之。韓人捨レ弓拜。

(前略)く、虜何ぞ能く爲さん。吾れ已に王を失ふ。又王子を失ふべからず。卽し變あらば、吾れ王子と死を決せん。憾莫きなりと。乃ち十餘騎と城に入る。(四)饋者數十人をして、人ごとに一器を執り、隨ひて入らしむ。韓人危疑し、弓を張りて清正を環る。清正、之を叱し、其の他無きを辯ず。韓人、(五)解する能はず。情正自ら襟を開き箭に當て、印を懷に取り、紙に印して之に示す。韓人、弓を捨てて拜す。

(一) 北のはて　(二) 王子に食事をさせてくれ　(三) 敵滿ち塞がる　(四) 食事を進むる人　(五) 理解出來ず

於レ是清正拘二王子及其大臣黃赫金貴榮等一。使三人護二送之鏡城一。乃

是に於て、清正、王子及び其大臣黃赫・金貴榮等を拘し、人をして之を鏡城に護送せしむ。乃ち景仁に問ひて曰く、朝鮮の北境、此に盡くるかと。對へて曰く、然りと。曰く、(一)北隣は何の國ぞ。曰く、兀良哈なりと。清正乃ち八千人を以て進

問二景仁一曰。朝鮮北境盡レ於レ此乎。對曰。然。曰。北隣何國。曰。兀良哈。清正乃以二八千人一進。入二其境一。攻二一城一拔レ之。既夜。下レ令曰。勿レ釋レ甲。夜半。胡騎大至。我兵力戰。走レ之。清正曰。虜不レ意二我至一。我一捷足三以報二太閤一矣。乃收二其貨寶一。引レ兵南還。胡騎躡レ之。清正自殿而退。終至二海濱一。西南望得二高山一。韓捕虜曰。富士岳也。清正下レ馬。免レ冑而拜。謂二其騎一曰。自三吾辭二太閤一。謂二日西北行一矣。今望三岳於二西南一。覺二吾行遼遠一也。乃歸。二十日至二鏡城一。

み、其境に入り、一城を攻めて之を拔く。既にして夜なり。令を下して曰く、甲(二)を釋くこと勿れと。夜半、胡騎、大に至る。我が兵、力戰して、之を走らす。清正曰く、虜、我が至るを意はす。我の一捷、以て太閤に報ずる足れりと。乃ち其貨寶を收め、兵を引きて南に還る。(三)胡騎之を躡す。清正自ら殿して退く。終に海濱に至り、西南に望みて高山を得たり。韓の捕虜曰く、富士岳なりと。清正、馬を下り、冑を免ぎて拜し、其騎に謂ひて曰く、吾れ太閤に辭してより、日に西北行すと謂へり。今、岳を西南に望む。吾が行の(四)遼遠を覺ゆと。乃ち歸り、二十日、鏡城に至る。

(一) 一本に比とあり　(二) 甲冑を脱ぐ　(三) えびすの騎兵あとを追ふ　(四) はるかに遠きこと

八月。韓王自二義州一遣二李蘋李元翼一。來攻二平壤一者再。行長輒擊却レ之。王亦聞三清正已略二定咸鏡一。恐下其與二行長一并レ力來襲上也。益告二急於レ明。明既得二承訓敗聞。擧朝震驚。大司馬石星說二明主一曰。秀吉兵乘レ勝而遠鬪。未レ可二與爭レ鋒。且寧夏未レ平。復有レ事三於二遼東一。不レ若二且議レ和以

八月、韓王義州より、李薲・李元翼を遣し、來りて平壤を攻めしむること再びす。行長、輒ち擊ちて之を卻く。王も亦清正已に咸鏡を略定すと聞き、其の行長と力を并せて來り襲ふを恐れ、益々急を明に告ぐ。明既に承訓の(二)敗聞を得、(三)擧朝震驚す。大司馬石星、明主に說きて曰く、秀吉の兵、勝に乘じて遠く鬪ふ。未だ與に鋒を爭ふべからず。且つ寧夏未だ平かならず。復た遼東に事あり。且く和を議して以て禍を紓べんに若かざるなりと。因りて沈惟敬を薦む。惟敬は、越人なり、(三)慧黠にして辯口有り。燕に遊び、燕の倡家の僕鄭四と善し。鄭四嘗て對馬に在り。惟敬、故を以て略々和事を知り、(四)富貴を(五)徼幸す。其友袁茂嘗て女を星に納る。星因りて惟敬を知る。召して與に語り、大に悅び、遂に之を薦む。是に於て、明主、惟敬を以て(六)遊擊將軍と爲し、多く金帛を資し、往きて我が軍を說かしめ、書を平壤に投じ、辭を卑くして和を乞ふ。行長、宗義智と惟敬を城北に見る。曰く、明卽し和を欲せば、宜しく使をして海に濟らしむべしと。因り

紓レ禍也。因薦二沈惟敬一。惟敬越人。慧黠有二辯口一。遊レ燕與二燕倡家僕鄭四一善。鄭四嘗在二對馬一。惟敬以レ故略知二和事一。徼二幸富貴一。其友袁茂嘗納二女於レ星。星因知二惟敬一。召而與語。大悅遂薦レ之。於レ是明主以二惟敬一爲二遊擊將軍一。多資二金帛往一。說二我軍一。投二書平壤一。卑レ辭乞レ和。行長與二宗義智一。見二惟敬於二城北一。曰。明卽欲レ和。宜レ使二使濟レ海。因徵二數條一。惟敬盡順二其意一曰。歸取レ報。五十日復來。乃請下界二平壤西北十里一。和韓俱不中相踰上。行長許而遣歸。告二狀於秀家一。

て數條を徴す。惟敬盡く其意に順ひて曰く、歸りて報を取り、五十日にして復た來らんと。乃ち平壤の西北十里を界とし、和・韓、倶に相踰えざるを請ふ。行長、許して遣歸し、状を秀家に告ぐ。

(一)まけたる知せ (二)明の朝廷中ふるひ驚く (三)わるがしこくてくちまへ達者なり (四)藝妓の家 (五)求め願ふ (六)遊軍の將 (七)講和條約五六箇條を約束せしめ (八)やりかへす

於レ是我兵在二平壤一者。不二復西下一。而韓兵竊發二諸道一。沈岱者。募二兵朔寧一。計レ復二都城一。

是に於て、我が兵の平壤に在る者、復た西下せず。而して韓兵、竊かに諸道を發し、沈岱といふ者、兵を朔寧に募り、都城を復せんと計る。秀家、攻めて之を斬る。鄭湛・邊應井も亦兵を全州に聚む。筑紫廣門、(一)慶尙より全羅に入り、湛應井と熊嶺に戰ひて、之を斬る。而して全州未だ下らず。九月、應井の弟應星、

秀家攻而斬レ之。鄭滿邊應井亦聚二兵全州。筑紫廣門自二慶尙一入二全羅。與二滿應井一戰二熊嶺一。斬レ之。而全州未レ下。九月。應井弟應星敗三石田三成于二馬灘一。元豪敗三蜂須賀家政于二龜尾浦一。遂攻三毛利高政于二春川一。高政伏レ兵擒レ豪。遂定二江原一。鍋島直茂相良賴定在二永興一。取二德原咸興等七城一。移守二咸興一。淸正自二鏡城一以二諸俘虜一還。至二蓮下一。會三韓兵二萬阨二梁

石田三成を馬灘に敗り、元豪、蜂須賀家政を龜尾浦に敗り、遂に毛利高政を春川に攻む。高政、兵を伏せて豪を擒にし、遂に江原を定む。鍋島直茂・相良賴定、永興に在り。德原・咸興等の七城を取り、移りて咸興を守る。淸正、鏡城より諸(二)俘虜を以て還り、蓮下に至る。韓兵二萬、梁養山を阨するに會す。淸正、擊ちて之を破り、其將梅天を走らす。直茂・賴定、之を迎へて橘中に相見て、其の恙無きを賀す。時已に十月なり。淸正、軍を安邊に返し、乃ち全山・橘州の諸城を修め、相與に心を協せ、韓人を按據(三)す。是の時に當りて、諸將、事を關白に稟す。使舸(四)海中に交る。是の月、秀吉復た奏請して、行營に赴く。天子、詔して曰く、征戎(五)の事。一に將佐に委ね、輕〻しく海を濟る勿れと。秀吉、拜謝して行く。

(一) 取返さんともくろむ　(二) 多くのとりこ　(三) しづめ安んず　(四) 使者の[illegible]はやふね　(五) 一本に戎を伐とあり、えびすを征伐すること

養山一。清正擊破レ之。走二其將梅天一。直茂賴定迎レ之、相三見于二橋中一。賀二其無一レ恙。時已十月矣。清正返二軍安邊一。乃修二全山橋州諸城一。相與協レ心。按二據韓人一。當二是時一。諸將稟二事事吉一。使舸交レ於二海中一。是月。秀吉復奏請レ赴二行營一。天子詔曰。征戎之事。一委二將佐一。勿二輕濟一レ海。秀吉拜謝而行

十一月。直茂以二三千人一。與二韓將李希得兵三萬一戰二于咸興北一。走レ之。斬首千餘級。清正盡收二咸鏡二十二管一。遂議下自二北道一長驅入中遼東上。未レ果。行長亦以二惟敬過一レ期不レ至。乃怒。下二令軍中一曰。皆修二行具一。吾將レ飮二馬鴨綠江一也。義州聞レ之荷擔而立。韓王飛レ書告レ明。

十一月、直茂、三千人を以て、韓將李希得の兵三萬と、咸興の北に戰ひて、之を走らす。斬首千餘級なり。清正、盡く咸鏡の二十二(一)管(二)を收め、遂に北道より長驅(三)して遼東に入らんと議す。未だ果さす。行長も亦惟敬の期を過ぎて至らざるを以て、乃ち怒り、令を軍中に下して曰く、皆行具(四)を修めよ。吾れ將に馬に鴨綠江に飮はんとするなりと。義州、之を聞きて荷擔(五)して立つ。韓王、書を飛ばして明に告ぐ。

㊀ 一本に三十二とあり ㊁ 一本に伏とあり ㊂ 長追 ㊃ 戰爭に行く支度をせよ ㊄ 荷物を荷ひ擔ぐ

明羣臣議曰。惟敬說不レ可レ信。秀吉殊無二退レ兵意一。曩者以二暑濕一取レ敗。今天寒馬肥。宜レ出レ兵也。翊鈞猶豫未レ決。懸レ令。有下能獻二奇計一復二東藩一者上。購二萬金一。封二伯爵一。襲二之子孫一。莫二敢應者一。衆推二少司馬宋應昌一。曰。應昌去歲上書言二秀吉必來一。是知レ兵矣。翊鈞遂拜二應昌一爲二都御史一。經二

明の羣臣、議して曰く、惟敬の說、信ず可からず。秀吉殊に兵を退くる意無し。曩者には暑濕を以て敗を取る。今、天寒く馬肥ゆ。宜しく兵を出すべきなりと。(一)翊鈞猶豫して未だ決せず。(二)令を懸くるやう、能く奇計を獻じ、(三)東藩を復する者有らば、萬金に購ひ、伯爵に封じ、之を子孫に襲がしめんと。敢て應ずるもの莫し。衆、少司馬宋應昌を推して曰く、應昌は去歲、上書して秀吉必ず來るを言ふ。(四)是れ兵を知るなりと。翊鈞、遂に應昌を拜して都御史と爲し、東北を經略せしむ。劉黃裳・袁黃、贊畫と爲る。而して兵に將たるものを選ぶ。李如松、(五)材武、天下無雙と稱す。其の寧夏を平げて旋るに會ふ。即ち拜して大將と爲し、六將軍を率ゐて、東、秀吉を拒がしめ、期するに十一月を以てして北京を發せしむ。獨り、大司馬猶は前議を持し、復た惟敬を遣して平壤に至りて、秀吉の意を伺はしむ。惟敬、平壤の城中に留り、行長と密に議を定めて以て去る。而して如松等の大兵已に遼東に至る。惟敬、之を路に要して曰く、媾將に成らん

略東北。劉黄裳袁黄爲贊畫。而選將兵者。李如松稱材武天下無雙。會其平寧夏而旋。則拜爲大將。率六將軍。東拒秀吉。期以十一月發北京。獨大司馬猶持前議。復遣惟敬至平壤。伺秀吉意。惟敬留平壤城中。與行長密定議以去。而如松等大兵已至。遂東。惟敬要之於路曰。媾將成矣。和人約棄平壤界大同江而退。如松方鋭意立功。弗懌惟敬言。欲執而斬之。應昌等説曰。宜舍此因怠敵而襲之。如松從之。率渡鴨緑。會降虜爲我耳目者。爲韓相所摘發。皆就拘縛。以故不知明軍至。

とし、和人、平壤を棄て、大同江を界として退かんと約すと。如松、方に功を(七)立つるに鋭意にして、惟敬の言を懌ばず。執へて之を斬らんと欲す。應昌等説きて曰く、宜しく此を舍し、因りて敵を怠らしめて之を襲ふべしと。如松、之に從ひ、率ゐて鴨緑を渡る。降虜の(八)我が耳目を爲す者、韓相の(九)摘發する所と爲り、皆拘縛に就くに會す。故を以て、明軍の至るを知らず。

(一) 明主 (二) 賞を懸けて御觸を出す其の言に (三) 東方の屬國朝鮮を回復する者あらば (四) 軍事に通ずるなり (五) 參謀 (六) 才智武勇天下第一と稱す (七) 功を立つることに氣がはやり惟敬の言を不快に思ふ (八) 日本の爲に敵情を探ぐる者、即ち日探 (九) 見あらはされ

二年正月朔。

二年正月朔、如松、肅寧に至り、裨將查大受をして先づ順安に往かしむ。大受、

如松至㆓肅寧㆒。使㆔裨將查大受先往㆓順安㆒。大受使㆓人來告㆒曰。沈遊擊至。和議成矣。行長喜亦使㆘一將以㆓二十人㆒會㆗順安㆖。大受誘與飮㆑酒。伏起。二十人搏戰。亡㆓其三人㆒。走還㆓平壤㆒。行長大驚。丹波人內藤如安爲㆓行長侍史㆒。冒㆓小西氏㆒稱㆓飛驒守㆒。於㆑是行長命㆓如安㆒往詰㆓如松㆒。

人をして來り告げしめて曰く、沈遊擊至り、和議成ると。行長喜び、亦一將をして二十人を以て順安に會せしむ。大受、誘ひて(一)與に酒を飮む。伏起る。二十人搏戰し、其三人を亡ひ、走りて平壤に還る。行長、大に驚く。丹波の人內藤如安(二)、行長の侍史と爲り、小西氏を冒し、飛驒守と稱す。是に於て、行長、如安に命じて、往きて如松を詰らしむ。如松、(三)慰解して遣還す。而して六日、諸軍を以て平壤に薄る。行長、宗義智等と、急に守備を修め、使を馳せて急を鳳山に告ぐ。使者未だ歸らず。如松已に先鋒を以て含毬門を攻む。我が兵、擊ちて之を卻く。其夜、出でて李如栢の營を襲ふ。利あらず。其明、明軍大に至る。如松は小西門を攻め、如栢は大西門を攻め、吳惟忠・駱尙志は北門を攻め、祖承訓は南門を攻む。承訓、奇功を立てて前敗を償はんと欲し、我が韓人を易るを知るや、其兵をして皆韓裝を倘へ、故に(四)踏跙進まざらしむ。行長、以て韓人と爲す。專ら西北を拒ぎ、自ら銃手を率ゐて、擊ちて如松を卻く。如松、益〻大礮火

如松慰解遣還。而六日。以二諸軍一薄二平壤一。行長與二宗義智等一。急修二守備一。馳レ使告三急於二鳳山一。使者未レ歸。如松已以二先鋒一攻二含毬門一。我兵擊卻レ之。其夜出襲二李如栢營一。不レ利。其明。明軍大至。如松攻二小西門一。如栢攻二太西門一。吳惟忠路倚志攻二北門一。祖承訓攻二南門一。承訓欲下立二奇功一償中前敗上。知三我易二韓人一也。令下其兵皆尙二韓裝一。故路踞不レ進。行長以爲二韓人一也。專拒二西北一。自率二銃手一。擊二卻如松一。如松益用二大礮火箭一。毒烟蔽レ城。我兵殊死戰。

箭を用ひ、毒烟城を蔽ふ。我が兵、(五)殊死して戰ふ。

(一) 共に酒宴を開きて酒を酌みかはす　(二) 詛討し　(三) なだめさとす　(四) あとしざりす　(五) 死力をつくして

承訓則脫二韓裝一。露二明甲一。鼓譟而登。行長驚急分レ兵拒レ之。而西北郎陷。行長退保二牡丹臺一。明軍四面攀レ堞。我兵力拒。刀槍攢垂。堞如二蝟毛一。

承訓則ち韓裝を脫ぎ、明甲を露し、鼓譟して登る。行長驚き、急に兵を分ちて之を拒ぐ。而して西北郎ち陷る。行長、退きて牡丹臺を保つ。明軍、四面より堞を攀づ。我が兵、力拒し、刀槍攢り垂る。堞、蝟毛の如し。明兵の死傷數千人なり。拔く能はず。退きて城外に營す。行長の將木戶某、說きて曰く、鳳山の兵、來り援はず。吾れ孤城を以て大敵に抗す。終に支ふ可からず。盍ぞ退きて諸將に合して、以て再擧を圖らざると。行長、之を然りとし、卽夜、潛かに衆を率ゐ

毛。明兵死傷數千人。不能拔。退營城外。行長將木戶某說曰。鳳山兵不來援。吾以孤城抗大敵。終不可支。盍退合於諸將以圖再擧。

て城を出で、江に至る。(三)江冰方に合ふ。踏みて渡り、鳳山に至る。大友義統、已に遁れて國都に之く。黑田長政、白川に在り。敗を聞き、兵を引きて行長を迎へ、代り殿して退く。明軍、敢て追躡せず。終に國都に至る。韓人之を聞きて、(四)所在竝び起りて、以て明軍に應ず。

(一)朝鮮の服裝を脫ぎ明の甲冑を被り　(二)援兵なき孤立の城　(三)江、丁度をりよく全面氷る　(四)あちこちそろひて起る

行長然之。即夜潛率衆出城。至江。江冰方合。踏而渡。至鳳山。大友義統已遁之國都。黑田長政在白川。聞敗。引兵迎行長。代殿而退。明軍不敢追躡。終至國都。韓人聞之。所在竝起。以應明軍。

宋應昌等謀曰。秀吉將帥皆萃王城。而加藤清正者。懸孤軍在咸鏡。聲聞不通。

宋應昌等謀りて曰く、秀吉の將帥、皆王城に萃る。而して加藤清正は(一)孤軍を懸けて咸鏡に在り。(二)聲聞通ぜす。(三)虛喝して取る可きなりと。辯士馮仲纓をして、(四)譯を以て清正に說かしめて曰く、和、故無くして韓を攻む。韓、急を明に告

可二虛喝而取一也。使三辯士馮仲纓以レ譯說二淸正一曰。和無レ故攻レ韓。韓告二急於レ明。明皇帝大怒。遣二大兵一救レ韓。復二平壤一。復二開城一。遂復二國都一。擒二浮田小西一。盡逐二其兵一。令三琉球暹羅諸國壓二和境一。而足下猶守レ韓。欲レ爲レ誰乎。皇帝聞二足下高義一。使三使臣爲報二告之一。爲二足下計一。莫レ若下速返二韓

ぐ。明の皇帝大に怒り、大兵を遣して韓を救はしめ、平壤を復し、開城を復し、遂に國都を復す。浮田・小西を擒にし、盡く其兵を逐ひ、琉球・暹羅の諸國をして(五)和境を壓せしむ。而して足下、猶ほ韓を守りて、誰の爲にせんと欲するか。皇帝、足下の高義を聞き、使臣をして爲に之を報告せしむ。足下の計を爲すに、速かに韓の王子を返し、軍を收めて和に歸るに若くは莫し。否ずんば、則ち明軍四十萬、韓兵を驅りて東し、直に安邊に萃らん。足下、明に服せんと欲すと雖も、得んやと。淸正、侍史をして之に答へしめて曰く、淸正、國命を奉じて戰ふを知る。明令を聽きて(六)和するを知らざるなり。歸りて明主に語げよ。我に(七)敝甲凋兵有り。(八)近ごろ事無きに苦しむ。貴國來り伐つとは、已に命を聞けり。而して咸鏡の途は險阨にして、騎は比行す可からず。卒は列を成すを得ず。兵の來る、日に一二萬のみ。吾れ迎へて之を擊ち、日に一萬を殺さば、四十日にして之を殲さん。日に二萬を殺さば、二十日にして之を殲さん。既に殲して西を指

王子。收ㇾ軍歸和。否則明軍四十萬。驅二韓兵一而東。直萃ㇾ於二安邊一。足下雖ㇾ欲ㇾ服ㇾ明。得乎。清正使二侍史答一レ之曰。清正知下奉二國命一而戰上。不ㇾ知下聽二明令一而和上也。歸語二明主一。我有二敝甲凋兵一。近苦ㇾ無ㇾ事。貴國來伐。已聞ㇾ命矣。而咸鏡之途險阨。騎不ㇾ可二比行一。卒不ㇾ得ㇾ成ㇾ列。兵之來。日一二萬而已。吾迎而擊ㇾ之。日殺二一萬一。四十日殲ㇾ之。日殺二二萬一。二十日殲ㇾ之。既殲而西指。度ㇾ遼破ㇾ燕。奉二大駕於二海東一。清正可二以復命一矣。仲纓走歸。

し、遼を度り、燕を破り、(九)大駕を海東に奉ぜん。清正以て復命す可しと。仲纓、走り歸す。

(一)後詰の兵なく遠くかけはなれて (二)音信通ぜず (三)おどかして (四)通譯をして (五)日本の國境に攻寄す (六)文書記錄をつかさどる者 (七)破れたる甲冑と衰へたる兵とあり (八)近日、何事もなきに飽く (九)明王を日本に迎れ歸る

當二是時一。明軍乘ㇾ勝。鼓行而東。國都將吏。令二大同以東諸城撤ㇾ守來會一。諸城皆聽ㇾ

是の時に當りて、明軍、勝に乘じ、鼓行して東す。國都の將吏、大同以東の諸城をして、(一)守を撤して來り會せしむ。諸城、(二)皆命を聽く。獨り小早川隆景・毛利秀包・立花宗茂と、肯ぜずして曰く、吾が輩、力を竭し國に報ゆる、固より今日に在り、且つ明軍勝ちて驕る。(三)與し易きのみと。三奉行、之を促すこと

命。獨小早川隆景。與二毛利秀包立花宗茂一。弗レ肯曰。吾罷レ竭レ力報レ國。固在二今日一。且明軍勝而驕。易レ與耳。三奉行促レ之甚急。乃退。未レ至二王城一三十里而軍。明軍進入二開城一。遂渡二臨津一。査大受爲二其先鋒一。値三宗茂于二礪石嶺一。宗茂撃破レ之。斬二百餘人一。如松乃盡引二其軍一而至。隆景

甚だ急なり。乃ち退く。未だ王城に至らざること三十里にして軍す。明軍、進みて開城に入り、遂に臨津を渡る。査大受、其先鋒と爲り、宗茂に礪石嶺に値ふ。宗茂撃ちて之を破り、百餘人を斬る。如松乃ち盡く其軍を引きて至る。隆景、三萬人を以て碧蹄館に邀撃して、大に戰ふこと良ゝ久し。宗茂、秀包と横に之を撃つ。如松、初め火器(四)を以て平壤を襲ひ、一戰して志を得、謂らく、和兵復た畏るゝに足らずと。乃ち輕進(五)して銃礮を具へず。短兵を以て接戰す。我が軍、兵鋭く刃利し、縱横揮ひ撃ち、人馬皆倒る。敢て其鋒に當る莫し。我が兵の呼聲、天を動す。遂に大に明軍を破り、斬首一萬にして、殆ど如松を獲んとす。北ぐるを追ひて臨津に至り、明兵を江に擠す。江水、之が爲に流れず。如松、痛哭すること徹夜、敗軍を聚め、退きて坡州に入る。

(一) 守備を止めて　(二) 皆命令に從ふ　(三) 相手にしやすし　(四) 鐵砲　(五) 輕はづみに進みて　(六) 夜どほし痛みなげく

以三萬人。邀擊于碧蹄館。大戰良久。宗茂與秀包横擊之。如松初以火器襲平壤。一戰得志。謂和兵不足復畏。乃輕進不具銃礮。以短兵接戰。我軍兵鋭刃利。縱横揮擊。人馬皆倒。莫敢當其鋒。我兵呼聲動天。遂大破明軍。斬首一萬。殆獲如松。追北至臨津。擠明兵于江。江水爲之不流。如松痛哭徹夜。聚敗軍。退入坡州。

韓將相請其再進。不肯。時天雨冰釋。如松託言。坡州多泥。不可爲營。遂退入東坡。二月。猶雨。明馬多病斃。我兵縱火而進。如松退入開城。遣人還明。稱疾請代。而韓人寇我者不衰。我兵在幸州者。亦爲韓將權慄

韓の將相、其再進を請ふ。肯ぜず。時に天雨ふり、冰釋く。如松、託言す。(一)坡州は泥多く、營を爲す可からずと。遂に退きて東坡に入る。二月。猶ほ雨ふり、明馬多く病みて斃る。我が兵、火を縱ちて進む。如松、退きて開城に入り、人を遣して明に還し、疾と稱して代を請ふ。(二)而して韓人の我に寇する者衰へず。我が兵の幸州に在る者も、亦韓將權慄の敗る所と爲る。秀家等乃ち使をして清正を召さしむ。清正、橘中の寇を平ぐ。斬首虜三千餘級なり。直茂・頼定と、皆都城に之く。明兵相驚きて曰く、清正、北道より繞りて平壤を襲ひ、我が歸路を(三)扼すと。如松、大に懼れ、諸將を留めて臨津を守らしめて、自ら退きて平壤に入る。

(一) かこつけごとす　(二) 代人　(三) 歸りみちをくひとめる

所レ敗。秀家等。乃使三使召二清正一。清正平二橘中寇一。斬首虜三千餘級。與二直茂頼定一皆之二都城一。明兵相驚曰。清正自二北道一繞襲二平壤一。扼二我歸路一。如松大懼。留二諸將一守二臨津一。而自退入二平壤一。

秀吉使二毛利秀元加藤光泰細川忠興等七將赴援一。三月。攻二晉州一。晉州城險。韓王之奔。置二其重器一。以二精兵二萬一守レ之。七將皆大敗。退入二都城一。都城傍有二龍山倉一。我兵仰レ食焉。查大受李如梅潛レ兵火レ倉。而金命元等軍二臨津南一。絕二

秀吉、毛利秀元・加藤光泰・細川忠興等の七將をして赴き援はしむ。三月、晉州を攻む。晉州城は險なり。韓王の奔るや、其(一)重器を置き、精兵二萬を以て之を守らしむ。七將、皆大に敗れ、退きて都城に入る。都城の傍に龍山倉有り。我が兵、食を仰ぐ。查大受・李如梅、兵を潛めて倉を火く。而して金命元等、臨津の南に軍し(二)、我が糧道を絶つ。已にして我と明軍と、皆大に疫す。三奉行、糧竭くるを以て、退きて釜山を守らんと欲す。光泰曰く、糧竭きば、寧ろ砂を食はん。國都は棄つ可からざるなりと。清正も亦之を爭ひて曰く、吾れ孤軍を以て強(三)胡數萬を破る。明韓の兵、何ぞ意と爲すに足らん。何ぞ其糧を奪はざると。三成曰く、公宜しく往きて奪ふべし。助(四)を人に取るを得ずと。清正曰く、諾と。即夜、手兵を以て明軍を襲ひ、糧を奪ひて還る。時に如松、沈惟敬をして和を計ら

我糧道。已而我與明軍皆大疫。三奉行以糧竭欲退守釜山。光泰曰。糧竭寧食砂。國都不可棄也。清正亦爭之曰。吾以孤軍破強胡數萬。明韓兵何足爲意。何不奪其糧。三成曰。公宜往奪。不得取助於人。清正曰。諾。即夜。以手兵襲明軍。奪糧而還。時如松使沉惟敬計和。惟敬赴北京。報曰。秀吉欲封日本國王如足利氏故事耳。因與石星定議。來韓都城。厚賄行長曰。太閤歸韓俘。則割慶尙全羅忠清三道。封爲王。行長等素不學。不諳封王故事。以爲王於明之謂也。欲許之。已而知其非。惟敬巧彌縫之。清正不可其議。

しむ。惟敬、北京に赴き、報じて曰く、秀吉は日本國王に封ぜらるゝこと、足利氏の故事(五)の如きを欲するのみと。因りて石星と議を定め、韓の都城に來り、厚く行長に賄ひて曰く、太閤、韓俘を歸さば、則ち慶尙・全羅・忠清の三道を割き、封じて王と爲さんと。行長等、素より不學(六)、封王の故事を諳んぜず。以爲へらく、明に王たるの謂なりと。之を許さんと欲す。已にして其非を知る。惟敬、巧に之を彌縫す(七)。清正、其議を可かず。

(一)貴重なる器具　(二)兵粮を送らしむ　(三)強き明軍　(四)他人に助けて貰ふ事を許さず　(五)前例　(六)無學にて日本國王に封ずとの前例を知らず　(七)其場をうまくつくろふ

行長與三奉

行長、三奉行と皆歸るを懷ひ、乃ち秀吉に報じて曰く、明人、殿下を尊び

行レ皆懷レ歸。乃報二秀吉一曰。明人欲下尊二殿下一爲中皇帝上。秀吉卽許レ和。惟敬請レ解二都城兵一。諸將乃焚レ城。更殿而東。如松乃肯進。韓相柳成龍請レ尾二擊之一。乃遣二李如栢等萬餘人一。覘二我陣整一。不二敢迫一。諸將至二慶尙一。起二蔚山東萊金海巨濟等十八屯一。以俟二秀吉令一。明主以二孫鑛一代二宋應昌一。遣二劉綎吳惟忠等一。分守二星州居昌諸城一。而使三謝用梓沈一貫沈惟敬來謁

て皇帝と爲さんと欲すと。秀吉卽ち和を許す。惟敬、都城の兵を解かんと請ふ。諸將乃ち城を焚き、更〻殿して(一)東す。如松乃ち肯て進む。韓相柳成龍、之を尾擊せんと請ふ。乃ち李如栢等萬餘人を遣す。我が陣の整ふを覘て、敢て迫ら(二)ず。諸將、慶尙に至る。蔚山・東萊・金海・巨濟等の十八屯を起して、以て秀吉の令を俟つ。明主、孫鑛を以て宋應昌に代らしめ、劉綎・吳惟忠等を遣し、分ちて星州・居昌の諸城を守らしめ、而して謝用梓・沈一貫・沈惟敬をして、來りて秀吉に行營に謁せしむ。秀吉、明の使者を饗して之を還し、小西如安を遣して與に偕にし、淸正の俘ふる所の二王子、大臣以下を放還(三)せしむ。大友義統、行長を救はざりしを以て、罰して其封を奪ひ、遂に(四)在韓諸將をして、晉州を屠りて以て前敗を償はしむ。

(一) 交代にしんがりして　(二) 強ひて迫はず　(三) ゆるしてかへす　(四) 朝鮮に出征中の諸將

秀吉于二行營一。秀吉饗二明使者一。遣レ之。道二小西如安一與偕。放二還清正所レ俘二王子大臣以下一。以二大友義統不レ救二行長一。削二奪其封一。遂令下在レ韓諸將居二晉州一以償中前敗上。

六月。諸將合レ兵圍二晉州一。城兵益熾。我軍塡レ濠蒙二竹楯一仰攻。城上矢石如レ注。清正造二龜甲車一。牛革包レ之。載以二死士一。穿二城足一。樓櫓崩折。清正與二黑田長政一先登。諸將繼レ之。斬二城將徐禮元金千鎰等一。鏖二六萬餘人一。夷二城池一而還。醢二禮元

六月、諸將、兵を合せて、晉州を圍む。城兵益〻熾なり。我が軍、濠を塡め竹(一)楯を蒙りて仰ぎ攻む。城上、矢石注ぐが如し。清正、龜(二)甲車を造り、牛革もて之を包み、載するに死士を以てし、城足を穿つ。樓櫓崩折す。清正、黑田長政と先登す。諸將、之に繼ぎ、城將(三)徐禮元・金千鎰等を斬り、六萬餘人を鏖にして、城池を夷げて還る。禮元の首を醢(四)し、之を行營に獻じ、仍ほ故地に屯す。韓王、大に驚き、之を明に訴ふ。李如松、沈惟敬をして、來りて行長に見えしめて曰く、公等和を許し、未だ十日ならざるに、晉の事有るは、何ぞやと。行長怒りて曰く、汝が、和を請ひて、明兵の韓に入る者益〻衆きは、何ぞやと。惟敬、語塞り、去りて北京に至り、石星に請ひて、如松以下を召還し、獨り劉綎・吳惟忠等萬人を留む。

首一。獻二之行營一。仍屯二故地一。韓王大驚。訴二之明一。李如松令三沈惟敬來見二行長一曰。公等許レ和。未二十日一有二晉州之事一。何也。行長怒曰。汝請レ和。而明兵入レ韓者益衆。何也。惟敬語塞。去至二北京一。請二石星一召二還如松以下一。獨留二劉綎吳惟忠等萬人一。

(一) 竹の楯 (二) 攻城の具、堅牢なる箱、其の外部を強き皮を以て張り包み乘者其中に在りて輪をきしらして行くもの、其狀龜甲に似たればいふ (三) 城の下方を穿つ (四) 鹽漬

明主疑二如安一。不二敢納一。舍二之遼東一。秀吉亦以二如安久不一レ還。意二惟敬欺一レ己。日夜謀二議軍事一。黑田孝高私語二同僚一曰。吾聞外征諸將有レ威無レ恩。所レ過無レ不二殘滅一。夷民逃匿。野毋二青草一。

明主、如安を疑ひて、敢て納れず。之を遼東に舍す。秀吉も亦如安久しく還らざるを以て、惟敬、己を欺くと意ひ、日夜、軍事を謀議す。黑田孝高、私かに同僚に語りて曰く、吾れ聞く、外征の諸將、威有りて恩無く、過ぐる所殘滅(一)せざる無く、夷民(二)逃げ匿れ、野に青草毋しと。是れ其地を得るも、果して何ぞ益せんや。且つ聞く、兩先鋒、功を爭ひて相鬩ぎ、法令を抵牾(三)し、衆、從ふ所を知る莫し。而して浮田宰相、之を制する能はずと。夫れ浮田は統御(四)の才に非ざるなり。能く此任に堪ふる者は、徳川に非ざれば則ち前田、若しくは孝高のみと。秀吉、側聽(五)して之を首肯す。已にして大に諸將を召し、行臺に會議す。曰く、朝

是得二其地一。果何益哉。且聞兩先鋒爭レ功相鬩。法令抵牾。衆莫レ知レ所レ從。而浮田宰相不レ能レ制レ之。夫浮田非二統御之才一也。能堪二此任一者。非二德川一則前田。若孝高而已。秀吉側聽而首二肯之一。已而大召二諸將一。會二議行臺一。曰。朝鮮之事。如二今日狀一。則何時定乎。乃公不レ可レ不二自往一也。吾留二家康一使レ守二吾邦一。無三復所二顧慮一焉。今擧二國內兵一。雖レ少猶可レ得二三十萬一。因顧二諸將一曰。利家汝將二五萬一。曰。氏鄉汝亦將二五萬一。吾親將二十五萬爲二中軍一。左二右汝二人一。掃二蕩朝鮮一。直入レ于レ明。疾具二兵艦一。吾意決矣。

鮮の事、今日の狀の如くんば、則ち何の時にか定らん。乃公、自ら往かざる可からず。吾れ家康を留めて吾が邦を守らしめば、復た顧慮する所無けん。(六)今、國內の兵を擧げて、少しと雖も、猶ほ三十萬を得可しと。因りて諸將を顧みて曰く、利家、汝五萬に將たれ。曰く、氏鄉、汝も亦五萬に將たれ。吾れ親ら十五萬に將として中軍と爲り、汝二人を左右にして、朝鮮を掃蕩し、(七)直に明に入らん。疾く兵艦を具へよ。吾が意は決すと。

(一) そこなひほろぼす　(二) えびすの民　(三) 食ひ違ふ　(四) 總大將となりて全軍を總べ治むる器量なし　(五) 傍に在りてきく　(六) 後の心配なし　(七) はらひ平らぐ

德川公弗レ懌。

徳川公懌ばず、利家・氏鄉に謂ひて曰く、二公、羣中に擢んでらる。榮孰ぞ大

謂二利家氏郷一曰。二公擢レ于二羣巾一。榮孰大焉。僕少小事二弓馬一。今雖レ老矣。猶足三以當二一面一。何居守爲。二公幸推二輓之一。彈正少弼進曰。德川公勿二復言一。臣視二殿下近狀一。彼爲二野狐所一レ憑爾。秀吉怫然。扣レ刀而跪曰。吾爲二狐憑一。有レ說乎。無レ說則死。少弼對曰。有レ說也。饒使無レ說。臣固

なる。僕、少小より(一)弓馬を事とす。今老いたりと雖も、猶ほ以て一面に當るに足る。何ぞ居守を爲さん。二公、幸に之を(二)推輓せよと。彈正少弼進みて曰く、德川公、復た言ふ勿れ。臣、殿下の近狀を視るに、彼れ(三)野狐の憑る所と爲りしのみと。秀吉、(四)怫然として、刀を扣へて跪きて曰く、吾れ狐憑たるは、說有るか。說無くんば則ち死せんと。少弼對へて曰く、說有るなり。饒使說無くとも、臣固より死を辭せず。且つ臣等の頭の如きは、千百を刎ぬと雖も、何ぞ惜しむに足らん。顧ふに天下纔に定り、瘡痍未だ愈えず。人人、(五)無爲に休息せんと希ふ。而して殿下は乃ち故なきの軍を興して、以て(六)異域を殘暴し、我が父子兄弟をして、骸骨を海外に暴さしむ。哭泣の聲、四に聞ゆ。之に加ふるに、漕轉賦役の相因る、所在盡く荒野と爲る。是の時に當りて、殿下一たび趾を擧げば、則ち六十州の寇賊、(七)雷動風起せん。德川公有りと雖も、安んぞ之を鎭定するを得んや。是れ其の外征を願ふ所以のみ。臣恐る、殿下の舟師未だ釜山に達せずして、根本の地、

不レ辭レ死。且如ニ臣等頭一雖レ到ニ千百一。何足レ惜乎。顧天下幾定。瘡痍未レ愈。人人希ニ休ニ息無レ爲一。而殿下乃興ニ無レ故之軍一。以殘ニ暴異域一使ヨ我父子兄弟暴ニ骸骨於ニ海外一。哭泣之聲四聞。加レ之漕轉賦役之相因。所在盡爲ニ荒野一。當ニ是之時一。殿下一擧レ趾。則六十州之寇賊。雷動風起。雖レ有ニ德川公一。安得ミ鎭ニ定之一乎。是其所ミ以願ニ外征一爾。臣恐殿下舟師未レ達ニ釜山一。而根本之地。已爲ニ他人所ヒ據。是勢之最易レ視者。使ミ殿下有ニ平昔之心一。豈有レ不レ察レ於レ此。不レ察レ於レ此。故謂ニ之狐憑一耳。鄙語曰。鼈欲レ啖レ人。反啖レ於レ人。殿下之謂也。

已に他人の據る所と爲らん。是れ勢の最も視易き者、殿下をして平昔(八)の心有らしめば、豈に此を察せざる有らんや。此を察せず、故に之を狐憑と謂ふのみ。鄙語に曰く、鼈、人を啖はんと欲し、反りて人に啖はると。殿下の謂なりと。

㈠ 戰爭にのみ從事す ㈡ 推鎭せよ ㈢ 狐つきとなる ㈣ むつとして刀に手をかけて ㈤ 無事に安心せんと慾ふ ㈥ 外國 ㈦ 雷鳴り風の吹き起るが如く俄かに亂れ立たん ㈧ 平生の御心のまゝならば

秀吉益怒曰。狐乎。鼈乎。吾且舍レ諸。以レ臣罵レ君。不レ可レ舍也。將ニ拔レ刀斬ヒ

秀吉益〻怒りて曰く、狐か、鼈か。吾れ且く諸を舍く。臣を以て君を罵る、舍す可からざるなりと。將に刀を拔きて之を斬らんとす。利家・氏鄕、進みて之を擁(一)して曰く、臣等此に在り。苟も誅戮を行はんと欲せば、必ずしも親手(二)を勞せじ

之。利家氏郷進擁レ之曰。臣等在レ此。苟欲レ行二誅戮一。不三必勞二親手一。因斜二睨少弼一曰。可レ去矣。少弼乃徐起還レ舍。待レ罪數日。有下上二變事一者上。肥後賊梅北擧レ兵。取二佐敷城一。秀吉大驚。急召二少弼一謝曰。吾甚慚レ於レ汝也。命二汝兒幸長一爲二大將一。往定二肥後一。因命二德川公一。以二其將本多忠勝一助レ之。未レ發。肥後人斬二梅北一來獻。乃止。命二少弼一按二定其國一。減二韓戍卒一。八月。淺井氏復生レ男。秀吉大喜。使三前田利家攝二軍事一。而自歸二大坂一。命二所レ生男幼字棄丸一。長曰二秀賴一。

と。因りて少弼を斜睨(三)して曰く、去る可しと。少弼乃ち徐に起ちて舍に還る。罪を待つこと數日なり。變事を上る者有り。肥後の賊梅北、兵を擧げて、佐敷城を取ると。秀吉大に驚き、急に少弼を召して、謝して曰く、吾れ甚だ汝に慚づるなり。汝の兒幸長に命じて大將と爲し、往きて肥後を定めしめんと。因りて德川公に命じ、其將本多忠勝を以て之を助けしむ。未だ發せず。肥後の人梅北を斬りて來り獻じ、乃ち止む。少弼に命じて其國を按定(四)せしめ、韓の戍卒(五)を減ず。八月、淺井氏、復た男を生む。秀吉、大に喜び、前田利家をして軍事を攝せしめて、自ら大坂に歸る。生れし男に幼字を棄丸と命じ、長じて秀頼と曰はしむ。

(一) おほひかこふ　(二) 御手を煩はすに及ばず　(三) なゝめににらむ　(四) 鎭撫せしむ　(五) まもりの兵

韓王乃敢歸二都城一。清正喪二其俘一。心甚不レ懌。又知二和議必不一レ成。十一月。進攻二安康一。大破レ之。虜尤畏二清正一。呼曰二鬼上官一。時韓野多レ尸。虎豹羣至。我將士留戍者。因大獵レ之。殺獲無數。檻二其尤大者一以獻焉。

韓王乃ち敢て都城に歸る。清正、其俘(一)を喪ひ、心甚だ懌ばず。又和議の必ず成らざるを知る。十一月、進みて安康を攻め、大に之を破る。虜尤も清正を畏れ、呼びて鬼上官と曰ふ。時に韓の野に尸多く、虎豹羣り至る。我が將士の留戍(二)する者、因りて大に之を獵し、殺獲無數、其尤も大なる者を檻(三)し以て獻ず。

㊀俘虜　㊁在留守備の兵　㊂をりにいれて

三年。正月。大城二于伏見一。興二卒二十五萬人一。將帥萬石以上皆助レ役。三月。秀吉與二秀次及德川前田諸將一。遊二吉野一。四月。浴二

三年正月、大に伏見に城き、卒二十五萬人を興す。將帥の萬石以上は皆役を助(一)く。三月、秀吉、秀次、及び德川・前田の諸將と、吉野に遊ぶ。四月、有馬の溫泉に浴す。是の年、加藤光泰卒す。初め石田三成、韓都の議合はざるを以て、光泰と隙する甚だ深し。遂に之を毒(二)せしなり。嗣子貞泰、猶ほ幼し。邑を美濃に徙し、甲斐を以て淺野氏に賜ふ。

㊀築城費を出す　㊁毒殺

有馬温泉一。是年。加藤光泰卒。初石田三成以二韓都之議一不レ合。隙二光泰一甚深。遂毒レ之也。嗣子貞泰猶幼。徙二邑美濃一。以二甲斐一賜二淺野氏一。

當二是時一。韓戍未レ撤。韓王數促二明定一レ和。十月。明主召二如安一。石星命二沿道一。供帳。十二月。至レ燕。星就拜二於其館一。待以二王公禮一。厚賂レ之。使三曲成二其媾一。如安諾レ之。居數日。明主延二見之一。如安騎而入。至レ闕。衛士呵下レ之。如安昂然不レ下。入見二明

是の時に當りて、韓の戍(一)未だ撤せず。韓王、數〻明に和を定むるを促す。十月明主、如安を召す。石星沿道に命じて供帳(二)せしむ。十二月、燕に至る。星、就きて其館に拜し、待するに王公の禮を以てし、厚く之に賂ひ、曲げて其媾を成さしむ。如安、之を諾す、居ること數日にして、明主、之を延見す。如安、騎して入り、闕に至る。衛士呵して之を下す。如安昂然(三)として下らず。入りて明主を見る。明主、諸將相大臣をして、左闕に會せしめ、悉く秀吉の意を問ふ。如安の答ふる所、勉めて星の意に副ふ。明乃ち封王の議を定め、正使李宗誠、副使楊方亨を遣し、沈惟敬を以て導と爲す。惟敬觖望(四)し、且つ星を難じて曰く、前に七事を約す。今封册を止めば、事必ず成らじと。星聽かず。如安、三使と皆發す。

(一) 守備兵未だ退去せず　(二) 接待の具をそなふ　(三) 高くかまへて馬より下りず　(四) 不滿足に思ひ

主。明主令諸將相大臣會于左闕。悉問秀吉意。如安所答。勉副星意。明乃定封王議。遣正使李宗誠副使楊方亨。以沈惟敬爲導。惟敬觖望。且難星曰。前約七事。今止封冊。事必不成。星弗聽。如安與三使皆發。

四年。二月。蒲生氏鄕卒。幼子秀行嗣。尋徙之下野。以會津封上杉景勝。三月。伏見城成。秀吉徙居。以俟明使者。置淺井氏于淀。世呼淀君。淀君旣生秀頼。而秀次無避位之意。以故秀吉城伏見。欲以讓秀次。而予秀頼以大坂。

四年二月、蒲生氏鄕卒す。幼子秀行嗣ぐ。尋ぎて、之を下野に徙し、會津を以て上杉景勝を封ず。三月、伏見城成る。秀吉徙り居りて、以て明の使者を俟つ。淺井氏を淀に置く。世のひと淀君と呼ぶ。淀君既に秀頼を生む。而して秀次位を避くるの意無し。故を以て、秀吉、伏見に城き、以て秀次に讓りて、秀頼に(一)予ふるに大坂を以てせんと欲するなり。秀次人と爲り(二)頑放、其の聚樂に留守するや。淫虐、日に甚だし。(三)色を漁するに貴賤を論ぜす。右大臣晴季の女新に寡となる。而して孤女有り、秀次母子を并せ取りて之を嬖す。上皇崩じて數日なるに、出獵し、手づから近臣を刃し、夜出でて行人を賊し、樓上より人を銃して戲と爲し、孕(四)婦を剖かんと欲するに至る。世のひと呼びて殺生關白と曰ふ。殺生と攝政と、音相近きを以てなり。田中吉政、其傅(五)たり。數〻之を諫む。乃ち事に託して吉政

也。秀次爲レ人頑放。其留ニ守聚樂一。淫虐日甚。漁レ色不レ論ニ貴賤一。右大臣晴季女新寡。而有ニ孤女一。秀次幷ニ取母子一嬖レ之。上皇崩而數日。出獵。手刃ニ近臣一。夜出戕ニ行人一。自ニ櫓上一銃レ人爲レ戲。至レ欲レ剖ニ孕婦一。世呼曰ニ殺生關白一。以下殺生與ニ攝政一音相近上也。田中吉政爲ニ其傅一。數諫レ之。乃託レ事遠ニ吉政一。

を遠ざく。

(一) 關白職を讓る意志なし　(二) かたくなにしてしまりなし　(三) 女色を好むに貴賤の別なし　(四) はらみ女の腹をさかんと欲するに至る　(五) もり役

秀吉之再赴ニ行營一也。外議以爲秀次當ニ代行一。而殊無ニ行意一。黑田孝高說レ之曰。殿下之威靈可レ謂レ甚矣。文武之轂。相ニ擊于ニ門。天下士民。

秀吉の再び行營に赴くや、(二)外議以爲へらく、秀次當に代り行くべしと。而して殊に行意無し。黑田孝高之に說きて曰く、殿下の威靈甚だしと謂ふべし。(三)文武の轂、門に相擊ち、天下の士民、(四)其喜怒を視て、以て慶弔を爲す。殿下、其故を知れるかと。秀次曰く、吾れ關白たるが故のみと。曰く、否。殿下、太閤を以て叔父と爲さずんば、則ち能く關白と爲るを得んや。太閤、年已に六十にして、猶ほ(五)甲を枕にして眠れるに、殿下、(六)恬然として獨り嗜慾を縦にす。何ぞ自ら

視二其喜怒一。以爲二慶弔一。殿下知二其故一乎。秀次曰。吾爲二關白一故耳。曰。否。殿下不下以二太閤一爲中叔父上。則能得レ爲二關白一乎。太閤年已六十。猶枕レ甲而眠。而殿下恬然獨縱二嗜慾一。何不二自省一乎。夫位極レ乎二人臣一。而望不レ厭レ於二天下一。怨之所レ萃。奸之所レ乘也。臣竊爲二殿下一危レ之。爲二殿下計一者。宜下赴二那古耶一代統中軍事上。太閤已倦二兵事一。必喜許レ之。立レ功自固。誰得レ動レ之。願殿下熟二思之一。蒲生氏鄕亦勸二其濟レ海。自請レ爲二其先鋒一。秀次皆弗レ納。

省みざるや。夫れ位人臣を極めて、望天下に厭かず。怨の萃る所、奸の乘ずる所なり。臣竊かに殿下の爲に之を危む。殿下の計を爲すには、宜しく那古耶に赴き、代りて軍事を統ぶべし。太閤已に兵事に倦めり。必ず喜びて之を許さん。功を立てて自ら固くせば、誰か之を動すを得ん。願はくば、殿下、之を熟思せよと。蒲生氏鄕も亦其の海を濟るを勸め、自ら其の先鋒と爲らんと請ふ。秀次皆納れず。

㊀世間の評論 ㊁御威光 ㊂文官武官の車のこしきのすれあふばかり多數門前に集り ㊃殿下喜べばめでたしとし怒れば不祥となす ㊄戰地に在りて安眠せず ㊅[illegible]かに居る ㊆不安に堪へず ㊇よくよく御考へあれ

有二流言一。關白

(二)流言有り、關白反を謀ると。秀吉問はず。秀頼生るゝに及びて、秀次自ら廢せ

謀レ反。秀吉弗レ問。及二秀頼生一。秀次自疑レ被レ廢。益不二聊頼一。石田三成增田長盛與レ之有レ郤。希二秀吉旨一。數惡レ之。初常陸介木村重玆有レ寵於二秀吉一。而爲二三成奪二其寵一。乃結レ於二秀次一。秀次自知二取レ怨多一也。每二出遊一輒具二鎧仗一。又厚贈二諸侯伯一而與レ之誓。三成長盛因證三其有二反形一。七月。秀吉使三三成長盛。及前田玄以就詰二問之一。秀次大駭。獻二誓書七通一。秀吉意

らるゝを疑ひ、益〻(二)聊頼せず。石田三成・增田長盛之と郤有り。秀吉の旨(三)を希ひ數〻之を惡す。初め常陸介木村重玆、秀吉に寵有りしが、三成に其寵を奪はる。乃ち秀次に結ぶ。秀次、自ら怨を取ること多きを知るや、出遊する每に、輒ち鎧(四)仗を具へ、又厚く諸侯伯に贈りて之と誓ふ。三成・長盛因りて、其の反形(五)有るを證す。七月、秀吉、三成・長盛及び前田玄以をして、就きて之を詰問せしむ。秀次、大に駭き、誓書七通を獻ず。秀吉、意稍〻解く。翌夜、重玆、婦人の車に乗りて聚樂に入り、漏(六)を盡して出づ。三成、偵知(七)して以て告ぐ。曉くる比、秀次、德川氏の嗣子を促して、朝參せしめ、因りて劫して質と爲さんと欲す。嗣子走りて伏見に歸る。毛利氏も亦秀次の擬する所の誓書を獻ず。

㊀いひふらし　㊁安んじ頼みにせず　㊂氣嫌とりにたびたび秀次を讒言す　㊃甲冑兵器　㊄反逆のありさま　㊅遲夜く歸る　㊆探り知る

稍解。翌夜。重茲乘二婦人車一入二聚樂一。盡レ漏而出。三成偵知以告。比レ曉。秀次促二德川氏嗣子一使二朝參一。欲二因劫爲レ質。嗣子走歸二伏見一。毛利氏亦獻二秀次所レ擬誓書一。

秀吉大怒。使三使召二秀次一。秀次愛將吉田修理。請下假二萬人一夜襲中伏見上。弗レ聽。遂赴謁。不レ許レ見。命放二之高野一。附二僧興山一監守焉。興山。南征時首納レ款者也。於レ是奏請削二秀次在身官爵一。廢爲二庶人一。三成勸二遂殺一レ之。潜諷二興山一。促二其自裁一。秀

秀吉、大に怒り、使をして秀次を召さしむ。秀次の愛將吉田修理、萬人を假りて、夜、伏見を襲はんと請ふ。聽さず。遂に赴き謁す。見ゆるを許さず。命じて之を高野に放ち、僧興山に附して監守せしむ(一)。興山は、南征の時、首として款を納れし者なり。是に於て、奏請して、秀次在身の官爵を削り、廢して庶人と爲(二)す。三成、遂に之を殺すを勸め、潛かに興山に諷して、其自裁を促さしむ。秀吉、遂に福島正則を遣し、就きて死を賜ふ。然れども興山の其命を乞ふを冀ふ。正則、還りて秀次の首を獻ず。秀吉、愕然(三)として曰く、山僧無情なりと。三成、請ひて之を京師に梟し、其妻兒、及び姬妾三十餘人を併せて、皆之を斬り、之を一坎に瘞め、名づけて畜生塚と曰ふ。

(一) 見張をなさしむ　(二) 平民　(三) びつくりする

吉遂遣ニ福島正則ー就賜レ死。然糞ニ輿山乞ニ其命ー也。正則還獻ニ秀次首ー。秀吉愕然曰。山僧無情。三成請而梟ニ之京師ー。併ニ其妻兒。及姬妾三十餘人ー。皆斬レ之。瘞ニ之一坎ー。名曰ニ畜生塚ー。

毀ニ聚樂ー。徙ニ諸邸第于ニ伏見ー。召賞ニ吉政ー。分ニ秀次地ー。予ニ福島正則ー以ニ清洲ー。誅ニ夷木村重茲以下ー。重茲有ニ遺腹子ー。曰ニ重成ー。其母嘗乳ニ養秀頼ー。以レ故秀吉召祿ニ重成ー。任ニ長門守ー。以隷ニ於秀頼ー。三成既誅ニ重茲ー。遂誣ニ伊達最上氏黨ニ秀次ー。有ニ匿

聚樂を毀ち、諸邸第を伏見に徙し、召して吉政を賞し、秀次の地を分ちて、福島正則に予ふるに清洲を以し、木村重茲以下を誅夷す。重茲に遺腹の子(一)有り、重成と曰ふ。其母嘗て秀頼を乳養す。故を以て、秀吉召して重成を祿し、長門守に任じて、以て秀頼に隷す。三成、既に重茲を誅し、遂に伊達・最上氏、秀次に黨すと誣ふ。匿名書(二)有り、曰く、伊達・最上、豐臣を分ちて霸たらんと欲すと。秀吉笑ひて曰く、是れ怨家の爲す所のみ(三)と。乃ち皆之を釋す。淺野左京大夫の書記芹川藤助といふ者、亡命して三成に歸す。三成、僞りて舊主、聚樂に通ずる書を作らしめて、之を上り、因りて兵を發して淺野氏を圍む。前田利家、爲に其寃を白す。秀吉、藤助を捕鞫(四)して、實を得たり。乃ち淺野氏に還して之を磔す。

(一) 父死して後生まれたる子　(二) 匿名の書狀　(三) 怨みある者のしわざのみ　(四) 捕へて詮議して

名書ニ曰。伊達最上欲下分ニ豐臣一而覇上。秀吉笑曰。是怨家所レ爲耳。乃皆釋レ之。淺野左京大夫書記芹川藤助者。亡命歸ニ三成。三成使下僞作中眥主通ニ聚樂一書上。上レ之。因發レ兵圍ニ淺野氏。前田利家爲白ニ其冤。秀吉捕ニ藤助。得レ實。乃還ニ於淺野氏。礫レ之。

先レ是大納言秀俊卒。秀俊亦昏暴。嘗觀ニ蜻蜓瀑。命ニ左右一自投ニ于湫。左右與レ之倶投。無レ嗣。國除。以ニ郡山一予ニ増田長盛。以ニ藤堂高虎一爲ニ今治城主。

是より先大納言秀俊卒す。秀俊も亦昏暴なり（一）。嘗て蜻蜓瀑を觀、左右に命じて、自ら湫に投ぜしむ。左右、之と倶に投ず（二）。嗣なし、國除かる（三）。郡山を以て増田長盛に予へ、藤堂高虎を以て今治城主と爲す。

（一）愚昧にして亂暴なり　（二）一本に沒とあり　（三）國籍を除去せらる

當ニ是時。明三使已入ニ韓境。疑懼不ニ敢進。請ニ我撤レ兵。諸將不レ得レ已。約ニ戍于釜山。未レ

是の時に當りて、明の三使已に韓境に入り、疑懼して敢て進まず。我に兵を撤せんと請ふ（一）。諸將已むを得ず。戍を釜山に約し、未だ海を濟りて歸るを肯ぜず（二）。李宗誠は貴族の子なり。日夜、歸るを思ふ。惟敬因りて遂ひて之に代らんと欲す。慶長元年正月、小西行長歸りて和の成るを告ぐ。惟敬私かに之に從ひ、地

背レ濟レ海歸。李宗誠。貴族子。日夜思レ歸。惟敬因欲三逐而代二之。慶長元年。正月。小西行長歸告二和成一。惟敬私從レ之。以二地圖兵書蟒服。及燕代良馬三百匹一。獻二秀吉一而去。怵二宗誠一曰。和敗矣。秀吉兵將三來執二我罷一。四月。宗誠遁去。楊方亨問三計於二惟敬一。惟敬曰。有二兩語一。汝愼記レ之。擧二我大明一。奉二承日本一而已。明主遂以二方亨一爲二正使一。惟敬副レ之。多出二金帛一資二惟敬一。齎二封冊一促往。因命二韓發レ使。韓以二和議未レ固。依違不レ從。獨使二黄愼朴弘長從一レ之。刻レ日發。

圖、兵書、蟒服(三)及び、燕・代の良馬三百匹を以て、秀吉に獻じて去る。宗誠を怵れしめて曰く、和敗れたり。秀吉の兵將に來りて我が輩を執へんとすと。四月、宗誠遁れ去る。楊方亨、計を惟敬に問ふ。惟敬曰く、兩語有り。汝愼みて之を記せよ。我が大明を擧げて、日本に奉承(四)せんのみと。明主、遂に方亨を以て正使と爲し、惟敬を之が副とし、多く金帛を出して惟敬に資し、封冊(五)を齎して促し往かしめ、因りて韓をして使を發せしむ。韓、和議の未だ固からざるを以て、依違して從はず。獨り黄愼・朴弘長をして之に從はしめ、日を刻して發す。

(一) 朝鮮の國境　(二) 兵を引上げんことを請ふ　(三) 大蛇の章ある服　(四) 命をうくる　(五) 國王とする辭令を記したる詔書

五月。秀吉以ニ

五月、秀吉、秀頼を以て朝見(一)す。詔して、秀頼を從三位に敍し、右近衞中將に

秀頼朝見。詔。敍秀頼從三位。任右近衛中將。六月。明韓使者濟海。我諸將乃留兵釜山而凱旋。行長嫉清正。清正惡於三成。而行長善之。與俱譖之。清正至伏見。秀吉不許見。乃就增田長盛請申救。長盛曰。子宜謝於治部。清正曰。吾死不能。乃歸俟命。七月。京畿

任ず。六月、明・韓の使者、海を濟る。我が諸將乃ち兵を釜山に留めて凱旋す。行長、清正を嫉む。清正、三成に惡しくして、行長、之に善し。與に俱に之を譖(二)す。清正、伏見に至る。秀吉、見るを許さず。乃ち增田長盛に就き申救(三)を請ふ。長盛曰く、子、宜しく治部に謝すべしと。清正曰く、吾死すとも能はずと。乃ち第に歸りて命を俟つ。七月、京畿、大風霾(四)し、地、大に震す。伏見城壞れ、壓死(五)數百人あり。清正曰く、吾れ寧ろ罪を犯すとも、坐視すべからずと。乃ち卒二百を從へ、入りて秀吉を省る。秀吉、夫人と地に席(六)して坐し、清正を目し、其幼字を呼びて曰く、阿虎、若來ること何ぞ速かなると。清正、因りて前みて寃を訴へ地(七)に畫きて語り、其軍勞を陳ず。秀吉顧みて夫人に謂ひて曰く、彼れ肥晳(八)の丈夫なりき。今朝鮮より至る。何ぞ黧く且つ悴れたると。

(一) 入朝して拜謁す (二) 讒言をなす (三) 申開きて救ふ (四) 大風土砂を吹上げてくらし (五) おしつぶさる (六) 地上に敷物をしきて座し (七) 地上に線を引きて軍陣に勞したる狀をのぶ (八) 身體肥え太りて色白き男

大風雷。地大震。伏見城壞。壓死數百人。清正曰。吾寧犯レ罪。不レ可二坐視一。乃從二卒二百一入省二秀吉一。秀吉與二夫人一席レ地而坐。目二清正一。呼二其幼字一曰。阿虎。若來何速。清正因前訴レ冤。畫レ地而語。陳二其軍勞一。秀吉顧謂二夫人一曰。彼肥皙丈夫。今至レ自二朝鮮一。何黧且悴也。

乃命守二其門一。三成以下踵至。不レ得レ入。有下傳レ命者上。特納二三成一。清正大聲令二其卒一曰。使二短小佞豎入一。旦日。秀吉召二見清正一。推二問海外戰狀一。泣下曰。阿虎襁褓育二於我一。乃類レ我也。遂愛遇如レ故。時震仍不レ止。德川公夜率レ兵入衞。秀吉曰。

乃ち命じて其門を守らしむ。三成以下踵ぎ至る。入るを得ず。命を傳ふる(一)者有り、特に三成を納れよと。清正、大聲、其卒に令して曰く、短小の佞豎(二)をして入らしめよと。旦日、秀吉、清正を召見して、海外の戰狀を推問し、泣下りて曰く、阿虎は襁褓(三)より我に育はる。乃ち我に類する(四)なりと。遂に愛遇すること故の如し。時に震仍ほ止まず。德川公、夜、兵を率ゐて入衞す。秀吉曰く、皇宮(五)の何如を知らず。吾れ當に卿と省る(六)べしと。乃ち遽かに出つ。從者未だ屬せず。德川公、其兵を以て之を擁して行く。道路昏黑なり。德川公の從者、其袖(七)を掣く者あり。公敢て顧みず。秀吉、談笑して行き、刀を脫して之に授けて曰く、吾れ老いたり。刀の重きを覺ゆ。以て卿を煩さんと。公敢て執らず。乃ち井伊直政に授く。已にして秀吉の從兵踵ぎて至る。遂に入朝す。還るとき、方廣寺の前を過

不レ知二皇宮何如一。吾當三與レ卿省二焉。乃遁出。從者未レ屬。德川公以二其兵一擁レ之而行。道路昏黑。德川公從者。有下掣二其袖一者上。公不二敢顧一。秀吉談笑而行。脫レ刀授レ之曰。吾老矣。覺二刀之重一矣。以煩レ卿也。公不二敢執一。乃授二井伊直政一。已而秀吉從兵踵至。遂入朝。還。過二方廣寺前一。見二大佛倒裂一。罵曰。我爲レ若不レ憚二勞費一。將レ使三若濟二度衆生一。今己身且不レ能レ保。何負レ我也。因呼レ弓射レ之。還。乃修二伏見城一。更作三牙城于二木幡山一。

ぎ、大佛の倒裂を見て、罵りて曰く、我れ若(九)の爲に勞費を憚らず。將に若をして衆生を濟度(八)せしめんとす。今(一〇)己の身すら且つ保つ能はず、何ぞ我に負くやと。因りて弓を呼びて之を射て、還る。乃ち伏見城を修め、更に牙城(一一)を木幡山に作る。

(一) 取次の者　(二) 背のひくきおべつかの小僧　(三) むつきの時即ち幼少なり　(四) 我が氣性に似たり　(五) 御所の様子分らず　(六) 見舞に行く可し　(七) 袖を引張る者あり　(八) 倒れさく　(九) 汝大佛の爲に多大なる費と勞役とを惜まずして作る　(一〇) 今自身すら倒裂す何ぞ吾が祈願の意志に反するか　(一一) 本丸

八月。明韓使者共至二界浦一。二十九日。造二伏見一。秀吉使三柳川調信責二

八月、明韓(一)の使者、共に界浦に至り、二十九日、伏見に造る。秀吉、柳川調信をして、韓の使者を責めしめて曰く、吾れ兵を收む。而して汝の國未だ三道を獻ぜず。今又、王子をして來りて再造(二)の恩を謝せしめず。乃ち微者を遣して我を

韓使者曰。吾收兵。而汝國未獻三道。今又不使王子來謝再造之恩。乃遣微者辱我。我不許汝入見。二使因行長謝。弗聽。九月。二日。使毛利氏列兵仗。延明使者入城。諸將帥皆坐。頃之。秀吉開幄而出。侍衞呼叱。二使慴伏。莫敢仰視。捧金印冕服。膝行師進。行長助

辱しむ。我れ汝の入見を許さずと。二使、行長に因りて謝す。聽かず。九月二日、毛利氏をして兵仗を列ね。明の使者を延きて城に入らしむ。諸將帥皆坐す。之を頃くして、秀吉、幄(二)を開きて出で、侍衞、叱と呼ぶ。二使慴伏(三)し、敢て仰ぎ視る莫し。金印、冕服(四)を捧げ、膝行して進む。行長之を助けて禮を舉ふ。三日、使者を饗す。既にして罷む。秀吉、冕を戴き、緋衣を被り、徳川公以下七人をして、各〻其章服を被らしめ、僧承兌を召して、冊書(五)を讀ましむ。行長私かに之に囑して曰く、冊文(六)、惟敬の說く所と、或は齟齬するもの有らん、子且く之を諱めと。承兌敢て聽かず。乃ち入りて、冊を秀吉の傍に讀む。爾を封じて日本國王と爲すと曰ふに至り、秀吉、色を變じて、立ちどころに冕服を脫して之を地に抛ち、冊書を取りて之を扯裂(七)し、罵りて曰く、吾れ日本を掌握(八)す。王たらんと欲せば則ち王たらん。何ぞ髯虜(九)の封を待たんや。且つ吾にして王と爲らば、天朝を如何せんと。

之畢禮。三日。饗使者。既罷。秀吉戴冕。被袞衣。侯德川公以下七人各被其章服。召僧承兌讀冊書。行長私囑之曰。冊文。與惟敬所說。或有齟齬者。子且諱之。承兌不敢聽。乃入。讀冊于秀吉之傍。至曰封爾爲日本國王。秀吉變色。立脫冕服抛之地。取冊書扯裂之。罵曰。吾掌握日本。欲王則王。何待髯虜之封哉。且吾而爲王。如天朝何。

❶亡國復興の恩を稱謝せしめず ❷とばり ❸おそれふす ❹帝王の著る正服 ❺封冊の書 ❻封冊の文 ❼引裂く ❽手に握る ❾毛唐人

乃召行長。詰讓曰。汝敢欺罔我。以爲我邦之辱。吾將併汝與明使者皆誅殺之。行長股栗。諉罪於三奉行。出書牘數通爲證。承兌亦救解之。事纔得止。而秀吉

乃ち行長を召し、詰讓して曰く、汝敢て我を欺罔して、以て我が邦の辱を爲す。吾れ將に汝と明の使者とを併せて、皆之を誅殺せんとすと。行長、股栗し、罪を三奉行に諉し、書牘數通を出して證と爲す。承兌も亦之を救解す。事纔かに止むを得たり。而して秀吉の怒未だ釋けず。卽夜、加藤淸正・大谷吉隆・石田三成・增田長盛に命じて、明韓の使者を逐ひ、資糧を賜ひて遣歸し、之に謂はしめて曰く、若、亟かに去り、而の君に告げよ。我れ將に再び兵を遣し、而の國を屠らんとすと。遂に令を西南四道に下し、兵十四萬人を發し、明年二月を以て、悉く

怒未レ釋。即夜。命二加藤清正大谷吉隆石田三成増田長盛一。逐二明韓使者一。賜二資糧一遣歸。使レ謂レ之曰。若亟去。告二而君一。我將三再遣レ兵居二而國一也。遂下二令西南四道一。發二兵十四萬人一。以二明年二月一。悉會二故行臺一。

故の行臺に會せしむ。

(一) いひせむ　(二) あざむく　(三) ふるひおそる　(四) いひときて救ふ　(五) 攻め破らんとす

柳川調信私囑二黄愼一曰。太閤意已決矣。速獻二三道一。使二王子來謝一。不則貴國復被レ禍矣。惟敬猶疑二其虛喝一。已而見二沿道治レ兵狀一。則大驚奔去。秀吉初養二夫人姪秀秋一爲レ子。出嗣二

柳川調信私かに黄愼に囑して曰く、太閤、意已に決せり。速に三道を獻じ、王子をして來り謝せしめよ。不らずんば則ち貴國復た禍を被らんと。惟敬、猶ほ其虛喝(一)を疑ふ。已にして沿道の兵を治むる狀を見て、則ち大に驚きて奔り去る。秀吉、初め夫人の姪秀秋を養ひて子と爲し、出して小早川氏を嗣がしむ。是に於て、以て大將と爲し、浮田秀家・毛利秀元を以て之に副とし、黑田孝高を以て其參謀に充て、清正行長を以て其先鋒に充て、行長をして、功を立てて自ら償はしむ。諸將皆前役(二)に遣す所にして、已(三)に海外の事宜を諳んず。故を以て、秀吉復た親ら出でず。自ら伏見に居り、遙かに(四)方略を授け、吏を那古耶に置きて、

小早川氏。於レ是以爲二大將一。以二浮田秀家毛利秀元一副レ之。以二黒田孝高一充二其參謀一。以二清正行長一充二其先鋒一。使二行長立レ功自贖一。諸將皆前役所レ遣。已諳二海外事宜一。以レ故秀吉不二復親出一。自居二伏見一。遙授二方略一。置二三吏于二那古耶一。以司二諸道糧運一。

以て諸道の糧運(五)を司らしむ。

(一) おどかし (二) 前回の朝鮮征伐 (三) 外國の事情に通ず (四) はかりごと (五) 兵粮運漕の事

二年。正月。明使者至レ明。佯報。秀吉受レ封拜舞。和議全成。因私貫二海外珍寶一。號爲二日本幣物一。已而吳越將吏上レ變。告曰。秀吉先鋒加藤清正已擁二二百艘一上二機張一矣。明主因詰二

二年正月、明の使者、明に至り、佯り報ず。秀吉、封を受けて拜舞し、和議全く成れりと。因りて私かに海外の珍寶を貫り、(一)號して日本の幣物と爲す。已にして吳越の將吏、變を上り、告げて曰く、秀吉の先鋒加藤清正、已に二百艘を擁して機張に上れりと。明主、因りて方亨を詰りて、實を得、乃ち惟敬を詰む。惟敬慚懾(二)謝し、因りて曰く、秀吉、韓を責むるのみ。久しからずして將に去らんとすと。明、信ぜず、乃ち東北の守備を戒め、復た大に兵を募り、邢玠・楊鎬・麻貴・楊元・劉綎・董一元等を遣し、率ゐて東下せしむ。諸將は皆智勇を以て其國に聞ゆる者なり。我が兩先鋒已に海を濟り、(三)其戍兵を幷せ、行長は釜山に軍し、清正

方亨ー。得レ實。乃詭ニ惟敬ー。惟敬慚謝。因曰。秀吉責レ韓而已矣。不レ久將レ去。明不レ信。乃戒ニ東北守備ー。復大募レ兵。遣ニ邢玠楊鎬麻貴楊元劉綎董一元等ー。率而東下。諸將皆以ニ智勇ー聞ニ其國ー者也。我兩先鋒已濟レ海。并ニ其戍兵ー。行長軍ニ釜山ー。淸正自ニ機張ー攻ニ梁山ー陷レ之。軍レ于ニ西生浦ー。韓人懲ニ創前役ー。逃竄駭散。淸正榜諭レ之曰。太閤命レ吏。責ニ問朝鮮王ー。屯ニ兵東邊ー。以俟ニ其報ー。汝民各安ニ其居ー。勿ニ敢擾亂ー。二年。孝高奉ニ秀秋ー至ニ釜山ー。因ニ山海之勢ー。列ニ壘寨ー。聯ニ舟艦ー。以爲ニ根據之地ー。出レ令禁ニ暴掠ー。而諸道望レ風潰奔。時韓地荒廢。無

は機張より梁山を攻めて之を陷れ、西生浦に軍す。韓人、前役に懲創(四)し、逃竄(五)駭散す。淸正、榜して之を諭して曰く、太閤、吏に命じて、朝鮮王を責問し、兵を東邊に屯して、以て其報を俟つ。汝民、各〻其居に安んじ、敢て擾亂すること勿れと。二月、孝高、秀秋を奉じて釜山に至り、山海の勢に因り、壘寨を列ね、舟艦を聯ねて、以て根據(六)の地と爲し、令を出して暴掠を禁ず。而して諸道、風を望みて潰奔(七)す。時に韓の地荒廢し、糧の因る可き無し。我が海運も亦未だ達せず。諸將、故を以て輒く進まず。朝鮮、三道を獻ずること約の如くせば、乃ち止りて復た深く入らじと聲言(八)す。

(一)買入れ　(二)恥入りあやまり　(三)守備兵を合せ　(四)こり　(五)逃げかくれ驚き散り去り　(六)根城の地となし　(七)くづれ逃げ去る　(八)いひふらす

無二糧可一レ因。我海運亦未レ達。諸將以レ故不二輒進一。卒下冒朝鮮獻二三道一如レ約。乃止不中復深入上。

韓王使三李元翼守二鳥嶺一。而自奔二海州一。告二急於一レ明。明君臣歸三罪於二石星一。奪二其官一。且議曰。割レ地之議。出レ於二惟敬之託言一。忠淸。韓之府藏。全羅慶尙。韓之門戸。皆其重地。而明之海路亦恃爲二藩屏一焉。今予二之秀吉一。秀吉以爲二取レ韓犯レ明之資一。彼之舟帆。晨發夕至。天津登萊。非二明之有一也。因宥二惟敬一。使下往更爲說以弭中和兵上。

韓王、李元翼をして鳥嶺を守らしめて、自ら海州に奔り、急を明に告ぐ。明の君臣、罪を石星に歸し、其官を奪ひ、且つ議して曰く、地を割くの議、惟敬の託言より出づ。忠淸は韓の府藏にして、全羅・慶尙は韓の門戸(一)なり。皆其重地(二)にして、明の海路も亦恃みて藩屏(三)と爲す。今之を秀吉に予へば、秀吉以て韓を取り明を犯すの資と爲し、彼の舟帆、晨に發して夕に至り、天津・登萊は、明の有に非ざるなりと。因りて惟敬を宥し、往きて更に爲に說きて以て和兵を弭めしむ。

(一) 三道割與の事 (二) 重要なる地 (三) まもり

淸正行長使三人返告二韓不一レ獻レ地。秀吉報

淸正・行長、人をして、返りて韓の地を獻ぜざるを告げしむ。秀吉、報じて曰く、當に韓の穀の熟するを俟ち、進みて全羅に入りて以て諸城を攻むべし。必

曰。當下倭二韓穀熟一。進入二全羅一以攻中諸城上。必攻破而後已。且戒二行長等一曰。前使二我不上得レ志者。全羅水軍也。此行必報レ之。

ず攻め破りて後に已めよと。且つ行長等を戒めて曰く、前に我をして志(三)を得ざらしめしは、全羅の水軍なり。此行必ず之に報いよと。

(一) 穀物のみのるをまつて　(二) 志望通りさせぬ様に妨げしは

惟敬在二南原一。明主數責二其効一。韓人亦指二目之一曰。是左右賣レ國。反覆之臣也。罔レ明欺レ和。而使三韓受二其弊一。惟敬大窘。又聞二石星已下レ獄則恐。因度以爲。行長主レ和。清正主レ戰。不レ若下

惟敬、南原に在り。明主、數〻其効を責む。韓人が亦之(二)を指目して曰く、是れ(三)左右國を賣る、反覆の臣なり。明を罔ひ和を欺き、而して韓をして其弊を受けしむと。惟敬大に窘し、又石星已に獄に下ると聞きて則ち恐る。因りて度りて以爲へらく、行長は和を主とし、清正は戰を主とす。先づ清正を退けんに若かずと。因りて書を清正に遺りて曰く、三國講和し、將に無爲に歸せんとす。而して足下、太閤に勸めて之を敗る。明主、邢總督に命じ、精銳七十萬を以て、將に首として足下を撃たんとす。足下、速かに和を請ひ兵を弭めよ。然らずんば、禍、踵を旋さじと。清正、答書して曰く、吾れ毎に朝鮮の兵は羸弱(四)にして、與に較ぶる

先沮中清正上。因遣二書清正一曰。三國講和。將レ歸二無爲一。而足下勸二太閤一敗レ之。明主命二邢總督一。以二精鋭七十萬一。將三首撃二足下一。足下速請レ和弭レ兵。不レ然。禍不レ旋レ踵。清正答書曰。吾每病下朝鮮兵羸弱不三足二與較一。今當二明軍一作二一快戰一。吾所レ願已。惟敬得レ書。不レ知レ所レ爲。乃因二行長一。欲三投二歸於ヒ我。行長許レ之。邢玠在二遼東一。聞レ之曰。彼入二日本一。必爲二我腹心害一者。乃令下楊元伏二三千人一。要二其走路一。捕中之。尋被レ誅。而我與レ明遂絶。

に足らざるを病ふ。今、明軍に當りて一快戰を作すは、吾が願ふ所のみと。惟敬、書を得て、爲す所を知らず。乃ち行長に因りて、我に投歸せんと欲す。行長、之を許す。邢玠、遼東に在り。之を聞きて曰く、彼れ日本に入らば、必ず我が腹心の害を爲す者なりと。乃ち楊元をして、三千人を伏せ、其走路を要して、之を捕へしめ、尋ぎて誅せらる。而して我と明と遂に絶つ。

(一)惟敬をめざして　(二)あちこちらと甘言を弄して國を賣りて利益を得んとする反覆常なき臣　(三)禍立どころに至らん　(四)よわきこと　(五)歸化せんとす

明軍已至二全羅一。楊元在二南原一。陳愚衷在二

明軍、已に全羅に至る。楊元は南原に在り。陳愚衷は全州に在り。韓將元鈞は閑山・唐島に在り。水陸相援ひて、以て全羅を守る。七月、我が水軍の諸將議し

全州。韓將元鈞在閑山唐島。水陸相援。以守全羅。七月。我水軍諸將議攻唐島。藤堂高虎脇坂安治先發。韓以數百艘逆擊。高虎安治親揮槍力戰。加藤嘉明後至。遇敵一大艦。艦上列卒。張弓持滿擬之。嘉明拔刀躍入其艦。敵不敢發。嘉明立斬數人。遂奪其艦。諸

て唐島を攻む。藤堂虎高・脇坂安治先づ發す。韓、數百艘を以て迎へ擊つ。高虎・安治親ら槍を揮ひて力戰す。加藤嘉明後れて至り、敵の一大艦に遇ふ。艦上に卒を列ね、(一)弓を張り滿を持して之に擬す。嘉明、刀を拔きて躍りて其艦に入る。敵敢て發せず。嘉明立ちどころに數人を斬り、遂に其艦を奪ふ。諸將因りて奮ひ擊ち、大に之を破る。元鈞兵を收めて閑山を守る。而して明將楊鎬・麻貴等、繼ぎて至る。韓、鈞をして、進みて釜山を擣かしむ。初め鈞、李舜臣と竝に水軍に將たり。行長、閒かに人をして韓に告げしめて曰く、淸正、首として媾を敗る。吾れ深く之を嫉む。(二)今、(三)孤軍先づ濟る。宜しく襲ひて之を執るべしと。韓王、乃ち鈞・舜臣に命ず。舜臣肯ぜず。鈞、其逗留を(四)劾す。王、舜臣を召して、之を獄に下す。鈞是に於て、獨り將たり。此命を受くるに及び、自ら進まざるを得ず。乃ち水路の諸軍を合せて釜山に赴く。

(一) 弓を引絞りて射んとかまふ　(二) 一本に合となり　(三) 援兵なき軍勢　(四) 罪科を調べ正す

將因奮擊。大破レ之。元鈞收レ兵守二閑山一。而明將楊鎬麻貴等繼至。韓令三鈞進擣二釜山一。初鈞與二李舜臣並將二水軍一。行長間使二人告上韓曰。清正首敗レ媾。吾深嫉レ之。今孤軍先濟。宜二襲執上之。韓王乃命二鈞舜臣一。舜臣不レ肯。鈞劾二其逗留一。王召二舜臣一。下二之獄一。鈞於レ是獨將。及レ受二此命一。不レ得レ不二自進一。乃合二水路諸軍一赴二釜山一。

行長聞レ之。八月。伏三兵于二加德一。以二舟兵一逆擊三于二絕影島一。會二日暮風濤大起一。我軍佯退。鈞縱レ兵冒レ濤而進。比レ至二加德一飢渴。下レ舟取レ飲。伏兵起。行長還レ之。夾擊大破二鈞軍一。鈞逃至二巨濟一。行長復夜襲レ之。遂斬レ鈞。

行長之を聞き、八月、兵を加德に伏す、舟兵を以て絕影島に逆へ擊ち、日暮れ風濤の大に起るに會ふ。我が軍佯り退く。鈞、兵を縱ち濤を冒して進む。加德に至る比、飢渴し、舟を下りて飲(一)を取る。伏兵起り、行長之に還り、夾み擊ちて大に鈞の軍を破る。鈞、逃れて巨濟に至る。行長、復た夜之を襲ひ、遂に鈞を斬り、勝に乘じて西に向ひ、連に南海・順天を陷れ、豆恥津より陸に上る。而して清正の兵は、西生浦より、慶州を歷て全羅に入る。諸城、其旗を望みて曰く、鬼上官(二)至ると。戰はずして潰ゆ。清正、進みて行長と合し、黃石城を攻めて、之を陷る。守將郭䞭・趙宗道等、皆死す。

㊀ 水を飲む ㊁ 鬼將軍

乘レ勝西向。連陷二南海順天一。自二豆恥津一上レ陸。而淸正兵自二西生浦一。歷二慶州一入二全羅一。諸城望二其旗一曰。鬼上官至矣。不レ戰而潰。淸正進與二行長一合。攻二黃石城一陷レ之。守將郭䞭趙宗道等皆死。

我軍乃二道並進。淸正從二雲峯一。浮田秀定繼レ之。行長從二密陽一。毛利秀元繼レ之。兵各五萬。會二於南原一。韓元帥權慄軍二雲峯一。望二淸正軍一。棄レ守而逃。我諸將使三島津義弘加藤嘉明絕二全州援路一。而合レ軍入二南原一。投二書楊元一約二戰朝一。元高レ

我が軍乃ち二道並び進む。淸正は雲峯よりし、浮田秀家、之に繼ぎ、行長は密陽よりし、毛利秀元、之に繼ぐ。兵各〻五萬なり。南原に會す。韓に元帥權慄雲峯に軍す。淸正の軍を望み、守を棄てて逃る。我が諸將、島津義弘・加藤嘉明をして、全州の援路を絕たしめて、軍を合せて南原に入り、書を楊元に投じて、戰期を約す。元、壘を高くし塹を深くし、衆を悉して捍禦す。諸將攻むること(一)兩晝夜にして、已にして兵を退け、城兵の倦み且つ息ふを窺ひ、則ち復た進み、卒を一面に伏せて、三面は塹を塡み、踏藉(二)して登る。元、帳中に在り。裸跣(三)して走る。其の率ゐる所の遼東の突騎數千、門を爭ひて馳せ出づ。伏兵之を要(四)して、刀を奮ひて馬足を斫る。適〻月明なり。明騎、脫するを得る者莫し。韓將李福男等、皆死す。我が軍進みて全州に向ふ。州民素より陳愚衷の徵求(五)に苦しむ。

壘深塹。張衆捍禦。諸將疾攻兩晝夜。已而退兵。窺城兵倦且息、則復進。伏卒一面、而三面塡塹。踏藉而登。元在帳中、裸跣走。其所率遼東突騎數千。爭門馳出。伏兵要之。奮刀斫馬足。適月明。明騎莫得脫者。韓將李福男等皆死。我軍進向全州。州民素苦陳愚衷微求。及聞南原陷、皆遁走。明兵阻之。多爲韓人所傷。愚衷遂棄城走。會麻貴遣牛伯英等援南原。不及。與愚衷合兵。軍于公州。我諸將因糧於全州。終議入國都。

南原陷ると聞くに及びて、皆遁れ去る。明兵、之を阻みて、多く韓人の傷くる所と爲る。愚衷、遂に城を棄てて走る。麻貴、牛伯英等を遣して南原を援ふに會す。及ばず、愚衷と兵を合せて、公州に軍す。我が諸將、糧は全州に因り、遂に國都に入らんと議す。

㊀ 戰爭のときを約束す　㊁ ふせぐ　㊂ 踏みちらし　㊃ はだしして走る　㊄ 人民よりの取立

韓王聞水陸軍皆敗。謂烏嶺之守無益也。使李元翼引兵徑出忠淸。以阻我軍

韓王、水陸の軍皆敗ると聞き、烏嶺の守の益なきを謂ふや、李元翼をして、兵を引きて徑に忠淸に出でて、以て我が軍鋒を阻せしめ、復た李舜臣を起して、三道の水軍を統べしむ。舜臣、錦島に至り、我が將菅正陰と、碧波亭の下に遇ふ。大礮を以て潮に乘じて來り攻む。正陰、敗死す。舜臣、因りて明の水軍の將陳璘

鋒。復起李舜臣。統三道水軍。舜臣至錦島。與我將菅正陰遇于碧波亭下。以大隊乘潮來攻。正陰敗死。舜臣因與明水軍將陳璘軍古今島。以扼我水軍。而我陸軍一隊以秀元爲將。黑田長政爲先鋒。進迫國都。九月。軍于全義館。擊明將解生于稷山。明將楊登山牛伯英來衝我陣。長政將後藤基次栗山利安揮槍拒之。殺傷相當。登山伯英退與生合。濟川斷橋。我兵絕流而渡。擊走之。明軍復大至。長政將母里友信原種良等力戰。秀元亦至。擊卻明軍。於是明軍在國都者不敢出。我軍亦持重不進。天漸寒。

と、古今島に軍して、以て我が水軍を扼す。(二)而して我が陸軍の一隊、秀元を以て將と爲し、黑田長政を先鋒と爲し、進みて國都に迫る。九月、全義館に軍し、明將解生を稷山に擊つ。明將楊登山・牛伯英來りて我が陣を衝く。長政の將後藤基次・栗山利安槍を揮ひて之を拒ぐ。殺傷相當る。登山伯英退きて生と合し、川を濟りて橋を斷つ。我が兵流を絕ちて渡り、擊ちて之を走らす。明軍復た大に至る。長政の將母里友信・原種良等、力戰す。秀元も亦至り、擊ちて明軍を卻く。是に於て、明軍の國都に在る者、敢て出でず。我が軍も亦、(三)持重して進まず。天漸く寒し。

(一) 海軍陸軍ともに (二) くひとむ (三) 大事を取りて

十月。清正退守二蔚山一。行長退守二順天一。諸將連レ營。與二釜山一相二爲聲援一。明乃遣二李如梅一。來取二谷城一。遂攻二毛利秀包于二星州一。不レ能レ取。秀包亦以二兵少一退守二求禮一。十一月邢玠入レ韓。聚二議都城一。以爲和兵持重。若下待二秀吉親濟一者上。其志不レ在レ小。宜三及レ今擊二之。會二明諸道募兵皆至一。乃分爲レ三。李如梅將二左軍一。高策將二中軍一。李芳春解生將二右軍一。明三十三將與二韓七將一。分屬二三軍一。以二楊鎬麻貴一統レ之。糧餉火器。皆極二豐備一。期下以二十二月一進攻上焉。我諸將聞レ之。益修二城壘一。

十月、清正、退きて蔚山を守り、行長、退きて順天を守る。諸將、營(一)を連ねて、釜山と聲援(二)を相爲す。明乃ち李如梅を遣し、來りて谷城を取らしむ。遂に毛利秀包を星州に攻む。取る能はず。秀包も亦、兵少きを以て、退きて求禮を守る。十一月、邢玠、韓に入り、都城に聚議し、以爲へらく、和兵持重、秀吉の親ら濟るを待つ者の若し。其志、小に在らず。宜しく今に及びて之を擊つべしと。明の諸道の募兵の皆至るに會ふ。乃ち分ちて三と爲し、李如梅左軍に將とし、高策中軍に將とし、李芳春・解生右軍に將とし、明の三十三將と韓の七將と、分れて三軍に屬し、楊鎬・麻貴を以て之を統べしむ。糧餉(三)火器、皆豐備(四)を極め、十二月を以て進み攻めんと期す。我が諸將之を聞きて、益〻城壘を修む。

(一) 陣營をつゞけて (二) 遠方より援助をなす (三) 兵粮 (四) 十分に準備を整へて

清正巡二視西生諸寨一。而留二裨將加藤清兵衛一。與二毛利氏援卒一俱修二蔚山一。明諸將議曰。秀吉諸將清正最勇悍。先克二清正一。則餘從レ風解。乃聲レ向二順天一。以率二行長一。而諸軍會二慶州一。留二高策于二彥陽一。以絕二釜山援路一。而李如梅解生等皆萃レ于二蔚山一。蔚山土木未レ竣。其役卒駭二明

清正、西生の諸寨を巡視して、(一)裨將加藤清兵衛を留めて、毛利氏の援卒と俱に蔚山を修む。明の諸將、議して曰く、秀吉の諸將、清正最も勇悍なり。先づ清正に克たば、則ち餘(二)は風に從ひて解けんと。乃ち順天に向ふと聲(三)して、以て行長を率(四)き、而して諸軍慶州に會し、高策を彥陽に留めて、以て釜山の援路を絕ち、而して李如梅・解生等、皆蔚山に萃る。蔚山の土木未だ竣らず。其役卒(五)、明軍の至るに駭き、入りて清兵衛に告ぐ。清兵衛出で戰ひ、伏に陷りて大に敗れ、城に入りて嬰守(六)す。淺野左京大夫、毛利氏の將太田政信・宍戶元繼等を率ゐる、將に蔚山に往きて役を監せんとす。行きて彥陽に至り、高策と嶺を夾みて舍し、未だ相知らざるなり。曉くる比、我が斥兵(七)、嶺に上り、明の先鋒の獲る所と爲り、我が軍乃ち覺る。政信・元繼、說きて曰く、衆寡(八)懸絕す。疾く走りて蔚山に入るに若かざるなりと。大夫曰く、幸長、兵を提げて此に至り、未だ明人の旗を覩ずして逃れば何の面目ありて復た太閤に見えんや。公等走らんと欲せば卽ち走れ、吾は當

軍至。入告ニ清兵衞。清兵衞出戰。陷レ伏大敗。入レ城嬰守。淺野左京大夫率ニ毛利氏將太田政信宍戸元繼等。將下往ニ蔚山ー監ト役。行至ニ彥陽一。與ニ高策一夾レ嶺而舍。未ニ相知一也。比レ曉。我斥兵上レ嶺。爲ニ明先鋒所ト獲。我軍乃覺。政信元繼說曰。衆寡懸絕。不レ若三疾走入ニ蔚山一也。大夫曰。幸長提レ兵至レ此。未レ視ニ明人之旗ー而逃。何面目復見ニ太閤一哉。公等欲レ走卽走。吾當レ死レ於レ此矣。乃遣ニ其將太田岡野龜田森島四人。率ニ銃隊ー進。逆ニ擊明先鋒ー。卻レ之。

に此に死すべしと。乃ち其將太田・岡野・龜田・森島の四人を遣し、銃隊を率ゐて進み、明の先鋒を逆へ擊ちて、之を卻く

(一)副將 (二)其他の軍は其の樣子を見て自らつひえん (三)いひふらして (四)索擊して (五)工事に從事する兵 (六)籠城す (七)斥候兵 (八)多勢と少勢と甚だしき差あり

大夫在ニ高阜ー。望ニ見策軍踰ヒ嶺也。恐ニ其戰沒ー。使三人召ニ還之ー。不レ肯。奮擊斃ニ數百人ー而死レ之。獨龜田脫歸。獻ニ所レ獲

大夫、高阜に在りて、策の軍、嶺を踰ゆるを望見するや、其戰沒を恐れ、人をして之を召し(一)還さしむ。肯ぜず。奮擊して數百人を斃して、之に死す。獨り龜田脫歸し、獲る所の甲首を獻じ、且つ曰く、明兵の衆き之を望むに(二)際なし。請ふ、君速かに退けと。大夫怒りて曰く、吾れ豈に衆きを聞きて退かんやと。自ら徽號を揚げ、衆を麾して進む。將士、之を視て、爭ひて明軍に赴く。大夫、身に十餘

甲首一。且曰。明兵之衆。望レ之無レ際。請君速退。大夫怒曰。吾豈聞レ衆而退哉。自揚二徽號一。麾レ衆而進。將士覩レ之。爭赴二明軍一。大夫身被二十餘創一。猶進不レ已。龜田力諫。使三二從士回二其轡一。而以二刀鞘一鞭レ馬。馬奔二蔚山一。策兵追躡。岡田某福永某返戰而死。清兵衞望見。出レ城迎入。元繼爲二明軍所一レ隔。自二間路一入二島山一。島山。蔚山別堡也。時楊鎬李如梅等已破二蔚山外郭一。大夫代二清正一率二厲將士一。嬰レ壁守レ之。

創を被るも、猶ほ進みて已まず。龜田力諫し、二從士をして、其轡(三)を回さしめて、(四)刀鞘を以て馬を鞭つ。馬、蔚山に奔る。策の兵追躡す。岡田某・福永某返り戰ひて死す。清兵衞、望見して、城を出でて迎へ入る。元繼、明軍の隔つる所と爲りて、(五)間路より島山に入る。島山は、蔚山の(六)別堡なり。時に楊鎬・李如梅等、已に蔚山の外郭を破る。大夫、清正に代りて將士を率厲し、(七)壁に嬰りて之を守る。

(一) 高き丘　(二) 明兵を見渡すにはてしなし　(三) 馬轡をとりて引きかへさしめて　(四) 刀の鞘　(五) ぬけみち
(六) 附屬するとりで　(七) 城壁の内にとぢこもりて

明兵以二大夫一爲二清正一也。欲二必獲レ之。攻擊

明兵、大夫を以て清正と爲すや、必ず之を獲んと欲し、攻擊甚だ急なり。大夫、自ら銃を放つ。命中せざる無し。時に門を開きて突戰し、殺傷過當す。二城の

甚急。大夫自放レ銃。無レ不ニ命中一。時開レ門突戰。殺傷過當。二城之間有レ川。李芳春解生泛ニ兵艦一以絕レ之。城兵銃破ニ其五艘一。溺ニ數千人一。而敵勢不レ衰。麻貴茅國器鼓レ衆攀レ壁。前者墜。後者登。晝夜不レ歇。城兵欲レ告ニ急於清正一。清正時在ニ機張一。相去三日程。敵衆充ニ塞道路一。大夫曰。

間に川有り。李芳春・解生、兵艦を泛べて以て之を絶つ。城兵、銃もて其五艘を破り、數千人を溺らす。而も敵兵衰へず。麻貴・茅國器、衆を鼓して壁に攀ぢ、前者墜つれば、後者登り、晝夜歇まず。城兵、急を清正に告げんと欲す。清正、時に機張に在り。相去ること三日程なり。敵衆、道路に充塞す。大夫曰く、誰か往くべき者ぞと。近臣木村某、奮ひて往かんと請ふ。大夫之を壯なりとし、予ふるに善馬を以てす。已に門を出づれば、明兵麕集す。木村一騎、萬衆中を馳突し、一日一夜にして機張に達し、清正を見て急を告ぐ。清正、大に驚き(三)、袂を投じて起つ。左右或は之を止めて曰く、蔚山は孤城を以て大敵の衝に當る。而して我が寡兵、之を援ふも、終に保つ能はざらん。之を棄つるに若かざるなりと。清正曰く、彈正、我に囑して曰く、緩急幸に我が兒を援へと。今、之を敵に餧せば何を以て天下に立たんと。乃ち見兵(四)五百人を率ゐて、人ごとに糧食(五)を負はしめ舟に登りて赴き援ふ。

誰可往者。近臣木村某奮請往。大夫壯之。予以善馬。已出門。明兵麕集。木村一騎馳突萬衆中。一日一夜逹機張。見清正告急。清正大驚。投袂而起。左右或止之曰。蔚山以孤城當大敵之衝。而我寡兵援之。終不能保。不若棄之。馬。清正曰。彈正囑我曰。緩急幸援我兒。今餒之敵。何以立天下。乃率見兵五百人。人負糧食。登舟赴援。

㊀ 道路にみちふさがる　㊁ むらがり集る　㊂ 多勢の敵兵中をかけ拔け　㊃ 危急の場合には何卒我兒を援けられよ　㊄ 敵の餌とせば

與明候船戰江中。走之。清正自蒙銀兜鍪。杖薙刀。立船首。指麾士卒。明韓諸軍指目。莫敢近者。遂入蔚山。鎬貴謂將士曰。清正定入城矣。猶檻虎而刺之也。明

明の候船(一)と江中に戰ひて、之を走らす。清正、自ら銀兜鍪(二)を蒙り、薙刀を杖つき、船首に立ちて、士卒を指麾す。明・韓の諸軍、指目して、敢て近づくもの莫し。遂に蔚山に入る。鎬・貴將士に謂ひて曰く、清正定めて城に入れり。猶ほ虎を檻(三)して之を刺すがごときなりと。明日、諸軍を合せて蟻附(四)して上る。清正、士卒に令して、大石巨材を投げ、撃ちて之を卻く。即夜、數百騎と、明軍を襲ひ、大に獲て還る。敵、更に飛樓を起し、火筒佛郎機(五)を以て百道並び攻め、城、轟震(六)烈す。清正、大夫と、堅く守りて屈せず。鎬貴、其の力取すべからざるを知り、乃ち令を

日。合二諸軍一蟻附而上。清正令二士卒一。投二大石巨材一。擊却レ之。即夜。與二數百騎一襲二明軍一。大獲而還。敵更起二飛樓一。以二火筒佛郎機一百道並攻。城壘震裂。清正與二大夫一堅守不レ屈。鎬貴知二其不一レ可二力取一。乃下レ令休レ戰。合圍十晝夜。斷二我汲道一。城兵飢渴。皆嚙レ紙。煎二壁土一。刺レ馬飲二其血一。馬

下して戰を休め、合圍すること十晝夜、我が汲道(七)を斷つ。城兵飢渴し、皆紙を嚙み、壁土を煎、馬を刺して其血を飲む。馬盡く。乃ち溺(八)を飲む。夜、城外に出でて、明人の尸を搜り其の佩ぶる所の糗糧牛炙(九)を取りて之を食ふ。天、大に雪ふり、士卒、皸瘃(一〇)し、指を墜す者あり。而して清正、意氣自若として、益〻守具を修め、銃及び紙礮を用ひて、日〻に明兵數百千人を斃す。鎬・貴、夜、伏を設けて、曉に營を焚きて退き走ること數里、以て城兵を誘ふ。城兵追はんと欲す。清正許さずして曰く、彼れ火を擧げて以て退く。退くに殿を設けず。夜を以てせずして曉を以てす。是れ將に我を誘ひて之を殲さんとするなりと。之を久しくして、明の伏稍稍出で、終に復た之を圍む。

(一) もの見の船　(二) しめかねみがきの冑　(三) 虎ををりに入れて刺殺す　(四) 蟻の如く群りのぼる　(五) 大砲　(六) 城壘がふるひ裂くばかりなり　(七) 水を汲む道　(八) 小便　(九) ほしひや牛のあぶり肉　(一〇) しもやけにて指のおつる者あり

盡。乃飲レ溺。夜出二城外一。捜二明人尸一。取二其所レ佩粮糧牛炙一食レ之。天大雪。士卒瘴瘃。有二墜レ指者一。而清正意氣自若。益修二守具一。用二銃及紙礮一。日斃二明兵數百千人一。鎬貫夜設レ伏。而曉焚レ營退走數里。以誘二城兵一。城兵欲レ追。清正不レ許曰。彼擧レ火以退。退不レ設レ殿。不レ以レ夜而以レ曉。是將二誘レ我而殲レ之爲。久レ之。明伏稍稍出。終復圍レ之。

浮田氏卒有下亡在二明軍一者上。呼語二城上人一曰。楊經理願二媾和一。欲下與二加藤公一面中議之上。期二城外百歩一相見。清正欲レ往。大夫曰。敵情不レ可レ測。公受二太閤命一。爲二一方重寄一。勿三輕出貽二笑外國一。雖レ然。不レ出示二之怯一也。度

浮田氏の卒、亡げて明軍に在る者有り。呼びて城上の人に語りて曰く、楊經理、媾和を願ふ。加藤公と之を(一)面議せんと欲す。城外百歩を期して相見んと。清正往かんと欲す。大夫曰く、(二)敵情測るべからず。公、太閤の命を受けて、(三)一方の重寄たり。輕〻しく出でて笑を外國に貽す勿れ。然りと雖も、出でざれば之に怯を示すなり。度るに彼れ未だ公の面を識らず。僕請ふ、公と爲りて代り行かんと。衆遂に兩つながら之を止む。(四)故に會期を紓くして、以て我が援兵の至るを俟つ。黑田孝高、梁山に在り。使をして釜山に告げしめて曰く、蔚山急なり。即し陷らば、諸城、之に隨はん。赴き援はざるべからずと。諸將之を然りとす。豐臣秀秋・毛利秀元・黑田長政・加藤嘉明・森忠政・蜂須賀家政・藤堂高虎・其子

彼未ㇾ識ニ公面一。僕請爲ㇾ公代行。衆遂兩止ㇾ之。故紆ニ會期一。以俟ニ我援兵至一。黒田孝高在ニ梁山一。使ニ使告ニ釜山一曰。蔚山急矣。卽陷。諸城隨ㇾ之。不ㇾ可ㇾ不ニ赴援一。諸將然ㇾ之。豐臣秀秋。毛利秀元。黒田長政。加藤嘉明。森忠政。蜂須賀家政。藤堂高虎。其子高良。脇坂安治等。將ニ騎卒五萬一。自ニ彦陽昌原一分ㇾ道赴援。而行長自ニ海上一會ㇾ之。

高良・脇坂安治等、騎卒五萬に將として、彦陽・昌原より道を分ちて赴き援ふ。而して行長、海上より之に會す。

(一)面會して議せん (二)敵の心中はかり知りがたし (三)一方の輕からぬ役目なり (四)わざと面會の期を延ばして

三年。正月。秀秋等至ニ彦陽一。擊破ニ高策一。與ニ昌原軍一皆赴ニ蔚山一。行長益裝ニ空艦一。蔽ㇾ海而至。楊鎬聞下我軍自ニ三面一

三年正月、秀秋等、彦陽に至り、擊ちて高策を破り、昌原の軍と、皆蔚山に赴く。行長益〻空艦(一)を裝ひ、海を蔽ひて至る。楊鎬、我が軍、三面より至ると聞き、(二)身を挺して先づ遁る。麻貴・解生等、夜に乘じて圍を解く。長政、後藤基次をして、晨に出でて軍を候はしむ。(三)一馬鞍を水涯に得て、還り報じて曰く、是れ日本(四)の制なり。我が兵已に騎渡する者有り。後るべからずと。長政卽ち馳せて明軍を躡(五)

至挺レ身先遁。麻貴俘生等乘レ夜俘レ園。長政使二後藤基次晨出候一レ軍。得三一馬韈于二水涯一。還報曰。是日本制。我兵已有二騎渡者一。不レ可レ後矣。長政即馳躡二明軍一。藤堂高良等揮レ槍繼レ之。清正與二大夫一乃開レ門合擊。敵衆崩駭。獨其將吳惟忠茅國器殿而回戰。吉川廣家奮擊走レ之。明軍大走。遺二棄糧仗一蔽レ野。

す。藤堂高良等、槍を揮ひて之に繼ぐ。清正、大夫と、乃ち門を開きて合擊す。敵衆崩駭す。(六)獨り其將吳惟忠・茅國器殿して回り戰ふ。吉川廣家奮擊して之を走らす。明軍、大に走り、糧仗(七)を遺棄して野を蔽ふ。

(一)から騎を乘兵多き樣に見せかけ　(二)自身一人脱け出でて　(三)馬のわらぢ　(四)日本にてつくりたるもの　(五)あとを追ふ　(六)驚きくづる　(七)糧食兵器を殘し捨て、野に滿つ

諸將之救二蔚山一也。明候二我空虛一。一軍襲二梁山一。爲二黑田孝高擊卻一レ之。一軍襲二釜山一。浮田秀家使四立花宗茂邀三

諸將の蔚山を救ふや、明、我が空虛(一)を候ひ、一軍、梁山を襲ふ。黑田孝高擊ちて之を卻くるを爲す。一軍、釜山を襲ふ。浮田秀家、立花宗茂をして般丹に邀へしめ、燒きて之を走らす。明主、蔚山の敗聞を得て、其下と議して曰く、是の役や、之を謀ること經年(二)、海內の力を傾け、加ふるに全韓の兵を以てして、必克を期す。今乃ち此の如し。罪當に經理に歸すべしと。乃ち楊鎬を罷め、萬世德

于二般丹一。焼而走レ之。明主得二蔚山敗聞一。與二其下一議曰。是役也。謀レ之經年。傾二海内力一。加以二全韓之兵一。期レ於二必克一。今乃如レ此。罪當レ歸二經理一。乃罷二楊鎬一。以二萬世德一代レ之。與二鄧子龍張芳監芳威等一。率二楚兵一往助二邢玠一。秀吉得二蔚山捷聞一。賜二手書於清正一賞レ之。爲餽二糧食一。

を以て之に代へ、鄧子龍・張芳監・芳威等と楚兵を率ゐて往きて邢玠を助けしむ。

秀吉、蔚山の捷聞を得、手書を清正に賜ひて之を賞し、爲に糧食を餽る。

㊀ 陣中人少きをうかゞひしり　㊁ 幾年もかゝる　㊂ 戰勝の報知

三月。秀吉攜二秀頼及夫人以下一。遊二醍醐一。命二前田玄以一掌二供帳一。務使二豐盛一。勿レ有二遺憾一。四月。遣レ使諭二諸將一。留二秀秋行長清正。及島津義弘黑田長政左京大夫等十

三月、秀吉、秀頼及び夫人以下を攜へて、醍醐に遊び、前田玄以に命じて、供帳を掌らしめ、務めて豐盛ならしめて、遺憾有る勿らしむ。四月、使を遣して諸將に諭し、秀秋・行長・清正及び島津義弘・黑田長政・左京大夫等の十餘將を留め、其餘は盡く罷め歸らしむ。其留る者は、分ちて四屯と爲す。秀秋は釜山を守る。而して蔚山は其右に在り。清正之を守る。順天は其左に在り。行長之を守る。泗川は其前に在り。義弘之を守る。四城の兵凡そ十萬なり。明兵も亦十萬可なり。世德、邢玠と議して、李如梅は、義弘に當り、劉綎は行長に當

餘將一。其餘盡罷歸。其留者。分爲二四屯一。秀秋守二釜山一。而蔚山在二其右一。清正守レ之。順天在二其左一。行長守レ之。泗川在二其前一。義弘守レ之。四城兵凡十萬。明兵亦可二十萬一。世德與二邢玠一議。令下李如梅當二義弘一。劉綎當二行長一。麻貴當二清正一。陳璘以二水軍一出中其後上。已而召二如梅一。以二董一元一代レ之。相持未レ戰。是月。秀賴進二從二位一。爲二權中納言一。五月。秀吉有レ疾。六月。外師罷者至。乃召見慰勞。論二其賞罰一。

り、麻貴は清正に當り、陳璘は水軍を以て其後に出でしむ。已にして如梅を召して董一元を以て之に代へて、(二)相持して未だ戰はず。是の月、秀賴、從二位に進み、權中納言と爲る。五月、秀吉疾有り。六月、外師の罷むる者至る。乃ち召し見て慰勞し、其賞罰を論ず。

(一) 豐かに盛ならしめて手落なきやうにせしむ　(二) 互に持重して

七月。秀吉疾篤。召二德川公一諭レ之曰。外國未レ服。而吾罹二此疾一。吾死則難作。非レ卿莫二

七月、秀吉、疾篤し。德川公を召して之に諭して曰く、外國未だ服せず。而して吾れ此疾に罹る。吾死せば則ち難作らん。卿に非ずんば以て之を定むる莫けん。吾れ今日、天下を以て卿に託す。卿、我が爲に努力せよ。秀賴は幼弱なり、亦卿の保護を煩す。其成長するに至りて、當に立つべきと當に立つべからざる

以定レ之。吾今日以二天下一託レ卿。卿爲レ我努力。秀頼幼弱。亦煩二卿保護一。至二其成長一。當レ立與レ不レ當レ立。一在二卿之心一。徳川公歔欷曰。殿下百歳之後。孰不レ奉二嗣君一者。雖レ然人心不レ測。殿下宜下運二其神算一。以建中萬世之安上。家康不才。不三敢當二重任一。曰。吾熟二思之一。莫レ若二卿者一。卿勿レ避也。徳川公固辭而退。

とは、一に(一)卿の心に在りと。徳川公歔欷(二)して曰く、殿下百歳(三)の後、孰か嗣君を奉ぜざる者ぞ。然りと雖も、人心測られず。殿下宜しく其神算(四)を運して以て萬世の安きを建つべし。家康不才(五)にして、敢て重任に當らずと。曰く、吾れ之を熟思するに、卿に若く者莫し。卿避くる勿れと。徳川公、固辭して退く。

(一) 全く卿の心次第なり (二) すゝりなきして (三) 死後 (四) よきはからひごとを御考あつて御家安泰の方法を建て給へ (五) 愚かにして其の重任に適當ならず

秀吉遂召二石田三成増田長盛一告レ之。二人諫曰。殿下百戰取二天下一。而一日予二之

秀吉、遂に石田三成・増田長盛を召して之を告ぐ。二人諫めて曰く、殿下百戰して天下を取り、而して一日にして之を他人に予ふ。是れ胡爲る(一)ものぞや。今や天下の猛將、謀臣、殿下の恩を被らざる者無し、其の嗣君を輔くるに於て何か有らんと。是に於て、大老、奉行を定む。奉行は五人、故置く所の如し。徳川氏及び

他人。是胡爲也。今天下猛將謀臣。無下不レ被二殿下恩一者上。其於レ輔二嗣君一何有。於レ是定二大老奉行一。奉行五人如二故所一レ置。德川公。及前田利家。毛利輝元。浮田秀家。上杉景勝。爲二五大老一。以二中村一氏。生駒親正。堀尾吉晴一爲二三中老一。小事決レ於二奉行一。大事決レ於二大老一。大老奉行或

前田利家・毛利輝元・浮田秀家・上杉景勝を五大老と爲し、中村一氏・生駒親正・堀尾吉晴を三中老と爲し、小事は奉行に決し、大事は大老に決す。大老、奉行、或は協はざる有らば、則ち中老、(二)間に居て之を和解せよと。片桐且元・小出秀正をして、秀頼に傅たらしめ、密に(三)二人に囑して曰く、吾れ人奴より起りて、關白と爲るに至る。孰か國恩に非ざらんや。吾れ明と兵を構へ、(四)禍結びて解けず。吾れ深く之を悔ゆ。彼れ吾が死するを聞かば、或は大擧して來り報いん。國朝、古より未だ嘗て外國の(五)侵辱を受けず。我が時に及びて受くるは、吾れ深く之を恥づ。是れ吾の國を家康に託する所以なり。我が家の存亡に至りては、未だ恤ふるに暇あらざるなり。然りと雖も、家康は必ず我に負かじ。汝が輩、謹みて秀頼を保護し、釁隙を生ぜしむる莫れと。又木村重成・薄田兼相・渡部倘をして、二人に副たらしむ。親兵を分ちて七隊と爲し、速水守久・伊東長次・青木一重・眞野宗信・中島氏種・野野村吉安・堀田正高を以て隊長と爲し、馬標、旌旗、盡く之を

有レ不レ協。則中老居レ間和二解之一。使三片桐且元小出秀正傳二秀頼一。密囑二二人一曰。吾起二人奴一。至レ爲二關白一。孰非二國恩一哉。吾與レ明構レ兵。禍結弗レ解。吾深悔レ之。彼聞二吾死一。或大擧來報。國朝自レ古未三曾受二外國侵辱一。及二我時一受レ焉。吾深恥レ之。是吾所四以託三國於二家康一。我家存亡。未レ暇レ恤也。雖レ然家康必不レ負レ我。汝輩謹保二護秀頼一。莫レ使レ生二釁隙一焉。又使三木村重成。薄田兼相。渡部尙副二二人一。分二親兵一爲二七隊一。以二速水守久。伊東長次。青木一重。眞野宗信。中島氏種。野野村吉安。堀田正高一爲二隊長一。馬標旌旗。盡傳二之秀頼一。使二母衣騎郡良列。卒將津川左近掌一レ之。

秀頼に傳へ、母衣騎郡良列、卒將津川左近をして之を掌らしむ。

(一)是は何とした事か　(二)中間に在つて　(三)賴む　(四)戰爭を開始し　(五)外國より攻込まれてはづかしめられしことなし

八月。盡會二大老奉行以下一。爲レ誓。誓曰。虛レ心協レ謀。務輔二嗣子一。勿レ樹二私黨一。勿レ忘二公義一。勿二變更一。勿二漏泄一。勿二不レ告而

八月、盡く大老奉行以下を會して誓を爲さしむ。誓に曰く、心を虛しくし謀を協せ、務めて嗣子を輔け、私黨を樹つる勿れ。公義を忘るゝ勿れ。變更する勿れ。漏泄する勿れ。告げずして婚を結ぶ勿れ。告げずして質を交ふる勿れ。嗣子六歲、未だ政を親らすること能はず。前田は之を大坂に保し、而して德川は事を伏見に視、邑を封じ罰を行ふこと、皆嗣子の長ずるを俟てと。淺野彈正・石田三

結レ婚。勿二不レ告而交一レ質。嗣子六歲。未レ能レ親レ政。前田保三之於二大坂一。而德川視三事於二伏見一。封レ邑行レ罰。皆俟二嗣子之長一。命二淺野彈正石田三成一曰。汝赴二朝鮮一收二我兵一。不レ能レ收則遣二家康一。家康有レ不レ可レ往。則遣二利家一。二人遣レ一。雖レ有二百萬敵一不レ能レ尾也。十三日。疾大篤。將レ瞑。已而張レ目曰。勿レ使三我十萬兵爲二海外鬼一。言畢而薨。年六十三。羣臣祕レ喪。使四前田玄以密葬三之于二阿彌陀峯一。九月。三日。德川公與二諸侯一盟レ無レ貳レ於二嗣君一。遂使下淺野吉田以二遺命一赴二肥前一。密召中在韓諸將上。

成に命じて曰く、汝、朝鮮に赴きて我が兵を收めよ。(四)收むる能はずんば則ち家康を遣れ。家康往くべからざる有らば、則ち利家を遣れ。二人のうち一を遣らば、百萬の敵有りと雖も、尾することを能はざるなりと。十三日、疾大に篤し。將に瞑せんとす。已にして目を張りて曰く、我が十萬の兵をして海外の鬼と爲らしむる勿れと。(五)言畢りて薨ず。年六十三なり。羣臣、喪を祕して、(六)前田玄以をして、密かに之を阿彌陀峯に葬らしむ。九月三日、德川公、諸公と、嗣君に貳無きを盟ひ、遂に淺野・石田をして、遺命を以て肥前に赴き、密かに在韓の諸將を召さしむ。

(一) 私心を挿まずして合議し　(二) 私の黨派をたて互に爭ふことなかれ　(三) 祕密をもらす　(四) 兵を引上げよ
(五) 外國にて死なしむることなかれ　(六) 秀吉の死をかくし

諸將之與二明軍一相持也。明兵益至。邢玠萬世德促二諸軍一進攻。劉綎患下順天帶二山海一不上レ可レ近。則思二沈惟敬所一レ爲。欲二誘而取一レ之。遣二間使一來告二行長一曰。先鋒嚮與二我國一盟矣。因三清正註二惑關白一。復致レ有二今日一。今兩國兵老。吾欲下親與二先鋒一會以成中前盟上也。行長不レ信。瞰二綎單騎候一レ於レ道。則信レ之。將二出赴一レ會。而我兵降在二綎部一者。爲洩二其謀一。行長驚還。綎恚而來攻。行長擊卻レ之。

諸將の明軍と相持するや、明兵益々至る。邢玠・萬世德諸軍を促して進み攻む。劉綎、順天の山海を帶びて近づく可からざるを患へ、則ち沈惟敬の爲す所を思ひて、誘ひて之を取らんと欲す。間使(一)を遣し來りて行長に告げしめて曰く、先鋒嚮に我が國と盟ふ。清正、關白を註惑(二)するに因りて、復た今日有るを致す。今、兩國の兵老ゆ。吾れ親ら先鋒と會して以て前盟を成さんと欲すと。行長信ぜず。綎の單騎にて道に候つを瞰て、則ち之を信じ、將に出でて會に赴かんとす。而して我が兵の降りて綎の部に在る者、爲に其謀を泄す。行長驚き還る。綎、恚りて來り攻む。行長、擊ちて之を卻く。

(一) 密使　(二) あざむきだます

清正亦竣二蔚

清正も亦蔚山の役を竣へ、糧多く兵勇に、人々一戰を思ふ。九月、鹿貴、溫井

山役。糧多兵勇。人思二一戰一。九月。麻貴至二溫井一。懲二前敗一。堅レ壁不二敢出一。清正屢出戰。擊二走貴兵一。立花宗茂在二釜山一。自請以二五百人一往救二清正一。值三明五千人于二元濆一。乘二曉霧一薄擊。克レ之。遂追レ北。或以二衆寡不一レ敵止レ之。宗茂曰。敵馬足亂。可レ追。不レ追。視二我寡一也。追擊復克レ之。既舍。逸二明囚一。設二五伏一以待。曰。吾乃視レ寡而誘レ之也。夜半。明兵來襲。伏起。復克レ之。明日。未レ至二蔚山一數十里。與二清正一夾二擊麻貴一。大克レ之。

に至り。前敗に懲りて、壁を堅くして敢て出でず。清正、屢〻出で戰ひて、擊ちて貴の兵を走らす。立花宗茂釜山に在り。自ら請ひて、五百人を以て往きて清正を救ふ。明の五千人に元濆に值ふ。曉霧に乘じて薄擊(一)して、之に克ち、遂に北ぐるを追ふ。或ひと、衆寡敵せざるを以て之を止む。宗茂曰く、敵の馬足亂る。追ふ可し。追はざれば、我が寡きを視すなりと。追擊して復た之に克つ。既に舍し、明の囚を逸し(二)、五伏を設けて以て待つ。曰く、吾れ乃ち寡を視して之を誘ふなりと。夜半、明兵來り襲ふ。伏起りて、復た之に克つ。明日、未だ蔚山に至らざる數十里にして、清正と夾みて麻貴を擊ち、大に之に克つ。

(一) 近くせまりて擊つ　(二) 明のとりこをにがし

是時。義弘及子忠恆在二新寨一。與二董一元一夾二晉江一而軍。茅國器聞下島津氏與二豐臣氏一爲中宿仇上以爲レ可レ間也。乃作レ檄數二秀吉罪一。遣二辯士一以搖二義弘一。義弘叱而卻レ之。國器又說二一元一曰。義弘築二望津東陽泗川永春昆陽金海固城新寨八壘一。勢如二長蛇一。望津。其首也。擊二其首一。餘

是の時、義弘及び子忠恆、新寨に在り。董一元と、晉江を夾みて軍す。茅國器、島津氏は豐臣氏と宿仇たりと聞きて、以爲へらく、間すべしと。乃ち檄を作りて秀吉の罪を數め、辯士を遣して以て義弘を搖す。義弘、叱して之を卻く。國器又一元に說きて曰く、義弘、望津・東陽・泗川・永春・昆陽・金海・固城・新寨の八壘を築く。勢、長蛇の如し。望津は其首なり、其首を擊たば、餘は制し易からんのみと。一元、之を然りとす。明の捕虜、郭國安、望津に在るに會ふ。欵を一元に送り、約して內應を爲し、火を舉げて信と爲す。期に至りて、國器兵を引きて江に臨む。我が兵も亦寨を出でて江に臨む。已にして寨中火起る。吾が兵顧みて之を救ふ。明の兵乃ち渡り、望津を陷る。忠恆新寨に在り。赴き援はんと欲す。義弘曰く、未だ可ならずと。望津の兵、退きて泗川を守る。而し一元、已に兵を分ちて、永春・昆陽を襲ひて、其積聚を燒き、軍を悉して江を渡り、遂に夜に乘じて泗川を襲ふ。

易レ制耳。一元然レ之。會三明捕虜郭國安在二望津一。送三欵於二一元一。約レ爲二內應一。擧レ火爲レ信。至レ期。國器引レ兵臨レ江。我兵亦出レ寨臨レ江。已而寨中火起。吾兵顧而救レ之。明兵乃渡。陷二望津一。忠恆在二新寨一。欲レ赴レ援。義弘曰。未可。望津兵退守二泗川一。而一元已分レ兵。襲二永春昆陽一。燒二其積聚一。悉レ軍渡レ江。遂乘レ夜襲二泗州一。

㊀ふるき仇敵　㊁八壘連續の狀長蛇の如し　㊂其の首ともいふべき望津を擊たば其餘の體尾にあたるものは討ち易し　㊃燒火をして合圖となす　㊄糧秣などの積み上げたるもの

我守將出戰。斬二明驍將李寧盧得功一。潰レ圍走二新寨一。忠恆復請二赴援一。義弘曰。未レ可。一元已取二數壘一。而島津氏不レ出。意甚輕レ之。進燒二東陽倉一。火晝夜不レ滅。遂向二新寨一。

我が守將出で戰ひ、明の驍將李寧・盧得功を斬り、圍を潰して新寨に走る。忠恆復た赴き援はんと請ふ。義弘曰く、未だ可ならずと。一元已に數壘を取る。而して島津氏出でず。意甚だ之を輕んじ、進みて東陽倉を燒く。火、晝夜滅せず。遂に新寨に向ふ。國器之を止め、先づ金海・固城を攻めて以て其羽翼を奪はんと勸む。聽かず。十日朔、一元、兵を合せて、國器及び葉邦榮・彭信古を以て先鋒と爲し、藺芳威を以て後軍と爲して、新寨を攻め、卯より巳に至り、木砲を以て大門及び城墻を摧き、塹に薄り柵を拔く。城兵、殊死して戰ふ。砲炸烟焰四に

國器止之。勸先攻全海固城。以奪其羽翼。不聽。十月。朔。一元合兵。以國器及葉邦榮彭信古爲先鋒。以藍芳威爲後軍。攻新寨。自卯至巳。以木砲摧大門及城堞。薄塹拔柵。城兵殊死戰。會砲炸烟焰四迸。明陣亂。義弘。目忠恆曰。可以出矣。忠恆唯而起。與數千騎闢門直衝明陣。明陣皆披靡。而國器邦榮以萬人橫入于城。義弘豫勒五千人。迎擊走之。芳威望見先走。明軍遂大潰。義弘忠恆追奔逐北。斬首三萬餘級。明兵爭走相擠。伏尸二百餘里。我軍以亡糧不復窮追。追至望津乃還。

迸るに會ふ。明の陣亂る。義弘、忠恆に目して曰く、以て出づべしと。忠恆、唯して起ち、數千騎と、門を闢きて直に明陣に衝く。明陣皆披靡(四)す。而して國器・邦榮、萬人を以て横に城に入る。義弘、豫め五千人を勒して、迎へ撃ちて之を走らす。芳威望見して先づ走る。明軍遂に大に潰ゆ。義弘・忠恆、奔るを追ひ北ぐるを逐ひて、斬首三萬餘級なり。明兵爭ひ走りて相擠し、伏尸二百餘里なり。我が軍、糧亡きを以て復た窮追せず。追ひて望津に至りて乃ち還る。

(一) 午前五六時頃より十時頃に至る　(二) 死ものぐるひ　(三) 大砲裂け烟四方にみなぎる　(四) ひらきなびく

而秀吉之訃

而して秀吉の訃(一)適〻至る。諸將潛かに相告言し、稍稍歸裝(二)を治む、而して明の都

適至。諸將潛相告言。稍稍治ニ歸裝一。而明都御史在レ吳者。諜知ニ秀吉沒一。報ニ告明主一。明主大喜。擧朝相賀。於レ是趣ニ邢玠等一躡ニ我軍一。郭國安亦走告ニ之明羣帥一。羣帥創ニ新寨之敗一。不ニ敢進一。

御史の吳に在る者、諜して秀吉の沒するを知り、明主に報告す。明主大に喜びて、擧朝相賀す。是に於て、邢玠等を趣して、我が軍を躡せしむ。郭國安も亦走りて之を明の羣帥に告ぐ。羣帥、新寨の敗に創りて、敢て進まず。

㈠死去の報知 ㈡歸國の仕度をなす

當ニ是時一。我邦訛言。明大擧扼ニ我兵歸路一。德川前田二老。皆欲ニ親往一。衆議止レ之。使ニ藤堂高虎代一レ之。來至ニ行臺一。得ニ新寨捷書一。乃止。而釜山軍。已從ニ秀秋一還ニ對馬一。淸正

是の時に當りて、我が邦、訛言す。明、大擧して我が兵の歸路を扼すと。德川・前田の二老、皆親ら往かんと欲す。衆議之を止む。藤堂高虎をして之に代らしむ。來りて行臺に至り、新寨の捷書を得て、乃ち止む。而して釜山の軍、已に秀秋に從ひて對馬に還る。淸正・義弘、次ぎて兵を收めて還る。行長も亦還らんと欲す。而して劉綎復た來りて之を圍む。淸正、義弘と、返り擊ちて、行長を拔き皆舟に上る。陳琳・鄧子龍・李舜臣・陳蠶・馬文煥・陶明宰等、兵艦數千艘を以て、之を海中に要す。淸正已に去る。義弘鬪ひ且つ卻き、加德島に至る。明兵、行

義弘次收レ兵還。行長亦欲レ還。而劉綎復來鬨レ之。清正與ニ義弘一返擊。拔ニ行長一。皆上レ舟。陳琳。鄧子龍。李舜臣。陳蠶。馬文煥。陶明宰等。以ニ兵艦數千艘一。要ニ之海中一。清正已去。義弘鬪且卻。至ニ加德島一。明兵四集於ニ行長一。行長厲ニ士卒一止戰。會下明人失ニ火器一。反中ニ其船上。我兵因奮擊。鏖ニ其兵一。斬ニ子龍一。舜臣來救。亦射殺レ之。進圍レ琳。幾獲レ之。而蠶文煥繼至。銃砲交發。盡焚ニ我舟一。行長上ニ一島一。奪ニ敵寨一據レ之。明兵艦環守焉。行長乘レ夜獨遁。歸ニ於義弘一。義弘返。載ニ其餘衆一。與ニ蠶明宰一戰。擒ニ明宰一而還。皆至ニ加德一。劉綎以ニ生兵一來攻。義弘行長擊卻レ之。明軍不ニ敢復追躡一。我軍盡達ニ對馬一。

長に四集す。行長、士卒を厲して止り戰ふ。明人、火器を失して、其船に反中(二)するに會ふ。我が兵因りて奮擊して其兵を鏖にし、子龍を斬る。舜臣來り救ふも、亦射て之を殺し、進みて琳を圍む。幾ど之を獲んとして、蠶・文煥繼ぎ至り、銃砲交〻發し、盡く我が舟を焚く。行長、一島に上り、敵寨を奪ひて之に據る。明の兵艦、環守(三)す。行長夜に乘じて獨り遁れ、義弘に歸す。義弘返りて、其餘衆を載せ、蠶・明宰と戰ひ、明宰を擒にして還り、皆加德に至る。劉綎生兵(四)を以て來り攻む。義弘・行長擊ちて之を卻く。明軍敢て復た追躡せず。我が軍盡く對馬に達す。

(一) 誤り言ひ傳ふ　(二) 砲を誤りあべこべに自分の船にあたる　(三) 寨を取卷きて守る　(四) あらての兵士

十一月。諸將整レ軍至二那古邪一。兩奉行迎レ之。宣二秀吉遺命一。諸將皆泣。三成曰。公等詣二伏見一。當二各之レ國。來秋會同。以二茗讌一相招。清正曰。諸君好爲二茗讌一。我守二孤城一七年矣。勞悴纔存。毋レ茗毋レ酒。當下炊二稗粥一答上レ之耳。三成嗛レ之。先レ是。行長與下清正救二順天一也。欲レ釋レ憾焉。清正曰。吾

十一月、諸將、軍を整へて那古邪に至る。兩奉行、之を迎へ、秀吉の遺命を宣す。諸將皆泣く。三成曰く、公等、伏見に詣り、當に各々國に之くべし。來秋會同(一)し、茗讌を以て相招かんと。清正曰く、諸君好(二)して茗讌を爲せ。我れ孤城を守ること七年なり。(三)勞悴纔に存ず。茗毋く酒毋し。當に稗粥を炊ぎて之に答ふべきのみと。三成之を嗛む(四)。是より先、行長、清正の順天を救ふを德とするや憾を釋かんと欲す。清正曰く、吾も亦之を欲す。子、治部に善きを如何せんと。是より相讎すること益々深し。是に於て諸將相率ゐて伏見に詣り、秀賴に謁す。諸老之を慰勞し、罷めて國に之かしむ。嗣君猶ほ幼く、國家多難なる以て、敢て自ら逸せず。明年を俟ちて去る。明年、大老奉行征韓(五)の功を論じ、義弘に賜ふに公田の薩摩に在る者四萬石を以てす。清正・行長以下、賞を得ること差あり。

(一) 來年の秋よりあつまりて茶會を爲し (二) 御馳走し合ひて (三) 勞れ衰へて僅かに生き殘る (四) 心中に怨み怒る (五) 朝鮮征伐の功

亦欲之矣。如子善治部何。自是相讎益深。於是諸將相率詣伏見。謁秀頼。諸老慰勞之。令罷之國。以嗣君猶幼。國家多難。不敢自逸。俟明年去。明年。大老奉行論征韓功。賜義弘以下公田在薩摩者四萬石。清正行長以下。得賞有差。

慶長四年。正月十日。前田利家奉二秀頼一徙二大坂一。抱坐二正廳一。德川公以下牧伯將吏來謁レ之。德川公還居二伏見第一。視レ事。五奉行更遣レ兵守レ城。皆如二秀吉遺命一。而德川氏威權獨

卷十七

德川氏前記

豐臣氏 下

慶長四年正月十日、前田利家、秀頼を奉じて大坂に徙り、抱きて(一)正廳に坐す。德川公以下の牧伯將吏來りて之に謁す。德川公、還りて伏見の第に居りて、事を視る。五奉行、(二)更〻兵を遣して城を守る。皆秀吉の遺命の如くす。而して德川氏の威權獨り熾なり。利家其の己を侮ると謂ひ、乃ち(三)忿恚して、罷めて國に就かんと欲す。細川忠興、利家の威屬爲り。遺命を引きて之を諫止す。是の月二十一日、大老奉行(四)連署して德川公を詰めて曰く、足下の行事、疑ふ可き者多し。太閤の遺令に背き、伊達・福島・蜂須賀の三家と、私かに婚姻を結ぶ。是れ何をか爲さんと欲する。宜しく(五)政を解き國に就くべしと。又三家を詰る。三家服せず。三

熾。利家謂二其侮一ㇾ己。乃忿恚。欲二罷就一ㇾ國。細川忠興爲二利家一咸勵。引二遺命一諫二止之一。是月二十一日。大老奉行連署詰二徳川公一曰。足下行事。多二可ㇾ疑者一。背二太閤遺令一。與二伊達福島蜂須賀三家一。私結二婚姻一。是欲二何爲一也。宜三解ㇾ政就二ㇾ國。又詰二三家一。三家不ㇾ服。三家與二黒田淺野池田藤堂細川京極有馬金森山岡諸將一。皆嫉二石田三成一。爭附二徳川氏一。仇二視他侯伯一。

家、黒田・淺野・池田・藤堂・細川・京極・有馬・金森・山岡の諸將と、皆石田三成を嫉み、爭ひて徳川氏に附き、他の侯伯を仇視す。

㈠表座敷 ㈡諸侯 ㈢憤り怨む ㈣連名 ㈤政治を執ることを止めて ㈥かたきの如くみる

三中老議曰。遺命所ㇾ謂居ㇾ閒。和解者在ㇾ於ㇾ此。二月。乃請二大老奉行一。尋二盟于伏見一。利家有ㇾ疾。加藤清正與二細川忠興淺野左京大夫一勸二

三中老、議して曰く、遺命に所謂閒に居りて和解せよとは此に在りと。二月、乃ち大老奉行に請ひ、盟を伏見に尋む。利家疾有り。加藤清正、細川忠興・淺野左京大夫と利家に勸めて、疾を輿して伏見に赴かしむ。三月、徳川公も亦大坂に往く。利家病甚だし。扶けられて起き、泣きて之に囑して曰く、吾れ將に旦夕に地に入らんとす。願はくは公、心を盡して以て嗣君を輔けよと。徳川公曰く、諾と。利家の次子利政、徳川公を刺さんと欲す。其兄利長の止むる所と爲る。三成

利家。輿疾赴伏見。三月。德川公亦往大坂。利家病甚。扶而起。泣囑之曰。吾將旦夕入地。願公盡心以輔嗣君。德川公曰。諸。利家次子利政欲刺德川公。爲其兄利長所止。三成等會議于小西行長宅曰。內府專横。蔑視嗣君。諸老所共憤也。不可不速除之。行長因建襲擊之策。前田玄以素通款德川氏。故發異議沮之。三成又欲以火器襲伏見第。延細川忠興告謀。忠興復沮止之。走告德川氏。致之徙居于向島。行長曰。諸公明文墨而暸兵機。乃爲豎子所誑。大谷吉隆聞諸奉

等、小西行長の宅に會議して曰く、內府(三)專横にして嗣君を蔑視するは、諸老の共に憤る所なり。速かに之を除かざる可からずと。行長、因りて襲擊の策を建つ。前田玄以、素より款を德川氏に通ず。故に異議を發して(四)之を沮む。三成、又火器を以て之を伏見の第に襲はんと欲す。細川忠興を延きて謀を告ぐ。忠興復た之を沮止す。走りて德川氏に告げ、之に敎へて向島に徙り居らしむ。

(一)病中をつとめて駕に乘る　(二)今にも死せんとす　(三)德川家康　(四)不服を申立てゝ之を止む

行長曰く、諸公(一)文墨に明にして兵機に暸し。乃ち豎子の誑す所と爲ると。大谷吉隆、諸奉行の謀を聞き、增田長盛に謂ひて曰く、吾れ諸公の爲す所を視るに、嗣君を利するに務めずして、專ら內府を害す。內府、苟も嗣君に(二)貳あらば、

行之謀。謂二増田長盛一曰。吾視二諸公所レ爲。不レ務レ利二嗣君一。而專害二内府一。内府苟試レ於二嗣君一。宜下俟二其罪著一而討上レ之。天下誰有二棄レ此歸レ彼者一哉。今自レ我開レ釁。彼則有レ辭。是不二獨自禍一。乃禍二嗣君一也。長盛以告二三成一。三成弗レ肯。

宜しく其罪の著るゝを俟ちて之を討つべし。天下、誰か此を棄てて彼に歸する者有らんや。今、我より釁(三)を開かば、彼れ則ち辭(四)有らん。是れ獨り自ら禍するのみならず、乃ち嗣君に禍するなりと。長盛以て三成に告ぐ。三成肯ぜず。

㊀ 詩文などに通じて軍の事は一向わからぬ　㊁ 二心あらば　㊂ 不和なる樣仕掛けなば　㊃ 言分あらん

文祿之役。三成長盛吉隆在二朝鮮一。聞二淺野黑田來一。就議二軍事一。兩人方圍レ碁。不レ顧二三成等一。三成等怒而出。兩人收レ局。問二侍者一曰。三奉行

文祿の役に、三成・長盛・吉隆、朝鮮に在り。淺野・黑田來ると聞きて、就き(一)て軍事を議す。兩人、方に碁を圍み、三成等を顧みず。三成等怒りて出づ。兩人、局(二)を收め、侍者に問ひて曰く、三奉行、何ぞ來らざると。侍者、故(三)を告ぐ。乃ち人をして呼びて之を返さしむ。三成等肯ぜず。惡言(四)を爲して去る。終に兩人を秀吉に惡す。兩人の子、深く之を啣(五)む。是に於て、加藤清正・加藤嘉明・福島正則・池田輝政・細川忠興と連署して、三成を罪狀し、之を誅せんと請ふ。德川公、許

何不レ來。侍者告レ故。乃使ニ人呼一レ返之。三成等不レ肯。爲ニ惡言一而去。終惡ニ兩人於秀吉一。兩人之子深啣レ之。於レ是與ニ加藤清正加藤嘉明福島正則池田輝政細川忠興一連署。罪ニ狀三成一。請レ誅レ之。德川公不レ許。乃如ニ大坂一。請レ於ニ利家一。利家疾篤。三成方覘レ之。七將不レ得レ達。乃各自治レ兵。欲レ擊ニ殺之一。未レ發也。閏月三日。利家疾革。奮呼曰。天下洶洶。吾不レ目ニ嗣君成立一而死。死不レ瞑矣。遂卒。衆推ニ其長子利長一代レ之。列ニ四大老之下一。

さず。乃ち大坂に如き、利家に請ふ。利家疾篤し。三成方に之を覘る。七將達するを得ず。乃ち各〻自ら兵を治めて、之を擊殺せんと欲す。未だ發せず。閏月三日、利家、疾革る(六)。奮呼して曰く、天下洶洶たり(七)。吾れ嗣君の成立を目せずして死す。死するも瞑せずと。遂に卒す。衆、其長子利長を推して之に代らしめ、四大老の下に列す。

(一)其の居處に行きて (二)相手にせず (三)圍碁を終りて (四)惡口を言ひて (五)心に怨む (六)病重る (七)不穩なり

七將曰。大納言既沒。三成必出。欲レ要ニ擊

七將曰く、大納言既に沒す。三成、必ず出でんと。之を要擊(一)せんと欲す。或ひと走りて三成に告ぐ。毛利・浮田・島津・上杉・佐竹の五家、皆三成に善し。佐竹義

之。或走告三
成。毛利浮田
島津上杉佐
竹五家。皆善レ
於三三成。佐竹
義宣自二伏見一
馳至。弔二前田
氏一。因見三三成
于二浮田氏一曰。
寧自歸レ於二内
府一。携詣二徳川
公一。徳川公納レ
之。七將聞レ之
憤惋。追至二伏
見一。或説二徳川
公一。勿レ除二三成一。
公大悟。遂諭二七將一弭レ兵。七將不レ得レ已聽レ之。又諭二三成一解二政權一。就二封澤山一。七將欲レ要二撃之一。見二
徳川氏兵護送一。乃止。上杉景勝與二三成一通レ謀。約レ俟二明歳一東西擧レ兵。以討二徳川氏一。四月。太閤
廟成。詔賜二號豐國明神一。

宣、伏見より馳せ至り、前田氏を弔す。因りて三成を浮田氏に見て曰く、寧ろ自ら内府(二)に歸せよと。携へて徳川公に詣る。徳川公之を納る。七將、之を聞きて憤惋(三)し、追ひて伏見に至る。或ひと徳川公に説く、三成を除く勿れと。(四)公、大に悟り、遂に七將に諭して兵を弭めしむ。七將、已むことを得ずして之を聽く。又三成に諭して政權を解き、封に澤山に就かしむ。七將、之を要撃(一)せんと欲す。徳川氏の兵の護送するを見て、乃ち止む。上杉景勝、三成と謀を通じ、約するに明歳を俟ちて、東西より兵を擧げて、以て徳川氏を討たんと。四月、太閤の廟成る。詔して、號を豐國明神と賜ふ。

㊀ 待受けて撃つ　㊁ 徳川家康　㊂ 憤りなげく　㊃ 一本に公の上に徳川の二字あり

自三秀頼徙二大坂一。伏見城無レ主。五月。黒田長政堀尾吉晴等。請二徳川公一入レ城。如二太閤故事一。六月。毛利浮田以下外征諸將皆謁歸。七月。前田上杉佐竹三家亦之レ國。徳川氏久不レ覲二秀頼一。頗有二物議一。淺野片桐等數促レ之。辭以レ疾。八月。乃往。遂留居二西城一。西城時爲二秀頼嫡

秀頼、大坂に徙りしより、伏見城に主無し。五月、黒田長政・堀尾吉晴等、徳川公に請ひ、城に入りて、太閤の故事の如くせんと。六月、毛利・浮田以下の外征の諸將、皆謁歸す。七月、前田・上杉・佐竹の三家も亦國に之く。徳川氏、久しく秀頼に覲せず。頗る物議有り。淺野・片桐等、數〻之を促す。辭するに疾を以てす。八月、乃ち往き、遂に留りて西城に居る。西城は時に秀頼の嫡母淺野氏の居る所爲り。是に於て、淺野氏、京師に遜る。流言有り、淺野彈正・大野治長・土方雄久、前田氏を援けて、以て徳川氏を圖ると。十月、治長を下野に、雄久を常陸に放ち、彈正を武藏の府中に竄き、令を下して北前田氏を伐つ。細川忠興爲に之を謝す。徳川氏、前田利長の母を徴して質と爲す。十一月、之を江戶に徙す。增田長盛・長束正家之を爭ひて曰く、遺令に告げずして質を交ふる勿れと。盍ぞ諸老と議せざると。肯ぜず。利長泣きて令を奉ず。是の歲、徳川公、封を細川忠興・堀尾吉晴に加ふ。各〻五萬石なり。

母淺野氏所レ居。於レ是淺野氏遜レ於二京師一。有二流言一。淺野彈正大野治長土方雄久援二前田氏一。以圖二德川氏一。十月。放下治長于二下野一。雄久于中常陸上。寘三彈正于二武藏府中一。下レ令北伐二前田氏一。細川忠興爲謝レ之。德川氏徵二前田利長母一爲レ質。十一月。徙二之江戶一。增田長盛長束正家爭レ之曰。遺令勿二不レ告而交レ質。盡下與二諸老一議。上弗レ肯。利長泣而奉レ令。是歲。德川公加二封細川忠興堀尾吉晴一。各五萬石。

㈠先例 ㈡拜謁して歸國す ㈢謁見せず ㈣兎角の評判あり ㈤遺言の命令

五年。春。德川公戒二上杉景勝西上一。答曰。我受二太閤遺旨一。鎭二守東陲一。何受二內府令一也。乃數二其背レ盟十罪一。德川公大怒。議三東伐二上杉氏一。夏。以二其義女一妻二黑田長政一。留三兵於二伏見一。而

五年春、德川公、上杉景勝に西上を戒む。答へて曰く、我れ太閤の遺旨を受け、東陲(一)を鎭守す。何ぞ內府の令を受けんやと。乃ち其の盟に背くと十罪を數む。德川公大に怒りて、東、上杉氏を伐たんと議す。夏、其義女(二)を以て黑田長政に妻はせ、兵を伏見に留めて、自ら諸軍に將として東下す。三成、兵を起して其後に乘ぜんと欲す。大谷吉隆、其邑敦賀より師に會するに會ふ。三成、人をして之を要せしめ、告ぐるに其謀を以てす。吉隆、其非計(三)を極言す。三成肯ぜず。吉隆、乃ち訣し去り、低回(四)すると之を久しくして曰く、吾れ治部と共に太閤に仕ふ。舊相好し。今、其事克たざるを知りて、之を棄つる義に非ずと。乃ち還る。三成大に

自將二諸軍一東下。三成欲三起レ兵乘二其後一。會下大谷吉隆自二其邑敦賀一會上レ師。三成使二人要一レ之。告以二其謀一。吉隆極言二其非計一。三成不レ肯。吉隆乃訣去。低回久レ之曰。吾與二治部一。共仕二太閤一。舊相好也。今知二其事不一レ克。棄レ之非レ義。乃還。三成大喜。與二長束正家一。皆赴二大坂一見二增田長盛一定レ議。秋。遂移二書遠近一曰。內府有レ罪。嗣君命討レ之。苟念二大閤恩誼一者。宜二來戮一レ力。毛利輝元以下侯伯來會者四十餘人。時東西諸侯妻子。皆在二大坂一。三成收二之城中一。使三輝元長盛守二大坂一。浮田秀家小早川秀秋島津義弘等。將二四萬人一。攻二伏見城一。小野木重勝等。將二二萬人一。攻二田邊城一。毛利秀元與二長束正家僧惠瓊一。將二三萬人一。攻二阿濃津一。京極高次等。將二二萬人一。徇二北陸一。

喜び、長束政家と、皆大坂に赴き、增田長盛を見て議を定む。秋、遂に書を遠近に移して曰く、內府、罪有り。嗣君、命じて之を討たしむ。苟も太閤の恩誼を念ふ者は、宜しく來りて力を戮すべしと。毛利輝元以下の侯伯、來り會する者四十餘人なり。時に東西諸侯の妻子、皆大坂に在り。三成之を城中に收め、輝元・長盛をして、大坂を守らしめ、浮田秀家・小早川秀秋・島津義弘等、四萬人に將として、伏見城を攻め、小野木重勝等、二萬人に將として、田邊城を攻め、毛利秀元、長束正家・僧惠瓊と、三萬人に將として、阿濃津を攻め、京極高次等、二萬人に將として、北陸を徇へしむ。

(一) 東方の邊境　(二) 養女　(三) 善からぬ計なることを言を極めて諫む　(四) ゆきつもどりつすること稍々久しくして

吉隆在敦賀。招北莊大正寺小松三城下之。前田利長與弟利政。爲德川氏攻拔大正寺。遂欲攻北莊。北莊乞援於敦賀。吉隆乃自將赴援。或曰。堀尾氏兵守府中。而在我後。不先取之。則進退皆難。吉隆曰。北莊陷。則小松孤立矣。至若府中。則不必取也。亦不可取

吉隆、敦賀に在り。北莊・大正寺・小松の三城を招きて之を下す。前田利長、弟利政と、德川氏の爲に攻めて大正寺を拔き、遂に北莊を攻めんと欲す。北莊、援を敦賀に乞ふ。吉隆乃ち自ら將として赴き援ふ。或ひと曰く、堀尾氏の兵、府中を守りて、我が後に在り。先づ之を取らずんば、則ち進退皆難からんと。吉隆曰く、北莊陷らば、則ち小松孤立せん。府中の若きに至りては(一)、則ち必ずしも取らざるなり。亦取る可からざるなり。即し取る可くんば兵を分ちて之を守らざる可からず。分てば則ち兵寡し。寡を以て衆に對す。是れ難しと爲すのみ。且つ彼れ必ず敢て我を要せじ。是れ我れ敵をして城を守らしむるなり。我れ既に北兵を卻けて、以て諸城を存せば、則ち彼れ攻めずして下らんと。即夜五更(二)、馳せて北莊に至る。利長の姊夫(三)中川宗件、京師に在り。將に北陸に赴かんとす。吉隆要して之を執へ、書を爲りて利長を紿かしめて曰く、內府、西上す。將士、多く之に叛き、大坂の兵、之を美濃に逆へ撃ちて、之を走らす。遂に舟師を發し、

也。即可レ取也。不レ可レ不二分レ兵守一レ之。分則兵寡。以レ寡對レ衆。是爲レ難耳。且彼必不二敢要一レ我矣。是我使二敵守一レ城也。我既卻二北兵一。以存二諸城一。則彼不レ攻而下矣。即夜五更。馳至二北莊一。利長姊夫中川宗件在二京師一。將レ赴二北陸一。吉隆要而執レ之。令三爲レ書紿二利長一曰。內府西上。將士多叛レ之。大坂兵逆二擊之美濃一。走レ之。遂發二舟師一。將レ取二加賀一。公宜三早爲二之備一。利長得レ書疑懼。引レ兵卻。府中果遂降二於吉隆一。會二高次等至一。合レ兵復二大正寺一。遂定二越前一。置レ守而南。

將に加賀を取らんとす。公、宜しく早く之が備を爲すべしと。利長、書を得て疑懼し、兵を引きて卻く。府中果して遂に吉隆に降る。高次等の至るに會す。兵を合せて大正寺を復し、遂に越前を定め、守を置きて南す。

㊀ 斷引に皆不便ならん　㊁ 今の午前四時　㊂ 姊の夫　㊃ 疑ひおそる

吉隆敎二三成一。招二織田秀信一。秀信以二岐阜一降。於レ是三成導二諸將一至二大垣一。秀家等拔二伏見一來會焉。德川公至二下

吉隆、三成に敎へて、織田秀信を招く。秀信、岐阜を以て降る。是に於て、三成、諸將を導きて大垣に至る。秀家等、伏見を拔きて來り會す。德川公、下野に至り、變を聞きて爲に驚かず。然れども諸將の質の大坂に在るを以て、頗る之を疑ひ、人をして其去就を問はしむ。諸將皆奮ひて、三成を擊たんと欲す。乃ち誓ひて曰く、公、苟も太閤の約を渝へず、善く嗣君を視ば、則ち僕等、力

野。聞レ變不二爲驚一。然以三諸將質在二大坂一。頗疑レ之。使三人問二其去就一。諸將皆奮。欲レ擊二三成一。乃誓曰。公苟不レ渝二太閤約一。善視二嗣君一。則僕等力戰。必梟二治部一。諸將乃先發。首攻二岐阜一下レ之。三成與二島津義弘一援レ之。不レ及。東軍陣二赤坂一。秀家欲二夜襲一レ之。三成弗レ聽。秀元拔二阿濃津一。來陣二南宮山一。秀秋來陣二松尾山一。初秀頼與二生母淀君一。居二大坂一。而嫡母淺野氏稱二北廳一。

戰して、必ず治部を梟せんと。諸將乃ち先づ發す。首に岐阜を攻めて之を下す。三成、島津義弘(三)と之を援ふ。及ばず。東軍赤坂に陣す。秀家夜、之を襲はんと欲す。三成聽かず。秀元、阿濃津を拔き、來りて南宮山に陣し、秀秋、來りて松尾山に陣す。初め秀頼、生母淀君と大坂に居り、而して嫡母淺野氏、北廳と稱して、京師に居り、庶母京極氏、松城君と稱して、大津に居る。北廳の兄を木下家定と曰ひ、家定の子を秀秋と爲す。兵起るに及び、北廳、人をして秀秋を戒めしめて曰く、内府、秀頼に不利ならば、則ち力めて之を拒げ。然らずんば則ち之に負くこと勿かれと。秀秋、遂に款(四)を江戶に送る。松城君の弟を京極高次と爲す。高次、封を大津に受け、德川氏の嗣子と、竝に淀君の妹を娶る。亦款を江戶に送る。

(一) 三成等の事あげを聞きて　(二) 背くか就くかの二つを問はしむ　(三) 三成　(四) 好意

居二京師一。庶母京極氏。稱二松城君一。居二大津一。北聽之兄曰二木下家定一。家定子爲二秀秋一。及二兵起一。北聽使三人戒二秀秋一曰。内府不レ利二秀頼一。則力拒レ之。非レ然則勿レ負レ之。秀秋遂送二款於江戸一。松城君之弟爲二京極高次一。高次受二封大津一。與二徳川氏嗣子一。並娶二淀君之妹一。亦送二款江戸一。

及二岐阜陷一。吉隆召二北陸諸將一會二大垣一。高次後發。馳歸二大津一。擧レ兵應二徳川氏一。立花宗茂筑紫廣門赴二大垣一。比レ至二石部一。聞レ之。返陣二勢多一。會二毛利秀包等來三自二大坂一。則合レ兵攻二高次一。淀君遣二二女一。使レ諭二松城君及高次夫妻一。不レ肯。宗茂等攻奪二其郭一。而城未レ下也。

岐阜陥るに及び、吉隆、北陸の諸將を召して大垣に會す。高次、後れて發し、馳せて大津に歸り、兵を擧げて徳川氏に應ず。立花宗茂・筑紫廣門大垣に赴き、石部に至る比、之を聞きて、返りて勢多に陣す。毛利秀包等、大坂より來るに會す。則ち兵を合せて高次を攻む。淀君、二女を遣して、松城君及び高次夫妻に諭さしむ。(一)肯ぜず。(二)宗茂等攻めて其郭(三)を奪ふ。而して城未だ下らざるなり。

(一) 言ひ聞かしむ　(二) 承知せず　(三) 城の外郭

徳川公分レ兵

徳川公、兵を分ちて二と爲し、自ら一軍に將として海道由りし、其嗣子秀忠を

爲レ二。自將二一軍一由二海道一。使下其嗣子秀忠將二一軍一由二中山道上。命二彈正少弼一助レ之。關西從レ風而靡。爭レ先送レ款。山道之軍。進至二小室一。招二眞田昌幸一。初昌幸赴二會津一。至二犬伏一。而大坂檄至。長子信幸曰。吾受二關東殊遇一。請東矣。西軍即敗。吾爲二父兄一乞レ命。幸村曰。太閤舊誼。不レ可レ背也。

して、一軍に將として山道よりせしめ、彈正少弼に命じて之を助けしむ。關西、(一)風に從ひて靡き、先を爭ひて款を送る。山道の軍、進みて小室に至り、眞田昌幸を招く。初め昌幸會津に赴く。犬伏に至りて、大坂の檄至る。長子信幸曰く、吾れ關東の(二)殊遇を受く。請ふ東せん。西軍卽し敗れば、吾れ(三)父兄の爲に命を乞はんと。幸村曰く、太閤の(四)舊誼、背く可からざるなり。寧ろ西して死すとも、東して生きじと。昌幸曰く、東せんと欲する者は東せよ。西せんと欲する者は西せよ。而して吾は西に與する者なりと。乃ち信幸を遣して江戸に之かしむ。而して自ら、幸村と兵三千を以て上田に歸る。東軍三萬、小室に陣す。信幸從ひて其軍に在り。書を以て其父兄を招く。肯ぜず。居ること四日にして、東軍來りて上田を攻む。城、川を帶らす。昌幸其上流を壅ぎ、兵を險阻に伏せて、出で戰ひて佯り走る。東軍爭ひ追ひ、伏に陷りて亂る。乃ち其(五)壅を決す。水大に至り、東軍繼ぐ能はず。幸村、(六)突騎を以て之を蹙め、遂に大に其軍を敗りて、進むこと

寧西而死。不㆓東而生㆒。昌幸曰。欲㆑東者東。欲㆑西者西。而吾與㆑西者也。乃遣㆓信幸㆒之㆓江戸㆒。而自與㆓幸村㆒。以㆓兵三千㆒歸㆓上田㆒。東軍三萬陣㆑于㆓小室㆒。信幸從在㆓其軍㆒。以㆑書招㆓其父兄㆒。不㆑肯。居四日。東軍來攻㆓上田㆒。城帶㆑川。昌幸邀㆓其上流㆒。伏㆓兵險阻㆒。出戰佯走。東軍爭追。陷㆑伏而亂。乃決㆓其遯㆒。水大至。東軍不㆑能㆑繼。幸村以㆓突騎㆒蹙㆑之。遂大敗㆓其軍㆒。使㆑不㆑得㆑進者三日。其海道軍俟㆑之。亦遲回數日。以㆓其久不㆒㆑至。乃獨進陣㆑于㆓赤坂㆒。秀家與㆓三成㆒計。亦設㆑伏而挑㆑戰。敗㆓其前軍㆒而退。

を得ざらしむること三日なり。其海道の軍も、之を俟ちて、亦遲回すること數日なり。其久しく至らざるを以て、乃ち獨り進みて赤坂に陣す。秀家、三成と計り、亦伏を設けて戰を挑み、其前軍を敗りて退く。

㊀盛なる威風を見てしたがひなびき　㊁特別の待遇　㊂父兄は父弟の誤りならん。父及び弟の命謂なせん　㊃舊恩　㊄遮り止めたる水を切りはちふ　㊅突撃の騎兵　㊆愚圖々々しておくる

於㆑是諸將大議㆑決㆑戰。秀家吉隆欲㆘固守㆓大垣㆒。以俟㆗田邊大津兵㆖。島津義弘欲㆓夜

是に於て、諸將、大に戰を決せんと議す。秀家、吉隆、固く大垣を守りて、以て田邊・大津の兵を俟たんと欲す。島津義弘、夜、赤坂を襲はんと欲す。三成、其衆を恃みて、皆聽かず。關原に出で戰はんと欲し、夜、南宮に赴き、秀元、東軍を夾擊せんと請ふ。秀元素より款を東軍に通ず。佯りて之を諾す。三成、遂に松

襲二赤坂一。三成恃二其衆一。皆不レ聽。欲下出戰于二關原上。夜赴二南宮一。請三秀元夾二擊東軍一。秀元素通二款東軍一。佯諾レ之。三成遂赴二松尾一。獎二厲秀秋一。秀秋已與二東軍一約レ爲二內應一。亦佯諾レ之。吉隆疑二秀秋有一レ異。以二其兵一陣二松尾山下一。吉隆有二惡疾一以レ綃蔽レ面。輕服坐レ轎。戒二其左右一曰。及レ敗。速斬二我頭一。且日。兩軍大戰二關原一。自レ辰至レ未。東軍數卻。而秀元秀秋皆觀望不レ戰。東兵

尾に赴き、秀秋を獎厲す。秀秋、已に東軍と內應(三)を爲さんと約す。亦佯りて之を諾す。吉隆、秀秋の異あるを疑ひ、其兵を以て松尾山の下に陣す。吉隆惡疾(四)有り。綃(五)を以て面を蔽ひ、輕服にて轎に坐して、其左右に戒めて曰く、敗に及ばば、速かに我が頭を斬れと。且日、兩軍大に關原に戰ふ。辰(六)より未に至る。東軍數〻卻く。而して秀元•秀秋、皆觀望して戰はず。東兵窪島某、馳せて德川公に白して曰く、秀秋、約に背くに似たり。請ふ、更に計を爲せと。德川公驚きて曰く、我れ小兒の賣る所と爲るを悔ゆと。窪島をして松尾山に向ひて礮を發して之を促さしむ。黑田長政も亦人をして秀秋を責せしむ。秀秋、乃ち兵八千、銃手六百を以て山を下りて、吉隆を擊つ。

(一) 多勢を力にして (二) はさみうち (三) 內々味方せんと約束す (四) 癩病 (五) きぎぬ (六) 今の午前八時頃より午後の二時前後に及ぶ

窪島某馳白二徳川公一曰。秀秋似レ背レ約。請更爲レ計。徳川公驚曰。我悔レ爲二小兒所一レ賣。使下窪島向二松尾山一發レ礮促上レ之。黒田長政亦使三人責二秀秋一。秀秋乃以二兵八千銃手六百一下レ山。撃二吉隆一。

吉隆怒。呼曰。豎子背レ恩忘レ義。不レ可レ舍也。以二六百人一直衝二其麾下一。戸田重政平塚爲廣助二吉隆一。大破二秀秋一。斬二東軍監使奥平貞治一。而脇坂朽木小川赤座等皆應二秀秋一。與二東將藤堂高虎織田長孝等一。三而逼レ之。重政爲廣皆戰死。

吉隆怒り、呼びて曰く、豎子恩に背き義を忘る。舍す可からざるなりと。六百人を以て直に其麾下(一)を衝く。戸田重政・平塚爲廣、吉隆を助けて、大に秀秋を破り、東軍の監使奥平貞治を斬る。而して脇坂・朽木・小川・赤座等、皆秀秋に應じ、東將藤堂高虎・織田長孝等と、三面より之に逼る。重政・爲廣皆戰死す。吉隆の隊將、湯淺五介退きて之を吉隆に告ぐ。吉隆曰く、吾れ以て死す可し。敵をして吾が元(二)を傳へしむる勿れと。遂に自殺す。五介、之を剄(三)し、侍臣某をして、之を泥中に藏めしめて、騈びて高虎の陣を目して死す。吉隆の二子、吉胤・吉之・婿頼繼、皆力戰し、返りて空轎(四)を見、相泣きて死せんと欲す。從者之を諫む。乃ち走りて、敦賀を守らんと欲す。肯て納るゝ(五)者無し。遂に大坂に走る。頼繼、尋ぎて病死す。東軍秀秋の内應を以て、勢に乘じて碎しく進む。西軍遂に大に敗る。

(一) 大將の陣をつき攻む　(二) 首級を敵手に渡すことなかれ　(三) 首をはね　(四) 空駕籠　(五) 受納くるものなし

吉隆隊將湯淺五介退告二之吉隆一。吉隆曰。吾可二以死一矣。勿レ使三敵傳二吾元一。遂自殺。五介刎レ之。使三侍臣某藏二之泥中一。而訃冒二高虎陣一死。吉隆二子。吉胤吉之姪賴繼。皆力戰。返見二空轎一。相泣欲レ死。從者諫レ之。乃走欲レ守二敦賀一。無二肯納者一。遂走二大坂一。賴繼尋病死。東軍以二秀秋內應一乘レ勢齊進。西軍遂大敗。

秀家怒。欲下與二秀秋一決鬭上。明石守重諫曰。君爲二元帥一。何自爲二匹夫行一也。秀家曰。吾不三翅惡二秀秋一也。輝元不二親出一。秀元亦持二兩端一。事可レ知矣。吾有三一死報二太閤一而已。守重曰。縱諸將皆叛。君宜下獨據二其國一以輔中嗣君上。徒死

秀家怒り、秀秋と決鬭せんと欲す。明石守重諫めて曰く、君は元帥なり。何ぞ自ら匹夫(一)の行を爲すやと。秀家曰く、吾れ翅に秀秋を惡むのみならざるなり。輝元親ら出でず。秀元も亦兩端(二)を持す。事知る可きなり。吾れ一死もて太閤に報ゆる有らんのみと。守重曰く、縱ひ諸將皆叛くも、君は宜しく獨り其國に據りて以て嗣君を輔くべし。徒死(三)何をか爲さんと。秀家乃ち走る。其將長河內某、之に死す。秀秋、義弘に薄る。義弘撃ちて之を走らす。曰く、吾れ敗ると雖も、背て卻き走らずと。殘兵五百を以て、東軍に薄りて南す。東軍爲に(四)動く。東將井伊直政等、追躡す。又撃ちて之を走らす。敵衆尾して止まず。阿多盛淳、義弘に代りて死す。義弘、間を得て鱈尾嶺を踰えて去る。

㈠賤しき男の行ひをするか　㈡貳心を懷く　㈢むだ死に　㈣義弘の爲に攻めたてらる

何爲。秀家乃走。其將長河內某死レ之。秀秋薄二義弘一。義弘擊走レ之。曰。吾雖レ敗不三肯卻走一。以二殘兵五百一薄二東軍一而南。東軍爲動。東將井伊直政等追躡。又擊走レ之。敵衆尾不レ止。阿多盛淳代二義弘一死。義弘得レ間踰二鈴尾嶺一而去。

三成走匿二伊吹山一。散二從者一曰。吾欲下自二大坂一航赴二薩摩一以計中再擧上也。汝等宜二伏匿一以待レ時。三成遂採拾充レ飢。行四日患レ泄。至二石橋村一。就二所レ知農夫某一。某舍二匿之一。或者戒レ某曰。聞子匿二治部一。今田中吉政在二井口一。索レ之甚急。事露。子必

三成、走りて伊吹山に匿れ、從者を散じて曰く、吾れ大坂より航して薩摩に赴きて以て再擧(一)を計らんと欲す。汝等、宜しく伏匿(二)して以て時を待つべしと。三成遂に採拾(三)して飢に充て、行くこと四日、泄(四)を患へ、石橋村に至り、知る所の農夫某に就く。某、之を舍匿(五)す。或者、某を戒めて曰く、聞く、子、治部を匿すと。今、田中吉政、井口に在りて、之を索むる甚だ急なり。事露れば、子必ず禍に逮ばんと。農夫曰く、之れ無しと。三成障を隔てて之を聞き、農夫に謂ひて曰く、吾れ終に脫る可からず。汝盍ぞ出でて告げざると。農夫之をして遁れ去らしむ。三成曰く、吾れ病めり。寸步(六)する能はず。恐らくは汝を累さん。汝第速に自首せよと。農夫乃ち井口に之きて、吉政に告ぐ。吉政、卒を遣して之を捕ふ。

(一) 再び戰を起さんと欲す (二) かくれて時節を待て (三) 食物を拾ひとり食ひて饑を凌ぎ (四) 下痢 (五) 家にかくまふ (六) 一寸も步行することを得ず

逮ㇾ禍矣。農夫曰。無ㇾ之。三成隔ㇾ障聞ㇾ之。謂二農夫一曰。吾終不ㇾ可ㇾ脫。汝盍ㇾ出告。農夫使二之遁走一。三成曰。吾病矣。不ㇾ能二寸步一。恐累ㇾ汝。汝第速自首。農夫乃之二井口一。告二吉政一。吉政遣ㇾ卒捕ㇾ之。

初三成之握ㇾ權也。吉政事ㇾ之甚恭。三成既被ㇾ捕。呼二吉政一如ㇾ故。曰。吾欲ㇾ報二先君知遇一。與二上杉毛利等一俱擧ㇾ事。一敗至ㇾ此。命也。願得二速自裁一。吉政請二之德川氏一。乃命ㇾ醫治二其疾一。其父晴成。兄重成。子重家。姪朝成。皆在二澤山一。自殺。長束

初め三成の權を握るや、吉政之に事ふること甚だ恭し。三成既に捕へられ、吉政を呼ぶに故の如し。曰く、吾れ(一)先君の知遇に報いんと欲し、上杉・毛利等と俱に事を擧げ、一敗して此に至る。命なり。願はくは速かに(二)自裁するを得んと。吉政、之を德川氏に請ふ。乃ち醫に命じて其疾を治せしむ。其父晴成・兄重成・子重家、姪朝成、皆澤山に在り。自殺す。長束正家、走りて水口を保つ。東兵來り逼りて、之を誘出し、迫りて自殺せしむ。僧惠瓊も亦捕へらる。皆(三)東營に囚ふ。諸將師、爭ひて三成を(四)折辱す。獨り淺野左京大夫之を視て(五)憫然たり。其短襖を脫ぎ、之に衣せて曰く、子は我が仇なりと雖も、同じく豐臣氏の臣爲り。吾れ其(六)困に乘じて加ふるに無禮を以てするに忍びずと。德川氏之を聞きて、心に大夫を(七)敬憚す。

正家走保二水口一。東兵來逼。誘二出之一。迫使二自殺一。偕惠瓊亦被レ捕。皆囚レ于二東營一。諸將帥爭折二辱三成一。獨淺野左京大夫視レ之憫然。脫二其短襖一衣レ之曰。子雖二我仇一也。同爲二豐臣氏臣一。吾不レ忍下乘二其困一加中以無禮上。德川氏聞レ之。心敬二憚大夫一。

(一) 太閤のよく己を知りくれて厚く待遇せられたる恩に報ぜんと欲し　(二) 自殺　(三) 關東方の陣營に囚ふ　(四) くじき辱かしむ　(五) 不憫と思ひ其上衣を脫ぎて衣せて　(六) 困厄につけこんで無禮をしかくるにたへず　(七) 敬ひ憚る

義弘之南走。經二伊賀大和一。行破二土兵一。而至二大坂一。欲下與二輝元長盛一俱城守上。二人不レ答。乃取二其質一。航歸二薩摩一。

義弘の南走するや、伊賀・大和を經、行く〻土兵を破りて大坂に至り、輝元・長盛と俱に城守せんと欲す。二人答へず。乃ち其質を取り、航して薩摩に歸る。

(一) 其土地の兵

先レ是。田邊大津皆下。立花宗茂引レ兵。東至二草津一。聞レ敗。還入二京師一。使三

是より先、田邊・大津皆下る。立花宗茂兵を引きて、東、草津に至り、敗を聞きて、還りて京師に入り、人をして木下家定に謂はしめて曰く、貴息の事言ふ可からざるなり。子、猶ほ嗣君を右けば、則ち請ふ、共に大坂を守らんと。家定曰

人謂二木下家定一曰。貴息之事不レ可レ言也。子猶右二嗣君一。則請共守二大坂。家定曰。子先往。乃閉レ門自守。宗茂遂至二大坂一。使レ謂二輝元一曰。公苟城守。願扞二一而。輝元曰。議而後答。宗茂罵曰。今日復何議。乃欲レ歸二其國一。將士曰。公所三以酬二豊臣氏一足矣。因勸レ降二徳川氏一。乃從レ降焉。亦航歸二柳川一。

く。子先づ往けと。乃ち門を閉ぢて自ら守る。宗茂、遂に大坂に至り、輝元に謂はしめて曰く、公、苟も城守せば、願はくは(二)一面を扞がんと。輝元曰く、議して後答へんと。宗茂罵りて曰く、今日復た何をか議せんと。乃ち其國に歸らんと欲す。將士曰く、公の豊臣氏に酬ゆる所以は足れりと。因りて徳川氏に降るを勸む。乃ち降を送り、亦航して柳川に歸る。

(一) 貴殿の御子息　(二) 一方を引受けて扞がん

秀家經二近江一。爲二土兵所一レ困。獨從二二人一。竄二土窟中一。聞二捕者至一。欲二自殺一。從者止レ之。請二

秀家、近江を經、土兵の困しむる所と爲り、獨り二人を從へて、(一)土窟中に竄る。捕者至ると聞きて、自殺せんと欲す。從者之を止め、其寶刀を請ひ、出でて東軍に告ぐるに、秀家既に死するを以てし、刀を獻じて證と爲す。秀家、大坂に至り、其國已に(二)覆沒すと聞きて、竟に薩摩に走る。其妻前田氏は、利長の妹なり。

其寳刀。出告ニ東軍。以ニ秀家既死。獻レ刀爲レ證。秀家至ニ大坂。聞ニ其國已覆沒。竟走ニ薩摩。其妻前田氏利長妹也。大ニ歸加賀。後數年。利長問得ニ其實。告ニ之江戸。乃責ニ前告者。告者請レ死。釋レ之。島津忠恆請レ宥ニ秀家死。流ニ八丈島。前田利政據ニ能登。九鬼嘉隆據ニ志摩。竝抗ニ東軍。利政除レ籍。嘉隆自殺。

加賀に大歸す。(三) 後數年、利長、問ひて其實を得、之を江戸に告ぐ。乃ち前に告ぐる者を責む。告ぐる者死を請ふ。之を釋す。島津忠恆、秀家の死を宥さんと請ふ。八丈島に流す。前田利政は能登に據り、九鬼嘉隆は志摩に據り、竝に東軍に抗す。利政は籍を除かれ、嘉隆は自殺す。

(一) 土穴の中にかくる (二) 覆り亡ぶ (三) 離縁になりて實家に歸る

是役也。小西行長首應ニ三成。三成以ニ其更レ事倚ニ頼之。行長爲レ人自殖而薄レ士。士不レ樂レ爲ニ之用。也。及レ敗。陣亂

是の役や、小西行長、首として三成に應ず。三成、其の事に更る(一)を以て、之に倚頼す。行長、人と爲り、自殖(二)して士に薄くす。士、之が用を爲すを樂しまず。敗に及びて、陣亂れて禁ず可からず。乃ち走りて糟川に至る。僧林藏主といふ者に逢ふ。曰く、吾は攝津守なり。吾れ汝に德(三)せんと。僧曰く、公、盍ぞ自刃せざると。行長曰く、吾れ耶蘇教を奉ず。自刃す可からずと。僧乃ち執へて之を告ぐ。

不レ可レ禁。乃走至二糟川一。逢二僧林藏主者一。曰。吾攝津守也。吾德レ汝矣。僧曰。公盍二自刃一。行長曰。吾奉二耶蘇敎一。不レ可二自刃一。僧乃執而告レ之。是歲冬。與二三成惠瓊一皆斬二于京師一。

是の歲冬、三成、惠瓊と皆京師に斬らる。

(一) 軍事に經驗あるを以て (二) 自家の家殖をはかりて、士の給與を薄くす (三) 利益せしめん

加藤清正初知二三成必擧レ事。止二德川氏東行一。不レ聽。乃歸二其國一。逢二大坂檄至一。曰。是佞豎託二幼主一以濟二其私一也。乃發レ兵攻二小西氏城邑一。盡幷レ之。會三黑田孝高攻二略近國一。因合レ兵降二筑紫廣門等一。

加藤清正、初め三成の必ず事を擧ぐるを知り、(一)德川氏の東行を止む。聽かず。乃ち其國に歸る。大坂の檄(二)至るに逢ふ。曰く、是れ佞豎(三)、幼主に託して以て其私を濟すなりと。乃ち兵を發し、小西氏の城邑を攻めて、盡く之を幷す。黑田孝高、近國を攻略(四)するに會す。因りて兵を合せて、筑紫廣門等を降し、遂に薩摩に臨む。島津義久已に德川氏に降る。森勝信、其弟勝永は、小倉を出で、走りて土佐に匿る。上杉景勝は、伊達政宗・最上義光と戰ひて之に勝つ。佐竹義宣は、觀望(五)して出でず。上國の敗を聞くに及び、皆德川氏に降る。

(一) きつと戰爭を起すことを知り (二) 檄文 (三) 佞便なる者幼主秀頼を輔くるを口實として私家の利殖をはかる (四) 攻取る (五) 兩端を持して出でず

遂臨二薩隅一。島津義久已降二徳川氏一。森勝信其弟勝永。出二小倉一走匿二土佐一。上杉景勝與二伊達政宗最上義光一戰而勝レ之。佐竹義宣。觀望不レ出。及レ聞二上國敗一。皆降二徳川氏一。

先レ是徳川氏既捷。將レ入二京師一。諸將先進至二大津一。福島正則議曰。吾輩知三三成擧レ事非二郎君意一。故右二内府一討レ之。今三成既敗矣。内府或遂謀レ不三利於二郎君一。則吾以レ死拒レ之。淺野加藤等皆然レ之。乃入二京師一。徳川公至二大津一。置三關于二日岡一。以二其臣伊

是より先、徳川氏既に捷ち、將に京師に入らんとす。諸將先づ進み、大津に至る。福島正則議して曰く、吾が輩、三成の事を擧ぐるは郎君(一)の意に非ざるを知る。故に内府を右けて之を討つ。今、三成既に敗れたり。内府、或は遂に郎君に不利を謀らば、則ち吾れ死を以て之を拒がんと。淺野・加藤等皆之を然りとす。乃ち京師に入る。徳川公大津に至り、關を日岡に置き、其臣伊奈圖書を以て之を守らしむ。正則、使を大津に使し、關吏(二)の辱しむる所と爲る。使者、復命(三)して自殺す。正則怒り、其首を以て非伊直政に贈る。直政驚き、關卒(四)數人を斬りて之を謝す。正則愈〻怒りて曰く、百卒は一士に直らず。必ず圖書の頭を得ん。如し許されずんば、吾れ將に我が爲さんと欲する所を爲さんとすと。圖書、之を聞きて自殺す。

(一) 若君即ち秀頼　(二) 關所の役人に恥辱を與へらる　(三) 命令を受けて其結果を報告して　(四) 關所の兵卒

奈圖書一守レ之。正則使二使大津一。爲二關吏所一レ辱。使者復命而自殺。正則怒。以二其首一贈二井伊直政一。直政驚。斬二關卒數人一謝レ之。正則愈怒曰。百卒不レ直二一士一。必得二圖書頭一。如不レ見レ許。吾將レ爲二我所一レ欲レ爲也。圖書聞レ之自殺。

既而德川公入二大坂一。不レ問二秀頼一。遂大行二慶讓一。削二毛利輝元之六國一。放二增田長盛于高野一。眞田昌幸與二子幸村一。亦遁二高野一。以二秀秋功最大一。封二浮田氏故地一。尋病レ狂死。國除。其父家定削レ邑。兄勝俊利房皆奪レ封。兄延俊獨邑二于豐後一。當二是時一。德川公威權益熾。七道將士。皆會二江戸一。留二其孥一爲レ質。而秀頼獨食二攝津河內和泉六十餘萬石一。

既にして德川公、大坂に入り、秀頼を問はず。遂に大に慶讓(一)を行ひ、毛利輝元の六國を削り、增田長盛を高野に放つ。(二)眞田昌幸、子幸村と、亦高野に遁る。秀秋の功最も大なるを以て、浮田氏の故地に封ず。尋ぎて(三)狂を病みて死す。國除かれ、其父家定、邑を削らる。兄勝俊・利房、皆封を奪はる。兄延俊獨り豐後に邑す。是の時に當りて、德川公威權益〻熾なり。七道の將士、皆江戸に會し、(四)其孥を留めて質と爲す。而して秀頼獨り攝津・河內・和泉の六十餘萬石を食む。

(一) 賞賜と責讓とを行ひ　(二) 放逐す　(三) 氣が狂ひて死す　(四) 妻子を江戸に留めて人質となす

初片桐且元小出秀正憂二諸奉行擧一レ事。而不レ能レ制也。東西之軍未レ接。二人亟發二使者一赴二關東一。分二疏其意一。諸奉行要レ之。使レ攻二阿濃津一。使者亦恐レ嫌二怯避一。終從レ之。德川公怒。秀正退居二岸和田一。尋病卒。且元獨傅。盡レ心輔導。未三嘗離二左右一。

初め片桐且元・小出秀正、諸奉行の事を擧ぐるを憂ふ。(一)而して制する能はざるなり。(二)東西の軍未だ接せず。二人、亟かに使者を發して關東に赴かしめ、其意を分疏せしむ。(三)諸奉行之を要して、阿濃津を攻めしむ。使者も亦怯避の嫌あるを恐れて、(四)終に之に從ふ。德川公怒る。秀正退きて岸和田に居る。尋ぎて病みて卒す。且元、獨り傅たり。(五)心を盡して輔導し、(六)未だ嘗て左右を離れず。

(一)戰爭を起すを心配す (二)抑へ止むること能はず (三)申譯をなす (四)臆病にて引退きたりと疑はるゝを恐る (五)もりやく (六)熱心に輔け導く

八年。三月。德川公爲二大將軍一。四月。秀頼陞二內大臣一。敍二從一位一。七月。將軍以二其孫

八年三月、德川公、大將軍と爲る。四月、秀頼、內大臣に陞り、從一位に敍せらる。七月、將軍、其孫女を以て秀頼に妻はす。且元に命じて之を迎へしめ、大坂をして且元に封萬石を加へしむ。且元、嗣君幼きを以て辭して、受けず。尋

女ニ妻ニ秀頼ニ。命ニ且元ニ迎レ之。令ニ大坂加ニ且元封萬石ニ。且元以ニ嗣君幼ニ辭。不レ受。尋如ニ江戸ニ。將軍面ニ諭勿レ辭レ封。

ぎて江戸に如く。將軍、封を辭する勿れと面諭(二)す。

(一)孫むすめ　(二)面會してときさとす

十年。四月。秀頼遷ニ右大臣ニ。將軍讓ニ職其嗣子秀忠ニ。五月。前將軍在ニ京師ニ。諷ニ北廳ニ使ニ秀頼來見ニ。淀君母子相依。不レ欲ニ分離ニ。又恐ニ其有レ變。固辭不レ遣。十三年。二月。秀頼患レ痘。福島正則自ニ安藝ニ

十年四月、秀頼右大臣に遷る。將軍、職を其嗣子秀忠に讓る。五月、前將軍京師に在り。北廳(一)に諷して、秀頼をして來見せしむ。淀君母子(二)相依り、分離を欲せず。又其の變有らんを恐れ、固辭(三)して遣らず。十三年二月、秀頼、痘(四)を患ふ。福島正則、安藝より馳せ至り、日夜看護(五)す。是より先、正則、結城秀康に謂ひて曰く、公は太閤の養子にして、大坂の郎君に於て兄弟爲り。將軍百歳(六)の後、公、善く郎君を過せよ。老奴も亦當に力を竭して周旋(七)すべしと。秀康、其の異志(八)あるを疑ひて、之と絶つ。

(一)遠廻にいひて　(二)母子互に依賴して離るゝことを欲せず　(三)固く辭退す　(四)天然痘に罹る　(五)看病す　(六)死後　(七)世話すべし　(八)謀叛の心

馳至。日夜看護。先是。正則謂結城秀康曰。公太閤養子。於大坂郎君爲兄弟。將軍百歲後。公善遇郎君。老奴亦當竭力周旋。秀康疑其有異志。絕之。

初秀吉造金馬數十。一馬當鈑金千枚。藏之大坂城中。以備軍須。十五年。秀賴以東旨。再興方廣寺。以繼先志。以且元監役。所費鉅萬。多鎔金馬充費。

初め秀吉、金馬數十を造る。一馬は鈑金(一)千枚に當る。之を大坂の城中に藏して、以て軍須(二)に備ふ。十五年、秀賴、東旨を以て再び方廣寺を興し、以て先志(三)を繼ぐ。且元を以て役を監せしむ(四)。費す所鉅萬(五)なり。多く金馬を鎔して費に充つ。

(一) 大判金　(二) 軍用金　(三) 先君秀吉の志　(四) 土木を監督せしむ　(五) 莫大の數

是時。關東工役數起。福島加藤淺野池田諸家每助其役。淸正赴江戶。多率士卒。又必過省秀賴。因置邸

是の時、關東の工役(一)數々起る。福島・加藤・淺野・池田の諸家、每に其役(二)を助く。淸正、江戶に赴くに、多く士卒を率ゐる、又必ず過りて(三)秀賴を省る。因りて邸を大坂に置くこと故の如し。凡そ邦俗(四)、男子は必ず其鬚髯を剃る。而して淸正は長髯(五)自ら喜ぶ。前將軍、一親將をして其私を以て之に謂はしめて曰く、予を以て公を觀るに、去る可き者三有り。長髯は一なり。大坂の邸は二なり。東行に兵を從

於二大大一如レ故。凡邦俗男子必剃二其鬢髯一。而清正長髯自喜。前將軍使下一親將以二其私一謂上之曰。以レ予觀レ於レ公。有二可レ去者三一。長髯一也。大坂邸二也。東行從レ兵三也。清正曰。吾戎服著二銅面一。有レ髯以爲二之藉一。則肅然無レ有二搖撼之患一。撤二大坂邸一。是棄二太閤舊誼一。不三以レ兵自從二緩急不レ及レ事。皆不レ可レ去也。

ふるは三なりと。清正曰く、吾れ戎服(六)のとき銅面を著く。髯ありて以て之が藉(七)と爲せば、則ち肅然として搖撼(八)の患有る無し。大坂の邸を撤するは、是れ太閤の舊誼(九)を棄つるなり。兵を以て自ら從へざれば、緩急(一〇)事に及ばず。皆去る可からざるなりと。

㈠ 工事度々起る ㈡ 土木の費用を助く ㈢ 態々立寄りて秀頼の御機嫌を伺ふ ㈣ 本邦の習慣 ㈤ 一本に長鬚とあり ㈥ 軍服の時、銅の假面をつく ㈦ 下敷 ㈧ うごく心配なし ㈨ 舊恩 ㈩ 急の間に合はぬ

十六年。三月。前將軍在二京師一。使三織田長益來諭召二見秀頼一。淀君不レ肯。北廳使二清

十六年三月、前將軍、京師に在り。織田長益をして、來諭して秀頼を召見せしむ。淀君肯ぜず。北廳清正及び淺野左京大夫をして之を促さしむ。二將、因りて啓(一一)して曰く、臣が輩、死を以て郎君を守らん。必ず慮無けんと。且元も亦京師より馳せ還り、之を苦諫(一二)す。淀君乃ち秀頼を遣す。二十八日、淀を溯りて

正及淺野左京大夫促レ之。二將因啓曰。臣輩以レ死守二郎君一。必無レ慮矣。且元亦自二京師一馳還。苦二諫之一。淀君乃遣二秀頼一。二十八日。溯レ淀入二京師一。二將以二弓銃一夾レ岸而北。福島正則稱レ疾守二大坂一。前將軍使三其二子義直頼宣迎二之東寺一。二將以下二十一人。徒歩護レ輿入二二條城一。

京師に入る。二將弓銃を以て岸を夾みて北す。福島正則、疾と稱して大坂を守る。前將軍、其二子義直・頼宣をして之を東寺に迎へしむ。二將以下二十一人、(三)徒歩して輿を護し、二條城に入る。

(一)申上ぐ　(二)いたく諫む　(三)かちにて輿を護衞し

前將軍出迎二之門一。相三見于二正殿一。前將軍南鄕坐。關東將士。及諸侯伯。擁二衞左右一。秀頼北鄕坐。二將在二其後一。秀頼贈二前將軍一。以二名刀二

前將軍、出でて之を門に迎へ、(一)正殿に相見る。前將軍、(二)南鄕して坐し、關東の將士及び諸侯伯、(三)左右を擁衞す。秀頼、(四)北鄕して坐し、二將、其後に在り。秀頼、前將軍に贈るに、名刀二口、駿馬一匹、黃金三百枚及び錦緞若干を以てす。其公族、將領に皆遺る所有り。前將軍、答ふるに二刀三鷹十馬を以てす。饗畢る。清正曰く、淀君歸を遲つ。請ふ、辭せんと。前將軍、其女婿池田輝政をして、酒を二將に賜らしむ。既にして罷む。秀頼を扶けて出で、北廳に謁し、豐國廟

口駿馬一匹黃金三百枚及錦緞若干。其公族將領皆有レ所レ遺。前將軍答以二刀三鷹十馬一。

を拜し、方廣寺の役を視、伏見より舟に上る。清正、酒を獻じて賀す。其邸に歸り、短刀を懷より出し、泣きて曰く、吾れ今日聊か太閤の恩に報ずと。四月、義直・頼宣大坂に來る。秀頼の北上に報ゆるなり。秀頼、迎へて之を饗す。

(一)表座敷 (二)南向に坐し (三)御側を圍みてまもる (四)北向に坐し (五)豐臣秀吉のたまや

饗畢。清正曰。淀君遲レ歸。請辭矣。前將軍使三其女婿池田輝政賜二酒於二將一。既罷。扶二秀頼一出。謁二北廳一。拜二豐國廟一。視二方廣寺役一。自二伏見一上レ舟。清正獻レ酒賀焉。歸二其邸一。出二短刀于レ懷。泣曰。吾今日聊報二太閤之恩一矣。四月。義直頼宣來二大坂一。報二秀頼北上一也。秀頼迎而饗レ之。

六月。清正病卒。清正嘗謂レ人曰。前田利家晚志二儒學一。招二吾及浮田秀家淺野幸長一。語次擧二論語託孤寄命

六月、清正病みて卒す。清正、嘗て人に謂ひて曰く、前田利家晚に儒學に志し、吾れ及び浮田秀家・淺野幸長を招く。語次、論語の託孤寄命の章を擧ぐ。吾れ爾時、其何の謂なるを知らず。乃ち讀みて之を思ひ、略ゝ曉る所有り。今の世に當りて、此語を念はざる者は、恐らくは不義に陷らんと。清正既に卒す。淺野父子、相繼ぎて病みて卒す。

之章。吾爾時不レ知二其何謂一。乃者讀而思レ之。略有レ所レ曉。當二今之世一。不レ念二此語一者。恐昭二不義一也。淸正既卒。淺野父子相繼病卒。

㈠晩年儒者の學問を學び　㈡話のついで　㈢論語「曾子曰、可ㇾ以託二六尺孤一、可ㇾ以寄二百里之命一、臨二大節一而不ㇾ可ㇾ奪也、君子人與、君子人也」とあり

十八年。秀頼以二東旨一。加二片桐且元大野治長祿各五千石一。且元與二木村重成薄田兼相及七隊長一。以二遺命一保二護秀頼一。服二事關東一甚謹。而治長者。淀君乳母子也。織田長益者。淀君季父也。皆見二親信一。寖與二且元一相軋。

十八年、秀頼、東旨(一)を以て、片桐且元・大野治長に、祿、各〻五千石を加ふ。且元、木村重成・薄田兼相及び七隊長と、遺命を以て秀頼を保護し、關東に服事(二)すること甚だ謹む。而して治長は、淀君の乳母の子なり。織田長益は、淀君の季父(三)なり。皆親信せられ、寖〻且元と相軋る(四)。

㈠關東の思召し　㈡從ひ仕ふ　㈢末の叔父　㈣不和となる

十九年。正月。彗星見二東方一。二月。大坂天

十九年正月、彗星(一)、東方に見ゆ。二月、大坂の天守閣に烟起り。衆趨り救へば則ち熄し。韓人李文長をして之を筮(二)せしむ。艮の益に之くに遇ふ。曰く、兵を韜

主闇烟起。衆趨救則無矣。使ニ韓人李文長筮ヒ之。遇ニ艮之ヒ益。曰。尋レ兵失レ疆。喪ニ其貞良一。敗ニ我殺卿一。再筮。遇ニ臨之ヒ坎。曰。人面鬼口。長舌如レ斧。斲ニ破瑚璉一。殷商絶レ後。秀頼大懼。命レ巫禳レ之。

ひて疆を失ひ、其貞良を喪ひ、我が殺卿を敗ると。(三)再筮するに、臨の坎に之くに遇ふ。曰く、人面鬼口、長口斧の如く、瑚璉を斲破し、殷商後を絶つと。秀頼、大に懼れ、(四)巫に命じて之を禳はしむ。

(一) はうき星 (二) 占はしむ (三) 再び占ふ (四) みこどもに命じて祈禱せしむ

四月。方廣寺成。乃鑄ニ洪鐘一。命ニ東福寺僧清韓一銘レ之。五月。遣ニ片桐且元一赴ニ駿河一。告レ成。請レ慶。前將軍曰。右府爲ニ願主一。宜ニ親往慶ヒ之。因命ニ其親臣本多正

四月、方廣寺成る。乃ち洪鐘(一)を鑄る。東福寺の僧清韓に命じて之に銘せしむ。(二)五月、片桐且元を遣して駿河に赴き、(三)成を告げて慶を請はしむ。前將軍曰く、(四)右府願主爲り。宜しく親ら往きて之を慶すべしと。因りて其親臣、本多正純に命じ、女を以て且元の婦と爲し、慰勞して遣歸す。且元、大に喜びて復命す。八月三日をトして、公卿以下皆會す。(五)四方の民を縱して儀を觀しむ。

(一) 巨大なるつりがね (二) 鐘銘を作らしむ (三) 成就を報告して落成式に臨まれんことを請ふ (四) 秀頼祈願主なり、宜しく自身往きて御慶を申上げねばならぬ (五) 天下の人民をして儀式を縦覽せしむ

純一。以レ女爲ニ且元婦一。慰勞遣歸。且元大喜復命。卜ニ八月三日一。公卿以下皆會。縱ニ四方民一觀レ儀。將レ發レ行。會前將軍覽ニ鐘銘稿一大怒。曰。銘有ニ國家安康之句一。是截ニ我名一也。序有下大小釋迦迭爲ニ主伴一之語上。是欲レ代レ我也。秀賴何意。乃敢詛レ我。德川氏京尹板倉勝重。馳レ使告ニ之且元。停ニ其慶會一。且元大驚曰。是非ニ右府所一レ知也。託ニ之淸韓一。偶然及レ

將に行を發せんとす。會〻前將軍、鐘銘(一)の稿を覽て大に怒る。曰く、銘に、國家安康の句有り。是れ我が名を截るなり(二)。序(三)に、(四)大小の釋迦迭に主伴と爲るの語有り。是れ我に代らんと欲するなり。秀賴、何の意ぞ。乃ち敢て我を詛ふと。德川氏の(五)京尹板倉勝重、使を馳せて之を且元に告げ、其(六)慶會を停む。且元、大に驚きて曰く、是れ右府の知る所に非ざるなり。之を淸韓に託し、偶然此に及ぶのみ。臣不學、成りて卽て工に附す。罪逃るゝ所無し。今、大儀成るに垂んとし、萬衆已に聚る。而して遽かに之を停めば、恐らくは(七)民の耳目を駭さん。伏して願はくは、且く禮を畢へ、尋ぎて銘文を(八)毀滅し、然る後、臣、(九)甘心して誅に伏するも、悔毋きなりと。勝重肯ぜずして曰く、是れ詛を成すなりと。遂に儀を停む。(一〇)物情騷然たり。

(一) 鐘銘の草稿を見て　(二) 家康の名を兩截し以て呪咀するなり　(三) 鐘銘の序文　(四) 大釋迦は家康、小釋迦は

此耳。臣不學。成即附工。罪無所逃。今大儀垂成。萬衆已聚。而遽停之。恐驚民耳目。伏願且畢禮。尋毀滅銘文。然後臣甘心伏誅。毋悔也。勝重不肯曰。是成訕也。遂停儀。物情騒然。

秀頼にて互ひに主従となる ㊄京都の守護職 ㊅落成式を中止せしむ民 ㊆人が見聞して驚かん ㊇こぼちけす ㊈得心して刑に就くとも後悔することなし ㊉世間がもの騒がし

且元召問清韓。清韓不服。乃使清韓赴駿河陳謝。而自與其弟元重大野治長繼赴之。前將軍執清韓。命板倉重則如京師。令五山僧注疏銘文。僧多證其訕。且元至鞠子驛。留不敢入。九月。有命。遣歸治長。而獨召且元詰責之。且元陳謝甚力。

且元、召して清韓に問ふ。清韓服せず。(一)乃ち清韓をして駿河に赴きて陳謝せしむ。(二)而して自ら其弟元重・大野治長と、繼ぎて之に赴く。前將軍、清韓を執へ、板倉重則(三)に命じて京師に如かしめ、五山の僧をして銘文を注疏せしむ。(四)僧、多く其訕を證す。(五)且元、鞠子驛に至り、留りて敢て入らず。九月、命有り。治長を遣歸して、獨り且元を召して之を詰責す。(六)且元、陳謝甚だ力む。

㊀罪に服せず ㊁理由を陳述して謝せしむ ㊂播磨譜・烈祖成績等に重昌とあり ㊃註釋せしむ ㊄訕なることを證明す ㊅せめなじる

淀君聞二且元等不レ得レ見。遣三其乳母大藏與二尼正永一赴謝。二女欲三專辨二銘辭一急習二其句讀一且誦且行。至則召入。溫言慰藉。不三復及二銘辭一。使下往二江戶一省中夫人淺井氏上。二女大喜出二意外一。既還二駿河一與二且元一皆告レ歸。許レ之。二女請二答書一。曰。既面二諭之一矣。乃皆辭上レ途。有レ命。獨止二且

淀君、且元等の見る(一)を得ざるを聞き、其乳母大藏と尼正永とを遣して赴き謝せしむ。二女、專ら銘辭を辨ぜんと欲し、(二)急に其句讀(三)を習ひ、且つ誦し、且つ行く。至れば則ち召し入れ、溫言慰藉、(四)復た銘辭に及ばず。江戶に往きて夫人淺井氏を省せしむ。二女、大に喜びて意外に出づ。既に駿河に還り、且元と皆歸を告ぐ。(五)之を許す。二女、答書を請ふ。曰く、既に之を面諭せりと。乃ち皆辭して途に上る。命有り。獨り且元を止む。本多正純・僧天海をして之に言はしめて曰く、將軍の意、終に解く可からず。(六)右府、(七)何を以て信と爲して、其の他無きを表すぞと。且元曰く、願はくは敎(八)を受けんと。二人答へず。且元曰く、請ふ、江戶に赴きて將軍の旨を取らんと。二人入りて白す。曰く、將軍の意も亦我と同じきのみ。汝、宜しく歸りて之を熟籌(九)すべしと。

(一) 家康が面會を許さゞるを聞き　(二) 鐘銘の辭につき辯解せんと思ひ　(三) よみ方　(四) やさしき言葉にてなぐさめ　(五) 歸國せんことを申出づ　(六) どうしてもなほらず　(七) 秀頼公に於ては何事を以て證據として他意なきことをあらはすか　(八) 御指圖を蒙りたし　(九) よくはかれ

元。使二本多正純僧天海言一レ之曰。將軍意終不レ可レ解。右府何以爲レ信。表二其無一レ他。且元曰。願受レ教。二人不レ答。且元曰。請赴二江戸一取二將軍旨一。二人入白焉。曰。將軍意亦與レ我同耳。汝宜三歸而熟二籌之一。

且元遂辭去。馳及二土山驛一。二女乃悉語レ之以二前將軍懇諭狀一。曰。國事莫二復足レ慮者一。且元曰。吾所レ聞則大異レ諸。前將軍逼レ我以二右府表一レ信。吾揣二其意一。蓋有二三策一焉。淀君東與二妹氏一同居。上策也。右府往依二婦翁一。中策也。避二大

且元、遂に辭し去り、馳せて二女に土山驛に及ぶ。二女乃ち悉く之に語るに、前將軍懇諭の狀を以てす。曰く、國事(一)復た慮る(二)に足る者の莫しと。且元曰く、吾の聞く所は則ち大に諸に異なり。前將軍、我に逼るに右府の信を表すを以てす。吾れ其意を揣るに、蓋し三策(三)有り。淀君東して妹氏と同居するは、上策(四)なり。右府往きて婦翁(五)に依るは、中策(六)なり。大坂を避けて他に從るは、下策(七)なり。三策のうち一を行はば、庶幾はくは事無からんと。二女言はずして、退きて相言ひて曰く、前將軍(八)豈に此に至らん。是れ市正(九)、我が君を賣らんと欲するなりと。密かに書を馳せて大坂に告げて曰く、且元の形跡(一〇)疑ふ可しと。且元、之を知らざるなり。二女をして、先づ還らしめ、而して自ら京師に入り、板倉勝重と事を議す。淀君、二女の報を聞き、憤恚して曰く、吾れ太閤の妾なりと雖も、右府に於

坂徙レ他。下策也。三策行レ一。庶幾無レ事。二女不レ言。退而相言曰。前將軍豈至レ於レ此。是市正欲レ賣ニ我君一也。密馳レ書告ニ大坂一曰。且元形跡可レ疑。且元不ニ之知一也。使ニ二女先還一。而自入ニ京師一。與ニ板倉勝重一議レ事。淀君聞ニ二女報一。憤恚曰。吾雖ニ太閤妾一也。於ニ右府一爲ニ生母一。何屈ニ辱關東一哉。寧與ニ右府一枕レ城而死。乃欲下誅ニ且元一遂擧上レ兵。治長長益力贊レ之。

ては生母爲り。何ぞ關東に屈辱せんや。寧ろ右府と城を枕にして死せんと。乃ち且元を誅し、遂に兵を擧げんと欲す。治長・長益、力めて(一一)之を贊す。

(一) 追附く　(二) 國家の事また心配に及ばず　(三) 三つのはかりごと　(四) 最上の策なり　(五) 秀忠　(六) 中等の策なり　(七) 下等の策なり　(八) 家康まさかそれまでのことは言ふまい　(九) 且元が我君秀頼を賣りて私家の利を占めんとするならん　(一〇) ふるまひに疑ふべき點あり　(一一) 城にたてこもりて討死せん

已而且元至。謁ニ秀頼一陳ニ三策一。秀頼稟ニ之淀君一。淀君使三人諭ニ且元一曰。俟ニ後日一面議。至レ期。且元朝服將レ出。會ニ其

已にして且元至り、秀頼に謁して三策を陳ぶ。秀頼之を淀君に稟す。淀君、人をして且元に諭さしめて曰く、後日を俟ちて面議(一二)せんと。期に至り、且元、朝服して將に出でんとす。其臣小島某、外より來り告ぐるに會ふ。曰く、淀君讒言を信じ、公(一三)の關東に貳有るを猜ひ、兵を伏せて之を要し、遂に大事を擧げんと欲すと。且元、大息して曰く、噫、年少輩、我が君を詿誤(一四)し、自ら亡滅を速くのみと。

臣小島茱自レ外來告。曰。淀君信二讒言一。猜三公有二貳一於二關東一也。欲三伏レ兵要レ之遂擧二大事一。且元大息曰。噫。年少猾註二誤我君一。自速二亡滅一耳。治長傳二内旨一。召レ之甚急。且元遂稱レ疾不レ出。治長知二謀泄一。恇懼曰。彼素掌二管鑰一。諳二城内有無一。即起レ兵奪レ城。不レ可レ悔也。不レ若二先發誅一レ之。乃令二七隊長赴攻一レ之。七隊長皆不レ肯曰。市正忠勇無レ比。誅レ之是絶二嗣君手足一也。於レ是一城大擾。兵士

治長内旨を傳へ、之を召すこと甚だ急なり。且元、遂に疾と稱して出でず。治長謀泄るゝを知り、(五)恇懼して曰く、彼れ素より(六)管鑰を掌り、城内の有無を諳んず。即し兵を起して城を奪はゞ、悔ゆ可からざるなり。先づ發して之を誅するに若かずと。乃ち七隊長をして赴きて之を攻めしむ。

(一)面會の上にて相議せん (二)正服を著用して今自宅より出でんとす (三)家康に内應せざるやをうたがひ (四)あやまる (五)おそれて (六)城内の鍵を預り居りて其の巨細の樣子を暗記す

七隊長、皆肯ぜずして曰く、市正は忠勇比無し。之を誅するは、是れ(一)嗣君の手足を絶つなりと。是に於て一城大に擾る。(二)兵士、片桐氏に聚る者三百餘人なり。治長、之を患へ、其兄弟を離間せんと欲し、元重を諭して且元を攻めしむ。元重答へて曰く、(三)家兄誠に攜貳を懷かば、吾れ將に大義、親を滅せんとす。必ずしも公(四)

聚二片桐氏一者三百餘人。治長患レ之。欲レ離二間其兄弟一。諭二元重一攻二且元一。元重答曰。家兄誠懷二攜貳一。吾將二大義滅レ親。不三必煩二公等一。公等忌二害忠臣一。又使四人推三刃於二同氣一。未レ能レ奉レ令也。秀頼近臣今木某潛來說二且元一曰。內城八門。公管二其六一。今夜潛レ兵奪レ城。遂二治長兄弟一。而請三命於二關東一。關東猶不レ釋。則翼二我君一擧レ兵耳。願公速斷レ之。且元嚬顧曰。吾特欲下待二

等を煩さず。公等忠臣を危害し、又人をして、刃を同氣に推さしむ。未だ令を奉ずる能はざるなりと。秀頼の近臣今木某、潛に來りて且元に說きて曰く、內城八門、公、其六を管せり。今夜、兵を潛めて城を奪ひ、治長兄弟を逐ひて命を關東に請ひ、關東猶ほ釋さずば、則ち我が君を翼けて兵を擧げんのみ。願はくは、公、速かに之を斷ぜよと。且元、嚬顧して曰く、吾れ特に讒人の來攻するを待ちて自殺せんと欲するなり。苟も公の言ふ所の如きは、則ち長く反名を被らんと。因りて部下に令して曰く、卽し戰に及ぶも、矢をして內城に嚮はしむる勿れと。明日、七隊長、且元に諭し、質を納れ兵を弭め、退きて其邑に就かしむ。且元之に從ふ。

(一) 忠勇共に比類なし　(二) 秀頼の手足を絶つに同じ　(三) 我兄にして二心をもつならば、主君の爲には私親を滅亡せん　(四) 諸君に心配をかけぬ　(五) 我をして兄に刃を向けしむ　(六) 憂へ顔をしかめて曰く

讒人來攻而自殺上也。苟如ニ公所ㇾ言。則長被ニ反名一矣。因令ニ部下一曰。即及ㇾ於ㇾ戰。勿ㇾ使三矢嚮ニ内城一。明日。七隊長諭ニ且元一。納ㇾ質弭ㇾ兵。退就ニ其邑一。且元從ㇾ之。

十月。朔。與ニ治長一交ㇾ質。盡獻ニ城門管鑰一。致ㇾ事而去。七隊長送至ニ大和川上一。還ㇾ質訣飲。且元曰。吾苦ㇾ心運ㇾ籌。欲ㇾ利ニ豐臣氏一。吾上策而見ㇾ聽。吾則請ㇾ地。築三第于ニ江戸之郊一。故宏ニ其規模一。以延ニ數年一。我君未ㇾ壯。而前將軍大耋。

十月朔、治長と質を交へ、盡く城門の管鑰を獻じ、事を致して去る。七隊長送りて大和川の上に至り、質を還して(一)訣飲す。且元曰く、吾れ心を苦しめて籌を運し、豐臣氏を利せんと欲す。吾が上策にして聽かれば、吾れ則ち地を請ひて(二)第を江戸の郊に築き、故に其規模を宏にして以て數年を延べん。我が君は未だ壯(三)ならず。而して前將軍は大に耋(四)す。吾が策亦善からずや。區區(五)の心、未だ盡く明すに遑あらず、乃ち卒に此に至ると。因りて相嚮ひて(六)泣哭し、顧望(七)して別る。且元、遂に其邑茨木城に歸る。遠江騷擾す。

㈠ 人質を還して別れの宴を張る ㈡ 土地を請受けて第宅を江戸の郊外に築き ㈢ 三十歳をいふ ㈣ 老いぼる ㈤ 拙き我心中を未だ打明くるひまもなくそこでつひにかゝる場合となる ㈥ 相互に對ひ合ひて泣く ㈦ 餘波惜しさにふりかへり見つゝ別る

吾策不亦善乎。區區之心。未遑盡明。乃辛至於此。因相鄕泣哭。顧望而別。且元遂歸其邑茨木城。遠近騷擾。

前將軍遂下令天下。共攻大坂。秀頼會諸將議拒守。先是。七隊長更候駿河。治長等疑之。頗收其兵。隊長皆怨望。於是不出參其議。速水守久和解之。乃出。治長建議曰。宜急擧事。天下比年苦土木。

前將軍、遂に令を天下に下して、共に大坂を攻む。秀頼、諸將を會して拒守を議す。是より先、七隊長更〻駿河に候す。長治等之を疑ひ、頗る其兵を收む。隊長皆怨望す。(一)是に於て、出でて其議に參せず。速水守久之を和解す。乃ち出づ。治長建議して曰く、宜しく急に事を擧ぐべし。天下、比年土木に苦しみ、(二)擧りて皆亂を思ふ。西諸侯に至りては、概ね皆先君の恩澤に浴す。誰か來り援はざる者ぞと。遂に城下及び界浦の漕粟及び火藥を買ひ、(三)檄を四方に移す。關原の敗後、所在に潛匿する者、若しくは諸國の罪を獲て亡命せる者、(四)先を爭ひて來り聚る。眞田幸村は高野より、長曾我部盛親は京師より、後藤基次は南都より、森勝永は土佐より、其餘內藤政勝・小倉行春・明石守重・御宿友政・塙直次・仙石宗也・岡部則綱・山

擧皆思レ亂。至二西諸侯一。概皆浴二先君恩澤一。誰不二來援一者。遂買二城下及界沛漕粟及火藥一。移二檄四方一。關原敗後濟二匿所在一者。若諸國獲レ罪亡命者。爭レ先來聚。眞田幸村自二高野一。長曾我部盛親自二京師一。後藤基次自二南都一。森勝永自二土佐一。其餘內藤政勝。小倉行春。明石守重。御宿友政。塙直次。仙石宗也。岡部則綱。山川賢信。長岡興秋。北川宣勝等數百人。治長以二竹範一鎔二金馬一以募レ兵。饑寒之士僞二姓名一以應レ募。旬日得二五萬一。而有土將士無二一人應一者。

秀頼手書招二諸國主一。前田氏以下皆縛二使者一。以二其書一獻二德川氏一。治長等意大沮。

川賢信・長岡興秋・北川宣勝等數百人なり。長治、竹範(五)を以て金馬を鎔かし、以てを募る。饑寒(六)の士、姓名を僞りて以て募に應じ、旬日に五萬を得たり。而して有土(七)の將士は一人の應ずる者なし。

(一)怨みをふくむ (二)年々の工事の爲に苦み (三)檄文を四方に飛ばす (四)逃亡する者 (五)竹のいがたを以て金馬とかしそれをしるしとして (六)衣食に窮する浪士 (七)領地を所有する將士

秀頼手書(一)して諸國主を招く。前田氏以下皆使者を縛し、其書を以て德川氏に獻ず。治長等、意、大に沮む。而して事中止すべからず。乃ち颺言(二)して曰く、諸侯伯皆陰かに款を我に通ず。東軍來らば、夾みて之を撃たんのみと。遂に守備を修む。壘の高さ丈餘、十歩に一樓なり。北は淀川を帶び、長柄・神崎の二島を柵し、東

而事不レ可ニ中止一。乃颺言曰。諸侯伯皆陰通ニ款於一我矣。東軍來。夾而撃レ之耳。遂修ニ守備一。壘高丈餘。十歩一樓。北帶ニ淀川一。柵ニ于長柄神崎二島一。東控ニ大和木津二川一。鷸野今福以南至レ於ニ鷺島一。皆臨ニ汗田一爲レ壁。西據ニ横港一。連ニ砦于ニ川場博勞淵葦島福島穢多道頓諸處一。列ニ艦于ニ海口一。南穿ニ空濠一。交ニ錯材木於ニ濠内一。以沮ニ敵馳驅一。七隊長曰。寨不レ可レ廣。廣則難レ守。況以ニ一城一抗ニ天下一。曠レ日持レ久。而驅ニ市人一聚ニ食一。非レ爲也。治長不レ聽。

は大和・木津の二川を控へ、鷸野・今福より以南、鷺島に至るまで、皆汗田(三)に臨みて壁を爲り、西は横港に據り、砦を川場・博勞淵・葦島・福島・穢多・道頓の諸處に連ね、(四)艦を海口に列ね、南は空濠(五)を穿ち、(六)材木を濠内に交錯して、以て敵の馳驅を沮む。七隊長曰く、寨は廣くすべからず。廣ければ則ち守り難し。況や一城を以て天下に抗し、日を曠しくし久しきを持して、(七)市人を驅り糧食を聚することは、爲す毋きなりと。治長聽かず。

(一) 自書の書状　(二) 言ひ觸らす　(三) 低き田　(四) 軍艦を海の入口にならべ　(五) からぼり　(六) 材木を縦横にちらし　(七) 市中の住人迄もかり立てて食物を食ひへらすことはつまらぬ事也

眞田幸村不レ喜レ受ニ人約束一。乃別築ニ偃月

眞田幸村、人の約束(一)を受くるを喜ばず。乃ち別に偃月城(二)を玉造の阜に築き、東西二門を開き、信濃の遺民を募りて、百五十人を得たり。秀頼又附するに伊木遠

城于二玉造阜一。開二東西二門一。募二信濃遺民一得二百五十人一。秀頼又附以二伊木遠雄山川賢信北川宣勝等五千人一守レ之。幸村因獻レ策曰。臣聞徳川氏檄二天下兵一以來攻レ我。我坐俟レ之。無二他奇道一。度關東北國之兵强半未レ至。宜下以二此時一出二大旆于天王寺一。以二勝永與レ臣爲二先鋒一。

雄・山川賢信・北川宣勝等五千人を以てして之を守らしむ。幸村、因りて策を獻じて曰く、臣聞く、徳川氏、天下の兵に檄して以て來りて我を攻む。我れ坐ながら之を俟つ。(三)他の奇道なし。度るに關東・北國の兵、强(四)半未だ至らず。宜しく此時を以て、大旆(五)を天王寺に出し、勝永と臣とを以て先鋒と爲して、山崎に赴き、盛親・基次をして、大和路に出で、宇治橋を扼し、伏見を拔き、火を京師に縱ちて、以て大に天下の衢路を鎖さしめば、則ち西國の諸侯、必ず來屬する者あらん。是れ一(六)奇なりと。基次曰く、謀善しと雖も、萬全の者に非ず。本城は壯固(七)匹なし。天下の兵を受くと雖も、三五年を支ふべし。此の此くば則ち敵必ず內變(八)あらん。諸侯、先世の恩を被る者、必ず款を我に歸せん。何ぞ必ずしも遠く出でんと。衆、之を然りとす。

(一) 他人の命令を受くることを嫌ふ　(二) 出丸　(三) 他の奇計なし　(四) 大半　(五) 大將のはた　(六) 一つの奇策　(七) 壯大堅固にして匹敵するものなし　(八) 內輪揉め

赴レ于二山崎一。使下盛親基次出二大和路一。扼二宇治橋一。攻拔二伏見一。縱二火京師一。以大關中天下之衢路上。則西國諸侯必有二來屬者一。是一奇也。基次曰。計雖レ善矣。非二萬全者一。本城壯固無レ匹。雖レ受二天下兵一。可レ支二三五年一。如レ此則敵必有二內變一。諸侯被二先世恩一者必歸二款於一レ義。何必遠出。衆然レ之。

前將軍將軍率二諸侯伯一。相繼西上。獨留二福島正則黑田長政加藤嘉明平野長泰谷衛好于二江戶一。不レ許レ從レ軍。正則潛應二大坂需一。自二其封安藝一輸二粟五萬石一。其二姪正守正鎭皆入城守。以レ故最見レ疑。竹中重信受レ命。自二駿河一赴二江

前將軍・將軍、諸侯伯を率ゐて、相繼ぎて西上す。獨り福島正則・黑田長政・加藤嘉明・平野長泰・谷衛好を江戶に留め、軍に從ふを許さず。正則、潛かに大坂の需に應じて、其封安藝より粟五萬石を輸る。其二姪(一)正守、正鎭、皆入りて城守す。故を以て最も疑はる。竹中重信、命を受けて、駿河より江戶に赴き、旨を正則に諭す。正則因りて書を以て秀賴を諫めて曰く、郎君(二)、事に因りて關東の旨に忤ひ、遂に兵馬(三)を動す。是れ自ら亡滅を速くなり。願はくは其圖を改め、淀君を關東に奉じて、以て無事を計れ。不らずんば則ち老奴、東軍の先鋒と爲り、一舉(四)して城を拔かん。君其れ悔ゆる勿れ。豐臣氏の安危(五)、將に此に決せんとす。願はくは之を熟計(六)せよと。前將軍、途に其書を覽るも、遂に從ふを許さず。秀賴も書を得て、亦答ふる所なし。重信復た命を受けて安藝に赴き、正則の子正勝

戸。諭二旨正則一。正則因以レ書諫二秀頼一曰。郎君因レ事忤二關東旨一。遂動二兵馬一。是自速二亡滅一也。願改二其圖一。奉三淀君于二關東一。以計二無事一。不則老奴爲二東軍先鋒一。一擧拔レ城。君其勿レ悔。豐臣氏安危。將レ決レ於レ此。願熟二計之一。前將軍途覽二其書一。遂不レ許レ從。秀頼得レ書。亦無レ所レ答。重信復受レ命赴二安藝一。使二正則子正勝治レ兵會一レ師。正則遙戒二其老福島丹波尾關石見一曰。汝輩輔二我兒一以應二郎君一。莫三以レ我爲一也。郎君而成レ事。吾死不レ恨。不レ然則吾何以見二太閤地下一哉。丹波欲レ從レ命。石見爭レ之曰。吾儕之於二主公一。猶三主公之於二右府一也。吾儕何可レ禍二主公一哉。遂擁二正勝一會二東軍一。蜂須賀家政既老。首迎二諂東軍一。

をして、兵を治めて師に會せしむ。(七)正則、遙かに其老(八)福島丹波・尾關石見を戒めて曰く、汝が輩、我が兒を輔けて以て郎君に應ぜよ。我を以て爲す莫れ。(九)郎君にして事を爲さば、吾れ死すとも恨みじ、然らずば則ち吾れ何を以て太閤に地下に見えんやと。(一〇)丹波、命に欲はんと欲す。石見之を爭ひて曰く、吾が儕の主公に於けるは、猶ほ主公の右府に於けるがごとし。吾が儕何ぞ主公に禍すべけんやと。遂に正勝を擁して東軍に會す。蜂須賀家政、既に老す。(一一)首として東軍に迎諂す。

(一) 二人のをひ (二) 若君 (三) 戰爭を起す (四) 一戰のもとに城を攻落さん (五) 安泰なるも危殆に陷るも只今こゝに定まらんとす (六) よく計れよ (七) 兵を整へて出戰の軍勢に合はしむ (八) 家老 (九) 我れ東軍に在るの故を以て心配して心を動かすことなかれ (一〇) 死して後太閤に地下に合はす顔なし (一一) 第一番に東軍を迎へて家康にまみゆ

片桐且元嘗託三其貲于二界浦人宗薫。宗薫告三城兵來掠二界浦一。且元乃遣二兵二百一援レ之。至二尼崎城一索レ舟。尼崎人疑而不レ許。大坂兵出撃二且元一。城兵亦不レ援。且元退守二神崎一。土民聞三其叛二大坂一也。爭起要レ之。與二城兵一合撃。遂鏖二其兵一。且元匿免。於レ是前將軍至二京師一。召二見之一。且元辭曰。臣計二輯和一。乃開二大隙一。何以レ見爲。前將軍曰。兵起非二汝罪一。宜三亟來レ此。更爲二後圖一。

片桐且元、嘗て其貲（一）を界浦の人宗薫に託す。宗薫、城兵來りて界浦を掠むと告ぐ。且元乃ち兵二百を遣して之を援ふ。尼崎城に至りて舟を索む。尼崎の人疑ひて許さず。大坂の兵出でて且元を撃つ。城兵亦援はず。且元退きて神崎を守る。土民、其大坂に叛すと聞くや、爭ひ起りて之を要し、城兵と合撃して、遂に其兵を鏖にす。且元匿かに免る。是に於て、前將軍京師に至り、之を召見す。且元辭して曰く、臣、輯和（二）を計り、乃ち大隙を開く。何ぞ見ゆるを以て爲さんと。前將軍曰く、兵の起るは汝が罪に非ず。宜しく亟かに此に來り、更に後（三）圖を爲すべしと。

㊀家の財産　㊁和親を計り却つて大なる不和を引起す何の顔あつて面會をなさん　㊂後日のはかりごと

藤堂高虎爲二

藤堂高虎東軍の先鋒と爲り、來りて住吉に陣す。郡良列其孤軍（一）を窺ひ、之を

東軍先鋒。來陣ニ住吉一。郡良列窺ニ其孤軍一欲レ襲レ之。議不レ諧而止。良列又欲下遣ニ間諜一縱中火兩將軍營上。亦不レ用。東軍患ニ二島難レ濟。壅ニ其上流一。城兵出爭レ之。不レ克。十一月。池田氏兵自ニ神崎一濟。城兵出拒。不レ利。幸村基次等建議曰。將軍不日至ニ天王寺一。及ニ其未レ陣與レ之。必克。治長曰。是可レ用ニ之小戰一。今與ニ天下一戰。始合失レ利。不レ可ニ復振一。不レ若下致ニ之堅城下一而挫中

襲はんと欲す。議諧はずして止む。良列、又間諜(二)を遣し、火を兩將軍の營に縱たんと欲せしも、亦用ひられず。東軍、二島の濟り難きを患へ、其上流を壅ぐ。城兵出でて之を爭ふ。克たず、十一月、池田氏の兵、神崎より濟る。城兵出で拒ぐ。利あらず。幸村・基次等建議(三)して曰く、將軍、不日、天王寺に至らん。其の未だ陣せざるに及びて之を襲はば、必ず克たんと。治長曰く、是れ之を小戰に用ふべし。今天下と戰ふ。始(四)に合せて利を失はば、復た振ふべからず。之を堅城の下に致して其鋒を挫くに若かざるなりと。幸村等曰く、寡を以て衆を撃つ。奇を出すに非ざるよりは、何ぞ勝を得んやと。良列も亦之を勸む。終に聽かず。已にして東軍悉く至り、營を四外に列す。大凡五十萬許なり。治長、間使(五)を發して、舊屬諸將を誘ふ。諸將皆其使を捕へて、之を前將軍に獻ず。

(一) 軍に援兵無きをうかゞひ　(二) 忍びの者　(三) 策を上つて曰く　(四) 戰の手始に失敗せば　(五) 密使

其鋒上也。幸村等曰。以レ寡擊レ衆。自レ非レ出レ奇。何得レ勝乎。良列亦勸レ之。終弗レ聽。已而東軍悉至。列二營四外一。大凡五十萬許。長治發二間使一。誘二舊屬諸將一。諸將皆捕二其使一。獻二之前將軍一。

前將軍遣二書城內一。使レ請レ和。不レ肯。幸村叔父信尹從往二東軍一。前將軍使下之入諭二幸村一降上之。幸村答曰。關原之役。臣父子屬二西軍一。以二寡兵一抗二大師一。及レ敗遁逃。伏二匿山野一。右府不レ以二臣陋劣一。授レ臣以二數千兵一。使レ將二一面一。是知レ臣也。士爲二知レ

前將軍、書を城內に遣り、和を請はしむ。肯ぜず。(一)幸村の叔父信尹、從ひて東軍に在り。前將軍、之をして入りて幸村を諭して之を降さしむ。幸村答へて曰く、關原の役、臣が父子、西軍に屬し、寡兵を以て大師に抗し、(二)敗るゝに及びて遁逃し、山野に伏匿す。右府、(三)臣の陋劣を以てせず、臣に授くるに數千の兵を以てし、一面に將たらしむ。是れ臣を知るなり。(四)士は己を知る者の爲に死す。臣死すとも負く能はずと。信尹復命す。再び遣して之に說かしめて曰く、苟も降らば則ち封ずるに信濃の地を以てし、世世絕つ毋らんと。幸村曰く、我が爲に前將軍に(五)謝せよ。臣、一死(六)もて右府に報ぜん。其他を知らず。東西、兵を弭むるが如きことあらば、臣當に叔父に寄食すべきのみ。然らずんば則ち日本の半を受くと雖も、而も命を奉ずる能はず。願はくは、叔父、復た來る勿れと。前將軍、木村重成の父

已者一死。臣死不レ能レ負焉。信尹復命。再遣說レ之曰。苟降則封以二信濃地一。世世毋レ絕。幸村曰。爲レ我謝二前將軍一。臣一死報二右府一。不レ知二其他一。有レ如二東西弭一レ兵。臣當三寄二食叔父一耳。不レ然則雖レ受二日本之半一。而不レ能レ奉レ命矣。願叔父勿二復來一也。前將軍與二木村重成父重玆一有レ故。又招二降之一。重成不レ應。

重玆と故(七)あり。又之を招降す。重成應ぜず。

(一) 聽入れず (二) 大軍 (三) 私のいやしく拙劣なるにもかゝはらず (四) 士たるものは自分を知りて任用せらるる者の爲に死す (五) 申して下され (六) 一身を投げうつて秀頼に盡さんそれより外には何にも思はぬ (七) ふるきなじみなり

薄田兼相守二穢多崎一。蜂須賀至鎭來攻レ之。兼相飲二於倡家一。其兵留守。不レ支而走。兼相深以爲レ恥。已而鷸野柵爲二上杉景勝所一レ破。今福

薄田兼相、穢多崎を守る。蜂須賀至鎭、來りて之を攻む。兼相、倡家に飲す。其兵留守し、支へずして走る。兼相、深く以て恥と爲す。已にして鷸野(一)の柵は上杉景勝の破る所と爲り、今福の柵は佐竹義宣の破る所と爲る。木村重成急を聞きて、單騎出でて義宣を拒ぐ。渡部尙、七隊長と、出でて景勝を拒ぐ。秀頼、城樓より之を望見し、基次を顧み、往きて重成を援けしむ。基次卽ち起つ。從士鎧を取り、之に京橋に及ぶ。環(二)して馳す。重成に謂ひて曰く、公、勞(三)せり。僕

柵爲ニ佐竹義宣所レ破。木村重成鬪レ急。單騎出拒ニ義宣一。渡部向與ニ七隊長一出拒ニ景勝一。秀賴自ニ城樓一望ニ見之一。顧ニ基次一往援ニ重成一。基次卽起。從士取レ鎧。及ニ之京橋一。擐而馳。謂ニ重成一曰。公勞矣。僕請代レ之。重成曰。事方殷。代レ將則陣亂。公老レ於レ兵者。何爲ニ言是一也。基次乃陣ニ其後一。泛ニ舟澤中一。排レ楯放レ銃。橫擊ニ義宣陣一。重成因大破レ之。斃ニ其老臣澁江正光一。尙等亦擊ニ破景勝前軍一。竟不レ利退。重成基次亦收レ兵。基次中レ丸。傷ニ其左肋一。捫レ之曰。吾創不レ在レ死。右府命厚矣。已而以ニ柵難一レ守。棄而入レ城。

請ふ之に代らんと。重成曰く、事、方に殷なり。將を代へば則ち陣亂れん。公は兵に老けたる者、(四)何ぞ是の言を爲すやと。(五)基次乃ち其後に陣し、舟を澤中に泛べ、楯を排して銃を放ち、橫に義宣の陣を擊つ。重成因りて大に之を破り、其老澁江正光を斃す。尙等も亦景勝の前軍を擊破し、竟に利あらずし退く。重成・基次も亦兵を收む。(六)基次、丸に中り、其左肋を傷く。(七)之を捫して曰く、吾が創死に至らず。右府の命厚しと。已にして柵守り難きを以て、棄てて城に入る。

(一) 遊女の家にて酒を酌む　(二) 鎧を著つつ馳す　(三) 骨折りたり　(四) 軍事に老練なる者　(五) 何ぞさることをいふか　(六) 兵を引上ぐ　(七) 左のあばら

片桐且元入

片桐且元入りて備前島に軍す。而して葦島・博勞淵前後皆陷る。池田・淺野・蜂

軍二備前島一。而葦島博勞淵前後皆陷。池田淺野蜂須賀諸將自二西北一進。七隊長曰。吾輩固曰。廣者難レ守。適以增二敵氣一耳。宜下棄二天滿川場道頓港三寨一。約中之内城上。治房以二萬人一守二道頓港一。獨不レ肯。卽夜。諸將託二軍議一召レ之。遣二基次等一燒二諸壘寨一。治房部下驚走入レ坂。基次伏二

須賀の諸將、西北より進む。七隊長曰く、吾が輩固より曰く、廣ければ守り難しと。適〻以て敵の氣を增すのみ。宜しく天滿・川場・道頓港の三寨を棄てて、之を内城に約すべしと。治房、萬人を以て道頓港を守り、獨り肯ぜず。卽夜、諸將、軍議に託して之を召し、基次等を遣して諸壘寨を燒かしむ。治房の部下(一)、驚き走りて城に入る。基次、死士(二)を伏せ、誡めて曰く、備前の軍、其將年少く氣銳(三)なり。必ず此に來らん。汝が輩突起して之を取れと。池田忠繼、福島に在りて火を望み、果して馳せて川場に入らんと欲す。其將花房職之曰く、後藤は多謀(四)なり、必ず伏あらんと。乃ち止む。伏兵、徒に歸る。基次曰く、花房未だ死せざるかと。十二月、東軍三寨に入る。卽夜大野治長の第、火を失す。東軍、城兵に内應する者ありと意ひ、京橋口より進む。城兵、堅く拒ぎて之を卻く。

(一) 組下 (二) 決死の兵をかくし置き (三) 氣がはやる (四) 謀計に長ず

死士。誠曰。備前之軍。其將年少氣銳。必來於此。汝翼突起取之。池田忠繼在福島望火。來欲馳入川場。其將花房職之曰。後藤多謀。必有伏也。乃止。伏兵徒歸。基次曰。花房未死乎。十二月。東軍入三寨。即夜。大野治長第失火。東軍意城兵有內應者。自京橋口進。城兵堅拒卻之。

幸村與前田利光對壘。出銃手于城外林中。日斃敵兵。利光前鋒奧村某欲奪林以爲功。幸村諜知之。潛收其兵。奧村至。不見一人。城兵自銃眼指而笑曰。公等索狐兎乎。奧村忿。踰濠攀壁。則銃矢交發。殺傷數百人。

幸村、前田利光と壘を對し(一)、銃手を城外の林中に出し、日に敵兵を斃す。利光の前鋒奧村某、林を奪ひて以て功を爲さんと欲す。幸村、諜して(二)之を知り、潛かに其兵を收む。奧村至り、一人を見ず。城兵、銃眼(三)より指して笑ひて曰く、公等(四)、狐兎を索むるかと。奧村忿り、濠を踰え壁を攀づれば、則ち銃矢交〻發し、數百人を殺傷す。

(一) 相對して壘に在り (二) 間諜を入れて探り知り (三) 鐵砲を打出す狹間 (四) 狐兎などをさがすのか

南條光明在

南條光明南壁に在り。其叔父藤堂高虎と相識る。高虎、(一)書を矢に約し、壁上に

南壁。其叔父與㆓藤基高虎㆒相識。高虎約㆓書于矢㆒。射㆓壁上㆒。招㆓降之㆒。叔姪合㆑謀。欲㆑導㆓高虎兵㆒。期㆓四日黎明㆒。事覺。秀頼與㆓諸將㆒議。族㆓誅之㆒。而不㆑更㆓其幟㆒。列㆑銃以俟。黎明。藤堂氏。井伊氏。合㆑兵傅㆑壁。加賀越前兵亦逼㆓幸村壘下㆒。皆遇㆑銃而敗。會櫓上失㆑火。敵二百人乘㆑之而登。幸村擊鏖㆑之。是日之戰。自㆑卯至㆑午。而城兵不㆑損㆓一人㆒。織田長頼。守㆓星谷口㆒。其卒私鬭。東軍乘㆑喧疾攻。秀頼遣㆓北川宣勝等㆒援擊。卻㆓東軍㆒。

射て(一)、之を招降す。(二)叔姪謀を合せて、高虎の兵を導かんと欲す。四日の(三)黎明を期す。事覺る。秀頼諸將と議して、之を(四)族誅し、而して其幟を更めず。銃を列ねて俟つ。黎明藤堂氏・井伊氏兵を合せて壁に傅く。加賀・越前の兵も亦幸村の壘下に逼る。皆銃に遇ひて敗る。會〻樓上火を失ふ。敵二百人之に乘じて登る。幸村擊ちて之を鏖にす。是の日の戰、卯より午に至りて、城兵は一人を損せず。織田長頼星谷口を守る。其卒(五)私鬭す。東軍、喧に乘じて疾く攻む。秀頼、北川宣勝等を遣して援け擊ちて、東軍を卻く。

(一)書狀を矢に結附けて　(二)叔父と姪と　(三)夜あけ　(四)一族悉く誅す　(五)内輪に喧嘩をなす

東軍於㆑是自㆓

東軍、是に於て、天王寺口より、(一)地に穴して進む。城兵も亦地に穴して之を拒

天王寺口。穴二地而進。城兵亦穴レ地而拒レ之。東軍休レ戰。毎夜發レ砲而鬨。城兵亦發レ砲而鬨。前將軍數遣三書於二織田長益一勸レ和。要二三事一曰。毀二羅城一塡二周池一。若徙二封大和一。若以二淀君一爲レ質。皆不レ肯。然城兵聞二和議起一。守備頗怠。而東使至愈頻。長益治長以二秀頼旨一。使二使答一曰。雖二果成一レ和。而諸客兵不レ忍レ棄レ之。願得レ益レ封。議乃輟。

ぐ。東軍、戰を休め、毎夜、砲を發して鬨す。城兵も亦砲を發して鬨す。前將軍、數〻書を織田長益に遣りて和を勸め、三事を要して曰く、(二)羅城を毀ち周池を塡めん。若しくは封を大和に徙さん。若しくは淀君を以て質と爲んと。皆肯ぜず。然れども城兵、和議起ると聞きて、守備頗る怠る。而して(三)東使至ること愈〻頻なり。長益・治長、秀頼の旨を以て、使をして之に答へしめて曰く、果して和成ると雖も、而も諸の客兵は之を棄つるに忍びず。願はくは封を益すを得んと。議乃ち輟む。

(一) 地中を掘りて進む　(二) 外城をこはし周圍の池を塡めん　(三) 關東の使者

塙直次長岡貞安請二大野治房一曰。受レ圍

塙直次・長岡貞安、大野治房に請ひて曰く、圍を受くること久し。一たび出で戰はずんば、軍氣何ぞ振ふを得ん。今、備前・阿波の兵、本街橋の南北に陣す。

日久。不ニ一出戰一。軍氣何得レ振。今備前阿波兵陣ニ本街橋南北一。宜ニ分レ兵襲ヒ之。治房曰。吾亦欲レ之。夜戰利レ於レ寡。寡而分レ之。恐不レ能レ克。宜ニ專襲ニ其一軍一。乃揀ニ壯士百餘一。申ニ暗令一。以ニ直次貞安一將レ之。出斫ニ阿波營一。斬ニ其將中村重勝一。治房與ニ御宿政友一。出迎ニ之橋上一。而還。

宜しく兵を分ちて之を襲ふべしと。治房曰く、吾も亦之を欲す。夜戰は寡に利あり(一)。寡にして之を分つ、恐らくは克つ能はざらん。宜しく專ら其一軍を襲ふべしと。乃ち壯士百餘を揀び、暗令(二)を申べ、直次・貞安を以て之に將とし、出でて阿波の營を斫り、其將中村重勝を斬る。治房、御宿政友と、出でて之を橋上に迎へて還る。

(一) 夜の戰爭は人數の少き方がよろし　(二) 暗號を申渡し

當ニ是時一。天下諸侯皆從ニ東軍一。未レ至者獨島津氏而已。京極高次子忠高從攻レ城。

是の時に當りて、天下の諸侯、皆東軍に從ふ。未だ至らざるは獨り島津氏のみ。京極高次の子忠高、從ひて城を攻む。其母常光京師に在り。前將軍、其の淀君の妹たるを以て、人をして之を迎へしめて、以て和議を講ぜしむ。又陰かに城兵を誘降す。淀君、遂に治長・長益をして、秀賴に勸めしむ。秀賴、七隊長及び新附の(一)

其母常光在二京師一。前將軍以三其爲二淀君妹一也。使二人迎一レ之。以諜二和議一。又陰誘二降城兵一。淀君遂使三治長長益勸二秀頼一。秀頼召二七隊長及新附將士一議。或曰。關東之謀不レ可レ測也。宜下嬰レ城二三年。以俟中敵有上レ變。或曰。諸侯無二援者一。而城兵有二貳者一。以二有レ貳之兵一。守二無レ援之城一。而城内糧仗。不レ足三以支二三年一。不レ若三媾和以爲二後圖一也。治長長益欲レ和。說二秀頼一甚力。秀頼曰。片桐且元爲レ我盡レ忠。以計二無事一。汝輩乃沮レ之。勸レ我舉レ事。今何與二前言一相反也。會下常光氏至。慫二慂淀君一。數往復傳中東旨上。終約。逐二客兵一。塡二周池一。長益出二

將士を召して議す。或ものは曰く、關東の謀は測る可からず。宜しく城を嬰る二三年にして、以て敵の變あるを俟つべしと。或ものは曰く、諸侯に援くる者なく而して、城兵に貳ある者あり。貳有る兵を以て、援なきの城を守る。而して城内の糧仗(二)は、以て三年を支ふるに足らず。媾和して以て後圖を爲すに若かずと。治長・長益、和せんと欲し、秀頼に說くこと甚だ力む。秀頼曰く、片桐且元、我が爲に忠を盡して、以て無事を計る。汝が輩乃ち之を沮し、我を勸めて事を舉げしむ。今何ぞ前言と相反するやと。常光氏至り、淀君を慫慂(三)し、數〻往復して東旨(四)を傳ふるに會ふ。終に約す、客兵を逐ひ、周池を塡め、長益は子尙長を出し、治長は子治德を出して質を爲さんと。十九日、和成る。

㊀ 新參の諸將　㊁ 兵糧と武器と　㊂ すゝめ　㊃ 德川氏の意旨

子尙長。治長出二子治德一爲レ質。十九日。和成。

翌夜。茶臼山下失レ火。延二燒二十餘營一。幸村曰。敵新和而懈レ備。宜レ掩二擊之一。治長等不レ許。二十日。前將軍遣二板倉重昌一。將軍遣二阿部正次一。入蒞レ誓焉。秀賴遣二木村重成一。出蒞レ誓焉。而以二郡良列一爲二之副一。重成年少有二風儀一。盛服騎レ馬。抵二茶臼山營一。自二

翌夜茶臼山の下火を失し、二十餘營を延燒(一)す。幸村曰く、敵、新に和して備を懈る。宜しく之を掩擊すべしと。治長等許さず。二十日前將軍は板倉重昌を遣し、將軍は阿部正次(二)を遣し、入りて誓に蒞ましむ。秀賴は木村重成を遣し、出でて誓に蒞ましむ。而して郡良列を以て之が副と爲す。重成年少く(三)風儀あり。(四)盛服して馬に騎り、茶臼山の營に抵り、轅門(五)より馬を下る。關東の諸將、臚(六)を幕中に設け、重成を引く。重成揖(七)せずして入る。永井直勝・土井利勝、之を擯し、下坐に坐せしむ。重成顧みずして進み、秀賴の旨を敍し、然る後に退伏(八)す。前將軍曰く、是れ常陸介の子か。何ぞ酷だしく父に肖たるやと。因りて其齡を問ふ。曰く、二十二なりと。曰く、然れば則ち右府と同年なり。往日鵺野・今福の戰、壯勇無雙なりと。重成慨然として、對へて曰く、臣、遺憾(九)ありと。已にして誓書出づ。押血(一〇)模糊たり。重成曰く、淀君は婦人なり、恐らくは疑ふあらん。敢て

轅門下ㇾ馬。關東諸將。設ニ廬幕中一。引ニ重成一。重成不ㇾ揖而入。永井直勝土井利勝賴ㇾ擯ㇾ之。使ㇾ坐ニ下坐一。重成不ㇾ顧而進。敍ニ秀賴旨一。然後退伏。前將軍曰。是常陸介子乎。何酷肖ㇾ父也。因問ニ其齡一。曰。二十二矣。曰。然則與ニ右府一同年矣。往日鷸野今福之戰。壯勇無雙。重成慨然。對曰。臣有ニ遺憾一焉。已而誓書出。押血模糊。重成曰。淀君婦人。恐有ㇾ疑焉。敢請更面刺ニ血一。前將軍鍼ㇾ於ㇾ指曰。年老血枯。重成爲ニ不ㇾ聞者一。遂取ニ血誓一。拜謝而退。禮ニ諸將一乃還。

請ふ、更に面のあたり鮮血を刺せと。前將軍指に鍼して曰く、年老い血枯ると。重成聞かざる爲(一一)して、遂に血誓を取り、拜謝して退き、諸將に禮して乃ち還る。

(一)頽燒す　(二)敵の不意を襲撃すべし　(三)風采ありて儀容あり　(四)身なりを飾りて　(五)陣營の門　(六)列　(七)會釋せずして入る　(八)引下りて平伏す　(九)殘念に思ふあり　(一〇)血判はつきりせず　(一一)面前にて鮮血をとりて血判せられんことを請ふ

且日。東軍發ニ兵卒十萬人一。隳ニ外城一。塡ニ空濠一。以ニ吏七名一監焉。是日。島津氏始至ニ兵

且日東軍、卒十萬人を發して外城を隳ち、空濠(一)を塡め、吏七名を以て監す。是の日、島津氏始めて兵庫に至る。居ること二日なり。治長、長益と、倶に往きて兩(二)營に謁す。前將軍治長を見て、面のあたり之を稱揚して(三)曰く、卿、年少くして、能く秀賴の爲に事を擧ぐ。何ぞ其れ壯なるや。吾れ上野介の、將軍に事ふる

肆。居二日。治長與㆓長益㆒。俱往謁㆓兩營㆒。前將軍見㆓治長㆒。面稱㆓揚之㆒曰。卿年少。能爲㆓秀頼㆒擧㆑事。何其壯哉。吾欲㆘上野介事㆓將軍㆒猶㆖卿也。上野介者。本多正純也。因命㆓正純㆒請㆓其上衣㆒。遠近傳以爲㆑榮。治長意氣益驕。其夜。前將軍遽入㆓京師㆒。吏請㆓夷㆑濠淺深㆒。前將軍哂而對曰。使㆔三歲小兒可㆓得上下㆒耳。

こと猶ほ卿のごときを欲すと。上野介は、本多正純なり。因りて正純に命じて、其上衣を請はしむ。遠近傳へて以て榮と爲す。治長意氣益〻驕る。其夜、前將軍遽かに京師に入る。吏、濠を夷ぐるの淺深を請ふ。前將軍、哂ひて對へて曰く、三歲の小兒をして上下するを得可からしめんのみと。

(一)からぼり (二)家康及び秀忠 (三)はめたゝふ (四)うはぎ (五)意氣益々たかぶる (六)濠を埋むる深さ淺さの程の指令を仰ぐ

初城中諸將約㆑塡㆓周池㆒。以爲止㆓西南外濠㆒。居數日。外濠既堙。遂及㆓內濠㆒。城中大

初め城中の諸將、周池を塡むるを約し、以爲へらく、西南の外濠に止ると。居ること數日にして、外濠既に堙み、遂に內濠に及ぶ。城中大に驚きて、皆治長を咎む。治長、人をして出でて監吏を詰らしむ。吏對へて曰く、吾が輩、命を受けて周池を塡む。以爲らく周とは內外を周るの謂なりと。是の時將軍猶ほ岡山

驚。皆咎ニ治長一。治長使ニ三人出詰ニ監吏一。吏對曰。吾輩受レ命塡ニ周池一。以爲周者周ニ內外一之謂也。是時將軍猶在ニ岡山一。治長自馳赴ニ岡山一。岡山將吏皆曰。是大御所命也。治長乃馳ニ使京師一。因ニ板倉勝重一請レ之。勝重曰。本多正純主ニ此事一。我所レ不レ與也。還詣ニ正純一。正純稱レ疾不ニ出面一。往復數四。而東軍益興レ卒。晨夜督責。以至ニ明春一。塹壘皆夷。獨存ニ牙城一而已。

に在り。治長自ら馳せて岡山に赴く。岡山の將吏、皆曰く、是れ(三)大御所の命なりと。治長乃ち使を京師に馳せ、板倉勝重に因りて之を請ふ。勝重曰く、本多正純此事を主る。我が與らざる所なりと。還りて正純に詣る。正純疾と稱して出でて面せず。往復數四(四)、而して東軍益〻卒を興し、(五)晨夜督責して、以て明春に至り、(六)塹壘皆夷ぐ。(七)獨り牙城を存するのみ。

(一) そとぼりのみ　(二) めつけの役人を責めしむ　(三) 家康の命令なり　(四) 四字一に回に作る　(五) 早朝より夜おそくまで督促して　(六) 城濠と城壘皆埋めこはす　(七) たゞ本丸のみ殘存す

元和元年。正月。兩將軍皆東歸。諸國兵罷之レ國。淀君游嬉恬安。而

元和元年正月、兩將軍皆東歸す。諸國の兵、罷めて國に之く。淀君、(一)游嬉恬安たり。而して荒殘の餘(二)、將士給を仰ぐ所莫し(三)。物議囂然たり。三月、青木一重及び大藏正榮を遣して、賑を關東に請ふ。關東報ぜず(四)。客兵交〻秀賴母子に再擧

荒殘之餘。將士莫レ所レ仰レ給。物議囂然。三月。遣ニ青木一重及大藏正榮一。請ニ賑於關東一。關東不レ報。客兵交勸ニ秀頼母子再擧一。曰。去歲擧ニ天下一攻レ我。而不レ能レ取。是世所ニ共知一也。今而再擧。必有ニ歸者一。乃召ニ募遠近一。得ニ十二萬人一。上下大喜。

を勸む。曰く、去歲、天下を擧げて我を攻む。而して取る能はず。是れ世の共に知る所なり。今にして再擧せば、必ず歸する者あらんと。乃ち遠近に召募して、十二萬人を得たり。上下大に喜ぶ。

(一) 平氣で遊び樂む　(二) 甚だしくあれそこれて　(三) 扶持まかなひを得る處なし　(四) 何とも回答なし

於レ是大議ニ戰備一。數日未レ決。眞田幸村進曰。今日之事。兩言決耳。可レ戰也。不レ可レ守也。獨有下急襲ニ京師一。挾ニ天子一以令中天下上而已。治長兄弟

是に於て、大に戰備を議す。數日にして未だ決せず。眞田幸村進みて曰く、今日の事、兩言(一)にして決せんのみ。戰ふ可きなり。守る可からざるなり。獨り急に京師を襲ひ、(二)天子を挾みて以て天下に令する有るのみと。治長兄弟聽かず。七隊長乃ち說きて曰く、城濠隳廢し(三)、誠に前役に比す可からず。此地、三面は水に迫りて、南は平野に接し、敵每に南より至る。請ふ、我が兩軍を以て、彼の兩師を迎へ、直に麾下に衝突せん(四)。其勝敗は天なりと。議終に決す。乃ち急に守備を

不聽。七隊長乃說曰。城濠隳廢。誠不可比前役。此地三面迫水。而南接平野。敵毎至自南。請以我兩軍迎彼兩師。直衝突麾下。其勝敗天也。議終決。乃急繕守備。柵于外城舊趾。穿塹二尺。四月。東軍先鋒已至京師。兩將軍兼程西上。飛檄諸侯。復急赴大坂。留一重等不遣。使常光氏來言曰。弭兵徙大和七年。則吾修大坂如故。還予之。不答。

繕ふ。外城の舊址に柵し、塹を穿つこと二尺なり。四月、東軍の先鋒已に京師に至る。兩將軍程を兼ねて西上し、檄を諸侯に飛ばし、復た急に大坂に赴かしめ、一重等を留めて遣らず。常光氏をして來り言はしめて曰く、兵を弭めて大和に徙ること七年ならば、則ち吾れ大坂を修むること故の如くし、之を還予せんと。答へず。

㊀ 二言にして決定する　㊁ 天子を奉戴して天下に令して軍を集むより外なし　㊂ 城濠は悉くこぼちすたれて役をなさず　㊃ つき入る　㊄ 古き跡　㊅ 行程を倍にし

於是分軍爲三。大野治長領一軍。七隊

是に於て、軍を分ちて三と爲し、大野治長、一軍を領し、七隊長及び後藤基次之に隷す。大野治房、一軍を領し、長曾我部盛親・森勝永・仙石宗也之に隷す。

長及後藤基次隷レ之。大野治房領ニ一軍一。長曾我部盛親森勝永仙石宗也隷レ之。木村重成領ニ一軍一。眞田幸村渡部尙明石守重隷レ之。秀賴具ニ旗鼓一。親按ニ視南郊一。上ニ茶臼山岡山一。指ニ揮三軍所一レ嚮。士氣頗奮。然治長矜持太甚。以ニ淀君命一抑ニ沮諸將一。軍議屢變。長益父子出ニ奔京師一。治長益專。治長一夜過ニ櫻門前一。有レ人刺レ之。不レ中。走。治長卒追殺レ之。旦日。撿レ尸。治房部卒也。城中莫レ不ニ相猜防一。

木村重成一軍を領し、眞田幸村・渡部尙・明石守重之に隷す。秀賴、旗鼓を具へて、親ら南郊を按視し、(一)茶臼・岡山に上り、三軍の嚮ふ所を指揮す。(二)士氣頗る奮ふ。然るに治長の矜持太甚だし。(三)淀君の命を以て諸將を抑沮し、(四)軍議屢〻變ず。長益父子、京師に出奔す。治長益〻專なり。治長一夜櫻門の前を過ぐ。人あり之を刺す。中らずして、走る。治長の卒、追ひて之を殺す。旦日尸を檢するに、(五)治房の部卒なり。城中相猜防せざる莫し。(六)

(一) 視察す　(二) 全軍の向ふ所を指圖す　(三) ほこる　(四) おさへはゞむ　(五) 死骸を檢視するに　(六) 相互に疑ひて和せず

前將軍潛使ニ人招ニ重成一。重

前將軍潛かに人をして重成を招かしむ。重成應ぜず。其女兄夫(一)猪飼某、城中の召

成不レ應。其女兄夫猪飼某應ニ城中召募一。創病歸レ鄕。重成遺ニ書及物一。訣レ之曰。城中近狀無ニ復足レ觀。諸謀議皆決レ於ニ母氏一。我輩所レ陳。一切不レ聽。天下永爲ニ家康之有一可レ知也已。家康與レ僕有レ舊。使ニ板倉伊賀數招レ僕。僕受ニ先君命一。以屬ニ嗣君一。而懷ニ藏二心一。心所レ不レ安。故雖レ無ニ一

募に應じ、創病にて鄕を歸る。重成、書及び物を遺り、之に訣して曰く、城中(二)の近狀、復た觀るに足るなし。諸の謀議、皆母氏に決す。我が輩の陳ぶる所、一切聽かれず。天下永く家康の有と爲ること知るべきのみ。家康、僕と舊(三)あり。板倉伊賀をして、數〻僕を招かしむ。僕、先君の命を受けて、以て嗣君に屬す。而して二心(四)を懷藏するは、心の安んぜざる所なり。故に一も聊賴(五)する所なしと雖も、且く因循して此に在り。特に速かに戰死せんと願ふ。復た何をか言はんや。此刀は、僕の常に佩服(六)する所にして、數十戰を經て、未だ嘗て蹉跌(七)せざるもの、今以て公に贈る。幸に(八)之を愛護せよと。諸將、皆治長(九)の故を以て、鞅鞅として樂しまず。皆重成の意の如し。

(一) 姉婿　(二) 城中の近頃の有様はまた少しも望みなし　(三) ふるきなじみ　(四) 反心をいだくは良心に恥づる所　(五) 少しも望みなし　(六) おぶる　(七) しくじりたる事なし　(八) 此刀を大切に所藏せられよ　(九) 治長の專恣なる故を以て不愉快なり

所ニ聊頼一。且因循在レ此。特願ニ速戰死一。復何言哉。此刀。僕所ニ常佩服一。經ニ數十戰一。未ニ嘗蹉跌一者。今以贈レ公。幸愛ニ護之一。諸將皆以ニ治長之故一。鞅鞅不レ樂。皆如ニ重成意一。

兩將軍既至ニ京師一。大坂間細狙ニ擊之一。皆不レ成。乃遣ニ大野道見一。縱ニ火界浦一。奪ニ東軍據貲一。遣ニ大野治房一。以ニ萬人一入ニ大和一。攻ニ郡田一。走ニ其守將筒井定慶一。聞下淺野氏發ニ紀伊軍一至上。因誘ニ其國民一乘レ虛起レ兵。紀伊軍乃還救。治房尾レ之。先鋒塙直次戰ニ于樫井一戰死。治房赴援。不レ及。

兩將軍、既に京師に至る。大坂の間細(一)之を狙擊す。皆成らず。乃ち大野道見を遣し、火を界浦に縱ちて、東軍の據貲(二)を奪ひ、大野治房を遣し、萬人を以て大和に入り、郡山を攻めて、其守將筒井定慶を走らす。淺野氏紀伊の軍を擧げて至ると聞き、因りて其國民を誘ひ、虛に乘じて兵を起さしむ。紀伊の軍乃ち還り救ふ。治房之に尾す。先鋒塙直次、樫井に戰ひて戰死(三)す。治房赴き援ふ。及ばず(四)。

(一)間諜 (二)頼みに思ふ軍需品を奪ひ (三)標註「戰字按ずるに而字なるべし」 (四)間に合はず

既而東軍來レ自ニ大和河內一。水野勝成藤

既にして東軍、大和・河內より來る。水野勝茂・藤堂高虎・井伊直孝・伊達政宗先鋒たり。諸隊長、前議を執りて、之を南郊に迎へんと欲す。基次可かずして曰く、

堂高虎井伊直孝伊達政宗爲二先鋒一。諸隊長執二前議一。欲レ迎二之南郊一。基次不レ可曰。野戰勝敗。以二衆寡一決。今以レ寡擊レ衆。不レ若レ邀二之險阻一。臣請以二萬人一扼二國府嶺一。擊二挫下其先鋒一。先鋒已挫。後軍必退。頓二南都郡山一。不レ能二輒進一。吾因二其變一。以制二其勝一。至レ受三大軍於二曠原一。所二臣ノ不レ知也。

野戰(一)の勝敗は、衆寡を以て決す。今、寡を以て衆を擊つ。之を險阻に邀ふるに若かず。臣請ふ、萬人を以て國府嶺を扼し、擊ちて其先鋒を挫かん。先鋒已に挫けば、後軍必ず退き、南都・郡山に頓(二)し、輒く進む能はじ。吾れ其變に因りて、以て其勝を制せん。大軍を曠原(三)に受くるに至りては、臣の知らざる所なりと。之に從ひ、基次に兵一萬四千を授け、平野に陣し、又薄田兼相・渡部尚を遣して之に繼がしむ。兩將軍、人をして基次を誘はしめて曰く、苟も東兵(四)を啓かば、則ち封ずるに播磨を以てせんと。基次、拜謝して曰く、今、東西勝を決す。西強く東弱からしめば、則ち東に歸せん。今東強く西弱し。弱を去り強に就くは、臣の恥づる所なり。然りと雖も東旨の辱きも、亦報いざるべからず。報ゆるに速かに死するを以てせん。臣速かに死せば、城も亦速かに陷らん。報ゆる所以なりと。

(一) 原野の戰爭　(二) とゞまる　(三) 廣き原　(四) 關東の兵を手引せば

從レ之。授二基次兵一萬四千一。陣二平野一。又遣二薄田兼相渡部尙一繼レ之。兩將軍使三人誘二基次一曰。苟啓二東兵一。則封以二播磨一。基次拜謝曰。今東西決レ勝。使二西强東弱一。則歸レ東矣。今東强西弱。去レ弱就レ强。臣之所レ恥也。雖レ然。東旨之辱。亦不レ可レ不レ報。報以二速死一。臣速死。城亦速陷。所二以報一也。

五月。五日。基次勒レ兵夜發。失レ道出二古市一。軍士恂懼。基次曰。此地據レ林臨レ水。戰守皆便。宜二飮レ馬以待一レ旦。旦日。治長出助二基次一。幸村陣二道明寺一。重成陣二若江一。盛親陣二矢尾一。基次不レ知三敵有二從繼一。不レ告レ衆而進。至二片山一。與二水野勝成一遇。擊

五月五日、基次、兵を勒して夜發す。道を失ひて古市に出づ。軍士、恂懼す(一)。基次曰く、此地林に據り水に臨む。戰守皆便なり。宜しく馬に飮かひて以て旦を待つべしと。旦日、治長出でて基次を助く。幸村は道明寺に陣し、重成は若江に陣し、盛親は矢尾に陣す。基次敵に後繼(二)あるを知らず。衆に告げずして進み、片山に至りて、水野勝成と遇ひ、擊ちて之を破る。尙・兼相來り援ふ。連戰未だ決せず。陸奥・美濃・伊勢の諸軍、基次を夾擊す。基次、盡く其兵を亡ひ、十一騎を以て山腹(三)に在り。使をして兼相に訣せしめて曰く、子、之を勉めよ。吾れ將に死せんとするなりと。乃ち復た進み、銃に中りて殪れ、還りて柏原に至りて死す。兼相も前役の敗を恥ぢ、亦奮擊して死す。治長來り援ひ、大に敗れ、大谷吉胤戰沒す。幸村急を聞きて馳せ至る。尙、人をして迎へて之に告げしめて曰く、吾が

破之。尙兼相來援。連戰未決。陸奧美濃伊勢諸軍夾擊基次。基次盡亡其兵。以十一騎在山腹。使三使訣兼相曰。子勉之。吾將死也。乃復進。中銃殪。還至柏原死。兼相恥前役之敗。亦奮擊而死。治長來援。大敗。大谷吉胤戰沒。幸村聞急馳至。尙使人迎而告之曰。吾衆創殘。子請承之。幸村諾而進。橫邀陸奧軍。

衆の創殘(四)、子、請ふ、之を承けよと。幸村諾して進み、横に陸奧の軍を邀ふ。

(一) おそる　(二) 後詰　(三) 山の中腹　(四) 創つきそこなはれたる後

陸奧軍長騎戰。勁騎八百。馬上發銃。乘烟馳突。無不摧破。伊達氏每以此得志於東國。幸村諳知之。乃引兵上譽田東阜。阜中有凹處。就而布陣。命其兵皆脫胄委槍。坐

陸奧の軍、騎戰(一)に長ず。勁騎(二)八百、馬上にて銃を發し、烟に乘じて馳突し、摧破せざるなし。伊達氏毎に此を以て志を東國に得。幸村之を諳知(三)す。乃ち兵を引きて譽田の東阜に上る。阜中に凹處あり。就きて陣を布く。其兵に命じて、皆冑を脫ぎ槍を委し(四)て、坐して以て指麾を俟たしむ。陸奧の軍稍近づく。幸村令して曰く、冑せよと。相去ること數十步に及ぶ。令して曰く、槍を執れと。敵、銃を發し且つ馳せ至る。槍に遇ひて沮む。又令して曰く、皆起てと。敵兵、大に潰えて走る。幸村、轉じて南阜に陣し、兵を收めて、尙と更〻殿して退く。盛親矢尾堤に上り、藤堂氏の旗を望み、乃ち退きて堤下に伏す。敵の先鋒の一將、以爲へらく走

以俟ニ指麾一。陸奥軍稍近。幸村令曰。肯。及ニ相去數十步一。令曰。執ㇾ槍。敵發ㇾ銃且馳至。遇ㇾ槍而沮。又令曰。皆起。敵兵大潰而走。幸村轉ニ陣南阜一。收ㇾ兵。與ㇾ向

ると。田を徑りて堤に上れば、則ち盛親大に呼びて起ち、撃ちて之を走らす。重成の(五)游兵も亦來り援け、遂に其二將を斬る、重成、井伊直孝と、若江堤に相拒ぎ、撃ちて其前隊を破り、重成、槍を揮ひて(六)挺進す。向ふ所皆靡く。敵將山口重信等三十餘人を斬る。而して其兵死傷略ぼ盡く。乃ち隴に據りて息ふ。敵、生兵を以て之に乘ず。

(一)馬上の戰爭　(二)強き騎兵　(三)よく知る　(四)槍を手よりはなつ　(五)遊軍　(六)衆に拔んでて進む

更殿而退。盛親上ニ矢尾堤一。望ニ藤堂氏旗一。乃退伏ニ堤下一。敵先鋒二將以爲走也。徑ㇾ田上ㇾ堤。則盛親大呼起。擊走ㇾ之。重成游兵亦來援。遂斬ニ其二將一。重成與ニ井伊直孝一相ニ拒若江堤一。擊破ニ其前隊一。重成揮ㇾ槍挺進。所ㇾ向皆靡。斬ニ敵將山口重信等三十餘人一。而其兵死傷略盡。乃據ㇾ隴而息。敵以ニ生兵一乘ㇾ之。

飯島某捉ニ重成一曰。盍ㇾ還ㇾ城。重成掉ㇾ頭而

飯島某、重成を捉めて曰く、盍ぞ城に還らざると。重成、頭を掉りて進み、遂に之に死す。直孝の(一)部兵、其頭を取りて、之を前將軍に獻ず。前將軍之を檢す。

進。遂死レ之。直孝部兵取二其頭一。獻二之前將軍一。前將軍檢レ之。冑纓無レ餘。而頭髮有レ香。前將軍歎惜曰。是預決レ死也。重成伯父宗明戰二于山田村一。敗退。井伊氏藤堂氏合レ勢逼二盛親一。盛親亦敗退。増田盛次止戰。盛次。長盛子也。嘗仕二尾張一。前役從二東軍一。東軍勝則憂。敗則喜。是役。入レ城屬二盛親一。以二父猶在一不レ名而死。盛親與二幸村等一自二平野一退。縱二火聚落一而入レ城。

冑纓(二)に餘なくして、頭髮に香あり。前將軍歎惜して曰く、是れ預め死を決せるなりと。重成の伯父宗明山田村に戰ひ、敗退す。井伊氏・藤堂氏、勢を合せて盛親に逼る。盛親も亦敗退す。増田盛次止り戰ふ。盛次は長盛の子なり。嘗て尾張に仕へ、前役に東軍に從ふ。東軍勝てば則ち憂へ、敗るれば則ち喜ぶ。是の役に、城に入りて盛親に屬す。父猶ほ在るを以て、名のらずして死す。盛親、幸村等と、平野より退き、火を聚落(三)に縱ちて城に入る。

(一) 部下の兵　(二) 冑の紐を結びたる處（忍びの緒）を切り取りて頭髮に香の匂ひあり、死を決したるせり　(三) 村落

三處之軍皆敗。將帥多死。城中失レ色。諸

三處の軍皆敗れ、將帥多く死す。城中、色を失ふ(一)。諸將議して曰く、今日、期會皆失し、各〻自ら戰を爲す。志を得ざる所以なり。明日、諸軍、力を合

將議曰。今日期會皆失。各自爲レ戰。所三以不レ得レ志。明日諸軍合レ力一戰。可三以決二雌雄一也。秀頼諮二之幸村一。幸村曰。臣請陣二茶臼山一以誘レ敵。明石掃部自二川場一出二今宮之南一。擧二火敵背一。夾二擊其中軍一。而主公建二旗鼓一繼レ之。事或克矣。從レ之。旦日。幸村與二渡部尙大谷吉之等一。出陣二茶臼山一。森勝永竹田永應陣二天王寺南一。郡良列執二桐號牙旗一在二其後一。治長與二七隊長一陣二毘沙門池南一。治房與二御宿政友一陣二岡山一。津川左近執二金瓢馬表一在二其後一。東軍彌二漫山野一。左右並進。前將軍統レ左。將軍統レ右。少將忠直前田利光本多忠朝小笠原秀政等爲二先鋒一。

せて一戰し、以て雌雄を決す可きなりと。秀頼之を幸村に諮る。幸村曰く、臣請ふ茶臼山に陣して以て敵を誘はん。明石掃部、川場より今宮の南に出で、火を敵の背に擧げ、其中軍を夾擊して、主公旗鼓を建てて之に繼がば、事或は克たんと。之に從ふ。旦日、幸村、渡部尙・大谷吉之等と、出でて茶臼山に陣し、森勝永・竹田永應天王寺の南に陣す。郡良列、(二)桐號の牙旗を執りて其後に在り。治長、七隊長と、毘沙門池の南に陣し、治房、御宿政友と、岡山に陣す。津川左近、金瓢の馬表を執りて其後に在り。東軍、(三)山野に彌漫し、左右並び進む。前將軍は左を統べ、將軍は右を統ぶ。少將忠直・前田利光・本多忠朝・小笠原秀政等、先鋒と爲る。

(一) 顔色を變ふ　(二) 桐の紋の大將の旗　(三) 山野にみちわたる

前將軍召二候騎一問二敵狀一。對曰。其陣甚堅。又待二秀賴親出一。頗有二鬪志一。乃命二質子大野治德一作レ書。贈二其父治長一。治長時巡視至二茶臼山一。幸村曰。天下之事。決二於今日一。公宜下促二主公一出上。主公出則軍氣自倍。川場軍亦當レ赴レ期。治長諾而反レ城。則秀賴已在二櫻門一。擐二緋甲一。穿二錦袍一。

前將軍、候騎(一)を召して敵狀を問ふ。對へて曰く、其陣甚だ堅し。又秀賴の親ら出づるを待ち、頗る鬪志ありと。乃ち質子大野治德に命じて書を作り、其父治長に贈らしむ。治長、時に巡視して茶臼山に至る。幸村曰く、天下(二)の事、今日に決す。公、宜しく主公を促し出づべし。主公出では則ち軍氣自ら倍し、川場の軍も亦當に期に赴くべしと。治長諾して城に反れば、則ち秀賴已に櫻門に在り。緋(三)甲を擐し、錦袍を穿ち、千槍十旒(四)、左右に列を成し、馬に鞍して俟つ。秀吉東征の儀の如し。將士踴躍(五)す。俄かにして治德の書至る。曰く、聞く、城中に內應を約する者あり。右府の出づるを俟ちて事を擧げんと欲す。謹みて出づる勿れと。治長、危懼し、秀賴を止めて又往き、幸村と議せん欲す。東軍の左先鋒已に來り逼る。勝永等、銃手を以て相挑む。幸村之を止め、高きに登りて望みて曰く、中軍何ぞ來らざると。因りて其子大助を召して曰く、吾が族東に在り。治長、常に我を猜ふ。我れ當に此に死すべし。汝往きて右府に侍して、以て我が貳心(六)無きを明

千槍十旗。左右成レ列。鞍レ于レ馬而侯。如二秀吉東征之儀一。將士踴躍。俄而治德書至。曰。聞城中有下約二內應一者上。欲下侯二右府出一擊上事。謹勿レ出。治長危懼。止二秀賴一而又往。欲下與二幸村一議上。東軍左先鋒已來逼。勝永等以二銃手一相挑。幸村止レ之。登レ高而望曰。中軍何不レ來也。因召二其子大助一曰。吾族在レ東。治長常猜レ我。我當レ死レ於レ此。汝往侍二右府一。以明三我無二貳心一。大助時年十六。請二止俱死一。幸村叱曰。汝而死。誰明二我志一。盍レ殉二右府一乎。大助攬レ涕而去。敵兵益逼。而中軍及川場兵皆不レ至。幸村謂二大谷吉之一曰。事皆睽矣。是我死日已。麾レ兵而進。縱橫血戰。敵衆交至。幸村終死レ之。年四十六。吉之等皆死。

かにせよと。大助時に年十六なり。止りて倶に死せんと請ふ。幸村、叱して曰く、汝にして死せば、誰か我が志を明かにせん。盍ぞ右府に殉ぜざるかと。大助、涕を攬して去る。敵兵益〻逼る。而して中軍及び川場の兵皆至らず。幸村、大谷吉之に謂ひて曰く、事皆睽く。是れ我が死日のみと。兵を麾きて進み、縱橫血戰す。敵衆交〻至る。幸村終に之に死す。年四十六なり。吉之等皆死す。

㈠ 斥候の騎兵　㈡ 天下の大事今日にきまる　㈢ 緋縅のよろいかぶとに錦の陣羽織を著し　㈣ 旗一に旌に作る　㈤ をどりあがりて勇む　㈥ 二心なきことを證明せよ

御宿政友初

御宿政友、初め越前に仕へ、後に大坂に歸す。是に於て書を忠直に遣りて曰く、

仕二越前一。後歸二大坂一。於レ是遺二書忠直一曰。臣無二善馬一。君猶記二舊情一。則願賜二一匹一。以戰死。忠直予レ之以レ馬。政友騎焉。自二岡山一至二幸村營一。則戰已酣矣。曰。此亦不レ可二以死一乎。躍レ馬冒レ陣而死。勝永與二忠朝一戰。擊大破レ之。斬二忠朝一。遂助二永應一與二秀政一戰。又斬レ之。明石守重以二驍騎三百一

臣に善馬無し。君猶ほ舊情（一）を記せば、則ち願はくは一匹を賜へ。以て戰死せんと。忠直之に予ふるに馬を以てす。政友騎し、岡山より幸村の營に至れば、則ち戰已に酣（二）なり。曰く、此も亦以て死す可からざらんやと。馬を躍らせ陣を冒して死す。勝永、忠朝と戰ひ、擊ちて大に之を破り、忠朝を斬り、遂に永應を助け、秀政と戰ひて、又之を斬る。明石守重、驍騎三百を以て、川場より約に赴き、東將水野勝成と遇ひ、交綏（三）して南す。茶臼山の敗を聞き、則ち轉じて生玉に出で、安部氏・高木氏と戰ひ、利あらずして走る。東軍の右先鋒岡山に逼る。治房擊ちて其先隊を破り、轉じて將軍の麾下に逼る。勝永、永應も亦前將軍の麾下を犯す。井伊氏・藤堂氏、勝永を横擊（四）す。勝永退き、治長の軍代り進み、要する（五）に銃手を以てす。遏むる能はず。七隊長邀へ戰ひて、之を走らす。時に日已に午を過ぐ。

（一）舊き交際を忘れずば　（二）眞最中なり　（三）兩軍互ひに退く　（四）横より擊つ　（五）鐵砲隊に一喰ーわ

自二川場一赴レ約。與二東將水野勝成一遇。交綏而南。聞二茶臼山敗一。則轉出二生玉一。與二安部氏高木氏一戰。不レ利而走。東軍右先鋒逼二岡山一。治房擊破二其先隊一。轉逼二將軍麾下一。勝永永應亦犯二前將軍麾下一。井伊氏藤堂氏橫二擊勝永一。勝永退。治長軍代進。要以二銃手一。不レ能レ過。七隊亰邀戰。走レ之。時日已適レ午。

前將軍使二人入レ城議レ和。曰。從二封大和一弭レ兵。淀君乃使三秀頼召二還治長及速水守久一。二人旋レ旗入レ城。諸軍望見。相驚擾曰。城中有レ變也。東軍乃齊進。城兵大潰。秀頼在二櫻門一。據二胡床一。迎二見治長守久一。大助

前將軍、人をして城に入りて和を議せしむ。曰く、封を大和に徙し兵を弭めんと。淀君乃ち秀頼をして、治長及び速水守久を召還せしむ。二人、旗を旋して城に入る。諸軍望み見て、相驚擾(一)して曰く、城中、變あるなりと。東軍乃ち齊しく進む。城兵、大に潰ゆ。秀頼、櫻門に在り。胡床(二)に據りて、治長・守久を迎見す。大助も亦至り、幸村の遺命(三)を敘ぶ。語未だ半ならずして、潰兵大に至る。秀頼曰く、我れ將に出で戰ひて死を決せんとすと。守久之を止めて曰く、潰兵路に塡つ。出で戰ふ可からず。徒に徒隷(四)の手に死せんよりは、寧ろ壁に嬰りて固守し、力窮りて死するも、未だ晩からずと爲すと。秀頼之に從ひ、返りて千席(五)館に坐す。東軍、鼓譟して城に逼る。城中之に應ずる者あり。大野治長の第を

亦至。敍㆓幸村遺命㆒。語未レ半。潰兵大至。秀頼曰。我將㆓出戰決㆒レ死。守久止レ之曰。潰兵塡レ路。不レ可㆓出戰㆒。徒死㆓徒隷手㆒。寧嬰レ壁固守。力窮而死。爲レ未レ晩也。秀頼從レ之。返坐㆓于千席館㆒。東軍鼓譟逼レ城。城中有㆓聽レ之者㆒。燹㆓大野治長第㆒。京口門先破。我庖人大隅某謀レ反。縱㆓火于㆒レ庖。延及㆓殿宇㆒。城兵大擾。諸門皆破。

燹く。京口門先づ破る。我が庖人㈥大隅某、反を謀り、火を庖に縱つ。延きて殿宇に及ぶ。城兵、大に擾れ、諸門皆破る。

㈠驚き亂る　㈡牀几に腰をかけて　㈢遺言のいひつけ　㈣下部　㈤千疊敷　㈥料理方

郡良列津川左近擎㆓馬標牙旗㆒。至㆓千席館㆒。駢跪稽首而言曰。臣等當レ死㆓于城外㆒。顧所レ掌表幟。先君所㆕以傳㆔於㆓主公㆒。五畿七道四海之外。苟有レ目者。莫レ不㆓觀而識㆒

郡良列・津川左近、㈠馬標、㈡牙旗を擎げて、千席館に至り、㈢駢跪稽首して言ひて曰く、臣等、當に城外に死すべし。顧ふに掌る所の表幟㈣は、先君㈤以て主公に傳ふる所にして、五畿・七道・四海の外までも、苟も目有る者、視て之を識らざるは莫し。之を敵人に委せば、傳觀㈦揺弄せられ、將に羞を萬世に貽さんとす。故に謹みて奉還㈥するのみと。良列將に自殺せんとす。顧みて守久に謂ひて曰く、去歳の役、吾れ策を獻じ、敵の前軍を襲ひて火を牙營に縱たんと欲せしも、而も公等聽かず。是れ終天㈧の憾なり。事已に此に至る。之を言ふも益無しと。因りて

之。委二之敵人一。傳觀播弄。將レ貽二羞萬世一矣。故謹奉還耳。良列將二自殺一。願謂二守久一曰。去歲之役。吾獻レ策。欲下襲二敵前軍一縱中火牙營上。而公等弗レ聽。是終天之憾。事已至レ此。言レ之無レ益。因卸レ甲。脫二其母衣一。置二之床上一曰。是先君之賜。今而致レ之。吾事畢矣。遂割レ腹死。其子兵藏又死。眞野宗信中島氏種相繼自殺。

甲を卸し、其母衣を脫ぎ、之を床上に置きて曰く、是れ先君の賜なり、今に(九)して之を致す。吾が事畢れりと。遂に腹を割きて死す。其子兵藏又死す。眞野宗信中島氏種相繼ぎて自殺す。

(一)馬印 (二)大將の旗 (三)ならびひざまづく (四)はたじるし (五)秀吉 (六)敵の手に渡したならば (七)それからそれと傳へ觀て手にとりあげていじくる (八)一生涯の遺憾とする處なり (九)只今是を御返し申上げます

野野村吉安將レ入二內城一。火熾。不レ可レ前。乃自三殺於二二城橋上一。堀田正高纔得レ歸レ第。手二刃妻子一而出。過三加賀兵

野野村吉安將に內城に入らんとす。火熾にして、前む可からず。乃ち二城の橋上に自殺す。堀田正高、纔かに第に歸ることを得、妻子を手刃して出づ。加賀の兵、廳に坌入(二)するに遇ひ、乃ち健鬪して死す。秀頼、淀君(一)を奉じ、將に天主閣に自殺せんとす。守久之を止めて曰く、勝敗は常なり。請ふ、暫く之を待てと。乃ち觀月樓より、東櫓に上れば、煙燄(三)隨ひて至る。治長、之を園莊の倉中に徙

坐二入于廳一。乃健闘而死。秀頼奉二淀片一。將レ自三殺于二天主閣一。守久止レ之曰。勝敗常也。請暫待レ之。乃自二觀月樓一。上レ于二東櫓一。煙燄隨至。治長從二之園莊倉中一。與二守久勝永一共護レ之。治長猶恃二和議一。致二書兩將軍一曰。羣臣願自殺以全二右府母子之命一。因使下人奉二夫人德川氏一送中致東軍上。東軍望取二夫人一。使三四將來監二護倉外一。命二片桐且元一錄二倉中人名一。欲レ出二秀頼母子一。四將發三銃於二倉中一以示レ絕。倉中皆哭。秀頼悽然。謂二守久勝永一曰。吾爲二太閤嫡子一。而至レ於レ此。天也。乃自刃而斃。年二十三。勝永剄レ之。

し、守久・勝永と共に之を護る。治長、猶ほ和議を恃み、書を兩將軍に致して曰く、羣君願はくは自殺して以て右府母子の命を全うせんと。因りて人をして夫人德川氏を奉じて東軍に送致せしむ。東軍既に夫人を取り、四將をして來りて倉外を監(四)護せしむ。片桐且元に命じて、倉中の人名を錄し、秀頼母子を出さんと欲す。四將、銃を倉中に發して以て絕(五)を示す。倉中皆哭す。秀頼、悽然(六)として、守久・勝永に謂ひて曰く、吾れ太閤の嫡子たり、而して此に至る、天なりと。乃ち自刃して斃ず。年二十三なり。勝永之を剄(七)す。

(一) 手づから殺して出づ　(二) 集り入る　(三) 烟とほのほとが後よりついて來る　(四) 倉の外に見張なしてまもらしむ　(五) 和議の破るゝことを示す　(六) いたみかなしみ　(七) 首をはぬ

淀君抱二秀頼首一悲號。使二氏家道喜殺一レ己。於レ是道喜。治長守久父子。勝永兄弟。津川左近。竹田永應。及堀。伊藤。成田。森島。加藤。高橋。土肥。寺尾。片岡。垣原。小室。淺井。中高等二十餘人。皆殉レ之。治長重成渡部尚並有レ母。與二北畠氏湯川氏等婦女十人一。皆死。

淀君、秀頼の首を抱きて悲號(一)し、氏家・道喜をして己を殺さしむ。是に於て、道喜、治道・守久父子・勝永兄弟・津川左近・竹田永應及び堀・伊藤・成田・森島・加藤・高橋・土肥・寺尾・片岡・垣原・小室・淺井・中高等二十餘人、皆之に殉す(二)。治長・重成・渡部尚、竝に母有り。北畠氏、湯川氏等の婦女十人と、皆死す。

(一) かなしみなげく (二) 皆秀頼に殉死す

秀頼之未レ死。眞田大助隨二其所一レ之。衆諭レ之曰。舊臣且有二逃者一。子客將之子。不二必殉一レ之。盍二出走一。對曰。我父命下

秀頼の未だ死せざるとき、眞田大助、其の之く所に隨ふ(一)。衆、之に諭して曰く、舊臣(二)且つ逃るゝ者有り。子は客將の子、必ずしも之に殉ぜざれ。盍ぞ出で走らざると。對へて曰く、我が父、我に必ず右府と偕に死せよと命ぜりと。終に倉外に就き、藁を藉きて坐し、食はざること一晝夜(三)、秀頼の死を俟ちて乃ち自殺す。

(一) 秀頼の行く處につきしたがふ (二) 舊く仕ふる臣 (三) 絶食すること一晝夜

我必與二右府一偕死。終就二倉外一。藉レ藁而坐。不レ食者一晝夜。俟二秀頼死一乃自殺。

東軍諸將爭赴二牙營一賀二戰捷一。小出三尹秀正子也。時侍二前將軍側一。前將軍指二城中火一謂レ之曰。如何。三尹瞥然俛レ首曰。臣不レ忍レ視。諸將或有二愧色一。秀頼有二一男一女一。皆庶出。未レ知二所在一。東軍懸レ金大索レ之。男名二國松一。甫八歲。與二其保田中某一匿二伏見農人橋畔一。或睹二其美質一也。捕而獻レ之。斬二于六條磧一。田中持レ之號慟。竟殉レ之。京極氏捕二獻其女一。蜂須賀氏捕二長曾我部盛親于二男山一。受レ命縛二之二條城西門一數日。斬レ于

東軍の諸將、爭ひて牙營(一)に赴き、戰捷を賀す。小出三尹は、秀正の子なり。時に前將軍の側に侍す。前將軍城中の火を指し、之に謂ひて曰く、如何と。三尹、瞥然(二)首を俛して曰く、臣視るに忍びずと。諸將或は愧色(三)有り。秀頼一男一女有り。皆庶出なり。未だ所在を知らず。東軍金を懸けて大に之を索む(四)。男を國松と名づく。甫めて八歲なり。其保田中某と、伏見農人橋の畔に匿る。或ひと、其美質(五)を睹て、捕へて之を獻ず。六條磧に斬らる。田中、之を持して號慟し、竟に之に殉す。京極氏捕へて其女を獻ず。蜂須賀氏、長曾我部盛親を男山に捕へ、命を受けて之を二條城の西門に縛すること數日にして、磧に斬り、徇へて之を梟す。

(一) 本陣　(二) ちらりと見　(三) はづかしき顏色有り　(四) 懸賞金を以て大に之をさがす　(五) 美はしきすがた

磔。徇而梟ㇾ之。

大坂市尹水原石見。匿二條城側。藤堂高虎捕ㇾ之。石見殺二三人一而死。渡部尙。與二治長一約ㇾ爲二後圖一。走二至近江一。聞二秀頼薨一。乃自殺。治長任子。後皆賜ㇾ死。治長弟治氏。初與ㇾ兄不ㇾ協。往仕二前將軍一。至ㇾ是自殺。使下人以二暴疾一聞上。治氏弟道見。磔二于界浦一。治

大坂の市尹(一)水原石見、二條城の側に匿る。藤堂高虎之を捕ふ。石見三人を殺して死す。渡部尙、治長と、後圖(二)を爲さんと約し、走りて近江に至る。秀頼薨ずと聞き、乃ち自殺す。治長の任子(三)は、後に皆死を賜ふ。治長の弟治氏は、初め兄と協はず、往きて前將軍に仕ふ。是に至りて自殺す。人をして暴疾(四)を以て聞せしむ。治氏の弟道見は、界浦に磔せらる。治氏の兄治房は、明石守重・仙石宗也と逃れ去る。伊東長次・清木一重は竝に赦さる。眞田眞村の妻、紀伊に在り。捕獻(五)せる所と爲る。亦赦されて髮を削りて尼と爲る。其餘の遺臣の遺臣七十二人、卒六百人、諸〻の出でし質、及び款を城中に通ぜし者は、皆誅夷せらる。増田長盛は、子の故を以て死(六)を配所に賜ふ。

(一) 町奉行 (二) 後のはかりごとを爲さんと約す (三) 父の御蔭にて官に任ぜられたる子、蔭子 (四) 急病 (五) 捕虜となりて差出さる (六) 流罪に處せられたる場所にて自殺を賜ふ

氏兄治房。與二明石守重仙石宗也一。逃去。伊東長次青木一重並被ㇾ赦。眞田幸村妻。在二紀伊一。爲ㇾ所二捕獻一。亦被ㇾ赦。剃ㇾ髮爲ㇾ尼。其餘大坂遺臣七十二人。卒六百人。諸出貫。及通二款城中一者。皆被二誅夷一。増田長盛以二子故一賜二死配所一。

兩將軍收二城內燼餘一。得二金二萬八千枚。銀二十四萬兩一。以二金馬各二一賜二井伊直孝藤堂高虎一。以賞二其功一。爲二片桐且元一置二邸駿府一。徙居焉。且元愧懣成ㇾ疾。未ㇾ至而卒。

兩將軍、城内の燼餘(一)を收め、金二萬八千枚、銀二十四萬兩を得、金馬各〻二を以て、井伊直孝・藤堂高虎に賜ひて以て其功を賞す。片桐且元の爲に邸を駿府に置き、徙り居らしむ。且元、愧懣(二)して疾を成し、未だ至らずして(三)卒す。

(一) 城内の燒跡を片附けて　(二) 愧ぢもだゆ　(三) 賜はりたる邸に至らぬ前に死す

是役也。加藤嘉明黑田長政皆請而從。木下利房立ㇾ功自贖。得ㇾ復二其邑一。松下重

是の役や、加藤嘉明・黑田長政皆請ひて從ふ。木下利房功を立てて自ら贖ひ、其邑を復することを得たり。松下重綱も亦功を以て其邑を益(一)すことを得たり。重綱の祖父之綱は、卽ち秀吉の微時(二)に仕へし所の者なり。之綱死し、子吉綱嗣ぐ。關原の役に、德川氏に屬す。其子を重綱と爲す。是に至りて、再び邑を益し、二

綱亦以レ功得レ益ニ其邑一。重綱祖父之綱。即秀吉微時所レ仕者也。之綱死。子吉綱嗣。關原之役。屬ニ德川氏一。其子爲ニ重綱一。至レ是再益レ邑。至ニ二萬石一。

萬石に至る。

(一) 軍功を立てゝ自ら罪をあがなひ　(二) 微賤の時

凡前後之役。豐臣氏舊臣從攻レ城者甚衆。獨福島正則不レ從。二年。前將軍薨。五年。正則褫レ封。放ニ于信濃一。時正則在ニ江戸邸一。將軍在ニ京師一。使ニ使者來就レ第傳一レ命。正則默然久レ之

凡そ前後の役(一)に、豐臣氏の舊臣の從ひて城を攻むる者甚だ衆し。獨り福島正則從はず。二年、前將軍薨ず。五年、正則、封を褫はれ、信濃(二)に放たる。時に正則江戸の邸に在り。將軍京師に在り。使者をして來りて第に就きて命(三)を傳へしむ。正則、默然たること之を久しくして曰く、前將軍をして在らしめば、則ち吾れ將に(四)一言せんとす。今復た何をか言はんと。乃ち起ちて内に入る。内中騷擾す。之を久しくして、其兩女子を挈げて出で、流涕して使者に謂ひて曰く、吾れ足下と死を決せんと欲するや、將に先づ女兒を殺さんとす。終に刃(五)を加ふるに忍びず。當に甘心(六)して命を受くべしと。因りて配所に赴く。將軍又使をして山陽●

田。使二前將軍在一。則吾將二一言一焉。今復何言。乃起入レ內。內中騷擾。久レ之。挈二其兩女子一出。流涕謂二使者一曰。吾欲下與二足下一決上レ死也。將三先殺二女兒一。終不レ忍レ加レ刃。當二甘心受一レ命。因赴二配所一。將軍又使下使率二山陽南海諸侯一。收中其封安藝備後上。其老臣留二守廣島城一。不二肯奉一レ命。俟二正則書至一。乃致レ城而去。其弟正賴爲二大和宇多城主一。先四年褫レ封。寬永八年。故加藤清正子忠廣。亦奪二其封肥後一。放二于出羽一。十四年。故小西行長遺臣起二兵肥前一。伏レ誅。

南海の諸侯を率ゐて、其封安藝・備後を收めしむ。其老臣、廣島城に留守し、肯へて命を奉ぜず。正則の書至るを俟ち、乃ち城を致して去る。其弟正賴は大和の宇多城主たり。先だつこと四年封を褫はる。寬永八年、故の加藤清正の子忠廣も、亦其封肥後を奪はれ、出羽に放たる。十四年、故の小西行長の遺臣、兵を肥前に起し、誅に伏す。

㊀大坂夏冬の戰爭に ㊁放逐せらる ㊂將軍の命令を申渡さしむ ㊃一言いはんとすることあり ㊄殺すに忍びず ㊅得心して命令に從ふ可し

豐臣氏既亡。有レ令毀二豐國廟一。獨存二東山

豐臣氏既に亡び、令有り、(一)豐國廟を毀ち、獨り東山の方廣寺及び高臺寺を存す。高臺は、北廳の建てて以て秀吉の(二)冥福を祈りし所なり。加藤・福島氏、其(三)親屬

方廣寺及高臺寺。高臺者。北廳所三建以新二秀吉冥福一也。加藤福島氏以二其親屬一助レ役。爲二秀吉一立二一小祠一。秀吉在時。雖レ有所レ嬖。皆置二之別宮一。獨與二北廳一同居。北廳。助二秀吉一定二天下一。多レ所二裨益一。常戒レ之曰。願良人勿レ忘二藁席瓦缸時一也。及二秀吉薨一則削レ髮。視二秀頼一猶二其自出一。使三親屬諸將輔二翼之一。未レ嘗與二關東一開レ釁。北廳與二諸將一前後皆沒。而秀頼孤立。以至レ於レ亡矣。高臺之祠。至レ今猶有二秀吉夫妻像一云。

を以て役を助く。秀吉の爲に一小祠を立つ。秀吉在りし時、嬖する所有りと雖も、皆之を別宮に置き、獨り北廳と同居す。北廳、秀吉を助けて天下を定め、裨益(四)する所多し。常に之を戒めて曰く、願はくは良人藁席瓦缸(五)の時を忘るゝこと勿れと。秀吉薨ずるに及び、則ち髪を削る。秀頼を視ること猶は其自出(六)のごとし。親屬諸將をして之を輔翼せしめ、未だ嘗て關東と釁を開かず。北廳、諸將と前後皆沒して、秀頼孤立し、以て亡ぶるに至る。高臺の祠、今に至りて猶ほ秀吉夫妻(七)の像ありと云ふ。

(一) 秀吉を祀りたるたまや (二) 死後の幸福、一本冥字無し (三) 豐臣氏の緣なるを以て建立をたすく (四) 内助の功多し (五) 藁の席缺德利にて結婚したる當時のことを (六) 自身出生の子の如し (七) 夫婦の像

外史氏曰。余遊二東山一。謁二三太閤像於二高臺之祠一。祠門蓋以二征韓艦材一造レ之云。嘗讀二韓人所レ紀。曰。明遣二使者一。窺二太閤。相貌。矮而黑。無二他異一。唯見四其目光烱烱射レ人。不三可二仰見一。今觀二其像一。如二信然者一。嗚呼。使下太閤生二於女眞靺鞨間一。而假レ之以上年。則烏知丁覆二朱明之國一者不丙待乙覺

外史氏曰く、余東山に遊び、太閤の像を高臺(一)の祠に謁す。祠門は蓋し征韓の艦(二)材を以て之を造ると云ふ。嘗て韓人の紀する所を讀む。曰く、明、使者を遣して、太閤の相貌(三)を窺はしむ。矮にして黑く、他の異なる無し。唯其目光、烱烱と(四)して人を射、仰ぎ見る可からざるを見るのみと。(五)今其像を觀るに、信に然る者の如し。嗚呼、太閤をして女眞、靺鞨の間に生れて、(六)之に假すに年を以てせしめば、則ち烏んぞ朱明(七)の國を覆へす者は、覺羅(八)氏を待たざるを知らんや。蓋し其人と爲り、酷だ秦皇(八)、漢武に肖て、而して雄才大略、遠く其右に出づ。夫れ漢武は豐富に乘じて、區宇を馭す。論ぜずして可なり。秦皇は六世の積威を挾みて、衰殘の六國を蹴す。太閤の徒手奮起して羣雄を制服するに孰與ぞや。然れども其民力を過用して、以て絕嗣(一〇)の禍を取るは、則ち秦と等し。彼累葉(一一)(一二)の烈に藉りて、猶ほ且つ免れず。況や匹夫を以て暴に起る者をや。

(一) 高臺寺　(二) 艦の材料　(三) すがた　(四) ぴかぴか　(五) 一本に余とあり　(六) 秀吉をして生存せしめば　(七)

羅氏哉。蓋其人酷肖秦皇漢武。而雄才大略遠出其右。夫漢武乘豐富。馭區宇。不論可也。秦皇挾六世之積威。蹶衰殘之六國。孰與太閤之徒手奮起制服羣雄。然過用其民力。以取絶嗣之禍者。則與秦等。彼藉累葉之烈。猶且不免。況以匹夫暴起者乎。

明朝の姓 (八) 清主の姓 (九) 秦の始皇帝漢の武帝 (一〇) 空手にてふるひおこり (一一) 何れがまされるか無論秀吉に及ばず (一二) 累世

然以匹夫得天下。非如承祖業而重失之者。土地非其固有。故不惜分其利也。人民非其固舊。故不愛用其力也。夫其不愛民力。固足以招危亡。而不惜地利。又不可以計

然れども匹夫を以て天下を得るは、(一)祖業を承けて之を失ふを重んずる者の如きに非ず。土地は其固有に非ず。故に其利を分つを惜しまざるなり。人民は其(二)固舊に非ず。故に其力を用ふるを愛しまざるなり。夫れ其の民力を愛しまざるは、固より以て(三)危亡を招くに足る。而して地利を惜しまざるは、又以て久安を計るべからず。此二者、其勢相持し、然して其禍相因るなり。然れども其初の速に天下を得る所以は、愛惜する所無ければなり。譬へば(四)閭巷の人、(五)博して大勝を獲るが如し。其をして勝たざらしめば、(六)一窶人のみ。苟も勝たんか、乃ち大に之を(七)揮霍し、其朋類を招き、(八)酔飽喧呼、務めて快を一時に取る。唯

久安。此二者。其勢相持。而其禍相因也。然其初之所以速得天下者。無所愛惜也。譬如閭巷之人博而獲大勝。使其不勝。一窶人耳。苟勝矣。乃大揮霍之。招其朋類。醉飽喧呼。務取快一時。唯然。故暴富而人不怨。太閤起人奴而主大國。固已踰其所望。乃遭遇變故。投機赴會。動得如意。皆初念之所不至。而四顧當時將帥。皆其儕輩。或其所不敢比肩。一旦立其上。而常恐其不服己也。

然り。故に暴に富みて、而して人怨まず。太閤、人奴より起りて大國に主たるは、固より已に其の望む所に踰ゆ。乃ち變故に遭遇し、機に投じ、會に赴き、動もすれば意の如くなるを得。皆初念の至らざる所、而して當時の將帥を四顧するに、皆其儕輩、或は其の敢て比肩せざる所なり。一旦其上に立ちて、常に其の己に服せざるを恐る。

(一) 先祖の成業を受けつぎて之を失はんことを恐れて大事を取る者と同じからず (二) 固よりなじみにあらず (三) 危く滅亡すること (四) 民間 (五) 博奕 (六) 一人の貧しき人 (七) 盛に使用し (八) 酒に醉ひ美食に飽き騒ぎ立て (九) 信長の死去 (一〇) よきはづみにつこみ (一一) 初に考へて居らぬ所

以爲吾由微賤而得司利權。苟自封殖

以爲へらく、吾微賤よりして利權を司るを得たり。苟も自ら封殖して人に分たずんば、人將に吾と爭はんとす。而して吾が志速に成る可からずと、故に膏腴を

而不分於人。人將吾爭。而吾志不可速成也。故割膏腴。頒金帛。動擧數州之地。以賞戰功。視之不啻如糞土。彼其鼓舞奔走一世之豪俊。以驟獲志於天下者。用此術也。然吾糞土授之。彼亦糞土受之。未嘗德我。而以爲當然。彼之所求無窮。而我之所有有盡。以有盡供無窮。其勢不得不取之於海外以塞之。

割き、金帛を頒ち、動もすれば、數州の地を擧げて以て戰功を賞す。之を視ること啻(三)に糞土の如きのみならず。彼其の一世の豪俊を鼓舞奔走せしめて、以て驟に志を天下に獲しは、此術を用ひたればなり。然れども吾糞土として之を授け、彼亦糞土として之を受く。未だ嘗て我を德(四)とせず。而して以て當然と爲す。彼の求むる所窮なくして、我の有する所盡くる(五)あり。盡くる有るを以て窮なきに供す。其勢(六)、之を海外に取りて以て之を塞がざるを得ず。

(一) 己をのみ利して (二) 肥えたる土地 (三) つまらぬもの (四) 有難しと思はず (五) 限りある土地を以際限なき望をみたす (六) 土地を他國より取りて限りなき望を滿たさざる可からず

於是七道之民。裹其未愈之瘡痍。以趨

是に於て、七道の民、其の未だ愈えざるの瘡痍(一)を裹みて、以て知る可からざるの地に趨き、連年成る所なくして、其力竭きたり。而して枵肉(二)未だ冷ならざるに、

不レ可レ知之地一。連年無レ所レ成。而其力竭矣。而柩肉未レ冷。羣雄各有二自立之心一。蓋無二足レ怪者一。故太閤之不レ愛二民力一。由四其不三惜二地利一。而其禍遂至レ於レ此。皆其自取爾。雖レ然以二太閤之雄才大略一。八歳定二六十餘國一。則以二其餘力一逞二之海外一。固其宜也。豈唯太閤爲レ然。當時猛將謀夫雄傑之士。布二滿天下一。天下已集。而其桀驁巧狙。喜レ事好レ功之心。猶未レ已也。譬二之鷙鷹俊狗一。其噬嚙搏擊之力。用而有レ餘。則必至レ逼レ人。

羣雄各〻自立の心あり。蓋し怪しむに足る者なし。故に太閤の民力を愛しまざるは、其の地利を惜しまざるに由る。而して其禍遂に此に至る。皆其(三)自ら取れるのみ。然りと雖も、太閤の雄才大略を以て、八歳に六十餘國を定むれば、則ち其餘力を以て之を海外に逞しくするは、固より其れ宜なり。豈に唯太閤のみ然りと爲さんと。當時の猛將、謀夫、雄傑の士、天下に布滿(四)す。天下已に集りて、其傑驁巧狙(五)、事を喜び、功を好むの心、猶ほ未だ已まざるなり。之を鷙鷹俊狗(六)に譬へんに、其噬嚙搏擊(七)の力、用ひて餘有れば、則ち必ず人に逼る(八)に至る。

(一)きず　(二)死して間もなきに　(三)其の禍は皆自から出かしたるのみ　(四)一杯に滿つ　(五)わる強き者わるがしこきもの　(六)つよき鷹すばやき犬　(七)嚙みあひ打ち合ふ力　(八)鷙鷹俊狗が人に逼る

故朝鮮之役。是令三天下羣雄肆二其噬齧搏擊一。以殺二其力一者也。然徒殺二其力。而使二其無レ所レ獲。則彼將下不二復我之馴服一而反施中其噬齧搏擊於上レ我。嗚呼。養レ之而不レ得二其術一。安往而可也。能飽レ之而不レ能レ節レ之。能發二縱指三示之一。而不レ能二收而寧レ之。故太閤之於二羣雄一。苟制二服之一時一耳。豈長久之計哉。其所三以速得二天下一。乃其所二以速失レ之也。梁武帝有レ言。自レ

故に朝鮮の役に、是れ天下の羣雄をして其噬齧搏擊(一)を肆にして、以て其力を殺ぐ者なり。然れども徒に其力を殺ぎて、而して其をして獲る所無からしめは、則ち彼將に復我に馴服せずして、反りて其噬齧搏擊(二)を我に施さんとす。嗚呼、之を養ひて、其術を得ず。安にか往きて可ならんや。能く之を飽かしめて、之を節(三)する能はず。能く之を發(四)縱指示して、收めて之を寧んずる能はず。故に太閤の羣雄に於けるは、苟に之を一時に制服するのみ、豈に長(五)久の計ならんや。其の速に天下を得る所以は、乃ち其の速に之を失ふ所以なり。梁の武帝言へる有り。吾より之を得て、吾より之を失ふ。復恨むる所無しと。則ち太閤其れ亦恨むる所無きか。

(一) かみあひうちあひを勝手にさして (二) 使嗾したるものにしかく (三) 程よくすること能はず (四) 先導して向ふ所を示す (五) 永遠の良計ならず

吾得レ之。自レ吾失レ之。無二復所一レ恨。則太閤其亦無レ所レ恨耶。

我德川氏。出レ於二新田義重一。義重者。淸和天皇八世裔也。天皇之孫經基。始賜二姓源氏一。降爲二武臣一。其玄孫義家。義家子義國。居二上野一。食二新田足利諸邑一。生二義重。及義康一。義重氏二

卷十八

德川氏正記

德川氏一

我が德川氏は、新田義重より出づ。義重は淸和天皇八世の裔(一)なり。天皇の孫經基、始めて姓を源氏と賜ひ、降りて武臣(二)と爲る。其玄孫(三)は義家なり。義家の子は義國、上野に居りて、新田・足利の諸邑を食む。義重及び義康を生む。義重は新田を氏とし、義康は足利を氏とす。共に宗子(四)源頼朝を助け、王命を以て平氏を討滅す。頼朝征夷大將軍と爲り、府を關東に開き、義重をして寺尾城を守らしむ。義重に五男あり。其第四を義季と曰ふ、義季、德川邑を食む。(五)因りて氏とす。德川四郎と稱す。義季、頼氏を生む。頼氏從五位下に叙し、參河守に任ぜられ、世良田を食む。因りて又世良田氏と號す。頼氏、教氏を生み、教氏、家持

新田。義康氏ニ足利。共助ニ宗子源頼朝。以ニ王命ー討ニ滅平氏。賴朝爲ニ征夷大將軍。開ニ府關東。令三義重守ニ寺尾城。義重有ニ五男。其第四曰ニ義季。義季食ニ德川邑。因氏焉。稱ニ德川四郞。義季生ニ賴氏。賴氏敍ニ從五位下。任ニ參河守。食ニ世良田。因又號ニ世良田氏。賴氏生ニ敎氏。敎氏生ニ家持。家持生ニ滿義。滿義生ニ政義。政義生ニ親季。

を生み、家持、滿義を生み、滿義、政義を生み、政義、親季を生む。

(一) 子孫 (二) 武家 (三) ひまごの子、やしやご (四) 本家の子 (五) 領邑の名の德川なるを以て氏とす

當ニ是時。宗子新田義貞奉ニ後醍醐帝詔旨。討ニ北條氏于ニ鎌倉。滿義助レ之。自ニ稻村崎ー入。擊ニ破賊將安東昌貫。北條氏既滅。足利尊氏反。天下武人皆黨レ之。獨新田氏擧族勤レ王。官軍數失レ利。帝播ニ遷南山。義貞戰沒。宗黨多死ニ王事。帝崩。遺詔益眷ニ新田氏。以圖ニ恢復。後村上帝嗣立。

是の時に當りて、宗子新田義貞、後醍醐帝の詔旨を奉じて、北條氏を鎌倉に討つ。滿義之を助け、稻村崎より入りて、賊將安東昌貫を擊ち破る。北條氏既に滅び、足利尊氏反し、天下の武人、皆之に黨す。獨り新田氏擧族、王に勤む。官軍數〻利を失ひ、帝南山に播遷す。義貞、戰沒し、宗黨多く王事に死す。帝崩ず。遺詔して、益〻新田氏を眷して、以て恢復を圖らしむ。後村上帝嗣ぎて立つ。

(一) 一族悉く朝廷の爲に忠勤を盡す (二) 遁れ移る (三) 深く思召して天下の恢復を計劃せしむ

義貞子義興義宗。擧二義上野信濃間一。不レ克。死。政義父子蓋殉レ之矣。尊氏孫義滿爲二征夷大將軍一。開二府京師一。以二族氏滿一管二領關東一。親季子曰二有親一。爲二右京亮一。元中中。同二宗族一從二義宗子貞方一。匿二信濃一。爲二氏滿所一レ覺。遣レ兵鏖レ之。有親與二貞方一脱走。入二陸奥一。起レ兵。氏滿大兵來擊。我衆潰。有親挈二其二子一。逃入二上野祝人村一。匿二舊識民家一。聞下鎌倉執事上杉氏遣レ吏募二索新田氏族一甚急上。欲下手二刃二子一而自殺上。會僧尊觀來過。變二容貌一。從レ之而西。

義貞の子義興・義宗、義を上野・信濃の間に擧げ、克たずして、死す。政義父子、蓋し之に殉す。尊氏の孫義滿、征夷大將軍と爲り、府を京師に開き、族氏滿を以て關東を管領せしむ。親季の子を有親と曰ふ。右京亮と爲る。元中(一)中、宗族と同じく義宗の子貞方に從ひて、信濃に匿る。氏滿の覺る所と爲り、兵を遣して之を鏖にす。有親、貞方と脱走(二)し、陸奥に入りて、兵を起す。氏滿の大兵來り擊ちて、我が衆潰ゆ。有親、其二子を挈へ、逃れて上野の祝人村に入り、舊識(三)の民家に匿る。鎌倉の執事上杉氏、吏を遣して新田氏の族を募り索むること甚だ急なりと聞き、二子を手刃して自殺せんと欲す。會ゝ僧尊觀來り過ぐ。(四)容貌を變じ、之に從ひて西す。

(一) 後醍醐天皇の年號　(二) 脱れはしる　(三) 舊知己　(四) 姿をかへて尊觀に連れられて西に行く

尊觀者。蓋後村上帝子。帝無レ子。養二龜山帝孫恆明一。及二帝生一レ子。恆明避爲レ僧。是爲二尊觀一。後爲二相摸藤澤寺主一。周二游諸國一。謂二新田氏先朝所一レ眷也。爲謀レ所三以保二護之一。乃權以二有親及其長子一。爲二已徒弟狀一。有親呼二德阿彌一。長子呼二長阿彌一。皆削レ髮。少子猶幼。未レ削レ髮。呼二德壽一。竝

尊觀は蓋し後村上帝の子なり。帝、子なし。龜山帝の孫恆明を養ふ。帝、子を生むに及びて、恆明避けて僧と爲る。是を尊觀と爲す。後に相摸の藤澤寺の主(一)と爲り、諸國に周游す。(二)新田氏は先朝の眷する所なるを謂ひて、爲に之を保護する所以を謀る。乃ち權に有親及び其長子を以て、己が徒弟(三)の狀と爲し、有親な德阿彌と呼び、長子を長阿彌と呼び、皆髪を削る。少子は猶ほ幼なり。未だ髪を削らず。德壽と呼ぶ。竝に之を攜へて去り、參河を過り、大濱村の寺に寓す。時に連歌を尙ぶ。寺僧近村の諸豪(四)と歌會を爲して以て尊觀を樂しましむ。松平・酒井兩村の長も亦與る。而して長阿彌は書手(五)に充て、德壽は周旋(六)して事を執る。兩村長、德壽の容止(七)を熟視し、相語りて曰く、是れ凡種(八)に非ざるなりと。微(九)に之を尊觀に叩く。尊觀、其の他なきを察し、具に語るに故を以てす。村長皆女ありて男なし。分ちて二子を贅(一〇)せんと欲す。尊觀之を許す。是に於て、德壽は松平氏に養はる。長ずるに及びて、名を泰親と命ず。室を松平村に築きて、以て有親を奉

攜之去。過參河。寓大濱村寺。時倚連歌。寺僧與近村諸豪爲歌會。以娛尊觀。松平酒井兩村長亦與焉。而長阿彌充書手。徳壽周旋執事。兩村長熟親徳壽容止。相語曰。是非凡種也。徹叩之尊觀。尊觀察其無他。具語以故。村長皆有女無男。欲分贅二子。尊觀許之。於是徳壽贅於松平氏。及長。命名泰親。築室松平村。以季有親焉。長阿彌亦蓄髪。名親氏。稱雅樂助。後生子廣親。是爲酒井氏也。

ず。長阿彌も亦髪を蓄へて、親氏と名づけ、雅樂助と稱す。後に子廣親を生む。是を酒井氏と爲す。

(一)めぐりあるく (二)後村上帝の目をかけ愛したることを心中に思ひ (三)弟子のありさま (四)諸豪族と連歌會を開きて (五)書記 (六)奔走して世話をなす (七)起居動作 (八)普の素姓ならず (九)内々尊觀に素姓を正す (一〇)入聟

泰親養父信重稱太郎左衞門。泰親襲稱之。爲村長。闢莾莾。達道路。性壯武。喜

泰親の養父信重を太郎左衞門と稱す。泰親襲ぎて之を稱す。村長と爲り、榛(一)莾を闢き、道路を達す。性壯武にして、施を喜び、貧民に振貸(二)して、償を責めず。隣近親附(三)す。泰親因りて從容として衆に謂ひて曰く、吾れ仇敵に迫蹙せられて、流寓(四)此に至り、稍〻安處(五)を得たり。願はくは歳月を積み、地を闢き衆を聚

施。振二貧民一。而不レ責レ償。隣近親附。泰親因従容謂レ衆曰。吾爲二仇敵追蹙一。流寓至レ此。稍得二安處一。願積二歳月一。闢レ地聚レ衆。興二復先業一。諸君能助レ我乎。衆對曰。敢不二死生以レ之。其中有二嘗有レ罪宥レ死者五人一。糾レ衆略二中山七邑一。獻レ之。泰親分二其歳入一賞レ之。新田氏遺臣稍多二來從者一。後花園帝永享中。大納言平實照以レ罪貶二參河一。泰親善視レ之。及二其赦歸一。護入二京師一。實照爲奏二請授二一官一。朝廷憚二足利氏一。不二輒許一。後勅除二州目代一。逐任二參河守一。敍二五位下一。復二世良田氏一。

め、(六)先業を興復せん。諸君能く我を助くるかと。衆對へて曰く、敢て死生之を以てせざらんやと。其中に嘗て罪ありて死を宥されしもの五人あり。衆を糾して中山の七邑を略して、之を獻ず。泰親、其歳入を分ちて之を賞す。新田氏の遺臣、稍〻來り從ふ者多し。後花園帝の永享中、大納言平實照、罪を以て參河に貶せらる。泰親善く(七)之を視る。其赦され歸るに及び、護して京師に入る。實照、爲に一官を授けんと奏請す。朝廷、足利氏を憚りて、輒ち許さず。後に勅して州の目代に除し、遂に參河守に任ず。從五位下に敍せられ、世良田氏に復す。

(一) 未開の地を開墾し道路をひらく　(二) 貧民に貸與して返濟を望まず　(三) 親みつく　(四) さまよひあるきて　(五) 少しく安心の場所に居るを得たり　(六) 新田の先業をおこしとりかへさん　(七) 善く世話をする

泰親有二六男一。使三長子信廣襲居二松平村一。謂二次子信光武類一レ己。以爲レ嗣。幼字次郎三郎。初守二岩津一。嗣立居二岡崎一。稱二和泉守一。善用レ兵。攻二大給北給一幷レ之。又襲取二安祥一。寛正六年。額田民作レ亂。州守護細川成之不レ能レ定。幕府下三敎於二和泉守一。一戰平レ之。

泰親に六男あり。長子信廣をして、襲ぎて松平村に居らしむ。次子信光の武、(一)己に類すと謂ひて、以て嗣と爲す。幼字は次郎三郎、初め岩津を守り、嗣ぎて立ちて岡崎に居り、和泉守と稱す。善く兵を用ひ(二)大給・北給を攻めて之を幷す。又襲ひて安祥を取る。寛正六年、額田の民亂を作す。州の守護細川成之、定むること能はず。幕府、(三)敎を和泉守に下す。一戰に之を平ぐ。

(一) 武勇己れに似てすぐれたりと思ひて (二) 戰爭に巧みにして (三) 將軍の命令

和泉守生二男女四十餘人一。親戚蕃衍。次子親忠嗣。幼字竹千代。長稱二藏人一。居二岩

和泉守、男女四十餘人を生み、(一)親戚蕃衍す。次子親忠嗣ぐ。幼字は竹千代といふ、長じて藏人と稱し、岩津に居る。精を勵し政を爲す。常に其老臣に謂ひて曰く、(二)先考嘗て謂ふ、一士を養ふは一邑を獲るに多ると。然れども忠邪を混じ、(三)賜予を濫すれば、則ち徒に民力を費すのみと。明應二年、擧母・寺部・上野・八

津一。勵レ精爲レ政。常謂二其老臣一曰。先考嘗謂。養二一士一多レ於レ獲二一邑一。然混二忠邪一。二賜予一。則徒費二民力一耳。明應二年。舉母寺部上野八草伊保五城合レ兵來攻。藏人以二三千人一邀二擊于伊田一。破レ之。建二寺鴨田一。名二大樹寺一以弔二陣亡士一。

草・伊保の五城、兵を合せて來り攻む。藏人三千人を以て伊田に邀へ撃ちて、之を破り、寺を鴨田に建て大樹寺と名づけて、以て陣亡の士を弔ふ。(四)

(一)親疎が廣がり多し　(二)死したる父　(三)忠臣と邪臣とを區別せず　(四)戰歿の士の靈魂をなぐさむ

藏人生二九男一。曰親長。乘元。長親。親房。超譽。親光。長家。長忠。乘清。而親長守二岩津一。乘元守二大給一。長親爲レ嗣。居二安祥一。稱二藏人一。除二出雲守一。定二西參河一。而東參河猶屬二今

藏人、九男を生む。曰く、親長・乘元・長親・親房・超譽・親光・長家・長忠・乘清なり。而して親長は岩津を守り、乘元は大給を守る。長親は嗣と爲り、安祥に居り、藏人と稱す。出雲守に除せらる。西參河を定む。而して東參河は猶ほ今川氏に屬す。氏親は駿河の守護なり。永正三年、氏親、其將北條長氏と、大兵を率ゐて來り攻め、八月、岩津を攻む。出雲守、五百騎に將として赴き救ふ。其騎に謂ひて曰く、衆寡敵せず、(一)如何と。衆前みて死を決せんと請ふ。(二)

(一)敵多勢にして味方が少勢なれば勢ひ匹敵せず如何せばよからん　(二)前みて死を決して戰はんと請ふ

川氏親。氏親者。駿河守護也。永正三年。氏親與二其將北條長氏一。率二大兵一來攻。八月。攻二岩津一。出雲守將二五百騎一赴救。謂二其騎一曰。衆寡不レ敵。如何。衆請二前決一レ死。

出雲守曰。汝等。世盡二忠我家一。而我未レ能二厚報一。今亦爲レ吾決レ死。吾所二深愧一。因以二大桶一貯レ酒。泛二杯數十一。自飲二一盃一。瀉二餘瀝桶中一。曰。事急。不レ暇レ觴二各人一。交就飲レ之。衆感奮。夜渡二矢矧河一。襲二駿河軍一。宇津宮忠茂曰。我必捷矣。果捷レ之。收二軍西岸一。氏親長

出雲守曰く、汝等世々忠を我が家に盡す。而して我れ未だ厚く報ゆる能はず。今亦吾が爲に死を決す。吾れ深く愧づる所なりと。因りて大桶を以て酒を貯へ、杯數十を泛べ、自ら一盃を飲み、(一)餘瀝を桶中に瀉ぎて曰く、事、急なり。各人(二)に觴するに暇あらず。交々就きて之を飲めと。衆、感奮し、夜、矢矧河を渡り、駿河の軍を襲ふ。宇都宮忠茂曰く、我れ必ず捷たんと。果して之に捷ち、軍を西岸に收む。氏親・長氏遁れ去る。戸田憲光、田原を以て降る。出雲守、忠茂に問ひて曰く、何を以て捷を知ると。曰く、長氏、(三)寵を負みて士を侮る。士、(四)鬪志なし。是を以て之を知ると。忠茂は、新田義貞の將泰藤五世の孫なり。後、其の居る所に因りて大久保氏と稱す。

(一) のこりの雫を桶中に入れて (二) 一人一人に杯をさすひまなし (三) 君寵を自負して部下の士を侮る (四) 戰はんとする志なし

氏遁去。戸田憲光以二田原一降。出雲守問二忠茂一曰。何以知レ捷。曰。長氏負レ寵侮レ士。士無二鬪志一。是以知レ之。忠茂者。新田義貞將泰藤五世孫也。後因二其所レ居稱二大久保氏一。

出雲守生二五男一。曰信忠。親盛。信定。利長。義春。出雲守老。信忠爲レ嗣。仍居二安祥一。任二左京亮一。左京亮不レ恤レ政。嬖臣用レ事。國內皆叛。羣臣交諫。弗レ聽。因相聚謀二廢立一。左京亮覺レ之。親戮二一人一。左京亮生二三男一。曰淸康。信孝。康孝。乃召二羣臣一曰。我悔二吾非一。而不レ可レ追也。淸康雖レ幼有二器局一。宜二以代レ我。大永三年。老レ于二大濱一。

出雲守、五男を生む。曰く、信忠・親盛・信定・利長・義春。出雲守、老し、(一)信忠嗣と爲る。仍ほ安祥に居る。左京亮に任ぜらる。左京亮政を恤へず。嬖臣、(二)事を用ひ、國內皆叛く。羣臣交〻諫むれども、聽かず。因りて相聚りて廢立を謀る。左京亮之を覺り、親ら一人を戮す。左京亮三男を生む。曰く、淸康・信孝・康孝なり。乃ち羣臣を召して曰く、我れ吾が非を悔ゆ。而れども追ふ可からざるなり。(三)淸康幼しと雖も、器局(四)あり。宜しく以て我に代るべしと。大永三年、大濱に老す。

(一) 隱居し (二) 氣に入りの臣自分勝手の政事をなし (三) 取返しつかず (四) はたらき

清康立。仍居安祥。小字次郎三郎。幼聰達。每見舊臣。訪古今成敗戰鬪事。憑膝捋鬚以爲樂。或問某何在。聞其死且戰沒。輒痛傷之。嘗當食受謁。呼衆前之。以其所御椀飲之酒。衆不敢。清康曰。人生等耳。或爲君。或爲臣。分可隔。情可隔乎。强注之。皆霑醉。退相謂曰。今日之酒。吾曹頸血也。

清康立つ。仍ほ安祥に居る。小字は次郎三郎といふ。幼より(一)聰達にして、舊臣を見る毎に、(二)古今の成敗戰鬪の事を訪ひ、膝に憑り鬚を捋りて以て樂と爲す。或は某は何くに在ると問ひ、其死且つ(三)戰沒するを聞くや、輒ち之を痛傷す。嘗て食に當りて(四)謁を受く。(五)衆を呼びて之を前め、其の御する所の椀を以て之に酒を飲ましむ。衆(六)敢てせず。清康曰く、人生は等しきのみ。或は君と爲り、或は臣と爲る。(七)分は隔るべし。情は隔るべけんやと。強ひて之に注ぐ。(八)皆霑醉す。退きて相謂ひて曰く、(九)今日の酒は、吾が輩の頸の血なりと。

(一) さとく物事に明らかなり (二) 古今にわたりて事の成就し敗亡すること (三) 戰死 (四) 面會 (五) 諸士を呼び近づけ、其の食事に用ひたる椀を以て諸士に酒を飲ましむ (六) 諸士遠慮す (七) 君臣の分限にはへだてあるも人情にかはりなし (八) 十分に醉ふ (九) 今日御下賜の酒は我等の頸の血を飲むが如しと。やがて此君の爲に身命を抛たざるべからざるをいふ

時族松平親貞據二岡崎及山中一。以掠二傍近一。大久保忠茂曰。先拔二山中一。則岡崎不レ攻而下。乃夜襲二取山中一。親貞輒降。以三岡崎爲二參河要地一。徙居レ之。國人稱曰二岡崎公一。遂徇二下西參河豪傑五十餘姓一。欲レ賞二忠茂一。問二其所レ欲。不レ答。強而後答。曰。願賜二城下市租一。岡崎公許レ之。而疑二其貪一也。忠茂盡召二市人一。以二君命一除二其市税一。四方商旅聞レ之爭至。岡崎終以レ是富實矣。

時に族松平親貞岡崎及び山中に據りて、以て傍近を掠む。大久保忠茂曰く、先づ山中を拔かば、則ち岡崎は攻めずして下らんと。乃ち夜、山中を襲ひ取る。親貞輒ち降る。岡崎は參河の要地(一)たるを以て、徙りて之に居る。國人稱して岡崎公と曰ふ。遂に西參河の豪傑五十餘姓を徇へ下す。忠茂を賞せんと欲し、其の欲する所を問ふ。答へず。強ひて後、答へて曰く、願はくは城下の市租(二)を賜へと。岡崎公、之を許す。而して其貪を疑ふ(三)。忠茂、盡く市人を召し、君命を以て其市税を除く。四方の商旅(四)、之を聞きて爭ひ至る。岡崎終に是を以て富實なり。

(一) 肝要なる地　(二) 市人の税　(三) 忠茂の貪ならんと思ふ　(四) 四隣の旅商人

享祿二年。吉田城主牧野傳藏欲三起レ兵

享祿二年、吉田城主牧野傳藏、兵を起して西參河を并せんと欲す。岡崎公、兵に將として之を擊ち、伊奈に出づ。伊奈城主本多正忠迎へ降る。正忠の先を助

并二西參河一。岡崎公將レ兵擊レ之。出二伊奈一。伊奈城主本多正忠迎降。正忠之先曰二助秀一。居二豐後本多鄕一。子孫邑レ于二尾張一。尋徙二參河一。擧族仕二德川氏一。而正忠尤大。岡崎公并二其兵一。進縱二火御油一。傳藏濟二吉田川一。毀レ舟而戰。我兵不レ利。本多信重戰死。佐野與八請レ退。岡崎公不レ肯

秀と曰ふ。豐後の本多鄕に居る。子孫尾張に邑す。尋ぎて參河に徙り、擧族(一)德川氏に仕ふ。而して正忠、尤も大なり。岡崎公、其兵を并せ、進みて火を御油に縱つ。傳藏吉田川を濟り、舟を毀ちて戰ふ。我が兵利あらず。本多信重、戰死す。佐野與八退かんと請ふ。岡崎公肯ぜずして曰く、彼れ勝ちて驕る。破るべきなりと。乃ち進み戰ふ。與八之に死す。叔父信定等、力戰し、遂に之を破り、傳藏を斬り、遂に吉川を攻む。正忠、攻めて其東門を破り、遂に之を陷る。岡崎公城に入りて、士民を撫し(二)、遂に叛將戸田憲光を攻め下し、東參河を平げて還り、伊奈に會飲(三)す。正忠、殽(四)を獻ず。藉くに葵三葉を用ふ。岡崎公視て悅びて曰く、吾れ凱旋して此を得たり。今より當に此を以て徽號と爲すべしと。初め德川氏宗族たるに因りて、中黑を以て號と爲す。是に於て、三葵を兼用(五)す。是の歲、兵を尾張に出し、織田氏の地を略し、品野を取りて以て信定に賜ふ。

(一) 一族悉く　(二) 士民を愛し惠み　(三) 會合して祝宴を開く　(四) 酒のさかな　(五) 並べ用ふ

曰、彼勝而驕。可レ破也。乃進戰。與八死レ之。叔父信定等力戰。遂破レ之。斬二傳藏一。遂攻二吉田一。正忠攻破二其東門一。遂陷レ之。岡崎公入レ城撫二士民一。遂攻二下叛將戸田憲光一。平二東參河一者還。會飲于二伊奈一。正忠獻二盤殺一。藉用二葵三葉一。岡崎公視而悅曰、吾凱旋得レ此。自レ今當三以レ此爲二徽號一。初德川氏因二宗族一以二中黑一爲レ號。於レ是兼二用三葵一。是歲。出三兵於二尾張一。略二織田氏地一。取二品野一以賜二信定一。

三年。攻三熊谷重長于二宇理一。自攻二北門一。信定以二從子親次一爲二先鋒一。攻二南門一死。初我僕人岩瀨者殺レ人。岡崎公愛二其勇一。宥レ死逐レ之。時在二城中一。夜縱レ火爲二內應一。我兵遂拔レ城。賞二祿岩瀨一。重長走。保二高力一。稱二高力氏一。遂來降。天文二年。與二廣瀨寺部二城主一戰二于岩津一。破レ之。冬。信濃人來侵。迎擊大破レ之。

三年、熊谷重長を宇理に攻め、自ら北門を攻む。信定從子親次を以て先鋒と爲し、南門を攻めて死す。初め我が僕人(一)岩瀨といふ者、人を殺す。岡崎公其の勇を愛し、死を宥して之を逐ふ。時に城中に在り。夜、火、縱ちて內應を爲す。我が兵遂に城を拔く。岩瀨を賞祿す。重長走り、高力を保ち、高力氏と稱す。遂に來り降る。天文二年、廣瀨・寺部(二)の二城主と、岩津に戰ひて之を破る。冬、信濃の人來り侵す。迎へ擊ちて大に之を破る。

(一) 下部　(二) 賞して褒美を與ふ

岡崎公嘗夢有レ文在二其握一。曰レ是。覺而問レ衆。衆莫レ知二其解一。有二僧横外者一曰。是字。日下人也。日下以二一人一握レ之。公將二大興一乎。然握而未レ啓。在二其子孫一乎。岡崎公大喜。爲建二龍海禪寺一。

岡崎公、嘗て夢みる。文(一)有りて其握に在り。是と曰ふ。覺めて衆に問ふ。衆其解を知る莫し。僧横外(二)といふ者有り。曰く、是の字、日下の人なり。日下、一人を以て之を握る。公、將に大に興らんとす。然れども握りて未だ啓かず。(三)其子孫に在らんかと。岡崎公、大に喜び、爲に龍海禪寺を建つ。

(一) 其の握りたる手の中に文字あり　(二) 一本に横を摸に作る　(三) 其天下を掌握するは子孫の時ならんか

岡崎公威名日著。甲斐國主武田信虎遣レ使通レ好。美濃尾張諸城主亦有二願レ附者一。公一日慨然言二於將士一曰。我家與二足利氏一族望相

岡崎公威名(一)日に著る。甲斐の國主武田信虎使を遣して好を通ず。美濃・尾張の諸城主も亦附を願ふ者有り。公、一日(二)慨然として將士に言ひて曰く、我が家は足利氏と族望(三)相敵す。其の剪滅する所と爲り、跡を削り勢を屈して、以て此に至る。今や仇家衰亂す。天下の事知る可し。冀はくは汝衆の力を藉り、義兵を糺合(四)し、幟を皇都に樹て、一たび累世(五)の恥を雪ぐを得ん。今、我が東に今川氏有り。西に織田氏有り。先づ織田氏を攻めて、以て西上の路を開かん。宜しく兵を厲し糧を

敵。爲三兵所二剪滅一。削レ跡屈レ勢。以至レ於レ此。今仇家衰亂。天下之事可レ知矣。冀藉二汝衆之力一。糺二合義兵一。樹二幟皇都一。得三一雪二累世之恥一。今我東有二今川氏一。西有二織田氏一。先攻二織田氏一。以開二西上之路一。宜三厲レ兵峙レ糧以俟二吾令一。衆奮躍聽レ命。

峙みて以て吾が令を俟つべしと。衆、奮躍(六)して命を聽く。

㈠ 威光名聲日に日に高し ㈡ 溜息をつきなげきて ㈢ 家柄名望相匹敵す ㈣ 合せ ㈤ 代々の恥辱をすゝぎたきものなり ㈥ ふるひをどる

十月。勒二兵萬人一。自將西上。入二森山一。信定居二上野一。稱レ疾不レ從。初信定負レ勢驕レ士。落合某者。因レ事抗レ之。衆爲危レ之。公曰。士者。先公以來所二愛養一。叔父傲レ之非也。彼不レ

十月、兵萬人を勒し、自ら將として西上し、森山に入る。信定、上野に居り、疾と稱して從はず。初め信定勢を負みて士に驕る。落合某といふ者、事に因りて之に抗す。衆、爲に之を危む。公曰く、士は先公以來愛養する所なり。叔父、之に傲(一)るは非なり。(二)彼れ屈撓す可からざるは、嘉すべしと。(四)信定之を啣む。親次の死、信定救はず。又、(五)公の誚責(三)する所と爲る。深く慙恚を懷く。是に於て、虛に乘して亂を作さんと欲す。將士、且く西伐を止めん事を請ふ。公曰く、何ぞ意に介する(六)に足らん。今、大擧して徒に歸らば、(七)士氣沮敗し、侮を四隣に納れんと。遂

可ニ屈撓一。可レ嘉。信定卿レ之。親次之死。信定不レ救。又爲三公所ニ誚責一。深懷ニ慙恚一。於レ是欲ニ乘レ虛作レ亂。將士請三止ニ西伐一。公曰。何足レ介レ意。今大擧徒歸。士氣沮敗。納ニ侮四隣一也。遂欲三進攻ニ清洲一。

に進みて清洲を攻めんと欲す。

(一)信定にはりあふ　(二)諸人落合其の爲に憂ふ　(三)一本に不の下に可字あり、從ふべからず、かゝみにたゆまざるはほむべきことなり　(四)清康の言を遺恨に思ふ　(五)清康の爲に叱り責めらる　(六)心配するに及ばず　(七)兵士の志氣はゝみ衰ふ

國老安倍定吉從レ軍。數以レ書勗ニ信定一。有ニ流言一。定吉與ニ信定一通レ謀。定吉謂ニ子彌七一曰。衆嫉ニ我寵一。造ニ作語言一。主公必察レ之。卽不レ察見レ誅。愼勿ニ以爲レ怨。宜ニ俟レ時鳴レ寃。十

國老安倍定吉軍に從ひ、數〻書を以て信定を勗む。流言有り、定吉、信定と謀を通ずと。定吉、子彌七に謂ひて曰く、衆、我が寵を嫉み、(一)語言を造作す。主公、必ず之を察せん。卽し察せずして誅せらるゝも、愼みて以て怨と爲す勿れ。宜しく時を俟ちて寃を鳴すべしと。十二月、軍中馬逸す。(二)衆、大に騷ぐ。彌七刀を奉じて公の側に侍す。定吉、已に殺さると謂ひ、(三)惶急して、刀を拔きて之を弑す。植村榮安、傍より彌七を誅す。定吉之を聞きて、將に自殺せんとす。松平信孝、之を止む。時に出雲守猶ほ在り。將士、喪を護りて歸り、命を請ふ。初め岡崎

二月。軍中馬逸。衆大騷。彌七奉レ刀侍二公側一。謂二定吉已被レ殺。惶急。拔レ刀弑レ之。植村榮安自レ傍誅二彌七一。定吉聞レ之。將二自殺一。松平信孝止レ之。時出雲守猶在。將士護レ喪歸。請レ命馬。初岡崎公娶二青木氏一。生二廣忠一。乃立レ之。以二定吉無レ罪。宥使レ傳レ之。

公、青木氏に娶り、廣忠を生む。乃ち之を立つ。定吉、罪無きを以て、宥して之(五)に傳たらしむ。

(一) 言ひふらしあり　(二) いろ〳〵のつくりごとをしていひふらす　(三) 馬逃げ出す　(四) あてふためきて　(五) 廣忠のもりやくたらしむ

織田信秀聞二我內變一。擧レ兵來侵。我見兵八百。以二季父康孝一爲レ將。迎戰二伊田一。植村榮安先進。高力重長及子長安戰死。信秀戰敗。請レ和

織田信秀我が內變を聞き、兵を擧げて來り侵す。我が見兵八百あり。季父康孝を以て將と爲し、迎へて伊田に戰ふ。植村榮安、先んじて進む。高力重長及び子長安戰死す。信秀戰ひ敗れ、和を請ひて去る。信定出雲守に寵有り。遂(一)に自立を圖る。定吉、廣忠を奉じ、出でて伊勢に奔る。信定、遂に立ちて上野に居り、自ら織田氏に結ぶ。定吉密かに弟正定及び大久保忠茂の子忠俊、酒井廣親の孫正親、正親の(二)從子忠次・石川清兼・石川數正・成瀨正義と謀を通じ、援を今川氏に乞ひて、

而去。信定有レ寵レ於二出雲守一。遂圖二自立一。定吉奉二廣忠一。出奔二伊勢一。信定遂立。居二上野一。自結レ於二織田氏一。定吉密與二弟正定及大久保忠茂子忠俊。酒井廣親孫正親。正親從子忠次。石川清兼。石川數正。成瀨正義一。通レ謀。請三援於二今川氏一。以納二廣忠一。五年。冬。護入二牟呂一。參河人多往歸レ之。

以て廣忠を納る。五年冬、護りて牟呂(三)に入る。參河の人、多く往きて之に歸す。

(一) 自から國君とならんとはかる (二) をひ (三) 三河國に在り

六年。信定來攻。忠俊伴從二其軍一。射二書城上一。期以二四月一迎レ之。信定危疑。宣言曰。我初無下害二姪孫一之意上。徒誅二諸亂人一而已。乃引レ兵還。數與二將士一誓。忠俊三上二誓書一。而密告二岡崎留

六年、信定來り攻む。忠俊、佯りて其軍に從ひ、書を城上に射て、期するに四月を以てす。信定、危疑(一)す。宣言して曰く、我れ初より姪孫(二)を害するの意無し。徒諸の亂人を誅するのみと。乃ち兵を引きて還る。數〻將士と誓ふ。忠俊三たび誓書を上り、而して密かに岡崎の留守松平信孝に告ぐ、信孝曰く、吾も亦之を欲す。未だ間(三)を得ざるのみ。念ふに公等、事成らずして死せば、誰か之に繼ぐ者ぞ(四)。吾れ且く身を全くせんと(五)。乃ち疾と稱して有馬に赴く。

(一) 危ぶみ疑ふ (二) をひの孫廣忠をさす (三) まだすきがないばかり (四) 貴殿方が事失敗に終らば誰が其後を引請くる者あらうぞ (五) 吾れ暫時身體を大切にせん

守松平信孝。信孝曰。吾亦欲レ之。未レ得レ間耳。念公等事不レ成死。誰繼レ之者。吾且全レ身焉。乃稱レ疾赴二有馬一。

五月。忠俊等密迎二廣忠一入二岡崎一。將士爭謁。出雲守聞レ之。喜曰。吾恐三駿河兵因以侵二我。故拒レ之耳。兒我嫡曾孫也。因命二信定一折レ節事レ之。信定不レ得レ已來謁。信孝亦歸。廣忠任二參河守一。忠俊以下受レ賞。忠次稱二左衞門尉一。自二父氏次一。稍

五月、忠俊等、密かに廣忠を迎へて岡崎に入る。將士爭ひ謁す。(一)出雲守、之を聞きて、喜びて曰く、吾れ駿河の兵の因りて以て我を侵すを恐る。故に之を拒ぐのみ。兒は我が嫡曾孫(二)なりと。因りて信定に命じて、節(三)を折りて之に事へしむ。信定、已(四)むを得ず來り謁す。信孝も亦歸す。廣忠、參河守に任ぜらる。忠俊以下賞を受く。忠次、左衞門尉と稱す。父氏次より、稍々功勞を積む。是に於て、參河守の妹を娶り、尤も親重せらる。七年、信定、卒す。衆心乃ち定る。(五)定吉、逆(六)家爲るを羞ぢ、自ら其嗣を絶つ。婢身める有り、出でて井上氏に嫁す。井上氏は、實は安倍氏の胤なり。

(一) 吾先にと面謁を請ふ (二) 嫡出の曾孫 (三) 意志を曲げて (四) 據なく來謁す (五) 諸人の心安定す (六) 逆臣の家なることを恥ぢ自ら世嗣を絶つ

積二功勞一。於レ是娶二參河守妹一。尤見二親重一。七年。信定卒。衆心乃定。定吉薨レ爲二逆家一。自絕二其嗣一。婢有レ身。出嫁二井上氏一。井上氏實安倍氏胤也。

九年。六月。織田氏兵來。攻三松平長家于二安祥一。參河守使二松平康信等援一レ之。不レ利。長家及松平康忠林政綠等皆死。松平利長松平忠繼苦戰卻レ之。十年。參河守娶二刈谷城主水野忠政女一。十一年。歲次二壬寅一。十二月。二十六日。生三男子於岡崎一。有二奇質一。出雲守視レ之曰。此兒必揚三名於天下一。令三酒井正親石川清兼擧二レ之。因二故事一命二幼字竹千代一。是歲秋。織田氏復來侵。乞三援於今川氏一。今川

九年六月、織川氏の兵來り、松平長家を安祥に攻む。參河守、松平康信等をして之を援はしむ。利あらず。長家、及び松平康忠・林政綠等皆死す。松平利長・松平忠繼苦戰(一)して之を卻く。十年、參河守、刈谷城主水野忠政の女を娶る。十一年歲壬寅に次す。十二月二十六日、男を岡崎に生む。奇質(二)有り。出雲守、之を視て曰く、此兒、必ず名を天下に揚げんと。酒井正親・石川清兼をして、之を擧げしむ。(三)故事に因りて、幼字を竹千代と命ず。是の歲秋、織川氏復た來り侵す。援を今川氏に乞ふ。今川氏、僧大原を遣し、三萬人を以て來り救ひ、與に(四)小豆坂に戰ひて、互に勝敗有り。冬、又來り侵す。內藤清長擊ちて之を卻く。

(一) 雌雄の戰爭をなして (二) 常人に異なる資質あり (三) 七世の祖親忠の幼名を取りて (四) 三河國に在り

氏遣ニ倍大原一。以ニ三萬人一來救。與戰ニ于小豆坂一。互有ニ勝敗一。冬。又來侵。內藤清長擊卻レ之。

十二年。水野忠政卒。子信元叛。附ニ織田氏一。參河守難ニ今川氏之意一。與レ之絕レ婚。再娶ニ戶田憲光女一。十三年。八月。出雲守卒。織田信秀遣ニ族敏宗一攻ニ安祥一。敗去。信秀自將。代攻拔レ之。佐崎城主松平忠倫叛降。爲ニ信秀一守ニ上輪田一。以逼ニ岡崎一。十四年。

十二年、水野忠政卒す。子信元叛き、織田氏に附く。參河守、(一)今川氏の意を難り、之と婚を絕つ。再び戶田憲光の女を娶る。十三年八月、出雲守卒す。織田信秀、族敏宗を遣して安祥を攻めしむ。敗れて去る。信秀自ら將として、代り攻めて之を拔く。(二)佐崎城主松平忠倫叛き降り、信秀の爲に(三)上輪田を守りて、以て岡崎に逼る。十四年、參河守自ら將として、尾張の兵を(四)淸暇に擊ちて之を走らせ、追ひて安祥に至り、城兵と戰ひて、大に敗れ、殆ど免かれず。本多忠豐止り戰ひて、之に死す。參河守脫るゝを得たり。忠豐の(五)金扇馬表を取りて、之を(六)牙營に置きて、以て其忠を旌す。松平信定の子淸定、上野に據りて叛く。初め酒井正親の兄忠尙、人を讒して遂げず。慚ぢて退居す。是に於て往きて淸定に歸す。參河守、之を攻む。利あらず。

(一) 今川氏の機嫌を損ぜんことを慮り　(二) 三河國に在り　(三) 同上　(四) 同上　(五) 德川氏の馬じるし　(六) 本陣

參河守自將。擊尾張兵于清洲走之。追至安祥與城兵戰。大敗。殆不免。本多忠豐止戰。死之。參河守得脫。取忠豐金扇馬表。置之牙營。以旌其忠。松平信定子清定據上野叛。初酒井正親兄忠尙譏人而不遂。慚而退居。於是往歸清定。參河守攻之。不利。

十五年。三月。近臣岩松八彌酗。入公寢。爲逆。不成。參河守拔刀逐之。八彌走出。植村榮安入。遇之橋上。相搏墮濠。松平信孝提槍來。臨濠曰。子縱之。我刺之。榮安曰縱則逸。併我刺之。信孝猶豫。榮安遂斬八彌。

十五年三月、近臣岩松八彌、酗し、公の寢に入りて逆を爲す。成らず。參河守、刀を拔きて之を逐ふ。八彌、走り出づ。植村榮安入る。之に橋上に遇ひ、相搏ちて濠に墮つ。松平信孝槍を提げて來り、濠に臨みて曰く、子、之を縱て、我れ之を刺さんと。榮安曰く、縱たば則ち逸せん。我を併せて之を刺せと。信孝猶豫す。榮安、遂に八彌を斬る。

㊀酒狂し　㊁組討して濠におつ

九月。參河守自將攻上野。大久保忠俊

九月、參河守、自ら將として上野を攻む。大久保忠俊の姪兒忠世力戰す。清定、忠尙皆降る。清定を櫻井に置き、忠尙をして上野を守らしむ。時に松平信孝、功

姪兒忠世力戰。清定忠尙皆降。置三清定于二櫻井一。令三忠尙守二上野一。時松平信孝負レ功橫肆。親戚死者。輒并二其邑一。衆謂三復生二一信定一矣。十六年。正月。信孝如二駿河一。衆請下乘二其不レ在收中其邑上。從レ之。信孝至。無レ所レ歸。訴二之今川氏一。今川氏詰二參河將士一。將士告レ故。信孝乃走二輪田一。依二松平忠倫一。終降二織田氏一。酒井忠尙復叛。應レ之。九月。我兵攻二信孝一。戰レ于二亘邑一。鳥居忠宗死レ之。以レ亘賜二忠宗父忠吉一。忠吉八世祖忠景。與二栗生顯友者一。事二新田義貞一。及レ敗。共匿レ于レ亘。至二忠吉一。與二栗生某一俱出。仕二岡崎公一。栗生後爲二大番頭一。

を負みて橫肆㈠なり。親戚の死する者は、輒ち其邑を幷す。衆、復た一の信定を生ぜずと謂ふ。十六年正月、信孝、駿河に如く。衆、其の在らざるに乘じて其邑を收めんと請ふ。之に從ふ。信孝至る。歸る所無し㈡。之を今川氏に訴ふ。今川氏參河の將士を詰る。將士故㈢を告ぐ。信孝、乃ち輪田に走り、松平忠倫に依りて、終に織田氏に降る。酒井忠尙復た叛きて、之に應ず。九月、我が兵、信孝を攻め、亘邑に戰ふ。鳥居忠宗之に死す。亘を以て忠宗の父、忠吉に賜ふ。忠吉、八世の祖忠景、栗生顯友といふ者と、新田義貞に事ふ。敗に及びて、共に亘に匿る。忠吉に至り、栗生某と倶に出でて、岡崎公に仕ふ。栗生は後に大番頭と爲る。

㈠ ほしいまゝにふるまふ　㈡ 不在中に領邑を沒收せられて歸り場所なし　㈢ 理由を申上ぐ

十月。忠倫將下導二尾張兵一取中岡崎上。參河守遣二刺客一殺レ之。織田信廣代守二輪田一。益二築六砦一。參河守乞二援於今川義元一。義元徵二質子一。乃以二世子竹千代一應レ之。生六年矣。與二諸將士質五十餘人一東赴二駿河一。外舅戶田憲光陰通二款尾張一。佯以レ好迎。館レ于二觀潮坂一。馳レ使告二尾張一曰。公欲レ取二參河一。則莫レ若レ奪二是質一。信秀大喜。遣二其將林正成等一赴二田原一。以二錢五百貫一

十月、忠倫將に尾張の兵を導きて岡崎を取らんとす。參河守、刺客(一)を遣して之を殺す。織田信廣、代りて輪田を守る。六砦を益し築く。參河守、援を今川義元に乞ふ。義元、質子を徵す。乃ち世子(二)竹千代を以て之に應ず。生れて六年なり。諸將士の質五十餘人と、東駿河に赴く。外舅戶田憲光、陰に款を尾張に通ず。佯りて好を以て迎へ、觀潮坂(三)に館し、使を馳せて尾張に告げて曰く、公、參河を取らんと欲せば、則ち是の質を奪ふに若くは莫しと。信秀大に喜び、其將林正成等を遣して田原に赴き、錢五百貫を以て憲光に賜ふ。岡崎の人森平太といふ者、正成の部卒と爲り、潛かに我が館に來り、戒めて曰く、戶田氏、郎君(四)を以て奇貨と爲す。公等未だ之を知らざるかと。因りて告ぐるに故を以てす。我が衆、信ぜず。

(一) 暗殺者 (二) 諸侯の國子 (三) 遠江國に在り (四) 若君を以て利をはかるもととなす

賜二憲光一。岡崎人森平太者。爲二正成部卒一。潛來二我館一。戒曰。戶田氏以二郎君一爲二奇貨一。公等未二之知一乎。因告以レ故。我衆不レ信。

旦日。憲光來說曰。此至二駿河一多二大川一。雨而暴漲。不レ若レ由二海路一也。衆從レ之。護二世子一上レ船。正成乘二別船一從二其後一。轉レ舵至二熱田一。岸上有レ兵。與二從船一相招。天野康景猶幼。在二世子傍一。覺レ變。乃謂二其僕一曰。平太之言信矣。比レ上レ岸。汝亟混二敵兵一。

旦日憲光來り說きて曰く、此より駿河に至るは大川多く、雨ふりて暴漲す。(一)海路に由るに若かずと。衆、之に從ひて、世子を護して船に上る。正成、別船に乘じて其後に從ひ、舵を轉じて熱田に至る。岸上に兵有り。從船と相招く。天野康景猶ほ幼なり。世子の傍に在りて、變(二)を覺り、乃ち其僕に謂ひて曰く、平太の言、信なり。岸に上る比、汝亟かに敵兵に混じ、走りて岡崎に歸り、具に見る所を白せと。已にして岸に上る。正成、世子を大宮司に納る。康景の僕、走り歸りて故を告ぐ。上下大に驚く。康景の先も亦新田氏の遺臣なり。已にして信秀の使至り、曰く、貴息、西に在り。公、宜しく東に背きて西に鄕ふべし。然らずんば則ち(三)貴息の利に非らじと。參河守、答へて曰く、殺さんと欲せば卽ち殺せ。吾れ曷んぞ(四)一子の故を以て、信を隣國に失はんやと。信秀怒り世子を天王坊に錮し、其艱(五)

走歸岡崎。具白所見。已而上岸。正成納世子於大宮司。康景僕走歸告故。上下大驚。康景之先亦新田氏遺臣也。已而信秀使至。曰。貴息在西。公宜背東鄕西。不則非貴息利。參河守答曰。欲殺即殺。吾曷以一子故。失信隣國哉。信秀怒。錮世子於天王坊。備其艱苦。生母水野氏。再嫁於尾張人久松俊勝。與熱田近。遣家士平野某竹内某存問之。給以衣物。

苦を備にす。生母水野氏、再び尾張の人、久松俊勝に嫁す。熱田と近し。家士平野某・竹内某を遣して之を存問し、(六)給するに衣物を以てす。

(一) 河水みなぎりあふる　(二) 世子の身の上危險なるを知り　(三) 貴殿子息の爲に惡し　(四) 一子の爲に信を隣國に失ふことをせんや　(五) あらゆる艱難辛苦をさす　(六) 慰問し

十七年。三月。今川義元將兵來援。至安祥。參河守幷其前軍。擊尾張兵于小豆坂。走之。酒井正親獲敵將

十七年三月、今川義元、兵に將として來り援ひ、安祥に至る。參河守、其前軍を并せて、尾張の兵を小豆坂に擊ちて之を走らす。酒井正親、敵將鳴海大學を獲たり。而して織田信廣猶ほ留りて安祥を守る。四月、松平信孝、來りて岡崎を攻む。大久保忠俊・酒井正親等、兵を伏せ、射て之を殺す。參河守泣きて曰く、盍ぞ之を生致せざると。(一)是の月、復た擊ちて尾張の兵を重原に破り、(二)遂に八草・梅坪を(三)

鳴海大學一而織田信廣猶留守二安祥一。四月。松平信孝來攻二岡崎一。大久保忠俊酒井正親等伏レ兵。射殺レ之。參河守泣曰。盡レ生二致之一。是月。復擊破三尾張兵于二重原一。遂攻二八草梅坪一。信秀自將來至二西野一。我兵堅レ壁不レ出。信秀侮レ之。進次二柳河一。我兵設レ伏雨射。長坂信政先馳レ之。信秀大敗走。信政素以レ勇著。岡崎公嘗曰。長坂每レ戰血レ於レ槍。因呼曰二長坂血槍一。

攻む。信秀自ら將とし來りて西野に至る。我が兵、壁を堅くして出でず。信秀之を侮り、進みて柳河に次す。我が兵、伏を設けて雨射す。(四)長坂信政、先づ之に馳す。信秀、大に敗走す。信政素より勇を以て著る。岡崎公嘗て曰く、長坂は戰ふ毎に槍に血ぬると。因りて呼びて長坂の血槍と曰ふ。

(一) 生捕りて送り來らざる (二) 三河國に在り (三) 二城共に三河國に在り (四) 雨の降る如く矢を射かく

十八年。三月。參河守卒。年二十四。訃至二熱田一。世子哀慕如二成人一。參河守性猜忌。

十八年三月、參河守卒す。年二十四なり。(一)訃熱田に至る。世子、哀慕すること成人の如し。參河守性猜忌にして將士親しまず。卒するに及びて衆議す。(二)或は曰く、尾張と和して、速かに(三)世子を迎へんと。或は曰く、駿河は強大なり。宜しく(四)舊好を修めて徐に計りて之を迎ふべしと。議、未だ決せず。今川義元、我が喪

將士不ㇾ親。及ㇾ卒聚議。或曰。與ニ尾張ー和。速迎ニ世子ー。或曰。駿河强大。宜下修ニ舊好ー徐計迎上ㇾ之。議未ㇾ決。

を聞きて曰く、織田氏、孤兒を擁して參河に臨まば、參河、必ず之に附かんと。急に其將朝比奈泰能を遣し、來りて岡崎を守らしむ。將士乃ち駿河に附き、安祥を攻む。利あらず。本多忠豐の子忠高之に死す。

㊀死去の報知　㊁哀み慕ふ　㊂他をそねみいむ　㊃故の交際

今川義元聞ニ我喪ー曰。織田氏擁ニ孤兒ー臨ニ參河ー。參河必附ㇾ之。急遣ニ其將朝比奈泰能ー來守ニ岡崎ー。將士乃附ニ駿河ー。攻ニ安祥ー。不ㇾ利。本多忠豐子忠高死ㇾ之。

十一月。義元益發ㇾ兵。使三僧大原助攻ニ安祥ー。時信秀已沒。子信長嗣。發ㇾ兵會戰。遇ㇾ伏敗走。城兵出救。我兵與ニ援軍ー夾擊破ㇾ之。追ㇾ北取ニ其

十一月、義元、益〻兵を發し、僧大原をして助けて安祥を攻めしむ。時に信秀已に沒し、子信長嗣ぐ。兵を發して會戰し、伏に遇ひて敗走す。城兵出で救ふ。我が兵、援軍と夾み擊ちて之を破り、北ぐるを追ひて其郛(一)を取る。信廣、僅かに內城に嬰る。信長、鳴海に至り、敢て進まず。大原、使を遣して之に謂ひて曰く、公(二)、坐ながら信廣を視る。盍ぞ竹千代を以て之に易へざると。信長許さず。林正成・平手政秀皆諫む。乃ち之を許す。是に於て、尾張・駿河、笠寺に會盟し、信廣は西

郛一。信廣匡嬰ニ內城一信長至ニ鳴海一。不ニ敢進一。大原遣レ使謂レ之曰。公坐視ニ信廣一。盍下以ニ竹千代一易上レ之。信長不レ許。林正成平手政秀皆諫。乃許レ之。於レ是尾張駿河會三盟于ニ笠寺一。信廣西歸。而嗣君得レ歸ニ岡崎一。居十餘日。往質レ于ニ駿河一。酒井重忠。天野康景。平岩親吉。阿部正次。高力清長。植村榮政等二十餘人。養卒百餘人從レ之。義元留ニ之于ニ宮崎一。使ニ來島某監一

に歸り、而して嗣君は岡崎に歸るを得たり。居ること十餘日なり。往きて駿河に質たり。酒井重忠・天野康景・平岩親吉・阿部正次・高力清長・植村榮政等二十餘人、養卒百餘人、之に從ふ。義元、之を宮崎に置き、來島某をして監せしむ。其兵を遣して參河の諸城を守り、松平重吉・鳥居忠吉を以て租賦を監し、之を駿河に輸せしめ、將士に諭して曰く、竹千代、猶ほ幼なり。我れ當に權に(三)國務を領し、其長ずるを俟ちて返し予ふべしと。是より兵戰有る毎に、參河の人を驅りて先鋒と爲し、平時は命ずるに(四)賤役を以てす。將士、敢て勞を辭せず。獨嗣君の早く國に還るを願ふ。嗣君、宮崎に在り。(五)供給甚だ薄く、衣食、足らず。鳥居忠吉、家素より富む。常に(六)錢帛を送り、又其次子元忠を遣して之に侍せしむ。

(一) 城の外郭　(二) 內城をめぐり守る　(三) 國中の政務を掌り　(四) 賤しき仕事　(五) 手當甚だ少し　(六) 金錢布帛

焉。遣二其兵一守二參河諸城一。以二松平重吉鳥居忠吉一監二租賦一。輸三之於二駿河一。諭二將士一曰。竹千代猶幼。我常下權領二國務一。俟二其長一返上予。自レ是每レ有二兵戰一。驅二參河人一爲二先鋒一。平時命以二賤役一。將士不二敢辭一レ勞。獨願二嗣君早還一レ國。嗣君在二宮崎一。供給甚薄。衣食不レ足。鳥居忠吉家素富。常送二錢帛一。又遣二其次子元忠一侍レ之。

廿年。嗣君甫十歲。五月。五日。出游二安倍河原一。觀二兒童石戰一。一羣百五十人。一羣倍レ之。觀者。爭就二其衆者一。嗣君在二僕背一。命就二其寡者一。僕恠問レ故。嗣君曰。衆者。自恃二其衆一。寡者。自知二其寡一。寡者勝矣。果如二其言一。義元聞レ之曰。所レ謂將門出レ將者也。

二十年、嗣君(しくん)甫(はじ)めて十歳なり。五月五日、出でて安倍河原(あべがはら)に遊び、兒童の(一)石戰(せきせん)を觀(み)る。一羣(ぐん)は百五十人、一羣は之に倍(ばい)す。(二)觀る者、爭ひて衆(おほ)き者に就(つ)く。嗣君、(三)僕背(ぼくはい)に在り。命(めい)じて其寡(すくな)き者に就(つ)かしむ。僕恠(あや)しみて故を問ふ。嗣君曰く、衆(おほ)き者は、自ら其衆を恃(たの)み、寡(すくな)き者は、(四)自ら其寡(くわ)を知る。寡(すくな)き者勝(か)たんと。(五)果して其言(そのげん)の如し。義元、之を聞きて曰く、(六)所謂將門(いはゆるしやうもん)、將(しやう)を出す者なりと。

(一) 石合戰 (二) 見物人はその多人數の方をいふ (三) 下部の背に負はれながら (四) 其多勢なるを頼みに思ひ (五) 果して竹千代の言ひたる通り小人數の方勝てり (六) 大將の家よりは大將出づ

廿三年。嗣君始擐レ甲。弘治元年。義元出二兵尾張一。攻二蟹江一。松平眞乘大久保忠俊等七人力戰。二年。正月。嗣君加二元服一。義元爲レ賓。使二其族將關口親永理一レ髮。命二名元信一。稱二次郎三郎一。妻以二親永女一。參河將士來賀。或獻二駿馬一。乃納二諸將軍足利義輝一。賜二手書及佩刀一報レ之。僧大原義元庶父。爲二清見寺主一。而數將レ兵。嗣君從讀二書史一。受二兵法一焉。

二十三年、嗣君、始めて甲を擐す(一)。弘治元年、義元、兵を尾張に出し、蟹江を攻む。松平眞乘・大久保忠俊等七人力戰す。二年正月、嗣君元服を加ふ(二)。義元、賓と爲り、其族將關口親永をして髮を理めしめ、名を元信と命ず。次郎三郎と稱し、妻はすに親永の女を以てす。參河の將士來り賀す。或ひと駿馬を獻ず。乃ち諸を將軍足利義輝に納る。手書及び佩刀を賜ひ之に報ゆ(三)。僧大原は、義元の庶(四)父なり。淸見寺の主と爲り、而して數〻兵に將たり。嗣君、從ひて書史(五)を讀み、兵法を受く。

(一) 甲の著初をなす (二) 始めて大人の衣冠を著くる儀式を行ふ (三) 報レ之の二字一本に無し (四) をぢ (五) 經書歷史

二月。松平義

二月、松平義春、嗣君に代りて師(一)を統べ、奥平貞延を日近(二)に攻めて之に死す。

春代ニ嗣君ー統ㇾ師。攻ニ奥平貞延于ニ日近ー死ㇾ之。嗣君聞ㇾ之。濺ㇾ泣嘆惜。左右感動。義元又城ニ福釜ー。使ニ酒井忠次等八將守ㇾ之。尾張將柴田勝家來攻。大久保忠世弟忠佐等善戰。幾得ニ勝家ー。

嗣君、之を聞き、泣を濺ぎて嘆惜す。(三)左右感動す。義元、又福釜に城き、酒井忠次等の八將をして之を守らしむ。尾張の將柴田勝家來り攻む。大久保忠世の弟忠佐等善く戰ひ、幾ど勝家を得んとす。

(一) 軍隊を統率し　(二) 三河國に在り　(三) 御側の者感じて心動く　(四) 三河國に在り

是歲。嗣君年十六。從容謂ニ義元ー曰。僕幼離ㇾ國。流ニ寓尾張駿河ー。有ㇾ年ㇾ於ㇾ此矣。願得下一歸ニ鄕里ー。拜中掃先人墳墓上也。義元許ㇾ之。於ㇾ是始歸ニ岡崎ー。參河父老聞而大喜。爭

是の歲、嗣君年十六なり。(一)從容として義元に謂ひて曰く、僕幼より國を離れ、尾張・駿河に流寓すること、此に年有り。願はくは一たび鄕里に歸り、(二)先人の墳墓を拜掃するを得んと。義元之を許す。是に於て始めて岡崎に歸る。參河の父老、聞きて大に喜び、爭ひ出でて之を迎ふ。駿河の將山田某内城に在り。嗣君、之を避けて外城に入りて、以て將士を延見す。(三)鳥居忠吉次を離れて進み、嗣君の手を握りて曰く、臣老いたり。(四)驅馳を效す能はず。特に郎君の爲に倉廩を置きて糧食を峙む。郎君、此を以て多く兵士を養ひ、(五)武を四方に揚げよ。(六)臣或は餘年を保ち、猶

出迎レ之。駿河將山田某在二內城一。嗣君避レ之入二外城一。以延二見將士一。鳥居忠吉。離レ次進。握二嗣君手一曰。臣老矣。不レ能レ效二驅馳一。特爲二郎君一置二倉廩一峙二糧食一。郎君以レ此多養二兵士一。揚二武四方一。臣或保二餘年一。猶得二親目一レ之。因嗚咽而泣。嗣君亦泣。嗣君於レ是更二名元康一。稱二藏人一。三年。春。復如二駿河一。

ほ親しく之を目するを得んと。因りて嗚咽(七)して泣く。嗣君も亦泣く。嗣君、是に於て名を元康と更め、藏人と稱す。三年春、復た駿河に如く。

(一)ゆつたりとして (二)亡父の墓參をしたし (三)引き見る (四)私は老年に及んで嗣君の爲に戰功を立てること能はず (五)武名を天下に揚げ給へ (六)或ひは生存して御武名の盛大なるを見ることが出來るかも知れぬ (七)むせかへる

永祿元年。義元謂二嗣君一曰。西參河公舊領也。而其諸城多叛。歸二信長一。子盍二擊而復一レ之。嗣君曰。固所レ願也。二月。歸二岡崎一。盡

永祿(一)元年、義元、嗣君に謂ひて曰く、西參河は公の舊領なり。而して其諸城多く叛きて、信長に歸す。子、盍ぞ擊ちて之を復せざると。嗣君曰く、固より願ふ所なりと。二月、岡崎に歸り、盡く宗族將士を會して戰を議す。先づ寺部を攻めて、火を外郭(二)に縱つ。城將鈴木重敎出で戰ふ。決せず。本多重次先登し、其一子二弟皆死す。嗣君、衆を勵して奮ひ前み、擊ちて重敎を走らす。首を斬

會ニ宗族將士一議レ戰。先攻ニ寺部一。縱ニ火外郭一。城將鈴木重教出戰。不レ決。本多重次先登。其一子二弟皆死。嗣君勵レ衆奮前。擊走ニ重教一。斬レ首百餘級。遂攻ニ廣瀨一。信長遣ニ其將津田兵庫一來救。大久保忠世與鬭斬レ之。石川清兼說曰。郞君始臨レ陣兩戰兩勝。斯已多矣。宜ニ全レ勝養ヒ威也。乃凱ニ旋岡崎一。使三松平家次守ニ品野一。三月。尾張兵攻レ之。家次夜襲擊。獲ニ五

ること百餘級なり。遂に廣瀨(三)を攻む。信長、其將津田兵庫を遣して來り救ふ。大久保忠世與に鬭ひて之を斬る。石川清兼說びて曰く、郞君、始めて陣に臨み、兩(四)戰兩勝す。斯れ已に多し。(五)宜しく勝を全くし威を養ふべしと。乃ち岡崎に凱旋す。松平家次をして品野を守らしむ。三月、尾張の兵、之を攻む。家次夜襲擊し、五十餘人を獲て來り獻ず。後に松平信一代りて守り、又、襲ひて敵兵を敗る。四月、嗣君復た駿河に如く。義元、佩刀を遺りて捷を賀し、山中邑三百貫を納る。是の冬、本多廣孝・石川清兼・天野景隆往きて義元に請ひて曰く、小主人漸く長ず。願はくは約の如くせんと。義元諾して未だ果さず。二年三月、關口氏、世子信康を生む。

(一) 正親町天皇の年號　(二) そとぐるわ　(三) 三河國に在り　(四) 兩度戰ひて兩度ながら勝てり、是丈にても多過ぎる　(五) 程よき處にて引上げ勝にきずつけぬ樣にし威光增し加ふべし

十餘人ー來獻。後松平信一代守。又襲敗ニ敵兵ー。四月。嗣君復如ニ駿河ー。義元遺ニ佩刀ー賀レ捷。納ニ山中邑三百貫ー。是冬。本多廣孝石川淸兼天野景隆往請ニ義元ー曰。小主人漸長。願如レ約(い)義元諸而未レ果。二年。三月。關口氏生ニ世子信康ー。

義元時有ニ西上之志ー。織田信長聞レ之。修ニ鷲津丸根大高沓掛鳴海梅坪寺部諸城ー。分レ兵守レ之。鳴海大高沓掛皆降ニ於義元ー。義元遣ニ鵜殿長持ー守ニ大高ー。岡部長教守ニ鳴海ー。已而大高告ニ糧竭ー。義元使ニ嗣君納ー糧焉。而城左右皆敵寨。

義元、時に西上の志有り。織田信長、之を聞きて、鷲津・丸根・大高・沓掛・鳴海・梅坪・寺部の諸城を修め、兵を分ちて之を守らしむ。鳴海・大高・沓掛、皆義元に降る。義元、鵜殿長持を遣して大高を守り、岡部長教をして鳴海を守らしむ。已にして大高糧竭くと告ぐ。義元、嗣君をして糧を納れしむ。而して城の左右は皆敵寨なり。衆之を難しとす。嗣君、時に年十八なり。千騎を以て運を護して往く。信長の鳴海に在るに値ふ。鳥井信吉・杉浦勝吉等をして之を候視せしむ。信吉曰く、敵邀へ戰はんと欲すと。勝吉曰く、彼れ山を下らず。是れ戰を欲せざるなりと。嗣君、之を然りとす。乃ち兵を分ちて寺部・梅坪に向ふ爲して、火を邑里に縱つ。鷲津・丸根の兵、烟を望みて馳せ援ふ。嗣君、則ち麾下八百を以て三隊と爲し、糧を大高に納れ、兵を収めて還る。信長、我が陣の整ふを視て、敢て犯さ

衆難レ之。嗣君時年十八。以二千騎一護レ運而往。値三信長在二鳴海一。使三鳥井信吉杉浦勝吉等候二覦之一。信吉曰。敵欲二邀戰一。勝吉曰。彼不レ下レ山。是不レ欲レ戰也。嗣君然レ之。乃分レ兵爲レ向二寺部梅坪一。縱二火邑里一。鷲津丸根兵望レ烟馳援。嗣君則以二麾下八百一爲二三隊一。納二糧大高一。收レ兵而還。信長覦二我陣整一。不二敢犯一。是歳。嗣君再徇二西參河一。復赴二駿河一。

ず。是の歳、嗣君、再び西參河を徇へ、復た駿河に赴く。

㈠大高城に兵糧を輸送せしむ　㈡諸人皆難事業となす　㈢糧食運搬を守護して行く　㈣うかゞひ見しむ　㈤兵を引連れて歸る

三年。五月。義元將二四萬騎一攻二信長一。至二池鯉鮒一。使三嗣君攻二丸根城一。城兵爭出。嗣君曰。彼寡レ於レ我。當レ守而戰。是決レ死也。我撓以二弓銃一。乘レ機

三年五月、義元、四萬騎に將として信長を攻め、池鯉鮒(一)に至り、嗣君をして丸根城を攻めしむ。城兵爭ひ出づ。嗣君曰く、彼は我より寡し。當に守るべくして戰ふは、是れ死を決するなり。我れ撓するに弓銃を以てし、機に乘じて之を拔きて可なりと。既にして前鋒、戰酣(二)なり。麾下之に繼ぎ、遂に城將佐久間盛重を斬る。贄氏信先登し、遂に其城を拔く。駿河の將朝比奈泰能も亦鷲津を拔く。義元、既に諸城を取り、大高は敵の衝に當るを以て、二勇將を得て之を守らしめ

拔レ之可也。既而前鋒戰酣。麾下繼レ之。遂斬二城將佐久間盛重一。贊氏信先登。遂拔二其城一。駿河將朝比奈泰能亦拔二鷲津一。義元既取二諸城一。以三大高當二敵衝一。欲下得二一勇將一守上レ之。問二之於衆一。衆曰。松平藏人其人也。乃使三嗣君守二大高一。而自進陣二桶狹一。恃レ勝不レ設レ備。信長乘二風雨一。潜レ兵自二間道一襲擊。義元敗死。其諸將聞レ變皆走。駿河兵在二大高一者亦逃亡。

んと欲す。之を衆に問ふ。衆曰く、松平藏人は其人なりと。乃ち嗣君をして大高を守らしむ。而して自ら進みて桶狹に陣す。勝を恃みて備を設けず。信長、風雨に乘じ、兵を潛めて間道㈢より襲擊す。義元、敗死す。其諸將、變を聞きて皆走る。駿河の兵の大高に在る者も亦逃亡す。

㈠三河國に在り　㈡眞最中なり　㈢まはり道

我將士說二嗣君一曰。今川公既死。我獨爲レ誰守。不レ若二全レ兵而歸一也。嗣君曰。當下舁二其

我が將士、嗣君に說きて曰く、今川公既に死す。我れ獨り誰が爲に守らん。兵を全くして歸るに若かざるなりと。嗣君曰く、當に其實を審にして然る後に師を班すべし。急遽㈠解き去りて、事、若し謬傳㈡に出でしならば、則ち笑を天下に貽さんと。水野信元刈谷に在り。私かに來り告げしめて曰く、信長、義元を獲て、

實㆒然後班㆑師。急遽解走。而事若出㆓謬傳㆒。則貽㆓笑天下㆒矣。水野信元在㆓刈谷㆒。私使㆓來告㆒曰。信長將㆔遂獲㆓義元㆒。將㆔遂復㆓諸城㆒。宜㆓乘㆑夜速去㆒。嗣君曰。水野雖㆓我舅氏㆒。而敵部將也。未㆑可㆓輕信㆒。遣㆑人偵㆑之。報曰。信矣。衆爭勸㆑還。嗣君曰。夜行恐㆑失㆑道。宜㆑竢㆓月出㆒。彼能來。我亦能戰。頃㆑之月

將に遂に諸城を復せんとす。宜しく夜に乘じて速かに去るべしと。嗣君曰く、水野は我が舅氏(三)なりと雖も、而も敵の部將(四)なり。未だ輕しく信ずべからずと。人を遣して之を偵はしむ。報して曰く、信なりと。衆爭ひて還るを勸む。嗣君曰く、夜行は恐らくは道を失はん(五)。宜しく月の出づるを竢つべし。彼れ能く來らば、我れ亦能く戰はんと。之を頃して月出づ。乃ち兵を整へて東に還る。土寇(六)爭ひ起る。本多百助、數々返り戰ひ、今村に達す。將に岡崎城に入らんとす。以爲へらく、(七)義元の在時、未だ我に還すの言あらず。今其死に乘じて之を取るは不義なりと。軍を大樹寺に駐むること三日なり。駿河の戍兵城を棄てて去る。嗣君曰く、彼れ棄てて我れ取るは、可なりと。二十三日、遂に入る。嗣君、六歳にして國を出で、十四年にして復た歸るを得たり。

(一) あわたゞしく撤兵して (二) 今川氏死去の事謬りのいひつたへならば天下笑はれ物ならん (三) しうと (四) 組大將 (五) 道路に迷はん (六) 土地の盜賊 (七) 義元の存命中いまだ還附すとの言なし

出。乃整レ兵東還。土寇爭起。本多百助數返戰。達レ于二今村一。將レ入二岡崎城一。以爲義元在時未レ有二還レ我之言一。今乘二其死一取レ之。不義也。駐三軍于二大樹寺一三日。駿河戍兵棄レ城去。嗣君曰。彼棄而我取。可矣。二十三日。遂入。嗣君六歲出レ國。十四年而得二復歸一焉。

士民讙呼。國內諸城主來謁者。相二踵於レ門。而其屬二織田氏一者。不二肯降一。嗣君乃將レ兵。攻二擧・母梅坪廣瀨一。廣瀨兵拒二于拂楚坂一。我兵奮擊走レ之。遂攻二沓掛一。縱二火城下一而還。城兵追躡。大久保忠俊殿而還。鳥居元忠有二首功一。嗣君欲三賞レ之以二功狀一。辭曰。功狀者。游士所二以藉レ口也。臣矢不レ事二二君一。莫下用二功狀一爲上也。

士民讙呼(一)し、國內の諸城主來り謁する者、門に相踵ぐ。而して其織田氏に屬するものは、肯て降らず。嗣君乃ち兵に將として、擧母・梅坪・廣瀨を攻む。廣瀨の兵、拂楚坂に拒ぐ。我が兵、奮擊(二)して之を走らせ、遂に沓掛を攻め、火を城下に縱ちて還る。城兵追躡(三)す。大久保忠俊殿して還る。鳥井元忠首功(四)あり。嗣君之を賞するに功狀(五)を以てせんと欲す。辭して曰く、功狀は游士の口を藉る所以なり(六)。臣矢ひて二君に事へず。功狀を用ふるを爲す莫れと。

(一) よろこび騷ぐ　(二) ふるひうつ　(三) 後をつける　(四) 第一の功　(五) 襃狀を與へんとす　(六) 浪人の口實にする爲なり

六月。信長謂ニ水野信元ニ曰。吾既獲ニ義元ー。以爲子之甥當ニ不レ戰而降ー。今乃强項如レ此。信元恐ニ嫌疑ー。發レ兵攻ニ岡崎ー。嗣君邀ニ戰于ニ石瀬ー。兩軍皆相識。故接戰尤厲。松井忠次傷ニ股于ニ銃。進斬ニ其銃卒ー。明日。戰ニ刈谷下ー。交綏。復攻ニ寺部擧母ー。皆拔レ之。進至ニ山中ー。攻ニ醫王山寨ー。久松俊

六月、信長、水野信元に謂ひて曰く、吾れ既に義元を獲、以爲へらく、子の甥は當に戰はずして降るべしと。今乃ち强項(一)なること此の如しと。信元嫌疑を恐れ、兵を發して岡崎を攻む。嗣君、石瀬(二)に邀戰(三)す。兩軍皆相識る。故に接戰尤も厲し。松平忠次股を銃に傷け、進みて其銃卒を斬る。明日刈谷の下に戰ひ、交綏(四)す。復た寺部・擧母を攻めて、皆之を拔き、進みて山中に至り、醫王山の寨を攻む。久松俊勝先登す。敵槍を以て其肩を鎩す。俊勝、刀を擧げて槍幹を截り、寨に入りて火を縱つ。衆、之に繼ぐ。遂に寨を取る。嗣君乃ち人をして義元の子氏眞に言はしめて曰く、公、先公の爲に一戰せよ。僕、請ふ先たらんと。答へず。氏眞、昏懦(五)なり。嬖臣に三浦義鎭あり。義鎭の生父は小原鎭實なり。並に國政を專にし、徳川氏に異心有りと讒す。氏眞又岡崎の勢の寖く熾なるを視て、猜防(六)の心あり。

(一) 强情にして屈し下らず (二) 三河國に在り (三) むかへ戰ふ (四) かはるがはる引上ぐ (五) 心昏く臆病なり (六) そねみて之をへだつ

勝先登。敵以槍縱其肩。後勝擧刀截槍幹。入寨縱火。衆繼之。遂取寨。嗣君乃使人言於義元子氏眞曰。公爲先公一戰。僕請先焉。不答。氏眞怯懦。嬖臣三浦義鎭。義鎭生父小原鎭實。並專國政。讒德川氏有異心。氏眞又視岡崎勢寖熾。有猜防之心。

四年。二月。水野信元來侵。復邀戰石瀨。破之。遂攻廣瀨伊保。板倉重定據中島不下。遣松平好景攻之。重定退保岡城。遂走佐脇。乃以其邑賞好景。信長素有霸心。欲出兵京畿。而武田信玄在甲斐。北條氏康在相摸。皆窺其

四年二月、水野信元來り侵す。復た石瀨に邀へ戰ひて、之を破り、遂に廣瀨、伊保を攻む。板倉重定(一)中島に據りて下らず。松平好景を遣して之を攻めしむ。重定退きて岡城を保つ。遂に佐脇(二)に走る。乃ち其邑を以て好景を賞す。信長素より(三)霸心有り。兵を京畿に出さんと欲す。而して武田信玄は甲斐に在り、北條氏康は相摸に在りて、皆其後を窺ふ。信長之を患ふ。會〻水野信元往きて之を說く、曰く、僕の甥氏眞の故を以て、尾張に抗す。其實は氏眞を怨むなり。誘ひて我が黨と爲すべし。而して彼れ(四)小弱と雖も、(五)天質剛鋭必ず和を請ふを肯ぜず。公、力を以て之を取らば、恐らくは歲月を費さん。我より和を結ぶに若かず。彼をして東面に當らしめて、公は專ら其西を略せば、霸業成らんと。信長大に喜びて曰く、是れ我が心を得たりと。乃ち瀧川一益をして、來りて石川數正に就きて和を

後。信長患之。會水野信元往說之。曰。僕甥以氏眞故抗於尾張。其實怨氏眞。可誘爲我黨。而彼雖小弱。天質剛銳。必不肯請和。公以力取之。恐費歲月。不若自我結和。使彼當東面。而公事略其西。霸業成矣。信長大喜。曰。是得我心。乃使瀧川一益來就石川數正求和。信元又使使來勸之。

求めしむ。信元又使をして來りて之を勸めしむ。

(一) 三河國に在り　(二) 同上　(三) 霸業をなさんとする心あり　(四) 勢力弱しといへども　(五) うまれつきたけくするどし

嗣君召諸將士議之。酒井忠次曰。我以微力介二大國。而圖自立焉。非便計也。氏眞忘仇廢武。沈溺酒色。不足與有爲明矣。與信長

嗣君、諸將士を召して之を議す。酒井忠次曰く、我れ微力(一)を以て、二大國に介して、自立を圖る。便計に非ざるなり。氏眞仇を忘れ武を廢して、酒色に沈溺(二)す、與に爲すあるに足らざるや明かなり。信長と和するは便なりと。嗣君曰く、念ふに固より如何ぞ舊好に背くべけんやと。石川家成・酒井正親曰く、忠次の言、是なり。嚮に義元佯(三)りて好意を爲し、歲に我が食を收め、月に我が兵を戰はせ、而して每に我を敵鋒(四)に餧す。丸根・大高の事、以て見るべきのみ。宜しく速かに

和倶。嗣君曰。念固如何可レ背ニ舊好一乎。石川家成酒井正親曰。忠次言是也。嚮義元伴爲ニ好意一。歳收ニ我食一。月戰ニ我兵一。而每餧三我於ニ敵鋒一。丸根大高之事。可ニ以見一已。宜三速許ニ尾張一矣。質之在ニ駿河一者。取レ之非レ難。氏眞重ニ與レ我絕一。必不レ能レ害也。嗣君曰。及ニ吾幼時一。我舊臣多膏ニ鋒鏑一。吾常傷ニ於心一。因泣下。終許レ和。信長大喜。定ニ國界一。解ニ兵戍一。遂請ニ嗣君來盟一。許レ之。

尾張に許すべし。質の駿河に在るもの、之を取るは難きに非ず。氏眞我と絕つを重んず。必ず害する能はざるなりと。嗣君曰く、吾れ幼時に及びて我が舊臣多く鋒鏑(三)に膏る。吾れ常に心に傷むと。因りて泣下る。終に和を許す。信長大いに喜び、國界を定め、兵戍を解き、遂に嗣君の來盟(六)を請ふ。之を許す。

㊀ 無勢力を以て二大國の中間にはさまり自から獨立をはかるは都合のよき計にあらず ㊁ 飲酒女色にふけりおぼる ㊂ ふるきよしみ ㊃ 敵の鋒先に當らしめて其の餌となす ㊄ 戰死す ㊅ 來りて盟約をなすこと

酒井忠尙在ニ上野一聞レ之。恐四其質之死三于ニ駿河一也。乃來說曰。信長意

酒井忠尙上野に在りて之を聞き、其質の駿河に死するを恐るゝや、乃ち來り說きて曰く、信長の意(一)測り難し。和す可くして、往く可からず。今、君の室家(二)皆駿河に在り。彼れ何ぞ我を信ぜんやと。嗣君曰く、業已に約を定む。當に背くべからずと。

難測。可和。不可往。今君室家皆在駿河。彼何信我乎。嗣君曰。業已定約。不當背也。忠尙不懌。乃去。左右慮其反。請追而誅之。嗣君曰。彼言自有理。且未必反。忠尙稱疾不出。信長修道供帳。至期。嗣君從百餘騎赴尾張。信長使林通勝等迎之熱田。嗣君憩于正海寺。遂至淸洲。入城門。觀者喧騰。本多忠高子忠勝。小字平八郎。時年十四。擧薙刀先驅。厲聲曰。我君來此。汝輩胡無禮也。衆皆讋伏。

忠尙懌ばず。乃ち去る。左右其反を慮り、追ひて之を誅せんと請ふ。嗣君曰く、彼の言自ら理あり。且つ未だ必ずしも反せじと。忠尙疾と稱して出でず。信長、道を修めて(三)供帳す。期に至りて、嗣君、百餘騎を從へて尾張に赴く。信長、林通勝等をして之を熱田に迎へしむ。嗣君正海寺に憩ひ、遂に淸洲に至り、城門に入る。(四)觀る者喧騰す。本多忠高の子忠勝、小字は平八郎、時に年十四なり。薙刀を擧げて先驅(五)し聲を厲して曰く、我が君此に來る。汝が輩胡ぞ無禮なると。衆皆讋伏(六)す。

(一) 信長の心中の程も知り難しされば和睦するは可なるも往きて盟ふは可不なりと (二) 家族 (三) 通行の道路を修復して客をもてなす用意をなす (四) 嗣君の行列を觀る者騒ぎ立つ (五) 前伴 (六) 恐れ狀す

信長出迎。導

信長出で迎へ、導きて內城に入る。植村榮政刀を操りて從ふ。(二)衞士之を叱す。榮

入二內城一。植村榮政操レ刀而從。衞士叱レ之。榮政瞋レ目曰。吾植村新六也。奉二主人刀一。何渠叱乎。信長揮二衞士一曰。我聞二新六名一久矣。勿レ怪。乃盟曰。兩家戮レ力。征二討東西一。織田有二天下一。德川爲二之屬國一。德川有二天下一。織田爲二之屬國一。遂饗二嗣君一。信長覞三寶刀於二榮政一曰。汝今日擧動。

政目を瞋らして曰く、吾は植村新六なり。主人の刀を奉ず。何渠れぞ叱するかと。信長(二)、衞士を揮きて曰く、我れ新六の名を聞くこと久し。怪しむ勿れと。乃ち盟ひて曰く、兩家力を戮せて、東西を征討し、織田天下を有たば、德川之が屬(三)國と爲り、德川天下を有たば、織田之が屬國と爲らんと。遂に嗣君を饗す。信長、寶刀を榮政に覞ひて曰く、汝が今日の擧動(四)、樊噲(五)が鴻門に在るが如しと。饗を畢へて還る。信長、郊送(六)し、通勝等をして來りて謝せしむ。氏眞之を聞きて怒り、使をして來り誚めしむ。酒井正親、人をして駿河に往かしめ、三浦義鎭に因りて、謝して曰く、參河の拏、皆駿河に在り。豈に貳心(七)あらんや。獨尾張の日に强大にして、勢將に我に及ばんとするを病ふ。故に佯り和し以て旦夕(八)を紓ぶるのみと。氏眞詰る能はず。

(一) 門衞の士　(二) にらみつけて　(三) つぎぐに　(四) ふるまひ　(五) 鴻門の會に於ける漢の高祖の臣樊噲にひとし　(六) 城外まで見送る　(七) 異心　(八) 一時脫れをするのみ

如三樊噲在二鴻門一。畢レ饗而還。信長郊送。使三通勝等來謝二岡崎一。氏眞聞レ之怒。使二使來詰一。酒井正親使三人往二駿河一。因二三浦義鎭一。謝曰。參河之拏。皆在二駿河一。豈有二貳心一。獨病二尾張日强大。勢將レ及レ我。故佯和以紓二旦夕一耳。氏眞不レ能レ詰。

先レ是。吉良義諦守二東條一。牧野成定守二西尾一。以黨二氏眞一。欲レ圖二岡崎一。三月。嗣君攻二東條一。不レ下。使下松平好景以二中島一備上レ之。東參河豪姓菅沼奥平設樂西鄕諸族。皆背二氏眞一來降。四月。義諦攻三酒井忠尙于二上野一。好景救レ之。義諦窺二其虛一。徑襲二中島一。好景還戰走レ之。至二善明堤一。遇二敵大至一。遂戰死。嗣君築二津平小牧一。命二松井忠次本多廣孝一守レ之。以備二東條一。五月。氏眞攻二

是より先、吉良義諦は東條を守り、牧野成定は西尾を守り、以て氏眞に黨し、岡崎を圖らんと欲す。三月、嗣君、東條を攻む。下らず。松平好景をして中島を以て之に備へしむ。東參河の豪姓(一)、菅沼・奥平・設樂・西鄕の諸族、皆氏眞に背きて來り降る。四月、義諦、酒井忠尙を上野に攻む。好景之を救ふ。義諦、其虛(二)を窺ひて、徑に中島を襲ふ。好景還り戰ひて之を走らす、善明堤に至り、敵の大に至るに遇ふ。遂に戰死す。嗣君津平・小牧に築き、松井忠次・本多廣孝に命じて以て之を守らしめて、以て東條に備ふ。五月、氏眞東參河を攻む。諸豪(三)善く拒ぐ。

(一) 多くの豪族　(二) 不在をねらひて　(三) 多くの豪族

東參河諸豪善拒。

七月。嗣君自將攻二牛窪一。使三別將攻二鳥屋一。鳥屋陷。本多忠勝與二叔父忠眞一從レ軍。忠眞縱二一人一。顧二忠勝一取二其首一。答曰。孺子不レ欲下因レ人成上レ功。自斃二一人一。馘レ之。忠眞啓レ狀曰。平八郎將三行爲二君用一也。嗣君大喜。

七月、嗣君自ら將として牛窪(一)を攻め、別將をして鳥屋(二)を攻めしむ。鳥屋陷る。本多忠勝、叔父忠眞と軍に從ふ。忠眞、縱して一人を斃し、忠勝を顧みて其首を取らしむ。答へて曰く、孺子(三)、人に(四)因りて功を成すを欲せずと。自ら一人を斃して之を馘る。忠眞狀(五)を啓して曰く、平八郎は將に(六)行々君の用を爲さんとすと。嗣君大に喜ぶ。

(一) 三河國に在り　(二) 同上　(三) 少年の自稱の謙辭　(四) 他人の力によりて功をなすを願はず　(五) 鳥居に於ける忠勝の戰場の狀を申上げて　(六) 將來主君の御役に立たん

五月。荒川城主吉良賴持。與二兄義諦一有レ

五月、荒川城主吉良賴持、兄義諦と郤あり。酒井正親に因りて降を請ふ。倶に攻めて西尾を抜き、牧野成定を走らせ、遂に東條を攻む。東條の裨將富永忠通、

郤。因二酒井正親一請レ降。倶攻拔二西尾一。走二牧野成定一。遂攻二東條一。東條裨將。富永景通陣二藤波畷一。欲レ攻二小牧一。忠次廣孝皆來。合レ於二正親一。邀擊二景通一。景通引レ弓擬二廣孝一。廣孝直前刺殺レ之。餘兵皆走。追レ北至レ城。降二義諦一而還。嗣君以二義諦邑一賜二正親一。以二景通邑一賜二廣孝一。以二津平一賜二忠次一。使三鳥居忠吉松平信一守二東條一。妻二賴持一以二異母妹一。

藤波畷に陣し、小牧を攻めんと欲す。忠次・廣孝皆來りて正親に合し、邀へて景通を擊つ。景通弓を引きて廣孝に擬す。(二)廣孝、直に前み刺して之を殺す。餘兵皆走る。北ぐるを追ひて城に至り、義諦を降して還る。嗣君、義諦の邑を以て正親に賜ひ、景通の邑を以て廣孝に賜ひ、津平を以て忠次に賜ふ。鳥居忠吉・松平信一をして、東條を守らしむ。賴持に妻はすに(三)異母妹を以てす。

(一) 副將 (二) 射んと構ふ (三) 異腹の妹

五年。三月。嗣君使三松平清善攻二西郡一。不レ利。更使二久松俊勝松井忠

五年三月、嗣君、松平清善をして西郡を攻めしむ。利あらず。更に久松俊勝・松井忠次等をして之を攻めしむ。忠次、甲賀の間諜(一)十八人を招き、城に入りて火を擧げしむ。(二)外兵之に應ず。城將鵜殿長持走る。追ひて其二子を虜にす。俊勝

次等攻之。忠次招甲賀間諜十八人。入城擧火。外兵應之。城將鵜殿長持走。追虜其二子。命後勝守西郡。駿河兵來爭。不能取。

に命じて西郡を守らしむ。駿河の兵來り爭ふ。取ること能はず。

㊀まはし者　㊁城外の兵間諜の擧火と相待つて攻めかゝる

氏眞欲殺我質。以我外家關口親永爲豪宗。不敢發。石川數正欲往護質。度嗣君不許。留書而往。聞氏眞甚惜鵜殿氏二子。則因親永請易質。許之。乃馳使還報。嗣君大喜。送二子於駿河。數正乃奉關口氏世子信康而歸。已而氏眞悔之。怒殺親永。擁我將士質。以誘降之。我將士無一人應者。即盡串殺其質。嗣君聞之哀痛。

氏眞、我が質を殺さんと欲す。我が外家(一)關口親永の豪宗(二)たるを以て、敢て發せず。石川數正往きて質を護らんと欲す。嗣君の許さざるを度り、書を留めて往く。氏眞甚だ鵜殿の二子を惜しむと聞き、則ち親永に因りて質を易へんと請ふ。之を許す。乃ち使を馳せて還り報ず。嗣君、大に喜び、二子を駿河に送る。數正乃ち關口氏、世子信康を奉じて歸る。已にして氏眞之を悔い、怒りて親永を殺し、我が將士の質を擁して、以て之を誘降せんとす。我が將士一人の應ずる者なし。即ち盡く其質を串殺(三)す。嗣君之を聞きて哀痛す。

㊀妻の實家　㊁大家　㊂さしつらぬきて殺す

四月。引間城背ニ氏眞一來降。七月。嵩山亦降。已而皆爲ニ駿河兵所レ拔。九月。駿河將朝比奈泰長來。襲ニ五本松一。殺ニ其城主西鄕正勝一。正勝子元正在ニ月谷一。聞レ變馳援。見ニ父已死一。赴ニ駿河軍一死。其弟清員爲ニ泰長所レ捕。行歷ニ萬丈谷一。奮レ袂自投。遂脫歸。因ニ菅沼定盈一告レ狀。嗣君命承ニ父兄後一。辭曰。臣兄有ニ遺孤一。臣請佐焉。嗣君義而許レ之。嗣君自將。攻ニ板倉重

四月、引間城(一)、氏眞に背きて來り降る。七月、嵩山(二)も亦降る。已にして皆、駿河の兵の拔く所と爲る。九月、駿河の將朝比奈泰長、來りて五本松(三)を襲ひ、其城主西鄕正勝を殺す。正勝の子元正、月谷に在り、變を聞きて馳せ援ひ、父の已に死せしを見て、駿河の軍に赴きて死す。其弟清員泰長の捕ふる所と爲る。行〻萬丈谷を歷、袂を奮ひて自ら投じ、遂に脫し歸りて、菅沼定盈に因りて狀を告ぐ。嗣君命じて父兄の後を承けしむ。辭して曰く、臣の兄に遺孤(四)有り、臣請ふ佐けんと。嗣君、義として之を許す。嗣君、自ら將として、板倉重定を佐脇に攻む。佐脇、牛窪・楡木と兵を合せて、坂井に拒ぐ。我が前軍敗走す。渡部守綱・夏目正吉殿戰(五)す。嗣君、敗を聞きて馳せ救ひ、撃ちて重定を斬り、佐脇・八幡の二寨を拔く。

(一) 遠江に在り　(二) 同上　(三) 同上　(四) わすれがたみ　(五) しんがりして戰ふ

定于佐脇。佐脇與平窪楡木合兵。拒于坂井。我前軍敗走。渡部守綱夏目正吉殿戰。嗣君聞敗馳救。擊斬重定。拔佐脇八幡二寨。

六年。二月。遣松井忠次。攻拔岩略寨。三月。自將。與駿河將小原鎭實戰于小坂井。破之。五月。放鷹近郊。至深溝。故松平好景子伊忠在焉。邀而饗之。賜之以鷹曰。長澤要地也。武田信玄所窺。非汝莫以當之。乃徙守長澤。

六年二月、松平忠次を遣して、攻めて岩略寨(一)を拔く。三月、自ら將として、駿河の將小原鎭實と小坂井に戰ひて、之を破る。五月、鷹を近郊(二)に放ち、深溝に至る。故の松平好景の子伊忠在り。邀へて之を饗す。之に賜ふに鷹を以てして曰く、長澤は要地(三)なり。武田信玄の窺ふ所なり。汝に非ざれば、以て之に當る莫しと。乃ち徙りて長澤を守らしむ。

(一) 三河國に在り　(二) 近邊　(三) 肝要なる地

十月。使菅沼定顯城于佐崎。糧儲未備。邑中有上宮寺。爲一向宗。

十月、菅沼定顯をして佐崎に城かしむ(一)。糧儲未だ備らず。邑中に上宮寺あり、一向宗たり。頗る資糧饒し。定顯之を徵す。寺僧聽かず。乃ち之を奪ふ。僧怒り、同宗鍼崎・野寺(二)・土呂の三寺に檄し、衆を合せて千餘人を得、菅沼氏を攻め、

頗饒ニ資糧ー。定顯徵レ之。寺僧不レ聽。乃奪レ之。僧怒。檄ニ同宗鍼崎野寺土呂三寺ー。合レ衆得ニ千餘人ー攻ニ菅沼氏ー。劫剽而去。定顯訴レ之。乃命ニ酒井正親ー捕ニ其主謀ー。斬以徇。僧徒益怒。大招ニ聚門徒ー。將士係ニ其宗ー。若欲下救ニ親戚ー修中仇怨上者。往往歸レ之。矢田作十郎。馬場小平太。蜂谷貞次。渡部守綱。本多正信。其弟正重等數百人。吉良義諦據ニ東條ー。其弟賴持據ニ荒川ー。酒井忠尚據ニ上野ー。松平家次據ニ櫻井ー。夏目正吉據ニ野羽ー。一時並叛。僧分ニ之牌ー。書曰。進ニ一歩ー生ニ極樂ー。卻ニ一歩ー墮ニ地獄ー。刻レ日來攻。

(四)劫剽して去る。定顯之を訴ふ。乃ち酒井正親に命じて其主謀を捕へ、斬りて以て徇ふ。僧徒益〻怒り、大に(五)門徒を招聚す。將士の其宗に係り、若しくは親戚を救ひて(六)仇怨を修めんと欲する者は、往往之に歸す。矢田作十郎・馬場小平太・蜂谷貞次・渡部守綱・本多正信、其弟正重等數百人なり。吉良義諦は東條に據り、其弟賴持は荒川に據り、酒井忠尚は上野に據り、松平家次は櫻井に據り、夏目正吉は野羽に據りて、一時並に叛く。僧、之に(七)牌を分ち、書して曰く、(八)一歩を進まば極樂に生れ、一歩を卻かば地獄に墮ちんと。日を刻して來り攻めんとす。

(一) 兵粮のたくはへ (二) 資財糧食 (三) 同じ一向宗 (四) おびやかしてはぎとる (五) 信者招き集む (六) 復讐せんと欲する者 (七) 位牌 (八) 一足進みて戰ふものは極樂に生れ一足退くものは地獄に陷つ

嗣君大驚。分レ兵守ニ諸城一。大久保忠俊與ニ從子忠世忠佐以下一守ニ輪田一。酒井正親守ニ西尾一。松平伊忠守ニ深溝一。本多廣孝松井忠次守ニ土井一。松平清善守ニ竹谷一。松平家忠守ニ形原一。松平信一守ニ藤井一。松平親俊守ニ福釜一。酒井忠次砦レ于ニ上野傍一。毎ニ賊出一擧レ烽相報。嗣君覩レ烽即馳救。賊輒逃走。

嗣君、大に驚き、兵を分ちて諸城を守らしむ。大久保忠俊、從子忠世、忠佐以下と輪田を守り、酒井正親は西尾を守り、松平伊忠は深溝を守り、本多廣孝・松井忠次は土井を守り、松平清善は竹谷を守り、松平家忠は形原を守り、松平信一は藤井を守り、松平親俊は福釜を守る。酒井忠次は上野の傍に砦して、賊出づる毎に烽を擧げて相報ず。嗣君、烽を覩て即ち馳せ救ふ。賊輒ち逃れ去る。

㈠ とりでを築きて　㈡ のろし

石川數正與ニ諸公族一攻ニ上野一。土井兵攻ニ東條一。藤井兵攻ニ土呂鍼崎一。皆有レ功。深溝

石川數正は諸公族と上野を攻め、土井の兵は東條を攻め、藤井の兵は土呂・鍼崎を攻む。皆功有り。深溝の兵は野羽を攻む。野羽の城兵乙部某導きて城を陷れ、正吉を擒にす。乙部請ひて曰く、臣の導を爲す所以は、正吉を活さんと欲すればなりと。伊忠も亦之を請ふ。嗣君遂に正吉を釋して、之を赦す。酒井忠次、戸

兵攻二野羽一。野羽城兵乙部某導而陷レ城擒二正吉一。乙部請曰。臣所二以爲レ導者。欲レ活二正吉一也。伊忠亦請レ之。嗣君終釋二正吉一。祿レ之。酒井忠次招二戸某一。亦以爲レ導。攻二野寺一。破二其後門一。

田某を招き、亦以て導と爲して、野寺を攻め、其後門を破る。

(一) 命請をせんと思へばなり (二) 領地を與ふ

十一月。鉞崎賊攻二輪田一。忠俊邀三戰于二小豆坂一。嗣君馳救。大破レ之。阿部忠政善射。渡部守綱與二筧正重一皆傷。水野忠重追二蜂谷貞次一。貞次揮レ槍返レ之。忠重卻。嗣君親進迫レ之。貞

十一月、鉞崎の賊、輪田を攻む。忠俊、小豆坂に邀戰す。嗣君馳せ救ひ、大に之を破る。阿部忠政善く射る。渡部守綱、筧正重と皆傷く。水野忠重、蜂谷貞次を追ふ。貞次、槍を揮ひて之に返す。忠重卻く。嗣君親ら進みて之に迫る。貞次卻く。松平金助追ひて之を詬る。貞次曰く、吾れ主公を畏る。豈に汝を畏れんやと。縱して金助を殪し、將に馘らんとす。嗣君之を呵す。(三) 貞次怖れて走る。筧正重、平岩親吉を追ひ、射て其耳に中つ。將に馘らんとす。又之を呵す。亦怖れて走る。忠俊進みて鉞崎を攻め、伊田に陣す。大久保忠世、本多正重と、銃を以て相擬す。忠世先づ發す。正重傷き走る。賊、議して曰く、爭戰決せず。宜

次卻。松平金助。追而詬之。貞次曰。吾畏主公。豈畏汝哉。縱殪金助。將馘。嗣君呵之。貞次怖而走。寛正重追平岩親吉。射中其耳。將馘。又呵之。亦怖而走。忠俊進攻鍼崎。陣于伊田。大久保忠世與本多正重。以銃相擬。忠世先發。正重傷走。賊議曰。爭戰不決。宜分兵於妙國寺。扼其歸途。夾擊陷之淖中。蜂谷貞次。忠俊婿也。痛其覆滅。獨騎低回寺前。忠俊悟之。引兵還輪田。十二月。嗣君攻佐崎。與矢田馬場戰。走之。天野康景斬馬場。閏月。本多重次高力清長攻土呂。本多廣孝松井忠次攻東條。皆有功。賞功分邑。賜忠次松平氏。尋築砦于佐崎傍。

しく兵を妙國寺に分ち、其歸途を扼し、夾擊して之を淖中に陷るべしと。蜂谷貞次は忠俊の婿なり。其覆滅を痛み、獨り騎して寺前に低回す。忠俊之を悟り。兵を引きて輪田に還る。十二月、嗣君、佐崎を攻め、矢田・馬場と戰ひて、之を走らす。天野康景馬場を斬る。閏月、本多重次・高力清長は土呂を攻め、本多廣孝・松井忠次は東條を攻む。皆功有り。功を賞し邑を分ち、忠次に松平氏を賜ふ。尋ぎて砦を佐崎の傍に築く。

(一) むかへ戰ふ　(二) しかりつける　(三) 泥の中　(四) 行きつもどりつす

七年。正月。三

七年正月三日、水野信元、來りて正を賀す。會〻佐崎の賊、岡大平を拔く。嗣

日。水野信元來賀レ正。會佐崎賊焚ニ岡大平一。嗣君望レ之。謝ニ信元一。上レ馬而出。信元不レ忍レ去。以ニ其卒一從。嗣君使ミ上輪田兵當ニ鍼崎一。而直出ニ小豆坂一。與レ賊遇。近藤新一射中ニ嗣君轡一。嗣君怒。親陷ニ賊陣一。與ニ信元兵一。合擊斬ニ其二將一。土呂鍼崎野寺賊合攻ニ輪田一。忠俊忠世防戰被レ創。

君、之を望み、信元に謝し、馬に上りて出づ。信元去るに忍びず。其卒を以て從ふ。嗣君、上輪田の兵をして鍼崎に當らしめて、直に小豆坂に出で、賊と遇ふ。近藤新一射て嗣君の轡に中つ。嗣君怒り、親ら賊陣を陷る。信元の兵と、合擊して其二將を斬る。土呂・鍼崎・野寺の賊、合して輪田を攻む。忠俊・忠世防戰して創を被る。嗣君單騎(二)赴き援ふ。踵ぎて馳する者三十八騎なり。鵜殿康孝戰死す。賊黨渡部高綱、進みて嗣君に逼る。其甥内藤正成、側に侍す。呼びて曰く、事已に此に至る。私(三)親を恤ふる能はずと。乃ち射て之を仆す。賊兵稀突(四)して進む。嗣君甚だ危し。賊黨土屋長吉、其儕輩に謂ひて曰く、吾れ門徒の故を以て、敢て主君に敵す。今其危きを視るに忍びず。吾れ寧ろ地獄に墮ちんと。乃ち鋒(五)を倒にして、嗣君の馬前に當り、賊を防ぎて戰死す。會ゝ日暮る。兩軍交綏(六)す。嗣君還り、其巾を脫するに、二銃丸を得たり。命じて長吉の尸(七)を收めて、輪田に葬らしむ。

嗣君單騎赴援。踵馳者三十八騎。鵜殿康孝戰死。賊黨渡部高綱進逼二嗣君一。其甥內藤正成侍レ側。呼曰。事已至レ此。不レ能レ恤二私親一。乃射仆レ之。賊兵豨突而進。嗣君甚危。賊黨土屋長吉謂二其儕輩一曰。吾以二門徒故一。敢敵二主君一。今不レ忍レ視二其危一。吾寧墮二地獄一矣。乃倒レ鋒。當二嗣君馬前一。防レ賊戰死。會日暮。兩軍交綏。嗣君澀脫二其甲一。得二二銃丸一。命收二長吉尸一。葬二于輪田一。

㈠新年を賀す　㈡たゞ一騎　㈢自分の親戚にあはれみをかけて助くるを得ず　㈣猪の如くつき進む　㈤鋒を身方に向けて　㈥互に退く　㈦死骸を棺に入れて

二月。西尾兵合二水野氏援軍一。戰二于櫻井野寺一。破レ之。嗣君自討二野寺賊一。設レ伏破レ之。數日佐崎賊可二三百一。以二矢田一爲レ將。犯二岡崎一。嗣君密戒二銃隊一曰。賊所二以困一レ我者。以レ

二月、西尾の兵、水野氏の援軍と合して、櫻井、野寺に戰ひて、之を破る。嗣君自ら野寺の賊を討ち、伏を設けて之を破る。數日にして佐崎の賊三百可り、矢田を以て將と爲し、岡崎を犯す。嗣君密かに銃隊を戒めて曰く、賊、我を困しむる所以は、矢田有るを以てなり、彼れ勇を負み、每に士卒に先んず。宜しく之を狙擊すべしと。戰交るに及ぶ、矢田丸に中りて斃る。餘賊潰走す。是より賊衆沮喪し、互に相悔責し、本多正信・蜂谷貞次に勸めて降を請はしむ。貞次、大久保忠俊に就きて乞ふ。忠俊因りて嗣君に說きて曰く、方今羣雄務めて兵を厲し地を拓

有二矢田一也。彼負レ勇。毎先二士卒一。宜レ狙二擊之一。及二戰交一。矢田中レ丸斃。餘賊潰走。自レ是賊衆沮喪。互相悔責。勸二本多正信蜂谷貞次一請レ降。貞次就二大久保忠俊一乞焉。忠俊因說二嗣君一曰。方今羣雄務厲レ兵拓レ地。而我有二內變一。國兵半爲二仇讐一。有レ如二隣國乘レ隙來侵一。傾覆不レ旋レ踵。不レ若下容二其自新一。使中各效上レ力。嗣君聽レ之。

く。而して我れ內變有り、國兵の半は仇讐と爲る。隣國隙に乘じて來り侵すが如き有らば、傾覆(四)踵を旋らさず。其自新(五)を容れて、各〻力を效さしむるに若かずと。嗣君、之を聽す。

㊀鐵砲隊　㊁ねらひうつ　㊂悔いて身を責む　㊃滅亡すること立所なり　㊄悔い改むるものはゆるして

貞次乃與レ衆議。請二三事一。曰。將士復レ祿。曰。僧徒安堵。曰。渠帥減レ死。嗣君曰。所レ請皆允。獨渠帥不レ可レ赦。忠俊泣

貞次乃ち衆と議して、三事を請ふ。曰く、將士は祿を復せん。曰く、僧徒は安堵せん。曰く、渠帥は死を減ぜんと。嗣君曰く、請ふ所皆允さん。獨り渠帥は赦すべからずと。忠俊泣きて諫めて曰く、去歲以來、臣が宗族、幾ど殲く。公、恤みて之を賞せんと欲せば、願はくは此輩の命を賜ひて以て前鋒と爲し、吉良•荒川を攻め、功を立てて罪を償はしめよ。則ち彊土、日に拓けんと。水野信元も亦

諫曰。去歲以來。臣宗族幾殲。公欲二恤而賞一レ之。願賜二此罷之命一以爲二前鋒一。攻二吉良荒川一。立レ功償レ罪。則疆土日拓矣。水野信元亦以爲レ請。嗣君勉從レ之。召二貞次守綱以下于二輪田一。徵レ盟賜レ書焉。使下石川家成率二鍼崎降將一赴二土呂一。呼而諭上レ之。賊投レ兵而降。佐崎野寺相繼皆降。乃逐二正信等五人及諸惡併一。以二其餘一爲二先鋒一。攻二東條荒川一。義諦賴持請レ降。不レ許。皆西走。

以て請を爲す。嗣君勉(四)めて之に從ひ、貞次・守綱以下を輪田に召し、盟を徵し書を賜ふ。石川家成をして、鍼崎の降將を率ゐて土呂に赴き、呼びて之を諭さしむ。賊、(五)兵を投じて降る。佐崎・野寺相繼きで皆降る。乃ち正信等五人、及び諸惡併を逐ひ、其餘を以て先鋒と爲し、東條・荒川を攻めしむ。義諦・賴持降を請ふ。許さず。皆西走す。

(一) 死刑をゆるして罪を輕くす　(二) かしら　(三) 領土日々に廣がらん　(四) 心を曲げて諫に從ひ　(五) 兵器を打ち捨てゝ降參す

是役也。榊原康政先二登于上野一。康政之

是の役に、榊原康政、上野に先登す。康政の先を仁木義長と曰ふ。伊勢の榊原邑に居る。其裔(一)清長、參河に徙りて、藏人親忠に仕ふ。康政は其孫なり。幼よ

先曰二仁木義長一。居二伊勢榊原邑一。其裔清長從二參河一仕二藏人親忠一。康政。其孫也。幼沈深喜レ書。是歲。甫十六。成瀨正義與二弟正一一每レ戰有レ功。二人嘗獲レ罪。出二奔甲斐一。已而來歸。嗣君待レ之如レ故。二人感激。故戰最力。

り沈深(二)にして書を喜む。是の歲甫めて十六なり。成瀨正義、弟正一と、戰ふ每に功有り。二人嘗て罪を獲(三)て、甲斐に出奔す。已にして來歸(四)す。嗣君、之を待つこと(五)故の如し。二人、感激す。故に戰最も力む。

(一) 子孫　(二) 落附きて考へ深く　(三) 罪を犯して　(四) 歸り來りて從ふ　(五) 二人を待遇すること以前と變らず

嗣君既定二西參河一。三月。出二兵東參河一。四月。小笠原康元以二幡豆一。牧野定成以二牛窪一。戶田重定以二楡木一。皆降。乃築二砦于一宮一。使二本多信

嗣君、既に西參河を定め、三月、兵を東參河に出す。四月、小笠原康元は幡豆を以て、牧野定成に牛窪を以て、戶田重定は楡木を以て、皆降る。乃ち砦を一宮に築き、本多信俊をして之を守らしめて、以て吉田・田原に適る。五月、氏眞兵一萬に將として、佐脇・八幡の二邑に陣し、其五千を分ちて一宮を攻めしむ。信俊、急(一)を告ぐ。嗣君、自ら二千人に將として赴き援ひ、二邑の間を過ぎて、本能原に至る。部伍(二)嚴整にして、兵鋒甚だ銳し。氏眞敢て犯さず。其兵の一宮を圍む者

俊守レ之。以遏ニ吉田田原一。五月。氏眞將ニ兵一萬一。陣ニ佐脇八幡二邑一。分ニ其五千一攻ニ一宮一。信俊告レ急。嗣君自將ニ二千人一赴援。過ニ二邑間一。至ニ本能原一。部伍嚴整。兵鋒甚銳。氏眞不ニ敢犯一。其兵圍ニ一宮一者解退。信俊尾擊破レ之。明日。嗣君復逼ニ氏眞營前一而還。氏眞引去。自レ是不レ能ニ復出一。

解きて退く。信俊、尾撃して之を破る。明日、嗣君復た氏眞の營前に逼りて還る。氏眞引きて去る。是より復た出づる能はず。

(一) 危急を報ず　(二) 部隊が嚴重に整理せられて軍勢甚だはげし

六月。嗣君使下酒井忠次率ニ牛窪楡木幡豆兵一攻中吉田上。本多忠勝先登。蜂谷貞次戰死。城將小原鎭實終致レ城去。以賜ニ忠次一。本多廣孝

六月、嗣君、酒井忠次をして、牛窪・楡木・幡豆の兵を率ゐて吉田を攻めしむ。本多忠勝先登し、蜂谷貞次戰死す。城將小原鎭實、終に城を致して去る。以て忠次に賜ふ。本多廣孝、田原を攻めて、其郛を取る。城將朝比奈元智も亦、城を致して去る。以て廣孝に賜ふ。六月、酒井忠尙復た叛く。廣孝、忠次に命じて之を討たしむ。城兵其數〻叛くを醜み、相率ゐて出で降る。忠尙、駿河に奔り、尋ぎて死す。是の歲、御油・寺部を攻めて、皆之を取る。長篠・築手・段嶺の三邑皆

攻二田原一。取二其郛一。城將朝比奈元智亦致レ城去。以賜二廣孝一。六月。酒井忠尙復叛。命二廣孝忠次一討レ之。城兵醜二其數叛一。相率出降。忠尙奔二漢河一尋死。是歲攻二御油寺部一。皆取レ之。長篠築手段嶺三邑皆降。

降る。

(一) 城の外郭　(二) 互ひにつれだちて降參す

八年。春。嗣君悉定二參河一。乃置二奉行三人一。掌二國內政刑一。以二作左衞門本多重次。與左衞門高力淸長。三郎兵衞天野康景一充レ之。重次剛直。淸長慈祥。康景沈重善謀。民爲レ之語曰。佛高力鬼作左。彼此無レ偏天三郎。

八年春、嗣君悉く參河を定む。乃ち奉行三人を置きて、國內の政刑(一)を掌らしむ。作左衞門本多重次、與左衞門高力淸長、三郎兵衞天野康景を以て之に充つ。重次は剛直、淸長は慈祥(二)、康景は沈重(三)にして善く謀る。民、之が爲に語りて曰く、佛高力、鬼作左、彼此偏する無き(四)は天三郎と。

(一) 政事と刑罰と　(二) いつくしみ深し　(三) 落附きて重々しく考へ深し　(四) 偏するなきは

先レ是。嗣君既

是より先、嗣君既に今川氏と絕つ。元康の名は義元の命ずる所なるを以て、名

與二今川氏一絕。以二元康之名義元所レ命也。改二名家康一。取二遠祖義家偏名一也。鳥居忠吉爲二嗣君一奏二京師一。請レ襲二先世官爵一。九年。十二月。詔。敍二從五位下一。任二參河守一。

を家康と改む。遠祖義家の偏名を取るなり。鳥居忠吉、嗣君の爲に京師に奏して、先世の官爵を襲がんと請ふ。九年十二月、詔して、從五位下に敍し、參河守に任ず。

㊀遠き先祖　㊁名の一字をとる

十年。五月。參河守。爲二世子信康一。娶二織田信長女一。信長使三佐久間信盛來送二女。參河守之定レ國也。武田信玄使二使修一レ好。是歲。使二其將山縣昌景來言一曰。請戮レ力滅二氏眞一。我取二大井河以東一。公取二大井河以西一。參河守許レ之。

十年五月、參河守、世子信康の爲に、織田信長の女を娶る。信長、佐久間信盛をして來りて女を送らしむ。參河守の國を定むるや、武田信玄、使をして好を修めしむ。是の歲、其將山縣昌景をして來り言はしめて曰く、請ふ、力を戮せて氏眞を滅し、我は大井河以東を取り、公は大井河以西を取れと。參河守、之を許す。

㊀國を平定するや　㊁協力して

十一年。正月。詔。遷二參河守一為二左京大夫一。三月。大夫出二兵遠江一。攻二久能一。使下高力淸長說二城將宗能一降上レ之。松下二股高藪三族皆降。進攻二堀川一。拔レ之。遂取二宇津山一。城二于見附一。八月織田信長西略二近江一。來乞二援兵一。大夫使下松平信一以二二千餘人一往上。信長將木下秀吉等攻二箕

十一年正月、詔して、參河守を遷して左京大夫と爲す。三月、大夫、兵を遠江に出して、久能を攻む。高力淸長をして、城將宗能に說きて之を降らしむ。松下・二股・高藪の三族、皆降る。進みて堀川を攻めて、之を拔く。遂に宇津山を取りて、見附に城く。八月、織田信長、西近江を略し、來りて援兵を乞ふ。大夫、松平信一をして、二千餘人を以て往かしむ。信長の將木下秀吉等、箕作城を攻む。城固くして、拔けず。信一疾く攻め、(一)矢石を冒して進み、大に呼びて曰く、參河の人松平信一、先登せりと。諸隊繼ぎて登る。城遂に陷る。信長、(二)面のあたり信一を褒めて曰く、卿、(三)膽に毛を生ずと謂ふべしと。(四)桐號の胴服を賜ふ。十二月、大夫遠江に入りて、井伊谷を取らんと欲す。谷中の豪族井伊直親、讒言を以て氏眞の殺す所と爲る。其故部菅沼・近藤・鈴木の三族、皆大夫に屬す。大夫遂に刑部を取る。

(一) 矢だまの中を進み (二) 前面で (三) 剛膽恐る可きにいふ (四) 桐の紋つきたる

作城一。城固。不レ抜。信一疾攻。冒二矢石一而進。大呼曰。參河人松平信一先登矣。諸隊繼登。城遂陷。信長面褒二信一一曰。卿可レ謂二膽生一レ毛矣。賜二桐號胴服一。十二月。大夫入二遠江一。欲レ取二井伊谷一。谷中豪族井伊直親。以二讒言一爲二氏眞所一レ殺。其故部曾沼近藤鈴木三族。皆屬二大夫一。大夫遂取二刑部一。

先レ是。引間城主飯尾某密通二款於レ我。事覺被レ殺。其部下以レ城來降。又爭レ事相殺。於レ是大夫入二引間一。益二其壘壁一。立爲二根據一。遂招二降馬伏高天神二城一。

是より先、引間城主飯尾某、密に款を我に通ず。事覺れて殺さる。其部下、城を以て來り降る。(一)又事を爭ひて相殺す。是に於て、大夫引間に入り、其壘壁を益し、立てて根據と爲す。(二)遂に馬伏・高天神の二城を招降す。(三)

(一) 飯尾の部下の者城を差出して來り降る (二) ねじろ (三) 二城共に近江國に在り

是時武田信玄已入二駿河一。逐二氏眞一。氏眞奔二遠江一。朝比奈泰能守二掛

是の時、武田信玄、已に駿河に入り、氏眞を逐ふ。氏眞遠江に奔る。朝比奈泰能、掛川城を守りて以て之を迎ふ。三浦義鎭・小原資久、氏眞を棄てて、獨り花澤を保つ。甲斐の將秋山晴近、大井河を渡りて、久能を招く。久能下らず。奥平・菅沼、

川城ニ以迎レ之。三浦義鎭小原資久棄ニ氏眞一而獨保ニ花澤一。甲斐將秋山晴近濟ニ大井河一。招ニ久能一。久能不レ下。與平管沼迎戰レ于ニ見附一。我兵不レ利。大夫使三人誚ニ晴近一曰。汝何敢背レ約。不ニ亟引去一。我親出擊レ之。晴近懼。引去。大夫遂攻ニ掛川一。城險食足。不レ可ニ輒拔一。乃連レ砦備レ之。退陣ニ見附一。

迎へて見附に戰ふ。我が兵、利あらず。大夫、人をして晴近を誚めしめて曰く、汝、何ぞ敢て約に背く。亟かに引き去らずんば、我れ親ら出でて之を擊たんと。晴近懼れて引き去る。大夫、遂に掛川を攻む。城、(一)險にして食足る。輒く拔くべからず。乃ち砦を連ねて之に備へ、退きて見附に陣す。

(一) 城は險阻に在りて兵粮十分なり

是歲。奏請レ復ニ德川氏一。十二年。正月。詔。報可。自レ是德川爲レ宗。松平爲レ族。是月。復攻ニ掛川一。使三使謂ニ信玄一曰。掛川

是の歲、奏して德川氏に復せんと請ふ。十二年正月、詔あり、(一)報可す。是より德川を宗と(二)爲し、松平を族と(三)爲す。是の月、復た掛川を攻め、使をして信玄に言はしめて曰く、掛川は則ち僕の力にて(四)能く之を擧げん。前日の約如何と。信玄答へて曰く、(五)敢て渝らずと。大夫乃ち徙りて天王山に陣して、以て掛川に逼る。

(一) 天子より御ゆるしを得　(二) 本家　(三) 一族　(四) 能く掛川を攻取るを得ん　(五) 決して約束に違變せず

則僕力能擧㆑之。前日之約如何。信玄答曰。不㆓敢渝㆒。大夫乃徙㆓陣于天王山㆒。以逼㆓掛川㆒。

氏眞陷㆓久能宗能父宗明㆒以㆑利。欲㆑夾㆓擊我軍㆒。宗明諾。而告㆓之宗能㆒。宗能不㆑從。氏眞之使復至。戒㆑期。宗明父子密謁㆓大夫㆒告㆑之。大夫使㆓伴期㆒焉。而夜伏㆓兵城外㆒。候㆓敵出㆒起鬬。獲㆓其五將㆒。尾而入㆑城。城兵堅拒。不㆑得㆑入。二月。退陣㆓見附㆒。降㆓濱名都築㆒

氏眞、久能宗能の父宗明に啗すに利を以てし(一)、我が軍を夾撃せんと欲す。宗明諾す(二)。而して之を宗能に告ぐ。宗能従はず。氏眞の使復た至りて期を戒む(三)。宗明父子、密かに大夫に謁して之を告ぐ。大夫偽り期せしめて、夜、兵を城外に伏せ、敵の出づるを候ひ、起ちて鬬ひて、其五將を獲、尾して城に入る。城兵堅く拒ぎ、入るを得ず。二月、退きて見附に陣し、濱名・都築の二城を降す。三月、復た掛川を攻む。泰能等出でて西宿に戰ふ。我が諸將、撃ちて之を破り、走るを追ひて城に至り、竹楯(四)を以て環り攻む。城兵舟師を以て我が軍後に出づ。鳥居元忠・榊原康政等、邀へ撃ちて之を走らす。大夫、退きて引間に入り、三奉行をして、令三條を下さしめて、鹵掠(五)を禁じ、士民を按撫(六)す。會々氣賀の盗起る。兵を遣して其首謀を誅し、盡く餘黨を赦す。遠江の民、心を歸す(七)。

㈠ 利祿を以て誘ひ　㈡ 承諾す　㈢ 約束したる時間を誤らぬ樣念をおす　㈣ 竹の楯を以て取り卷きて攻む　㈤ 掠め取る　㈥ 各々居所を調べて其所に居らしむ　㈦ 從ひ服す

二城。三月。復攻二掛川一。泰能等出戰レ于二西宿一。我諸將撃破レ之。追レ走至レ城。以二竹柵一環攻。城兵以二舟師一出二我軍後一。鳥居元忠榊原康政等。邀撃走レ之。大夫退入二引間一。使三奉行下二令三條一。禁二鹵掠一。按二撫士民一。會氣賀盜起。遣レ兵誅二其首謀一。盡赦二餘黨一。遠江民歸レ心焉。

氏眞度二掛川終不一レ可レ守。欲三走依二北條氏康一。氏康。其舅也。乃因二酒井正親石川家成一乞レ和。大夫答曰。某幼爲三尊翁所二扶持一。不三敢失二舊誼一。讒者所レ間。以至レ構レ兵。今信玄欲レ併二駿河遠江一。公若以二遠江一見レ附レ某。某當丁與二氏康一謀納丙公於乙駿河甲。因送二誓書一。五月。使三松平家忠護二送氏眞一。至二戸倉一。授三之於二北條氏一。

氏眞、掛川の終に守るべからざるを度り、走りて北條氏康に依らんと欲す。氏康は、其舅なり。乃ち酒井正親、石川家成に因りて和を乞ふ。大夫答へて曰く、某、幼にして尊翁の扶持する所と爲る。敢て舊誼を失はず。讒者に間せられて、以て兵を構ふるに至る。今、信玄、駿河・遠江を併せんと欲す。公若し遠江を以て某に附けらるれば、某、當に氏康と謀り、公を駿河に納るべしと。因りて誓書を送る。五月、松平家忠をして氏眞を護送せしめ、戸倉に至りて、之を北條氏に授く。

㊀ ふるきよしみ ㊁ 讒者の爲に交情を割かれて戰爭することに立至る

大夫於是取遠江。以掛川賜石川家成。自從五百人。巡視郡縣。甲斐將山縣昌景將兵三千。自駿府至金谷。遇大夫。下馬而拜。覩我寡單。心動。託忿爭反襲之。大夫走就險隘。擊斬其前鋒八騎。昌景引去。大夫大怒。遣兵攻駿府。昌景棄壘走。乃使使氏康。謀復氏眞。氏眞舊臣岡部正綱等。修府城守之。六月。以天方飯田不奉我令。攻取之。十一月。信玄與氏康戰勝之。降正綱。取駿河。分兵據小山。大夫使松平眞乘援掛川以攻小山。

大夫、是に於て、遠江を取り、掛川を以て石川家成に賜ひ、自ら五百人を從へて、郡縣を巡視す(一)。甲斐の將山縣昌景、兵三千に將として、駿府より金谷に至り、大夫に遇ふ。馬を下りて拜し、我が寡單を覩て(二)、心動き(三)、忿爭に託して(四)反りて之を襲ふ。大夫、走りて險隘に就き、擊ちて其先鋒八騎を斬る。昌景引き去る。大夫、大に怒りて、兵を遣して駿府を攻む。昌景、壘を棄てて走る。乃ち使を氏康に使し、氏眞を復せんと謀る。氏眞の舊臣岡部正綱等、府城を修めて之を守る。六月、天方・飯田、我が令を奉ぜざるを以て、攻めて之を取る。十一月、信玄、氏康と戰ひて之に勝ち、正綱を降し、駿河を取り、兵を分ちて小山に據る。大夫、松平眞乘をして掛川を援ひて以て小山を攻めしむ。

(一)見めぐる　(二)兵少く陣立うすきを見て　(三)氣がかゝり　(四)忿り爭ふことにかこつけて

元龜元年。正月。以二遠江既定一。徙居二引間一。改二名濱松一。使下世子居二岡崎一以撫中參河上。大夫威名大振。稱爲二海道第一一。是月。信玄攻拔二花澤一。小原資久三浦義鎭奔二高天神一。城主小笠原長忠與レ之有レ故。而知三大夫深惡二二人一。斬獻二其首一。大夫不レ賞。

元龜元年正月、遠江、既に定るを以て、徙りて引間に居り、名を濱松と改む。世子をして岡崎に居りて以て參河を撫せしむ。大夫の威名、大に振ふ。(一)稱して海道第一と爲す。(二)是の月、信玄攻めて花澤を拔く。小原資久・三浦義鎭、高天神に奔る。城主小笠原長忠、之と故あり。而して大夫の深く二人を惡むを知り、斬りて其首を獻ず。大夫賞せず。

㊀家康の威光名聲　㊁東海道第一

二月。信長使三人來賀二二國平定一。且請二援兵一擊二朝倉義景一。三月。信長先入二京師一。大

二月、信長、人をして來りて二國の平定を賀せしむ。且つ援兵を請ひて朝倉義景を擊つ。三月、信長、先づ京師に入る。大夫、兵一萬に將として之に繼ぐ。四月、將軍足利義昭、信長、及び大夫を饗す。遂に越前に赴く。信長は近江より、大夫は若狹より、敦賀に會して、攻めて手筒を拔き、遂に金崎を下す。淺井長政、

大將二兵一萬一繼レ之。四月。將軍足利義昭饗二信長及大夫一。遂赴二越前一。信長自二近江一。大夫自二若狹一。會二于敦賀一。攻拔二手筒一。遂下二金崎一。會丁淺井長政叛應二義景一。欲丙夾乙擊信長甲。信長危懼。問二大夫一曰。爲レ之何如。大夫曰。公第馳入二京師一。長政見レ事遲矣。必未レ扼二歸路一。至レ如二義景一。則留二一猛將一與レ僕合レ力。必不レ能レ尾也。信長乃留二羽柴秀吉一。而夜走二京師一。數日。大夫與二秀吉一殿而退。信長將丹羽長秀明智光秀在二若狹一。不レ能レ歸。大夫分レ兵救レ之。皆達二于朽木一。行擊二土寇一而入二京師一。五月。歸二岡崎一。

叛きて義景に應じ、信長を夾擊せんと欲するに會ふ。信長危懼し(一)、大夫に問ひて曰く、之を爲す何如と(二)。大夫曰く、公、第馳せて京師に入れ。長政、事を見るに(三)遲し。必ず未だ歸路を扼せじ。義景の如きに至りては、則ち一猛將(四)を留め、僕(五)と力を合せば、必ず尾する能はじと。信長乃ち羽柴秀吉を留めて、夜京師に走る。數日、大夫、秀吉と殿して退く。信長の將丹羽長秀・明智光秀若狹に在り。歸る能はず。大夫、兵を分ちて之を救ひ、皆朽木に達す。行く土寇(六)を擊ちて京師に入る。五月岡崎に歸る。

(一) 危ぶみおそる (二) 淺井氏叛きたるについては如何に自身の方針をとらばよからん (三) 事に當つて遲鈍ならず (四) 一人のたけき大將 (五) 一本に某とあり (六) 其土地の賊

六月。信長擊ニ淺井長政一。復來乞レ援。大夫將レ兵赴レ之。朝倉義景使ニ族景健援ニ長政一。信長兵三萬五千。大夫兵五千。陣ニ于龍鼻一。長政兵八千。景健兵一萬五千。陣ニ于大寄一。信長夜議レ戰。大夫曰。僕年少。不レ喜ニ混戰一。願當ニ一面一。信長曰。然則當ニ長政一。顧公兵寡。我當ニ分レ兵援レ之。大

六月、信長、淺井長政を擊つ。復た來りて援を乞ふ。大夫、兵に將として之に赴く。朝倉義景、族景健をして長政を援けしむ。信長の兵三萬五千、大夫の兵五千、龍鼻に陣す。長政の兵八千、景健の兵一萬五千、大寄に陣す。信長、夜、戰を議す。大夫曰く、僕は年少、混戰を喜ばず。願はくは一面に當らんと。信長曰く、然らば則ち長政に當(一)れ。顧ふに公の兵寡し。我れ當に兵を分ちて之を援ふべしと。大夫曰く、僕は小國を領し、寡兵を用ふるに慣る。且つ縱ひ援兵を賜ふも、素(二)より撫循せるに非ざれば、何ぞ用を爲さんやと。信長曰く、公をして獨り敵に當らしめば、吾れ將に天下の笑と爲らんとす。請ふ、一隊將を附せん。誰か可なる者ぞと。大夫乃ち稻葉通朝を請ふ。信長、通朝を召して曰く、汝、德川の識(三)拔する所と爲る。榮、大なるは莫しと。因りて一槍を取りて大夫に贈りて曰く、相傳ふ、是れ鎭西八郎の箭(四)鏃なりと。公は源氏の冑(五)胤なり。詰朝、其れ此を以て指(六)麾せよと。大夫喜びて之を受く。

夫曰。僕領二小國一。慣レ用二寡兵一。且縱賜二援兵一。非二素撫循一。何爲レ用乎。信長曰。使二公獨當一レ敵。吾將レ爲二天下笑一。請附二一隊將一。誰可者。大夫乃請二稻葉通朝一。信長召二通朝一曰。汝爲二德川所一レ識拔一。榮莫レ大焉。因取二一槍一贈二大夫一曰。相傳是爲二鎭西八郎箭鏃一。公源氏冑胤。請朝其以レ此指麾。大夫喜而受レ之。

(一) 年若なれば諸人と共に戰爭すること好まず (二) 平素よりてなづけてある兵ならねば (三) 見立に預る名譽此上なし (四) やじり (五) 血統なり (六) さしづせよ

於レ是分レ兵爲レ四。酒井忠次等爲二前鋒一。石川數正等爲二次隊一。大夫自爲二中軍一。榊原康政本多廣孝爲二左右翼一。稻葉通朝爲二後拒一。旦日。長政自レ東。景健自レ西。來至二姉川一。信長又使二

是に於て、兵を分ちて四と爲す。酒井忠次等、前鋒と爲り、石川數正等次隊と爲り、大夫自ら中軍と爲り、榊原康政・本多廣孝左右の翼と爲り、稻葉通朝後拒と爲る。旦日、長政は東より、景健は西より、來りて姉川に至る。信長、又人をして來り謂はしめて曰く、吾れ深く長政を惡み、甘心せんと欲す。願はくは公、景健に當れと。大夫曰く、諾と。忠次諫めて曰く、我れ嚮ふ所已に定る。乃ち之を易へば、部伍必ず亂れんと。大夫曰く、西は衆にして強く、東は寡にして弱し。東を舍てて西を取るは、吾が願ふ所のみと。乃ち兵を引きて西し、景健と姉川を夾みて陣す。景健、兵百餘を縱ちて先づ濟る。本多忠勝、中軍に在り。請ひて曰

人來謂一曰。曰。吾深憎二長政一。欲二甘心一焉。願公當二景健一。大夫曰。諾。忠次諫曰。我所レ嚮巳定。乃易レ之。部伍必亂。大夫曰。西衆而强。東寡而弱。舍レ東取レ西。吾所レ願巳。乃引レ兵而西。與二景健一夾二姉川一而陣。景健縱二兵百餘一先濟。本多忠勝在二中軍一。請曰。彼欲レ擊二我橫一。我當二逆戰一。大夫曰。善。命二忠勝一馳擊。大久保忠隣安藤直次踵馳。擊走レ之。

く、彼れ我が橫(三)を擊たんと欲す。我れ當に逆へ戰ふべしと。大夫曰く、善しと。忠勝に命じて馳せ擊たしむ。大久保忠隣・安藤直次踵ぎて馳せ、擊ちて之を走らす。

(一) 後押　(二) 思ふ存分に攻めんと欲す　(三) 側面を攻擊せんと欲す

景健以二全軍一進。我前鋒卻。次隊承レ之。戰レ于二河中一。犬塚又內攬二敵槍一相挽。遂奪而殺レ之。內藤正貞遺二槍敵中一。

景健全軍(一)を以て進む。我が前鋒卻く。(二)次隊、之を承け、河中に戰ふ。犬塚又內、敵の槍を攬りて相挽き、遂に奪ひて之を殺す。內藤正貞、槍を敵中に遺し、馬を回して之を取る。松平忠次敵に射られ、矢左手を貫く。矢を拔きて反し射て、之を殪す。次隊卻く。敵進み、直に麾下に逼る。麾下の將士拒ぎ戰ひて決せず。大夫怒り、槍を奮ひて指麾し、(三)左右の翼を縱ちて夾擊し、大に之を破る。顧みて

向レ馬取レ之。松平忠次爲二敵射一。矢貫二左手一。拔レ矢反射。殪レ之。次隊卻。敵進。直逼二麾下一。麾下將士拒戰不レ決。大夫怒。奮レ槍指レ麾。縱二左右翼一夾擊。大破レ之。顧見二信長軍敗一。沿レ川而東。與二後拒一俱擊二長政一。又大破レ之。追レ北至二大寄一而還。信長大賞二大夫功一。目以二武門棟梁一。本多正信渡部守綱等。亡在二越前一。悔而來歸。是役。從有二首功一。

信長の軍敗るゝを見、川に沿ひて東し、後拒と俱に長政を擊ち、又大に之を破る。北ぐるを追ひて大寄に至りて還る。信長大に大夫の功を賞し、目するに（四）武門の棟梁を以てす。本多正信、渡部守綱等、亡げて越前に在り。悔いて來り歸し、是の役、從ひて首功（五）あり。

（一）總軍勢にて進む　（二）二軍之を引受けて河中に戰ふ　（三）左右兩陣の兵を進めてはさみうち　（四）武家のかしら　（五）第一の功

八月。大風傷レ稼。我國最甚。命二三奉行一賑二恤之一。九月。信長攻二一向賊于二攝津一。淺井

八月、大風、稼（一）を傷く。我が國最も甚だし。三奉行に命じて之を賑恤（二）せしむ。九月、信長、一向（三）の賊を攝津に攻む。淺井・朝倉・六角氏並び起りて、其歸路を絕つ。大夫、酒井忠次・石川家成をして、赴き救はしめ、數〻六角氏を擊つ。事平ぎて乃ち歸る。是の時、信長已に近畿十餘州を取る。而して大夫は僅かに

淺倉六角氏並起。絕其歸路。大夫使酒井忠次石川家成赴救。數擊六角氏。事平乃歸。是時信長已取近畿十餘州。而大夫僅得定參河遠江。以與強敵接壤也。

參河・遠江を定むるを得たり。（四）強敵と壤を接するを以てなり。

㊀ 植ゑつけたる穀物をそこなふ　㊁ にぎはしすくふ　㊂ 一向宗の賊　㊃ 強敵と地つゞきなるが故なり

初信長深畏ニ武田信玄ー。事レ之甚謹。而信玄常欲レ西ニ其兵ー。議曰。信長使ニ家康當ヒ我。而自取ニ易レ取之地ー。致ニ強大ー。今先獲ニ家康ー。則信長隨レ手而亡。當ニ是時ー。與ニ信玄ー勍敵

巻十九

徳川氏正記

徳川氏二

初め信長、深く武田信玄を畏れ、(一)之に事ふること甚だ謹む。而して信玄は常に其兵を西せんと欲し、議して曰く、信長は家康をして我に當らしめて、自ら取り易きの地を取りて、強大を致す。今先づ家康を獲ば、則ち信長は手に(二)隨ひて亡びんと。是の時に當りて、信玄を勍敵する者、唯北條氏康及び越後の國主上杉謙信あるのみ。是の歳冬、氏康卒し、(三)子氏政立つ。和を信玄に請ふ。信玄其の今川氏眞を庇ふを以て之を難み、氏政をして、(四)之を殺して以て意を表せしむ。氏眞懼れ、海を航して來り奔る。大夫給するに邑を以てして、善く之を遇す。氏眞、素より

者。唯有北條氏康。及越後國主上杉謙信。是歲冬。氏康卒。子氏政立。請和於信玄。信玄以其庶今川氏眞難之。使氏政殺之以表意。氏眞懼航海來奔。大夫給以邑。善遇之。氏眞素與謙信通好。勸大夫修幣焉。謙信喜答之。約夾攻信玄。大夫異父弟久松義勝。質駿河數年。爲信玄所奪。幽于甲斐。至是逃出。踏雪而歸。足指皆墮。大夫厚視之。信玄於是決意絕我。而德川氏與武田氏始構難矣。

謙信と好を通ず。大夫に幣を修むるを勸む(五)。謙信喜びて之に答へ、夾みて信玄を攻めんと約す。大夫の異父弟久松義勝、駿河に質たること數年なり。信玄の奪ふ所と爲り、甲斐に幽せらる。是に至りて逃れ出で、雪を踏みて歸る。足指皆墮つ。大夫厚く之を視る。信玄、是に於て、意を決して我と絕つ(六)。而して德川氏、武田氏と始めて難を構ふ(七)。

(一)信玄に事へて謹愼を極む　(二)信長は我が攻擊するに從つて滅亡せん　(三)强くして匹敵する者　(四)今川氏眞を殺して他意なきことをあらはさしむ　(五)聘物を贈り和親をすることを勸む　(六)絕交す　(七)戰ふ

二年。正月。大夫進從五位上。遷侍從。二

二年正月、大夫、從五位上に進み、侍從に遷る。二月、信玄遠江に入り、三月、高天神を攻む。小笠原長忠堅く守る。乃ち兵を引きて去り、其將秋山晴近をして

月。信玄入遠江。三月。攻高天神。小笠原長忠堅守。乃引兵去。令其將秋山晴近侵東參河。招降三族。獨菅沼定盈不降。四月。參河諸城多陷。我民叛。應信玄。欲襲岡崎。侍從遣靑山忠門擊平之。忠門戰死。侍從出陣于吉田。遣兵擊信玄將山縣昌景。走之。信長聞我與信玄交兵甚危之。而不敢來援。使人來言曰。聞信玄數侵貴國。某當赴援

東參河を侵さしめ、三族を招降す。獨り菅沼定盈降らず。四月、參河の諸城多く陷る。我が民叛きて、信玄に應じ、岡崎を襲はんと欲す。侍從、靑山忠門を遣し、擊ちて之を平げしむ。忠門戰死す。侍從出でて吉田に陣し、兵を遣して信玄の將山縣昌景を擊ち、之を走らす。信長、我の信玄と兵を交ふるを聞き、甚だ(一)之を危む而して敢て來り援はず。人をして來り言はしめて曰く、聞く、信玄、數〻貴國を侵すと。某當に赴き援ひて以て去歲(二)の勞に報ゆべし。而るに西事殷なる(三)を以て、未だ之を果さざるなり。顧ふに濱松は敵の衝に當る。宜しく避けて岡崎に徙るべしと。侍從謝して曰く、某請ふ、徐に之を計らんと。使者出づ。侍從笑ひて近臣に謂ひて曰く、吾にして此を去らば、當に刀劍を蹈折(四)して復た用ひざるべし。信玄何ぞ畏るゝに足らんやと。

(一)心許なく思ふ　(二)姉川の役の家康の功勞　(三)多事なるが故に　(四)武器をうちこはして復た何事をせじ

以報二去歳之勞一。而以二西事殷一未二之果一也。顧濱松當二敵衝一。宜三避徙二岡崎一。侍從謝曰。某謂徐計レ之。使者出。侍從笑謂二近臣一曰。吾而去レ此。當下蹋二折刀劍一不中復用上焉。信玄何足レ畏哉。

十二月。信玄兵侵二吉田楡木一。侍從自將拒レ之。不二敢戰一而罷。三年。正月。侍從入二駿河一。三月。上杉謙信將レ兵入二信濃一。以爲二我聲援一。十月。信玄將二兵三萬餘一來侵。拔二鞴飯田二城一。陣レ于二袋井見附一。內藤信成大久保忠世將二四千人一。至二西

十二月、信玄の兵、吉田・楡木を侵す。侍從自ら將として之を拒ぐ。敢て戰はずして罷む。三年正月、侍從駿河に入る。三月、上杉謙信、兵に將として信濃に入りて、以て我が聲援を爲す。十月、信玄、兵三萬餘に將として來り侵す。鞴(一)・飯田の二城を拔き、袋井・見附に陣す。內藤信成・大久保忠世四千人に將として、西島に至り、信玄と遇ふ。信玄曰く、敵兵輕〻しく出づ。一人をして還らしむる勿れと。兵を麾きて來り逼る。信成曰く、濱松八千の兵、其半は此に在り。而して衆寡敵せず。一敗(二)、地に塗れば、何を以てか(三)再戰せんと。乃ち退く。侍從、前鋒の危きを聞き、自ら出でて馬籠に陣し、本多忠勝をして精騎(四)を率ゐ往きて之を援はしむ。

(一) 駿河國に在り　(二) 一度戰ひていたく敗れば　(三) 原文に一本也字なし　(四) すぐりたる騎兵

島一與二信玄一遇。信玄曰。敵兵輕出。勿レ使二一人還一。麾レ兵來逼。信成曰。濱松八千之兵。其半在レ於此。而衆寡不レ敵。一敗塗レ地也。何以再戰。乃退。侍從聞二前鋒危一。自出陣二馬籠一。使下本多忠勝率二精騎一往援上レ之。

忠勝至二一言坂一。信成等欲レ退。甲斐兵尾レ之。結而不レ解。忠勝善用レ槍。所レ愛一槍。名曰二截蜻蛉一。於レ是忠勝戴二鹿角冑一。提二截蜻蛉一。單騎馳入二兩軍之間一。兩軍乃開。終收レ兵而退。命レ卒積二薪坂頭一。而伏二銃其側一。敵至。銃發火起。敵不レ能二復尾一。時我兵多蒙二唐首一。信長所レ貽也。甲斐人爲レ之語曰。

忠勝、一言坂に至る。信成等退かんと欲す。甲斐の兵、之に尾し、結びて解けず。忠勝善く槍を用ふ。愛する所の一槍を名づけて截蜻蛉と謂ふ。是に於て、忠勝、鹿角(一)の冑を戴き、截蜻蛉を提げ、單騎馳せて兩軍の間に入る。兩軍乃ち開く。終に兵を收めて退き、卒に命じて薪を坂頭に積みて、銃を其側に伏す。敵至る。銃發し火起る。敵、復た尾する能はず。時に我が兵多く唐首(二)を蒙る。信長の貽る所なり。甲斐の人之が爲に語りて曰く、家康に分(三)に過ぐる者二有り。唐首なり、平八なりと。

(一) 鹿の角の立物ある冑　(二) 牛尾を以て冑のまはりにひきまはしたるもの　(三) 身分不相應

家康有ニ過ㇾ分者二。唐首也平八也。

已而信玄遣ニ其子勝頼等一攻ニ二股一。馬場信房備ニ我援路一。侍從赴援。渡ニ天龍河一。不ニ敢戰一歸。敵結ニ筏河上一。以絶ニ城汲道一。守將致ㇾ城。收入ニ濱松一。我諸城多叛。降ニ信玄一。信玄合ㇾ兵逼ニ濱松一。乃令ニ松平清善往拒ニ宇津山一。濱松諸將勸請ニ援於ニ織田氏一。侍從不ㇾ欲ㇾ之。諸將曰。信長富五ニ倍於ㇾ我。而連請ニ我援一。我以ニ二國一抗ニ強敵一。未ニ嘗請ㇾ援。今而一請。何不可也。侍從從ㇾ之。

已にして信玄、其子勝頼等を遣して二股を攻め、馬場信房をして我が援路(一)に備へしむ。侍從赴き援けて、天龍河を渡り、敢て戰はずして歸る。敵、筏を河上に結びて、以て城の汲道(二)を絶つ。守將城を致す。收めて濱松に入る。我が諸城多く叛きて、信玄に降る。信玄兵を合せて濱松に逼る。乃ち松平清善をして、往きて宇津山に拒がしむ。濱松の諸將、勸めて援を織田氏に請はしむ。侍從之を欲せず。諸將曰く、信長の富我に五倍す。而して連りに我に援を請ふ。我れ二國を以て強敵に抗し、未だ嘗て援を請はず。(三)今にして一たび請ふ、何ぞ不可ならんやと。侍從之に從ふ。

(一) 援兵の進路 (二) 水を汲取る道 (三) 只今一度請ふ

十一月。信長乃遣二佐久間信盛平手汎秀等一來援。相持踰レ月。十二月。信玄部二兵四萬一。陣二于三形原一。縱二火濱松城外一。侍從怒。欲二出擊一レ之。信盛牽二其衣一諫曰。寡君戒二臣等一曰。信玄老將也。其兵精強。天下無レ敵。德川欲二出戰一。汝當二固止一レ之。侍從曰。嚮信玄入二小田原一。旌摩二其門一。而氏康不レ出。世傳以嗤レ之。今敵踏二藉我城下一。而不レ發二敢一矢一。非二丈夫一也。果然。則吾當二削レ髮披一レ緇耳。諸將固諫而止。

十一月、信長乃ち佐久間信盛・平手汎秀等を遣して來り援はしむ。(一)相持して月を踰ゆ。十二月、信玄、兵四萬を部し、三形原に陣し、火を濱松の城外に縱つ。侍從怒り、出でて之を擊たんと欲す。信盛其衣を(二)牽きて諫めて曰く、寡君臣等を戒めて曰く、信玄は老將なり。(三)其兵精強なること、天下に敵なし。德川出で戰はんと欲せば、汝當に固く之を止むべしと。侍從曰く、嚮に信玄小田原に入り、旌其門を摩す。而して氏康出でず。世傳へて以て之を嗤ふ。今、敵、我が城下を(四)踏藉す。而して敢て一矢を發せざるは、丈夫に非ざるなり。果して然らば、則ち吾れ當に(五)髮を削り緇を披るべきのみと。諸將固く諫めて止む。

(一) 相互に對陣して　(二) 袖を引き　(三) 精鋭にして強きこと天下無雙なり　(四) 踏みつくる　(五) 僧となり僧衣をつけて世に立たざるのみ

二十二日。信玄退入二井伊谷一。侍從遂北出。陣二三形原一。日已晡。分二兵八千一爲二九隊一。遣二鳥居忠廣一往視二敵狀一。返報曰。信玄返レ軍而來。陣堅勢鋭。戰必不レ利。請速收レ兵。侍從不レ聽。更使二渡部守綱往一。亦報曰。勿二與戰一。侍從叱曰。人入二我室一蹴二我枕一。猶有下臥而不レ較者上哉。命二大久保忠佐柴田康忠一往挑レ戰。守綱止レ之。不レ肯而馳。與二石川數正本多忠勝榊原康

二十二日、信玄退きて井伊谷に入る。侍從遂に北に出で、三形原に陣す。日已に晡(一)るなり。兵八千を分ちて九隊と爲し、鳥居忠廣を遣して往きて敵狀(二)を覗はしむ。返り報じて曰く、信玄、軍を返して來る。陣堅く勢鋭し。戰はば必ず利あらじ。請ふ、速に兵を收めんと。侍從聽かず。更に渡部守綱をして往かしむ。亦報じて曰く、與に戰ふ勿れと。侍從、叱して曰く、人、我が室(三)に入りて我が枕(四)を蹴る。猶ほ臥して較せざるものあらんやと。大久保忠佐・柴田康忠に命じて、往きて戰を挑ましむ。守綱之を止む。肯ぜずして馳す。石川數正・本多忠勝・榊原康政と、共に敵將小山田昌行を撃ちて、之を走らす。侍從、麾下を以て、酒井忠次・大須賀康高と、山縣昌景を撃ちて亦之を走らせ、北ぐるを追ひて進む。

(一) ひぐれ (二) 敵のやうす (三) 一本に閨とあり (四) 寢所に入り枕を蹴て名乘りかく、なほ戰はずして止むべきのあらんや

政。共撃二敵將小山田昌行一。走レ之。侍從以二麾下一與二酒井忠次大須賀康高一。撃二山縣昌景一。亦走レ之。追レ北而進。

勝賴與二馬場信房一自レ傍進。逼二我麾下一。昌景昌行皆返レ之。信玄自縱二奇兵一。橫撃二我軍一。軍亂。信玄乃鼓二全軍一而徐進。山岳爲震。我軍終大敗。信盛走。汎秀死。數正與二松平家忠一止戰。不レ支。侍從切レ齒。口出レ沫。厲レ衆返撃。成瀨正義。本多忠眞。安藤基能。鳥居忠廣等。死者凡二百餘人。敵兵益逼。侍從自度レ不レ脫。欲二返決一レ死。士多喪レ馬步從。

勝頼、馬場信房と傍より進み、我が麾下に逼る。昌景・昌行、皆之に返す。信玄自ら奇兵を縦ち、横に我が軍を撃つ。軍亂る。信玄乃ち全軍を鼓して徐に進む。(一)山岳爲に震ふ。我が軍終に大に敗る。信盛は走り、汎秀は死す。數正、松平家忠と止り戰ふ。支へず。侍從、(二)齒を切し、口沫を出し、衆を厲して返り撃つ。成瀬正義・本多忠眞・安藤基能・鳥居忠廣等、死する者凡て二百餘人なり。敵兵益々逼る。侍從自ら脱せざるを度り、返りて死を決せんと欲す。士多く(三)馬を喪ひて歩して從ふ。

(一) 鼓譟して進む聲に山岳もふるひ動くばかりなり　(二) 齒をくひしばり残念がり口角泡を飛ばし　(三) 大概は馬を殺されて徒歩して隨從す

夏目正吉在二濱松一。聞レ急馳至。諫曰。勝敗常事耳。此非二大將授レ命之日一。君第速走。臣請代焉。乃扣二其馬一南向。以二槍鐓一策レ馬。馬走。正吉呼二畔柳武重一曰。子以二我君一免。武重欲二止共死一。正吉揮而去レ之。自奮レ槍拒レ敵。苦戰而死。侍從得レ間而走。使四忠世樹三旗于二犀崖一。以收二敗軍一。敵以爲二大將一。爭赴レ之。侍從因得レ達レ城。城門闔。武重大呼曰。君歸矣。盍レ開。開而入。

夏目正吉濱松に在り。急を聞きて馳せ至り、諫めて曰く、勝敗は常事のみ。此れ大將、命を授くるの日に非ず。君、第速かに走れ。臣請ふ代らんと。乃ち其馬を扣へ南に向け、(二)槍鐓を以て馬を策つ。馬走る。正吉、畔柳武重を呼びて曰く、子、我が君を以て免れよと。武重止りて共に死せんと欲す。正吉揮ひて之を去らしめ、自ら槍を奮ひて敵を拒ぎ、苦戰して死す。侍從、間を得て走り、忠世をして旗を(三)犀崖に樹て以て敗軍を收めしむ。敵以て大將と爲し、爭ひて之に赴く。侍從因りて城に達するを得たり。城門闔づ。武重大に呼びて曰く、君歸る。盍ぞ開かざると。開きて入る。一城敗を聞きて大に擾る。高木廣正、(四)一髠首を得て還る。侍從命じて之を刀鋒に貫き、徇へて曰く、兩軍鬭亂れ、吾れ信玄を獲たりと。衆乃ち定る。(五)

(一) 大將の死すべき時にあらず　(二) 槍の石突　(三) 濱松城北の崖　(四) 一個の坊主首　(五) おちつく

一城聞レ敗大擾。高木廣正得二一髡首一而還。侍從命貫二之刀鋒一。徇曰。兩軍鬪亂。吾獲二信玄一矣。衆乃定。

侍從下レ馬杖レ槍。慨然謂二從者一曰。吾恨爲二尾張人所一レ沮。戰失二其時一乃取二此挫衂一矣。取二腰間扇一。以賜二武重一。都築秀綱妻。豫煮レ粥以犒二士卒一。賜二之衣服一。時已昏。或請レ關レ門。侍從曰。後者安歸。且示二敵怯一。非レ計也。命開二諸門一篝レ火。而自飽食

侍從馬を下りて槍を杖つき、慨然として從者に謂ひて曰く、吾れ恨むらくは尾張人の沮む所と爲り、戰、其時を失ひ、乃ち此挫衂(一)を取りしことをと。腰間の扇を取りて、以て武重に賜ふ。都築秀綱の妻、豫め粥を煮て以て士卒を犒ひ(二)、之に衣服を賜ふ。時已に昏し。或ひと門を關さんと請ふ。侍從曰く、後るゝ者安に歸らん。且つ敵に怯を示すは、計に非ざるなりと。命じて諸門を開き、火を篝して、自ら(三)飽食酣睡す。(四)鼻息雷の如し。敵、方に北ぐるを追ひて城に逼る。門開くを見て、其伏兵あるを恐れ、敢て入らず。鳥居元忠・渡部守綱等三百人、門を出でて戰ふ。敗兵、敵軍の後より(五)譟して還る。信玄乃ち退舍す。忠世・康政行ゝ敵兵を破りて城に入る。本多重次は馬を喪ひ、敵の一騎を殪し、其馬を奪ひて還る。初め重次多く糧仗を儲ふ。是に於て、衆(六)頼りて以て安んず。

酣睡。鼻息如レ雷。敵方追レ北逼レ城。見二門開一。恐三其有二伏兵一。不二敢入一。鳥居元忠渡部守綱等三百人。出レ門而戰。敗兵自二敵軍後一課而還。信玄乃退舍。忠世康政行破二敵兵一入レ城。本多重次喪レ馬。殪二敵一騎一。奪二其馬一還。初重次多儲二糧仗一。於レ是衆頼以安焉。

(一)敗北 (二)慰勞す (三)腹一杯食事をなしよく眠る (四)鼾聲雷の鳴るが如し (五)ときのこゑをあけて (六)依賴して安心す

侍從召二諸將一。議二守禦一。忠世曰。敵新勝。當下挫二其鋒一以振中我軍氣上。侍從然レ之。收二城內銃手一得二十六人一。以二忠世及天野康景一將レ之。五更登二犀崖一。亂二射甲斐營一。營亂。多陷レ谷死。信玄曰。

侍從諸將を召して、守禦(一)を議す。忠世曰く、敵、新に勝つ。當に其鋒を挫きて、以て我が軍氣を振はすべしと。侍從之を然りとし、城內の銃手(二)を收め、十六人を得、忠世及び天野康景を以て之に將とし、五更犀崖(三)に登り、甲斐の營を亂射す。營亂れ、多く谷に陷りて死す。信玄曰く、家康の兵、何ぞ強項(四)なるやと。會々石川家成、掛川より入り援ふ。我が軍稍々振ふ。侍從、城樓(五)に上り、甲斐の軍を望み、富永某を顧みて曰く、汝以て敵の去留何如と爲すと。對へて曰く、軍に輜重なく、竈に烟を見ず。是れ必ず去らんと。明日信玄果して去り、刑部に陣す。馬場信房之に謂ひて曰く、臣、(六)敵屍を檢するに、(七)北首の者は俯し、南首の者は仰ぐ。以

家康兵何强項也。會石川家成自二掛川一入援。我軍稍振。侍從上二城樓一。望二甲斐軍一。願二富永某一曰。汝以爲二敵去留何如一。對曰。軍無二輜重一。竈不レ見レ烟。是必去矣。明日。信玄果去。陣二刑部一。馬場信房謂レ之曰。臣檢二敵屍一北首者俯。南首者仰。可三以見二家康訓鍊一矣。向使下主公與二家康一和。結以二婚姻一以爲中先鋒上。則天下何足レ圖乎。

て家康の訓鍊を見るべし。向に主公をして家康と和し、結ぶに婚姻を以てして以て先鋒と爲らしめば、則ち天下何ぞ圖るに足らんやと。(八)

㈠守り防ぐことを相談す　㈡銃卒　㈢夜明前の時刻　㈣剛情にして屈せざること　㈤城の柵　㈥敵の死骸をしらぶるに　㈦敵に背を見せざるをいふ　㈧天下中に心配するものなし

天正元年。正月。將軍足利義昭下二敎信玄一。使下與二信長及侍從一和上。信玄不レ肯。引レ兵攻二野田一。菅沼定盈與二援將松平忠正一堅

天正元年正月、將軍足利義昭敎を信玄に下し、信長及び侍從と和せしむ。信玄肯ぜず。兵を引きて野田を攻めしむ。菅沼定盈援將松平忠正と堅く守る。敵、(一)竹楯を蒙り、(二)龜甲車を用ふ。外城陷る。乃ち退きて、內城を保つ。敵、(三)鹿砦を環し、地道を鑿して以て井泉を絶つ。侍從、自ら將として之を救ふ。甲斐の軍犯すべからず。退きて吉田に次し、使を馳せて援を信長に乞ふ。信長敢て出でず。

守。敵蒙二竹楯一。用二龜甲車一。外城陷。乃退。保二內城一。敵環二鹿砦一。鑿二地道一以絕二井泉一。侍從自將救レ之。甲斐軍不レ可レ犯。退次二吉田一。馳レ家乞二援於信長一。信長不二敢出一。城中有二善笛者村松。善レ銃者鳥居一。村松夜上レ樓吹レ笛。敵數騎來二城外一聽レ之。標レ竿而去。鳥居晨起。見レ之曰。聞信玄喜レ音。

城中笛(四)を善くする者に村松、銃を善くする者に鳥居有り。村松、夜樓に上りて笛を吹く。敵の數騎城外に來りて之を聽き、竿(五)を標して去る。鳥居晨に起き、之を見て曰く、聞く、信玄音(六)を喜ぶと。是に非ざるを得んやと。密かに準(七)を定めて銃を安き、夜に逮び、村松をして復た笛を吹かしむ。敵復た來り聽く。銃發して、一騎を墮す。旦日、敵中に傳言す、信玄疾有りと。來りて城を致すを諭す。定盈・忠正、城を出で自殺して以て士卒を免さんと請ふ。信玄之を許す。城を出づる比伏起り、虜へられて長篠に囚はる。誘ひて之を降さんとす。二人屈せず、初め奥平道文・菅沼正貞・菅沼刑部、質を濱松に置き、而るに叛きて、甲斐に降る。是に於て、二人を歸して以て其質に易へんと請ふ。信玄乃ち人をして來り言はしむ。侍從之を許す。二人の節(八)を守るを嘉し、其采邑を加ふ。

(一) 竹のたて (二) 攻城に用ふる具 (三) 材木樹枝等を集め敵の進路を遮るとりで、鹿角の如くなればいふ (四) 笛の巧みなる者 (五) 竹竿をしるしに立てゝ立去る (六) 音樂を好む、推するに信玄ならん (七) ねらひをきめおく (八) 定盈・定正二人の節操を守りて降參せざるをほめ

得非是乎。密定準安銃。逮夜。使村松復吹笛。敵復來聽。銃發。墮一騎。且日。敵中傳言信玄有疾。來諭致城。定盈忠正請出城自殺以免士卒。信玄許之。比出城伏起。彼虜因于長篠。誘降之。二人不屈。初奥平道文。菅沼正貞。菅沼刑部。置質於濱松。而叛。降甲斐。於是請歸二人以易其質。信玄乃使人來言。侍從許之。嘉二人守節。加其采邑。

二月。信玄病創。分兵而去。使我叛將守七城以逼濱松。侍從曰。可使敵在我近郊哉。三月。使世子信康石川家成平岩親吉久野宗能復其五城。餘皆解走。四月。信玄創復發。歸國。途卒。勝賴當國。祕

二月、信玄創を病み、兵を分ちて去り、我が叛將をして、七城を守りて以て濱松に逼らしむ。侍從曰く、敵をして我が近郊に在らしむべけんやと。三月、世子信康・石川家成・平岩親吉・久野宗能をして、其五城を復せしむ。餘は皆解きて走る。四月、信玄、創復た發し、國に歸る。途に卒す。勝賴國に當る。祕して喪を發せず。五月、侍從、駿河を徇ふ。六月、二股を巡り、城山に壁す。七月、菅沼正貞を長篠に攻め、火箭を以て其城を焚く。正貞退きて、（四）子城を保つ。乃ち壘を熊山に築き、兵を留めて還る。八月、勝賴來り援ひ、熊山を攻む。侍從、自ら將として邀へ戰ふ。甲斐の諸將退き、險阻を保つ。侍從、兵を伏せて佯り遁る。敵敢て出でず。遂に去る。城陷る。正貞出でて甲斐に奔り、敵將還りて之を助け、

不レ發レ喪。五月。侍從徇二駿河一。六月。巡二二股一。壁レ于二城山一。七月。攻三菅沼正貞于二長篠一。以二火箭一焚二其城一。正貞退。保二子城一。乃築二壘熊山一。留レ兵而還。八月。勝賴來援。攻二熊山一。侍從自將邀戰。甲斐諸將退。保二險阻一。侍從伏レ兵而佯遁。敵不二敢出一。遂去。城陷。正貞出二奔甲斐一。敵將還助レ之。戍二鳳來寺一。又助二奥平道文一戍二築手一。

鳳來寺を戍る。又奥平道文を助けて築手を戍る。

㊀ 攻返さしむ ㊁ 皆圍をときて去る ㊂ 死を發表せず ㊃ わかれ城

道文之叛也。其子貞能諫レ之。及二信玄去一。道文危疑。貞能子信昌略涉二書志一。爲筮レ之。繇曰。蛇年之人死。道文謂信玄生歲辛巳。必既死也。遂決レ意歸レ

道文の叛くや、其子貞能、之を諫む。信玄去るに及びて、道文危疑す(一)。貞能の子信昌、略〻(二)書志に渉る。爲に之を筮す(三)。繇に曰く、蛇年の人死すと。道文謂ふ、信玄の生歳は辛巳なり。必ず既に死したるなりと。遂に意を決して款を歸る。勝頼黒瀨に在り。質を定能に徵す。貞能拒む能はず。其少子を遣す。或ひと、貞能異心ありと告ぐ。武田信豐之を召す。貞能卽ち往く。從者を戒めて曰く、未だ我が首を見ざれば動くこと勿れと。入りて信豐を見る。信豐之を詰る。貞能笑ひて曰く、公、反間(四)を信ずる莫れと。信豐意解け、之と碁(五)を圍み、局を畢へて

款。勝頼在二黒瀬一。徵三質於二貞能一。貞能不レ能レ拒。遣二其少子一。或告三貞能有二異心一。武田信豊召レ之。貞能即往。戒二從者一曰。未レ見二我首一勿レ動。入見二信豊一。信豊詰レ之。貞能笑曰。公莫レ信二反間一。信豊意解。與レ之圍レ碁。畢レ局而出。勝頼軍監城道壽招レ之飲。又往。道壽使二人出呼一曰。奥平氏被レ誅。從者不レ動。貞能出而歸レ城。乃舉族來奔。甲斐戍將追レ之。侍從遣二本多廣孝松平伊忠一。迎二之瀧山一。擊二破追兵一。進戰二築手下一。又破レ之。勝頼怒。殺二其質一。

出づ。勝頼の軍監城道壽、之を招きて飲す。又往く。道壽、人をして出で呼ばしめて曰く、奥平氏誅せらると、從者動かず。貞能出でて城に歸り、乃ち舉族來り奔る。甲斐の戍將之を追ふ。侍從、本多廣孝・松平伊忠を遣し、之を瀧山に迎へ、追兵を撃ち破り、進みて築手の下に戰ひ、又之を破る。勝頼怒り其質を殺す。

(一) 危ぶみ疑ふ　(二) あらまし經書歷史に通ず　(三) 卜のことば　(四) 敵を欺く者の言　(五) 碁を打ち、終り出づ　(六) 一族悉く

十月。勝頼遣二諸將一擣二濱松一。留守本多重次等。迎擊卻レ之。侍從乃還。

十月、勝頼、諸將を遣して濱松を擣かしむ。留守本多重次等、迎へ撃ちて之を卻く。侍從乃ち還る。勝頼、出でて見附に陣す。戰はずして去る。二年正月、侍從正五位上に進む。三月、上杉氏來りて、好を修む。侍從、長篠城を修め、

勝賴出陣二見附一。不レ戰而去。二年。正月。侍從進二正五位上一。三月。上杉氏來修レ好。侍從修二長篠城一。復二諸亡地一。四月。攻二乾城一。遇レ雨引還。城兵尾擊。殿軍多二死者一。

諸々の亡地(一)を復す。四月、乾城を攻め、雨に遇ひて引き還る。城兵尾擊(二)して、殿軍(三)に死する者多し。

(一) 前に失ひたる地　(二) 追擊をして　(三) しんがりの軍

五月勝賴大擧。來攻二野田一。城壁未レ修。菅沼定盈棄レ城退。六月。勝賴進攻二高天神一。侍從乞三援於二信長一。信長聞二信玄定死一。乃背來援。勝賴疾攻。以レ利誘二降城將小笠原長忠一。長忠

五月、勝賴、大擧して、來りて野田を攻む。城壁未だ修らず。菅沼定盈城を棄てて退く。六月、勝賴進みて高天神を攻む。侍從、援を信長に乞ふ。信長、信玄の定死を聞きて、乃ち背て來り援ふ。勝賴疾く攻め、利を以て城將小笠原長忠を誘降(一)す。長忠遂に降る。信長、之を聞きて、止りて吉田に次す。侍從赴きて謝す。信長も亦其の信玄を扞ぐの勞を謝し、黃金二袋を贈りて去る。侍從、長忠の邑を以て大須賀康高に賜ひ、馬伏の壘を守らしむ。九月、勝賴兵二萬に將として來り侵す。侍從、兵七千に將として天龍河に陣す。我が兵分れて二と爲り、一は上流(三)に在り、一は下流に在り。敵の渡るを俟ちて之を夾擊(二)せんと欲す。甲斐の

遂降。信長聞之。止次吉田。侍從赴謝。信長亦謝其扞信玄之勢。贈黄金二袋而去。侍從以長忠邑賜大須賀康高。使守馬伏壘。九月。勝頼將兵二萬來侵。侍從將兵七千陣于天龍河。我兵分爲二。一在上流。一在下流。欲俟敵渡夾擊之。甲斐諸將視我陣不可犯。勸勝頼退去。

諸將、我が陣の犯すべからざるを視、勝頼に勸めて退き去る。

(一)死去の眞なるを聞きて　(二)河上　(三)はさみうたんと欲す

三年。正月。天野康景有吉夢。以爲克甲斐之兆。獻之。二十日。因命連歌會。著爲恆例。二月。侍從出獵城下。見一成童。容貌秀俊。問之。對曰。非伊直

三年正月、天野康景、吉夢有り。以て甲斐に克つの兆と爲し、之を獻ず。二十日因りて、連歌會を命ず。著して恆例と爲す。二月、侍從、城下に出獵して一成童を見る。容貌秀俊なり。之を問ふ。對へて曰く、井伊直親の孤子、名は直政、幼字は萬千代、繼父松下淸景に育はると。侍從曰く、我に仕へんや否やと。直政曰く、命を奉ぜんと。乃ち載せて歸り、遂に其舊邑井伊谷を賜ひ、故の部曲を統べしむ。是の月、長篠を以て奥平信昌に賜ふ。井伊氏・奥平氏は、皆南朝の時、官軍に屬せし者なり。侍從、信昌の用ふべきを知り、松平伊昌をして之を

親孤子。名直政。幼字萬千代。育ㇾ於ニ繼父松下清景一。侍従曰。仕ㇾ我否。直政曰。奉ㇾ命。乃載歸。遂賜ニ其舊邑井伊谷一。統ニ故部曲一。是月。以ニ長篠一賜ニ奥平信昌一。井伊氏。奥平氏。皆南朝時屬ニ官軍一者也。侍従知ニ信昌可ㇾ用。使ニ松平伊昌助ㇾ之。益修ニ守禦一。以備ニ勝頼一。

助けしめ、益々守禦を修めて、以て勝頼に備ふ。

(一)吉瑞の夢 (二)常例 (三)十五歳以上の少年をいふ (四)すかたすぐる (五)部隊 (六)役に立つ

四月。勝頼侵ニ宇理一。我吏人大賀彌四郎者。以ニ文無害一起ニ岡崎胥徒一。至ㇾ司ニ二十餘邑税務一。竊懷ニ異圖一。與ニ其黨小谷倉地山田三人一謀。通ニ款甲斐一曰。臣掌ニ岡崎管鑰一。

四月、勝頼、宇理を侵す。我が吏人大賀彌四郎といふ者、文無害(一)を以て岡崎の胥徒(二)より起り、二十餘邑の税務を司るに至り、竊かに異圖(三)を懐き、其黨小谷・倉地・山田の三人と謀り、款を甲斐に通ず。曰く、臣、岡崎の管鑰(四)を掌る。城の有する所は、世子と諸將の質とのみ。請ふ、大師(五)を啓かん。質を夾みて以て濱松に臨まば、降らざるなからんと。勝頼大に喜び、期を刻して來り襲はんとす。山田、中ごろ悔いて世子に自首(六)す。世子、人をして其臥内に伏して之を聽かしめ、盡く其實を得、急に之を濱松に報ず。倉地・小谷、事覺るゝを知りて逃る。捕

城之所ㇾ有。世子與ニ諸將質一耳。請啓ニ大師一。挾ㇾ質以臨ニ濱松一。無ㇾ不ㇾ降矣。勝賴大喜。刻ㇾ期來襲。山田中悔。自ニ首世子一。世子使下人伏ニ其臥内一聽上之。盡得ニ其實一。急報ニ之濱松一。倉地小谷知ニ事覺一逃。捕斬ニ倉地一。終執ニ大賀一。窮治服ㇾ罪。乃反ニ接馬上一。徇ニ之二城一。先磔ニ其妻子一。然後生ニ埋之地一。而鋸ニ其首一。勝賴潛ㇾ兵至ニ楡木一。聞ニ大賀敗一。轉掠ニ楡木牛窪一。侍從拒ニ吉田一。世子拒ニ法藏寺一。擊卻ㇾ之。

へて倉地を斬り、終に大賀を執へ、窮治(七)し罪に服す。乃ち馬上に反接(八)し、之を二城に徇へ、先づ其妻子を磔し、然る後に之を地に生埋し、而し其首を鋸(九)す。勝賴兵を潛めて楡木に至り、大賀の敗を聞き、轉じて楡木・牛窪を掠む。侍從は吉田に拒ぎ、世子は法藏寺に拒ぎ、擊ちて之を卻く。

㊀ 文筆に長じ如何なることにも害なき樣切りまはす　㊁ 小役人　㊂ 叛逆の計策　㊃ しまりをつかさどる
㊄ 將軍の軍勢手引をせん　㊅ 罪を自から申出づ　㊆ 罪狀をしらぶ　㊇ 後向に乘せ　㊈ 鋸にてひき切る

五月。勝賴大擧攻ニ長篠一。築ニ壘于ニ鳶巢山一。分ㇾ兵絕ニ其饟道一。信昌與ニ伊

五月、勝賴、大擧して長篠を攻め、壘を鳶巢山に築き、兵を分ちて其饟道を絕つ。信昌、伊昌と、衆を勵して堅く守る。侍從、小栗大六をして援を信長に乞はしむ。信長出づるを果さず。奧平貞能、自ら往きて固く請ふ。信長之を許す。

昌厲ㇾ衆堅守。侍從使㆕小栗大六乞㆔援於㆓信長㆒。信長不ㇾ果ㇾ出。奥平貞能自往固請。信長許ㇾ之。未ㇾ至。信昌出戰卻ㇾ敵。焚㆓其竹栖㆒。勝頼攻奪㆓其甕城㆒。益修㆓攻具㆒。鑿㆓地道㆒環㆓塹柵㆒。攻擊連㆓晝夜㆒。信昌謂㆓其衆㆒曰。孰能出促㆓援兵㆒者。鳥居勝高素倔强。稱㆓強右衞門㆒。進曰。臣請往矣。信

未だ至らず。信昌出で戰ひて敵を卻け、其竹栖を焚く。勝頼攻めて、其甕城(二)を奪ひ、益〻攻具を修め、地道を鑿ち、塹柵を環し、攻擊すること晝夜に連る。信昌、其衆に謂ひて曰く、孰か能く出でて援兵を促す者ぞと。鳥居勝高素より倔強(三)、強右衞門と稱す。進みて曰く、臣請ふ往かんと。信昌之を許す。夜、縋(四)して出で、侍從の營に至り、信昌の命を致して曰く、城兵未だ疲れず。鉛硝(五)も亦具る。缺くる所は糧のみ。急に之を救はずんば、則ち信昌自殺して士卒を免れしめんと。侍從召見し、之を慰勞(六)して曰く、信長既に途(七)に在り。吾も亦將に明日を以て出でんとすと。因りて勝高を留めて自ら從へんとす、辭して曰く、城中領を延して報を遲つ。臣留るに忍びざるなりと。卽夜、馳せ歸り、將に柵を踰えて城に入らんとす。敵の邏兵の執ふる所と爲る。勝頼命じて縛を解き、之を諭して曰く、汝往きて、城兵に語げよ(八)。信長・家康來る能はず。宜しく速かに出で降るべしと。則ち吾れ厚く汝を賞せんと。勝高曰く、諾と。乃ち甲士十餘人をして刃(九)

昌許レ之。夜縋而出。至二侍從營一。致二信昌命一曰。城兵未レ疲。鉛硝亦具。所レ缺者糧耳。不二急救一レ之。則信昌自殺以免二士卒一。侍從召見。慰二勞之一曰。信長既在レ途。吾亦將下以二明日一出上。因留二勝高一自從。辭曰。城中延レ領遲レ報。臣不レ忍レ留也。即夜。馳歸。將二踰レ柵入一レ城。爲二敵邏兵所一レ執。勝頼命レ解レ縛。諭レ之曰。汝往語二城兵一。信長家康不レ能レ來。宜二速出降一也。則吾厚賞レ汝矣。勝高曰。諾。乃使三甲士十餘人露レ刃擁レ之。至二于城下一。勝高仰レ城大呼曰。諸君努力。大兵來援。不レ出二三日一。言未レ畢。刃叢而死。勝頼益嚴二防備一。張二索濠上一。以防二城兵逃出一。

を露して之を擁して城下に至らしむ。勝高城を仰ぎ、大に呼びて曰く、諸君努力せよ、大兵來り援はんこと、三日を出でじと。言未だ畢らず、(一〇)刃叢りて死す。勝頼、益々防備を嚴にし、索を濠上に張りて以て、城兵の逃れ出づるを防ぐ。

(一)糧食を送る道路 (二)出張の城 (三)剛悧にして強し (四)繩かけおろしてすがる (五)彈丸火藥 (六)いたはりなぐさむ (七)道中に在り (八)見廻の兵士 (九)拔身刀を持して鳥居をとりまきて (一〇)刀が四方より下りて切殺さる

十八日。侍從以二騎卒二萬一先進。陣二高松一。信長與二長子信忠一。合二五萬

十八日、侍從、騎卒二萬を以て先づ進み、高松に陣す。信長、長子信忠と五萬の衆を合せて設樂に陣す。信昌之を望見し、書を作りて曰く、城猶ほ堅守するに足る(一一)。請ふ、輕々しく進みて兵を損する勿れ。敵若し急に攻めば、當に鐘を鳴して

衆一陣二設樂一。信昌望二見之一。作レ書曰。城猶足二堅守一。請勿二輕進損一レ兵。敵若急攻。當下鳴レ鐘報上レ之。使二鈴木金七齎往一。夜踰レ濠。以二短刀一截レ索。泅而來達。侍從獲レ書。以告二信長一。信長甚憚二甲斐人一。植二重柵一。穿レ塹。守以二鳥銃一。使二侍從亦倣一レ之。大久保忠世其弟忠佐奉レ命。以二銃手三百一爲二先鋒一。三河卒小栗某奔在二甲斐一。於レ是爲二勝頼一使二上國一而還。竊懷二歸志一。過二本多忠勝一。忠勝携謁。侍從授二之密謀一。使下歸告二勝頼一以中援軍易レ與狀上。勝頼大喜。欲レ戰。將佐

之を報ずべしと。鈴木金七をして齎し往かしむ。夜、濠を踰え、短刀を以て索を截り、泅ぎて來り達す。侍從書を獲て、以て信長に告ぐ。信長、甚だ甲斐の人を憚り、(二)重柵を植て、塹を穿ち、守る鳥銃を以てし、侍從をして、亦之に倣はしむ。大久保忠世其弟忠佐、命を奉じ、銃手三百を以て先鋒と爲る。三河の卒小栗某、奔りて甲斐に在り。是に於て、勝頼の爲に上國に使して還り、竊かに歸志を懷き、本多忠勝に過る。忠勝携へて謁す。侍從、之に密謀を授け、歸りて勝頼に告ぐるに、(三)援軍與し易き狀を以てせしむ。勝頼大に喜び、戰はんと欲す。將佐皆諫む。聽かず。乃ち兵を分ちて城に當り、武田信實をして鳶巣山を守らしめて自ら進みて瀧澤を渡り、兵を勒して十三隊と爲す。

(一) 堅く守る　(二) 二重の柵を作り設け　(三) 相手とし易きありさま

皆諫。弗レ聽。乃分レ兵當レ城。使三武田信實守二鳶巣山一。而自進渡二瀧澤一。勒レ兵爲二十三隊一。

本多廣孝酒井忠次相謂曰。我誘レ敵入二死地一矣。成瀬正一嘗在二甲斐一。記二敵旗幟一。侍從召レ之。指二甲斐軍一。問曰。左者爲レ誰。曰。山縣昌景也。問二其右者一。曰。馬場信房也。問二其中者一。曰。公族也。忠次因說曰。敵鋒嚮レ我。銳甚。請分レ兵遶出二其背一。焚二鳶巣壘一。使二敵顧一レ後則克矣。侍從曰。善。未レ告二信長一。信長數發二候騎一候レ敵。皆曰。兵衆而整。不レ可レ犯也。一軍失レ色。

本多廣孝・酒井忠次相謂ひて曰く、我れ敵を誘ひて死地(一)に入れんと。成瀬正一、嘗て甲斐に在り。敵の旗幟を記す(二)。侍從之を召し、甲斐の軍を指して、問ひて曰く、左の者を誰と爲すと。曰く、山縣昌景なりと。其右なる者を問ふ。曰く、馬場信房なりと。其中なる者を問ふ。曰く、公族なりと。忠次因りて說きて曰く、敵鋒(三)、我に嚮ひ、銳甚だし。請ふ、兵を分ちて遶りて其背に出で、鳶巣山の壘を焚き、敵をして後を顧みしめば則ち克たんと。侍從曰く、善しと。未だ信長に告げず。信長、數々候騎(四)を發して敵を候ふ。皆曰く、兵衆くして整ふ。犯すべからざるなりと。一軍色を失ふ。

(一) のがるゝ道なき處　(二) 記憶す　(三) 敵我に向つて攻めかゝらんとし勢力はげし　(四) 斥候の騎兵

二十日。信長召二諸將一問レ計。諸將氣沮。莫二敢言者一。忠次進曰。臣使三人間二視敵兵一。寡贏。敗兆皆備。請明日決戰。信長曰。汝之勇。果如レ所レ聞。因命レ酒觴二忠次一。使レ傳二之信忠一曰。聞汝善二撈蝦舞一。爲レ我一爲レ之。忠次起舞。衆敲レ箙和レ之。舞畢。復議レ戰。忠次復進曰。是役係二寡君國事一。臣

二十日、信長、諸將を召して、計を問ふ。諸將氣沮み、敢て言ふ者なし、忠次進みて曰く、臣、人をして敵兵を間視(一)せしむるに、寡贏(二)なり。敗兆(三)皆備る。請ふ。明日決戰せんと。信長曰く、汝の勇、果して聞く所の如しと。因りて酒を命じて忠次に觴(四)し、之を信忠に傳へしめて曰く、聞く、汝、撈蝦舞(五)を善くすと。我が爲に一たび之を爲せと。忠次起つて舞ふ。衆、箙(六)を敲きて之に和す。舞畢り、復た戰を議す。忠次復た進みて曰く、是の役は寡君の國事に係る。臣敢て辭讓せずと。因りて鳶巣を襲ふの策を進む。信長心に之を善しとす。而して其漏泄(七)を恐れ、佯り叱して忠次を斥く。忠次懌ばず。罷む。已にして信長陰かに之を召還し、兵五千を附して行かしむ。侍從、松平伊忠、其子家忠・本多廣孝・菅沼定盈・阿部定次、奥平貞能に命じ、三千人を率ゐて忠次を助けしむ。約して曰く、至れば則ち燧を擧げよと

(一)うかゞ見る　(二)兵少く且つ弱きこと　(三)敗のきざし十分なり　(四)一本に賜とあり　(五)ゑびすくひの舞　(六)箙を叩きて離し立つ　(七)はかりごとのもるゝこと　(八)合圖に上ぐるのろし

不二敢辭讓一。因進下襲二鳶巣一之策上。信長心善レ之。而恐二其漏泄一。佯叱二斥忠次一。忠次弗レ懌。罷。已而信長陰召二還之一。附二兵五千一使レ行。侍從命二松平伊忠。其子家忠。本多廣孝。菅沼定盈。阿部定次奥平貞能一。率二三千人一助二忠次一約曰。至則擧レ燧。

忠次不レ歸レ舍而發。乘レ夜踰レ險。五更達二壘下一。伊忠謂二家忠一曰。我必戰死。汝全レ軀以事二主公一。家忠泣請二共死一。伊忠叱曰。國恩未レ報。又絶二先祀一。忠孝安在。乃分レ兵附レ之。訣飲而去。昧爽。忠次擧レ燧。大噪逼レ壘。信實惶遽出拒。伊忠力戰死レ

忠次、舍に歸らずして發し、夜に乘じて險を踰え、五更、壘下（一）に達す。伊忠、家忠に謂ひて曰く、我れ必ず戰死せん。汝、軀を全くして以て主公に事へよと。家忠泣きて共に死せんと請ふ。伊忠叱して曰く、國恩（二）未だ報いず、又先祀を絶たば、忠孝安くに在ると。乃ち兵を分ちて之に附し、訣飲（三）して去る。昧爽（四）忠次、燧を擧げ、大に噪して壘に逼る。信實、惶遽（五）出で拒ぐ。伊忠力戰して之に死す。終に信實を破殺し、遂に諸砦を焚く。甲斐の軍驚動（六）す。我が兵、燧を視て大に喜ぶ。織田氏將に挑戰せんとす。忠佐、忠世に謂ひて曰く、我は主、彼は客（七）なり。彼をして先づ戰はしむるは、我の恥なりと。忠世曰く、然りと。乃ち共に柵外に出でて敵を誘ふ。敵の左陣の突騎三千先づ縦つ。我が銃隊撃ちて之を卻く。敵の中軍繼ぎ至る。忠世・忠佐周馳（八）健鬪す。

之。終破ニ殺信實一。遂焚ニ諸砦一。甲斐軍驚動。我兵覘レ燧大喜。織田氏將ニ挑戰一。忠佐謂ニ忠世一曰。我主彼客。使ニ彼先戰一。我之恥也。忠世曰。然。乃共出ニ柵外一誘レ敵。敵左陣突騎三千先縱。我銃隊擊卻レ之。敵中軍繼至。忠世忠佐周馳健鬪。

(一)壘の下に行きつく　(二)國の恩を報せず先祖の祀を絶たば忠孝共にすたる　(三)別れの酒宴をなして去る　(四)夜明がた　(五)おそれあわつ　(六)驚き動く　(七)旗なり　(八)かげめぐりてけなげに戰ふ

信長望ニ其背旗徽號一。使ニ人來問一曰。一人以レ蝶爲レ徽。一人以レ鏡爲レ徽。其督レ衆也。如ニ臂使レ指。敵乎。我乎。侍從對曰。蝶爲レ兄。鏡爲レ弟。皆僕家舊臣也。信長歎曰。德川氏

信長、其背旗徽號を望み、人をして來り問はしめて曰く、一人は蝶を以て徽と爲し、一人は鏡(一)を以て徽と爲す。(二)其の衆を督するや、臂の指を使ふが如し。敵か我かと。侍從、對へて曰く、蝶は兄たり。鏡は弟たり。皆僕が家の舊臣なりと。信長歎じて曰く、德川氏何ぞ佳士(三)多きやと。是の時に當りて、二人の擊破する所と爲る者、皆轉じて信長の前軍に赴く。敵の右軍も亦銃を冒して直進す。信長の前軍走りて柵内に入る。柵殆ど破る。敵其麾下(四)に逼る。侍從、騎を馳せて信長に告げて曰く、公諸隊をして齊しく銃を發せしめよ。我が軍槍を用ひて横擊せ

何多仕士也。當是時。爲二人所擊破者。皆轉赴信長前軍。敵右軍亦冒銃直進。信長前軍走入柵内。柵殆破。敵逼其麾下。侍從馳騎告信長曰。公令諸隊齊發銃。我軍用槍横擊。可以克也。信長傳令。敵兵大沮。

ば、以て克つべきなりと。信長令を傳ふ。敵兵、大に沮む。(五)

(一) しるし (二) 其部下の兵を自由に引きまはす有様は恰も臂の指を使ふが如し (三) 一本に良將とあり、よき武士 (四) 本陣にせまる (五) 大に氣が弱る

本多忠勝。松平忠正。鳥居元忠。榊原康政等。攢槍接戰。甲斐諸軍遂大潰。信昌伊昌出長篠。夾擊。幾獲勝頼。勝頼廑免。是日。自卯至午。戰凡三十八合。斬首一

本多忠勝・松平忠正・鳥居元忠・榊原康政等、槍を攢めて接戰す。甲斐の諸軍遂に大に潰ゆ。信昌・伊昌長篠を出でて夾擊し、幾ど勝頼を獲んとす。勝頼廑かに免る。是の日、卯より午に至り。戰凡そ五十八合、斬首一萬餘級なり。武田氏の(二)宿將精兵略〻此に殲く。侍從往きて信長に説きて曰く、今大勝の威に乘じて、(三)長驅して北ぐるを追はば、則ち甲斐・信濃一擧して取るべきなりと。羽柴秀吉從ひて軍中に在り。亦之を勸む。信長聽かずして去る。侍從、信昌を見て、其堅守を賞し、采邑を加賜し、女を以て之に妻はすを許し、遂に大に將士を賞す。

萬餘級。武田氏宿將精兵略殲ㇾ於ㇾ此。侍從往說ニ信長一曰。今乘ニ大勝之威一。長驅追ㇾ北。則甲斐信濃可ニ一擧取一也。羽柴秀吉從在ニ軍中一。亦勸ㇾ之。信長弗ㇾ聽而去。侍從見ニ信昌一。賞ニ其堅守一。加ニ賜采邑一。許下以ㇾ女妻上ㇾ之。遂大賞ニ將士一。

(一) 敵に近づきて戰ふ (二) 戰爭に馴れたる大將 (三) 長追

數日親往ニ岐阜一謝。信長亦謝曰。卿之君臣。以ㇾ寡擊ㇾ衆。爲ㇾ吾扞ニ東面一數年矣。不ㇾ則吾安得ㇾ定ニ京畿一哉。今勝賴一敗沮ㇾ氣。不ㇾ能ニ復出ㇾ頭。卿宜下取ニ駿河一。遂及中甲斐信濃上。吾亦當ニ相助一

數日にして親ら岐阜に往きて謝す。信長も亦謝して曰く、卿の君臣、寡を以て衆を擊ち、吾爲に東面を扞ぐこと數年なり。不らずんば則ち吾れ安んぞ京畿を定むるを得んや。今勝賴、(一)一敗に氣を沮れ、復た頭を出す能はず。卿宜しく駿河を取り、遂に甲斐・信濃に及ぶべし。吾れ亦當に相助くべしと。因りて(二)扈從の將士を見て曰く、(三)長髥の將何ぞ來らざると。蓋し忠世を謂ふなり。忠佐扈從に在り。對へて曰く、家兄、故有りて、(四)拜趨を得ずと。信長曰く、吾子の兄弟、長篠の戰に、(五)絕類逸羣と謂ふべしと。手づから衣服を賜ひ、又忠次の功を賞して、薙刀を賜ふ。侍從辭して歸る。

爲。因見二扈從將士一曰。長髯將何不レ來。蓋謂二忠世一也。忠佐在二扈從一。對曰。家兄有レ故。不レ得二拜趨一。信長曰。吾子兄弟。長篠之戰。可レ謂二絕類逸羣一矣。手賜二衣服一。又賞二忠次功一賜二雍刀一。侍從辭歸。

㊀一度の敗に鋭氣を挫かれ　㊁とも　㊂長髯の大將　㊃拜謁　㊄類を絶ち羣を拔く

六月。侍從攻二二股一。使三忠世守二蜷原砦一以當レ之。轉至二掛川一。攻二光明城一。使三諸將逼二其前一。而自潛レ兵襲二其後一下レ之。七月。與二世子信康一攻二諏訪原一。至二八月一下レ之。城在二田中高天神之間一。難二其守一。松平忠次請レ守。乃

六月、侍從、二股を攻め、忠世をして(一)蜷原の砦を守りて以て之に當らしめ、轉じて掛川に至り、光明城を攻め、諸將をして其前に逼らしめ、而して自ら兵を潛め其後を襲ひて、之を下す。七月、世子信康と(二)諏訪原を攻め、八月に至りて之を下す。城は田中・高天神の間に在り。其守を難んず。松平忠次、守らんと請ふ。乃ち(三)偏諱を賜ひ、名を康親と改め、周防守と稱せしめ、城を名づけて牧野と曰ふ。武田氏を以て(四)殷紂に比するなり。是より勝頼、數〻出づるも遂に深く入る能はず。侍從、遂に小山を攻む。酒井忠次曰く、我れ已に二城を得、師暴し兵疲る。戢めざるべからず。勝頼慓悍は父に過ぐ。我れ小山を攻めば、必ず來りて之を援はん。前に堅城あり。後に強敵あり。敗を取るの道なりと。康親往くを勸む。遂に往

賜㆓偏諱㆒。改㆓名康親㆒。稱㆓周防守㆒。名ㇾ城曰㆓牧野㆒。以㆓武田氏㆒比㆓殷紂㆒也。自ㇾ是勝賴數出。遂不ㇾ能㆓深入㆒。

侍從遂攻㆓小山㆒。酒井忠次曰。我已得㆓二城㆒。師暴兵疲。不ㇾ可ㇾ不ㇾ戢。勝賴慓悍過ㇾ父。我攻㆓小山㆒。必來援ㇾ之。前有㆓堅城㆒。後有㆓强敵㆒。取ㇾ敗之道也。康親勸ㇾ往。遂往。九月。勝賴募㆓兵二萬㆒。陣㆓大井河上㆒。侍從曰。果如㆓忠次言㆒。乃循ㇾ河班ㇾ師。城兵出躡。世子信康殿而退。勝賴不㆓敢逼㆒。自ㇾ是世子常從ㇾ軍。

く。九月、勝賴兵二萬を募り、大井河の上に陣す。侍從曰く、果して忠次の言の如しと。乃ち河に循ひて師を班す。城兵出でて躡す。世子信康殿して退く。勝賴敢て逼らず。是より世子常に軍に從ふ。

(一) 遠江國に在り (二) 同上 (三) 名の一字 (四) 支那古代の暴虐の王、殷の紂王のこと

十月。使㆔大久保忠世榊原康政攻㆓二股㆒。踰ㇾ月下ㇾ之。遂取㆓伯耆塚八荒山㆒。信長復下㆓岩村㆒。佐久間信盛與㆓水

十月、大久保忠世・榊原康政をして、二股を攻めしむ。月を踰えて之を下し、遂に伯耆塚(一)八荒山を取る。信長復た岩村(二)を下す。佐久間信盛、水野信元と郤あり、信元、岩村に通ずと譖(三)して、之を殺さんと欲す。信元懼れて來り奔る。侍從、固く之を宥さんと請ふ。信長聽かず。遂に死を賜ひ、信盛をして其邑を取らしめ、盡く信元の族人を逐ふ。獨り其季子(四)、留りて參河に匿る。

野信元有レ郤。潛二信元通二岩村一。欲レ殺レ之。信元懼來奔。侍從固請レ宥レ之。信長弗レ聽。遂賜レ死。使三信盛取二其邑一。盡逐二信元族人一(四)獨其季子留匿二參河一。

(一) 共に遠江國に在り (二) 美濃國に在り (三) そしりうつたふ (四) 末子

四年。春。侍從築二城橫須賀一。使三大須賀康高守二焉。以二久世廣宣坂部廣勝渥美勝吉一屬レ之。勝賴納二糧于高天神一。侍從自出。相二拒芝原一。欲レ戰。內藤信成諫而止。乃交綏。上杉謙信出二兵上野一。遙爲二應援一。勝賴不二敢南出一。侍從乃納二今川氏眞於駿河一。使三松平康親松平家忠並視二其政一。八月。自將拔二樽非砦一。使三安倍光眞守レ之。

四年春、侍從、城を橫須賀に築き、大須賀康高をして守らしむ。久世廣宣・坂部廣勝・渥美勝吉を以て之に屬す。勝賴、糧を高天神に納る。侍從、自ら出でて芝原に相拒ぎ、戰はんと欲す。內藤信成、諫めて止む。乃ち交綏す(一)。上杉謙信、兵を上野に出し、遙かに(二)應援を爲す。勝賴敢て南に出でず。侍從乃ち今川氏眞を駿河に納る。松平康親・松平家忠をして、竝に(三)其政を視しむ。八月、自ら將として樽非砦を拔き、安倍光眞をして之を守らしむ。

(一) 兩陣ひとしく退く (二) 遠方に在りて聲息を通じて援く (三) 駿河の國政を執らしむ

五年。八月。侍從入二山梨一。擊二甲斐將穴山信良一。破レ之。甲斐兵又攻二樽井一。光眞擊卻レ之。十月。侍從修二築濱松城一。十二月。侍從進二從四位下一。遷二右近衞少將一。

五年八月、侍從、(一)山梨(二)に入りて甲斐の將、穴山信良を擊ちて、之を破る。甲斐の兵、又樽井を攻む。光眞、擊ちて之を卻く。十月、侍從、濱松城を修築(三)す。十二月、侍從、從四位下に進み、右近衞少將に遷る。

㊀ 家康 ㊁ 遠江國に在り ㊂ 修繕をなす

六年。三月。少將徇二駿河一。攻二田中一。井伊直政從レ軍。每レ戰先レ衆。與二諸將一破二其外郭一而還。八月。大須賀康高破二甲斐兵于國安河一。少將侵二掠

六年三月、少將駿河を徇へ、田中を攻む。井伊直政、軍に從ひ、戰(一)ふ每に衆に先んず。諸將と其外郭(二)を破りて還る。八月、大須賀康高、甲斐の兵を國安河(三)に破る。少將、駿河を侵掠し、持舟に至りて還り、田中を過ぐ。其兵の出で尾(四)せんことを恐れ、城を攻むるの狀を爲す。敵兵、敢て出でず。我が兵乃ち還る。十一月、勝頼、小山に陣し、少將、馬伏に陣す。總社(五)に徙る。世子、夜、潛かに水を濟り、敵營を視ひて歸り、之を擊たんと欲す。少將曰く、險に據るの敵は、

駿河。至二持舟一。而還。過二田中一。恐二其兵出一レ尾。爲二攻レ城狀一。敵不二敢出一。我兵乃還。十一月勝頼陣二小山一。少將陣二馬伏一。徙二于總社一。世子夜潛濟レ水。覘二敵營一歸。欲レ擊レ之。少將曰。據レ險之敵。不レ可二輕擊一。復交綏。

輕くしく撃つ可からずと。復た交綏す。

㊀毎戰衆に率先して進む　㊁そとぐるわ　㊂駿河國に在り　㊃後より追來ることを氣遣ひ　㊄駿河國に在り　㊅敵の陣營

七年。正月。勝頼又入二遠江一。聞二少將出一乃去。四月。三子長丸生二于濱松一。母西鄕氏。以二故水野信元孤子土井利勝一爲二其侍臣一。利勝從二其母一依二土井氏一。遂冒レ之也。

七年正月、勝頼、又遠江に入る。少將の出づるを聞きて、乃ち去る。四月、三子長丸、濱松に生る。母は西鄕氏なり。故水野信元の孤子土井利勝を以て其侍臣と爲す。利勝、其母に從ひて土井氏に依り、遂に之を冒す。

㊀みなしご　㊁土井の姓を名乘る

初世子信康

初め世子信康、人と爲り剛厲、近臣を手刃するに至る。酒井忠次・大久保忠世

爲レ人剛厲。至三手刃二近臣一。酒井忠次大久保忠世數諫。不レ聽。所生關口氏以二妬悍一被レ廢。居二岡崎一。其婦織田氏。亦妬而無レ男。又爲三姑氏所二離間一。憤怨。是歲。七月。織田氏遂作レ書。以二姑氏陰事一告二信長一。因疏二世子十二罪一。會忠次赴二安土一。信長示而問レ之。對曰。信。信長怒。使三歸告二少將一。關口氏與二勝頼一通。欲下除レ卿以立二世子一。遂滅上レ我也。卿其亟計レ之。忠次過二岡崎一不レ入。世子憂悸。

數〻諫む。聽かず。所生(二)關口氏、妬悍(三)を以て廢せられ、岡崎に居る。其婦織田氏、亦妬にして男無し。又姑氏の離間(四)する所と爲り、憤怨す。是の歲、七月、織田氏遂に書を作りて、姑氏の陰事を以て信長に告げ、因りて世子の十二罪を疏す。會〻忠次安土に赴く。信長、示して之を問ふ。對へて曰く、信なりと。信長怒り、歸りて少將に告げしむ。關口氏、勝頼と通じ、卿を除きて以て世子を立て、遂に我を滅さんと欲す。卿其れ亟かに之を計れ(五)と。忠次、岡崎を過ぎて入らず。世子、憂悸(六)す。

(一) 性質たけくはげし　(二) 生母　(三) ねたみぶかく心たけきこと　(四) 兩人の間の交情を割く　(五) 一本に討と　(六) うれへおそる

八月。少將至二

八月、少將、岡崎に至り、世子を大濱に放ち、後命(一)を俟たしむ。其明、世子親ら

岡崎。放三世子于二大濱一。使レ俟二後命一。其明。世子親來哀訴。弗レ聽。平岩親吉爲レ傅。請曰。世子材武。今遽殺レ之。後必悔焉。臣爲レ傅毋狀。願斬二臣首一以謝二信長一。少將泣曰。喪二我良臣一。而兒終不レ免。悔更甚矣。數日遷三世子于二堀江一。遂遷二二股一。令二忠世護一焉。誅二關口氏一。信長意未レ解。九月。望。終使二世子自殺一。年二十一。世咎四忠世輩不三曉二少將意一也。

來りて哀訴す。聞かず。平岩親吉、傅たり。請ひて曰く、世子材武あり、今遽に之を殺さば、後必ず悔いん。臣、傅と爲りて毋狀なり(二)。願はくは臣の首を斬りて以て信長に謝せよと。少將泣きて曰く、(三)我が良臣を喪ひて、兒、終に免れずんば、悔更に甚だしからんと。數日にして世子を堀江に遷し、遂に二股に遷し、忠世をして護らしめ、關口氏を誅す。信長、(四)意未だ解けず。九月望終に世子をして自殺せしむ。年二十一なり。世のひと、忠世の輩、少將の意を曉らざるを咎む。

(一) 後日の沙汰　(二) 亂暴なり　(三) 我が良臣を死せしめ世子免れずば後悔いよ〱甚だしからん　(四) 疑ひ晴れ

初少將姬人永見氏孕而獲レ罪。出產レ於二

初め少將の姬人永見氏、孕みて罪を獲、出でて(一)其鄕に產す。世子潛かに之を舉げ、荻丸と呼ぶ。三年にして之を見る。少將(二)子とせざるなり。本多重次、抱持し

其鄕ㇾ。世子潛擧ㇾ之。呼二荻丸一。三年而見ㇾ之。少將不ㇾ子也。本多重次抱持而賀曰。酷背ㇾ君。君處二戰國一。宜ㇾ多ㇾ子矣。臣請。育焉。世子卒。時荻丸甫六歲。而立二長丸一爲二世子一。

て賀して曰く、(四)酷だ君に背たり。君、戰國に處る。宜しく子多かるべし。臣請ふ。育てんと。世子卒す。時に荻丸甫めて六歲なり。而して長丸を立てて世子と爲す。

㊀姬人の實家にて出產す　㊁我子と認定せず　㊂抱上げて祝儀を申上げて　㊃主君と生寫なり

先ㇾ是。上杉謙信卒。義子景虎與二從子景勝一爭ㇾ國。景勝賂二武田勝賴一。合攻殺二景虎一。景虎北條氏政弟也。氏政怒。絕二勝賴一。遂來修ㇾ好。於ㇾ是三國交盟。約曰。武田侵二伊

是より先、上杉謙信卒す。(一)義子景虎、從子景勝と國を爭ふ。景勝、武田勝賴に賂ひ、合せ攻めて景虎を殺す。景虎は、北條氏政の弟なり。氏政怒り、勝賴と絕ち、遂に來りて好を修む。是に於て、三國交〻盟ひ、約して曰く、武田、伊豆を侵さば、則ち德川、兵を駿河に出さん。遠江を侵さば、則ち北條、兵を上野に出さん。美濃を侵さば、則ち德川・北條、並に甲斐に向ひ、織田をして(二)東顧する毋からしめんと。是の月、勝賴氏政、黃瀨河に相持す。少將之を聞き、自ら將として駿河に入らんとす。酒井忠次、諫めて曰く、險を踰えて深く入るは、其危き

豆。則德川出二兵駿河。侵二遠江。則北條出二兵上野。侵二美濃。則德川北條竝向二甲斐一使三織田毋二東顧一也。是月。勝賴氏政相三持于二黃瀨河。少將聞レ之。自將入二駿河。酒井忠次諫曰。諭レ險深入。其危不レ測。少將曰。約不レ可レ違。且二人相持。而我乘二其弊一。必有レ利矣。使三忠次留二陣瀨戶一。而進過二田中城一。攻二持舟一拔レ之。縱レ火至二由井一。勝賴引レ兵來迎。氏政不二敢尾一。少將欲レ逆二擊之一。諸將諫曰。勝不レ可レ必。而敵城在レ背。乃還。忠次爲レ殿。十一月。松平家忠伏二兵瀧坂一。擊二破甲斐兵一。

こと測られずと。少將曰く、(三)約は違ふ可からず。且つ二人相持す。而して我れ其弊に乘ぜば、必ず利有らんと。忠次をして、留りて(四)瀨戶に陣せしめて、進みて田中城を(五)過ぎ、持舟を攻めて之を拔き、火を縱ちて(六)由井に至る。勝賴兵を引きて來り迎ふ。氏政敢て尾せず。少將之を逆擊せんと欲す。諸將諫めて曰く、勝は必す可からず。而して敵城背に在りと。乃ち還る。忠次、殿と爲る。十一月、松平家忠、兵を瀧坂に伏せ、甲斐の兵を擊破す。

(一) 養子　(二) 東方の心配なからしめん　(三) 約束には背くこと能はず　(四) 駿河國に在り　(五) 一本に逼とあり　(六) 同上

八年。正月。少

八年正月、少將、從四位上に進む。三月、高天神を攻め、砦を連ねて之に逼る。

將進二從四位上一。三月。攻二高天神一。連レ砦逼レ之。五月。攻二田中一。侵掠而還。持舟兵出躡レ之。返戰大破レ之。七月。復攻二田中一。岡田元次曰。天將レ雨。大井必漲。請速收レ兵。少將乃濟レ河而還。其夜果雨。勝頼聞三我攻二田中一。疾驅而至。河漲不レ得レ濟。

五月、田中を攻め、侵掠して還る。持舟の兵出でて之を躡す。返り戰ひて大に之を破る。七月、復た田中を攻む。岡田元次曰く、天將に雨ふらんとす。大井必ず漲らん。請ふ、(一)速かに兵を收めよと。少將乃ち河を濟りて還る。其夜果して雨ふる。勝頼、我の田中を攻むるを聞き、(二)疾驅して至る。河漲りて濟るを得ず。

(一) はやく先を引上げよ　(二) とくかけて

九年。二月。高天神兵力屈而逃。我兵邀擊。斬二守將岡部與行一。初小笠原氏叛。降二甲斐一。我監軍

九年二月、高天神の兵、力屈して逃る。我が兵邀擊して、守將岡部與行を斬る。初め小笠原氏叛き、甲斐に降る。我が(一)監軍大河内政局從はず。武田氏利を以て、誘降せんとす。政局、(二)唾罵して顧みず。(三)石窟に幽せらるゝこと八年、此に至りて出づるを得。(四)痿して起つ能はず。少將之を賞賜す。

(一) いくさ目附　(二) つばしてのがる　(三) いはやの中に押込めらること　(四) 足なえしびれて

大河内政局不レ從。武田氏以レ利誘降。政局唾罵不レ顧。幽二于石窟一八年。至レ此得レ出。痿不レ能レ起。少將賞二賜之一。

少將遂與二織田氏一議。大學攻二甲斐一。十年。二月。信長遣二信忠一。將二前軍一入二信濃一。而自繼レ之。少將將二騎卒三萬五千一。入二駿河一。陣二牧野一。分レ兵攻二遠目鞠子持舟久能諸城一。皆陷レ之。甲斐將穴山信良在二江尻一。少將遣二長坂血槍一說降レ之。信良

少將、遂に織田氏と議し、大擧して甲斐を攻む。十年、二月、信長、信忠を遣し、前軍に將として信濃に入らしめて、自ら之に繼ぐ。少將騎卒三萬五千に將として、駿河に入り、牧野に陣し、兵を分ちて遠目(一)・鞠子・持舟・久能の諸城を攻め、皆之を陷る。甲斐の將穴山信良江尻に在り。少將、長坂血槍を遣して說きて之を降す。信良、潛かに來謁し、走りて其邑に還る。乃ち進みて江尻に陣し、人を遣して田中の守將依田信蕃を降す。信蕃背(二)ぜず。乃ち信良をして書を以て之を諭さしむ。三月、信蕃、城を致して(三)去る、府中の守將武田信龍、守を棄てて逃る。少將、信良を以て鄕導と爲し、市川より甲斐の古府に入る。過ぐる所、毫毛を犯(四)さず。沿道風(五)を望みて歸降す。

(一) 遠目鞠子共に駿河國に在り　(二) 聞き入れず　(三) 城を差出して去る　(四) すこしも人民の物を侵害せず　(五) 通行のみちばたの人に其威風を望み見て從ひ降る

潛來謁。走還二其邑一。乃進陣二江尻一。遣レ人降二田中守將依田信蕃一。不レ肯。乃使二信良以レ書諭一レ之。三月。信蕃致レ城而去。府中守將武田信龍棄レ守逃。少將以二信良一爲二鄉導一。自二市川一入二甲斐古府一。所レ過毫毛不レ犯。沿道望レ風歸降。

當二是時一。信忠已下二信濃諸城一。進入二甲斐古府一。北條氏政以二兵三萬一臨二境上一。勝頼逃。無レ所レ之。乃以二殘兵一棲二天目山一。織田氏兵逼殺レ之。獻二首信長一。信長罵曰。豎子使二乃公不一レ得レ高レ枕數年矣。今果何狀也。傳至二我營一。少將下二胡床一。加レ禮曰。公以二五州主將一。而遂至レ於レ此。豈非レ天哉。甲斐信濃士民聞レ之。皆竊歸二心於德川氏一。

是の時に當りて、信忠已に信濃の諸城を下し、進みて甲斐の古府に入る。北條氏政兵三萬を以て境上(一)に臨む。勝頼逃る。之く所なし。乃ち殘兵を以て天目山に棲む。織田氏の兵逼りて之を殺し、首を信長に獻ず。信長、罵りて曰く、豎子、(二)乃公をして枕を高くするを得ざらしむること數年なり。今果して何の狀ぞやと。傳へて我が營に至る。少將、(三)胡床を下り、禮を加へて曰く、公、五州の主將を以てして、遂に此に至る。豈に天に非ずやと。甲斐・信濃の士民之を聞きて、皆竊かに心を德川氏に歸す。

(一) 國境に入る (二) 小僧拙者をして安心に眠ること能はざらしめしこと五六年の間なりき (三) 牀几

信長初誘二武田氏諸將一使レ叛。及二勝頼死一皆誅レ之。下レ令逮捕期レ無二遺類一。少將竊庇レ之。多二得レ免者一。依田信蕃久守二田中一。以抗二我兵一。少將最嘉レ之。收隷二部下一。於レ是。少將會二信長于二諏訪一。賀二戰捷一。信長曰。長篠之戰。奪二其爪牙一。今日固易レ爲レ力。皆卿之力也。遂分二武田氏地一。使三少將

信長、初め武田氏の諸將を誘ひて叛かしめ、勝頼の死するに及びて皆之を誅す。令を下して逮捕し、遺類(二)なからんと期す。少將、潛かに之を庇ひ、免るゝを得る者多し。依田信蕃、久しく田中を守りて、以て我が兵に抗す。少將、最も之を嘉し、收めて部下に隷す。是に於て、少將、信長に諏訪に會し、戰捷を賀す。信長曰く、長篠の戰に、其爪牙(三)を奪ふ。今日固より力を爲し易し。皆卿の力なりと。遂に武田氏の地を分ち、少將をして駿河を取らしむ。少將曰く、今川氏眞、僕の所に寓居(四)す。願はくは其半を割きて之に予へんと。信長許さずして曰く、子、兵力を以て駿河を取る。何ぞ之を一寓公に分たんやと。遂に甲斐の一都を割きて、穴山信良に賜ひ、我をして之を統屬(五)せしむ。瀧川一益を上野に置き、關東を經略せしめ、河尻鎭吉を甲斐に、森長可等を信濃に置き、皆我が節度(六)を受けしむ。四月、信長惠林寺を焚き、其僧徒を鏖にし、遂に海道より西歸す。少將、供給(七)甚だ豐かなり。

取駿河。少將曰。今川氏眞寓居僕所。願割其半予之。信長不許曰。子以兵力取駿河。何分之一寓公乎。遂割甲斐一郡賜穴山信良。使我統屬之。置瀧川一益于上野。經略關東。置河尻鎭吉于甲斐。森長可等于信濃。皆使受我節度。四月。信長焚惠林寺。鏖其僧徒。遂自海道西歸。少將供給甚豐。

（一）のこりのやから （二）敵の防禦を奪ひ取る （三）軍威をふるふに容易なり （四）假住居す （五）一人のかゝり人 （六）我が指揮を受けしむ （七）賄料十分なり

五月。少將西往安土。穴山信良從焉。信長命吏除道。使明智光秀掌饗。饗于高雲寺。親饋之。使信良及酒井大久保石川井伊本多榊原六將侍食。召優人爲

五月、少將、西安土に往く。穴山信良從ふ。信長、吏に命じて道を除し（一）、明智光秀をして饗を掌らしめ、高雲寺に饗し、親ら之に饋る（二）、信良及び酒井・大久保・石川・井伊・本多・榊原の六將をして侍食せしめ、優人（三）を召して樂を爲さしむ。因りて少將に謂ひて曰く、卿、盍ぞ、京畿を遊觀（四）せざる。吾も亦、當に踵ぎて往くべしと。少將、信良と小隊を以て發す。信長、長谷川秀一、京商茶屋晴延をして之に從はしむ。京師を經て、大坂に至る。織田信孝將に南海を略せんとし、大坂に屯す。迎へて饗す。少將、遂に界府に往き、晴延を遣し京師に入りて、以

樂。因謂少將曰。卿盍遊觀京畿。吾亦當踵往。少將與信良以小隊發。信長使長谷川秀一京商茶屋晴延從之。經京師。至大坂。織田信孝將略南海。屯于大坂。迎饗焉。少將遂往界府。遣晴延入京師。以候信長。六月二日。將還入京師。本多忠勝先發。至牧方。逢一騎來。近則晴延也。回指謂忠勝曰。公不見夫烟乎。明智光秀作亂。右府已被弑矣。忠勝大驚。回馬返報。

て信長に候せしむ。六月二日、將に還りて京師に入らんとす。本多忠勝先づ發し。牧方に至り、一騎の来るに逢ふ。近づけば則ち晴延なり。回指(六)して忠勝に謂ひて曰く、公、夫の烟を見ざるか。明智光秀亂を作し、右府(七)已に弑せらると。忠勝大に驚き、馬を回して返り報ず。

(一) 掃除し (二) 饗の飲食物をおくる (三) 音樂師 (四) 遊び見物せざる (五) 河内國に在り (六) ふりかへりて指して (七) 信長

少將已至飯盛山。望見二人。察其有異。留從隊。獨與五將挺前。二

少將已に飯盛山(一)に至り、二人を望見し、其の異(二)あるを察し、從隊を留めて、獨り五將と挺前(三)す。二人、變を告ぐ。少將、晴延を前めて悉しく之を問ふ。秀一も亦來る。十騎、馬首を聚む。計、出づる所なし。少將曰く、吾れ義として當に立ちど

人告レ變。少將前ニ晴延ニ悉問レ之。秀一亦來。十騎聚ニ馬首一。計無レ所レ出。少將曰。吾義當三立討ニ光秀一。而從從兵至寡。今獨有ニ入レ京自殺一而已。乃引レ隊北上。使ニ忠勝前行一。數里。忠勝回レ轡。謂ニ五將一曰。僕欲三敢獻ニ異議一。今光秀方得レ志。擁ニ大軍一據ニ要地一。吾浪戰貽レ禽。徒取ニ笑天下一。曷如三歸レ國舉レ兵徐圖ニ誅討一哉。願公等勸ニ之主公一。酒井忠次石川數正曰。老成之慮。乃出ニ於少壯之人一。吾輩慚愧。乃勸ニ之少將一。且曰。光秀已扼ニ衢路一。宜レ取ニ間道一。

ところに光秀を討つべし。而して從兵至りて寡し。今は獨京に入り自殺する有るのみと。乃ち隊を引きて北上し、忠勝をして前行せしむ。數里にして、忠勝、轡(四)を回し、五將に謂ひて曰く、僕敢て異議を獻ぜんと欲す。今、光秀方に志を得、大軍を擁して要地に據る。吾れ浪戰(五)して禽を貽し、徒に笑を天下に取るは、曷ぞ國に歸り兵を舉げて徐に誅討を圖るに如かんや。願はくは、公等、之を主公に勸めよと。酒井忠次・石川數正曰く、老成の慮(六)、乃ち少壯の人に出づ。吾が輩慚愧す。乃ち之を少將に勸め、且つ曰く、光秀已に衢路を扼す。宜しく間道を取るべしと。

(一) 河内國に在り　(二) 異變ありしを察し知り　(三) 拔出でゝ進む　(四) 馬を引返し　(五) むやみに戰ひて　(六) 物馴れたる者の考へ

少將曰。我不レ諳二地利一。必爲二土寇所一レ困。終不レ若二自殺一。秀一曰。此間士民素慣二臣使令一。臣能使二之導一。晴延亦散レ金募レ之。大和人越智玄蕃。使三其臣吉川某爲二鄕導一。土寇乘レ夜起。侵二我輜重一。高力清長數返戰。攘レ之。穴山信良自懷二猜疑一。不レ欲二同行一。自二普賢谷一。分レ道而去。至二草內

少將曰く、我れ地利(一)を諳んぜず。必ず土寇の困しむる所と爲らん。終に自殺するに若かずと、秀一曰く、此間の士民素より臣の使令(二)に慣る。臣能く之を導かしめんと。晴延も亦、金を散じて之を募る。大和の人越智玄蕃、其臣吉川某をして鄕導(三)を爲さしむ、土寇、夜に乘じて起り、我が輜重(四)を侵す。高力清長、數々返り戰ひて、之を攘ふ(五)。穴山信長、自ら猜疑を懷き、同行を欲せず。普賢谷(六)より、道を分ちて去り、草內渡(七)に至り、村民の殺す所と爲る。明日、少將、木津に至る。渡るべからず。一舟有りて來る。呼びて乘らんと欲す。舟人肯ぜず。忠次銃(八)を擬して之を脅す。舟人怖れ、艤(九)して之を載す。既に濟り、忠勝、槍鐓(一〇)を以て其舟を撞き破りて、以て追者を防ぐ。織田氏の將山岡景隆、衆を帥ゐて來り迎ふ。已にして、光秀少將の逃れ去るを覺り、兵を諸路に出して之を要す(一一)。

(一) 地利に暗し　(二) 指圖になる　(三) 道案內をなさしむ　(四) 兵糧及び軍用品を運送する車　(五) 追拂ふ　(六) 山城國に在り　(七) 同上　(八) 鐵砲を向けておどす　(九) 舟よそほひ　(一〇) 槍の石突　(一一) 途に待受く

渡。爲二村民所一レ殺。明日。少將至二木津一。不レ可レ渡。有二一舟一來。呼而欲レ乘。舟人不レ肯。忠次擬レ銃脅レ之。舟人怖。纔而載レ之。既濟。忠勝以二槍鐵一撞二破其舟一。以防二追者一。織田氏將山岡景隆帥レ衆來迎。已而光秀聞二少將逃去一。出二兵諸路一要レ之。

本多正信聞二少將當一レ厄。馳至二宇治河一。與二景隆一議。諭二茶商上林一。發二土人一。護入二信樂一。館二于鱒尾氏一。使三土人馳還設二篝火河上一。宣言德川公將レ來レ於レ此。光秀斥兵聞レ之。萃以俟焉。而少將已入二伊賀一矣。初信長鏖二伊賀一入。獨匿二我管內一者

本多正信、少將の厄に當るを聞き、馳せて宇治河に至り、景隆と議して、茶商上林に諭し、土人を發して、護りて信樂(一)に入り、鱒尾氏に館す。土人をして馳せ還りて篝火を河上に設けしめ、宣言せしむらく、德川公、將に此に來らんとすと。光秀の斥兵(二)之を聞き、萃りて俟つ。而して少將は已に伊賀に入る。初め信長、伊賀の人を鏖にす。獨り我が管內に匿るゝ者は免るゝを得たり。是に於て、其父兄相告げて來り護り、伊勢に入り、白子浦より舟に上り、七日にして參河の大濱に達し、永井直勝の家に入る。將士迎へ賀す。卽日、少將、兵を管內に徵して、光秀を討つ。美濃・尾張の將士、使をして款を送らしむ。或ひと急に一國を取ることを勸む。少將曰く、右府(三)の故國(四)なり。吾れ亂に乘じて之を利す可けんやと。十七日、進みて熱田に陣す。羽柴秀吉、山陽の兵を以て入討し、光秀已に誅

得レ免。於レ是其父兄相告來護。入二伊勢一。自二白子浦一上レ舟。七日達二於參河大濱一。入二永井直勝家一。將士迎賀。即日。少將徵二兵管內一。討二光秀一。美濃尾張將士。使二使逆レ款。或勸三急取二一國一。少將曰。右府故國也。吾可二乘レ亂利一レ之乎。十七日。進陣二于熱田一。聞下羽柴秀吉以二山陽兵一入討。光秀已伏レ誅也。乃班レ師。論二賞畿道扞衛之功一。

に伏すと聞き、乃ち師を班し、畿道扞衛(五)の功を論賞す。

(一)近江國に在り　(二)斥候兵　(三)信長　(四)ふるさと　(五)防ぎ守る

當二是時一。四方聞レ變騷擾。河尻鎭吉初藉二信長威權一。凌二轢國人一。每レ事行二新法一。國人囂然。及二信長薨一。鎭吉恇怯欲レ走。不レ敢。少將至二參河一之日。遣二本多百助一護二鎭吉一曰。

是の時に當りて、四方變を聞きて騷擾(一)す。河尻鎭吉、初め信長の威權を藉り、國人を凌轢(二)し、事每に新法を行ふ。國人囂然(三)たり。信長の薨ずるに及びて、鎭吉恇怯(四)して走らんと欲す。敢てせず。少將、參河に至るの日、本多百助を遣して鎭吉を護らしめて曰く、子、西に歸らんと欲せば、宜しく道を我に借るべしと。國人流言して曰く、本多河尻を圖ると。鎭吉乃ち百助を饗し、醉はせて之を殺す。國人之に乘じて、攻めて鎭吉を殺す。森長可等、皆守を棄てて西に走る。是に於て、甲斐・信濃は空虛にして主無し。上杉景勝・北條氏政、並に兵を出して

子欲二西歸一。宜レ借二道於一レ我。國人流言曰。本多圖二河尻一。鎭吉乃饗二百助一。醉而殺レ之。國人乘レ之。攻殺二鎭吉一。森長可等。皆棄レ守西走。於レ是甲斐信濃空虛無レ主。上杉景勝北條氏政並出レ兵爭レ之。

之を爭ふ。

(一)騷ぎ亂る　(二)しのぎおかす　(三)がや〳〵騷ぎ立つ　(四)おそれて逃走せんと欲す

少將聞二鎭吉死一。遣二酒井忠次大須賀康高成瀨正一一入二甲斐一。以二武田氏降將依田信蕃岡部正綱一爲レ介。竪(三)旗於二柏坂嶺一。以招二來國人一。武田氏骨鯁之臣横田尹松城昌茂等

少將鎭吉の死を聞き、酒井忠次・大須賀康高・成瀨正一を遣して甲斐に入り、武田氏の降將依田信蕃・岡部正綱を以て介と爲し、(一)旗を柏坂嶺に竪てて以て、國人を招來す。武田氏骨鯁(二)の臣横田尹松・城昌茂等、相踵ぎて來歸す。凡そ千餘人あり。少將皆之に印(三)信を予へ、安堵故の如し。大村某といふ者、氏政の兵を導きて甲斐に入らんと欲す。穴山氏の部兵、撃ちて之を平ぐ。又大久保忠世・石川康通・本多廣孝を遣し、兵に將として繼ぎて往き、諏訪頼忠・小笠原信嶺を招き、皆之を降す。七月、少將兵を留めて駿河の諸城を守らしめ、親ら將として甲斐に入る。甲斐の父老、爭ひて芻(四)糧を供す。進みて古府に陣し、(五)降附を撫循し、諸要を分守

相踵來歸。凡千餘人。少將皆予之印信。安堵如故。大村某者。欲導氏政兵入甲斐。穴山氏部兵擊平之。又遣大久保忠世石川康通本多廣孝。將兵繼往。招諏訪賴忠小笠原信嶺。皆降之。七月。少將留兵守駿河諸城。親將入甲斐。甲斐父老爭供芻糧。進陣于古府。撫循降附。分守諸要。遣忠次忠世以下。以兵三千徇信濃。圍高島城。

す。忠次・忠世以下を遣し、兵三千を以て信濃を徇へ、高島城を圍む。

(一) 中介者とし　(二) 剛直の臣　(三) 證印　(四) 秣と糧食　(五) 降參の者をてなづけ安んじ

八月。氏政遣子氏直。將四萬騎。入佐久郡。諸將聞之。退屯音骨。遂引還。初諏訪賴忠不服忠次。少將更遣忠世。乃服。二人頗有郤。於

八月、氏政、子氏直を遣し、四萬騎に將として、佐久郡(一)に入る。諸將之を聞きて、退きて音骨(二)に屯し、遂に引きて還る。初め諏訪賴忠、忠次に服せず。少將、更に忠世を遣す。乃ち服す。二人頗る郤有り。是に於て、殿を爭ひて決せず。衆之を和解し、六將更〻殿して退く。氏直之に尾す。行くこと七里、十餘合せしも、我が兵、一人を損せず。氏直止りて若巫(三)に陣す。少將乃ち伏を措き、自ら數百騎に將として、淺生原(四)に出づ。氏直敢て進まず。少將、鳥居元忠・水野勝成・松

是爭レ殿不レ決。衆和ニ解之一。六將更殿而退。氏直尾レ之。行七里。十餘合。我兵不レ損ニ一人一。氏直止陣ニ若巫一。少將乃措レ伏。自將ニ數百騎一。出ニ淺生原一。氏直不ニ敢進一。少將使ニ鳥居元忠水野勝成松平淸宗三宅康貞守ニ古府一。而自陣ニ新府一。氏政遣ニ弟氏忠族氏勝一。將ニ數千騎一。入ニ郡內一。氏直潛遣レ使告焉。曰。古府兵寡。子攻ニ取之一。則新府隨潰。家康當下自ニ下山一遁上。乃夾擊殲レ之。古府四將。諜ニ知其謀一。以ニ二千人一邀ニ擊之一。氏忠氏勝大敗遁去。

平淸宗・三宅康貞をして、古府を守らしめて、自ら新府に陣す。氏政、弟氏忠、族氏勝を遣し、數千騎に將として、郡內に入らしむ。氏直潛かに使を遣して告げて曰く、古府兵寡し。子、之を攻取(五)せば、則ち新府、隨ひて潰え、家康、當に下山より遁るべし。乃ち夾擊して之を殲さんと。古府の四將、其謀を諜知(六)し、二千人を以て之を邀擊す。氏忠・氏勝大に敗れて遁れ去る。

㈠ 信濃國に在り ㈡ 同上 ㈢ 甲斐國に在り ㈣ 同上 ㈤ 同上 ㈥ 間諜を入れて之を知り

少將望レ塵曰。我兵勝矣。已而四將以ニ首級三百一還獻。命梟ニ之新府

少將、塵(一)を望みて曰く、我が兵勝てりと。已にして四將、首級三百を以て還り獻ず。命じて之を新府の郊外に梟す。氏直の兵之を視るに、皆其子弟親戚なり。乃ち悲駭(二)して鬪ふを欲せず。少將四將を賞し、元忠に賜ふに郡內を以てす。氏直、

郊外。氏直兵覘之。皆其子弟親戚也。乃悲駭不欲鬬。少將賞四將。賜元忠以郡内。氏直砦于豆生田。參河人久世廣宣。甲斐人曲淵吉景。皆有功焉。氏政又遣弟氏規窺駿河。松平康親守三枚橋。本多重次守沼津。擊氏規破之。氏直數招甲斐人。甲斐人斬使者獻其書。信濃人眞田昌幸。保科正直初降北條氏。

(三)豆生田に砦す。參河の人久世廣宣、甲斐の人曲淵吉景皆功有り。氏政、又弟氏規を遣して駿河を窺ふ。松平康親は三枚橋を守り、本多重次は沼津を守り、氏規を擊ちて之を破る。氏直、數々甲斐の人を招く。甲斐の人、使者を斬りて其書を獻ず。信濃の人眞田昌幸・保科正直、初め北條氏に降る。

(一)塵の立上るを見　(二)悲みおどき　(三)甲斐國に在り

九月。少將使依田信蕃招降昌幸。合兵屯碓冰嶺。絕關東糧道。正直因酒井忠

九月、少將、依田信蕃をして昌幸を招降せしめ、兵を合して碓冰嶺に屯し、關東の(一)糧道を絕つ。正直、酒井忠次に因りて來降す。高遠の兵を以て箕輪を取り、諸城を招きて以て我に屬せしむ。氏直益々窘しむ。十月、氏政乃ち氏規をして來りて和を請はしめて曰く、「公は甲斐・信濃を取れ。我は上野を取らんと。且つ氏直の

次一來降。以二高遠兵一取二箕輪一。招二諸城一以屬レ我。氏直益窘。十月。氏政乃使二氏規來請レ和曰。公取二甲斐信濃一。我取二上野一。且請下爲二氏直一娶中少將女上。少將許レ之。十一月。氏直撤レ兵而修二平澤砦一。少將使二人誚レ之曰。我初欲レ取二上野一。遇レ和而止。今既和而築。是僞和也。使二諸將發レ兵赴レ之。北條氏兵懼。毀レ砦而去。

爲に少將の女を娶らんと請ふ。少將、之を許す。十一月、氏直、兵を撤して平澤の砦を修む。少將、人をして之を誚めしめて曰く、我れ初め上野を取らんと欲す。和に遇ひて止む。今既に和して築く。是れ僞和(二)なりと。諸將をして兵を發して之に赴かしむ。北條氏の兵懼れ、砦を毀ちて去る。

(一) 兵糧運搬の道　(二) 僞りの和議なり

是時。上杉景勝既取二河中島一。築二砦四外一。少將遣二依田信蕃柴田康忠菅沼大膳

是の時、上杉景勝既に河中島を取り、砦を四外に築く(一)。少將、依田信蕃・柴田康忠・菅沼大膳等を遣し、前山・高棚・小田井の諸砦を攻めて、之を拔く。是に於て、甲斐・信濃の豪傑、盡く我が部下に屬す。少將、其采邑を檢し、或は舊に依り、或は之を削り、平岩親吉をして甲斐を鎭し、大久保忠世(二)をして信濃を鎭せしむ。務

等。攻二前山高柵小田井諸砦。拔レ之。於レ是甲斐信濃豪傑盡屬二我部下。少將檢二其采邑。或依レ舊。或削レ之。使下平岩親吉鎭二甲斐。大久保忠世鎭中信濃上。務因二武田氏舊制。無レ所二更變。獨除二其厚斂苛刑。建三寺于二田野一以弔二勝頼。嘉二小宮山内膳忠節。召二其弟又七。祿レ之。以二其季弟爲レ僧者一爲二田野寺主。收二山縣土屋原一條四族之兵。屬二於井伊直政。軍裝皆用二赤色。井伊氏兵自レ是勁矣。

めて武田氏の舊制(三)に因り、更變する所なし。獨り其厚斂苛刑(四)を除く。寺を田野に建てて以て勝頼を弔す。小宮山内膳の忠節を嘉し、其弟又七を召して、之に祿し、其季弟の僧と爲れる者を以て田野の寺主と爲し、山縣・土屋・原・一條の四族の兵を收めて、井伊直政に屬せしむ。軍裝(五)皆赤色を用ふ。井伊氏の兵、是より勁し。

(一) 河中島の四方　(二) 領地をしらべ　(三) もとの規則　(四) 重税を取立つることと苛酷なる刑罰と　(五) 軍兵のいでたち

十二月。少將乃還二濱松。以二降附四人一掌二採訪。北條氏使二使納レ幣。織

十二月、少將乃ち濱松に還る。降附四人を以て採訪(一)を掌らしむ。北條氏、使をして幣を納れしむ。織田氏の故將柴田勝家も亦使をして平定を賀せしむ。十一年閏正月、松平康親の功を賞し、河東二郡を賜ふ。二月、依田信蕃、攻めて岩

田氏故將柴田勝家亦使三使賀二平定一。十一年。閏正月。賞二松平康親功一。賜二河東二郡一。二月。依田信蕃攻拔二岩尾一。而死レ之。少將祿二其子一。賜二姓名松平康國一。依二康親例一也。乃命二大久保忠世一助二康國一。攻拔二小室一。走二守將宇佐美定行一。景勝不二敢援一。七月。北條氏迎レ女。酒井忠次護二送之一。八月。少將如二甲斐一修二法令一。賜二眞田昌幸一以二上田一。幸昌攻二上野一。取二沼田一。十月。少將進二正四位下一。遷二右近衞中將一。

尾を抜きて、之に死す。少將、其子に祿し、姓名を松平康國と賜ふ。康親の例(二)に依るなり。乃ち大久保忠世に命じて康國を助けしめ、攻めて小室を抜き、守將宇佐美定行を走らす。景勝敢て援はず。七月、北條氏、女を迎ふ。酒井忠次、之を護送(三)す。八月、少將甲斐に如き、法令を修む。眞田昌幸に賜ふに上田を以てす。昌幸上野を攻め、沼田を取る。十月、少將正四位下に進み、右近衞中將に遷る。

(一) 各地の動靜を探り調ぶること　(二) 前例　(三) 附添ひ警戒して送る

天正十二年。正月。朔。參河遠江駿河甲斐信濃五國將士。盡賀三正于二濱松一。謁二中將及世子長丸一。二月。中將遷二參議一。進二從三位一。當二是時一。故織田信長將羽柴秀吉爲三政於二京畿一。

卷二十

徳川氏正記

徳川氏 三

天正十二年正月朔、參河・遠江・駿河・甲斐・信濃五國の將士、盡く正(一)を濱松に賀し、中將及び世子長丸に謁す。二月、中將參議に遷り、從三位に進む。是の時に當りて、故織田信長の將羽柴秀吉、政を京畿に爲し、十餘國を略有し、威權獨り熾なり。參議も亦之と好を通ず。信長の二孤、信雄・信孝、勢(二)皆秀吉の下に及づ。信孝兵を擧げて之を圖り、克たずして死す。其黨柴田勝家等、皆攻滅する所と爲る。諸宿(三)將豪傑、皆首を俯して秀吉に事ふ。信雄孤立して援なし。秀吉、復た激(四)して之を除かんと欲し、故に之を遇すること亡(五)狀なり。其驍將岡(六)田重善・津川義冬・淺井多宮を誘ひ、叛きて己に降らしむ。信雄怒り、三月、三將

略ニ有十餘國一。威權獨熾。參議亦與レ之通レ好。信長二孤。信雄。信孝。勢皆出ニ秀吉下一。信孝擧レ兵圖レ之。不レ克而死。其黨柴田勝家等。皆爲レ所ニ攻滅一。諸宿將豪傑。皆俯レ首事ニ秀吉一。信雄孤立無レ援。秀吉復欲ニ激而除一レ之。故遇レ之亡狀。誘ニ其驍將岡田重善津川義冬淺井多宮一。使ニ叛降一已。信雄怒。三月。召ニ三將一誅レ之。分レ兵攻ニ其邑一。遂與ニ秀吉一絕。

を召して之を誅し、兵を分ちて其邑を攻め、遂に秀吉と絶つ。

㊀新年 ㊁掠取りて所有し ㊂ふるくよりの大將 ㊃腹立して信雄を滅さんと欲し ㊄無禮なり ㊅強き大將

池田信輝。與ニ二婿森長可。堀秀政一在ニ美濃一。信雄秀吉並招レ之。秀吉特啗以レ利。乃附ニ秀吉一。瀧川一益稻葉通朝蒲生氏鄉等。皆黨レ之。信雄益窘。乃來乞ニ援於德川

池田信輝、二婿森長可・堀秀政と美濃に在り。信雄、秀吉、竝に之を招く。秀吉、特に啗はすに利を以てす。乃ち秀吉に附く。瀧川一益・稻葉通朝・蒲生氏鄉等、皆之に黨す。信雄益〻窘しむ。乃ち來りて援を德川氏に乞ふ。參議曰く、吾れ信長の厚誼を荷ふ。其孤の窮蹙を視て援けずんば、將何を以て天下に對せんと。即ち之を諾し、石川數正・水野忠重、其子勝成を遣し、往きて信雄を助け、攻めて星崎を拔かしむ。勝成先登す。秀吉陰かに諸將を誘ふ。忠重、納れずして其書を獻ず。忠重は、故信元の子なり。是に於て、四近の城邑、交〻相攻擊し、迭に勝

氏。參議曰。吾荷二信長厚誼一。視二其孤之窮蹙一而不レ援焉。將何以對二天下一。即諾レ之。遣二石川數正水野忠重其子勝成一。往助二信雄一。攻拔二星崎一。勝成先登。秀吉陰誘二諸將一。忠重不レ納而獻二其書一。忠重。故信元子也。於レ是四近城邑交相攻擊。迭有二勝敗一。參議聞三秀吉大擧且二東下一也。欲三親將援二信雄一。慮三北條上杉窺二其後一。使下大久保忠世備二北面一。松平康親平岩親吉鳥居元忠備中東面上。十日。親將發二濱松一。酒井忠次奥平信昌等。以二前軍一先發。敵攻二城邑一者聞レ之。往往解レ圍去。參議四日而至二清洲一。見二信雄一。信雄謝レ之。參議曰。公安レ之。某在焉。秀吉之兵。雖レ有二百萬一。不レ能三以病二公也。

敗あり。參議、秀吉の大擧して且に東下せんとするを聞き、親ら將として信雄を援けんと欲す。北條・上杉、其後を窺ふを慮り、大久保忠世をして北面に備へ、松平康親・平岩親吉・鳥居元忠をして東面に備へしむ。十日、親ら將として濱松を發す。酒井忠次・奥平信昌等、前軍を以て先づ發す。敵の城邑を攻むる者、之を聞きて、往往圍を解きて去る。參議四日にして淸洲に至り、信雄を見る。信雄之を謝す。參議曰く、公之を安んぜよ。某在り。秀吉の兵、百萬ありと雖も、以て公を病へしむる能はざるなりと。

(一) 利欲を以て人を誘ふ　(二) 厚恩を受く　(三) 信長の孤子のくるしみとまる　(四) 後方より北の隙をねらふ　(五) 心配せしむる

乃引諸將。議戰守之策。榊原康政曰。宜進取小牧山以瞰國內。莫使敵據之。參議然之。本多康重曰。往年勝賴侮敵。踰川而進。終以取敗。今盍監焉。酒井忠次曰。勝賴之敵我。我之敵秀吉。不可比也。參議遂命忠次修小牧故壘。十六日。自攜信雄往駐軍焉。發間使入南海。招雜賀根來及阿波土佐諸豪。使並起圖大坂。秀吉患之。未果來。遙令池田信輝據犬山。森長可陣羽黑。以拒我軍。長可稱武藏守。以驍勇著。有鬼武藏之目。

乃ち諸將を引き、戰守の策を議す。榊原康政曰く、宜しく進みて小牧山を取りて以て國內を(一)瞰すべし。敵をして之に據らしむる莫れと。參議之を然りとす。本多康重曰く、(二)往年、勝賴、敵を侮り、川を踰えて進み、終に以て敗を取りき。今盍ぞ監みざると。酒井忠次曰く、勝賴の我に敵するは、我の秀吉に敵するに、比すべからずと。參議遂に忠次に命じて小牧の(三)故壘を修めしむ。十六日、自ら信雄を攜へて往き、軍を駐む。(四)間使を發して南海に入り、雜賀・根來及び阿波・土佐の諸豪を招き、並び起りて大坂を圖らしむ。秀吉之を患へ、未だ來るを果さず。遙かに池田信輝をして犬山に據り、森長可をして羽黑に陣せしめて以て我が軍を拒ぐ。長可は武藏守と稱し、(五)驍勇を以て著る。鬼武藏の目あり。

(一) 高所より見下す　(二) 先年　(三) ふるきとりで　(四) 忍びの使者　(五) つよく勇ましき評判高し

忠次請曰。嘗試一搏鬼武藏。使京兵知參河技倆也。乃與諸將進。縱火誘之。長可出軍八幡林。隔水挑戰。奥平信昌單騎先濟。衆從之。擊走長可。斬首三百級。信輝與稻葉通朝。聞之來援。或止之曰。敵兵乘勝。未可與爭鋒。宜按兵憑高。待其來而下突。信輝從之。參議諜知其謀。令諸將收兵。終留康政於小牧。而自入清洲。使本多廣孝築城小幡。以便參河往來。

忠次請ひて曰く、嘗試に一たび鬼武藏を搏し、京兵をして參河の技倆(一)を知らしめんと。乃ち諸將と進みて、火を縱ちて之を誘ふ。長可、軍を八幡林に出し、水を隔てて戰を挑む。奥平信昌單騎先づ濟る。衆、之に從ひて、擊ちて長可を走らす。斬首三百級なり。信輝と稻葉通朝と、之を聞きて來り援く。或ひて之を止めて曰く、敵兵勝に乘ず。未だ與に鋒を爭ふべからず。宜しく兵を按じ(二)高きに憑り、其來るを待ちて下り突くべしと。信輝之に從ふ。參議其謀を諜知し(三)、諸將に令して兵を收めしめ、終に康政を小牧に留めて、自ら清洲に入り、本多廣孝をして城を小幡に築かしめて、參河の往來を便にす。

(一) うてまへ　(二) 兵をおさへ　(三) 探偵して知る

秀吉聞羽黒

秀吉、羽黒の敗を聞き、大に忿り、戍を南海に置きて、自ら將として來り、犬山

之敗。大怒。置二戍南海一。而自將而來。軍レ于二犬山一。兵凡十二萬五千人。分爲二十五隊一。自按二視地形一。仰視二小牧山一曰。吾後矣。乃穿三空濠二重于二山前一。使二數千人守一レ之。起レ壘植レ柵。以頓二諸軍一。軍營彌二亙數十里一。參議聞レ之。留二內藤信成等一守二清洲一。而自攜二信雄一。合二兵一萬八千一。復陣二

に軍す。兵凡そ十二萬五千人なり。分ちて十五隊と爲し、自ら地形（一）を按視し、仰ぎて小牧山を視て曰く、吾れ後れたりと。乃ち空濠（二）二重を山前に穿ち、數千人をして之を守らしめ、壘を起し柵を植て、以て諸軍を頓（三）す。軍營、數十里に彌亙（四）す。參議之を聞きて、內藤信成等を留め清洲を守らしめて、自ら信雄を携へ、兵一萬八千を合せ、復た小牧山に陣す。康政、信雄の爲に檄を敵軍に移して曰く、秀吉、君恩を蔑棄（五）し、鬼と爲り蜮（六）と爲り、兵を君の遺孤に加ふ。天下の人、孰か切齒（七）せざらん。汝將士、嘗て之と肩を比して以て先君に事へたり。乃ち其の驅役（八）する所と爲る。果して何の心ぞや。德川公依託（九）を受けて征討を圖り、盡く五國の卒を發し、親ら將として此に至る。大義の臨む所、必ず豎子を梟せん。汝將士、苟も過を改めて順に歸せば、皆其の自ら償ふを聽さん。然らずんば則ち併せて之を誅戮（一〇）し、身首（一一）處を異にせん。其れ悔ゆる勿れと。

（一）地なりをしらべみる （二）からぼり （三）留む （四）運りわたる （五）あなどりすつ （六）水中に棲む毒蟲 （七）殘念に思ひて齒をくひしばる （八）追ひ使ふ （九）たのみ （一〇）罪し殺し （一一）斬首せらる

小牧山。康政爲信雄移檄敵軍曰。秀吉蔑棄君恩。爲鬼爲蜮。加兵於君之遺孤。天下之人。孰不切齒。汝將士。嘗與之比肩以事先君。乃爲其所驅役。果何心哉。德川公受依託。圖征討。蹶發五國之卒。親將至此。大義所臨。必梟豎子。汝將子。苟改過歸順。皆聽其自償。不然則併誅戮之。身首異處。其勿悔。

秀吉覽之。乃購康政首千金。參議上樓櫓。望見塹柵。笑謂信雄曰。彼襲尊公長篠之策。豈以我比勝賴乎。乃下令軍中。禁擅進。秀吉遺書參議。請戰曰。且日吾欲背塹柵進戰。使士無退志。公亦盍倣

秀吉之を覽て、乃ち康政の首を千金に購ふ。參議樓櫓に上り、塹柵を望見し、笑ひて信雄に謂ひて曰く、彼れ尊公(一)の長篠の策を襲ぐ。豈に我を以て勝賴に比するかと。乃ち令を軍中に下し、擅(二)に進むを禁ず。秀吉、書を參議に遺りて戰を請ひて曰く、且日、吾れ塹柵を背にして進み戰ひ、士をして退志なからしめんと欲す。公も亦盍ぞ我が爲す所に倣はざると。渡部守綱、銃長(四)を以て前部に在り。私かに答書して曰く、來諭(五)に言ふ所、以て寡君(六)に聞するに足らず。寡君固より君と樂しみて戰はんと欲す。敢て約を奉ぜざらんや。斷後(七)の備に至りては、君自ら之を爲せ。弊邦の士は、進むありて退くなし。必ずしも此を須ふるをせざるなりと。秀吉、書を獲て大に恚り、進み戰はんと欲して敢てせず。乃ち邸に上りて

我所レ爲。渡部守綱以二銃長一在二前部一。私答書曰。來諭所レ言。不レ足三以關二寡君一。寡君固欲二與レ君樂戰一。敢不レ奉レ約。至二斷後之備一。君自爲レ之。緊邦之士。有レ進無レ退。不二必須一レ此也。秀吉獲レ書大恚。欲二進戰一而不レ敢。乃上レ邱而罵。四月。秀吉兵益至。充二滿山野一。而我兵無レ繼。

罵る。四月、秀吉の兵益〻至り、山野に充滿す(八)。而して我が兵は繼なし。

㈠千圓の懸賞にかく　㈡信長を指す　㈢退かんとする志　㈣銃隊の長　㈤書面にての申越　㈥他國の者に對して我主君を稱する卑稱　㈦後方を斷切る備へ　㈧山野にみちみつ

四日。池田信輝說二秀吉一曰。敵悉レ銳拒レ此。料參河必空虛。我潛レ軍出二敵背一。擣二其窟穴一。則彼必顧而潰。因夾二擊之一。可三以獲二其渠魁一矣。秀吉

四日、池田信輝、秀吉に說きて曰く、敵銳(一)を悉して此に拒ぐ。料るに參河必ず空虛ならん。我れ軍を潛めて敵背に出で、其窟穴(二)を擣かば、則ち彼れ必ず顧みて潰えん。因りて之を夾擊(三)して、以て其渠魁(四)を獲べしと。秀吉沈吟(五)して答へず。明日、復た說きて曰く、公速かに之を斷ぜよ。一二日を遲れば、敵も亦備を爲さんと。秀吉乃ち之を許す。信輝は前軍に將とし、森長可は二軍に將とし、堀秀政は三軍に將とし、長谷川秀一は四軍に將とし、秀吉の甥秀次は五軍に將として、兵凡て

沈吟不レ答。明日。復說曰。公速斷レ之。遲二二三日一。敵亦爲レ備。秀吉乃許レ之。信輝將二前軍一。森長可將二二軍一。堀秀政將二三軍一。長谷川秀一將二四軍一。秀吉甥秀次將二五軍一。兵凡三萬。翌夜潛發。秀吉戒曰。愼勿レ侮レ敵。信輝諸而往。至二篠木柏井一。誘二土寇一以向二參河一。織田氏將丹羽氏次爲二岩崎城主一。時從在二小牧一。其弟氏重居守。信輝等。欲下先取二岩崎一以及中岡崎上。岡崎賈人聞レ警。走至二丸根一。告二之守將酒井忠利一。忠利單騎來二小牧一。白レ之。參議發レ謀覘レ之。悉得二其實一。

三萬なり。翌夜潛かに發す。秀吉戒めて曰く、愼みて敵を侮る勿れと。信輝諸して往き、篠木・柏井に至り、土寇を誘ひて以て參河に向ふ。織田氏の將丹羽氏次、岩崎城主たり。時に從ひて小牧に在り。其弟氏重居守す。信輝等、先づ岩崎を取りて以て岡崎に及ばんと欲す。岡崎の賈人、警を聞きて、走りて丸根に至り、之を守將酒井忠利に告ぐ。忠利、單騎にて小牧に來り、之を白す。參議謀を發して之を覘はしめ悉く其實を得たり。

㊀精鋭の兵を殘らず出して　㊁根據地　㊂はさみ擊つ　㊃かしら　㊄深く沈み考ふ　㊅共に尾張國に在り　㊆留主して守る

八日。晡。秀吉陣燧起。參議

八日晡、秀吉の陣に燧起る。參議曰く、是れ號を爲すなりと。乃ち密かに諸將を

日。是爲レ號也。乃密戒ニ諸將一。夜半傳發。選ニ輕騎四千人一。自將レ之。皆卷レ旗裹ニ馬銜一。尾ニ信輝軍一而馳。榊原康政水野忠重等爲ニ先鋒一。至ニ小幡砦一。遣ニ斥兵五十一詗レ敵。敵前軍襲ニ取岩崎一。斬ニ氏重一。信輝檢ニ其首級一。大喜。報ニ捷後軍一。遂向ニ岡崎一。黎明。我先鋒至ニ稻葉一。則敵後軍頓ニ東山下一。

戒め、夜半に傳發（二）せしめ、輕騎四千人を選び、自ら之に將として、皆旗を卷き馬銜を裹み、信輝の軍に尾して馳す。榊原康政、水野忠重等、先鋒たり。小幡の砦（三）に至り、斥兵（四）五十を遣して敵を詗はしむ。敵の前軍、岩崎を襲ひ取り、氏重を斬る。信輝其首級を檢して、大に喜び、捷を後軍に報じ、遂に岡崎に向ふ。黎明（五）我が先鋒、稻葉に至れば、則ち敵の後軍、東山の下に頓し、餐（六）を傳へて坐す。我が兵急に之を撃つ。秀次・秀一倉皇（七）起蹶し、終に大に敗れて、秀政に走る。秀政敗を前軍に報じて、自ら回り撃つ。是の時に當りて、參議、信雄を携へて勝川に至り、其地名を問ひて之を喜び、其兵に謂ひて曰く、我れ勝てりと。甲を擐して進み、途に捷聞（八）を得、遂に長湫に至る。來り告ぐる者ありて曰く、先鋒、再戰して大に敗れたりと。我が軍危懼す。已にして康政歸り謁す。參議其手を執りて、泣きて曰く、汝恙なきを得たるかと。康政曰く、臣等一捷して兵疲れ、秀政の乘ずる所と爲る。君の在すを以て、恥を忍びて此に至ると。

傳レ餐而坐。我兵急撃レ之。秀次秀一倉皇起鬭。終大敗。走レ於二秀政一。秀政報二敗前軍一。而自回撃。當二是時一。參議攜二信雄一至二勝川一。問二其地名一而喜レ之。謂二其兵一曰。吾勝矣。擐レ甲而進。途得二捷聞一。遂至二長湫一。有二來告者一曰。先鋒再戰大敗矣。我軍危懼。已而康政歸謁。參議執二其手一。泣曰。汝得レ無レ恙乎。康政曰。臣等一捷而兵疲。爲二秀政所一レ乘。以二君在一也。忍レ恥至レ此。

㈠のろし　㈡合を傳へて發せしめて　㈢馬のくつわ　㈣斥候兵　㈤夜のひきあけ　㈥兵糧をつかひて坐す　㈦あわたゞしく起ちて闘ふ　㈧勝利の知らせ

秀政已與二信輝長可一合。追レ北而來。或説曰。敵大衆乘レ勝。勢不レ可レ抗。不レ若三速走保二岡崎一也。參議哂而不レ答。渡部守綱還報曰。敵亂レ次追レ北。以二麾下一迎撃。必克。高木

秀政已に信輝・長可と合して、北ぐるを追ひて來る。或ひと説きて曰く、敵の大衆、勝に乘ず。勢抗す可からず。速かに走りて岡崎を保つに若かずと。參議、哂ひて答へず。渡部守綱、還り報じて曰く、敵、次を亂して北ぐるを追ふ。麾下を以て迎へ撃たば、必ず克たんと。高木清秀敵の首を提げて還りて曰く、勝機、此に在り。急に撃ちて失ふ勿れと。本多正信、側に侍す。進みて曰く、是れ危を行ひて幸を徼むるなり。盍ぞ萬全の策に就かざると。清秀・守綱怒りて曰く、子、帷幄に坐し籌を握れば可なるのみ。何ぞ戰機を沮するかと。參議曰く、二人の言、然りと。

清秀提二敵首一而還曰。勝機在レ此。急撃勿レ失。本多正信侍レ側。進曰。是行レ危徼レ幸也。盍レ就二萬全之策一。清秀守綱怒曰。子坐レ蓐握レ籌可耳。何沮二戰機一乎。參議曰。二人之言然。乃命二幢主一擎二葵章白旗金扇馬標一。遶出二山後一。敵兵望見驚沮。參議乃麾レ軍而進。井伊直政自二南山下一。以二銃手一横撃。敗二秀政軍一。奪二其陣一據レ之。長可信輝與二麾下一相挑。勝敗未レ決。

乃ち幢主(四)に命じて葵章の白旗、金扇の馬標を擎げしめ、遶りて山後に出づ。敵兵、望見して驚き沮む。參議乃ち軍を麾きて進む。井伊直政、南山の下より、銃手を以て横撃(五)して、秀政の軍を敗り、其陣を奪ひて之に據る。長可・信輝、麾下と相挑む。勝敗、未だ決せず。

(一) 列を亂して逃ぐるを追ふ　(二) 勝利のはづみ　(三) 敷物の上に坐しかずとりを持つ　(四) 旗をつかさどるもの卽ち旗奉行　(五) 横より撃つ

安藤直次獻レ計循二左麓一發レ銃。長可挺進指揮。中レ丸而斃。其陣大亂。

安藤直次、計を獻じ、左麓に循ひて銃を發す。長可、挺進指揮して、丸に中りて斃る。其陣、大に亂る。參議大に呼びて曰く、二婿(一)、既に敗れぬ。盍ぞ撃ちて阿翁を破らざると。我が兵、爭ひ進み、池田氏の陣を陷る。永井直勝、信輝の胡床(二)に

參議大呼曰。二婿既敗矣。盍㆔擊破㆓阿翁㆒。我兵爭進。陷㆓池田氏陣㆒。永井直勝覩㆔信輝據㆓胡床㆒也。擧㆑槍刺㆑之。安藤直次斬㆓信輝子之助㆒。諸將追㆑走。斬首一萬五千級。而日已加㆑午。高木清秀內藤正成白曰。我兵疲矣。卒與㆓生兵㆒遇。必敗。參議曰。然。卽收㆑兵而退。入㆓小幡砦㆒。

據るを覩るや、槍を擧げて之を刺す。安藤直次、信輝の子之助を斬る。諸將走るを追ひて、斬首一萬五千級なり。而して日已に午を加ふ(三)。高木清秀・內藤正成白して曰く、我が兵疲れたり。卒かに生兵(四)と遇はば、必ず敗れんと。參議曰く、然りと。卽ち兵を收めて退き、小幡の砦に入る。

(一) 衆を拔いて進む (二) しろうと (三) 午の刻限に入る (四) 新手の兵

秀吉聞㆑敗大怒。獨度以爲。我兵恃㆑勝懈㆑備也。以㆓數萬騎㆒疾發。酒井忠次石川數正本多忠勝松平家忠留㆓

秀吉敗を聞きて大に怒り、獨り度りて以爲へらく、我が兵勝を恃みて備を懈りしならんと。數萬騎を以て疾く發す。酒井忠次・石川數正・本多忠勝・松平家忠小牧に留守す。忠次、虛に乘じて其營を襲はんと欲す。數正、之を沮みて止む。忠勝曰く、敵の大兵赴き援ふ。主公必ず危からんと。自ら兵五百を率ゐて、追ひて秀吉に及び、之と竝び行く。相距ること四百步可なり。秀吉問ひて曰く、彼は誰と爲

守小牧。忠次欲三乘レ虛襲二其營一。數正沮レ之而止。忠勝曰。敵大兵赴援。主公必危。自率二兵五百一。追及二秀吉一。與レ之竝行。相距可二四百步一。秀吉問曰。彼爲レ誰。左右曰。本多平八也。秀吉曰。名不レ虛已。每二兩軍相近一。忠勝輒發レ銃。其騎逸レ馬。追入二敵中一。忠勝獨騎馳取レ之。授レ騎共還。秀吉兵請レ擊レ之。秀吉不レ肯。遂至二長湫一。則偃尸蔽レ野。而不レ見二隻騎一。問二偵人一曰。敵安之。曰。入二小幡一矣。秀吉歎曰。家康可レ謂下具二華實一者上也。乃欲三遂攻二小幡一。以二日暮兵疲一乃止。下レ令曰。二魁

すと。(一)左右曰く、本多平八なりと。秀吉曰く、名虛しからざるのみと。兩軍相近づく每に、忠勝、輒ち銃を發す。其騎、馬を逸し、追ひて敵中に入る。忠勝獨騎馳せて之を取り、騎に授けて共に還る。秀吉の兵、之を擊たんと請ふ。秀吉肯ぜず。遂に長湫に至れば、則ち(三)偃尸野を蔽ひて、隻騎を見ず。(四)偵人に問ひて曰く、敵は安に之きしと。曰く、小幡に入れりと。秀吉歎じて曰く、家康は(五)華實を具ふる者と謂ふ可きなりと。乃ち遂に小幡を攻めんと欲す。日暮れ兵疲るゝを以て、乃ち止む。

令を下して曰く、(一)二魁一砦に在り。是れ天の予ふる所なり。旦日、圍みて之を取

㊀ 推量して　㊁ 御側の臣　㊂ たふれたる死骸　㊃ 敵城偵察の兵　㊄ 花も實もある者

在二一砦一。是天所レ予。且日。闔而取レ之。遂舍二龍泉寺一。忠勝見三參議于二小幡一。說曰。臣不レ與レ於レ戰。人馬皆銳。秀吉之兵。衆而不レ整。臣遣二老兵一覘レ之。悉二其可レ撃矣。願主公益二臣一隊兵一。夜襲二敵軍一走レ之。必取三秀吉首于二犬山以南一。致二之麾下一。參議曰。吾得二大勝一。狃レ勝者必危。且秀吉未レ可レ侮也。即夜。取二路於平戸一。以歸二小牧一。且日。秀吉來攻。不レ及。曰。家康何神也。

らんと。遂に龍泉寺(二)に舍す。忠勝、參議に小幡に見ゆ。說きて曰く、臣は戰に與らず。人馬皆銳なり。秀吉の兵、衆くして整はず。臣、老兵(三)を遣りて之を覘はしむるに、其の撃つ(四)可きを悉す。願はくは主公、臣に一隊の兵を益せ。夜、敵軍を襲ひて之を走らせ、必ず秀吉の首を犬山以南に取り、之を麾下に致さんと。參議曰く、吾れ大勝を得たり。勝に狃るゝ者は必ず危し。且つ秀吉未だ侮る可からざるなりと。即夜路を平戸に取りて、以て小牧に歸る。且日秀吉來り攻む。及ばず。曰く、家康何ぞ神(五)なると。

(一) 家康と信雄と　(二) 尾張國に在り　(三) 物馴れたる兵　(四) 撃つ可き事情を十分に取り調ぶ　(五) 知の明かなることと神の如きをいふ

乃引レ兵還二樂

乃ち兵を引きて樂田に還り、壘柵を益增し、堀秀政・蒲生氏郷等をして、萬人を以

田。益ニ増壘柵。使下堀秀政蒲生氏郷等。以ニ萬人一守中重濠上。參議出。勒ニ兵濠前。氏郷等馳ニ使中軍。請レ戰。秀吉曰。俟ニ彼來攻。整レ隊防レ之。不レ然則勿レ出。參議亦下レ令曰。敵未レ踰レ濠。勿レ戰。西軍最畏ニ井伊直政。以ニ其裝赤色。目曰ニ赤鬼。五月。朔。秀吉留ニ戍樂田。撤レ軍西還。自度。大舉徒歸。恐取ニ人笑。乃攻取ニ美濃二砦。入ニ大垣。六月。參議使ニ酒井忠次留ニ守小牧。而收入ニ清洲。信雄亦歸ニ長島。

て重濠(一)を守らしむ。參議出で、兵を濠前に勒す。氏郷等、使を中軍に馳せて、戰はんと請ふ。秀吉曰く、彼の來り攻むるを俟ちて、隊を整(二)へて之を防げ。然らずんば則ち出づる勿れと。參議も亦令を下して曰く、敵、未だ濠を踰えず。戰ふ勿れと。西軍、最も井伊直政を畏る。其裝の赤色なるを以て、目して赤鬼と曰ふ。五月朔、秀吉、戍を樂田に留め、軍を撤(三)して西に還る。自ら度る、大擧して徒に歸らば、恐らくは人の笑を取らんと。乃ち攻めて美濃の二砦を取り、大垣に入る。六月、參議、酒井忠次をして小牧を留守せしめて、收めて清洲に入る。信雄も亦長島に歸る。

(一) 二重ぼり (二) 部隊を分ちて整ふ (三) 引揚ひて

是時。織田氏故將瀧川一益九鬼嘉隆。皆黨二秀吉一。一益將略最著。侵二信雄統内一。誘二蟹江及下市前田三城一。降レ之。又誘二大野一。大野守將山口重政拒戰不レ屈。一益將下以二舟師一入中蟹江上。城中擧レ烽爲レ應。參議望二見之一。急發レ兵赴援。呼二記室一作レ檄。有下吾可二親往一之語上。參議曰。可字

是の時、織田氏の故將瀧川一益・九鬼義隆、皆秀吉に黨す。一益將略最も著る。信雄の統内(一)を侵し、蟹江及び下市・前田の三城を誘ひて、之を降す。又、大野を誘ふ。大野の守將山口重政、拒ぎ戰ひて屈せず。一益、將に舟師(二)を以て蟹江に入らんとす。城中、烽を擧げて應を爲す。參議、之を望見し、急に兵を發して赴き援ふ。記室(三)を呼びて檄を作らしむ。吾れ親ら往く可しの語有り。參議曰く、可の字、兵機を沮むと。命じて之を削らしむ。即ち絺衣(四)鞍に上り、鞭を鳴ひて馳す。井伊直政・成瀬正成・内藤宗成・水野勝成等、路に追及す。信雄も亦來りて、倶に蟹江に至れば、江潮方に落ち、一益の舟、膠(五)して進む能はず。我が兵、急に之に迫る。一益、兵潰え、僅かに身を以て城に入るを得たり。我が兵、隨ひて之を攻め、別に石川數正・安倍信勝をして、攻めて前田を拔かしめ、其叛將岡部長盛を走らす。山口重政、又、嘉隆を下市に擊ちて之を走らす。

(一) 領内 (二) 海軍 (三) 書記 (四) かたびら (五) 舟底、土砂につきて進まず

沮二兵機一。命レ削レ之。卽絺衣上レ鞍。奮レ鞭而馳。井伊直政成瀨正成內藤宗成水野勝成等。追二及於レ路。信雄亦來。倶至二蟹江一。江潮方落。一益舟膠不レ能レ進。我兵急迫レ之。一益兵潰。僅得二以レ身入レ城。我兵隨攻レ之。別使三石川數正安倍信勝攻二拔前田一。走二其叛將岡部長盛一。山口重政又擊三嘉隆于二下市一。走レ之。

參議與二信雄一。以二中軍一攻二下市城一。城負二大澤一。澤多二蘆葦一。參議曰。蘆葦蟠根。或可二踐而行一。使二人試一レ之。果然。乃徑レ澤逼レ城。城兵不レ備。因立拔レ之。斬二其守將一。乃合レ兵圍二蟹江一。榊原康政起二土山一。下二射城中一。城中大困。嘉隆以二大

參議、信雄と中軍を以て下市城を攻む。城は大澤を負ひ、澤に蘆葦(一)多し。參議曰く、蘆葦の蟠根(二)、或は踐みて行く可しと。人をして之を試みしむ。果して然り。乃ち澤を徑りて城に逼る。城兵備へず。因りて立ちどころに之を拔き、其守將を斬る。乃ち兵を合せて蟹江を圍む。榊原康政、土山(三)を起し、城中を下射す。城中大に困しむ。嘉隆、大艦を以て來り援ふ。我が兵、迎へ擊ちて、復た之を走らす。一益、終に降を乞ふ。參議曰く、叛將を斬りて之を獻じ、盡く邑を信雄に致さば、則ち死を宥さんと。一益、盡く其命の如くす。七月、城を出でて遁れ去る。秀吉大垣に在り。蟹江の急報(四)を得。軍を悉して來り援ふ。及ばず。乃ち桑名に屯す。參議進みて、神戶に至り、諸砦を修築す。秀吉引き去ると聞き、乃ち清洲に還る。

(一) あし (二) わだかまりたる根 (三) 土山を築き (四) 急の報知

盤一來援。我兵迎擊。復走レ之。一益終乞レ降。參議曰。斬二叛將一獻レ之。盡致三邑於二信雄一。則宥レ死。一益盡如二其命一。七月。出レ城遁去。秀吉在二大垣一。得二蟹江急報一。悉レ軍來援。不レ及。乃屯二桑名一。參議進至二神戸一。修二桑諸砦一。聞二秀吉引去一。乃還二清洲一。

八月。秀吉將二兵八萬一。復入二尾張。前軍至二樂田一。參議出陣二岩倉一。信雄陣二冰村一。九月。秀吉至二茂呂一。參議與二信雄一拔レ軍赴レ之。親出巡レ師。西軍覩二我馬表一曰。金扇復至矣。相驚擾不レ可レ定。大久保忠佐率レ騎乘レ之。秀吉夜退レ軍二十餘里。砦レ

八月、秀吉、兵八萬に將として、復た尾張に入りて、前軍は樂田に至る。參議は出でて岩倉(一)に陣し、信雄は冰村に陣す。九月、秀吉、茂呂に至る。參議、信雄と軍を拔きて之に赴き、親ら出でて師を巡る。西軍、我が馬表(二)を覩て曰く、金扇復た至ると。相驚擾して定む可からず。大久保忠佐、騎を率ゐて之に乘ず。秀吉、夜、軍を退くる二十餘里なり。大野・奈良に砦し、自ら大垣に入る。參議、乃ち還る。是の月、信濃の諸將、妻籠(三)を攻む。西軍來り援ふと聞きて解きて還る。城兵追躡す。保科正直、殿戰して之を卻く。十月、參議、酒井忠次を留めて清洲を守り、榊原康政をして小牧を守り、松平家忠・菅沼定盈をして、小幡を守らしめて、兵を收めて岡崎に入る。

(一) 岩倉・冰村・茂呂、共に尾張國に在り (二) 馬じるし (三) 信濃に在り

于大野奈良。自入大垣。參議乃還。是　。信濃諸將攻妻籠。聞西軍來援解還。城兵追躡。保科正直毆戰卻之。十月。參議留酒井忠次守清洲。榊原康政守小牧。松平家忠菅沼定盈守小幡。而收兵入岡崎。

德川氏羽柴氏相持美濃尾張之間者。幾乎一歲。天下聞德川氏屢克羽柴氏不競。多來通款者。南海兵倍奮。屢侵大坂。土佐國主長曾我部元親與故紀伊國主畠山貞政。皆應於我。欲刻期夾擊秀吉。而未來約也。秀吉懼。

德川氏、羽柴氏、美濃・尾張の間に相持すること、一歲に幾し。天下、德川氏屢〻克ち、羽柴氏、競はざるを聞き、來りて款を通ずる者多し。南海の兵、倍〻奮ひ、屢〻大坂を侵す。土佐の國主長曾我部元親、故の紀伊の國主畠山貞政と、皆我に應じ、期を刻して秀吉を夾擊せんと欲す。而して未だ來約(一)せざるなり。秀吉懼れ、十一月、兵に將として伊勢に入る。信雄、之と軍を對す(二)。參議、之を聞きて赴き援はんとす。秀吉、遽かに降を信雄に乞ふ。信雄、之を許す。秀吉面謁(三)して誓を獻じ、馳せて大坂に歸る。參議、清洲に至り、之を聞きて憮然(四)たり。石川數正をして和の成るを賀せしめ、十六日、岡崎に還る。而して土佐・紀伊の書至る。參議、慨然として大息して曰く、此書をして十日前に在らしめば、則ち秀吉は生致(五)す可かりしを、今已に後れたりと。使者を勞ひて之を遣る。南海の兵、所在皆解く。居

十一月。將ㇾ兵入ニ伊勢一。信雄與ㇾ之對ㇾ軍。參議聞ㇾ之赴援。秀吉遽乞ㇾ降於ニ信雄一。信雄許ㇾ之。秀吉面謁獻ㇾ誓。馳歸ニ大坂一。參議至ニ清洲一。聞ㇾ之憮然。使ニ石川數正賀ニ和成一。十六日。還ニ岡崎一。而土佐紀伊書至。參議慨然大息曰。使三此書在ニ十日前一。則秀吉可ニ生致一也。今已後矣。勞ニ使者一遣ㇾ之。南海之兵。所在皆解。居六日。參議凱ニ旋濱松一。論ニ賞長湫戰功一。

ること六日にして、參議、濱松に凱旋し、長湫の戰功を論賞す。

(一) 時間を定めて　(二) 一本に果約とあり　(三) 見えて　(四) がつかりせり　(五) 生捕

秀吉遣ニ富田知信津田信季一來請ㇾ和。信雄亦遣ニ瀧川雄利一介ㇾ之。參議召詢ニ之諸將一。石川數正嘗爲ニ秀吉所ㇾ誘。心竊嚮ㇾ之。進說曰。主公之國。不ㇾ能ㇾ當ニ秀吉之半一。而

秀吉、富田知信・津田信季を遣し、來りて和を請ふ。信雄も亦瀧川雄利を遣して之を介す(一)。參議、召して之を諸將に詢ふ。石川數正、嘗て秀吉の誘ふ所と爲り、心竊かに(二)之に嚮ふ。進み說きて曰く、主公の國、秀吉の半に當る能はず。而して氏政は其背を劫し、景勝は其肩に逼り、三面に敵を受く。事、爲す可からず。宜しく速かに和を聽して以て國家の計を爲すべしと。參議、怒りて曰く、義如何と問ふのみ。勝敗の數(三)に至りては、則ち乃公(四)、自ら之を計ると。乃ち三使を遣歸す(五)。

秀吉復た土方雄久をして數〻來り請はしむ。

(一) 仲人となす　(二) 秀吉に好意を持つ　(三) 勝敗の如何　(四) 自分が　(五) やりかへす

氏政劫二其背一。景勝遏二其肩一。三面受レ敵。事不レ可レ爲矣。宜三速聽レ和以爲二國家之計一。參議怒曰。問二義如何一耳。至二勝敗之數一。則乃公自計レ之。乃遣二歸三使一。秀吉復使二土方雄久數來請一焉。

十二月。信雄自來二濱松一。謝二出援之勞一。且謂曰。公與二秀吉一素無二仇怨一。特爲レ援レ我構レ兵耳。今我已與レ之和矣。公獨何自執乎。宜レ聽二其所一レ言。秀吉以レ無レ子。欲レ養二公之子一。公宜レ予二之一人一。參議不レ得レ已聽レ之。欲レ遣二異父弟松平定勝一。母水野

十二月、信雄、自ら濱松に來り、出援の勞を謝し、且つ謂ひて曰く、公、秀吉と素より仇怨(一)無し。特に我を援ふ爲に兵を構ふるのみ。今、我れ已に之と和す。公、獨り何ぞ自ら執るか。宜しく其の言ふ所を聽くべし。秀吉は子無きを以て、公の子を養(二)はんと欲す。公、宜しく之に一人を予ふべしと。參議、已むを得ずして之を聽し、異父弟松平定勝を遣らんと欲す。母水野氏泣きて曰く、渠が兄、嚮に今川・武田に質となり、已に艱楚(三)を極む。其れ之を復するに忍びんやと。參議、愍然(四)として乃ち止む。時に世子の外に三庶子有り。曰く、秀康・忠吉・信吉といふ。秀康は、乃ち荻丸なり。忠吉は東條松平(五)氏を嗣ぎ、信吉は穴山氏を嗣ぐ。乃ち荻丸を遣はす。時に年十二なり。本多重次・石川數正、皆其子を以て之に從はしむ。秀吉大に喜び、養(六)ひて子と爲す。羽柴秀康と稱し、邑萬石を給す。後に參河守に任ぜら

氏泣曰。渠兒嚮質於今川武田。已極艱楚。其忍復之乎。參議愍然乃止。時世子之外有三庶子。曰秀康。忠吉。信吉。秀康乃於義丸。忠吉嗣東條松平氏。信吉嗣穴山氏。乃遣於義丸。時年十二。本多重次石川數正。皆以其子從之。秀吉大喜。養爲子。稱羽柴秀康。給邑萬石。後任參河守。

る。

(一) かたきうらみ (二) 何ぞ固り執拗なる (三) 甚だ困苦をなす (四) 不憫に思ひて止めにする (五) 三人の庶腹子あり (六) 養子となす

是月。織田氏故將佐佐成政自越中來。見參議及信雄。請戮力攻秀吉。信雄不許。參議厚遇之。諸將忿成政倨傲。交勸勿援。曰。北地

是の月、織田氏の故將佐佐成政越中より來り、參議及び信雄に見え、力を戮せて秀吉を攻めんと請ふ。信雄、許さず。參議、(一)厚く之を遇す。諸將、成政の倨傲(二)を忿り、交〻援ふ勿れと勸む。曰く、北地阻絶(三)、赴き援ふ可からずと。參議、乃ち之に謂ひて曰く、吾れ必ずしも秀吉と戰はず。卽し戰ふも、亦必ずしも子の力を借らず。然りと雖も、子の來意(四)は、答へざる可からず。他日緩急(五)有らば、當に之が聲援を爲すべしと。成政、謝して去る。

阻絶。不レ可ニ赴援一。參議乃謂レ之曰。吾不下必與ニ秀吉一戰上。卽戰。亦不三必借ニ子力一也。雖レ然子之來意。不レ可レ不レ答。他日有ニ緩急一。當レ爲ニ之聲援一。成政謝而去。

㈠ 厚く佐々成政を待遇す ㈡ おごりて不遜なること ㈢ 道路遠くかけはなる ㈣ 貴殿の來られたる親切には報ひざる可からず ㈤ 急なること

十三年。二月。城ニ吉良一。三月。參議患レ疔。危篤。臣民憂懼。本多重次造レ枕。請曰。臣嘗患ニ此疾一。有ニ一醫一。治レ之而愈。君請命焉。參議曰。毋レ爲也。吾已決レ死矣。重次懇曰。君自絶レ命。臣請。先焉。乃趨出。

十三年二月、吉良に城く。三月、參議、疔を患へて、(一)危篤なり。臣民憂懼す。本多重次、枕に造り、請ひて曰く、臣嘗て此疾を患ふ。一醫有り、之を治して愈ゆ。君請ふ、命ぜよと。參議曰く、(二)爲す毋れ。吾れ已に死を決せりと。重次懇えて曰く、君、自ら命を絶つ。臣請ふ、(三)先んぜんと。乃ち(四)趨り出づ。參議驚き、左右に命じて之を止む。重次、顧みず。(五)強ひて卒る至る。參議曰く、(六)汝、何ぞ此言を得る。吾れ汝が曹有るに頼りて、以て(七)瞑するなり。汝が曹、宜しく軀を全くし子弟を(八)撫循して以て我が家を保つべし。汝何ぞ此言を得ると。

㈠ 病氣頂りて生命危し ㈡ 捨て置け ㈢ 主君の御死去以前に死せん ㈣ 一本に趨とあり ㈤ 無理に連れて歸る ㈥ 汝は何故に斯の如き言をなすか ㈦ 安心して死するなり ㈧ 撫でしたがへること

參議驚。命二左右一止レ之。重次不レ顧。強而卒至。參議曰。汝何得二此言一。吾賴レ有二汝曹一也。以瞑也。汝曹宜下全レ軀撫二循子弟一以保中我家上。汝何得二此言一。

重次泣曰。否。否。臣不レ欲レ生也。臣近視丁甲斐將士喪二其首領一。折丙腰於乙我門甲。情狀可レ羞。今臣喪二主公一。亦將レ如レ是也。臣少小從レ軍。面目創。手足缺。一疲癃翁耳。特以二主公眷顧一。頗爲二人所一レ畏。主公一瞑。鄰國四襲。我子弟沮喪不レ支。事可レ

重次、泣きて曰く、否。否。臣は生を欲せざるなり。臣、近ごろ甲斐の將士、其首領を喪ひ、腰を我が門に折るを視るに、情狀羞づ可し。今臣、主公を喪はば、亦將に是の如くならんとす。臣、少小より軍に從ひ、面目創き、手足缺く。一の疲癃翁のみ。特に主公の眷顧を以て、頗る人の畏るゝ所と爲る。主公、一たび瞑せば、鄰國四襲し、我が子弟沮喪支へず。事、知る可し。是の時に當りて、臣彷徨支吾せば、人將に指して曰はんとす。彼れ疲癃翁、何ぞ恥ちざるの甚だしきと。臣、故に寧ろ速かに死せん、生を欲せざるなりと。參議曰く、然り。吾れ能く汝の意に從はん。汝も亦能く吾が意に從ひ吾が爲に恥を忍ぶや、否やと。重次曰く、君、苟も臣に聽く。臣、豈に敢て違はんやと。乃ち其醫を召す。醫曰く、宜しく灸すべしと。重次、手づから艾を灼き藥を進む。其夜、疔潰えて瘥ゆ。重次、喜極

知矣。當ニ是時一。臣彷徨支吾。人將ニ指曰一彼疲癃翁。何不レ恥之甚。臣故寧速死。不レ欲レ生也。參議曰。然。吾能從ニ汝意一矣。汝亦能從ニ吾意一。爲レ吾忍レ恥乎。否。重次曰。君苟聽レ於レ臣。臣豈敢違。乃召ニ其醫一。醫曰。宜レ灸。重次手灼レ艾進レ藥。其夜。疔潰而瘥。重次喜極而哭。

りて哭す。

(一) 我が家に平伏するを視るに其の有樣は實に恥かし (二) 一人のつかれたる老人のみ (三) 目をかけらるゝ故に (四) 心掛けてはゞみ持堪へられず (五) さまよひあるきて他人の憐みを乞はゞ (六) 主君に於て苟も臣の言を御聞入になれば私も決して主君の御命令に逆はず (七) 喜びの餘り聲を立てゝ泣く

是月。秀吉南取ニ紀伊一。根來僧兵來奔二百人。乃置ニ根來部一。五月。參議巡ニ甲斐一。先レ是。眞田昌幸侵ニ上野一。取ニ沼田一。北條氏直請レ還レ之。參議諭ニ昌幸一使レ還レ之。取ニ償於內

是の月、秀吉、南、紀伊を取る。根來の僧兵、來奔(一)するもの二百人なり。乃ち根來部を置く。五月、參議、甲斐を巡る。是より先、眞田昌幸、上野を侵し、沼田を取る。北條氏直、之を還さんと請ふ。參議、昌幸に諭して之を還らしめ、償(二)を內地に取る。昌幸、命を奉ぜず。終に上杉氏に屬し、困りて秀吉に降る。大久保忠世・鳥居元忠・平岩親吉、將士を率ゐて之を攻む。八月、秀吉、北、越中を取り、佐佐成政を降す。上杉景勝、又越後(三)を擧げて之に降る。秀吉密に景勝と議し、昌幸を援けて以て我を圖らしむ。閏月、我が兵、上田を攻め、利あらず。敵、追ひて(四)利川に至

地。昌幸不レ奉レ命。終歸二上杉氏一。因降レ於二秀吉一。大久保忠世鳥居元忠平岩親吉。率二將士一攻レ之。八月。秀吉北取二越中一。降二佐佐成政一。上杉景勝又舉二越後一降レ之。秀吉密與二景勝一謀。使下援二昌幸一以闘上我。閏月。我兵攻二上田一不レ利。敵追至二利川一。忠世以二十餘騎一殿而濟。陣二南岸一。欲二返擊一。二將不レ肯。明日。忠世濟二筑摩川一。陣二八重原一。昌幸陣二手白塚一。忠世使三柴田康忠還告二二將一曰。公等壓レ河而陣。與レ我夾擊。必殲レ之。二將曰。吾暗レ於二地理一。不レ若二持重一。忠世怒。又使レ謂曰。公等怖レ敵。猶當下來二我後一以爲中聲援上。亦不レ肯。往復之間。昌幸已退。陣二于城下一。忠世切齒曰。脫二籠禽一也。

る。忠世、十餘騎を以て殿して濟り、南岸に陣し、返擊せんと欲す。二將(五)、肯ぜず。明日、忠世、筑摩川を濟り、八重原(六)に陣す。昌幸、手白塚に陣す。忠世、柴田康忠をして還りて二將に告げしめて曰く、公等、河を壓して陣し、我と夾擊せば、必ず之を殲さんと。二將曰く、吾れ地理に暗し。持重に若かずと。忠世、怒り、又、謂はしめて曰く、公等、敵を怖れば、猶ほ當に我が後に來りて以て聲援を爲すべしと。亦肯ぜず。往復の間、昌幸、已に退き、城下に陣す。忠世、切齒(七)して曰く、籠禽(八)を脫すと。

(一) 德川氏に來り從ふ者 (二) つぐのひを領分内にて取らしむ (三) 越後全國を以て降參す (四) 信濃國に在り (五) 鳥居・平岩 (六) 八重原・手白塚、共に信濃國に在り (七) 齒をくひしばりて殘念がる (八) 籠の鳥をにがす

於是諸將列壁相持。昌幸不敢出。參議遣井伊直政等援之。昌幸出兵。侵康忠營。康忠擊走之。岡部長盛要其歸途。又敗之。九月。聞景勝大擧且至。解兵而還。直政康忠爲殿。昌幸子幸村請追之。昌幸曰。將勇陣整。不可追也。忠世於是留守小室。以備景勝昌幸來襲。參議欲徙國都于駿河。命諸將士。修築府中。

是に於て、諸將、壁(一)を列ねて相持す。昌幸、敢て出でず。參議、井伊直政等を遣して之を援はしむ。昌幸、兵を出して、康忠の營を犯す。康忠、擊ちて之を走らす。岡部長盛、其歸途を要(二)す。又之を敗る。九月、景勝の大擧して且に至らんとするを聞き、兵を解きて還る。直政・康忠殿と爲る。昌幸の子幸村、之を追はんと請ふ。昌幸曰く、將勇に陣整ふ。追ふ可からざるなりと。忠世、是に於て、小室(三)を留守して、以て景勝・昌幸の來襲(四)に備ふ。參議、國都を駿河に徙さんと欲し、諸將士に命じて、府中を修築せしむ。

(一) 壁を築きつゞけて　(二) 歸り路を待受く　(三) 信濃國に在り　(四) 來りて不意うちすること

北條氏聞景勝與秀吉連

北條氏、景勝の秀吉と連衡(一)するを聞き、大に懼れ、十月、將士をして來りて盟

衡上也。大懼。十月。使二將士來尋レ盟。益固二從約一。本多重次自度曰。物情恟恟。而我兒在二上國一。恐受二攜貳之疑一。乃使二使大坂一曰。兒之母有二篤疾一。請使二一訣一。因取二其兒一而還。石川數正守二岡崎一。其兒亦在二大坂一。秀吉資望日隆。位至二關白一。賜二姓豐臣一。諸名族大邦入謁者。皆被二恩榮一。

を尋がしめ、益〻從約(二)を固くす。本多重次、自ら度りて曰く、物情恟恟(三)たり。而して我が兒は上國に在り。恐らくは攜貳(四)の疑を受けんと。乃ち使をして大坂に使して曰く、兒の母、篤疾有り。請ふ。一訣(五)せしめんと。因りて其兒を取りて還る。石川數正、岡崎を守る。其兒も亦大坂に在り。秀吉資望(六)日〻に隆なり。位關白に至り、姓を豐臣と賜ふ。諸の名族、大邦の入謁する者、皆恩榮を被る。數正、竊かに之を歆む。秀吉も亦八萬石の邑を以て之を招く。數正、遂に款を送る。眞田昌幸及び小笠原貞慶と謀を通ず。又、其部將(七)松平近正を誘ふ。近正怒り、肯ぜずして曰く、使者再び來らば之を斬らんと。因りて其書を獻ず。十一月、數正、家(八)を挈げて大坂に出奔す。時に將士の孥、多く岡崎に在り。松平家忠、深溝より馳せ至り、其四門を護る。酒井忠次も亦吉田より至り、使を馳せて變を上る。中外動搖(九)す。參議、行〻鷹を放ち、岡崎に至り、即日、忠次の第に臨み、命じて散樂(一〇)を張る。人心(一一)即ち定る。

數正竊欲ㇾ之。秀吉亦以二八萬石邑一招ㇾ之。數正遂送ㇾ款焉。與二眞田昌幸及小笠原貞慶一通ㇾ謀。又誘二其部將松平近正一。近正怒。不ㇾ肯曰。使者再來斬ㇾ之。因獻二其書一。十一月。數正挈ㇾ家出二奔大坂一。時將士挐多在二岡崎一。松平家忠自二深溝一馳至。護二其四門一。酒井忠次亦至ㇾ自二吉田一。馳ㇾ使上ㇾ變。中外動搖。參議行放ㇾ鷹。至二岡崎一。卽日。臨二忠次第一。命ㇾ張二散樂一。人心卽定。

(一)東西に連合す (二)南北に連合す (三)平靜ならず (四)ふたごゝろ (五)一度訣別せしめん (六)身分と名譽と (七)組大將 (八)家族を引連れて (九)動き騷ぐ (一〇)能狂言 (一一)人心がおちつく

乃召二大久保忠世一。忠世曰。景勝日伺二我隙一。而貞慶擧ㇾ兵應ㇾ之。又聞昌幸迎二故信玄孽子某一以煽二將士一。吾一動。則甲斐信濃皆覆沒矣。弟忠敎曰。敢請代守。生死

乃ち大久保忠世を召す。忠世曰く、景勝、日々に我が隙を伺ふ。而して貞慶、兵を擧げて之に應ず。又聞く、昌幸、故信玄の孽子(一)某を迎へて以て將士を煽す(二)と。吾れ一たび動かば、則ち甲斐・信濃、皆(三)覆沒せんと。弟忠敎曰く、敢て請ふ、代りて守り、生死之を以てせんと。忠世喜び、乃ち發す。大雪、歲(四)に踰ゆるに會ふ。景勝・昌幸、兵を出す能はず。忠敎、代を得て歸る。參議、岡崎の塹壘を修め、厚く近正を褒し、數正の部兵を以て内藤家長に屬せしむ。是に於て、諸將、皆質を獻ず。參議、多く之を還す。數正、既に大坂に至る。秀吉之を遇(五)すること甚だ薄

以レ之。忠世喜。乃發。會ニ大雪踰レ歲。景勝呂幸イレ能レ出レ兵。忠敎得レ代而歸。參議修ニ岡崎塹壘一。厚褒ニ近正一。以ニ數正部兵一屬ニ內藤家長一。於レ是諸將皆獻レ賀。參議多還レ之。數正既至ニ大坂一。秀吉遇レ之甚薄。或榜ニ其門一嗤レ之。數正羞縮不レ出。

し。或ひと其の門に榜して之を嗤ふ。數正、羞縮(六)して出でず。

(一)妾腹の子 (二)おだつ (三)くつがへり滅ぶ (四)例年になきをいふ (五)待遇惡し (六)恥ぢ入りてちゞむ

秀吉既定ニ南海北陸一。以爲。我已奪ニ德川氏左右臂一。嗾ニ景勝一脅レ之。其國又有ニ內訌一。於ニ是時一而與ニ家康一和。和必成。家康必來。天下莫下足ニ復圖一者上。乃與ニ信雄一議。使ニ羽柴勝雅土方雄

秀吉既に南海・北陸を定め、以爲へらく、我れ已に德川氏左右の臂を奪ふと。景勝を嗾して之を脅さしむ。其國、又內訌(一)あり。是の時に於て、家康と和せば、和必ず成り、家康必ず來らん。天下復た圖るに足る者莫しと。乃ち信雄と議し、羽柴勝雅・土方雄久をして、來りて和を議せしむ。使者を戒めて曰く、德川は數正の故を以て、意必ず不平ならん。汝が輩善(二)く之に處せよと。一使岡崎に來り、辭を卑くし禮を厚くし、秀吉・信雄の意を陳べ、參議の京師に入覲(三)するを請ふ。參議面諭して曰く、長湫の獲は、皆秀吉の愛重する所なり。其の我に甘心せんと欲する久し。吾れ敢て往かず。(四)旗鼓相見るに至りては、敢て努力せざらんやと。

久來議和。戒二使者曰。德川以數正故也。意必不平。汝曹善處之。二使來岡崎。卑辭厚禮。陳秀吉信雄之意。請參議入覲京師。參議面諭曰。長湫之獲。皆秀吉所愛重。其欲甘心於我久矣。吾不敢往。至旗鼓相見。敢不努力。二使乃去。或諫曰。主公不往。則次郎將不免。參議曰。羽柴秀康爲其父所殺。我何與焉。遠近傳言。秀吉大擧東下。參議乃修守備。問羣臣。岡崎我墳墓之地。而當敵之衝。誰可使守者。本多正信曰。綏急能手刃妻兒。枕城而死者而後可。參議曰。作左衛門其人也。乃以精兵數百屬本多重次。往守之。重次辭出。意色甚決。參議乃約其子成重襲封。給以手書。

二使乃ち去る。或ひと諫めて曰く、主公、往かずんば、則ち次郎將に免れざらんとすと。參議曰く、羽柴秀康、其父の殺す所と爲る。我れ何ぞ與らんと。遠近傳言す、秀吉、大擧して東下すと。參議、乃ち守備を修め、羣臣に問ひて曰く、岡崎は我が墳墓(五)の地なり。而して敵の衝に當る。誰か守らしむ可き者ぞと。本多正信曰く、緩急(六)能く妻兒を手刃し、城を枕にして死する者にして而る後に可なりと。參議曰く、作左衛門は其人なりと。乃ち精兵數百を以て本多重次に屬し、往きて之を守らしむ。重次、辭して出づ。意色甚だ決す。參議、乃ち其子成重をして封を襲がしめんと約し、給するに手書(七)を以てす。

㈠内輪もめ　㈡うまく遣れ　㈢入朝　㈣合戰始る時には　㈤故郷の地なり　㈥急の場合には妻を刺殺し城に立籠りて死する決心を有する者にして此役を仕果す　㈦自筆の書狀

十四年。正月。參議適ニ岡崎一。秀吉復使三羽柴勝雅來。固請ニ入觀一。信雄亦使三其叔父長益來慫二慂之一。參議不レ肯。使者不ニ敢去一。在ニ其館一候レ之。參議獵レ于ニ吉良一。使者承レ間來見。參議臂レ鷹而顧曰。可ニ一搏擊一。不レ能レ就ニ人條制一。明日。復見。參議曰。若未レ去乎。吾不レ欲三復聞ニ若說一。勝雅進

十四年正月、參議、岡崎に適く。秀吉、復た羽柴勝雅をして來りて、固く入觀を請はしむ。信雄も亦、其叔父長益をして來りて之を慫慂(一)せしむ。參議、肯ぜず。使者、敢て去らず。其館に在りて之を候ふ。參議、吉良に獵す。使者、間(二)を承けて來り見ゆ。參議、(三)鷹を臂にして顧みて曰く、一搏擊つ可し。(四)人の條制に就く能はずと。明日、復た見ゆ。參議曰く、若未だ去らざるか。吾れ復た若が說を聞くを欲せずと。勝雅進みて曰く、願はくは君侯、少く之を容して、臣をして其說(五)を終ふるを得しめよ。夫れ關白、百萬の兵を以て、天子を翼けて令を出す。西に毛利の援有り。東に上杉の助有り。俊雄豪傑、爭ひて之が用を爲す。復た何(六)を欲して致さざらん。而して節を屈して君侯を招き、使者三反す。君侯、安危の決を思はず。徒に(七)放鷹逐禽を以て事と爲す。臣、君侯の境內を視るに、城壘固からず。溝池深からず。關白一たび(八)趾を擧げば、則ち上田の南、鳴海以東、君侯の有に非ざるなり。臣竊かに君侯の爲に之を危むと。參議、色を起して曰く、何

曰。願君侯少容レ之。使四臣得三終二其說一。夫關白以二百萬之兵一。翼二天子一出レ令。西有二毛利之援一。東有二上杉之助一。俊雄豪傑。爭爲二之用一。復何欲而不レ致。而屈レ節招二君侯一。使者三反矣。君侯不レ思二安危之決一。徒以二放鷹逐禽一爲レ事。臣視二君侯境內一。城壘不レ固。溝池不レ浚。關白一擧レ趾。則上田之南。鳴海以東。非二君侯之有一也。臣竊爲二君侯一危レ之。參議起レ色曰。何吶吶也。秀吉兵雖レ衆不レ過二十萬一。我兵雖レ寡可レ得二三四萬一。要三客兵於二熟地一。邀レ險而擊レ之。何難之有。歸語二秀吉一。能來則來。不レ能レ往也。勝雅長益返二大坂一。慮二秀吉怒一。匍伏復命。秀吉徐曰。家康言良然。

ぞ吶吶(九)する。秀吉の兵衆しと雖も、十萬に過ぎず。我が兵寡しと雖も、三四萬を得べし。客兵(一〇)を熟地に要し、險に邀へて之を擊たば、何の難か之れあらん。歸りて秀吉に語げよ。能く來らば則ち來れ。往く能はざるなりと。勝雅・長益、大坂に返り、秀吉の怒を慮り、匍伏(一一)して復命す。秀吉徐に曰く、家康の言良に然りと。

(一) すゝめしむ (二) よき折を見て (三) 鷹を臂にすえて (四) 人の下につきて之に甘ずる能はず (五) 吾が言はんと欲する處を言はしめよ (六) 何事も欲して得ざるものなし (七) 鷹狩獸狩を以て仕事となす (八) 攻込まば (九) 口やかましき (一〇) 他國の兵を地理を熟知して待受け險阻の地に迎へ擊たば何のむづかしきことかあらん (一一) 身をひれ伏して返事を申上ぐ

堀秀政蒲生氏鄕等。爭勸東伐。秀吉不聽。沈思竟日。其夜四更。急召勝雅及信雄。被衣而出曰。吾業已使家康來矣。二人驚問故。曰。彼亡吾室。吾以我妹繼之。彼寧不來。國人猶有不安。則以我大聽爲質。堀尾吉晴生駒親正侍坐。問曰。尊妹何在。曰。佐治之室是也。初秀吉有異父妹。適佐治日向者。秀吉欲奪之改適於我也。明日。使吉晴親正諭告佐治。佐治勉强聽命。遣妻而自殺。

堀秀政・蒲生氏鄕等、爭ひて東伐を勸む。秀吉聽かず。沈思(一)すること竟日(二)なり。其夜四更、急に勝雅及び信雄を召し、衣を被て出でて曰く、吾れ業已に家康をして來らしむと。二人驚きて故を問ふ。曰く、彼れ室を亡ふ(三)。吾れ我が妹を以て之に繼がん。彼れ寧ぞ來らざらんや。國人猶ほ安んせざるあらば、則ち我が大聽を以て質と爲さんと。堀尾吉晴・生駒親正侍坐(四)す。問ひて曰く、尊妹何に在ると。曰く、佐治の室是なりと。初め秀吉に異父妹(五)あり。佐治日向といふ者に適ぐ。秀吉之を奪ひて改めて我に適がしめんと欲するなり。明日、吉晴・親正をして、佐治に諭告(六)せしむ。佐治、勉强(七)して命を聽き、妻を遣して自殺す。

(一)深く考へ込む　(二)終日　(三)夫人死去す　(四)御側に坐す　(五)胤ちがひの妹　(六)さとしつげしむ　(七)我慢して

二月。乃使㆓長
益勝雅。及富
田知信天野
雄光來議㆑婚。
別授㆔密旨於㆓
淺野彈正少
弼㆒繼發。四使
至。因㆓酒井忠
次㆒求㆑見。參議
不㆑見。忠次告㆑
故固請。數日
延㆓見之㆒。四使
曰。嚮關白無㆑
子。得㆑養㆓君侯
子㆒。聞㆓君侯亡㆑
室。欲㆑進㆓關白
妹㆒。參議曰。好
意至㆑此。吾豈
拒㆑之。獨有㆓三
事㆒。約㆑之而後

二月、乃ち長益・勝雅及び富田知信・天野雄光をして、來りて婚を議せしむ。別に密旨を淺野彈正少弼に授け、繼ぎて發せしむ。四使至り、酒井忠次に因りて見ゆるを求む。參議見ず。忠次、故を告げて固く請ふ(二)。數日にして之を延見す。四使曰く、嚮に關白に子なし。君侯の子を養ふを得たり。君侯、室を亡ふと聞く。關白の妹を進めんと欲すと。參議曰く、好意此に至る。吾れ豈に之を拒まんや。獨三事有り。之を約して後に婚せんと。請ひ問ふ、答へず。使者曰く、淺野彈正、密諭を帶びて清洲に在りと。乃ち馹(三)を以て召し至る。參議、三事を書して之に示す。曰く、新婦に出あるも、嗣と爲す可からず。故の嗣子出でて質たる可からず。吾れ或は蚤世(四)するも、寸地を割く可からずと。彈正少弼曰く、某、關白の手書を袖にす。亦三條有りと。出して之を視す。皆暗合す。參議、怡然(五)として、遂に婚を許す。信雄來り賀す。

(一) 婚約を申込しむ　(二) 強ひて請ふ　(三) 早馬　(四) 早死　(五) よろこぶ

婚。請問。不ㇾ答。使者曰。淺野彈正帶ニ密諭一在ニ淸洲一。乃以ㇾ詔召至。參議書ニ三事一示ㇾ之曰。新婦有ㇾ出。不ㇾ可ㇾ爲ㇾ嗣。故嗣子不ㇾ可ニ出質一。吾或蚤世。不ㇾ可ㇾ割ニ寸地一。彈正少弼曰。某袖ニ關白手書一。亦有ニ三條一。出而視ㇾ之。皆暗合焉。參議怡然。遂許ㇾ婚。信雄來賀。

北條氏聞ㇾ之。意頗危疑。請ㇾ盟。三月。參議與ニ氏直一盟ㇾ于ニ黃瀨河。極ㇾ歡而止。遂毀ニ沼津郛一以示ㇾ意。四月。納ニ幣京師。秀吉使ニ彈正少弼送ㇾ女。參議使ニ榊原康政往告ニ禮成一。館ㇾ于ニ富田氏一。秀吉就見曰。吾欲ㇾ見ニ子面一久矣。小牧之役。醜ニ詆我一者。非ㇾ子乎。吾嘗購ニ子頭千金一。今德川已爲ニ我婿一。我婿有ニ材臣如ㇾ子者一。吾所ㇾ喜也。

北條氏、之を聞きて、意頗る危疑し（一）、盟を請ふ。三月、參議、氏直と、黃瀨河に盟ひ、歡を極めて止む。遂に沼津の郛を毀ちて以て意を示す。四月、幣を京師に納る。秀吉、彈正少弼をして女を送らしむ。參議、榊原康政をして往きて禮の成るを告げしむ。富田氏に館す。秀吉、就きて見て曰く、吾れ子の面を見んと欲すること久し。小牧の役に、我を醜詆せし（二）者は、子に非ずや。吾れ嘗て子の頭を千金に購ふ。今、德川已に我が婿と爲る。我が婿に材臣の子の如き者あるは（三）、吾が喜ぶ所なりと。

（一）意中甚だ危ぶみうたがふ　（二）惡言を放ちてそしる　（三）材智ある足下の如き者あるは

七月。參議將三自將討二上田一。秀吉聞レ之。使二使來言一。關白爲二昌幸一請。願釋レ之。八月。令二昌幸及小笠原貞慶來謝一レ罪焉。

七月、參議、將に自ら將として上田を討たんとす。秀吉、之を聞きて(一)、使をして來り言はしむらく、關白、昌幸の爲に請ふ、願はくは之を釋せと。八月、昌幸、及び小笠原貞慶をして、來りて罪を謝せしむ(二)。

(一) 家康の親征を聞きて (二) 來りて罪を詫びしむ

參議遂議二西上一。酒井忠次曰。彼雖レ婚。未レ可二輕信一。宜下確二得其情一。然後往上。是月。秀吉遣二親書一固請。九月。使二彈正少弼以下六輩來一。約下送二大廳一爲上レ質。秀吉

參議、遂に西上を議す。酒井忠次曰く、彼れ婚すと雖も、未だ輕々しく信ずべからず。宜しく其情を確得(一)して然る後に往くべしと。是の月、秀吉、親書(二)を遺りて固く請ふ。九月、彈正少弼以下六輩をして來らしめ、大廳を送りて質と爲さんと約す。秀吉の弟秀長諫めて曰く、母を以て質と爲す。天下後世、之を何と謂はんや。何ぞ之を征伐せざると。秀吉哂ひて曰く、汝何ぞ狹中(三)なる。是れ汝が知る所に非ざるなりと。十月、詔して、參議を中納言に遷す。秀吉、奏して

弟秀長諫曰。以レ母爲レ質。天下後世謂二之何一哉。何不レ征二伐之一。秀吉哂曰。汝何狹中。是非二汝所一レ知也。十月。詔。遷二參議中納言一。秀吉奏請レ之也。中納言遂決レ意入朝。

之を請ふなり。中納言遂に意を決して入朝す。

㊀たしかめて　㊁自筆書をおくりて　㊂心狹き

諸將皆諫曰。秀吉威力如レ此。豈眞以二其母一爲レ質。恐有二詐謀一。吾陷二其計中一。雖レ悔可レ追。願君勿レ往。秀吉怒而來。臣等當下以レ死拒上レ之。中納言曰。吾亦不レ保二其非一レ僞。雖レ然。彼百方修レ好。

諸將皆諫めて曰く、秀吉の威力此の如し。豈に眞に其母を以て質と爲さん。恐らくは詐謀(一)あらん。吾れ其計中に陷らば、悔ゆと雖も、追ふべけんや。願はくは君往く勿れ。秀吉怒りて來らば、臣等當に死を以て之を拒ぐべしと。中納言曰く、吾も亦其の僞(二)に非ざるを保せず。然りと雖も、彼れ百方(三)好を修め、母を以て質と爲すに至る。而して吾れ猶ほ遲回(四)せば、世のひと、吾を怯と謂はん。且つ彼も亦天命有り。吾れ當に之を助けて共に天下の亂を定むべし。今復た與に兵を構へば、則ち亂曷ぞ止むあらんや。我が一人の命を捐てて、以て億萬の生靈を救ふ。亦多ならずやと。乃ち世子をして留りて國を監せしめ、大久保忠世・石川家成、之を

至二以レ母爲一レ質。而吾猶遲回。世謂二吾怯一也。且彼亦有二天命一。吾當三助レ之共定二天下之亂一。今復與レ構レ兵。則亂曷有レ止乎。捐二我一人之命一。以救二億萬生靈一。不二亦多一乎。乃令二世子留監一レ國。大久保忠世石川家成輔レ之。井伊直政助二本多重次一守二岡崎一。而親帥二士卒萬人一西上。至二岡崎一。遇二秀吉母至一。迎二夫人一見レ之。信矣。

輔け、井伊直政に本多重次を助けて岡崎を守らしめ、而して親ら士卒萬人を帥ゐて西上し、岡崎に至りて、秀吉の母の至るに遇ふ。夫人を迎へて之を見しむるに、信なり。

(一) いつはり はかりごと (二) 僞にあらざることを保證すること能はず (三) 種々と手を盡して (四) ためらふ

秀吉命二沿道諸國一。修二橋梁一。供帳。二十七日。至二京師一。館レ于二茶屋晴延一。秀吉與二弟秀長。及彈正少弼以下一來見

秀吉、沿道の諸國に命じ、橋梁を修め、供帳せしむ。二十七日、京師に至り、茶屋晴延(一)に館す。秀吉、弟秀長及び彈正少弼以下と、來り見て曰く、長篠の役より、相面見(二)せざること十二年なり。今、吾子(三)一たび天下の爲に節を屈す。吾が事成れりと。遂に扈從(四)の諸將を見、本多忠勝に謂ひて曰く、小牧の役に、汝、我が軍と抗して行く。一騎當千の者と謂ふべきなりと。遂に酒饌を命じ、自ら嘗みて

曰。自二長篠之役一。不二相面見一十二年矣。今吾子一爲二天下一屈レ節。吾事成矣。遂見二扈從諸將一。謂二本多忠勝一曰。小牧之役。汝與二我軍一抗而行。可レ謂二一騎當千者一也。遂命二酒饌一。自嘗而進。贈賄極厚。如レ是者連夜。因從容問曰。我起二微賤一。諸侯多不二心服一。奚爲則可。中納言對曰。公第莫レ違レ義。義所レ在。天下從レ之。秀吉曰。善。既而曰。明日見二子于聚樂一。子枉レ意降レ我。以視二諸侯一。十一月二日。入二聚樂第一。秀吉大會二諸侯一。延見如レ儀。中納言拜跪甚恭。諸侯皆改レ容。其明日。大饗。

進め、贈賄極めて厚し。是の如きこと連夜なり。因りて從容として問ひて曰く、我れ微賤より起り、諸侯多く心服せず。(六)奚爲れば則ち可ならんと。中納言對へて曰く、公、第義に違ふ莫れ。義の在る所、天下之に從ふと。秀吉曰く、善しと。既にして曰く、明日、子を聚樂に見ん。(七)子、意を枉げて我に降りて、以て諸侯に視せと。十一月二日、聚樂の第に入る。秀吉、大に諸侯を會し、延見すること儀の如くす。中納言拜跪すること甚だ恭し。諸侯、皆容を改む。其明日、大に饗す。

(一) 通行の道路にそふこと　(二) 面晤　(三) 貴殿一たび天下の爲に心を曲げて從ふ　(四) とも　(五) 贈物　(六) 如何せばよからん　(七) 貴殿心をまげて我に降りて諸侯に手本となれ

當二此時一。秀吉母在二岡崎一。岡崎役卒。日積二薪其館外一。其侍婢怪レ之。召二役卒一問レ故。對曰。作左遲二中納言歸一也。曰。若有二短長一。焚二殺大廳一。此老性急。今且已欲レ縱レ火。井伊公留レ之而止。婢大怖。相謂曰。往年參河任子來。關白指二其一人一曰。彼鬼作左之兒也。今其鬼乃欲レ殺二我翟一。

此時に當りて、秀吉の母、岡崎に在り。岡崎の役卒、(一)日々に薪を其館外に積む。其侍婢之を怪しみて、役卒を召して故を問ふ。對へて曰く、(二)(三)作左中納言の歸を遲つ。曰く、(四)若し短長あらば、大廳を焚殺せんと。此老、(五)性急なり、今且(六)已に火を縱たんと欲す。井伊公之を留めて止むと。婢、大に怖れ、相謂ひて曰く、往年、參河の任子來りしに、關白、其一人を指して曰く、彼れ鬼作左の兒なりと。今、其鬼乃ち我が翟を殺さんと欲すと。遂に之を大廳に内す。大廳、憂悸し、(七)書を秀吉に馳せて、中納言の歸を促す。中納言方に秀長の饗を受く。宴酣なるとき、秀吉至りて、(八)楮袍にて茗を點じて曰く、請ふ、(九)聚樂に祖せんと。乃ち與に出づ。諸侯、皆門外に在り。秀吉曰く、吾れ我が母の早歸を欲す。故に我が婿をして趣して國に就かしむと。秀長、中納言の足に躡す。中納言、進みて其楮袍を乞ふ。秀吉曰く、此れ我(一〇)衣なりと。中納言曰く、家康在り。公をして復た戎衣せしめずと。秀吉笑ひて、脱して之を附し、因りて左右に顧みて曰く、吾れ

遂白之大聽。大聽褒悸。馳書秀吉。促中納言歸。中納言方受秀長之饗。宴酣。秀吉至。楮袍點

快婿を得たりと。衆、讙然たり。蓋し秀長をして豫め中納言に教へしめしなり。

(一)はたらきの兵　(二)毎日薪を館の外に積上ぐ　(三)本多重次の通稱　(四)萬一いさくさあらば　(五)氣早なり　(六)一本に且とあり　(七)憂ひおそる　(八)紙製の陣羽織を着て茶をたて　(九)祖道の宴を張る　(一〇)紙服　(一一)心持よき婿　(一二)一本に衆讙然の三字なし

茗曰。請祖於聚樂。乃與偕出。諸侯皆在門外。秀吉曰。吾欲我母之早歸。故使我婿趣就國。秀長躡中納言足。中納言進乞其楮袍。秀吉曰。此我衣也。中納言曰。家康在焉。不使公復戎衣。秀吉笑。脱而附之。因左右顧曰。吾得快婿矣。衆讙然。蓋使秀長豫教中納言也。

秀吉遂起徳川氏第于二條。賜酒井忠次宅。命秀長部將藤堂高虎監役。以近江地三萬石爲湯沐邑。賜

秀吉遂に徳川氏の第を二條に起し、酒井忠次に宅を賜ひ、秀長の部將藤堂高虎に命じて役を監せしめ、近江の地三萬石を以て湯沐の邑と爲し、忠次に千石の邑を賜ふ。五日、中納言、正三位に進む。井伊直政は兵部大輔に任じ、榊原康政は式部大輔に任じ、皆從五位下に敍せらる。其餘の將領、官爵を受くること差あり。鳥居元忠以爲へらく、是れ秀吉、朝爵を假りて我が衆を結納するなりと。乃ち

忠次千石邑一。五日。中納言進二正三位一。井伊直政任二兵部大輔一。榊原康政任二式部大輔一。皆敍二従五位下一。其餘將領受二官爵一有レ差。鳥居元忠以爲是秀吉假二朝爵一結二納我輩一也。乃辭曰。臣關東野人。創夷之餘。不レ便二跪起一。豈任二衣冠一哉。後秀吉使三羽柴勝雅以レ女妻二元忠子忠政一。因養爲レ子。元忠曰。臣兒不レ可レ使レ有二二君一。亦辭レ之。

辭して曰く、臣は關東の野人なり、創夷の餘、跪起に便ならず。豈に衣冠に任へんやと。後、秀吉、羽柴勝雅をして、女を以て元忠の子忠政に妻はさしめ、因りて養ひて子と爲さんとす。元忠曰く、臣の兒、二君あらしむ可からずと。亦之を辭す。

㊀工事の監督をさす ㊁采地の意

十四日。中納言歸二參河一。重次以下迎賀。乃令三直政送二還大廳一。諸侍女譽二直政有一レ禮。秀吉喜饗レ之。中納言之

十四日、中納言、參河に歸る。重次以下迎へ賀す。乃ち直政をして大廳を送還(一)せしむ。諸侍女、直政の禮あるを譽む。秀吉喜びて、之を饗す。中納言の京師に在るや、秀吉、石川數正の(二)謁見を許されんと請ふ。直政を饗するに及びて、又數正をして接伴せしむ。饗を終ふるまで、直政一言を交へず。數正を指して衆に謂ひて曰く、彼は(三)人面にして獸心の者なりと。一坐、色を失ふ。大廳の侍女、又重次

在二京師一也。秀吉請レ許二石川數正謁見一。及レ饗二直政一。又使二數正接伴一焉。終レ饗。直政不レ交二一言一。指二數正一謂レ衆曰。彼人面獸心者。一坐失レ色。大聽侍女又愬二直次亡状一。請レ加レ罰。秀吉笑曰。家康多二佳士一。可レ羨。

の亡状(四)を愬へ、罰を加へんと請ふ。秀吉笑ひて曰く、家康は佳士多し。羨むべしと。

㈠送り還さしむ ㈡まみゆ ㈢人の面をして心中は獸なり禮を知らず ㈣無禮

十二月。駿府城成。中納言留二菅沼定政一守二濱松一。而徙居二駿府一。以二板倉勝重一爲二奉行一。勝重幼爲レ僧。喜讀レ書。父好重。弟定重。皆死レ事。兄忠重卒。無レ子。中納言乃令二勝

十二月、駿府城成る。中納言、菅沼定政を留めて濱松を守らしめて、徙りて駿府に居る。板倉勝重を以て奉行と爲す。勝重幼にして僧と爲り、喜みて書を讀む。父好重、弟定重、皆事に死し、兄忠重、卒して子なし。中納言、乃ち勝重をして髮を蓄へて吏と爲らしめ、終に之を識拔(一)す。勝重、固辭す。許さず。乃ち請ひて曰く、願はくは家に歸りて妻と計るを得んと。中納言哂ひて、之を許す。妻欣び迎へて曰く、人有り、夫婿(三)に慶事(四)ありと告ぐ。何ぞやと。勝重、朝服(五)を脱して坐し、之に謂ひて曰く、吾れ奉行の命を受く。汝と之を計らんと欲し、且

重著レ髮爲レ吏。終識ニ拔之一。勝重固辭。不レ許。乃請曰。願得ニ歸レ家與レ妻計一焉。中納言哂。許レ之。妻欣迎曰。有レ人告ニ大婿有ニ慶事一。何也。勝重脫ニ朝服一坐。謂レ之曰。吾受ニ奉行之命一。欲ニ與レ汝計一レ之。且辭而歸。顧汝謂レ何。妻驚曰。是公事也。妾何得レ辨レ之。勝重曰。不レ然。自レ古爲レ吏者。誰不下以ニ內謁一敗上レ事。自レ今以往。汝於ニ我所一レ爲。無ニ一有一レ議。於ニ外人苞苴一。無ニ一有一レ受。則吾拜レ命矣。妻曰。敢不ニ唯命是聽一。勝重與レ之誓。復被ニ朝服一。穿レ袴而出。妻送。見ニ其袴後拗一

く辭して歸る。顧ふに、汝、何と謂ふと。妻驚きて曰く、是れ公事なり。妾、何ぞ之を辨ずるを得んと。勝重曰く、然らず。古より吏と爲る者、誰か內謁(六)を以て事を敗らざる。今より以往、汝、我が爲す所に於て、一も議(七)するあるなく、外人(八)の苞苴に於て、一も受くるあるなくんば、則ち吾れ命を拜せんと。妻曰く、敢て唯命を是れ聽かざらんやと。勝重之と誓ひて、復た朝服を被り、袴を穿きて出づ。妻送り、其袴後の拗れたるを見て、呼び返して、之を正さんと欲す。勝重怒りて曰く、何ぞ誓に背くと。妻、惶恐して謝す。是に於て、往きて命を拜して職に就く。訟獄(九)平允、百事、大に治る。

(一) 還俗せしめて (二) 其の器量あるを知り拔擢す (三) 妻と相談をしたし (四) 喜び事 (五) 正服を著けて (六) 婦人の請託 (七) 彼此と口出せず (八) 他人よりの贈物を一つも受けぬとならば (九) 公平誠實にして萬事大に治まる

也。呼返。欲レ正レ之。勝重怒曰。何背レ誓也。妻惶恐謝。於レ是往拜レ命就レ職。訟獄平允。百事大治。

十五年。二月。造二駿府二城一。秀吉既與レ我和。不レ慮二東面一。於レ是大擧西伐。中納言遣二本多廣孝一勞レ師。師攻二岩石城一。廣孝力戰受レ賞。七月。秀吉定二九州一而還。中納言赴二大坂一賀レ之。八月。轉二大納言一。進二從二位一。乃還。十二月。兼二左近衞大將左馬寮御監一。

十五年二月、駿府の二城を造る。秀吉既に我と和し、東面を慮らず。是に於て、大擧(一)して西伐す。中納言、本多廣孝を遣して師を勞はしむ(二)。師、岩石城を攻む。廣孝力戰して賞を受く。七月、秀吉、九州を定めて還る。中納言、大坂に赴きて之を賀す。八月、大納言に轉じ、從二位に進む。乃ち還る。十二月、左近衞大將、左馬寮御監を兼ぬ。十六年二月、兩職を辭す。三月、大納言、京師に朝す。秀康、西征に從ひて功有るを以て、左近衞少將に進む。我が諸臣、任を遷さるゝもの多し。四月、後陽成天皇、聚樂に幸す。大納言、內大臣信雄等と先驅(三)たり。關白秀吉後乘たり。秀吉、大納言以下の盟辭を要す。特に大納言と、信雄・秀長・秀次及び浮田秀家とに詔して、淸華(四)の上に班(五)す。禮畢りて東に還る。

㈠ 大軍をひきゐて　㈡ 慰勞せしむ　㈢ 先驅をなす　㈣ 五攝家に次ぐ家柄にして三公に任ぜらるべき家筋　㈤ 列す

十六年。二月。辭二兩職一。三月。大納言朝二京師一。秀康以下從二西征一有レ功。進二左近衞少將一。我諸臣多二遷レ任者一。四月。後陽成天皇幸二聚樂一。大納言與二內大臣信雄等一爲二先驅一。關白秀吉爲二後乘一。秀吉要二大納言以下盟辭一。特詔三大納言。與二信雄秀長秀次及浮田秀家一。班二清華之上一。禮畢東還。

於レ是秀吉以二北條氏未一レ至。乃遣レ使責二其不庭一。北條氏遷延。意欲下得二婚及質一如中德川氏上。而秀吉不レ加二於意一。閏五月。氏政使來。因レ我請レ知。六月。大廳有レ疾。大納言與二夫人一赴二京師一。問レ之。九月。留二夫人一而還。十一月。酒井忠次請二致仕一。大納言優旨答レ之。固請。乃蒞二其第一。盡レ驩

是に於て、秀吉、北條氏未だ至らざるを以て、乃ち使を遣して其不庭(一)を責む。北條氏遷延し、意に婚及び質を得ること德川氏の如きを欲す。而して秀吉意に加へず(二)。閏五月、氏政の使來り、我に因りて和を請ふ。六月、大廳、疾有り。大納言、夫人と京師に赴きて、之を問ふ。九月、夫人を留めて還る。十一月、酒井忠次致仕(三)を請ふ。大納言、優旨もて之に答ふ。固く請ふ。乃ち其第に蒞み、驩を盡して日を竟ふ。其子家次をして封を襲がしむ。是の歲、陸奥の伊達氏來りて好を通ず。

(一) 來朝せざるを (二) 心にかけず (三) 仕官を辭す

竟レ日。使二其子家次襲一レ封。是歲。陸奧伊達氏來通レ好。

十七年。正月。眞田昌幸。以二子信幸一質レ於レ我。是月。大納言獵レ于二中泉一。息二清見寺一。有二一兒一。捧レ茗而出。問二其名一。僧曰。甲斐人土屋惣藏之孤也。惣藏事二武田氏一。死レ於二天目山之難一。大納言喜レ得二其胤一也。載歸。謂二世子一曰。吾與レ汝以二一口護身刀一。拉レ兒附レ之。後賜二名忠直一。常侍二世子一。

十七年正月、眞田昌幸、子信幸を以て我に質とす。是の月、大納言、中泉に獵し、清見寺に息ふ。一兒有り、茗を捧げて出づ。其名を問ふ、僧曰く、甲斐の人土屋惣藏の孤なりと。惣藏は武田氏に事へ、天目山の難に死す。大納言其胤㈠を得るを喜ぶ。載せて歸り、世子に謂ひて曰く、吾れ汝に與ふるに、一口の護身刀㈡を以てすと。兒を拉して之に附す。後に名を忠直と賜ふ。常に世子に侍す。

㈠ 土屋惣藏の子孫　㈡ 身をまもる刀

時少將秀康在二京師一。益長有二英氣一。嘗習レ騎。秀吉牙騎失レ禮。秀康馳

時に少將秀康、京師に在り。益〻長じて英氣㈠有り。嘗て騎を習ふ。秀吉の牙騎、禮を失ふ。秀康馳せて之を斬る。秀吉問はず。是の時關東の諸豪、往往我に因りて降る。結城晴朝も亦降る。豐臣氏の族を得て子と爲さんと請ふ。秀吉乃ち秀康

斬之。秀吉不問。是時。關東諸豪往往因我降。結城晴朝亦降。請得豐臣氏族爲子。秀吉乃遣秀康。三月。大納言如京師。兩月而還。

を遣る。三月、大納言、京師に如く。兩月にして還る。

㈠すぐれたる氣象　㈡麾下の騎士

先是北條氏政。請得我侵地沼田而後入朝。秀吉不懌曰。吾欲伐北條氏。以其爲德川姻戚。姑假之耳。七月。秀吉發三使來請。大納言乃使人諭眞田昌幸致沼田而就內地償之。因諭氏政以順逆。

是より先、北條氏政、我が侵地沼田を得て而る後に入朝せんと請ふ。秀吉懌ばずして曰く、吾れ北條氏を伐たんと欲す。其の德川の姻戚㈠たるを以て、姑く之を假すのみと。七月、秀吉三使を發して來り請ふ。大納言乃ち人をして眞田昌幸に諭して沼田を致さしめて、內地に就きて之を償ひ、因りて氏政に說くに順逆を以てして、其入朝を勸む。亦伊達政宗に勸む。皆聽かず。沼田の守將も亦其傍地㈡を侵す。十二月、大納言、大坂に如く。秀吉入朝して、東伐を請ふ。詔して、之を許す。大納言を以て前軍と爲す。秀吉、諸將に謂ひて曰く、家康は前軍と爲り、秀吉は後繼㈢と爲る。萬國を橫行すと雖も可なり。況や北條氏に於てをやと。大納言をして國に還りて兵を治めしむ。

勸二其入朝一。亦勸二伊達政宗一。皆不レ聽。沼田守將亦侵二其傍地一。十二月大納言如二大坂一。秀吉入朝。請二東伐一。詔許レ之。以二大納言一爲二前軍一。秀吉謂二諸將一曰。家康爲二前軍一。秀吉爲二後繼一。雖三橫二行萬國一可也。況於二北條氏一乎。合二
大納言還レ國治レ兵。

(一) 緣礙 (二) 近傍の地 (三) 後備

十八年。正月。夫人病。卒二于京師一。以二東事興一。祕不レ發レ喪。大納言遣二世子一如二京師一。井伊直政内藤正成等從。至二聚樂一。秀吉喜迎曰。佳兒也。執二其手一入レ內。使下夫人淺野氏結二其髮一更中

十八年正月、夫人病みて、京師に卒す。東事興るを以て、祕して喪を發せず。大納言、世子を遣して京師に如かしむ。井伊直政・内藤正成等從ひて、聚樂に至る。秀吉喜び迎へて曰く、佳兒(一)なりと。其手を執りて内に入り、夫人淺野氏をして、其髮を結ひ衣袴を更へしめ、親ら金飾刀(二)を取りて之を帶びしむ。携へ出で、直政に謂ひて曰く、(三)野樣を變じて(四)京樣と爲す。大納言之を見て必ず驚喜せん。大納言は(五)朴實なり。其の幼兒を送るは、蓋し北條と姻あるを以て、故に此を以て質に擬するならん。吾れ豈に疑ふ所あらんや。宜しく速かに護し去るべしと。世子還り至る。大納言曰く、秀吉、我が兒を留めざるは、是れ我が諸城を借

衣袴。親取二金飾刀一帶レ之。攜出。謂二直政一曰。變二野樣一爲二京樣一。大納言見レ之必驚喜。大納言朴實。其送二幼兒一。蓋以下與二北條一有上レ姻。故以レ此擬レ質也。吾豈有レ所レ疑哉。宜二速護去一。世子還至。大納言曰。秀吉不レ留二我兒一。是欲レ借二我諸城一也。乃命二本多重次本多正信一。掃二除海道諸城一。命二伊奈忠次一。造二浮梁于富士河一。居三日。秀吉使者至。果如二其言一。二月。大納言發二兵二萬五千一。誓レ師而發。軍レ于二長窪一。三月。秀吉發二京師一。入二岡崎一。本多重次留守焉。不二敢出迎一。秀吉召見レ之。重次曰。非二我君一。何謁爲。辭不レ入。

らんと欲すればなりと。乃ち本多重次・本多正信に命じて、海道の諸城を掃除し、伊奈忠次に命じて、(六)浮梁を富士河に造らしむ。居ること三日にして、秀吉の使者至る。果して其言の如し。二月、大納言、兵二萬五千を發し、師に誓ひて發し、(七)長窪に軍す。三月、秀吉、京師を發し、岡崎に入る。本多重次、留守す。敢て出で迎へず。秀吉、召して之を見る。重次曰く、我が君に非ず。何ぞ謁するを爲さんと。辭して入らず。

(一)よきこ　(二)黄金を以て飾りたる刀　(三)田舍のなりふり　(四)都の風俗となす　(五)まじめ　(六)浮橋　(七)駿河國に在り

秀吉至二吉田一。

秀吉、吉田に至る。伊奈忠次曰く、天雨ふり河漲る。請ふ、霽るゝを待ちて

伊奈忠次曰。天雨河漲。請待霽而行。秀吉曰。吾聞。兵行臨水。宜亟涉。不則後者病焉。對曰。是所以行寡兵耳。以行大衆。則溺矣。秀吉從之。留三日。至駿府。將入。石田三成耳語曰。聞徳川與北條通謀。勿入。秀吉猶豫。彈正少弼諫浮言勿信。乃入。三成自童年以面首承寵。及長慧巧過人。秀吉以爲奉行。任治部少輔。與少弼同僚。自是寖有釁隙。

行かんと。秀吉曰く、吾れ聞く、兵行に水に臨まば、宜しく亟かに渉るべし。不らずば則ち後者病まん(一)と。對へて曰く、是れ寡兵を行る所以のみ。以て大衆を行らば則ち溺れんと。秀吉之に從ふ。留ること三日なり。駿府に至りて、將に入らんとす。石田三成耳語(二)して曰く、徳川、北條と謀を通ずと聞く。入る勿れと。秀吉、猶豫(三)す。彈正少弼、浮言信ずる勿れと諫む。乃ち入る。三成童年より面首(四)を以て寵を承け、長ずるに及びて、慧巧(五)人に過ぐ。秀吉以て奉行と爲す。治部少輔に任ぜらる。少弼と同僚(六)なり。是より寖く釁隙(七)あり。

(一)後より來る者難儀せん　(二)みゝうち　(三)ためらふ　(四)容貌よきを以て愛せらる　(五)さときこと　(六)同役　(七)不和

大納言聞秀

大納言、秀吉の至るを聞き、兵を留めて來り會す。上國の諸將と皆其次に在り。

吉至。留レ兵而來會。與二上國諸將一皆在二其次一。本多重次以レ事來謁。自レ後罵曰。咄。主公爲二此大怪事一。主レ於國者。豈有下空二其城一假中人哉。如レ是則人或欲レ借二夫人一。亦許レ之乎。且罵且出。諸將相視而嘻。大納言謂二諸將一曰。彼本多重次者。僕舊臣也。自二僕幼時一。從而百戰。僕亦愛二憫之一也。然天質頑縱。及レ老益甚。今於二稠人中一。詬レ僕如レ此。諸公可三以想二其平時一矣。衆謝曰。聞二此老之名一久矣。今乃得レ見。有レ臣如レ此。眞可二倚賴一。

本多重次事を以て來謁し、後より罵りて曰く、咄、主公、此大怪事(一)を爲す。國に主たる者、豈に其城を空しくして人に假すんあらんや。是の如くば則ち人或は夫人を借らんと欲するも、亦之を許すかと。且つ罵り且つ出づ。諸將相視て嘻(二)す。大納言諸將に謂ひて曰く、彼れ本多重次は、僕の舊臣なり。僕の幼時より、從ひて百戰す。僕も亦之を愛憫するなり。然れども天質頑縱(三)なり。老に及びて(四)益々甚だし。今、稠人中(五)に於て、僕を詬ること此の如し。諸公以て其平時(六)を想ふ可しと。衆謝して曰く、此老の名を聞くこと久し。今乃ち見るを得たり。臣ある(七)こと此の如し。眞に倚賴すべしと。

(一) 大なる怪からぬ行爲をなす (二) 互ひに面を見合ひて笑ふ (三) かたくなにして氣まゝなり (四) 老年に及びて益々ひどし (五) 多人數の中にて (六) 平生の事を想像す可し (七) よき臣のあること此の如し眞にたよりとす可し

已而大納言復至其軍。秀吉至沼津。二十八日。親巡敵寨。就我營諮曰。諸將皆說我曰。氏政父子。擁數萬精甲而不出戰。是欲誘我於險而四襲之也。卿以爲何如。大納言對曰。以某觀之。是畏我焉爾。今宜爲三軍。一攻韮山。一攻山中。彼或來援。則以一軍邀擊之。

已にして大納言、復た其軍に至り、秀吉、沼津に至る。二十八日、親ら敵寨を巡り、我が營に就きて諮ひて曰く、諸將皆我に說きて曰く、氏政父子、數萬の精甲を擁して出で戰はず。是れ我を險に誘ひて之を四襲せんと欲するなりと。卿以て何如と爲すと。大納言對へて曰く、某を以て之を觀るに、是れ我を畏るゝのみ。今宜しく三軍と爲し、一は韮山を攻め、一は山中を攻め、彼れ或は來り援はば、則ち一軍を以て邀へて之を擊つべしと。秀吉曰く、彼れ果して來らば、卿を煩して邀擊せんと。對へて曰く、諾。某嘗て一萬に將として、彼の四萬と、甲斐・信濃に戰ふ。十合して九勝す。固より與し易きのみ。(三)然りと雖も、今彼れ險に據りて死を決す。某若し利あらずば、公、幸に之に繼げと。秀吉曰く、諾。是れ必勝の計なり。然りと雖も、彼れ敢て出でずんば、則ち奚を爲さんと。曰く、(四)二城必ず一を取り、某則ち手軍を以て、古道より酒勾驛に出で、早川に陣して、以て八州の援路を扼し、而して公は、大軍を以て直に小田原を擣かば、敵必ず支ふる

秀吉曰。彼果來。煩レ卿邀撃。對曰。諾。某嘗將二一萬一。與二彼之四萬一。戰レ於二甲斐信濃一。十合九勝。固易レ與耳。雖レ然。今彼據レ險決レ死。某若不レ利。公幸繼レ之。秀吉曰。諾。是必勝之計也。雖レ然。彼不二敢出一則奚爲。曰。二城必取レ一。某則以二手軍一。自二古道一出レ於二酒勾驛一。陣レ于二早川一。以扼二八州援路一。而公以二大軍一直擣二小田原一。敵必不レ能レ支焉。曰。酒勾之道。得レ無二城寨一乎。曰。有二鷹巣足柄新荘三城一。曰。何以踰レ之。曰。彼不レ能レ守也。武田信玄嘗以二二萬一入二小田原一。如レ行二無人之地一。今兵什二倍信玄一。其不レ能レ守必矣。曰。焉知レ無二鯁將拒レ我者一乎。曰。能然。我所レ欲也。某當二攻而殲レ之。

能はざらんと。曰く、酒勾の道、城寨なきを得んやと。曰く、鷹巣（五）・足柄・新荘の三城ありと。曰く、何を以て之を踰えんと。曰く、彼れ守る能はざるなり。武田信玄、嘗て二萬を以て小田原に入る。（六）無人の地を行くが如し。今、兵、信玄に什倍す。其の守る能はざること必せりと。曰く、焉んぞ鯁將（七）の我を拒ぐ者なきを知らんやと。曰く、能く然らば、我が欲する所なり。某當に攻めて之を殲すべしと。

（一）敵のとりで　（二）精兵　（三）相手にし易し　（四）韮山と山中　（五）三城共に相摸國に在り　（六）人無き處を通行するが如し　（七）剛强の將

秀吉乃還二其

秀吉乃ち其軍に還り、夜、令を發して、且日二城を攻む。豐臣秀次、中村一氏、

軍。夜發ㇾ令。旦日。攻二二城一。豐臣秀次中村一氏攻拔二山中一。北條氏不ㇾ出。大納言則以二別軍一出二古道一。松平康重本多忠勝等爲二先鋒一。攻二鷹巣一陷ㇾ之。足柄城潰。進攻二新莊一。守將拒戰。不ㇾ克而走。秀吉繼至。與二諸將一相二見于湯本一。出二戰袍三領一。使三大納言取二其一一。且使下以二其一一授中秀

攻めて山中を拔く。北條氏出でず。大納言則ち別軍を以て古道に出づ。松平康重・本多忠勝等、先鋒たり。鷹巣を攻めて之を陷る。足柄城潰ゆ。進みて新莊を攻む。守將拒ぎ戰ひ、克たずして走る。秀吉繼ぎて至り、諸將と湯本に相見る。(一)戰袍三領を出し、大納言をして其一を取らしむ。且つ其一を以て秀次に授けしむ。因りて秀次を戒めて曰く、汝宜しく德川を學ぶべきなりと。又大納言をして世子を駿府より召さしめ、秀吉自ら甲を取りて之を被せて曰く、宜しく我に傚(二)すべきなりと。自ら其(三)偏名を取り、名づけて秀忠と曰ふ。秀吉蓋し事勢未だ定らざるを以て、務めて我に結納するなり。四月、松平康重等、宮城野を攻めて、之を破る。湯本・竹浦解きて走る。三日、大納言諸軍に先だちて、酒匂に至る。城中(四)讋怖す。我が兵復た衢路に伏し、敵の援兵を要擊して、(五)俘斬する所多し。秀吉、大に喜びて、我に、事平がば盡く北條氏の地を領せしむるを約す。

㊀ 陣羽織　㊁ 似る　㊂ 名の一字　㊃ おそる　㊄ 俘虜と斬首と

次上。因戒二秀次一曰。汝宜レ學二德川一也。又使下大納言召中世子於駿府上。秀吉自取レ甲被レ之曰。宜レ類レ我也。自取二其偏名一。名曰二秀忠一。秀吉蓋以二事勢未一レ定。務結二納我一也。四月。松平康重等攻二宮城野一。破レ之。湯木竹浦解走。三日。大納言先二諸軍一。至レ於二酒勾一。城中讋怖。我兵復伏二衢路一。要二擊敵援兵一。多レ所二俘斬一。秀吉大喜。約三我事平盡領二北條氏地一。

我將松平康國鳥居元忠平岩親吉。助二前田上杉氏一。入二上野武藏一。下二諸城一。本多忠勝酒井家次等。助二淺野木村氏一。會二前三將一。徇二上總下總一。還入二武藏一。攻二岩築一。陷レ之。本多忠勝子忠政手斬二首級一。城兵就二

我が將松平康國・鳥居元忠・平岩親吉、前田・上杉氏を助けて、上野武藏に入り、諸城を下す。本多忠勝・酒井家次等、淺野・木村氏を助けて、前の三將に會し、上總・下總を徇へ、還りて武藏に入り、岩築を攻めて、之を陷る。本多忠勝の子忠政、手づから首級(一)を斬る。城兵、元忠に就きて降る。五月、康國總社(二)に次し、降將の戕す所と爲る。弟康貞、手づから十餘人を斬りて之を定む。大納言、康貞を以て嗣と爲す。是の月、小田原の城兵、夜出でて、蒲生氏の陣を襲ひ、轉じて我が陣に赴く。陣堅くして動かず。乃ち收めて入る。六月、大納言、伊達政宗を召して來り見えしむ。

(一) くび　(二) 上野國に在り

元忠一降。五月。康國次二總社一。爲二降將所一レ戕。弟康貞手斬二十餘人一定レ之。大納言以二康貞一爲レ嗣。是月小田原城兵夜出。襲二蒲生氏陣一。轉赴二我陣一。陣堅不レ動。乃收入。六月。大納言召二伊達政宗一使二來見一。

甘索城主北條氏勝初守二山中一。敗保二其邑一。秀吉遣二黑田孝高一說レ降レ之。弗レ聽。大納言使二本多忠勝諭一レ之。乃降。江戸城主遠山景佐初守二新莊一。爲二我兵所一レ敗。走入二小田原一。其弟川村兵部。其姪遠山丹波。與二眞田信尹一處守二江戸一。丹波信尹納二款於一レ我。大納言遣レ兵。逐二兵部一取二其城一。

甘索(一)城主北條氏勝、初め山中を守り、敗れて其邑を保つ。秀吉、黑田孝高を遣して、說きて之を降す。聽かず。大納言、本多忠勝をして之を諭さしむ。乃ち降る。江戸城主遠山景佐、初め新莊を守り、我が兵の敗る所と爲り、走りて小田原に入る。其弟川村兵部、其姪遠山丹波、眞田信尹と、處りて江戸を守る。丹波・信尹、款(二)を我に納る。大納言、兵を遣して、兵部を逐ひて其城を取る。

(一) 相模國に在り　(二) 好を通ず

石田三成大谷吉隆攻二館林一。不レ拔。氏勝

石田三成大谷吉隆、館林(一)を攻む。拔けず。氏勝、城兵を諭す。乃ち降る。三成等轉じて忍城を攻む。彈正少弼、助け攻め、將に諭して之を降さんとす。三成

論二城兵一。乃降。三成等轉攻二忍城一。彈正少弼助攻。將レ論二降レ之。三成忌二其多レ功。紿曰。城兵已有二內應者一。請分レ陴攻レ之。城兵怒而戰。三成曰。內應敗矣。遂引レ水灌レ之。不レ得二地利一而罷。

其の功多きを忌み、紿きて曰く、城兵已に內應するもの有り。(二)請ふ、陴を分ちて之を攻めんと。(三)城兵怒りて戰ふ。三成曰く、內應敗れたりと。遂に水を引きて之に灌ぐ。地利を得ずして罷む。

(一)上野國に在り　(二)うちぎり　(三)城上のかき

前田上杉氏以二降附萬餘一來謁。秀吉不レ賞曰。彼無二血刃之功一。或屠レ之。或降レ之。可也。西將加藤嘉明竊言曰。是豈主二天下一者言乎。二將遂攻二屠八王子一。守將中山家範狩野一菴等死レ之。大納言索二一菴子主膳。家範二子昭守

前田・上杉氏、降附萬餘を以て來り謁す。(一)秀吉賞せずして曰く、彼れ血刃の功なし。(二)或は之を屠り、或は之を降す、可なりと。西將加藤嘉明竊かに言ひて曰く、是れ豈に天下に主たる者の言ならんやと。二將遂に攻めて八王子を屠る。守將中山家範・狩野一菴等、之に死す。大納言、一菴の子主膳、家範の二子昭守・信吉を索めて、之に祿す。(三)

(一)降參せるもの　(二)攻戰の功なし　(三)扶持を與ふ

信吉。誅レ之。

時小田原固守數月。兩軍禁レ戰。徒以二弓銃一相挑。先レ是。我軍徙レ于二築地一。鑿二地道一入レ城。未レ達。井伊氏營前有二敵別堡一。一橋通レ城。城兵時出戍レ堡。直政私計。以二部下子弟一襲レ之。會二暴雨一。地道壞。城樓。崩陷。直政設二伏塹外一而進攻。輒取レ堡。直政至レ橋。自

時に小田原、固守すること數月なり。兩軍戰を禁じ、徒に弓銃を以て相挑む。(一)是より先、我が軍、築地に徙り、地道を鑿ちて城に入らんとす。未だ達せず。井伊氏の營前(二)に敵の別堡(三)あり。一橋、城に通ず。城兵時に出でて堡を戍る。直政私かに計り、部下の子弟を以て之を襲ふ。暴雨に會し、地道壞れ、城樓崩陷(四)す。直政、伏を塹外に設けて進み攻め、輒ち堡を取る。直政橋に至りて、自ら銃を發す。銃、炸(五)して手を傷く。進みて已まず。士卒力戰し、斬首四百なり。火を城に縱つ。城兵益〻出づ。而して我が兵繼ぐなし。乃ち兵を收めて卻く。城兵追躡し、伏に遇ひて敗れ還る。我が中軍、火を望みて愕く。松平家忠曰く、少年輩、雨に乘じて城に入るのみと。捷聞至る。秀吉、大に喜びて、之を賞す。是の役に城中の首級を得しは、是を始と爲す(六)。

(一) 相互に戰ひをしかく　(二) 陣前　(三) 本城の外のとりで　(四) くづれおちいる　(五) 裂けて　(六) 戰捷のしら

發ㇾ銃。銃炸傷ㇾ手。進而不ㇾ已。士卒力戰。斬首四百。縱ニ火于ㇾ城。城兵益出。而我兵無ㇾ繼。乃收ㇾ兵卻。城兵追躡。遇ㇾ伏敗還。我中軍望ㇾ火而愕。松平家忠曰。少年罷乘ㇾ雨入ㇾ城耳。捷聞至。秀吉大喜。賞ㇾ之。是役得ニ城中首級一。是爲ㇾ始也。

織田信雄及西將數人攻ニ韮山一。數不ㇾ利。大納言遣ニ小笠原廣勝一視ㇾ之。廣勝怒ニ諸將逗撓一。自進奪ニ其門一。無ㇾ繼而死。七月。大納言又遣ニ內藤信成一。諭ニ城將北條氏規一。降ㇾ之。

織田信雄、及び西將數人韮山を攻めて、數〻利あらず。大納言、小笠原廣勝を遣して之を視しむ。廣勝、諸將の逗撓(一)を怒り、自ら進みて其門を奪ふ。繼なくして死す。七月、大納言又內藤信成を遣し、城將北條氏規を諭して、之を降す。

(一) とゞまりて進まざるを怒り　(二) 後詰

五日。氏直遂出。就ニ我營一。乞ㇾ降致ㇾ城。大納言遣ニ井伊本多榊原三將一。與ニ西將二人一。

五日、氏直遂に出で、我が營に就きて、降を乞ひて城を致す。大納言、井伊・本多・榊原の三將を遣し、西將二人と、入りて城を受け、嚴に抄掠(一)を禁じ、盡く氏政以下を出す。我が叛將(二)小笠原長忠甲斐より亡げ、小田原に依る。是に於て、執へて之を誅す。十日、大納言城に入る。其明(三)、氏政、自殺す。秀吉は四使

入受レ城。嚴禁ニ抄掠一。盡出ニ氏政以下一。我叛將小笠原長忠自ニ甲斐一亡。依ニ小田原一。於レ是執誅レ之。十日。大納言入レ城。其明。氏政自殺。秀吉遣ニ四使一。大納言遣ニ榊原康政一涖焉。縱ニ氏直高野一。厚給レ之。

を遣し、大納言は榊原康政を遣して涖ましむ。氏直を高野に縦ち、厚く之に給す。

(一) 掠めとること　(二) そむきたる大將　(三) 翌日

徳川氏於レ是領ニ關東八國一。近江地九萬石爲ニ朝宿邑一。海道地萬石爲ニ田獵邑一。凡二百五十五萬七千石。秀吉害下我國逼ニ京畿一。而人心固結日久上也。乃乘レ事徙レ之。

徳川氏、是に於て、關東八國を領す。近江の地九萬石を朝宿(一)の邑と爲し、海道の地萬石を田獵(二)の邑と爲す。凡て二百五十五萬七千石。秀吉、我が國の京畿(三)に逼りて、人心の固結することの久しきを害とするや、乃ち事に乘じて之を徙し、八國の名を以て其心を厭かす。其實は武藏・相摸・伊豆・上總・下總・上野の六州のみ。安房に里見氏有り。下野に宇都宮氏有り。其他、結城・佐野・皆川の諸族、方隅(三)に割據する者頗る多し。而して北條氏の餘黨、所在に潜伏し、兵燹(四)の餘、城邑、荒廢(五)す。乃ち我を趣して徙り居らしむ。而して駿河・甲斐・信濃・近江・參河

以二八國之名一。厭二其心一。其實武藏相摸伊豆上總下總上野六州而已。安房有二里見氏一。下野有二宇都宮氏一。其他結城佐野皆川諸族。割二據方隅一者頗多。而北條氏餘黨所在潛伏。兵燹之餘。城邑荒廢。乃趣レ我使レ徙二居焉一。而以二駿河甲斐信濃遠江參河一。割二予於親臣宿將一。放二織田信雄一。奪二尾張伊勢一。予二之於甥秀次一。以拒二塞我一。

を以て、親臣宿將に割予し、織田信雄を放ちて、尾張・伊勢を奪ひ、之を甥秀次に予へて、以て我を拒塞す。

(一) 入朝の際宿泊の用を便ずる領地 (二) 獵をする時の費用を便ずる領地 (三) 四方の隅にたてこもる者 (四) いくさ火 (五) 荒れすたる

陸奥會津。葦名氏故國也。爲二伊達氏所一レ侵。請レ復レ之。秀吉不レ許。予二之於蒲生氏鄕一。以鎭二壓我一。五國士民大失レ

陸奥の會津は、葦名氏の故國なり。伊達氏の侵す所と爲る。之を復せんと請ふ。秀吉許さず。之を蒲生氏鄕に予へて、以て我を鎭壓す。五國の士民、大に望を失ひ、諸將も亦怏怏(一)として樂しまず。大納言曰く、可なり。關八州も亦我が宗の故國にして、古より武(二)を用ふるの地と稱す。士を養ひ民を撫して、以て天下の變を觀るに足ると。乃ち兵を發して四出し、諸の城邑の未だ服せざる者を伐ち、盡

望。諸將亦快快不レ樂。大納言曰。可也。關八州亦我宗故國。自レ古稱二用レ武之地一。養レ士撫レ民。足三以觀二天下之變一矣。乃發レ兵四出。伐二諸城邑未レ服者一。盡定レ之。遂相レ地建レ都。將士以爲非二小田原一則鎌倉也。大納言乃與二秀吉一議。營二于江戸一。八月。朔。振旅入焉。

く之を定む。遂に地を相して都を建つ。將士以爲へらく、小田原に非ずんば則ち鎌倉ならんと。大納言乃ち秀吉と議して、江戸に營し、八月朔、振旅して入る。

(一) 心中面白からずして (二) 軍事を行ふに適當なる土地 (三) 土地を見立て (四) 軍ををさめて凱旋す

即論レ功分レ地。賜下武藏忍于二松平家忠一。其私部于二松平康重一。其岩築于二高力淸長一。其東方于二松平康長一。其松山于二松平家廣一。其羽生于二

即ち功を論じて地を分ち、武藏の忍を松平家忠に、其私部を松平康重に、其岩築を高力淸長に、其東方を松平康長に、其松山を松平家廣に、其羽生を大久保忠隣に、其河越を酒井重忠に、其本莊を小笠原信嶺に、其八幡山を松平淸宗に、相摸の小田原を大久保忠世に、其甘索を本多正信に、伊豆の韮山を内藤信成に、下總の矢造を鳥居元忠に、其古河を小笠原秀政に、其關宿を松平康元に、其相馬を土岐定政に、其蘆戸を木曾義就に、上總の緒瀧を本多康勝に、其久留里を大須賀

大久保忠隣一。其河越予二酒井重忠一。其本莊予二小笠原信嶺一。其八幡山予二松平清宗一。相摸小田原予二大久保忠世一。其甘索予二本多正信一。伊豆韮山予二内藤信成一。下總矢造予二烏居元忠一。其古河予二小笠原秀政一。其關宿予二松平康元一。其相馬予二土岐定政一。其廬戸予二木曾義就一。上總緒瀧予二本多忠勝一。其久留里予二大須賀忠正一。其鳴渡予二石川康通一。其

忠正に、其鳴渡を石川康通に、其佐貫を内藤家長に、上野の碓氷を酒井家次に、其厩橋を平岩親吉に、其大胡を牧野康成に、其吉井を菅沼定利に、其阿布を菅沼定盈に、其那波を松平家乗に、其宮崎を奥平信昌に、其藤岡を松平康貞に、其白井を本多廣孝に、其館林を榊原康政に、其箕輪を井伊直政に賜ふ。直政・康政・忠勝は皆十萬石を食み、忠世・元忠・康元は四萬石を食む。其餘は差あり。内外の士人を總べ、分ちて五隊と爲し、直政・忠勝・康政・康通・親吉を以て之を領せしめ、京師に更番(一)す。北條・三浦・木曾・保科・久能・岡部の諸族に皆封邑を給し、乃ち促して封(二)に就かしむ。吏に命じて遠近輕重(三)を度りて、以て資用を給す。衆皆其遷徙(四)の勞を忘る。十月、使を京師に遣し、五州の地を致す。秀吉、其神速(五)に服す。

(一) 交代に禁番す (二) 領國に赴かしむ (三) 道路の遠近身分の重い輕いをはかりて費用を支給す (四) 赴任の勞を忘る (五) 非常に早きこと

佐貫于二內藤家長一。上野碓冰于二酒井家次一。其廐橋于二平岩親吉一。其大胡于二牧野康成一。其吉井于二菅沼定利一。其阿布于二菅沼定盈一。其那波于二松平家乘一。其宮崎于二奥平信昌一。其藤岡于二松平康貞一。其白井于二本多廣孝一。其館林于二榊原康政一。其箕輪于二井伊直政一。直政康政忠勝皆食二十萬石一。忠世元忠康元食二四萬石一。其餘有レ差。總二內外士人一。分爲二五隊一。以二直政忠勝康政康通親吉一領レ之。更二番京師一。北條三浦木曾保科久能岡部諸族。皆給二封邑一。乃促レ就レ封焉。命レ吏度二遠近輕重一。以給二資用一。衆皆忘二其遷徙之勞一。十月。遣二使京師一。致二五州地一。秀吉服二其神速一。

江戶之地。東帶二隅田川一。南控二海灣一。西北接二武藏野一。上杉氏將太田道灌者始城レ之。而平衍沮洳。蘆葦叢生。城郭隘陋。至下用二船板一爲上レ階。本多正信白曰。是不レ可三以

江戶の地は、東は隅田川を帶び、南は海灣を控へ、西北は武藏野に接す。上杉氏の將太田道灌といふ者、始めて之を城く。而して平衍沮洳(一)、蘆葦叢生(二)し、城郭隘陋、(三)船板を用ひて階と爲すに至る。本多正信白して曰く、是れ以て外賓に視す可からず。請ふ之を更へんと。大納言哂ひて曰く、汝乃ち此婦女の見(四)を執るか。土木の事(五)、徐に之を議せんのみと。乃ち地勢に因りて、士民を區處(六)し、大番(七)士に賜ふに、西北の地を以てす。高きを鏟り卑きを塡めて、以て第宅を置く。東南に渠(八)を鑿ちて淤を疏し、泥土を築き、街市を起して、以て運漕の道を通す。復た板倉

視二外賓一。請更レ之。大納言哂曰。汝乃執二此婦女之見一乎。土木之事。徐議レ之耳。乃因二地勢一。區二處士民一。賜二大番士一。以二西北地一。鏟レ高塡レ卑。以置二第宅一。東南鑿レ渠疏レ淤。聚二泥土一。起二街市一。以通二運漕之道一。復以二板倉勝重一爲二奉行一。諸制度盡因二北條氏之舊一。而除二其煩苛者一。國內大服。

勝重を以て奉行と爲し、諸の制度盡く北條氏の舊に因り、而して其煩苛(九)の者を除く。國內大に服す。

(一)土地平坦にして卑濕なること (二)あしが茅り生じ (三)船板を以て階段となす (四)他國の賓客には見せられぬ (五)婦人の如き見識を有するか (六)工事の事はゆる／＼相談するばかりなり (七)一區々々に區ぎりてをらしめ (八)溝をほりて泥土を通ぜしめよ (九)こま／＼としてやかましきことを止めよ

秀吉之東下。有レ人獻二佐藤忠信冑一。曰。今日當レ被レ之者。本多忠勝也。乃賜二之忠勝一。忠勝長子忠政。謂二其父一曰。忠信源九郞從僕耳。大人以二德川氏將領一而被二其冑一。以爲レ榮乎。亟還レ之。

秀吉の東下するや、人有り佐藤忠信の冑を獻ず。曰く、今日之(一)を被るに當る者は、本多忠勝なりと。乃ち之を忠勝に賜ふ。忠勝の長子忠政、其父に謂ひて曰く、忠信は、源九郞の從(二)僕のみ。大人、德川氏の將領を以て其冑を被りて、以て榮(三)となすか。亟かに之を還せと。

(一)忠信の冑を被るに適當する者 (二)家來 (三)名譽となすか

秀吉之西還。銜二本多重次無禮一。諷レ我罰レ之。大納言不レ得レ已。置二之上總小原一。潛給二三千石一。時使三人慰二問之一。尋病卒。是月。陸奧出羽寇起。伊達氏陰助レ之。蒲生氏鄕等。來乞二援於一レ我。彈正少弼西還。途聞レ變亦來乞焉。乃遣二結城秀康榊原康政一赴レ之。十二月。秀吉遣二甥秀次一東伐。使三石田三成來請二親出一。

秀吉の西還するや、本多重次の無禮を銜み(一)、我に諷して(二)之を罰せしむ。大納言已むを得ず、之を上總の小原に置き、潛かに三千石を給して、時に人をして之を慰問せしむ(三)。尋ぎて病みて卒す。是の月、陸奧・出羽の寇起る。伊達氏、陰かに之を助く。蒲生氏鄕等、來りて援を我に乞ふ。彈正少弼、西還して、途に變を聞きて亦來り乞ふ。乃ち結城秀康、榊原康政を遣して、之に赴かしむ。十二月、秀吉、甥秀次を遣して東伐し、石田三成をして來りて親出(四)を請はしむ。

(一) 心中に恨みに思ひ　(二) 遠廻しに言ひて　(三) 訪問せしめて慰む　(四) 自身出陣

是歲。世子敘二從四位下一。任二侍從一。秀康襲レ封食二十萬石一。忠吉敘二從五

是の歲、世子、從四位下に敘し、侍從に任ぜらる。秀康、封を襲ぎて十萬石を食む。忠吉、從五位下に敘し、下野守に任ぜらる。信吉、下總の小金に封ぜられ、三萬石を食む(一)。故の世子信康の女を以て小笠原秀政に妻はす。秀政は、貞慶の

位下。任二下野守。信吉封二下總小金。食二三萬石。以二故世子信康女一妻二小笠原秀政。秀政。貞慶子也。

子なり。

(一) 領す

十九年。正月。八國將士皆賀二正于江戸一。大納言親出至二岩槻一。聞二亂平一。乃還。勸二伊達氏一入謝。閏月。如二京師一。二月。天子賜二之御香一。勅。入朝觀二花禁闕一。三月。東歸。五月。陸奥復亂。六月。秀吉復使四人來請二節二度東北諸將一。七月。親征。井伊本多榊原各將二一軍一。從焉。八月。軍レ于二岩手一。九月。盡定二陸奥一。十月。還二江戸一。

十九年正月、八國の將士、皆正を江戸に賀す。(一) 大納言、親ら出でて岩槻に至り、亂平ぐと聞きて乃ち還る。伊達氏に勸めて入謝せしむ。(二) 閏月、京師に如く。二月、天子、之に御香を賜ひ、勅して、入朝して花を禁闕に觀しむ。(三) 三月、東に歸る。五月、陸奥復た亂る。六月、秀吉復た人をして來りて東北の諸將を節度せん(四)こと請はしむ。七月親征す。井伊・本多・榊原、各〻一軍に將として從ふ。八月、岩手に軍し、九月、盡く陸奥を定め、十月江戸に還る。

(一) 新年 (二) 來りて謝せしむ (三) 皇宮の苑 (四) 制馭せん

最上義光世ゝ主ニ出羽山形ー。通レ於ニ織田豐臣氏ー。大納言輒爲說ニ其名家ー。使ニ善遇ヒ之。義光深德レ之。於レ是請下以ニ其次子ー臣モ我。乃賜ニ名家親ー。爲ニ之侍從ー。是月。侍從轉ニ左近衛少將ー。兼ニ武藏守ー。尋遷ニ右近衛中將ー。

最上義光世々出羽の山形に主たり。織田・豐臣氏に通ず。大納言、輒ち爲に其名家(一)なるを說き、善く之を遇せしむ(二)。義光、深く之を德とす(三)。是に於て、其次子を以て我に臣とせんと請ふ。乃ち名を家親と賜ひ、之を侍從に爲せしむ。是の月、侍從、左近衛少將に轉じ、武藏守を兼ね、尋ぎて右近衛中將に遷る。

(一) 名高き家柄　(二) 待遇せしむ　(三) 恩とす

於レ是海內盡定。將レ休ニ息於ニ無爲ー。而秀吉汰侈喜レ事。諸輕銳小人承レ旨進說。會ニ其愛兒死ー。欲下用ニ兵朝鮮ー以自遣上。浮田秀家首慫ニ慂之ー。乃

是に於て(一)、海內盡く定り、將に無爲に休息せんとす。而して秀吉、汰侈(二)事を喜ぶ。諸の輕銳(三)の小人、旨(四)を承けて進說す。其愛兒の死するに會ひ、兵を朝鮮に用ひて以て自遣(五)せんと欲す。浮田秀家首として之を慫慂(六)す。乃ち關白職を秀次に讓り、自ら太閤と稱し、行營を肥前に建て、人をして來りて我に告げしめて、來會せしむ。木を伊豆に伐りて、以て舟艦を造る。海內騷然(七)たり。諸將皆心に其非を知れども、敢て匡拂(八)する莫し。十一月、中將、參議に陞り、前職を帶ぶ。

讓三關白職于二秀次一。自稱二太閤一。建三行營于二肥前一。使二人來告レ我。令三米會二焉。伐二木伊豆一。以造二舟艦一。海內騷然。諸將皆心知二其非一。莫二敢匡拂一。十一月。中將陞二參議一帶二前職一。

㊀天下漸く平定す　㊁奢侈　㊂輕々しくさかし　㊃氣に入ることを進み說く　㊄氣をはらす　㊅すゝむ　㊆さわがし　㊇ためたゞす

文祿元年。二月。大納言命二榊原康政一。輔二參議一處守。而自將二兵萬五千一西行。率二伊達佐竹南部最上諸將一。會二于肥前一。是月。徙三松平家忠于二下總小美川一。以レ忍封二下野守忠吉一。三月。徙二五郎信吉于二下總佐倉一。各食二十萬石一。尋封三外孫奥平忠明于二上野小幡一。

(一)文祿元年二月、大納言、榊原康政に命じ、參議を輔けて(二)處守せしめ、而して自ら兵萬五千に將として西行し、伊達・佐竹・南部・最上の諸將を率ゐて、肥前に會す。是の月、松平家忠を下總の小美川に徙し、忍を以て下野守忠吉を封ず。三月、五郎信吉を下總の佐倉に徙し、各〻十萬石を食ましむ。尋ぎて(三)外孫奥平忠明を上野の小幡に封ず。四月、浮田秀家等、兵を將ゐて朝鮮に入る。七月、大納言遙かに松平家忠に命じて、江戸城を修拓せしむ。

㊀後陽成天皇の年號　㊁留守番　㊂他家に嫁入りたる娘の子

四月。浮田秀家等。將レ兵入ニ朝鮮一。七月。大納言遙命ニ松平家忠一。修ニ拓江戸城一。

參議如ニ京師一。九月。參議遷ニ中納言一。進ニ從三位一。十二月。還ニ江戸一。先レ是。京師儒人藤原肅忤ニ秀吉一。避ニ之肥前一。豐臣秀秋與レ之有レ故。迎客レ之。大納言聞ニ其名一。時延ニ之幕中一。諮ニ詢古道一。二年。三月。江戸土功告レ竣。

參議、京師に如く。九月、參議、中納言に遷り、從三位に進む。十二月、江戸に還る。是より先、京師の儒人(一)藤原肅、秀吉に忤ひ、之を肥前に避く。豐臣秀秋之と故(二)有り。迎へて之を客とす。大納言其名を聞き、時に之を幕中(三)に延きて、古道を諮詢(四)す。二年三月、江戸の土功(五)、竣を告ぐ。

(一) 儒者 (二) ふるなじみ (三) 幕府の中 (四) たづねとふ (五) 工事出來す

先レ是。外征諸將取ニ朝鮮一。所レ過殘滅。明氏出レ軍援レ之。連戰不レ決。黒田孝高在ニ行營一。

是より先、外征(一)の諸將、朝鮮を取り、過ぐる所殘滅す。明氏軍を出して之を援ひ、連戰して決せず。黒田孝高、行營に在り。議して以爲へらく、元帥其任に堪へず。其任に堪ふる者は新田公(二)なり。不らずんば則ち前田利家、若しくは孝高のみと。秀吉又功成らずして内變(三)あるを慮り、諸將を會して、宣言す、自ら

議以爲元帥不レ堪二其任一。堪二其任一者新田公。不則前田利家。若孝高而已。秀吉又慮三功不レ成而有二内變一。會二諸將一。宣言欲下自與二前田利家蒲生氏鄉一。將二三軍一入二朝鮮一。而留二大納言一守レ國。大納言卽奮二辭色一願二從行一。彈正少弼極二諫秀吉一。秀吉怒。欲二手斬レ之。諸將救而止。秀吉斥二少弼一不レ許レ見。會二肥後寇起一。秀吉乃悟。大納言攜二少弼一入謝。令二少弼長子左京大夫討レ寇。以二本多忠勝一助而平レ之。淺野氏嘗坐三其臣僞二造金幣一。獲レ罪。大納言潛往二其家一。鞫レ實爲白レ之。事得二以寢一。日益親善。

前田利家・蒲生氏鄉と、三軍を將ゐて朝鮮に入り、而して大納言を留めて國を守らしめんと欲すと。大納言卽ち辭(四)色を奮ひて從行を願ふ。彈正少弼、秀吉を極諫す。秀吉怒り、手づから之を斬らんと欲す。諸將救ひて止む。秀吉少弼を斥けて見るを許さず。肥後の寇起るに會ひ、秀吉乃ち悟る。大納言少弼を攜へて入りて謝せしむ。少弼の長子左京大夫をして寇を討たしめ、本多忠勝を以て助けしめて之を平ぐ。淺野氏嘗て其臣金幣(五)を僞造するに坐し、罪を獲たり。大納言、潛かに其家に往き、實を審にして爲に之を白す。事以て寢むを得たり。日ゝ益ゝ親善なり。

(一)外國征伐　(二)徳川家康　(三)國內の變化　(四)言葉顏色を變へて　(五)贋金をつくる

八月。秀吉庶子秀頼生。秀吉大喜。東歸。大納言自レ西。中納言自レ東。皆往賀レ之。豐臣氏將吏在ニ朝鮮一。竊懷ニ歸志一。罔ニ蔽秀吉一。曲成ニ和議一。弭レ兵而還。十月。大納言還ニ江戸一。聘ニ藤原肅一。待以ニ賓禮一。講論益力。

八月、秀吉の庶子(一)秀頼生る。秀吉、大に喜び、東歸す。大納言は西より、中納言は東より、皆往きて之を賀す。豐臣氏の將吏、朝鮮(二)に在るは、竊かに歸志を懷き、秀吉を罔蔽(三)し、曲げて和議を成し、兵を弭めて還る。十月、大納言、江戸に還り、藤原肅を聘し、待するに賓禮(四)を以てし、講論益〻力む。

(一) 妾腹の子 (二) 一本に東字を而に作る (三) 聰明を蔽ひ欺く (四) 賓客の待遇

三年。春。秀吉大城ニ伏見一。課ニ諸國一助レ役。大納言令ニ榊原康政諭ニ管內將士一。貸ニ徭錢一。出ニ役丁一。尋自西上監視。秀吉要レ之。共遊ニ吉野一。

三年春、秀吉大に伏見に城き、諸國に課して役(一)を助けしむ。大納言、榊原康政をして管內(二)の將士に諭さしめ、徭錢(三)を貸し、役丁を出す。尋ぎて自ら西上して監視(四)す。秀吉、之を要して、共に吉野に遊ぶ。

(一) 割りつけて土木の費を助けしむ (二) 領內 (三) 雇ひ入れの賃錢 (四) 管督す

四月。永井直勝敍二五位一。爲二右近大夫一。大納言之在二肥前一。秀吉過二其營一與語。直勝出進レ茗。秀吉問知二其名一。曰。是往年獲二池田一者乎。因問二大納言一曰。爾時吾與レ卿對レ壘。卿何以不レ攻二我重濠之兵一。對曰。慮二樂田兵夾擊一之也。抑公亦何以不二來戰一。秀吉拊レ掌曰。吾誠置二餌兵于上

四月、永井直勝、五位に敍せられ、右近大夫と爲る。大納言の肥前に在るや、秀吉其營を過ぎて與に語る。直勝出でて茗(一)を進む。秀吉問ひて其名を知る。曰く、是れ往年、池田を獲し者かと。因りて大納言に問ひて曰く、爾時、吾れ卿と壘を對す。卿、何を以て我が重濠の兵を攻めざりしかと。對へて曰く、樂田の兵、夾みて之を擊たんことを慮りしなり。抑〻公も亦何を以て來り戰はざりしかと。秀吉掌を拊ちて曰く、吾れ誠に餌兵(二)を濠に置き、卿の來るを俟ちて夾みて之を殲さんと欲す。故に往きて戰はざりしのみと。諸將の傍聽する者、皆悅服(三)す。秀吉、是に於て、來りて請ふ、直勝に冒すに豐臣氏を以てせんと。遂に斯の命あり。大納言の二女、北條氏に適きて寡となる。秀吉自ら媒(四)し、再び池田信輝の子輝政に嫁して、以て其憾を釋く。次年、又三女を以て蒲生氏鄕の子秀行に嫁す。九月、大久保忠世卒す。子忠隣嗣き、小田原を守りて、世子の傅(五)を兼ぬ。

(一) 茶をすゝむ　(二) 敵を誘はんが爲に設けたる兵　(三) 悅びしたがふ　(四) 媒酌人となり　(五) 守役

濠。欲下俟二卿來一夾而殲上之。故不二往戰一耳。諸將傍聽者皆悅服。秀吉於レ是來請。冒二直勝一以二豐臣氏一。遂有二斯命一。大納言二女。適二北條氏一而寡。秀吉自媒。再嫁二於池田信輝子輝政一。以釋二其憾一。次年。又以二三女一嫁二蒲生氏鄕子秀行一。九月。大久保忠世卒。子忠隣嗣。守二小田原一。兼二世子傅一。

四年。大納言中納言少將共在二京師一。大饗二秀吉一。秀吉既生二秀賴一。欲レ廢二秀次一。秀次素淫虐。石田三成增田長盛等從而構レ之。五月。大納言東還。留二中納言于京師一。戒レ之曰。秀次將レ及レ禍。卽來誘。愼勿レ應レ之。

四年、大納言・中納言・少將共に京師に在り。大に秀吉を饗す。秀吉既に秀賴を生み、秀次を廢せんと欲す。秀次素より淫虐(一)なり。石田三成・增田長盛等、從ひて之を構す。五月、大納言東還し、中納言を京師に留め、之を戒めて曰く、秀次將に禍(二)に及ばんとす。卽し來り誘ふも、愼みて之に應ずる勿れと。七月、秀吉、伏見より使を京師に使し、聚樂の第に就きて秀次を詰らしむ。秀次誓ひて之を遣る。事已に迫るを以て、我が中納言を取りて質と爲し、因りて我が兵を拔きて自ら援はんと欲す。卽夜五更(三)、人をして來り告げしめて(四)曰く、關白朝餐(五)を供せんと欲す。請ふ速かに來れと。土井利勝答へて曰く、世子未だ起きず。當に起くるを俟ちて之を告ぐべしと。使者去る。

七月。秀吉自ニ伏見一使ニ使京師一。就ニ聚樂第一詰ニ秀次一。秀次誓而遣レ之。以ニ事已迫一。欲下取ニ我中納言一爲レ質。因扳ニ我兵一自援上。即夜五更。使ニ人來告一曰。關白欲レ供ニ朝餐一。請速來。土井利勝答曰。世子未レ起。當ニ俟レ起告上レ之。使者去。利勝告ニ大久保忠隣一。忠隣使三之奔ニ伏見一。從者六人。議レ取ニ間道一。利勝直由ニ大路一南馳。使者復來促。忠隣故留レ之。度ニ中納言已遠一。乃出見曰。世子早有ニ茶會之約一。赴レ于ニ伏見一。秀

(一) 淫亂にして殘虐なり　(二) 罪をつくりかまふ　(三) 今の午前四時　(四) 一本に言とあり　(五) 朝飯を差上げんと欲す

利勝、大久保忠隣に告ぐ。忠隣之をして奉じて伏見に奔らしむ。從者六人、間道を取らんと議す。利勝、直に大路より南に馳す。使者、復た來り促す。忠隣、故に(一)之を留め、中納言、已に遠きを度り、乃ち出でて見えて曰く、世子、早に茶會の約有り。伏見に赴けりと。秀次之を聞きて大に悔ゆ。秀吉、中納言の來るを見、悅びて曰く、眞に新田公の子なりと。乃ち書を以て變を江戶に告ぐ。大納言、卽ち發す。途に秀次、既に(二)殺さると聞き、程を(三)兼ねて至る。秀吉大に喜ぶ。秀吉、素より刑(四)殺を嗜む。老に及び、喜怒測られず。秀次の獄を(五)治するに至りて、尤も慘酷(六)を極む。

次聞レ之大悔。秀吉見二中納言來一。悦曰。眞新田公之子也。乃以レ書告二變江戸一。大納言卽發。途聞二秀次已被一レ殺。倍レ程而至。秀吉大喜。秀吉素嗜二刑殺一。及レ老。喜怒不レ測。至レ治二秀次獄一。尤極二慘酷一。

ごたちしいことをなす ㊀態と ㊁徳川家康公 ㊂行程を倍にして至る ㊃つみし殺すことを好む ㊄裁判をなす ㊅至極む

三成既陷二秀次一。遂欲レ連二累諸將異レ己者一。誣三伊達政宗爲二反黨一。秀吉大怒。欲レ徙三政宗于二伊豫一。政宗在二京師第一。使三人往二伏見一。就請二大納言營救一。大納言不レ答。賜二使者食一。食畢。請レ對。

三成、既に秀次を陷れ、遂に諸將の己に異なる者を連累せんと欲し、伊達政宗、反黨たりと誣ふ。秀吉大に怒り、政宗を伊豫に徙さんと欲す。政宗、京師の第に在り。人をして伏見に往かしめ、就きて大納言の營救を請ふ。大納言答へず。使者に食を賜ふ。食し畢り、對を請ふ。大納言罵りて曰く、而が主は怯懦なり。與に言ふに足らざるなり。且つ若が輩、伊豫に徙りて魚に餧せんと欲するか。京中に死して狗に餧せんか。必ず一に居らんと。因りて召して之を前め、對を授けて遣歸す。既にして伊達氏の兵、皆甲を衷して譟ぐ。京師、大に擾ぐ。

㊀ささへ ㊁すくひたすけ ㊂おくびやうなり ㊃喰はれること

大納言罵曰。而主怯懦。不ㇾ足ニ與言一也。且若輩欲下從ニ伊豫一餒上ㇾ於ㇾ魚乎。死ニ京中一餒ㇾ於ㇾ狗乎。必居ㇾ一焉。因召而前ㇾ之。授ㇾ對遣歸。既而伊達氏兵皆衷ㇾ甲而譟。京師大擾。

秀吉聞ㇾ之大驚。使ニ使詰ニ問政宗。政宗便服出迎。言曰。臣僕從皆曰。失ニ累世之國一。漂ニ泊客土一。不ㇾ若ㇾ死也。臣制ニ止之一。輒斥爲ニ怯夫一。在ニ目下一者。猶如ㇾ此。留在ㇾ國者。不ㇾ詳ニ其爲ニ何狀一。使者還報。秀吉患ㇾ之。會ニ大納言親往申雪一。事遂得ㇾ釋。最上義光女嘗侍ニ秀次一。及ㇾ敗被ニ併殺一。三成又誣ニ義光一。亦爲ニ大納言所ㇾ救。衆皆睚ニ眦三成一。而秀吉寵ㇾ之益甚。三成專ㇾ權。無ニ復忌憚一。獨畏ニ徳川氏一。

秀吉之を聞きて大に驚き、使をして政宗を詰問(一)せしむ。政宗、便服(二)出で迎へ、言ひて曰く、臣の僕從皆曰く、累世の國を失ひ、客土(三)に漂泊するは、死するに若かざるなりと。臣、之を制止す。輒ち斥けて怯夫と爲す。目下に在る者、猶ほ此の如し。留りて國に在る者、其の何の狀爲るを審かにせずと。使者還り報ず。秀吉之を患ふ。大納言、親ら往きて申雪(四)するに會ひ、事、遂に釋くるを得たり。最上義光の女、嘗て秀次に侍す。敗に及びて併せ殺さる。三成、又義光を誣ふ。亦、大納言の救ふ所と爲る。衆、皆三成を睚眦(五)す。而して秀吉、之を寵すること益々甚だし。三成、權を專にして、復た忌憚(六)無し。獨り徳川氏を畏る。

(一) なじりとふ (二) ふだんぎを着 (三) 他國 (四) 罪の申譯をなす (五) 睨合ふこと (六) 忌み憚るものなし

九月。我中納言以二秀吉旨一娶二淺井氏一。淺井氏有二二姊一。秀吉自取二其長者一。生二秀賴一。稱二淀君一。少者嫁二京極高次一。後稱二常光一。皆故織田信長外姪也。秀吉夫人淺野氏。稱二北廳一。及二淀君專一レ寵。北廳失レ勢。石田三成增田長盛小西行長大野治長等。皆附二淀君一。加藤清正福島正則等。爲二北廳親屬一。不二敢附一。清正與二行長一竝爲二外征將一。爭レ功相惡。內旨各有レ所レ助。及二秀賴生一。諸將益黨二淀君一。大納言亦與レ之有二姻戚一。而獨禮二北廳一。

九月、我が中納言、秀吉の旨を以て淺井氏を娶る。淺井氏に二姊有り。秀吉、自ら其長者(一)を取りて、秀賴を生む。淀君と稱す。少者は京極高次に嫁し、後に常光と稱す。皆故織田信長の外姪なり。秀吉の夫人は淺野氏にして、北廳と稱す。淀君の寵を專にするに及びて、北廳、勢を失ふ。石田三成・增田長盛・小西行長・大野治長等、皆、淀君に附く。加藤清正・福島正則等、北廳の親屬(二)爲り。敢て附かず。清正、行長と竝に外征の將と爲り、功を爭ひて相惡し。內旨各々助くる所有り。秀賴生るゝに及びて、諸將、益々淀君に黨す。大納言も亦之と姻戚(三)有り。而して獨り北廳に禮す。

(一) 年上なる姊　(二) 親戚なり　(三) 緣つゞき

慶長元年。五月。詔。以二大納言一爲二內大臣一。敍二正二位一。後二日入朝。是日。秀吉亦以二秀賴一入朝。敍二從三位一。任二中將一。九月。明及朝鮮使者來謁。秀吉以三來辭非二其所一レ望。復大徵レ兵。以二明春一濟レ海。而置二吏行營一。不二復親出一。十月。酒井忠次卒。十二月。以二松平康親松平家乘一爲二大番

慶長元年五月、詔して、大納言を以て內大臣と爲し、正二位に敍す。後二日入朝す。(一)是の日、秀吉も亦秀賴を以て入朝す。從三位に敍し、中將に任ぜらる。九月、明及朝鮮の使者、來謁す。秀吉來辭(二)の其の望む所に非ざるを以て、復た大に兵を徵す。明春を以て海を濟る。而して吏を行營に置き、復た親ら出でず。十月、酒井忠次、卒す。十二月、松平康親・松平家乘を以て大番頭と爲す。初め內大臣、大番五隊を置き、內藤・永井・栗生三家の子弟を以て頭と爲す。皆、萬石に滿たざる者なり。是に於て、二人に諭して曰く、吾れ此職(三)を以て子を累す。子、必ず心に厭かざらん。然りと雖も、世事、未だ定らず。中軍の鋒、子に非ざれば不可なりと。又、井伊・本多・榊原・石川・平岩の五將に命じて伏見に更番し、藤杜に頓して、以て非常に備ふ。三年正月二日、內大臣、吉夢に感じ、潛かに石淸水祠に詣づ。

(一) 後陽成天皇の年號 (二) 使者の齎し來る書面の文言秀吉の本望に背く故 (三) 大番頭の職を以て貴殿を勞す貴殿定めて不滿足ならん

頭一。初內大臣置二大番五隊一。以二內藤永井栗生三家子弟一爲レ頭。皆不レ滿二萬石一者。於レ是諭二二人一曰。吾以二此職一累レ子。子必不レ厭レ心。雖レ然。世事未レ定。中軍之鋒。非レ子不可。又令二井伊本多榊原石川平岩五將一。更二番伏見一。頓レ于二藤杜一。以備二非常一。三年。正月二日。內大臣感二吉夢一。詣二石清水祠一。

當二是時一。內大臣及前田利家毛利輝元上杉景勝浮田秀家等。爲二巨藩大老一。秀吉嘗會二諸侯一。而抱二秀頼一。自二室中一闚視。問曰。彼列坐者。誰最可レ畏。輝元狀貌尤魁偉。秀頼指レ之曰。彼最可レ畏。秀吉哂曰。否。

是の時に當りて、內大臣及び前田利家•毛利輝元•上杉景勝•浮田秀家等、巨藩大老爲り。秀吉、嘗て諸侯を會して、秀頼を抱き、(一)室中より闚視し、問ひて曰く、彼れ列坐の者、誰か最も畏る可きと。輝元、狀貌尤も魁偉なり。秀頼、之を指して曰く、彼れ最も畏る可しと。秀吉哂ひて曰く、否。(二)首坐の(三)黧面翁畏る可きのみと。秀吉、內大臣を試みんと欲す。從容として諸將に語りて曰く、(四)弓箭の事、方今乃公に及ぶ者莫しと。諸將皆伏して曰く、(五)誰か敢て殿下を望まんと。

○

內大臣、色を作して跽して曰く、某、此に在り。殿下、未だ此言を出す可からず。殿下、獨り(六)小牧の事を記せざるかと。諸將相顧みて(七)駭栗す。秀吉默然として、起ちて內に入る。諸將、交〻內大臣に謂ひて曰く、適〻聞く所、公、戲に之を言ふか

首坐黨而翁可レ畏耳。秀吉欲レ試ニ内大臣一。従容語ニ諸將一曰。弓箭之事。方今莫下及ニ乃公一者上。諸將皆伏曰。誰敢望ニ殿下一。内大臣作レ色而蹻曰。某在レ於レ此。殿下未レ可レ出ニ此言一。殿下獨不レ記ニ小牧之事一乎。諸將相顧駭栗。秀吉默然。起入レ内。諸將交謂ニ内大臣一曰。適所レ聞。公戯言レ之邪。内大臣曰。否。否。雖三太閤有ニ天下一。至ニ弓箭之道一。僕不三肯譲ニ一歩一。雖レ觸ニ譴怒一。所レ不レ避也。頃焉。秀吉復出。談ニ他事一而罷。諸將皆謂三内大臣善ニ直言一也。

と。内大臣曰く、否。否。太閤、天下を有すと雖も、弓箭(八)の道に至りては、僕、肯て一歩を譲らず。譴怒(九)に觸ると雖も、避けざる所なりと。頃くして、秀吉復た出で、他事を談じて罷む。諸將、皆内大臣は直言を善くすと謂ふ。

㊀ 部屋の中よりのぞき見 ㊁ すぐれて大なり ㊂ 色の黑き老猿、家康をいふ ㊃ 軍陣の事只今我れに及ぶ者なし ㊄ 誰か押切つて殿下と匹敵せんと思ふ者あらん ㊅ 小牧の役の事を忘れしか ㊆ 驚きふるふ ㊇ 戰爭に於ては小生すこしも秀吉にまけぬ ㊈ 御叱を受けてもかまはぬ

秀家等再伐ニ朝鮮一。與ニ明人一戰。不レ決。自ニ外師興一至レ此。前後七年。丁壯

秀家等、再び朝鮮を伐ち、明人と戰ひて、決せず。外師興りてより此に至るまで、前後七年なり。丁壯(一)は軍旅に苦しみ、老弱は轉漕(二)に罷る。秀吉も亦自ら倦み、乃ち軍事を度外(三)に置き、獨り秀頼及び諸姫侍と日に宴樂を爲し、奢侈を窮

苦㆓軍旅㆒。老弱罷㆓轉漕㆒。秀吉亦自倦。乃置㆔軍事於㆓度外㆒。獨與㆓秀頼及諸姬侍㆒日爲㆓宴樂㆒。窮㆓極奢侈㆒。媮取㆓快一時㆒。性素喜㆓土木㆒。天下未㆑定時。建㆓方廣寺㆒。造㆓大佛㆒。索㆓材諸道㆒。費累㆓鉅萬金㆒。遇㆑震而崩。是年五月。欲㆓復更造㆒㆑之。罹㆑疾而止。

極し、媮(四)も快を一時に取る。性(五)、素より土木を喜ぶ。天下、未だ定らざるの時、方廣寺を建て、大佛を造り、材を諸道に索め、費、鉅萬金(六)を累ね、震(七)に遇ひて崩る。是の年五月、復た更に之を造らんと欲す。疾に罹りて止む。

(一)若者は戰爭に苦み　(二)物資運搬につかる　(三)心外に置き　(四)只差當りての快樂を事とす　(五)性質普請ずきなり　(六)大金　(七)地震のためにくづる

於㆑是豐臣氏紀綱寝弛。其中軍將士。與㆓諸牧伯㆒互相讎視。六月。秀吉疾篤。召㆓奉行淺野彈正少弼石田三

是に於て、豐臣氏の紀綱(一)寝く弛む。其中軍の將士、諸牧伯(二)と互に相讎視す。六月、秀吉、疾篤し。奉行淺野彈正少弼、石田三成、增田長盛、長束正家、前田玄以を召して曰く、聞くが如くんば、諸侯、麾下と郤有りと。是れ大亂の本なり。宜しく相協和(三)して沖子(四)を翼けしむべしと。十六日、五人乃ち大に内外の牧伯將吏を會して旨を傳ふ。衆對へて曰く、心を協せて嗣君を奉ずるは、則ち敢て命を

成增田長盛長束正家前田玄以一曰。如聞諸侯與二麾下一有レ郤。是大亂之本也。宜レ使三相協和以翼二沖子一。十六日。五人乃大會二內外牧伯將吏一傳レ旨。衆對曰。協レ心奉二嗣君一。則敢不レ奉レ命。至レ於二私憾一。各有レ所レ由。不レ能二輒聽從一。告諭再三。終弗レ肯也。秀吉乃召二內大臣一告レ之。曰。願以煩レ卿。內大臣乃出而諭レ之。衆對如レ初。內大臣作レ色厲レ聲曰。公等已言二協レ心奉一レ上。協レ心奉レ上者。猶挾二私怨一乎。果挾二私怨一。是懷レ貳也。安在二其奉一レ上也。衆屈服頓首曰。唯。唯。謹奉レ命。內大臣入報。秀吉大喜。命二五人一大饗レ衆。

奉ぜざらんや。私憾(五)に至りては、各々出る所有り。輒ち聽從する能はずと。告諭すること再三なるも、終に肯ぜず。秀吉乃ち內大臣を召し、之に告げて曰く、願はくは以て卿を煩さんと。內大臣乃ち出でて之を諭す。衆、對ふること初の如し。內大臣、色を作し聲を厲して曰く、公等、已に心を協せて上を奉ずと言ふ。心を協せて上を奉ずる者、猶ほ私怨を挾むか。果して私怨を挾むならば、是れ貳(六)を懷くなり。安んぞ其の上を奉ずるに在らんやと。衆、屈服頓首して曰く、唯。唯。謹みて命を奉ぜんと。內大臣入りて報ず。秀吉、大に喜び、五人に命じて、大に衆を饗せしむ。

(一) 政治次第にゆるむ　(二) 諸の大小名と互ひにかたきとなりてにらみあふ　(三) 力を合せ和ぎて　(四) 幼子卽ち秀賴をさす　(五) 私のうらみの事は各自に理由存すればたやすく御命令に從ふこと能はず　(六) 二心を懷くなり

衆復爭二坐位一。雜席而食。及二酒行一。皆離レ次忿諍。中村一氏生駒親正傳レ旨周旋。不レ能レ定。復入告二內大臣一。內大臣復出。跽而按レ劍曰。公等賣二家康一乎。家康以二公等言一報二太閤一。太閤乃喜賜二此饗一。公等猶尙如レ此。非レ賣而何。擧坐皆我仇敵。我誓不レ縱二一人一。因顧二五人一。趣闔二諸門一。

衆復た坐位を爭ひ、(一)雜席して食ふ。酒行るに及び皆、次を離れて忿諍す。(二)中村一氏、生駒親正、旨を傳へて(三)周旋す。定むる能はず。復た入りて內大臣に告ぐ。內大臣復た出で、跽して劍を按じて曰く、公等、家康を賣るか。(四)家康、公等の言を以て太閤に報ず。太閤、乃ち喜びて此饗を賜ふ。公等猶ほ尙ほ此の如し。賣るに非ずして何ぞや。擧坐皆我が仇敵なり。(五)我れ誓ひて一人を縱さずと。因りて五人を顧み、趣して諸門を闔さしむ。一坐、讋服し、(六)敢て聲を出す莫し。淺野・中村傍より之を慰藉し、衆をして罪を謝せしめ、更に獻酬し、讙を爲して罷む。明日、秀吉之を聞き、內大臣を召して曰く、曩昔の事、(七)古の名將と雖も、過ぐる能はず。卿の威信、素より衆に著るゝに非ずんば、則ち安んぞ能く此の如くならんや。涕を垂れて之を謝す。

(一) 坐席の上下を爭ひ (二) しかり爭ふ (三) 秀吉の意をうけて取鎭むれども靜むること能はず (四) 家康を傷るか (五) 一座皆我が敵なり (六) 恐入る (七) 前夜のこと

一坐讋服。莫ニ敢出一レ聲。淺野中村自レ傍慰ニ藉之一。使ニ衆謝一レ罪。更獻酬。爲レ讙而罷。明日。秀吉聞レ之。召ニ内大臣一曰。曏皆之事。雖ニ古名將一。不レ能レ過焉。非ニ卿威信素著一レ於レ衆。則安能如レ此哉。垂レ涕謝レ之。

秀吉已憂ニ内難一。又悔ニ外征一。欲ニ班レ師鎭一レ國。而兵連弗レ解。又恐ニ明朝鮮乘レ喪來侵一。計不レ知レ所レ出。七月。終召ニ内大臣一。盡以ニ後事一委ニ託之一曰。秀頼當レ立與レ否。一在ニ卿之心一。内大臣謝レ不ニ敢當一。秀吉曰。天下莫ニ若レ卿者一。故不レ得レ不レ煩レ卿。内大臣

秀吉、已に内難(一)を憂へ、又外征を悔い、師を班して國を鎭せしめんと欲す。而して兵連りて解けず。又明・朝鮮の喪に乘じて來り侵さんことを恐れ、計、出づる所を知らず。七月、遂に内大臣を召して、盡く後事(二)を以て之に委託して曰く、秀頼の當に立つべきと否とは、一に卿の心に在りと。内大臣(三)敢て當らずと謝す。秀吉曰く、天下、卿に若く者莫し。故に卿を煩さざるを得ずと。内大臣、固辭して退く。秀吉、石田三成・増田長盛を召して之を議す。二人、素より異謀(四)有り。因りて大に諫む。以爲ふに、專ら德川に託すこと勿れと。秀吉、之を然りとし、乃ち五大老三中老、五奉行を定め、前田利家をして秀頼を輔けしむ。已にして伏見の城下、一夕大に擾る。井伊直政、藤杜より馳せ至る。内大臣、直政と天野康景とをして出でて之を詗はしむ。還り奉じて曰く、石田・大野氏に甲有り。諸第相告

固辭而退。秀吉召二石田三成增田長盛一議レ之。二人素有二異謀一。因大諫。以爲勿三專託二德川一。秀吉然レ之。乃定二五大老三中老五奉行一。使三前田利家輔二秀賴一。已而伏見城下一夕大擾。井伊直政自二藤杜一馳至。內大臣使下直政與二天野康景一出詷上レ之。還報曰。石田大野氏有レ甲。諸第相告自備。故致二此騷擾一也。已而事定。人莫下知二其故一者上。水野勝成爲二父忠重所一レ逐。歷二游西國一。聞レ警來歸。請二自效一。內大臣悅。諭二忠重一宥レ之。

げて自ら備ふ。故に此騷擾を致せりと。已にして事定る。人、其故を知る者莫し。水野勝成、父忠重の逐ふ所と爲り、西國を歷游す。警を聞きて來歸し、自ら效さんと請ふ。內大臣悅び、忠重に諭して之を宥さしむ。

㈠國內の亂　㈡死後の事をたのみて　㈢適任者に非ずと辭退す　㈣謀叛の心あり

八月。五日。秀吉召二內大臣一曰。以二卿固辭一。置二列老奉行一。今則悔レ之。而令已布矣。雖レ然。雄武强任。誰若レ卿者。卿

八月五日、秀吉、內大臣を召して曰く、卿、固辭するを以て、㈠列老、奉行を置く。今は則ち之を悔ゆ。而して令已に布く。然りと雖も、㈡雄武强任、誰か卿に若く者ぞ。卿、當に諸人に㈢冠して軍國の事を統ぶべしと。乃ち諸將の盟誓を要す。旬餘にして、城中に薨ず。彈正少弼及び石田三成に遺命し、祕して喪を發せざらしむ。三成、素より少弼の內大臣に善きを惡む。乃ち之を紿きて曰く、喪を祕す

當下冠二諸人一統中軍國事上。乃要二諸將盟誓一。旬餘。薨二於城中一。遺二命彈正少弼及石田三成一。祕不レ發レ喪。三成素惡二少弼之善二內大臣一也。乃給レ之曰。祕レ喪當レ以レ計。吾與レ子貽二魚於內府一。以視二外人一。少弼從レ之。其明内大臣以二中納言一入レ城問レ疾。途與二三成一遇。三成使二人密訃一レ之。

るに當に計を以ゐるべし。(四)吾と子と魚を內府に貽りて、以て外人に視さんと。少弼之に從ふ。其明、內大臣、中納言を以て城に入りて疾を問ふ。途に三成と遇ふ。三成、人をして密かに之に訃せしむ。(五)

㊀ 五大老三中老　㊁ すぐれ強く能く事に任ふる　㊂ 先立ちて　㊃ 吾と足下と魚を內大臣に貽りて他人に示して喪中にあらざるごとく裝はん　㊄ 家康に秀吉の死を報ぜしむ

內大臣還。歎曰。治部疏レ於レ我者也。猶告二大故一。彈正何以外レ我乎。人心固不レ易レ測也。即夜命二世子一治レ行。旦日

內大臣還り、歎じて曰く、治部は我に疏き者なり。猶ほ大故を告ぐ。(一)彈正、何を以て我を外にするか。人心、固より測り易からざるなりと。(二)即夜、世子に命じて行を治めしめ、旦日江戸に遣歸して以て、本國を鎭せしむ。九月、少弼及び三成に命じ、(三)遺命を以て那古耶に赴き、外師を班さしむ。(四)德永壽昌を遣して海を濟り、密かに諸將に令す。十月、訛言有り、明、大舉して我が歸路を扼すと。內大臣曰く、我

遣二歸江戸一。以鎭二本國一。九月。命二少弼及三成一。以二遺令一赴二那古耶一。班二外師一。遣二德永壽昌一濟レ海。密令二諸將一。十月。有二訛言一。明大擧扼二我歸路一。內大臣曰。我不レ可レ不二親往一。前田利家寢レ疾。聞レ之曰。內府一動。則海內搖矣。我當下輿レ疾往二肥前一。指中揮諸將上。衆皆止レ之。以三藤堂高虎習二外事一請レ遣レ之。內大臣曰。然。乃使二高虎代往一。外師已大克而還。十一月。盡至二伏見一。內大臣與二諸老一倶慰二勞之一。

れ親ら往かざる可からずと。前田利家、疾に寢す。之を聞きて曰く、內府一たび動かば、則ち海內搖かん(五)。我れ當に(六)疾に輿して肥前に往き、諸將を指揮すべしと。衆皆之を止む。藤堂高虎、外事に習ふを以て、之を遣らんと請ふ。內大臣曰く、然りと。乃ち高虎をして代り往かしむ。外師、已に大に克ちて還り、十一月、盡く伏見に至る。內大臣、諸老と倶に之を慰勞す。

㈠ 秀吉の死去 ㈡ 人の心はまことに頼まれぬものなり ㈢ 旅行の準備をなさしめ ㈣ 征韓の軍を引上げしむ ㈤ 天下亂れん ㈥ 病中なれど駕籠に乘りて。

慶長四年。正月。内大臣在ニ伏見一。代ニ豐臣秀吉一。權決ニ天下事一。與ニ大納言前田利家中納言毛利輝元。中納言上杉景勝。參議浮田秀家。式部少輔中村一氏。雅樂頭生駒親正。

卷二十一

徳川氏正記

徳川氏四

(一)慶長四年正月、内大臣、伏見に在り。豐臣秀吉に代りて、權に天下の事を決す。大納言前田利家・中納言毛利輝元・中納言上杉景勝・參議浮田秀家・式部少輔中村一氏・雅樂頭生駒親正・帶刀堀尾吉晴・彈正少弼淺野某・治部少輔石田三成・右衛門尉増田長盛・大藏少輔長束正家・法印前田玄以と、倶に外征諸將の功を論じ、(二)天朝に奏請す。島津義弘の我が國兵を全くせし功最も大なるを以て、參議に任じ、其子忠恒を左近衛少將に任じ、封四萬石を加へ、刀劍を賜ふ。其餘、賞を行ふこと(三)差有り。

(一) 後陽成天皇の年號　(二) 天子に奏聞して御許を請ふ　(三) 次第あり

帶刀堀尾吉晴。彈正少弼淺野某。治部少輔石田三成。右衛門尉增田長盛。大藏少輔長束正家。法印前田玄以。倶論ニ外征諸將之功一。奏ニ請天朝一。以下島津義弘全ニ我國兵一功最大上任ニ參議一。其子忠恆任ニ左近衞少將一。加ニ封四萬石一。賜ニ刀劍一。其餘行レ賞有レ差。

豐臣秀吉之薨也。嗣子秀賴猶幼。內外疑懼。口耳相屬。石田三成增田長盛相與謀曰。德川與ニ前田一協レ心出レ政。我輩徒爲三其所二驅役一。方今之計。莫レ若レ離ニ二家一。二家已離。乃可ニ以逞一。二人乃爲ニ相惡者一。長盛事レ我。三成事ニ利家一。利家

豐臣秀吉の薨ずるや、嗣子秀賴、猶ほ幼し。內外、疑懼して、口耳相屬す。(一)石田三成・增田長盛、相與に謀りて曰く、德川と前田と心を協せて政を出す。我が輩徒に其の驅役する所と爲る。(二)方今の計、二家を離すに若くは莫し。二家已に離れば、乃ち以て逞しくす可しと。(三)二人、乃ち相惡む者の爲して、長盛は我に事へ、三成は利家に事ふ。利家嘗て內大臣を饗せんと欲す。期已に定る。長盛、遽(四)かに來り警めて曰く、大納言將に公に利あらざらんとすと。乃ち疾に託して饗を辭す。他日、長盛、利家に謂ひて曰く、曩には流言有り。(五)內府、是を以て辭す。今は事已に白す。(六)公、復た之を請へと。利家曰く、前日の事、吾れ辱しめらるること已に甚だし。吾れ再び辱を被るに堪へずと。長盛、固く請ひて曰く、內府、來らざるを悔ゆ。苟も之を請はば、必ず欣然(七)として來らんと。利家、之に

嘗欲レ襲二內大臣一。期已定。長盛遽來讐曰。大納言將レ不レ利レ於レ公。乃託レ疾辭レ襲。他日長盛謂二利家一曰。曩有二流言一。內府是以辭。今事已白矣。公復請レ之。利家曰。前日之事。吾辱已甚。吾不レ堪二再被一レ辱。長盛固請曰。內府悔レ不レ來也。苟請レ之。必欣然來。利家從レ之。

從ふ。

(一) 口をつけてひそ〳〵と話し合ふ (二) 驅り使はるゝ所となる (三) 思ふ通りに振舞ふことを得可し (四) 期日巳に決定す (五) 言ひふらし (六) 明白となる (七) よろこんで

長盛馳見二內大臣一曰。利家奸計既成。公愼勿レ往。內大臣曰。吾不レ忍二再辱一レ之。及レ期將レ駕。長盛復至。出二密移於袖一示レ之。內大臣驚怪。乃託レ事不レ往。利家

長盛、馳せて內大臣に見えて曰く、利家の奸計(一)既に成る。公愼みて往く勿れと。內大臣曰く、吾れ再び之を辱しむるに忍びずと。期に及びて將に駕(二)せんとす。長盛、復た至り、密移(三)を袖より出して之を示す。內大臣驚き怪しみ、乃ち事に託して往かず。利家慚憤(四)す。細川忠興は利家と姻有り。利家召して之に語りて曰く、吾れ將に國に歸らんとすと。忠興曰く、公の憤は固より宜なり。然れども、遺命を廢て沖子(五)を棄てて、自ら引きて國に之くは、是れ自ら威權を舍てて、嗤を人に取るなり

慚憤。細川忠興與ニ利家一有ν姻。利家召而語ν之曰。吾衰老。爲ニ人所ν侮。何面目立ν世乎。吾將ν歸ν國也。忠興曰。公之憤固宜。然廢ニ遺命一棄ニ沖子。而自引之ν國。是自舍ニ戚權。而取ニ嗤於ν人也。利家乃止。而終與ν我有ν隙。是月。利家奉ニ秀賴一徙居ニ大坂。內大臣送ν之而還。舟至ニ平潟。見ニ岸上有ν兵。衆失ν色。以爲大坂人追躡也。或曰。得ν非ニ井伊兵來迎一乎。近則果然。乃使ν殿而還。

と。利家乃ち止む。而して終に我と隙有り。是の月、利家、秀賴を奉じて徙りて大坂に居る。內大臣、之を送りて還り、舟、平潟(六)に至りて、岸上に兵有るを見る。衆、色を失ふ。以爲へらく、大坂の人追躡(七)するなりと。或ひと曰く、井伊の兵の來り迎ふるに非ざるを得んやと。近づけば則ち果して然り、乃ち殿せしめて還る。

(一) わるだくみ　(二) 乗物に乗らんとす　(三) 祕密の事を書きたる書面　(四) 恥ぢ憤る　(五) 秀賴をさす　(六) 河內國に在り　(七) 後より追ひ來る

當ニ是時。天下牧長豪傑。人人有ニ自立之

是の時に當りて、天下の牧長(一)豪傑、人人、自立の志有り。而して概ね皆德川氏を忌み、相與に之を圖らんと欲す。一日、內大臣散樂(二)を有馬氏に観る。井伊直政

志。而概皆忌ニ徳川氏ー。相與欲レ圖レ之。一日。内大臣觀ニ散樂于ニ有馬氏ー。井伊直政來請レ間曰。今日外間騷擾。恐レ有レ變。宜ニ及レ未レ昏還ー也。藤堂高虎繼至。密語久レ之。共扶而出。關東士民在ニ京畿ー者。更相告言曰。我君將レ有レ難。盍ニ往護ー之。來護レ第者數百人。先レ是。伊達政宗以ニ上總

來り、間を請ひて曰く、今日、外間騷擾す。變有らんを恐る。宜しく未だ昏れざるに及びて還るべしと。藤堂高虎繼ぎて至り、密語(三)すること之を久しくす。共に扶けて出づ。關東の士民の京畿に在る者、更に相告げ言ひて曰く、我が君將に難(四)有らんとす。盍ぞ往きて之を護せざると。來りて第を護する者數百人なり。是より先、伊達政宗は上總介忠輝を以て女婿(五)と爲し、福島正則は松平康元の女を以て婦と爲し、蜂須賀至鎭は自ら小笠原秀政の女を娶る。康元は内大臣異父弟の子にして、秀政は、故の世子信康の婿なり。諸老、奉行、人をして三家の私に婚して遺令(六)に背くを讓めしむ。三家分疏(七)して服せず。諸老、奉行遂に連署(八)して來り誚め、政柄を解かしむ。内大臣曰く、我れ固より政を執るを欲せざるなり。諸公、我を厭ふ(九)。我れ當に引き去るべしと。是に於て、我が諸將、前日の變故(一〇)の皆蹤跡有るを以て、之を反詰(一一)す。京畿、騷然たり。

㊀ 大小名 ㊁ 散樂 ㊂ 内證話 ㊃ 危難にかゝらんとす ㊄ むすめの婿 ㊅ 秀吉の遺言したる命令 ㊆

介忠輝一爲二女婿一。福島正則以二松平康元女一爲レ婦。蜂須賀至鎭自娶二小笠原秀政女一。康元內大臣異父弟之子。秀政者。故世子信康之婿也。諸老奉行使四人讓三三家私婚背二遺令一。三家分疏不レ服。諸老奉行遂連署來詰。使レ辨二政柄一。內大臣曰。我固不レ欲レ執レ政也。諸公厭レ我。我當二引去一。於レ是我諸將以三前日變故皆有二蹤跡一。反二詰之一。京識騷然。

言分して服從せず (八) 連名して (九) 政治をとることを止めしむ (一〇) 秀吉死去の際に於ける陰謀の證あるを以て (一一) あべこべに詰る

黑田孝高。其子長政。福島正則。池田輝政。藤堂高虎。細川忠興。京極高次。織田長益。加藤清正。加藤嘉明。蜂須賀家政。森忠政。有馬則賴。金森長

黑田孝高、其子長政・福島正則・池田輝政・藤堂高虎・細川忠興・京極高次・織田長益・加藤清正・加藤嘉明・蜂須賀家政・森忠政・有馬則賴・金森長近・山岡景友・新莊直賴等、獨り心を我に歸し、每夜來り護して事を議す、或ひと京極氏の大津城に入るを勸む。內大臣肯ぜずして曰く、是の際に當りて、一步を進めば勢を得、一步を退けば勢を失ふと。乃ち止む。榊原康政、更番(一二)を以て勢多に至り、警を聞きて疾く馳せて大津に至り、故(一三)に止りて進まず。關を塞ぎて以て行人を禦む。行人、塡咽(一四)す。乃ち關を開きて之を通す。京師以爲へらく、東兵大に至ると。黨人(一五)

近。山岡景友。新莊直頼等。獨歸心於我。毎夜來譏議事。或勸入京極氏大津城。內大臣不肯曰。當是之際。進一歩得勢。退一歩失勢。乃止。榊原康政以更番至勢多。閧警。疾馳至大津。故止不進。塞關以遮行人。行人塡咽。乃開關通之。京師以爲。東兵大至也。黨人之計。以故大沮。本多正信。伊奈忠次等。適監税西上。亦兼程至。內大臣延正信問謀。正曰。三中老調停尋盟。要我於大坂。可往否。正信曰。不可。因問曰。淺野

の計、故を以て大に沮む。本多正信・伊奈忠次等、適ゝ税を監して西上す。亦程を兼ねて至る。内大臣、正信を延きて謀を問ひ、且つ曰く、三中老、調停(五)して盟を尋ね、我を大坂に要す。往く可しや否やと。正信曰く、不可なりと。因りて問ひて曰く、淺野彈正は近ごろ(六)何の狀を爲すと。曰く、亦、平生に負きて、久しく此に來らずと。正信即ち淺野氏に赴き、與俱に來る。大内臣讓めて曰く、吾と子と親暱(七)すること日久し。太閤の喪、治部猶ほ我に許す。子、何ぞ獨り我を欺くかと。彈正少弼、始めて三成の賣る(八)所と爲るを知り、流涕(九)して陳謝す。是より益ゝ心を傾く。

㊀ かはるがはる勢多に至り ㊁ わざと止めて進行せず關所をふさぎて通行人をとゞむ ㊂ 滿ち塞がる ㊃ 三成等の謀事 ㊄ 中に立ちて取扱ふ ㊅ 如何なる行ひをなし居るか ㊆ 親みなじむ ㊇ 欺かれたるを知り ㊈ 涕を流して詫ぶ

彈正近爲二何狀一。曰。亦負二于生一。久不レ來レ此。正信卽赴二淺野氏一與俱來。內大臣讓曰。吾與レ子親暱日久。太閤之喪。治部猶訐レ於レ我。子何獨欺レ我乎。彈正少弼始知レ爲二三成所一レ賣。流涕陳謝。自レ是益傾レ心焉。

而三成等務推二戴前田氏一。勸レ除二德川氏一。利家嗣子利長密告二之細川忠興一。忠興曰。吁。子亦爲二治部所一レ欺也。利長色變。忠興曰。子悔レ告レ我乎。前田氏存亡。將レ決レ於此。不二敢不一レ忠謀。生死必與レ子俱。子勿レ憂。利長大悟曰。微レ子。我殆不レ

而して三成等、務めて前田氏を推戴し、德川氏を除かんことを勸む。利家の嗣子利長、密かに之を細川忠興に告ぐ。忠興曰く、吁、子も亦治部の欺く所と爲ると。利長色變ず。忠興曰く、子、我に告ぐるを悔ゆるか。前田氏の存亡、將に此に決せんとす。敢て忠謀せずんばあらず。生死必ず子と俱にせん。子憂ふる勿れと。利長大に悟りて曰く、子微りせば、我れ殆ど免れじ。請ふ、子を煩して家君を諫めんと。忠興乃ち入り、利家を諫めて曰く、治部、公を推戴す、公、其情を知るか。彼れ事權を專にせんと欲す。而して內府と公とを憚る。乃ち公の力を假りて以て德川氏を除かんと欲す。今日、德川を除かば、明日は前田に及ばん。公、獨り此に暗きか。公、其奸を稔知せるに、今、乃ち其計中に在りて、自ら知らざるなり。夫れ內府の雄資智略、諸將其右に出づる者無し。彼が權、百計、之を圖る

免。諸煩子諫家君。忠興乃入。諫利家曰。治部推戴公。公知其情乎。彼欲專事權。而憚內府與公。乃欲假公力以除德川氏。今日除德川。明日及前田。公獨暗於此乎。兵稔知其奸。今乃在其計中。而不自知也。夫內府雄姿智略。諸將無出其右者。彼雖百計圖之。適竟自禍耳。公與彼黨。共被其禍。不若自結於內府。以爲子孫之計也。利家頷曰。然。唯子爲我計之。

も、適に竟に自ら禍せんのみ。公、彼が黨と共に其禍を被らんより、自ら内府に結びて、以て子孫の計を爲すに若かざるなりと。利家頷きて曰く、然り。唯、子、我が爲に之を計れと。

㊀推しいたゞく ㊁存するか亡ぶるか ㊂忠實に諫らざる可からず ㊃父即ち利家 ㊄深く知る ㊅三成の謀計中に在り ㊆子孫萬全の計

忠興即夜赴伏見。比曉來入我第。具告以故。自是忠興屢往來兩府。而憚外人指目。被簑笠

忠興、即夜、伏見に赴き、曉くる比、來りて我が第に入り、具に告ぐるに故を以てす。是より忠興、屢〻兩府に往來す。而して外人の指目を憚り、簑笠を被りて自ら舟を操る。時に利家、疾有り。忠興、淺野・加藤等と、倶に其の疾を力めて伏見に赴き、内大臣に面せんことを勸む。利家之に從ふ。内大臣、輕舸に乘

自操レ舟。時利家有レ疾。忠興與二淺野加藤等一。俱勸下其力疾赴二伏見一。而中內大臣上。利家從レ之。內大臣乘二輕舸一迎入レ第。手設レ蓐使レ坐。利家悉語二諸奉行密謀一。勸レ我從二向島第一。以絕二覬覦一。曰。吾百歲後。公幸善視二我兒一。內大臣許諾。利家喜而去。忠興又請レ我往答レ之。內我臣許レ之。

りて迎へて第に入り、手づから蓐を設けて坐せしむ。利家悉く諸奉行の密謀を語り、我に勸めて向島の第に從りて、以て(四)覬覦を絕たしむ。曰く、吾れ百歲の(五)後、公、幸に善く我が兒を視よと。内大臣、許諾す。利家、喜びて去る。忠興、又我に請ひて往きて之に答せしむ。内大臣之を許す。

(一)大坂、伏見の間 (二)人目を憚り (三)早舟 (四)うかゞひねらふ (五)死後

三月。內大臣欲レ赴二大坂一。三成故縱二流言一。以沮二其行一。欲レ使二利家怒一レ之。福島正則又

三月、内大臣大坂に赴かんと欲す。三成故に流言を縱ちて、以て其行を沮み、利家をして之を怒らしめんと欲す。福島正則又諫めて曰く、大坂は奸人の(一)巢窟なり。輕〻しく入る可からずと。大内臣曰く、(二)亞相來る。答せざる可けんや。吾れ(三)警備有り。奴輩何をか能く爲さんと。十一日、遂に行く。少將秀康留守す。

諫曰。大坂奸人巣窟。不レ可二輕入一。內大臣曰。亟相來。可レ不レ答哉。吾有二督備一。奴輩何能爲。十一日。遂行。少將秀康留守。加藤池田細川福島黑田淺野諸將皆從。以二弓銃一護二水陸一。細川忠興以下與二利家一有レ姻。遣二父藤孝一侍二舟中一。其實質レ之也。舟至二大坂一。岸有二女輿一。一人自二輿中一出。視レ之。藤堂高虎也。進曰。道路恐レ有レ變。宜二御レ此而行一。內大臣從レ之。入二高虎中島第一。終詣二利家一。利家喜。扶起迎謝。利家次子利政有二異心一。爲二兄利長所一レ制而止。及レ饗。諸將皆侍。利政佩二利刃一。將レ近二內大臣一。利長目二攝之一。利政不二敢發一。其夜。

加藤・池田・細川・福島・黑田・淺野の諸將、皆從ひて、弓銃を以て水陸を護す。細川忠興、利家と姻有るを以て、父藤孝を遣して舟中に侍せしむ。其實は之を質とするなり。舟大坂に至る岸に女輿(四)有り。一人、輿中より出づ。之を視れば、藤堂高虎なり。進みて曰く、道路、變有らんことを恐る。宜しく此に御(五)して行くべしと。內大臣之に從ひて、高虎の中島の第に入り、終に利家に詣る。利家喜び、扶けられて起きて迎謝(六)す。利家の次子利政、異心(七)有り。兄、利長の制する所と爲りて止む。饗に及びて、諸將皆侍す。利政、利刃(八)を佩びて、將に內大臣に近づかんとす。長利之を目攝(九)す。利政、敢て發せず。其夜、內大臣、復た高虎の第に宿す。

(一) 奸佞なる者のすみか　(二) 大納言利家をさす　(三) 一本に有字を存とせり、警戒の準備あり　(四) 婦人の乘物　(五) 乘りて　(六) 出迎へて謝す　(七) 害する心　(八) 鋭利なる刀　(九) 目をつけてはなさず

内大臣復宿二高虎第一。

諸奉行會レ于二小西行長宅一。獨彈正少弼以二我館伴一辭弗レ往也。三成議曰。內府亞相復協矣。我輩將レ無二噍類一。爲レ之何如。行長建レ策曰。吾請今夜襲二藤堂氏一。縱レ火攻レ之。不則要二之歸途一。可二以獲一レ志。前田玄以素歸二心於一レ我。因沮レ之曰。嗣君未レ長。我輩

諸奉行、小西行長の宅に會す。獨り彈正少弼、我が館伴(一)たるを以て辭して往かず。三成、議して曰く、內府・亞相復た協ふ。我が輩將に噍類(二)無からんとす。之を爲す何如と。行長策を建てて曰く、吾れ請ふ、今夜、藤堂氏を襲ひ、火を縱ちて之を攻めん。不らずんば則ち之を歸途(三)に要して、以て志を獲可しと。前田玄以素より心を我に歸す、因りて之を沮して曰く、嗣君未だ長ぜず。我が輩、諸老の令を受くるは、固より其分なり。今私に兵を動して、天下の約に背かば、縱使志を得るも、豈に能く晏然(四)たらんや。且つ諸宿將、皆內府を護る。概く志を得可からず。交戰決せずして、結秀城康、東兵を以て來り援はば、必ず大に敗れんと。增田長盛も亦之を然りとす。長束正家曰く、且く之を諜せんと。諜還り報じて曰く、中島列炬(五)、星の如しと。乃ち止む。明日、內大臣北に還る。榊原康政、前驅と爲り、井伊直政、後拒と爲り、遂に伏見の第に歸る。

受二諸老之命一。固其分也。今私動レ兵。背二天下約一。縱使得レ志。豈能晏然哉。且諸宿將皆讙二內府一。不レ可二輒得一レ志。交戰不レ決。而結城秀康以二東兵一來援。必大敗矣。增田長盛亦然レ之。長束正家曰。且諜レ之。諜還報曰。中島列炬如レ星。乃止。明日。內大臣北還。榊原康政爲二前驅一。井伊直政爲二後拒一。遂歸二伏見第一。

(一) 旅館のもてなし役 (二) あとに殘る者 (三) かへりみちに待受けて (四) 平然 (五) 一本に炬火とあり、炬火をともしつらぬ

三成等悔恨。又謀三襲二擊我第一。以爲非レ援二忠興一。則事不レ可レ成也。乃因二玄以一請二忠興一。昭以二大封一。忠興密告二之諸將一。諸將曰。且可三佯聽以探二其謀一。忠興乃與二三成一會レ于二

三成等、悔恨し、(一)又我が第を襲擊せんと謀る。以爲へらく、忠興を援くに(二)非ずんば、則ち事、成る可からずと。乃ち玄以に因りて忠興に請ひ、昭すに(三)大封を以てす。忠興、密かに之を諸將に告ぐ。諸將曰く、且く佯り聽きて以て其謀を探る可しと。忠興、乃ち三成と長束氏に會す。三成に問ひて曰く、內府を除かんと欲するに、何の策か有ると。三成曰く、我れ其邸を諜するに、邸兵僅かに一千なり。邸側の宮部氏・福原氏は皆我が黨たり。而して其宅頗る高し。我れ衆を率ゐて之に據り、臨みて(四)火箭を放ち其の火を避くるを俟ちて、迫るに鳥銃(五)を以てせば

長東氏。問三成曰。欲除内府有何策。三成曰。我謀其邸。邸兵僅二千。邸側宮部氏福原氏皆爲我黨。而其宅頗高。我率衆據之。臨放火箭。俟其避火。迫以鳥銃。可以鏖之。問其期。曰。今夜矣。忠興憂之。而不動辭色。徐曰。内府素訓練其兵。二千人決死出鬪。公保必勝之乎。且放火箭。何論地高卑。彼苟諜知我計。則我能放之。彼亦能放之。是非策之得者也。我有一策。我以我兵二千。爲予爲先鋒。突入死戰。而公等唯大衆承其弊。克之必矣。三成等不肯。忠興力爭。議未決而天明矣。

以て之を鏖にす可しと。其期を問ふ。曰く、今夜なりと。忠興之を憂ふ。而して辭色を動さず。徐に曰く、内府素より其兵を訓練す。二千人、決死して出で鬪はば、公必ず之に勝つを保せんや。且つ火箭を放つに、何ぞ地の高卑を論ぜん。彼れ苟も諜して我が計を知らば、則ち我れ能く之を放つも、彼も亦能く之を放たん。是れ策の得たる者に非ざるなり。我に一策有り、我れ我が兵二千を以て、予が爲に先鋒と爲り、突入して死戰せん(七)。而して公等、唯大衆をもて其弊を承けなば(八)、之に克たんこと必せりと。三成等肯ぜず。忠興力爭す。議未だ決せずして天明く(九)。

(一) 悔み恨み　(二) 身方に引入れなければ　(三) 利を以て誘ふに大封を與ふることを以てす　(四) 火矢を射かけ　(五) 鐵砲　(六) 言葉顏色をかへず　(七) 死力を出して戰はん　(八) 大軍を以て引續き敵の疲れたるを擊たば　(九) 夜明く

忠興走告二之加藤清正一竝馳來白。內大臣曰。吾亦非レ不レ覺レ之也。奴輩來攻。則吾自焚レ第。出二東北廣地一決戰耳。忠興等促徙二向島一。向島。伏見故城址也。乃修二築之一。以二二十六日一徙居焉。諸奉行知二事泄一。皆著二僧服一。要二謁于豐後橋一。以謝二其罪一。物情稍定。

忠興走りて之を加藤清正に告げ、並に馳せ來りて白す。內大臣曰く、吾も亦之を覺らざるに非ざるなり(一)。奴輩(二)來り攻めば、則ち吾れ自ら第を焚き、東北の廣地に出でて決戰せんのみと。忠興等促して向島に徙らしむ。向島は伏見の故城址(三)なり。乃ち之を修築し、二十六日を以て徙り居る。諸奉行事の泄れしを知り、皆僧服を著けて(四)、豐後橋に要謁して(五)、以て其罪を謝す。物情稍定る(六)。

(一)この謀計を知らざるに非ず　(二)きやつら　(三)ふるき城あと　(四)法衣を著て　(五)待受て面會し　(六)世間の樣子が稍しづまる

池田黑田淺野細川福島兩加藤七將。皆與二三成一有二仇隙一。於レ是遂連署請レ誅レ之。

池田・黑田・淺野・細川・福島・兩加藤の七將、皆三成と仇隙(一)有り。是に於て、遂に連署して之を誅せんと請ふ。內大臣許さず。時に三成、利家に依る。七將遂に大坂に赴きて、之を請ふ。利家も亦許さず。閏月利家、病みて卒す。七將、三成の出づるを伺ひて之を要擊せんと議す。毛利・上杉・浮田・島津・佐竹の五家、素よ

内大臣不レ許。時三成依レ於二利家一。七將遂赴二大坂一。請レ之。利家亦不レ許。閏月。利家病卒。七將議下伺二三成出一要中擊之上。毛利上杉浮田島津佐竹五家。素善レ於二三成一。三成於レ是乃間行。入二浮田氏備前島第一。而以二五家兵一。自衞。秀吉在時。佐竹義宣嘗賂二三成一。得三以兼二幷其國一。深德レ

り三成に善し。三成、是に於て、乃ち間行（一）して、浮田氏の備前島の第に入る。而して五家の兵を以て自ら衞る。秀吉の在時（二）、佐竹義宣、嘗て三成に賂ひて、以て其國を兼幷（三）するを得、深く之を德とす。義宣是の時、伏見に在り。三成の急を聞き、馳せて之を見て曰く、衆怒犯す可からず。能く之を制する者は、獨り德川翁なり。治部寧ろ自ら歸せよと。乃ち女裝（四）して往き、自ら入りて命を乞はしむ。內大臣之を許す。七將追ひ至り、夜、兵を各第に治めて、固く請ふ。內大臣心に自ら之を計り、寢て寐ず。本多正信入りて謁す。欬（五）して曰く、何ぞ亟かに寢に就くやと。内大臣中より呼びて誰たるかを問ふ。曰く、正信事を稟すと。曰く、稟す所は何事ぞと。正信曰く、治部を何と謂ふかと。內大臣曰く、吾れ方に之を思ふと。正信曰く、主公已に之を思ふ。思はば則ち得ん。臣必ずしも言はざるなりと。趨りて出づ。

（一）中たがひ　（二）忍び行く　（三）併せ領す　（四）婦人のよそほひ　（五）せきばらひして

之。義宜是時在二伏見一。聞二三成急一。馳見レ之曰。衆怒不レ可レ犯。能制レ之者。獨徳川翁。治部寧自歸焉。乃使二女裝而往一。自入乞レ命。內大臣許レ之。七將追至。夜治二兵各第一。而固請焉。內大臣心自計レ之。寢而不レ寐。本多正信入謁。欸曰。何亟就レ寢也。內大臣自レ中呼而問レ爲レ誰。曰。正信。稟レ事。曰。所レ稟何事。正信曰。謂二治部何一。內大臣曰。吾方思レ之。正信曰。主公已思レ之。思則得焉。臣不二必言一也。趨而出。

且日。內大臣使三伊奈圖書出諭二七將一曰。治部窮來投レ我。我不レ忍レ與二之諸君一。且諸君欲下以二私憾一戮中重臣上。吾何得レ許レ之哉。諸君必求レ逞二其意一。吾當下助二治部一而與二諸君一決戰上。七將大

且日、大內臣、伊奈圖書をして出でて七將を諭さしめて曰く、治部窮して來りて我に投ず。我れ之を諸君に與ふるに忍びず。且つ諸君私憾を以て重臣を戮せんと欲す。吾れ何ぞ之を許すを得んや。諸君必ず其意を逞しくするを求めば、吾れ當に治部を助けて諸君と決戰すべしと。七將大に驚き、勉めて之に從ふ。乃ち中村一氏・酒井重忠をして、三成に諭さしめて曰く、衆情恟恟たり。子、盍ぞ職を解きて國に就かざる。是れ幼主の爲に躬を屈して、以て國家の亂を靖んずるなりと。三成、謝して曰く、當に熟慮して答ふべしと。三成乃ち潛かに使を大坂に馳せ、之を上杉景勝に謀る。景勝大に諸藩主を會して之を議し、謀りて曰く、治部宜し

驚。勉從レ之。乃使三中村一氏酒井重忠諭二三成一曰。衆情恟恟。子盍レ解レ職就レ國。是爲二幼主一屈レ躬。以靖二國家乃亂一也。三成謝曰。當二熟慮而答一焉。三成之潛馳二使大坂一。謀三之於二上杉景勝一。景勝大會二諸藩主一議レ之。謀曰。治部宜下聽レ命就レ邑。退伺中世變上。然後上杉佐竹皆歸レ藩聚レ兵。不二

く命を聽きて邑に就き、退きて世變を伺ふべし。然る後に、上杉・佐竹は、皆藩に歸りて兵を聚め、復た來覲(五)せず、兵を八州に下して、以て其根本を撼さば、則ち內府必ず自ら將として赴き(六)討たん。毛利・浮田以下、乃ち其後に蜂起し、內府を夾みて東西より之を擊たば、從征(七)の諸將、質を大坂に置く。必ず此を棄てて彼に黨せじ。內府、孤立し、腹背に敵を受く。勇智有りと雖も、復た施す(八)に所無く、竟に窘蹙(九)して降を乞はん。天下の事、皆圖る可きなりと。乃ち使者に還りて、密かに之を三成に報ぜしむ。七日、三成命を聽き、十一日、其邑澤山に就く。內大臣七將の之を要擊せんことを慮り、少將秀康等をして之を護送せしむ。七將發する能はず。

(一) 私のうらみ (二) 心を曲げて家康の言に從ふ (三) 諸人心おそる (四) 篤と考へて (五) 引き籠りて世の變遷を見て居られよ (六) 期を定めて主君に御目見えす (七) 征伐に從ふ諸將 (八) 何とも手の附け樣なく (九) くるしみちゞまる

復來覲。下兵於八州。以撼其根本。則內府必自將赴討。毛利浮田以下。乃舉起其後。夾內府而東西擊之。從征諸將。置質大坂。必不棄此黨彼。內府孤立。腹背受敵。雖有勇智。無復所施。竟窘蹙而乞降矣。天下之事。皆可圖也。乃使使者還。密報之三成。七日。三成聽命。十一日。就其邑澤山。內大臣慮七將要擊之。令少將秀康等護送之。七將不能發。

三成既被擯。而諸奉行皆不自安。因三中老請內大臣入伏見城以鎭京畿。許之。六月十三日。自向島徙焉。諸藩主皆來賀。威望益重。

三成、既に擯けらる。而して諸奉行皆自ら安んぜず。(一) 三中老に因りて、內大臣の伏見城に入りて以て京畿を鎭せんことを請ふ。之を許す。六月十三日、向島より徙る。諸藩主皆來り賀す。威望(二)益〻重し。

(一) 自ら安心する能はず (二) いきほひと人望と

七月。命諸奉行。令征韓諸將皆罷就國。上杉景勝請曰。去歲徙封。

七月、諸奉行に命じて、征韓の諸將をして皆罷めて國に就かしむ。上杉景勝請ひて曰く、去歲封を徙され、未だ政を施すに及ばず。奥地の服し難きは、君の悉す(一)所なり。請ふ、一たび往きて措置せんと。佐竹義宣請ひて曰く、統內(二)に寇起る。

未ㇾ及ㇾ施ㇾ政。奥地難ㇾ服。君所ㇾ悉也。請一往措置焉。佐竹義宣請曰。統内寇起。請往定ㇾ之。前田利長亦以㆕襲ㇾ封後未㆔視㆓國政㆒謁歸。皆許ㇾ之。於ㇾ是前田氏歸㆓加賀㆒。佐竹氏歸㆓常陸㆒。上杉氏歸㆓陸奥㆒。毛利氏歸㆓安藝㆒。浮田氏歸㆓備前㆒。黑田氏歸㆓豐前㆒。加藤氏歸㆓肥後㆒。細川氏歸㆓丹後㆒。其餘諸將皆就ㇾ國。

請ふ往きて之を定めんと。前田利長も亦封を襲ぐの後、未だ(三)國政を視ざるを以て謁歸す。皆之を許す。是に於て、前田氏は加賀に歸り、佐竹氏は常陸に歸り、上杉氏は陸奥に歸り、毛利氏は安藝に歸り、浮田氏は備前に歸る。而して黑田氏は豐前に歸り、加藤氏は肥後に歸り、細川氏は丹後に歸る。其餘の諸將、皆國に就く。

(一) 能く御存知なり (二) 領分内 (三) 國政に關からざるを以て歸國して父母を省す (四) 諸將それぞれ皆領國に歸る

是歳春。島津氏重臣伊集院忠棟有ㇾ罪。島津忠恆誅㆓之伏見邸㆒。衆

是の歳春、島津氏の重臣伊集院忠棟、罪有り。島津忠恆之を伏見の邸に誅す。衆、其(一)擅殺を尤む。忠恆懼れ、高雄に(二)屛居して、以て罪を俟つ。内大臣、伊奈圖書を遣し、兵數十を率ゐて、迎へて其邸に還らしむ。忠棟の子久直、國に在りて兵を

尤二其擅殺一。忠恆懼。屏三居于二高雄一以俟レ罪。内大臣遣二伊奈圖書一。率二兵數十一。迎二還其邸一。聞二忠棟子久直在レ國舉一レ兵。令二忠恆歸討一レ之。至レ是又遣二山口直友一勞レ之。贈以二衣物一。尋遣二寺澤廣孝一。諭降二久直一。

舉ぐと聞き、忠恆をして歸りて之を討たしむ。是に至りて、又山口直友を遣して之を勞し(三)、贈るに衣物を以てす。尋ぎて寺澤廣孝を遣して、諭して久直を降す。

(一) 勝手に殺す (二) ひつそくして (三) 慰勞し

八月。内大臣入二朝京師一。九月。七日。赴二大坂一。欲下以二重陽節一見中秀頼上。三成在二澤山一聞レ之。遙授三計於二増田長盛長束正家一。長盛正家乃就レ館。

八月、内大臣、京師に入朝す。九月七日、大坂に赴き、重陽節(一)を以て秀頼を見んと欲す。三成、澤山に在りて之を聞き、遙かに計を増田長盛・長束正家に授く。長盛・正家、乃ち館に就き、内大臣に告げて曰く、加賀黄門(二)、淺野彈正と謀を通じて曰く、内府城に入らば、則ち彈正佯りて之と博し(三)、因りて其手を拉り、大野治長・土方雄久をして、之を耦刺(四)せしめんとすと。内大臣從者と議す。本多正信曰く、宜しく疾と稱して入らず、而して兵を伏見に徵して以て歸るべしと。

告二內大臣一曰。加賀黃門與二淺野彈正一通レ謀曰。內府入レ城。則彈正佯與レ之博。因拉二其手一。令三大野治長土方雄久擣二刺之一。內大臣與二從者一議。本多正信曰。宜下稱レ疾不レ入。而徵二兵伏見一以歸上。井伊直政本多勝勝榊原康政曰。不レ入則曲在レ於レ我。臣等從焉。以レ死衞レ之。內大臣兩用レ之乃徵レ兵。兵來者三千八百。九日。率而入レ城。升レ堂從升者十餘人。衞士欲二止不一レ納。直政厲レ聲曰。內府有二戒心一。關東野人。之三復知二禮節一。內大臣入見二秀賴

井伊直政・本多忠勝・榊原康政曰く、入らずんば則ち曲我に在り。臣等從ひ、死を以て之を衞らんと。內大臣兩つながら之を用ひ、乃ち兵を徵す。兵來る者三千八百なり。九日、率ゐて城に入り、堂に升る。從ひて升る者十餘人。衞士止めて納れざらんと欲す。直政聲を厲して曰く、內府、(六)戒心有り。(七)關東の野人、復た禮節を知らずと。內大臣入りて秀賴母子を見る。直政・忠勝・康政障を隔てて坐す。彈正少弼、讒言有りと聞き、疾と稱して出でず。內大臣出でて(八)中廚に在り、(九)託言して曰く、(一〇)廚下の大紙燈は、東國に無き所なり。當に從者をして觀しむべしと。酒井忠利出でて、從兵を招き、護衞して館に歸る。

㊀ 九月九日の節句 ㊁ 中納言利長をさす ㊂ かけごとし ㊃ 互ひにさしあひて殺さしめんとす ㊄ [illegible]の兵士 ㊅ 非常の戒め ㊆ 關東の田舍者また禮儀作法を辨へず ㊇ 中の間 ㊈ かこつけて言ふ ㊉ 大なる紙燭

母子。直政忠勝康政隔レ障而坐。彈正少弼聞レ有二讒言一。稱レ疾不レ出。內大臣出至二中廚一。託言曰。廚下大紙燈。東國所レ無。當レ使二從者觀一。酒井忠利出。招二從兵一護衛歸レ館。

內大臣曰。冲子在レ此。而我居二伏見一。其勢隔絕。奸所二以易レ入也。吾將二徙居與レ之密邇一。長盛正家請下以二西城一奉上レ之。秀賴嫡母北廳時來寓二西城一。於レ是去歸二京師一。內大臣代入焉。使三秀康留二守伏見一。十月。與二正信一議。放二治長雄久一。使二彈正

內大臣曰く、冲子此に在り。而して我れ伏見に居る。其勢(二)隔絕す。奸の入り易き所以なり。吾れ將に徙り居りてと之密邇せんとすと。長盛・正家、西城を以て之を奉ぜんと請ふ。秀賴の嫡母北廳(一)時に來りて西城に寓す。是に於て、去りて京師に歸る。內大臣、代りて入る。秀康をして伏見に留守せしむ。十月、正信と議して、治長・雄久を放ち、彈正少弼をして國に就かしむ。敢て就かず。而して武藏の府中に赴きて、以て其子に依る。內大臣遂に令を下して前田氏を擊つ。前田氏は金澤に治す。丹羽長重、請ひて曰く、臣の邑小松は金澤と隣す。北伐の役、願はくは先鋒(三)と爲らんと。許して之を遣す。細川忠興、聞きて來り見え、利長の爲に冤(四)を白す。因りて書を加賀に馳せ、其老橫山長知をして來り謝せしむ。內大臣、命じて利長の母を以て質と爲さしむ。利長、命を聽く。

少弱就レ國。不二敢就一而赴二武藏府中一。以依二其子一。内大臣遂下レ令擊二前田氏一。前田氏治レ于二金澤一。丹羽長重謂曰。臣邑小松與二金澤一鄰。北伐之役。願爲二先鋒一。許而遣レ之。細川忠興聞而來見。爲二利長一白レ冤。因馳二書加賀一。使二其老横山長知來謝一。内大臣命以二利長母一爲レ質。利長聽レ命。

㊀地勢かけはなる　㊁近しく近づく　㊂さきて　㊃むじつの罪を申開く

是月。浮田秀家將坂崎戸川岡花房四人。計攻二嬖臣長船某一。秀家欲レ誅二四人一。内大臣制二止之一。以二四人一附レ吏。時關東喧傳。上杉氏有二異圖一。石田氏亦招二四方有名之士一。島勝猛

是の月、浮田秀家の將、坂崎・戸川・岡・花房の四人、計りて嬖臣(一)長船某を攻む。秀家、四人を誅せんと欲す。内大臣之を制止(二)し、四人を以て吏に附す。時に關東喧傳(三)す、上杉氏、異圖(四)有りと。石田氏も亦、四方有名の士を招く。島勝猛は、嘗て甲斐の山形氏に仕へ、稱して兵を知ると爲す(五)。三成延きて謀主(六)と爲し、守備を修善す。内大臣人をして之を詰らしむ。答へて曰く、澤山は衢路に當る。其荒廢(七)修めざる可からずと。

㊀御氣に入りの臣　㊁制し止む　㊂やかましく言ひ傳ふ　㊃謀叛　㊄軍事に通ずとなす　㊅軍師　㊆荒れすたる

者。嘗仕二甲斐山形氏一。稱爲レ知レ兵。三成延爲二謀主一。修二繕守備一。內大臣使二人詰一レ之。答曰。澤山當二衝路一。其荒廢不レ可レ不レ修也。

五年。正月。內大臣在二大坂一。受二諸將參賀一。二月。中納言牙騎。有三鼠巢二其馬尾一。人異レ之。或引二文治故事一。以爲二亂兆一也。是月。內大臣令三增田長盛大谷吉隆促二景勝入覲一。景勝稱レ疾不レ來。而東北諸國爭上レ變。告三景勝有二反形一。乃令二伊奈

五年正月、內大臣、大坂に在り。諸將の參賀を受く。二月、中納言の牙騎(一)鼠の其馬尾に巢くふ有り。人、之を異しむ。或ひと文治(二)の故事を引きて、以て亂兆(三)と爲す。是の月、內大臣、增田長盛・大谷吉隆をして、景勝の入覲を促さしむ。景勝、疾と稱して來らず。而して東北の諸國爭ひて變を上り、景勝の反形(四)有るを告ぐ。乃ち伊奈圖書をして再び往きて之を詰らしむ。景勝枝梧して服せず。四月、復た僧承兌をして書を以て景勝の老直江兼續を諭さしむ。五月、兼續復書す。書辭悖慢(六)なり。內大臣大に怒り、遂に親ら將として東征せんと欲す。中老、奉行、竝に將に命じて代り往かしめんと請ふ。聽かず。乃ち大に軍事を議す。東國の地圖(七)を按じ、諸將の嚮ふ所を部署す。伊達氏は信夫より、佐竹氏は仙道より、最上氏は米澤より、前田・堀・村上・溝口氏は津川より、自餘の侯伯は、內大臣に從ひて、

圖書再往詰レ之。景勝枝梧不レ服。四月。復令三僧承兌以レ書諭二景勝老直江兼續一。五月。兼續復書。書辭悖慢。內大臣大怒。遂欲二親將東征一。中老奉行並請二命レ將代往一。弗レ聽。乃大議二軍事一。按二東國地圖一。部二署諸將所一レ嚮。伊達氏自二信夫一。佐竹氏自二仙道一。最上氏自二米澤一。前田堀村上溝口氏自二津川一。自餘傍伯。從二內大臣一。自二白川一進。堀氏老堀直政進言曰。白川之路絕險。所レ謂一夫當レ關。千夫不レ過者。恐難レ於レ進。宜レ爲二之計一。內大臣曰。彼執二一槍一。我亦執二一槍一。何難之有。乃下二令諸侯伯一治レ兵。以二來月一會二江戶一。石田三成佯請二自從一。不レ許。乃徙三前田氏質子二江戶一。養二保科正直女一。以妻二黑田長政一。十五日。秀賴來祖。

白川より進む。堀氏の老堀直政、進言して曰く、白川の路は絕險にして(八)、所謂一夫關に當れば、千夫過ぎられざるもの、恐らくは進むに難からん。宜しく之が計を爲すべしと。內大臣曰く、彼れ一槍を執れば、我も亦一槍を執る。何の難きことか之れ有らんと。乃ち令を諸侯伯に下して兵を治め、來月を以て江戶に會せしむ。石田三成佯りて自ら從はんと請ふ。許さず。乃ち前田氏の質を江戶に徙し、保科正直の女を養ひて、黑田長政に妻はす。十五日、秀賴、來りて祖す(九)。

(一) 主將の乘馬　(二) 平氏の厩馬の尾に鼠の巢くひたる故事　(三) 世の亂るゝ前兆　(四) 謀叛の狀　(五) 抵抗　(六) 條理に悖り無禮なり　(七) 地圖をしらべ　(八) 甚だ險阻にして　(九) 送別に來る

明日。內大臣留二佐野正吉于西城一。而自至二伏見一。以二鳥居元忠一爲二留守一。以二松平近正內藤家長松平家忠一副之。元忠嘗從二三形原之役一。傷レ股而跛。及レ老益艱二步履一。於レ是聽二堂上用一レ杖。翌夜。入謝曰。留守之任。臣與二近正一足矣。會津事勢重大。家長家忠皆宜二扈從一。內大臣曰。

明日、內大臣、佐野正吉を西城に留めて、自ら伏見に至り、鳥居元忠を以て留守と爲す。松平近正・內藤家長・松平家忠を以て之に副とす。元忠嘗て三形原の役に從ひて、股を傷けて跛す。(一)老に及びて益々步履に艱む。(二)是に於て、堂上に杖を用ふるを聽す。翌夜入りて謝して曰く、留守の任は、臣と近正とにて足る。會津は事勢重大なり。(三)家長・家忠皆宜しく扈從すべしと。(四)內大臣曰く、京畿に變無きを保せず。四將すら吾れ猶ほ以て少しとなすと。元忠曰く、變無くば則ち已む。苟も變有らば、則ち此城先づ兵を被らん。而して四もに應援なし。臣當に死して國に報ゆべし。他の將帥は宜しく留めて以て敵に貽すべからざるなりと。內大臣之を慰勞して曰く、吾れ童時、參河に質たり。汝參河より來り侍す。蓋し十二歲なり。今何ぞ老いたると。留りて與に談る。夜已に三鼓なり。元忠曰く、明朝は早發なり。(五)君少しく寢に就けと。因りて辭して曰く、臣此を以て永訣と爲すも、(六)亦知る可からざるなりと。將に起たんとす。足益々痺す。內大臣侍者に命じて

京識不レ保レ無レ變。四將吾猶以爲レ少也。元忠曰。無レ變則已。苟有レ變。則此城先被レ兵。而四無二應援一。臣當二死以報一レ國。他將帥不レ宜二留以貽一レ敵也。内大臣慰二勞之一曰。吾童時質二于參河一。汝自二參河一來侍。蓋十二歲矣。今何老也。留而與談。夜已三鼓。元忠曰。明朝早發。君少就レ寢。因辭曰。臣以レ此爲二永訣一。亦不レ可レ知也。將レ起。足益痺。内大臣命二侍者一扶出。目送攬レ涕而入。

扶け出さしめ、目送(七)して涕を攬りて入る。

(一) ひつこをひく　(二) あるくになやむ　(三) 事柄の形勢重大なり　(四) とも　(五) 早朝の出發なり　(六) 永の別れ　(七) 見送りて

旦日。駕發二伏見一。諸第將師在者盡從。至二大津一。見二京極高次一。賜レ物。及二其諸臣一。以二其子高知一而行。及二石部一。水口城主長東正家請レ饗レ之。會

旦日、駕、伏見を發す。譜第(一)の將帥の在る者盡く從ふ。大津に至る。京極(二)高次を見て物を賜ひ、其諸臣に及ぶ。其子高知を以て行く。石部に及ぶ。水口城主長東正家、之を饗せんと請ふ。會〻其異謀を告ぐる者有り。乃ち婦人(三)の輿に乘りて、夜、城下を過ぐ。正家驚き、土山に追及して、罪を謝す。内大臣、溫言(四)もて遣歸す。諸侯伯、相踵ぎて來り從ふ。兵五萬を得たり。沿道の將士、次を以て之を饗す。駿府に至る。府主中村一氏、篤疾にて死す瀕す。其子一榮をして軍

有下告二其異謀一者上。乃乘二婦人輿一。夜過二城下一。正家驚。追三及於二土山一。謝レ罪。内大臣温言遣歸。諸侯伯相踵來從。得二兵五萬一。沿道將士以レ次饗レ之。至二駿府一。府主中村一氏篤疾瀕レ死。使二其子一榮從一レ軍。軍至二箱根一。中納言使二大久保忠隣本多正信來迎一。七月。二日。至二江戸一。七日。大饗二内外諸將一。休二士馬一數日。下二軍令十三條一。使二前部先發一。

に從はしむ。軍、箱根に至る。中納言、大久保忠隣・本多正信をして、來り迎へしむ。七月二日、江戸に至る。七日、大に内外の諸將を饗し、士馬を休むること數日なり。軍令十三條を下し、前部をして先づ發せしむ。

㈠翌日 ㈡世臣の大將 ㈢女樂物 ㈣やさしき言葉

三成候二内大臣之東一也。曰。吾計中矣。乃議レ擧レ事。會大谷吉隆自二其邑敦賀一將レ會二東師一。三成使二其老樫原某

三成、内大臣の東するを候ふ。曰く、我が計中れりと。乃ち事を擧ぐるを議す。會〻大谷吉隆、其邑敦賀より將に東師に會せんとす。三成、其老樫原某をして之を垂井に要せしむ。吉隆問ひて其故を知り、樫原に語りて曰く、治部は才有りと雖も、而も衆の喜ぶ所と爲らず。今、大事を擧ぐ。誠に能く輝元・秀家を推して自ら之に下り、其軍を合せ以て景勝に應ぜば、或は萬一を徼幸す可し。然り

要ニ之垂井。吉隆問知ニ其故一。語ニ樫原一曰。治部雖レ有レ才而。不レ爲ニ衆所レ喜。今擧ニ大事。誠能推ニ輝元秀家一而自下レ之。合ニ其軍一以應ニ景勝一或可三微ニ幸萬一一焉。雖レ然我軍未レ合。而内府反レ旆。則所レ嚮魚潰矣。予將三以レ此諫ニ治部一也。乃至ニ澤山一。問ニ三成一曰。子何以克ニ内府一。三成曰。西道豪傑。皆應ニ嗣君之令。當三不レ日會ニ大坂。而東北諸國。概通ニ於景勝。景勝際ニ内府一數月。而我擧ニ西諸侯。長驅踰ニ箱根。可ニ一擧而克。是諸老所レ定議也

と雖も、我が軍未だ合はず。而して内府、旆を反さば則ち、嚮ふ所、魚潰せん。(三)予れ將に此を以て治部を諫めんとすと。乃ち澤山に至る。三成に問ひて曰く、子、何を以て内府に克つと。三成曰く、西道の豪傑、皆嗣君の令に應ず。當に日ならずして大坂に會すべし。而して東北の諸國概ね景勝に通ず。景勝、内府を際す(四)ること數月なり。而して我れ西の諸侯を擧げて、長驅(五)して箱根を踰えなば、一擧にして克つべし。是れ諸老の議を定めたる所なりと。

(一) 開戰を議す　(二) 僥倖を得可し　(三) 腐敗したる魚肉の潰ゆるが如く敗れん　(四) 引止む　(五) 遼踰をして

吉隆曰。是亦可レ謂ニ善計一矣。而吾不レ保ニ其

吉隆曰く、是も亦善計(一)と謂ふべし。而して吾れ其中るを保せざるなり。子、獨り夫の奕棋(二)する者を見ざるか。(三)中手相對すれば、算の成る者勝つ。即し國手に遇へば、

中一也。子獨不レ見二夫奕棋者一乎。中手相對。算成者勝。即遇二國手一。其所レ爲皆出二我意表一矣。內府國棋也。吾恐三其出二子之意表一也。且子擧レ事有二不可者五一。內府少小角二武田北條諸豪一。老レ於二兵機一。以二故太閤之英略一。終不レ能レ加焉。況於二今人一乎。其不可一也。內府國富兵強。諸大

其の爲す所皆我が意表に出づ。內府は國棋なり。吾れ其れ子の意表に出でんことを恐る。且つ子の事を擧ぐるに、不可なる者五あり。內府は少小より武田・北條の諸豪に角（五）して、兵機に老ゆ。故太閤の英略（六）を以てして、終に加ふる（七）能はず。況や今人に於てをや。其不可なる一なり。內府は國富み兵強く、諸大國の較（八）す可き者莫し。其不可なる二なり。內府は資望諸侯に重し。而して子は、卑位微力を以て事を首む。其不可なる三なり。內府は熊虎（九）の將多し。在昔織田右府、諸家の將帥を選びて、其像を圖繪す。時に德川氏は參河一國を有つ。而して圖に上る者十九人ありき。今は又其幾倍なるを知らず。我が將士に之に類する者有るか。其不可なる四なり。德川氏は士を撫すること一日に非ざるなり。部屬精銳にして義として國を始終（一〇）する者、數ふるに勝ふ可からず。卽ち事に死（一一）する有れば、其孤を襁褓より祿す。士（一二）の親附すること膠漆の如く然り。我は乃ち瓦合（一三）の師を以て之に抗す。其不可なる五なり。五の不可有り。子、必ず止めよと。

國莫可較者。其不可二也。內府資望重於諸侯。而子以卑位微力首事。其不可三也。內府多熊虎之將。在昔織田右府選諸家將帥。圖繪其像。時德川氏有參河一國。而上圖者十九人。今又不知其幾倍。我將士有類之者乎。其不可四矣。德川氏撫士非一日也。部屬精銳。義與國始終者。不可勝數。即有死事。祿其孤於襁褓。士之親附如膠漆然。我乃以瓦合之師抗之。其不可五矣。有五不可。子必止焉。

(一) 善き計　(二) 闘碁する者　(三) 並の相手なれば成算ある者勝つ　(四) 名手に遇へば其石を下す處我が思はぬところに出づ　(五) 力くらべして　(六) 軍のはずみを見ぬく　(七) 勝つこと能はず　(八) 比較す可きものなし　(九) 猛將　(一〇) 國と存亡を共にする者數へきれず　(一一) 戰死者の子はむつきの中より祿を給す　(一二) 士の親み附くことにかはうるしの如くつきて離れず　(一三) よくまとまらぬ軍勢

三成曰。我已定約。其可止乎。且諸大國皆仇內府。內府不足畏也。吉隆大息曰。吁。子而有此謀。盍蚤告我。吾託送內府。率兵從之。與

三成曰く、我れ已に(一)約を定む。其れ止むべけんや。且つ諸大國、皆內府を仇とす。內府畏るゝに足らざるなりと。吉隆、大息して曰く、吁、子にして此謀有る、盍ぞ蚤く我に告げざる。我れ內府を送るに託し、兵を率ゐて之に從ひ、長束・大藏と之を夾み擊たば、(二)一擊にして獲べし。今已に東す。是れ(三)虎を放ちて山に還せるなりと。乃ち(四)辭して出づ。

(一) まう約束をなす　(二) 一擊にてうち殺すを得べし　(三) 猛獸を山に放ち彌々猛威を振はしむるに同じ　(四) 別

長束大藏一夾ニ擊之。可ニ一擊而獲。今已東矣。是放レ虎還レ山也。乃辭出。

れを告げて歸る

既而不レ忍レ棄レ之。遂還佐ニ其謀。與倶至ニ大坂一。移ニ書遠近一。誣ニ內大臣不レ利ニ秀賴一。抑下留西諸侯赴ニ江戸一者上。立花宗茂在ニ柳川。得ニ大坂檄。其老小野某曰。內府雖レ握レ兵。不レ能レ較ニ西軍之衆一。前跋後疐。不レ過三保ニ守箱

既にして之を棄つるに忍びず。遂に還りて其謀を佐く。與倶に大坂に至り、書を遠近に移して、內大臣は秀賴に利ならずと誣ひ、西、諸侯の江戸に赴く者を抑留す。立北宗茂柳川に在り、大坂の檄を得、其老小野某曰く、內府、兵を握ると雖も、西軍の衆に較する能はず。前跋後疐、箱根の險を保守するに過ぎず。而して天下皆豐臣氏に歸す。速かに大坂に就くに若かずと。衆皆之を是とす。立花增時曰く、公等の言ふ所は、皆其形なり。吾れ聞く、智將を無形に勝つと。內府の東する、必ず豫め西の變有らんことを知る。變を聞くの日、即ち軍を還さん。且つ黑田孝高・加藤清正、我が近地に在り。而して素より諸奉行と善からず。必ず內府に應ぜん。我れ宜しく之と倶に進退すべしと。宗茂終に小野の言ふ所に

根之險一。而天下皆歸二豐臣氏一矣。不レ若三速就二大坂一。衆皆是レ之。立花增時曰。公等所レ言。皆其形也。

吾聞。智將勝レ於二無形一。內府之東。必豫知二西之有一レ變。聞レ變之日。即還レ軍矣。且黑田孝高加藤清正在二我近地一。而素與二諸奉行一不レ善。必應二內府一。我宜二與レ之俱進退一。宗茂終從二小野所一レ言。孝高清正果不レ從二大坂之徵一。曰。三成藉二口幼主一。以樹二私權一。不レ可レ與也。乃勸二島津義弘一令レ歸二東軍一。而三成急促二義弘一。義弘終應二西軍一。

孝高清正又諭二小早川秀秋一。秀秋嘗爲二三成所一レ讒。獲三罪於二秀吉一。以二內大臣救一レ之。乃得レ免。常思二報效一。其從母

從ふ。孝高・清正果して大坂の徵に從はず。曰く、三成、口を幼主に藉りて(三)、以て私權を樹つ。與す可からざるなりと。乃ち島津義弘に勸めて東軍に歸せしむ。而して三成、急に義弘を促す。義弘終に西軍に應ず。

(一) おさへとめる　(二) 前につまづきて後にたふる　(三) 幼主を助くるを口實して私權をはからんとす

孝高・清正、又小早川秀秋を諭す。秀秋嘗て三成の讒する所と爲りて、罪を秀吉に獲、內大臣の之を救ふを以て、乃ち免るゝを得たり。常に報效(一)を思ふ。其從(二)母北廳氏、又內府に負く勿れと戒む。而して諸奉行、陽に之を推奉す。秀秋も亦陽に之に應ず。

(一) 力を致して恩に報ゆること　(二) をば

北聽氏。又戒レ勿レ負ニ內府一。而諸奉行陽推ニ奉之一。秀秋亦陽應レ之。

三成議收ニ諸將孥于城內一以爲レ質。遣ニ兵諸邸一取レ之。池田輝政妻爲ニ內大臣女一。加藤清正娶ニ水野忠重女一。與ニ黑田長政妻一。並爲ニ內大臣養女一。其族人留守者。皆以レ計脫レ之。細川忠興妻明智氏。使ニ其婦前田氏先遁一。而圍巳合。乃下レ令禁レ鬭。縱レ火自裁。三成懼而戢レ兵。使ニ人入ニ西城一。諭ニ佐野正吉一。十四日。正吉出ニ諸姬侍一自奔ニ伏見一。毛利輝元入居ニ西城一。

三成、議して諸將の孥(一)を城內に收めて以て質と爲さんとし、兵を諸邸に遣して之を取る。池田輝政の妻は內大臣の女たり。加藤清正は水野忠重の女を娶る。黑田長政の妻と、並に內大臣の養女たり。其族人留守の者、皆計を以て之を脫す。細川忠興の妻明智氏、其婦前田氏をして先づ遁れしむ。而して圍已に合す。乃ち令を下して鬭を禁じ、火を縱ちて自裁(二)す。三成懼れて兵を戢め、人をして西城に入りて、佐野正吉を諭さしむ。十四日、正吉、諸姬侍を出して、自ら伏見に奔る。毛利輝元入りて西城に居る。

(一) 妻子 (二) 自殺す

於レ是侯伯會ニ

是に於て、侯伯大坂に會する者四十餘人、應援を爲す者三十六國なり。乃ち議し、

大坂一者四十餘人。爲二應援一者三十六國。乃議引レ軍東下。令下增田長盛遣二使伏見一。諭中鳥居元忠上曰。大兵東下。將三先攻二伏見城一。城本豐臣氏之有也。子棄而東。誰得二誹議一。吾受二內府眷顧一。又與レ子親善。故相告也。子速決レ計。元忠與二三成一答曰。我知下受二君命一而守上。不レ知下聽二他人令一而走上也。足下誠念二寡君之顧一乎。則當レ見二勉厲一。今乃示以二走路一。殊非レ所レ望。德

軍を引きて東下し、增田長盛をして使を伏見に遣し、鳥居元忠を諭さしめて曰く、大兵東下し、將に先づ伏見城を攻めんとす。城は本豐臣氏の有なり、子、棄てて東するも、誰か誹議(一)するを得ん。吾れ內府の眷顧(二)を受け、又(三)子と親善なり。故に相告ぐ。子速かに計を決せよと。元忠三成と答へて曰く、我れ君命を受けて守ることを知る。他人の令を聽きて走ることを知らず。足下、誠に寡君の顧を念はんか。則ち當に勉厲せらるべし。今乃ち示すに走路(四)を以てす。殊に望む所に非ず。德川氏、人に乏しからず(五)。而して我が輩特に此任を受く。固より志を死に決す。百萬の敵有りと雖も、敢て逃避(六)せず。請ふ速かに來りて以て(七)我が鋒を試みよ。使者再び至らば、刀有るのみと。乃ち使を關東に馳せて變事を告ぐ。

㈠ 非難する　㈡ 贔負　㈢ 一本に久とあり　㈣ 逃げみち　㈤ 人物多し　㈥ にげかくれせず　㈦ 我れと戰爭を試みられよ

川氏不レ乏レ於レ人。而我獨特受二此任一。固決二志於レ死一。雖レ有二百萬敵一。不二敢逃避一。請速來以試二我鋒一。使者再至。有レ刀而已。乃馳二使關東一告二變事一。

二十日。浮田小早川島津鍋島等十將軍。合二兵四萬一來攻。城兵僅二千。元忠盡焚二城下街市一。謂二諸將一曰。吾與二諸君一。以二寡兵一守二大城一。不レ可二相救一。各守二其所一。死而後已。乃命レ酒訣飲。分レ陣而守。木下勝俊在二城内一。不二自安一而出。佐野正

二十日、浮田・小早川・島津・鍋島等十將の軍、兵四萬を合せて來り攻む。城兵は僅かに二千なり。元忠盡く城下の街市を焚き、諸將に謂ひて曰く、吾れ諸君と、(一)寡兵を以て大城を守る。相救ふべからず。各〻其所を守り、死して後に已まんと。乃ち酒を命じし(二)訣飲し、陣を分ちて守る。木下勝俊城内に在り。自ら安んぜずして出づ。佐野正吉入りて守らんと請ふ。内藤家長辭して曰く、子は俱に守るべからざる者なりと。正吉曰く、我れ已に大坂を棄てしは、諸姫の故を以てのみ。我れ將に此に死して以て我が志を明かにせんとすと。乃ち之を納る。茶商上林政重素より我が(三)眷顧を受く。亦請ひて城に入り、茶筅を以て號と爲す。秀秋・義弘款を元忠に送り、城に入りて俱に守らんと請ふ。元忠納れず。諸軍乃ち城を圍む。松平家忠出で戰ふ。利あらず。乃ち兵を收めて(四)固く守る。大坂の兵乃ち別

吉請㆓入守㆒。內藤家長辭曰。子不㆑可㆓倶守㆒者。正吉曰。吾日棄㆓大坂㆒者。以㆓諸姬故㆒耳。我將㆘死㆑于此以明㆗我志㆖。乃納㆑之。茶商上林政重素受㆓我眷顧㆒。亦請而入㆑城。以㆓茶筅㆒爲㆑號。秀秋義弘送㆔款於㆓元忠㆒。請㆓入㆑城倶守㆒。元忠不㆑納。諸軍乃圍㆑城。松平家忠出戰。不㆑利。乃收㆑兵固守。大坂兵乃別攻㆔細川藤孝于㆓田邊㆒。

に細川藤孝を田邊に攻む。

(一) 少數の兵 (二) 訣別の宴を張り (三) 贔負 (四) 兵を引きまとめて固守す

伏見受㆑圍之前日。中納言發㆓江戶㆒。其明日。內大臣繼發。行四日至㆓小山㆒。而伏見使者至。內外大驚。中納言自㆓宇都宮㆒還。少將秀康自㆓結城㆒來。親信將士皆會焉。

伏見、圍を受くるの前日、中納言江戶を發し、其明日、內大臣繼ぎて發す。行くこと四日にして小山に至る。而して伏見の使者至る。內外大に驚く。中納言は宇都宮より還り、少將秀康は結城より來る。親信の將士皆會す。本多正信曰く、從征(一)の諸侯、其質は盡く大坂に在り。必ず我が用を爲さじ。今の計を爲さんには、宜しく盡く之を罷め歸して、獨り諸舊臣(二)と四疆(三)を固守すべしと。衆多く之を然りとす。井伊直政進みて曰く、德川氏の天下を取るは、正に今日に在り。臣聞く、天の與を取らされば、反りて其殃を受くと。盍ぞ速かに大旆(四)を

本多正信曰。從征諸侯。其質盡在二大坂一。必不レ爲二我用一。爲二今計一者。宜下盡罷二歸之一。而獨與二諸舊臣一固中守四疆上焉。衆多然レ之。井伊直政進曰。徳川氏取二天下一。正在レ於二今日一。臣聞。天與不レ取。反受二其殃一。盍下速反二大旆一掃中蕩羣雄上。區區保二一隅一。臣所レ不レ知也。作レ色而出。

反して羣雄を掃蕩せざる。區區(五)として一隅を保つは、臣の知らざる所なりと。色を作して出づ。

(一)征伐に從ふ諸侯　(二)我が役に立たじ　(三)四方の國境　(四)大將親征して諸豪を攻滅せざる　(五)こせこせとして一隅を保つはよろしからず

秀康曰。直政言是也。宜下留二一要將一而舉レ軍西上。內大臣曰。然。使下秀康出迎二直政一。入舉中前議上。且日。下レ令盡會二諸侯于小山一。使下井伊直政。

秀康曰く、直政の言是なり。宜しく(一)一要將を留めて、舉軍西上すべしと。內大臣曰く、然りと。秀康をして出でて直政を迎へ、入りて前議を舉へしむ。旦日令を下して盡く諸侯を小山に會す。井伊直政・本多忠勝をして命を傳へしめて曰く、大坂の將吏、景勝と謀を通じ、關西大に亂る。彼れ諸質子を挾みて、幼(二)主に託言す。諸君、縱ひ其奸を知るも、亦(三)情義の違ひ難き所ならん。即し西軍に歸せんと欲する者は、宜しく速かに解き去るべし。吾れ毫も憾むる所無し。

本多忠勝傳レ命曰。大坂將吏。與二景勝一通レ謀。關西大亂。彼挾二諸質子一。而託三言於二幼主一。諸君縱知二其奸一。亦情義之所レ難レ遣也。即欲レ歸二西軍一者。宜二速解去一。吾毫無レ所レ憾焉。當下資二其芻糧一送而達上レ之。諸將相目。未レ有レ所レ答。福島正則進曰。三成首レ事。非二幼主所一レ知。臣等焉受二其頤指一。以敵レ於二足下一哉。願充二前驅一。殄二滅奸黨一。淺野左京大夫。與二黑田長政池田輝政細川忠興加藤嘉明等一。皆贊二其議一曰。吾曹從二足下一。固不レ顧二妻孥一。內大臣悅。饗レ之。

當に其芻糧(四)を資して送りて之を達せしむべしと。諸將相目して、未だ答ふる所有らず。臣等焉んぞ其頤指(五)を受けて、以て足下に敵せんや。願はくは前驅に充てよ。奸黨(六)を殄滅せんと。淺野左京大夫、黑田長政・池田輝政・細川忠興・加藤嘉明等と、皆其議を贊して曰く、吾が曹、足下に從ふに、固より妻孥を顧みずと。內大臣悅びて、之を饗す。

(一) 一人の良將をとゞめて　(二) 秀頼公を助くるを口實とす　(三) 人情義理の爲に吾軍に從ひ難きものあらん　(四) 秣と糧食と　(五) あごにて指圖する　(六) わるもの共を滅し盡さん

使二人問一曰。東

人をして問はしめて曰く、東西に敵を受く。我が馬首の嚮ふ所、東を先にせんか、

西受レ敵。我馬首所レ嚮。先レ東乎。抑先レ西乎。諸侯答曰。西哉。正則引レ滿屬二長政一曰。近日必以二三成行長頭一爲二下物一。內大臣出。面二謝諸侯一。諭曰。公等先行。吾亦當二繼往一。因謂二德永壽昌一曰。子知レ兵矣。今日之事。勝敗如何。壽昌曰。雖三諸侯伯擧二敵足下一。而各自爭レ威號令不レ一。敗

抑々西を先にせんかと。諸侯答へて曰く、西なるかなと。正則滿(一)を引きて長政に屬して曰く、近日必ず三成・行長の頭を以て下物(二)と爲さんと。內大臣出でて、諸侯に面謝し、諭して曰く、公等先づ行け。我も亦、當に繼ぎて往くべしと。因りて德永壽昌(三)に謂ひて曰く、子は兵を知る。今日の事、勝敗は如何と。壽昌曰く、諸侯伯擧りて足下に敵すと雖も、而も各々自ら威を爭ひて、號令一ならず。敗形(四)已に覩ゆと。內大臣曰く、然り。凡そ勝敗の決は、元帥に在り。我れ無似(五)と雖も、又事に更る者なり。諸君苟も我が約束を聽かば、吾れ天下を平げんこと、五六十日を出でじと。卽ち壽昌に騮馬を賜ひて、以て鄉導と爲す。正則に驪馬を賜ひて、以て先鋒と爲す。政直・忠勝(六)、間を請ひて曰く、諸客將の意未だ測る可からざるなり。藉第他無からしむるも、此輩をして手を下さしめて、以て功を成すを得ば、異日必ず曰はん、我が輩、天下を取りて、以て德川氏に授くと。臣、主公の爲に之を羞づ。請ふ、臣等を以て監軍(七)に充てよ。當に率ゐて以て往くべしと。乃ち之を

形已覩矣。内大臣曰。然。凡勝敗之決。在レ於二元帥一。我雖二無似一。又更レ事者。諸君苟聽二我約束一。吾平二天下一。不レ出二五六十日一矣。即賜二壽昌騮馬一以爲二鄕導一。賜二正則驪馬一。以爲二先鋒一。直政忠勝請レ間曰。諸客將之意未レ可レ測也。藉第令レ無レ他。使二此輩下一レ手。以得レ成レ功。異日必曰。我輩取二天下一。以授二德川氏一。臣爲二主公一羞レ之。請以二臣等一充二監軍一。當二率以往一焉。乃許レ之。諸將將レ發。皆獻二誓書一納レ質。

許す。諸將將に發せんとす。皆誓書を獻じ質を納る。

㊀滿酌を飲み盡し杯をさして　㊁酒の肴　㊂面會禮をのべ　㊃敗戦の狀すでに見ゆ　㊄不肖　㊅盧毛の馬　㊆いくさ目附

於レ是擇二留守之任一。本多正信薦二秀康一。乃召命レ之。秀康曰。兒願效二力西討一。何留守爲。内大臣曰。汝年少。不レ知二留守任重一耳。且諸侯置二質

是に於て、留守の任を擇ぶ。本多正信、秀康を薦む。乃ち召して之を命ず。秀康曰く、兒願はくは力を西討に效さん。何ぞ留守を爲さんと。内大臣曰く、汝、年少し。留守の任の重きを知らざるのみ。且つ諸侯、質を江戸に置く。汝に非ざれば以て羣心(一)を繫ぐ莫しと。秀康猶ほ肯ぜず。内大臣叱して曰く、汝、景勝を畏るゝかと。秀康乃ち頓首して曰く、兒留らん。苟も兒に許すに大將を以てせば、則ち景勝をして白河(二)を出づること一歩ならしむるともせしめじ。(三)大人復た憂

江戸一。非レ汝莫三以繫二羣心一。秀康猶不レ肯。内大臣叱曰。汝畏二景勝一耶。秀康乃頓首曰。兒留矣。苟許レ兒以二大將一。則不レ使下景勝出二白河一一歩上。大人勿二復憂一。正信進拊二其膝一曰。壯哉郎君。無レ有レ論爲二大將一。內大臣濺レ泣。取二一甲一授レ之。曰。是我少小所レ被。未三嘗視二背於ㇾ敵。今以附レ汝也。秀康拜辭。以二萬人一陣レ于二宇都宮一。令三東北豪傑皆受二其節度一。

ふる勿れと。正信進みて其膝を拊ちて曰く、壯なるかな郎君。大將たるに論有る無れと。内大臣泣を濺ぎ、一甲(四)を取りて之に授けて曰く、是れ我が(五)少小に被る所なり、未だ嘗て背を敵に視さず。今以て汝に附するなりと。秀康拜辭し、萬人を以て宇都宮に陣す。東北の豪傑をして、皆其節度(六)を受けしむ。

(一)衆人の心を統ぶること能はず　(二)首を地にたゝきつけて　(三)父上にはまた御心配に及ばず　(四)一領のよろひ　(五)吾幼少の時より被るよろひなり　(六)指揮をうけしむ

初佐竹義宣。觀二望兩端一。陰遣二梟將車猛虎一。率レ兵救二景勝一。及二西事作一。

初め佐竹義宣、兩端を觀望し、陰かに梟將車猛虎を遣し、兵を率ゐて景勝を救はしむ。西事作(一)るに及び、益〻守備を修(二)む。内大臣人をして之を詰らしめて曰く、子、四萬の衆を撫して、一人の東に馳する者無し。我れ疑無き能はず。

益修二守備一。內大臣使二人諭一レ之曰。子撫二四萬之衆一。無二一人東馳者一。我不レ能レ無レ疑。苟不レ懷二他心一。則速擊二會津一。且納レ質焉。答曰。僕於二足下一。素無二怨仇一。何有二他心一哉。至レ若二妻子一。盡在二大坂一。無二復可レ納者一。諸將請レ討レ之。內大臣曰。且置レ諸。上國本也。東鄙末也。苟覆二其本一。末不レ患二其不一レ靡矣。乃使下平岩親吉松平信一統二下總諸豪一以備上レ之。

苟も他心を懷かずんば、則ち速かに會津を擊て。且つ質を納れよと。答へて曰く、僕、足下に於て、(三)素より怨仇無し。何ぞ他心有んや。妻子の若きに至りては、盡く大坂に在り。復た納る可き者無しと。諸將之を討たんと請ふ。內大臣曰く、且く諸を置け。上國は本なり。(四)東鄙は末なり。苟も其本を覆さば、末は其の靡かざるを患へずと。乃ち平岩親吉・松平信一をして、下總の諸豪を統べて以て之に備へしむ。

(一) 二心を懷きて兩者の樣子を見る　(二) 猛將　(三) 元來うらみもなくあたにもあらず　(四) 東方の片田舍

初伊達政宗在二大坂一。請三先馳歸以備二會津一。內大臣笑曰。子又發二故

初め伊達政宗大坂に在り。先づ馳せ歸りて以て會津に備へんと請ふ。內大臣笑ひて曰く、子又(一)故態を發するか。事平がば、當に賞するに地を以てすべし。愼みて遽かに戰ふ勿れと。政宗國に歸り、卽ち襲ひて白石を取る。內大臣、中澤主税を

態乎。事平。當ニ賞以ヒ地。愼勿ニ遽戰一。政宗歸レ國。即襲取ニ白石一。内大臣使下中澤主稅往告ニ西事一。問中其去就上。政宗誓レ不レ貳。主稅曰。内府有ニ別命一。使ニ公君臣熟議三日而後告ヒ之。政宗請ニ速聞ヒ之。不レ答。明日。固請。乃答曰。内府使レ謂レ公曰。善留ニ兵宇都宮一而西上。公收レ兵退守ニ其疆一。彼

して往きて西事を告げ、其去就を問はしむ。政宗貳せざるを誓ふ。主稅曰く、内府(三)別命有り。公をして君臣熟議(二)すること三日にして後に之を告げしめよと。政宗速かに之を聞かんと請ふ。答へず。明日固く請ふ。乃ち答へて曰く、内府、公に謂はしめて曰く、吾れ兵を宇都宮に留めて西上す。公、兵を收めて退きて其疆を守れ。彼れ其後を慮り、敢て我を尾(四)せじ。我れ西軍に捷ちて來り、夾みて之を殲すべしと。政宗曰く、吾れ力戰して此城を取る。曷んぞ遽かに之を棄つべけんや。宜しく勢に乘じて會津に入る可しと。主稅曰く、是れ内府の丁寧にする所以なり。勝敗は必す可からず。苟も敗衄する有らば、適に敵勢を張り、四近皆叛く。資けて西に鄕はば、其鋒、豈に遏(五)め易からんや。願はくは之を熟思(六)せよ、公、苟も聽從せば、寡君更に密旨有りと。政宗、沈思(七)すること之を久しくして、乃ち問ひて曰く、密旨は何如と。主親其耳に附きて語りて曰く、事平がば、會津百萬石を以て公に附せんと。政宗、大に喜び、人をして送りて小山に至

慮二其後一。不二敢尾一レ我。我捷二西軍一而來。可二夾而殲一レ之。政宗曰。吾力戰取二此城一。焉可二遽棄一レ之。宜三乘レ勢入二會津一。主税曰。是內府所三以丁二寧一也。勝敗不レ可レ必。苟有二敗衄一。適張二敵勢一。四近皆叛。翼而西鄉。其鋒豈易レ遏乎。願熟思レ之。公苟聽從。寡君更有二密旨一。政宗沈思久レ之。乃問曰。密旨何如。主税附二其耳一語曰。事平。以二會津百萬石一附レ公。政宗大喜。使下人送至二小山一乞中印信上。收レ兵歸二大崎一。

りて印信を乞はしめ、兵を收めて大崎に歸る。(八)

(一)何時もの辭を出すか　(二)つくか背くかを問はしむ　(三)特別に命令あり　(四)後を追ふ　(五)戰ひ負けなば　(六)よく〳〵考へよ　(七)考へこむこと稍々暫くありて　(八)證據の書附

最上義光素戴二內大臣一。則首攻二會津一。率二東陲諸侯一。臨二米澤口一。堀直政其子直寄。與二溝口村上氏一數撃下越後人應二會津一者上。內大臣皆下レ令禁レ戰。

最上義光素より內大臣を戴く。則ち首(一)として會津を攻め、東陲(二)の諸侯を率ゐて、米澤口に臨む。堀直政其子直寄、溝口・村上氏と、數〻越後人の會津に應ずる者を擊つ。內大臣、皆令を下して戰を禁ず。

(一)第一に　(二)東のはての國

於レ是東事處置盡定。乃使下西征諸將以二二十八日一發中小山上。當二是時一。天下將士。東西嚮背。來往如レ織。而父子兄弟分二處兩地一者。迭懷二危疑一。訛言沸騰。

是に於て、東事の處置盡く定る。乃ち西征諸將をして二十八日を以て小山を發せしむ。是の時に當りて、天下の將士、東西嚮背(二)、來往織るが如し(三)。而して父子兄弟、兩地に分處する者は、迭に危疑を懷き、訛言(四)沸騰す。

(一) 處分ずみとなる　(二) 東につくもの西につくもの　(三) ゆききの繁きこと機を織るが如し　(四) 誤りの言傳へ盛に行はるゝこと湯のわきあがる如し

內大臣使三召二還黑田長政一。謂レ之曰。卿謂二正則之心如何一也。答曰。臣保二其無一レ他。卽有レ他。臣控二制之一。乃賜二長政鎧冑一遣レ之。

內大臣、黑田長政を召還(一)せしめて、之に謂ひて曰く、卿、正則の心如何と謂ふかと。答へて曰く、臣、其の他なきを保す(二)。卽し他有らば、臣之を控制(三)せんと。乃ち長政に鎧冑を賜ひて之を遣る。

(一) 召しかへす　(二) 他意なきを保證す　(三) ひかへとゞめん

生駒一正蜂須賀至鎮九鬼守隆。其父皆在西軍。内大臣留之不遣。既而一正父近正。至鎮父家政皆送款。守隆亦固請。歸志摩招其父嘉隆。乃皆遣之。

生駒一正、蜂須賀至鎮、九鬼守隆、其父は皆西軍に在り。内大臣、之を留めて遣らず。既にして一正の父近正（一）、至鎮の父家政、皆款（二）を送る。守隆も亦固く（三）請ふ、志摩に歸りて其父嘉隆を招かんと。乃ち皆之を遣る。

（一）按ずるに近正は親正　（二）好を通ず　（三）是非行かんことを請ふ

山内一豐之室。自大坂馳使告事。以路經敵中。襞書爲笠紏。一豐得之。不解而獻。内大臣還之曰。猶觀也。一豐又問堀尾忠氏曰。子

山内一豐の室、大坂より使を馳せて事を告ぐ。路、敵中を經るを以て、書（二）を襞して笠紏（一）を爲す。一豐之を得て、解かずして獻ず。内大臣、之を還して曰く、猶ほ觀るがごとしと。一豐又堀尾忠氏に問ひて曰く、子、何を以て忠を表すかと。忠氏曰く、城を納れんと欲すと。一豐曰く、善しと。乃ち自ら其掛川城を納る。是より先、忠氏の父吉晴、内大臣の命を受けて、濱松より越前に赴く。將に其別邑府中を守らんとす。途を知る所の利井重茂と云ふ者に過ひて、與俱に刈谷に

何以表レ志。忠氏曰。欲レ納レ城。一豐曰。善。乃自納二其掛川城一。先レ是。忠氏父吉晴受二內大臣命一。自二濱松一赴二越前一。將レ守二其別邑府中一。途遇二所レ知利非重茂者一。與俱至二刈谷一。刈谷城守水野忠重饗レ之。卒爲二重茂所一レ剌。吉晴驚。立斬二重茂一。重茂。石田氏所レ使也。報至二小山一。曰。吉晴殺二二人一。內大臣不レ懌。衆欲レ執二忠氏一。中納言曰。吾識二彼父子爲一レ人。是必謬傳也。已而得レ實。遣二忠重子勝成一。還撫二其衆一。而忠氏首發二納レ城之議一。一豐既納二掛川一。忠氏亦納二濱松一。中村一榮納二駿府一。有馬豐氏納二横須賀一。池田輝政納二吉田一。田中吉政納二岡崎一。福島正則納二清洲一。乃令二諸舊臣代守一レ焉。

至る。刈谷城主水野忠重、之を饗す。卒に重茂の刺す所と爲る。吉晴驚き、立ちどころに重茂を斬る。重茂は石田氏の使ふ所なり。(三)報小山に至る。曰く、吉晴、二人を殺すと。内大臣懌ばず。衆、忠氏を執へんと欲す。中納言曰く、吾れ彼れ父子の人と爲りを識る。是れ必ず謬傳ならんと。(四)已にして實を得たり。忠重の子勝成を遣し、還りて其衆を撫せしむ。而して忠氏、首として城を納るゝの議を發す。一豐、既に掛川を納る。忠氏も亦濱松を納る。中村一榮は駿府を納る。有馬豐氏は横須賀を納る。池田輝政は吉田を納る。田中吉政は岡崎を納る。福島正則は清洲を納る。乃ち諸舊臣をして代りて守らしむ。

(一) 夫人　(二) 州をたゝみて笠の紐により込む　(三) 知らせ　(四) 誤りの傳ならん

海道於レ是闢。而山道未レ闢。本多正信建レ策。擢二木曾氏遺臣山村良勝千村吉晴一。歸徇二木曾一。盡逐二西吏一。命二遠山友次一徇二東美濃一。取二其故邑一。西尾光敎以二美濃兵一來歸。眞田昌幸以二信濃兵一叛去。昌幸長子信幸。素受二我眷顧一。固諫レ之。昌幸使三之赴二小山一。而自與二次子幸村一西走。夜過二沼田一。沼田。信幸邑也。欲三入見二其婦一。婦本多氏。忠勝女也。辭曰。良人不二

海道是に於て闢く。而して山道は未だ闢けず。本多正信策(一)を建つ。木曾氏の遺臣山村良勝、千村吉晴を擢んでて、歸りて木曾を徇へ、盡く西吏を逐はしめん。遠山友次に命じて東美濃を徇へて、其故邑(二)を取らしめんと。西尾光敎は美濃の兵を以て來り歸す。眞田昌幸は信濃の兵を以て叛き去る。昌幸の長子信幸、素より我が眷顧を受く。固く之を諫む。昌幸之をして小山に赴かしむ。而して自ら次子幸村と西走す。夜、沼田を過ぐ。沼田は、信幸の邑なり。入りて其婦を見んと欲す。婦本多氏は忠勝の女なり。辭して曰く、良人(三)同じく歸らず。是れ必ず故有らん。妾敢て私に門を開かずと。其子を見んと欲す。曰く、公、孫を抱かんと欲せば、何ぞ必ずしも今日ならんと。遂に士卒に命じて陴に乘らしむ。昌幸強ふる能はず。去りて上田に歸り、兵を勵して以て我が軍を俟つ。

(一) はかりごとをなす　(二) もとの領邑　(三) をつと

同歸。是必有ㇾ故。姿不㆓敢私開㆒ㇾ門。欲ㇾ見㆓其子㆒。曰。公欲ㇾ抱ㇾ孫。何必今日。遂命㆓士卒㆒乘ㇾ障。昌幸不ㇾ能ㇾ強。去歸㆓上田㆒。勵ㇾ兵以俟㆓我軍㆒。

我軍分爲ㇾ二。内大臣由㆓海道㆒。中納言由㆓山道㆒。令定未ㇾ發。内大臣乃赦㆓淺野大野土方三人㆒。以㆘土方雄久與㆓前田利長㆒有㆖ㇾ姻。遣㆓之北陸㆒。勗㆓利長㆒。使㆔發ㇾ兵扼㆓越前㆒。令㆘富田知信稻葉道通等。就㆓封伊勢㆒。各自爲㆖ㇾ守。又發㆓間使㆒。予㆓書于㆓黑田孝高加藤清正㆒。遙授㆓方略㆒。使㆘統㆓西海將士㆒。以撓㆗西軍之後㆖。

我が軍、分れて二と爲り、内大臣は海道よりし、中納言は山道よりす。令定りて未だ發せず。内大臣乃ち淺野・大野・土方の三人を赦す。土方雄久、前田利長と姻（一）有るを以て、之を北陸に遣し、利長に勗め、兵を發して越前を扼せしむ。富田知信、稻葉道通等に、封に伊勢に就きて、各〻自ら守を爲さしむ。又間使（二）を發し、書を黑田孝高・加藤清正に予へて、遙かに方略（三）を授け、西海の將士を統べて、以て西軍の後を撓さしむ。

（一）姻戚の關係あるを以て　（二）内密の使者　（三）はかりごと

孝高益以ㇾ書

孝高益〻書を以て小早川秀秋を諭して、款を我に歸せしむ。秀秋伏見より書を

諭小早川秀秋。歸款於我。秀秋自伏見送書小山。謝曰。僕發筑前來上國。本將會於東征。不圖爲賊所要。共攻伏見。勢不可獨異。請俟大旆來。倒戈以償前罪。初西軍向伏見。以爲當一鼓而取也。已而我諸將捍禦不屈。敵益用大礮巨熕。攻擊十晝夜。城中有甲賀

小山に送り、謝して曰く、僕、筑前を發して上國に來るは、本將に東征に會せんとす。圖らざりき、賊の要する所と爲りて、共に伏見を攻めんとは。勢獨り異なる可からず。請ふ、大旆の來るを俟ちて、戈を倒にして以て前罪を償はんと。初め西軍伏見に向ひ、以爲へらく、當に一鼓して取るべしと。已にして我が諸將捍禦して屈せず。敵益〻大礮巨熕を用ひて、攻擊すること十晝夜なり。城中に甲賀の人有り。長束正家の部兵、之と相識る。浮田秀家、命じて書を城上に射させ、其內應を誘ひて曰く、聽かずんば則ち汝の孥を磔せんと。八月朔、甲賀の人、火を松城に縱つ。西軍爭ひ登る。秀秋、名越の堡に逼る。松平家忠・松平近正力戰して之に死す。島津義弘、西堡に逼る。內藤家長門を開きて射て、十餘人を殪す。創を被りて退き入る。書を作りて一卒に附して曰く、汝、圍を潰して之を關東に達せよと。遂に火を縱ちて自殺す。其子小一郎、安藤定次・佐野正吉・山岡甫安と、皆之に死す。

人。長束正家部兵與レ之相議。浮田秀家命レ射ニ書於城上ー誘ニ其內應ー曰。不レ聽則磔ニ汝妻孥ー。八月。朔。甲賀人縱ニ火松城ー西軍爭登。秀秋過ニ名越堡ー松平家忠松平近正力戰死レ之。島津義弘過ニ西堡ー內藤家長開レ門而射。殪ニ十餘人ー被レ創退入。作レ書附ニ一卒ー曰。汝潰レ圍達ニ之關東ー。遂縱レ火自殺。其子小一郎。與ニ安藤定次佐野正吉山岡甫安ー皆死レ之。

(一)大將の出陣 (二)裏切して以前の罪のうめあはせをなせん (三)防ぎ守る (四)妻子をはりつけにせん

外城已陷。鳥居元忠之卒勸ニ其自殺ー。元忠曰。未也。殺ニ敵一人ー。亦非レ報レ國乎。乃毀レ壁亂射。殺傷過當。敵發ニ火箭ー焚ニ樓櫓ー。隨撲隨燎。元忠知レ不レ可レ守。麾ニ兵二百ー。開レ門血戰。七合七

外城已に陷る。鳥居元忠の卒其自殺を勸む。元忠曰く、未だし。敵一人を殺すも、亦國に報ゆるに非ずやと。乃ち(一)壁に毀りて亂射す。(二)殺傷過當す。敵火箭を發して樓櫓を焚く。隨ひて撲てば隨ひて燎く。元忠、守るべからざるを知り、兵二百を麾きて、門を開きて(三)血戰す。七合七克、敵衆羣り進み、我が兵皆斃る。(四)廝養の卒に至るまで戰死せざるは無し。元忠薙刀を杖つきて、階に踞して息ふ。敵人雜賀重次進みて之を撃たんと欲す。元忠曰く、吾は本城の大將なり。汝に首を授けんと。重次槍を横たへて(五)揖して曰く、僕豈に敢てせんや。君請ふ自刃せよと。元忠乃ち重次をして己の鎧を釋かしめ、自ら腹を割きて死す。年

克。敵衆羣進。我兵皆殲。至ニ廝養之卒一無レ不ニ戰死一。元忠杖ニ薙刀一。踞レ階而息。敵人雜賀重次進。欲レ撃レ之。元忠曰。吾本城大將也。授ニ汝首一。重次横レ槍揖曰。僕豈敢。君請自刃。元忠乃使三重次釋ニ己鎧一。自割レ腹而死。年六十二。重次刎而裹レ之。并ニ諸將首一。傳ニ于大坂一。賈人某竊ニ元忠首一。葬ニ之知恩院一。是日。我前軍發ニ江戸一。內大臣發ニ小山一。四日。至ニ江戸一。得ニ伏見之報一。哀慟。恤ニ戰死者子一。皆令レ襲レ封。

六十二なり。重次刎ねて之を裹み、諸將の首を并せて、大坂に傳ふ。賈人某、元忠の首を竊みて、之を知恩院に葬る。是日、我が前軍江戸を發す。內大臣、小山を發す。四日、江戸に至り、伏見の報を得て哀慟(六)す。戰死者の子を恤み、皆封を襲がしむ。

(一) とりでによりて　(二) 死者負傷者味方より敵方多し　(三) 血まみれになりて憩ふ　(四) 卑しき兵卒　(五) 會釋して　(六) 怨みなげく

米澤口諸侯。聞三伏見陷內大臣歸ニ江戸一也。疑懼引還。越後諸侯亦

米澤口の諸侯、伏見の陷り、內大臣の江戸に歸るを聞くや、疑懼(一)して引き還る。越後の諸侯も亦(二)兵を收めて自ら保つ。越後人の景勝に應ずる者も、亦兵を收めて津川に入る。上杉氏の軍士、內大臣を尾撃せんと請ふ。景勝敢て許さず。其將士竊か

收ㇾ兵自保。越後人應ニ景勝一者。亦收ㇾ兵入ニ津川。上杉氏軍士請ニ尾ニ擊內大臣。景勝不ニ敢許。其將士竊相賀曰。內府西顧。狼狽而回。我勝必矣。獨杉原親憲有ニ憂色一曰。內府回ㇾ軍。非ㇾ不ㇾ得ㇾ已也。內府若勝。則我公何以獨立乎。

に相賀して曰く、內府西顧(一)し、狼狽(二)して回る。我が勝必せりと。獨り杉原親憲憂色有りて曰く、內府軍を回すは、已むを得ざるに非ざるなり。內府若し勝たば、則ち我が公、何を以て獨立せんやと。

(一) 疑ひおそる (二) 兵を引きまとめて自身をまもる (三) 西方を心配しうろたへて歸る

初內大臣之赴ニ小山一也。遺ニ其軍麾ニ中路覺ㇾ之。從騎欲ニ馳歸取一ㇾ之。內大臣曰。無ニ以爲一也。命伐ニ道傍竹篠一爲ニ麾柄。取ㇾ紙手裂ㇾ

初め內大臣の小山に赴くや、其軍麾(一)を遺る。中路にして之を覺る。從騎馳せ歸りて之を取らんと欲す。內大臣曰く、以て爲す無れ(二)と。命じて道傍(三)の竹篠を伐りて麾柄と爲し、紙を取りて手づから之を裂き、柄端に束ねて、試に之を揮ふこと再びす。曰く、景勝の如き者には、此を用ひて足ると。小山を發するに及び之を地に擲ちて曰く、(四)此も亦用ふる毋しと。

(一) 采配 (二) 打捨て置け (三) 道ばたの竹をおりて采配のえとなし

之。束レ於二柄端一。試揮レ之者再。曰。如二景勝一者。用レ此而足矣。及レ發二小山一。擲二之地一曰。此亦非レ用矣。

石田三成遺二書眞田昌幸一。報二知上國之捷一。轉致二會津一。且曰。內府分レ兵。守二管內十餘城一。與二上杉佐竹一相持。焉能歷二二十日行程一而來二上國一哉。卽能來予。邀二之海道一。擊而擒レ之耳。子善守二山道一。諸老皆欲レ賞レ子以二信濃一也。昌幸喜。益治レ兵。三成等又遣二書北陸一。數招二前田利長一。利長不レ應。大谷吉隆導二京極高次及脇坂朽木赤座小川諸將一。入二越前一。長束正家導二毛利秀元及長曾我部等一。入二伊勢一。

石田三成、書を眞田昌幸に遺りて、上國の捷を報知し、轉じて會津に致さしむ。且つ曰く、內府兵を分ちて管內(一)十餘城を守り、上杉・佐竹と相持す。焉んぞ能く二十日の行程(二)を歷て上國に來らんや。卽し能く來らんか、之を海道に邀へ、擊ちて之を擒にせんのみ。子善く山道を守れ。諸老、皆、子を賞するに信濃を以てせんと欲するなりと。昌幸喜び、益〻兵を治む。三成等又書を北陸に遺り、數〻前田利長を招く。利長應ぜず。大谷吉隆、京極高次及び脇坂・朽木・赤座・小川の諸將を導きて、越前に入る。長束正家、毛利秀元及び長曾我部等を導きて、伊勢に入る。

(一) 領內　(二) みちのり

中納言織田秀信在二美濃岐阜一。介二居東西衝要之地一。西人誘以二大封一。秀信欲レ應。其臣諫曰。豐臣氏嘗負レ我。德川氏嘗助レ我。宜下以二今日一決中去就上焉。前田玄以爲二京師所司代一。亦敎三其歸二東軍一。秀信弗レ聽。終爲二西人一城守。氏家行廣以二桑名一。羽柴勝雅以二神戸一。九鬼嘉隆以二鳥羽一。岡部某以二龜山一。丹羽長重以二小松一。青木一矩以二北莊一。山口正弘以二大正寺一。皆應二西軍一。

中納言織田秀信、美濃の岐阜に在り。東西衝要の地に介居(一)す。西人誘ふに大封を以てす。秀信應ぜんと欲す。其臣諫めて曰く、豐臣氏は嘗て我に負き、德川氏は嘗て我を助く。宜しく今日を以て去就を決すべしと。前田玄以京師の所司代たり。亦其の東軍に歸するを敎ふ。秀信聽かず。終に西人の爲に城守(二)す。氏家行廣は桑名を以て、羽柴勝雅は神戸を以て、九鬼嘉隆は鳥羽を以て、岡部某は龜山を以て、丹羽長重は小松を以て、青木一矩は北莊を以て、山口正弘は大正寺を以て、皆西軍に應ず。

(一) はさまり居る　(二) 城に立てこもりて守る

西軍總十八萬騎。其圍二伏見一者。引而東

西軍總て十八萬騎なり。其の伏見を圍みし者、引きて東に下る。美濃に入り、大垣城を修めて、以て根據(一)と爲す。西近の將士をして犬山に砦して、以て岐阜を援は

下。入二美濃一。修二大垣城一。以爲二根據一。使下四近將士砦二于犬山一。以援中岐阜上。十一日。三成先入二大垣一。以迎二諸將一。警聞至二江戸一者。項背相望。内大臣曰。我已處二置之一矣。擧動如レ常。

しむ。十一日、三成先づ大垣に入りて、以て諸將を迎ふ。警聞(二)の江戸に至るもの、項背相望む(三)。内大臣曰く、我れ已に之を處置すと。擧動(四)常の如し。

(一) ねじろ　(二) 事變の報知　(三) 使者引續く　(四) ふるまひ常にかはらず

十三日。我監軍井伊直政。本多忠勝。引二前軍二十七將騎卒五萬一。至二清洲一。距二大垣一七里。相持未レ戰。毛利氏前部攻二阿濃津城一。城主富田知信受二東命一。固守不レ下。

十三日、我が監軍(一)井伊直政・本多忠勝、前軍二十七將、騎卒五萬を引きて、清洲に至る。大垣を距ること七里なり。相持して未だ戰はず。毛利氏の前部、阿濃津城を攻む。城主富田知信、東命を受け、固く守りて下らず。夜出でて敵將長束正家を撃ちて、之を走らす。我が將德永壽昌、市橋長勝と、福束・高須の二砦を攻め、之を取りて、以て大垣・桑名の糧道(二)を絶つ。而して大垣の兵、日ゝ(三)に加はる。我が軍に流言有り、前軍の諸將、敵と款を通ずと。二監、數ゝ使を江戸に返して、内大臣の親出を促し、以て軍情(四)を鎭めんと欲す。命(五)を獲ず。

夜出撃二敵將長束正家一走レ之。我將德永壽昌與二市橋長勝一。攻二福束高須二砦一。取レ之。以絶二大垣桑名糧道一。而大垣兵日加。我軍有二流言一。前軍諸將與レ敵通レ款。二監數返二使江戸一。促二内大臣親出一。欲三以鎭二軍情一。不レ獲レ命。

（一）軍目附　（二）兵糧運送の路をたちきる　（三）日毎に増加す　（四）軍隊の動揺を鎭めんと欲す　（五）承諾の命令なし

十九日。村越吉直銜レ命而至。二監迎問二其旨一。吉直曰。稱レ疾不レ出耳。二人大驚曰。子愼勿レ將二此命一。果將。則諸將解體矣。因私改二其命一授レ之。旦日。會二諸將一而引二吉直一。心吉直竊謂

十九日、村越吉直命（一）を銜みて至る。二監迎へて其旨を問ふ。吉直曰く、疾と稱して出でざるのみと。二人大に驚きて曰く、子、愼みて此命（二）を將ふ勿れ。果して將はば、則ち諸將解體せんと。因りて私かに其命を改めて之を授く。旦日、諸將を會して吉直を引く（三）。吉直、心に竊に謂ふ、二監の言ふ所、主公豈に知らざる有らんや。我れ素より率直（四）を以て名あり。而して特に此命を受くるは、我が其言を枉げざるを取るなりと。乃ち諸將に言ひて曰く、内府言ふ、諸公、久しく屯して良に苦しむ。吾れ寒疾（五）有り、速かに出づ可からずと。二監、色を失ふ。諸將、默然たり。加藤嘉明曰く、臣、命を聽くと。福島正則曰く、何の謂ぞ

二監所レ言。主公豈有レ不レ知乎。我素以二率直一名。而特受二此命一者。取四我不三枉二其言一也。乃言レ於二諸將一曰。內府言。諸公久也良苦。吾有二寒疾一。不レ可二遽出一。二監失レ色。諸將默然。加藤嘉明曰。臣聽レ命矣。福島正則曰。何謂也。嘉明曰。吾曹與レ敵對レ壘。未二嘗出戰一。大旆之不二西上一。不二亦宜一乎。正則拍レ掌曰。然。衆遂議二進取一。

やと。嘉明曰く、吾が曹、敵と壘を對して、未だ嘗て出で戰はず。大旆の西上せざるも、亦宜ならずやと。正則掌を拍ちて曰く、然りと。衆、遂に進取を議す。

(一) 命令を齎らして來る　(二) 命令を取次ぐこと勿れ　(三) 離叛するに至らん　(四) 正直で飾り氣なき事を以て人に知らる　(五) 風邪に罹る

正則曰。岐阜兵衆。而阻二木曾川一。未レ易レ攻。我聲三言攻二犬山一。則彼必分レ兵援レ之。我則逼二岐阜一。岐阜

正則曰く、岐阜は兵衆し。而して木曾川に阻まれ、未だ攻め易からず。我れ犬山を攻むと聲言(一)せば、則ち彼れ必ず兵を分ちて之を援はん。我は則ち岐阜に逼らん。岐阜陷らば、則ち犬山は自ら潰えんと。二監之に從ふ。織田秀信果して兵を分ちて來り援ふ。二監乃ち諸將を部署(二)し、藤堂高虎・黑田長政等を留めて、大垣・

隘。則犬山自潰。二監從レ之。織田秀信果分レ兵來援。二監乃部二署諸將一。留二藤堂高虎黑田長政等一。備二大垣犬山一。令下福島正則渉二尾越川一出二其面一。池田輝政亂二河田渡一出中其背上。諸將分隷レ之。兵各萬餘。正則以二河田上流路捷一。欲二自赴一レ之以先諸軍一。輝政又以レ出二敵背一爲レ恥。二監諭二正則一曰。公已受二先鋒之任一。誰能爭レ之。但公主二本州一。舟筏可レ辨。池田不レ然也。諭二輝政一曰。公德川氏之婿。當三務利二其翁一。何悻悻然與二衆人一爭二尺寸一乎。二人乃服。岐阜人聞レ警。請三堅レ壁以俟二大垣援一。秀信不レ聽。出レ兵阻レ水。

犬山に備へ、福島正則をして尾越川を渉りて其の面に出で、池田輝政をして河田渡を亂して其の背に出でしむ。諸將分れて之に隷す。兵各々萬餘なり。正則、河田の上流の路の捷(四)なるを以て、自ら之に赴きて以て諸軍に先んぜんと欲す。輝政又敵背に出づるを以て恥と爲す。二監、正則に諭して曰く、公已に先鋒の任を受く。誰か能く之を爭はん。但公は本州に主たり。(五)舟筏辨ずべし。池田は然らざるなりと。輝政を諭して曰く、公は德川氏の婿なり、當に務めて其翁を利すべし。(六)何ぞ悻悻然として衆人と尺寸を爭はんやと。二人乃ち服す。岐阜の人、警を聞き、壁を堅くして以て大垣の援を俟たんと請ふ。秀信聽かず。兵を出して水を阻す。

(一) いひふらせば (二) 手[illegible]し (三) つきしたがふ (四) 近路故 (五) 舟筏を間に合はすを得 (六) 何ぞ小事に怒りて諸人と僅かばかりの事を爭ふをせん

二十二日。輝政亂レ流。遇三敵于二米野一。破レ之。攻二北門一。正則攻陷二竹鼻砦一。攻二南門一。城兵善拒不レ可レ拔。淺野左京大夫與二一柳直盛等一。攻二其別堡一。堡險而隮。左右泥淖。大夫老臣淺野右近生二長美濃一。諳二其地理一。蹊レ田而先登。揚三徽于二壁上一。大夫望レ之曰。右近不レ可レ亡也。馬上揮レ槍。身先二士卒一。士卒皆奮。奪レ壁而入。斬二城將南部遠山以下五百人一。餘兵走レ城。城

二十二日、輝政流を亂して、敵に米野(一)に遇ひて、之を破り、北門を攻む。正則、攻めて竹鼻の砦を陷れて、南門を攻む。城兵善く拒ぎて拔く可からず。淺野左京大夫、一柳直盛等と、其別堡を攻む。堡は險にして隮く、左右泥淖(二)なり。大夫の老臣淺野右近、美濃に生長して、其地理を諳んず。田を蹊りて先登し、徽を壁上に揚ぐ。大夫之を望みて曰く、右近亡ふべからず(三)と。馬上に槍を揮ひ、身、士卒に先だつ。士卒皆奮ひ、壁を奪ひて入る。城將南部・遠山以下五百人を斬る。餘兵城に走る。城中驚擾(四)す。諸將因りて爭ひ登る。秀信遂に降を乞ひ、逃れて高野に奔る。正則、輝政と功を爭ひて、鬩はんと欲す。一監之を折きて曰く、私忿を以て公事を忘る(五)。誓辭の實、安にか在ると。二人服して罷む。

(一) 美濃國に在り　(二) ぬかる　(三) 右近を戰死せしむ可らず　(四) 驚き亂る　(五) 私の怒の爲に公の律を忘るゝかくては誓言は何とする

中驚擾。諸將因爭登。秀信遂乞レ降。逃奔二高野一。正則與二輝政一爭レ功。欲レ鬪。二監折レ之曰。以二私忿一忘二公事一。吾輩之責安在。二人服而罷。

犬山敵聞レ敗而懼。戍將加藤貞泰與二竹中重門關一政一。皆拔歸二我軍一。自餘諸將皆遁。大垣敵聞三我攻二岐阜一。卽出援レ之。島津義弘石田三成陣二呂久川一。遣二三千人一進至二合渡一。長政高虎等諜知レ之。相謂曰。是吾輩任也。乃分レ道而渡。

犬山の敵敗を聞きて懼れ、戍將加藤貞泰、竹中重門・關一政と、皆拔けて我が軍に歸す。自餘の諸將は皆遁る。大垣の敵、我が岐阜を攻むと聞き、卽ち出でて之を援ふ。島津義弘・石田三成、呂久川に陣し、三千人を遣して進みて合渡に至る。長政・高虎等、諜して之を知り、相謂ひて曰く、是れ吾が輩の任なりと。乃ち道を分ちて渡る。天方に霧ふり、敵兵覺らず。諸將、急に撃ちて之を敗る。北ぐるを追ひて呂久川に至る。義弘曰く、前軍敗ると雖も、吾と子と兵を整へて横撃せば則ち勝たんと。三成曰く、敵兵鋭進す。岐阜蓋し陷るならん。吾れ已に援ふ能はず。何ぞ新勝の鋒に當る可けんやと。敗兵を收めて、倶に大垣に還る。高虎の族高政、進みて赤坂に至り、居民を諭して安堵せしむ。諸將繼ぎ至りて止舍す。定めて頓軍の地と爲し、南に大垣と對す。

天方霧。敵兵不レ覺。諸將急擊敗レ之。追レ北至二呂久川一。義弘曰。前軍雖レ敗。吾與レ子整レ兵橫擊則勝。三成曰。敵兵銳進。岐阜蓋陷矣。吾已不レ能レ援。何可レ當二新勝之鋒一乎。收二敗兵一。俱還二大垣一。高虎族高政進至二赤坂一。諭二居民一使二安堵一。諸將繼至止舍。定爲二頓軍之地一。南與二大垣一對。

㊀按ずるに河田なり　㊁激して進む　㊂あらたに勝ちたる軍の鋒先　㊃或は良政に作る　㊄軍をとゞむ

會四浮田秀家至三自二伏見一。三成迎而犒レ之。推爲二元帥一。秀家曰。敵兵戰疲。深入二客地一。吾乘レ夜襲レ之。以レ逸擊レ勞。必得二大利一矣。三成曰。當下與二島津小西一議上。秀家曰。兵貴二神速一。何議之爲。

浮田秀家の伏見より至るに會す。三成迎へて之を犒ひ、推して元帥(一)と爲す。秀家曰く、敵兵戰ひ疲れ、深く客地(二)に入る。吾れ夜に乘じて之を襲ひ、逸(三)を以て勞を擊たば、必ず大利を得んと。三成曰く、當に島津・小西と議すべしと。秀家曰く、兵は神速(四)を貴ぶ。何ぞ議するを之れ爲さん。吾れ獨り出でて戰を決せんのみと。三成之を止めて曰く、島津・小西皆以爲へらく、地勢沮洳(五)して、夜戰に便ならず。且つ夜戰は寡を以て衆を擊つ者なり。今、衆を以て寡を擊つ。何ぞ此に必せん。今毛利參議は伊勢に在り。安藝中納言は大坂に在り。其の盡く至るを俟ち、軍を合せて勝を決せんと。秀家曰く、我が軍盡く至らば、則ち敵軍も亦盡

吾獨出決レ戰耳。三成止レ之曰。島津小西皆以爲地勢沮洳。不レ使二夜戰一。且夜戰以レ寡擊レ衆者也。今以レ衆擊レ寡。何必レ於レ此。今毛利參議在二伊勢一。安藝中納言在二大坂一。俟二其盡至一。合レ軍決レ勝。秀家曰。我軍盡至。則敵軍亦盡至。勝其可レ必乎。雖レ然。子稱二老輩之言一。吾後生也。不二敢違一焉。唯子勿レ悔レ之。乃入二大垣一。

く至らん。勝其れ必すべけんや。然りと雖も、子は老輩の言を稱す。吾は後生なり。敢て違はず。唯、子、之を悔ゆる勿れと。乃ち大垣に入る。

㈠ 總大將 ㈡ 敵の領分内に入る ㈢ 未だ戰はざる兵を以て疲勞したる兵を擊たば ㈣ 甚だ速かなるをよしとす ㈤ じくじくとして ㈥ 一本に決とあり

小早川秀秋自二伏見一至二高宮一。稱レ疾不レ前。三成等疑レ之。使二人往議一レ事。因刺レ之。秀秋覺。不レ見。於レ是稱二疾愈一。來至二美濃一。不三敢入二

小早川秀秋、伏見より高宮に至り、疾と稱して前まず。三成等之を疑ひ、人をして往きて事を議し、因りて之を刺さしむ、秀秋覺りて見ず、是に於て、疾癒ゆと稱して、來りて美濃に至る。敢て大垣に入らず。大垣の軍師、岐阜陷りしを以て、伊勢・越前の兵を召す。毛利秀元・長束正家等再び富田知信を攻む。知信堅く守ること㈠累日なり。上野城主分部光嘉、城を棄てて來歸し、與倶に守る。

大垣。大垣翠帥。以二岐阜陷一召二伊勢越前之軍一。毛利秀元長束正家等。再攻二富田知信一。知信堅守累日。上野城主分部光嘉棄レ城來歸。與俱守。知信妻有レ勇。翼レ夫而戰。其郭已陷。嬰二守内城一。於レ是敵使二僧興山入諭致一レ城。不レ聽。強而後聽。秀元正家等。乃入二美濃一。秀元族將勸二秀元一歸二東軍一。遂陰送レ質。大谷吉隆數誘二前田利長一。利長不レ應。與二弟利政一攻二拔大正寺一。進至二細呂木一。欲レ攻二北莊一。謬四聞東軍敗三于二海道一。乃退。遇三小松兵于二淺

知信の妻は勇有り。夫を翼けて戰ふ。其郭已に陷る。内城を嬰守す。是に於て、敵、僧興山をして入りて諭して城を致さしむ。聽かず。強ひて而る後に聽く。秀元・正家等、乃ち美濃に入る。秀元の族將、秀元に勸めて東軍に歸せしめ、遂に陰かに質を送る。大谷吉隆數〻前田利長を誘ふ。利長應ぜず。弟利政と、攻めて大正寺を拔き、進みて細呂木(三)に至り、北莊を攻めんと欲す。東軍、海道に敗ると謬り聞きて、乃ち退く。小松の兵に淺井畷に遇ひ、力戰して還る。吉隆、京極高次等と、大正寺・府中を取る。是に於て、亦美濃に入る。高次素より心を我に歸す。大津に城守せんと欲す。故に(四)遲回して發せず。脇坂以下、先づ發す。亦已に款を通ず。而して吉隆知らざるなり。之をして陰かに秀秋に備へしむ。

(一) 諸將 (二) 數日 (三) 越前國に在り (四) ぐづ〱し、出發せず

非駿。力戰而還。吉隆與京極高次等取大正寺府中。於是亦入美濃。高次素歸心於我。欲城守大津。故遲回不發。脇坂以下先發。亦已通款焉。而吉隆不知也。使之陰備秀秋。

秀元屯于南宮山。秀秋屯于松尾山。皆在大垣城西。島津義弘屯于城東。城北有長松砦。城將某爲西軍守。及我軍至赤坂。棄守遁。二監遣一柳直盛守之。益旗幟。張疑兵。又遣水野勝成守曾根砦。爲其聲援。西軍聚議不決。我軍亦以敵兵衆盛。不敢出戰。日俟內大臣至。

秀元、南宮山に屯す。秀秋、松尾山に屯す。皆大垣城の西に在り。島津義弘城東に屯す。城北に長松の砦有り。城將某、西軍の爲に守る。我が軍の赤坂に至るに及びて、守(一)を棄てて遁る。二監、一柳直盛を遣して之を守らしめ。旗幟(二)を益し、疑兵を張る。又水野勝成を遣して曾根の砦を守らしめ、其聲援を爲す。西軍衆議(三)決せず。我が軍も亦敵兵の衆盛なるを以て、敢て出て戰はず。日に內大臣の至るを俟つ。

㊀守備をすてて　㊁はたのぼりをまし多勢の如く見せかく　㊂一本に衆に作る

內大臣得村

內大臣、村越吉直の報を得て、大に喜ぶ。乃ち榊原康政に命じて中納言を輔

越吉直之報。大喜。乃命榊原康政輔中納言。以兵三萬西上。以二十四日發下野。直出山道。間日。得岐阜捷報。使人轉告東陲諸國。賜書正則輝政以下。賞之。曰。且勿戰。以待我出。命異父弟松平康元。及石川家成留守江戸。五郎信吉。及松平康直留守其西城。遂命諸城留任。

け、兵三萬を以て西上せしむ。二十四日を以て下野を發し、直に山道に出づ。間(一)日、岐阜の捷報を得て、人をして東陲(二)の諸國に轉告せしめ、書を正則・輝政以下に賜ひ、之を賞して曰く、且く戰ふ勿れ。以て我が出づるを待てと。異父弟松平康元及び石川家成に命じて江戸を留守し、五郎信吉及び松平康直に其西城を留守せしめ、遂に諸城の留任を命ず。

(一) 一日を隔てて　(二) 東邊の諸國にそれよりそれと告げ知らす

九月。朔。内大臣親將發江戸。酒井某村串某。擎金扇馬表。葵章白旗。在馬前。近藤秀用大久

九月朔、内大臣親ら將として江戸を發す。酒井某、村串某、金扇の馬表、葵(一)章の白旗を擎りて馬前に在り。近藤秀用、大久保忠教、槍を掌り、渡部守綱・伊奈今成・成瀨正成・安藤直次等十五人、弓銃隊長と爲る。下野守忠吉以下親屬將領三十餘人にして、兵凡そ二萬五千なり。石川家成白して曰く、臣、星家(二)の言を

保忠教掌レ槍。渡部守綱伊奈今成成瀬正成安藤直次等十五人。爲ニ弓銃隊長一。下野守忠吉以下親屬將領三十餘人。兵凡二萬五千。石川家成白曰。臣聞ニ星家之言一。今歲西方塞矣。請避レ方而發。內大臣曰。西方塞。則我擊而開レ之。遂發。自ニ東海道一鼓行而西。近畿西國將士爭發ニ使者一。上ニ狀馬首一者。絡繹屬レ道。而東北空虛。宇都宮軍中訛言。會津悉レ甲南下。少將秀康使ニ人言三於ニ景勝一曰。小子受ニ父命一。居ニ守於レ此。不レ能レ從ニ上國軍一。甚苦ニ無事一。願與レ公一戰。公能來乎。抑小子當レ往也。景勝辭。顧遣レ兵北攻ニ山形一。

聞くに、今歲は西方塞ると。請ふ、方を避けて發せよと。內大臣曰く、西方塞らば、則ち我れ擊ちて之を開かんと。遂に發す。東海道より鼓行(三)して西す。近畿・西國の將士、爭ひて使者を發し、狀を馬首に上る者、絡繹(四)道に屬す。而して東北は空虛なり。宇都宮の軍中に訛言す。會津甲(五)を悉して南下すと。少將秀康、人をして景勝に言はしめて曰く、小子、父の命を受けて、此に居守す。上國の軍に從ふ能はず。甚だ無事に苦しむ。願はくは公と一戰せん。公能く來るか。抑く小子當に往くべきかと。景勝、辭し、顧みて兵を遣して北に山形を攻めしむ。

(一) あふひの紋章　(二) 天文家　(三) 進軍して　(四) ぞろぞろと道に續く　(五) 全軍を以て南に攻下る

最上義光伊

最上義光・伊達政宗之と對守す。堀秀治、岐阜陷り大軍西上すと聞き、乃ち攻めて

達政宗與レ之對守。堀秀治聞ニ岐阜陷大軍西上一。乃攻取ニ津川一。前田利長將レ會ニ大軍一。發レ兵復攻ニ小松一。小松既通レ款。乃攻ニ大正寺一。逐ニ敵守兵一。遂招ニ北莊一。會下前田利政以ニ能登一叛上。乃不ニ敢進一。京極高次守ニ大津一。西軍三萬攻レ之。不レ能レ拔。細川藤孝守ニ田邊一與ニ西軍二萬一相持兩月。加藤忠明迎擊ニ毛利氏軍于ニ伊豫一。加藤清正攻ニ小西氏於ニ肥後一。黑田孝高攻ニ大友氏于ニ豐後一。迭有ニ勝敗一。

津川を取る。前田利長、將に大軍に會せんとす。兵を發して復た小松を攻む。小松既に款(一)を通ず。乃ち大正寺を攻め、敵の守兵を逐ひて、遂に北莊を招く。前田利政、能登を以て叛くに會ふ。乃ち敢て進まず。京極高次大津を守る。西軍三萬、之を攻む。拔く能はず。細川藤孝田邊を守り、西軍二萬と、相持すること兩月(二)なり。加藤忠明迎へて毛利氏の軍を伊豫に擊つ。加藤清正、小西氏を肥後に攻む。黑田孝高、大友氏を豐後に攻む。迭に勝敗有り。

(一) 好を通ず　(二) 二ケ月

十一日。內大臣至ニ清洲一。召ニ直政忠勝於ニ

十一日、內大臣清洲に至る。直政・忠勝を赤坂に召して、其功勞を賞す。軍を止むること二日なり。以て山道の軍を俟つ。軍至らず。內大臣策を決して獨り發

赤坂。賞二其功勞一。止レ軍二日。以俟二山道軍一。軍不レ至。内大臣決レ策獨發。十三日。至二岐阜一。或獻二巨柿實一。内大臣戲曰。大垣落二我手一矣。擲二之地一。使三近士爭取二之。蓋以二垣柿國音相通一也。十四日。發二岐阜一。前軍諸將迎謁二呂久川上一。内大臣面褒二岐阜戰功一。遂率二諸將一至二赤坂一。

す。十三日、岐阜に至る。或ひと、巨柿の實を獻ず。内大臣戲れて曰く、大垣、我が手に落つと。之を地に擲ちて、近士(一)をして爭ひて之を取らしむ。蓋し垣と柿と國音(二)相通ずるを以てなり。十四日岐阜を發す。前軍の諸將迎へて呂久川の上に謁す。内大臣面のあたり岐阜の戰功を褒し、遂に諸將を率ゐて赤坂に至る。

(一) 御側の臣　(二) 國訓同じき故なり

當二是時一。天下之兵。美濃以東者。概屬二我軍一。美濃以西者。概屬二敵軍一。四方豪傑割二據方隅一者。皆觀二望其成敗一。而東軍以二内大臣來一。士氣大振。

是の時に當りて、天下の兵、美濃以東の者は、概ね我が軍に屬し、美濃以西の者は、概ね敵軍に屬す。四方の豪傑、方隅に割據する(一)者、皆其成敗を觀望(二)す。而して東軍は内大臣來るを以て、士氣(三)大に振ふ。

(一) 國々隅々にたてこもる　(二) 勝つか負くるかをながめて居る　(三) 兵士の元氣

西軍偵騎走報二大垣一曰。赤坂多二白旗一。得レ非二內府來一乎。秀家三成等陽大言曰。彼方憂二上杉佐竹一。踏跙不レ進。焉得二遽來一レ此乎。我諸將請三乘レ機攻二大垣一。內大臣曰。大垣城壘壯固。兵食皆足。秀家雖レ少非二暗者一也。而義弘行長正家吉隆一レ心戮レ力。持重不レ出。攻レ之必損二我兵一矣。獨三成輕而恃レ衆。若誘二出之外一。使三秀秋秀元撓二其後一。則可二一戰鏖一也。我且動レ軍以試レ之。日午。建二大將旗鼓于岡山一。令二諸將少移レ陣而前一。

西軍の偵騎(一)走りて大垣に報じて曰く、赤坂に白旗多し。內府來るに非ざるを得んやと。秀家・三成等、陽(二)に大言して曰く、彼れ方に上杉・佐竹を憂へ、踏跙(三)して進まず。焉んぞ遽かに此に來るを得んやと。我が諸將機に乘じて大垣を攻めんと請ふ。內大臣曰く、大垣は城壘(四)壯固にして兵食皆足る。秀家少しと雖も、暗者(五)に非ざるなり。而して義弘・行長・正家・吉隆、心を一にし力を戮せて、持重して出でず。之を攻むれば必ず我が兵を損せん。獨り三成輕々しくして衆(六)を恃む。若し之を外に誘出して、秀秋・秀元をして、其後を撓さしめば、則ち一戰に鏖にす可きなり。我れ且つ軍を動して以て之を試みんと。日午、大將の旗鼓を岡山に建て、諸將をして少しく陣を移して前ましむ。

(一)偵察の騎兵　(二)表面大きなことをいふ　(三)ためらひしりごみする　(四)城とりでさかんに堅固にて　(五)暗愚なる者　(六)多勢を頼みとなす

三成邀二秀家一登レ丘而望曰。東軍塵升何也。偵騎爭報曰。內府來矣。諸軍聞レ之恂懼。島勝猛曰。是張二聲勢一以怵レ我耳。我當下乘二其動搖一擊上レ之。秀家曰。然。藉內府來。亦吾所レ期也。吾與二治部一當下以二先鋒一挑上レ戰。勝猛建レ策設三伏於二一色村一。而遣二輕銳一涉二株瀨一。犯二中村一榮陣一。一榮迎

三成、秀家を邀へて、丘に登りて望みて曰く、東軍に塵の升るは何ぞやと。偵騎爭ひ報じて曰く、內府來ると。諸軍、之を聞きて恂懼す。(一)島勝猛曰く、是れ聲勢(二)を張りて以て我を怵すのみ。(三)我れ當に其動搖に乘じて之を擊つべしと。秀家曰く、然り。藉內府來るも、亦吾が期する所なり。吾れ治部と當に先鋒を以て戰を挑むべしと。勝猛策を建てて、伏を一色村に設けて、輕銳(四)を遣して株瀨を涉り、中村一榮(五)の陣を犯す。一榮迎へ戰ふ。有馬豐氏其傍に在り。兵を分ちて之を援ふ。西軍走る。一榮左右の翼を張りて之を追ふ。內大臣、中軍より望み見て、侍臣に謂ひて曰く、式部に嘗て兵を鍊る。隊伍(六)觀る可きなりと。追ふ者渡りて進む。內大臣曰く、噫、敗ると。果して伏に遇ふ。走る者皆返る。我が兵退くを得ず。內大臣、直政・忠勝に命じて往きて之を收めしむ。二人則ち馳す。左右指揮して、自ら殿して退く。敵兵尾する能はず。收めて大垣に入る。

(一) 懼れおそる　(二) 虚勢を張りて　(三) 一本に嘗とあり　(四) 身輕に出て立ちたる精銳の兵　(五) 按ずるに兄一氏なるべし　(六) 軍隊甚だ整ふ

戰。有馬豐氏在二其傍一。分レ兵援レ之。西軍走。一榮張二左右翼一追レ之。內大臣自二中軍一望見。謂二侍臣一曰。式部嘗鍊レ兵。隊伍可レ觀也。追者渡而進。內大臣曰。嘻。敗矣。果遇レ伏。走者皆返。我兵不レ得レ退。內大臣命二直政忠勝一往收レ之。二人則馳。左右指揮。自殿而退。敵兵不レ能レ尾。收入二大垣一。

大垣諸侯會議曰。內府來確也。何以決レ勝。秀家曰。彼必盡レ銳來攻。我守備既具。足二以待一レ之。田邊大津之兵。將二不日來會一。安藝黃門亦當二繼至一。我疲二敵于堅城之下一。而內外擊レ之。其勢如三鷹鶻之搏二鳥雀一。是全勝之策之。三成曰。不レ

大垣の諸侯、會議して曰く、內府來れること確なり。何を以て勝を決せんと。秀家曰く、彼れ必ず銳を盡して來り攻めん。我が守備既に具る。以て之を待つに足る。田邊、大津の兵、將に不日(一)來り會せんとす。安藝黃門(二)も亦當に繼ぎて至るべし。我れ敵を堅城の下に疲らせて、內外より之を擊たば、其勢、鷹鶻(三)の鳥雀を搏つが如し。是れ全勝の策なりと。三成曰く、然らず。今、敵兵我に半す。吾れ倍なれば則ち戰ふを聞く。未だ倍にして則ち守るを聞かず。我が看、大兵を擁して、關東を征伐す。而して坐ながら孤城(四)を守りて、敢て出でて戰はずんば、天下の我を望む者、皆沮喪(五)せん。往年小牧の役に、太閤、過慮(六)し、當に戰ふべくして戰はず。終に內府の名を成せり。今豈に過(七)を貳びすべけんやと。諸將の勇を負ふ者、多く其議を右く。吉隆・正家之を爭ひて曰く、當今の世、誰か內

然。今敵兵半レ於レ我。吾聞二倍則戰一。未レ聞二倍則守一也。我擁二大兵一。征二伐關東一。而坐守二孤城一。不二敢出戰一。天下之望レ我者。皆沮喪矣。往年小牧之役。太閤過慮。當レ戰不レ戰。終成二內府之名一。今豈可レ貳レ過哉。諸將負レ勇者。多有二其議一。吉隆正家爭レ之曰。當今之世。誰與二內府一決二勝於野戰一者。獨有二持重以疲一レ之而已。中納言謀慮深長。宜レ聽二從之一。議未レ決。

府と勝を野戰に決する者ぞ。獨持重して以て之を疲らする有るのみ。(八)中納言は謀慮深長なり、宜しく之に聽從すべしと。(一〇)議未だ決せず。

(一)幾日もへずして　(二)毛利輝元　(三)たかの雀をうち殺すが如し　(四)援兵なき城　(五)勇氣衰ふ　(六)大事を取りすぐ　(七)過を再度してはならず　(八)浮田秀家　(九)考へ深し　(一〇)相談まだまとまらず

內大臣揣二知之一。乃宣言曰。敵不二敢出一。我將三置レ兵而西。直取二大坂一矣。皆束裝。大垣諸將聞レ之。終決レ議出戰。曰。

內大臣之を揣り知り、(一)乃ち宣言して曰く、敵敢て出でず。我れ將に兵を置きて西し、直に大坂を取らんとすと。皆束裝す。(二)大垣の諸將之を聞き、終に議を決して出で戰ふ。曰く、備前中納言は出でて關原に陣し、安藝宰相(三)は前軍を以て敵を邀へ、薩摩參議(四)は菩提山より赤坂の北に赴き、遶りて敵背に出で、三成以下、分れて三軍に屬し、機を省て合擊し、東軍を呂久・合渡に擠さんと。乃ち令を下し

備前中納言出陣二關原一。安藝宰相以二前軍一邀ㇾ敵。薩摩參議自二菩提山一赴二赤坂之北一。遶出二敵背一。三成以下分屬二三軍一。伺ㇾ機合擊。擠三東軍于二呂久合渡一。乃下ㇾ令治ㇾ兵。使三人出戒二三國之軍一。

て兵を治め、人をして出でて三國の軍を戒めしむ。

(一) 推量して知り (二) 旅行の準備をなす (三) 毛利秀元 (四) 島津義弘

卽夜。島津議弘使二族家久入說一曰。東兵遠來。衆心未ㇾ定。請今夜。潛ㇾ兵襲擊。吾爲二先鋒一。衝二其麾下一。必利。不ㇾ利。乃赴二關原一。爲ㇾ未ㇾ晩。島勝猛曰。詰旦之事。吾將三再見二德川甲背一。何必

卽夜、島津義弘、族家久をして入り說かしめて曰く、東兵遠く來る。衆心未だ定らず。請ふ、今夜、兵を潛めて襲擊せん。吾れ先鋒と爲りて、其麾下を衝かば、必ず利あらん。利あらずんば、乃ち關原に赴くも、未だ晩からずと爲すと。島勝猛(一)、詰旦(二)の事、吾れ將に再び德川の甲背(三)を見んとす。何ぞ必ずしも草草(四)として爲さんやと。三成曰く、然りと。家久、勝猛を顧みて曰く、子、嘗て德川の甲背を見しかと。對へて曰く、僕、少くして甲斐に仕へ、嘗て之を遠江に追へり。家久曰く、今の德川は舊の德川に非ず。子同じく之を視る。飯匕(五)を矩と爲すと謂ふべきなりと。辭せずして出づ。毛利秀元素より我に通ず。乃ち秀家の先驅

草草爲也。三成曰。然。家久顧₂勝猛₁曰。子背見₂德川甲背₁乎。對曰。僕少仕₂甲斐₁。背追₂之遠江₁矣。家久曰。今德川非₂舊德川₁。子同視ㇾ之。可ㇾ謂₂飯匕爲ㇾ炬也。不ㇾ辭而出。

毛利秀元素通ㇾ於ㇾ我。乃託₂言不ㇾ欲ㇾ爲₂秀家先驅₁。三成親往諭ㇾ之。不ㇾ肯。三成乃約曰。吾輔₂浮田君₁。與ㇾ敵交ㇾ鋒。而公横擊ㇾ之。吾背₂其時₁。擧ㇾ烽。爲ㇾ號。秀元佯諾。三成乃赴₂筑前軍₁。見₂秀秋₁勗ㇾ之。遂北赴₂小關村₁。大垣諸將繼發。設₂大炬于栗原山₁以燎ㇾ路。路隘。隊伍不ㇾ整。又遇ㇾ雨。衣甲皆濕。五更而達。

と爲るを欲せずと託言(六)す。三成親ら往きて之を諭す。肯ぜず。三成乃ち約して曰く、吾は浮田君を輔けて、敵と鋒を交へん。而して公は横に之を撃て、吾れ其時を背て、烽(七)を擧げて號を爲さんと。秀元佯り諾す。三成乃ち筑前の軍に赴き、秀秋を見て之を勗む。遂に北小關村に赴く。大垣の諸將繼ぎて發す。大炬(八)を栗原山に設け以て路を燎す。路隘く、隊伍整はず、又雨に遇ひ、衣甲皆濕ふ。五更にして達す。

(一)本陣　(二)明朝　(三)逃ぐる　(四)あわてくさつて　(五)杓子を定規となす、きまりきつて變化なきをいふ　(六)かこつけていふ　(七)のろしを擧げて合圖をなさん　(八)大なるたいまつ

浮田秀家島

浮田秀家・島津義弘、天滿山を背にして、東向して陣す。小西行長は其左に陣す。

津義弘背ニ天滿山ニ。東向而陣。小西行長陣ニ其左ニ。石田三成又陣ニ其左ニ。有馬河尻糟谷石河布施玉置氏陣ニ其右ニ。大谷吉隆與ニ平塚爲廣戸田重政ー。又陣ニ其右ニ。小川秀秋屯ニ松尾山ニ。脇坂安治小川祐忠朽木元綱赤座久兵在レ麓。毛利秀元屯ニ南宮山ニ。鍋島勝茂長束正家長曾我部盛親安國寺惠瓊在レ麓。皆北嚮而陣。騎卒凡十二萬八千。福島氏候吏法齋者。走報曰。敵出矣。正則問。何以知レ之。曰。臣撥ニ馬矢ー皆溫。是以知レ之。正則乃使下人赴ニ岡山ー告上レ之。既而長松曾根諸砦皆上レ狀。內大臣哂曰。敵墮ニ我術中ー矣。

石田三成は又其左に陣す。有馬・河尻・糟谷・石河・布施・玉置氏は其右に陣す。大谷吉隆は平塚爲廣・戸田重政と、又其右に陣す。小早川秀秋は松尾山に屯す。脇坂安治・小川祐忠・朽木元綱・赤座久兵は麓に在り。毛利秀元は南宮山に屯す。鍋島勝茂・長束正家・長曾我部盛親・安國寺惠瓊は麓に在り。皆北嚮(一)して陣す。騎卒凡て十二萬八千なり。福島氏の候吏(二)法齋といふ者、走り報じて曰く、敵出づと。正則問ふ、何を以て之を知ると。曰く、臣、馬矢(三)を撥ひしに皆溫かなり。是を以て之を知ると。正則乃ち人をして岡山に赴きて之を告げしむ。既にして長松・曾根の諸砦、皆狀を上る。內大臣哂ひて曰く、敵、我が術中(四)に墮つと。

(一) 北に向きて陣取る　(二) 偵察掛　(三) 馬糞　(四) 吾謀計にかゝる

乃下₂令軍中₁。部₂署諸將₁。以₂福島正則₁爲₂先驅₁。下野守忠吉與₂井伊直政本多忠勝₁爲₂中驅₁。黑田長政加藤嘉明細川忠興田中吉政生駒一正竹中重門戸川達安等。爲₂右軍₁。藤堂高虎山內一豐織田長益津田信成京極高知等。爲₂左軍₁。蜂須賀至鎭筒井定次稻葉貞通遠藤慶隆小出秀家龜井茲矩寺澤廣高等。爲₂游軍₁。淺野左京大夫池田輝政與₂中村德永市橋有馬金森等₁。備₂南宮山₁。水野勝成松平康長與₂一柳松下西尾津輕等₁。備₂大垣₁。內大臣自以₂麾下₁爲₂中軍₁。酒井家次居レ前。本

乃ち令を軍中に下し、諸將を部署す。福島正則を以て先驅と爲し、下野守忠吉と井伊直政・本多忠勝とを中驅(一)と爲す。黑田長政・加藤嘉明・細川忠興・田中吉政・生駒一正・竹中重門・戸川達安等、右軍爲り。藤堂高虎・山內一豐・織田長益・津田信成・京極高知等左軍爲り。蜂須賀至鎭、筒井定次・稻葉貞通・遠藤慶隆・小出秀家・龜井茲矩・寺澤廣高等、游軍(二)爲り。淺野左京大夫・池田輝政は、中村・德永・市橋・有馬・金森等と、南宮山に備へ、水野勝成、松平康長は、一柳・松下・西尾・津輕等と、大垣に備へ、內大臣は自ら麾下を以て中軍と爲る。酒井家次は前に居り、本多康重・大須賀忠政は後に居る。騎卒凡て七萬五千なり。奧平貞治を遣して、潛かに松尾山に赴き、秀秋の軍を監し、戰酣なるを俟ちて內應(三)を爲さしむ。

(一) 中驅に同じ、第二軍　(二) 遊擊軍　(三) うらぎりをなさしむ

多康重大須賀忠政居レ後。騎卒凡七萬五千。遣二奥平貞治一。潛赴二松尾山一。監二秀秋軍一。使下俟二戰酣一。爲中內應上。

黑田氏將毛谷主水使至二中軍一。召問二敵數一。對曰。三萬。曰。我候騎皆以二十餘萬一告。汝何所レ見。對曰。臣算二其鬭士一而已。內大臣大悅。十五日。黎明。親擐レ甲。不レ冑而巾。上レ馬率二諸軍一。進至二桃配野一。召二忠勝一曰。南宮之敵可レ疑。忠勝曰。彼若

黑田氏の將毛谷主水、使して中軍に至る。召して敵數を問ふ。對へて曰く、三萬なりと。曰く、我が候騎は皆十餘萬を以て告ぐ。汝は何の見る所ぞと(一)。對へて曰く、臣は其鬭士(二)を算するのみと。內大臣、大に悅ぶ。十五日黎明(三)、親ら甲を擐し、(四)冑せずして巾し、馬に上りて諸軍を率ゐ、進みて桃配野に至る。忠勝を召して曰く、南宮の敵疑ふ可しと。忠勝曰く、彼れ若し詐を挾まば、當に山を下りて陣すべし。今、猶ほ頂に在り。是れ慮無きなりと。內大臣曰く、然りと。忠勝に賜ふに名馬三國黶といふ者を以てして、之を遣りて、自ら軍を進むること半里許なり。家次、白旗十二旒を以て先行すること三百步。天大に霧ふるに會ひ、(五)咫尺辨ず可からず。東西の軍、關原に遇ふ。

㊀ 如何なる考へありていふか　㊁ 戰爭をする兵士を數ふるのみ　㊂ 夜のひきあけ　㊃ かぶとを被らずして頭巾を被る　㊄ 一寸先も見分けられず

挾レ詐。當二下レ山陣一。今猶在レ頂。是無レ慮也。內大臣曰。然。賜二忠勝一以二名馬三國驪者一。遣レ之。自進レ軍可二半里一。家次以二白旗十二旒一先行三百步。會二天大霧一。咫尺不レ可レ辨。東西之軍遇レ于二關原一。日加レ辰而天霽。敵諸將覘二我軍已近一。欲二誘致而夾擊一レ之。未二敢挑一レ戰。忠吉時年十二。與二直政一以二兵三百一。踰二正則陣一而前。正則臣可兒才藏誰二何之一。答曰。下野公子井伊侍從自爲二斥候一也。曰。候騎不レ可レ多。直政乃附三兵於二其老木俣

日、辰を加へて天霽る。敵の諸將、我が軍の已に近づくを覘て、誘致して夾み(一)て之を擊たんと欲す。未だ敢て戰を挑まず。忠吉、時に年十二なり。直政と兵三百を以て、正則の陣を踰えて前む。正則の臣可兒才藏(二)、之を誰何す。答へて曰く、下野公子(三)井伊侍從自ら斥候を爲すなりと。曰く、候騎は多かる可からずと。直政乃ち兵を其老、木俣右京に附し、而して十餘騎を以て馳す。既にして中軍に鼓(四)螺起り、諸隊、大に鬨し、弓銃已に交る。忠吉、親ら義弘の陣を冒し、一驍騎と搏ちて、馬より墮し、從兵に命じて之を斬らしめ、復た進みて創を被る。直政扞ぎ戰ふ。右京、尋ぎて至る。忠勝三國驪に乘り、橫に敵陣を衝く。陣、皆披靡(五)す。其子忠朝手づから二騎を斬る。義弘・行長戰甚だ力む。秀家も亦正則を擊ちて、殺傷數百なり。我が衆將に卻かんとす。正則、叱咤(六)怪戰す。遊軍の來り援ふに會

右京。而以二十餘騎一馳。既而中軍鼓螺起。諸隊大鬨。弓銃已交。忠吉親冒二義弘陣一。與二一驍騎一搏。墮レ馬。命二從兵一斬レ之。復進被レ創。直政扞戰。右京尋至。忠勝乘二三國驪一。橫衝二敵陣一。陣皆披靡。其子忠朝手斬二二騎一。義弘行長戰甚力。秀家亦擊二正則一。殺傷數百。我衆將レ卻。正則叱咤督戰。會二游軍來援一。合レ兵疾擊。我右軍自二菩提山南一循レ麓而進。

ふ。兵を合せて疾く撃つ。我が右軍、菩提山の南より、麓に循ひて進む。

㈠ はさみうつ　㈡ 始めて姓名を聞く　㈢ 下野介忠吉　㈣ 鼓を鳴し法螺貝を吹く　㈤ ひらきなびく　㈥ 大呼して戰士をはげまし指揮す

長政豫揀二死士十餘一自從。欲三必擊二三成一。先二諸將一迫二其柵一。斃二三成將島勝猛一。吉政一正與二三成將蒲生備中北川十郎一戰而不レ利。嘉明

長政豫め死士十餘を揀びて自ら從へ、必ず三成を撃たんと欲す。諸將に先ちて其柵に迫り、三成の將島勝猛を斃す。吉政一正、三成の將蒲生備中、北川十郎と戰ひて利あらず。嘉明・忠興、其橫を撃つ。吉政等、之に返す。左軍の諸將は道南より進み、直に吉隆に撃つ。吉隆、爲廣・重政と健鬪す。我が兵進む可からず。時に日將に午ならんとす。兩軍迭に進み互に退き、勝敗未だ決せず。西軍、數々烽を擧ぐ。秀元、敢て動かず。秀秋も亦敢て東軍に應ぜず。東軍、礮を松尾山に

忠興擊ニ其横一。吉政等返レ之。左軍諸將自ニ道南一進。直擊ニ吉隆一。吉隆與ニ爲廣重政一健鬭。我兵不レ可レ進。時日將レ午。兩軍迭進互退。勝敗未レ決。西軍數擧レ烽。秀元不ニ敢動一。秀秋亦不ニ敢應ニ東軍一。東軍發ニ礮松尾山一以試レ之。奧平貞治亦促レ之。秀秋乃以ニ兵八千一下レ山。平岡重定稻葉正成爲ニ先鋒一。迫ニ吉隆之右一。不レ利。貞治戰死。脇坂朽木小川赤座諸將。與ニ我左軍一相翼而進。信成長益斬ニ重政一。小川氏部兵斬ニ爲廣一。秀秋返戰。三面合擊。

發して以て之を試みる。奧平貞治も亦之を促す。(三)秀秋乃ち兵八千を以て山を下る。平岡重定・稻葉正成、先鋒と爲り、吉隆の右に迫る。利あらず。貞治戰死す。脇坂・朽木・小川・赤座の諸將、我が左軍と相翼けて進む。信成・長益は重政を斬り、小川氏の部兵は爲廣を斬る。秀秋返り戰ひ、三面より合擊す。

(一) 決死の士　(二) けなげにたゝかふ　(三) 催促す

於レ是内大臣傳ニ令諸軍一。鼓譟齊進。聲震ニ天地一。西軍大動。我先驅乘レ之。擊走ニ秀家一。我左軍既獲ニ

是に於て、内大臣令を諸軍に傳へ、(一)鼓譟して齊しく進む。聲、天地に震ふ。西軍大に動く。我が先驅之に乘じて、擊ちて秀家を走らす。我が左軍は既に吉隆を獲、進みて右軍と夾擊して、三成を走らせ、十郎・備中を斬る。行長の軍望み見て擾亂し、(二)卻きて整へんと欲す。我が中驅迫り擊ちて之を走らす。義弘、一軍

吉隆。進與二右軍一夾擊。走二三成。斬二十郎備中。行長之軍望見擾亂。欲二卻而整。我申驅追擊走レ之。義弘以二一軍一東南走。正家盛親等皆潰。西軍遂大敗。我軍乘レ勝追レ北。斬首四萬級。原草爲レ之赤。

を以て東南に走る。正家・盛親等皆潰え、西軍遂に大に敗る。我が軍、勝に乘じて北ぐるを追ひ、斬首すること四萬級なり。(三)原草之が爲に赤し。

(一) 鼓を打鳴らしときをつくりて一齊に進行す　(二) 退却して軍列を正さんとす　(三) 原野の草も血にそまりて赤し

未時戰罷。我士卒死傷不レ滿二四千一。將帥無二一人死者一。盡赴二中軍一效二首虜一。內大臣據二胡床一。顧二左右一取レ冑。左右怪問レ故。內大臣笑曰。諺所レ

未の時に戰罷む。我が士卒の死傷は四千に滿たず。將帥に一人の死する者無し。盡く中軍に赴きて(一)首虜を效す。內大臣、胡床に據り、(三)左右を顧みて冑を取らしむ。左右、怪しみて故を問ふ。內大臣笑ひて曰く、諺に所謂勝ちて冑紐を肅する者なりと。乃ち忠勝を以て(四)擯と爲して、諸將を延見す。忠勝、賛して曰く、列侯の今日の戰、(五)皆絕類離羣なりと。正則曰く、(六)中務の兵を用ふること、乃ち聞く所に過ぐと。忠勝曰く、敵は脆弱なり。較するに足らずと。忠朝來り謁

謂勝而擒二冑葉一者也。乃以二忠勝一爲レ擯延二見諸將一。忠勝贊曰。列侯今日之戰。皆絕類離羣矣。正則曰。中務用レ兵。乃過レ所レ聞。忠勝曰。敵脆弱。不レ足レ較也。忠朝來謁。刀反不レ入レ室數寸。衆壯レ之。

す。刀(かたな)反りて室(しつ)に入らざること(七)數寸(すうすん)なり。衆之を壯(さう)とす。(八)

(一) 首級と捕虜と (二) 左右に侍する者 (三) 勝ちて冑の緒をしめる (四) 接伴役 (五) なみにはづれ、なかまにぬきいづ (六) 忠勝の兵を指揮することのすぐれたるは評判以上なり (七) 鞘 (八) 盛なりとす

忠吉直政裹レ創而至。內大臣起視二直政創一。手注レ藥。以二其餘一賜二忠吉一。直政告二忠吉戰狀一。曰。鄙語言。鷹之俊者。其雛亦俊。臣於二四郎一見レ之。內大臣曰。發縱者得レ宜爾。

忠吉・直政創(きず)を裹(つゝ)みて至る。內大臣、起ちて直政の創を視(み)て、手づから藥を注(そゝ)ぎ、其餘を以て忠吉に賜(たま)ふ。直政、忠吉の戰狀(せんじやう)(一)を告げて曰く、鄙語(ひご)(二)に言ふ、鷹(たか)(三)の俊(しゆん)なる者は、其雛も亦俊(しゆん)なりと。臣(しん)、四郎(四)に於て之を見ると。內大臣曰く、發縱者(はつしようしや)(五)宜(よろ)しきを得し(し)のみと。秀秋・秀元疑懼(ぎく)して未だ至らず。內大臣、人(ひと)をして秀秋を召(め)さしむ。乃ち脇坂安治(わきざかやすはる)等と來り謁(きたりえつ)して、膝行(しつかう)(六)して前(すゝ)む。敢(あへ)て仰視(ぎやうし)する莫(な)し。正則、直政に耳語(じご)(七)して曰く、黃門(くわうもん)(八)何ぞ醜(みにく)きやと。長政曰く、雛(きじ)にして鷹(たか)に遇(あ)はば、固(もと)より宜しく此(かく)の如くなるべしと。內大臣、秀秋(ひであき)をして澤山(さはやま)を攻めて自ら效(いた)さしむ。

秀秋秀元疑懼未レ至。内大臣使三人召二秀秋一。乃與二脇坂安治等一來謁。膝行而前。莫二敢仰視一。正則耳二語長政一曰。黄門何醜也。長政曰。雉而遇レ鷹固宜レ如レ此。内大臣使下秀秋攻二澤山一自效上。以二小川赤座有一レ罪。奪レ邑放レ之。秀元使二使賀一レ捷。以爲其父輝元在二大坂一。不二敢先謁一。引而西歸。池田淺野等亦撤レ備上謁。

小川・赤座は罪有るを以て、邑を奪ひて之を放つ。秀元使をして捷を賀せしむ。以爲へらく、其父輝元大坂に在り。敢て(九)先づ謁せずと。引きて西歸す。池田・淺野等も亦(一〇)備を撤して上謁す。

(一) 戰のありさま　(二) 俚諺に　(三) 鷹のすぐれたるものは其雉も亦すぐると　(四) 忠吉　(五) 鷹を放ちて使ふもの、巧みなるによるのみ　(六) ひざにて進む　(七) 耳に口をつけてさゝやきて　(八) 中納言秀秋　(九) 父より先に謁見せず　(一〇) 守備を引拂ひ

正則進而言曰。足下決三天下勝敗於二一日一。振古所レ無也。岡江雪曰。譬レ之。猶二昏夜向一レ明也。盍レ凱。

正則、進みて言ひて曰く、(一)足下天下の勝敗を一日に決す。(二)振古無き所なりと。岡江雪曰く、之を譬ふるに、猶ほ(三)昏夜の明に向ふがごときなり。盍ぞ(四)凱せざると。内大臣曰く、諸君、我が爲に努力して、以て此大捷を取るを得たり。而して諸君の家室、皆大坂に在り。(五)吾が心、未だ降らざるなり。數日を出でずして、取りて之

內大臣曰。諸君爲レ我努力。得三以取二此大捷一。而諸君家室皆在二大坂一。吾心未レ降也。不レ出二數日一。取附二之諸君一。然後凱耳。諸將聞レ之有二感泣者一。於レ是發二使者一。東報三捷於二中納言及少將秀康一。使三直政忠勝西次二今須一。自以二諸軍一止二舍藤川一。

を諸君に附し、然して後に凱せんのみと。諸將之を聞きて感泣する者有り。是に於て、使者を發して、東に捷を中納言及び少將秀康に報ず。直政・忠勝をして西今須に次せしむ。自ら諸軍を以て止りて藤川を舍す。

㊀家康を指す　㊁太古よりなし　㊂やみよりあかるみに向ふが如し　㊃勝鬨をあげざる　㊄吾が心いまだ落ちつかず

內大臣既大捷。西軍崩潰。散之二四方一。四方豪傑。莫レ不二震慴一。旬月之間。六十餘國。盡服二於德川氏一。先二大捷一四

內大臣、既に大捷す。西軍は崩潰して、散じて四方に之く。四方の豪傑、震慴せざるは莫し。旬月の間に、六十餘國、盡く德川氏に服す。大捷に先だつこと四日、田邊の圍解け、細川藤孝、龜山に徙る。大捷に先だつこと一日、大津陷り、京極高次高野に之く。敵の二城を圍みし者、或は奔り、或は降る。

㊀大に勝つ、關原の大捷のこと　㊁ふるひおそる

日。田邊圍解。細川藤孝從二龜山一。先二大捷二一日。大津陷。京極高次之二高野一。敵圍二一城一者。或奔。或降。

大捷後一日。內大臣進踰二磨鍼嶺一。陣二正法寺山一。使下直政忠勝率二小早川脇坂以下一攻中澤山上。澤山兵已逃。殘黨死守。明日。直政自二城後水道一入。縱レ火焚レ之。諸軍繼入。族二誅石田氏一。遂從陣二永原一。明日。又從二八幡山一。懸レ令大索二諸渠率一。

大捷の後一日、內大臣、進みて磨鍼嶺を踰えて、(二)正法寺山に陣し、直政・忠勝をして、小早川・脇坂以下を率ゐて澤山を攻めしむ。澤山の兵已に逃れて、(三)殘黨死守す。明日、直政、城後の水道より入り、火を縱ちて之を焚く。諸軍繼ぎ入りて、石田氏を族誅し、(四)遂に從りて永原に陣す。(五)明日、又八幡山に從り、(六)令を懸けて大に諸ゝの渠率を索む。(七)我が軍の留りて大垣に備ふる者、關原の戰作ると聞きて、進みて其陣に薄る。城將福原某は、石田氏の戚屬なり。(八)熊谷・垣見・相良・秋月・高橋等と、固く守りて下らず。松平康長銃卒に令して、銃を以て炮に代へ、陣を破りて入り、其外郭を奪ふ。議して曰く、大師既に捷つ。是れ何ぞ我が兵を損するに足らんと。乃ち緩く之を攻むること四日、相良以下、素より款を通ず。是に於て、熊谷・垣見を斬りて以て降る。福原は髮を削りて遁る。尋ぎて死を賜ふ。我

我軍留備二大垣一者。開二關原戰作一。進薄二其陣一。城將福原某石田氏戚屬也。與二熊谷垣見相良秋月高橋等一。固守不レ下。松平康長命二銃卒一。以レ銃代レ棓。破レ陣而入。奪二其外郭一。譏曰。大師既捷。是何足レ損二我兵一。乃緩攻レ之四日。相良以下素通レ款。於レ是斬二熊谷垣見一以降。福原削レ髮遁。尋賜レ死。我軍留備二南宮一者。奉レ命追擊。多レ所二斬獲一。池田長吉龜井玆矩遁二水口一。獲二正家一還報。以二城內貨財一賞二賜之一。近江人捕二行長一。獻レ之。田中吉政捕二三成于伊吹山中一。獻レ之。

が軍の留りて南宮に備ふる者、命を奉じて追擊し、斬獲する所多し。池田長吉、龜井玆矩、水口に遁りて、正家を獲て還り報ず。城內の貨財を以て之に賞賜す。近江の人、行長を捕へて、之を獻ず。田中吉政、三成を伊吹山中に捕へて、之を獻ず。

㊀ 近江國に在り ㊁ 同上 ㊂ 殘餘の兵死を決して守る ㊃ 一族を悉く誅す ㊄ 近江國に在り ㊅ 一本に命とあり ㊆ 大將 ㊇ 親戚なり

十九日。內大臣幕レ于二草津一。天皇使二使勞一レ之。內大臣拜謝曰。姧人託レ

十九日、內大臣、草津に幕す。天皇、使をして之を勞せしむ。內大臣、拜謝して曰く、(一)姧人、事に託して、天下を擾亂す。臣家康、諸將吏の力に賴りて、以て之を(二)攘除するを得たり。四方の殘黨は、當に不日に來り降るべし。幸に(三)聖慮を勞

事。擾亂天下。臣家康賴諸將吏之力。得以攘除之。四方殘黨。當不日來降。幸勿勞聖慮焉。乃命池田左衛門尉福島左衛門大夫淺野左京大夫。先入京師。鎭撫士民。且慰問北廳氏。

する勿れと。乃ち池田左衛門尉・福島左衛門大夫・淺野左京大夫に命じて、先づ京師に入りて、士民を鎭撫し、且つ北廳氏を慰問せしむ。

(一)惡者　(二)拂ひ退けることを得たり　(三)御心

大坂聞敗。內外失色。輝元長盛馳使乞降。內大臣不答。使大野治長往諭秀賴母子曰。近日之事。吾明知不出沖子也。今亂人既獲。

大坂、敗を聞きて、內外色を失ふ。輝元・長盛、使を馳せて降を乞ふ。內大臣答へず。大野治長をして往きて秀賴母子を諭さしめて曰く、近日の事、吾れ明かに沖子に出でざるを知る。今や亂人既に獲たり。宜しく安堵故の如くなるべしと。是に於て、衆情大に安んじ、京畿帖服す。而して山道の軍も亦至る。山道の軍、是の月二日を以て小室に至る。眞田信幸をして其父昌幸を招かしむ。昌幸、肯ぜず。榊原康政曰く、彼れ必ず夜來らんと。備を嚴にして以て待つ。昌幸、

宜ニ安堵如一レ故。於レ是衆情大安。京畿帖服。而山道軍亦至。山道軍。以ニ是月二日一至ニ小室一。使ニ眞田信幸招ニ其父昌幸一。昌幸不レ肯。榊原康政曰。彼必夜來。嚴レ備以待。昌幸果至。不ニ敢迫一。本多正信勸レ攻レ之。戸田一西爭レ之。不レ聽。六日。攻レ之。不レ利。乃令ニ小室城主仙石秀久川中城主森忠政備一レ之而西。

て果し至る。敢て迫らず。本多正信、勸めて之を攻む。戸田一西、之を爭ふ。聽かず。六日、之を攻む。利あらず。乃ち小室城主仙石秀久・川中城主森忠政をして之に備へしめて西す。

(一) 一同打ち驚きて顏色なし　(二) 秀頼の心中より出でざることを知る　(三) 謀叛人　(四) 衆大に心安し　(五) すつかり服從す

十七日。至ニ妻籠一。遇ニ報レ捷使者一。兼レ程以至。内大臣怒ニ其愆一レ期。稱レ疾不レ見。中納言垂泣而出。康政正信與ニ大久

十七日、妻籠に至る。捷を報ずる使者に遇ひ、(一)程を兼ねて以て至る。内大臣、其の期を愆れるを怒り、疾と稱して見ず。中納言、垂泣(二)して出づ。康政・正信と大久保忠隣・酒井忠利と見えんと請ふ。亦、井伊直政をして之を辭せしむ。直政、素より寵任を受く。又公子忠吉の婦翁(三)たり。是に於て、出でて命を傳ふ。因りて颺言し曰く、儲君逗撓(四)して、大事に及ばず。公等も亦焉んぞ責(五)を分たざるを得んや

保忠隣酒井忠利一請レ見。亦使二井伊直政辭一レ之。直政素受二寵任一。又爲二公子忠吉婦翁一。於レ是出傳レ命。因颺言曰。儲君逗撓。不レ及二大事一。公等亦焉得レ不レ分レ責也。諸將惶恐而退。獨忠利留。謂レ之曰。儲君後レ期。以レ攻二上田一爾。主公不二必深尤一。子何遽詬レ之爲。直政曰。吾爲二儲君一歎恨。

と。諸將惶恐して退く。獨り忠利留りて、之に謂ひて曰く、儲君の期に後れしは、上田を攻めしを以てのみ。主公、必ずしも深く尤めじ。子、何ぞ遽かに之を詬るを爲すと。直政曰く、吾れ儲君の爲に歎恨す。言はざる能はずと。忠利、色を(六)作して曰く、藉儲君(七)驩を主公に失はしむとも、子は勳戚(八)なり。宜しく之を彌(九)縫すべし。今乃ち衆に其過を彰す。果して何の意ぞ。願はくは其說を聞くを(一〇)得んと。刀を扣へて進む。牧野康成・本多成重、救解(一一)して止む。衆、忠利を指して曰く、彼の今日の舌戰(一二)は、往年の武功に過ぐること萬萬なりと。本多正純入りて白して曰く、期を愆るは、正信に由るなり。願はくは正信を罰して、以て儲君の過無きを著せと。內大臣意稍ゝ解く。

(一) 行程を倍して至る　(二) すゝり泣をして　(三) 妻の父　(四) 途中愚圖々々して關原の戰爭に間に合はず　(五) 責任を分つ　(六) 顏色を變へて　(七) 主公の御機嫌を損ふとも　(八) いさをある親戚なり　(九) 取りつくろふ　(一〇) 其の理由を聞き度ものなり　(一一) 辯解して止む　(一二) 今日の議論は先年の戰功に過ぐること甚だ多し

不レ能レ不レ言。忠利作レ色曰。嚮令二儲君失一レ驩於二主公一。子勵戚也。宜レ彌二縫之一。今乃衆彰二其過一。果何意乎。願得レ聞二其說一焉。扣レ刀而進。牧野康成本多成重救解而止。衆指二忠利一曰。彼今日舌戰過二往年武功一萬萬。本多正純入白曰。懲レ朋。由レ於二正信一也。願罰二正信一。以著二儲君之無一レ過。內大臣意稍解。

二十日。至二大津一。召二見中納言一。謂レ之曰。爲二天下一猶二奕碁一也。既勝二其全局一。則雖レ有二敵子存者一。何足レ較二輸贏一哉。汝未レ聞二若說一乎。中納言曰。爾時戸田左門諫レ兒。勿三以レ小失二大。誠如二大人所一レ言。曰。彼微者也。故其言不レ行耳。乃召二一西一。褒レ之曰。吾使二汝言可一レ行矣。命爲二大津留守一。

（二十日、大津に至る。中納言を召見して、之に謂ひて曰く、天下を爲むるは猶ほ（一）奕碁の如し。既に其（二）全局に勝てば、則ち（三）敵子の存する者有りと雖も、何ぞ輸贏を較するに足らんや。汝未だ若き說を聞かざるかと。中納言曰く、爾時戸田左門兒を諫む、小を以て大を失ふ勿れと。誠に大人の言ふ所の如しと。曰く、彼は（四）微者なり。故に其言行はれざるのみと。乃ち一西を召して、之を褒めて曰く、吾れ汝の言をして行ふ可からしめんと。命じて大津の留守と爲す。

（一）圍碁の如し　（二）全體の上に於て勝てば　（三）敵の碁石に生きありとも何ぞ勝敗を比較するに及ばん　（四）身分卑しき者）

淺野彈正少弼奉命。從中納言而至。內大臣召而謂之曰。西面之事。我與秀忠能辨之。東面獨有秀康。子往助之。以經理奧羽。彈正少弼乃東。

淺野彈正少弼、命を奉じて(一)、中納言に從ひて至る。內大臣召して之に謂ひて曰く、西面の事は、我と秀忠と能く之を辨ぜん(二)。東面は獨り秀康有るのみ。子、往きて之を助けて、以て奧羽を經理せよ(三)と。彈正少弼乃ち東す。

(一)命令をうけたまはりて　(二)能く之を處置せん　(三)治めよ

於是兩道之軍盡萃于大津。侯伯將士來謁者如雲。前田利長圍青木一矩于越前。數日而捷聞至。一矩懼降。納質及賂。利長受質卻賂而來謁。內大臣慰勞

是に於て、兩道の軍、盡く大津に萃る。侯伯將士、來謁する者雲の如し。前田利長、青木一矩を越前に圍む。數日にして捷聞(一)至る。一矩、懼れて降る。質及び賂を納る。利長、質を受け、賂を卻けて來謁す。內大臣、之を慰勞す。問ひて曰く、令弟(二)は何如と。利長、囁嚅(三)して敢て對へず。內大臣曰く、子、之を安んぜよ。公嘗て子の兄弟を以て我に託す。我れ豈に之を忘れんやと。罷りて命を俟たしむ。(四)山岡景友、命を奉じて伊勢を徇へ、福島正賴を援けて長島を守る。捷聞至るに及びて、兵を出して南宮の敗兵を要し、擊ちて之を走らす。桑名・龜山・神戸の

之。問曰。令弟何如。利長囁嚅不敢對。内大臣曰。子安之。尊公嘗以子兄弟託於我。我豈忘之哉。使諸侯命。山岡景友奉命徇伊勢。援福島正頼守長島。及捷聞至。出兵。要南宮敗兵。擊走之。取桑名龜山神戸諸城而來謁。

諸城を取りて來謁す。

(一)戰勝の報知 (二)貴弟利政をいふ (三)口ごもりて (四)尊父、利家をいふ

内大臣乃遣奥平信昌。入京師。以板倉勝重加藤正次大久保長安爲副。行所司代事。捕僧惠瓊。二十二日。遣直政忠勝。率列侯。臨大坂。輝元長盛復乞降。不答。二十四日。中納言入京師。二十七日。内大臣入大坂。遠近屏息。

内大臣、乃ち奥平信昌を遣して京師に入り、板倉勝重・加藤正次・大久保長安を以て副と爲し、所司代の事を行はしむ。僧惠瓊を捕ふ。二十二日、直政・忠勝を遣して、列侯を率ゐて、大坂に臨ましむ。輝元、長盛復た降を乞ふ。答へず。二十四日、中納言京師に入る。二十七日、内大臣、大坂に入る。遠近屏息す。

(一)そへ役 (二)諸侯 (三)威勢におそれてひつこむ

十月。朔。命二奥平信昌一。徇二石田三成小西行長僧惠瓊一。斬二于六條河原一。併二長束正家首一梟二于三條一。磔二伏見城中應レ敵者十八人于二粟田口一。遂下レ令。伐二西南諸國未レ定者一。以二中納言一爲二大將一。刻レ期發レ軍。

十月朔、奥平信昌に命じて、石田三成・小西行長・僧惠瓊を徇へて、六條河原に斬り、長束正家の首を併せて、三條に梟し、(一)伏見城中にて敵に應ぜし者十八人を粟田口に磔す。(二)遂に令を下して西南諸國の未だ定らざる者を伐つ。中納言を以て大將と爲し、(三)期を刻して軍を發す。

(一) 首をさらす　(二) はりつけにす　(三) 期日をきめて

十九日。中納言入二大坂一。輝元長盛乞レ降益力。乃放二長盛于二高野一。使三藤堂高虎收二其郡山一。釋二其留守渡邊了一。

十九日、中納言、大坂に入る。輝元・長盛、降を乞ふこと益〻力む。(一)乃ち長盛を高野に放ち、(二)藤堂高虎をして其郡山を收めしむ。其留守渡邊了を釋して、高虎に屬せしむ。輝元の六國を削り、浮田秀家の三國を收む。(三)浮田氏の臣某、來りて秀家既に死すと告ぐ。而して潛かに秀家をして奔りて島津氏に依らしむ。

(一) いよ〳〵精神をかたぶけて乞ふ　(二) 放逐す　(三) 沒收す

國ニ高虎一。削ニ輝元六國一。收ニ浮田秀家三國一。浮田氏臣某。來告ニ秀家既死一。而潜使三秀家奔ニ依島津氏一。

島津義弘之歸レ自ニ關原一。其兄義久囚レ之而乞レ降。內大臣曰。我初遇ニ義弘父子ニ甚厚。何所レ負而黨ニ亂人一。是固在レ所レ不レ許。雖レ然。吾不レ忍ニ復勞ニ兵。乃許ニ其降一。義久欲ニ來謝一。會疾作。伊集院族亦爲レ亂。以レ故未レ能來也。初豐後故主大友義統應ニ西軍一。欲三

島津義弘の關原より歸るや、其兄義久之を囚して降を乞ふ。內大臣曰く、我れ初め義弘父子を遇(一)すること甚だ厚し、何の負む所ありてか亂人に黨する。是れ固より許されざる所に在り。然りと雖も、吾れ復た兵を勞するに忍びずと。乃ち其降を許す。義久來り謝せんと欲す。會〻疾作り、伊集院の族も亦亂を爲す。故を以て未だ來る能はざるなり。初め豐後の故主大友義統西軍に應じ、其舊國(三)を復せんと欲す。首として杵築(二)に逼る。杵築、急を黑田・加藤氏に告ぐ。黑田孝高方に募兵萬人を以て、中津を發して南伐す。之を聞きて赴き援ひ、杵築の兵と合擊して、破りて之を降し、轉じて熊谷・垣見氏の邑を攻む。偶〻關原の逃卒を得、縱ちて其城に入らしむ。城皆降る。遂に中川氏を助け、攻めて太田氏を下し、盡く豐後を定め、還りて豐前に入る。香春・小倉(四)を取り、月を踰えて皆之を下す。轉じて筑前に入る。加藤清正、杵築を援ひしに及ばず。乃ち宇土・八代を攻む。肥

復二其舊國一。首遏二杵築一。杵築告三急於二黑田加藤氏一。黑田孝高方以二募兵萬人一。發二中津一南伐。聞レ之赴援。與二杵築兵一合擊。破而降レ之。轉攻二熊谷垣見氏邑一。偶得二關原逃卒一。縱入二其城一。城皆降。遂助二中川氏一。攻下二太田氏一。盡定二豐後一。還入二豐前一。取二香春小倉一。踰レ月皆下レ之。轉入二筑前一。加藤清正援二杵築一不レ及。乃攻二宇土八代一。肥前大村氏始不レ應二西軍一。

前の大村氏は始より西軍に應ぜず。

(一) 甚だ厚遇す　(二) 舊領國を回復せんと欲す　(三) 豐後國に在り　(四) 按ずるに攻むに作るべし

於レ是發レ兵助二清正一。清正亦使二關原逃卒入諭一焉。二城皆降。薩摩兵援二八代一。至二水股一而遁去。清正乃與二孝高一約。夾攻二筑後一。鍋島直茂擧レ

是に於て、兵を發して清正を助く。清正も亦關原の逃卒をして入りて諭さしむ。二城皆降る。薩摩の兵、八代を援ひ、水股(一)に至りて遁(二)れ去る。清正乃ち孝高と約して、夾みて筑後を攻む。鍋島直茂、兵を擧げて之に應じ、立花宗茂を擊つ。宗茂既に東軍に降る。孝高・清正之を和解す。立花增時を召して(三)成を行ふ。宗茂乃ち出でて面して曰く、公等豫め内府の必勝を知る。我が及ぶ所に非ざるなりと。清正、之を熊本に置き、遂に孝高と毛利秀包・筑紫廣門の邑を徇へ下す。

兵應レ之。擊二立花宗茂一。宗茂旣降二東軍一。孝高清正和二解之一。召二立花增時一行レ成。宗茂乃出面曰。公等豫知二內府必勝一。非二我所一レ及也。清正置二之熊本一。遂與二孝高一徇二下毛利秀包筑紫廣門邑一。十一月。合二二肥二筑二豐兵一。臨二薩摩境上一。日向伊東氏世與二薩摩一仇。攻二取宮崎佐土原一。引レ兵來會。內大臣聞レ之。下レ令。告二島津氏旣降一。弭二其兵一以定二九國一。

十一月、二肥、二筑、二豐の兵を合せて、薩摩の境上に臨む。日向の伊東氏、世〻薩摩と仇あり。攻めて宮崎・佐土原を取り、兵を引きて來會す。內大臣之を聞き、令を下して、島津氏旣に降るを告げ、其兵を弭めて以て九國を定めしむ。

㊀逃亡の兵 ㊁肥後國に作り ㊂和をなす

初毛利氏遣レ將徇二伊豫一。攻二眞崎一。加藤忠明爲二兄嘉明一留守。與二其將佃一成一隨レ方防禦。大破レ之。長曾我部盛

初め毛利氏、將を遣して伊豫を徇へ、眞崎を攻む。加藤忠明、兄嘉明の爲に留守し、其將佃一成と方に隨ひて防禦し、(一)大に之を破る。長曾我部盛親、關原より還り、井伊氏に因りて降を乞ふ。之を許す。盛親に庶兄(二)有り。藤堂氏と善し。盛親、其の己に代るを恐る。迫りて自殺せしむ。內大臣怒りて、井伊氏の將鈴木重好を遣して、其封を奪ひて以て四國を定めしむ。

親還レ自二關原一。因二井伊氏一乞レ降。許レ之。盛親有二庶兄一。與二藤堂氏一善。盛親恐三其代二己。迫使二自殺一。內大臣怒。遣二井伊氏將鈴木重好一。奪二其封一以定二四國一。

（一）防ぎ守る　（二）妾腹の兄

初福知山城主小野木重勝與レ圍二田邊城一。既解。據二其邑一。及二大捷一。細川忠興以二其父仇一請而討レ之。重勝自殺。石川賴明與レ圍二大津一。及レ捷而降。其父數正爲二我叛臣一。以レ故不レ許。當レ

初め福知山の城主小野木重勝、田邊城を圍むに與る。既に解きて、其邑に據る。大捷するに及びて、細川忠興、其父の仇なるを以て、請ひて之を討つ。重勝自殺す。石川賴明大津を圍むに與る。捷に及びて降る。其父數正我が叛臣たり。故を以て許さず。（一）斬に當つ。重勝の首を幷せて之を梟す。細川藤孝の田邊を守るや、死を以て自ら矢ふ。藤孝詞學に長ず。古今集を西三條氏に受く。敵將谷衛友等は、其弟子なり。陰かに（二）款を通じて、（三）銃に丸せず。朝廷、其學の傳を絕たん（四）ことを恐れ、（五）廷臣を遣して諭して成を行はしむ。捷を聞くに及びて、藤孝自ら愧ぢて、高野に遁る。京極高次も亦愧ぢて、敢て來謁せず。內大臣、人をして高

斬。幷二重勝首一梟レ之。細川藤孝之守二田邊一也。以レ死自矢。藤孝長二詞學一。受三古今集於二西三條氏一。敵將谷衞友等其弟子也。陰通レ款。不レ丸レ於レ銃。朝廷恐二其學絕一レ傳也。遣二廷臣一諭使レ行レ成。及レ聞レ捷。藤孝自愧。逝二高野一。京極高次亦愧。不二敢來謁一。內大臣使三人諭二高次一曰。子守二孤城一。使二數萬敵衆不一レ及レ於レ事。功亦多矣。乃召見レ之。以三前田玄以坐二視田邊大津之難一。黜レ之。尋徙二封丹波八上一。

次を諭さしめて曰く、子、孤城を守りて、數萬の敵衆をして事に及ばざらしむ。功も亦多しと。乃ち召して之を見る。前田玄以は田邊・大津の難を坐視せる(六)を以て、之を黜け、尋ぎて封を丹波の八上に徙す。

㈠死刑に行ふ　㈡和歌の學問　㈢空砲を發す　㈣歌學の傳統の斷絕せんことを恐れ　㈤朝廷の臣　㈥何事をもなさずして見て居る

青木一矩丹羽長重等。亦坐二觀望一失レ邑。九鬼守隆初招二其父嘉隆一。嘉隆不レ肯。守隆乃止。陣レ于二

青木一矩、丹羽長重等も亦觀望に坐して邑を失ふ。九鬼守隆初め其父嘉隆を招く。嘉隆肯ぜず。守隆乃ち止り、畔乘に陣す。大軍の西上するに及び、罪を獲んことを恐れて、乃ち進み戰ひて、首級を途に效す。內大臣懌ばず。大捷に及び、嘉隆懼れて、新宮に奔る。守隆、爲に命を乞ひて、允さるゝを得たり。使を

畔乘。及二大軍西上一。恐レ獲レ罪。乃進戰。效首級於レ途。內大臣不レ懌。及二大捷一。嘉隆懼。奔二新宮一。守隆爲乞レ命。得レ允。馳レ使迎レ之。未レ至而嘉隆自殺。眞田昌幸與二少子幸村一來乞レ命。不レ許。長子信幸因二井伊榊原二氏一固請。內大臣使レ言三之於二中納言一。中納言曰。我失二關原之期一。實終身之憾。而致レ之者昌幸也。必處二之死一。信幸固請曰。嚮也。臣寧負レ父。不レ能レ負レ君。今也。寧死殉レ父。不二生事一レ君。榊原康政入白。兩公嘉レ之。爲宥二死一等一。放二之高野一。

馳せて之を迎ふ。未だ至らずして、嘉隆自殺す。眞田昌幸、少子幸村と、來りて命を乞ふ。許さず。長子信幸、井伊・榊原二氏に因りて固く請ふ。內大臣之を中納言に言はしむ。中納言曰く、我れ關原の期を失ひしは、(四)實に終身の憾なり。而して之を致す者は昌幸なり。必ず之を(五)死に處せんと。信幸固く請ひて曰く、嚮には、臣寧ろ父に負くも、君に負く能はず。今は寧ろ死して父に殉するも、生きて君に事へずと。榊原康政入りて白す。兩公之を嘉して、爲に死一等を宥して、之を高野に放つ。

(一) 日和見をしてをつたといふことの罪に連坐して　(二) 志摩國に在り、今安乘と記す　(三) 命乞ひをなす　(四) 實に生涯の遺憾なり　(五) 死刑に處せん

先レ是。關原之

是より先、(一)關原の報、陸奧に至る。上杉景勝大に驚きて、急に山形の軍を召し

報至陸奥。上杉景勝大驚。急召還山形軍。佐竹義宣亦懼議降。東北亦稍定。

還す。佐竹義宣も亦懼れて、降を議す。東北も亦稍ゝ定る。

㊀關原戰爭の結果の報知　㊁稍ゝ平定す

十二月。内大臣與中納言。及諸親信議曰。禍亂略定。當裂天下賞有功。乃以關東八國立爲根本之地。居江戸城如故。以越前尾張近江伊勢封宗族舊臣。其餘盡爲外藩。

十二月、内大臣、中納言及び諸の親信と議して曰く、禍亂略ゝ定る。當に天下を裂きて有功を賞すべしと。乃ち關東八國を以て、立てて根本の地と爲し、江戸城に居ること故の如し。越前・尾張・近江・伊勢を以て、宗族舊臣を封ず。其餘は盡く外藩と爲す。加賀・能登・越中を前田利長に賜ひ、一百萬石と爲す。肥後を加藤清正に賜ひ、七十萬石と爲す。備前・美作を小早川秀秋に、安藝・備後を福島正則に、筑前を黒田長政に、播磨を池田輝政に賜ひ、並に五十萬石と爲す。豐前を細川忠興に賜ひ、四十萬石と爲す。紀伊を淺野左京大夫に、筑後を田中吉政に賜ひ、並に三十萬石と爲す。丹後・若狹を京極高知に、因幡・伯耆を中村忠一

賜㆘加賀能登越中于㆗前田利長㆖。爲㆓一百萬石㆒。賜㆘肥後于㆗加藤淸正㆖。爲㆓七十萬石㆒。賜㆘備前美作于㆓小早川秀秋㆒。安藝備後于㆓福島正則㆒。筑前于㆓黑田長政㆒。播磨于㆗池田輝政㆖。並爲㆓五十萬石㆒。賜㆘豐前于㆗細川忠興㆖。爲㆓四十萬石㆒。賜㆘紀伊于㆓淺野左京大夫㆒。筑後于㆗田中吉政㆖。並爲㆓三十萬石㆒。賜㆘丹後若狹于㆓京極高知㆒。因幡伯耆于㆓中村忠一㆒。出雲隱岐于㆓堀尾吉晴㆒。土佐于㆓山內一豐㆒。阿波于㆓蜂須賀至鎭㆒。讃岐于㆓生駒一正㆒。伊豫于㆗加藤嘉明藤堂高虎㆖。並爲㆓二十萬石㆒。賜㆘飛驒于㆓金森可重㆒。丹後福知山于㆓有馬豐氏㆒。美濃高須于㆓德永壽昌㆒。伊勢神戶于㆓一柳直盛㆒。其阿濃津于㆓富田知信㆒。其松坂于㆓古田重恆㆒。伊賀于㆓筒井定次㆒。信濃上田于㆓眞田信幸㆒。因幡鳥取于㆓池田長吉㆒。備中庭瀨于㆓戶川逵安㆒。豐後日出于㆗木下延俊㆖。或益㆑封。或依㆑舊。

に、出雲・隱岐を堀尾吉晴に、土佐を山內一豐に、阿波を蜂須賀至鎭に、讃岐を生駒一正に、伊豫を加藤嘉明・藤堂高虎に賜ひ、並に二十萬石と爲す。飛驒を金森可重に、丹後の福知山を有馬豐氏に、美濃の高須を德永壽昌に、伊勢の神戶を一柳直盛に、其阿濃津を富田知信に、其松坂を古田重恆に、伊賀を筒井定次に、信濃の上田を眞田信幸に、因幡の鳥取を池田長吉に、備中の庭瀨を戶川逵安に、豐後の日出を木下延俊に賜ひ、或は封を益し、或は舊に依る。(四)

(一) 親み信ずる家來　(二) 有功者　(三) 大名となす　(四) 舊領地のまゝとなす

賜肥前四萬石于寺澤廣高。美濃二萬石于西尾光敎。以信濃之邑賞木曾諸士。諸降附之國。改立其嗣。賜薩摩大隅日向于島津忠恆。爲七十萬石。賜長門周防于毛利秀元。肥前于鍋島勝茂。並爲三十萬石。以攝津河內和泉六十餘萬石隷大坂。賜越前于少

肥前の四萬石を寺澤廣高に、美濃の二萬石を西尾光敎に賜ひ、信濃の邑を以て木曾の諸士を賞す。諸の降附の國は、改めて其嗣を立つ。薩摩・大隅・日向を島津忠恆に賜ひ、七十萬石と爲す。長門・周防を毛利秀元に、肥前を鍋島勝茂に賜ひ、並に三十萬石と爲す。攝津・河內・和泉の六十餘萬石を以て大坂に隷す。越前を少將秀康に賜ひ、六十七萬石と爲す。尾張を下野守忠吉に賜ひ、二十萬石と爲す。近江の澤山を井伊直政に賜ひ、十八萬石と爲す。伊勢の桑名を本多忠勝に賜ひ、舊封を倂せて十七萬石と爲す。美濃の加納を奧平信昌に、其大垣を石川康通に賜ひ、上野の高崎を酒井家次に、駿府を內藤信成に、濱松を松平忠頼に、岡崎を本多康重に賜ひ、酒井忠利の秩を增して、萬石と爲す。餘は各〻差有り。外藩は今歲を以て命を發し、舊臣は明歲を以て命を發す。乃ち中納言をして入朝して成事(一)を告げしむ。諸〻の豐臣氏を冒す者は、皆本姓に復せしむ(二)。

(一) 事の評定　(二) 本の姓を名乘らしむ

將秀康一。爲二六十七萬石一。賜三尾張于二下野守忠吉一。爲二二十萬石一。賜三近江澤山于二井伊直政一。爲二十八萬石一。賜三伊勢桑名于二本多忠勝一。併二舊封一爲二十七萬石一。賜下美濃加納于二奧平信昌一。其大垣于中石川康通上賜下上野高崎于二酒井家次一。駿府于二內藤信成一。濱松于二松平忠賴一。岡崎于中本多康重上。增二酒井忠利秩一。爲二萬石一。餘各有レ差。外藩以二今歲一發レ令。舊臣以二明歲一發レ令。乃使三中納言入朝告二成事一。令下諸冒二豐臣氏一者皆復中本姓上。

豐臣氏嘗立二皇庶子良仁一爲二太子一。而非二天子意一也。於レ是欲レ立二皇嫡子政仁一。諮レ於二內大臣一。內大臣對曰。是非三臣所二敢議一也。嫡庶之分。唯帝心裁レ之。天子卽以二政仁一爲二皇太子一。

豐臣氏、嘗て皇庶子(一)良仁を立てて太子と爲す。而して天子の意に非ず。是に於て、皇嫡子(二)政仁を立てんと欲して、內大臣に諮る。內大臣對へて曰く、是れ臣の敢て議する所に非ざるなり(三)。嫡庶の分、唯帝心にて之を裁せよ(四)と。天子卽ち政仁を以て皇太子と爲す。

(一) 庶出の皇子　(二) 嫡出の皇子　(三) 彼是と申上げられません　(四) 陛下の御心によつて御決定あれ

六年正月。內

六年正月、內大臣大坂の西城に在り。中納言二城に在り。入りて秀賴を(一)牙城に

大臣在二大坂西城一。中納言在二二城一。入見三秀頼于二牙城一。列侯諸將盡朝二西城一賀レ正。先レ是。修二伏見城一。三月成。徙焉。

見る。列侯諸將盡く西城に朝して、正を賀す。是より先、伏見城を修む。三月成る。徙る。

(一) 本丸 (二) 新年を賀す

朝廷欲レ酬二內大臣勳勞一。擬以二大將軍一。大將軍之拜。自二足利氏亡後一。莫三復舉二其禮一。內大臣不二敢當一。且恐三其勞二費天下一也。固辭。乃以二中納言一爲二大納言一。陞二從二位一。下野守忠吉敍二從四位下一。任二侍從一。舊臣多進レ爵者。

朝廷、內大臣の勳勞に酬いんと欲して、擬するに大將軍を以てす。大將軍の拜は、足利氏の亡後より、復た其禮を舉ぐる莫し。內大臣、敢て當らず。且つ其天下を勞費するを恐るゝや、固辭す。乃ち中納言を以て大納言と爲し、從二位に陞す。下野守忠吉を從四位下に敍し、侍從に任ず。舊臣に爵を進めらるゝ者多

(一) 軍の功勞 (二) 拜任 (三) 天下の人民をして骨折らしめ費用を使ふことを心配して

於レ是以二西事既平一。使三大納言往平二關東諸國一。四月。發二伏見一。歸二江戸一。佐竹義宣懼レ討。迎二之品川一。謝レ罪請レ降。使下往二伏見一請丙之於乙内大臣甲。内大臣曰。乘レ時擧レ事。英雄之常。不レ足二深咎一也。獨觀二望兩端一者。可レ鄙之甚。故吾憎二義宣一過レ於二景勝一。乃不レ許レ見。使二就レ第俟一レ罪。景勝屢因二少將秀康一謝レ罪。秀康以爲。景勝方失レ勢。乘レ之非レ武。因爲請レ納二其降一。内大臣許レ之。七月。景勝來謝二伏見一。

是に於て、西事既に平ぐを以て、大納言をして往きて關東の諸國を平げしむ。四月伏見を發して江戸に歸る。佐竹義宣、討たれんことを懼れて、之を品川に迎へ、罪を謝して降を請ふ。伏見に往きて之を内大臣に請はしむ。内大臣曰く、時に(一)乘じて事を擧ぐるは、英雄の常なり。深く咎むるに足らざるなり。獨り兩端(二)を觀望する者は、鄙しむべきの甚だしきなり。故に吾れ義宣を憎むは、景勝に過ぐと。乃ち見るを許さず。第に就きて罪を俟たしむ。景勝屢〻少將秀康に因りて罪を謝す。秀康以爲へらく、景勝方に勢を失ふ。之に(三)乘ずるは武に非ずと。因りて爲に其降を納れんと請ふ。内大臣之を許す。七月、景勝來りて伏見に謝す。

(一) うまい時に乘じて事をなすは英雄の常の遣口なり　(二) 兩天秤をかくる者　(三) 勢を失ひたるにつけこむは武人の道に非ず

八月。收㆓其會津一百萬石㆒。賜㆓米澤三十萬石㆒。以㆓會津㆒賜㆓蒲生秀行㆒。食㆓六十萬石㆒。伊達政宗藉㆓大捷之威㆒。數使㆓上杉氏㆒。違㆓密命㆒。又誘㆓南部反臣和賀忠親㆒作㆑亂。及㆓事不㆑成。殺㆓忠親㆒滅㆑口。乃信㆓前約㆒。割㆓上杉氏地十二郡六十二萬石㆒賜㆑之。加㆓最上義光堀秀治之封㆒。命㆓二人㆒。

八月、其會津一百萬石を收め、米澤三十萬石を賜ひ、會津を以て蒲生秀行に賜ひ、六十萬石を食ましむ。伊達政宗大捷の威に藉りて、數ゝ上杉氏を使して、密命に(一)違ひ、又南部の反臣和賀忠親を誘ひて亂を作さしむ。事成らざるに及びて、忠親を殺して口を滅す(二)。乃ち前約を停め、上杉氏の地十二郡六十二萬石を割きて之を賜ふ。最上義光堀秀治の封を加へ、二人に命じて、南部・戸澤・本堂・村上・溝口氏を率ゐて、撃ちて會津城邑の未だ服せざる者を平げしむ。會津の老直江兼續、初め石田三成と密謀を定む。本多正信特に刑を加へんと請ふ。内大臣曰く、此謀に與る(三)者、豈に獨り一の兼續のみならんや。吾れ天下を蕩滌す(四)。何ぞ必ずしも介(五)介たらんと。釋して問はず。九月、前田利長の任子利常を召し、之に冠して遣(六)歸し、大納言の女を以て之に妻す。

(一) 内命にさからひ (二) 口止めす (三) 三成の密謀に賛す (四) 平らげをさむ (五) 氣にかくるに及ばす (六) やりかへす

率二南部戸澤本堂村上溝口氏一。撃二平會津城邑未レ服者一。會津之老直江兼續。初與二石田三成一定二密謀一。本多正信請二特加レ刑。内大臣曰。與二此謀一者。豈獨一兼續。吾蕩二滌天下一。何必介介也。釋不レ問。九月召二前田利長任子利常一。冠レ之遺歸。以二大納言女一妻レ之。

内大臣方鋭意求レ治。時藤原肅益有レ名。石田三成嘗欲レ聘レ之。不レ就。尋應二淺野氏之招一。至レ是内大臣數延レ之。諮二問太平策策一。後聘二其門人林信勝一爲二博士一。以備二顧問一。

内大臣、方に鋭意して治を求む。(一) 時に藤原肅、益々名有り。(二) 石田三成嘗て之を聘せんと欲す。就かず。尋ぎて淺野氏の招に應ず。是に至りて、内大臣、數々之を延き、太平の策を諮問す。(三) 後に其門人林信勝を聘して博士と爲して、以て顧問に備ふ。

(一) 一心に治平を求む　(二) 益々名高し　(三) 天下太平のはかりごとをとひただす

是歳夏。奏加二供御之地。及廷臣食邑一。給二

是の歳夏、奏して供御(一)の地及び廷臣の食邑(二)を加へ、豐國廟に給するに萬石を以てし、其他の寺祠に皆采田(三)を給す。初め本願寺の祖、姓は藤原氏、親鸞と稱

豐國廟一以二萬石一。其他寺祠皆給二采田一。初本願寺祖姓藤原氏。稱二親鸞一。創二一向派一。蓄レ妻食レ肉。八世孫兼壽。始建三寺于二山科一。尋徙二大坂一。其曾孫光佐與二織田信長一構レ兵。所在門徒爭戰不レ已。後助二豐臣秀吉一西伐。誘二其門徒一。通二薩摩之道一。以レ功建三寺于二京師六條一。光佐死。二子。光壽。光昭。光昌母美。秀吉納レ之。因立二光昭一。内大臣之東伐。二人皆送二之江戸一。

す。一向派(四)を創め、妻を蓄へ、肉を食ふ。八世の孫兼壽、始めて寺を山科に建て、尋ぎて大坂に徙る。其曾孫光佐、織田信長と兵を構へて、所在の門徒爭ひ戰ひて已まず。後に豐臣秀吉を助けて西伐し、其門徒を誘ひて、薩摩の道を通ず。功を以て寺を京師の六條に建つ。光佐、死す。二子光壽・光昭あり。光昭の母は美(五)なり。秀吉、之を納る。因りて光昭を立つ。内大臣の東伐するや、二人皆之を江戸に送る。石川氏の沮む所と爲る。光壽獨り間行(六)して達す。歸りて京師に匿る。已にして大軍西上す。黑田長政、門徒を誘ひて京畿を撓さんと請ふ。内大臣曰く、吾れ武を以て天下を定む。何ぞ浮屠(七)の力を借らんやと。乃ち止む。大捷の後、光壽、迎へて大津に賀す。内大臣曰く、光壽は本、嗣に當ると。乃ち爲に寺を六條の東に建て、天下の門徒をして分れて東西に屬せしむ。

(一) 天皇御用の地　(二) 知行　(三) 領地　(四) 一本に法とあり　(五) 容貌美なり　(六) 忍びて行く　(七) 僧徒

爲ニ石田氏所レ沮。光壽獨間行而達。歸ニ匿京師一。已而大軍西上。黑田長政請下誘ニ門徒一撓中京畿上。內大臣曰。吾以レ武定ニ天下一。何借ニ浮居力一哉。乃止。大捷後。光壽迎ニ賀大津一。內大臣曰。光壽本當レ嗣也。乃爲建ニ寺于六條東一。令三天下門徒分ニ屬東西一。

以ニ板倉勝重加藤正次一爲ニ京師所司代一。掌ニ獄訟及寺祠事一。尋罷ニ正次一。專任ニ勝重一。亂後物情不レ定。事務極繁。勝重詳雅强敏。人人無レ不レ厭レ心。其他大津草津界浦尼崎等地皆置レ吏。皆稱レ職。又城ニ于膳所一。首ニ戸田一西守一焉。遂命ニ關

板倉勝重・加藤正次を以て、京師の所司代と爲し、獄訟及び寺祠の事を掌らしむ。次ぎて正勝を罷めて、專ら勝重に任ず。亂後物情定らず。事務極めて繁し、勝重、詳雅（一）强敏（二）にして、人人（三）心に厭かざる無し。其他大津・草津・界浦・尼崎等の地、皆吏を置く。吏、皆職に稱ふ。又膳所に城きて、戸田一西をして守らしむ。遂に關西の諸侯に命じて京師の二條に城きて、以て駕を駐むるの地と爲す。（四）大番士人を以て、更〻之を戍らしむ。十一月、內大臣乃ち江戸に歸る。尋ぎて大納言をして牙城に居らしめて、自ら西城に居る。天下の牧長（五）江戸に朝せんと請ふ。辭して許さず。是より先、本多正信・內藤清成を以て關東奉行と爲して、以て庶務を綜べしむ。是に於て、青山忠成に命じて副と爲す。奥平家昌に賜ふに宇都宮を以てして、十萬石を食ましむ。七年正月、內大臣は從一位に進み、大

西諸侯ㇾ城ㇾ于二京師二條一。以爲二駐ㇾ駕之地一。以二大番士人一更戍ㇾ之。十一月。內大臣乃歸二江戸一。尋使三大納言居二牙城一。而自居二西城一。天下牧長請ㇾ朝ㇾ于二江戸一。辭不ㇾ許。先ㇾ是。以二本多正信內藤淸成一爲二關東奉行一。以綜二庶務一。於ㇾ是命二青山忠成一爲ㇾ副。賜二奥平家昌一以二宇都宮一。食二十萬石一。七年正月。內大臣進二從一位一。大納言進二正二位一。

納言は正二位に進む。

㊀綿密にして品位あり　㊁勉強にしてさとりはやし　㊂人々滿足す　㊃京師を衞る士　㊄大小名

前田利長請。朝二江戸一以爲二天下之率一。自二山道一東下。內大臣避二之京師一。留二大納言一當ㇾ之。利長至。大納言親迓三之于二板橋一。待遇甚渥。利長喜出二望外一。乃就ㇾ第。獻二名刀

前田利長請ふ、江戸に朝して以て(一)天下の率を爲さんと。山道より東下す。內大臣、之を京師に避け、大納言を留めて之に當らしむ。利長至る。大納言親ら之を板橋に迓へ、待遇甚だ渥し。利長喜(二)望外に出づ。乃ち第に就きて、名刀、馬、鷹、金百枚を獻ず。日日入謁す。大納言出でて前殿(三)に坐し、諸將、羣臣、左右に臚列(四)す。擯者(五)出でて、利長を延きて之を下坐に坐せしむ、尋ぎて饗禮を行ひ、名刀一口、金百枚、銀千枚、時服(六)百領を賜ひて之を遣す。利長遂に伏見に赴き、內大臣に謁して去る。

馬鷹金百枚一。且日。入謁。大納言出坐二前殿一。諸將羣臣左右臚列。擯者出。延二利長一坐二之下坐一。尋行二饗禮一。賜二名刀一口金百枚銀千枚時服百領一遣レ之。利長遂赴二伏見一。謁二內大臣一而去。

㈠人に先だちて事をなす ㈡思ひの外なり ㈢表座敷 ㈣ならびつらなる ㈤接伴役 ㈥其時季に適する衣服

三月。內大臣適二大坂一。賀レ正。尋還二伏見一。後以爲レ常。四月。賜二島津氏印信一。島津義久既平二國內反者一。欲二輿レ疾入謝一。反者復起。不レ果。五月。朔。內大臣入朝。二日。朝二皇太后一。因留二在京師一。六月奏請剪二南都黃熟香一。天使來蒞。本多正純掌二其事一。八月。生母水野氏卒。爲建二傳通

三月內大臣、大坂に適き、正を賀し、尋ぎて伏見に還る。後に以て常と爲す。四月島津氏に印信㈠を賜ふ。島津義久、既に國內の反者を平げ、㈡疾を輿して入謝せんと欲す。反者復た起りて果さず。五月朔、內大臣入朝す。二日皇太后に朝す。因りて留りて京師に在り。六月奏請して南都の㈢黃熟香を剪る。天使來り蒞む。本多正純其事を掌る。八月生母水野氏、卒す。爲に傳通院を建つ。十月內大臣、江戸に歸る。十一月復た伏見に赴く。

㈠御朱印 ㈡病中なれども駕籠に乗りて ㈢東大寺所藏の名香

院。十月。內大臣歸江戸。十一月。復赴伏見。

十二月。島津忠恆盡平國內亂。來謁。謝其稽緩之罪。先是。前田利長告浮田秀家未死。乃召浮田氏臣嘗告其死者詰之。告者請死。內大臣嘉其忠。祿之。於是忠恆白曰。秀家實在臣所。彼爲關原渠率。天下所不容。雖然。窮來投臣。臣不忍殺。願幕下枉包容之。乃宥死一等。流之八丈島。以明年赴配所。

十二月島津忠恆、盡く國內の亂を平げて、來り謁し、其稽緩(一)の罪を謝す。是より先、前田利長、浮田秀家未だ死せずと告ぐ。乃ち浮田氏の臣の嘗て其死を告げし者を召して、之を詰る。告ぐる者、死を請ふ。內大臣其忠を嘉して、之を祿す。是に於て、忠恆白して曰く、秀家は實に臣の所に在り。彼れ關原の渠率(二)たり。天下の容れざる所なり。然りと雖も、窮して來りて臣に投ず。臣殺すに忍びず。願はくは幕下、枉げて之を包容せよ(三)と。乃ち死一等を宥して、之を八丈島に流す。明年を以て配所(四)に赴かしむ。

(一) 怠り (二) 大將 (三) 將軍心をまげて之を宥免せよ (四) 流罪の地

是歳春。井伊直政卒。直政以二關原功一。首賜二石田氏故邑一。居二于澤山一。尋奉レ命城二彥根一。未レ成而沒。其子直勝襲レ封。是歳夏。內大臣欲下廢二佐竹義宣一爲中庶人上。以二其父義重乞一レ哀。乃收二其常陸八十萬石一。賜二出羽秋田二十萬石一。收二其弟貞隆之岩城一。賜二出羽龜田一。以四秋田氏不三從二關原之役一。收二其國一。賜二常陸宍戸一。命二松平康重一檢二常陸地一。佐竹氏將車猛虎作レ亂。襲二水戸一。康重豫知レ之。迎擊擒二猛虎一。是歳冬小早川秀秋卒。無レ嗣。收二其備前一。

是の歳春、井伊直政卒す。直政關原の功を以て、首(一)として石田氏の故邑を賜ひ、澤山に居る。尋ぎて命を奉じて彥根に城く。未だ成らずして沒す。其子直勝封を襲ぐ。是の歳夏、內大臣、佐竹義宣を廢して庶人(二)と爲さんと欲す、其父義重哀を乞ふを以て(三)、乃ち其常陸八十萬石を收めて、出羽の秋田二十萬石を賜ひ、其弟貞隆の岩城を收めて、出羽の龜田を賜ふ。秋田氏は關原の役に從はざるを以て、其國を收めて(四)、常陸の宍戸を賜ふ。松平康重に命じて常陸の地を檢せしむ。佐竹氏の將車猛虎亂を作して、水戸を襲ふ。康重豫め之を知り、迎へ擊ちて猛虎を擒にす。是の歳冬、小早川秀秋卒す。嗣無し。其備前を收め、其老稻葉平岡氏嘗て關原に功有るを以て、召して之を用ふ。

(一) 第一　(二) 平民　(三) 哀を乞ひたる故　(四) 取上げて

以其老稲葉平岡氏皆有功于関原。召而用之。

内大臣欲賜榊原康政以水戸。辭曰。臣有罪於関原之役。免罰受賞。臣所不安。臣邑密邇江戸。緩急得以致身。不可徙也。遂聽。還館林。本多正信使人止之。不聽。於是封五男信吉于水戸二十萬石。以其舊封佐倉封七男忠輝。以岩城賜鳥居忠政。食十二萬石。以酬其父元忠死節。自関原之役至于此。賞罰略畢。天下大定。

内大臣、榊原康政に賜ふに水戸を以てせんと欲す。辭して曰く、臣、關原の役に罪有り。罰を免されて賞を受く。臣の安んぜざる所なり。臣の邑は江戸に密邇(一)す。緩急以て身を致すを得ん。徙る可からずと。遂に聽せて館林に還る。本多正信、人をして之を止めしむ。聽かず。是に於て、五男信吉を水戸二十萬石に封じ、其舊封(二)佐倉を以て七男忠輝を封じ、岩城を以て鳥居忠政に賜ひ、二十萬石を食ましむ。以て其父元忠の節(三)に死するに酬ゆ。關原の役より此に至りて、賞罰略ぼ畢り、天下大に定る。

(一) 甚だ接近す (二) 舊の領地 (三) 一本に義とあり

八年二月。天

八年二月、天皇詔して、源家康を以て征夷大將軍と爲し、右大臣に進め、

皇詔。以二源家康一爲二征夷大將軍一。進二右大臣一。兼二淳和弉學兩院別當一。補二源氏長者一。賜二隨身兵仗一。十二日。大納言藤原兼勝參議藤原光豐以二傳奏司一奉二詔書一。就二伏見一拜焉。少將秀康進二參議一。敍二從三位一。其餘戚屬將吏。敍任有レ差。二十二日。入朝拜レ命。井伊直勝本多忠勝

淳和弉學兩院別當を兼ね、源氏長者に補し、(一)隨身兵仗を賜ふ。十二日大納言藤原兼勝・參議藤原光豐、(二)傳奏司を以て詔書を奉じ、伏見に就きて拜す。少將秀康參議に進み、從三位に敍せらる。其餘の戚屬、將吏、敍任せらるゝこと差有り。二十二日入朝して命を拜す。井伊直勝・本多忠勝等の十餘將、騎して(三)輿傍に從ひ、參議德川秀康・參議細川忠興・參議京極高次・少將池田輝政・少將福島正則後乘と爲りて、白金萬兩を獻ず。皇后、皇太子及び宗室、百官、皆贈遺有り。天皇之に酒を賜ふ。曰く、天下の亂るゝこと久し。汝能く之を略定す。朕、汝の功を勒し、(四)(五)乃祖の職に擧げしむ。宜しく我が師を統べて王室を鎭護すべしと。大將軍稽首して曰く、家康不才と雖も、敢て王命を(六)服膺せざらんやと。禮畢りて出づ。文武庶(七)僚悉く二條城に詣りて、之を賀す。大將軍の初め關原に勝つや、卽ち永井直勝をして、細川藤孝に就きて室町の禮式を諮はしむ。是に於て、又藤孝と禮を議す。

(一) 參内の時護衛を隨へ兵器を持つをゆるさるゝこと (二) 詔命の取次役 (三) 輿の御側につき (四) 一に勅に作る (五) 汝の祖先 (六) 固く身につけて忘れず (七) 文官武官諸の役人

等十餘將。騎從輿後。參議德川秀康。參議細川忠興。參議京極高次。少將池田輝政。少將福島正則爲後乘。獻白金萬兩。皇后皇太子及宗室百官。皆有贈遺。天皇賜之酒曰。天下之亂久矣。汝能略定之。朕勸汝功。使嗣乃祖之職。宜統我師以鎭護王室。大將軍稽首曰。家康雖不才。敢不服膺王命。禮畢而出。文武庶僚悉詣二條城賀之。大將軍初勝於關原。即使永井直勝就細川藤孝諮室町禮式。於是又與藤孝議禮。

是歲春。封七男忠輝于信濃川中。封八男義直于甲斐。義直幼。未之國。使平岩親吉攝其國事。徙川中城主森忠政于美作。加其封。三月。西道牧長盡朝江戶。

是の歲春、七男忠輝を信濃の川中に封じ、八男義直を甲斐に封す。義直幼し。未だ國に之かず(一)。平岩親吉をして其國事を攝せしむ(二)。川中城主森忠政を美作に徙して、其封を加ふ。三月、西道の牧長(三)、盡く江戶に朝す。

(一) 領國に行かず (二) 代りて國政を取らしむ (三) 大小名

四月。大將軍還伏見。時豐臣秀賴爲內

四月、大將軍、伏見に還る。時に豐臣秀賴內大臣と爲る。年已に十一なり。大將軍(一)孫女を以て之に妻はさんと欲す。六月大納言、夫人淺井氏をして、女を攜へて

大臣一。年已十一。大將軍欲下以二孫女一妻上レ之。六月。大納言使三夫人淺井氏攜レ女赴二京師一。七月。使四大久保忠隣送三レ之于二大坂一。黑田長政以二弓銃手三百一衞レ之。大將軍聞レ之弗レ悅。豐臣氏素尚二奢華一。於レ是欲下以二白綾一覆中城內道途上。片桐且元曰。德川公不レ善二此等事一。趣撤レ之。婚旣成。秀賴不三妻二視之一。淀君不三婦二視之一。使三福島正則密徵二西諸侯誓書一。

京師に赴かしむ。七月、大久保忠隣をして女を大坂に送らしむ。黑田長政弓銃手三百を以て之を衞る。大將軍之を聞きて悅ばず。豐臣氏素より奢華(二)を尙ぶ。是に於て、白綾(三)を以て城內の道途を覆はんと欲す。片桐且元曰く、德川公此等の事を喜ばずと。趣かに之を撤す(四)。婚旣に成る。秀賴之を妻視(五)せず。淀君之を婦視(六)せず。福島正則をして、密かに西の諸侯の誓書を徵せしむ。

(一) 孫むすめ　(二) はでやかなること　(三) 白綾を以て城内の道路の兩側に張らんと欲す　(四) 取りのく　(五) 妻としてあつかはず　(六) よめとしてあつかはず

十月。大將軍辭二右大臣一。尋歸二江戶一。十一年大納言兼二

十月大將軍、右大臣を辭し、尋ぎて江戶に歸る。十一月大納言、右近衞大將を兼ね、右馬寮御監に補せらる。是より先、水戶城主信吉、卒す。嗣無し(一)。九男賴宣を水戶に封ず。是の歲、井伊直政の遺服(二)の子直孝を江戶に召す。

右近衛大將一。補二右馬寮御監一。先レ是。水戸城主信吉卒。無レ嗣(一)。封三九男賴宣於二水戸一。是歲。召三井伊直政遺腹子(二)直孝于二江戸一。

(一) 世嗣なし (二) 死後に生れたる子

九年二月。令二東北三道一。定二道程一。置二堠樹一。以二三十六町一爲二一里一。用二織田氏故法一。既而西南四道皆倣レ之。三月。大將軍入二京師一。六月。入朝。七月。大納言夫人淺井氏生二男家光于二江戸一。大將軍授二其幼字一。呼二

九年二月、東北の三道に令して、道程を定め、堠樹(一)を置き、三十六町を以て一里と爲す。織田氏の故法を用ふ。既にして西南の四道、皆之に倣ふ。三月、大將軍、京師に入り、六月入朝す。七月大納言夫人淺井氏、男家光を江戸に生む。大將軍其幼字を授けて、竹千代と呼ぶ。是の歲、藤堂高虎議を倡へて、諸侯をして邸及び質を江戸に置かしむ。相良氏、首(二)として其母を納る。衆之に繼ぐ。是の歲黑田孝高卒す。關原の事、孝高の計多きに居る。其の九州を定むるや妄に一人を戮せず。既にして老を告げ(三)、世事を謝絕す。大納言比するに漢の張良を以てす。卒するに及び、殊に之を悼惜す。

(一) 一里塚 (二) 第一番に (三) 隱居して世事を捨つ

竹千代一。是歲。藤堂高虎倡レ議。使四諸侯置三邸及質于二江戶一。相良氏首納二其母一。衆繼レ之。是歲。黑田孝高卒。關原之事。孝高之計居レ多。其定二九州一。不三妄戮二一人一。既而告レ老。謝二絕世事一。大納言比以二漢張良一。及レ卒。殊悼二惜之一。

自二關原之捷一。德川氏威溢二海外一。紅毛安南諸國皆來貢。而松前慶廣奉二敎旨一。約二束蝦夷一。先レ是。大將軍謂二對馬守宗義智一曰。豐臣氏伐二朝鮮一。非二我所一レ知。我與レ彼皆無二怨仇一。彼苟欲二入貢一。我當レ許レ之。然非二自レ我求一レ和。子體二此意一。往試計レ

關原の捷より、德川氏の威、海外に溢る。紅毛(二)•安南の諸國皆來貢す。而して松前慶廣敎旨を奉じて、蝦夷を約束す(一)。是より先、大將軍、對馬守宗義智に謂ひて曰く、豐臣氏の朝鮮を伐つは、我が知る所に非ず。我と彼と皆怨仇無し。彼れ苟も入貢を欲せば、我れ當に之を許すべし。然れども我より和を求むるに非ず。子、(三)此意を體して、往きて試に之を計れと。義智、國に之き、使を遣して之を朝鮮に諷す。朝鮮、明人の來り成るを苦しむ。(四)遂に和を成さんと欲す。然れども喜懼相半す。是の歲、孫文彧等をして、對馬に來りて入見を請はしめ、且つ其俘囚(五)を還さんことを求む。義智使を馳せて之を報ず。大將軍答へて曰く、明春吾れ父子、將に入朝せんとす。卿率ゐて京師に詣りて以て俟てと。義智其敎の如くす。板倉勝重旨を受けて、之を大德寺に館す。十年正月、大將軍、京師に入る。二月

之。義智之レ國。遣レ使諷二之朝鮮一。朝鮮菩二明人來戌一也。欲二遂成一レ和。然喜懼相半。是歲。使下孫文彧等來二對馬一請中入見上。且求レ還二其俘囚一。義智馳レ使報レ之。大將軍答曰。明春吾父子將二入朝一。卿率詣二京師一。以俟。義智如二其敎一。板倉勝重受レ旨。館二之大德寺一。十年正月。大將軍入二京師一。二月見三韓人于二伏見一。令下諸道檢二韓俘一返予上。謂二義智一曰。吾將レ老矣。貢使來。致二之江戶一。又曰。吾欲下擧二鎌倉禮一使中右大將拜賀上。期在レ近矣。宜下留二韓人一觀中其儀衞上。乃賜二義智邑于二肥前一。

韓人を伏見に見る。諸道をして(六)韓俘を檢して返予せしむ。義智に謂ひて曰く、吾れ將に老せんとす。貢使來らば之を江戶に致せよ。又曰く、吾れ鎌倉の禮を擧げて右大將として拜賀せしめんと欲す。期、近きに在り。宜しく韓人を留めて其の(七)儀衞を觀しむべしと。乃ち義智に邑を肥前に賜ふ。

㈠ 外國にまで及ぶ　㈡ 和睦　㈢ 此意をよく心得て　㈣ 一本に迹とあり　㈤ とりこ　㈥ 朝鮮人のとりこ　㈦ 儀式に列する護衞

三月。大納言率二上杉佐竹伊達最上氏一西上。特命二鳥

三月、大納言、上杉•佐竹•伊達•最上氏を率ゐて西上す。特に鳥居忠政に命じて(一)後殿と爲す。(二)仗戟途に載すること十有七日なり。先づ伏見に入り、遂に入朝して、大將の命を拜す。四月大將軍、奏して職を辭せんと請ふ。(三)優詔して之を許

居忠政一爲二後殿一。仗戟載レ途者十有七日。先入二伏見一。遂入朝。拜二大將命一。四月。大將軍奏請レ辭レ職。優詔。許レ之。且欲三遷爲二左大臣一。固辭而還。十六日。詔。以二源秀忠一爲二征夷大將軍一。遷二內大臣一。陞二正二位一。仍帶二舊職一。弟忠吉進二三位中將一。弟忠輝任二四位少將一。十日入朝拜レ命。東諸侯及前田毛利島津氏盡從。自レ是世號二前大將軍一曰二大御所一。

し、且つ遷して左大臣と爲さんと欲す。固辭して還る、十六日詔して、源秀忠を以て征夷大將軍と爲し、內大臣に遷し、正二位に陞す。仍ほ舊職を帶ぶ。弟忠吉、三位中將に進み、弟忠輝、四位少將に任ぜらる。十日入朝して命を拜す。東の諸侯及び前田・毛利・島津氏、盡く從ふ。是より世のひと、前大將軍を號して大御所と曰ふ。

㊀ しんがり　㊁ 兵器　㊂ 優渥なる詔を下して

五月前將軍諷二豐臣秀賴一使二入朝一。淀君性猜忌。固執不レ遣。少將忠

五月、前將軍、豐臣秀賴に諷(一)して入朝せしむ。淀君性猜忌(二)なり、固執(三)して遣らず。少將忠輝、命を奉じて往き、職を襲ぐを告ぐ。六月大將軍、江戸に歸る。七月諸侯十餘名に課して、重ねて伏見城を修めしむ。十月前將軍、江戸に歸る。十

輝奉レ命往。皆襲レ職焉。六月。大將軍歸二江戸一。七月。課二諸侯十餘名一。重修二伏見城一。十月。前將軍歸二江戸一。十二月。養二榊原康政女一。妻二池田利隆一。又謂二異父弟松平定勝一曰。島津淺野皆冀下與レ我結上レ婚。汝二男皆已可レ有レ室矣。宜レ使下長男娶二島津一次男娶中淺野上。定勝奉レ命。

二月榊原康政の女を養ひて、池田利隆に妻はす。又異父弟松平定勝に謂ひて曰く、島津・淺野皆我と婚を結ぶを冀ふ。汝が二男皆已に室(四)有る可し。宜しく長男をして島津に娶り、次男をして淺野に娶らしむべしと。定勝命を奉ず。

(一) 遠廻にいひて (二) 性質うたがひ深く (三) 我意を張りて (四) 妻

是歳。令三金工光次更造二方金一。初上杉氏有二佐渡一。毛利氏有二石見一。皆出二白金一。然不レ能二多鑄造一。豐臣氏收二佐渡一。亦無二大利一。及三前將軍收二

是の歳、金工光次をして、更に方金(一)を造らしむ。初め上杉氏、佐渡を有し、毛利氏、石見を有して、皆白金を出す。然れども多く鑄造する能はず。豐臣氏、佐渡を收めしも、亦大利然し。前將軍の二國を收むるに及びて、甲斐の人大久保長安をして之を掌らしむ。居ること二歲にして數萬斤を得。長安又伊豆に採る。其利も亦等し。乃ち豐臣氏の故制(二)に因りて、金幣(三)を造る。次年、又新錢を鑄る。民皆之を便とす。

國㆒。使㆓甲斐人大久保長安掌㆒㆑之。居二歲。得㆓數萬斤㆒。長安又採㆓於伊豆㆒。其利亦等。乃因㆓豐臣氏故制㆒。造㆓金幣㆒。次年。又鑄㆓新錢㆒。民皆便㆑之。

㈠ 歩金　㈡ ふるき規則　㈢ 大判小判

十一年。春。前將軍建白。禁廷狹隘。不㆑可㆑行㆓朝儀㆒。遂課㆓天下侯伯㆒修㆓拓之㆒。各刻㆓名于礎㆒。參議秀康掌㆓其事㆒。秀康尋還㆓中納言㆒。又大修㆓江戸城㆒。使㆘藤堂高虎率㆓池田福島加藤黑田淺野細川等十五姓㆒助㆖

十一年春、前將軍建白す。禁廷狹隘にして、朝儀㈠を行ふ可からずと。遂に天下の侯伯に課して、之を修拓し、各々名を礎に刻す。參議秀康、其事を掌る。秀康尋ぎて中納言に遷る。又大に江戸城を修め、藤堂高虎をして、池田・福島・加藤・黑田・淺野・細川等の十五姓を率ゐて工㈡を助けしむ。三月前將軍、京師に赴く、五月榊原康政卒す。子康勝に命じて封を襲がしむ。九月島津忠恒に、松平氏及び偏諱㈢を賜ひ、名を家久と改めしむ。是より諸藩に多く氏を賜ふ。是の月、江戸城餘る。宏壯㈣なること天下第一と稱す。藤堂氏、功を以て備中の地萬石を賜ふ。其餘差有り。十月前將軍江戸に歸る。

㈠ 朝廷の儀式　㈡ 普請　㈢ 名の一字　㈣ 廣大にして盛なること

工。三月。前將軍赴二京師一。五月。榊原康政卒。命二子康勝一襲レ封。九月。賜二島津忠恒松平氏及偏諱一。改二名家久一。自レ是諸藩多賜レ氏。是月。江戸城成。宏壯稱二天下第一一。藤堂氏以レ功賜二備中地萬石一。其餘有レ差。十月。前將軍歸二江戸一。

是歲。封二十男賴房于常陸下妻一。食二五萬石一。爲二少將忠輝娶二伊達氏一。罷二內藤淸成青山忠成奉行職一。以二安藤重信一代レ之。徙二駿府城主內藤信成于長濱一。十二年正月。課二海道及畿西諸國一。城二于駿府一。前將軍嬰レ疾昏倒。既而愈。有二訛言一。二月。乃張二四部散樂一。下レ令縱觀。前將軍將軍率二諸侯一臨焉。訛言立止。

是の歲、十男賴房を常陸の下妻に封じ、五萬石を食ましむ。小將忠輝の爲に伊達氏に娶る。內藤淸成・青山忠成の奉行職を罷めて、安藤重信を以て之に代ふ。駿府の城主內藤信成を長濱に徙す。十二年正月、海道及び畿西の諸國に課して、駿府に城く。前將軍疾に嬰りて昏倒す(一)。既にして愈ゆ。訛言(二)有り。二月、乃ち四部の散樂を張り、令を下して縱觀(三)せしむ。前將軍・將軍、諸侯を率ゐて臨む。訛言立ちどころに止む。

(一) 目がくらみてたふる　(二) あやまりのつたへ　(三) きまゝに見物せしむ

先是。中將忠吉有疾。少間。來江戶。寓大久保氏。三月。忠吉卒。無嗣。徙義直于尾張。食六十萬石。令平岩親吉居犬山。中納言秀康爲伏見留守。是月。以疾謁歸。兩月而卒。秀康武而善政。內外惜之。其子忠直襲封。後任少將。次子直基繼結城氏。三月。前將軍老于駿府。以松平定勝爲伏見留守。以井伊直孝副之。

是より先、中將忠吉疾有り。少間あり、(一)江戶に來りて、大久保氏に寓す。三月、忠吉、卒す。嗣無し。義直を尾張に徙し、六十萬石を食ましめ、平岩親吉をして犬山に居らしむ。中納言秀康、伏見に留守たり。是の月疾を以て謁歸す。(二)兩月にして卒す。秀康、武にして政を善くす。(三)內外之を惜しむ。其子忠直、封を襲ぐ。後、少將に任ぜらる。次子直基、結城氏を繼ぐ。三月、前將軍、駿府に老す。松平定勝を以て伏見の留守と爲す。井伊直孝を以て之に副とす。(四)

(一) 病少しくよろしき間　(二) 二ケ月たつて　(三) 內外の者秀康の死を惜む　(四) そへやくとなす

先是。韓囚歸其國。說我新政。韓主心嚮

是より先、韓の囚、其國に歸りて、我が新政を說く。韓主、心、之に嚮ふ。五月使者呂祐吉等を遣して入貢し、兩府に詣らしむ。是より將軍禪代毎に輒ち來

之。五月。遣二使者呂祐吉等一入貢。詣二兩府一。自レ是每二將軍襲代一輙來。永爲二我屬國一。兩將軍奏二宗義智之功一。爲二四位侍從一。比二十萬石一。前代外國書信皆委二僧侶一。於レ是命二博士林信勝一掌レ之。是夏。課二東北諸侯一。作二江戶天主閣一。

り、永く我が屬國と爲る。兩將軍、宗義智の功を奏して、四位侍從と爲し、十萬石に比す。前代は、外國の書信は皆僧侶に委す。是に於て、博士林信勝に命じて之を掌らしむ。是の夏、東北の諸侯に課して、江戶の天主閣を作る。

(一) 代がはり　(二) つきぐに　(三) 僧侶にまかす

十月。前將軍之二江戶一。擧二西城府藏一貺二將軍一。又設二茶會一而招二將軍一。以二上杉景勝佐竹義宣伊達政宗一爲二接伴一。皆手賜レ茶。當二是時一。兩公數

十月、前將軍、江戶に之き、西城の府藏を擧げて將軍に貺ひ、又茶會を設けて將軍を招く。上杉景勝・佐竹義宣・伊達政宗を以て接伴と爲し、皆手づから茶を賜ふ。是の時に當りて、兩公數〻諸侯の邸に臨み、每に歡を極む。十二月、前將軍駿府に還る。府城、災あり。十三年再び之を城く。三月成る。九月、將軍諸侯を率ゐて往きて賀す。是より兩公、二府に往來す。而して豐臣氏以下、歲〻使を駿府に遣して正を賀す。

臨二諸侯邸一。毎極レ歡焉。十二月。前將軍還二駿府一。府城災。十三年。再城レ之。三月成。九月。將軍率二諸侯一往賀焉。自レ是兩公往二來二府一。而豐臣氏以下歲使二使駿府一賀レ正。

(一) 幕府のくら　(二) 接待役　(三) 火災　(四) 江戸と駿府と

是歲。筒井定次以二淫虐一。前田利宗以二喪心一。並收レ封。以二利宗邑八上一。徙二封松平康重一。以二其地形不四足三以五阨二山陰一。乃改城二于篠山一。課二藤堂及池田福島加藤淺野氏一。

是の歲、筒井定次は淫虐(一)を以て、前田利宗は喪心(二)を以て、並に封を收め、利宗の邑八上を以て、松平康重を徙封す。其地形の以て山陰を阨するに足らざるを以て、乃ち改めて篠山に城き、藤堂及び池田・福島・加藤・淺野氏に課す(三)。

(一) 淫亂にして殘虐なるを以て　(二) 氣が狂ふ　(三) 費用を割りあつ

十四年正月。義直之レ國。前將軍送レ之。二月。歸。九月。徙二脇坂安治于二

十四年正月、義直國に之く。前將軍之を送りて、二月歸る。九月脇坂安治を大洲に、富田知信を宇和島に徙し、伊賀・伊勢二十三萬石を以て藤堂高虎に賜ひ、阿濃津に治し(一)、勳舊の臣に比す。是より先、廷臣(二)作を結びて奸淫する者有り。前將

大洲。富田知信于中宇和島上。以二伊賀伊勢二十三萬石一。賜二藤堂高虎一。治レ于二阿濃津一。比二動舊之臣一。先レ是。廷臣有下結レ伴奸淫者上。前將軍奉レ勅。命二板倉勝重一按二治之一。十一月。誅二其首罪一人一。流二竄其餘一。十二月。封二賴宣于駿河遠江五十萬石一。治レ于二濱松一。徙二賴房于水戸一。是歲諸侯妻子盡至二江戸一。令下其會同者留二期年一而去上。著爲二永制一。禁下西諸侯多造二戰艦一。

軍勅を奉じ、板倉勝重に命じて之を按治せしむ。十一月、其首罪一人を誅し、其餘を流竄す。(四)十二月、賴宣を駿河・遠江(三)五十萬石に封じ、濱松に治せしむ。賴房を水戸に徙す。是の歳、諸侯の妻子盡く江戸に至る。其會同する者は留ること期年(五)にして去らしむ。著して永制と爲す。(六)西の諸侯の多く戰艦を造るを禁ず。

(一) 一本に二とあり　(二) 譜代の臣　(三) とりしらぶ　(四) 島ながしの罪に行ふ　(五) 一ケ年　(六) ながき規則

先レ是。島津家久奉レ敎招二琉球一。琉球不レ至。請而討レ之。是歲春。遣二其將新納一氏一將二

是より先、島津家久(一)教を奉じて琉球を招く。琉球至らず。請ひて之を討つ。是の歳春、其將新納一氏を遣し、八千人に將として南伐す。樺山久高先鋒たり。束求島に抵り、琉球の戍兵(二)三百を執ふ。夏、那巴津を攻む。虜、鐵鏁(三)を以て船を聯ね、津口を扼守す。而して津傍に山有り。險にして蛇蝎多し。虜、恃(四)みて兵を置

八千人南伐。樺山久高爲先鋒。抵東求島。執琉球戍兵三百。夏。攻雞巴津。虜以鐵鏁聯船扼守津口。而津傍有山。險多蛇蝎。虜恃不置兵。我軍放火赭山而上。進奪陽睽灘。戰于千里山。不利。轉攻朝築城。拔之。琉球王尚寧使其弟具志來乞降。不許。五戰而至國都。擒尚寧。及王子大臣數十人。而嚴禁抄掠。安撫國民。以六十日定琉球。秋。幕議以琉球賜島津氏。爲其臣隷。

かず。我が軍、火を放ちて山を赭(五)にして上り、進みて陽睽灘を奪ひ、千里山に戰ふ、利あらず。轉じて朝築城を攻めて、之を拔く。琉球王尚寧、其弟具志をして來りて降を乞はしむ。許さず。五戰して國都に至り、尚寧及び王子、大臣數十人を擒へて、嚴しく抄掠を禁じ、國民を安撫す。六十日を以て琉球を定む。秋、幕議、琉球を以て島津氏に賜ひ、其臣隷(六)と爲す。

㈠ 將軍の命令　㈡ 守備兵　㈢ 鐵のくさりを以て船をつなぎ合せ　㈣ それをたのみとして兵を置かず　㈤ あかはだかにし　㈥ 家來となす

先是。我賈舶至阿媽港。皆見誘殺。其三

是より先、我が賈舶(一)、阿媽港に至り、皆誘殺せらる。其三人、潛かに逃れ歸りて、之を告ぐ。是の歲、港人(二)二百長崎に至る。幕府、原城主有馬晴信に命じ、長

人潛逃歸。告レ之。是歲。港人二百至二長崎一。幕府命二原城主有馬晴信一。助二長崎奉行長谷川藤廣一。擊二鏖港人一。後二歲。其大人來謝。乃給二印信一。許二互市一。

崎奉行長谷川藤廣を助けて、撃ちて港人を鏖にす。後二歳、其大人来り謝す。乃ち印信(三)を給して、互市(四)を許す。

(一) 商船 (二) 一本に三百とあり (三) 御朱印 (四) 貿易

十五年正月。將軍以二內藤忠重一爲二嗣子傅一。松平正綱子信綱。阿部正次子正秋爲二侍臣一。二月。將軍適二駿府一。先レ是。堀忠俊之宰堀直清專レ政。譖二庶兄直寄一。逐レ之。直

十五年正月、將軍、內藤忠重を以て嗣子の傅(一)と爲し、松平正綱の子信綱、阿部正次の子正秋を侍臣と爲す。二月、將軍駿府に適く。是より先、堀忠俊の宰堀直清政を專にし、庶兄直寄を譖(二)して之を逐ふ。直寄弁りて、之を駿府に訴ふ。閏二月、兩公親ら之を聽く。直清辭屈(三)す。之を山形に放ち、忠俊を岩城に放ち、直寄を信濃の飯山に封ず。越後を以て少將忠輝を封じ、舊封を併せて五十萬石と爲し、福島に治せしむ。尋ぎて高田に遷る。

(一) もり役 (二) 讒言して (三) 言葉につまる

寄奔。訴二之駿府一。閏二月。兩公親聽レ之。直淸辭屈。放二之山形一。放二忠俊岩城一。封三直寄于二信濃飯山一。以二越後一封二少將忠輝一。併二舊封一爲二五十萬石一。治二于福島一。尋遷二高田一。

是月。將軍大獵二于遠江一。本多忠勝自二桑名一來謁曰。往年老僕從二太公一。拒二武田信玄于レ玆。爾時以二信玄兵一爲二衆盛不レ可レ當也。今郎君之衆什二倍信玄一矣。

是の月、將軍大に遠江に獵す。本多忠勝、桑名より來謁して曰く、往年老僕(一)太公に從ひて武田信玄を玆に拒ぐ。爾時、信玄の兵を以て衆盛當る可からずと爲す。今郎君(二)の衆、信玄に什倍すと。

(一) 老人の私　(二) 若君

是春。爲二義直一城二名護屋一。課二前田氏以下十七國一助レ役。諸侯助二篠山役一者告レ竣。命

是の春、義直の爲に名護屋に城く。前田氏以下十七國に課して役を助けしむ(一)。諸侯の篠山の役を助くる者、竣を告ぐ。命じて名護屋を助けしむ。福島正則、池田輝政に謂ひて曰く、土木、荐に興りて、我が輩困敝す(二)。夫の兩府の若きは、敢て辭せざる所なり。此等の私役に、復た我が輩を驅使(三)するは何ぞや。子は駿府の愛

助名護屋。福島正則謂池田輝政曰。土木荐興。我輩困敝。若夫兩府。所不敢辭。此等私役。復驅使我輩。何也。子爲駿府愛婿。盍爲我輩説之。清正奮髯曰。左衛門何出此言。不欲助役。則不如速反。不能反。則何出此言乎。輝政大笑而止。前將軍聞之。使輝政言諸侯曰。厭土木者。宜速就國。高壘深溝以俟我旆。諸侯大懼。併力就役。數月而成。

婿たり。盍ぞ我が輩の爲に之を説かざると。清正、髯を奮ひて曰く、左衛門何ぞ此言を出す。役を助くるを欲せずんば、則ち速かに反くに如かず。反く能はずんば、則ち何ぞ此言を出すかと。輝政、大に笑ひて止む。前將軍之を聞きて、輝政をして諸侯に言はしめて曰く、土木を厭ふ者は、宜しく速かに國に就きて、壘を高くし溝を深くして以て我が旆を俟つべしと。諸侯、大に懼れて、力を併せて役を就く。數月にして成る。

㈠土木をたすけしむ　㈡困みつかる　㈢かり使ふ　㈣我が出陣をまて

八月。島津家久携琉球王。來謁駿府。獻方物。遂遣江戸。九月。將軍

八月、島津家久、琉球王を携へて駿府に來謁し、方物を獻じ、遂に江戸に遣る。九月、將軍、王を釋して其國に復らしめ、島津氏に命じて俘虜を歸さしむ。十月、本多忠勝卒す。忠勝十四歳より軍に從ひ、大小五十餘戰なり、每戰皆捷つ。

釋ㇾ王使ㇾ復ニ其國一。命ニ島津氏一歸ニ俘虜一。十月。本多忠勝卒。忠勝自ニ十四歲一從ㇾ軍大小五十餘戰。每戰皆捷。而未ニ嘗被ㇾ創。前將軍殊悼ㇾ之。使ニ長子忠政襲ㇾ封。自ㇾ是藤堂高虎代ニ忠勝一鎭ニ伊勢一。

而して未だ嘗て創を被らず。前將軍、殊に之を悼み、長子忠政をして封を襲がしむ。是より藤堂高虎、忠勝に代りて伊勢を鎭す。(二)

(一) 土地の產物 (二) 治む

十六年三月。前將軍如ニ京師一。先ㇾ是。朝旨欲ニ以爲ニ太政大臣一。固辭不ㇾ拜。是月。皇太子受ㇾ禪。是爲ニ後水尾天皇一。前將軍命ニ諸侯一。修ニ上皇宮一。多置ニ供御地一。

十六年三月、前將軍京師に如く。是より先、朝旨(一)以て太政大臣と爲さんと欲す。固辭して拜せず。是の月、皇太子禪を受く。是を後水尾天皇と爲す。前將軍諸侯に命じて、上皇の宮を修めしめ、多く供御(二)の地を置く。

(一) 天子の御思召 (二) 御料の地

前將軍使ニ人

前將軍、人をして豐臣秀頼に謂はしめて曰く、婚(一)を結びてより未だ相見ず。恐ら

謂二豐臣秀頼一曰。自レ結レ婚未二相見一。恐生二物議一。願一來以定二衆情一。秀頼年十九。驕逸不レ知二外事一。事皆決二於淀君一。淀君欲レ不レ遣。嫡母淺野氏使五使諭四其不三可二再違一レ命。乃遣レ之。四月。詣二二條城一。前將軍饗而還レ之。遣義直賴宣一往二大坂一。謝レ之。遺二白金一萬三千兩一。乃歸二駿府一。是月。淺野彈正少弼卒。前將軍最與二少弼一親善。以二常陸眞壁五萬石一爲二其湯沐邑一。而時召見與圍レ碁。及二其沒一。不二復奕一也。乃賜二眞壁于其季子長重一。

くは物議(二)を生ぜん。願はくは一たび來りて以て衆情を定めよと。秀頼年十九、驕逸(三)にして外事を知らず。事皆淀君に決す。淀君遣らざらんと欲す。嫡母淺野氏使をして其の再び命に違ふ可からざるを諭さしむ。乃ち之を遣る。四月二條城に詣る。前將軍、饗して之を還し、義直・頼宣を遣して大坂に往き、之を謝し、白金一萬三千兩を遺る。乃ち駿府に歸る。是の月、淺野彈正小弼、卒す。前將軍最も少弼と親善なり。常陸の眞壁五萬石を以て、其湯沐の邑と爲す。而して時に召し見て與に碁を圍む。其沒するに及びて、復た奕(四)せず。乃ち眞壁を其季子長重に賜ふ。

(一) 結婚して以來まだ一度も面會せず (二) 世間非難の聲起らん (三) おごりはしいまゝにして世間の事情に通せず (四) 碁を圍まず

五月。加藤清正卒。嗣子忠廣猶幼。幕議使三藤堂高虎往視二國事一。十一月。兩公偕獵レ于二上野一。先レ是。京師富人角倉某。上書言二便宜一。請レ通二丹波之漕一。許レ之。尋命レ通二甲斐參河之漕一。是歲。又請下引二鴨川一通中伏見上。又許レ之。

五月、加藤清正卒す。嗣子忠廣猶ほ幼し。幕議藤堂高虎をして往きて(一)國事を視しむ。十一月、兩公、偕に上野に獵す。是より先、京師の富人角倉某上書して便宜を言ひ、丹波の漕を通ぜんと請ふ。之を許す。尋ぎて甲斐・參河の漕を通ずるを命ず。是の歲又(二)鴨川を引きて伏見に通ぜんと請ふ。又之を許す。

(一) 國政を察らしむ　(二) はりわりをして運送を便ならしめんと

當二是時一。夷蕃入貢若乞二互市一者二十餘國。前將軍命レ吏。贈三書於二明福建守一。因二故事一請二勘合印一。守疑懼不レ答。

是の時に當りて、夷蕃の入貢、若しくは互市を乞ふ者二十餘國なり。前將軍吏に命じて、書を明の(一)福建の守に贈り、故事に因りて、(二)勘合印を請ふ。守疑懼して答へず。而して其商舶の來る者益〻衆し。乃ち長崎を以て互市の地と爲し、他の依泊を禁ず。初め豐臣氏邪蘇教を禁ず。既にして禁弛む。是に至りて、蠻人耶穌子(三)變を上り、蠻教を倡ふる者は、皆(四)非望を覬覦すと告ぐ。乃ち海内に令して蠻人を

而其商舶來者益衆。乃以ニ長崎一爲ニ互市地一。禁ニ他依泊一。初豐臣氏禁ニ邪蘇教一。既而禁弛。至レ是蠻人邪蘇子上レ舶。告下倡ニ蠻教一者。皆覬レ覦非望上。乃令ニ海內一檢ニ蠻人一。盡逐レ之。我民奉ニ其教一者。命レ僧諭レ之。不レ聽處ニ流斬一。置ニ邪蘇子于ニ江戶東郭一。厚視レ之。又有レ告三有馬晴信修ニ蠻教一。次年。放ニ晴信于ニ甲斐一。尋賜レ死。其子爲ニ前將軍義女孫婿一。因得レ襲レ封。

檢し、盡く之を逐ふ。我が民の其教を奉ずる者は、僧に命じて之を諭し、聽かざる者は流斬に處す。邪蘇子を江戶の東郭に置き、厚く之を視る。又有馬晴信蠻(五)教を修むと告ぐるもの有り。次年、晴信を甲斐に放ち、尋ぎて死を賜ふ。其子は前將軍の義女孫の婿たり。因りて封を襲ぐを得たり。

㈠ えびす ㈡ 通商を許可せる船の印信 ㈢ 船がゝりすること ㈣ むほんのくはだてありと告ぐ ㈤ 耶蘇教

十七年正月。平岩親吉卒。無レ子。親吉爲ニ義直假父一。以レ故不ニ敢立レ後。

十七年正月、平岩親吉卒す。子無し。親吉は義直の假父(一)たり。故を以て敢て後を立てず。前將軍尾張に適く。二月歸る。六月、京畿の豪商(二)を江戶に徙す。七月、春日祠を修む。是より先、祠樹(三)折る。朝議以て凶兆(四)と爲して、來り諮ふ。

前將軍適二尾張一。二月。歸。六月。徙三京畿豪商于二江戶一。七月。修二春日祠一。先ㇾ是。祠樹折。朝議以爲二凶兆一。來諮。前將軍對曰。是神欲下以修上ㇾ祠耳。乃有二是命一。因給二穀祿一。准二伊勢大廟一。又嘗與二朝臣一議。制二天下寺祠修造之節一。而嚴禁二新立一焉。

前將軍對へて曰く、是れ神以て祠を修めんと欲するのみと。乃ち是の命有り。因りて穀祿(五)を給して、伊勢の大廟に准ず。又嘗て朝臣と議して、天下の寺祠修造の節を制して、嚴に新立を禁ず。

(一) 假りの父　(二) おほ商人　(三) 神木折る　(四) わるいしらせ　(五) 社領の米

是時。越前列宰爭ㇾ權來愬。十一月。兩公在二江戶一聽ㇾ之。一人坐二不直一處ㇾ流。一人愧恥自殺。前將軍遣二本多成重一爲ㇾ宰。與二舊宰一並視二國事一。

是の時、越前の列宰(一)、權を爭ひて來り愬ふ。十一月兩公江戶に在りて之を聽く。一人は不直に坐して流に處す。一人は愧恥して自殺す。前將軍、本多成重を遣して宰と爲し、舊宰(二)と竝びて國事を視しむ。成重は重次の子なり。幼にして秀康に侍せし者なり。是の歲、蒲生秀行卒す。子忠明我が外孫(三)を以て、嗣ぎて會津を鎭す。

(一) 家老連中　(二) ふるき家老　(三) 他家に嫁ぎたるむすめの生みたる子

成重。重次子。幼侍二秀康一者也。是歳。蒲生秀行卒。子忠明以二我外孫一嗣。鎭二會津一。

十八年正月。命二三十七藩一修二皇宮一。是月。池田輝政卒。實楠氏。楠正行之死レ節。遺腹子教正育レ於二攝津池田氏一。其裔恒利始從二尾張一。恒利孫爲二輝政一。輝政助二德川氏一定二禍亂一。人以爲レ不レ辱二其祖一。長子利隆襲二封播磨一。二弟。忠繼。忠雄。並以二我外孫一分領二備前淡路一。

十八年正月、三十七藩に命じて、皇宮を修めしむ。是の月、池田輝政卒す。池田氏實は楠氏なり。楠正行の節に死するや、遺腹の子教正、攝津の池田氏に育てらる。其裔(一)恒利、始めて尾張に從る。恒利の孫を輝政と爲す。輝政、德川氏を助けて禍亂を定む。人以て其祖(二)を辱しめずと爲す。長子利隆播磨に襲封す。二弟忠繼・忠雄、並に我が外孫を以て、分れて備前・淡路を領(三)す。

(一)子孫　(二)先祖の名を辱しめず　(三)一本に鎭とあり

八月。淺野左京大夫卒。關原之役。大夫

八月、淺野左京大夫卒す。關原の役に、大夫首として岐阜を破り、功最も大なり。而して豐臣氏を保護して(一)衰へず。前將軍心に深く之を忌む。遂に其女を以

首破ニ岐阜一。功最大。而保ニ護豐臣氏一不レ衰。前將軍心深忌レ之。遂約下以ニ其女一妻中義直上。未レ成レ婚而卒。無レ子。有ニ二弟一。仲長晟稱ニ但馬守一。少在ニ大坂一。國人避レ嫌。請レ立ニ叔長重一。前將軍命立レ仲襲レ封。

て義直に妻はすを約す。未だ婚成らずして卒す。子無し、二弟有り。仲は長晟といひ、但馬守と稱す。少くして大坂に在り。國人嫌(二)を避け、叔長重を立てんと請ふ。前將軍命じて(三)仲を立てて封を襲がしむ。

㈠保護することかはらず　㈡家康の嫌疑を避け　㈢長晟

是歲春。大久保長安奸利事覺。會病死。誅ニ其七子一。故石川數正子康長連坐奪レ邑。以ニ康長邑深志一賜ニ小笠原秀政一。復ニ其舊封一。是歲冬。富田知信高橋元種皆有レ罪。收レ封。

是の歲春、大久保長安の奸利(一)の事覺る。會〻病みて死す。其七子を誅す。故石川數正の子康長、連坐(二)して邑を奪はる。康長の邑深志を以て小笠原秀政に賜ひ、其舊封に復す。是の歲冬、富田知信、高橋元種皆罪有り。(三)封を收む。

㈠奸惡をなして利益を貪りたる事發覺し　㈡まきぞひにあひて　㈢領地を取上ぐ

是時。大久保

是の時、大久保忠隣子なり。二弟あり。本多正信・土井利勝・安藤重信・酒井忠

忠隣無㆑子。有㆓二弟㆒。本多正信。土井利勝。安藤重信。酒井忠世。爲㆓江戸老中㆒。本多正純。成瀬正成。安藤直次。爲㆓駿府老中㆒。分執㆓天下諸政㆒。是歲秋。前將軍適㆓江戸㆒。十二月。將㆑還㆓駿府㆒。次㆓于中原㆒。甲斐人馬場忠時上㆓變事㆒曰。大久保忠隣謀㆓不軌㆒。馬場嘗蒙㆑譴。放㆓小田原㆒。請㆓忠隣申雪㆒。不㆑見㆑省。怨望。先㆑是忠隣喪㆓其子忠常㆒。乃稱㆑疾謁歸。又與㆓山口重政㆒婚。吏劾㆓其不㆑告㆒。奪㆓重政封㆒。忠隣謝㆑罪。不㆑報。乃杜㆑門不㆑出。馬場時㆑之也。

世、江戸の老中と爲り、本多正純・成瀬正成・安藤直次、駿府の老中と爲り、分れて天下の諸政を執る。是の歲秋、前將軍江戸に適く、十二月將に駿府に還らんとす。中原に次す。甲斐の人馬場忠時變事を上りて曰く、大久保忠隣、不軌(一)を謀ると。馬場、嘗て譴(二)を蒙りて、小田原に放たる。忠隣に申雪(三)を請ふ。省せられず。怨望(四)す。是より先、忠隣其子忠常を喪ふ。乃ち疾と稱して謁歸す。又山口重政と婚す。吏、其の告げざるを劾して、重政の封を奪ふ。忠隣罪を謝す。報ぜず。乃ち門を杜ぎて出でず、馬場、之を時(五)とするなり。

(一) 叛逆　(二) 御叱をかうむりて　(三) 申開を請ふ　(四) 怨む　(五) よきをりとして

又聞㆘正信與㆓

又正信、正隣と郤(一)有りと聞き、遂に本多氏に因りて誣告す。前將軍驚き、還

正隣一有レ郤。遂因二本多氏一誣告。前將軍驚。還入二江戸一。令下忠隣如二京師一檢中邪蘇教上。踰レ歳。正信傳二命京師一。放二忠隣于彦根一。毀二小田原外郭一。逐二其士臣一。設三兵備于二箱根一。前將軍乃歸二駿府一。板倉勝重奉命詣二忠隣一。館人走報。忠隣方與レ客奕。徐斂レ局而出。聽レ命。京師驚擾。忠隣乃縛二

りて江戸に入り、忠隣をして京師に如きて邪蘇教を檢せしむ。歳を踰ゆ。正信、命を京師に傳へて、忠隣を彦根に放つ。小田原の外郭を毀ちて、其士臣を逐ひ、兵備を箱根に設く。前將軍、乃ち駿府に歸る。板倉勝重、命を奉じて忠隣に詣る。館人走り報ず。忠隣方に客と奕す。(三)徐に局を斂めて出でて命を聽く。京師驚擾(二)す。忠隣乃ち鎧仗(四)を縛して、之を板倉氏に送り、終に彦根に赴く。其族皆連坐(五)す。叔父忠佐卒す。亦國を除し城を毀つ。安房の里見氏、忠隣と交通するに坐して、國を奪はる。忠隣、配所より書を駿府に上りて曰く、臣縱ひ誅に伏するも、而も反心無きを明にせんと。有司敢て通ぜず。獨り成瀬正成、爲に之を通ず。僧天海、(六)密教を以て親近せらる。亦從容として申救(七)す。將軍の怒釋けざるを以て、乃ち止む。井伊直孝彦根を鎭するに及び、忠隣に勸めて再訴せしむ。辭して曰く、是れ君の惡を顯すなりと。亦止む。兩將軍、大久保氏の舊勳を思ひ、忠常の子忠季をして其封二萬石を襲がしめ、後竟に其舊に復す。

鎧仗。送二之板倉氏一。終赴二彦根一。其族皆連坐。叔父忠佐卒。亦除レ國毀レ城。安房里見氏。坐下與二忠隣一交通上。奪レ國。忠隣自二配所一上二書駿府一曰。臣縱伏レ誅。而明レ無二反心一。有司不二敢通一。獨成瀨正成爲通レ之。僧天海以二密教一見二親近一。亦從容中救。以二將軍怒不一レ釋。乃止。及三井伊直孝鎭二彦根一。勸二忠隣一再訴。辭曰。是顯二君惡一也。亦止。兩將軍思二大久保氏舊勳一。使三忠常子忠季襲二其封二萬石一。後竟復二其舊一。

(一) 不和なりと聞き (二) やかたの人 (三) 靜かに碁を打ち終つて (四) 鎧と武器とをからげて (五) まきぞへとなる (六) 眞言の敎 (七) 中間をなす

前將軍素留二意學術一。捷二於關原一之年。即取下經籍未レ經二刊行一者上。盡上二之木一。以レ修二禮文一爲レ志。自讓レ職以來。益令二天下一購二求遺書一。引下廷臣諳二典故一者上。與二林

前將軍、素より意を學術に留む。關原に捷つの年、即ち(一)經籍の未だ刊行を經ざる者を取りて、盡く之を木に上せ、(二)(三)禮文を修むるを以て志と爲す。職を譲りてより以來、益々天下に令して、遺書を購求し、廷臣の(四)典故を諳んずる者を引きて、林信勝等と、前に講究して、(五)日夕倦まず、又文學の士を招く。(六)緇素と無く皆之を禮重す。是の歳、親ら試みるに(七)政を爲すに德を以てするの頌を以てす。將軍も亦(八)草之に風を尙ふれば必ず偃すの賦を試みる。

(一) 聖賢の書 (二) 刊行し (三) 制度文物 (四) 故實に明かなる者 (五) 日夜怠らず (六) 僧俗人の區別なく

信勝等。講究
於前。日夕不
倦。又招文學之士。無細素皆禮重之。是歳。親試以爲政以德頌。將軍亦試草尚之風必偃
賦。

㊆論語爲政篇の語、この語を題として頌を作らしむる也　㊇論語顏淵篇の語、この語を題として賦を作らしむ

慶長十九年。三月。大將軍陞二從一位一。遷二右大臣一。天使就拜焉。四月。天使歸レ自二江戸一。過二駿府一。諭二內旨一。以二前將軍一爲二太政大臣一。准二三宮一。辭不二敢當一。又諭下納二孫女一爲中中宮上。乃奉レ詔。

當二是時一。豐臣

巻二十二

徳川氏正記

徳川氏　五

(一)慶長十九年三月、大將軍、從一位に陞り、右大臣に遷る。(二)天使就きて拜す。

四月、天使江戸より歸り、駿府を過ぎて、內旨を諭し、前將軍を以て太政大臣と爲し、(三)三宮に准ず、辭して敢て當らず、又孫女を納れて中宮と爲さんことを諭す。(四)乃ち詔を奉ず。

(一)後陽成天皇の年號　(二)天子の使者　(三)太皇大后・皇太后・皇后の三宮に准ずる給與をうくること　(四)一本に乃字なし

是の時に當りて、豐臣秀頼已に長じ、其臣大野治長等、陰かに兵を擧げて其

秀頼已長。其臣大野治長等。陰謀レ擧レ兵復二其舊業一。治長有二姿容一。密通二淀君一。所レ言莫レ不レ聽。與二淀君季父織田長益一議。遺二書前田利長一曰。先君有二遺命一。君盍三來輔二嗣君一。城内甲仗豐足。福島正則等所レ貯穀粟。積至二數萬石一。足二以有一レ爲矣。利長以レ疾辭レ之。以二其書一來獻二兩府一。五

(一)舊業を復せんと謀る。治長姿容(二)有り。密かに淀君と通じ、言ふ所聽かれざる莫し。淀君の季父織田長益と議して、書を前田利長に遺りて曰く、先君、遺命有り。君盍ぞ來りて嗣君を輔けざる。城内、甲仗(三)豐足す。福島正則等の貯ふる所の穀粟、積みて數萬石に至る。以て爲す有るに足ると。利長疾を以て之を辭し、其書を以て來りて兩府に獻ず。五月、利長卒す。子利光に命じて封を襲がしむ。秀頼の傅片桐且元、常に秀頼を誡めて曰く、(四)徳川太公は、義元の誼を失はずして、氏眞を納れ、信長の好を遺れずして、信雄を助けたり。先公(五)其然るを知る。故に終(六)に臨みて孤を託す。君務めて(七)其驩心を失はざれ、則ち以て長久なる可し。不らずんば則ち禍將に測らざらんとすと。秀頼頗る悟る。而して羣臣悅ばず。且元數々關東に使するを以て、其の私有るを意ひ、稍之を(八)猜防す。

(一)豐臣氏の舊業　(二)容貌うるはし　(三)甲冑兵器　(四)徳川家康　(五)義理堅きを知る　(六)臨終の際秀頼の身の上を頼む　(七)家康の機嫌を損してはならず　(八)それみて之をふせぐ

月。利長卒。命二子利光一襲レ封。秀頼傳片桐且元常誡二秀頼一曰。德川太公不レ失二義元之誼一也。而納二氏眞一。不レ遺二信長之好一也。而助二信雄一。先公知二其然一。故臨レ終託レ孤。君務不レ失二其驩心一。則可二以長久一矣。不則禍將レ不レ測。秀頼頗悟。而羣臣不レ悅。以三且元數使二關東一。意二其有一レ私。稍猜二防之一。

先レ是。秀頼造二方廣寺一。以繼二先志一。至レ是畢レ功。又鑄二巨鐘一。乃使二且元來告一。請レ慶レ之。期以二七月秀頼親往一。是歲。高山友祥內藤如安等。以レ奉二蠻敎一下二京師獄一。前將軍遣二吏二名一往。與二板倉勝重一議。放三友祥等于二海西一。流二餘黨一。

是より先、秀頼方廣寺を造りて、以て先志(一)を繼ぐ。是に至りて功を畢ふ。又巨鐘(二)を鑄る。乃ち且元をして來り告げしめて、之を慶(三)せんことを請ふ。期するに七月秀頼親ら往くを以てす。是の歲、高山友祥、內藤如安等、蠻敎(四)を奉ずるを以て、京師の獄に下す、前將軍、吏二名を遣し往かしめ、板倉勝重と議せしめ、友祥等を海西に放ち、餘黨を流す。是に於て、界浦に犯人有り。二吏、卒を率ゐて往きて之を按ず、途に大坂を經、訛言有り、曰く、且元、秀頼の出づるを候ひて、東吏を導(五)きて城を取らんとすと、秀頼懼れて出でず。二吏既に界浦を按じ、遂に長崎に之く。訛言乃ち止む。將に之を慶せんとす。其鐘銘(六)、忌諱に觸れ、呪咀する者に類す。(七)上棟牌も亦式の如くならず。林信勝、僧天海等、交〻之を言ふ。

於レ是浦界有ニ犯人一。二吏率レ卒往按レ之。途經ニ大坂一。有ニ訛言一曰。且元候ニ秀頼出一。導ニ東吏一取レ城。秀頼懼。不レ出。二吏既按ニ界浦一。遂之ニ長崎一。訛言乃止。將レ慶レ之。其鐘銘觸ニ忌諱一。類ニ呪咀者一。上棟牌亦不レ如レ式。林信勝僧天海等交言レ之。前將軍怒。乃馳レ使停ニ其慶一。

前將軍怒り、乃ち使を馳せて其慶を停む。

(一)秀吉の生存中の意思をつぐ　(二)大なるつりがね　(三)落成式に臨まんことを請ふ　(四)耶蘇教　(五)とりしらぶ　(六)鐘の銘に家康の字ありて諱み避くる所の名をおかす　(七)棟札

八月。且元治長等來謝。女使二人又奉ニ淀君命一至。前將軍召ニ二女使一。謂レ之曰。右府吾孫女婿。淀氏亦吾婦之姉。吾豈相負哉。吾視ニ右府一猶レ子。而右

八月、且元・治長等來りて謝す。(一)女使二人、又淀君の命を奉じて至る。前將軍、二女使を召して、之に謂ひて曰く、右府は吾が孫女の婿なり。淀氏も亦、吾が婦の姉なり。吾れ豈に相負かんや。吾れ右府を視ると猶ほ子のごとし。而して右府の我を視ること猶ほ仇讎のごとし。(二)聞くが如くんば、大坂、日々に士を招き甲を繕め、多く糧餉を峙むと。(三)吾れ未だ其何の謂たるを知らざるなり。今吾れ在るに、猶ほ此の如し。況や後世をや。然りと雖も、是れ右府母子より出づるに非ず、蓋し奸人の詿誤(四)する所と爲るのみ。苟も非を悛め誠を輸さば、則ち國家無

府視レ我猶三仇
讎一。如レ聞大坂
日招レ士繕レ甲。
多峙二糧餉一。吾
未レ知二其何謂一也。今吾在。猶如レ此。況後世乎。雖レ然。是非レ出レ於二右府母子一。蓋爲三奸人所二詿誤一焉
爾。苟悛レ非輸レ誠。則國家無事矣。不三復問二銘詞一。二女大喜。遂趣二江戸一。候二夫人氏一。

事なり。復銘詞を問はずと。二女大に喜び、遂に江戸に趣き、夫人氏を候ふ。

（一）女の使者　（二）あたがたき　（三）未だ其理由を知らず　（四）あやまる所

九月。使下本多正純偕天海責二且元一。以中輸レ誠之實上。且元請二其旨一。不レ答。且元乃與二二女一偕辭去。行思レ之。得二三策一。曰。納二淀君一爲レ質。曰。使三秀頼居二江戸一。曰。避二大坂一徙レ他。因

九月、本多正純、僧天海をして、且元を責むるに、（一）誠を輸すの實を以てせしむ。且元其旨を請ふ、答へず。且元乃ち二女と偕に辭して去る。行く行く之を思ふ。三策を得たり。曰く、淀君を納れて質と爲さん。曰く、秀頼をして江戸に居らしめん。曰く、大坂を避けて他に徙らんと。因りて密かに啓して曰く、母を德川氏に質とするは、先公の嘗て爲す所なり。是を（二）上策と爲すと。或ひと、且元は（三）君を賣ると讒す。淀君大に恚り、羣臣と議を決して、且元を誅して兵を擧げんとす。且元、其邑茨木に奔る。遠近騒然たり。板倉勝重、書を飛ばせて來り報ず、十月朔、

密啓曰。質二母於二德川氏一者。先公所二嘗爲一也。是爲二上策一。或譖二且元賣一レ君。淀君大恚。與二羣臣一決レ議。誅二且元一擧レ兵。且元奔二其邑茨木一。遠近騷然。板倉勝重飛レ書來報。十月朔。報至二駿府一。前將軍方與二諸子一觀二散樂一。得レ報曰。孺子終不レ悟也。不レ得レ不レ除レ之。乃撤レ樂。使レ報二之江戸一。是春。課二東諸侯一城二于高田一。是秋。課二西諸侯一修二江戸城一。於レ是皆罷就レ國。以備二大坂一。

報、駿府に至る。前將軍方に諸子と散樂を觀る。報を得て曰く、(四)孺子終に悟らざるなり。之を除かざるを得ずと。乃ち樂を撤し、之を江戸に報ぜしむ。是の春、東の諸侯に課して、高田に城き、是の秋、西の諸侯に課して、江戸城を修む。是に於て、皆罷めて國に就きて、以て大坂に備へしむ。

(一) 誠意を表する證據　(二) 最上の策略となす　(三) 主君を欺きて私利をはかると讒言す　(四) 小僧といふ如く罵りていふ語

秀頼亦益散レ金募レ兵。關原餘黨。若諸藩亡命者。四二集

秀頼も亦益〻金を散じて兵を募る。關原の餘黨、若しくは諸藩(一)亡命の者、大坂に四集す。號して十萬と稱す。又四出(三)抄掠して、以て(二)軍須を貯ふ。東府の穀五萬石、其城下に在り。板倉勝重、人をして大野治長に謂はしめて曰く、之

大坂。號稱二十萬。又四出抄掠。以貯軍須。東府穀五萬石。在其城下。板倉勝重使三人謂大野治長曰。聞之道路。諸公將有旗鼓之事。不腆敝邑之穀。敢犒從者。治長辭。不敢取。勝重乃使賈人漕送京師。不勞一兵。伏見留守松平定勝井伊直孝。與勝重議。遣諜大坂。悉知消息。輒報之東府。置關于淀葛葉。以檢兵士往來。

を道路に聞く、(四)諸公將に旗鼓(五)の事有らんとすと。不腆(六)の弊邑の穀、敢て從者を犒はんと。治長辭して、敢て取らず。勝重乃ち賈人(七)をして京師に漕送せしめて、一兵を勞せず。伏見の留守松平定勝、井伊直孝、勝重と議して、諜を大坂に遣し、悉く消息を知りて輒ち之を東府に報ず。關を淀・葛葉に置きて以て兵士の往來を檢す。

(一) 逃亡者　(二) かすめとる　(三) 軍用品　(四) 世間の評判によると　(五) 戰爭をいふ　(六) 僅かばかりの義、謙遜していふ語　(七) 商人

尼崎城主建部某。關原降將也。與池田氏有姻。前將軍命池田利

尼崎城主建部某は、關原の降將なり。池田氏と姻有り。前將軍、池田利隆に命じ、其戚屬下間重景を遣し、兵を將ゐて援け守らしむ。片桐且元、已に降を我に納れ、(一)將に茨木より界浦に赴かんとす。大坂の兵と尼崎の下に戰ひて、救を

隆。遣二其戚屬下間重景將一レ兵援守。片桐且元已納二降於一レ我。將下自二茨木一赴中界浦上。與二大坂兵一戰二尼崎下一。求三救於二重景一。重景疑二其僞一。不レ肯レ救。且元敗走。大坂兵始合而捷。氣倍壯。大議二守備一。其城故秀吉所レ築。窮二天下力一。塹壘壯固無レ匹。西北帶レ水。東南多二池澤一。

重景に求む。重景其僞ならんを疑ひて、肯て救はず。且元、敗走す。大坂の兵、始合(二)にして捷ち、氣倍〻壯なり。大に守備を議す。其城は故秀吉の築く所にして、天下の力を窮む。塹壘(三)の壯固なること匹無し(四)。西北に水を帶び、東南に池澤多し。

(一)身内　(二)初手合　(三)一本に塹塞とあり　(四)さかんに堅固なること比なし

於レ是益設二塹塞一。置二守兵一。遂發二間使一招二諸侯一。伊達政宗遇二之小山一。縛送二江戸一。島津家久卻二其幣一。

是に於て益〻塹塞を設けて、守兵を置き、遂に間使(一)を發して諸侯を招く。伊達政宗は之に小山に遇ひ、縛して江戸に送る。島津家久は其幣を卻け、馳せて駿府に告げ、且つ師の期を請ふ。淺野但馬守は國富み兵強し。而して大坂と腹背(二)を相爲す。議者以て大患(三)と爲す。已にして大坂、果して數〻使を遣して、其君臣

馳二告駿府一。且請二師期一。淺野但馬守國富兵强。而與二大坂一相二爲腹背一。議者以爲二大患一。已而大坂果數遣レ使。誘二其君臣一以レ利。但馬守答曰。我父兄所三以報二故太閤一足矣。吾於二東府一。恩誼非レ輕。今無レ故倍レ之。以黨二亂人一。不義孰大焉。使者猶來。百計勸說。但馬守乃欲レ斬二其使一。懼而止。

を誘ふに利を以てす。但馬守答へて曰く、我が父兄の故太閤に報ぜし所以は足る。吾の東府に於ける、恩誼(四)輕きにあらず。今故無くして之に倍きて、以て亂人(五)に黨するは、不義孰か大ならんと。使者猶ほ來りて、百計勸め說く。但馬守乃ち其使を斬らんと欲す。懼れて止む。

(一)忍び使　(二)前後をなす　(三)大なる心配　(四)恩重し　(五)謀叛人

前將軍得二諸報告一。乃下二軍令一曰。伊勢近江美濃尾張越前等兵。急扼二淀勢多一。大和兵自守二其地一。北陸諸國

前將軍、諸〻の報告を得て、乃ち軍令を下して曰く、伊勢・近江・美濃・尾張・越前等の兵は、急に淀・勢多を扼し、大和の兵は、自ら其地を守り、北陸諸國の兵は、大津・坂本に陣し、中國の兵は、池田に陣し、南海・西海の兵は、和泉の海濱に泊して、竝に大軍を俟ち、輕〻しく戰ふ勿れと。東海・東山の將帥は、皆前將軍に隸す。關八州及び陸奧・出羽の將帥は、皆前將軍に隸す。而して世子家光は

兵。陣大津坂本。中國兵陣池田。南海西海兵。泊和泉海濱。並俟大軍。勿輕戰。東海東山將帥。皆隷前將軍。關八州及陸奧出羽將帥。皆隷將軍。而世子家光與少將忠輝。及酒井重忠其弟忠利等。居守江戸。蒲生最上氏以下隷之。賴房與其傅中山信吉。留守駿府。義直與其傳成瀨正成。賴宣與其傅安藤直次。皆從軍。義直初爲右兵衞督。賴宣爲常陸介。並敍從四位下。後並進從三位。任參議。兼右近衞中將。賴房初爲左衞門督。後敍從四位下。任右近衞少將。於是分賜白旗於義直賴宣。諸嘗受豐臣氏特恩者。不許從。

十一日。前將

少將忠輝及び酒井重忠、其弟忠利等と、江戸を居守す。(一) 蒲生・最上氏以下、之に隷す。賴房は其傅中山信吉と、駿府を留守す。義直は其傅成瀨正成と、賴宣は其傅安藤直次と、皆軍に從ふ。義直は初め右兵衞督たり。賴宣は、常陸介たり。竝に從四位下に敍す。後に竝に從三位に進み、參議に任じ、右近衞中將を兼ぬ。賴房は初め左衞門督たり。後に從四位下に敍し、右近衞少將に任ず。是に於て、白旗を義直・賴宣に分賜す。諸々の嘗て豐臣氏の特恩を受くる者は、從ふを許さず。

(一) 其手につく　(二) 留守す

十一日、前將軍、數百騎を以て駿府を發す。大坂、刺客を發して京師に入り、

軍以二數百騎一發二駿府一。大坂發二刺客一入二京師一。欲下狙レ駕且焚二二條城一。板倉勝重覺レ之。盡捕下レ獄。二十二日。駕至二京師一。傳奏司傳レ勅勞問。少將忠直以二二萬人一。前田利光以二三萬人一。皆會焉。居三日。召二諸將一。開二大坂圖一。議レ戰。曰。西南兵未レ至。宜下以二先鋒一挑上レ戰。井伊直孝藤堂高虎爲二先鋒一。松平忠明本多忠政繼レ之。忠明。奧平信昌少子。以二外孫故一賜レ氏。封二龜山一。是歲。其兄忠正卒。代領二其衆一。統二美濃將士一。於レ是先鋒自二南面一進。以二北面難一レ濟。令三伊奈忠政。壅二淀川于二長柄一。壅二大和川于二鳥飼一。尋使二毛利福島氏助一レ之。

駕を狙ひ、且つ二條條を焚かんと欲す。板倉勝重、之を覺りて、盡く捕へて獄に下す。二十二日、駕、京師に至る。傳奏司、勅を傳へて勞問（一）す。少將忠直は二萬人を以て、前田利光（二）は三萬人を以て、皆會す。居ること三日にして、諸將を召し大坂の圖を開きて、戰を議す。曰く、西南の兵未だ至らず。宜しく先鋒を以て戰を挑む（三）べしと。井伊直孝・藤堂高虎先鋒たり。松平忠明・本多忠政、之に繼ぐ。忠明は、奧平信昌の少子なり。外孫の故を以て氏を賜ひて、龜山に封ず。是の歲、其兄忠正、卒す。代りて其衆を領し、美濃の將士を統ぶ。是に於て、先鋒は南面より進み、北面は濟り難きを以て、伊奈忠政をして、淀川を長柄に壅ぎ、大和川を鳥飼に壅がしめ、尋ぎて毛利・福島氏をして、之を助けしむ。

（一）いたはりたずね　（二）一本に利常とあり　（三）戰爭をしかく

十一月。高虎至二大仙陵一。時城將薄田兼相山口弘定掠二平野一。望レ之而走。城將大野道見焚二天王寺一。以撓二我軍一。高虎不レ動。終與二直孝一進陣二住吉一。城將堀氏弘掠二界浦一。聞レ之而走。過二高虎軍前一。前部渡部了慮二其有一レ伏。不二敢擊一。淺野但馬守將レ兵發二紀非一。行擊下土兵應二大坂一者上。來與二高虎一議レ事。還陣二大島一。

十一月、高虎、大仙陵に至る。時に城將薄田兼相・山口弘定、平野を掠む。之を望みて走る。城將大野道見、天王寺を焚きて、以て我が軍を撓す。高虎動かず。終に直孝と進みて住吉に陣す。城將堀氏弘、界浦を掠む。之を聞きて走り、高虎の軍前を過ぐ。前部渡部了、其の伏有るを慮(一)りて、敢て擊たず。淺野但馬守、兵を將ゐて紀伊を發し、行く〻土兵(二)の大坂に應ずる者を擊ち、來りて高虎と事を議し、還りて大島に陣す。

(一) 氣遣ひて　(二) 土著の兵

池田利隆與二二弟忠繼忠雄一。至二神崎川一。城昌茂奉レ命臨二其軍一。二弟

池田利隆、二弟忠繼・忠雄と、神崎川に至る。城昌茂、命を奉じて其の軍を監す。二弟は下流(一)を亂り、利隆は上流を渉り、進みて長柄川に至る。城將織田長益等、萬人を以て天滿の中島を守る。利隆濟らんと欲す。昌茂之を止む。其夜二弟復

亂二下流一。利隆涉二上流一。進至二長柄川一。城將織田長益等。以二萬人一守二天滿中島一。利隆欲レ濟。昌茂止レ之。其夜。二弟復渡二下流一。逐二守兵一。以取二中島一。將軍以下前將軍入二京師一之日上。發二江戸一。兼レ程而進。十日。至二伏見一。其明。詣二二條一議レ事。

た下流を渡り、守兵を逐ひて、以て中島を取る。將軍は前將軍の京師に入るの日を以て江戸を發す。(一)程を兼ねて進み、十日伏見に至る。其明二條に詣りて事を議す。

(一) 河下　(二) 行程を倍して

十七日。前將軍陣二住吉一。將軍陣二平野一。義直頼宣陣二住吉北一。少將忠直前田利光陣二岡山一。井伊直孝藤堂高虎陣二天王寺一。上杉佐竹相馬秋田堀尾

十七日、前將軍は住吉に陣し、將軍は平野に陣し、義直・頼宣は住吉の北に陣し、少將忠直、前田利光は岡山に陣し、井伊直孝・藤堂高虎は天王寺に陣し、上杉・佐竹・相馬・秋田・堀尾・京極の諸將は平野の西に陣し、伊達・金森の諸將は今宮に陣し、淺野・蜂須賀・鍋島の諸將は今宮の北に陣し、池田・加藤・山内・森・有馬の諸將は中島に陣し、九鬼・向井の諸將は兵艦を以て傳法口に泊す。(一)兵總て五十萬人なり。城の四面を環りて、(二)尺地を遺さず。前將軍城中必ず悔ゆるを度り、人をして和を議せしむ。(三)肯ぜず。

克極諸將。陣ニ平野西一。伊達金森諸將。陣ニ今宮一。淺野蜂須賀鍋島諸將。陣ニ今宮北一。池田加藤山內森有馬諸將。陣ニ中島一。九鬼向井諸將。以ニ兵艦一泊ニ傳法口一。兵總五十萬人。環ニ城四面一。不レ遺ニ尺地一。前將軍度ニ城中必悔一。使ニ人議一レ和。不レ肯。

㊀船がかりす ㊁少しのすきもなし ㊂うけがはず

已而住吉邏騎夜捕ニ一卒一。曰。欲レ適ニ藤堂陣一。誤至レ此也。檢ニ其懷一。得ニ秀賴書一。書曰。ニ魁深入ニ我地一。子計中矣。宜丁速令丙東國歸レ款諸將斷乙其後路甲。事成則加レ封如レ約。前將軍覽レ書。哂

已にして住吉の邏騎、夜一卒を捕ふ。曰く、藤堂の陣に適かんと欲し、誤りて此に至ると。其懷(一)を檢して、秀頼の書を得たり。書に曰く、二魁深く我が地に入る。子の計(二)中れり。宜しく速かに東國をして款を歸り諸將をして其後(一)路を斷たしむべし。事成らば則ち封を加ふること約の如くせんと。前將軍、書を覽て、哂ひて曰く、彼れ我を離間(三)せんと欲す。謀何ぞ淺きと。高虎を召して、書及び卒を賜ふ。高虎訊して、其實を得たり。乃ち手足の指を斷ち、額(一)に黥して秀頼と曰ふ。縱して之を歸す。城兵又池田利隆を誘ひて曰く、事成らば、封ずるに備前・播磨・美作を以てせんと。利隆、使者を縛して之を獻ず。兩將軍終に進みて

曰。彼欲三離二間我一。謀何淺也。召二高虎一。賜二書及卒一。高虎訊得二其實一。乃斷二其手足指一。縱レ歸レ之。城兵又誘二池田利隆一曰。事成。封以二備前播磨美作一。利隆縛二使者一獻レ之。兩將軍終議二進取一。阿部正之安藤直次永井直勝小栗忠正等數十人爲二巡使一。大須賀氏部下久世廣宣坂部廣勝獲レ罪出亡。以レ老二兵事一被二收錄一。是役皆爲二巡使一。傳二令諸將一。進退操縱。莫レ不レ如レ意。

取らんと議す。阿部正之・安藤直次・永井直勝・小栗忠正等數十人、巡使たり。大須賀氏の部下、久世廣宣・坂部廣勝、罪を獲て出亡す。(六)兵事に老ゆるを以て收錄せらる。是の役に、皆巡使と爲りて、令を諸將に傳ふ。(七)進退操縱、意の如くならざるは莫し。

(一)見廻りの騎兵 (二)謀計のごとくなれり (三)一本歸路とあり (四)仲をさかんとす (五)入國して (六)軍事になれたるを以て (七)軍の駈引あやつり

蜂須賀至鎭攻取二磯多崎一。九鬼守隆向井忠勝以二水軍一。奪二敵候船

蜂須賀至鎭、攻めて磯多崎を取り、九鬼守隆・向井忠勝、水軍を以て、敵の候(一)船數十艘を奪ふ。上杉景勝は鴫野を攻め、佐竹義宣は今福を攻め、皆其柵を破る。城兵、道を分ちて出で拒ぐ。船に銃手を載せて、其中間に出で、力戰して交綏す。(二)

數十艘。上杉景勝攻二鴫野一。佐竹義宣攻二今福一。皆破二其柵一。城兵分レ道出拒。船載二銃手一。出二其中間一。力戰交綏。已而城兵以二柵難一レ守。棄レ之而退。將軍令三片桐且元代入二屯備前島一。以二其最近一レ城。屬以二礟手一。

已にして城兵柵の守り難きを以て、之を棄てて退く。將軍片桐且元をして代り入りて備前島に屯せしむ。其最も城に近きを以て、屬するに礟手を以てす。

(一)物見の船　(二)共に兵を引上ぐ　(三)おほづつ方

諸將將レ攻二博勞淵二寨一。北寨下有レ洲。生二蘆葦一。皆以二銃卒一守レ之。我軍欲三先取二蘆洲一。洲不レ容二多兵一。兵寡者。又不レ可レ守。石川忠總。實大久保忠隣子也。欲二

諸將、將に博勞淵の二寨を攻めんとす。北寨の下に洲有り。蘆葦を生ず。皆銃卒を以て之を守る。我が軍先づ蘆洲を取らんと欲す。洲は多くの兵を容れず。兵寡き者は、又守る可からず。石川忠總は、實は大久保忠隣の子なり。功を以て父を贖はんと欲す。乃ち請ひて手兵を以て往く。舟二隻を得たり。檜を以て棹と爲して濟る。敵の洲を守る者、皆走りて寨に上り、銃を發す。忠總仰ぎ攻むること晝夜を連ぬ。九鬼氏舟數十を給して之を助け、北寨を拔く。又蜂須賀氏の援兵を得て、遂に南寨を拔き、進みて土佐港・阿波坐港を取り、還りて首虜を效

以レ功贖ヒ父。乃請以二手兵一往。得二舟二隻一。以レ槍爲レ棹而濟。敵守レ洲者。皆走上レ寨。發レ銃。忠總仰攻連二晝夜一。九鬼氏給二舟數十一助レ之。拔二北寨一。又得二蜂須賀氏援兵一。遂拔二南寨一。進取二土佐港阿波坐港一。還致二首虜一。前將軍曰。不レ愧二忠世之孫一矣。

す。前將軍曰く、忠世の孫たるに愧ぢずと。

㊀ 一本に手とあり　㊁ あしのす　㊂ 部下の兵

於是諸將爭進。池田忠繼臨二蜆川一而陣。部將花房職之望二野田福島二寨一曰。旗植而無レ烟。是已逃也。使二人伺ヒ之。不レ見二一人一。乃濟。中島諸將欲二繼濟一。城昌茂止レ之曰。太公命レ我

是に於て、諸將爭ひ進む。池田忠繼は蜆川に臨みて陣す。(一)部將花房職之、野田・福島の二寨を望みて曰く、旗植ちて烟無し。是れ已に逃ぐるなりと。人をして之を伺はしむ。一人を見ず。乃ち濟る。中島の諸將、繼ぎて濟らんと欲す。城昌茂之を止めて曰く、太公我に命じて軍を護り、其持重を戒む。公等、我が言に違ふは、乃ち太公の言に違ふなりと。諸將乃ち止む。已にして(二)中軍、令を傳へて、諸將の逗留を責む。諸將答ふるに昌茂を以てす。前將軍、昌茂を召し、林信勝をして(三)孫武の傳を讀ましむ。將の軍に在るや(四)君命も受けざる所有りといふに至りて、乃ち昌茂を顧みて曰く、汝、我が命に拘りて、機を見て進まざるは

讓ㇾ軍。戒二其持重一。公等違二我言一。乃違二太公言一也。諸將乃止。已而中軍傳ㇾ令。責二諸將逗留一。諸將答以二昌茂一。前將軍召二昌茂一。使三林信勝讀二孫武傳一。至二將在ㇾ軍君命有ㇾ所ㇾ不ㇾ受。乃顧二昌茂一曰。汝拘二我命一。見ㇾ機不ㇾ進。何也。因逐ㇾ之。令二諸將一。進入二福島一。淺野氏以二船兵一至二海口一。爲二其聲援一。

何ぞやと。因りて之を逐ひ、諸將に令して、進みて福島に入らしむ。淺野氏兵船を以て海口に至り、其聲援を爲す。

㈠ 組大將　㈡ 第二軍　㈢ 支那の兵法家なる孫子の傳記　㈣ 主君の命令も用ひざる場合あり

阿部正之白曰。西北諸寨。相踵陷沒。川場天滿二寨。脆薄背ㇾ水。必遁。其夜。果焚ㇾ寨而退。城將大野治房守二道頓港一。亦驚走入ㇾ城。蜂須

阿部正之、白して曰く、西北の諸寨相踵ぎて陷沒す。川場・天滿の二寨は、脆(一)薄にして水を背にす。必ず遁れんと。其夜果して寨を焚きて退く。城將大野治房道頓港を守る。亦驚き走りて城に入る。蜂須賀氏の兵、追ひて其旗幕(二)を獲たり。十二月、忠總・忠繼と、淺野、鍋島、九鬼の諸將と、進みて川場に入る。利隆等進みて天滿に入る。

㈠ 手薄くもろし　㈡ 旗と幕と

賀氏兵追獲二其旗幕一。十二月。忠總忠繼與二淺野鍋島九鬼諸將一。進入二川場一。利隆等進入二天滿一。

東南諸將亦進逼レ城。伊達政宗至二川場一。井伊直孝藤堂高虎至二生玉一。臨二空壕一而陣。城兵燒二外城諸橋一。獨存二淡路本街高麗三橋一。石川忠總。與二城兵一戰二于高麗橋一。欲レ使二敵不一レ得レ燒。諸巡使請レ救レ之。前將軍叱曰。止矣。我兵欲レ登レ城。何恃レ橋哉。彼自斷二出路一耳。令二忠總退舍一。遂令二諸將一曰。設レ垣列レ牌。俟レ令而進。勿三妄鬪以損二一卒一。又以二天寒一增二糧食一。

東南の諸將も亦進みて城に逼る。伊達政宗は川場に至り、井伊直孝・藤堂高虎は生玉に至り、空壕(一)に臨みて陣す。城兵外城の諸橋を燒きて、獨り淡路・本街・高麗の三橋を存す。石川忠總城兵と高麗橋に戰ひて、敵をして燒くを得ざらしめんと欲す。諸巡使、之を救はんと請ふ。前將軍叱して曰く、止めよ。我が兵の城に登らんと欲するに、何ぞ橋を恃まんや。彼れ自ら出路を斷つのみと。忠總をして退きて舍せしむ。遂に諸將に令して曰く、垣を設け牌(二)を列ね、令を俟ちて進み、妄に鬪ひて一卒をも損する勿れと。又天寒き(三)を以て糧食を增す。

(一) からぼり (二) 楯 (三) 氣候の寒きを以て

本多正純受ㇾ命。以二金工光次一爲ㇾ介。遺二書城中一。使二織田長益大野治長議一ㇾ和。將軍聞ㇾ之。使二來請一曰。圍合矣。請令二諸軍一。四面齊登。以二天下兵一攻二一城一。何難ㇾ拔之有。和議若成。不ㇾ可ㇾ及已。前將軍曰。未也。將軍不ㇾ懌。本多正信曰。太公必有二神算一。願少俟ㇾ之。

本多正純、命を受けて、金工光次を以て介(一)と爲し、書を城中に遺りて、織田長益・大野治長をして和を議せしむ。將軍之を聞きて、來り請はしめて曰く、圍合せり。請ふ、諸軍に令して、四面齊しく登らん。天下の兵を以て一城を攻むるに何の拔き難きことか之れ有らん。和議若し成らば、及ぶ可からざるのみ(二)と。前將軍曰く、未だしと。將軍懌ばず。本多正信曰く、太公必ず神算(三)有らん。願はくは少く之を俟てと。

(一) 媒介者　(二) 取返のつかざるのみ　(三) 妙計あらん

藤堂高虎私射二書城上一。誘二南條光明一。使ㇾ爲二內應一。光明約ㇾ期。事覺。被ㇾ殺。藤堂氏兵

藤堂高虎、私かに書を城上に射て、南條光明を誘ひて、內應(一)を爲さしむ。光明期を約す。事覺れて殺さる。藤堂氏の兵知らずして進み、井伊氏の兵之に繼ぎ、加賀・越前の子弟も亦進みて、玉造の貳城に逼る。故秀康の庶子直政、先登して幟を濠の上に建つ。而して城將眞田幸村善く扞ぎて、我が兵の死傷頗る多し。前

不レ知而進。幷伊氏兵縱レ之。加賀越前子弟亦進。逼ニ玉造貳城一。故秀康庶子直政先登。建ニ幟濠上一。而城將眞田幸村善拒。我兵死傷頗多。前將軍望レ烟。怒曰。奴輩敢破ニ我令一。顧ニ安藤直次一往收レ之。將軍請レ罰ニ破レ令者一。前將軍曰。破レ令者。亦不レ可レ得也。

將軍、烟を望み、怒りて曰く、奴輩、敢て我が令を破ると。安藤直次を顧みて往きて之を收めしむ。將軍令を破る者を罰せん(一)と請ふ。前將軍曰く、令を破る者も、亦得べからざるなりと。

(一) うちぎりをなさん (二) 我が命令を用ひず

兩公屢巡ニ視諸營一。前將軍未ニ嘗裹一レ甲。被ニ葵號戰袍一。上レ馬。從ニ十餘騎一。至ニ生玉口一。城兵望視識レ之。叢レ銃雨注。衆爭請レ避レ之。前將軍不レ顧。按レ

兩公、屢〻(一)諸營を巡視す。前將軍、未だ嘗て甲を裹せず。(二)葵號の戰袍を被りて、馬に上り、十餘騎を從へて、生玉口に至る。城兵望み視て之を識り、銃を叢めて雨注す。衆爭ひて之を避けんと請ふ。前將軍顧みず。轡を按じて徐行す(三)。横川尹松後れて至り、衆を排して進みて曰く、此公矢石に當るを喜ぶ(四)。矢石の來るは、川場より甚だしきは莫し。請ふ、往かんと。乃ち馬を扣へて西し、城を去ること遠からしむ。他日、將軍巡りて天滿に至り、有馬氏の煙樓(五)に登る。城兵狙

響徐行。横田尹松後至。排レ衆而進曰。此公喜レ當二矢石一。矢石之來。莫レ甚レ於二川場一。請往焉。乃抑レ馬而西。使二去レ城遠一。他日。將軍巡至二天滿一。登二有馬氏望樓一。城兵狙發二大熕一。從者請レ去。不レ肯。水野勝成曰。元師巡レ師。與二斥兵一異。不レ當三專視二一處一。乃肯去。城將後藤基次曰。兩帥皆天授。豈可二徼倖一。扼レ衆勿二妄發一レ銃。

ひて大熕(六)を發す。從者去らんと請ふ。肯ぜず。水野勝成曰く、元師の師を巡するは、斥兵と異なり、專ら一處を視るべからずと。乃ち肯ひて去る。城將後藤基次曰く、兩帥は皆天授(七)なり。豈に徼倖(八)すべけんやと。衆を扼めて妄に銃を發する勿らしむ。

㊀諸所の陣屋　㊁葵の紋のつきたる陣羽織　㊂筒口を揃へて打出す彈丸は雨の降る如くにはげし　㊃諸人をおしのけて　㊄土丘を築き其上に建てたるやぐら　㊅大砲　㊆天より授かりたる幸運を有するもの　㊇僥倖にして之を討取らん事などをもとむべきに非ず

六日。前將軍從陣二茶臼山一。將軍從陣二岡山一。築二連珠寨一相接。壅河之

六日、前將軍徙りて茶臼山に陣す。將軍徙りて岡山に陣す。連珠寨(一)を築きて相接す。壅河の功既に竣りて、湟水多く涸る。城兵、大に驚く。我が軍、土豚(二)を以て湟を塡め、竹牌(三)を列ね、鐵楯を排べ、距堙(四)を起し、地道を鑿つ。而して銃を

功既竣。湟水多涸。城兵大驚。我軍以土豚塡湟。列竹牌。排鐵楯。起距堙。鑿地道。而發銃鼓譟者。每夜三次。使城兵不得休止。前將軍令諸將。射書曰。降者有賞。城中人人相疑。將軍復請凌城齊登。前將軍曰。吾聞。良將不戰而勝。且損兵而得城。吾無取焉。復使金工光次入城議和。

發して鼓譟すること每夜三次にして、城兵をして休止するを得ざらしむ。前將軍諸將に令して、書を射しめて曰く、降る者は賞有らんと。城中の人人相疑ふ。將軍復た城を凌ぎて齊しく登らんと請ふ。前將軍曰く、吾れ聞く、良將は戰はずして勝つ。且つ兵を損して城を得るは、吾れ取る無しと。復た金工光次をして城に入りて和を議せしむ。

(一) 數珠の如く連りて築きたる土手　(二) 土俵　(三) 竹を束ね　(四) 土をつき上げて敵を防ぐこと

城中衆議不決。多願和者。大野治長等建議曰。德川翁且夕人也。明歲西吉東

城中衆議して決せず。和を願ふ者多し。大野治長等、建議して曰く、德川翁は且(一)夕の人なり。明歲は西は吉にして東は凶なり。且く和を約して以て後圖を爲(二)さんと。乃ち秀賴に勸めて和を請はしむ。前將軍曰く、右府誠に自ら艾めば、則ち吾れ(三)復た意に介する莫し。城内の客兵(四)は、皆釋して問はじと。因りて三事を約

凶。且約レ和以爲二後圖一。乃勸二秀朝一請レ和。前將軍曰。右府誠自戈。則吾莫二復介レ意。城內客兵。皆釋不レ問。因約二三事一。曰。塡二周池一。曰。徙二大和一。曰。以二淀君一爲レ質。必居レ一焉。數日答レ聽レ塡二周池一。而請下爲二客兵一加中食邑上。前將軍怒曰。釋レ之已多矣。奚勝レ養レ之乎。議乃輟。乃命レ工益造二攻具一。

す。曰く、(五)周池を塡めん。曰く、大和に徙らん。曰く、淀君を以て質と爲さん。必ず一に居れと。數日にして、周池を塡むるを聽かんと答ふ。而して客兵の爲に食邑を加へんと請ふ。前將軍怒りて曰く、之を聽すすら已に多し。奚んぞ之を養ふに勝へんやと。議乃ち輟む。乃ち工に命じて益〻攻具を造らしむ。

(一) 死期近き人なり (二) 後のはかりごと (三) 何とも思はず (四) 他國の兵 (五) 城をめぐれる池

或詣二井伊直孝一議レ事。直孝方睡起。揩レ目而出。或曰。子何懈也。曰。我慮二敵出襲一。夜不レ交レ睫。唯晝間得レ睡耳。城將大野治房

或ひと、井伊直孝に詣りて(一)事を議す。直孝方に睡りて起く。目を揩りて出づ。或ひと曰く、子何ぞ懈るやと。曰く、我れ敵の出でて襲ふを慮りて、夜は睫を交へず。唯晝間、睡を得るのみと。城將大野治房道頓濠の敗を恥ぢて、之に報ずる有らんと欲す。時に阿波の兵、本街橋の西に陣す。治房夜出でて之を襲ふ。阿波の兵亂れて、死傷頗る多し。人乃ち直孝に服す。

(一) 訪問して事をはかる (二) 一睡もせず

愧二道頓港之敗一。欲レ有レ報レ之。時阿波兵陣二木街橋四一。治房夜出襲レ之。阿波兵亂。死傷頗多。人乃服二直孝一也。

先レ是。天皇使下大納言藤原兼勝大納言藤原實條來勞上。於レ是復來傳二詔旨一曰。卿以二耆老一冒二風雪于戎間一。宜下委二軍事諸將一。以還息中於京師上。卽欲二和議一。將下詔二秀賴一成中之上。前將軍稽首曰。臣少慣二軍旅一。且職分所レ存。不レ可二獨逸一。勿レ勞二聖慮一。

是より先、天皇、大納言藤原兼勝・大納言藤原實條をして、來り勞はしむ。是に於て、復た來りて詔旨を傳へて曰く、卿、耆老(一)を以て、風雪を戎間(二)に冒す。宜しく軍事を諸將に委ねて、以て還りて京師に息ふべし。卽し和議を欲せば、將に秀賴に詔して之を成さしめんとすと。前將軍稽首して曰く、臣、少きより軍旅(三)に慣る。且つ職分の存(四)する所、獨り逸す可からず。聖慮(五)を勞する勿れ。和議に至りては、臣自ら之を修めん。以て天詔を辱くするに足らず。秀賴をして詔を奉ぜしめば則ち可なり。若し詔を奉ぜずば、適に其罪を增さん。臣則ち之を誅夷(六)せざるを得ず。是を以て敢て辭すと。乃ち女監阿茶をして京師に如かしめて、常光氏を迎ふ。常光氏とは、京極忠高の母にして淀君の妹なり。之をして城に入りて和を勸めしむ。工場を經て往く。工人千百、羣を成して、諸の攻具(七)を造

至レ於二和議一。臣自修レ之。不レ足三以辱二天詔一。使二秀頼奉一レ詔則可。若不レ奉レ詔。適増二其罪一。臣則不レ得レ不三誅二夷之一。是以敢辭。乃令三女監阿茶如二京師一。迎二常光氏一。當光氏。京極忠高母而淀君妹也。使二之入レ城勸一レ和。經二工場一而往。工人千百成レ羣。造二諸攻具一。飛橋轒轀。皆以レ千數。常光入レ城。具說二淀君一。淀君初與二秀頼一倶巡二視城内一。見二守兵頗壯鋭一也。大喜。

る。飛橋轒轀(八)皆千を以て數ふ。常光城に入りて、具に淀君に說く。淀君初めて、秀頼と倶に城内を巡視す。守兵の頗る壯鋭(九)なるを見るや、大に喜ぶ。

(一) 非常に年老いたるを以て　(二) 戰陣の間　(三) 軍隊　(四) 一本に在とあり　(五) 御心配は無用なり　(六) 攻め滅ぼす　(七) 攻戰の具　(八) 攻城に用ふる回轉車　(九) さかんにして精鋭なるを見て

遂上二天主閣一。以望二東軍一。則極目皆兵。旌旗際レ天。淀君色動。已而備前島軍發二大熕一。中二閣第二層一。二女震死。

遂に天主閣に上りて、以て東軍を望めば、則ち極目(一)皆兵にして、旌旗天に際す。淀君、色動く(二)。已にして備前島の軍、大熕を發して閣の第二層に中つ。二女震死(三)す。淀君始めて大に驚き、秀頼に勸めて和を成さしむ。而して常光の至るに會ふ。則ち喜懼(四)交ゝ集る。常光、命を傳へて曰く、右府必ず大坂に居らんと欲せば、則ち其舊封(五)に於ては、一も闕く所無からん。特り(六)諸客兵を逐ひて、東軍を

淀君始大驚。勸二秀頼一成レ和。而會二常光至一。則喜懼交集。常光傳レ命曰。右府必欲レ居二大坂一。則於二其舊封一。一無レ所レ關。特逐二諸客兵一。使下東軍毀二外城一。塡中周池上。以著二和親之實一。秀頼母子召二諸將一議。議未レ決。本多正純使三人言二治長長益一曰。公上之議已成矣。子等遲疑。罪將レ至矣。二人大懼。急因二後藤光次一獻レ質。治長欲レ遣二其幼子一。光次斥レ之曰。稚弱者何用。乃率二其冢子一而還。

して外城を毀ち周地を塡めしめて、以て和親の實を著せと。秀頼母子、諸將を召して議す。議未だ決せず。本多正純、人をして治長・長益に言はしめて曰く、公上の議已に成れり。子等遲疑せば、罪將に至らんとすと。二人、大に懼れて、急に後藤光次に因りて質を獻ず(七)。治長其幼子を遣らんと欲す。光次之を斥けて曰く、稚弱の者何ぞ用ひんと。乃ち其冢子(八)を率ゐて還る。

(一)見ゆる限り皆兵にて旌旗は天につゞく (二)顏色變ず (三)大熕のひゞきの爲死す (四)喜びとおそれとまじりて來る (五)舊領地はもとのまゝならん (六)多くの他國兵 (七)ぐづぐづして居れば (八)相續人

十九日。和成。約塡二周池一逐二客兵一。二十日。

十九日、成和る。約して周池を塡め客兵を逐ふ。二十日、板倉重昌入りて秀頼の誓書を監す。秀頼問ひて曰く、兩公の何れに呈す可きと。重昌私かに對へて曰く、

板倉重昌入監二秀頼誓書一。秀頼問曰。爾公何可レ呈。重昌私對曰。呈二太公一。持レ書而歸。前將軍目逆而問曰。嚮遣レ汝。不レ命二其所一レ呈。如何。重昌告レ狀。前將軍喜曰。非レ汝不レ能レ辨也。城將度二我恃レ和而懈一也。欲レ襲二茶臼岡山一。夜使二人候視一。見二其嚴備一。乃止。初西藩獨島津氏未二來會一。二豐二筑將帥受二密命一。亦不レ發。於レ是以二兵艦三千餘艘一至二兵庫一。則和成已四

太公に呈せよと。書を持ちて歸る。前將軍目逆(一)して問ひて曰く、嚮に汝を遣すに、其の呈する所(二)を命ぜず、如何と。重昌狀を告ぐ。前將軍喜びて曰く、汝に非ざれば辨ずる能はざるなりと。城將、我の和を恃みて懈るを度り、茶臼・岡山を襲はんと欲し、夜、人をして候ひ視しむ。其嚴備なるを見て乃ち止む。初め西藩(三)獨り島津氏未だ來り會せず。二豐・二筑(四)の將帥、密命を受けて亦發せず。是に於て、兵艦三千餘艘を以て兵庫に至る。則ち和成りて已に四日なり。前將軍、人をして勞ひて之を罷めしむ。遂に諸軍に令して圍を撤し、特に勳舊(五)の七將を留めて湟(六)を塡めしむ。本多正純・安藤直次・成瀨正成を以て之を掌らしむ。諸侯爭ひて役を助く。

(一)目にてむかふる　(二)差出すべき名宛　(三)西國の諸侯　(四)豐前豐後筑前筑後　(五)軍功ある大將七人　(六)一本に塹とあり

日矣。前將軍使ニ人勞而罷レ之。遂令ニ諸軍一撤レ圍。特留ニ勳舊七將一塡レ湟。以ニ本多正純安藤直次成瀨正成一掌レ之。諸侯爭助レ役。

伊達政宗藤堂高虎等請曰。秀頼聽レ命。終不レ可レ保也。恐遺ニ後患一。不レ若ニ及レ今除レ之。前將軍曰。吾與ニ豐臣氏一以レ義合者也。長湫捷後。聽レ和入ニ京師一。始助ニ征伐一。終受ニ委託一。關原之役。乘レ勢壓ニ大坂一。事固非レ難。今彼乃以レ怨報レ恩。吾苟欲レ除レ之。豈俟ニ卿等

伊達政宗・藤堂高虎等請ひて曰く、秀頼、命を聽くも、終に保す可からざるなり(一)。恐らくは後患(二)を遺さん。今に及びて之を除くに若かずと。前將軍曰く、吾と豐臣氏と、義を以て合ふ者なり。長湫の捷後、和を聽きて京師に入り、始めて征伐を助け、遂に委託(三)を受く。關原の役に、勢に乘じて大坂を壓するは、事固より難きにあらず。今彼れ乃ち怨を以て恩に報ゆ。吾れ苟も之を除かんと欲せば、豈に卿等の言を俟たんや。吾れ特に太閤の舊好(四)を念ひて、以て之を保全するのみ。彼れ復た我に負き、敢て不義を行はば、則ち自ら亡を取るなり。卿等且く言ふ勿れと。大坂の諸將、前將軍を要擊(五)せんと欲す。二十四日、前將軍數十騎と、夜、行營を發して、曉くる比京師に入る。衆以て神(六)と爲す。

(一) 終まで變心なきは請合はれず (二) 後日の心配 (三) 死後のたのみをうく (四) ふるきよしみを以て豐臣を存立せしむるのみ (五) 待受けて擊つ (六) 人間業にあらずとなす

言ㇾ哉。吾特念二太閤舊好一。以保二全之一耳。彼復負ㇾ我。敢行二不義一。則自取ㇾ亡也。卿等且勿ㇾ言。大坂諸將。欲三要二擊前將軍一。二十四日。前將軍與二數十騎一。夜發二行營一。比ㇾ曉入二京師一。衆以爲ㇾ神。

初前將軍之出二京師一。命二林信勝等一。索二御府及公卿家典籍一。命二五山徒一。開ㇾ局校寫。在二大坂軍中一。遙督二其役一。使者往來不ㇾ絕。自ㇾ是畢ㇾ功。爲二三本一。獻二納其一一。置二二于駿府江戸一。二十八日。入朝。上皇天皇慰勞懇至。命議正二朝廷爵位一。興二諸節會一。

初め前將軍の京師を出づるや、林信勝等に命じて、御府(一)及び公卿の家の典籍(二)を索めて、五山(三)の徒に命じて、局を開きて校寫(四)せしむ。大坂の軍中に在りて、遙かに其役を督す。使者往來して絕えず。是に至りて功を畢へて、三本を爲る。其一を獻納し、二を駿府・江戸に置く。二十八日入朝す。上皇・天皇慰勞すること懇至(五)なり。命じ議して朝廷の爵位を正し、諸の節會(六)を興す。

(一) 天子の御府庫　(二) 書物　(三) 京都の五山寺　(四) 校合して書寫せしむ　(五) 丁寧親切なり　(六) 朝廷にて行はるゝ儀式

時京師流言。池田利隆懷二觀望一。逗二留中

時に京師流言(一)す。池田利隆、觀望(二)を懷き、中島に逗留す。故に其尼崎の戍將、且元を救はずと。前將軍怒り、其封を奪ひて以て其弟忠繼に與へんと欲す。利隆の

島。故其尼崎成將不救。且元。前將軍怒。欲奪其封以與其弟忠繼。利隆之老番氏明來陳謝之。不聽而入。氏明牽裾號哭。以死爭之。初氏明父大膳爲圉人。長湫之役。池田輝政見父兄歿。欲戰死。大膳扣馬遏之。輝政怒。以鐙踢其項。血被面而不縱。遂存其祀。前將

老番氏明來りて之を陳謝す。聽かずして入る。氏明、裾を牽きて號哭し（三）、死を以て之を爭ふ。初め氏明の父大膳、圉人（四）たり。長湫の役に、池田輝政、父兄の歿するを見て、戰死せんと欲す。大膳馬を扣へて之を遏む。輝政怒り、鐙を以て其項を踢る。血、面に被れども縱たず。遂に其祀（五）を存す。前將軍之を記す（六）。其世々忠節なるを嘉するや、乃ち利隆を釋す。次年、忠繼母子皆卒す。利隆に命じて備前の國事を攝せしむ。伊達政宗の長子秀宗、幼にして大坂に質たり。關原の役に、始めて放還せらるゝを得たり。政宗嫌を避けて、少子忠宗を立てて嗣と爲す。是に於て、秀宗軍に從ふ。前將軍之を愍み、封ずるに富田氏の舊邑（七）宇和島を以てし、十萬石を食ましむ。筒井定次の遺臣、多く大坂に募に應ず。故を以て定次に死を配所に賜ふ。

（一）いひふらす　（二）天下形勢をうかゞふこと　（三）裾を引きとめてなきさけぶ　（四）馬の口取　（五）先祖のまつりをたやさず　（六）御記憶にあり　（七）舊領地

軍記レ之。嘉二其世忠節一也。乃釋二利隆一。次年。忠繼母子皆卒。命二利隆一攝二備前國事一。伊達政宗長子秀宗。幼質レ於大坂。關原之役。始得二放還一。政宗避レ嫌。立二少子忠宗一爲レ嗣。於レ是秀宗從レ軍。前將軍愍レ之。封以二富田氏舊邑宇和島一。食二十萬石一。筒井定次遺臣多應二大坂募一。以レ故賜二定次死于配所一。

將軍在二岡山一。亦論二賞諸將士功一。是役。井伊直孝以二兄直勝廢疾不一レ勝レ事。代攝二其軍一。有レ功。將軍遂命領二其國一。直孝辭曰。直勝雖レ羸。有二先臣養士在一。每レ有二君事一。臣攝焉而從。可矣。今以二庶孼一先二嫡長一。臣所レ不レ安也。又因二安藤直次一力請。將軍嘉賞而不レ許。乃賜二彥根十五萬石一。別賜二邑于直勝一。

將軍岡山に在りて、亦諸將士の功を論賞す。是の役に、井伊直孝、兄直勝の廢(一)疾にて事に勝へざるを以て、代りて其軍を攝して功有り。將軍遂に命じて其國を領せしむ。直孝辭して曰く、直勝羸しと雖も、先臣の養士在る有り。君の事有る毎に、臣攝して從ひて、可なり。今、庶孼(二)を以て嫡長に先だつは、臣の安んぜざる所なりと。又安藤直次に因りて力請す。將軍嘉賞して許さず。乃ち彥根の十五萬石を賜ひ、別に邑を直勝に賜ふ。

(一) 不具にて　(二) 妾腹の子

初直孝有レ故育二於民間一。比二十一歲一。有二强盜數十一。入二其家一。輒拔レ刀斫二一人一。父直政密召見。以二常所レ執軍麾一授レ之。而卒。及レ長。召用爲二書院番頭一。稍進二大番頭一。於レ是旣拜レ命。次日入謝。徐進坐二執政本多正信之上一。坐者洒然變レ色。旣罷。謂二正信一曰。今日之狀。類二不恭一也。然已承二故侍從之後一。不レ能レ不レ然。正信曰。公唯能然。所三以有二是命一。吾竊慶二郎君知レ人也。

初め直孝故有りて民間(一)に育はる。十一歳の比、强盜数十有りて、其家に入る。輒ち刀を拔きて一人を斫る。父直政密かに召し見て、常に執る所の軍麾(二)を以て之に授けて卒す。長ずるに及びて、召し用ひて書院番頭と爲す。稍〻ありて大番頭に進む。是に於て、既に命を拜す。次日入りて謝し、徐に進みて執政本多正信の上に坐す。(三)坐者洒然として色を變ず。既にして罷む。正信に謂ひて曰く、今日の狀(四)不恭に類するなり。然れども已に故侍從の後を承く。然らざる能はずと。正信曰く、(五)公唯能く然り。是の命有る所以なり。吾れ竊かに郎君(六)の人を知るを慶するなりと。

(一) 百姓の中にて養育を受く (二) 軍配團扇 (三) 坐席にある者驚きて顔色を變ふ (四) 無禮なるものゝ如し (五) 貴殿なればこそ能くかくかく振舞ふことを得たり (六) 人物を識る明あるを御喜び申すなり

當二是時一。諸工卒已塡二外湟一。遂及二內湟一。城中詰レ之。曰。約レ塡二周池一。謂二西南外壕一也。今及レ於レ此。何也。成瀨正成對曰。謂二之周一者。周二內外一也。且和親已成。何用レ湟爲。今欲レ存二內湟一。其意如何。城中不レ能レ爭。遂晨夜督レ役。超レ歳而畢。獨餘二牙城一湟一。

是の時に當りて、諸工卒(一)、已に外湟を塡め、遂に內湟に及ぶ。城中之を詰りて曰く、初め周池を塡むるを約せしは、西南の外壕を謂ふなり。今此に及ぶは何ぞやと。成瀨正成對へて曰く、之を周と謂ふは、內外を周くするなり。且つ和(二)親已に成る。何ぞ湟を用ふるを爲さん。今內湟を存せんと欲するは、其意如何と。城中爭ふこと能はず。遂に晨(三)夜役を督し、歳を超えて畢る。獨り牙(四)城の一湟を餘すのみなり。

(一) 工事に從事する兵卒 (二) 和睦の已に成る上は湟は無用なり (三) 朝早くより夜まで掛りて (四) 本丸

元和元年。正月。三日。前將軍發二京師一。九日。將軍入二京師一。盡罷二諸侯一

元和元年正月三日、將將軍京師を發す。九日、將軍、京師に入り、盡く諸侯を罷めて國に就かしめ、安藤直次をして岡崎に追及(一)せしめ、功の竣るを告げ、且つ大坂の再擧の計有るを告げしむ。居ること五日にして入朝す。又五日にして東す。二

就レ國。使三安藤直次追二及岡崎一。告二功竣一。且告三大坂有二再擧之計一。居五日。入朝。又五日。東。二月。會三前將軍于二中泉一。密議而往。十四日。前將軍歸二駿府一。將軍歸二江戸一。江戸之士有二小幡景憲者一。有レ罪出亡。仕二前田氏一。玉造之戰。先レ衆奮鬪。城將大野治房識レ之。及二和成一。潛誘以二厚

月、前將軍に中泉に會す。密議して往く。十四日、前前軍は駿府に歸り、駿府は江戸に歸る。江戸の士に小幡景憲と云ふ者有り。罪有りて出亡し、前田氏に仕ふ。玉造の戰に、衆に先んじて奮鬪す。城將大野治房之を識る。和成るに及びて、潛かに誘ふに厚利を何てす。景憲佯り應じ、夜入りて治房を見る。治房大に喜び、遂に再擧の計を告ぐ。因りて期を約して遣歸す。景憲歸りて、板倉勝重●松平定勝に因りて、之を將軍に啓す。將軍、前將軍と議し、知らざる者の爲して、以て其動息を候はしむ。大坂益々客兵を召募し、間使を以て景憲を招く。勝重●定勝之に謂ひて曰く、兩公再び來り、諸軍復た集ること、五十日を出でじ。其間城兵或は京師を侵し、至尊を挾みて以て東に鄕はば、則ち恐らくは力を費さん。汝勗めて之を沮めと。景憲諾して往く。城中の諸將、師を出さんと議する者有り。治房兄弟、固く執りて聽かず。景憲の說を信ずるなり。或ひと、治房に說きて曰く、景憲は諜賊なり。請ふ、之を驗問せんと。治房驚き、甲を發して其舍

利一。景憲佯應。夜入見二治房一。治房大喜。遂告二再擧之計一。因約レ期遣歸。景憲歸。因二板倉勝重松平定勝一。啓二之將軍一。將軍與二前將軍一議。爲二不レ知者一。以候二其動息一。大坂益召二募客兵一。以二間使一招二景憲一。勝重定勝謂レ之曰。兩公再來。諸軍復集。不レ出二五十日一。其間城兵或侵二京師一。挾二至尊一以東鄉。則恐費レ力也。汝盍レ沮レ之。景憲諾而往。城中諸將有レ議レ出レ師者。治房兄弟固執不レ聽。信二景憲之說一也。或說二治房一曰。景憲諜賊也。請驗二問之一。治房驚。發レ甲圍二其舍一。景憲笑語自如。治房召レ之。即從二一奴一入。治房曰。人言果不レ可レ聽也。乃置二之界浦一。使二時來見一。

を圍む。景憲、笑語自如(七)たり。治房、之を召す。即ち一奴を從へて入る。治房曰く、人言果して聽く可からざるなりと。乃ち之を界浦に置きて、時に來りて見えしむ。

(一)他書によるに十九日なるべし　(二)ふるひたゝかふ　(三)再び事をあげる計　(四)知らないふりをして　(五)やうす　(六)敵のまはし者　(七)笑ひつゝ物語りて少しも變らず

兩將軍已熟二知敵情一。而秀賴未レ知レ之。三月。使二青木一重及二女使

兩將軍已に敵情(一)を熟知して、而して秀賴未だ之を知らず。三月、青木一重及び二女使をして來り請はしめて曰く、兵荒(二)の後、食祿給せず。請ふ之を賑貸(三)せよと。時に參議義直、將に故淺野左京大夫の女を娶らんとす。前將軍二女使に謂ひ

來請曰。兵荒後食祿不給。請賑貸之。時參議義直將娶故淺野左京大夫女。前將軍謂二女使曰。右兵衞督成婚在近。吾亦將往焉。東國女子。不嫺禮節。汝等幸往相之。婚畢則吾自適京師。以計賑給之事。乃遣之尾張。已而京師報至。曰。募兵聚大坂者十四五萬。

て曰く、右兵衞督婚を爲すこと近きに在り。吾も亦將に往かんとす。東國の女子、（四）禮節に嫺はず。汝等幸に往きて之を相けよ。婚畢らば則ち吾れ自ら京師に適きて、以て賑給の事を計らんと。乃ち之を尾張に遣る。已にして京師の報至る。曰く、募兵の大坂に聚る者十四五萬にして、兵勢、前役に什倍すと。前將軍笑ひて曰く、（五）多々益々敗るべし。必ずしも之を禁ぜずと。終に令を諸侯に下す。皆前役の如し。先づ井伊直孝・藤堂高虎に命じて、兵を率ゐて往きて京師を護らしむ。京師方に（六）訛言あり、大坂の兵來ると。（七）負擔して四走す。或は（八）闕門及び公卿の宅に入る。板倉氏の僚屬兵備を爲さんと請ふ。勝重曰く、諸を置けと。乃ち（九）便服して巡行すること、平日に異ならず。上下倚安す。而して諸將至る。直孝は東寺に陣し、高虎は淀に陣す。去歲の役に、山口重政、功を以て自ら償はんと欲す。箱根に至りて、出づるを得ず。是に於て、間行して伊井氏に屬す。藤堂氏の將渡邊了、敵を住吉に縱つ。高虎自ら疑はるゝを恐れ、甚だ了を誚む。舊臣も

兵勢什倍前役。前將軍笑曰。多多益可敗。不必禁之。終下令諸侯。

亦了の新に進みて人に傲るを忿る。了、去らんと請ふ。許さず。

㊀敵の様子をよく知る　㊁戰爭にて諸事荒れたる後　㊂にぎはし貸す　㊃禮節を辨へず　㊄多ければ多き程　㊅流言　㊆老幼をたすけ荷物をはこぶ　㊇御所の門　㊈平服

皆如前役。先命井伊直孝藤堂高虎率兵往護京師。京師方訛言。大坂兵來。負擔四走。或入闕門及公卿宅。板倉氏僚屬。請爲兵備。勝重曰。置諸。乃便服巡行。不異平日。上下倚安焉。而諸將至。直孝陣東寺。高虎陣淀。去歲之役。山口重政欲以功自償。至箱根。不得出。於是間行屬井伊氏。藤堂氏將渡邊了縱敵於住吉。高虎自恐被疑。甚譖了。舊臣亦忿了新進傲人也。了請去。不許。

四月。九日。前將軍至尾張。召大坂使者。曰。吾聞右府復募兵。兵多則食乏。固其當已。吾將往驗其虛實也。

四月九日、前將軍尾張に至り、大坂の使者を召して曰く、吾れ聞く、右府復た兵を募ると。兵多ければ則ち食乏しきは、固より其當のみ。吾れ將に往きて其虛實を驗せんとするなりと。因りて使者を留めて遣らず。常光氏を遣して、再び兵を弭むるを諭す。居ること三日にして、義直の婚を成し、又三日にして、尾張を發す。十八日、京師に至る。常光氏來りて、秀頼の命を聽かざるを報ず。又後藤

因留二使者一不レ遣。遣二常光氏一。再諭レ弭レ兵。居三日。成二義直婚一。又三日。發二尾張一。十八日。至二京師一。常光氏來。報二秀頼不レ聽レ命。又使二後藤光次往一。亦不レ答。乃徇下畿內應二大坂募一者上。收二其妻子一。降者宥レ之。

光次をして往かしむ。亦答へず。乃ち畿内の大坂の募に應ずる者を徇へて、其妻子を收む。降る者は之を宥す。

（一）當然なるのみ　（二）うそかまことかをしらべん

將軍以下前將軍至二尾張一之日上。發二江戶一。少將忠輝與二黑田長政加藤嘉明一。皆自請而從。二十一日。至二伏見一。明日。來謁二條城一。前將軍欲下以二二十八日一出上レ師。將軍以三

將軍、前將軍の尾張に至るの日を以て、江戶を發す。少將忠輝、黑田長政、加藤嘉明と、皆自ら請ひて從ふ。二十一日、伏見に至る。明日來りて二條城に謁す。前將軍二十八日を以て師を出さんと欲す。將軍、兵未だ全く集らざるを以て、少く之を俟たんと請ふ。前將軍曰く、此役は當に野戰（一）に決すべし。野戰は多きを用ひず。乃公（二）、見兵を以て先づ往かん。汝、大衆（三）を合して之を繼げと。將軍曰く、兒此に在りて、大人（四）をして先だたしめば、世のひと（五）、之を何とか謂はんと。前將軍曰く、吾れ老いたり。復た事に遭ふ可からず。必ず衆に先だちて一たび樂

兵未全集。請少俟之。前將軍曰。此役當決於野戰。野戰不用多。乃公以見兵先往。汝合大衆繼之。將軍曰。兒在此。使大人先。世謂之何。前將軍曰。吾老矣。不復可遭事。必先衆一樂戰。本多正信侍側曰。臣聞。軍之先後。在地之遠近。太公在京。郎君在伏見。其次已定矣。太公甚無道理。前將軍乃止。

戰せんと。本多正信側に侍して曰く、臣聞く、軍の先後は、地の遠近に在りと。太公は京に在り。(六)郎君は伏見に在り。其次已に定れり。太公、甚だ道理無しと。前將軍乃ち止む。

㈠ 野いくさ ㈡ 現在の兵 ㈢ 我軍の後詰にせよ ㈣ 父上 ㈤ 世人必ず我を非難すべし ㈥ 一本に京師とあり上句に屬し京師となす

召藤堂高虎。諮攻城方略。高虎對曰。利於遠。不利於近。輕兵挑戰。俟其遠出擊之。則敗衄之餘。無復守志。

藤堂高虎を召して、(一)攻城の方略を諮ふ。高虎對へて曰く、遠きに利ありて、近きに利あらず。輕兵もて戰を挑み、其遠く出づるを俟ちて之を撃たば、則ち(二)敗衄の餘、復た守志無からんと。前將軍、掌を撫して曰く、子が言、吾が口より出づるが如きなりと。遂に諸軍の鄕ふ所を定む。石川忠總は高槻を守り、池田利隆・池田忠雄は尼崎を守る。其餘の山陽・山陰の將士は神崎より進み、淺野・蜂須賀以

前將軍撫レ掌曰。子言如レ出ニ我口一也。遂定ニ諸軍所レ鄕。石川忠總守ニ高槻一。池田利隆池田忠雄守ニ尼崎一。其餘山陽山陰將士自ニ神崎一進。淺野蜂須賀以下南海將士自ニ和泉一進。而大和伊勢美濃諸部自ニ大和口一先進。少將忠輝伊達政宗爲ニ其帥一。水野勝成爲ニ其先鋒一。前將軍召ニ勝成一曰。我大和口先鋒。非レ汝毋ニ可者一。汝統ニ大和將士一。有ニ不レ用レ命者一。先斬而後聞。與ニ直孝高虎一相爲ニ策應一。期ニ其全勝。愼勿レ作ニ一條槍故態一。勝成感謝而出。井伊直孝藤堂高虎以ニ近江伊勢兵一爲ニ中軍先鋒一。榊原康勝松平康重。與ニ小笠原仙石諏訪保科丹羽諸將一繼レ之。自ニ河內口一進。

下の南海の將士は和泉より進む。而して大和・伊勢・美濃の諸部は大和口より先づ進む。少將忠輝・伊達政宗其帥たり。水野勝成、其先鋒たり。前將軍、勝成を召して曰く、我が大和口の先鋒は、(三)汝に非ざれば可なる者毋し。汝大和の將士を統べ、命を用ひざる者有らば、先づ斬(四)りて後に聞せよ。直孝・高虎と、策應を相爲し、其全勝を期し、愼みて(五)一條槍の故態を作す勿れと。勝成感謝して出づ。井伊直孝・高虎、近江・伊勢の兵を以て中軍に先鋒たり。榊原康勝・松平康重、小笠原・仙石・諏訪・保科・丹羽の諸將と之に繼ぎて、河內口より進む。

(一) 城を攻むるてだて　(二) 甚だしく敗けたる餘兵は再び守る志なからん　(三) 汝より外適任者なし　(四) 斬首して後に申上げよ　(五) 昔なしたる如き一本槍の功名を爲すな

先レ是。城兵侵ニ大和。大和法隆寺有ニ工人中井正次一。前役爲ニ東軍一造ニ攻具一。城兵怨レ之。圍ニ法隆寺一。焚レ之。二十六日。大野治房亦寇ニ郡山一。守將筒井定慶棄レ守遁。水野勝成進至ニ長池一。聞レ之謂ニ部下一曰。敵若焚ニ南都一。我恥也。疾馳赴レ之。治房至。不ニ敢逼一。遂退去。勝成追躡。至ニ法隆

是より先、城兵、大和を侵す。大和の法隆寺に工人中井正次といふ有り。前役に東軍の爲に攻具を造る。城兵、之を怨みて、法隆寺を圍みて、之を焚く。二十六日、大野治房も亦郡山に寇す。守將筒井定慶守を棄てて遁る。水野勝成進みて長池に至り、之を聞きて部下に謂ひて曰く、敵若し南都を焚かば、我が恥なりと。疾く馳せて之に赴く。治房至る。敢て逼らず。遂に退き去る。勝成追躡して法隆寺に至る。淺野但馬守、兵五千を以て北和泉に赴きて佐野(二)に至るに會ふ(三)。治房等紀伊の土寇を誘ひて、其後に起らしめて、兵二萬を以て之を逆ふ。紀伊の將龜田高綱曰く、平地の戰は、寡き者必ず敗る。宜しく退きて樫井に至り、林を蔽ひ蹊を塞ぎて陣すべしと。但馬守之に從ふ。明日黎明、治房の先鋒塙直次・岡部則綱・谷輪重政等先を爭ひて進む。高綱、銃手を以て要擊し、則綱を傷く。紀伊の將上田(四)重安、直次と槍を接し、傷きて交ゝ(五)退く。多胡某、射て直次を斃し、遂に則綱・重政を獲たり(六)。治房、貝塚に在り。敗を聞きて走る。而して紀伊の土寇

寺。會淺野但馬守以兵五千北赴和泉至佐野。治房等誘紀伊土寇使起其後。而以兵二萬逆之。紀伊將龜田高綱曰。平地之戰。寡者必敗。宜退至樫井蔽林塞蹊而陣。但馬守從之。明日黎明。治房先鋒塙直次岡部則綱谷輪重政等。爭先而進。高綱以銃手要擊。傷則綱。紀伊將上田重安與直次接槍。傷而交退。多胡某射斃直次。遂獲則綱重政。治房在貝塚。聞敗走。而紀伊土寇亦平。但馬守復進。勝成分其部下為二隊。以堀直寄松倉重正爲左右隊將。重正不告而進。直寄怒。召居氏問捷路。對曰。龜背嶺最捷。然昔物部守屋由此路取敗。武人相傳以爲凶也。直寄曰。吾既從軍。凶其分也。且守屋以敗。安知吾不以勝乎。遂踰嶺先重正。至

亦平ぐ。但馬守復た進む。勝成、其部下を分ちて二隊と爲し、堀直寄・松倉重正を以て、左右の隊將と爲す。重正告げずして進む。直寄怒り、居民を召して捷(七)路を問ふ。對へて曰く、龜背嶺最も捷し。然れども、昔、物部守屋、此路に由りて敗を取る。武人相傳へて以て凶と爲すと。直寄曰く、吾れ既に軍に從ふ。凶は其分なり。且つ守屋は以て敗る。安んぞ吾は以て勝たざるを知らんやと。遂に嶺を踰えて重正に先だちて、國分嶺に至る。已にして勝成、諸軍を引きて踵ぎて至る。少將忠輝猶ほ南部に陣す。

㊀細工人　㊁一本に走とあり　㊂後を追ひかけて　㊃一本に淡輪となり　㊄鐵砲方　㊅槍を合せて鬪ひ　㊆近みち

國分嶺。已而勝成引二諸軍一踵至。少將忠輝猶陣二南都一。

兩將軍以二四方兵漸集一。遂議二親出一。會下大坂細作入二京師一。欲レ焚二禁內及二條一。板倉勝重捕下レ獄。前將軍以レ故停レ行。五月五日。乃發。令二諸軍一持二三日糧食一。以二米鹽酒漿一櫃一自從。駕二肩輿一而行。將軍發二伏見一。上杉景勝留二守京師一。陣二于男山一。前田利光少將忠直以下皆從。即日。前將軍舍二星田一。將軍舍二角南一。

兩將軍、四方の兵漸く集るを以て、遂に親出を議す。大坂の細作(一)京師に入りて、禁內及び二條を焚かんと欲するに會す。板倉勝重捕へて獄に下す。前將軍故を以て行を停む。五月五日、乃ち發す。諸軍に令して三日の糧食を持し、米鹽酒漿(二)一櫃を以て自ら從へしめ、肩輿(三)に駕して行く。將軍、伏見を發す。上杉景勝、京師を留守し、男山に陣す。前田利光、少將忠直以下皆從ふ。即日前將軍は星田(四)に舍し、將軍は角南(五)に舍す。

(一) 忍びの者 (二) 酒などののみもの (三) 二人して肩にかつぐ駕籠 (四) 河內國に在り (五) 同上

城中聞二我大軍至一。乃議レ戰。後藤基次薄

城中、我が大軍の至るを聞き、乃ち戰を議す。後藤基次、薄田兼相・渡邊尙出でて平野に陣し、大野治長・眞田幸村・木村重成・長曾我部盛親相繼ぎて出づ。兵

田兼相渡部尙出陣平野。大野治長眞田幸村木村重成長曾我部盛親相繼而出。兵各萬餘人。計邀擊我先鋒。基次乘夜潛甲而南。勝成在嶺頭。謂諸將曰。炬火北來者。至道明寺而滅。是敵欲出我不意也。乃嚴備以俟。而馳使告之中軍。直孝高虎亦赴中軍。取節度。前將軍曰。事如我意。六日。昧爽。與將軍俱發。至平岡。勝成遣直寄重正等赴道明寺。遏基次于片山。重正不利。直寄進擊其橫。重正反之。兼相尙來救基次。勝成擊尙破之。

各〻萬餘人なり。我が先鋒を邀へ擊たんと計る。基次、夜に乘じて甲を潛めて南す。勝成、嶺頭に在り。諸將に謂ひて曰く、炬火北より來る者、道明寺に至りて滅す。是れ敵の我が不意に出でんと欲するなりと。乃ち備を嚴にして以て俟つ。而して使を馳せて之を中軍(一)に告ぐ。直孝・高虎も亦中軍に赴きて、節度(二)を取る。前將軍曰く、事、我が意の如しと。六日昧爽、將軍と俱に發して、平岡に至る。勝成、直寄・重正等を遣して、道明寺に赴かしむ。基次に片山に遇ふ。重正利あらず。直寄進みて其橫を擊つ。重正之に反す(三)。兼相・尙來りて基次を救ふ。勝成、尙を擊ちて之を破る。

(一) 第二軍　(二) 指揮をなす　(三) 引返して戰ふ

本多忠政松

本多忠政・松平忠明、伊達氏の將片倉景綱と、基次・兼相を擊ちて亦之を破る。大

平忠明與ニ伊達氏將片倉景綱一。擊ニ基次兼相一亦破レ之。大野治長眞田幸村等自ニ道明寺一以ニ二萬餘騎一援至。景綱與ニ幸村一戰。不レ利。陸奧銃隊承レ之。幸村卻。於レ是勝成與ニ諸將一齊進合擊。伊達氏銃手荻又市。射ニ基次一斃レ之。水野氏騎士河村新八。縱ニ兼相一亦斃レ之。本多松平丹羽氏縱ニ左右翼一。大破ニ治長一。治長尙皆走。幸村退保ニ南阜一。勝成馳レ使促ニ伊達政宗一曰。公自進ニ中軍一。以備ニ幸村橫擊一。則吾追ニ其北一。不レ使ニ隻騎返一也。本多忠政亦促レ之。政宗以ニ兵疲丸盡一辭。一柳直盛在ニ越後部下一。請ニ進援前軍一。忠輝不レ肯。

野治長・眞田幸村等、道明寺より、二萬餘騎を以て援ひ至る。景綱、幸村と戰ひて利あらず。陸奧の銃隊、之を承く。幸村卻く。是に於て、勝成、諸將と齊しく進みて合擊す。伊達氏の銃手荻又市、基次を射て之を斃し、水野氏の騎士河村新八、兼相を縱して(一)亦之を斃す。本多・松平・丹羽氏左右の翼を縱ちて(二)、大に治長を破る。治長・尙皆走る。幸村退きて南阜を保つ。勝成使を馳せて伊達政宗を促して曰く、公自ら中軍を進めて、以て幸村の橫擊に備へよ。則ち吾れ其北ぐるを追ひて、隻騎(三)をして返さしめじと。本多忠政も亦之を促す。政宗兵疲れ丸盡くるを以て辭す。一柳直盛越後の部下に在り。進みて前軍を援けんと請ふ。忠輝肯ぜず。幸村、尙と、遂に更〻殿して退く。

(一) 槍にてつき　(二) 左右兩軍を進ましめて　(三) 一騎

幸村與尙逡巡更殿而退。

藤堂高虎自千塚南赴道明寺。其二族將高刑良勝先進。渡邊了自爲斥候。還報曰。道明寺囂聲漸西漸微。是敵已敗也。乃擧鞭左指曰。矢尾若江有敵。高虎使人過先部。轉旆而左。了曰。茲地沮洳。請由別路。乃馳傳令。高刑良勝不顧而進。至矢尾堤。遇敵將盛親伏堤下。二人死之。盛親愈進。了等力戰。收兵據高

藤堂高虎、千塚より南道明寺に赴く。其二族將高刑・良勝先づ進む。渡邊了、自ら斥候(一)と爲り、還り報じて曰く、道明寺の囂聲(二)漸く西して漸く微なり。是れ敵已に敗るゝなりと。乃ち鞭を擧げて左を指して曰く、矢尾・若江に敵有りと。高虎人をして先部を過ぎ旆を轉じて左せしむ。了曰く、茲の地は沮洳(三)たり。請ふ別路由りせんと。乃ち馳せて令を傳ふ。高刑・良勝顧みずして進む。矢尾堤に至り、敵將盛親の堤下に伏するに遇ふ。二人之に死す。盛親愈〻進む。了等力戰し、兵を收めて高阜(四)に據り、馳せて高虎を促す。高虎其の二將を救はざるを怒りて肯ぜず。井伊直孝、道明寺に赴き、亦轉じて(五)左し、木村重成と若江堤に戰ふ。

(一) ものみ　(二) がやがやいふ聲　(三) じくじくと水たまる　(四) 高きをか　(五) 道をかへて

皐。馳促二高虎一。高虎怒三其不二救一將一。不レ肯。井伊直孝赴二道明寺一。亦轉而左。與二木村重成一戰二于若江堤一。

其將長坂某曰。先得レ堤者勝。督二銃隊一奪レ堤據レ之。槍隊欲レ進。老臣菴原某曰。勿二亟用一レ槍。亟用レ槍。則敵近而勢竭。衆冒進不レ利。敵爭躡レ之。菴原乃麾而進。山口重政與二次子弘隆一。奮戰被レ創。長子重信深入。斬二二騎一。進與二重成一鬪而死。直孝麾下繼

其將長坂某曰く、先に堤を得る者勝たんと。銃隊を督し、堤を奪ひて之に據る。槍隊進まんと欲す。老臣菴原某曰く、亟かに槍を用ふる勿れ。亟に槍を用ひば則ち敵近づきて勢竭きんと。衆、冒進(一)して利あらず。敵爭ひて之に躡る。菴原乃ち麾きて進む。山口重政、次子弘隆と、奮戰して創を被り。長子重信深く入りて、二騎を斬り、進みて重成と鬪ひて死す。直孝の麾下繼ぎて進む。菴原刺して重成を殪し、安藤某其首を取る。敵兵皆潰ゆ。井伊氏の兵、北ぐるを追ふこと里餘なり。其游兵(二)、盛親の幟を見て、横より之に迫る。渡邊了も亦赤隊の來るを見るや、乃ち奮擊して盛親を走らせ、進みて平野橋を扼し、復た人をして高虎を促さしめ、道明寺の敗兵を邀へんと欲す。高虎曰く、斯の奴死處(三)に死せず、今何ぞ嘵嘵たること乃ち爾るや。歸師は遏むる勿れ。宜しく速に兵を收むべしと。

(一) 無暗に進みて勝利なし　(二) 游擊の兵　(三) 死すべき處にて死せず今何ぞがやがや騒ぎ立つるか

進菴原刺殪重成。安藤某取其首。敵兵皆潰。井伊氏兵追北里餘。其游兵見盛親轍。横迫之渡邊了亦見赤隊來也。乃奮擊走盛親。進扼平野橋。復使人促高虎。欲邀道明寺敗兵。高虎曰。斯奴不死於死處。今何曉曉乃爾。歸師勿遏。宜速收兵。

會有一監使至。了迎而言曰。陪臣敢有請。盛親雖遁。幸村等將至。要擊鏖之。則大坂之陷。不出今夜。使之入城。則明日之戰。又將費力焉。臣策之至熟。如和泉守弗聽何。監使爲之往說高虎。高虎不答。以日已暮。益促了收兵。

會ゝ(一)一監使の至る有り。了迎へて言ひて曰く、陪臣(二)敢て請ふ有り。盛親遁ると雖も、幸村等將に至らんとす。要擊して之を鏖にせば、則ち大坂の陷るは、今夜を出でじ。之をして城に入らしめば、則ち明日の戰、又將に力(三)を費さんとす。臣、之を策るに至りて熟す。和泉守聽かざるを如何せんと。監使之を爲んとし、往きて高虎に說く(四)。高虎答へず。日已に暮るゝを以て、益ゝ了を促して兵を收む。了、遂に火を縱ちて退く。後に直孝、高虎の營に赴きて、戰捷を賀す。高虎曰く、我に怯夫(五)有り。多く我が良を喪ふ。是を憾と爲すのみと。直孝曰く、僕、若江より矢尾に赴き、貴部の一將、席幟(七)を樹てて敵を追ふを見る。指揮甚だ觀るべし。此人も亦死せりや否(六)やと。高虎、默然(八)たり。了、冑を免ぎ進みて曰く、謂ふ所の席幟は卽ち臣なり。因りて其屬兵を呼びて曰く、掃部君褒詞有り。

了遂縦ㇾ火而退。後直孝赴ニ高虎營一。賀ニ戰捷一。高虎曰。我有ニ怯夫一。多喪ニ我良一。是爲ㇾ憾耳。直孝曰。僕自ニ若江一赴ニ矢尾一。見下貴部一將樹ニ席幟一迫ㇾ敵。指揮甚可ㇾ觀。斯人亦死否。高虎默然。了免ㇾ冑進曰。所ㇾ謂席幟。卽臣也。因呼ニ其屬兵一曰。掃部君有ニ褒詞一。我輩不ニ徒勞一矣。然了終以ニ傲謾一見ㇾ黜。

我が輩徒に勞せずと。然れども了終に傲謾を以て黜けらる。

㊀一人の軍目附來る　㊁また家來　㊂餘分の骨折をせん　㊃最もの意　㊄臆病者あり　㊅貴殿部下の一大將　㊆むしろばたを押立てゝ敵を追ふを見る　㊇無言なり

是日。榊原康勝等至ニ菅江一。擊ニ敵將木村宗明一。康勝患ㇾ瘍。膿流至ㇾ鎧。氣不ニ爲撓一。奮戰破ㇾ之。與ニ小笠原秀政等一進赴ニ若江一。監軍藤田信吉捉ㇾ之而止。少將忠直與ニ其老

是の日、榊原康勝等菅江に至り、敵將木村宗明を擊つ。康勝瘍を患ふ。膿流れて鎧に至るも、氣爲に撓まず。奮戰して之を破りて、小笠原秀政等と、進みて若江に赴く。監軍藤田信吉之を捉して止む。少將忠直、其老本多成重等と、四條畷に陣し、井伊氏の後に在りて、皆事に逮ばず。兩將軍、先鋒の戰酣なりと聞き、中軍を以て之に繼がんと欲す。捷報累に至る。首虜を馬前に效す。日已に暮る。前將軍は千塚に次し、將軍は道明寺に次す。令を下しと曰く、詰朝、城を攻むるに、先鋒は戰に疲る。當に他將を以て之に易ふべしと。忠輝・忠直皆逗留を以て

本多成重等。陣二四條畷一。在二井伊氏後一。皆不レ逮レ事。兩將軍聞二先鋒戰酣一。欲下以二中軍一繼上レ之。而捷報果至。效二首虜一於二馬前一。日已暮。前將軍次二千塚一。將軍次二道明寺一。下レ令曰。詰朝攻レ城。先鋒戰疲。當下以二他將一易上レ之。忠輝忠直皆以二逗留一失レ旨。本多成重以二忠直命一來稟曰。明日之戰。越前兵何陣。前將軍罵曰。惰夫晏起。不レ逮レ事。尙何言哉。成重等惴恐還報。且曰。君努力。

旨を失ふ。本多成重、忠直の命を以て來り稟して曰く、明日の戰、越前の兵は何くに陣せんと。前將軍罵りて曰く、(三)惰夫晏起、事に逮ばず。尙ほ何を言ふかと。成重等(四)惴恐して還り報ず。且つ曰く、君、(五)努力せよと。

(一)引とめてやむ　(二)黎明　(三)このなまけものめ遲く起出て戰爭の間に合はず　(四)おそれて　(五)骨折りつとめる

忠直乃徇二其士一曰。明日我不二先登一則先死。怖レ死者自レ此去。小笠原秀政亦恨レ爲二

忠直乃ち其士に徇へて曰く、明日我れ先登せずんば、則ち先づ死せん。死を怖るる者は此より去れと。小笠原秀政も亦監軍の誤る所と爲るを恨む。出雲守本多忠朝は、其戚屬(一)なり。秀政夜往きて之を見て曰く、明日吾れ尺前(二)有りて寸卻無しと。忠朝曰く、子は我が心を得たりと。初め忠朝の父忠勝、死に臨みて長子忠政

監軍所レ誤。出雲守本多忠朝。其戚屬也。秀政夜往見レ之曰。明日吾有二尺前一無二寸卻一。忠朝曰。子得二我心一。初忠朝父忠勝臨レ死囑二長子忠政一。分三遺財於二忠朝一。忠朝曰。宗家多二費用一。吾已辱二分地一。不二敢受一。忠政固予レ之。忠朝曰。且寘二之兄氏一。以俟二我需一。及レ役。忠政問焉。答曰。既辨レ之矣。及レ在二大坂一。病三其營處多二沮澤一。請レ易レ之。前將軍曰。乃父爲レ戰。未三嘗問二險易一。若何不肖焉。忠朝慙恨。以レ故終與二秀政一約レ死。

に囑して、遺財(三)を忠朝に分つ。忠朝曰く、宗家は費用多し。吾れ已に分知を辱くす。敢て受けずと。忠政固く之を予ふ。忠朝曰く、且く之を兄氏に寘きて、以て我が需を俟てと。役に及びて、忠政問ふ。答へて曰く、既に之を辨ずと。大坂に在るに及びて其營處(四)の沮澤多きを病へ、之を易へんと請ふ。前將軍曰く、乃父は戰を爲すに、未だ嘗て險易を問はず。若は何ぞ不肖(五)なると。忠朝慙恨(六)す。故を以て終に秀政と死を約す。

(一) 親類　(二) 戰ひ困難にして僅かに一尺前むことを得ても一寸も卻くことをせず　(三) 死後に遺す財産　(四) 營の濕氣多きを心配し　(五) 父より劣りて愚なる　(六) 恥ぢ恨む

既而前將軍部二署諸將一。前

既にして前將軍諸將を部署(一)す。前田利光は右先鋒たり。本多康俊・本多康紀、

田利光爲㆓右先鋒㆒。本多康俊本多康紀。與㆓遠藤片桐石川藤田等㆒。在㆓其右㆒。本多正信土井利勝酒井忠世本多大隅黒田長政加藤嘉明繼㆑之。少將忠直爲㆓左先鋒㆒。本多忠朝小笠原秀政。與㆓秋田六郷淺野丹羽仙石等㆒。在㆓其右㆒。榊原康勝松平康長酒井家次稻垣

遠藤・片桐・石川・藤田等と其右に在り。本多正信・土井利勝・酒井忠世・本多大隅・黒田長政・加藤嘉明之に繼ぎ、少將忠直は左先鋒たり。本多忠朝・小笠原秀政、秋田・六郷・淺野・丹羽・仙石等と、其右に在り。榊原康勝・松平康長・酒井家次・稻垣重種之に繼ぎ、大將軍親ら右軍に將たり。水野忠清・青山忠俊・松平定綱、書院番頭を以て、高木正成・阿部正次・内藤清次、大番頭を以て、並に其前に在り。安藤重信、其後に在り。前將軍親ら左軍に將たり。本多正純・植村家次・板倉重昌・本多信勝・内藤掃部等、之を衛る。參議義直・參議頼宣其後に在り。井伊直孝・藤堂高虎、細川忠興と右軍の左に在り。水野勝成、松平忠明・本多忠政・伊達政宗・少將忠輝と、左軍の左に在り。處分既に定る。偵騎を遣して戰地を候ふ。而して城中未だ之を知らざるなり。大敗の後、衆心恟懼するを以て、會議して計を決す。曰く、東軍來り逼ること、二三日を出でず。之を南郊に誘ひて、西より橫さまに之を撃たんと欲すと。天未だ明けず。人を出して斥候を爲さしむ。候者、東

重種繼之。大將軍親將右軍。水野忠清青山忠俊松平定綱以書院番頭。高木正成阿部正次內藤清次以大番頭。並在其前。安藤重信在其後。前將軍親將左軍。本多正純植村家次板倉重昌本多信勝內藤掃部等衞之。參議義直參議賴宣在其後。井伊直孝藤堂高虎。與細川忠興在右軍之左。水野勝成與松平忠明本多忠政伊達政宗少將忠輝。在左軍之左。處分既定。遣偵騎候戰地。而城中未之知也。以大敗後衆心恟懼。會議決計。曰。東軍來逼。不出二三日。欲誘之於南郊而自西橫擊之。天未明。使三人出爲斥候。候者東南望見聚落如常所無者。或以爲曉霧。及日出視之。則皆軍隊也。乃大駭。馳還告急。

南の聚落(五)に常に無き所の如き者を望見し、或は以て曉霧と爲す。日出に及びて之を視れば、則ち皆軍隊なり。乃ち大に駭き、馳せ還りて急を告ぐ。

(一) 手分をなす　(二) 偵察の騎兵　(三) おそる　(四) 南方の外郊　(五) 村里

乃傳令諸將。眞田幸村陣茶臼山。以當我左。大野治房陣岡山。以當我右。森勝

乃ち令を諸將に傳ふ。眞田幸村は茶臼山に陣して、以て我が左に當り、大野治房は岡山に陣して、以て我が右に當り、森勝永・竹田永應・大野治長及び七隊長其間に陣す。明石守重等は、別軍を以て今宮に出づ。而して秀賴親ら將として之に繼ぐ。(一)鎧仗旌旗皆極めて嚴整なり。城兵鋭を悉して出づ。其將帥、人人必ず兩

永竹田永應大野治長。及七隊長。陣二其間一明石守重等。以二別軍一出レ于二今宮一。而秀頼親將繼レ之。鎧仗旗旗。皆極嚴整。城兵悉銳而出。其將帥人人欲三必當二兩將軍一。將軍候騎來白レ於二左軍一曰。大兵出矣。請速進レ旆。前將軍叱曰。敵空レ城而出。不レ過二七萬一。何謂二大兵一乎。及レ往吉一。乃命レ與穿レ鞵。左右進レ鎧。斥之曰。誅二奴輩一。何以レ鎧爲。紵衣黃掛而上レ馬。其騎與二前軍輜重一相亂。不レ可レ禁。顧命二横田尹松一。尹松進呼曰。騎左重右。道闢而行。使三人返馳告二義直頼宣一曰。速來。戰將レ作也。

將軍に當らんと欲す。將軍の候騎來りて左軍に白して曰く、大兵出づ。請ふ、速かに旆(一)を進めよと。前將軍叱して曰く、敵、城を空しくして出づるも、七萬に過ぎず。何ぞ大兵と謂はんやと。住吉に及びて、乃ち輿を舍てて鞵(三)を穿く。左右鎧を進む。之を斥けて曰く、奴輩を誅するに、何ぞ鎧を以ひるを爲さんと。紵衣(四)黃掛にして馬に上る。其騎、前軍の輜重と相亂れて、禁ずべからず。顧みて横田尹松に命ず。尹松進みて呼びて曰く、騎は左し、重(五)は右せよと。道闢けて行く。人をして返り馳せて義直・頼宣に告げしめて曰く、速かに來れ。戰將に作らんとすと。

(一) 鎖兵器はた (二) 大將のはた (三) わらぢ (四) かたびらに黃色の羽織を著せしなり (五) 輜重

已而右軍傳呼。將軍至矣。長政嘉明出謁二道傍一。將軍甲而不レ冑。單騎從二二十餘卒一。巡レ師。見二二人一。立レ馬揖レ之。二人進執二其銜一曰。疇昔敵遠出。憾二其逃入一也。而今又大出。齊授二其首一。幕下之事。無レ不レ如レ意也。將軍首肯曰。今且剪二滅之一。本多正信筝輿從焉。柿蒂衣。持二團扇一拂レ蠅而過。長政嘆曰。何不レ類二平日威嚴一也。嘉明曰。重レ於レ常而輕レ於レ變。德川氏之癖。長政曰。可レ謂二佳癖一矣。將軍行至二前部一。布レ令而歸。

已にして右軍傳呼(一)す。將軍至ると。長政・嘉明出でて道傍に謁す。將軍甲して冑せず。單騎に二十餘卒を從へて、師を巡る。二人を見て、馬を立てて之を揖(二)す。二人進みて其銜を執りて曰く、疇昔(三)は敵遠く出でて、其逃れ入るを憾む。而して今は又大に出でて、齊しく其首を授く。幕下の事、意の如くならざる無しと。將軍首肯(四)して曰く、今且(五)に之を剪滅せんとすと。本多正信、筝(六)輿にて從ひ、柿蒂(七)衣し、團扇を持ち蠅を拂ひて過ぐ。長政嘆じて曰く、何ぞ平(八)日の威嚴に類せざるやと。嘉明曰く、常に重くして變に輕きは、德川氏の癖なりと。長政曰く、佳癖(九)と謂ふべしと。將軍行きて前部に至り、令を布きて歸る。

(一) 人々口々に呼ぶ　(二) 會釋す　(三) 昨日　(四) うなづきて　(五) 一本に且とあり　(六) 竹こし　(七) 柿染の衣　(八) 平生の威嚴正しきが如くならざるは平生自重して事變ある時に簡易なるなり　(九) 善き癖

兩軍既近。左先鋒隊將本多成重上レ阜候レ戰。忠朝秀政與二勝永永應一以二銃手一挑レ戰。戰少不レ利。幸村乘レ之。成重顧麾二我軍一。軍乃進。忠直曰。吾自レ此直入二閻羅廳一也。因呼レ餐。立而食レ之。一人捧レ餐。一人持レ胄。食畢而胄。謂二左右一曰。我既食矣。必不レ墮二餓鬼道一。騎而直前。軍鬨而從レ之。忠直弟忠昌手斬二二人一。成重。與二吉田修理荻田主馬一左右縱擊。幸村軍終敗走。追至二安井一。西尾久作。與二幸村一鬪斬レ之。

兩軍既に近づく。左先鋒の隊將本多成重阜に上りて戰を候ふ。忠朝・秀政、勝永・永應と銃手を以て戰を挑む。戰少しく利あらず。幸村之に乘ず。成重顧みて我が軍を麾く。軍乃ち進む。忠直曰く、吾れ此より直に閻羅廳(一)に入るなりと。因りて餐(二)を呼び、立ちて之を食ふ。一人は餐を捧げ、一人は胄を持つ。食畢りて冑す。左右に謂ひて曰く、我れ既に食す。必ず餓鬼道に墮ちずと。騎して直に前む。軍、鬨して之に從ふ。忠直の弟、忠昌、手づから二人を斬る。成重、吉田修理・荻田主馬と、左右より縱擊す。幸村の軍、終に敗走す。追ひて安井に至る。西尾久作、幸村と鬪ひて之を斬る。

㊀閻魔大王の御所　㊁食事

忠朝見二其軍卻一。乘二愛馬百里一。馳且呼曰。出雲守在レ此。盍三回戰一。敵聞レ之四集。忠朝執レ槍殪二二人一。一人以レ銃迫レ之。射洞二其腹一。忠朝跳而下レ馬。拔レ刀斬二銃者一。其圉進二鐵檛一。乃左奮レ之。右揮レ刀。殪二八人一。身亦被二二十餘創一。踰レ溝而僵。敵爭二其首一。從騎大屋某。伏二屍上一。扞レ敵而死。秀政亦躬自力戰。終死レ之。其長子忠脩死レ於二攢槍下一。少子忠眞被レ創欲レ死。其臣澁

忠朝其軍の卻くを見て、愛馬百里に乘じて、馳せ且つ呼びて曰く、出雲守此に在り。盍ぞ回り戰はざると。敵之を聞きて四集す。(一)忠朝槍を執りて二人を殪す。一人銃を以て之に迫り、射て其腹を洞す。(二)忠朝跳りて馬より下り、刀を拔きて銃者を斬る。其圉、鐵檛を進む。乃ち左に之を奮ひ、右に刀を揮ひて、八人を殪す。身も亦二十餘創を被り、溝を踰えて僵る。敵其首を爭ふ。從騎大屋某、屍上に(三)伏し、敵を扞ぎて死す。秀政も亦躬自ら力戰し、終に之に死す。其長子忠脩、攢(四)槍の下に死す。少子忠眞創を被りて死せんと欲す。其臣澁多見某・安積某扶けて還る。右先鋒の隊將伴八彌・安見右近等、進みて治房の軍を衝く。書院番の三隊繼ぎて進む。迭に勝敗有り。本多・遠藤の諸將、横より之を擊つ。治房、敗走し、返りて稲荷に戰ふ。又敗れ、纔に脱れて城に入る。

(一) 四方より集る　(二) 腹を貫く　(三) 死骸の上　(四) やりぶすま

多見某。安積某。扶而還。右先鋒隊將作八彌安見右近等。進衝治房軍。書院番三隊繼進。迭有勝敗。本多遠藤諸將横擊之。治房敗走。返戰于稻荷。又敗。纔脫入城。

右軍已前。左軍稍卻。直孝高虎顧助左軍。酒井榊原諸將方承敗進。而戰未決。直孝高虎横斷森氏軍後。破之。與七隊長遇。不利。安藤直次以前將軍命至。督衆返擊。破之。勝成率所部。奉命赴住吉。望左軍戰作。轉向天王寺。行破敵兵。而趨川場。與明石守重遇。交綏而北。大番三隊以將軍命。邀擊守重于勝曼。走之。

右軍已に前み、左軍稍く卻く。直孝・高虎、顧みて左軍を助く。酒井・榊原の諸將、方に(一)敗を承けて進みて、戰未だ決せず。直孝・高虎横に森氏の軍後を斷ちて、之を破り、七隊長と遇ふ。利あらず。安藤直次、前將軍の令を以て至り、衆を督して(二)返擊して、之を破る。勝成、所部を率ゐ、命を奉じて、住吉に赴く。左軍に戰作るを望み、(三)轉じて天王寺に向ひ、行く敵兵を破りて、川場に趨き、明石守重と遇ふ。(四)交綏して北ぐ。大番の三隊、將軍の令を以て、守重を勝曼に(五)邀擊して之を走らす。

(一) 敗戰の後を引き受けて進む　(二) 一本に返戰とあり　(三) 道をかへて　(四) 共に引上ぐ　(五) 迎へて擊つ

時兩軍酣戰。埃塵大起。彼此紛拏不可辨。阿部正次以爲東兵冒暑遠來。面目皆黑。城兵則否。乃令曰。面白者敵兵也。因物色斬數十級。諸隊相傳倣之。斬獲無算。秀賴欲親出。聞城中有反者。不果。又以前將軍數遣人議和。召還大野治長等。治長等走還。敵軍皆顧後。我軍乃乘之。遂大敗之。斬首一萬五千級。

時に兩軍、酣戰して、(一)埃塵大に起る。彼此紛拏して辨ずべからず。阿部正次以爲へらく、東兵、暑を冒して遠く來る。(二)面目皆黑し、城兵は則ち否らずと。乃ち令して曰く、面の白き者は敵兵なりと。因りて物色して(三)數十級を斬る。諸隊、相傳へて、之れに倣ふ。斬獲すること(四)算無し。秀賴親ら出でんと欲す。城中、反者有りと聞き、果さず。又前將軍數〻人を遣して和を議するを以て、大野治長等を召還す。治長等走り還る。敵軍皆後に顧みる。我が軍乃ち之に乘じて、遂に大に之を敗りて、首を斬ること一萬五千級なり。

(一) 戰ひの眞最中　(二) 敵味方ごちやごちやして見分つかず　(三) 探しもとめて　(四) 斬首無數なり

前將軍進上茶臼山。將軍進上岡山。少

前將軍は進みて茶臼山に上り、將軍は進みて岡山に上る。少將忠直は進みて川場に至り、火を市舍に(一)縱つ。城中に內應を爲す者有り。忠直の兵乃ち高麗橋より

將忠直進至川堀舍。城中有爲內應者。忠直兵乃自高麗橋。破京口門而入。植幟城上。是爲先登第一。吉田修理轉自天滿濟。溺死。水野勝成繼忠直而入。忠直分兵焚諸樓櫓。終及天主閣。烟燄衝天。諸軍齊呼。皆破門而入。秀頼避火于觀月樓。淀君。及夫人德川氏以下。皆從之。池田利隆發尼崎。路望其烟。乃馳濟神崎。要擊敗兵。多得首級。石川忠總與京極忠高高知。發高槻。與敵將仙石某。戰于備前島。敗之。毛利秀元。及加藤明成。以水軍。至傳法港口。松平乘壽自森口。金森可

京口門を破りて入り、幟を城上に植つ。是を先登第一と爲す、吉川修理轉じて天滿より濟り、溺死(二)す。水野勝成、忠直に繼ぎて入る。忠直兵を分ちて諸〻の樓櫓を焚き、終に天主閣に及ぶ。烟燄天を衝く。諸軍齊しく呼びて、皆門を破りて入る。秀頼、火を觀月樓に避く。淀君及び夫人德川氏以下、皆之に從ふ。池田利隆、尼崎を發し、路に其烟を望み、乃ち馳せて神崎を濟り、敗兵を要擊して、多く首級を得たり。石川忠總、京極忠高・高知と、高槻を發して、敵將仙石某と、備前島に戰ひて、之を敗る。毛利秀元及び加藤明成は、水軍を以て、傳法港口に至る。松平乘壽は森口より、金森可重は岸和田より至る。皆首級を獲たり。淺野氏蜂須賀氏は最後に至る。其他遠地の侯伯(三)は皆及ばず。

(一) 市の家屋　(二) おぼれ死す　(三) 大小名

重自二岸和田一至。皆獲二首級一。淺野氏蜂須賀氏最後至。其他遠地侯伯皆不レ及也。

前將軍據二胡牀一。望二見火起一。左右有下更二關原之事一者上。乃顧謂レ之曰。吾復捷矣。已而將軍來賀。前將軍曰。汝之功也。使三歸陣二本營一。忠直來見。乃執二其手一曰。可レ謂二乃公孫一也。忠輝見。不レ顧。義義直賴宣自二後軍一馳。見二諸軍輜重屬レ途爭進一。賴宣曰。是軍

前將軍、胡牀に據りて、火の起るを望見す。(一)左右に關原の事に更る者有り。乃ち顧みて之に謂ひて曰く、吾れ復た捷つと。已にして將軍來り賀す。前將軍曰く、汝の功なりと。歸りて本營(二)に陣せしむ。忠直來り見ゆ。乃ち其手を執りて曰く、乃公の孫と謂ふべきなりと。忠輝見ゆ。顧みず。義直・賴宣、後軍より馳す。諸軍の輜重、途に屬(三)して爭ひ進むを見る。賴宣曰く、是れ軍既に捷ちて將に舍せんとするなりと。已にして天主に烟擧る。賴宣咄嗟して進む。義直之に從ふ。茶臼山に至れば、則ち諸將の賀する者大に聚る。賴宣、涕を攬りて曰く、大人、兒を後軍に置き、事に及ばざらしむと。(四)松平正綱曰く、君は十四歳なり。前途修遠(五)なれば、功を建てざるを患へずと。賴宣色を變じて曰く、吾れ復た十四歳有らんやと。前將軍曰く、汝が此言、以て首功(六)に當るに足ると。

(一) 望み見る　(二) 本陣　(三) 途中に引き續き　(四) 戰爭に間に合はさゞらしむ　(五) 行先長し　(六) 第一の功

既捷將舍也。已而天主烟擧。賴宣咄嗟而進。義直從之。至茶臼山。則諸將賀者大聚。賴宣攬涕曰。大人盍見後軍。使不及事。松平正綱曰。君十四歲矣。前途修遠。不患不建功。賴宣變色曰。吾復有十四歲乎。前將軍曰。汝此言。足以當首功也。

時秀賴猶在樓上。大野治長欲免夫人以成和也。使諸姬侍擁而出。蒙葵章衣。穿步亂兵中。城將堀內氏久觀之。進當其前。辟人而出。呼我將坂崎成正護送之。治長遣木村某追及。因本多正信言其意。正信來啓前將軍。前將軍喜曰。吾且遂免其夫與姑也。正信又啓將軍。將軍叱曰。盍下

時に秀頼、猶ほ樓上に在り。大野治長、夫人を免れしめて以て和を成さんと欲す。諸姫をして侍擁して出でしめ、(一)葵章の衣を蒙り、(二)亂兵の中を穿歩す。(三)城將堀內氏久、之を視て、進みて其前に當り、人を辟けて出で、我が將坂崎成正を呼びて之を護送せしむ。治長、木村某を遣して追及し、(四)本多正信に因りて其意を言ふ。正信來りて前將軍に啓す。前將軍喜びて曰く、吾れ且に遂に其夫と姑とを免れしめんとすと。正信又將軍に啓す。將軍叱して曰く、盍ぞ乃夫と倶に死せざると。秀頼遂に糒倉中に入り、益々使を發して命を乞ふ。而して日已に暮る。將軍井伊直孝及び安藤重信・石川正次等を遣し、(五)糒倉を守りて以て命を俟たしむ。

(一) 附添ひて守りて出でしめ　(二) 葵の紋章　(三) くるしみなやみあるく　(四) 追附き　(五) 兵糧倉

與二乃夫一俱死。秀頼遂入二糒食中一。益發レ使乃レ命。而日已暮。將軍遣二井伊直孝。及安藤重信石川正次等一。守二糒倉一以俟レ命。

八日。前將軍遣二本多正純。及加加爪某一。往驗レ之。且言曰。事已至レ此。無二復可レ言。太閤舊好。吾竟不レ能レ忘。苟母子皆出乎。置二秀頼于高野一。給二淀君一以二萬石一。治長入告。出答曰。謹拜二命之辱一。當二往謝レ之。獨萬兵所レ注レ目。願得二二輿一而往。直

八日、前將軍、本多正純及び加加爪某を遣して、往きて之を驗し(一)、且つ言はしめて曰く、事已に此に至る。復た言ふべき無し。(二)太閤の舊好、吾れ竟に忘るゝ能はず。苟も母子皆出でんか、秀頼を高野に置き、淀君に給するに萬石を以てせんと。治長入りて告げ、出でて答へて曰く、謹みて(三)命の辱きを拜す。當に往きて之を謝すべし。獨り萬兵の目を注ぐ所たり。願はくは二輿を得て往かんと。直孝其詐なるを疑ふ。乃ち答へしめて曰く、軍中唯一輿のみ。右府は請ふ騎せよと。往復して決せず。直孝、重信に謂ひて曰く、大旨は仁恕と雖も、禍を貽すの道なり。是れ我が輩に在るのみと。乃ち銃を倉中に發すること一たび、秀頼以下、(四)絕を知りて、皆火を縱ちて自殺す。

(一) しらべ　(二) 秀吉の舊き好みを忘るゝこと能はず　(三) 有難き御命を拜受す　(四) 媾和整はざるを知りて

孝疑㆓其詐㆒。乃使ㇾ答曰。軍中唯一輿。右府請騎。往復不ㇾ決。直孝謂㆓重信㆒曰。大旨雖㆓仁恕㆒。貽ㇾ禍之道也。是在㆓我輩㆒耳。乃發㆓銃倉中㆒者二。秀頼以下知ㇾ絶。皆縱ㇾ火自殺。

前將軍方進至㆓櫻門㆒。以待㆓秀頼出㆒。直孝等來。告ㇾ狀請ㇾ罪。前將軍頷ㇾ之。即日午時遽命ㇾ駕。獨從㆓板倉重昌㆒。北歸㆓京師㆒。曰。驅ㇾ之。大戰後當ㇾ雨。從者不ㇾ信。已而雨大至。上下沾濕。及ㇾ淀取㆓雨衣㆒。夜二鼓。入㆓二條城㆒。而大坂諸軍。一無㆓知ㇾ之者㆒。

前將軍、方に進みて櫻門に至りて、以て秀頼の出づるを待つ。直孝等來り。狀(一)を告げて罪を請ふ。前將軍、之を頷く(二)。即日、午時遽かに駕を命じて、獨り板倉重昌を從へ、北、京師に歸る。曰く、之を驅れ(三)。大戰の後は當に雨ふるべしと。從者信ぜず。已にして雨大に至る。上下沾濕(四)す。淀に及びて雨衣(五)を取る。夜二鼓にして、二條城に入る。而して大坂の諸軍、一も之を知る者無し。

(一)狀況を申上げて　(二)首肯す　(三)馬を驅けさせよ　(四)ぬれうるほふ　(五)雨具

將軍令㆓阿部靑山水野高木四將㆒。守㆓天王寺玉造靑屋京橋四門㆒。

將軍、阿部・靑山・水野・高木の四將に令して、天王寺・玉造・靑屋・京橋の四門を守らしめ、又、安藤重信に令して、西面四道の卒を留めて、以て城壘を修理せしむ。(一)尸を岡山に收めて、以て軍神を祭る。九日、伏見に凱旋す。諸侯爭ひて殘黨を捕

又令二安藤重信一。留二西面四道卒一。以修二理城墟一。收三屍于二岡山一。以祭二軍神一。九日。凱二旋伏見一。諸侯爭捕二殘黨一來獻。十五日。徇三長曾我部盛親于二京師一。斬レ于二六條磧一。後二旬。磔三大野道見于二界浦一。大坂將伊藤長實奔在二高野一。請下得二監使一自裁上。前將軍曰。治長等誤レ國。盛親等煽レ亂。

へて來り獻ず。十五日、長曾我部盛親を京師に徇へて、六條磧に斬る。後二旬にして、大野道見を界浦に磔す。大坂の將伊藤長實、奔りて高野に在り。監使を得て自裁(三)せんと請ふ。前將軍曰く、治長等は國を誤り、盛親等は亂を煽す。皆宥さざる所なり。其他の豐臣氏の舊臣、忠を事ふる所に盡す者は、我れ皆之を假さんと。長實、及び靑木一重・岩佐正壽等、圖を改めて仕ふる者數十人あり。古田重然(四)、大坂に通ず。事覺れて、誅に伏す。細川忠興の庶子、罪を父に獲て奔りて大坂に歸す。敗に及びて捕へらる。幕旨(五)之を宥す。忠興之に死を賜ふ。冬の役に、忠興、薩摩に備ふるを以て來り會せず。夏の役興るに及びて、前將軍、近臣に謂ひて曰く、忠興必ず衆に先だちて至らんと。駕、星田に次するとき、忠興、果して至る。七日の戰に與りて功有り。是に於て、西南の諸侯の後れて至る者、相繼ぎて兩公に謁す。

(一) 城あと　(二) 死骸　(三) 自殺　(四) 他本重勝或ひは重能に作る　(五) 幕府の御旨を以て

皆所レ不レ宥也。其他豐臣氏舊臣。盡二忠所一レ事者。我皆假レ之。長實。及青木一重。岩佐正壽等。改レ圖而仕者數十人。古田重然通二大坂一。事覺。伏レ誅。細川忠興庶子獲二罪於一レ父。奔歸二大坂一。及レ敗被レ捕。幕旨宥レ之。忠興賜二之死一。冬役。忠興以レ備二薩摩一不二來會一。及二夏役一與二前將軍一謂二近臣一曰。忠興必先レ衆至。駕次二星田一。忠興果至。七日之戰與レ有レ功焉。於レ是西南諸侯後至者。相繼謁二兩公一。

兩公收二大坂金一。賜下井伊藤堂氏。金馬直二大鈑千枚一者各二上。六月。賜三大坂于二松平忠明一。食二十萬石一。忠明修二荒廢一。經二田里一。期年而殷實如レ故。

兩公、大坂の金を收め、井伊・藤堂氏に、金馬の大鈑千枚に直する(一)者各〻二を賜ふ。六月、大坂を松平忠明に賜ひて、十萬石を食ましむ。忠明荒廢(二)を修め、田里を經し、期年(三)にして、殷實(四)故の如し。

(一) 價格あるもの　(二) 荒れすたる　(三) 一年　(四) 一本に富に作る

十五日。前將軍入朝告二成事一。獻二白金千兩一。二十八日。將軍來二二條一。

十五日、前將軍、入朝して成事(一)を告げ、白金千兩を獻ず。二十八日、將軍二條に來り、賞罰を議す。直孝、高虎に、各〻五萬石を加封す。後に竝に三十萬石に至る。水野勝成敎旨(二)に違ひて、輕〻しく自ら刃を接ふ。故に賞せず。後に郡

議二賞罰一。加二封
直孝高虎各
五萬石。後並
至二三十萬石一。
水野勝成違二
敎旨一。輕自接レ
刃。故不レ賞。後、
封二郡山一。遂移二
備後福山一。食二
十萬石一。本多
忠朝死レ事。無レ
子。以二兄忠政
子政朝一襲レ封。
小笠原忠眞
襲二父秀政封一。
榊原康勝瘍
劇而卒。大須賀忠次。實康勝兄子也。命復二本姓一。襲二其封一。以二大須賀氏衆一。屬レ於二賴宣一。責三藤田
信吉失二軍機一。收二其邑一。令三池田忠雄襲二兄忠繼封一。以二其舊封一。賜二蜂須賀至鎭一。少將忠直遷二從
三位一。進二參議一。前田伊達淺野氏皆進二官爵一。前將軍季女寡レ於二蒲生氏一者。再嫁二淺野氏一。至二次
年一成レ婚。

山に封ぜられ、遂に備後の福山に移りて、十萬石を食む。本多忠朝事に死す。子無し。兄忠政の子政朝を以て封を襲がしむ。小笠原忠眞、父秀政の封を襲ぐ。榊原康勝、瘍劇しくして卒す。大須賀忠次は、實は康勝の兄の子なり。命じて本姓に復し、其封を襲がしめ、大須賀氏の衆を以て、賴宣に屬す。藤田信吉の將機(四)を失ふを責めて、其邑を收む。池田忠雄をして兄忠繼の封を襲がしめ、其舊封を以て蜂須賀至鎭に賜ふ。少將忠直は從三位に遷り、參議に進む。前田・伊達・淺野氏皆官爵を進む。前將軍の季女(五)の蒲生氏に寡する者、再び淺野氏に嫁し、次年に至りて婚を成す。

(一) 事のたひらぎ (二) 知行を増す (三) 將軍の命令 (四) 戰ひのはづみ (五) 一番すゑのむすめ

閏月。十一日。將軍率二諸侯一入朝。獻二白金萬兩一。二十七日。兩公偕觀二樂于二條城一。奏二振鉾還城樂延喜樂太平樂諸曲一。天下大亂。伶官耗散者數百年。前將軍招撫有レ年。終復二舊職一。朝廷之樂自レ是興矣。

(一)閏月十一日、將軍、諸侯を率ゐて入朝し、白金萬兩を獻ず。二十七日、兩公偕に樂を二條城に觀る。(二)振鉾・還城樂・延喜樂・太平樂の諸曲を奏す。天下、大に亂れて、(三)伶官の(四)耗散すること數百年なり。前將軍招撫すること年有り。終に舊職に復す。朝廷の樂是より興る。

(一)うるふづき　(二)皆舞樂の名　(三)舞樂の官人　(四)人數へりたる

先レ是。前將軍參二考貞永建武式目一。與二林信勝等一議。定二新式十三條一。七月。七日。會二諸侯于伏見一。頒レ之曰。文武

是より先、前將軍、貞永・建武の(一)式目を參考し、林信勝等と議して、(二)新式十三條を定む。七月七日、諸侯を伏見に會して、之を頒ちて曰く、文武の道は、修めざる勿れ。(三)佚遊羣飲は、禁ぜざる勿れ。法を犯す者は、舍す勿れ。反を謀り若しくは人を殺す者は、告げざる勿れ。諸國の民は、其所を移す勿れ。私に城郭を築く勿れ。〔(四)異を立て黨を結ぶ者は、告げざる勿れ。〕私に婚姻を結ぶ勿れ。侯

之道。勿レ不レ修。佚遊羣飲。勿レ不レ禁。犯レ法者。勿レ舍。謀レ反若殺レ人者。勿レ不レ告。諸國民勿レ移二其所一。勿三私築二城郭一。勿三私結二婚姻一。侯伯會同。勿二衞從過一レ節。衣服之差。勿レ紊。無二爵位一者。勿レ乘レ輿。諸將士勿レ厭二儉約一。國主任レ人。勿レ不レ擇二其器一。又與二關白藤原昭實等一議。定二朝廷式十七條一。其略

伯の會同は、衞從節に過ぐる勿れ。(五)衣服の差を紊す勿れ。爵位無き者は、輿に乘る勿れ。諸將士は、儉約を厭ふ勿れ。國主の人に任ずるは、其器を擇ばざる勿れと。又關白藤原昭實等と議して、朝廷の式十七條を定む。其略に曰く、天下は宜しく(六)寛平の遺誡に因りて、專ら古道を學びて傍ら和歌を習ふべし。(七)見任の三公は、宜しく諸王の上に班すべし。武家の官位は、宜しく公家の(八)員外に在るべし。廷臣の繼嗣は、宜しく(九)異姓を取るべからず。諸の服章は、宜しく等を踰ゆべからず。才藝(一〇)異等若しくは功勞を累ぬる者は、其超遷(一一)宜しく門地に拘るべからず。諸の僧官は宜しく(一二)濫授すべからず。諸の朝士の關白及び(一三)有司に違ふ者、諸の浮屠の妄に(一四)官達を冀ふ者は、皆宜しく流竄に處すべしと。

(一) 制度の箇條書　(二) 新らしき式目　(三) 怠り遊ぶこと集りて酒を飲むこと　(四) 標註「按城郭下當レ有二立レ異結レ黨者勿レ不レ告一條文字一蓋係二脱落一」　(五) 身分による衣服の差別を亂してはならぬ　(六) 宇多天皇が醍醐天皇に遺されし御誡　(七) 現在　(八) 定員外　(九) 他家　(一〇) なみにはづる　(一一) 官途の昇進家柄に拘はる可らず　(一二) みだりにさづく　(一三) 役人　(一四) 官位の昇進

曰、天子宜下因二直平遺誡一、專學二古道一、而傍習中和歌上。見任三公、宜レ班二諸王上一。武家官位、宜レ在二公家員外一。廷臣繼嗣、不レ宜レ取二異姓一。諸服章、不レ宜レ踰レ等。才藝異等、若累二功勞一者、其超遷不レ宜レ拘二門地一。諸僧官、不レ宜二濫授一。諸朝士違二關白及有司一者、諸浮居妄冀二官達一者、皆宜レ處二流竄一。

是月、封三織田氏于二大和上野諸邑一。本多正信請レ毀二豊臣氏祖廟一。前將軍不二敢私斷一。終與二諸王公一議、請焉。有レ詔、廢二祀典一、任二其頽廢一。十九日、將軍發二伏見一。八月四日、至二江戶一。是日、前將軍發二二條一。二十三日、至二駿府一。

是の月、織田氏を大和・上野の諸邑に封ず。本多正信、豊臣氏の祖廟を毀たんと請ふ。前將軍敢て私斷せず。終に諸王公と議して、請ふ。詔有り。祀典を廢して、其頽廢に任ぜよと。十九日、將軍伏見を發して、八月四日、江戶に至る。是の日、前將軍二條を發して、二十三日、駿府に至る。

㈠ 先祖のたまや　㈡ 自分勝手にきめず　㈢ まつりをやめて　㈣ くずれすたれるまゝにして捨て置け

初少將忠輝受二封信濃一。浸驕縱。嬖二善擊レ鼓者花井某一。遂委二之政事一。

初め少將忠輝封を信濃に受け、浸く驕縱なり。善く鼓を擊つ者花井某を嬖して、遂に之に政事を委す。三將有り。屢〻諫むれども聽かず。乃ち之を駿府に訴ふ。忠輝馳せ至り、三將罪有りと誣ひて、死を賜ふ、越後に徙るに及びて、益〻

有二三將一。驟諫不レ聽。乃訴二之駿府一。忠輝馳至。誣二三將有一レ罪。賜レ死。及レ從二越後一益驕。及二大坂夏役一。行至二森山一。從兵與二將軍牙騎一鬩。殺二三人一。長坂信政之嗣在焉。已而向二大和口一。聽二花井言一。逗撓不レ進。前將軍東歸。過二森山一。驗レ實大怒。遂使三人往誚二其罪一。有二二士一。自誣以解レ之。前將

驕る。大坂夏の役に及びて、行きて森山に至る。從兵將軍の牙騎(二)と鬩ひて、三人を殺す。長坂信政の嗣在り。已にして大和口に向ふ。花井の言を聽き、逗撓(三)して進まず。前將軍、東に歸り、森山を過ぐ。實を驗して大に怒り、遂に人をして往きて其罪を誚めしむ。二士有り。自ら誣ひて以て之を解く。前將軍信ぜず。吏を遣して之を按じ、且つ其逗撓を詰らしむ。花井、咎を山田將監に歸して、之を逐ふ。次年、前將軍、忠輝の母茶阿を召して曰く、少將驍健(四)なり。吾れ其成立(五)を期す。圖らざりき。荒惰(六)乃ち爾り。又擅に長坂血槍の弟を殺す。吾が在時に在りて既(七)に然り。將軍の時は知るべし。吾れ之を絕たざるを得ずと。茶阿懼れ、之を越後に報ず。忠輝懼れて來り謝す。見ゆるを許さず。將軍に遺命(八)して、之を伊勢に放たしむ。後飛驒に遷し、遂に信濃に遷す。卒す。

(一) おごりて我儘なり　(二) 旗本の騎兵　(三) とゞこほりてぐづ〳〵す　(四) 強くたけし　(五) 成人して必ず立派の大將となれると思ひき　(六) なまけおこたる　(七) 一本に如此とあり　(八) 遺言を以て命令して

軍不レ信。遣レ吏按レ之。且詰二其逗撓一。花井歸三咎於二山田將監一。逐レ之。次年。前將軍召二忠輝母茶阿一曰。少將驍健。吾期二其成立一。不レ圖荒怖乃爾。又擅殺二長坂血槍之弟一。在二吾在時一旣然。將軍時可レ知。吾不レ得レ不レ絕レ之。茶阿懼。報二之越後一。忠輝懼來謝。不レ許レ見。遣二命將軍一。放二之伊勢一。後遷二飛驒一。從遷二信濃一卒。

十月。前將軍遊二獵關東一。遂如二江戶一。最上義光先二大坂役一而卒。其子家親嗣。庶兄義成陰應二大坂一。事覺。命二家親一討夷レ之。十二月。前將軍歸二駿府一。途經二伊豆泉頭一。以爲二退老之地一。期以二明年一營焉。是冬。以二天下盡平一。令二五畿七道一毀二諸壘砦一。發二公使一巡二察諸國一。三年一巡。又以二武門服章不一レ備。因二明春正會一改レ之。二年。正月。朔。侯伯將帥。隨二爵位一具二衣冠一。賀二正兩府一。

十月、前將軍、關東に遊獵(一)し、遂に江戶に如く。最上義光、大坂の役に先だちて卒す。其子家親嗣ぐ。庶兄義成、陰かに大坂に應ず。事覺る。家親に命じて討ちて之を夷げしむ。十二月、前將軍駿府に歸る。途に伊豆の泉頭を經て、以て退老(二)の地と爲す。期するに明年を以てして營す。是の冬、天下盡く平ぐを以て、五畿七道に令して、諸壘砦を毀ち、公使を發して、諸國を巡察(三)せしむ。三年に一巡す。又武門の服章(四)備らざるを以て、明春の正會に因りて之を改む。二年正月朔、侯伯將帥、爵位に隨ひて衣冠を具へ、兩府に賀正(五)す。

(一) 獵をして樂み　(二) 隱居所と爲す　(三) 巡りみさせる　(四) 規定の裝束につけるしるし　(五) 新年を賀す

二十一日。前將軍獵于田中。得疾。留四日。乃歸。將軍得報大驚。戒行。二月。朔。至駿府。日夜看護。衣不解帶。諸侯伯相踵來候。前將軍自知不起。卻醫藥不用。三月。天皇使廷臣二人就拜前將軍。爲太政大臣。二十七日。前將軍力疾。衣冠拜命。尋使將軍饗天使。四月。

二十一日、前將軍、田中に獵し、疾を得、留ること四日にして、乃ち歸る。將軍、報を得て大に驚き、行を戒む。二月朔、駿府に至り、日夜、看護す。衣、帶を解かず。諸侯伯相踵ぎて來り候ふ。前將軍自ら起たざるを知り、醫藥を卻けて用ひず。三月、天皇、(一)廷臣二人をして、就きて前將軍を拜して太政大臣と爲さしむ。二十七日、前將軍(二)疾を力め、衣冠して命を拜す。尋ぎて將軍をして天使を饗せしむ。四月、前將軍疾篤し。乃ち婦女を屏きて入侍するを許さず。十四日、諸侯伯を召し、諭して曰く、吾れ老いて病めり。(三)旦夕將に地に入らんとす。吾れ既に天下を平定し、將軍大政を執ること日あり。吾れ復た後事を以て(四)憂と爲さず。然りと雖も、吾れ死して將軍或は政を失はば、則ち侯伯の其器に當る者、宜しく代りて天下の柄を執るべし。(五)天下は一人の天下に非ず。吾れ何ぞ恨みんやと。乃ち遺物を分賜し、罷めて國に就きて後命を俟たしむ。初め諸侯各々度る、(六)不諱の如き有らば、當に(七)拘留累年なるべしと。是に於て、皆意外に出づ。既

前將軍疾篤。乃麾婦女不許入侍。十四日。召諸侯伯。諭曰。吾老病。旦夕將入地。吾既平定天下。將軍執大政有日。吾不復以後事爲憂。雖然。吾死而將軍或失政。則侯伯當其器者。宜代執天下之柄。天下非一人之天下。吾何恨哉。乃分賜遺物。令就國以俟後命。初諸侯各度有如不諱。當拘留累年。於是皆出意外。既而召將軍曰。吾諭諸侯曰。將軍失政。善者取之。汝愼其政治。勿毫有私曲。而天下若有方命者。雖親戚勳舊。宜速加誅伐。將軍歔欷而退。

にして將軍を召して曰く、吾れ諸侯に諭して曰く、將軍政を失はば、善者、之を取れと。汝、其政治を愼みて、毫も私曲有る勿れ。而して天下若し命に方ふ者あらば、親戚勳舊と雖も、宜しく速かに誅伐を加ふべしと。將軍歔欷して(八)退く。

(一)朝廷の臣 (二)病氣をおして (三)今にも死せんとす (四)死後の事 (五)天下は一人の專有す可きものにあらず (六)死去 (七)年を重ねて留め置かるべし (八)すゝりなきして引き下がる

召義直賴宣賴房。誠以善事將軍。召其傅成瀨正成安藤直次中

義直・賴宣・賴房を召して、誠むるに善く將軍に事ふるを以てす。其傅成瀨正成・安藤直次・中山信吉を召して、勗むるに輔導を以てす。十七日、(二)疾革まる。乃ち將軍を顧みて曰く、吾れ將に死なんとす。汝、天下を何と謂ふと。將軍答へて

山信吉。勗以二輔導一。十七日。疾革。乃願二將軍一曰。吾將レ死。汝謂二天下何一。將軍答曰。將二大亂一矣。前將軍曰。善。吾可二以死一也。召二嫡孫家光一曰。汝他日治二天下一者也。治二天下一之道在レ於レ慈。乃薨。壽七十有五。葬レ于二久能山一。天皇賜二䘏典一甚厚。賴宣就建レ廟焉。

曰く、將に大に亂れんとすと。前將軍曰く、善し。吾れ以て死す可きなりと。嫡孫家光を召して曰く、汝は(三)他日、天下を治むる者なり。天下を治むるの道は慈に在りと。乃ち薨ず。壽七十有五なり。久能山に葬る。天皇、(四)䘏典を賜ふこと甚だ厚し。賴宣、就きて廟を建つ。

(一)しつかり將軍をたすけ導けと勵まし勉む　(二)病氣危篤におちいる　(三)後日　(四)死者をいたみあはれむ下賜物

初榊原康政兄清政。輔二故世子信康一。及二世子敗一。棄レ官出亡。晚依二康政一。前將軍召

初め榊原康政の兄、清政故の世子信康を輔く。世子敗るゝに及びて、官を棄てて出亡す。晚に康政に依る。前將軍召して祿を賜ふ。久能を守らしむ。尋ぎて卒す。長子清定留りて宗家に仕ふ。乃ち少子照久をして父の職祿を襲がしめて、之を親近す。(一)終に臨み、其膝に枕して以て絕ゆ。將軍因りて照久をして(二)祀事を掌

賜レ誅。守二久能一。尋卒。長子清定留仕二宗家一。乃令三少子照久襲二父職祿一。親二近之一。臨レ終。枕二其膝一以絕。將軍因使三照久掌二祀事一。僧天海請號二廟大權現一。三年。將軍以二遺命一改葬レ于二下野日光山一。就建二新廟一。四月。八日。舉レ事。既望。移二主正殿一。天皇遣二廷臣三輩一宣レ命。贈二正一位一。賜レ號曰二東照一。是日。將軍自二江戶一來。次日。祀焉。梶井親王尊純掌レ禮。後三世益修二祠字一。天下侯伯至二諸外夷一。皆獻二器材一。而親王更來護レ廟。以爲レ常。後三十年。詔。改二大權現一曰レ宮。

らしむ。僧天海請ひて廟を大權現と號す。三年、將軍遺命を以て改めて下野の日光山に葬る。就きて新廟を建つ。四月八日、事を舉ふ。(三)既望、(四)主を正殿に移す。天皇、廷臣三輩を遣して命を宣し、正一位を贈り、號を賜ひて、東照と曰ふ。是の日、將軍、江戶より來り、次日祀る。梶井親王尊純禮を掌る。後三世、益〻祠宇を修む。天下の侯伯諸外夷に至るまで、皆器材を獻ず。而して親王更〻來りて廟を護り、以て常と爲す。後三十年 詔して、大權現を改めて宮と曰ふ。

(一) 死ぬる時　(二) まつりの事　(三) 十六日　(四) 神靈　(五) 東照大權現を東照宮と改む

東照公爲レ人沈毅。有二大略一。用レ兵如レ神。而

東照公、人と爲り沈毅(一)にして、大略(二)有り。兵を用ふると神の如し。而して學を好み治を求め、人を愛して善く容れ(三)、事を處するに必ず百世の後を規る。其の

好レ學求レ治。愛レ人善容。處レ事必規二百世之後一。其事二朝廷一。恭順殊至。以三鎭二護王國一爲二己任一。自執二儉約一。不二敢驕侈一。最重二稼穡之事一。雖二至微細一。無レ不二諳知一。屢託二遊畋一。以訪二疾苦一。其爲レ政。務養二士氣一。開二言路一。防二巧佞浮華之習一。公幼質レ於二尾張一。有下獻二百舌一者上。卻不レ受。左右問レ故。公曰。吾聞。主將不レ取二小慧者一。其在二岡崎一。有二犯レ禁者二人一。其一弋レ于囿。其一網レ于濠。皆

朝廷に事ふるに、恭順殊に至る。王國を鎭護するを以て己の任(四)と爲し、自ら儉約を執りて、敢て驕侈ならず。最も稼穡(五)の事を重んず。至りて微細と雖も、諳知せざるは無し。屢〻遊畋(六)に託して、以て疾苦を訪ふ。其の政を爲すに、務めて士氣を養ひ、言路(七)を開き、巧佞浮華の習を防ぐ。公、幼にして尾張に質たり。百舌を獻ずる者有り。卻けて受けず。左右故を問ふ。公曰く、吾れ聞く、主將は小慧(八)の者を取らずと。其の岡崎に在るとき、禁を犯す者二人有り。其一は囿に弋し(九)、其一は濠に網す(一〇)。皆拘繫(一一)せらる。牙兵(一二)鈴木某、之を諫めんと欲すれども、未だ路有らず(一三)。乃ち故に自ら令を矯め、池籞(一四)の鯉を取りて、煮て之を食ふ。

(一) 落附きて心强し　(二) 兵をつかひことをなすことは神のごとし　(三) 事を處置するには必ず百世の永き後までを考へてなす　(四) 己れの任務となし　(五) 農事を大切にす　(六) 山野の游獵にかこつけて人民の困みをたづぬ　(七) 諫言することの出來る樣にし　(八) 小利口の者　(九) 禁苑に鳥網を張りて鳥を捕り　(一〇) 殺生禁断のほりに一魚を捕る　(一一) 捕へられて獄につながる　(一二) 旗本の士　(一三) 未だ其の手立なし　(一四) いけすの鯉を捕りて

被二拘繋一。牙兵鈴木某欲レ諫レ之。未レ有レ路。乃故自矯レ令。取二池豢之鯉一。煮而食レ之。

他日。公觀レ於レ池。問二守者一。守者告レ故。公大怒。欲三手斬二鈴木一。鈴木入。張レ目罵曰。噫。暗主以二禽魚一易レ人。惡乎得レ爲二天下一。公大悟。抛レ刀而入。遂釋二前二人一。召二鈴木一褒レ之。後語レ人曰。直言之功。愈二一番槍一。犯レ敵者。賞可レ倖。犯レ君者。罰不レ可レ測也。公在二濱松一。召二

他日、公、池を觀て、守者(一)に問ふ。守者故を告ぐ。公大に怒り、手づから鈴木を斬らんと欲す。鈴木入りて、目を張りて罵りて曰く、噫暗主(二)禽魚を以て人に易ふ。惡んぞ天下を爲むるを得んと。公大に悟り、刀を抛ちて入る。遂に前の二人を釋し、鈴木を召して之を褒む。後に人に語りて曰く、(三)直言の功は、一番槍に愈る。敵を犯す者は、賞、倖すべし。(四)君を犯す者は、罰測るべからざるなりと。公の濱松に在るとき、三士人を召して事を命ず。其一人留り請ひて曰く、臣、間を承けて敢て白すこと有りと。(五)一疏を懷より出して、獻ず。公其をして讀ましめて、之を聽く。毎條輒ち善しと稱す。讀み畢りて、之に謂ひて曰く、爾後見る所有らば、言ふに憚る勿れと。其人、頓首して出づ。本多正信、侍坐す。啓して曰く、彼れ何ぞ(六)輕卒なるや。且つ其の言ふ所、一も取るべきもの無し。君、何ぞ之を褒むると。公曰く、否。吾れ其志を褒むるなり。且つ取るべき無き者を

三士人㆒命㆑事。其一人留請曰。臣承㆑問。敢有㆑白。出㆓一疏于㆑懐。獻焉。公使㆓其讀㆒。而聽㆑之。毎條輒稱㆑善。讀畢。謂㆑之曰。爾後有㆑所㆑見。勿㆑憚㆑於㆑言。其人頓首出。本多正信侍坐。啓曰。彼何輕卒也。且其所㆑言。無㆓一可㆒㆑取。君何褒㆑之。公曰。否。吾褒㆓其志㆒也。且褒㆑無㆑可㆑取者㆒。則可㆑取者至矣。

褒めば、則ち取るべき者至らんと。

(一)番人　(二)暗愚の主人鳥魚を捕へたるを以て貴き人命をそこなふ何ぞ天下を治むることを得ん　(三)直諫する功は戰爭の際の一番槍以上なり　(四)主君の面前に直諫する者は胸の程はかり知れず　(五)一通の書面　(六)何といふかるはづみなるぞ

公嘗欲㆑官㆓一士㆒。問㆓之於土井利勝㆒。利勝曰。彼不㆔常來㆓臣家㆒。臣未㆑知㆓其如何㆒。公弗㆑懌曰。汝宰㆓我家㆒。務在㆑訪㆓人材㆒。材者豈敢附㆓權勢㆒哉。如㆓

公嘗て一士を官(一)せんと欲す。之を土井利勝に問ふ。利勝曰く、彼れ常には臣が家に來らず。臣未だ其如何を知らずと。公懌ばずして曰く、汝は我が家に宰(二)たり。務は人材を訪ふに在り。材者(三)豈に敢て權勢に附かんや。汝が言ふ所の如くんば、則ち恥を知り、義を好む者將に日に柔媚に趨らんとす。恥を知り義を好むは、國家の元氣なり。元氣消亡すれば、國家衰老す。其れ能(四)く久しからんや。昔、酒井正親、神谷某の己に禮せざるを以て、我に謂ひて曰く、彼は眞(五)に用ふべき者なり

汝所レ言。則知レ耻好レ義者。將ニ日趨ニ柔媚一。知レ耻好レ義。國家之元氣也。元氣消亡。國家衰老。其能久乎。昔酒井正親以ニ神谷某不一レ禮レ己也。謂レ我曰。彼武可レ用者。因請レ倍ニ其俸一。正親爲レ公忘レ私。奬ニ厲士風一。汝獨何不レ類焉。

と。因りて請ひて其俸を倍にす。正親は公の爲に私を忘れ、士氣を奬厲す。汝が獨、何ぞ類せざると。(六)

(一)官に任用せんとす　(二)執政の人　(三)器量ある者は心を曲げて權勢あるものにおもねりつかんや　(四)よく國家長久ならず　(五)まことに役に立つ者なり　(六)似ざる

又嘗諭ニ將軍近臣一。大意謂。天下安危。在ニ將軍之心一。宜レ留レ思焉。奬ニ節義一。擯ニ輕薄一。愛ニ士民一。信ニ賞罰一。賜賚勿レ濫。濫則士怠。用レ人勿レ偏。偏則國

又嘗て將軍の近臣を諭す。(一)大意に謂ふ。天下の安危は、將軍の心に在り。宜しく思を留むべし。節義を奬め、輕薄を擯け、士民を愛し、賞罰を信にし、(二)賜賚は濫にする勿れ。濫にすれば則ち士怠る。人を用ふるは偏る勿れ。偏れば則ち國危し。國の臣有るは、猶ほ木の枝有るがごときなり。(三)枝、偏大なれば則ち其根を蹷す。猶ほ鷙鳥の爪翼有るがごときなり。(四)其爪翼を愛するは、搏撃を期する所以なり。(五)臣の用舍重んぜざるべけんや。

危。國之有レ臣。猶ニ木之有一レ枝也。枝偏大則斃ニ其根一。猶三鷙鳥之有ニ爪翼一也。愛ニ其爪翼一。所三以期ニ搏撃一。臣之用舍。可レ不レ重哉。

(一)大體の主意　(二)考へなしに物を與ふ可からず　(三)末大なれば根本を害ふ　(四)鷙鳥の爪や牙を大切にするはやがて他の鳥を撃殺さんとする下心あればなり　(五)臣下を用ふると否とは大事を取る可きものなり

足利尊氏之任ニ高師直一。豊臣秀吉之用ニ石田三成一。皆以取ニ人怨一矣。我亦誤用ニ大賀一。殆陷ニ危禍一。可レ不ニ懲一乎。凡天下之亂。起レ於ニ主將縦一レ欲。而宰臣專一レ權也。浚ニ民膏血一。盈ニ之府庫一。目曰ニ能臣一。是爲レ君蓄レ怨耳。且恃ニ才能一者。必以ニ舊法一爲ニ迂拙一。動欲ニ更改一之。武田上杉今川大内氏所ニ以衰

足利尊氏の高師直に任じ、豊臣秀吉の石田三成を用ふる、皆以て人の怨を取れり。我も亦誤りて大賀を用ひて、殆ど危禍に陷れり。懲せざるべけんや。凡そ天下の亂は、主將の欲を縦にして、宰臣の權を專にするに起る。民の膏血を浚へて、之を府庫に盈つるを、目して能臣と曰ふ。是れ君の爲に怨を蓄ふるのみ。且つ才能を恃む者は、必ず舊法を以て迂拙と爲し、動もすれば之を更改せんと欲す。武田・上杉・今川・大内氏の衰亡せし所以は、皆此に由るなり。凡そ政は其舊に因るに在り。

(一)懲りて戒む　(二)人民の骨折りて得た財物を取りさらつて官の庫にかみたる者　(三)はたらきある臣　(四)舊き規則を以てまはり遠きものとし、ともすれば改正せんと欲す

亡。皆由ㇾ於ㇾ此也。凡政在ㇾ因ニ其舊一。

我嘗赴ニ陸奥一。見ニ源頼朝榜牌一。其辭曰。國事皆因ニ泰衡之舊一。吾信ニ頼朝之能定ニ東陲一也。夫介冑之習如ㇾ鐵。衣纓之習如ㇾ金。金可ニ以爲ニ虛飾一。鐵可ニ以爲ニ實用一。國家將ㇾ衰。必有下喜ニ衣纓之習一者上。建ニ立新法一。務ニ其華飾一。是大蠹也。我家法度。皆與ニ祖考耆

我れ嘗て陸奥に赴き、源頼朝の榜牌(一)を見る。其辭に曰く、國事は皆泰衡の舊に因ると。吾れ頼朝の能く東陲を定めしを信ずるなり。夫れ介冑(二)の習は鐵の如く、衣纓(三)の習は金の如し。金は以て虛飾を爲すべく、鐵は以て實用を爲す可し。國家將に衰へんとすれば、必ず衣纓の習を喜ぶ者有り。新法を建立し、其華飾を務む。是れ大蠹(四)なり。我が家の法度は、皆祖考耆舊(五)と議して、深く謀り、遠く慮りて、其の弊無きを期せり。變更する所有る勿れ。之を刀に譬ふるに、鍛鍊一たび成りて、之を子孫に傳ふ。子孫各〻好尚(六)を異にし、數〻冶工に附せば、則ち刀は終に用ふべからず。凡そ故家に貴ぶ所は、其の舊製を存し、舊臣を養ふを以てのみ。侯伯將士は皆我と苦勞を同じくする者なり。子孫も亦宜しく與に富貴を同じくすべし。故なくして之を滅絶せしむる勿れ。其祖先の忠に酬ゆる所以なり。

(一) 高札　(二) よろひかぶと　(三) 衣冠束帯　(四) 大害　(五) 年老いたる人　(六) すきこのみ

蓄議。深謀遠慮。期其無弊。勿有所變更。譬之刀。鍛鍊一成。傳之子孫。子孫各異好尚。數附冶工。則刀終不可用矣。凡所貴於故家者。以其存當製養舊臣焉爾。侯伯將士。皆與我同苦勞者。子孫亦宜與同富貴。勿無故滅絕之。所以酬其祖先之忠也。

凡所謂忠者。豈獨忠於德川氏哉。乃忠於天也。我亦忠於天者。故天授之以大柄。然自有其柄。驕奢怠惰。以虐生民。則天將奪之矣。故吾主岡崎。慮隣國攻守。主關東。慮三道治亂。定天下。慮四境安危。未嘗一日懈怠。夫折衝

凡そ所謂忠とは、豈に獨り德川氏に忠なるのみならんや。乃ち天に忠なるなり。我も亦天に忠なる者なり。故に天之に授くるに大柄(二)を以てす。然れども自ら其柄を有し、驕奢怠惰、以て生民を虐せば、則ち天將に之を奪はんとす。故に吾れ岡崎に主たるや、隣國の攻守(一)を慮り、關東に主たるや、三道の治亂を慮り、天下を定むるや、四境の安危を慮り、未だ嘗て一日も懈怠せず。夫れ折衝(三)禦侮して以て王國を守るは、武臣の職然りと爲す。武臣にして武を遺るゝは、是れ其職を竊むなり。懼れざる可けんやと。公少きとき、武田氏と兵を連ぬ。後に武備を講ずるに、多く其法を取る。或ひと說きて曰く、武田の箭は、必ず其鋌(四)を甘くす。人に中りて拔け難からしむるなり。請ふ之に傚へと。公顰顣(五)して曰く、忍びんや。孰か天下の民に非ざらんと。因りて令して曰く、德川の箭は、必ず其鋌を固く

禦侮。以守ニ王國一。武臣之職爲レ然。武臣而遺レ武。是竊ニ其職一也。可レ不レ懼乎。公少與ニ武田氏一連レ兵。後講ニ武備一。多取ニ其法一。或說曰。武田之箭。必甘ニ其鋌一。使ニ中レ人而難一レ拔也。請效レ之。公顰蹙曰。忍哉。孰非ニ天下之民一。因令曰。德川之箭。必固ニ其鋌一。使ニ中レ人而易レ拔也。公幼爲ニ今川氏所一レ育。今川義元之墓。在ニ于桶峽一。公每レ過必下拜。其仁且義。蓋天性也。

せよ。人に中りて拔け易からしむるなりと。公、幼にして今川氏の育する所と爲る。今川義元の墓、桶峽に在り。公過ぐる每に必ず下拜す。其仁且つ義は、蓋し天性なり。

(一) 天下を治むる權 (二) 一本に士氏とあり (三) 敵のつきくるはとさきに當りて之を拂き侮を防ぐ (四) やじりをゆるくつける (五) 顏をしかめて

將軍襲レ職。一奉ニ其訓誡一。以綏ニ撫天下一。五年。夏。將軍入朝。收ニ福島正則封一。正則。關

將軍、職を襲ぎ、一に其訓誡を奉じて、以て天下を綏撫す。五年夏、將軍入朝す。福島正則の封を收む。正則、關原の役に功を負みて驕橫(一)なり。嘗て公人伊奈今成を殺す。大阪の役に、陰かに謀を城中に通ず。又擅(二)に城郭を增築し、酷だ殺戮を嗜む。國民、生を聊(三)んぜず。是に於て、將軍、井伊直孝と策を決して、

原之役。負レ功驕橫。嘗殺二公人伊奈今成一。大坂之役。陰通二謀城中一。又擅增二築城郭一。酷嗜二殺戮一。國民不レ聊レ生。於レ是將軍與二井伊直孝一決レ策。使下鳥居忠政就三正則于二江戶第一傳レ命。放中之津輕上以二其太僻一。改放二信濃一。給二七萬石邑一。擧二其舊封一。賜レ於二淺野氏一。徙封三參議賴宣于二紀伊一。所レ食如レ故。自レ是尾張紀伊水戶。稱爲二三家一。諸侯無二敢抗禮一。義直慈仁。賴宣雄豪。賴房謙遜。賴房特不レ之レ國。冠二譜第將帥一。以護二幕府一。

鳥居忠政をして、正則に江戶の第に就きて命を傳へ、之を津輕に放たしむ。其太(四)僻なるを以て、改めて信濃に放ち、七萬石の邑を給し、其舊封を擧げて、淺野氏に賜ひ、徙して參議賴宣を紀伊に封ず。食む所は故の如し。是より尾張・紀伊・水戶稱して三家と爲す。諸侯敢て抗禮(五)するなし。義直は慈仁、賴宣は雄豪、賴房は謙遜なり。賴房は特に國に之かず、譜第(六)の將帥に冠として以て幕府を護す。

(一)治め安んず　(二)心おごりはしいまゝなり　(三)安心してくらすことが出來ぬ　(四)あまり邊陬　(五)對等の禮　(六)譜第大名の頭

是歲。復二立花宗茂舊封一。徙三松平忠明于二

是の歲、立花宗茂の舊封を復し、松平忠明を郡山に徙す。大坂を以て鎭府と爲し、勳舊の一將を遣して之を守らしむ。稱して城代と爲す。六年、京橋・王

郡山。以大坂為鎮府。遣勤番一將守之。稱為城代。六年。置京橋玉造兩戍。遣大番頭。率部衆更戍。與二條城同。於是毀伏見城。獨置奉行。比於界浦奈良長崎佐渡。

造の兩戍を置き、大番頭を遣し、部衆を率ゐて更戍せしむ。二條城と同じ。是に於て伏見城を毀ち、獨り奉行を置き、界浦・奈良・長崎・佐渡に比す。

㈠ 大和の國に在り　㈡ 勤勞ある舊臣　㈢ 更代に守備せしむ

七年。將軍納女禁內。備女御。後進中宮。稱東福門院。是歲。田中氏無嗣。國除。

七年、將軍、女を禁內に納れて、女御に備ふ。後に中宮に進み、東福門院と稱す。是の歲、田中氏に嗣無く、國除かる。

㈠ 宮中　㈡ 三公の女の入內して未だ皇后の宣下なきもの　㈢ 皇后

八年。秋。最上家親後嗣義俊。以不能統族屬。國除。冬。本多正純有

八年秋、最上家親の後嗣義俊、族屬を統ぶる能はざるを以て、國除かる。冬、本多正純罪有りて、出羽に放たる。初め正純の父正信老中たり。東照公嘗て其封を增さんと欲す。辭して曰く、臣、恩眷を叨にして、矢石の勞無し。之に封土

罪。放レ于二出羽一。初正純父正信爲二老中一。東照公嘗欲レ增二其封一。辭曰。臣叨二恩眷一。而無二矢石之勞一。加二之封土一。誠不二自安一。願以二其賜レ臣者一。益養二材武一。以鎭二平天下一。而臣得レ送三老於二其間一。何貺若レ之。遂以二二萬石一終。後二東照公一者五旬而沒。正純嘗於二關原之役一。請三斬レ父以解二將軍之

を加へらるゝは、誠に自ら安んぜず。願はくは其の臣に賜ふ者を以て、益〻材武を養ひて、以て天下を鎭平し、臣、老を其間に送るを得ば、何の貺か之を若かんと。遂に二萬石を以て終る。東照公に後るゝこと五旬にして沒す。正純嘗て關原の役に於て、父を斬りて以て將軍の過を解かんと請ひ、頗る得色(三)有り。安藤直次、人に語りて曰く、(四)倫を傷けて以て名を要む。必ず終を令くせざらんと。駿府の執事と爲るに及びて、興國寺城の工卒、誤りて公邑の民を殺す。(五)邑宰償を城主天野康景に求む。康景肯ぜず。乃ち正純に因りて之を訴ふ。東照公素より康景の忠良なるを知る。輒く決せず。正純、康景を誣ひて、之をして卒を斬りて之を償はしむ。康景(六)不辜を殺すに忍びず。乃ち封を棄てて出亡す。東照公之を復せんと欲す。其の病みて卒するに會ひて止む。世之を寃とす。

(一) 一族及び臣下　(二) 戰功なし　(三) 得意らしき顏色　(四) 人の道を破りて名譽を願ふ必ず善き生涯を終ふる能はざらん　(五) 公邑の長　(六) 罪なき者

過。頗有得色。安藤直次語人曰。傷倫以要名。必不令終也。及為駿府執事。興國城工卒城誤殺公邑民。邑宰求償於城主天野康景。康景不肯。乃因正純訴之。東照公素知康景忠良。不輒決。正純誣康景。令之斬卒償之。康景不忍殺不辜。乃棄封出亡。東照公欲復之。會其病卒而止。世冤之。

有馬晴信之誅阿媽港人。正純僚吏岡本大八。揣晴信之希賞也。誆取其貨。事覺抵罪。在獄中。告晴信陰事。喉信以故敗。大久保忠隣之冤。世亦以為正純父子所為也。正純時食小山三萬石。及將軍時。食宇津

有馬晴信の阿媽港人を誅せしとき、正純の僚吏岡本大八、晴信の賞を希ふを揣るや、誆きて其貨を取る。事覺れて罪に抵る。獄中に在りて、晴信の陰事(一)を告ぐ。晴信故を以て敗る。大久保忠隣の冤、世のひと亦以て正純父子の為す所と為す。正純時に小山の三萬石を食む。將軍の時に及びて、宇津宮の十五萬石を食む。安藤直次曰く、正純將に禍(二)に及ばんとすと。是の歳、使を奉じて山形に赴く。其の壘を増し擅に部屬を殺すを以て、封を收めて放たる。其子弟前後(三)して皆死す。獨り叔父正重の後(四)は存す。九年七月、世子家光京師に覲す。將軍因りて上書して事を致す。世子時に正三位大納言たり。八月入朝して、正二位に進み、内大臣に遷り、征夷大將軍に任ぜらる。

(一) 内證事　(二) 災難にかゝらんとす　(三) 殆んど同時　(四) 子孫は殘る

宮十五萬石一。安藤直次曰。正純將レ及レ於レ禍。是歲。奉レ使赴二山形一。以三其增レ壘擅殺二部屬一。收レ封被レ放。其子弟前後皆死。獨叔父正重之後存焉。九年。七月。世子家光覲二京師一。將軍因上書致レ事。世子時爲二正三位大納言一。八月。入朝。進二正二位一。遷二內大臣一。任二征夷大將軍一。

先レ是。參議忠直負レ功觖望。數不レ奉レ法。又縱二酒色一。殺二不辜一。幕府數以二密旨一勗レ之。不レ悛。是歲。放二之豐後荻原一。剃髮號二一伯一。寬永元年。徙封三其子光長于二越後一。後三世。以レ不レ能レ馭二其下一。徙二之美作一。食二五萬石一。其弟忠昌直政。皆有レ功於二大

是より先、參議忠直功を負みて觖望し（一）、數々法を奉ぜず。又酒色を縱にし、不辜を殺す。幕府數々密旨（二）（三）を以て之を勗む。悛めず。是の歲之を豐後の荻原に放つ。剃髮して一伯と號す。寬永元年、徙して其子光長を越後に封ず。後三世其下を馭（四）する能はざるを以て、之を美作に徙して、五萬石を食ましむ。其弟忠昌・直政皆大坂の役に功有り。忠昌は河中に封ぜられ、尋ぎて高田に徙る。是に於て、之を越前に封ず。三十萬石を食ましむ。直政は初め大野に支封（五）せられ、後に出雲の十八萬石に封ぜらる。一伯の敗に、本多成重、復た幕府に歸り、列して諸侯と爲る。

（一）不平を懷く　（二）命令に從はず　（三）內々の思召を以て忠直の改心をうながす　（四）治むる　（五）分家して封ぜらる

坂之役。忠昌封ㇾ予二河中一。尋徙二高田一。於ㇾ是封二之越前一。食二三十萬石一。直政初支三封乎二大野一。後封二出雲十八萬石一。一伯之敗。本多成重復歸二幕府一。列爲二諸侯一。

三年。八月。前將軍將軍共入覲。九月。六日。天皇幸ㇾ予二二條城一。兩將軍率二諸侯伯一饗ㇾ之。前將軍遷二太政大臣一。將軍遷二右大臣一。於ㇾ是義直頼宣忠長。並累二遷大納言一。頼房。及前田利光伊達政宗島津家久。並累二遷權中納言一。忠長。將軍弟也。是歳。前將軍夫人從二位淺井氏薨。四年。蒲生忠郷卒。無ㇾ嗣。國除。後數歳。弟忠知卒。亦無ㇾ嗣。國除。以二白川十萬石一。封二丹羽長重一。

三年八月、前將軍・將軍共に入覲す。(一)九月六日、天皇、二條城に幸す。兩將軍諸侯伯を率ゐて之を饗す。前將軍は太政大臣に遷り、將軍は右大臣に遷る。是に於て義直・頼宣・忠長は、並に大納言に累遷(二)し、頼房及び前田利光・伊達政宗・島津家久は、並に權中納言に累遷す。忠長は、將軍の弟なり。是の歳、前將軍の夫人從二位淺井氏薨ず。四年、蒲生忠郷卒す。嗣なし。國除かる。後數歳にして、弟忠知卒す。亦嗣なし。國除かる。白川の十萬石を以て、丹羽長重を封ず。

(一) 朝廷に參内す　(二) 引續きて進み

七年。九月。天

七年九月、天皇位を皇女に讓る。諱は興子といひ、徳川氏の出なり。是を明正

皇讓三位於二皇女一。諱興子。德川氏出也。是爲二明正天皇一。將軍遣二酒井忠勝松平信綱一賀レ之。詔以二忠勝一爲二少將一。信綱爲二侍從一。皆不二敢拜一。告二幕府一而後受。八年。始置二少老職一。副二老中一。掌二諸雜事一。九年。正月。二十四日。前將軍薨。壽五十四。葬二于增上寺一。前將軍位至二從一位一。官至二

天皇と爲す。將軍、酒井忠勝・松平信綱を遣して之を賀せしむ。詔して忠勝を以て少將と爲し信綱を侍從と爲す。皆敢て拜せず。幕府に告げて後に受く(一)。八年始めて少老職(二)を置き、老中を副けて、諸雜事を掌らしむ。九年正月二十四日、前將軍薨ず。壽五十四なり。增上寺に葬る。前將軍、位は從一位に至り、官は太政大臣に至る。正一位大相國を贈り、台德と諡す。台德公は人と爲り、勤(三)謹和厚なり。朝廷外舅の故を以て、禮秩(四)等を異にす。而して公は益々小心なり。嘗て禁內に在りて、獨り便室(五)に休す。或ひと之を闚ふに、公、衣冠肅然とし(六)て、(七)惰容ある莫し。其の東照公に事ふるに心を盡して、懽を承く。微細の事に至るまで、咨稟(八)せざるはなし。關原の役に、公、事に及ばず(九)。而して兄秀康、弟忠吉皆功あり。

(一) 幕府に相談して　(二) 若年寄　(三) よくつとめつゝしみ深くおだやかにして人情あつし　(四) 禮遇秩祿等特別にす　(五) くつろいで休息する部屋　(六) うや〳〵し　(七) なまけるやうす　(八) 申上げて相談せざるはなし　(九) 戰爭に間に合はず

太政大臣。贈二正一位大相國一。諡二台德一。台德公爲レ人。勤謹和厚。朝廷以二外舅故一。禮秩異レ等。而公益小心。嘗在二禁內一。獨休二于便室一。或閲レ之。公衣冠肅然。莫レ有二惰容一。其事二東照公一。盡レ心承レ懽。至二微細事一。無レ不二稟。關原之役公不レ及レ事。而兄秀康弟忠吉皆有レ功。

其歲。東照公召二諸大臣一。問曰。吾欲レ定二繼嗣一。誰可者。井伊直政右二忠吉一。本多正信右二秀康一。大久保忠隣曰。家子資望已定。不レ宜二動搖一。且自レ今以往。撥亂之才。不レ若二守成之器一也。東照公頷レ之。公聞レ之不レ啣二

其歲、東照公、諸大臣を召し、問ひて曰く、吾れ繼嗣(一)を定めんと欲す。誰か可なる者ぞと。井伊直政は忠吉を右け、本多正信は秀康を右く。大久保忠隣曰く、家子(二)資望已に定る。宜しく動搖すべからず。且つ今より以往、撥亂(三)の才は、守成の器に若かざるなりと。東照公、之を頷く。公、之を聞けども、直政・正信に啣(四)まず。而して忠吉も亦忠隣を德とし、益〻之と厚し。江戸に來る每に、輒ち其第に館す。公、同母の故を以て、最も忠吉を愛す。忠吉、疾病なり。公親ら其館に往きて候ひ視る。使者、旦夕に往來し、寢食は報(五)に隨ひて加損す。

(一) 世嗣　(二) 相續人　(三) 亂を治め鎭むる才ある者は成功を守る器量あるものには及ばず　(四) 遺恨を殘さず　(五) 使者の病狀報知によりて輕快なりといへば增し重しといへば減る

直政正信。而忠吉亦躡二忠隣一。益與レ之厚。每レ來二江戸一。輒館二其第一。公以二同母故一。最愛二忠吉一。忠吉疾病。公親往二其館一候視。使者旦夕往來。寢食隨レ報加損。

又以二庶兄故一。最重二秀康一。凡西諸侯會同者。不レ得レ齎二火器一。秀康嘗赴二江戸一。具二銃隊一。入二碓氷關一。關吏呵禁。秀康曰。汝不レ知二越前宰相一乎。公聞而驚。命レ吏勿レ問。自迎二謝之一。及二其卒一。悼惜殊至。東照公嘗以二義直賴宣賴房一屬レ於公一曰。我百歲後。善視レ之。公常念二其言一。故特愛二重三家一。

又庶兄の故を以て、最も秀康を重んず。凡そ西諸侯の會同する者、(一)火器を齎すを得ず。秀康嘗て江戸に赴くに、銃隊を具へて、碓氷關に入る。(二)關吏呵禁す。秀康曰く、汝、越前宰相を知らざるかと。公聞きて驚き、吏に命じて問ふ勿らしめ、自ら之を迎へ謝す。其卒するに及びて、(三)悼惜殊に至る。東照公嘗て義直・賴宣・賴房を以て公に(四)屬して曰く、我れ百歲の後、善く之を視よと。公常に其言を念ふ。故に特に三家を愛重す。

(一)鐵砲　(二)關守　(三)いたみをしむこと甚だし　(四)たのむ

凡公每レ聞二宗

凡そ公、宗族、功臣の喪を聞く毎に、(一)燕樂の時と雖も、必ず容を變じて涕を

族功臣之喪。雖燕樂之時。必變容隕涕。其出行。既戒駕而止。則親面徒御。罷之。嘗戒行。漏刻報期。公方食。舍箸而出曰。信不可失也。居常無所耽嗜。特崇儒術。好書及歌。諸武技皆究其精。而不以傲臣下。以故諸宿將豪傑皆馴服焉。嘗謂其下曰。織田豐臣二子。喜爲人所使事。家君則喜使人矣。所以異也。以故諸政治皆效東照公。而最愼於選人。

隕す。其出行に、既に駕を戒めて止むれば、則ち親ら徒御(二)に面して之を罷めしむ。嘗て行を戒む。漏刻(三)期を報ず。公、方に食す。箸を舍てて出でて曰く、信失ふべ(四)からざるなりと。居常(五)、耽嗜する所なし。特に儒術を崇び、書及び歌を好む。諸々の武技、皆其精を究む。而して以て臣下に傲らず。故を以て、諸の宿豪傑傑皆馴服す。嘗て其下に謂ひて曰く、織田・豐臣の二子は、喜びて人の事ふる所と爲れり。家君は則ち喜びて人を使へり。異なる所以なりと。故を以て、諸の政治は皆東照公(六)に效ふ。而して最も人を選む(七)に愼む。

(一) 宴を張りて樂む　(二) 一本に徒御とあり供廻の者　(三) 時計が約束の時間を報ず　(四) 約束を違へてはならぬ　(五) 平生ふけりたのしむものはなし　(六) 德川家康　(七) 人選に大事を取る

將軍之幼。以

將軍の幼きとき、雅樂頭酒井忠世・大炊頭土井利勝・伯耆守青山忠俊を以て傅と(一)

雅樂頭酒井忠世。大炊頭土井利勝。伯耆守青山忠俊一爲レ傅。忠世以レ嚴。利勝以レ和。忠俊以レ直。共盡レ心輔導焉。利勝常侍二燕樂一。乘レ閒說曰。願聽二伯耆言一。不則雅樂謂二之何一。將軍輒悟。酒井忠利子忠勝。自二扈從一爲二側用人一。公又以爲レ傅。亦大稱レ職焉。

爲す。忠世は嚴を以てし、利勝は和を以てし、忠俊は直を以てして、共に心を盡して(二)輔導す。利勝常に燕樂に侍し、(三)閒に乘じて說きて曰く、願はくは伯耆の言を聽け。不らずんば則ち雅樂之を何とか謂はんと。將軍輒ち悟る。酒井忠利の子忠勝、(四)扈從より側用人と爲る。公又以て傅と爲す。(五)亦大に職に稱ふ。

(一) もりやく　(二) 輔け導く　(三) 能き折を見　(四) 小姓　(五) 大に人物が其職に適應す

公既薨。諸臣欲レ祕レ之。忠勝以爲二不可一。卽夜。發レ喪。於レ是將軍下レ敎。盡召二諸侯伯一。親出面レ之。曰前將軍薨矣。諸

公、既に薨ず。諸臣之を祕せんと欲す。忠勝以て不可と爲し、卽夜喪を發す。是に於て、將軍(一)敎を下して、盡く諸侯伯を召し、親ら出でて之に面して曰く、前將軍薨ぜり。諸君或は(二)天下を冀望せば、則ち唯其欲する所のまゝなり。然れども家光既に(三)軍職に係る。當に弓箭を以て之を授受すべしと。諸侯、(四)瞿然として未だ答へず。伊達政宗進みて言ひて曰く、孰か德川氏の恩澤を被らざらん。今日

君或冀二望天下一。則唯其所レ欲。然家光既係二軍職一。當下以二弓箭一授中受之上。諸侯愕然未レ答。伊達政宗進而言曰。孰不レ被二德川氏恩澤一。今日。有下敢挾二異心一者上。政宗請先往蹂二躪之一。衆同聲答曰。誠如二中納言所一レ陳。乃退。是歲。始置二大目附一。專掌二監察一。

敢て異心を挾む者あらば、政宗請ふ、先づ往きて之を蹂躙(五)せんと。衆、同聲にて答へて曰く、誠に中納言の陳ずる所の如しと。乃ち退く。是の歲、始めて大目附を置き、專ら監察を掌らしむ。

(一)將軍の命令 (二)天下を望む者があれば勝手に取られよ (三)將軍職なれば戰爭によつて引渡すべし (四)驚きて目を見張る (五)ふみにぢる

六月。徙三封池田光政于二備前一。初光政父利隆封二播磨一。叔父忠雄封二備前一。皆卒レ於二元和中一。光政嗣。徙レ于二因幡

六月、池田光政を備前に徙封す。初め光政の父利隆は播磨に封ぜられ、叔父忠雄は備前に封ぜらる。皆元和(一)中に卒す。光政嗣ぎて、因幡・伯耆に徙る。是に至りて、忠雄の子光仲と封を易ふ。是より先、台德公の女、大坂に適きて寡(二)なり。改めて本多忠政の婦と爲る。女を生む。是に於て、其女を以て光政に妻はす。是の月、加藤忠廣(三)異圖有り。發覺す。國除かれ、出羽に放たる。細川忠興を肥後に徙封し

伯耆。至是與忠雄子光仲易封。先是。台德公女適大坂而寡。改爲本多忠政之婦。生女。於是以其女妻光政。是月。加藤忠廣有異圖。發覺。國除。放于出羽。徙封細川忠興于肥後。割忠興舊封。賜小倉于小笠原忠眞。中津于其兄子長次。追賞大坂之功也。後幕府索加藤福島二氏遺胤。召而祿之。以存其祀。

忠興の舊封を割きて、小倉を小笠原忠眞に、中津を其兄の子長次に賜ふ。大坂の功を追賞するなり。後に幕府、加藤・福島二氏の遺胤(四)を索め、召して之を祿して其祀を存す。

(一) 國替す　(二) やもめとなる　(三) 返逆を企つ　(四) 血統の者

十月。收大納言忠長封。忠長與將軍同母。幼字國松。爲母氏所鍾愛。將軍爲世子時。內外流言。幕府有易

十月、大納言忠長の封を收む。忠長は將軍と同母なり。幼字を國松と曰ふ。母(一)氏の鍾愛する所と爲る。將軍の世子たりし時、內外流言す、幕府、嫡を易ふる(二)の意ありと。世子の乳母春日局といふ者、駿府に往きて、之を告ぐ。居ること數月なり。東照公、人をして將軍に言はしめて曰く、久しく幼孫を見ず。盍ぞ來り見えしめざると。(三)兩公子乃ち來り見ゆ。公、世子を上座に迎ふ。忠長踵ぎて升ら

嫡之意。世子乳母春日局者。往駿府告之。居數月。東照公使人言將軍曰。久不見幼孫。盍使來見。兩公子乃來見。公迎世子于上座。忠長欲踵升。公曰。叱。叱。汝敢欲升斯座乎。坐定。供餻。公取其一。命左右曰。進於竹千代。取其一。投與忠長曰。阿國喫之。衆望於是定矣。

んと欲す。公曰く、(三)叱。叱。汝敢て斯の座に升らんと欲するかと。坐定り、(四)餻を供す。公、其一を取りて、左右に命じて曰く、竹千代に進めよと。其一を取り忠長に投與して曰く、阿國之を喫せよと。(五)衆望是に於て定る。

(一) 母に甚だしく愛せらる　(二) 二人の若君　(三) 制止する語　(四) 菓子　(五) 衆人の人望がこゝにて決定す

世子爲大納言。在西城。城濠多鳧。忠長手發銃。獲一鳧。以示夫人。夫人悅甚。命宰之。俟台德公入。饗焉。曰。阿國所獲也。公悅啖之。

世子大納言と爲り、(一)西城に在り。城濠に鳧多し。忠長手づから銃を發して、一鳧を獲て、以て夫人に示す。夫人悅ぶこと甚だし。命じて之を宰し、(二)台德公の入るを俟ちて饗す。曰く、阿國の獲る所なりと。公悅びて之を啖ひ、問ひて曰く、且つ何處に之を得しかと。具に對ふるに實を以てす。公、(三)哺を吐きて、怒りて曰く、何ぞ此大怪事を得る。(四)西城は誰の居る所と謂ふかと。乃ち其從者を罪す。忠長既に長ず。元和中甲斐に封ぜられ、寛永中參河・遠江を增封せらる。既にし

問曰。且何處得レ之。具對以レ實。公吐レ哺。怒曰。何得二此大怪事一。謂二西城誰所レ居乎。乃罪二其從者一。忠長既長。元和中。封二甲斐一。寛永中。増二封參河遠江一。既而驕恣。失三驩於二台德公一。公擯レ之就レ國。及二公有レ疾。田獵自如。公疾病。將軍爲請三召二見之一。不レ許。及二公薨一。忠長無二戚容一。嗜レ殺。喜怒無レ常。於レ是將軍既除レ服。乃收二其封一。置二之高崎一。附二城主安藤重長一。忠長不レ悛。次年。重長受レ命。諷使二自殺一。自レ是參河甲斐直隸二征夷府一。府兵是時有二大番及書院扈從兩番一。更戍二駿府一。

て驕恣(五)なり。驩を台德公に失ふ。公之を擯けて國に就かしむ。公の疾有るに及びて、田獵(六)して自如たり。公疾病なり。將軍爲に之を召見せんと請ふ。許さず。公の薨ずるに及びて、忠長、戚容(七)なく、殺を嗜みて、善怒常なし。是に於て、將軍既に服(八)を除く。乃ち其封を收めて、之を高崎に置き、城主安藤重長に附す。忠長悛めず。次年重長命を受けて、諷して自殺せしむ。是より參河・甲斐は直に征夷府に隷す。府兵は是の時、大番、及び書院、扈從の兩番有り。更〻駿府を戍る。

㈠西の丸　㈡料理し　㈢口にせる食物を吐き出して　㈣大にけしからぬ事　㈤心おごりてきまゝに振舞ふ　㈥獵して遊び平氣なり　㈦悲む樣子　㈧忌明となる

十年。堀尾氏無レ嗣。國除。次年。徙二京極氏一焉。後三年。亦無レ嗣。收レ封。召二其胤子一。賜二播磨地六萬石一。十一年。將軍入朝。進二從一位一。遷二左大臣一。始置二京師町奉行一。斷二市人訟獄一。

十年、堀尾氏嗣無し。國除かる。次年京極氏を徙封す。後三年亦嗣無し。封を收め、其胤子㊀を召して、播磨の地六萬石を賜ふ。十一年、將軍入朝す。從一位に進み、左大臣に遷る。始めて京師に町奉行を置き、市人の訟獄を斷ぜしむ㊁。

㊀ 血すぢを引きたる者　㊁ 市民の訴訟を裁判せしむ

十四年。十月。故小西氏餘黨。以二邪蘇教一煽レ民。據二肥前島原一作レ亂。將軍下二教西海諸侯一。遣二板倉重昌一監二其軍一。討レ之。尋遣二松平信綱一。命二水野勝成一贊レ謀焉。未レ至。十五年。正月。朔。重昌戰死。信綱至。城陷。誅二賊渠帥十餘人一。斬首四萬。

十四年十月、故小西氏の餘黨、邪蘇教を以て民を煽し㊀、肥前の島原に據りて亂を作す。將軍教を西海の諸侯に下し、板倉重昌を遣して其軍を監して、之を討たしむ。尋ぎて松平信綱を遣し、水野勝成に命じて謀を賛けしむ。未だ至らず。十五年正月朔、重昌戰死す。信綱至る。城陷る。賊の渠帥㊁十餘人を誅し、斬首四萬なり。邪蘇の禁を海内に申す。

㊀ 煽動し　㊁ かしら

申ニ邪蘇禁於ニ海内ー。

十六年。始置ニ大老職ー。以ニ土井利勝ー爲レ之。免ニ老中連署ー。而猶參ニ大議ー。十七年。生駒氏無レ嗣。國除。十八年。將軍生ニ長子家綱ー。是歲。初置ニ勘定奉行數員ー。掌ニ錢穀ー。以ニ松平正綱告レ老也。正綱。實郡吏大河内秀綱者子。冒ニ松平氏ー。長レ於ニ理財ー。歷ニ事三世ー。常爲ニ度支ー。嗣子信綱。秀綱庶孫。而養レ於ニ正綱ー。二十年。九月。天皇讓ニ位於ニ皇兄紹仁ー。是爲ニ後光明天皇ー。天皇正保元年。將軍生ニ二子綱重ー。後爲ニ參議ー。封レ于ニ甲斐ー。二年。生ニ三子綱吉ー。後爲ニ中將ー。封レ于ニ館林ー。

十六年、始めて大老職を置き、土井利勝を以て之と爲す。老中の連署を免じて、猶ほ大議(一)に參せしむ。十七年、生駒氏嗣無し。國除かる。十八年、將軍、長子家綱を生む。是の歲、始めて勘定奉行數員(二)を置き、錢穀を掌らしむ。松平正綱の老(三)を告ぐるを以てなり。正綱は實は郡吏大河内秀綱といふ者の子なり。松平氏を冒す。(四)理財に長ず。三世に歷事して、常に度支(五)たり。嗣子信綱は秀綱の庶(六)孫にして、正綱に養はる。二十年九月、天皇、位を皇兄紹仁に讓る。是を後光明天皇と爲す。天皇の正保元年、將軍二子綱重を生む。後に參議と爲り、甲斐に封ぜらる。二年三子綱吉を生む。後に中將と爲り、館林に封ぜらる。

(一) 幕府の論議　(二) 數人　(三) 隱居したる故なり　(四) 財政を整理することに巧也　(五) 會計　(六) 妾腹の孫

慶安四年。四月。二十日。將軍薨。年四十八。葬于日光山。贈官位如前代。諡大猷。大猷公幼英偉。東照公器之。戒台德公曰。易嫡。亂之本也。且竹千代後必爲明將。宜速定儲貳焉。戒其保傅曰。父必求其子類已。是不協之原也。宜因其器成就之。吾於三郎。有終身之憾。汝輩勿使將軍再憾也。及長。聰明勇決。恩威並行。東照台德之世。諸巨藩各自偃蹇。其會同者。將軍或郊迎之。禮分未定。

慶安四年四月二十日、將軍、薨ず。年、四十八なり。日光山に葬る。官位を贈ること前代の如し。大猷と諡す。大猷公幼にして英偉(一)なり。東照公之を器と(二)す。台德公を戒めて曰く、嫡を易ふるは、亂の本なり。且つ竹千代は、後に必ず名將とならん。宜しく速かに儲貳(三)に定むべしと。其保傅(四)を戒めて曰く、父必ず其子の己に類するを求むるは、是れ協はざるの原なり。宜しく其器に因りて之を成就すべし。吾が三郎(五)に於ける、終身の憾有り。汝が輩將軍をして再び憾みしむる勿れと。長ずるに及びて、聰明勇決にして、恩威(六)並び行はる。東照・台德(七)の世は、諸の巨藩、各ゝ自ら偃蹇(八)す。其會同には、將軍或は之を郊迎(九)して、禮分(一〇)未だ定らず。

(一)すぐる (二)器量あるものとす (三)あとつぎ (四)もりやく (五)信康 (六)恩愛と威嚴と (七)家康と秀忠と (八)ふしわだかまる (九)江戸の入口に迎ふ (一〇)分限に應ずる禮式

及大猷公時。嘗盡召天下侯伯于大城。自諭之曰。我祖考。因卿等力定天下。且以其嘗比肩同等。故加禮待。不敢比譜第將士。至於家光。則襁褓已主天下。自有與祖考異者。今已居統率之任。而不一事慄。非所宜也。自今待卿等。當同於譜等。若不厭心。其各之國。

大猷公の時に及びて、嘗て盡く天下の侯伯を大城に召し、自ら之に諭して曰く、我が祖考(一)は、卿等の力に因りて天下を定む。且つ其嘗て肩を比べ等を同じくせ(二)しを以て、故に禮待を加へ、敢て(三)譜第の將士に比せず。家光に至りては、則ち(四)襁褓より已に天下に主たり。自ら祖考と異なる者有り。今已に統率の任に居りて、事權を一にせざるは、宜しき所に非ざるなり。今より卿等を待すること、當に譜第に同じくすべし。若し心に厭かずんば、其れ各々國に之け。暇を給すること三歳なり。熟思して以て去就を決せよと。諸侯皆逡巡して曰く、敢て命を聽かざらんやと。公乃ち起ちて、入りて內廳に坐し、次を以て諸侯を延き、佩刀を賜ふ。公、便服(五)盤坐して、腰に佩ぶる所無し。諸侯刀を受けて拜す。公曰く、(六)刀を撿せよと。諸侯、悚(七)息して、刀を抽くこと寸許にして、輒ち退く。是より徳川氏の權勢益々定る。

(一)祖父と父と　(二)朋輩なりし故　(三)世臣の將士と同等に取扱はず　(四)むつき　(五)略服にて胡坐をかき
(六)中身をしらべて見よ　(七)おそる〱

給レ暇三歲。然思以決二去就一。諸侯皆逡巡曰。敢不レ聽レ命。公乃起。入坐二內廳一。以次延二諸侯一。賜二佩刀一。公便服盤坐。腰無レ所レ佩。諸侯受レ刀拜。公曰。撿レ刃。諸侯悚息。抽レ刀寸許。輒退。自レ是德川氏權勢益定。

然而其事二皇室一。恭順如レ故。其再入朝。朝廷欲三以爲二太政大臣一。公固辭曰。先臣嘗叨二此職一。幸得下全二首領一以沒上。臣敢復哉。公甚敬二祖先一。諸老臣侍レ燕。閒言及二東照公事一。公輒曰。少俟レ之。乃改二衣帶一。盥漱。然後聽レ之。善摘二察臣下是非一。而

然れども其の皇室に事へて、恭順(一)なること故の如し。其再び入朝するや、朝廷以て太政大臣と爲さんと欲す。公、固辭して曰く、先臣嘗て(二)此職を叨にす。幸にして首領を全くして以て沒するを得たり。臣敢て復たせんやと。公甚だ祖先を敬す。諸老臣、燕に侍し、閒ゝ言東照公の事に及べば、公輒ち曰く、少く之を俟てと。乃ち衣帶(三)を改めて、盥漱し、然る後に之を聽く。善く臣下の是非を摘察して、而して輕ゝ(四)しく之を口に發せず。黜陟の議有るに遇へば、輒ち曰く、某の貌は此の如く、性は此の如しと。其の知る所、諸老に過ぐ。久世廣宣の三子(五)廣之、側衆と爲り、權寵有り。公、一日、卒かに之に問ひて曰く、汝、今朝諸侯の贈遺を得るかと。廣之拜して對へて曰く、然りと。贈者の姓名及び其物件を問ふ。廣之條對(六)す。公曰く、未だ盡さざるなりと。廣之簿記を懷に取りて、之

不三輕發二之口一。遇レ有二黜陟之議一。輒曰。某貌如レ此。性如レ此。其所レ知過レ於二諸老一。久世廣宣三子廣之。爲二側衆一。有二權寵一。公一日卒問レ之曰。汝今朝得二諸侯贈遺一乎。廣之拜而對曰。然。問二贈者姓名及其物件一。廣之條對。公曰。未レ盡也。廣之取二簿記於レ懷。撿レ之。果然。因惶汗而退。更相告警。堀田正盛太田資宗等。以二春日局緣故一。皆見二寵任一。皆不レ至二橫邪一。

を撿するに、果して然り。因りて惶汗(七)して退く。更々相告げて警む。堀田正盛・太田資宗等、春日局の緣故を以て、皆寵任せらる。皆横邪(八)に至らず。

(一) うやうやしくしたがふ (二) 太政大臣の職をみだりに拜受す (三) 酒宴の席 (四) 輕々しく口に出さず (五) 某の容貌はかやうかやう性質はかやうかやう (六) 一々こたふ (七) おそれて汗を流す (八) はしいまゝによこしまなること

時承平既久。麾下風習。漸趨二奢侈一。往往不レ能二自給一。台德公之薨。頒二賜遺金一。又周加二其俸一。婚嫁喪葬。概皆得レ

時に承平既に久しく、麾下の風習、漸く奢侈に趨る。往往(二)自ら給する能はず。台德公(一)の薨ずるや、遺金を頒賜(三)す。又周く其俸を加ふ。婚嫁喪葬は、概ね皆官に貸るを得たり。而して猶ほ困乏を告ぐ。世子生るゝの明年、歉有り。盡く麾下の士人及び諸吏を召す。衆皆當に慶典(四)有るべしと謂ふ。公、此日頭痛を患へ、手巾を以て額を約し、杖に扶けられて出で、衆に諭して曰く、聞く汝等困乏の極

貸レ於レ官。而猶告二困乏一。世子生之明年。有レ歎。悉召二麾下士人及諸吏一。衆皆謂レ當レ有二慶典一也。公此日患二頭痛一。以二手巾一約レ額。扶レ杖而出。諭レ衆曰。爾汝等困乏極矣。卽明日有二緩急一。出次二品川一。亦不レ可レ能也。如レ是則汝等欲レ置二吾於二何地一乎。因大息泣下。衆莫二能仰視一。酒井忠勝在レ側。颺言曰。諸君恃レ仁狃レ恩。忘二奉レ上之道一。從レ今以往。不レ容二假貸一。各自量度。勿レ勞二公上之念一。衆心服而罷。已而下レ令。諸士子弟。年長堪レ用者。擧充二番士一。因給レ俸。又置二新番一。以二大番子弟一充レ之。又遣二使諸道一。問二民疾苦一。數擧二賑恤之典一。

ると。卽し明日緩急有らんに、出でて品川に次せんも、亦能くす可からざるなり。是の如くんば、則ち汝等吾を何地に置かんと欲するかと。因りて大息して泣下る。衆能く仰ぎ視る莫し。酒井忠勝、側に在り。颺言して曰く、諸君仁を恃み恩に狃れ、上を奉ずるの道を忘る。今より以往、假貸(六)を容れず。各々自ら量度(七)して、公上の念を勞する勿れと。衆、心服して罷む。已にして令を下して、諸士の子弟、年長けて用に堪ふる者(八)は、擧げて番士に充つ。因りて俸を給す。又新番を置き、大番の子弟を以て之に充つ。又使を諸道に遣して、民の疾苦を問はしめ、數々賑恤(九)の典を擧ぐ。

(一)太平 (二)まゝ自から生活立たず (三)分ち賜ふ (四)喜びの沙汰 (五)聲を高うして (六)借金をせず (七)身分を考へて誤らぬやうにして (八)役に立つ者 (九)賑し惠む所のこと

台徳公時。青山忠俊獲レ罪。放ニ于遠江一。及ニ公親一レ政。未レ及レ復レ之而死ニ配所一。乃召ニ用其子宗俊一。晩歳。賜ニ邑于信濃一。面諭曰。自ニ吾之幼一。汝父盡レ忠輸レ誠。吾騃不レ爲レ意。使三之死ニ配所一。今悔無レ及也。猶將レ報ニ之於汝一焉。庶幾慰ニ其寃魂一。自レ今汝事ニ我子一。猶ニ汝父事一レ我也。君臣皆嗚咽。又賜ニ大久保忠季肥前地八萬石一。及ニ其子忠任一。終復ニ舊封一。再鎭ニ小田原一。以白ニ父祖之寃一。天下悅服。

台徳公の時、青山忠俊罪を獲て遠江に放たる。公、政を親らするに及びて、未だ之を復するに及ばずして、配所(一)に死す。乃ち其子宗俊を召し用ふ。晩歳(二)邑を信濃に賜ふ。面諭して曰く、吾の幼なるより、汝の父、忠を盡し誠を輸す。(三)吾れ騃にして意と爲さず。之をして配所に死せしむ。今悔ゆるも及ぶ無きなり。猶ほ將に之を汝に報ぜんとす。庶幾はくは其寃魂(四)を慰せん。今より汝、我が子に事ふること、猶ほ汝の父の我に事ふるがごとくなれと。君臣皆嗚咽(五)す。又大久保忠季に肥前の地八萬石を賜ふ。其子忠任に及びて、終に舊封に復し、再び小田原に鎭せしめて、以て父祖の寃を白かにす。天下悅服(六)す。

(一) 流罪中に死す　(二) 老年　(三) 我愚にして青山忠俊の事を心に掛けず　(四) 寃罪に死したる寃魂　(五) 有聲涙に咽ぶ　(六) 悅びて心服す

當二公之時一。名臣盈レ朝。肥後守松平正之。掃部頭井伊直孝。大炊頭土井利勝。讃岐守酒井忠勝周防守板倉重宗。伊豆守松平信綱。豐後守阿部忠秋等。爲二其最一焉。自下公爲二世子一時上。信綱忠秋爲二侍臣一。公嘗見二屋上乳雀一。命二近臣一往捕レ之。屋係二將軍燕室一。衆莫二敢往一。乃推二

公の時に當りて、名臣(一)朝に盈つ。肥後守松平正之・掃部頭井伊直孝・大炊頭土井利勝・讃岐守酒井忠勝・周防守板倉重宗・伊豆守松平信綱・豐後守阿部忠秋等其最たり。公、世子たる時より、信綱・忠秋、侍臣たり。公、嘗て屋上の乳雀(二)を見、近臣に命じて往きて之を捕へしむ。屋は將軍の燕室(三)に係る。衆敢て往くなし。乃ち信綱を推して曰く、汝、年幼にして體輕し。宜しく往くべしと。信綱勉強して命に應じ、夜、潛に屋に緣りて之を索め、(六)足を失して庭中に墮つ。譟然(七)として聲あり。將軍は刀を提げ、(五)夫人は燭を執りて出づ。信綱を見て、其來由(八)を問ふ。對へて曰く、臣、雀兒を觀て之を愛し、竊かに來り捕ふるなりと。將軍曰く、否。是れ必ず主使(九)する者あらんと。窮詰(一〇)すること再四なるも而も告げず。將軍怒り、信綱を巨嚢(一一)中に內れて、其口を緘し、(一二)之を柱に懸けて曰く、汝、實を告げずば、出づるを許さじと。信綱嚢中より之を爭ひて、旦に徹す。旦日、將軍出でて朝を視る。夫人、信綱の志を憫み、其飢を慮りて、私かに嚢口

信綱曰。汝年幼體輕。宜往。信綱勉强應命。夜潛緣屋索之。失足墮庭中。謋然有聲。將軍提刀。夫人執燭而出。見信綱。問其來由。對曰。臣觀雀兒愛之。竊來捕也。將軍曰。否。是必有主使者。窮詰再四。而不告。將軍怒。內信綱於瓦囊中。而緘其口。懸之柱曰。汝不告實。不許出。信綱自囊中爭之。徹旦。旦日。將軍出視朝。夫人憫信綱之志。而慮其飢。私肱囊口。以餕啗之。復緘其口。如初。日中。將軍入。復詰之。終不改辭。夫人固請而縱之。將軍目送焉。謂夫人曰。孺子能如是。後必羽翼我兒。果如其言。

を肱き、餕(一三)を以て之に啗はしめ、復た其口を緘すること初の如くす。日中に將軍入りて復た之を詰るも、終に辭を改めず。夫人固く請ひて之を縱す。將軍、目送(一四)して、夫人に謂ひて曰く、孺子能く是の如し。後に必ず我が兒の羽翼(一五)と爲らんと。果して其言の如し。

㊀名高き良臣　㊁雀の子　㊂休息の部屋　㊃曲げて、無理に我慢して　㊄屋根を傳りて　㊅足をふみはづして　㊆ばたばたと　㊇わけ　㊈指圖する者ありしならん　(一〇)問詰る　(一一)大袋の中　(一二)袋の口を括り　(一三)食ひあまりの食物　(一四)見送りて　(一五)輔佐

信綱警敏絕人。而能下於人。公嘗欲急

信綱、警敏(一)なること、人に絕して、而して能く人に下る。公嘗て急に一城樓を改造(二)せんと欲す。信綱、工を督し、一宵にして成る。白紙(三)を以て壁に糊す。新

改ニ造一城樓一。信綱督レ工。一宵而成。以ニ白紙一糊レ壁。如ニ新堊者一。利勝讓レ之曰。不レ成則已。是使三人主責ニ難於レ下也。信綱謝曰。僕請終身以爲レ戒。信綱嘗如ニ京師一。朝旨有レ所ニ徵求一。疏ニ十餘條一。信綱盡辨ニ其不可一而還。衆稱ニ其敏一。忠勝讓レ之曰。列世恭順之旨。子豈不レ知乎。何必盡拒レ之爲。信綱驚悔無レ措。

堊の者の如し。利勝之を讓めて曰く、成らざれば則ち已む。是れ人主をして難きを下に責めしむるなりと。信綱謝して曰く、僕請ふ、終身以て戒と爲さんと。信綱嘗て京師に如く。朝旨、徵求する所有りて、十餘條を疏す。信綱盡く其不可を辨じて還る。衆、其敏を稱す。忠勝之を讓めて曰く、列世恭順の旨、子豈に知らざるか。何ぞ必ずしも盡く之を拒むことを爲さんと。信綱、驚悔して措く無し。

㈠はしこきこと衆人にたちこえて　㈡白紙にて壁を貼りつく　㈢新らしき白堊　㈣朝廷の御思召を以て需むる所　㈤いたく驚き後悔す

公之始親レ政也。下レ教曰。大小之事。盡如ニ

公の始めて政を親らするや、教を下して曰く、大小の事、盡く東照公の約の如くせんと。伊達政宗、狀を上りて曰く、東照公嘗て我を百萬石に封ぜんと

東照公約㆒。伊達政宗上ㇾ狀曰。東照公嘗約ㇾ封㆓我百萬石㆒。願如ㇾ約。幕議病ㇾ之。利勝曰。掃部頭能辨ㇾ之。乃命㆓直孝㆒。直孝退ㇾ朝。直詣㆓伊達氏㆒。面見㆓政宗㆒曰。聞公擧㆓前代約㆒請ㇾ封。信乎。曰。信。曰。所ㇾ謂約。有㆓印信㆒乎。曰。有。曰。蓋僞也。政宗曰。何得ㇾ謂ㇾ僞乎。吾且示ㇾ之。即出示ㇾ之。直孝受

約す。願はくは約の如くせんと。(一)幕議之を病ふ。利勝曰く、掃部頭能く之を辨ぜんと。乃ち直孝に命ず。直孝(二)朝より退き、直に伊達氏に詣り、面のあたり政宗を見て曰く、聞く、公、前代の約を擧げて封を請ふと。信なるかと。曰く、信なりと。曰く、所謂約は、(三)印信有るかと。曰く、有りと。曰く、蓋し僞ならんと。政宗曰く、何ぞ、僞と謂ふを得んや。吾れ且つ之を示さんと。即ち出して之を示す。直孝受けて熟視して曰く、是れ(四)故紙のみと。乃ち(五)扯裂して爐火中に投ず。政宗、(六)色然として駭く。直孝笑ひて曰く、(七)此約は蓋し一時の權宜に出づ。且つ事既に往く。今乃ち持して以て利を要むるは、何ぞ計の淺きやと。政宗曰く、老夫誤れりと。因りて笑ひて止む。福島氏の封を收むるや、羣議決せず。板倉勝重、直孝を薦めて曰く、掃部頭は(八)人の足跡を踐まざる者と。乃ち直孝を召す。議遂に決するを得たり。勝重、(九)京尹たること年久し。元和中老を以て職を辭す。台德公優勞し、人を擧げて自ら代らしむ。勝重曰く、(一〇)臣が長兒に若くは莫しと。乃ち重

而熟視曰。是故紙耳。乃扯裂投ニ爐火中一。政宗色然而駭。直孝笑曰。此約。蓋出ニ一時權宜一。且事既往矣。今乃持以要レ利。何計之淺也。政宗曰。老夫誤矣。因笑而止。福島氏之牧レ封也。羣議不レ決。板倉勝重薦ニ直孝一曰。掃部頭不レ踐ニ人足跡一者。乃召ニ直孝一議。遂得レ決焉。勝重爲ニ京尹一年久。元和中。以レ老辭レ職。台德公優勞。使ニ擧レ人自代一。勝重曰。莫レ若ニ臣長子一。乃命ニ重宗一。

宗に命ず。

㊀幕府の評議に於て其處分に苦む　㊁役所より退きて　㊂御朱印　㊃ほご　㊄引裂きて爐中に投じて燒く　㊅顏色を變へ　㊆此の約束を思ふにたゞ一時のかりの計ひよりなしたるものなり　㊇常人の眞似をせざる者　㊈京都所司代　㊉長子

重宗愼密廉平。世以爲レ不レ愧ニ其父一。公嘗有レ疾。困劇。遠近疑懼。既而愈。馳ニ使京師一報レ之。重宗答書至。曰。臣遊

重宗、愼密廉平なり。(一)世のひと以爲へらく、其父に愧ぢずと。公嘗て疾有りて、(二)困劇し、遠近疑懼す。既にして愈ゆ。使を京師に馳せて之を報ず。重宗の答書至る。曰く、臣遊獵すること數日にして歸る。以て奉答稽緩(三)を致すと。公、之を覽て曰く、京師の驁擾知るべきなりと。侍者其意(四)を解する無し。忠勝の退くを俟ちて之を問ふ。

獵數日而歸。以致ニ奉答稽一緩。公覽レ之曰。京師驚擾可レ知也。明日忠勝入。覽ニ其書一曰。京師驚擾可レ知也。侍者無レ解ニ其意一。俟ニ忠勝退一問レ之。對曰。周防守務示ニ暇豫一。非レ鎭ニ衆情一乎。侍者乃服。其上下一心。概如レ此。忠勝直孝相踵爲ニ大老一。信綱忠秋自ニ少老一進ニ老中一。而正之特位レ于ニ諸老之上一。

對へて曰く、周防守務めて暇豫を示すは、(五)衆情を鎭するに非ずやと。侍者乃ち服す。其上下一心なること、概ね此の如し。忠勝・直孝相踵ぎて大老と爲り、信綱・忠秋少老より老中に進む。而して正之は特に諸老の上に位す。(六)

(一) 愼み深く注意こまかに欲少く公平なり　(二) 病氣のため困むこと甚だし　(三) おこたりおくる　(四) 一本に解を辨に作る。忠勝の意中分らず　(五) いとまあるやうに見せかくるは　(六) 大老、少老、老中の上位に在り

正之爲ニ台德公孽子一。公侍婢有レ孕而出。生ニ男於其鄕一。邦俗端午節。有ニ男兒一者。樹ニ章幟于門一。婢家幟用ニ葵章一。

正之は台德公の孽子なり。(一)公の侍婢孕む有りて出で、(三)男を其鄕に生む。邦俗、(二)端午の節に、男兒ある者は、章幟を門に樹つ。(四)婢家の幟に葵章を用ふ。(五)吏詰りて其故を得たり。證左有り。(六)遂に以て聞す。保科正光、子無きを以て、請ひて嗣と爲すを得て、名を正之と命ず。大猷公立ちて未だ達せざるなり。(七)公、嘗て鷹を隴(八)鄕に放つ。羣騎散じて、自ら息ふ。公、近臣數人と微行して、(九)邑中の佛寺に入る。

史詰ㇾ得ニ其故一。有ニ證左一。遂以聞。保科正光以ㇾ無ㇾ子。請ㇾ得爲ㇾ嗣。命ニ名正之一。大猷公立而未ㇾ達也。公嘗放ニ鷹於ニ驪郷一。羣騎散而自息。公與ニ近臣數人一微行。入ニ邑中佛寺一。寺僧誰何。公曰。吾番衆也。願少息ㇾ此。僧與坐而談。公視ニ其壁畫頗雅一。謂ㇾ之曰。貴寺在ㇾ僻。何以得ㇾ若ㇾ是。豈有ニ大檀越一邪。曰。無ㇾ有也。唯有ニ保科氏一。亦貧乏不ㇾ足ㇾ有ㇾ爲。吾聞保科君。將軍親弟也。小民猶知ㇾ恤ニ兄弟一。貴人何情薄如ㇾ此。公色少變。目ニ從者一。辭謝而出。

寺僧、誰何す(一〇)。公曰く、吾は番衆なり。願はくは少く此に息はしめよと。僧與に坐して談る。公、其壁畫の頗る雅なるを視て、之に謂ひて曰く、貴寺、僻(一一)に在り。何を以て是の如きを得る。豈に大檀越(一二)有るかと。曰く、有る無し。唯保科氏有るも、亦貧乏(一三)にして爲すあるに足らず。吾れ聞く、保科君は、將軍の親弟なりと。小民猶ほ兄弟を恤むを知る。貴人は何ぞ情薄きこと此の如きと。公、色少しく變じ、從者を目して、辭謝して出づ。

(一) 妾腹の子　(二) 腰元女　(三) 日本の風俗　(四) 家紋あるのぼり　(五) 葵の紋　(六) 證據あり　(七) 耳に入らず　(八) 今の東京郊外の目黒　(九) 御忍にて行く　(一〇) とがむ　(一一) 田舍　(一二) 身分よき檀家　(一三) 貧乏にて仕方なし

頃之羣騎至。

頃くして羣騎至り、將軍を索めて、之を僧に問ふ。僧曰く、羣に數少年ありて

索二將軍一。問二之僧一。僧曰。嚮有二數少年一息。騎曰。是將軍也。僧大驚懼レ誅。居無レ何。有レ致。增三封正之于二山形二十萬石一。賜二松平氏一。給二驪鄕寺香火邑一。後正之從鎭二會津一。累二遷四位中將一。性敦實好レ學。公特親二重之一。公臨レ終召二諸老一。而屬二世子家綱一。世子襲レ職。甫十一。天資仁恕。時利勝已卒。正之以下。受二遺命一。補二佐幼主一。不三敢爲二慶讓一。以俟二其長一。大納言義直先レ公而卒。賴宣賴房猶健。國多二流言一。

來り息ふと。騎曰く、是れ將軍なりと(一)。僧大に驚きて誅を懼る(二)。居ること何も無くして致有り。正之を山形の二十萬石に增封して、松平氏を賜ひ、驪鄕の寺に(三)香火の邑を給ふ。後に正之徙りて會津を鎭す。四位の中將に累遷す。性敦實にして(四)學を好む。公、特に之を親重す。公、終に臨みて諸老を召して、而して世子家綱を屬す。世子、職を襲ぐ。甫めて十一なり。天資仁恕なり(五)。時に利勝已に卒す。正之以下遺命を受けて、幼主を補佐し、敢て慶讓(六)を爲さずして、以て其長ずるを俟つ。大納言義直は公に先だちて卒す。賴宣・賴房は猶ほ健なり。國に流言(七)多し。

(一) 一本に也の字耳に作る　(二) 誅罰に處せられんことを心配す　(三) 寺領　(四) 心あつく素實なり　(五) うまれつき　(六) 賞罰、功を慶び罪を讓むる意　(七) いひふらし

明暦三年。江戸災。踰レ歳不レ滅。城郭第舍。延燒略盡。物情恟然。信綱忠秋指二麾内外一。事皆立辨。忠勝等協議。盡罷二諸侯一就レ國。各撫二其民一。經二理土木一。盡復二舊觀一。天下不二復動搖一。既而親藩老臣前後皆卒。而將軍親レ政。還下諸侯質在二城中一者于中各第上。禁二殉死一。在レ職三十一年。薨。葬二于寛永寺一。謚二嚴有一。

明暦三年、江戸に災あり。(一)歳を踰えて滅せず。城郭第舍延燒して略ゝ盡く。物情恟恟然たり。信綱、忠秋、(二)内外を指麾して、事皆立ちどころに辨ず。忠勝等協議して、盡く諸侯を罷めて國に就きて、各ゝ其民を撫せしめ、(四)土木を經理して盡く舊觀に復す。天下復た(五)動搖せず。既にして(六)親藩の老臣前後皆卒す。而して將軍政を親らす。諸侯の質の城中に在る者を各第に還し、殉死を禁ず。職に在ること三十一年にして、薨ず。寛永寺に葬る。嚴有と謚す。

(一) 後西院の年號　(二) 翌年まで火消えず　(三) 幕府の内外をさしずして　(四) 普請の事を監督してのこらず元の姿にかへす　(五) 變動せず　(六) 將軍御一家の大名の老臣だち

自レ是之後。寛永增上二寺。爲二德川氏塋一。

是より後、寛永・增上の二寺、德川氏の(一)塋域と爲る。初め東照公祖先に事ふるに甚だ謹む。後陽成帝嘗て公に賜ふに菊桐章を以てせんと欲す。辭して曰く、

域。初東照公事ニ祖先一甚謹。後陽成帝嘗欲下賜レ公以ニ菊桐章一。辭曰。此已賜ニ足利氏一。非ニ新田氏之榮一也。臣自有ニ葵章一焉。天恩苟欲レ酬ニ微勞一。伏願錄ニ臣祖先一。乃詔。贈ニ上祖義重從四位下鎭守府將軍。父廣忠正位大納言一。其歲。與ニ台德公一。偕獵ニ于上野一。使ニ土井利勝等如ニ新田世良田德川諸邑一。問ニ其父老一。得ニ義重義貞故址一。建ニ一寺一。曰ニ大光一。以奉ニ詔書一。與ニ

此れ已に足利氏に賜ふ。新田氏の榮に非ざるなり。臣自ら葵章(二)有り。天恩(三)苟も微勞に酬いんと欲せば、伏して願はくは、臣の祖先を錄(四)せよと。乃ち詔して、上祖義重に從四位下鎭守府將軍、父廣忠に正(五)一位大納言を贈る。其歲台德公と、偕に上野に獵し、土井利勝等をして、新田・世良田・德川の諸邑に如かしめ、其父老に問ひて、義重・義貞の故址(六)を得て、一寺を建て、大光と曰ひ、以て詔書を奉じて、參河の大樹寺と與に、皆勅願寺に准ず。台德・大猷の二公、益〻祖先を敬す。故を以て、後嗣(七)親しく兩塋(八)を拜するを以て常務と爲す。上野・參河の如きは、則ち使を遣して祀を修む。而して在職の中、必ず一たび日光廟に詣す。以て重典(九)と爲す。

(一) 墓地 (二) 葵の紋章 (三) 天子御惠を垂れて僅かの勞を賞せんとならば (四) 官位を與へよ (五) 一本に正二位或ひは從三位に作る (六) ふるきあと (七) あとつぎ (八) 二箇の墓 (九) 重き儀式

參河大樹寺。皆准二勤願寺一。台德大猷二公益敬二祖先一。以レ故後嗣以三親拜二兩塋一爲二常務一。如二上野參河一。則遣レ使修レ祀。而在職之中。必一詣二日光廟一。以爲二重典一。

嚴有公薨。而無レ嗣。弟中將諱綱吉。自二館林一入紹レ職。二十九年。薨。諡二常憲一。從子中納言諱家宣。自二甲斐一入紹レ職。四年。薨。諡二文昭一。世子諱家繼襲レ職。四年。薨。諡二有章一。無レ嗣。賴宣孫中納言諱吉宗。自二紀伊一入紹レ職。大修二曾祖之政一。厲レ精

嚴有公、薨ず。嗣無し。弟中將諱は綱吉、館林より入りて職を紹ぐ。二十九年にして薨ず。常憲と諡す。（一）從子中納言、諱は家宣、甲斐より入りて職を詔ぐ。四年にして薨ず。文昭と諡す。世子諱は家繼、職を襲ぐ。四年にして、薨ず。有章と諡す。嗣無し。賴宣の孫中納言、諱は吉宗、紀伊より入りて職を紹ぐ。大に曾祖の政を修め、（二）精を厲して治を爲す。（三）釐革する所多し。天下號して德川氏中興の主と爲す。三十年にして、職を辭し、後六年にして、薨ず。有德と諡す。世子諱は家重、職を襲ぐ。十七年にして薨ず。惇信と諡す。世子諱は家治、職を襲ぐ。二十五年にして薨ず。浚明と諡す。浚明公以上嚴有公に至るまで、官位に敍任すること、概ね（四）常例有り。世子たる時は、正三位に敍し、大納言に任ず。大將軍を襲ぐに及びて、正二位に進み、內大臣•右大臣に累遷し、右近衞大將

爲ㇾ治。多ㇾ所ニ釐革一。天下號爲ニ德川氏中興之主一。三十年。辭ㇾ職。後六年。薨。諡ニ有德一。世子諱家重襲ㇾ職。十七年。薨。諡ニ惇信一。世子諱家治襲ㇾ職。二十五年。薨。諡ニ浚明一。浚明公以上至ニ嚴有公一。敍ニ任官位一。概有ニ常例一。爲ニ世子一時。敍ニ正三位一。任ニ大納言一。及ㇾ襲ニ大將軍一。進ニ正二位一。累ニ遷內大臣右大臣一。兼ニ右近衞大將一。及ㇾ薨。贈ニ正一位大相國一。賜ㇾ諡。其軍職所ㇾ帶皆同。大納言以前。敍任如ニ源氏足利氏故事一。而天使就拜。布ニ告天下一。自ニ大納言一始。

を兼ぬ。薨ずるに及びて、正一位大相國を贈り、諡を賜ふ。其軍職帶ぶる所は皆同じ。大納言以前、敍任は源氏・足利氏の故事の如し。而して天使就きて拜す。天下に布告するは、大納言より始る。

(一) をひ (二) 勉めはげみて政治をなす (三) をさめあらたむ (四) 一本に定とあり

初有德公爲ニ後世一深慮。就ニ世祿中一。立ニ官俸增減法一。及ㇾ祿ニ其二子一。不三復建ニ封土一。給ニ廩粟十萬石一。賜ニ第于田安

初め有德公、後世の爲に深慮し、世祿中に就きて、官俸の增減法を立つ。其二子を祿するに及びて、復た封土を建てず。(二)廩粟十萬石を給し、第を田安・一橋に賜ふ。惇信公又例に沿ひて其一子を祿し、清水に第し、皆省卿と爲す。浚明公嗣無きに及びて、今の公、一橋より入りて世子と爲る。名は家齊、實に有德公の曾孫なり。職を襲ぐに及びて、復た其政を修め、賢に任じ能を使ひ、(四)百廢悉く

一橋。悖信公又沿レ例祿二其一子一。第二于淸水一。皆爲二省卿一。及二淺明公無一レ嗣。今公自二一橋一入爲二世子一。名家齊。實有德公曾孫。及レ襲レ職。復修二其政一。任レ賢使レ能。百廢悉擧。在職最久。累二遷左大臣一。終拜二太政大臣一。固辭不レ得レ命。又以二世子家慶一。進二從一位內大臣一。於レ是使下掃部頭井伊直亮越中守松平定永入朝謝上レ恩。源氏足利氏以來。在二軍職一兼二太政官一者。獨公而已。蓋武門平二治天下一。至レ是極二其盛一云。

擧る。在職最も久し。左大臣に累遷し、遂に太政大臣に拜せらる。固辭すれども命を得ず。又世子家慶を以て、從一位內大臣に進めらる。是に於て、掃部頭井伊直亮・越中守松平定永をして、入朝して恩を謝せしむ。源氏・足利氏以來、軍職(五)に在りて太政官を兼ぬる者は、獨り公のみ。蓋し武門の天下を平治すること、是に至りて其盛(六)を極むと云ふ。

㊀深く考へ　㊁御殿の米　㊂八省の卿　㊃種々のすたれたること悉く再興す　㊄將軍職　㊅最盛の時期なり

外史氏曰。吾嘗遊二江戶一。觀二其城闕之壯一。

外史氏曰く、吾嘗て江戶に遊び、其城闕(一)の壯、侯伯邸第の夥しきを觀る。既にして東海を歷て、尾濃の間に彷徨(二)し、北は信越の諸山の綿亘重疊して來り、

侯伯邸第之夥。既而歷二東海一。彷二徨尾濃之間一。北望三信越諸山綿亘重疊而來。遥赴二京畿一。而其南沃野洪濶。與二參遠一接。眞天下之衢路。想二見千軍萬馬之馳驟一。今之布レ邸列レ第者。其初皆決二嚮背於レ此也。蓋源平以還。治少亂多。羣雄棊峙。分裂梗塞。不レ知三其閲二幾百歲一。而

遥に京畿に赴くを望む。而して其の南は（三）沃野洪闊、參遠と接す。眞に天下の衢路、千軍萬馬の（四）馳驟を想見す。今の邸を布き第を列する者、其初皆嚮背を此に決せるなり。蓋し源平以還、治少くして亂多し。羣雄棊峙し、分裂梗塞して、其の幾百歲を（五）閲するかを知らず。而して今吾（六）綴帶垂橐、糧を賫さずして行くは、則ち誰の力ぞや。世の論者或は大阪の事を病へて、東照公の德を累すと爲す。是れ時勢を知らざるの論なり。吾曰く、公の天下を取るは、大阪に在らずして、關原に在り。關原に在らずして、小牧に在りと。夫れ公は織田氏の屬國なり。而して太閤は其將校なり。太閤は織田氏の將校を以て身を起し、乃ち其君の遺孤を欺き、之に加ふるに兵を以てせんと欲す。諸同列、其力を畏れ、其惠を私して、（七）逡巡して、敢て爭ふ莫し。而るに公、獨毅然として弱を扶けて、强に抗す。野次の一戰に、其二驍將を獲たるは、固より以て奸雄の膽を破り、而して天下の心を服するに足る。

今吾綏帶垂橐。不齎糧而行焉。則誰之力邪。世論者或病大坂之事。爲累東照公之德。是不知時勢之論也。昔曰。公之取天下。不在大坂。而在於關原。不在關原。而在於小牧。夫公織田氏屬國也。而太閤其將校也。太閤以織田氏將校起身。乃欺其君之遺孤。欲加之以兵。諸同列畏其力。私其惠。逡巡而莫敢爭。而公獨毅然扶弱而抗強。野次一戰。獲其二驍將。固足以破奸雄之膽。而服天下之心。

㈠城門の壯觀　㈡さまよふ　㈢肥沃の田野廣々として　㈣はせまはる　㈤經過　㈥盜賊等の危害に備ふる必要なきこと、糧はふくろ　㈦敵は其の上に兵力を以て之を亡ぼさんとす

當是之時。太閤所據不過近畿諸州。瓦合烏集。人懷觀望。而公以參遠膠漆之民。加以甲信之精鋭。勳舊忠義。如雲如雨。使和親不

是の時に當りて、太閤の據る所は近畿の諸州に過ぎず。（一）瓦合烏集、人々、觀望を懷く。而して公は參遠（三）膠漆の民を以てし、加ふるに甲信の精鋭を以てす。（二）勳舊、忠義、雲の如く、雨の如し、和親をして成らしめず、兩姓をして兵を構へしめば、天下の事、（四）未だ知るべからざるなり、昔者、曹操、劉玄德に謂ふ、天下の英雄は、唯君と我とのみ、袁本初の輩は論ずるに足らずと。今太閤を以て柴田勝家等を視るに、猶ほ操の本初に於けるが如し。而して其の公を憚るや、啻に玄德のみな

成。兩姓構レ兵。天下之事。未レ可レ知也。昔者曹操謂二劉玄德一。天下英雄。唯君與レ我。豈本初輩不レ足レ論。今以二太閤一視二柴田勝家等一。猶三操之於二本初一。而其憚レ公也。不二啻玄德一。宜其卑レ辭厚レ禮。百方講レ和。是太閤至計。所三以速取二天下一。而天下之權。已在レ於二德川氏一矣。何哉。我戰勝。而彼求レ和。求者在レ彼。許者在レ我。我欲レ和則和。欲レ戰則戰。安危禍福一取二決於レ我。我不三已有二天下之權一也邪。唯夫權在レ於レ我。是以班爵之崇。封土之隆。不レ得レ不レ置二之天下侯伯之右一。

らず。宜なり、其の辭を卑くし、禮を厚くして、百方、和を講ずることや。是れ太閤の至計、速に天下を取る所以なり。而して天下の權は、已に德川氏に在り。何ぞや。我れ戰ひ勝ちて、彼和を求む。求むる者は彼に在り。許す者は我に在り。我和せんと欲せすれば則ち和し、戰はんと欲れすば、則ち戰ふ。安危禍福(五)、一に決を我に取る、我已に天下の權を有せざらんや。唯夫れ權は我に在り。是を以て班爵(六)の崇(七)、封土の隆、之を天下侯伯の右に置かざるを得ず。

㈠解散しやすきよせあつめ　㈡天下の形勢を見て居る　㈢分離せざる堅きあつまり　㈣未だ何となりしや ち分らず　㈤專ら決定は德川氏による　㈥位の順序を高くすること　㈦采邑を多大に與ふること

太閤末路。兵

太閤の末路、兵は外に連り、士は内に亂る。而して之を能く定むる莫し。能く

連于外。士亂于内。而莫之能定。能定之者。公而已矣。太閤一瞑。制馭天下者。非公而誰。是其勢不待智者而後知。特未有釁耳。關原之事。是羣雄相聚。推天下而貽徳川氏者也。何則彼自開釁。而使我乘之。我有辭於天下。天下誰能禁之。於是朝廷授之上將之任。

之を定むる者は、公のみ。太閤一たび(三)瞑し、天下を制馭する者は、公に非ずして誰ぞ。是れ其勢、(二)智者を待ちて後に知るならず。特に未だ釁有らざるのみ。關原の事は、是れ羣雄相聚り、天下を推して徳川氏に貽る者なり。何となれば則ち彼自ら釁を開きて、我をして之に乘ぜしむ。我天下に(四)辭有り。天下誰か能く之を禁ぜん。是に於て、朝廷、之に上將の任を授けて、以て天下の侯伯を統べしむ。公(五)會同朝聘、東に於いてせざる莫し。則ち大坂は徒に一侯國の坐食する者のみ。已に織田氏の孤に忍びす。寧んぞ復た豐臣氏の孤に忍びんや。蓋し以て善く之を處する有るを思ふ。而して彼れ察せずして、專ら猜疑を挾み、再び自ら釁を開きて、其覆滅を速にす。公に於いて何ぞ累せん。公の雄武老錬なる、太閤と雖も、其の畏るゝ所に非ず。況や當時の(六)羣雄に於いてをや。直に之を(七)兒童視す。而して何ぞ(八)驕婦騃孺に有らんや。而るを公謀を蓄へ慮を積みて、之を奪(九)すと謂ふは、皆時情を知らざる者なり。

以統二天下侯伯一。會同朝聘。莫レ不レ於レ東。則大坂徒一侯國之坐食者耳。公已不レ忍二織田氏之孤一。寧復忍レ於二豐臣氏之孤一乎。蓋思レ有二以善處一レ之。而彼不レ察焉。專挾二猜疑一。再自開レ釁。而速二其覆滅一。於レ公何累焉。公之雄武老錬。雖二太閤一非二其所一レ畏。況於二當時羣雄一。直兒二童視之一。而何有レ於二驕婦騃孺一哉。而謂二公蓄レ謀積レ慮而斃一レ之。皆不レ知二時情一者也。

㊀家康あるのみ　㊁死去し　㊂智者にあらずも明瞭なり　㊃言譯の言葉　㊄大名の會合出仕　㊅何事　公の德にきずつく事なし　㊆小供と同一に視る　㊇淀君　㊈秀頼

公自二少小一。轉二質隣國一。已極二艱虞一。及二其主一レ國。又接二境勁敵一。百戰爭レ鋒。寸攘尺取。纔定二五州一。而織田豐臣氏。以二其間一奄二有近畿一。暴致二強大一。蓋無レ不三以レ公爲二遲鈍一。而不レ

公は少少より隣國に轉質し、(一)已に艱虞を極む。其の國に主たるに及びて、又境(二)を勁敵に接し、百戰して鋒を爭ひ、寸攘尺取、(三)纔に五州を定む。而して織田・豐臣氏は、其間を以て近畿を奄有し、(四)暴に強大を致す。蓋し公を以て遲鈍と爲さざる無し。而して天の公を成す所以は乃ち是に在るを知らず。(五)二氏の天下に於ける、唯速に之を得たり、故に速かに之を失ふ。公は未だ嘗て天下を取るに急ならざるなり。而して天下の釁、毎に以て公を開くに足る。(六)嗚呼、是れ其の長く天下を有ちて、以て今日の盛業(七)を基する所以なるか。

知下天之所二以成レ公乃在中於レ是。二氏之於二天下一唯速得レ之。故速失レ之。公未三嘗急レ於三取二天下一也。而天下之豐毎足二以開レ公。嗚呼。是其所下以長有二天下一。以基中今日之盛業上也歟。

(一) 彼方此方と人質となり (二) 國境は強敵とつゞき (三) 少しづゝ取ること (四) おほひて所有し (五) 天が家康をして大業を成さしむる所以を知らず (六) 家康の運を開く (七) 盛大なる事業

日本外史下 (卷十二―二十二) 終

大正十四年二月二日印刷
大正十四年二月五日發行

漢文叢書
日本外史下

不許複製

編輯者　塚本哲三
東京府下大久保町西大久保二百三十六番地

發行兼印刷者　三浦理
東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷所　有朋堂印刷部
東京市神田區錦町三丁目九番地

發行所　有朋堂書店
東京市神田區錦町一丁目十九番地



